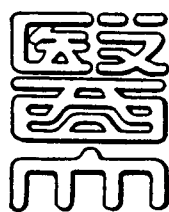


日本医科大学研究業績年報

第 44 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 44



平成 9 (1997) 年度

April 1997—March 1998

日本医科大学研究業績年報

第 44 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 44

平成9 (1997) 年度

April 1997—March 1998

ま え が き

学長 早 川 弘 一

過去3年に引き続き、今回も研究業績の年次トレンドを下表に示すが、1997年度も確実に増加している傾向が見られることは、喜ばしいことである。

具体的には、1996年度と比べ年報頁数、論文数、著者数いずれも増加している。さらに、総論文1769に占める英文論文は466編(26.2%)と過去最高であった。一概には言えないが、日本医大から発信される研究がより国際的になり、質も向上したと考えても良いだろう。

研究は教育とともに、医科大学に課せられた基本的な仕事であり、外部評価の大きな目安である。そういう意味からも、この数年のわれわれの大学の研究業績の確実な伸びは、大変意義のあることと信じている。なお、巻末の文部省科学研究費補助金の採択数も順調に上昇していることも朗報である。来年度に向けて更に研究が活性化されることを強く希望する。

最後に、煩わしい業績集作成を指導いただいた佐久間研究委員長、実際の編纂をしていただいた大学事務局の各位に感謝の意を表する。

1997年度研究業績年報内訳表

年度	総頁数☆	基礎科学	基礎医学	臨床医学	付置施設
1987	299	14	37	234	4
1988	287	15	38	220	2
1989	300	16	43	229	3
1990	327	17	40	252	6
1991	349	18	45	271	6
1992	351	18	43	276	4
1993	367	14	48	289	6
1994	393	15	56	304	10
1995	429	14	60	340	15
1996	434	14	57	348	15
1997	443	17	63	346	17

☆1頁=52字数×42行=2184字

	1986年度	1996年度	増加率(倍)	1986年度	1997年度	増加率(倍)
論文数	1189	1766	1.49	1189	1769	1.49
著書数	339	461	1.36	339	492	1.45
学会発表数	2492	3887	1.56	2492	3641	1.46

	1996年度	1997年度	増加率(倍)
論文数	1766	1769	1.00
著書数	461	492	1.07

年度	総論文数	英文論文数	比率(%)
1990	1325	176	13.28
1991	1555	200	12.86
1992	1492	208	13.94
1993	1618	250	15.45
1994	1634	308	18.85
1995	1885	380	20.16
1996	1766	401	22.71
1997	1769	466	26.23

目 次

〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学	1
[国文学]	1
[哲学・倫理学]	1
[心理学]	2
[歴史学]	4
[文化人類学]	4
[経済学]	4
2. 自然科学	6
[数 学]	6
[物理学]	7
[化 学]	8
[生物学]	9
3. 外国語	14
[英 語]	14
[ドイツ語]	15
4. 保健体育	16
[保健体育]	16

〔2〕基礎医学

1. 解剖学第一講座	21
2. 解剖学第二講座	24
3. 生理学第一講座	28
4. 生理学第二講座	33
5. 生化学第一講座	36
6. 生化学第二講座	39
7. 薬理学講座	44
[薬理学]	44
[臨床薬理センター]	46
8. 病理学第一講座	48
9. 病理学第二講座	53
10. 微生物学・免疫学講座	61
11. 衛生学・公衆衛生学講座	66
12. 法医学講座	68
13. 医療管理学講座	71
14. 基礎医学共同研究利用施設	76
[実験動物管理室]	76
[中央電子顕微鏡研究施設]	77

	[情報科学センター].....	81
(3)	臨床医学	
1.	内科学第一講座.....	87
	[付属病院第1内科].....	87
	[付属病院老人科].....	106
	[第二病院内科].....	111
	[多摩永山病院内科].....	113
	[千葉北総病院内科].....	116
2.	内科学第二講座.....	124
	[付属病院第2内科].....	124
	[付属病院リウマチ外科].....	136
3.	内科学第三講座.....	142
	[付属病院第3内科].....	142
4.	内科学第四講座.....	153
	[付属病院第4内科].....	153
5.	精神医学講座.....	162
	[付属病院神経科・第一病院神経科(多摩永山病院神経科)・千葉北総病院神経科].....	162
	[付属病院東洋医学科].....	168
6.	小児科学講座.....	170
	[付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科].....	170
7.	放射線医学講座.....	180
	[付属病院放射線科].....	180
	[第二病院放射線科].....	194
	[多摩永山病院放射線科].....	196
	[千葉北総病院放射線科].....	198
8.	皮膚科学講座.....	202
	[付属病院皮膚科].....	202
	[第二病院皮膚科].....	207
	[多摩永山病院皮膚科].....	208
	[千葉北総病院皮膚科].....	209
9.	外科学第一講座.....	210
	[付属病院第1外科].....	210
	[多摩永山病院外科].....	232
	[多摩永山病院消化器科].....	234
	[千葉北総病院外科].....	237
10.	外科学第二講座.....	239
	[付属病院第2外科].....	239
	[第二病院外科].....	247
	[多摩永山病院内視鏡科].....	249
	[千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科].....	252

11.	脳神経外科学講座	254
	[付属病院脳神経外科]	254
	[第二病院脳神経外科]	262
	[多摩永山病院脳神経外科]	265
	[千葉北総病院脳神経外科]	268
12.	整形外科科学講座	270
	[付属病院整形外科・第一病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科]	270
13.	産婦人科学講座	278
	[付属病院産婦人科]	278
	[第一病院産婦人科]	289
	[第二病院産婦人科]	291
	[多摩永山病院産婦人科]	296
	[千葉北総病院産婦人科]	297
14.	耳鼻咽喉科学講座	300
	[付属病院耳鼻咽喉科]	300
	[第二病院耳鼻咽喉科]	308
	[多摩永山病院耳鼻咽喉科]	309
	[千葉北総病院耳鼻咽喉科]	310
15.	泌尿器科学講座	314
	[付属病院泌尿器科]	314
	[第二病院泌尿器科]	319
	[多摩永山病院泌尿器科]	320
	[千葉北総病院泌尿器科]	322
16.	眼科学講座	325
	[付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科]	325
17.	麻酔科学講座	333
	[付属病院麻酔科]	333
	[第二病院麻酔科]	337
	[多摩永山病院麻酔科]	338
	[千葉北総病院麻酔科]	341
18.	救急医学講座	344
	[付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・千葉北総病院救命救急センター・新東京国際空港クリニック]	344
	[多摩永山病院救命救急センター]	355
	[千葉北総病院救命救急センター]	361
19.	形成外科学講座	369
	[付属病院形成外科]	369
	[第二病院形成外科]	374
	[千葉北総病院形成外科]	375

20.	付属病院付置施設等	376
	[付属病院集中治療室]	376
	[付属病院病理部]	383
	[付属病院中央検査部]	386
	[付属病院薬剤部]	388
	[付属病院生理機能センター]	390
	[日本医科大学腎クリニック]	391
	[付属病院看護部]	393
21.	第二病院付置施設等	395
	[第二病院消化器病センター]	395
	[第二病院リハビリテーションセンター]	398
	[第二病院健康管理科]	401
	[第二病院病理部]	402
	[第二病院中央検査室]	407
	[第二病院薬剤科]	408
22.	多摩永山病院付置施設等	409
	[多摩永山病院病理部]	409
	[多摩永山病院中央検査室]	411
	[多摩永山病院薬剤科]	412
	[多摩永山病院看護部]	414
23.	千葉北総病院付置施設等	416
	[千葉北総病院集中治療部]	416
	[千葉北総病院病理部]	418
	[千葉北総病院中央検査室]	423
	[千葉北総病院薬剤科]	424
	[千葉北総病院中央画像検査室]	425
〔4〕付置研究施設		
1.	老人病研究所	431
	[分子病理学部門]	431
	[生化学部門]	433
	[免疫部門]	437
	[疫学部門]	439
	[分子生物学部門]	441
2.	ワクチン療法研究施設	446
付表：各種研究費補助金・研究助成金交付状況		
	1. 平成9年度科学研究費補助金交付決定一覧	451
	2. 平成9年度文部省科学研究費補助金（分担研究）の採択・交付状況	455
	3. 平成9年度厚生省科学研究費補助金（主任研究・分担研究）の交付状況	455
	4. 平成9年度その他省庁，自治体，財団による研究助成金等の交付状況	457

〔1〕 基 礎 科 学

1. 人文科学・社会科学

〔国文学〕

研究概要

本年度は、最近数年間の連続テーマである(1)「日本近代文学の中の東京」(2)「女性文学」及び文学に描かれた女性像を中心に研究を展開した。

(1)に関しては芥川龍之介「歯車」に描かれた昭和2年当時の〈銀座〉、川端康成「虹」の背景となった昭和9～11年当時の〈浅草〉の様相を、それぞれの作品の主題と関連させて論じた。また「文学の〈東京〉風景」と題して、都民大学で、明治初期から平成時代に到る〈文学の中の東京〉を論じる10回の連続講演をおこなった。

(2)については、シナリオ・ライター向田邦子の小説、女性児童文学者北島八穂の少年文学、戦中・戦後の作家林芙美子の長篇の特質を論じた。また有島武郎「或る女」と谷崎潤一郎「細雪」の作品構造にそって、戦前の中流階級の女性達の時間感覚を分析した。

専攻分野である芥川龍之介研究においては、芥川の中国ものの一つである「湖南の扇」を論究した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 神田由美子：芥川龍之介「歯車」の銀座。国語展望 1997；(100)：20-22.
- 2) 神田由美子：向田邦子—人生の陽画（ポジ）と陰画（ネガ）。月刊国語教育 1997；17（6）：12-13.
- 3) 神田由美子：北島八穂「破れ穴から出発だ」。国文学解釈と鑑賞 1997；62（10）：157-161.
- 4) 神田由美子：川端康成「虹」の浅草。国語展望 1997；(101)：9-11.
- 5) 神田由美子：芥川龍之介「湖南の扇」。国文学解釈と鑑賞 1997；62（12）：156-161.
- 6) 神田由美子：林芙美子「茶色の眼」。国文学解釈と鑑賞 1998；63（2）：129-132.

著書

- 1) 神田由美子：日本近代文学における〈女〉の時間—「或る女」と「細雪」—. 時間—ことばのスペクトルシリーズ4, 1998；リーベル出版.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 神田由美子：文学の東京風景。都民カレッジ（東京国際フォーラム）連続講演，1997. 10.

〔哲学・倫理学〕

研究概要

まず、本年度は昨年書いたように、翻訳書2冊が今年度分として報告できる。さらに翻訳書は、刊行予定である。また、来年度関係する分野のドイツ人研究者が3人来日するが、その準備が本年度の課題でもあった。

1) ドイツ観念論における自然哲学の研究。この数年間続けている研究のテーマであるが、①自然哲学の理論的基礎、②周辺との関係、③研究の現状と課題の解明というのが現在の課題である。①については昨年も書いたように、

自然哲学の枠を越えて、「存在を如何に把握するのか」というテーマのもとで追求している。このテーマはほぼ「ドイツ観念論の対抗軸」という形でめどがつき始めている。研究発表・議論を先行させている②については、ドイツでの在外研究時に入手した文献の解説を行ってこれは基本的にきているが、「エッセンマイヤーとシェリング」という形で限定し解析を行っている。なおドイツ人研究者との連携は引き続き行っている。資料上、研究上の援助を持続的に受けている。なおそれらはほぼ完成に近づきつつあるので、今後成果として公表できることになるだろう。③に関しては、専門学会「日本シェリング協会」の理事を引きつづき引き受けて、その運営に携わってきている。また自然哲学研究会の方の仕事も、今後はドイツと日本との交流が頻繁になるだろう。

2) 生命倫理に関しても、基礎理論についての研究を中心としている。学会を中心にして仕事をしているが、こちらでも編集委員になったので、論文執筆が課題となっている。この間一貫してテーマにしているのは功利主義倫理と規範倫理の問題と「出生に関する諸問題」である。翻訳に関しては1冊出したが、現在2冊の本を編集しているので、この面でもいずれ成果が現れるだろう。また、来年度は、外国人の研究者の来日が予定されており、議論を研究の中心におくことになる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 長島 隆：体系期ヘーゲルの空間一時間論—講義草稿の議論を視野に入れて。理想 1997；(660)：62-71.

著書

- 1) 長島 隆，尾崎恭一¹⁾，北沢恒人²⁾，日暮雅夫³⁾，黒須三恵⁴⁾ (1) 関東学園大学，²⁾ 千葉大学，³⁾ 盛岡大学，⁴⁾ 日医大法医学)：〔翻訳〕はじめに，序章，第1章の翻訳と訳者あとがき。ブローディ編『生命倫理と道徳理論』，1997；梓出版社。
- 2) 長島 隆，河村克俊¹⁾，多田 茂²⁾，御子柴善之³⁾ (1) 関西大学，²⁾ イェーナ大学，³⁾ 早稲田大学)：〔翻訳〕前書き，三，四，五章の分担翻訳と訳者あとがき執筆。バウムガルトナー著『有限な理性』，1997；晃洋書房。
- 3) 長島 隆：〔分担〕哲学・思想事典，1998；岩波書店。

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 長島 隆：シェリングにおける「無限者」の問題。日本シェリング協会第六回大会シンポジウム「ロマン主義の自然観」報告，1997. 7.
- 2) 長島 隆：リベラリズムのゆくえ—コミュニタリアニズムとの対抗からの疑問。日本医学哲学倫理学会第一八回大会シンポジウム「日本の医療とリベラリズムの地平」総括質問，1997. 10.

(2) 一般講演：

- 1) 長島 隆：フィヒテとシェリング—「実在の根拠」をめぐる。東北哲学会第四六回大会，1997. 10.
- 2) 長島 隆：シェリング自然哲学の批判者としてのフリードリヒ・ケッペン。自然哲学研究会第二八回例会，1997. 12.

[心理学]

研究概要

本年度はコラージュ療法の臨床的研究と啓蒙活動に加えて、昨年に引き続き東京外国語大学留学生センター助教授

の鈴木康明氏、早稲田大学大学院生金丸隆太氏との共同研究でコラージュ技法の基礎的研究のまとめを行った。

1. 「集団コラージュの自己開発的意義」を論文にまとめた。

2. コラージュ療法の臨床的研究と啓蒙活動に本年度も力を注いだ。昨年に引き続き犯罪心理学会からの依頼でラウンドテーブルのコメンテーターとして参加した。カウンセリング学会のワークショップの講師や芸術療法学会と箱庭療法学会において座長を務めた。本教室を事務局として東京コラージュ療法研究会を5月、7月、9月、11月、1998年2月の計5回開催し、精神科、教育、学生相談の各分野での事例研究と基礎研究を行った。なお、コラージュ療法学会主催で「投影法バッテリーへの招待－星と波テスト・ワルテックテスト・バウムテスト」を京都文教大学のリーネル・ブルーノ助教授を招いて11月に開催した。

3. 学生相談室が開設以来3年目に入り、本年度は千駄木校舎でも土曜日の開室が可能となった。新入生全員にUPI(学生健康調査)テストを行った。1996年度の相談室活動報告およびUPIの結果などを含めた学生相談室報告書第2号を発行した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 杉浦京子：熱帯魚は人の心にどんな影響を与えるのか？。月刊ピチャット 1997；(4)：89-89.
- 2) 杉浦京子：熱帯魚はボケ防止に効く？。月刊ピチャット 1997；(5)：123-123.
- 3) 杉浦京子、鈴木康明¹⁾、金丸隆太²⁾ (1) 東京外国語大学、²⁾ 早稲田大学大学院文学研究科)：集団コラージュの自己開発的意義について－高齢者問題に関わる対人援助者の自己開発に用いた集団コラージュ。安田生命社会事業団研究助成論文集 1997；(32)：174-180.
- 4) 杉浦京子：集団コラージュの自己開発的意義について。日本心理臨床学会第16回大会発表論文集 1997；400-401.
- 5) 杉浦京子：日本芸術療法学印象記(その2)シンポジウム「描画表現にみる危機と創造」－わが国の天災・人災を受けた子どもたちについて－。日本芸術療法学会誌 1997；28(1)：125-127.
- 6) 杉浦京子、鈴木康明¹⁾、金丸隆太²⁾ (1) 東京外国語大学、²⁾ 早稲田大学大学院文学研究科)：集団コラージュ制作の効果－社会心理学的、臨床心理学的考察－。日本医科大学基礎科学紀要 1997；(23)：1-15.
- 7) 杉浦京子：職場の対人ストレス。性格心理学ハンドブック 1998；848-849.
- 8) 杉浦京子：自分らしさを作る時期のつまずき。くだかけ 1998；(3)：23-23.

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 杉浦京子、鷹村アヤ子¹⁾、佐川英子²⁾、植田由美子³⁾、飛田 勇⁴⁾、藤掛 明⁵⁾ (1) 長崎少年鑑別所、²⁾ 東京少年鑑別所、³⁾ 関東医療少年院、⁴⁾ 家庭裁判所、⁵⁾ 神奈川医療少年院)：非行臨床におけるコラージュ療法の理解と展開。日本犯罪心理学会、1997. 9.

(2) 一般講演：

- 1) 杉浦京子、鈴木康明¹⁾、金丸隆太²⁾ (1) 東京外国語大学、²⁾ 早稲田大学大学院文学研究科)：集団コラージュの自己開発的意義。早稲田大学心理学会、1997. 5.
- 2) 杉浦京子：コラージュ療法。日本カウンセリング学会、1997. 7.
- 3) 杉浦京子、岡崎順子¹⁾、小林正幸²⁾、門前 進³⁾ (1) 日本交流分析学会、²⁾ 日本行動療法学会、³⁾ 日本健康心理学会)：不登校。日本心理医療諸学会連合、1997. 8.
- 4) 杉浦京子、青木健次¹⁾ (1) 京都大学)：イメージワーク(描画コラージュなど)。全国学生相談研修会(日本学生

相談学会), 1997. 12.

[歴史学]

研究概要

日本中世史と日本医学史とを専攻しているが、例年のように、医学史関係の業績は少ない。本年の特徴としては、かって新人物往来社から発刊した『天皇家と多田源氏』および『奥羽戦乱と東国源氏』の二冊が、かなりの新訂増補の上、三一書房から三一新書の内として再刊されたことである。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 奥富敬之: 源平・鎌倉期の名家・名門. 別冊歴史読本 1997; 22 (17): 72-83.
- 2) 奥富敬之: 畠山氏. 歴史と旅 1997; 24 (14): 88-95.
- 3) 奥富敬之: 源頼朝: 平治の乱. 歴史読本 1997; 42 (11): 152-157.
- 4) 奥富敬之: 藤原頼長と保元の乱. 歴史と旅 1997; 24 (17): 148-153.
- 5) 奥富敬之: 孝心厚き闘帝: 後村上天皇. 別冊歴史読本 1998; 23 (3): 112-119.
- 6) 奥富敬之: 知ってるつもりの日本文史: 源平時代. 別冊歴史読本 1998; 23 (12): 61-70.
- 7) 奥富敬之: 源氏一族の基礎知識. 歴史研究 1998; (442): 14-20.
- 8) 奥富敬之: 記紀, 風土記に見る原始・古代の医療. 別冊歴史読本 1998; 23 (13): 168-169.

著書

- 1) 奥富敬之: [分担] 北条高時の出自. 北条高時のすべて (佐藤和彦編), 1997; pp37-61, 新人物往来社.
- 2) 奥富敬之: 天皇家と源氏: 臣籍降下の皇族たち, 1997; 三一書房.

[文化人類学]

研究概要

人間の行動原理と文化・文明の変容原理との関連性, ならびに人間の行動原理と現代における大きな社会的諸問題との関連性について究明している。また, これら社会的諸問題の根本的解決策についても模索している。今年度は文化の諸相について究明した。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 伊藤末博: 文化の諸相. 日本医科大学基礎科学紀要 1997; (23): 43-48.

[経済学]

研究概要

経済理論および日本経済・世界経済の現状把握のための研究会を組織し, これまでの「日本的経済システム」に関

する研究、「環太平洋アジア地域の経済発展」に関する研究に加えて、「電子マネー」に関する研究に取り組むこととした。

「電子マネー」に関する研究は、これまで「電子情報流通の普及とその影響」(1995年)、「マルチメディアの利用可能性」(1996年)として行ってきた研究の成果を踏まえて、近時話題になっている「電子マネー」の欧米・日本で最近の動向をフォローし、今後金融システム・金融政策に与える影響について考察するために、さしあたり「電子マネー」の貨幣論・信用論上の意義づけを明確にするという理論的研究を進めるものである。この研究は1998年度の文部省科学研究費補助金の交付を受けて実施することになっている(基盤研究(C)「電子マネーの貨幣・信用論上の意義と金融システム・金融政策への影響」)。

「環太平洋アジア地域の経済発展」に関しては、「東アジアの発展と日本の直接投資」の基礎の上に「日中経済関係の深化と対中技術移転」に関する調査研究を進めた。鉄鋼・自動車・電気電子機器の各分野における製造技術の移転の現状と課題、経営管理技術移転の現状と課題について明らかにしたところである。また、97年夏からのアジア通貨・金融危機に関しては、直接的契機に目をむけがちな論壇の議論に対して、背後にある世界経済システムの変質が重要であるとの視点から研究論文を著した。98年度の日医大紀要に掲載予定である。

なお、従来より大学院の社会的役割の変化、今後のあり方に関する調査を進めており、97年度の成果は論文の形で発表したところである。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 三輪春樹，三浦宏一¹⁾，釘宮英司²⁾ (1) 東海大学文明研究所，²⁾ NTTデータ通信金融事業本部)：情報通信技術が生命保険事業に与える影響。情報通信技術が生命保険事業に与える影響研究会報告書，政策科学研究所 1997；1-124。
- 2) 三輪春樹：電子マネーのインプリケーション：通貨の多様化と通貨間競争。東海大学文明研究所紀要 1998；(第18号)：125-144。
- 3) 三輪春樹：プロフェッショナル・スクールとしての大学院の新たな役割。東海大学教育研究所紀要 1998；(第5号)：81-102。
- 4) 三浦宏一¹⁾，三輪春樹，内田禎二²⁾，沼田 茂³⁾，霧生 廣⁴⁾ (1) 東海大学文明研究所，²⁾ 東海大学総合科学技術研究所，³⁾ 国土館大学，⁴⁾ 新構想研究会政策情報センター)：日中経済関係の深化と対中技術移転に関する調査研究。日中経済関係の深化と対中技術移転に関する調査研究，産業研究所・政策科学研究所 1998；1-129。

(2) 研究報告書：

- 1) 三浦宏一¹⁾，三輪春樹，市川明彦²⁾，西嶋尚史³⁾，日高昇治⁴⁾，中村 実⁵⁾，斎藤 実⁶⁾，霧生 廣⁷⁾，長尾俊昭⁸⁾ (1) 東海大学文明研究所，²⁾ 日立製作所情報事業本部，³⁾ NEC総研金融グループ，⁴⁾ NTTデータ通信公共営業本部，⁵⁾ 野村総合研究所，⁶⁾ 電通国際金融システム事業部，⁷⁾ 新構想研究会政策情報センター，⁸⁾ 郵政省簡易保険局)：簡易保険事業における高度情報通信技術の利用可能性。簡易保険事業における高度通信技術の利用可能性報告書 1998；pp1-86。

2. 自然科学

[数 学]

研究概要

三宅：十数年来，統計学授業にパソコンを導入し，学生演習，教材作成，成績管理，出席管理に活用してきた。統計演習の計算手段にBASICを使用させてきたが，時代遅れの感が免れなかった。今年より統計ソフトEXCELを使い始め，これの従来の授業システムの中への組み込みに力を傾注している。

儀我：Lipschitz領域での対称性のあるelliptic operatorとanalytic semigroupのgeneratorとの関係の考察に一区切りをつけ，より一般性のあるoperatorを考える準備をした。

渡辺：Wilson fermion から chiral anomaly を導く厳密な論法を完成した。Heat kernel regularization をしなくても厳密な連続極限を構成することが可能になった。

飯田：コンピュータと深くかかわりのあるアルゴリズムについて，グラフ論的問題を中心に据え，アルゴリズムの発見，改良，P-NP問題等を研究。

研究業績

論 文

(1) 原著：

- 1) Hattori T¹⁾, Watanabe H (¹⁾ 立教大学理学部数学教室) : Anisotropic random walks and asymptotically one-dimensional diffusions on the abc-gaskets. Journal of Statistical Physics 1997 ; 88 (1/2) : 105-128.
- 2) Barlow MT¹⁾, Hattori K²⁾, Hattori T³⁾, Watanabe H (¹⁾ Department of Mathematics, University of British Columbia, ²⁾ 東京大学数理科学研究科, ³⁾ 立教大学理学部数学教室) : Weak homogenization of anisotropic diffusion on pre-Sierpinski carpet. Communications in mathematical Physics 1997 ; 188 (1) : 1-28.

(2) 綜説：

- 1) 渡辺 浩：場の量子論の数学的構成。日本医科大学基礎科学紀要 1997 ; 22 : 1-67.

(3) Short note：

- 1) 飯田博和, 三宅章彦, 有田清三郎¹⁾, 須田 宏²⁾, 山下 元³⁾ (¹⁾ 関西医科大学, ²⁾ 慶応義塾大学, ³⁾ 早稲田大学) : Special lectures of "Fuzzy theory" for medical students. Biomedical Fuzzy and Human Sciences 1997 ; 3 (1) : 93-96.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 渡辺 浩：場の量子論における数学的構成問題について。スピン系の統計力学と確率論，1997. 12.
- 2) 渡辺 浩：Mathematical Derivation of Chiral Anomaly. Issues from Quantum Field Theory, Statistical Mechanics and Related Fields, 1998. 3.

(2) Working Conference：

- 1) Giga M : Patterns in Nature and Mathematics. International federation for information processing, 1997. 10.

[物理学]

研究概要

1) アデノシン三リン酸の化学エネルギーが筋肉収縮の力学エネルギーに変換される機構の解明のため、アデノシン三リン酸と筋肉蛋白質の小部分についての量子化学計算を行った。また、リボソームのカルシウムイオン濃度変化による構造転移の実験研究を行った。[香川]

2) 1. フィコビリソームを構成している蛋白質の構造、さらにそれらの会合体の構造に対して機能的な必然性があることを指摘し、構造と機能との関係を理論的な立場から調べている。2. バクテリオロドプシンが光を吸収した直後、蛋白質分子内部で生じる変化の様子を理論計算によって調べている。3. イエロープロテインにおいて、蛋白質・発色団の相互作用と光吸収特性との関係を量子力学的な計算によって調べ、発色団の光異性化に対するリアルなイメージを予測している。[菊地]

3) 1. 量子カオス領域でのカオスの存在について検討している。すでに、準古典近似の量子キックドローテータによる変形標準マップを導き、この分野でのこれまでの成果を支持する結果を得、また幾つかの新しい成果を得ている。

2. 神経系のカオスについて検討している。[須田]

4) CQMで議論するときにはクォークが重いとして非相対論的に扱う場合が多い。我々はこれがどのくらい正しいかを調和振動子表現法という近似法で議論した。チャーモニウムとボトモニウムのS状態を議論の対象にしたが、その結果はレベルの高さと要求する精度如何によって相対論的に扱うほうがよいことを見つけ、これを報告している。

[三浦]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Suda N : Resonance and its Stochastic Behavior in Quantum Kicked Rotator. Bull Lib Arts & Sci Nippon Med Sch 1997 ; 22 : 69-77.
- 2) Kikuchi H, Suzuki H¹⁾ (¹⁾ Waseda Univ.) : Dynamical theory of photoisomerization of the rhodopsin chromophore : generation of a transient electric field during photoisomerization. J Phys Chem B 1997 ; 101 : 6050-6056.
- 3) Kikuchi H, Sugimoto T¹⁾, Mimuro M²⁾ (¹⁾ Kantogakuin Univ, ²⁾ Yamaguci Univ) : An electronic state of the chromophore, phycocyanobilin, and its interaction with the protein moiety in C-phycocyanin : protonation of the chromophore. Chem Phys Lett 1997 ; 274 : 460-465.
- 4) Itoh C¹⁾, Minamikawa T²⁾, Miura K, Watanabe T³⁾ (¹⁾ Meiji-Gakuin Univ., ²⁾ Tokyo Univ. of Mercantile Marine, ³⁾ Asia Univ.) : The semirelativistic kinetic term of the heavy quarkonia in the oscillator-representation method. Nuovo Cimento 1997 ; 110A : 891-894.
- 5) Miura K : Finite Sums Containing Γ Functions and a Binomial Coefficient. Bull Lib Arts & Sci Nippon Med Sch 1997 ; 23 : 39-41.
- 6) 香川 浩, 永井喜則¹⁾, 森 和英²⁾ (¹⁾ 国士舘大・情報科学センター及び政経, ²⁾ 早稲田計算科学コンソーシアム) : イオン化アデノシン三リン酸の最適化構造. 日医大基礎科学紀要 1997 ; (22) : 79-93.

(2) 綜説：

- 1) 三室 守¹⁾, 村上明男²⁾, 菊地浩人 (¹⁾ 山口大学・理学部, ²⁾ 基礎生物学研究所) : シアノバクテリアの集光性超分子会合体, フィコビリソーム. 蛋白質核酸酵素 1997 ; 42 (12) : 2613-2625.

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Kikuchi H : Functional Meaning of the Symmetry Structure in Phycobiliprotein Aggregates. US/Japan Seminar on Molecular Organization of Photosynthetic Antennas or Principles of Light Energy Capturing in Photosynthesis : Implication of Symmetric Structure of the Pigment-Protein Complexes and the Role of Proteins (Kailua-Kona, Hawaii, USA), 1997. 11.

(2) シンポジウム：

- 1) Suda N : New Noise-Induced State Transition in Quantum Kicked Rotator. 2nd Tohwa University International Meeting, 1997. 11.

(3) セミナー：

- 1) 菊地浩人, 輪湖 博¹⁾, 郷 通子²⁾, 三室 守³⁾ (¹⁾ 早稲田大学・社会科学部, ²⁾ 名古屋大学・理学部, ³⁾ 山口大学・理学部) : C-フィコシアニンの基準振動解析. 第5回「光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナーV」(岡崎), 1997. 6.

(4) 一般講演：

- 1) 小田井圭¹⁾, 菊地浩人, 長屋州宣²⁾, 鈴木英雄²⁾ (¹⁾ 湘北短期大学・電子情報, ²⁾ 早稲田大学・理工学部) : バクテリオロドプシンにおける発色団と蛋白部分との相互作用. 日本物理学会1997年秋の分科会(神戸), 1997. 10.
- 2) 菊地浩人, 小田井圭¹⁾, 長屋州宣²⁾, 鈴木英雄²⁾ (¹⁾ 湘北短期大学・電子情報, ²⁾ 早稲田大学理工学部) : イエロープロテインとその発色団との間の相互作用. 日本物理学会1997年秋の分科会(神戸), 1997. 10.
- 3) 長谷川健治¹⁾, 菊地浩人, 石崎茂生²⁾, 塚原保夫²⁾ (¹⁾ 北里大学・医学部, ²⁾ 東北大学・理研) : ゾウリムシの行動の概日リズム—CA2⁺シグナリングによって決定される最適情報伝達経路—. 日本生物物理学会第35回年会(京都), 1997. 10.
- 4) 菊地浩人, 輪湖 博¹⁾, 郷 通子²⁾, 三室 守³⁾ (¹⁾ 早稲田大学・社会科学部, ²⁾ 名古屋大学・理学部, ³⁾ 山口大学・理学部) : フィコビリタンパク質会合体対称構造の機能的意味. 日本生物物理学会第35回年会(京都), 1997. 10.
- 5) 須田信弘 : 変形量子標準マップにおけるカオスの安定性. 日本物理学会1997秋の分科会, 1997. 10.
- 6) 香川 浩, 永井喜則¹⁾, 森 和英¹⁾ (¹⁾ 国士舘大・情報科学センター) : ミオシン-ATP複合体におけるATPとその周辺の電子状態と構造. 日本生物物理学会第35回年会, 1997. 10.
- 7) 荻原利彦¹⁾, 権藤尊陸¹⁾, 永井喜則²⁾, 高橋 忍²⁾, 香川 浩 (¹⁾ 麻布大・環境・生理, ²⁾ 国士舘大・情報科学センター) : リボソーム構造転移に伴うCa指示薬Quin 2の蛍光変化. 日本生物物理学会第35回年会, 1997. 10.
- 8) 菊地浩人, 長屋州宣¹⁾, 小田井圭²⁾, 鈴木英雄¹⁾ (¹⁾ 早稲田大学・理工学部, ²⁾ 湘北短期大学・電子情報) : イエロープロテインとその発色団との間の相互作用. 第4回日本光生物学協会講演会(八王子), 1997. 11.
- 9) 須田信弘 : 量子共鳴に対するノイズ効果II. 日本物理学会第53回年会(船橋), 1998. 3.

[化 学]

研究概要

石田：シリカゲルTLCに関する研究

- (1) ジルコニウム (IV), ハフニウム (IV), および他の金属の三成分分離.
- (2) 塩類—有機溶媒—水系における希土類元素の吸着挙動と隣接元素の多成分分離.
- (3) 希土類元素の吸着挙動の解明.

田中：(1) 質量分析計を用いた研究：金属錯体，生体内微量物質の同定および定量，中毒原因物質の同定等。

(2) 原子炉を用いた研究：中性子放射化分析による生体内微量元素の同定および定量。

菅原： アルカリ金属—ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成および、不飽和酸とジクロロカルベンの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成。

永井： 2,2'-ビピリジンまたは1,10-フェナントロリンを持つルテニウム (II) 混合配位子錯体の溶液化学。

(1) 錯体の合成。

(2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離および、その機構の研究。

(3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究。

(4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究。

武田： CMセルロースTLCおよびゼオライトTLCに関する研究。

(1) 塩類水溶液系—有機溶媒混合系における希土類金属の陽イオン交換吸着挙動。

(2) 吸着挙動に及ぼす諸因子の検討。

(3) イットリウムの特異的分離とその機構の解明。

研究業績

論文

(1) 原著：

1) Takeda Y, Ishida K : Consecutive thin-layer chromatographic separation of Zr (IV) , Hf (IV) and many other ions on silica gel in nitric acid-hydrogen peroxide media. *Talanta* 1997 ; 44 : 849-853.

2) Tanaka M, Nagai T, Miki E¹⁾, Ishimori T¹⁾ (¹⁾ Rikkyo Univ) : The reduction and oxidation reactions of [Ru (CN)₂ (bpy)₂] observed in liquid secondary ion mass spectra with a thioglycerol matrix. *Eur Mass Spectrom* 1997 ; 3 : 301-307.

3) Nagata-Tanba S¹⁾, Tomizawa H¹⁾, Miki E¹⁾, Tanaka M, Nagai T (¹⁾ Rikkyo Univ) : Interaction between the NO⁺ ligand and trans π -donor ligands in chloro (2-methyl-8-quinolinolato) nitrosyl (8-quinolinolato) ruthenium (II) complexes. *Inorg Chim Acta* 1998 ; 267 : 147-149.

学会発表

(1) 一般講演：

1) 松原いく子¹⁾, 岩佐霽子¹⁾, 中川 清¹⁾, 武田洋一, 石田宏二 (¹⁾ 東京女子医大) : 陰イオン交換樹脂による貴金属回収廃液中の微量白金の分離と定量。第58回分析化学討論会, 1997. 5.

[生物学]

研究概要

1) 多年生草本植物の成長と繁殖特性を研究している。林床に生育するキク科草本を対象とし、種子繁殖と栄養繁殖への最適な資源分配を、推移行列を用いたシミュレーションによって予測した。また、生育期間が短く、しかも年変動の激しい高山や極域環境に生育する植物が、どのような成長と繁殖特性によって個体群を維持しているのかを明らかにするため、展葉のスケジュールと繁殖子の発芽特性に関する研究を開始した。(西谷)

2) 好酸性好気性光合成細菌 *Acidiphilium* から、マグネシウムではなく亜鉛を中心金属として光合成活性をもつバクテリオクロフィルを世界で初めて発見した。その化学構造、光合成における機能、存在意義、進化との関係などを研究している(国内共同研究)。(高市)

3) カロテノイド色素の化学構造、生理的機能、生合成遺伝子などを研究している(国際、国内共同研究)。高等植

物から藻類まで光合成器官のネオキサンチンはすべて 9'-シス型であることの発見と進化との関連性の検討, 葉緑体を光障害から守る酵素の性質と機能の研究, 単細胞緑藻クラミドモナスからカロテノイド生合成遺伝子の単離, 代謝工学的手法により新規カロテノイドを大腸菌内で合成させる研究, 新規光合成細菌の単離・同定と色素分析などを進めている。成果の一部を Gordon Research Conference, European Research Conference で発表することができた。また, 光合成細菌のカロテノイド分布と生合成の英文総説の執筆依頼を受けた。(高市)

4) 棘皮動物の体腔細胞について, ヒトデ類, ウニ類, ナマコ類などにおける比較, 機能, 発生学的な由来などを研究した。これまでウニ類以外では不明確であった桑実細胞がマナマコの体腔液に存在すること, ウニの4種の体腔細胞のうち, 食細胞以外の3種の細胞も生体防御にかかわっている可能性を示す結果などを得た。(関)

5) 細菌自体が生産する, 自己の増殖を抑制する因子の分離同定と, 関与する遺伝子の分析を進めている。(石津)

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Hanada S¹⁾, Kawase Y¹⁾, Hiraishi A²⁾, Takaichi S, Matsuura K¹⁾, Shimada K¹⁾, Nagashima KVP¹⁾ (1) Tokyo Metropolitan Univ., 2) Toyohashi Univ. Technol.) : *Porphyrobacter tepidarius* sp. nov., a moderately thermophilic aerobic photosynthetic bacterium isolated from a hot spring. Int J Syst Bacteriol 1997 ; 47 (2) : 408-413.
- 2) Takaichi S, Tamura Y¹⁾, Azegami K, Yamamoto Y¹⁾, Ishidzu J (1) Meiji Univ.) : Carotenoid glucoside mycolic acid esters from the nocardioform actinomycetes, *Rhodococcus rhodochrous*. Phytochemistry 1997 ; 45 (3) : 505-508.
- 3) Frigaard NU¹⁾, Takaichi S, Hirota M¹⁾, Shimada K¹⁾, Matsuura K¹⁾ (1) Tokyo Metropolitan Univ.) : Quinones in chlorosomes of green sulfur bacteria and their role in the redox-dependent fluorescence studied in chlorosome-like bacteriochlorophyll *c* aggregates. Arch Microbiol 1997 ; 167 (6) : 343-349.
- 4) Takaichi S, Wang ZY¹⁾, Umetsu M¹⁾, Nozawa T¹⁾, Shimada K²⁾, Madigan MT³⁾ (1) Tohoku Univ., 2) Tokyo Metropolitan Univ., 3) Southern Illinois Univ.) : New carotenoids from the thermophilic green sulfur bacterium *Chlorobium tepidum* : 1',2'-dihydro- γ -carotene, 1',2'-dihydrochlorobactene and OH-chlorobactene glucoside ester, and the carotenoid composition of different strains. Arch Microbiol 1997 ; 168 (4) : 270-276.
- 5) Takaichi S, Inoue K¹⁾, Akaike M¹⁾, Kobayashi M²⁾, Oh-oka H³⁾, Madigan MT⁴⁾ (1) Kanagawa Univ., 2) Univ. Tsukuba, 3) Osaka Univ., 4) Southern Illinois Univ.) : The major carotenoid in all known species of heliobacteria is the C₃₀ carotenoid 4,4'-diaponeurosporene, not neurosporene. Arch Microbiol 1997 ; 168 (4) : 277-281.
- 6) Albrecht M¹⁾, Takaichi S, Misawa N²⁾, Schnurr G³⁾, Böger P³⁾, Sandmann G¹⁾ (1) Goethe Univ., 2) Kirin Brewery, 3) Univ. Konstanz) : Synthesis of atypical cyclic and acyclic hydroxy carotenoids in *Escherichia coli* transformants. J Biotechnol 1997 ; 58 (3) : 177-185.
- 7) Kuwabara T¹⁾, Hasegawa M¹⁾, Takaichi S (1) Univ. Tsukuba) : Reaction system for violaxanthin de-epoxidase with PS II membranes. Plant Cell Physiol 1998 ; 39 (1) : 16-22.

(2) 総説:

- 1) 小林正美¹⁾, 秋山満知子¹⁾, 木瀬秀夫¹⁾, 高市真一, 嶋田敬三²⁾, 伊藤 繁³⁾, 平石 明⁴⁾, 渡辺 正⁵⁾, 若尾紀夫⁶⁾ (1) 筑波大物質工, 2) 都立大理, 3) 基生研, 4) 豊橋技科大エコロジー工, 5) 東大生研, 6) 岩手大農) : クロロフィルの中心金属はマグネシウムだけか? (特集: 生体鉱物). 鉱物学雑誌 1997 ; 26 (2) : 117-120.

学会発表

〔1996年度追加分〕

ワークショップ：

- 1) Alia¹⁾, 加藤 彰¹⁾, 高市真一, Chen T²⁾, 村田紀夫¹⁾ (1) 基生研, 2) オレゴン州立大園芸) : Isolation of ABA-deficient mutant impaired at the intervening step in ABA biosynthesis. クラミドモナス・その分子細胞生物学のブレークスルーを目指して, 基生研研究会, 1997. 3.
- 2) 加藤 彰¹⁾, Alia¹⁾, 高市真一, Chen T²⁾, 村田紀夫¹⁾ (1) 基生研, 2) オレゴン州立大園芸) : クラミドモナスにおける violaxanthin の異性化に関与する遺伝子の探索. クラミドモナス・その分子細胞生物学のブレークスルーを目指して, 基生研研究会, 1997. 3.

一般講演：

- 1) 秋本誠志¹⁾, 西村賢宣¹⁾, 山崎 巖¹⁾, 高市真一, 緒方武比古²⁾, 三室 守³⁾ (1) 北大工, 2) 北里大水産, 3) 基生研) : ペリディニン・クロロフィル *a* タンパクにおける励起エネルギー移動. 1996年光化学討論会, 1996. 10.

(1) 招待講演：

- 1) Wakao N¹⁾, Hiraishi A²⁾, Shimada K³⁾, Kobayashi M⁴⁾, Takaichi S, Iwaki M⁵⁾, Itoh S⁵⁾ (1) Iwate Univ., 2) Toyohashi Univ. Technol., 3) Tokyo Metropolitan Univ., 4) Univ. Tsukuba, 5) National Inst. Basic Biology) : Zinc-containing bacteriochlorophyll in aerobic acidophilic bacteria of the genus *Acidiphilium*. 8th International Conference on Bioinorganic Chemistry (Yokohama), 1997. 7.
- 2) Wakao N¹⁾, Hiraishi A²⁾, Shimada K³⁾, Kobayashi M⁴⁾, Takaichi S, Iwaki M⁵⁾, Itoh S⁵⁾ (1) Iwate Univ., 2) Toyohashi Univ. Technol., 3) Tokyo Metropolitan Univ., 4) Univ. Tsukuba, 5) National Inst. Basic Biology) : Properties and distribution of zinc-BChl in aerobic acidophilic bacteria including *Acidiphilium* species and other related acidophiles. IXth International Symposium on Phototrophic Prokaryotes (Vienna), 1997. 9.

(2) シンポジウム：

- 1) 平石 明¹⁾, 小林正美²⁾, 高市真一, 嶋田敬三³⁾, 岩城雅代⁴⁾, 伊藤 繁⁴⁾, 若尾紀夫⁵⁾ (1) 豊橋技科大エコロジー工, 2) 筑波大物質工, 3) 都立大理, 4) 基生研, 5) 岩手大農) : 亜鉛型クロロフィルを使うバクテリアの光合成系 (光合成微生物の機能活用における最近の進展). 平成9年度日本生物工学会大会, 1997. 9.
- 2) 嶋田敬三¹⁾, 平石 明²⁾, 小林正美³⁾, 高市真一, 伊藤 繁⁴⁾, 岩城雅代⁴⁾, 若尾紀夫⁵⁾ (1) 都立大理, 2) 豊橋技科大エコロジー工, 3) 筑波大物質工, 4) 基生研, 5) 岩手大農) : Zn-バクテリオクロロフィルで光合成をする好気好酸性細菌 *Acidiphilium rubrum* (教科書が教えない光合成). 日本植物学会第61回大会, 1997. 9.
- 3) 小林正美¹⁾, 秋山満知子¹⁾, 山村麻由¹⁾, 木瀬秀夫¹⁾, 若尾紀夫²⁾, 平石 明³⁾, 高市真一, 嶋田敬三⁴⁾, 岩城雅代⁵⁾, 伊藤 繁⁵⁾, 石田信昭⁶⁾, 小泉美香⁷⁾, 狩野広美⁷⁾, 渡辺 正⁸⁾ (1) 筑波大物質工, 2) 岩手大農, 3) 豊橋技科大エコロジー工, 4) 都立大理, 5) 基生研, 6) 食品総研, 7) 農業生物資源研, 8) 東大生研) : クロロフィルの中心金属の選び方: 役に立つ化学 (教科書が教えない光合成). 日本植物学会第61回大会, 1997. 9.

(3) ワークショップ：

- 1) Takaichi S, Wakao N¹⁾, Hiraishi A²⁾, Shimada K³⁾, Nagashima KVP³⁾, Matsuura K³⁾, Kobayashi M⁴⁾, Iwaki M⁵⁾, Itoh S⁵⁾ (1) Iwate Univ., 2) Toyohashi Univ. Technol., 3) Tokyo Metropolitan Univ., 4) Univ. Tsukuba, 5) National Inst. Basic Biology) : Discovery of natural photosynthesis using Zn-containing bacteriochlorophyll in an aerobic bacterium *Acidiphilium rubrum*. Tetrapyrrole Photoreceptors in Photosynthetic Organisms, European Research Conference (Blarney), 1997. 4.
- 2) Kobayashi M¹⁾, Akiyama M¹⁾, Yamamura M¹⁾, Kise H¹⁾, Takaichi S, Itoh S²⁾, Iwaki M²⁾, Shimada K³⁾,

- Hiraishi A⁴), Ishida N⁵), Koizumi M⁶), Kano H⁶), Watanabe T⁷), Wakao N⁸) (1) Univ. Tsukuba, 2) National Inst. Basic Biology, 3) Tokyo Metropolitan Univ., 4) Toyohashi Univ. Technol., 5) National Food Res. Inst., 6) National Inst. Agrobiological Res., 7) Univ. Tokyo, 8) Iwate Univ.) : Is Mg the sole central metal of chlorophylls ? Novel photosynthesis found in nature functioning with Zn-chlorophyll. Tetrapyrrole Photoreceptors in Photosynthetic Organisms, European Research Conference (Blarney), 1997. 4.
- 3) Nishitani S, Kachi N¹), Takada T²) (1) Tokyo Metropolitan Univ., 2) Hokkaido Tokai Univ.) : Importance of vegetative reproduction for an understory herb *Syneilesis palmata* (Compositae) under density-dependent regulation. 5th Clonal Plant Workshop (Bangor), 1997. 9.
- 4) Kachi N¹), Nishitani S, Takada T²) (1) Tokyo Metropolitan Univ., 2) Hokkaido Tokai Univ.) : Resource allocation to sexual reproduction that maximizes the number of genets in a rhizomatous perennial herb *Syneilesis palmata* (Compositae). 5th Clonal Plant Workshop (Bangor), 1997. 9.
- 5) Kobayashi M¹), Akiyama M¹), Yamamura M¹), Takaichi S, Shimada K²), Itoh S³), Wakao N⁴), Hiraishi A⁵), Inoue K⁶), Ishida N⁷), Koizumi M⁸), Kano H⁸), Watanabe T⁹), Kise H¹) (1) Univ. Tsukuba, 2) Tokyo Metropolitan Univ., 3) National Inst. Basic Biology, 4) Iwate Univ., 5) Toyohashi Univ. Technol., 6) Kanagawa Univ., 7) National Food Res. Inst., 8) National Inst. Agrobiological Res., 9) Univ. Tokyo) : Novel photosynthesis using Zn-containing bacteriochlorophyll found in *Acidiphilium rubrum*. Japan-U.S. Cooperative Photoconversion and Photosynthesis Research Program (Kailua-Kona), 1997. 11.
- 6) Takaichi S, Mimuro M¹) (1) Yamaguchi Univ.) : Presence of 9'-*cis* not all-*trans* neoxanthin in chloroplasts which contain chlorophylls *a* and *b* from seed plants to green algae. Carotenoids, Gordon Research Conference (Ventura), 1998. 1.
- (4) 一般講演 :
- 1) Kuwabara T¹), Hasegawa M¹), Takaichi S (1) Univ. Tsukuba) : A novel assay system for violaxanthin de-epoxidase with photosystem II membranes as substrate. Plant Biology '97 (Vancouver), 1997. 8.
- 2) Tamura Y¹), Takaichi S, Yamamoto Y²), Ishidsu J (1) National Inst. Sericultural and Entomological Science, 2) Meiji Univ.) : Biosynthesis of new carotenoids, carotenoid glucoside mycolic acid esters in the nocardioform actinomycetes, *Rhodococcus rhodochromus*. 17th International Congress of Biochemistry and Molecular Biology (San Francisco), 1997. 8.
- 3) Takaichi S, Inoue K¹), Akaike M¹), Kobayashi M²), Oh-oka H³), Madigan MT⁴) (1) Kanagawa Univ., 2) Univ. Tsukuba, 3) Osaka Univ., 4) Southern Illinois Univ.) : The major carotenoid in all species of heliobacteria is the C₃₀ carotenoid, 4,4'-diaponeurosporene, not neurosporene. IXth International Symposium on Phototrophic Prokaryotes (Vienna), 1997. 9.
- 4) Shimada K¹), Matsuura K¹), Itoh S²), Iwaki M²), Hiraishi A³), Takaichi S, Kobayashi M⁴), Wakao N⁵) (1) Tokyo Metropolitan Univ., 2) National Inst. Basic Biology, 3) Toyohashi Univ. Technol., 4) Univ. Tsukuba, 5) Iwate Univ.) : Pigment-proteins of "Zn-bacteriochlorophyll" containing bacterium, *Acidiphilium rubrum*. IXth International Symposium on Phototrophic Prokaryotes (Vienna), 1997. 9.
- 5) Hiraishi A¹), Wakao N²), Takaichi S (1) Toyohashi Univ. Technol., 2) Iwate Univ.) : Phylogeny and photopigments of a new aerobic acidophilic photosynthetic bacterium. IXth International Symposium on Phototrophic Prokaryotes (Vienna), 1997. 9.
- 6) Hanada S¹), Kawase Y²), Hiraishi A³), Takaichi S, Matsuura K²), Shimada K²), Nagashima KVP²) (1) National Inst. Bioscience and Human-Technol., 2) Tokyo Metropolitan Univ., 3) Toyohashi Univ. Technol.) : *Porphyrobacter tepidarius* sp. nov., a moderate thermophilic aerobic photosynthetic bacterium

- isolated from a hot spring. IXth International Symposium on Phototrophic Prokaryotes (Vienna), 1997. 9.
- 7) Katoh A¹⁾, Alia¹⁾, Takaichi S, Chen T²⁾, Murata N¹⁾ (1) National Inst. Basic Biology, 2) Oregon State Univ.): A *Chlamydomonas* mutant defective in the conversion of violaxanthin to neoxanthin in ABA biosynthesis. 5th International Congress of Plant Molecular Biology (Singapore), 1997. 9.
 - 8) 高市真一, Albrecht M¹⁾, Sandmann G¹⁾ (1) Goethe Univ.): 代謝工学的手法によるカロテノイドの合成. 日本農芸化学会1997年度大会, 1997. 4.
 - 9) 松本 理¹⁾, 磯山尚人¹⁾, 平石 明²⁾, 高市真一, 若尾紀夫¹⁾ (1) 岩手大農, 2) 豊橋技科大エコロジー工): バクテリオクロロフィルを有する新規好酸性好気性細菌の諸性質. 日本農芸化学会1997年度大会, 1997. 4.
 - 10) 小林正美¹⁾, 秋山満知子¹⁾, 高市真一, 平石 明²⁾, 嶋田敬三³⁾, 渡辺 正⁴⁾, 石田信昭⁵⁾, 小泉美香⁶⁾, 狩野広美⁶⁾, 岩城雅代⁷⁾, 伊藤 繁⁷⁾, 木瀬秀夫¹⁾, 若尾紀夫⁸⁾ (1) 筑波大物質工, 2) 豊橋技科大エコロジー工, 3) 都立大理, 4) 東大生研, 5) 食品総研, 6) 農業生物資源研, 7) 基生研, 8) 岩手大農): Zn 型クロロフィルで機能する光合成系の発見. 第46回高分子学会年次大会, 1997. 5.
 - 11) 小林正美¹⁾, 秋山満知子¹⁾, 高市真一, 平石 明²⁾, 嶋田敬三³⁾, 渡辺 正⁴⁾, 石田信昭⁵⁾, 小泉美香⁶⁾, 狩野広美⁶⁾, 岩城雅代⁷⁾, 伊藤 繁⁷⁾, 木瀬秀夫¹⁾, 若尾紀夫⁸⁾ (1) 筑波大物質工, 2) 豊橋技科大エコロジー工, 3) 都立大理, 4) 東大生研, 5) 食品総研, 6) 農業生物資源研, 7) 基生研, 8) 岩手大農): Zn 型クロロフィルで機能する光合成系の発見. 日本写真学会1997年度大会, 1997. 5.
 - 12) 小林正美¹⁾, 秋山満知子¹⁾, 山村麻由¹⁾, 高市真一, 嶋田敬三²⁾, 平石 明³⁾, 若尾紀夫⁴⁾, 岩城雅代⁵⁾, 伊藤繁⁵⁾, 渡辺 正⁶⁾, 木瀬秀夫¹⁾ (1) 筑波大物質工, 2) 都立大理, 3) 豊橋技科大エコロジー工, 4) 岩手大農, 5) 基生研, 6) 東大生研): *Acidiphilium rubrum* と Zn-BChl *a* の物性. 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー V, 1997. 6.
 - 13) 嶋田敬三¹⁾, 平石 明²⁾, 伊藤 繁³⁾, 岩城雅代³⁾, 小林正美⁴⁾, 高市真一, 若尾紀夫⁵⁾ (1) 都立大理, 2) 豊橋技科大エコロジー工, 3) 基生研, 4) 筑波大物質工, 5) 岩手大農): *Acidiphilium rubrum* の光合成タンパクとその活性. 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー V, 1997. 6.
 - 14) 高市真一, 井上和仁¹⁾, 赤池光博¹⁾, 小林正美²⁾, 大岡宏造³⁾, Madigan MT⁴⁾ (1) 神奈川大理, 2) 筑波大物質工, 3) 大阪大理, 4) Southern Illinois Univ.): 光合成細菌ヘリオバクテリアのカロテノイドの再同定: 4,4'-Diaponeurosporene. 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー V, 1997. 6.
 - 15) 花田 智¹⁾, 川瀬芳恵²⁾, 平石 明³⁾, 高市真一, 松浦克美²⁾, 嶋田敬三²⁾, 永島賢治²⁾ (1) 工技院生命研, 2) 都立大理, 3) 豊橋技科大エコロジー工): 国内温泉から単離された新規好熱性光合成細菌. 第13回日本微生物生態学会, 1997. 7.
 - 16) 山村麻由¹⁾, 小林正美¹⁾, 秋山満知子¹⁾, 高市真一, 若尾紀夫²⁾, 渡辺 正³⁾, 木瀬秀夫¹⁾ (1) 筑波大物質工, 2) 岩手大農, 3) 東大生研): Mg- および Zn-BChl *a* のフェオフィチン化速度の比較. 日本植物学会第61回大会, 1997. 9.
 - 17) 秋山満知子¹⁾, 小林正美¹⁾, 山村麻由¹⁾, 高市真一, 平石 明²⁾, 嶋田敬三³⁾, 若尾紀夫⁴⁾, 岩城雅代⁵⁾, 伊藤繁⁵⁾, 渡辺 正⁶⁾, 木瀬秀夫¹⁾ (1) 筑波大物質工, 2) 豊橋技科大エコロジー工, 3) 都立大理, 4) 岩手大農, 5) 基生研, 6) 東大生研): 金属置換バクテリオクロロフィルの物理化学. 日本植物学会第61回大会, 1997. 9.
 - 18) 高市真一: 高等植物から藻類まで光合成器官のネオキサンチンは全て9'-シス型である. 日本植物学会第61回大会, 1997. 9.
 - 19) 嶋田敬三¹⁾, 永島賢治¹⁾, 松浦克美¹⁾, 伊藤 繁²⁾, 岩城雅代²⁾, 平石 明³⁾, 高市真一, 小林正美⁴⁾, 若尾紀夫⁵⁾ (1) 都立大理, 2) 基生研, 3) 豊橋技科大エコロジー工, 4) 筑波大物質工, 5) 岩手大農): Zn-バクテリオクロロフィルを持つ細菌の光合成反応中心. 日本生物物理学会第35回年会, 1997. 10.
 - 20) 嶋田敬三¹⁾, 永島賢治¹⁾, 松浦克美¹⁾, 伊藤 繁²⁾, 岩城雅代²⁾, 平石 明³⁾, 高市真一, 小林正美⁴⁾, 若尾紀夫⁵⁾

- (1) 都立大理, 2) 基生研, 3) 豊橋技科大エコロジー工, 4) 筑波大物質工, 5) 岩手大農) : Zn-バクテリオクロロフィルを持つ細菌の反応中心とアンテナ蛋白の単離と性質. 第4回日本光生物学協会講演会, 1997. 11.
- 21) 高市真一, 三室 守¹⁾ (1) 山口大理) : 高等植物から藻類まで光合成器官のネオキサントンは全て 9'-シス型である. 第11回カロテノイド研究談話会, 1997. 12.
- 22) 陶山哲志¹⁾, 細谷博行¹⁾, 金川貴博¹⁾, 野田坂佳伸²⁾, 藤井清三³⁾, 高市真一, 常盤 豊¹⁾ (1) 工技院生命研, 2) 北大歯, 3) 北大低温研) : β subclass *Proteobacteria* に属する新規好気性光合成細菌について. 日本農芸化学会1998年度大会, 1998. 3.
- 23) 高市真一 : 好気性光合成細菌のカロテノイド色素. 日本農芸化学会1998年度大会, 1998. 3.
- 24) 小林正美¹⁾, 山村麻由¹⁾, 秋山満知子¹⁾, 高市真一, 若尾紀夫²⁾, 渡辺 正³⁾, 木瀬秀夫¹⁾ (1) 筑波大物質工, 2) 岩手大農, 3) 東大生研) : Zn 型クロロフィルの酸に対する安定性. 日本化学会第74春季年会, 1998. 3.
- 25) 小林正美¹⁾, 秋山満知子¹⁾, 木瀬秀夫¹⁾, 高市真一, 若尾紀夫²⁾, 嶋田敬三³⁾ (1) 筑波大物質工, 2) 岩手大農, 3) 都立大理) : 好酸性バクテリア *Acidiphilium rubrum* の反応中心の色素分析. 日本化学会第74春季年会, 1998. 3.
- 26) 西谷里美, 増沢武弘¹⁾ (1) 静岡大理) : 北極圏のムカゴトラノオにおける, 数年にわたる葉原基と花序原基の発達過程. 第45回日本生態学会, 1998. 3.

3. 外国語

[英 語]

研究概要

Over the last several years, the fundamental premise on which our programs have been designed is that the training medical students receive in English should be of practical benefit to them as medical practitioners and researchers in the future. The aural/oral component of the curriculum (English B and C) provides our students with training in communication skills in relatively small groups of around 25. This training is in fairly general English in the students' first year, but in their second year they can elect to take a course in either medical communication or in oral presentations of academic topics.

A similar progression is found in the reading and writing component (English A and C), with paragraph and descriptive writing in the first year leading to academic writing in the second. Reading classes are wide ranging, with some practice in speed reading given. The subject matter includes journalistic as well as academic writing.

The curriculum is currently under review, and it is our hope that this will provide an opportunity to increase the number of elective classes offered and improve the teacher to student ratio.

The department contributed to the revision of a Ministry of Education approved writing textbook for senior high school students, which was published earlier this year.

Literary research was carried out into the reception of Chaucer's *Canterbury Tales* in the eighteenth century, and on sixteenth-century English dramas.

研究業績

論 文

(1) 原著 :

- 1) Nakamura T : Sainthood or Domesticity : Two Interpretations of Griselda in the Mid-Sixteenth Century. 芸

- 文研究 1997；73：77-92.
- 2) 山口俊治：伊東和夫の業績．現代英語教育 1997.
 - 3) Minton TD：コミュニケーションのための英文法講座．時事英語研究 1997；52：1-9.
 - 4) Minton TD：コミュニケーションのための英文法講座．時事英語研究 1998；52：10-12.

著 書

- 1) Lowe G, Nakamura T：〔分担編集〕Annual Bibliography of English Language and Literature for 1995. Gen. ed. Gerard Lowe. 1996；70, 1997；Modern Humanities Research Association, London.
- 2) Yamaguchi S, Minton TD：〔共著〕Spectrum English Writing, 1998；Kirihara Shoten.
- 3) 山口俊治：〔自著〕Teacher's Manual to New Complete English Grammar, 1997；桐原書店.
- 4) 山口俊治：〔自著〕Teacher's Manual to Core English Grammar by Shunji Yamaguchi, 1997；桐原書店.
- 5) 山口俊治：〔自著〕総合英文読解, 1997；語学春秋社.
- 6) 山口俊治：〔自著〕英文法語法問題演習, 1997；語学春秋社.
- 7) 山口俊治：〔自著〕英文法講義の実況中継・改訂版（上）, 1998；語学春秋社.
- 8) 山口俊治：〔自著〕英文法講義の実況中継・改訂版（下）, 1998；語学春秋社.

[ドイツ語]

研究概要

本教室では、従来、学生にドイツ文法を教えるにはどのような方法がより効果的であるかという問題について検討してきている。学生からよく聞かれる「文法をより系統的、かつ能率的に修得する方法はないか」という要求を考慮しつつ、従来の固定化された教育方法に柔軟性を持たせながら、「教えやすく、習いやすい」教材の作成を目指している。

現在、各大学におけるドイツ語の教授方法には、大きく分けて2つのタイプがあると考えられる。一つは「文法・講読分離型」、もう一つは外国語の能力は「話す、聞く、読む、書く」という4つの能力の総合であるという判断から、教授法においてもこれを分離することを否定する「総合型」である。後者のタイプにおいてはドイツ各州の教育センターやゲーテ・インスティトゥートを始め、国内の大学でも次々と新しい試みがなされている。特に数年前からは、発話者の意思や思想、感情などの伝達および交換に重点を置く「Kommunikativer Sprachunterricht “が盛んに研究されるようになってきており、この面での教材も開発され、授業で実際に成果を挙げているところもある。本教室では、「総合型」を加味しつつ「分離型」を採用して、学生の読解および表現能力の養成につとめている。

なお、教室員の個別的活動について言えば、国信はヴィンケルマン研究およびその日本における受容史について、安藤は日独文化交流史研究の一環として、幕末・明治における来日外国人の足跡とその業績について調査・研究、資料蒐集および翻訳を行なっている。横内は初級ドイツ語教育における諸問題について調べている。

研究業績

論 文

(1) 原著：

- 1) 安藤 勉：ポルスブルックの富士登山など：オランダ人と日本の山河．日蘭学会通信（平成9年度No.1）（通巻77号） 1997；45.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 国信浩洋：敏の滞独随感：妻悦子宛書簡より。日本独学史学会，1997。11.
- 2) 安藤 勉：空太郎をめぐるドイツ人。日本独学史学会，1997。11.

4. 保健体育

[保健体育]

研究概要

三上：以下の3項目についての研究を行った。1)「運動後のタンパク質合成に及ぼすペプチド摂取の効果」を検討した。結果は、激運動後の消化吸收能の低下した状態では、タンパク質あるいはアミノ酸としてタンパク質を摂取するよりも、消化吸收性の優れたペプチドとして摂取する方が運動後のタンパク質の回復には効果的であることが明らかとなった。(この研究はデサントスポーツ科学研究助成、森永乳業株式会社よりの委託研究により行った)。2)「運動時の生体の酸化ストレス状態を表す指標としてのアラントイン値の有効性の検討」という研究テーマで、筑波大学体育科学系・伊藤 朗教授と文部省科学研究費に関する共同研究を行った。この結果、ヒトにおいては血漿アラントイン値は従来から酸化ストレスの指標として用いられてきた血漿過酸化脂質値よりも有効な指標であることが示唆された。3)「運動時のストレスタンパク質 (HSP72) の合成増加を認め、現在mRNAの発現からの検討を進めている(この研究は平成10年度文部省科学研究費、萌芽的研究により行った)。

武藤：高齢者の体力と生活習慣について、および幼児から大学生の体格・体力の縦断的推移等について継続して研究している。1) 埼玉県東部農村地域に在住する男女60歳以上の中高年者を対象に、生活体力測定と生活習慣の調査を試行し検討した。その結果、60歳代の男性が生活体力に特に劣ることがうかがわれ、全身持久力および脚筋力を高める運動の必要性が認められた。生活体力は日常運動している群が非運動群に比して高く、また喫煙群が非喫煙群に比して優り、健康診断における疾病非指摘群は指摘群に比較して優る傾向であった。2) 本学学生および本学付属看護学校生徒の入学時の体格と体力テスト結果を縦断的に検討し、体力の低下傾向の要因を追求している。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著：

- 1) 三上俊夫，伊藤 朗¹⁾，吉野芳夫²⁾ (1) 筑波大学，2) 昭和女子大学)：ペプチド食摂取が激運動後の骨格筋および肝臓でのタンパク質代謝に及ぼす影響。デサントスポーツ科学 1997；19：183-190.

(1) 原著：

- 1) 武藤三千代，酒巻敏夫¹⁾ (1) 鷲宮町保健センター)：埼玉県W町高齢者の生活体力と生活習慣について。日本医科大学基礎科学紀要 1997；(23)：17-29.
- 2) 三上俊夫，北加代子¹⁾，富田誠次¹⁾，曲 剛健¹⁾，伊藤 朗¹⁾ (1) 筑波大学)：ヒトにおける酸化ストレスの指標としての血清・尿中アラントイン値の有効性について。運動生化学 1998；10：142-145.

学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) 三上俊夫：持久的運動トレーニングが赤血球の比重と酵素活性に及ぼす影響．第112回日本体力医学会関東地方会，1998．3．

(2) 一般講演：

- 1) 三上俊夫，北加代子¹⁾，伊藤 朗¹⁾ (¹⁾ 筑波大学)：運動時の生体内フリーラジカル生成の指標としての血清アラントイン値の有効性についての検討．第110回日本体力医学会関東地方会，1997．6．
- 2) 武藤三千代，酒巻敏夫¹⁾，神田英明¹⁾ (¹⁾ 鷲宮町保健センター)：埼玉県W町高齢者の生活体力と生活習慣について．第52回日本体力医学会大会，1997．9．
- 3) 富田誠次¹⁾，北加代子¹⁾，曲 剛健¹⁾，三上俊夫，田崎洋佑¹⁾，伊藤 朗¹⁾ (¹⁾ 筑波大学)：運動時の過酸化脂質とプリン代謝産物の関係．第52回日本体力医学会大会，1997．9．
- 4) 北加代子¹⁾，富田誠次¹⁾，曲 剛健¹⁾，三上俊夫，田崎洋佑¹⁾，伊藤 朗¹⁾ (¹⁾ 筑波大学)：運動時における尿酸の抗酸化作用について．第52回日本体力医学会大会，1997．9．
- 5) 武藤三千代：埼玉県W町高齢者の生活体力と生活習慣について．日本体育学会測定評価専門分科会，1998．2．
- 6) 三上俊夫，北加代子¹⁾，富田誠次¹⁾，曲 剛健¹⁾，伊藤 朗¹⁾ (¹⁾ 筑波大学)：ヒトにおける酸化ストレスの指標としての血清・尿中アラントイン値の有効性について．第10回運動生化学研究会シンポジウム，1998．2．

〔2〕基 礎 医 学

1. 解剖学第一講座

研究概要

本年度も概ね昨年度と同様な研究分野で、研究が進められた。以下にその概要を示す。

(1) 伸展刺激による血管各部の内皮細胞におけるアクチンストレスファイバーの形成と熱ショックタンパク質の誘導合成は血管病変好発部位で低いことが分かった(杉本)。また、伸縮刺激を受けた培養細胞のストレスファイバーが斜めに配置することに関して、本線維の方向性は「伸縮途中の長さ変化が最小になる」ところに落ち着き、エネルギー最小原理に則っていると解釈した(武政)。

(2) マウス横隔膜の筋線維構成の特徴について、動物種・生理的状況の違いあるいはホルモン投与による影響を調べた。Anabolic steroidの投与により筋線維の断面積は筋タイプによらず増大した。ミトコンドリアの断面積については全体としてType1線維とType2線維で異なる結果が得られたが、両者とも筋鞘下のミトコンドリアが最も影響を受けやすいことを明らかにした(後藤ら)。

(3) 明暗環境変化とc-fos mRNAの発現に関して、大脳皮質において、暗期に高く、明期に低いリズムを示し、連続的に暗期にしてもリズムが残ることを確認し、内因性の発現であるとした。また、鳥肉腫ウイルスより発見されたmafV遺伝子のラットのホモロジーであるmaf-1 mRNAのラット胎仔における発現の研究を開始し、脊髄、腎臓などに発現していることが明かとなり形態学的な解析を進めている(今城ら)。

(4) 連続切片再構築法による肝類洞の観察を進め、肝細胞の小葉内部位差の著しいスunksに注目し、その発現を組織発生的に追跡し、三次元的手法で客観的に示した。また、成体における類洞の走行を立体観察し、スunksでは門脈からはほぼ直線的に走行し、中心静脈域では複雑に吻合すると共に、中心静脈に注ぐ直前に、一種の類洞のダムを作った後、限定した数の類洞が中心静脈に合流することを示した(石川、市川、森、山下ら)。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Sugimoto K, Fujii S, Takemasa T, Yamashita K: Factors inducing codistribution of marginal actin fibers and fibronectin in rat aortic endothelial cells. *Am J Physiol* 1997; 272: H2188-H2194.
- 2) Gotoh T, Murashige N, Yamashita K: Ultrastructural observations on the tendon sheath of the rat tail. *J Electron Microsc* 1997; 46 (3): 247-252.
- 3) Yoshida K¹, Imaki J, Koyama Y¹, Harada T¹, Shinmei Y¹, Oishi C¹, Matsushima H¹, Matsuda A¹, Nishi S², Matsuda H¹, Sakai M² (1) Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine, (2) Department of Biochemistry, Hokkaido University School of Medicine): Differential expression of maf-1 and maf-2 genes in the developing rat lens. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 1997; 38: 2679-2683.
- 4) Imaki J, Yoshida K¹, Yamashita K, Onodera H, Harada T¹, Shinmei Y¹, Matsuda H¹, Yamakawa A¹ (1) Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine): Presence of ERK2 in rat retinal cells. *Curr Eye Res* 1997; 16: 957-959.
- 5) Ohki H¹, Watase K¹, Yamamoto K², Ogura H³, Yamano M⁴, Yamada K¹, Maeno H¹, Imaki J, Kikuyama S², Wada E¹, Wada K¹ (1) Department of Degenerative Neurological Diseases, National Institute of Neuroscience, (2) Department of Biology, School of Education, Waseda University, (3) Tsukuba Research Laboratories, Eisai Co. Ltd, (4) Osaka Prefectural College of Health Sciences): Mice lacking bombesin receptor subtype-3 develop metabolic defects and obesity. *Nature* 1997; 390: 165-169.

- 6) Imaki J, Onodera H, Yoshida H¹⁾, Yamashita K (1) Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine) : Expression of corticotropin-releasing factor (CRF) in peritoneum and pericardium in the rat embryo by in situ hybridization histochemistry. *Peptides* 1997 ; 18 : 1243-1248.
- 7) Ohno T¹⁾, Yoshida F²⁾, Ichikawa Y, Matsuo S²⁾, Hotta N²⁾, Terada M³⁾, Tanaka S⁴⁾, Yamashita K, Namikawa T¹⁾, Itoh K⁵⁾ (1) Laboratory of Animal Genetics, School of Agricultural Sciences, Nagoya University, 2) Third Department of Internal Medicine, School of Medicine, Nagoya University, 3) Department of Parasitology, Hamamatsu University School of Medicine, 4) National Institute for Longevity Sciences, National Chubu Hospital, 5) Institute for Laboratory Animal Research, School of Medicine, Nagoya University) : A new spontaneous animal model of niddm without obesity in the musk shrew. *Life Sciences* 1998 ; 62 (11) : 995-1006.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 杉本啓治, 藤井幸子, 武政 徹, 山下和雄 : 機械刺激に対する血管内皮細胞のアクチン細胞骨格動態 (細胞とミクロ組織機能). 第10回バイオエンジニアリング講演会, 1998. 1.

(2) 一般講演 :

- 1) Onodera H, Imaki J, Yoshida K¹⁾, Yamashita K (1) Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine) : Circadian oscillation of c-fos mRNA expression in the rat cortex by in situ hybridization. *Society for Neuroscience 27th Annual Meeting (New Orleans)*, 1997. 11.
- 2) Imaki J, Onodera H, Yoshida K¹⁾, Yamashita K (1) Department of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine) : DEVELOPMENTAL EXPRESSION OF CORTICO TROPIN-RELEASING FACTOR RECEPTOR 1 (CRF-R1) mRNA IN THE RAT FETUS. *Society for Neuroscience 27th Annual Meeting (New Orleans)*, 1997. 11.
- 3) 小野寺英貴, 今城純子, 小川 龍¹⁾ (1) 麻酔科) : ラット大脳皮質におけるc-fos発現の日内変動. 第44回日本麻酔学会総会, 1997. 4.
- 4) 明楽重夫¹⁾, 安達志野¹⁾, 山中温子¹⁾, 可世木久幸¹⁾, 荒木 勉¹⁾, 今城純子 (1) 産婦人科) : 正常及びラット胎仔におけるCRH, CRHレセプターI型の発現. 第49回日本産婦人科学会総会, 1997. 4.
- 5) 亀谷 肇, 杉本啓治, 藤井幸子, 武政 徹, 山下和雄 : 虚血再灌流によるラット血管内皮の形態的, 機能的変化について. 第36回日本エム・イー学会大会, 1997. 4.
- 6) 杉本啓治, 藤井幸子, 武政 徹, 山下和雄 : 血管内皮細胞における辺縁ストレスファイバーの形成要因. 第36回日本エム・イー学会大会, 1997. 4.
- 7) 松田 彰¹⁾, 田川義継¹⁾, 北市伸義¹⁾, 吉田和彦¹⁾, 松田英彦¹⁾, 今城純子, 西平 順¹⁾ (1) 北大・医・眼科) : 発生期のラット眼球におけるマクロファージ遊走阻止因子の発現. 第101回日本眼科学会総会, 1997. 5.
- 8) 田川義継¹⁾, 松田 彰¹⁾, 北市伸義¹⁾, 小竹 聡¹⁾, 松田英彦¹⁾, 今城純子, 西平 順¹⁾ (1) 北大・医・眼科) : エンドトキシン誘発ブドウ膜炎におけるマクロファージ遊走阻止因子の発現. 第101回日本眼科学会総会, 1997. 5.
- 9) 石川朋子, 森 美貴, 市川安昭, 山下和雄 : スンクス肝類洞走行の三次元的観察. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 10) 森 美貴, 石川朋子, 市川安昭, 山下和雄 : スンクス肝臓組織発生と肝細胞の部位差の発現. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 11) 武政 徹, 杉本啓治, 山下和雄 : 律動的伸縮に対する細胞内ストレスファイバーの再配置機構に関する仮説.

第50回日本細胞生物学会大会, 1997. 9.

- 12) 杉本啓治, 藤井幸子, 武政 徹, 山下和雄: 各部血管の内皮細胞における張力刺激によるストレス蛋白質発現. 第50回日本細胞生物学会大会, 1997. 9.
- 13) 武政 徹, 杉本啓治, 山下和雄: 律動的伸縮場における細胞内ストレスファイバーの配向性に関する仮説. 1998年生体運動班会議, 1998. 1.
- 14) 武政 徹, 杉本啓治, 山下和雄: 律動的伸縮刺激に対する細胞内ストレスファイバーの斜めの方向の再配置はエネルギー最小の法則に則っている. 第10回運動生化学研究会, 1998. 2.
- 15) 石川朋子, 森 美貴, 市川安昭, 鬼頭純三¹⁾, 山下和雄 ⁽¹⁾ 名古屋大・医・動物実験): 連続切片再構築法による肝類洞走行の観察. 第103回日本解剖学会全国学術集会, 1998. 3.

2. 解剖学第二講座

研究概要

解剖学第二講座の研究は比較神経学と肉眼解剖学の二つの分野からなっている。比較神経学の分野は、従来の系統樹の本幹に添った（特殊化していない）動物種のみを扱う古典的な比較神経学と異なり、むしろ特殊化した動物種を積極的に対象とする。すなわち、共通の祖先から同一時期に出来るだけ多くの種に分かれて適応放散に成功し、現存しているものを対象とする方法である。これまで、種に特有な脳構造をその種が獲得した生態的地位を解析することによって意味づけし、中枢神経系の成立機構そのものの解明を目指してきた。現在このような比較神経学的な考え方を基盤として、(1) 原始的な硬骨魚類であるチョウザメの脳を解析し、適応放散に成功した現代的な棘鱗類の脳との比較、(2) 二つ以上の異なる種類の情報（特に視覚と一般体性感覚）の脳内での相関機構の解明、(3) 感覚系において中枢から感覚器、または高次のセンターから低次のセンターへ向かういわゆる遠心性投射の解析と機能の解明、(4) 脳内の情報処理機構を知るために魚類の網膜を中枢神経系のモデルとして用い、光情報が網膜の各種細胞間をどのように伝達され修飾されるかの解明、(5) 脳内の各所に分布するGnRHニューロンの機能とその起源の解明、などに重点を置いている。これらの研究には、通常のニッスル染色やゴルジ染色による細胞構築の解析、ボディアン染色による線維の解析、HRP や DiI を用いた実験的な線維連絡の解析、シナプス構築の解析などの他、免疫組織化学や異種間の胚の移植実験などの手法を用いて光学顕微鏡および電子顕微鏡のレベルで実験を行なっている。

肉眼解剖学の分野では、臨床上役立つものを一義的に考え、ヒトを中心として研究を進めている。成人に見られる異常構造（variation）や正常構造のパターンの成立機序を説明するためにヒトの胎児を用いて発生学的な検索を行ない、同時に、各種の食虫類や霊長類も合わせて用いて比較解剖学的な検索も行なっている。これらの対象となる範囲は、各部の動脈系と静脈系、肝臓の門脈系、泌尿器系（特に腎臓）、運動器系（筋肉と骨格）、末梢神経系、などである。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著：

- 1) Laufer M¹⁾, Negishi K, Salas R¹⁾ (1) Centro de Neurofísica, Instituto Venezolano de Investigaciones Científicas, Caracas) : Effects of glutamic acid and related agents on horizontal cells in a marine teleost retina. *J Neurosci Res* 1996 ; 44 : 568-576.

(1) 原著：

- 1) Shiota K¹⁾, Shibata A²⁾, Hayashi K²⁾, Tamiya T¹⁾, Habara K³⁾, Masuda H³⁾, Kannari Y⁴⁾, Shimizu M⁵⁾, Shichinohe K⁵⁾, Asakawa M (1) Tobu Comedical College, 2) Clinical Central Laboratory, 3) Tokyo Veterinary Clinic, 4) Kanto Biomedical Laboratory, 5) Department of Laboratory Animal Science) : Verification de l'impregnation de la fibre reticulaire par l'argent. *The Bulletin of Tobu Comedical College* 1997 ; 2 (1) : 29-34.
- 2) Ito H, Yoshimoto M, Albert JS, Yamane Y, Yamamoto N, Sawai N¹⁾, Kaur A²⁾ (1) University of Tsukuba, Institute of Basic Medical Science , 2) Lyallpur S. Govt. College Sci., and Res.) : Terminal morphology of two branches arising from a single stem-axon of pretectal (PSm) neurons in the common carp. *J Comp Neurol* 1997 ; 378 : 379-388.

- 3) Negishi K, Salas R¹⁾, Laufer M¹⁾ (¹⁾ Centro de Neurofísica, Instituto Venezolano de Investigaciones Científicas, Caracas) : Origins of horizontal cells spectral responses in the retina of marine teleosts (*Centropomus* and *Mugil* sp.). *J Neurosci Res* 1997 ; 47 : 68-76.
 - 4) Negishi K, Wagner H-J¹⁾ (¹⁾ Anatomisches Institut der Universität Tübingen) : Density ratio of dopaminergic versus serotonergic cells correlates with cone-to-rod ratio in teleost retinas. *Neurosci Lett* 1997 ; 225 : 37-40.
 - 5) Yamamoto N, Oka Y¹⁾, Kawashima S²⁾ (¹⁾ University of Tokyo, ²⁾ Zenyaku Kogyo Co. Ltd.) : Lesions of gonadotropin-releasing hormone-immunoreactive terminal nerve cells : Effects on the reproductive behavior of male dwarf gouramis. *Neuroendocrinol* 1997 ; 65 : 403-412.
 - 6) Verweij J¹⁾, Kamermans M¹⁾, Negishi K, Sekreijse H¹⁾ (¹⁾ Laboratory of Medical Physics, Amsterdam University) : GABA-sensitivity of horizontal cells in the goldfish retina. *Vis Neurosci* 1998 ; 15 : 77-86.
 - 7) Yamamoto N, Oka Y¹⁾, Yoshimoto M, Sawai N²⁾, Albert JS, Ito H (¹⁾ University of Tokyo, ²⁾ University of Tsukuba, Institute of Basic Science) : Gonadotropin-releasing hormone neurons in the gourami midbrain : A double labeling study by immunocytochemistry and tracer injection. *Neurosci Lett* 1998 ; 240 : 50-52.
 - 8) Yoshimoto M, Albert JS, Sawai N¹⁾, Shimizu M, Ito H (¹⁾ University of Tsukuba, Institute of Basic Science) : Telencephalic ascending gustatory system in a cichlid fish, *Oreochromis (Tilapia) niloticus*. *J Comp Neurol* 1998 ; 392 : 209-226.
 - 9) Yamamoto N, Parhar IS¹⁾, Sakuma Y¹⁾, Ito H (¹⁾ Department of Physiology, Nippon Medical School) : Gonadotropin-releasing hormone (GnRH) innervation of the pituitary in a cichlid fish, *Oreochromis niloticus* : A brain lesion study. *Acta Anatomica Nipponica* 1998 ; 73 : 55-57.
 - 10) 山本直之 : 魚は食べるだけの時代は終わった : メダカ, ゼブラフィッシュ研究の進展. *細胞工学* 1997 ; 16 : 1850-1851.
- (2) 総説 :
- 1) 伊藤博信, 石川裕二¹⁾ (¹⁾ 放射線医学総合研究所, 生物研究部) : 家畜化による脳の変化. *Clinical Neuroscience* 1997 ; 15 (4) : 115.
 - 2) 石川裕二¹⁾, 伊藤博信 (¹⁾ 放射線医学総合研究所, 生物研究部) : 脳の発生と発達—形態的側面から. *脳の科学* 1998 ; 20 (2) : 125-134.

学会発表

(1) 基調講演 :

- 1) 伊藤博信 : 硬骨魚類の脳・行動・進化. 岡崎基礎生物学研究所研究集会「小型魚類からみた脊椎動物の生殖・発生」(岡崎), 1997. 8.

(2) シンポジウム :

- 1) Albert JS, Campos-da-Paz R¹⁾ (¹⁾ Departamento de Zoologia, Instituto de Biologia, Universidade Federal do Rio de Janeiro) : Phylogenetic systematics of American knifefishes : A review of the available data. *International Symposium on Phylogeny and Classification of Neotropical Fishes* (Porto Alegre, Brasil), 1997. 6.
- 2) Yoshimoto M, Yamamoto N, Albert JS, Sawai N¹⁾, Ito H (¹⁾ University of Tsukuba, Institute of Basic Science) : Homology of the telencephalic subdivisions in a percomorph teleost with other vertebrates. *XIVth International Symposium on Morphological Sciences* (Beijing, China), 1997. 9.

- 3) Ito H, Yoshimoto M, Yamamoto N, Albert JS, Sawai N¹⁾ (¹⁾ University of Tsukuba, Institute of Basic Science) : Retinal projections in a non-teleost ray-finned fish, *Acipenser transmontanus*, and distribution patterns of retinal ganglion cells. XIVth International Symposium on Morphological Sciences (Beijing, China), 1997. 9.
 - 4) Albert JS, Yoshimoto M, Yamamoto N, Sawai N¹⁾, Ito H (¹⁾ University of Tsukuba, Institute of Basic Science) : Thalamotelencephalic visual pathways in a non-teleost ray-finned fish, *Acipenser transmontanus*. XIVth International Symposium on Morphological Sciences (Beijing, China), 1997. 9.
 - 5) Yamamoto N, Oka Y¹⁾, Kawashima S²⁾ (¹⁾ University of Tokyo, ²⁾ Zenyaku Kogyo Co. Ltd) : Effects of lesions of gonadotropin-releasing hormone (GnRH) -immunoreactive terminal-nerve cells on the reproductive behavior of male dwarf gourami, *Colisa lalia*. International Symposium on the Comparative Biology of GnRH Neurons (Tokyo), 1997. 11.
 - 6) Tsutsui H¹⁾, Yamamoto N, Ito H, Oka Y¹⁾ (¹⁾ University of Tokyo) : GnRH immunohistochemistry and electrophysiology of neurons of the cerebral ganglion in ciona (asidian). International Symposium on the Comparative Biology of GnRH Neurons (Tokyo), 1997. 11.
 - 7) Albert JS : Evolution of small body size in adrianchthyid fishes. 岡崎基礎生物学研究所研究集会「小型魚類からみた脊椎動物の生殖・発生」(岡崎), 1997. 8.
 - 8) 伊藤博信 : 動物たちはものをどのように見ているか : 脊椎動物の視覚系のなりたち。(テーマ「神経系のかたちと働き」). 日本解剖学会関東地方会第7回懇話会, 1997. 6.
 - 9) 伊藤博信, 吉本正美, 山本直之, Albert JS, 澤井信彦¹⁾ (¹⁾ 筑波大学, 基礎医学系解剖学) : チョウザメの視覚系. 第3回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」(三崎), 1997. 8.
 - 10) 山本直之, 澤井信彦¹⁾, 吉本正美, Albert JS, 伊藤博信 (¹⁾ 筑波大学, 基礎医学系解剖学) : ドワーフグーラミー (*Colisa lalia*) の下垂体を制御する GnRH 細胞群 : 全脳 in vitro 標本による研究. 第3回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」(三崎), 1997. 8.
 - 11) 吉本正美, 山本直之, 澤井信彦¹⁾, Albert JS, 伊藤博信 (¹⁾ 筑波大学, 基礎医学系解剖学) : テラピア *Oreochromis (Tilapia) niloticus* の終脳各部の線維連絡と免疫組織化学的な検索. 第3回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」(三崎), 1997. 8.
 - 12) 宗宮弘明¹⁾, 菊池久美子²⁾, 吉本正美, 山本直之, 伊藤博信 (¹⁾ 三重大学, 生物資源学部, ²⁾ 麻布大学, 獣医学部) : カサゴ (硬骨魚類, *Sebastes marmoratus*) 発音筋を支配する運動ニューロン. 第3回シンポジウム「水生動物の行動と神経系」(三崎), 1997. 8.
 - 13) 山本直之 : 終神経GnRH細胞と生殖行動 : グーラミーの巣作り行動の制御. 岡崎基礎生物学研究所研究集会「小型魚類からみた脊椎動物の生殖・発生」(岡崎), 1997. 8.
- (3) セミナー :
- 1) Albert JS : Use of neural data in phylogenetic reconstruction : Systematics of American electric fishes (Gymnotiformes). Los Angeles County Museum of Natural History (Los Angeles, USA), 1998. 3.
- (4) 一般講演 :
- 1) Albert JS, Crampton WGR¹⁾ (¹⁾ Department of Zoology, University of Oxford) : Three new species of Gymnotus from central Amazonia, with descriptions of electric organ discharges and ecology. 9th annual meeting of Neotropical Ichthyological Association (Porto Alegre, Brasil), 1997. 6.
 - 2) Saito T¹⁾, Carlsson C²⁾, Tanuma K, Hiraga K¹⁾ (¹⁾ Anesthesiology of National Cancer Center Hospital, ²⁾ Temple University) : Appendectomy in Rabbits with Extended Unilateral Anesthesia. 24th Annual meeting of Acta Anesthesiologica Scandinavica (Stockholm), 1997. 6.

- 3) Negishi K, Salas R¹⁾, Laufer M¹⁾ (¹⁾ Centro de Neurofísica, Instituto Venezolano de Investigaciones Científicas, Caracas) : Correlates between spectral response and morphological types of horizontal cell in the marine teleost retina. 12th International Congress of Eye Research, (Yokohama), 1997. 9.
- 4) Masuda R¹⁾, Tanuma K, Inoue T¹⁾, Yokoyama K²⁾ (¹⁾ Anesthesiology of Hokuso Hospital, ²⁾ Anesthesiology of Tamanagayama Hospital) : The effects of unilateral cervical sympathetic block on the contralateral limb blood flow. XVI Annual European Society of Regional Anesthesia Congress (London), 1997. 9.
- 5) Albert JS, Froese R¹⁾ (¹⁾ ICLARM, MC P.O. Box 2631, 0718 Makati City, Philippines) : Diversity of brain size in fishes : Preliminary analysis of the "Brains" database. 5th Indo-Pacific Fish Conference, (Noumea New Caledonia), 1997. 11.
- 6) Iida K¹⁾, Fujita K¹⁾, Hirai T¹⁾, Goto H¹⁾, Arai Y¹⁾, Miyazaki S¹⁾, Iwaki H¹⁾, Asakawa M, Otake M¹⁾ (¹⁾ The Research Institute of Vaccine Therapy) : Effect of oral administration of an extract from human tubercle bacilli (SSM) on tumors in mice (Preliminaries for clinical oral administration). 14th Asia Pacific Cancer Conference (Hong Kong), 1997. 11.
- 7) 吉本正美, 山本直之, アルバートジェームス, 澤井信彦¹⁾, 伊藤博信 (¹⁾ 筑波大学, 基礎医学系解剖学) : スズキ目の硬骨魚類セラピアの終脳各部の線維連絡と免疫組織化学的な検索. 第20回日本神経科学大会, 1997. 7.
- 8) Albert JS, Sawai N¹⁾, Yoshimoto M, Yamamoto N, Ito H (¹⁾ 筑波大学, 基礎医学系解剖学) : Diversification of brain morphology in adrianchthyid fishes from Sulawesi, Indonesia. 第20回日本神経科学大会, 1997. 7.
- 9) 山本直之, 澤井信彦¹⁾, 吉本正美, アルバートジェームス, 伊藤博信 (¹⁾ 筑波大学, 基礎医学系解剖学) : 硬骨魚類の下垂体を支配するGnRHニューロン : 全脳in vitro標本による研究. 第20回日本神経科学大会, 1997. 7.
- 10) 山本直之, 澤井信彦¹⁾, 吉本正美, Albert J, 伊藤博信 (¹⁾ 筑波大学, 基礎医学系解剖学) : 終神経-GnRH細胞群への入力路. 第103回日本解剖学会, 1998. 3.

3. 生理学第一講座

研究概要

電気生理学, 行動生理学, 形態学, 分子生物学の各方面から, 性ホルモンや視床下部ペプチドが神経細胞や下垂体細胞に及ぼす作用を研究している. 現在用いている手法は, (1) 電気生理学では細胞内イオンイメージング法による細胞内カルシウム濃度及びナトリウム濃度の動態の解析とパッチクランプ法による膜電位・膜電流の解析, (2) 行動生理学では, ビデオ撮影による記録と並行して, ニューロン活動を電氣的, またはFOSタンパク発現により評価し, 雌雄ラットの性行動の中枢機序を調べている. また, アンチセンス法により, 性行動へのGnRHの関与を調べている. (3) 形態学的には, GnRHニューロンやエストロゲン受容体陽性ニューロンの個体発生を, 免疫組織科学や*in situ* hybridization 法により検討し, 性ホルモン環境などの影響を調べる研究が進行している. (4) 分子生物学的な手法では, エストロゲン受容体ゲノムDNAに存在する折れ曲がり構造などを調べた. これまでに, 学内では小児科, 泌尿器科, 整形外科, 産婦人科, 第三内科などと, 大学院生の交流を通じて共同研究を行ってきた. 学外では公的助成を得て, ロックフェラー大学, 生理学研究所, 東京大学, 東京都神経科学総合研究所などと, 提携が進んでいる. 本年度の業績にはわれわれが編集した"GnRH Neurons: Gene and Behavior"を含め著書2冊, 欧文論文17編, 国外学会12と国内学会29の演題発表を数えており, さまざまな手法で研究を進めている各グループとも本格的な成果の発表が始まった. 現在既に受理されている論文を含め, 明年度にはさらに多くの論文の一流誌への掲載を報告できると考えている.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Oonishi T¹⁾, Sakashita K¹⁾, Uyesaka N (1) Nippon Telegraph and Telephone Corporation Medical Research) : Regulation of red blood cell filterability by Ca²⁺ influx and cAMP-mediated signaling pathways. *American Journal of Physiology* 1997 ; 273 : C1828-C1834.
- 2) Iino M : Effects of a homogeneous magnetic field on erythrocyte sedimentation and aggregation. *Bioelectromagnetics* 1997 ; 18 (3) : 215-222.
- 3) Kato M, Sakuma Y : Regulation by GH releasing hormone and somatostatin of a Na⁺ current in the primary cultured rat somatotroph. *Endocrinology* 1997 ; 138 (12) : 5096-5100.
- 4) Kato M, Hanaoka Y¹⁾, Tatemoto K¹⁾, Kimura C¹⁾ (1) Institute for Molecular and Cellular Regulation, Gunma University) : Hyperpolarization-activated Cl⁻ current elicited by pituitary adenylate cyclase activating polypeptide in *Xenopus* oocytes. *Regulatory Peptides* 1997 ; 70 : 167-172.
- 5) Kondo Y, Sachs B¹⁾, Sakuma Y (1) Department of Psychology, University of Connecticut) : Importance of the medial amygdala in rat penile erection evoked by remote stimuli from estrous females. *Behavioural Brain Research* 1997 ; 88 (2) : 153-160.
- 6) Kondo Y, Suzuki K, Sakuma Y : Estrogen alleviates cognitive dysfunction following transient brain ischemia in ovariectomized gerbils. *Neuroscience Letters* 1997 ; 238 (1/2) : 45-48.
- 7) Matsumoto T, Kondo Y, Sachs B¹⁾, Yamanouchi K²⁾ (1) Department of Psychology, University of Connecticut, 2) Waseda University) : Effects of p-chlorophenylalanine on reflexive and noncontact penile erections in male rats. *Physiology and Behavior* 1997 ; 61 : 165-168.
- 8) Miura Y¹⁾, Kato M, Ogino K²⁾, Matsui H¹⁾ (1) Department of Hygiene, Dokkyo University School of

- Medicine, ² Department of Medicine, Koshigaya Hospital, Dokkyo University) : Impaired cytosolic Ca²⁺ response to glucose and gastric inhibitory polypeptide in pancreatic b-cells from triphenyltin-induced diabetic hamster. *Endocrinology* 1997 ; 138 (7) : 2769-2775.
- 9) Nakano K¹, Suga S², Kondo Y, Sato T¹, Sakuma Y (¹ Institute of Medical Technology, Hirosaki University, ² Department of Physiology I, Hirosaki University) : Estrogen-excitabile forebrain projections to the ventral premammillary nucleus of the female rat. *Neuroscience Letters* 1997 ; 225 (1) : 17-20.
- 10) Parhar I, Sakuma Y : Regulation of forebrain and midbrain GnRH neurons in juvenile teleosts. *Fish Physiology and Biochemistry* 1997 ; 17 : 81-84.
- 11) Suga S¹, Akaishi T², Sakuma Y (¹ Department of Psysiology I, Hirosaki University School of Medicine, ² Department of Psysiology II, Niigata University School of Medicine) : GnRH inhibits neuronal activity in the ventral tegmental area of the estrogen-primed ovariectomized rat. *Neuroscience Letters* 1997 ; 228 (1) : 13-16.
- 12) Weber G¹, Powell J², Park M³, Fischer W³, Craig A³, Rivier J³, Nanakorn U⁴, Parhar I, Ngamvongchon⁵, Grau E¹, Sherwood N² (¹ Department of Zoology and Hawaii Institute of Marine Biology, ² Department of Biology, University of Victoria, ³ Clayton Foundation for Peptide Biology, The Salk Institute , ⁴ National Aquaculture Genetics Research Institute, National I, ⁵ Inland Fisheries Division, Department of Fisheries) : Evidence that gonadotropin-releasing hormone (GnRH) functions as a prolactin-releasing factor in a teleost fish (*Oreochromis mossambicus*) and primary structures for three native GnRH molecules. *Journal of Endocrinology* 1997 ; 155 : 121-132.
- 13) Osaka M, Saitoh H¹, Yokoshima T¹, Kishida H¹, Hayakawa H¹, Cohen R² (¹ 第一内科, ² MIT) : Nonlinear pattern analysis of ventricular premature beats by mutual information. *Meth Inform Med* 1997 ; 36 : 257-260.
- 14) Yamamoto N¹, Parhar I, Sakuma Y, Ito H¹ (¹ Department of Anatomy) : Gonadotropin-releasing hormone (GnRH) innervation of the pituitary in a cichlid Fish, *Oreochromis Niloticus* : A brain lesion study. *Acta Anatomica Nipponica* 1998 ; 73 : 55-57.
- 15) Hasegawa S¹, Rodgers G¹, Dwyer N², Noguchi C¹, Blanchette-Mackie E², Uyesaka N, Schechter A¹, Fibach E³ (¹ Laboratory of Chemical Biology, NIDDK, National Institutes of Health, ² Laboratory of Cullular and Developmental Biology, NIDDK, National Institute of Health, ³ Department of Hematology, Hadassah University Hospital) : Sickling of nucleated erythroid precursors from patients with sickle cell anemia. *Experimental Hematology* 1998 ; 26 : 314-319.
- 16) Parhar I, Nagahama Y¹, Grau E², Ross R³ (¹ Laboratory of Reproductive Biology, National Institute for B, ² Department of Zoology and Hawaii Institute of Marine Biology, ³ United States Geological Survey, Research and Development Laboratory) : Immunocytochemical and ultrastructural identification of pituitary cell Types in the Protogynous *Thalassoma duperrey* during adult sexual ontogeny. *Zoological Science* 1998 ; 15 : 263-276.
- 17) Uechi M¹, Asai K¹, Osaka M, Smith A¹, Sato N¹, Wagner T¹, Ishikawa Y¹, Hayakawa H², Vatner DE¹, Shannon RP¹, Homcy CJ¹, Vatner SF¹ (¹ Allegheny University of the Health Science, ² 第一内科) : Depressed heart rate variability and arterial baroreflex in conscious transgenic mice with overexpression of cardiac Gsa. *Circ Res* 1998 ; 82 : 416-423.
- 18) 富原一哉¹, 近藤保彦 (¹ 筑波大学心理学系) : ラット・マウスにおける超音波コミュニケーションの研究技法と動向. *筑波大学心理学研究* 1997 ; 19 : 147-154.

19) 上坂伸宏, 長谷川節雄¹⁾, 比留間博之¹⁾ (¹⁾ 第三内科学) : ニッケルメッシュによる赤血球変形能測定法の臨床医学への応用. 血液レオロジー : 現在の問題点と臨床への応用 1997 ; 61-74.

(2) 綜説 :

- 1) 佐久間康夫 : シナプス可塑性の誘導機構 ホルモンとシナプス可塑性. クリニカルニューロサイエンス 1997 ; 15 (10) : 1140-1143.
- 2) 佐久間康夫 : 性ホルモンと脳. クリニカルニューロサイエンス 1997 ; 15 (11) : 1250-1253.
- 3) 加藤 章, 佐久間康夫 : 女性の性行動とホルモン. 内分泌・糖尿病科 1997 ; 5 (6) : 516-526.
- 4) 近藤保彦, 佐久間康夫 : ラットにおける雄性行動と勃起. アニテックス 1997 ; 9 (2) : 76-81.
- 5) 佐久間康夫 : エストロゲンと中枢神経系. 月刊現代医療 1997 ; 29 (10) : 2543-2549.
- 6) 佐久間康夫 : 愛し合うメカニズム—性欲の正体. アエラムック 1997 ; 28 : 76-79.
- 7) 上坂伸宏, 大西忠博¹⁾, 羽賀常道²⁾, 塩 栄夫³⁾ (¹⁾ NTT関東通信病院医科学研究所第三研究部, ²⁾ 司測研バイオメディカル部, ³⁾ 滋賀県立成人病センター健康管理局) : ニッケルメッシュフィルターを用いた新しい重力式赤血球変形能測定システム. 日本バイオレオロジー学会誌 1997 ; 11 (1) : 15-21.

著 書

- 1) Parhar I, Sakuma Y : [編集] GnRH Neurons : Gene to Behavior, 1997 ; pp1-486, Brain Shuppan, Tokyo.
- 2) Parhar I : [分担] GnRH in tilapia : Three genes, Three origins and their roles. GnRH Neurons : Gene to Behavior, 1997 ; pp99-122, Brain Shuppan, Tokyo.
- 3) Sakuma Y, Suga S¹⁾ (¹⁾ Hirosaki University) : [分担] GnRH and sexual behavior. GnRH Neurons : Gene to Behavior, 1997 ; pp389-400, Brain Shuppan, Tokyo.
- 4) Sakuma Y : [分担] Neural control of reproductive behavior : A bird's eye view. Neural Control of Reproduction : Physiology and Behavior, 1998 ; pp155-164, Japan Science Societies Press, Tokyo/Karger, Basel.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Oosaka M, Yambe T¹⁾, Saitoh H²⁾, Yoshizawa M³⁾, Atarashi H²⁾, Katoh T²⁾, Kishida H²⁾, Hayakawa H²⁾, Nitta S¹⁾ (¹⁾ 東北大学加齢研, ²⁾ 第一内科, ³⁾ 東北大学工学部) : Quantification of mutual dependence among heart rate, sympathetic activity and blood pressure in artificial heart implanted dogs. 22nd Annual Conference International Society for Computerized Electrocardiology (Florida), 1997. 4.
- 2) Kondo Y, Tomihara K¹⁾, Sakuma Y (¹⁾ Tukuba University) : Sensory inputs responsible to evoke noncontact erection of rats : Effects of anosmia, removal of the vomeronasal organ and olfactory bulbectomy. Society for Behavioral Neuroendocrinology 1997 (Baltimore), 1997. 5.
- 3) Kato A, Sakuma Y : Changes in the activity of preoptic neurons of female rats during sexual behavior. XXXIII International Congress of Physiological Sciences (St. Petersburg), 1997. 6.
- 4) Wada-Kiyama Y, Kiyama R¹⁾ (¹⁾ University of Tokyo) : An intrachromosomal repeating unit based on DNA bending. Gordon Research Conference (Massachusetts), 1997. 7.
- 5) Kiyama R¹⁾, Wada-Kiyama Y (¹⁾ University of Tokyo) : Periodicity and conservation of DNA bend sites in eukaryotic genomes. Gene Therapy and Molecular Biology International Conference (Crete), 1997. 8.
- 6) Kondo Y, Sudo T, Tomihara K¹⁾, Sakuma Y (¹⁾ Juntendo School) : Main and accessory olfactory inputs for the activation of the medial amygdala during male sexual behavior in the rat. 27th Annual Meeting,

- Society for Neuroscience (New Orleans), 1997. 10.
- 7) Orikasa C, Sakuma Y, McEwen B¹⁾, Hayashi S²⁾ (¹⁾ The Rockefeller University, ²⁾ Tokyo Metropol. Inst. Neurosci.) : ER mRNA expression in the hippocampus of the rat during development. 27th Annual Meeting, Society for Neuroscience (New Orleans), 1997. 10.
 - 8) Nanasaki Y, Kondo Y, Suzuki K¹⁾, Sakuma Y (¹⁾ 第2生理) : Androgen regulates the size of male rabbit bulbocavernosus motoneurons but not their electrophysiological property. 27th Annual Meeting, Society for Neuroscience (New Orleans), 1997. 10.
 - 9) Wada-Kiyama Y, Kiyama R¹⁾ (¹⁾ University of Tokyo) : Chromatin organization at the human beta-globin replication origin based on periodic bent DNA. 39th Annual Meeting and Expositon, The American Society of Hematology (San Diego), 1997. 12.
 - 10) Chiba H, Nakamura M, Nakamura M, Nakamura M, Nakamura M, Nakamura M, Iwata M, Sakuma Y, Yamauchi K, Parhar I : Developmental profiles of GnRH neurons and gonads in the Japanese eel (*Anguilla japonica*). XIII Intl Congr Comp Endocrinol (Yokohama), 1997.
 - 11) Soga T, Sakuma Y, Parhar I : Testosterone differentially regulates GnRH messenger RNA subtypes in tilapia. XIII Intl Congr Comp Endocrinol (Yokohama), 1997.
 - 12) Parhar I, Sakuma Y : Ontogeny and regulation of salmon-, seabream- and chickenII-GnRH neuronal systems in teleost. XIII Intl Congr Comp Endocrinol (Yokohama), 1997.
 - 13) 近藤保彦, 富原一哉¹⁾, 佐久間康夫 (¹⁾ 筑波大学心理学系) : 発情雌近傍で生じる雄ラットの非接触性勃起に寄与する感覚モダリティー. 第57回日本動物心理学会, 1997. 4.
 - 14) 大坂元久, 斉藤寛和¹⁾, 佐々部典子¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 伊藤高司²⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾, Leeman DE³⁾, Shubrooks SJ³⁾, Albrecht P³⁾, Cohen RJ³⁾ (¹⁾ 第一内科, ²⁾ 情報科学センター, ³⁾ MIT) : 体表面ラブラシア ン心電図による心筋虚血部位の検出: 経皮的冠動脈形成術施行中における検討. 第36回日本エム・イー学会大会, 1997. 4.
 - 15) 大西忠博¹⁾, 坂下可奈子¹⁾, 上坂伸宏 (¹⁾ NTT関東通信病院・医科学研究所第三研究部) : 細胞内シグナル伝達系による赤血球変形能の制御. 第20回日本バイオレオロジー学会, 1997. 6.
 - 16) 飯野正昭 : 高濃度ヘモグロビン水溶液におけるブラウン運動. 第20回日本バイオレオロジー学会, 1997. 6.
 - 17) 内山真紀, 加藤昌克, 折笠千登世, 佐久間康夫 : GnRHはラット下垂体濾胞細胞に作用し細胞内カルシウム濃度を変化させる. 第70回日本内分泌学会, 1997. 6.
 - 18) 大坂元久, 斉藤寛和¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾, Armoundas AA²⁾, Cohen RJ²⁾ (¹⁾ 第一内科, ²⁾ MIT) : 心臓性然死と心室期外収縮の概日リズムとの関連. 第17回ホルター心電図研究会, 1997. 6.
 - 19) 近藤保彦, 富原一哉¹⁾, 佐久間康夫 (¹⁾ 筑波大学心理学系) : ラットの非接触性勃起に寄与する発情雌刺激 : 嗅粘膜及び鋤鼻器官破壊の効果. 第20回日本神経科学大会, 1997. 7.
 - 20) 折笠千登世, 林しん治¹⁾, McEwen B²⁾, 佐久間康夫 (¹⁾ 東京都神経科学総合研究所・解剖発生, ²⁾ ロックフェラー大学・神経内分泌) : 発育期ラット海馬におけるエストロゲン受容体 (ER) mRNAの発現. 第20回日本神経科学大会, 1997. 7.
 - 21) 加藤 章, 佐久間康夫 : 生殖行動に伴う雌ラット視索前野ニューロン活動の変化. 第20回日本神経科学大会, 1997. 7.
 - 22) 石神英子, 近藤保彦, 加藤 章, 佐久間康夫 : 雌ラットの性行動制御における腹測被蓋野 (VTA) および腹側前乳頭体核 (PMv) の役割. 第20回日本神経科学大会, 1997. 7.
 - 23) 七崎之利, 近藤保彦, 鈴木健治¹⁾, 佐久間康夫 (¹⁾ 第2生理) : Morphological and electrophysiological changes in bulbocavernous motoneurons following orchidectomy in the rabbit. 第20回日本神経科学大会, 1997. 7.

- 24) 須藤隆彦, 近藤保彦, 富原一哉¹⁾, 佐久間康夫¹⁾ (筑波大学心理学系) : Copulation induced c-Fos expression in the medial amygdala of male rats which act main or accessory olfactory inputs. 第20回日本神経科学大会, 1997. 7.
- 25) 飯野正昭, 菅沼 (清水) 真澄¹⁾, 七戸和博¹⁾, 飯田和美¹⁾ (実験動物) : 強磁場中で観測した変性膜の水透過率. 第58回応用物理学学会学術講演会, 1997. 10.
- 26) 上坂伸宏, 比留間博之¹⁾, 長谷川節雄¹⁾, 大西忠博²⁾ (1) 第三内科, (2) NTT関東通信病院・医科学研究所第三研究部) : 赤血球変形能の病態生理学と臨床医学における重要性. 第45回レオロジー討論会, 1997. 10.
- 27) 三浦剛史, 近藤保彦, 秋元成太, 佐久間康夫 : ラットの性行動中における球海綿体筋および坐骨海綿体筋の活動. 第8回日本性機能学会, 1997. 10.
- 28) 清水秀一¹⁾, 緒方憲一¹⁾, 大坂元久, 小林義典¹⁾, 斎藤寛和¹⁾, 新 博次¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 早川弘一¹⁾, 伊藤高司²⁾ (1) 第一内科, (2) 情報科学センター) : 心房細動停止過程における細動波の空間的特性の変化 : 心房電位相互間相互情報量による検討. 第13回東京不整脈フォーラム, 1997. 11.
- 29) 大坂元久, 山家智之¹⁾, 斎藤寛和²⁾, 吉澤 誠³⁾, 新 博次²⁾, 伊藤高司⁴⁾, 加藤貴雄²⁾, 仁田新一¹⁾, 岸田 浩²⁾, 早川弘一²⁾ (1) 東北大学加齢研, (2) 第一内科, (3) 東北大学工学部, (4) 情報科学センター) : 循環器領域パラメーターの相互関係の定量化 : 非線形手法を用いて. 第3回行動循環器研究会, 1997. 11.
- 30) 木山裕子, 木山亮一¹⁾ (1) 東京大学・分生研, 通産省工技院・生命研) : ヒト β -グロビン遺伝子座ori領域における周期性bent DNA構造とクロマチン構造. 第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.
- 31) 鈴木清子, 木山裕子, 木山亮一¹⁾ (1) 東京大学・分生研, 通産省工技院・生命研) : ヒト β -グロビン遺伝子座における周期性bent DNA構造とその生物学的意義. 第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.
- 32) 桑原健太郎, 木山裕子, 佐久間康夫, 木山亮一¹⁾ (1) 東京大学・分生研, 通産省工技院・生命研) : ヒト・エストロゲン受容体遺伝子5' 上流域における周期性bent DNA構造のクロマチン構成上の意義. 第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.
- 33) 大坂元久 : 循環調節と病態 : 時間的不均一性の臨床的意義. 公開シンポジウム『ホメオスタシスの現在 (いま)』一文部省科学研究費・基盤研究 (企画調査) による, 1998. 2.
- 34) 田代 茂, 近藤保彦, 佐久間康夫 : 雌ラット生殖行動の誘発に必要な血中エストラジオールの濃度と暴露時間. 第75回日本生理学会大会, 1998. 3.
- 35) 上坂伸宏, 曾我美勝¹⁾, 加藤一夫²⁾, 恵良聖一³⁾, 中村浩二³⁾ (1) 岐阜大学, (2) 藤田保健衛生大学・衛生・病理, (3) 岐阜大学・医・2生理) : 磁化移動測定による正常及び異常ヘモグロビン赤血球 (RBC) 内水構造の研究. 第75回日本生理学会大会, 1998. 3.
- 36) 芦田 廣¹⁾, 大西忠博²⁾, 上坂伸宏 (1) 防衛医科大学・研究センター, (2) NTT関東通信病院・医科学研究所第三研究部) : 多薬剤耐性細胞における血清アルブミンの効果 : コンパートメントモデルによる解析. 第75回日本生理学会大会, 1998. 3.
- 37) 坂下可奈子¹⁾, 大西忠博¹⁾, 上坂伸宏 (1) NTT関東通信病院・医科学研究所第三研究部) : Endothelin1はメカニカル・ストレス下の赤血球変形能の低下を改善する. 第75回日本生理学会大会, 1998. 3.
- 38) 大西忠博¹⁾, 坂下可奈子¹⁾, 上坂伸宏 (1) NTT関東通信病院・医科学研究所第三研究部) : 赤血球変形能の制御における, calmodulin, protein kinase Aおよびprotein kinase Cの関与について. 第75回日本生理学会大会, 1998. 3.
- 39) 桑原健太郎, 鈴木清子, 木山裕子, 佐久間康夫 : ヒト・エストロゲン受容体遺伝子5' 上流域における周期性bent DNA構造のゲノム構築上の意義. 第75回日本生理学会大会, 1998. 3.
- 40) 近藤保彦, 中津山英子¹⁾, 佐久間康夫 (1) 筑波大学心理学系) : 情動刺激が惹起するラットの自発陰茎勃起. 第75回日本生理学会大会, 1998. 3.
- 41) 加藤昌克, 内山真紀, 佐久間康夫 : 視床下部ペプチドによるラット下垂体濾胞星状細胞の細胞内カルシウムの調節. 第75回日本生理学会大会, 1998. 3.

4. 生理学第二講座

研究概要

生理学第二教室が新しい体制になってから1年が経過した。この間、新しい研究の立ち上げに必要な研究室の整備、改造のために、努力した教室員と、お世話になった大学にまず感謝申し上げたい。当教室はストレス反応機構および摂食行動調節機構の解析を主たる研究テーマに掲げ、研究スタッフが質的にも量的にもより優れた研究成果をあげられる研究室作りを目指してスタートした。その後、新しいスタッフも加わり、当教室での新たな幾つかの研究成果をまとめることができ、現在、若手教室員を中心として論文作成が進行している。

基礎医学教室の任務が教育と研究であることは明白である。教室のスタッフの各々は本学に在籍してからの研究の足跡を真摯に、かつ厳しく自己評価し、大学に身を置くことが如何なる意味を持つのか、今後何を為すべきかを真剣に考えなければならない。スタッフは、研究者である以上、論文を発表することにより、研究者として“生きている”ことを常に証明し続けなければならない。これは他者から評価される立場にある研究者にとって重要な責務である。限りある研究費と研究設備を最大限有効に用いるための努力も必要である。

以下に記載された研究業績は純粹に当教室の研究成果でないものもある。来年度はさらに大きく前進できることを期待したい。

研究業績

論 文

(1) 原著：

- 1) Yamauchi N¹⁾, Shibasaki T, Wakabayashi I²⁾, Demura H¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Tokyo Women's Medical University, ²⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School) : Brain β -endorphin and other opioids are involved in restraint stress-induced stimulation of the hypothalamic-pituitary-adrenal axis, the sympathetic nervous system, and adrenal medulla in the rat. *Brain Res* 1997 ; 777 : 140-146.
- 2) Fujita Y, Saito M : Threshold of ventral root stimulation to produce the IP-spike with the M-spike is higher than that to produce the IS-spike without the M-spike in the same cat motoneuron. *J Nippon Med Sch* 1997 ; 64 : 314-322.
- 3) Fujita Y, Saito M, Kobayashi K : Extrasomatic spikes recorded from cat motoneurons. *J Nippon Med Sch* 1997 ; 64 : 323-328.
- 4) Fujita Y, Saito M : Reduction in amplitude of the ventral root elicited small spike by dorsal root stimulation in cat motoneurons. *J Nippon Med Sch* 1997 ; 64 : 337-343.
- 5) Sun X¹⁾, Harada Y, Miyata Y¹⁾ (¹⁾ Department Pharmacology, Nippon Medical School) : Inhibition of spinal monosynaptic reflex in newborn rats by aurointricarboxylic acid (ATA). *Neurosci Res* 1997 ; 27 : 371-376.
- 6) Tamura H¹⁾, Sugihara H¹⁾, Minami S¹⁾, Emoto N¹⁾, Shibasaki T, Shuto Y¹⁾, Shimizu K³⁾, Gomi Y³⁾, Sasano H²⁾, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Pathology, Tohoku University, School of Medicine, ³⁾ Department of Surgery, Nippon Medical School) : Cushing's syndrome due to bilateral adrenocortical adenomas with different pathological features. *Int Med* 1997 ; 36 : 804-809.
- 7) Tumori C¹⁾, Shibasaki T, Hotta M¹⁾, Takeuchi K²⁾, Yamauchi N¹⁾, Imaki T¹⁾, Wakabayashi I²⁾, Demura H¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Tokyo Women's Medical University, ²⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School) : Interleukin-1 β administered intracerebroventricularly stimulates the release of

- noradrenaline in the hypothalamic paraventricular nucleus via prostaglandin in the rat. *Endocrine J* 1998; 45: 127-130.
- 8) 大畠久幸, 丸 栄一: キンドリングラットの発作波誘発における海馬苔状線維発芽の役割. *日医大誌* 1997; 64 (2): 58-66.
- (2) 総説:
- 1) 芝崎 保: 摂食行動とホルモン. *内分泌・糖尿病科* 1997; 5: 553-559.
 - 2) 芝崎 保, 若林一二¹⁾ (1) 日本医科大学内科学第3教室): 肥満とやせの診断. *Hormone Frontier Gynecology* 1997; 4: 145-150.
 - 3) 堀田真理¹⁾, 芝崎 保, 出村 博¹⁾ (1) 東京女子医科大学第2内科学): 視床下部一下垂体系の機能検査. *Clinical Neuroscience* 1997; 15: 81-85.
 - 4) 堀田真理¹⁾, 出村 博¹⁾, 芝崎 保 (1) 東京女子医科大学第2内科学): 神経性食欲不振症の栄養療法. 栄養—評価と治療 1997; 14: 103-110.
 - 5) 堀田真理¹⁾, 芝崎 保, 出村 博¹⁾ (1) 東京女子医科大学第2内科学): 神経性食欲不振症の治療. *JJPEN* 1997; 19: 777-783.
 - 6) 丸 栄一: シナプスの可塑的機構—キンドリング—. *Clinical Neuroscience* 1997; 15 (10): 127-144.
 - 7) 堀田真理¹⁾, 芝崎 保, 出村 博¹⁾ (1) 東京女子医科大学第2内科学): 中枢性摂食異常症. *心療内科* 1998; 2: 47-55.
 - 8) 芝崎 保: 摂食の調節と摂食調節因子. *脳の科学* 1998; 20: 11-18.
 - 9) 芝崎 保: メニノコルチン受容体. *現代医療* 1998; 30: 166-169.
 - 10) 新井桂子, 芝崎 保: Liddle症候群とナトリウムチャンネル. *Molecular Medicine* 1998; 35 (1): 62-68.
 - 11) 新井桂子, 芝崎 保: GLP-1と食欲. *内分泌・糖尿病科* 1998; 6 (1): 78-83.
 - 12) 新井桂子, 成瀬光栄¹⁾, 出村 博¹⁾ (1) 東京女子医科大学第2内科学): Liddle症候群と病因遺伝子. *Annual Review 内分泌, 代謝* 1998; 78-81.
- (3) 研究報告書:
- 1) 芝崎 保, 若林一二²⁾, 堀田真理¹⁾, 出村 博¹⁾ (1) 東京女子医科大学第2内科学, ²⁾ 日本医科大学内科学第3教室): 神経性食欲不振症における骨粗鬆症. 厚生省特定疾患 内分泌系疾患調査研究班中枢摂食異常症 平成8年度研究報告書 1997; pp32-42.
 - 2) 丸 栄一, 大畠久幸, 大津 洋¹⁾, 張 天祥²⁾, 飯島敏夫³⁾ (1) 新潟大学脳研究所分子神経生物学, ²⁾ 日本医科大学薬理学教室, ³⁾ 通産省工業技術院電子技術総合研究所超分子生体機能研究室): 難治てんかんモデルにおける海馬神経回路の異常: 電気生理学および光学計測的研究. 平成9年度厚生省精神神経疾患研究委託費研究報告書「難治てんかんの難治化要因と予後と対策に関する研究」 1997; pp39-46.

著 書

- 1) 芝崎 保, 若林一二¹⁾ (1) 日本医科大学内科学第3教室): [分担] 神経ペプチドY (NPY). 情動とホルモン (伊藤真次, 熊谷 朗, 出村 博編), 1997; pp201-221, 中山書店.
- 2) 西山 誠¹⁾, 丸 栄一 (1) 鳥取大学医学部脳神経外科学教室): [分担] 海馬の生理・生化学. 難治性てんかんの治療 (堀智勝編), 1997; pp127-144, 創風社.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Arai K, Naruse M¹⁾, Zachman K²⁾, Demura H¹⁾, Chrousos GP²⁾ (1) Department of Medicine, Tokyo

- Women's Medical University, ²⁾ Developmental Endocrinology Branch, NICHD, NIH) : Novel abnormalities in the amiloride-sensitive sodium channel in five sporadic cases with pseudohypoadosteronism. 79th Annual Meeting of the Endocrine Society (Minneapolis), 1997. 6.
- 2) Shibasaki T, Yamauchi N¹⁾, Takeuchi K¹⁾, Ishii S¹⁾, Sugihara H¹⁾, Minami S¹⁾, Wakabayashi I¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School) : Effects of fasting, stress, corticotropin-releasing factor or somatostatin on growth hormone-releasing peptide KP-102-induced food intake in rats. 79th Annual Meeting of The Endocrine Society (Minneapolis), 1997.
- 3) Nanasaki Y¹⁾, Kondo Y¹⁾, Suzuki K, Sakuma Y¹⁾ (¹⁾ Department of Physiology1, Nippon Medical School) : Androgen regulates the size of male rabbit bulbocavernosus motoneurons but not their electrophysiological property. 27th Society for Neuroscience (New Orleans), 1997.
- 4) Nanasaki Y¹⁾, Kondo Y¹⁾, Suzuki K, Sakuma Y¹⁾ (¹⁾ Department of Physiology1, Nippon Medical School) : Morphological and electrophysiological changes in bulbocavernosus motoneurons following orchidectomy in rabbit. 20th Neuroscience Research, 1997.
- 5) 新井桂子, 成瀬光栄¹⁾, 出村 博¹⁾ (¹⁾ 東京女子医科大学第2内科) : 偽性低アルドステロン症におけるアミロロイド感受性ナトリウムチャンネルの遺伝子解析. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 6) 原田嘉夫 : 新生ラットにおけるノシセプチンの脊髄反射への効果. 第20回日本神経科学大会, 1997. 7.
- 7) 杉浦弘子¹⁾, 丸 栄一, 山形要人¹⁾ (¹⁾ 東京都神経科学総合研究所分子神経生物学) : シナプス活動によって発現調節される新しい細胞接着因子Arcadlin. 第70回日本生化学学会大会, 1997. 9.
- 8) 竹内香織¹⁾, 芝崎 保, 山内直子¹⁾, 石井新哉¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 南 史朗¹⁾, 若林一二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学第3教室) : ラットにおける成長ホルモン放出ペプチドKP-102の摂食促進作用に関する検討. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997.
- 9) 杉原 仁¹⁾, 南 史朗¹⁾, 石井真哉¹⁾, 小野瀬裕之¹⁾, 江本直也¹⁾, 芝崎 保, 若林一二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学第3教室) : 成長ホルモン (GH), GH分泌促進因子 (GRF), インスリン様成長因子 (IGF-1) のリンパ球c-fos遺伝子発現に与える影響. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997.
- 10) 南 史朗¹⁾, 鈴木信周¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 田村秀樹¹⁾, 江本直也¹⁾, 芝崎 保, 若林一二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学第3教室) : 視床下部を介する成長ホルモン自己分泌調節機構の検討 (II). 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997.
- 11) 大畠久幸, 鈴木健治, 芝崎 保 : Urocortinの摂食抑制作用発現部位の検討. 第24回日本神経内分泌学会, 1997.
- 12) 鈴木健治, 大畠久幸, 山内直子¹⁾, 若林一二¹⁾, 芝崎 保 (¹⁾ 日本医科大学内科学第3教室) : ラット成長ホルモン放出ペプチドの中樞性摂食促進作用発現部位の解析. 第24回日本神経内分泌学会, 1997.
- 13) 牧野晋也¹⁾, 芝崎 保, 山内直子²⁾, 西山 充¹⁾, 浅羽宏一¹⁾, 若林一二²⁾, 橋本浩三¹⁾ (¹⁾ 高知医科大学第2内科, ²⁾ 日本医科大学内科学第3教室) : 心理ストレスにおける室傍核及び扁桃体中心核のCRHmRNAの変化. 第24回日本神経内分泌学会, 1997.
- 14) 嶋田将之¹⁾, 丸 栄一, 鈴木英弘¹⁾ (¹⁾ 東京女子医科大学麻酔科学教室) : プロポフォールによるGABA性抑制の増強時間と麻酔時間は一致しない : ラットの慢性電場電位記録法を用いた研究. 第44回日本麻酔学会総会, 1997.
- 15) 石井新哉¹⁾, 芝崎 保, 村上 尚²⁾, 小野瀬裕之¹⁾, 長谷川修¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 南 史朗¹⁾, 島 健二²⁾, 若林一二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学第3教室, ²⁾ 徳島大学医学部臨床検査医学) : ラットレプチン受容体遺伝子発現部位に関する検討. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997.
- 16) 嶋田将之¹⁾, 丸 栄一, 池田みさ子¹⁾, 金子敏代¹⁾, 鈴木英弘¹⁾ (¹⁾ 東京女子医科大学麻酔科学教室) : 海馬GABA抑制からみたプロポフォールの蓄積効果. 第19回日本麻酔・薬理学会総会, 1997.
- 17) 鈴木健治, 大畠久幸, 芝崎 保 : 成長ホルモン放出ペプチドの中樞性摂食促進作用. 第75回日本生理学会, 1998. 3.

5. 生化学第一講座

研究概要

本教室では生理的および病理的に重要な生体内の現象を分子レベルで解明するため、それに関わる蛋白質分子の構造と機能の解明に焦点を合わせ分子生物学的手法、分光光学をふくむ物理化学的手法、たんぱく質化学、反応速度論など様々な手法を用いて総合的に研究している。特に、NOやスーパーオキシドなど近年情報伝達や病態などに広くかかわっている分子の生成と制御機構を中心として、蛋白質相互作用、翻訳後修飾、先天性代謝異常の原因など幅広い問題に興味を持って取り組んでいる。

1. スーパーオキシドや一酸化窒素などの低分子ラジカルの生成と制御の機構—低分子ラジカルは老化、細胞死、神経伝達、免疫、血液循環など様々な生命現象に関与し、数々の疾患の原因ともなっている。低分子ラジカル化合物を生成、消去するタンパク質群に焦点を絞り、その構造と機能の相関、調節機構、生理的・病理的意義について包括的な研究を行っている。

1) スーパーオキシドを生成するキサンチン酸化酵素（脱水素酵素）については分光学的解析や反応速度論的解析を継続的に展開しており、今年度は昨年に引き続きバキュロウイルス／昆虫細胞系を用いた発現系を用いた種々の変異酵素を作成し、その解析により、a) 脱水素酵素から酸化酵素型への変換機構、b) 補欠分子族である非ヘム鉄を欠損した酵素作成による補欠分子族のEPRシグナルの同定、性質分析、役割解析をすすめた。また、c) 文部省国際共同研究としてX線結晶解析による三次元構造の解析の研究をすすめている。

2) 一酸化窒素合成酵素については、一酸化窒素合成酵素の活性制御物質の検討を行った。また、一酸化窒素合成酵素自身については、cDNA発現系によって得たマウス小脳の天然の変異酵素や野性型酵素の分光学的検討、分子的性質の検討を行ってきた。

2. これら直接的にラジカル化合物を生成、消去する酵素群に加え、これらと相関するタンパク質についての解析も行っている。細胞内酸化的ストレス抵抗性タンパク質であろうと予想されるHBP23に関して、その性質、誘導機構について分析し、大量発現系の構築を行い、その性質の検討をおこなった。また、メルカプトピルビン酸イオウ転移酵素につき、変異酵素の作成とその解析により、活性中心のアミノ酸の役割と反応機構の解明を行うと同時にその局在の検討を行った。さらに、各種酸化還元酵素やその他の蛋白質につき他大学・研究機関との共同研究も行ってきた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hori H, Iwasaki T, Kurahashi Y, Nishino T : Calcium Dependent Inactivation of Neuronal Nitric Oxide Synthase : Evidence for the Existence of Stabilization / Activation Factor. *Biochem Biophys Res Commun* 1997 ; 234 : 476-480.
- 2) Okamoto K, Iwasaki T, Nishino T¹⁾, Hori H, Mizushima J, Nishino T (¹⁾ Biochemistry, Yokohama City University) : Properties of xanthine dehydrogenase that lacks iron-sulfur cluster. *J Inorganic Biochemistry* 1997 ; 67 : 102.
- 3) Iwasaki T, Hori H, Hayashi Y, Nishino T : Heme-binding domain and the threonine mutants of mouse neuronal nitric oxide synthase. *J Inorganic Biochemistry* 1997 ; 67 : 103.
- 4) Hori H, Iwasaki T, Kurahashi Y, Hayashi Y, Umeda M¹⁾, Nishino T (¹⁾ TORINKEN) : Effect of Phospholipids on Calcium-Dependent Inactivation of Neuronal Nitric Oxide Synthase. *Jpn J Pharmacol*

1997 ; 75 : 26.

- 5) Hori H, Yamazaki N, Matsumoto T, Ueda T, Nishikawa K, Kumagai I, Watanabe K : Essentially minimal sequence for substrate recognition by tRNA (guanosine-2'-)-methyltransferase from *Thermus thermophilus* HB27. *Nucleic Acids Res Symp Ser* 1997 ; 37 : 189-190.
- 6) Miyoshi H¹⁾, Ito K¹⁾, Sakai N¹⁾, Mizushima J, Okamoto K, Hori H, Nishino T, Wakiyama M¹⁾, Miura K¹⁾ (¹⁾ Gakuyuin University) : Expression of *Xenopus laevis* translation initiation factor 4E (eIF-4E) by baculovirus-insect cell system. *Nucleic Acids Res Symp Ser* 1997 ; 37 : 191-192.
- 7) Nishino T, Nishino T, Okamoto K, Nakanishi S, Hori H, Iwasaki T, Ichimori Y¹⁾, Nakazawa H¹⁾ (¹⁾ Tokai University) : Conversion of xanthine dehydrogenase to oxidase and role of reperfusion injury. *Biochem Soc Trans* 1997 ; 25 : 783-786.
- 8) Otsubo Y¹⁾, Hori H, Sawa R¹⁾, Susumi S¹⁾, Nishino T, Araki T¹⁾ (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology : Activity and isoform of nitric oxide synthase families in human placenta. *J Jpn Soc Womens Nutr Metab* 1997 ; 3 : 16-18.
- 9) Ichida K, Amaya Y, Kamatani N, Nishino T, Hosoya T, Hosoya T : Identification of two mutations in human xanthine dehydrogenase gene responsible for classical type I xanthinuria. *J Clin Invest* 1997 ; 99 : 2391-2397.
- 10) Nishino T¹⁾, Nishino T (¹⁾ Yokohama City University) : Conversion of the dehydrogenase type to the oxidase type of rat liver xanthine dehydrogenase by modification of cysteine residues with fluorodinitrobenzene. *J Biol Chem* 1997 ; 272 : 29859-29864.

著 書

- 1) Nishino T, Okamoto K, Nakanishi S, Hori H, Nishino T : [共著] The mechanism of conversion of xanthine dehydrogenase to xanthine oxidase. *Oxygen homeostasis and its dynamics*, 1997 ; pp333-339, Springer-Verlag.
- 2) Hori H, Iwasaki T, Kurahashi Y, Hayashi Y, Umeda M¹⁾, Nishino T (¹⁾ TORIKEN) : [共著] Effect of phospholipids on calcium-dependent inactivation of neuronal nitric oxide synthase. *Effect of phospholipids on calcium-dependent inactivation of neuronal nitric oxide synthase*, 1997 ; Portland Press, UK.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) 堀 弘幸, 岩崎俊雄, 倉橋容子, 林 陽子, 松村智裕, 梅田真郷¹⁾, 西野武士 (¹⁾ 都臨床研, 炎症) : 生理活性物質NOとその生体内における合成制御 : NO合成酵素はいかにして調節されているか? . 日本生物工学会平成9年度大会, 1997. 9.

(2) シンポジウム :

- 1) 西野武士, 岡本 研, 中西茂子, 水島純子, 西野朋子¹⁾, 堀 弘幸, 岩崎俊雄, 松村智裕, 林 陽子, 倉橋容子 (¹⁾ 横浜市大, 生化一) : 金属フラビン酵素の反応機構と調節. 第70回日本生化学会, 1997. 9.
- 2) 堀 弘幸 : NO synthaseの構造と機能. 第4回東京酸素フォーラム (日本ME学会専門別研究会血管内皮と微小循環, 合同開催), 1998. 3.

(3) 一般講演 :

- 1) Iwasaki T, Hori H, Hayashi Y, Nishino T : Heme-binding domain and the threonine mutants of mouse neuronal nitric oxide synthase. 8th International Conference on Bioinorganic Chemistry (Yokohama), 1997. 7.

- 2) Hori H, Nishino T, Kurahashi Y, Hayashi Y, Nishino T ⁽¹⁾ 都臨床研・炎症) : Effect of phospholipids on calcium-dependent inactivation of neuronal nitric oxide synthase. 5th International Meeting on Biology of Nitric Oxide, 1997. 7.
- 3) Hori H, Yamazaki N¹⁾, Matsumoto T¹⁾, Ueda T¹⁾, Nishikawa K²⁾, Kumagai I¹⁾, Watanabe K¹⁾ ⁽¹⁾ Tokyo Institute Technology, ²⁾ Univ. of Tokyo) : Substrate Specificity of tRNA- (guanosine-2'-) -methyltransferase from *Thermus thermophilus* HB27. Nucleic Acids Symposium (Tokyo), 1997. 11.
- 4) Miyoshi H¹⁾, Watanabe K¹⁾, Sakai N¹⁾, Mizushima J, Okamoto K, Hori H, Nishino T, Wakiyama M¹⁾, Miura K¹⁾ ⁽¹⁾ Gakuyuin Univ) : Expression of *Xenopus laevis* translation initiation factor 4E (eIF-4E) by baculovirus-insect cell system. Nucleic Acids Symposium (Tokyo), 1997. 11.
- 5) Nishino T, Okamoto K, Iwasaki T, Nishino T ⁽¹⁾ Biochemistry, Yokohama City University) : Role of iron-sulfur centers in catalysis of xanthine dehydrogenase. 生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学 第2回ワークショップ, 1997. 12.
- 6) 大坪保雄¹⁾, 堀 弘幸, 品川寿弥¹⁾, 沢倫太郎¹⁾, 進 純郎¹⁾, 西野武士, 荒木 勤¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医大・産婦人科) : 妊娠中毒症胎盤における一酸化窒素合成酵素活性の検討. 第49回日本産科婦人科学会学術講演会, 1997. 4.
- 7) 岩崎俊雄, 堀 弘幸, 林 陽子, 西野武士 : 神経型NO合成酵素とその変異酵素の大腸菌における発現. 第70回日本生化学会, 1997. 9.
- 8) 堀 弘幸, 岩崎俊雄, 倉橋容子, 林 陽子, 松村智裕, 梅田真郷¹⁾, 西野武士 ⁽¹⁾ 1都臨床研, 炎症) : 神経型NO合成酵素のカルシウム依存的不活性化とリン脂質の相関. 第70回日本生化学会, 1997. 9.
- 9) 阿部靖子, 岩原信一郎, 堀 弘幸, 西野武士 : 抗酸化作用を有するラットヘム結合蛋白質 (HBP23). 第70回日本生化学会, 1997. 9.
- 10) 三好 洋¹⁾, 伊東孝祐¹⁾, 水島純子, 岡本 研, 堀 弘幸, 西野武士, 脇山素明¹⁾, 三浦謙一郎¹⁾ ⁽¹⁾ バキュロウイルス・システムによる *Xenopus* 翻訳開始因子 eIF-4E の媒 j : バキュロウイルス・システムによる *Xenopus* 翻訳開始因子 eIF-4E の発現. 第70回日本生化学会, 1997. 9.
- 11) 尾高雅文¹⁾, 養王田正文¹⁾, 星野幹雄²⁾, 大河内丈彰¹⁾, 吉田尊雄¹⁾, 西野武士, 堀 弘幸, 岩崎俊雄, 遠藤 勲¹⁾ ⁽¹⁾ 理研, 生化学システム, ²⁾ 理研, 反応物理) : *Rhodococcus* sp. N-771 における NO 合成系. 第70回日本生化学会, 1997. 9.
- 12) 岡本 研, 西野朋子¹⁾, 岩崎俊雄, 堀 弘幸, 水島純子, 西野武士 ⁽¹⁾ 横浜市大, 医, 一生化) : ラットキサンチン脱水素酵素の2個の非ヘム鉄の同定. 第70回日本生化学会, 1997. 9.
- 13) 中西茂子, 岡本 研, 堀 弘幸, 水島純子, 西野武士 : キサンチン脱水素酵素-酸化酵素変換に関わるドメインのキメラ酵素による解析. 第70回日本生化学会, 1997. 9.
- 14) 永原則之, 伊藤隆明¹⁾, 北村 均¹⁾, 西野武士 ⁽¹⁾ 横浜市大, 一病理) : Mercaptopyruvate sulfertransferase のラット組織および細胞における局在. 第70回日本生化学会, 1997. 9.
- 15) 岡本 研, 岩崎俊雄, 西野朋子¹⁾, 堀 弘幸, 水島純子, 西野武士 ⁽¹⁾ 横浜市大, 医, 一生化) : ラットキサンチン脱水素酵素の2個の非ヘム鉄の同定. 生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学 第2回ワークショップ, 1997. 12.
- 16) 堀 弘幸, 岩崎俊雄, 倉橋容子, 林 陽子, 梅田真郷¹⁾, 西野武士 ⁽¹⁾ 都臨床研, 炎症) : リン脂質存在下におけるマウス小脳一酸化窒素合成酵素の活性変化. 生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学 第2回ワークショップ, 1997. 12.
- 17) 阿部靖子, 岩原信一郎, 堀 弘幸, 西野武士 : 抗酸化作用を有するラットヘム結合蛋白質 (HBP23). 生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学 第2回ワークショップ, 1997. 12.

6. 生化学第二講座

研究概要

1) 分子生物部門：DNAの修復機構の解析，修復異常と疾患の関係を調べている。ゲルシフトアッセイとウエスタンblotを組み合わせ，ミスマッチ修復酵素複合体がミスマッチを持つDNAに特異的に結合することを明らかにした。大腸癌の患者のDNA解析の結果，ミスマッチ修復酵素であるMSH3 (MutS homolog 3) 蛋白の遺伝子変異と，TGF- β IIレセプターやE2F4遺伝子内の繰り返し配列の変異が相関している例を発見した。ゲノムの不安定性により癌化に関与する遺伝子変異が誘導されたものと考えられる。

2) 臨床遺伝部門：付属病院での遺伝外来の開設にともない，遺伝病や癌の遺伝子検査を行っている。遺伝子診断技術の改良を進めるとともに，内外から依頼された，低フォスファターゼ症，先天性副腎過形成，ゴーシェ病の遺伝子診断を行った。毎週火曜日の朝，医師，看護婦，学生による臨床遺伝カンファレンスを開催している。

3) 遺伝子治療部門：遺伝子導入技術の開発を行っている。マーカー遺伝子を利用して遺伝子導入細胞を選択する方法を確立した。免疫原性の低い羊膜細胞をキャリアーとして使う新しい遺伝子治療法を開発した。高力価のHIVベクターにより，ほぼ100%のヒトリンパ球に遺伝子導入が可能であることを示した。アデノウイルスベクターとレトロウイルスベクターの二重感染法により特定の細胞種に遺伝子を導入できる方法を確立した。アデノ随伴ウイルス(AAV)の染色体への組み込み機構を利用して，外来遺伝子を特定の染色体の部位に組み込む方法の開発を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hayashi Z, Orimo H, Araki T¹⁾, Shimada T (1) Department of Obstetrics & Gynecology) : Prenatal diagnosis of steroid 21-hydroxylase deficiency by analysis of polymerase chain reaction-single strand conformation polymorphism (PCR-SSCP) profiles. *Prenat Diagn* 1997 ; 17 (5) : 435-442.
- 2) Orimo H, Goseki-Sone M¹⁾, Sato S²⁾, Shimada T (1) Department of Biochemistry, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical & Dental University, 2) Department of Pediatrics, Keio University School of Medicine) : Detection of deletion 1154-1156 hypophosphatasia mutation using TNSALP exon amplification. *Genomics* 1997 ; 42 : 364-366.
- 3) Miyauchi M, Hisayasu S, Shimada T : Influenza Fusogenic Peptide in DNA Complex Enhances Asialoglycoprotein Receptor-Mediated Gene Transfer to Hepatoma Cells : A Strategy for Liver-Targeting Gene Therapy. *J Clin Biochem Nutr* 1997 ; 23 : 85-93.
- 4) Abe T¹⁾, Ito M¹⁾, Okamoto Y¹⁾, Kim J H¹⁾, Takaue Y¹⁾, Yasumoto K¹⁾, Mokimoto A¹⁾, Yamaue T¹⁾, Kawano Y¹⁾, Watanabe T¹⁾, Shimada T, Kuroda Y¹⁾ (1) Dep. of Pediatrics, University of Tokushima) : Transduction of retroviral-mediated neoR gene into CD34+cells purified from granulocyte colony-stimulating factor (G-CSF) mobilized infant and cord blood. *Exp Hematol* 1997 ; 25 : 966-971.
- 5) Yasukawa M¹⁾, Inoue Y¹⁾, Ohminami H¹⁾, Sada E²⁾, Miyake K, Tohyama T, Shimada T, Fujita S¹⁾ (1) First Dep. of Internal Medicine, Ehime University School of Medicine, 2) Dep. of Medical Technology, Ehime Medical College of Health Science) : Human herpesvirus 7 infection of lymphoid and myeloid cell lines transduced with an adenovirus vector containing the CD4 gene. *J Virol* 1997 ; 71 : 1708-1712.
- 6) Goseki-Sone M¹⁾, Orimo H, Iimura T¹⁾, Takagi Y²⁾, Watanabe H³⁾, Taketa K⁴⁾, Sato S⁵⁾, Miyanagi H⁶⁾, Shimada T, Oida S¹⁾ (1) Department of Biochemistry, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical & Dental

University, ²) Department of Pedodontics, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical & Dental University, ³) Department of Periodontology, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical & Dental University, ⁴) Department of Public Health, Okayama University Medical School, ⁵) Department of Pediatrics, Keio University School of Medicine, ⁶) Department of Pedodontics, Faculty of Dentistry, Tohoku University) : Hypophosphatasia : Identification of five novel missense mutations (G507A, G705A, A748G, T1155C, G1320A) in the tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene among Japanese patients. Hum Mutat 1998 ; Supplement 1 : S263-S267.

- 7) Ikeda M¹⁾, Orimo H, Moriyama H¹⁾, Nakajima E, Matsubara N¹⁾, Mibu R²⁾, Tanaka N¹⁾, Shimada T, Kimura A³⁾, Shimizu K⁴⁾ (1) First Department of Surgery, Okayama University Medical School, 2) First Department of Surgery, Faculty of Medicine, Kyushu University, 3) Department of Tissue Physiology, Division of Adult Diseases, Medical Research Institute, Tokyo Medical & Dental University, 4) Department of Molecular Genetics, Okayama University Medical School) : Close correlation between mutations of *E2F4* and *hMSH3* genes in colorectal cancers with microsatellite instability. Cancer Res 1998 ; 58 : 594-598.
- 8) Matsuoka H, Miyake K, Shimada T : Improved methods for HIV vector mediated gene transfer. Int J Hematol 1998 ; 67 : 267-273.
- 9) Miyake K, Suzuki N, Matsuoka H, Tohyama T, Shimada T : Stable integration of HIV-based retroviral vectors into the chromosomes of non-dividing cells. Hum Gene Ther 1998 ; 9 : 467-475.

(2) 総説 :

- 1) Shimada T, Miyake K : HIV vector mediated gene transfer into CD4 positive cells. Animal Cell Technology : Basic & Applied Aspects. (Nagai K and Wachi M, eds.). Kluwer Academic Publishers 1998 ; 313-317.
- 2) 島田 隆 : AAV (adeno-associated virus) ベクターを用いる遺伝子導入法の開発と応用. 日本臨牀 1997 ; 55 (8) : 274-277.
- 3) 三宅弘一, 島田 隆 : 非分裂細胞を標的とする新規レトロウイルスベクターの開発 (特集 : 遺伝子治療, 基礎と臨床). 現代医療 1997 ; 29 (8) : 1869-1874.
- 4) 三宅弘一, 島田 隆 : レンチウイルスベクターの開発の意義と可能性. ウイルス 1997 ; 47 (2) : 213-219.
- 5) 島田 隆 : ウイルスの性質と遺伝子ベクターとしての利点3 アデノ随伴ウイルス. 治療学 1997 ; 31 (4) : 47-50.
- 6) 島田 隆 : 遺伝子治療の現況. 骨・関節・靭帯 1997 ; 10 (6) : 665-672.
- 7) 島田 隆 : 癌遺伝子治療研究の課題. 血液・免疫・腫瘍BIC Forum 1997 ; 2 (3) : 27-30.
- 8) 右田 真 : マーカー遺伝子としてのCD24遺伝子の特徴と応用. 現代医療 1997 ; 29 (8) : 55-58.
- 9) 島田 隆 : 遺伝子治療の現状. 臨床外科 1997 ; 52 (7) : 927-930.
- 10) 池島三与子, 島田 隆 : ミスマッチ修復蛋白質. 癌と化学療法 1997 ; 24 : 1392-1400.
- 11) 島田 隆 : 遺伝子治療 現状と課題. HIV/AIDS研究はいま 基礎研究の現場から 1997 ; 170-177.
- 12) 松倉則夫¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 長谷川博一¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 星野有哉, 五十嵐健人, 鈴木 聡, 島田 隆 (1) 日本医大・第一外科) : 胃癌転移に対する遺伝子治療の可能性. 癌と化学療法 1997 ; 24 : 1778-1780.

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 島田 隆 : 遺伝子治療・最近の進歩. 第520回日本泌尿器科学会東京地方会, 1997. 7.

(2) シンポジウム：

- 1) Suzuki S, Shimada T : Development of a Retroviral Vector Capable of Targeted Gene Transfer into HIV-Infected Cells. 10th Symposium on Molecular Biology of Hematopoiesis, 1997. 7.
- 2) Ikejima M, Nakajima E, Orimo H, Shimada T : Role of hMSH3 in DNA mismatch repair. 第1回3R (Replication, Recombination and Repair) シンポジウム, 1997. 10.
- 3) 寺島保典¹⁾, 鈴木 聡, 島田 隆 (¹⁾ 日本医大・泌尿器科) : 膀胱癌に対する実験的遺伝子治療. 第85回日本泌尿器科学会総会, 1997. 4.
- 4) 右田 真 : 造血幹細胞への遺伝子導入. 第39回日本小児血液学会, 1997. 9.
- 5) 池島三与子, 中島英逸, 折茂英生, 島田 隆 : ミスマッチ修復における hMSH3 の役割. 1st 3R (Replication, Recombination and Repair) Symposium, 1997. 10.
- 6) 島田 隆 : 遺伝子治療の現状と展望. 第48回日本炎症学会, 1997. 11.

(3) ワークショップ：

- 1) 鈴木 聡 : 標的遺伝子導入技術の開発. 第4回遺伝子治療研究会ワークショップ, 1997. 11.
- 2) 折茂英生, 池島三与子, 島田 隆 : 孤発性大腸癌における hMSH3 遺伝子の変異解析. Workshop on DNA Repair and Mutagenesis '98, 1998. 2.

(4) 一般講演：

- 1) Nakajima E, Ikejima M, Orimo H, Shimada T : Identification of the mismatch recognition complex, hMutSb, composed of hMSH2 and hMSH3 in human cells. 17th International Congress of Biochemistry and Molecular Biology (San Francisco), 1997. 8.
- 2) Shimada T, Miyake K, Suzuki S : Targeted vectors for AIDS gene therapy. Annual Meeting of the American Society for Biochemistry and Molecular Biology, 1997. 8.
- 3) Miyake K, Suzuki N, Shimada T : Targeted and efficient gene transfer into human primary T lymphocytes and terminal differentiated macrophages by high-titer recombinant HIV vectors. The 39th Annual Meeting of American Society of Hematology, 1997. 12.
- 4) Suzuki S, Shimada T : Development of a Retroviral Vector Capable of Targeted Gene Transfer into HIV-Infected Cells. Keystone Symposia : Molecular and Cellular Biology of Gene Therapy, 1998. 1.
- 5) Igarashi T, Suzuki S, Shimada T : A novel strategy for cell targeting by two step gene transfer. Keystone Symposia : Molecular and Cellular Biology of Gene Therapy, 1998. 1.
- 6) Migita M, Takahashi K, Shimada T : A Direct Comparison of The Effects on Bone Marrow Stromal Cells and Fibronectin Fragments on Retroviral Vector Mediated Gene Transfer into Hematopoietic Progenitors. Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology, 1998. 1.
- 7) Miyake K, Matsuoka H, Suzuki N, Shimada T : Stable integration of HIV vectors into the chromosomes of dividing and non-dividing cells. The 3rd Annual Meeting of Japanese Society of Gene Therapy Tokyo, 1997.5.
- 8) Suzuki S, Akasaka S¹⁾, Shimizu H¹⁾, Igarashi T, Akimoto M¹⁾, Shimada T (¹⁾ 日本医大・泌尿器科) : Preferential Gene Transfer and Efficient Suicide Gene Therapy of Rat Bladder Cancer by Simple Instillation of Adenoviral Vectors. The 3rd Annual Meeting of the Japan Society of Gene Therapy, 1997. 5.
- 9) Satoh W, Tamayose K, Tohyama T, Hirai Y, Shimada T : Site specific integration of the AAV vector sequence can be achieved by regulated expression of Rep proteins using the Crelox P system. The 3rd Annual Meeting of the Japan Society of Gene Therapy, 1997. 5.
- 10) Goseki-Sone M¹⁾, Orimo H, Iimura T¹⁾, Miyazaki H²⁾, Oda K³⁾, Shibata H³⁾, Takagi Y⁴⁾, Watanabe H⁵⁾, Yanagishita M¹⁾, Shimada T, Oida S¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry, Faculty of Dentistry, Tokyo

Medical & Dental University, ² First Department of Oral & Maxillofacial Surgery, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical & Dental University, ³ Department of Biochemistry, Faculty of Dentistry, Niigata University, ⁴ Department of Pedodontics, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical & Dental University, ⁵ Department of Periodontology, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical & Dental University) : Frequent deletion at position 1735 of the tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene in Japanese hypophosphatasia patients. 第2回ALPS (アルカリホスファターゼ) 研究会, 1997. 8.

- 11) Orimo H, Goseki-Sone M¹, Takagi Y², Watanabe H³, Taketa K⁴, Sato S⁵, Shimada T (¹ Department of Biochemistry, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical & Dental University, ² Department of Pedodontics, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical & Dental University, ³ Department of Periodontology, Faculty of Dentistry, Tokyo Medical & Dental University, ⁴ Department of Public Health, Okayama University Medical School, ⁵ Department of Pediatrics, Keio University School of Medicine) : Molecular genetic analysis of hypophosphatasia in Japan. 第2回ALPS (アルカリホスファターゼ) 研究会, 1997. 8.
- 12) 赤坂修治¹, 鈴木 聡, 清水宏之¹, 五十嵐健人, 寺島保典¹, 藤岡良彰¹, 島田 隆, 秋元成太¹ (¹ 日本医大・泌尿器科) : HSV-tk遺伝子組換えadenovirus vectorの膀胱内注入による, ラット膀胱癌に対する遺伝子治療の検討. 第85回日本泌尿器科学会総会, 1997. 4.
- 13) 右田 真, 高橋久美, 島田 隆 : Gaucher病に対する造血幹細胞への遺伝子導入. 第21回日本臨床遺伝学会, 1997. 5.
- 14) 善利裕実¹, 大竹 明¹, 中村暢男¹, 七五三秀明¹, 鈴木 博¹, 宮路 太¹, 佐々木望¹, 折茂英生, 五関正江² (¹ 埼玉医大・小児科, ² 東京医歯大・歯・生化) : 致死型低フォスファターゼ症の1例とその次子のDNA診断. 第33回日本新生児学会総会, 1997. 7.
- 15) 三宅弘一, 猪口孝一¹, 鈴木紀子, 軽部彰宏², 島田 隆 (¹ 日医大・第三内科, ² 秋田大学医学部産婦人科学教室) : 子宮頸癌におけるDCC遺伝子の癌抑制機能. 第70回日本生化学会大会, 1997. 8.
- 16) 折茂英生, 池島三与子, 中島英逸, 江見 充¹, 島田 隆 (¹ 老研・分子生物) : Microsatellite instabilityを呈する孤発性大腸癌におけるミスマッチ修復蛋白質hMSH3遺伝子とTGF-betaII型レセプター遺伝子の変異. 第70回日本生化学会大会, 1997. 9.
- 17) 菰田二一¹, 小山岩雄¹, 中島孝則¹, 蘭田 勝¹, 穂苅 茂¹, 佐藤豊二², 新井京子³, 吉田謙一郎³, 五関正江⁴, 折茂英生 (¹ 埼玉医大・第1生化, ² 新潟県立癌センター, ³ 獨協医大・泌尿器科, ⁴ 東京医歯大・歯・生化) : 腎癌皮質組織における肝及び骨型様ALPの局在とその遺伝子発現. 第70回日本生化学会大会, 1997. 9.
- 18) 中島英逸, 池島三与子, 折茂英生, 島田 隆 : ヒト細胞におけるhMSH2とhMSH3との複合体hMutS betaの同定. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 19) 池島三与子, 中島英逸, 島田 隆 : hMSH3 過剰発現細胞におけるミスマッチ結合の異常. 第70回日本生化学会総会, 1997. 9.
- 20) 五十嵐健人, 鈴木 聡, 島田 隆 : アデノウイルスベクターとレトロウイルスベクターの二重感染による遺伝子導入法の開発. 第80回日本生化学会総会, 1997. 9.
- 21) 鈴木 聡, 飯島 修¹, 秋山勝彦¹, 後藤 武¹, 島田 隆 (¹ 久光製薬(株)筑波研究所) : キメラ・エンベロープを使った組織特異的レトロウイルスベクターの開発. 第80回日本生化学会総会, 1997. 9.
- 22) 鈴木 聡, 赤坂修治¹, 清水宏之¹, 五十嵐健人, 寺島保典¹, 秋本成太¹, 島田 隆 (¹ 日本医大・泌尿器科) : 膀胱癌に対する自殺遺伝子治療. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 23) 神田佳和 : HL60細胞に対するMGFの分化誘導活性. 第70回日本生化学会大会, 1997. 9.
- 24) 折茂英生, 中島英逸, 池島三与子, 江見 充¹, 島田 隆 (¹ 老研・分子生物) : DNAミスマッチ修復蛋白質hMSH3と日本人孤発性大腸癌における変異解析. 第42回日本人類遺伝学会大会, 1997. 10.

- 25) 善利裕実¹⁾, 大竹 明¹⁾, 樋山明美¹⁾, 原嶋宏子¹⁾, 鈴木 博¹⁾, 宮路 太¹⁾, 折茂英生, 五関正江²⁾, 島田 隆, 佐々木望¹⁾ (¹⁾ 埼玉医大・小児科, ²⁾ 東京医歯大・歯・生化): 致死型低ホスファターゼ症の1例と次子の出生前診断. 第42回日本人類遺伝学会大会, 1997. 10.
- 26) 折茂英生, 池島三与子, 中島英逸, 江見 充¹⁾, 島田 隆 (¹⁾ 老人病研究所・分子生物): Microsatellite instability を呈する孤発性大腸癌におけるミスマッチ修復蛋白質 hMSH3 遺伝子と TGF-betaII 型レセプター遺伝子の変異. 第 42 回日本人類遺伝学会総会, 1997. 10.
- 27) 右田 真, 高橋久美, 島田 隆: 造血幹細胞を標的としたGaucher病に対する遺伝子治療. 第42回日本人類遺伝学会, 1997. 10.
- 28) 浅野ありさ, 右田 真, 高橋久美, 鈴木 聡, 島田 隆: 選択性レトロウイルスベクターを用いた異染性ロイコジストロフィーの遺伝子治療. 第42回日本人類遺伝学会, 1997. 10.
- 29) 右田 真, 高橋久美, 島田 隆: 造血幹細胞を標的としたGaucher病に対する遺伝子治療. 第3回Gaucher病研究会, 1997. 11.
- 30) 五関-曾根正江¹⁾, 折茂英生, 飯村忠浩¹⁾, 宮崎英隆²⁾, 織田公光³⁾, 柴田寿信³⁾, 高木裕三⁴⁾, 渡辺 久⁵⁾, 柳下正樹¹⁾, 島田 隆, 大井田新一郎¹⁾ (¹⁾ 東京医歯大・歯・生化, ²⁾ 東京医歯大・歯・第1口腔外科, ³⁾ 新潟大・歯・口腔生化, ⁴⁾ 東京医歯大・歯・小児歯科, ⁵⁾ 東京医歯大・歯・第2保存): 低ホスファターゼ症における変異骨型アルカリホスファターゼ遺伝子の発現と解析. 第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.
- 31) 池田雅彦^{1,2)}, 折茂英生, 森山 裕^{1,2)}, 吉鷹知也^{1,2)}, 中島英逸, 松原長秀^{1,2)}, 壬生隆一³⁾, 田中紀章²⁾, 島田隆, 木村彰方⁴⁾, 清水憲二²⁾ (¹⁾ 岡山大・医・第1外科, ²⁾ 岡山大・医・病態遺伝子, ³⁾ 九大・医・第1外科, ⁴⁾ 東京医歯大・難治研・成人疾患): 遺伝的不安定性を示す大腸癌における*E2F4*と*hMSH3*遺伝子変異の相関. 第20回日本分子生物学会, 1997. 12.
- 32) 池島三与子, 中島英逸, 島田 隆: メソトレキセート耐性細胞における塩基ミスマッチ修復活性の低下. 第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.
- 33) 久安早苗, 宮内雅人, 秋山勝彦¹⁾, 後藤 武¹⁾, 橋口照司¹⁾, 島田 隆 (¹⁾ 久光製薬(株) 開発本部筑波研究所): アシアロ糖蛋白受容体を介して導入したプラスミドDNAのマウス肝臓における特異的高発現. 第20回日本分子生物学会総会, 1997. 12.
- 34) 三宅弘一, 鈴木紀子, 島田 隆: AIDSの遺伝子治療を目的としたリンパ球及びマクロファージへの遺伝子導入. 第11回日本エイズ学会総会, 1997. 12.
- 35) 平井幸彦, 佐藤 越, 玉寄兼治, 島田 隆: Rep蛋白質導入による部位特異的遺伝子組込み法の開発. 第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.
- 36) 鈴木 聡: Development of a retroviral Vector capable of targeted Gene transfer into HIV-infected cells. 第11回日本エイズ学会総会, 1997. 12.
- 37) 三宅弘一, 猪口孝一¹⁾, 鈴木紀子, 田近賢二¹⁾, 五味聖二¹⁾, 檀 和夫¹⁾, 島田 隆 (¹⁾ 日医大・第三内科): 高力価HIVベクターによる造血系細胞への高率な遺伝子導入法. 第60回日本血液学会総会, 1998. 3.
- 38) 右田 真, 高橋久美, 島田 隆: レトロウイルスベクターを用いた造血幹細胞への遺伝子導入における骨髓ストローマとフィブロネクチンフラグメント (CH296) の有用性の比較検討. 第60回日本血液学会総会, 1998. 3.

7. 薬理学講座

[薬理学]

研究概要

当教室では、A) 神経細胞死の機構の解明、B) シナプス伝達機構の検索、C) 平滑筋の収縮機構の解明を目的とし、以下の研究を行っている。

A (1) 運動ニューロンの生存、神経突起伸展活性を示す物質が骨格筋中に存在すると想定し、ニワトリ胚後肢筋抽出物よりこの物質の分離精製を継続している。(2) ショウジョウバエ中枢神経系より樹立した細胞株において細胞死を誘導する系を確立し、神経細胞死の細胞内機構の解析を行っている。(3) ニワトリ脊髄細胞初代培養系を用いて、神経細胞の生存に関与する細胞内情報伝達機構の検討を行っている。(4) ニワトリの運動ニューロンよりアポトーシス関連遺伝子の検索を行っている。(5) 神経栄養因子の一つであるグリア細胞由来神経栄養因子GDNFについてヒト成人骨格筋での発現を調べ、ヒトにおいてもこの因子が標的由来の神経栄養因子であることを示唆する知見を得た。そのことをふまえ、神経疾患におけるGDNFの発現の変化について解析を行っている。

B (1) 運動ニューロン及びショウジョウバエ中枢神経系より樹立した神経細胞株を用い、既存の神経伝達物質の非伝達物質様作用の検索を行っている。(2) ラット脊髄標本で運動ニューロンにパッチクランプを行う実験系を確立し、シナプス入力解析を行っている。

C 平滑筋の収縮・弛緩機構解明の目的で、モルモット摘出回腸縦走筋および摘出気管筋の膜透過性標本を作成し、Ca²⁺濃度変化に依存しない収縮・弛緩反応における細胞内収縮タンパク系やGタンパクの関与の検討している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Sun X, Harada Y¹, Miyata Y (¹ Department of Physiology) : Inhibition of spinal monosynaptic reflex in newborn rats by aurointricarboxylic acid. *Neurosci Res* 1997 ; 27 : 371-376.
- 2) Suzuki H, Yanagisawa M¹, Yoshioka K¹, Hosoki R¹, Otsuka M¹ (¹ Tokyo Medical and Dental University) : Enzymatic inactivation of enkephalin neurotransmitters in the spinal cord of the neonatal rat. *Neurosci Res* 1997 ; 28 : 261-267.
- 3) Asaeda T¹, Akimoto M, Miyakawa M¹, Kikuta T², Namiki H² (¹ Niigata University, ² Waseda University) : Development of Imaging Colorimeter for Noncontact Tissue Color Measurement. *Bioimages* 1997 ; 5 : 83-89.
- 4) Takagi Y¹, Ui-Tei K, Miyake T², Hirohashi S¹ (¹ Hirohashi Cell Configuration Project, ERATO/JSTC, ² Mitsubishi Kasei Institute of Life Sciences) : Laminin-dependent integrin clustering with tyrosine-phosphorylated molecules in a *Drosophila* neuronal cell line. *Neurosci Lett* 1998 ; 244 : 149-152.
- 5) 白木康夫：ニワトリ胚培養脊髄神経細胞のノルアドレナリンによる細胞死誘導。日医大誌 1998 ; 65 (1) : 34-41.

(2) 総説：

- 1) 宮田雄平：神経栄養因子とapoptosis。日医大誌 1997 ; 64 (5) : 467-470.
- 2) 宮田雄平：シナプス可塑性の誘導機構：Use & disuse. *Clin Neurosci* 1997 ; 15 (10) : 1127-1129.
- 3) 鈴木秀典：タキキニン受容体。生体の科学 1997 ; 48 (5) : 410-413.

- 4) 浜田 剛, 宮田雄平: ニューロサイエンスの新しい研究方法: Differential display法. Clin Neurosci 1998; 16 (1): 10-11.

著 書

- 1) 宮田雄平: [分担] GABA受容体: GABA受容体, ベンゾジアゼピン受容体, P物質, グリシン 受容体. キーワードを読む: 脳・神経 (岩田 誠, 寺本 明, 清水輝夫編), 1997; pp47-50, 医学書院.
- 2) 永野昌俊, 宮田雄平: [分担] 中性アミノ酸 (GABA, グリシン) 受容体. 医系薬理学 (遠藤 仁, 橋本敬太郎, 後藤勝年編), 1997; pp148-152, 中外医学社.
- 3) 程久美子: [分担] 昆虫の神経細胞: ショウジョウバエの神経細胞株樹立法. ニューロサイエンス・ラボマニュアル1: 神経細胞培養法 (島中 寛編), 1997; pp212-219, シュプリンガー・フェアラーク, 東京.
- 4) 鈴木秀典, 大塚正徳¹⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学): [分担] 神経伝達物質. 標準薬理学: 第5版 (鹿取 信, 今井正編), 1997; pp59-83, 医学書院.
- 5) 一瀬倫見, 天羽敬祐¹⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学医学部麻酔・蘇生学): [分担] 麻酔. シリーズ分子生物学: 第4巻: 医学分子生物学 (畑中正一編), 1997; pp77-82, 朝倉書店.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Ichinose T, Murakoshi T¹⁾, Miyata Y (¹⁾ Tokyo Medical and Dental University): Analysis of sensory inputs by whole cell recording from a visually identified motoneuron in an isolated spinal cord of newborn rats. Society for Neuroscience 27th Annual Meeting (New Orleans), 1997. 10.
- 2) Suzuki H, Hase A¹⁾, Funakoshi H²⁾, Miyata Y, Arahata K¹⁾, Ibáñez CF³⁾, Akazawa C¹⁾ (¹⁾ National Institute of Neuroscience, NCNP, ²⁾ Osaka University Medical School, ³⁾ Karolinska Institute): Expression of GDNF in human skeletal muscle. Society for Neuroscience 27th Annual Meeting (New Orleans), 1997. 10.
- 3) Takagi T¹⁾, Ui-Tei K, Tokushige N¹⁾, Hirohashi S¹⁾ (¹⁾ Hirohashi Cell Configuration Project, ERATO, JSTC): Characterization of tyrosine-phosphorylated proteins induced by the cell-matrix interaction in *Drosophila* neuronal cell line. 39th Annual Drosophila Research Conference (Washington, DC.), 1998. 3.
- 4) 高宮正也¹⁾, 程久美子, 鈴木秀典, 永野昌俊, 片岡宏誌¹⁾, 宮田雄平 (¹⁾ 東京大学大学院農学生命科学研究科): 骨格筋由来の脊髄運動神経細胞栄養因子の精製. 日本農芸化学会1997年度大会, 1997. 4.
- 5) 程久美子, 永野昌俊, 鈴木秀典, 佐藤 茂¹⁾, 三宅 端²⁾, 宮田雄平 (¹⁾ 中央電子顕微鏡施設, ²⁾ 三菱化学生命科学研究所): *Drosophila* 神経細胞株におけるアポトーシス誘導とcaspase-3の関与. 第20回日本神経科学大会, 1997. 7.
- 6) 永野昌俊, 程久美子, 鈴木秀典, 宮田雄平: ショウジョウバエ神経細胞株におけるプロテインキナーゼ阻害剤によるアポトーシス誘導. 第20回日本神経科学大会, 1997. 7.
- 7) 一瀬倫見, 宮田雄平: 新生ラット摘出脊髄標本での運動ニューロンの可視下パッチクランプ法. 第20回日本神経科学大会, 1997. 7.
- 8) 根本香代, 岡村忠夫: Adrenergic β -agonist による気管平滑筋の収縮タンパク系Ca²⁺感受性低下. 第47回日本アレルギー学会総会, 1997. 10.
- 9) 秋本真喜雄, 浅枝暉雄¹⁾, ムワナタンブエ・ミランガ²⁾, 菅沼 (清水) 眞澄³⁾, 七戸和博³⁾, 飯田和美⁴⁾, 宮川道夫¹⁾ (¹⁾ 新潟大学工学部, ²⁾ 第二病理学教室, ³⁾ 実験動物管理室, ⁴⁾ ワクチン研究施設): 南米産モルフォ蝶翅鱗粉の性行動を誘発する構造的発色機構の検討. 第38回日本熱帯医学会大会, 1997. 11.
- 10) 秋本真喜雄, 浅枝暉雄¹⁾, 七戸和博²⁾, 菅沼 (清水) 眞澄²⁾, 飯田和美³⁾, ムワナタンブエ・ミランガ⁴⁾, 浅野伍

- 朗⁴⁾、宮川道夫¹⁾ (¹⁾ 新潟大学工学部, ²⁾ 実験動物管理室, ³⁾ ワクチン研究施設, ⁴⁾ 第二病理学教室) :
 Chemical mediator に対するマウス皮膚色反応の画像処理による定量化. 第11回日本ME学会秋期大会, 1997. 11.
- 11) 程久美子, 趙 璟, 塩川大介¹⁾, 田沼靖一¹⁾, 宮田雄平 (¹⁾ 東京理科大学・薬学部, 同・生命研) : ショウジョウバエ単離核系で活性化されるエンドヌクレアーゼの性状. 第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.
- 12) 高木康光¹⁾, 程久美子, 徳重直子¹⁾, 広橋説雄¹⁾ (¹⁾ 科学技術振興事業団・広橋細胞形象プロジェクト) : ショウジョウバエ神経由来株細胞の培養系において細胞外マトリックス成分による接着伸展に依存してチロシン残基のリン酸化亢進を受ける蛋白質の性状解析. 第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.
- 13) 一瀬倫見, 宮田雄平: 新生ラット脊髄標本の可視下運動ニューロンへの感覚性入力 of 薬理学的解析. 第71回日本薬理学会年会, 1998. 3.
- 14) 一瀬倫見, 宮田雄平: 運動ニューロンの反回性興奮性経路. 第75回日本生理学会大会, 1998. 3.
- 15) 富岡譲二¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 山本保博²⁾, 根本香代, 岡村忠夫 (¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター, ²⁾ 救急医学教室) : Paraquat のモルモット腸管弛緩作用におけるCyclic nucleotide の関与. 第71回日本薬理学会年会, 1998. 3.
- 16) 根本香代, 岡村忠夫: モルモット気管筋スキンド標本におけるadrenergic β -agonist の作用. 第71回日本薬理学会年会, 1998. 3.
- 17) 白木康夫, 鈴木秀典, 宮田雄平: ノルアドレナリンにより惹起される神経細胞死の検討. 第71回日本薬理学会年会, 1998. 3.

[臨床薬理センター]

研究概要

臨床薬理センターでは臨床薬理学の立場から次のような研究を行っている。

1. Population pharmacokinetics の研究: NONMEM (Non-Linear Mixed Effect Model) は患者一人当たりの採血点が1-2点でも解析可能なpopulation pharmacokinetics理論を応用した薬物動態解析プログラムで, その臨床的有用性を研究している。

2. 自然発症慢性肺炎モデル: 自然発症慢性肺炎モデルのWBN/Kobラットを用いた抗慢性肺炎治療薬の効果の評価法に関する研究. 慢性肺炎治療薬の治療メカニズムに関してBrd-Uの細胞内取込みを指標として細胞増殖面からの検討を行っている. 開発中の肺炎治療薬の本モデルによる薬効評価とヒトにおける臨床試験結果との関連も併せ検討している。

3. モニタリング・監査におけるデータマネージメントのあり方: 新GCPに対応して日本医科大学付属病院においては平成9年6月からモニタリング・監査検討班(新 博次班長)を作り標準手順書(SOP)の作成や模擬モニタリング・監査を行ってきたが, それらのまとめ役を臨床薬理センターが行ってきた. これらの結果の分析によりモニタリング・監査における直接閲覧の問題点を明らかにしてきた. 今後, 更にモニタリング・監査におけるデータマネージメントのあり方を研究し, 日本医科大学における治験のデータの質の確保と治験の信頼性の保証を如何にすべきか検討していく。

4. 薬物の臨床試験に関する方法論の研究: 新薬開発における臨床試験のあり方, 評価方法, 薬物治験審査委員会(IRB)のあり方などを委員会事務局としての業務経験を生かして研究している. 新GCPにより義務づけられたIRB調査の方法論, 継続審査の重要性, IRBの内部監査的役割について検討している。

5. *Helicobacter pylori* と生体との免疫応答, 特に胃粘膜の局所免疫応答について検討中である. *H. pylori* urease抗体が除菌療法の際重要となる菌量のメルクマールとなるか追跡している。

6. 皮膚科領域の副作用の分析: 以前皮膚科学教室から厚生省の「医薬品副作用モニター報告制度」に報告された副作用1,167症例(10年間)における因果関係の判定方法について分析した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 大橋和史：新GCPに対する医療機関側の体制について。日本QA研究会会報 1998；9：4-10.
- 2) 阿曾亮子，大須賀恵美子，大橋和史，本田光芳¹⁾ (¹⁾ 皮膚科学)：副作用自発報告データにみる因果関係の調査—皮膚科領域の1,167症例から—。臨床薬理 1998；29 (1,2)：45-46.
- 3) 奈良弘恵¹⁾，堀口眞美¹⁾，大橋和史，大須賀恵美子，阿曾亮子 (¹⁾ 日本医科大学薬物治験審査委員会事務局)：IRBのフォロー業務としての治験情報管理—IRB事務局の立場から—。臨床薬理 1998；29 (1,2)：65-66.

(2) 総説：

- 1) 大須賀恵美子，大橋和史：治療計画のための薬理学 α 遮断薬。臨床と薬物治療 1997；16 (10)：954-958.
- 2) 二神生爾，高橋秀実²⁾，大橋和史，鷹取美雪³⁾，辰口篤志¹⁾，廣田 薫，小林正文¹⁾ (¹⁾ 第三内科，²⁾ 微生物免疫学，³⁾ 付属病院研究室)：胃炎の慢性化の機序について。消化器科 1998；26 (1)：41-46.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 大須賀恵美子：モニタリングおよび監査を受ける立場から。日本QA研究会，1998. 2.

(2) シンポジウム：

- 1) 大橋和史：新GCP普及・定着のために モニタリング・監査のあり方。別府サンライズカンファレンス，1997. 10.
- 2) 大橋和史：直接閲覧実施上の問題点。シンポジウム 新GCP施行前夜—モデル病院の成果と今後の取組み—，1998. 3.
- 3) 大橋和史：「新GCP普及定着総合研究班」報告 モニタリング・監査検討作業班。GCP説明会，1998. 3.

(3) パネルディスカッション：

- 1) 二神生爾，高橋秀実¹⁾ (¹⁾ 微生物免疫学)：Helicobacter pylori (HP) 感染に起因した胃炎慢性化の組織血清学的検討：HPウレアーゼに対する抗体ならびにその産生細胞の追跡。日本消化器病学会総会，1997. 4.
- 2) 大須賀恵美子，阿曾亮子，大橋和史，奈良弘恵¹⁾，堀口眞美¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学薬物治験審査委員会事務局)：ファイアーサイドディスカッション1：治験現場より見たモニタリングおよび監査 5.IRBの立場から。第18回日本臨床薬理学会，1997. 12.
- 3) 阿曾亮子：ファイアーサイドディスカッション2：学会認定薬剤師は何を求められているか 10. 臨床薬理センター。第18回日本臨床薬理学会，1997. 12.

(4) 一般講演：

- 1) 阿曾亮子，大須賀恵美子，大橋和史，本田光芳¹⁾ (¹⁾ 皮膚科学)：副作用自発報告データにみる因果関係の調査—皮膚科領域の1,167症例から—。第18回日本臨床薬理学会，1997. 12.
- 2) 奈良弘恵¹⁾，堀口眞美¹⁾，大橋和史，大須賀恵美子，阿曾亮子 (¹⁾ 日本医科大学薬物治験審査委員会事務局)：IRBのフォロー業務としての治験情報管理—IRB事務局の立場から—。第18回日本臨床薬理学会，1997. 12.

8. 病理学第一講座

研究概要

本講座の研究主題は、腎臓、肺臓、心臓の病理を中心とし、さらに眼病理、腫瘍病理などにも及んでおり、炎症の修復機転、臓器の線維化機序、諸病変の血管・結合織との関連を検討したものが多く、米国NIH心肺研究所 (pulmonary lesion and MMP), Nebraska大学内科 (chemotaxis in the lung), Cincinnati大学眼科 (corneal injury) との共同研究も積極的に行われており、またNIHおよびMassachusetts General Hospital病理部門への留学生の派遣による肺線維症や腎移植病理に関する研究領域の拡大も推進されている。腎臓研究グループは、長年にわたり動物実験モデルを用いた糸球体腎炎の病理学的研究を続けているが、特にラットのThy 1腎炎モデルによる腎炎の修復と線維化の機序についての検討が進展し、腎炎における内皮細胞障害の重要性、初期病変におけるアポトーシスの関与などについての新知見の報告、Thy 1腎炎低用量モデルによる病変の解析が行われた。また、移植腎拒絶反応やANCA関連腎炎の際の間質病変に、傍尿細管毛細血管が大きな役割を担っていることを明らかにし、この分野の研究に一石を投じた。肺臓研究グループは、間質性肺炎の病態解明をめざし、生検剖検材料による臨床病理学的解析、細胞・細胞間質の相互作用の検討、動物実験モデルを用いた肺線維症におけるmatrix metallo- proteinaseおよびそのinhibitorの動態やエピモルフィン発現の検討などを行った。その他、肺病変との関連において、fibronectinに対するmyofibroblastの走化性の基礎的研究が行われた。心臓については、僧帽弁形成術後の弁膜組織反応など、心臓の結合組織の特異性に着目した研究が進行している。眼科病理は、角膜創傷治癒過程におけるコラーゲンの動態やMMPの関与が検討された。腫瘍に関しては、大腸早期癌の発育パターンについての検討や、肺癌における弾性線維症の検討が行われた。

研究業績

論文

〔1996年度追加〕

原著：

- 1) Ishizaki M, Shimoda M¹⁾, Shimoda M¹⁾, Oguro T²⁾, Yamanaka N, Kao C³⁾ (¹⁾ 眼科学教室, ²⁾ 北総病院病理部, ³⁾ Department of Ophthalmology, University of Cincinnati, OH.) : Stromal fibroblasts are associated with collagen IV in scar tissue of alkali-burned and lacerated corneas. *Curr Eye Res* 1997; 16 (2) : 339-348.

(1) 原著：

- 1) Kawamoto M, Matsunami T, Ertl R¹⁾, Fukuda Y, Ogawa M, Spurzem J¹⁾, Yamanaka N, Rennard S¹⁾ (¹⁾ Pulmonary and Critical Care Medicine section, Internal Medicine) : Selective migration of α -smooth muscle actin-positive myofibroblasts toward fibronectin in the Boyden's blindwell chamber. *Clin Sci* 1997; 93 : 355-362.
- 2) Shimizu A, Kitamura H, Masuda Y, Ishizaki M, Sugisaki Y, Yamanaka N : Rare glomerular capillary regeneration and subsequent capillary regeneration with endothelial cell apoptosis in progressive glomerulonephritis. *Am J Pathol* 1997; 151 (12) : 1231-1239.
- 3) 下田真理子¹⁾, 石崎正通, 雑賀壽和¹⁾, 山中宣昭 (¹⁾ 眼科学教室) : 筋線維芽細胞によるmatrix metalloproteinases およびtissue inhibitor of metalloproteinase の発現:角膜創傷治癒過程における形態学的検討. *日本眼科学会雑誌* 1997; 101 (5) : 371-379.
- 4) 山中宣昭: 膜性増殖性腎炎像の組織形成. *腎と透析* 1997; 43 (4) : 473-479.

- 5) 辰口篤志¹⁾, 岸田輝幸¹⁾, 佐藤 順¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 吉田 豊¹⁾, 小林正文¹⁾, 山門 進²⁾ (1) 日本医科大学第3内科, 2) 東京都多摩老人医療センター消化器科) : 大腸早期癌の部位別発育パターンの違いについて—Polypoid growth・Nonpolypoid growth別検討—. 消化器内視鏡の進歩 1997; 51 : 50-51.
 - 6) 小野田教高¹⁾, 栗原 怜¹⁾, 内海甲一¹⁾, 竹内正至¹⁾, 櫻井祐成¹⁾, 大和田一博¹⁾, 米島秀夫¹⁾, 葉山修陽²⁾, 大沢弘和²⁾, 北村博司 (1) 春日部秀和病院腎臓内科, 2) 第2内科) : ピル長期服用中に急速に腎機能の低下を認めた Thrombocytic microangiopathyの1例. 腎と透析 1997; 43 : 761-765.
 - 7) 北村博司, 益田幸成, 山中宣昭 : 移植腎急性拒絶反応における傍尿管細血管の障害と間質病変. 今日の移植 1997; 10 (Suppl.) : 55-59.
 - 8) 谷口泰之¹⁾, 村田 朗¹⁾, 田中庸介¹⁾, 竹中 圭¹⁾, 小久保豊¹⁾, 神尾孝一郎¹⁾, 忽滑谷直孝¹⁾, 小林国彦¹⁾, 吉村明修¹⁾, 渋谷昌彦¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 持丸 博, 福田 悠 (1) 第4内科) : 血痰で発症し, 脳転位を伴った Epithelioid Hemangioendotheliomaの1例. 日本胸部学会誌 1997; 56 : 399-405.
 - 9) 福田 悠 : 肺腺癌の電顕像. 分子呼吸病 1997; 1 (3) : 158.
 - 10) 福田 悠 : Hermansky-Pudlak症候群肺の電顕像. 分子呼吸病 1997; 1 (4) : 230.
 - 11) 福田 悠 : 通常型間質性肺炎にみられたアポトーシスの電顕像. 分子呼吸病 1997; 1 (5) : 310.
 - 12) 福田 悠 : びまん性汎細気管支炎の電顕像. 分子呼吸病 1997; 1 (6) : 394.
 - 13) 福田 悠 : びまん性肺傷害の電顕像. 分子呼吸病 1997; 1 (2) : 78.
 - 14) 逸見しのぶ, 福田 悠 : 早期肺腺癌の光顕像. 分子呼吸病 1997; 2 (1) : 1.
 - 15) 若林一二¹⁾, 金子泰之²⁾, 忽滑谷直孝²⁾, 本田光芳³⁾, 逸見しのぶ, 川本雅司 (1) 第3内科, 2) 第4内科, 3) 皮膚科) : 長期間の全身性紅斑性狼瘡 (SLE) の経過中に呼吸困難, 意識障害を呈し死亡した1例. 内科 1997; 80 : 146-152.
 - 16) 片山泰朗¹⁾, 今泉孝敬²⁾, 吉村明修³⁾, 木内 要¹⁾, 松信精一¹⁾, 山中宣昭, 工藤翔二³⁾, 北村博司, 田村浩一⁴⁾, 川本雅司, 荒牧琢己¹⁾ (1) 第2内科, 2) 第1内科, 3) 第3内科, 4) 附属病院病理部) : 重症冠動脈疾患に間質性肺炎の急性増悪を合併した1例. 内科 1997; 81 : 368-378.
 - 17) 福田 悠 : Wegener肉芽腫症のPAM染色像. 分子呼吸病学 1998; 2 (2) : 86.
- (2) 綜説 :
- 1) 山中宣昭 : ネフローゼ症候群に関する最近の知見 : 病理所見からみた成因への考察. 内科 1997; 79 (5) : 835-842.
 - 2) 山中宣昭 : 実験腎炎研究の発展と糸球体腎炎の診断. 病理と臨床 1997; 15 (6) : 531-537.
 - 3) 山中宣昭 : 腎病変とアポトーシス. 日医大誌 1997; 64 (5) : 475-478.
 - 4) 福田 悠 : 慢性間質性肺炎の病理. 呼吸 1998; 17 (2) : 183-187.

著 書

[1996年度追加分]

- 1) Kao W¹⁾, Ishizaki M (1) Department of Ophthalmology, University of Cincinnati, OH, U) : [分担] Phenotypic changes of cell activity during corneal wound healing. Corneal healing responses to injuries and refractive surgeries, 1997; pp11-28, Kugler Publication, Hague.
- 2) 持丸 博 : [分担] Langerhans 細胞組織球症. 呼吸器疾患の最新の治療, 1997; pp237-239, 江南堂.
- 1) 川本雅司 : [分担] 気道上皮細胞傷害とその修復機転. 気道上皮とサイトカイン, 1997; pp64-75, ライフサイエンス出版.
- 2) 北村博司, 山中宣昭 : [分担] Immunotactoid/fibrillary glomerulopathyとcollagenofibrotic glomerulopathy

(成瀬卓二編). 医学のあゆみ (腎疾患-state of art), 1997; pp307-310, 医歯薬出版.

- 3) 北村博司, 山中宣昭: [分担] ANCA関連腎炎における尿細管間質病変 (長沢俊彦, 伊藤克己, 浅野 泰, 遠藤 仁編). Annual Review 腎臓 1998, 1998; pp88-93, 中外医学社.
- 4) 山中宣昭: [分担] 糸球体腎炎の発症と進展の機序: アポトーシス. 腎臓病-最近の話題 (河合 忠, 亀田治男, 山中 学, 黒川 清編), 1998; pp57-62, 富士レビオ.

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 福田 悠: 間質性肺炎における筋線維芽細胞と細胞外基質 (間質性肺炎の病態解析と治療-細胞間相互作用に対する細胞・分子生物学的アプローチ). 第37回日本胸部疾患学会, 1997. 4.
- 2) 山中宣昭: アポトーシスと関連疾患: 腎病変とアポトーシス. 日本医科大学医学会第8回公開シンポジウム, 1997. 6.
- 3) 川本雅司: 創傷治癒過程と癒着. 第20回産婦人科マイクロサージャリー学会総会, 1997. 8.
- 4) 福田 悠: 線維化肺における上皮細胞の超微形態と分子病態 (特発性間質性肺炎: 肺の線維化の機序をめぐって). 第38回日本呼吸器学会総会, 1998. 3.

(2) ワークショップ:

- 1) 辰口篤志¹⁾, 岸田輝幸¹⁾, 吉田 豊¹⁾, 山門 進²⁾ (1) 日本医科大学第3内科, 2) 東京都多摩老人医療センター): 直腸癌 (Ra,Rb) の発育進展をめぐって-一結腸癌との対比-. 第64回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 6.
- 2) 北村博司, 山中宣昭: ANCA関連腎炎における間質病変. 第27回日本腎臓病学会東部学術集会, 1997. 11.

(3) 一般講演:

- 1) Mochimaru H, Hemmi S, Enomoto K¹⁾, Kawanami O²⁾, Kawamoto M, Fukuda Y, Kudoh S¹⁾ (1) Fourth Dept. Internal Medicine, 2) Dept. Pathology, Nippon Medical School 2nd Hospital): Clinicopathological analysis of clinical subacute interstitial pneumonia. ALA/ATS International Conference (San Francisco), 1997. 4.
- 2) Ohashi R, Kitamura H, Masuda Y, Yamanaka N: Studies on low dose model of anti-Thy1.1 nephritis. 14th International Congress of Nephrology (Sydney), 1997. 5.
- 3) Ozaki N¹⁾, Ishizaki M, Wakamatsu K, Yamanaka N (1) 眼科学教室): Programmed cell death (apoptosis) mediates the decrease in cellularity during the healing process of type III hypersensitivity in cornea. XVI European Congress of Pathology (Maastricht), 1997. 9.
- 4) Kitamura H, Ishizaki M, Ohashi R, Kaminaga C, Masuda Y, Sugisaki Y, Yamanaka N: Complement dependent mesangial cell apoptosis. 30th Annual Meeting of American Society of Nephrology (San Antonio), 1997. 11.
- 5) 大橋隆治, 益田幸成, 北村博司, 石崎正通, 杉崎祐一, 山中宣昭: 抗Thy-1腎炎低用量モデルにおけるアポトーシス. 第40回日本腎臓学会総会, 1997. 5.
- 6) 北村博司, 石崎正通, 益田幸成, 大橋隆治, 神長ちふみ, 杉崎祐一, 山中宣昭: 抗Thy-1.1抗体によるメサンギウム細胞の補体依存性アポトーシス. 第40回日本腎臓病学会総会, 1997. 5.
- 7) 益田幸成, 北村博司, 大橋隆治, 神長ちふみ, 石崎正通, 杉崎祐一, 山中宣昭: Thy-1腎炎修復過程における内皮細胞の重要性について. 第40回日本腎臓病学会総会, 1997. 5.
- 8) 神長ちふみ, 石崎正通, 北村博司, 益田幸成, 杉崎祐一, 山中宣昭: Mongolian gerbilにおけるThy-1.1腎炎. 第40回日本腎臓病学会総会, 1997. 5.

- 9) 川本雅司, 杉崎祐一, 山中宣昭, 小川真紀¹⁾ (1) 東京警察病院病理部) : Langerhans細胞増生を伴う血球貪食症候群 (HPS) と, HUSを呈した1剖検例. 第112回東京病理集談会, 1997. 6.
- 10) 北村博司, 益田幸成, 大橋隆治, 神長ちふみ, 石崎正通, 杉崎祐一, 山中宣昭 : 腎血管炎における間質病変と傍尿管毛細血管炎. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 11) 逸見しのぶ, 川本雅司, 寺崎泰弘, 福田 悠, 山中宣昭, 山崎峰雄¹⁾, 森 修²⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 病理学第2教室) : 全身性エリテマトーデス (SLE) に合併した進行性多巣性白質脳症 (PML) の1剖検例. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 12) 持丸 博, 福田 悠, 石崎正道, 福島光浩, 山中宣昭 : 肺腺癌間質における弾性線維症の検討. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 13) 大橋隆治, 杉崎祐一, 山中宣昭 : 高齢発症の脾原発性ホジキンリンパ腫の1剖検例. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 14) 福田 悠, 持丸 博, 川本雅司, 石崎正通, 山中宣昭 : 特発性間質性肺炎/通常型間質性肺炎にみられる急性増悪の病理学的解析. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 15) 辰口篤志, 福田 悠, 石崎正通, 山中宣昭 : 正常家兎胃, ヒト胃におけるマトリックスメタロプロテアーゼの局在. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 16) 寺崎泰弘, 福田 悠, 逸見しのぶ, 持丸 博, 川本雅司, 山中宣昭 : 非典型的な蜂巣肺を認めた分類不能間質性肺炎の1剖検例. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 17) 北村博司, 益田幸成, 山中宣昭 : 移植腎急性拒絶反応における傍尿管毛細血管の障害と間質病変. 第1回移植腎病理研究会, 1997. 7.
- 18) 豊田隆志¹⁾, 小野卓哉¹⁾, 小林利行¹⁾, 小林義典¹⁾, 関山達也¹⁾, 荒牧琢己¹⁾, 北村博司, 山中宣昭, 松信精一²⁾, 飯野靖彦²⁾ (1) 第1内科, 2) 第2内科) : 心臓カテーテル検査を機に出現した好酸球増多を伴うrenal cholesterol embolization の1例. 第456回日本内科学会関東地方会, 1997. 7.
- 19) 西山康裕¹⁾, 駒場祐一¹⁾, 大坪孝一¹⁾, 橋本和政¹⁾, 永積 淳¹⁾, 赫 彰郎¹⁾, 北村博司, 温 敏²⁾ (1) 第2内科, 2) 第一病院病理部) : 広汎な脳出血を合併したMitomycin Cによる溶血性尿毒症候群の1例. 第457回日本内科学会関東地方会, 1997. 9.
- 20) 小泉 潔¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 福島光浩¹⁾, 三上 巖¹⁾, 秋山博彦¹⁾, 原口秀司¹⁾, 川本雅司, 田中茂夫¹⁾ (1) 第2外科) : 肺癌に対する集学的治療としての胸腔鏡下手術の応用. 第97回日本外科学会総会, 1997. 9.
- 21) 寺崎泰弘, 福田 悠, 持丸 博, 石崎正通, 山中宣昭 : マウスブレオマイシン肺臓炎モデルにおけるエピモルフィンの発現局在の検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 22) 逸見しのぶ, 福田 悠, 持丸 博, 山中宣昭, 安藤真弘¹⁾, 工藤翔二¹⁾ (1) 第4内科) : 気管支肺胞洗浄液 (BALF) におけるマトリックスメタロプロテアーゼ (MMP) とそのインヒビター (TIMP) の検索. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 23) 益田幸成, 北村博司, 石川吾利美, 田村尚美, 杉崎祐一, 山中宣昭 : IgA腎症の蛍光強度と免疫沈着物. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会, 1997. 10.
- 24) 石川吾利美, 益田幸成, 田村尚美, 北村博司, 山中宣昭 : ヒト腎疾患における免疫沈着物-タンニン酸およびPAM染色を用いて. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会, 1997. 10.
- 25) 柏木哲也¹⁾, 鎌野千佐子¹⁾, 武井寛之¹⁾, 大沢弘和¹⁾, 中村 正¹⁾, 松信精一¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 赫 彰郎¹⁾, 小林利行²⁾, 荒牧琢己²⁾, 北村博司 (1) 第2内科, 2) 第1内科) : 心臓カテーテル検査により半月体形成性腎炎を呈したrenal cholesterol embolizationの1例. 第27回日本腎臓病学会東部学術集会, 1997. 11.
- 26) 金子朋広¹⁾, 須賀 優¹⁾, 葉山修陽¹⁾, 北村博司, 飯野靖彦²⁾, 赫 彰郎²⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 第2内科) : 肝腎症候群を呈したマラリアの1症例. 第27回日本腎臓病学会東部学術集会, 1997. 11.

- 27) 須賀 優¹⁾, 金子朋広¹⁾, 葉山修陽¹⁾, 北村博司, 飯野靖彦²⁾, 赫 彰郎²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院内科, ²⁾ 第2内科): 腎不全にて発見された間質を主病変とする1症例. 第27回日本腎臓病学会東部学術集会, 1997. 11.
- 28) 武井寛之¹⁾, 中村 正¹⁾, 松信精一¹⁾, 北村博司, 大沢弘和¹⁾, 柏木哲也¹⁾, 鎌野千佐子¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 赫 彰郎¹⁾ (¹⁾ 第2内科): 特発性血症板減少性紫斑病の加療中にネフローゼ症候群を呈したループス腎炎の1例. 第27回日本腎臓病学会東部学術集会, 1997. 11.
- 29) 清家正博¹⁾, 服部達也¹⁾, 植松和嗣¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 吉村明修¹⁾, 高崎雄司¹⁾, 渋谷昌彦¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 逸見しのぶ, 持丸 博, 福田 悠 (¹⁾ 第4内科): アルミニウム肺に顕微鏡的多発動脈炎による間質性肺炎に合併した1例. 第127回日本胸部疾患学会関東地方会, 1997. 11.
- 30) 庄司俊輔¹⁾, 枝富貴子¹⁾, 本田善一郎¹⁾, 滝沢 始¹⁾, 森田 寛¹⁾, 山本一彦¹⁾, 川本雅司 (¹⁾ 東京大学物療内科): 気道上皮細胞由来因子に対する血管内皮細胞の遊走: 気管支喘息におけるリモデリングでの血管新生の第一段階として. 第38回日本呼吸器学会総会, 1998. 3.
- 31) 川本雅司, 持丸 博, 福島光浩, 逸見しのぶ, 寺崎泰弘, 矢口高基, 福田 悠: びまん性肺疾患の肺胞マクロファージにおけるPD-ECGF, PCNAの発現. 第38回日本呼吸器学会総会, 1998. 3.
- 32) 逸見しのぶ, 矢口高基, 福田 悠: プレオマイシン肺線維症におけるBALF中のMMPsとTIMPsの検討. 第38回日本呼吸器学会総会, 1998. 3.

9. 病理学第二講座

研究概要

1) 腫瘍細胞の増殖, 分化には間質の血管や細胞外基質の動態が関与し, 各々受容体を介してその増殖制御に関わっていると思われる。教室では癌細胞, 心筋細胞, 前立腺細胞, 肝細胞, 血管内皮細胞の増殖分化における細胞外基質であるフィブロネクチン, グリコサミノグリカン, ラミニン, テネイシンIII型, IV型コラーゲンと関連して, その合成や各々の受容体の局在, これらのmRNAの発現と癌細胞における核質の性状変化に加えてプロテアーゼの発現をin situ hybridization法で確認している。一方, 上皮細胞や癌細胞には細胞外基質の生合成と併せFGF, EGF, TGF β など増殖因子とカドヘリンなどの接着因子が病態進展に関与している。このような作用機構については, さらに細胞内の細胞骨格を介した細胞内シグナル伝達系, とくにHsp, $\alpha 5 \beta$ -Integrin, DNase 1 カテニン, カテプシンBとの関連性の上から細胞内における遺伝情報発現と遺伝子制御機構の解明も試みられている。

2) 動脈硬化症の発生の基盤には高脂血症, 高血圧, 糖尿病などの関与が注目されるが, とくにbarrierとしての血管内皮細胞障害が重要である。内皮細胞の各種酵素の局在や再生過程における細胞外基質やFGF, VEGF, EGFなど増殖因子さらにエンドセリン, 一酸化窒素の産生動態を解明し, AGEの関与と内皮細胞と平滑筋細胞の相互作用の観点から動脈硬化の発生と関連した平滑筋細胞の増殖機序の解明を試みている。とくに, その促進因子の動脈硬化と心筋梗塞の発生, さらに, 冠動脈病変の疎水環境の特異性につき, 超音波やレーザー顕微鏡などで多次元画像解析法を導入し形態計測的な解明を試みている。

3) 敗血症や虚血性病変の病態の発生機序の解明を目的として心臓, 肺臓の心肺機能不全や血管障害につき, free radical, NO, NOS, hspの産生動態を介した細胞機能障害の発生機序に注目し検討している。

4) 神経病理学的にはアルツハイマー病など変性疾患を中心にその発生病理につき解明を進めている。

研究業績

論文

〔1996年度追加分〕

原著:

- 1) 太組一朗¹⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 池田幸徳¹⁾, 渡辺 玲¹⁾, 山口文雄¹⁾, 野手洋治¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明¹⁾, 今津修, 浅野伍朗 (¹⁾ 脳神経外科): Wernicke脳症のMRI所見: 自験例と文献的考察. CI研究 1996; 18 (3): 277-288.

(1) 原著:

- 1) Ishiwata T, Kornmann M¹⁾, Martha L¹⁾, Bergmann U²⁾, Beger HG²⁾, Korc M¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine and Biological Chemistry and Pharmacology, University of California, Irvine, ²⁾ Department of General Surgery, University of Ulm): Altered expression of insulin-like growth factor II receptor in human pancreatic cancer. Pancreas 1997; 15: 367-373.
- 2) Naef, M¹⁾, Ishiwata, T, Friess, H²⁾, Buchler, M²⁾, Gold, L³⁾, Korc, M¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine and Biological Chemistry and Pharmacology, University of California, Irvine, ²⁾ Department of Visceral and Transplantation Surgery, University of Bern, ³⁾ Department of Pathology, New York University Medical Center): Transforming growth factor- β isoforms are over-expressed in human gastric carcinoma. 2nd Int Gastric Cancer Congress 1997; 713-716.
- 3) Guo F, Ishiwata T, Yokoyama M, Asano G: Expression of basic fibroblast growth factor, epidermal

growth factor, and their receptors in castrated and testosterone injected rat prostates. *Acta Histochem Cytochem* 1997 ; 30 : 13-22.

- 4) Aida K, Onodera T, Oguro T, Ashraf M : Hydrogen peroxide-mediated injury to cultured adult rat myocytes. *Cardiovas Pathobiol* 1997 ; 2 : 97-106.
- 5) Itakura J¹⁾, Ishiwata T, Friess H²⁾, Fujii H³⁾, Matsumoto Y³⁾, Buchler M²⁾, Korc M¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine and Biological Chemistry and Pharmacology, University of California, Irvine, ²⁾ Department of Visceral and Transplantation Surgery, University of Bern, ³⁾ Department of Surgery, Yamanashi Medical University) : Enhanced expression of vascular endothelial growth factor in human pancreatic cancer correlates with local disease progression. *Clin Cancer Res* 1997 ; 3 : 1309-1316.
- 6) Funatomi H, Itakura J, Ishiwata T, Pastan I²⁾, Thompson S³⁾, Johnson G⁴⁾, Korc M (¹⁾ Department of Medicine and Biological Chemistry and Pharmacology, University of California, Irvine, ²⁾ Laboratory of Molecular Biology , National Cancer Institute, ³⁾ Berlex Bioscience, ⁴⁾ Division of Cytokine Biology, Center for Biologics Evaluation and Reserch, Food and Drug Administration) : Amphiregulin antisense oligonucleotide inhibits the growth of T3M4 human pancreatic cancer cells and sensitizes the cells to EGF receptor- targeted therapy. *Int J Cancer* 1997 ; 72 : 512-517.
- 7) Jia Y, Sato S¹⁾ (¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Researches) : Evaluation of coronary collateral circulation in early ischemia in rat hearts : A morphological study. *J Nippon Med Sch* 1997 ; 64 : 329-336.
- 8) Dang C¹⁾, Qin Z¹⁾, Ji Z¹⁾, Li Y¹⁾, Zhaol J¹⁾, Takashi E¹⁾, Naito Z, Yokoyama M, Asano G (¹⁾ Department of Surgery Second Teaching Hospital Xi'an, Medical University) : Morphological characteristics and clinical significance of nerve distribution in pancreatic cancers. *J Nippon Med Sch* 1997 ; 64 : 526-531.
- 9) An GL¹⁾, Tai XC¹⁾, Song X¹⁾, Chai LF¹⁾, Wang Y¹⁾, Wei L¹⁾, Qiao Y¹⁾, Chen S¹⁾, Yajima M¹⁾, Yamada N, Asano G (¹⁾ Depatment ot Histoembryology, Shenyang Medical College, China) : Regenerative changes in median nerve defects using various rabbit skeletal muscles. *Jap J Leprosy* 1997 ; 66 : 207-213.
- 10) Nishigaki R, Guo F, Naito Z, Yokoyama M, Asano G : Ultrastructural changes and localization of nitric oxide synthase in rat lung induced by endotoxin administration. *Med Electron Microsc* 1997 ; 30 : 177-184.
- 11) Kornmann M¹⁾, Ishiwata T, Beger H²⁾, Korc M¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine and Biological Chemistry and Pharmacology, University of California, Irvine, ²⁾ Department of General Surgery, University of Ulm) : Fibroblast growth factor-5 stimulates mitogenic signaling and is overexpressed in human pancreatic cancer : Evidence for autocrine and paracrine actions. *Oncogene* 1997 ; 15 : 1417-1424.
- 12) Matsumoto K, Min V, Yamada N, Asano G : Gastrointestinal autonomic nerve tumors : Immunohistochemical and ultrastructural studies in cases of gastrointestinal stromal tumor. *Pathol Int* 1997 ; 47 : 308-314.
- 13) Naef M¹⁾, Ishiwata T, Friess H²⁾, Buchler M²⁾, Gold L³⁾, Korc M¹⁾ (¹⁾ Department of Medicine and Biological Chemistry and Pharmacology, University of California, Irvine, ²⁾ Department of Visceral and Transplantation Surgery, University of Bern, ³⁾ Laboratory of Molecular Biology , National Cancer Institut) : Differential localization of transforming growth factor- β isoforms in human gastric mucosa and overexpression in gastric carcinoma. *Int J Cancer* 1997 ; 71 : 131-137.
- 14) Wen M, Yamada N, Zhang Y²⁾, Matsuhisa T¹⁾ (¹⁾ Department of Endoscopy, ²⁾ PLA Institute for digestive diseases, Nan Fang Hospital, Th) : Morphological changes of helicobacter pylori after antibacterial therapy : and electron microscope study. *Med Electron Micosc* 1997 ; 30 : 131-137.
- 15) Kodaira Y¹⁾, Shibuya T¹⁾, Matsumoto K, Uchiyama K¹⁾, Tenjin T¹⁾, Yamada N, Tanaka S¹⁾ (¹⁾ Second

- Department of Surgery) : Primary aortoduodenal fistula caused by duodenal tuberculosis without an abdominal aortic aneurysm : Report of a case. Jpn J Surg 1997 ; 27 : 745-748.
- 16) Dang C, Takashi E, Guo F, Naito Ze, Ji Z, Qin Z, Yokoyama M, Asano G : Ultrastructural study of the mechanism of perineural extension in pancreatic cancer. Med Electron Microsc 1998 ; 31 : 31-37.
- 17) Naito Z, Takashi E, Asano G : The role of the heat shock protein in human breast cancer. 中华病理学杂志 1998 ; 27 : 35-39.
- 18) 岡島 雄¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 林 宏光¹⁾, 天野康雄¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (放射線医学) : 坐骨原発の悪性リンパ腫. 日医大誌 1997 ; 64 (4) : 66-68.
- 19) 松倉則夫¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 山下精彦²⁾, 内藤善哉¹⁾ (外科学第一, ²⁾ 千葉北総病院外科) : 胃潰瘍と胃癌. 日医大誌 1997 ; 64 (3) : 1-4.
- 20) 矢島幹久, 成田 稔¹⁾ (国立療養所多磨全生園) : 心臓と血管の病理. 日本ハンセン病学会雑誌 1997 ; 66 (2) : 109-118.
- 21) 松本光司¹⁾, 矢島幹久, 浅野伍朗¹⁾ (第二病院病理部) : 肝臓の病理. 日本ハンセン病学会雑誌 1997 ; 66 (2) : 97-102.
- 22) 郭 方, 喬 炎, 巍 莉娜, 亀山孝二, 石渡俊行, 内藤善哉, 浅野伍朗 : 去勢ラット前立腺における男性ホルモン投与の影響について : その形態計測法による観察, 特に上皮並びに間質細胞と血管の形態変化の推移について. 臨床電顕誌 1997 ; 31 (1) : 41-49.
- 23) 丸山晴久, 白井康正¹⁾, 沢泉卓哉¹⁾, 藤井信人¹⁾, 金田琴恵¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (整形外科) : 内軟骨腫に起因する深指屈筋腱停止部剥離骨折の1症例. 骨・関節・靭帯 1997 ; 10 (3) : 359-362.
- 24) 矢野正雄, 山田宣孝¹⁾, 山本英希²⁾, 相田成隆²⁾, 松本光司¹⁾, 長江 勝²⁾, 小山寿雄²⁾, 渋谷哲夫²⁾, 浅野伍朗¹⁾ (第一病院病理部, ²⁾ 外科学第二) : 画像解析装置を用いた乳癌細胞核異型度の客観的評価と生物学的悪性度との関係. 日外系連合会誌 1997 ; 22 (4).
- 25) 恩田宗彦, 亀山孝二, 浅野伍朗 : 糖尿病における動脈硬化病巣内の蛍光物質の特異性に関する病理学的検討. 脈管学 1997 ; 37 (6) : 279-286.
- 26) 細根 勝¹⁾, 佐藤雅史²⁾, 高間都文²⁾, 久吉隆郎³⁾, 前田昭太郎¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (多摩永山病院病理部, ²⁾ 第二病院放射線科, ³⁾ 第二病院外科) : 胸部の悪性リンパ腫-病理学的特徴と画像診断. 臨床画像 1997 ; 13 : 531-541.
- 27) 町田 稔, 亀山孝二, 浅野伍朗 : 光感受性物質Hematoporphyrinによるヒト大動脈硬化病変と蛍光スペクトルの検討. 脈管学 1997 ; 37 (10) : 799-807.
- 28) 亀山孝二, 町田 稔, 恩田宗彦, 福本裕子, 横山宗伯, 浅野伍朗 : 冠動脈硬化進展過程における疎水性環境の検討 : 特にUnstable Plaqueについて. 脈管学 1997 ; 37 (6) : 279-286.
- 29) 遠藤まゆみ¹⁾, 羽山享宏¹⁾, 井上泰夫¹⁾, 松久威史¹⁾, 山田宣孝¹⁾ (第一病院内視鏡科) : 十二指腸潰瘍と *Helicobacter pylori* 感染 : 背景胃粘膜の観察を含めて. Prog Digest Endoscopy 1997 ; 50 : 236-237.
- 30) 松倉則夫¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 長谷川博一¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 有馬保生¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 山下精彦²⁾, 温 敏³⁾, 山田宣孝, 松久威史⁴⁾ (外科学第一, ²⁾ 千葉北総病院外科, ³⁾ 第一病院病理部, ⁴⁾ 多摩永山病院内視鏡科) : ヘリコバクター・ピロリと胃十二指腸疾患 : 外科の立場より. 日医大誌 1997 ; 64 (5) : 97-100.
- 31) 松倉則夫¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 長谷川博一¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 内藤善哉, 山田宣孝, 京野昭二²⁾, 山下精彦²⁾, 山初順一³⁾ (外科学第一, ²⁾ 千葉北総病院外科, ³⁾ 泉中央病院) : Epstein-Barr virus と *helicobacter pylori* に感染した胃粘膜から発生した多発早期胃癌の1例. 日外系連合会誌 1997 ; 22 (6) : 937-941.
- 32) 松久威史¹⁾, 羽山享宏¹⁾, 飯田章太郎¹⁾, 新井朱音¹⁾, 草間 泉¹⁾, 遠藤まゆみ¹⁾, 吉原一郎¹⁾, 井上泰夫¹⁾, 森洋¹⁾, 山田宣孝¹⁾ (第一病院内視鏡科) : *helicobacter pylori* 除菌療法の評価. Prog Digest Endoscopy 1997 ; 50 : 152-155.

- 33) 松久威史¹⁾, 羽山享宏¹⁾, 飯田章太郎¹⁾, 井上泰夫¹⁾, 森 洋¹⁾, 吉原一郎¹⁾, 新井朱音¹⁾, 山田宣孝⁽¹⁾ 第一病院内視鏡科) : *helicobacter pylori*感染と慢性活動性胃炎. 消化器内視鏡の進歩 1997; 51 : 142-143.
- 34) 前田昭太郎¹⁾, 森山昌樹, 浅野伍朗⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部) : 小唾液腺のplasmacytoid pleomorphic adenoma (所謂plasmacytoid myoepithelioma) の1例. 病院病理 1997; 15 : 1.
- 35) 田中純也, 前田昭太郎¹⁾, 浅野伍朗, 荒木 勤²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 同産婦人科学) : 子宮頸部のサイトケラチンの局在変化と子宮頸癌の浸潤様式との関係. 日医大誌 1998; 65 (1) : 14-33.

(2) 綜説 :

- 1) 内藤善哉, 西垣龍太郎, 川原清子, 石渡俊行 : 一酸化窒素合成酵素の発現と心不全への役割. 日医大誌 1997; 64 (5) : 387-389.

著 書

- 1) 浅野伍朗, 呂 月平, 恩田宗彦 : [分担] 病理学的立場から見た創傷治癒. 創傷管理と治療システム (田澤賢次 編集), 1997; pp40-49, 金原出版.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演 :

- 1) 山村 進¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 井上松応¹⁾, 中村慶春¹⁾, 横山 正¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 小林 匡¹⁾, 山中洋一郎¹⁾, 会田邦晴¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 江上 格¹⁾, 山下精彦¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗⁽¹⁾ 外科学第一) : ハムスター実験腫瘍株 (PGHAM - 1) の同種隣内移植モデルにおける肝転移機序の解明. 第97回日本外科学会総会, 1997. 3.
- 2) 田中宣威¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 古川清憲¹⁾, 樋口勝美¹⁾, 高崎秀明¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 横山滋彦¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 山田岳史¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗⁽¹⁾ 外科学第一) : スードマウス可移植性ヒト直腸 Neuroendocrine cell carcinoma (NECC) 株の樹立と各種薬剤の抗腫瘍効果. 第97回日本外科学会総会, 1997. 3.
- 3) 瀬谷知子¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 田中宣威¹⁾, 金沢義一¹⁾, 古川清憲¹⁾, 樋口勝美¹⁾, 高崎秀明¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 横山滋彦¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 山田岳史¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗⁽¹⁾ 外科学第一) : 大腸癌原発巣および肝転移巣における TGF α , EGF, EGFRおよびVEG α の発現. 第97回日本外科学会総会, 1997. 3.
- 4) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 阿部久美子¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 原 博¹⁾, 河原 清²⁾, 志村俊郎²⁾, 浅野伍朗⁽¹⁾ 多摩永山病院病理部, 2) 脳神経外科学) : 術中迅速細胞診が有用であった Glioblastoma (Gemistocytic type) の1例 : 免疫染色併用. 第38回日本臨床細胞学会総会, 1997. 3.
- 5) 三枝順子¹⁾, 小黑辰夫¹⁾, 清水秀樹¹⁾, 早澤久美¹⁾, 安藤 哲¹⁾, 森 修¹⁾, 大秋美治¹⁾, 小林士郎²⁾, 前田昭太郎³⁾, 浅野伍朗⁽¹⁾ 北総病院病理部, 2) 脳神経外科学, 3) 多摩永山病院病理部) : Secretory meningiomaの細胞像. 第38回日本臨床細胞学会総会, 1997. 3.

(1) 招待講演 :

- 1) Asano G : Roles of nitric oxide synthase in cardiac failure. The IV joint Conference of Internatinal Academy of Pathology Chinese Divison and Chinese Society of Pathology CMA (Shanghai), 1997. 10.

(2) シンポジウム :

- 1) Matsukura N¹⁾, Onda M¹⁾, Tomtitchong O¹⁾, Okawa K¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Matsuhisa T²⁾, Yamada N⁽¹⁾ Department of Surgery, 2) Department of Gastroenterolgy) : Helicobacter pyloli infection in the gastric remnant after gastrectomy for gastric cancer or peptic ulcer : Difference between billroth I and II anastomoses. Washington -Shimoda Symposium : The 7th Taisho International Symposium on

- Gastroenterology (Lansdowne), 1997. 5.
- 2) Matuhisa T¹⁾, Hayama T¹⁾, Iida I¹⁾, Kusama I¹⁾, Arai A¹⁾, Yohihara I¹⁾, Inoue Y¹⁾, Ori H¹⁾, Nakamura H²⁾, Yoshino N²⁾, Yamada N (¹⁾ Department of Gastrointestinal Endoscopy, ²⁾ Department of Joint Disease and Rheumatism) : Evaluation of rebamipide in patients with rheumatoid arthritis under NSAIDs and steroid therapy. International symposium on Inflammation and Mucosal Injury : The 2nd Symposium (Hawaii), 1997. 6.
- (3) 一般講演 :
- 1) Liu A¹⁾, Jin C¹⁾, Ghazizadeh M¹⁾, Wang R¹⁾, Liu Q¹⁾, Inoue K¹⁾, Adachi A¹⁾, Suzuki K¹⁾, Sasaki Y¹⁾, Sato S¹⁾, Kishikawa T¹⁾, Hirohata Y¹⁾, Asano G, Aihara K¹⁾ (¹⁾ WHO Collaborating Center for Research and Training in Diagno) : Case presentation of malignant tumors in children confirmed by electron microscopic diagnosis. National Meeting on Malignant Tumors in Children, 1997.
- 2) Matsukura N, Onda M, Kato S, Hasegawa H, Yoshiyuki T, Yamahatsu J, Yamada N : Two step therapy for *H. pylori* eradication with lansoprazole, amoxicillin and amucosal protective agent : ecabet sodium. American Gastroenterological Association and American Association for the Study of Liver Diseases, 1997. 5.
- 3) Nakamura H¹⁾, Yoshino S¹⁾, Nakajima A¹⁾, Miyamoto Y¹⁾, Matsuhisa T²⁾, Yamada N (¹⁾ Department of Joint Disease and Rhumatism, ²⁾ Department of Gastrointestinal Endoscopy) : Gastroduodenal lesion and helicobacter pylori infection in patients with rheumatoid arthritis. American College of Rheumatology 61st National Scientific Meeting (Washington), 1997. 11.
- 4) 松久威史¹⁾, 羽山享広¹⁾, 井上泰夫¹⁾, 飯田章太郎¹⁾, 新井朱音¹⁾, 草間 泉¹⁾, 吉原一郎¹⁾, 森 洋¹⁾, 山田宣孝 (¹⁾ 第一病院内視鏡科) : *Helicobacter pylori*感染と胃生検部位別にみた組織学的活動性の関連について. 第86回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
- 5) 松久威史¹⁾, 山田宣孝 (¹⁾ 第一病院内視鏡科) : 日本人とタイ人における*Helicobacter pylori*感染の比較観察. 第53回日本消化器内視鏡学会総会, 1997. 4.
- 6) 松久威史¹⁾, 山田宣孝 (¹⁾ 第一病院内視鏡科) : 日本人とタイ人における*Helicobacter pylori*感染の観察. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 7) 今津 修¹⁾, 山崎峰雄²⁾, 大秋美治¹⁾, 浅野伍朗, 中野今治³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院病理部, ²⁾ 内科学第二, ³⁾ 都神経研病理) : Wernike 脳症とCPMを合併し, 脳梁と前交連を主体とする多発点状出血を認めた一剖検例. 第36回日本神経病理学会総会, 1997. 6.
- 8) 亀山孝二, 町田 稔, 恩田宗彦, 横山宗伯, 浅野伍朗 : 冠動脈硬化巣における疎水環境と平滑筋細胞膜変化の蛍光プローブによる検討 (2). 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 9) 福本裕子, 亀山孝二, 恩田宗彦, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗 : 糖尿病を合併した心筋梗塞に見られる冠動脈硬化巣の特異性. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 10) 町田 稔, 亀山孝二, 恩田宗彦, 内藤善哉, 浅野伍朗 : 光感受性物質hematoporphyrinによる動脈硬化病巣の検封. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 11) 王 若皎, 工藤光洋, 内藤善哉, 浅野伍朗 : STZ糖尿病ラット血清による培養大動脈平滑筋細胞の増殖制御. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 12) 飯田竹美, 田村浩一¹⁾, 浅野伍朗 (¹⁾ 付属病院病理部) : 大動脈弁floppy valveの検討. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 13) 徐 光, 喬 炎, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗 : ラット心筋細胞における虚血後再環流傷害の発生機序. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.

- 14) 工藤光洋, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗: クエルセチン, カテニンの熱ショック蛋白発現に対する影響. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 15) 丸山晴久, 白井康正¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 細根 勝²⁾, 片山博徳²⁾, 勝山 努³⁾, 浅野伍朗 (1) 多摩永山病院病理部, 2) 整形外科, 3) 信州大学中央検査部): 骨肉腫の免疫組織化学的検討. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 16) 内藤善哉, 横山宗伯, 松倉則夫¹⁾, 浅野伍朗 (1) 外科学第一): 胃癌組織および腸上皮化生粘膜における染色体不安定性ならびに関連遺伝子産物の発現に関する臨床病理学的検討. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 17) 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 江上 格²⁾, 会田邦晴²⁾, 長江 康, 浅野伍朗 (1) 多摩永山病院病理部, 2) 多摩永山病院外科): 胃巨大皺壁症をきたしたmantle cell lymphoma の1例. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 18) 温 敏¹⁾, 相田成隆¹⁾, 山田宣孝 (1) 第一病院病理部): *Helicobacter pylori*除菌結果の病理組織学的検討. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 19) 山田宣孝, 相田成隆¹⁾, 温 敏¹⁾ (1) 第一病院病理部): 日本人とタイ人, 中国人における胃炎像の病理組織学的比較: *Helicobacter pylori*感染と胃炎の関係を中心として. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 20) 松久威史¹⁾, 羽山享広¹⁾, 飯田章太郎¹⁾, 草間 泉¹⁾, 井上泰夫¹⁾, 森 洋¹⁾, 吉原一郎¹⁾, 新井朱音¹⁾, 山田宣孝 (1) 第一病院内視鏡科): *Helicobacter pylori*感染と慢性活動性胃炎. 第64回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 6.
- 21) 長江 康, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 亀山孝二, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗 (1) 多摩永山病院病理部): 乳癌におけるカドヘリンとc-erbB2発現の意義. 第5回日本乳癌学会総会, 1997. 7.
- 22) 平本義浩¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 池田研吾¹⁾, 瀧田雅仁¹⁾, 白川 毅¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (1) 外科学第一): 胃内分泌細胞癌における血管新生因子 (TdRPase, VEGF) の検討. 第50回日本消化器外科学会, 1997. 7.
- 23) 相本隆幸¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 山村 進¹⁾, 中村慶春¹⁾, 井上松応¹⁾, 横山 正¹⁾, 山中洋一郎¹⁾, 会田邦晴¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 江上 格¹⁾, 山下精彦¹⁾, 内藤善哉, 杉崎祐一²⁾, 浅野伍朗 (1) 外科学第一, 2) 付属病院病理部): ヒト膵癌の腫瘍血管新生に関する検討-第VIII因子関連抗原およびVEGFの免疫組織化学的解析から. 第50回日本消化器外科学会, 1997. 7.
- 24) 石川直樹¹⁾, 吉野慎一¹⁾, 中村 洋¹⁾, 志賀弘明¹⁾, 永島正一¹⁾, 横山宗伯, 浅野伍朗 (1) 付属病院リウマチ科): 関節リウマチ滑膜におけるNOS発現について. 第41回日本リウマチ学会総会, 1997. 7.
- 25) 王 若皎, 工藤光洋, 内藤善哉, 横山宗伯, 浅野伍朗: STZ投与ラット血清による培養大動脈平滑筋細胞の増殖動態の観察. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 26) 何 群, 大秋美治, 森 修, 喬 炎, 浅野伍朗 (1) 千葉北総病院病理部): 大腸癌の壁内浸潤先端における腫瘍組織のapoptosisの発現の解析. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 27) 喬 炎, 徐 光, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗: 新しい心筋虚血: 再環流動動物モデルの開発: 心筋梗塞病態解析の試み. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 28) 秦 漢娟¹⁾, 何 群¹⁾, 森 修¹⁾, 大秋美治¹⁾, 小黑辰夫¹⁾, 清水秀樹¹⁾, 早澤久美¹⁾, 三枝順子¹⁾, 安藤哲¹⁾, 森山雄吉²⁾, 浅野伍朗 (1) 千葉北総病院病理部, 2) 外科学第一): 高度な血管病変を伴う肉芽腫性乳腺炎の1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 29) 内田英二¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 中村慶春¹⁾, 横山 正¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 小林 匡¹⁾, 山中洋一郎¹⁾, 会田邦春¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 江上 格¹⁾, 山下精彦¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (1) 外科学第一): 膵腸吻合不全と残存機能: Octreotideの投与効果. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 30) 山村 進¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 中村慶春¹⁾, 横山 正¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 小林 匡¹⁾, 山中洋一郎¹⁾, 会田邦春¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 江上 格¹⁾, 山下精彦¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (1) 外科学第一): TNP-470のハムスターの実験膵癌における抗腫瘍効果の検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.

- 31) 巍 莉娜, 郭 方, 喬 炎, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗: 前立腺の去勢後男性ホルモン投与後の間質変化. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 32) 本田治久¹⁾, 福生吉裕¹⁾, 赫 彰郎¹⁾, 秋丸琥甫²⁾, 龟山孝二, 片山博徳³⁾ (¹⁾ 内科学第二, ²⁾ 実験動物管理室, ³⁾ 多摩永山病院病理部): 粥状硬化形成における胸腺の役割: ウサギ大動脈での免疫組織化学的/生化学的検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 33) 平本義浩¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 池田研吾¹⁾, 瀧田雅仁¹⁾, 白川 毅¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (¹⁾ 外科学第一): 胃内分泌細胞癌の3例. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 34) 内藤善哉, 横山宗伯¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 浅野伍朗 (¹⁾ 外科学第一): 胃癌組織および腸上皮化生粘膜における染色体不安定性ならびに関連遺伝子産物の発現に関する臨床病理学的検討. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 35) 山村 進¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 中村慶春¹⁾, 井上松応¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 小林 匡¹⁾, 山中洋一郎¹⁾, 田尻孝¹⁾, 山下精彦¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (¹⁾ 外科学第一): ハムスター実験腫瘍におけるTNP - 470の抗腫瘍効果の検討. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 36) 長江 康, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 龟山孝二, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗 (¹⁾ 多摩永山病院病理部): 乳癌におけるカドヘリンとc-erbB2発現の意義. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 37) 相本隆幸¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 内田英二¹⁾, 山村 進¹⁾, 中村慶春¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内藤善哉, 杉崎裕一²⁾, 浅野伍朗 (¹⁾ 外科学第一, ²⁾ 付属病院病理部): ヒト腫瘍における腫瘍血管新生の免疫組織化学的検討. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 38) 田中宜威¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 古川清憲¹⁾, 樋口勝美¹⁾, 高崎秀明¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 横山滋彦¹⁾, 山田岳史¹⁾, 高橋由至¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (¹⁾ 外科学第一): 大腸癌原発巣および肝転移巣におけるVEGF, dThdPase の発現. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 39) 杉浦 篤¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 田中宜威¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 古川清憲¹⁾, 高崎秀明¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 山田岳史¹⁾, 高橋由至¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (¹⁾ 外科学第一): 大腸癌におけるdThdPase の発現. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 40) 党 誠学, 喬 炎, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗: 腫瘍の神経内浸潤機序についての形態学的検討. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 41) 瀬谷知子¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 田中宜威¹⁾, 古川清憲¹⁾, 高崎秀明¹⁾, 高橋由至¹⁾, 内藤善哉, 浅野伍朗 (¹⁾ 外科学第一): 大腸癌原発巣および肝転移巣におけるHCGと増殖因子の発現. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 42) 小黒辰夫¹⁾, 清水秀樹¹⁾, 早澤久美¹⁾, 三枝順子¹⁾, 安藤 哲¹⁾, 森 修¹⁾, 大秋美治¹⁾, 浅野伍朗 (¹⁾ 千葉北総病院病理部): 腹水中に認められた細胞質内小腺腔 (ICLs) をもつ腫瘍細胞の超微形態学的観察: ICLsの形成過程を中心に. 第36回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会, 1997. 9.
- 43) 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 浅野伍朗 (¹⁾ 多摩永山病院病理部): 捺印細胞診が極めて有用であったaggressive NK - cell lymphomaと考えられる1例. 第36回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会, 1997. 9.
- 44) 藤井雄文, 孫 攻, 西垣龍太郎, 郭 方, 西海けい子, 手塚 潔, 河本陽子, 川原清子, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗: 糖尿病性組織障害の発生機序, 特に血管におけるAGEの局在と微細構造変化. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会, 1997. 9.
- 45) 徐 光, 喬 炎, 巍 莉娜, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗: 糖尿病ラット心臓における心筋細胞の虚血傷害の電顕的観察. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会, 1997. 9.
- 46) 松久威史¹⁾, 羽山享広¹⁾, 飯田章太郎¹⁾, 草間 泉¹⁾, 井上泰夫¹⁾, 森 洋¹⁾, 吉原一郎¹⁾, 新井朱音¹⁾, 山田宣

- 孝⁽¹⁾ 第一病院内視鏡科)：*Helicobacter pylori*像からみた背景胃粘膜の胃炎像。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 47) 井上泰夫¹⁾，松久威史¹⁾，山田宣孝⁽¹⁾ 第一病院内視鏡科)：Sydney systemにより診断した組織学的胃炎：*Helicobacter pylori*感染の観点より。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 48) 権田昌洋¹⁾，森 洋¹⁾，松久威史¹⁾，温 敏²⁾，山田宣孝⁽¹⁾ 第一病院内視鏡科，²⁾ 第一病院病理部)：The sydney system を用いた組織学的胃炎：*Helicobacter pylori*感染の診断基準。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 49) 恩田宗彦，亀山孝二，町田 稔，浅野伍朗：動脈硬化病巣内のセロイド様蛍光物質の形成についての検討：特に糖尿病症例での検討。第38回日本脈管学会総会，1997. 10.
- 50) 西垣龍太郎，横山宗伯，内藤善哉，浅野伍朗，菅沼真澄¹⁾，七戸和博¹⁾ (¹⁾ 実験動物管理室)：高血糖スナネズミにおけるNOSとAGEの局在の推移。第38回日本脈管学会総会，1997. 10.
- 51) 町田 稔，亀山孝二，横山宗伯，内藤善哉，浅野伍朗：ヒトの大動脈硬化病巣における細胞障害とhematoporphyrinの蛍光スペクトルの特異性。第38回日本脈管学会総会，1997. 10.
- 52) 亀山孝二，町田 稔，恩田宗彦，浅野伍朗：冠動脈硬化巣でのUnstable Plaque への進展機序。第38回日本脈管学会総会，1997. 10.
- 53) 孫 攻，横山宗伯，工藤光洋，亀山孝二，石渡俊行，内藤善哉：糖尿病性血管障害の発生に関する研究：特にAGE蓄積とRAGEの発現の意義について。第38回日本脈管学会総会，1997. 10.
- 54) 西垣龍太郎，横山宗伯，内藤善哉，浅野伍朗，菅沼真澄¹⁾，七戸和博¹⁾ (¹⁾ 実験動物管理室)：高血糖スナネズミにおける一酸化窒素合成酵素 (NOS) と後期糖化生成物 (AGE) の局在と動脈変化。平成9年日本動脈硬化学会度冬季大会，1997. 11.
- 55) 松久威史¹⁾，羽山享広¹⁾，井上泰夫¹⁾，森 洋¹⁾，権田昌洋¹⁾，飯田章太郎¹⁾，吉原一郎¹⁾，新井朱音¹⁾，山田宣孝⁽¹⁾ 第一病院内視鏡科)：年齢層別にみた*Helicobacter pylori*感染活動性scoreとの関連性。第65回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1997. 12.
- 56) 日下部史郎，羽山享広，権田昌洋，井上泰夫，飯田章太郎，森 洋，吉原一郎，新井朱音，松久威史，山田宣孝⁽¹⁾ 多摩永山病院内視鏡科)：シメチジンを用いた*Helicobacter pylori*に対する3剤除菌療法の検討。日本医科大学医学会第94回例会，1998. 2.

10. 微生物学・免疫学講座

研究概要

新任教授が本年度半ばに選出され新体制となったため、研究の様相も従来より教室の中心の仕事であった「肝臓の免疫学」から、感染症学および感染免疫学、腫瘍免疫学あるいはアレルギー・膠原病学などへと移行してきている。

感染症学および感染免疫学：[A] エイズウイルスに対する免疫応答の検討とワクチン開発：(1) インフルエンザウイルスHA遺伝子内にエイズウイルス遺伝子を組み替えマウスを免疫したところ、エイズ特異的キラーT細胞が効率よく誘発されることを見いだした。(2) マウスエイズ (MAIDS) ウイルスに対するキラーT細胞の認識部位を決定した。(3) 遺伝子銃 (gene gun) を用いた細胞性免疫賦活法を検討するとともに、(4) 千葉大学との共同研究で作成された、エイズ特異的キラーT細胞のT細胞レセプターを発現したトランスジェニックマウス (Tg) にウイルスを投与し、その制御に関わる免疫の本体を探っている。[B] (1) ヘリコバクター・ピロリ菌による胃炎発症が、胃粘膜におけるピロリ菌と菌体毒素であるウレアーゼに対するIgA抗体との反応によって誘発される可能性を突き止め、(2) このウレアーゼに対する免疫応答の詳細、および抗体産生と胃炎発症との関係をウレアーゼをモデルマウスに接種することによって検討している。[C] 麻疹ウイルスの持続感染を免疫抑制剤であるシクロスポリンが助長することを見いだした。[D] MRSAなどの薬剤耐性菌による院内感染を防止する目的で、疫学調査、耐性獲得機序の解明を検討している。

腫瘍免疫学：(1) 肝臓癌細胞特異的キラーT細胞が、肝臓癌より抽出したペプチド抗原を認識していること、またこのキラーT細胞を移入した担癌マウスにおいて癌細胞の増殖が抑制されることから、現在このペプチドを用いた癌ワクチンの研究に着手している。(2) さらに、こうした肝臓癌細胞から放出される α -フェトプロテイン、ならびにこの蛋白と類似構造を有するアルブミンに対する免疫応答を検討し、癌化の過程を制御する免疫応答を検討している。

アレルギー・膠原病学：[A] (1) 食物アレルギーのメカニズムを解析し、こうしたアレルギー性疾患に対する漢方薬などの薬理効果を検討している。(2) また、卵白特異的なヘルパーT細胞のレセプターを発現したTgが卵白に対するアレルギーを誘発することを見だし、このモデルマウスを用いたアレルギーの制御法の研究に着手している。[B] ウシII型コラーゲンによる慢性関節炎発症モデルを用い、自己免疫発症の機序ならびにその制御法を検討している。

肝臓の免疫学：(1) スーパー抗原に対する肝内リンパ球応答の特徴、(2) ならびに肝実質細胞の放出するIL-5を介したIgA産生優位の状態にあることを見だし、(2) こうした肝内リンパ球を用いた免疫寛容の誘導法を検討している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Sugiyama H, Papst P¹⁾, Fujita M¹⁾, Kakumu S¹⁾, Terada N¹⁾ (1) National Jewish Center for Immunology and Respiratory Medicine) : Overexpression of wild type p70 S6 kinase interferes with cytokinesis. *Oncogene* 1997 ; 15 : 443-452.
- 2) Sugiyama H, Chen P¹⁾, Hunter M¹⁾, Sitkovsky M¹⁾ (1) NIH, NIAID Laboratory of Immunology) : Perturbation of the expression of the catalytic subunit C alpha of cyclic AMP-dependent protein kinase inhibits TCR-triggered secretion of IL-2 by T helper hybridoma cells. *Journal of Immunology* 1997 ; 158 : 171-179.
- 3) Watari E, Yokomuro K : The effect of cyclosporin A on the polykaryocyte formation induced by measles

virus in a monkey kidney cell line. *Jpn J Sci Biol* 1997; 50 : 79-85 .

- 4) Takahashi M, Watari E : Production of B cell differentiation factors by mouse parenchymal liver cells. *Immunol Cell Biol* 1997 ; 75 : 575-579.
- 5) Matusi S, Terabe M, Mabuchi A, Takahashi M, Saizawa M, Tanaka S¹⁾, Yokomuro K (¹⁾ 日本医科大学外科学第二) : A unique response to Staphylococcal Enterotoxin B by intrahepatic lymphocytes and its relevance to the induction of tolerance in the liver. *Scand J Immunol* 1997 ; 46 : 230-234.
- 6) Sung-Tae Y, Abe E, Okada Y, Matsuura Y, Takebe Y, Ogasawara K, Takahashi H, Mizuochi T : A polypeptide encoded within the murine AIDS defective virus stimulates primary proliferation of CD8+ T cells. *Immunol Lett* 1997 ; 55 : 93-98.
- 7) Takahashi H : Predominant priming of epitope-specific CD8+CTL with recombinant vaccinia virus expressing an immunodominant epitope of HIV-1 envelope protein within an influenza hemagglutinin cassette. *AIDS Res Newslett* 1997 ; 11 : 116-117.
- 8) Kurane S¹⁾, Watari E, Krauss JC²⁾, Kudoh S¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学第4, ²⁾ ミシガン大学) : Vaccination with interleukin 2 gene-transfected-tumor induced tumor-reactive lymphocytes in the local lymph nodes of tumor-bearing immunocompromised mice. *Biomedical Research (Tokyo)* 1997 ; 18 (6) : 413-422.
- 9) Shida K¹⁾, Makino K, Morishita, A, Takamizawa K, Hachimura S, Ametani A, Sato T, Habu S, Kumagai Y, Kaminogawa S (¹⁾ 東京大学応用生命科学) : Lactobacillus casei inhibits antigen-induced IgE secretion through regulation of cytokine production in murine splenocyte culture. *Int Archive Allergy and Immunol* 1998 ; 115 : 278-287.
- 10) 小笠原浩明, 渡理英二, 白井康正¹⁾, 横室公三 (¹⁾ 日本医科大学整形外科学) : II型コラーゲンの門脈内投与によるコラーゲン誘導関節炎抑制効果. *日医大誌* 1997 ; 64 : 14-18.

(2) 総説 :

- 1) 高橋秀実 : 生体防御機構としての免疫システム (6) 粘膜免疫と局所防衛. *治療* 1997 ; 79 : 1305-1311.
- 2) 高橋秀実 : ウイルス抗原に対する細胞性免疫応答の分子生物学的解析. *生物物理* 1997 ; 37 : 111-115.
- 3) 高橋秀実 : 生体防御機構としての免疫システム (7) 微生物と免疫応答. *治療* 1997 ; 79 : 1753-1758.
- 4) 高橋秀実 : T細胞の抗原認識と免疫調節 : ペプチドによるCTL活性の抑制. *免疫* 1997-98 1997 ; 174-181.
- 5) 高橋秀実 : 生体防御機構としての免疫システム (8) 腫瘍に対する免疫応答. *治療* 1997 ; 79 : 2131-2136.
- 6) 中川洋子, 高橋秀実 : 耐性ウイルスの出現機序と臨床HIV. *臨床と研究* 1997 ; 74 : 2239-2244.
- 7) 高橋秀実 : 生体防御機構としての免疫システム (9) 免疫寛容の破綻と自己免疫. *治療* 1997 ; 79 : 2527-2532.
- 8) 高橋秀実 : ウイルス感染に対する細胞性免疫応答—その賦活と抑制. *日医大誌* 1997 ; 64 : 586-588.
- 9) 竹内良夫 : 毒素産生大腸菌O-157の基礎知識. *日医大誌* 1997 ; 64 : 569-573.
- 10) 熊谷善博 : これからのクローン作製技術のゆくえ. *新医療* 1997 ; 12 : 18-19.
- 11) 高橋秀実 : 可溶性抗原ペプチドによるキラーT細胞の抑制. *臨床免疫* 1998 ; 30 : 139-145.
- 12) 高橋秀実 : 生体防御機構としての免疫システム (10) 臓器移植と免疫抑制. *治療* 1998 ; 80 : 161-166.
- 13) 二神生爾, 高橋秀実 : 胃炎の慢性化の機序について. *消化器科* 1998 ; 26 : 41-46.
- 14) 高橋秀実 : 生体防御機構としての免疫システム (11) 免疫反応としてのアレルギー. *治療* 1998 ; 80 : 1447-1453.

(3) 研究報告書 :

- 1) 熊谷善博 : 科学技術振興事業団さきがけ研究21「遺伝と変化」研究報告書. 科学技術振興事業団さきがけ研究21「遺伝と変化」研究報告書 1998 ; pp109-177.
- 2) 熊谷善博 : 平成9年度エイズ医薬品等開発研究報告書 (財団法人ヒューマンサイエンス振興財団). HIV研究—2

1998 ; pp153-171.

- 3) 高橋秀実, 中川洋子: HIV特異的キラーT細胞の選択的賦活に関する研究. 平成9年度厚生省厚生科学研究費補助金 (HIV感染/AIDSの感染病態とその生体防御に関する研究班) 研究成果報告書 1998 ; pp72-76.

著書

- 1) Mabuchi A, Ikeda M, Watari E, Yokomuro K : [共著] Growth control of primary culture hepatocytes by nonparenchymal liver cells : Role of interferon produced by liver sinusoidal cells. Cells of the Hepatic Sinusoid 5, 1997 ; pp360-362, Kupffer cell Foundation.
- 2) 杉山弘高 : [分担] ヘモクロマトーシス. 肝臓病の治療 (織田敏次編), 1997 ; p320, PHP出版.
- 3) 高橋秀実 : [分担] 感染防御免疫 2) ウイルス感染とCTL. メディカル用語ライブラリー (ウイルス・細菌感染症) (永井美之, 渡邊治雄編), 1997 ; pp135-138, 羊土社.
- 4) 高橋秀実 : [分担] HIV感染における細胞性免疫応答. HIV/AIDS研究はいま : 基礎研究の立場から (第11回「大学と科学」公開シンポジウム組織委員会編), 1997 ; pp119-131, クバプロ.
- 5) 馬淵綾子, 北島真澄, 寺部正記, 垣内史堂¹⁾, 横室公三 (¹⁾ 東邦大学医学部免疫学教室) : [共著] hematolymphoid system としての肝臓の研究 : 初代培養肝実質細胞により骨髄細胞から分化誘導した膠着性 Mac-1+細胞の抑制活性について. 肝類洞壁細胞研究の進歩 10, 1997 ; pp119-121, 国際医書出版.
- 6) 寺部正記, 林 晃一, 松井 聡, 馬淵綾子, 横室公三 : [共著] スーパー抗原SEBの投与により誘導される肝内リンパ球 (IHL) のIL-2低応答性について. 肝類洞壁細胞研究の進歩 10, 1997 ; pp115-118, 国際医書出版.
- 7) 熊谷善博 : [自著] 複製人間クローン. 複製人間クローン, 1997 ; 飛鳥新社.
- 8) 熊谷善博 : [分担] 対立遺伝子排除. KEY WORD, 1997 ; pp132-133, 先端医学社.
- 9) 熊谷善博 : [分担] 抗原受容体. KEY WORD, 1997 ; pp74-75, 先端医学社.
- 10) 熊谷善博 : [自著] クローン研究-人間はどこへ行くのか. 季刊仏教「生命倫理」, 1997 ; 法蔵館.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 高橋秀実 : HIV感染の現況. 岩手医科大学第4回血液院内セミナー, 1997. 4.
- 2) 竹内良夫 : O-157の基礎と臨床. 日本医師会生涯教育講座, 1997. 5.
- 3) 高橋秀実 : ウイルス感染に対する細胞性免疫応答—その賦活と抑制. 日本医科大学第65回医学会総会, 1997. 7.
- 4) 高橋秀実 : エイズの現況とその対策. 東京癌化学療法研究会第64回セミナー, 1997. 11.
- 5) 高橋秀実 : エイズウイルスと宿主との攻防. 東京フォーラム, 1997. 12.
- 6) 高橋秀実 : HIVに対する細胞性免疫の制御. 第598回京都大学ウイルス研究所セミナー, 1998. 1.

(2) 招待講演 :

- 1) 竹内良夫 : 食物アレルギー. 記者クラブ招待講演, 1997. 5.
- 2) 竹内良夫 : アレルギー性腸炎. 腸管機能研究会, 1997. 7.

(3) シンポジウム :

- 1) Takahashi H : Effect and analysis of DNA vaccination to prime HIV-1 specific CD8⁺CTL using gene gun method. Japan-US Cooperative Medical Science Program. The 10th Joint Scientific Meeting of AIDS (Williamsburg, Virginia, U.S.A), 1998. 3.
- 2) 高橋秀実 : サブコンポーネントワクチン. 第1回日本ワクチン学会総会, 1997. 12.
- 3) 熊谷善博 : 抗体超可変部を利用したヒト免疫不全ウイルス多変異エピトープライブラリーの創製. さきがけ研究21シンポジウム「分子生物学の最前線」, 1997. 12.

- 4) 熊谷善博：抗体を利用したHIVワクチンの設計。さきがけ研究21「遺伝と変化」領域シンポジウム，1998。1。
- 5) 高橋秀実：ウイルスとホストとの攻防—共存への模索。東京大学公開シンポジウム「ホメオスタシスの現在」，1998。2。
- (4) 一般講演：
- 1) Sugiyama H, Papst P¹⁾, Fujita M¹⁾, Gelfand E¹⁾, Terada N¹⁾ (¹⁾ National Jewish Center for Immunology and Respiratory Medicine) : Expression ribosomal S6 kinase perturbates cell growth and inhibits cytokinesis. International Meeting of International Society of Biochemistry and Molecular Biology (San Francisco), 1997.
 - 2) Takeshita T¹⁾, Takahashi H, Nakagawa Y, Araki T¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学産婦人科学) : Pregnancy and cell adhesion molecules : Prevention of spontaneous fetal resorption by treatment with anti-adhesion molecule antibodies. 第27回日本免疫学会総会, 1997. 12.
 - 3) 中塚雄久, 高橋秀実, 杉山弘高, 中川洋子, 野呂瀬嘉彦, 金沢秀典¹⁾, 黒田 肇¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学第三) : B7-1発現肝細胞癌株を用いて誘導した肝細胞癌特異的キラーT細胞の性状および in vivoにおける抗腫瘍効果。第33回日本肝臓学会総会, 1997. 4.
 - 4) 二上生爾¹⁾, 高橋秀実 (¹⁾ 日本医科大学第三内科学) : *Helicobacter pylori* (HP) 感染に起因した胃炎慢性化の組織血清学的検討 : HPウレアーゼに対する抗体ならびにその産生細胞の追跡。第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
 - 5) 竹内良夫, 西村葉子, 水谷祐子 : 鶏卵の持つ抗原性の相違について。日本アレルギー学会春季臨床大会, 1997. 5.
 - 6) 水谷裕子, 竹内良夫, 西村葉子, 栗山純一 : 食物抗原の皮膚移行に関する基礎的検討。日本アレルギー学会春季臨床大会, 1997. 5.
 - 7) 竹内良夫, 水谷裕子, 西村葉子, 栗山純一 : 食物アレルギーモデルにおける漢方薬の有効性について。日本アレルギー学会春季臨床大会, 1997. 5.
 - 8) 渡理英二 : 麻疹ウイルスによる多核巨細胞形成に及ぼすシクロスポリンAの影響。第45回日本ウイルス学会, 1997. 9.
 - 9) 横須賀忠¹⁾, 高橋秀実, 高瀬 完, 中川洋子, 斉藤 隆¹⁾ (¹⁾ 千葉大学医学部高次機能制御研究センター遺伝子情報分野) : HIVgp120特異的TCRトランスジェニックマウスの確立とその反応特異性。第27回日本免疫学会総会, 1997. 10.
 - 10) 中川洋子, 中塚雄久, 高橋秀実 : オブアルブミン (OVA) 由来ペプチドをパルスした樹状細胞の免疫による抗原特異的キラーT細胞の誘導及びそのin vivoにおける抗腫瘍効果について。第27回日本免疫学会総会, 1997. 10.
 - 11) 中塚雄久, 杉山弘高, 中川洋子, 高橋秀実 : 肝細胞癌特異的CTLが認識するclass-I MHC分子結合peptideの分離及び解析。第27回日本免疫学会総会, 1997. 10.
 - 12) 高橋秀実, 中川洋子, Berzofsky J¹⁾ (¹⁾ 米国国立癌研究所) : 浮遊ペプチド抗原によるキラーT細胞の制御 (III) Anergyの誘発とその解析。第27回日本免疫学会総会, 1997. 10.
 - 13) 津久井拓, Alexander-Miller M¹⁾, Parker K²⁾, Pendleton D¹⁾, Coligan J²⁾, 高橋秀実, Berzofsky J¹⁾ (¹⁾ 米国国立癌研究所, ²⁾ 米国アレルギー感染症研究所) : HIV-1 env抗原由来のペプチドP18を認識するHLA-A2.1拘束性キラーT細胞の誘導とエピトープの解析。第27回日本免疫学会総会, 1997. 10.
 - 14) 馬淵綾子, 北島真澄, 寺部正記, 垣内史堂¹⁾, 横室公三 (¹⁾ 東邦大学医学部免疫学教室) : 免疫学的寛容の誘導における肝臓の役割—ConAの静注後, 肝臓内に出現する抑制性細胞の機能と性状。第27回日本免疫学会総会, 1997. 10.
 - 15) 高橋めぐみ, 渡理英二, 馬淵綾子 : 肝臓におけるサイトカインのmRNA発現の定量的解析。第27回日本免疫学

会総会, 1997. 10.

- 16) 佐藤健人¹⁾, 布施 聡¹⁾, 穂積勝人¹⁾, 佐藤千春¹⁾, 亀谷美恵¹⁾, 熊谷善博, 岸原健二²⁾, 西村孝司¹⁾, 垣生園子¹⁾
(¹⁾ 東海大学医学部免疫学, ²⁾ 九州大学生体防御医学研究所免疫学) : 胸腺細胞の増殖/細胞死制御における CD45 の役割. 第27回日本免疫学会総会, 1997. 10.
- 17) 橋口昌章¹⁾, 八村敏志¹⁾, 飴谷章夫¹⁾, 佐藤健人²⁾, 熊谷善博, 垣生園子²⁾, 上野川修一¹⁾ (¹⁾ 東京大学応用生命化学, ²⁾ 東海大学医学部免疫学) : TCRトランスジェニックマウスを用いたパリエル板T細胞のサイトカイン分泌応答の解析. 第27回日本免疫学会総会, 1997. 10.
- 18) 好田 正¹⁾, 八村敏志¹⁾, 衣笠文貴¹⁾, 飴谷章夫¹⁾, 佐藤健人²⁾, 熊谷善博, 垣生園子²⁾, 上野川修一¹⁾ (¹⁾ 東京大学応用生命化学, ²⁾ 東海大学医学部免疫学) : in vivo で経口抗原を獲得したパリエル板細胞の抗原提示能の解析. 第27回日本免疫学会総会, 1997. 10.
- 19) 齊藤哲也¹⁾, 加藤貴志¹⁾, 三井健一¹⁾, 熊谷善博, 佐藤健人²⁾, 垣生園子²⁾, 松島瑞子¹⁾, 稲田祐二¹⁾, 西村裕之¹⁾
(¹⁾ 桐蔭横浜大人間科学工学センター, ²⁾ 東海大学医学部免疫学) : ポリエチレングリコール (PEG) 修飾抗原による抗原特異的な免疫寛容の誘導. 第27回日本免疫学会総会, 1997. 10.
- 20) 高橋秀実, 千葉 充¹⁾, 加藤恵子¹⁾, 中川洋子, 飯沼久恵²⁾, 根路銘国昭³⁾ (¹⁾ 日清製油医薬品部, ²⁾ 帝京大学医学部第二外科, ³⁾ 国立感染症研究所ウイルス第一部) : 細胞性免疫を優位に活性化するワクチンの開発 : HIV-1 V3 (P18) 挿入インフルエンザHAキメラ遺伝子を組み換えたワクチニアウイルスの効果. 第11回日本エイズ学会総会, 1997. 12.
- 21) 竹内良夫, 西村葉子, 水谷裕子, 植松厚夫 : アレルギー性腸炎に対する漢方薬の効果. 博多シンポジウム, 1998. 1.

11. 衛生学・公衆衛生学講座

研究概要

今年度は南が当教室を主宰して初めて教室員が一丸となって研究に専念した年のように思える。それぞれがテーマを持ってそれぞれの研究に従事した記念すべき年であった。1985年以来12年目にして研究のオリエンテーションができてきた。研究と言うものは、その成果を論文にはじめてその真価が世に問われるものでありどんな素晴らしい研究もその成果を論文にせねば意味をもたない。査読のある英文雑誌に原著論文として投稿することが、研究者としての使命である。例えどんなに価値観が異なるにせよ原著論文を書けないものは研究者ではないし教育者でも有り得ないと思う。日本の大学は教育についての評価指標が存在しないと云って良いが、少なくとも良心的に自分の研究を行っている者は、教育もきちんと出来ると言う考え方が有る。その意味で当教室もやっと一人前になったと思われる。もちろん、すべての者が研究者としての条件を備えているわけではないが教室のオリエンテーションが確固となってきた事を喜びたい。遅れず、休まず、働かずと言ういわゆる役人が日常行っている三ズをしている上、論文も書けずと言う四ズの者が一名、存在する。この者は南が教室スタッフに任命したわけではなく前任者が任命したものであるが、いまやこの者が教室のオピニオン・リーダーでなくなっていることを喜びたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Minami M, Hui D-M, Katsumata M, Inagaki H, Boulet CA¹⁾ (¹⁾ Defense Research Establishment Suffield, Canada) : Method for the analysis of the methylphosphonic acid metabolites of sarin and its ethanol-substituted analogue in urine as applied to the victims of the Tokyo sarin disaster. *J Chromatogr B* 1997 ; 695 (2) : 237-244.
- 2) Li Q, Minami M : Sister chromatid exchanges of human peripheral blood lymphocytes induced by *N,N*-diethylaniline in vitro. *Mutation Res* 1997 ; 395 (2-3) : 151-157.

(2) 綜説：

- 1) Minami M : Does industrial and environmental toxicology have relevance to forensic toxicology?. *J Toxicol-Toxin Reviews* 1998 ; 17 (1) : 39-55.

著書

- 1) Minami M, Hui D-M, Wang Z, Katsumata M, Inagaki H, Li Q, Cao G, Inuzuka S¹⁾, Mashiko K¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Otsuka T¹⁾, Boulet CA²⁾, Clement JG²⁾ (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School, ²⁾ Defense Research Establishment Suffield, Canada) : [分担] Clinical observation of the patient intoxicated with contaminated warfare gases in Tokyo sarin disaster. *Current Topics in Forensic Science : Proceedings of the 14th Meeting of the International Association of Forensic Sciences* (Edited by T Takatori and A Takasu) , Vol 2, 1997 ; pp247-250, Shuderson, Ottawa.

学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) Minami M, Hui D-M, Wang Z, Katsumata M, Inagaki H, Li Q, Inuzuka S¹⁾, Mashiko K¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Otsuka T¹⁾, Boulet CA²⁾, Clement JG²⁾ (¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine,

Nippon Medical School, ²⁾ Defense Research Establishment Suffield, Canada) : Biological monitoring of metabolites of sarin and its by-products in human urine samples. The 1st International Conference of Asian Society of Toxicology (Yokohama), 1997. 6.

(2) 一般講演 :

- 1) Li Q, Minami M, Hanaoka T¹⁾, Yamamura Y¹⁾ (¹⁾ Institute for Science of Labor) : Effect of *p*-chloronitrobenzene on immunophenotyping of murine splenocytes by flow cytometry. International Symposium on Occupational, Environmental Allergy and Immune Diseases (Shenyang), 1997. 9.
- 2) 恵 答美, 南 正康, 稲垣弘文 : サリン被曝者の代謝物質中フッ素の測定方法についての検討. 第67回日本衛生学会総会, 1997. 4.
- 3) 王 志玉, 南 正康 : DialkylmethylphosphonatesによるAChE/ChEの阻害. 第67回日本衛生学会総会, 1997. 4.
- 4) 李 卿, 南 正康 : *In vitro*法を用いる*N,N*-diethylanilineによる末梢全血のSCE誘発実験. 第70回日本産業衛生学会, 1997. 4.
- 5) 後藤紀子, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 南 正康 : ヘッドスペース・GC/MSを用いた尿中クレゾールの測定. 第70回日本産業衛生学会, 1997. 4.
- 6) 李 卿, 南 正康, 花岡知之¹⁾, 山村行夫¹⁾ (¹⁾ 労働科学研究所) : 無水トリメリット酸による接触性感作反応. 第5回日本職業アレルギー学会総会, 1997. 7.
- 7) 三浦真紀, 稲垣弘文, 南 正康 : 有機硝酸エステルの脳内セロトニン代謝への影響. 第70回日本生化学会大会, 1997. 9.
- 8) 稲垣弘文, 南 正康 : 抗馬尿酸モノクローナル抗体の作成とその性質. 第70回日本生化学会大会, 1997. 9.
- 9) 若山葉子, 荒牧琢己¹⁾, 植田悠紀子²⁾ (¹⁾ 内科学第一, ²⁾ 国立公衆衛生院) : 肝炎流行地区の予後の検討. 第56回日本公衆衛生学会総会, 1997. 10.
- 10) 葉 恵娟, 勝又聖夫, 南 正康, 平田紀美子, 稲垣弘文 : 漢方薬中の鉛について. 第12回日本中毒学会東日本部会, 1998. 1.
- 11) 勝又聖夫, 葉 恵娟, 南 正康 : 漢方薬中の鉛含有について. 第68回日本衛生学会総会, 1998. 3.
- 12) 平田紀美子, 稲垣弘文, 南 正康 : ヒト血漿中遊離型:3-Methoxy-4-hydroxyphenylethyleneglycol (MHPG)の固相抽出及びHPLC-蛍光検出法による測定. 日本薬学会第118年会, 1998. 3.

12. 法医学講座

研究概要

当教室では、以下のような研究を主に行っている。法医学実務としては、刑事・民事にかかわる具体的事例について検討する機会がある場合には積極的に対応している。また、親子鑑定を行い得るよう、DNA分析を含め検査能力の充実を計っている。

1. 臨床法医中毒学

救急医学教室と共同で急性薬毒物中毒による入院患者の緊急薬毒物分析法を開発し、TLC・HPLC・イムノアッセイ・GC・GC/MS等を用いたより簡便・迅速で精度の高い系統的な分析システムの開発に取り組んでいる。また、覚醒剤・コカイン・麻薬等の不法薬物の分析も行っている。さらに、毛髪からの特定薬毒物分析を目指し、基礎的実験を始めている。

2. アルコール代謝

アルコールの代謝ならびにアルコールの生体への影響をテーマとして、アルコール代謝における中心的酵素であるアルコール脱水素酵素・アルデヒド脱水素酵素のisozymeレベルでの代謝調節を検討し、アルコール感受性に対する個体差の解明に取り組んでいる。また、アルコールの臓器障害の機序やアルコールの溶液構造の影響を究明するため、培養細胞などを用いて生理学的・生化学的実験を行っている。

3. NMRを用いた研究

共同利用施設のNMRを用いて、種々の薬毒物中毒時の脳内エネルギー代謝、水の緩和時間等をin vivoで経時的に測定し、中毒機序の解明に応用している。また、筋肉内のリン化合物などをNMRで測定し、筋肉の死後硬直の定量的分析と死後経過時間推定への応用を目指している。

4. その他の研究

- 1) 脳死及び臓器移植を中心に生命倫理に関わる種々の問題を法医学的・社会医学的な立場から調査検討している。
- 2) 将来の司法解剖実施を睨み、病理組織学的手法による組織の死後変化を検討している。また、死後経過時間推定に関する研究、法医剖検例VTR画像の応用等の実務的研究を行っている。さらに、アルカロイド毒の薬物動態に関する研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ohno Y, Nihira M, Tomita Y, Hirakawa K, Uekusa K, Maruta T, Haseba T : Toxicokinetics of Aconitine in vivo. *Advances in Legal Medicine* 3 1997 ; 516-519.
- 2) Nihira M, Hayashida M, Ohno Y, Inuzuka S¹⁾, Yokota H¹⁾, Yamamoto Y¹⁾ (¹⁾ Dept. Emergency Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Drug Analysis of Body Fluids for Drug Smuggler, or Body-Packer. *Advances in Legal Medicine* 3 1997 ; 489-492.
- 3) Hayashida M, Nihira M, Ohno Y, Inuzuka S¹⁾ (¹⁾ Dept. Emergency Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Ten-Month Survey of Toxicology Screening in a Critical Care Medical Center, Nippon Medical School. *Advances in Legal Medicine* 3 1997 ; 501-504.
- 4) Hirakawa K, Uekusa K, Nihira M, Ohno Y : In vivo ³¹P-MRS of the Skeletal Muscle in the Rat After Death. An Application to the Estimation of the Postmortem Interval. *Advances in Legal Medicine* 3 1997 ; 464-467.

- 5) Nihira M, Hayashida M, Ohno Y, Inuzuka S¹⁾, Yokota H¹⁾, Yamamoto Y¹⁾ (¹⁾ Dept. Emergency Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Urinalysis of Body Packers in Japan. Journal of Analytical Toxicology 1998 ; 22 (1) : 61-65.
 - 6) Ohno Y : THE EXPERIMENTAL APPROACH TO THE MURDER CASE OF ACONITE POISONING. Journal of Toxicology -Toxin Reviews- 1998 ; 17 (1) : 1-11.
 - 7) 丸田哲生, 仁平 信, 富田ゆかり : メタンフェタミン, モルヒネ, コカイン急性中毒の病理組織学的検討. 日本アルコール・薬物医学会雑誌 1997 ; 32 (2) : 122-138.
 - 8) 仁平 信, 林田真喜子, 大野曜吉, 犬塚 祥¹⁾, 柴田泰史²⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学, ²⁾ 日本医科大学付属病院中央検査部) : 救急患者に対する簡易尿中薬物スクリーニングキットTriage[®]使用の評価. 臨床検査機器・試薬 1997 ; 20 (4) : 519-525.
 - 9) 犬塚 祥¹⁾, 林田真喜子, 仁平 信 (¹⁾ 日本医科大学救急医学) : 救急医療施設における薬物使用の実態と迅速薬物スクリーニングの有用性についての研究. 日医大誌 1997 ; 64 (4) : 58-66.
- (2) 研究報告書 :
- 1) 大野曜吉, 仁平 信, 林田真喜子 : 薬物中毒, 薬害, 農薬中毒等の予防と原因解明のための毛髪診断研究 : 農薬の毒性・体内動態・分析と毛髪排泄について (統括 : 中原雄二). 厚生科学研究平成9年度研究報告書 1998.
 - 2) 富田ゆかり : 主要臓器における死後変化の組織学的検討ならびに死因との関連. 平成7年度-平成9年度科学研究費補助金基盤研究 (C) (2) 研究成果報告書 1998.
- (3) その他 :
- 1) 長谷場健 : 酒酔いの科学的人間論. 日本の科学者 1997 ; 324 (4) : 26-27.
 - 2) 押田茂實¹⁾, 大野曜吉 (¹⁾ 日本大学医学部法医学) : 法医鑑定立場から (1) 鑑定書について “連載 科学鑑定の動き 7”. 季刊 刑事弁護 1997 ; 10 : 138-141.
 - 3) 大野曜吉, 押田茂實¹⁾ (¹⁾ 日本大学医学部法医学) : 法医鑑定立場から (2) 創傷鑑定の読み方 “連載 科学鑑定の動き 8”. 季刊 刑事弁護 1997 ; 11 : 106-110.
 - 4) 押田茂實¹⁾, 大野曜吉 (¹⁾ 日本大学医学部法医学) : 法医鑑定立場から (3) DNA鑑定の読み方 “連載 科学鑑定の動き 9”. 季刊 刑事弁護 1997 ; 12 : 144-149.
 - 5) 大野曜吉, 仁平 信, 押田茂實¹⁾ (¹⁾ 日本大学医学部法医学) : 法医鑑定立場から (4) 薬物鑑定の読み方 “連載 科学鑑定の動き 10”. 季刊 刑事弁護 1998 ; 13 : 134-140.

著 書

- 1) 黒須三恵 : [分担]第7章 : 脳死・臓器移植が問いかけるもの. 「いのちの哲学—いま生命倫理に問われているもの」(棚橋 實編), 1997 ; pp115-134, 北樹出版.
- 2) 長島 隆¹⁾, 尾崎恭一²⁾, 北沢恒人³⁾, 日暮雅夫⁴⁾, 黒須三恵 (¹⁾ 日本医科大学哲学, ²⁾ 関東学園大学哲学, ³⁾ 千葉大学・早稲田大学哲学, ⁴⁾ 盛岡大学哲学) : [共訳]第5章 : 理論から実践へ. 「生命倫理と道徳理論—医療倫理における道徳理論と道徳判断」(バラック・A・ローディ編), 1997 ; pp203-264, 梓出版社.
- 3) 大野曜吉 : [分担]トリカブト中毒. 今日の治療指針1998 (日野原重明, 阿部正和監修), 1998 ; pp130-130, 医学書院.
- 4) 黒須三恵 : [分担]第7章 : 死の判定. 「医療倫理Q&A」(医療倫理Q&A刊行委員会編), 1998 ; pp148-160, 太陽出版.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 大野曜吉 : 法医学からみた中毒. 第12回日本中毒学会東日本部会, 1998. 1.

(2) 招待講演：

- 1) 大野曜吉：トリカブト事件と若干の実験的考察。法中毒学会第16年会，1997. 6.

(3) シンポジウム：

- 1) Nihira M：DRUG ABUSE AND TOXICOLOGICAL SCENE IN JAPAN. The 1st International Conference of Asian Society of Toxicology, 1997. 6.
- 2) 仁平 信：中毒学と分析 I. 急性中毒における各種予備試験法。第12回日本中毒学会東日本部会，1998. 1.

(4) 一般講演：

- 1) 王 春梅¹⁾，岩切 致¹⁾，百束比古¹⁾，平川慶子，植草協子，仁平 信⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科)：¹H-NMR法を用いた癩痕組織の代謝学的分析。第8回日中形成外科交流学術集会，1997. 10.
- 2) 平川慶子，植草協子，山村美和¹⁾，仁平 信，百束比古¹⁾，大野曜吉⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科)：固体高分解能NMR法による体内埋入異物の分析。第81次日本法医学会総会，1997. 4.
- 3) 三上啓子，長谷場健，大野曜吉：フローサイトメトリーによるエタノールの細胞毒性の解析。第81次日本法医学会総会，1997. 4.
- 4) 富田ゆかり，丸田哲生，仁平 信，林田真喜子，大野曜吉，佐藤 茂¹⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設)：主要臓器における死後変化の組織学的検討 III. 超微形態学的観察。第81次日本法医学会総会，1997. 4.
- 5) 向井敏二¹⁾，玉城 尚²⁾，加納節夫¹⁾，原 修一¹⁾，岩田修永¹⁾，栗岩ふみ¹⁾，築瀬武史¹⁾，佐藤喜宣³⁾，大野曜吉，宮崎哲次²⁾，永盛 肇²⁾，遠藤任彦²⁾ ⁽¹⁾ 東京医科大学法医学，²⁾ 琉球大学医学部法医学，³⁾ 杏林大学医学部法医学)：乳児急死と睡眠時環境。第81次日本法医学会総会，1997. 4.
- 6) 林田真喜子，植草協子，平川慶子，仁平 信，大野曜吉，神野清勝¹⁾ ⁽¹⁾ 豊橋技術科学大学物質工学系)：SPME/セミマイクロLCを用いた緊急薬毒物分析のための最適化。法中毒学会第16年会，1997. 6.
- 7) 王 春梅¹⁾，岩切 致¹⁾，百束比古¹⁾，平川慶子，植草協子，仁平 信⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科)：¹H-NMR法を用いた癩痕組織の代謝学的分析。第65回日本医科大学法医学会総会，1997. 9.
- 8) 大野曜吉^{1,2)}，仁平 信¹⁾，富田ゆかり¹⁾，林田真喜子¹⁾，小林辰輔³⁾，加地正人³⁾，山本保博³⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学法医学，²⁾ 東京都監察医務院，³⁾ 日本医科大学救急医学)：救急救命センター入室時の法医薬毒物分析により死因を判断し得た行政解剖の1例。第65回日本医科大学法医学会総会，1997. 9.
- 9) 長谷場健，黒須三恵，富田ゆかり，三上啓子，大野曜吉：アルコール代謝速度の投与量による変動とClass IおよびIII ADHの活性ならびに量的変動との関係。第32回日本アルコール・薬物医学会総会，1997. 9.
- 10) 仁平 信：依存性薬物による中毒者の現状。第32回日本アルコール・薬物医学会総会，1997. 9.
- 11) 仁平 信，林田真喜子，富田ゆかり，平川慶子，真下啓子，植草協子，佐藤美保，大野曜吉：救命救急センター収容患者における不法薬物の検出例。第66回日本法医学会関東地方会，1997. 10.
- 12) 向井敏二^{1,2)}，大野曜吉^{2,3)}，原 修一¹⁾，岩田修永¹⁾，栗岩ふみ¹⁾，加納節夫¹⁾，築瀬武史¹⁾，左 昌根¹⁾，遠藤任彦^{1,2)} ⁽¹⁾ 日本医科大学法医学，²⁾ 東京都監察医務院，³⁾ 日本医科大学救急医学)：Waterhouse-Friderichsen症候群症例の再検討：東京都監察医務院剖検例の検討から。第66回日本法医学会関東地方会，1997. 10.
- 13) 黒須三恵，長谷場健，大野曜吉：オランダにおける刑事事件のDNA鑑定に関する法令：その信用性の確保と人権への対処。第66回日本法医学会関東地方会，1997. 10.
- 14) 岩切 致¹⁾，王 春梅¹⁾，百束比古¹⁾，平川慶子，仁平 信⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科)：¹H-NMR法を用いた癩痕組織の代謝学的分析。第6回日本形成外科学会基礎学術集会，1997. 10.
- 15) 王 春梅¹⁾，岩切 致¹⁾，百束比古¹⁾，平川慶子，植草協子，仁平 信⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科)：¹H-NMR法を用いた癩痕組織の代謝学的分析。第8回学校法人日本医科大学外国人留学生研究会，1997. 11.

13. 医療管理学講座

研究概要

医療管理学教室は質をテーマに教育、研究、実践を行ってきた。特に本年度は岩崎榮主任教授の退任にあたっての最終年度でもあり、教室をあげて、医療の質に関する業績をまとめた。当教室に事務局を置く「医療の質に関する研究会」は病院評価基準の作成、評価者の養成、病院の評価という実績を上げ、財団法人日本医療機能評価機構に発展した。「医療の質に関する研究会」は、部分的な質の評価手法の開発を行うこととし、平成9年度は「感染」を主にとりあげ精力的に研究と実践活動を行った。「癒しの環境研究会」は年3回の研究会を重ね、ハードとソフトの両面から癒しについての学際的な研究が行われた。また、日本病院会のストップエイズキャンペーン企画委員会として高柳がエイズ教育に取り組んでいる。

学会活動は岩崎榮主任教授が日本病院管理学会の理事長に選出され、ひろく医療管理学をひろめていく任にあたられた。学会活動も積極的に行い、国内学会だけでなく、高柳や伊藤がThe International Society for Quality Health Careなどの国際学会で発表した。また、米国の国内学会である American Society Public Administrationにパネル、Florida Atlantic UniversityのInternational Colloquiumの特別講演に高柳が招聘されるなど、国際的にも業績が認められてきた。

学生に対する教育では3年の自主学習、4年、5年の授業で医療提供者としてだけでなく、患者の視点、社会の視点をみつけられることができるようにカリキュラムを組んだ。参加型の授業で学生の意欲を引き出し、人間的な医師として成長できる教育を行うために努力してきた。

研究業績

論文

〔1996年度追加分〕

綜説：

- 1) 高柳和江：医療施設における癒しの環境。病院設備 1997；(216)：157-159.
- 2) 高柳和江：医療施設における癒しの環境：入院ということ。病院設備 1997；(216)：165-167.
- 3) 高柳和江：自然治癒力を高める病院環境を考える：「癒しの研究会」の活動。Nursing Today 1997；(132)：68-70.
- 4) 高柳和江：癒しの医療文化論。新医療 1997；(265)：59-61.
- 5) 高柳和江：第4回研究会総会・学術集会開催にあたって。グループ診療研究 1997；3(2)：1-1.
- 6) 高柳和江：患者のQOLを保障する患者管理の実践学②：患者のQOLを保障する癒しの環境づくりと看護の視点。主任アンド中堅 1997；7(2)：13-15.
- 7) 高柳和江：癒しの場としての住まい・地域社会・病院。すまいろん 1997；44(3)：6-19.

(1) 原著：

- 1) Iwai M, Takayanagi K：Perception Towards Death Education. J of Seizon and Life Science 1997；8：51-57.
- 2) Yajima R, Takayanagi K：The Japanese Health Care System. Citizen Complaints,Citizen Possibilities. J Health and Human Services Administration 1998；(21)：1-1.
- 3) 黒木淳子¹⁾，高柳和江⁽¹⁾ 順天堂医療短期大学)：エイズ・ピア・エデュケーションの教育効果。医学教育 1997；28(2)：101-106.

- 4) 高柳和江：21世紀のグループ診療：患者と組織の視点からの考察。JIM 1997；7（10）：878-882.
- 5) 高柳和江，小林国男¹⁾（¹⁾ 帝京大学救命救急センター）：救急医療のプロセスの質の評価手法の試み：救命救急医療のシミュレーションを用いて。病院管理 1997；34（4）：25-31.
- 6) 伊藤弘人，藤井賢一郎¹⁾，佐々木雄司²⁾（¹⁾ 三菱総合研究所，²⁾ 獨協大学）：事業所外の従業者支援プログラムの利用パターン：精神科受療歴のある従業員の分析。産衛誌 1998；（40）：15-21.
- 7) 伊藤弘人，周 書義，岸 泰宏¹⁾，黒澤 尚¹⁾，岸本淳司¹⁾，岩崎 榮（¹⁾ 日本医科大学精神科）：総合病院における精神科医療機能に関する予備的分析。総合病院精神医学 1998；10：30-36.

(2) 綜説：

- 1) Uto Y¹⁾，Muranaga F¹⁾，Kumamoto I¹⁾，Ohno A²⁾，Iwasaki S，Igata A³⁾（¹⁾ Kagoshima University Hospital，²⁾ Gunma University School of Health Sciences，³⁾ National Chubu Hospital）：The frontier of Nursing in the Age of Multimedia. Japan Hospitals 1997；（16）：69-73.
- 2) Ito H：Illness behavior and mental health in Japan. Mental Health Research 1997；16：42-49.
- 3) 高柳和江：日本病院会のエイズ関連事業についてHIV/AIDS Education. 病院 1997；56（5）：464-467.
- 4) 岩崎 榮：これからの病院経営：診療科目別収支について（脳神経外科・救急医療）。医事研究 1997；26（333）：35-41.
- 5) 岩崎 榮：これからの病院経営：診療科目別収支について（小児科・産婦人科）。医事研究 1997；26（334）：35-41.
- 6) 高柳和江：「癒しの環境」のソフトとハード。看護部門 1997；10（7）：2-9.
- 7) 高柳和江：患者の視点に立った環境を。オペナーシング 1997；12（8）：1-1.
- 8) 岩崎 榮：医療経営を踏まえた医療サービスの質：ハードとソフト面の運用から（特集：病院機能と医療の質を考える）。病院経営新事情 1997；7（152）：4-13.
- 9) 岩崎 榮：病院の機能評価。bios 1997；2（5）：3-6.
- 10) 岩崎 榮：これからの病院経営：診療科目別収支について（形成外科）。医事研究 1997；26（337）：35-41.
- 11) 岩崎 榮：これからの病院経営：外来診療体制（診療科目別の特徴）。医事研究 1997；26（338）：35-41.
- 12) 岩崎 榮：これからの病院経営：入院診療体制（診療科目別の特徴）。医事研究 1997；26（339）：35-41.
- 13) 岩崎 榮：高齢者にふさわしい地域連携ケアへの新たな挑戦：施設ケアから地域ケアへ。地域医療 1997；35（3）：16-17.
- 14) 岩崎 榮：適正な医療（費）と医療機能評価（特集：適正な医療（費）とは何か）。医療98 1998；14（1）：14-17.
- 15) 高柳和江：二一世紀の日本の医療。新医療 1998；（277）：38-40.
- 16) 岩崎 榮：医療サービスの提供と医療改革（特集：医療保険改革と医療サービス）。国民生活 1998；28（2）：16-21.
- 17) 岩崎 榮：日本医療機能評価機構とは何か：看護の何を評価するのか。Nursing Today 1998；（147）：71-73.
- 18) 岩崎 榮：診療行為の評価科学。最新内科学大系 プロGRESS1 1998；8-13.

(3) 研究報告書：

- 1) 高柳和江：癒しの医療文化論：芸術とヘルスケアに関する研究。「芸術と生命」芸術とヘルスケアに関する調査研究事業報告書 1997；pp17-18.
- 2) 高柳和江：救急救命センターの医療の質ならびに評価方法に関する研究。厚生科学研究「救急救命センターの質の向上に関する研究」報告書 1997.
- 3) 瀬田克孝¹⁾，高柳和江（¹⁾ 社会保険中央病院）：平成8年度厚生省エイズ対策研究推進事業「エイズの医療体制に関する研究」報告書。平成8年度厚生省エイズ対策研究推進事業「エイズの医療体制に関する研究」報告書 1997.
- 4) 伊藤弘人，岩崎 榮：病院機能評価の普及啓発に関する研究。平成9年度財団法人日本医療機能評価機構委託研究報告書 1998.

著 書

〔1996年度追加分〕

- 1) 高柳和江：〔分担〕トピックとなっている疾患・救急車における癒しの環境。救急隊必携救急マニュアル，1997；pp185-188，ぎょうせい。
- 1) 高柳和江：〔分担〕生きるということ。生きるということ，1997；pp173-244，リブリオ出版。
- 2) 高柳和江：〔分担〕癒しの環境づくりに向けて 癒しの環境ソフトとハード：患者の視点から。安らぎの医療環境を求めて 病医院・施設に必要な‘癒しの環境’づくり，1997；pp71-74，日経メディカル開発。
- 3) 高柳和江：〔分担〕ヘルスケアデザインのポイント 急性期病院と慢性期病院：患者の視点から。安らぎの医療環境を求めて 病医院・施設に必要な‘癒しの環境’づくり，1997；pp168-173，日経メディカル開発。
- 4) 高柳和江：〔分担〕婦長・主任のための看護サービス時代の病棟経営入門。患者満足度調査，1997；pp115-118，日総研。
- 5) 岩崎 榮：〔監修、分担〕新しい医療体系。人間医療学（岩崎 榮，高柳和江編），1997；pp89-117，南山堂。
- 6) 高柳和江：〔監修、分担〕看護職をとりまくその他の関係法規，医療計画。実践の場で生かす看護関係法規（岩崎 榮監修，高柳和江編），1997；pp56-57，医学書院。
- 7) 高柳和江：〔監修、分担〕知っておきたい社会福祉・社会保障関係法規。実践の場で生かす看護関係法規（岩崎 榮監修，高柳和江編），1997；pp82-85，医学書院。
- 8) 高柳和江：〔監修、分担〕人間と医療・医学とのかかわり。人間医療学（岩崎 榮，高柳和江編），1997；pp26-64，南山堂。
- 9) 岩崎 榮：〔監修、分担〕医療の質の変遷。人間医療学（岩崎 榮，高柳和江編），1997；pp181-216，南山堂。
- 10) 岩崎 榮：〔監修、分担〕医療人としての出発。人間医療学（岩崎 榮，高柳和江編），1997；pp275-292，南山堂。
- 11) 岩崎 榮：〔分担〕病院の質の評価：ハードとソフト面の運用から。病院 水と空気―病院の建築設備，1997；pp32-37，川本工業株式会社。
- 12) 岩崎 榮：〔監修、分担〕診療の評価：基本は医療人の育成から。医を測る：医療サービスの品質管理とは何か（岩崎 榮編），1998；pp126-134，厚生科学研究所。
- 13) 岩崎 榮：〔監修、分担〕医療の質の評価の展望。医を測る：医療サービスの品質管理とは何か（岩崎 榮編），1998；pp198-203，厚生科学研究所。
- 14) 高柳和江：〔監修、分担〕医療の品質と品質管理方法。医を測る：医療サービスの品質管理とは何か（岩崎 榮編），1998；pp19-30，厚生科学研究所。
- 15) 伊藤弘人：〔監修、分担〕JCAHOと医療の質に関する研究会。医を測る：医療サービスの品質管理とは何か（岩崎 榮編），1998；pp160-165，厚生科学研究所。
- 16) 中野夕香里：〔監修、分担〕医療評価の方法論について。医を測る：医療サービスの品質管理とは何か（岩崎 榮編），1998；pp68-74，厚生科学研究所。
- 17) 高柳和江：〔監修、分担〕マネジド・ケアの医療の質。医を測る：医療サービスの品質管理とは何か（岩崎 榮編），1998；pp181-189，厚生科学研究所。
- 18) 高柳和江：〔自著〕死ぬのは十分生きてからにして下さい。死ぬのは十分生きてからにして下さい，1998；毎日新聞社。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Takayanagi K：Current Health Care System in Japan. The International Colloquium (Florida), 1997. 11.

- 2) Takayanagi K : Management of AIDS in Japanese Hospital. Japanese Foundation for AIDS Prevention (Tokyo), 1997. 11.
- (2) シンポジウム :
- 1) Takayanagi K : Health Care in Japan. The 54th American Society Public Administration, Panel. International Health Service (Philadelphia), 1997. 7.
 - 2) Takayanagi K : The Importance of Peer Review Along with TRISS Methodology for Preventable Trauma Death in a Multi-Institutional Analysis. International Congress on Performance Measurement & Improvement in Health Care (Chicago), 1997. 11.
 - 3) 岩崎 榮 : ケアの時代 : 看護の質的向上と経済評価をめぐって. 第28回日本看護学会看護管理分科会, 1997. 9.
 - 4) 岩崎 榮 : 公的介護保険制度と国保直診. 第37回全国国保地域医療学会, 1997. 10.
 - 5) 岩崎 榮 : 第三次医療法改正に望むもの. 第38回全日本病院学会, 1997. 11.
- (3) 一般講演 :
- 1) Koseki K¹⁾, Koido Y²⁾, Sakamoto T³⁾, Kikuno T⁴⁾, Aruga T⁵⁾, Takayanagi K (¹⁾ Kawaguchi General Hospital, ²⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine , ³⁾ Showa General Hospital, ⁴⁾ Tokyo Second Hospital, ⁵⁾ Showa University) : Cause of Preventable Trauma Deaths ; Results of Peer Review Along with "Triss" Methodology in a Multi-Center Analysis. American Association of Surgical Traumatology (Hawaii), 1997. 9.
 - 2) Ito H, Zhou S, Kishi Y¹⁾, Kurosawa H¹⁾, Iwasaki S (¹⁾ Department of Psychiatry) : Staff perception on psychiatric services in general hospitals. Proceedings of 14th International ISQua Conference of Quality in Health Care, 1997. 11.
 - 3) 伊藤弘人, 岩崎 榮, 大道 久¹⁾, 千葉 潜²⁾, 西島英利³⁾, 小峯和茂⁴⁾, 新貝憲利⁵⁾, 澤 温⁶⁾ (¹⁾ 日本大学医学部, ²⁾ 青南病院, ³⁾ 小倉蒲生病院, ⁴⁾ 西ヶ原病院, ⁵⁾ 成増厚生病院, ⁶⁾ さわ病院) : 精神科急性期医療の質と日本医療機能評価機構. 第92回日本精神神経学会, 1997. 5.
 - 4) 高柳和江, 乙坂明子¹⁾, 星 和夫²⁾ (¹⁾ 北里大学附属病院, ²⁾ 青梅市立総合病院) : インフォームドコンセントの一工夫. 第47回日本病院学会, 1997. 6.
 - 5) 高柳和江, 小関一英¹⁾ (¹⁾ 川口市立医療センター) : 救命救急医療における多発外傷治療の質的評価. 第20回日本プライマリ・ケア学会, 1997. 6.
 - 6) 中野夕香里, 郡司篤晃¹⁾ (¹⁾ 東京大学医学部) : 診療録に基づくクリニカル・インディケーター開発の試み. 第23回日本診療録管理学会, 1997. 9.
 - 7) 周 書義, 中野夕香里, 岩崎 榮 : 退院サマリの完成状況に影響を与える要因についての調査結果. 第23回日本診療録管理学会, 1997. 9.
 - 8) 伊藤弘人, 岩崎 榮, 梅里良正¹⁾, 上林三郎²⁾, 鈴木あい²⁾, 千葉 潜³⁾, 西島英利⁴⁾, 小峯和茂⁵⁾, 中野夕香里, 橋本廸生⁶⁾, 大道 久¹⁾ (¹⁾ 日本大学医学部, ²⁾ 日本医療機能評価機構, ³⁾ 青南病院, ⁴⁾ 小倉蒲生病院, ⁵⁾ 西ヶ原病院, ⁶⁾ 国際医療福祉大学) : 病院機能評価における評価項目の運用結果とその改定 (3) 精神病院の場合. 第35回日本病院管理学会学術総会, 1997. 10.
 - 9) 高柳和江, 小関一英¹⁾, 有賀 徹²⁾ (¹⁾ 川口市立医療センター, ²⁾ 昭和大学医学部) : 救急の質アウトカム評価の試み. 第35回日本病院管理学会学術総会, 1997. 10.
 - 10) 坂本哲也¹⁾, 永田和哉¹⁾, 杉田 学¹⁾, 高柳和江, 森村尚登²⁾, 新井正徳³⁾, 小井土雄一³⁾, 松田 潔⁴⁾, 小関一英⁵⁾ (¹⁾ 公立昭和病院, ²⁾ 横浜市立大学浦舟病院, ³⁾ 日本医科大学救命救急部, ⁴⁾ 山梨県立中央病院, ⁵⁾ 川口市立医療センター) : 頭部外傷多施設共同研究において重症度の標準化. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.

- 11) 小関一英¹⁾，高柳和江，坂本哲也²⁾，有賀 徹³⁾，宮城澄義，小林一宏，小笠原浩樹，西山隆一（¹⁾ 川口市立医療センター，²⁾ 公立昭和病院，³⁾ 昭和大学医学部）：TRISS methodによる外傷治療の評価法．第44回日本救急学会関東地方会，1998．2．

14. 基礎医学共同研究利用施設

[実験動物管理室]

研究概要

自然発症糖尿病ラット (WBN/Kob) の糖尿病発症予防について検討した。このラットを幼若期から acarbose 混餌により長期飼育すると、早期から小腸における2糖類分解酵素 (特に sucrase, maltase) の活性、および糖質の吸収率が低下し、糖尿病発症が有意に抑制された。さらに、このラットの特異的膵病変が軽減されることが明らかになったため、acarbose 効果と膵病変緩解との関わりについて検討を行っている。

Hairless rat (WBN/IIa-Ht) の被毛異常の原因を明らかにするために、哺育期における皮膚の組織学的検索および抜毛標本による毛根部の経過観察を詳細に行った結果、0日齢ではホモ・ヘテロ個体とも毛根数に差はなく出生以後で毛根の形態異常が認められた。また、毛根数および毛根深度を各表現型で比較し、ホモ個体では毛周期が短縮していることを明らかにした。

糖尿病の動物モデル作出に催糖尿病薬として知られているアロキサンおよびストレプトゾトシンが広く用いられている。両者とも膵島B細胞を破壊しインスリン枯渇状態にして糖尿病を引き起こす薬剤であるが、両者の作用の相違や動物種による感受性の違いについての詳細は明らかにされていない。そこでマウス、ラットおよびスナネズミを用いて、症状発現および病理変化における動物種差や薬剤間の相違について検討を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Iino M¹⁾, Shimizu-Suganuma M, Shichinohe K, Iida K²⁾ (1) 生理学第一講座, 2) ワクチン療法研究施設) : Effects of protein denaturants on membrane permeability to water in erythrocyte. Bull. Soc. Fr.-Jpn Sci. Vét 1997 ; 7 : 42-54.
- 2) Shirota K¹⁾, Shibata A²⁾, Hayasi K¹⁾, Tamiya T¹⁾, Habara K³⁾, Masuda H¹⁾, Kannari Y⁴⁾, Shimizu M, Shichinohe K, Asakawa M⁵⁾ (1) 東武医学技術専門学校, 2) 多摩永山病院中央検査室, 3) 東京獣医クリニック, 4) 関東医学研究所, 5) 解剖学第二講座) : Vérification de l'imprégnation de la fiber réticulaire par l'argent. Bull. Tobu Comed. Coll. 1997 ; 2 : 29-34.

著書

- 1) 七戸和博, 清水眞澄 : [監修] 三毛猫の遺伝学. 三毛猫の遺伝学, 1997 ; pp1-304, 翔泳社.
- 2) 七戸和博, 清水眞澄 : [共著] 生理学. 生理学, 1998 ; pp1-145, 藤田企画出版.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Kaminaga C¹⁾, Ishizaki M¹⁾, Shimizu M, Shichinohe K, Yamanaka N¹⁾ (1) 病理学第一講座) : Thy-1.1 nephritis in Mongolian gerbil. XIVth International Congress of Nephrology (Sydney), 1997. 6.
- 2) 秋元敏雄, 仲間一雅 : Hairless rat (WBN/IIa-Ht) の幼若期における尾および背部皮膚毛根の発育過程について. 第44回日本実験動物学会総会, 1997. 5.
- 3) 仲間一雅, 秋元敏雄, 福生吉裕¹⁾, 浅田忠利²⁾ (1) 内科学第二講座, 2) 日本獣医畜産大学動物栄養学講座) : 自

- 発性糖尿病ラット (WBN/kob) に対するアカルボース長期投与の影響—飼料養分の消化吸収について—。第44回日本実験動物学会総会, 1997. 5.
- 4) 西垣龍太郎¹⁾, 菅沼眞澄, 横山宗伯¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 七戸和博, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理学第二講座): ストレプトゾトシン投与後の心・血管系における一酸化窒素合成酵素と後期過剰糖化生成物の局在の推移。第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
 - 5) 増野 聡¹⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博, 西垣龍太郎²⁾, 手塚 潔²⁾, ムワナタンブエミランガ²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 日本医科大学4年, 2) 病理学第二講座): 実験的アロキサソ誘発糖尿病におけるマウスとスナネズミの感受性の違いについて。第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 6) 増野 聡¹⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博, 西垣龍太郎²⁾, 手塚 潔²⁾, ムワナタンブエミランガ²⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 日本医科大学4年, 2) 病理学第二講座): アロキサソ誘発糖尿病について。第20回日仏獣医学会総会, 1997. 10.
 - 7) 飯田和美¹⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博 (1) ワクチン療法研究施設): アロキサソ誘発糖尿病モデルとしてのスナネズミとマウスの比較。第97回日本薬理学会関東部会, 1997. 10.
 - 8) 七戸和博, 菅沼 (清水) 眞澄, 西垣龍太郎¹⁾, 手塚 潔¹⁾, ムワナタンブエミランガ¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理学第二講座): アロキサソ誘発糖尿病モデルにおける動物種間の比較1.マウス。第124回日本獣医学会総会, 1997. 10.
 - 9) 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博, 西垣龍太郎¹⁾, 手塚 潔¹⁾, ムワナタンブエミランガ¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理学第二講座): アロキサソ誘発糖尿病モデルにおける動物種間の比較 2. スナネズミ。第124回日本獣医学会総会, 1997. 10.
 - 10) 西垣龍太郎¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 菅沼眞澄, 七戸和博 (1) 病理学第二講座): 高血糖スナネズミにおけるNOSとAGEの局在の推移。第16回日本脈管学会, 1997. 11.
 - 11) ムワナタンブエミランガ¹⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博, 芳賀克也²⁾, 家所哲夫²⁾, 手塚 潔¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 藤田紘一郎²⁾ (1) 病理学第二講座, 2) 東京医科歯科大学医学部医動物学教室): フィラリア感染好適宿主としてのMongolian gerbilの基礎的検討 (16) アロキサソ誘発糖尿病の経過。第38回日本熱帯医学会大会, 1997. 11.
 - 12) 秋本眞喜雄¹⁾, 浅枝暉雄²⁾, ムワナタンブエミランガ³⁾, 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博, 飯田和美⁴⁾, 宮川道夫²⁾ (1) 薬理学講座, 2) 新潟大学工学部, 3) 病理学第二講座, 4) ワクチン療法研究施設): 南米産モルフォ蝶翅鱗粉の性行動を誘発する構造的発色機構の検討。第38回日本熱帯医学会大会, 1997. 11.
 - 13) 秋本眞喜雄¹⁾, 浅枝暉雄²⁾, 七戸和博, 菅沼 (清水) 眞澄, 飯田和美³⁾, ミランガムワナタンブエ⁴⁾, 浅野伍朗⁴⁾, 宮川道夫²⁾ (1) 薬理学講座, 2) 新潟大学工学部, 3) ワクチン療法研究施設, 4) 病理学第二講座): Chemical mediatorに対するマウス皮膚色反応の画像処理による定量化。第11回日本ME学会秋期大会, 1997. 11.
 - 14) 余 紅¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 秋元敏雄 (1) 病理学第二講座): ラットにおける心筋虚血, 再灌流によるHeat Shock Protein 70の変化。第8回学校法人日本医科大学外国人留学生研究会, 1997. 11.
 - 15) 張 雪君¹⁾, 大須賀勝¹⁾, 勝田梯実¹⁾, 荒牧琢己¹⁾, 秋元敏雄 (1) 内科学第一講座): 門脈圧亢進症ラットモデルにおける大動脈リングの反応性と形態の関係。第8回学校法人日本医科大学外国人留学生研究会, 1997. 11.
 - 16) 菅沼 (清水) 眞澄, 飯田和美¹⁾, 加藤一良²⁾, 七戸和博 (1) ワクチン療法研究施設, 2) 形成外科学講座): アロキサソ誘発糖尿病モデルの動物種差。第71回日本薬理学会年会, 1998. 3.

[中央電子顕微鏡研究施設]

研究概要

中央電子顕微鏡研究施設は大別して2つの機能をもっている。

1) 日本医科大学共通研究施設としての機能: 年間約600件の電顕診断とその情報化, 研究生, 大学院生の研究研修協力。

2) WHO指定研究研修協力センターとしての機能：2) -1 電顕診断：電顕診断学のcurriculumの体系化，教育資源の整備，National RegionalまたはInternational Training Courseの組織化，Appropriate technologyの本分野における導入。

2) -2 国際医学技術移転のModuleの作成。

2) -3 WHOに対する標準化試案の作成，勧告策。

2) -4 学際的なIncubation Centreとしての役割。

このような背景のもとに1998年10月中国北京市首都医科大学における小児腫瘍についての会議を開催した。これは世界を通じて小児化の傾向が見られ，小児癌における死亡率の低下の必要性があるとの認識にたち，この会議の開催を支援した。この成果については今後の評価に俟つところが多いが少なくともこのような有意義な会議を地域あるいは国家レベルで開催してもらいたいという希望が強く寄せられた。

共同研究の経過と成果

1) 中央精機（株）とのリニアモーター駆動方式による電顕用超薄マイクロトームの開発について（広畑）。すでに実用化レベルでの製品開発に成功し，透過型用電顕超薄切片の作製に成功し最終的な実用化試験の段階にある。

2) N.I.H., NHLBIとの共同による定量電顕用自動処理装置の開発について（相原）。サクラ精機（株），N.I.H., NHLBIと共同開発した電顕用プロセッサは広く世界で使用されているが，今回これに定量分析用アダプターを開発し広く定量分析環境型対応電顕のneedsに対応するように新企画による改良を試みつつある。

3) 森永乳業（株）とのラクトフェリンの医学生物学的応用についての基礎応用研究。ラクトフェリンの腸管吸収機構とその細胞学的な有用性についての生化学ならびに超微形態学的な相関研究を行い一定の評価しうる成果を得た（安達）。

4) 川崎病の心臓微小血管病変についての超微形態学的研究。京都府立大学小児科学研究施設との共同研究（劉）。川崎病患者の心筋生検材料の電顕，免疫電顕，組織化学的研究を行い，その特徴について一定の評価しうる成果を得た。

5) 人工心臓装着時におけるANP顆粒のポンプとの相関についての電顕，細胞組織化学的研究（N.I.H., NHLBI, 国立循環器センターとの共同研究；準備中）に人工心臓装着時のポンプ機能についての評価成案の作成。

6) カザフスタン共和国Aral sea沿岸の環境病についての国際医療医学協力（主幹：WHO/カザフスタン共和国，カザフスタン国立医科大学，国立小児リハビリテーションセンター，本学）。1995年以来カザフスタン共和国，WHO，日本私立大学協会との合議に基づいて展開中のプロジェクトであり，Aral海沿岸の塩水湖の濃度上昇，重金属汚染の複合汚染による健康障害の事情調査，病因研究，治療法，予防法の研究を学際的な立場で実行中である。これはWHOとの協約（Terms of reference）に基づいて行われつつあり一定の成果を得つつある。

研究業績

論文

〔1996年度追加分〕

原著：

- 1) Matsuzaki H¹⁾, Uehara M¹⁾, Suzuki K¹⁾, Liu Q, Sato S, Kanke Y¹⁾ (1) Dept. of Nutrition, Faculty of Agriculture, Tokyo University of Agriculture) : Increased intake of phosphorus induces depression of proximal tubular function in young rats. Nutrition Research 1997 ; 17 (5) : 831-845.

(1) 原著：

- 1) Ghazizadeh M, Sasaki Y, Araki T¹⁾, Konishi H¹⁾, Aihara K (1) Dept. of Obstetrics and Gynecology) : Prognostic value of proliferative activity of ovarian carcinoma as revealed by PCNA and AgNOR analyses.

- Am J Clin Pathol 1997 ; 107 (4) : 451-458.
- 2) Ghazizadeh M, Miyata N¹⁾, Sasaki Y, Arai K¹⁾, Aihara K (¹⁾ Dept. of Plastic Surgery, National Defense Medical College) : Silver-stained nucleolar organizer regions in hypertrophic and keloid scars. Am J Dermatopathol 1997 ; 19 (5) : 468-472.
 - 3) Matsuzaki H¹⁾, Uehara M¹⁾, Suzuki K¹⁾, Liu Q, Sato S, Kanke Y¹⁾, Goto S¹⁾ (¹⁾ Dept. of Nutrition, Faculty of Agriculture, Tokyo University of Agriculture) : High phosphorus diet rapidly induces nephrocalcinosis and proximal tubular injury in rats. J Nur Sci Vitaminol 1997 ; 43 : 627-641.
 - 4) Kishikawa T, Suzuki T¹⁾, Sasaki Y, Aihara K, Hirayama T²⁾ (¹⁾ Nevus Research Center and Plastic Surgery Clinique, ²⁾ Tokyo Memorial Clinic, Tokyo Nevus Research Center) : Characterization of melanosomes and melanogenesis in cells cultured from Ota's nevus. J Submicrosc Cytol Pathol 1997 ; 29 (3) : 339-352.
 - 5) Jia Y, Sato S : Evaluation of coronary collateral circulation in early ischemia in rat hearts -A morphological study-. J Nippon Med Sch 1997 ; 64 (4) : 329-336.
 - 6) Ghazizadeh M, Ogawa H¹⁾, Sasaki Y, Araki T¹⁾, Aihara K (¹⁾ Dept. of Obstetrics and Gynecology) : Mucin carbohydrate antigens (T, Tn, and sialyl-Tn) in human ovarian carcinoma : Relationship with histopathology and prognosis. Hum Pathol 1997 ; 28 (8) : 960-966.
 - 7) Miyata N¹⁾, Ghazizadeh M, Arai K¹⁾ (¹⁾ Dept. of Plastic Surgery, National Defense Medical College) : Silver staining of nucleolar organizer regions in keloid scars. Ann Plast Surg 1997 ; 38 (4) : 438.
 - 8) Kishikawa T, Suzuki T¹⁾, Hirayama T²⁾, Sasaki Y, Wakamatsu K³⁾, Ito S³⁾ (¹⁾ Nevus Res. Center, and Plastic Surgery, ²⁾ Tokyo Memorial Clinic, Nevus Res. Center, ³⁾ Inst. for Comprehensive Medical Science, Fujita-Gakuen University) : A role of SH-compounds in maturation of melanosomes in cells cultured from nevus Ota. J Submicrosc Cytol Pathol 1998 ; 30 (1) : 117-125.
 - 9) 清水 一¹⁾, 佐藤 茂, 大石一二三²⁾, 森 修³⁾, 森 隆¹⁾, 大網 弘¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所病理部門, ²⁾ 協同乳業研究所, ³⁾ 千葉北総病院病理部) : アルツハイマー型老年痴呆におけるプロテオグリカンの動態. 日本老年医学会誌 1997 ; 34 (6) : 461-467.

(2) 総説 :

- 1) 朝倉健太郎¹⁾, 堀内繁雄²⁾, 広畑泰久, 平坂雅男³⁾ (¹⁾ 東京大学大学院工学系研究科, ²⁾ 科学技術庁無機材質研究所, ³⁾ 帝人⑭構造解析センター) : イオンミリング技法とウルトラマイクローム (超薄切片) 技法のラウンドロビテスト工業材料における電顕観察用薄膜作製技術の標準化一. 電子顕微鏡 1997 ; 32 (1) : 52-55.
- 2) 安里嗣則¹⁾, 棟方 滋¹⁾, 市来やよい¹⁾, 泉山七生貴¹⁾, 岩坂 茂¹⁾, 坂本允弘¹⁾, 塩沢由美子¹⁾, 立花利公¹⁾, 広畑泰久, 森下保幸¹⁾, 吉田光孝¹⁾ (¹⁾ 電顕技術フォーラム研究部会) : 光顕用材料からの電顕試料作製—ホルマリン固定材料およびパラフィン包埋材料からの電顕試料作製法—. 電子顕微鏡 1998 ; 33 (1) : 54-56.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演 :

- 1) Ghazizadeh M, Sasaki Y, Aihara K, Ogawa H¹⁾, Konishi H¹⁾, Araki T¹⁾ (¹⁾ 附属産婦人科学教室) : Expression of MUC-1 and MUC-2 Gene Products in Human Ovarian Carcinoma. 日本産婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学会, 1997. 2.

(1) 特別講演：

- 1) Liu A, Aihara K : Case presentaion of malignant tumors in children confirmed by electron microscopic diagnosis. National meeting on the malignant tumors in children (Beijing), 1997. 10.

(2) シンポジウム：

- 1) 寺尾功生¹⁾, 広畑泰久, 朝倉健太郎²⁾, 山本資次¹⁾, 片岡宣義¹⁾, 今坂統一¹⁾, 古荘貞男¹⁾ (¹⁾ 中央精機) : 干渉色を利用した膜厚測定装置の開発. 第34回光ナノテクシンポジウム, 1997. 6.

(3) 一般講演：

- 1) Ghazizadeh M, Sasaki Y, Inoue K, Ogawa H¹⁾, Konishi H¹⁾, Araki T¹⁾, Aihara K (¹⁾ Dept. of Obstetrics & Gynecology) : Mucin carbohydrate antigens (T,Tn,and sialyl-Tn) in Human ovarian carcinomas : Relationship with histopathology and prognosis. XVI European Congress of Pathology (Maastricht), 1997. 8.
- 2) Ghazizadeh M, Sasaki Y, Inoue K, Ogawa H¹⁾, Konishi H¹⁾, Araki T¹⁾, Aihara K (¹⁾ Dept. of Obstetrics & Gynecology) : Expression of apoptosis regulating gene products in human ovarian carcinomas. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 3) Liu A, Ghazizadeh M, Aihara K : Ultrastructural and Immunohistochemical Studies on Myocardial Microvessels in Kawasaki Disease. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 4) Aldiyarova M, Liu Q, Liu A, Aihara K : Chronic active gastritis in relation to helicobacter pylori infection- Light and electron microscopic studies. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 5) Ghazizadeh M, Sasaki Y, Inoue K, Ogawa H¹⁾, Konishi H¹⁾, Araki T¹⁾ (¹⁾ Dept. of Obstet. & Gynecol.) : MUC1 mucin gene products in human ovarian tumors. 第52回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 6) 秋元 剛¹⁾, 広畑泰久, 杉 晴夫¹⁾ (¹⁾ 帝京大学医学部) : 生体高分子観察用ガス雰囲気試料室の開発. 第53回日本電子顕微鏡学会, 1997. 5.
- 7) 清水 一¹⁾, 森 隆¹⁾, 枝川聖子¹⁾, 佐藤 茂, 今津 修²⁾, 大網 弘³⁾ (¹⁾ 老人病研究所病理部門, ²⁾ 千葉北総病院病理部, ³⁾ 観音台クリニック) : アルツハイマー型老年痴呆における老人斑, 神経原線維変性とグリア細胞との関連について. 第82回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 8) 戴 威, 佐藤 茂, 劉 效蘭, 相原 薫 : 頭蓋骨手術創傷治療のための骨移植実験. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 9) 佐藤 茂, 並松茂樹¹⁾, 若松恭子²⁾, 五十嵐俊夫³⁾ (¹⁾ 附属病院病理部, ²⁾ 第一病理学教室, ³⁾ 東京都立母子保健院) : 胎児心臓におけるdesmosome-like structureの役割. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1997. 10.
- 10) 広畑泰久, 朝倉健太郎¹⁾, 相原 薫, 古荘貞男²⁾, 山本資次²⁾, 今坂統一²⁾, 片岡宣義²⁾, 並松茂樹³⁾ (¹⁾ 東京大学工学部, ²⁾ 株) 中央精機, ³⁾ 附属病院病理部) : リニアモーターステージを試料送り機構に用いたウルトラミクロトームの開発. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1997. 10.
- 11) 安達彰子, 佐藤 茂, 鈴木克哉, 並松茂樹¹⁾, 若松恭子²⁾, 五十嵐俊夫³⁾ (¹⁾ 附属病院病理部, ²⁾ 第一病理学教室, ³⁾ 東京都立母子保健院) : 急性肝炎における肝マクロファージの電顕観察—肝生検を用いて—, 第29回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1997. 10.
- 12) 佐佐木喜広, 佐藤 茂, 鈴木克哉, 安達彰子, 井上京子, Ghazizadeh M, 並松茂樹¹⁾, 五十嵐俊夫²⁾, 若松恭子³⁾, 山中宣昭³⁾ (¹⁾ 附属病院病理部, ²⁾ 東京都立母子保健院, ³⁾ 第一病理学教室) : 腎皮質における結合組織の加齢による変化 (腎生検を用いての検討). 第29回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1997. 10.
- 13) 小黑辰夫¹⁾, 大秋美治¹⁾, ガジザデ モハマッド¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 第一病理学教室) : FSEM外科病理領域への応用 特に皮膚疾患を中心に. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1997. 10.
- 14) 劉 效蘭, 佐藤 茂, 戴 威, 清水真澄¹⁾, 七戸和博¹⁾, 相原 薫 (¹⁾ 実験動物管理室) : Streptozotocin投与

- による高血糖と中高糖群の比較(血糖値, 体重, B細胞障害など). 第29回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1997. 10.
- 15) 劉 尔東, 佐藤 茂, 潘 欣, 賈 玉芝, 相原 薫: ショク肺に対するL-HistidineとL-Canavanineの効果についての電顕観察. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1997. 10.
- 16) 姜 景涛, 佐藤 茂, 清水真澄¹⁾, 七戸和博¹⁾, 相原 薫 (¹⁾ 実験動物管理室): 反復性一過性脳虚血における海馬の障害: 血液脳関門を中心に. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1997. 10.

[情報科学センター]

研究概要

1. ネットワーク運用に関して

(1) 利用環境整備: 学術ネットワーク利用者数は2592名(98年7月現在)に達しており, この間の経緯は情報教育研究集会へ報告, 発表した。

97年12月に厚生省より, 「遠隔診療」の認知を得た。今後, 医療, 医学へのネットワークの利用が大きく進展することとなるであろう。一方, 98年1月には本ネットワークへ初のハッカーの侵入があり, 具体的なファイルやシステムの損壊は無かったが, セキュリティの重要性が再認識された。侵入経路はオペレーティングシステムのバージョンアップで塞ぐ事ができているが侵入防止装置の設置が不可欠となっている。医学医療への多様なネットワーク利用が進展しようという時代であり, 今後も十分な対策を研究して行かねば成らない。

(2) マルチメディアデータベースの開発, 拡充

先年より継続の文部省補助金による「医学研究教育用マルチメディアデータベースの開発」は基本設計が終了しデータの集積を開始しているが, 成果としては報告するには至っていない。これとは別に本年度文部省補助金により, DICOM画像サーバーソフトを購入し, マルチメディアデータベースの画像面における強化を計っている。

(3) ビデオ・オン・デマンドシステムの導入

VDO社のビデオ・オン・デマンド・システムの試験運用を開始している。

2. 基礎研究

(1) 生体情報解析

大坂は第1内科と共に不整脈, 心疾患を中心に各種の解析を行っている。伊藤は人間工学の側面から東海大学との共同研究として体動とRR感覚変動の解析を行った。脳波に関しては, 河野がユニークな研究活動を行っている。

(2) 分子面から研究

菊地(兼担: 物理学教室)は, タンパクの分子構造から定まる機能を計算機上において検証することを行っている。

(3) 情報倫理

長島(兼担: 哲学・倫理学教室)は, 医学情報倫理における研究を進めている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kikuchi H, Sugimoto T¹⁾, Mimuro M²⁾ (¹⁾ Kantogakuin Univ., ²⁾ Yamaguchi Univ.): An electronic state of the chromophore, phycocyanobilin, and its interaction with the protein moiety in C-phycocyanin: protonation of the chromophore. Chem Phys Lett 1997; 274: 460-465.
- 2) Kikuchi H, Suzuki H¹⁾ (¹⁾ Waseda Univ.): Dynamical theory of the photoisomerization of rhodophore: the generation of a transient electric field during the photoisomerization. J Phys Chem B 1997; 101: 6050-6056.

- 3) 高木真吾¹⁾, 山崎清之¹⁾, 岡本克郎¹⁾, 伊藤高司, 池田研二¹⁾ (¹⁾ 東海大学): EOGを用いた障害者用ポインティングデバイスの研究. 人間工学 1997; 第3巻 (特別号): 304-305.
 - 4) 幸王孝仁¹⁾, 道祖土栄¹⁾, 高橋 潤¹⁾, 木村達洋¹⁾, 山崎清之¹⁾, 伊藤高司, 池田研二¹⁾, 岡本克郎¹⁾ (¹⁾ 東海大学): 自然睡眠中の体動とR-R間隔変動. 人間工学 1997; 第3巻 (特別号): 436-437.
 - 5) 河野貴美子: リラクゼーションとは何か—脳波から検討する—. 催眠と科学 1997; 12 (1): 41-45.
 - 6) 竹澤健司¹⁾, 森 隆夫¹⁾, 鬼頭 論¹⁾, 木村真人¹⁾, 鈴木博子¹⁾, 葉田道雄¹⁾, 下田健吾¹⁾, 河野貴美子 (¹⁾ 日本医科大学精神医学教室): ストレス負荷に対する香りの精神生理学的研究—フラクタル次元解析を用いた検討—. 催眠と科学 1997; 12 (1): 35-40.
- (2) 綜説:
- 1) 三室 守¹⁾, 村上明男²⁾, 菊地浩人 (¹⁾ 山口大学・理学部, ²⁾ 基礎生物学研究所): シアノバクテリアの集光性超分子会合体, フイコピリソーム. 蛋白質核酸酵素 1997; 42 (12): 2613-2625.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 河野貴美子: 脳の科学から幼児教育を考える. 第19回新幼児教育研究大会, 1998. 3.

(2) 招待講演:

- 1) Kikuchi H: Functional Meaning of the Symmetry Structure in Phycobiliprotein Aggregates. US/Japan Seminar on Molecular Organization of Photosynthetic Ant, 1997. 11.

(3) セミナー:

- 1) 菊地浩人, 輪湖 博¹⁾, 郷 通子²⁾, 三室 守³⁾ (¹⁾ 早稲田大学・社会科学部, ²⁾ 名古屋大学・理学部, ³⁾ 山口大学・理学部): C-フィコシアニンの基準振動解析. 第5回「光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナーV」, 1997. 6.

(4) 一般講演:

- 1) 河野貴美子, 山本幹男¹⁾, 小久保秀之¹⁾, 坂田英昭¹⁾, 平田 剛²⁾ (¹⁾ 科学技術庁放射線医学総合研究所, ²⁾ NEC C&C メディア研究所): 変性意識状態 (ASC) における脳波の一考察. 第4回中国人体科学学会学術交流会, 1997. 11.
- 2) 山本幹男¹⁾, 平澤雅彦¹⁾, 小久保秀之¹⁾, 境田英昭¹⁾, 河野貴美子, 平田 剛²⁾, 蔵野美恵子¹⁾, 古角智子¹⁾, 谷口順子¹⁾, 安田仲宏¹⁾, 古川 章¹⁾, 古川雅英¹⁾, 福田信男¹⁾, 町 好雄³⁾ (¹⁾ 科学技術庁放射線医学総合研究所, ²⁾ NEC C&C メディア研究所, ³⁾ 東京電機大学): 多様同時計測による生体機能解析法の研究—日本政府予算による5年計画研究の2年経過報告. 第4回中国人体科学学会学術交流会, 1997. 11.
- 3) 大坂元久¹⁾, 斎藤寛和²⁾, 佐々部典子²⁾, 加藤貴雄²⁾, 伊藤高司³⁾, 岸田 浩²⁾, 早川弘一²⁾, Leeman D⁴⁾, Shubrooks S⁴⁾, Akbrecht P⁴⁾ (¹⁾ 第一内科, ²⁾ 第一生理, ³⁾ 情報科学センター, ⁴⁾ MIT): 体表面ラブラシアン心電図による心筋虚血部位の検出—経皮的冠動脈形成術施行中における検討—. 第36回日本ME学会大会, 松本, 1997. 4.
- 4) 赤坂文郎¹⁾, 河野貴美子 (¹⁾ 物理哲学研究所): 黒酔の生体への影響について. 第4回生命情報科学シンポジウム, 1997. 8.
- 5) 河野貴美子, 山本幹男¹⁾, 小久保秀之¹⁾, 境田英昭¹⁾, 平田 剛¹⁾, 黄 健²⁾, 紫 剣宇³⁾ (¹⁾ 科学技術庁放射線医学総合研究所, ²⁾ NEC C&C メディア研究所, ³⁾ 上海市気功研究所): 気功法および練功年数の違いにおける脳波の比較. 第4回生命情報科学シンポジウム, 1997. 8.
- 6) 山本幹男¹⁾, 平澤雅彦¹⁾, 小久保秀之¹⁾, 境田英昭¹⁾, 河野貴美子, 平田 剛²⁾, 蔵野美恵子¹⁾, 古角智子¹⁾, 谷口順子¹⁾, 安田仲宏¹⁾, 古川 章¹⁾, 古川雅英¹⁾, 松本 徹¹⁾, 福田信男¹⁾, 町 好雄³⁾ (¹⁾ 科学技術庁放射線医

- 学総合研究所, ²⁾ NEC C&C メディア研究所, ³⁾ 東京電機大学): 多様同時計測による生体機能解析法の研究—科学技術庁予算による5年計画研究の2年経過報告—. 第4回生命情報科学シンポジウム, 1997. 8.
- 7) 伊藤高司, 渡部 昇: 日本医科大学広域学術ネットワークの運用. 情報処理教育研究会, 1997. 10.
- 8) 菊地浩人, 輪湖 博¹⁾, 郷 通子²⁾, 三室 守³⁾ (¹⁾ 早稲田大学・社会科学部, ²⁾ 名古屋大学・理学部, ³⁾ 山口大学・理学部): フイコビリンタンパク質会合体対称構造の機能的意味. 日本生物物理学会第35回年会 (京都), 1997. 10.
- 9) 長谷川健治¹⁾, 菊地浩人, 石崎茂生²⁾, 塚原保夫²⁾ (¹⁾ 北里大学・医学部, ²⁾ 東北大学・理研): ゴウリムシの行動の概日リズム—CA2+シグナリングによって決定される最適情報伝達経路—. 日本生物物理学会第35回年会 (京都), 1997. 10.
- 10) 菊地浩人, 小田井圭¹⁾, 長屋州宣²⁾, 鈴木英雄²⁾ (¹⁾ 湘北短期大学・電子情報, ²⁾ 早稲田大学理工学部): イエロープロテインとその発色団との間の相互作用. 日本物理学会1997年秋の分科会 (神戸), 1997. 10.
- 11) 小田井圭¹⁾, 菊地浩人, 長屋州宣²⁾, 鈴木英雄²⁾ (¹⁾ 湘北短期大学・電子情報, ²⁾ 早稲田大学・理工学部): パクテリオロドプシンにおける発色団と蛋白部分との相互作用. 日本物理学会1997年秋の分科会 (神戸), 1997. 10.
- 12) 竹澤健司¹⁾, 森 隆夫¹⁾, 鬼頭 論¹⁾, 木村真人¹⁾, 鈴木博子¹⁾, 葉田道雄¹⁾, 下田健吾¹⁾, 河野貴美子, 遠藤俊吉¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学精神医学教室): ストレス負荷に対する香りの精神生理学的研究—相関次元およびリアノフ指数を用いた検討—. 第13回日本催眠学会, 1997. 10.
- 13) 菊地浩人, 長屋州宣¹⁾, 小田井圭²⁾, 鈴木英雄¹⁾ (¹⁾ 早稲田大学・理工学部, ²⁾ 湘北短期大学・電子情報): イエロープロテインとその発色団との間の相互作用. 第4回日本光生物学協会講演会 (八王子), 1997. 11.
- 14) 清水秀一¹⁾, 緒方憲一¹⁾, 大坂元久²⁾, 小林義典¹⁾, 斎藤寛和¹⁾, 新 博次¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 早川弘一¹⁾, 伊藤高司 (¹⁾ 第一内科, ²⁾ 第一生理): 心房細動停止過程における細胞波の空間的特性の変化—心房電位相互間相互情報量による検討—. 第13回東京不整脈フォーラム, 東京, 1997. 11.
- 15) 河野貴美子: 頭部に現れる α 波の一考察. 第45回応用物理学関係連合講演会, 1998. 3.
- 16) 小久保秀之¹⁾, 山本幹男¹⁾, 平澤雅彦¹⁾, 境田英昭¹⁾, 河野貴美子, 福田信男¹⁾ (¹⁾ 科学技術庁放射線医学総合研究所): 生体起源のnT級磁場計測システムの開発. 第45回応用物理学関係連合講演会, 1998. 3.
- 17) 境田英昭¹⁾, 小久保秀之¹⁾, 山本幹男¹⁾, 平澤雅彦¹⁾, 河野貴美子¹⁾, 古角智子¹⁾, 古川雅英¹⁾ (¹⁾ 科学技術庁放射線医学総合研究所): 気功法を行った時の各種生理項目の同時計測に関する研究. 第45回応用物理学関係連合講演会予稿集, 1998. 3.
- 18) 坂田英昭¹⁾, 小久保秀之¹⁾, 山本幹男¹⁾, 平澤雅彦¹⁾, 河野貴美子 (¹⁾ 科学技術庁放射線医学総合研究所): 多様同時計測システムを用いた気功における発気試行時の生理状態に関する研究. 第5回生命情報科学シンポジウム, 1998. 3.
- 19) 小久保秀之¹⁾, 山本幹男¹⁾, 平澤雅彦¹⁾, 境田英昭¹⁾, 古川雅英¹⁾, 河野貴美子, 平田 剛¹⁾, 福田信男¹⁾ (¹⁾ 科学技術庁放射線医学総合研究所): 人の手から生じるnT級磁場測定系の開発. 第5回生命情報科学シンポジウム, 1998. 3.
- 20) 河野貴美子: 練功過程における脳波の変化. 第5回生命情報科学シンポジウム, 1998. 3.

〔3〕臨 床 医 学

1. 内科学第一講座

[付属病院第1内科]

研究概要

内科学第一教室では循環器病学，肝臓病学ならびに糖尿病学を中心に以下に示すような臨床的，基礎的研究を行った。

循環器病学では，不整脈に関する研究として，1) 心拍変動周波数解析などの数理学的手法，薬理学的手法を用いた自律神経系と不整脈，突然死発生との関連の検討，2) 抗不整脈薬の電気生理学的作用，臨床効果の検討，3) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療，4) 失神患者における自律神経機能の評価，5) 加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討ならびに抗不整脈薬の評価，6) 単相性活動電位記録による不整脈発生機序の検討，7) 自律神経活動と心筋再分極不均一性変動の関連，8) 心房細動患者の予後検討，心房血栓の検出法。

虚血性心疾患，心筋疾患に関する研究として，1) 薬剤負荷心エコー図法によるviable myocardium，心筋虚血の検出，2) 虚血性心疾患における圧受容体反射，自律神経機能との関連，3) 急性心筋梗塞後の左心室リモデリング，4) 虚血性心疾患における血管反応性と自律神経活動との関係，5) 虚血心筋保護法の検討，6) 虚血性心疾患，心筋疾患における成長因子，細胞増殖因子の検討，7) 左室心筋integrated backscatterの臨床的意義，8) 心疾患におけるmacrophage colony stimulation factorの検討。

肝臓病学では，1) 門脈圧亢進症の病態，薬物療法に関する検討，2) 実験的門脈圧亢進症における血管作動物質の動態，3) SSM（丸山ワクチン）によるサイトカイン産生，4) 慢性肝疾患における肺循環異常，5) 肝細胞のイオンチャンネルに関する電気生理学的検討。

糖尿病学では，1) 冠動脈疾患とインスリン抵抗性，2) 糖尿病患者における自律神経機能。

研究業績

論文

[1995年度追加分]

原著：

- 1) 清宮康嗣¹⁾，説田浩一¹⁾，小川 剛¹⁾，緒方憲一，内田高浩，高山守正⁽¹⁾ 博慈会記念総合病院第三内科)：正常冠動脈で運動負荷試験陽性を示した症例の検討。第12回足立医学会論文集 1996；(2)：48-49。

[1996年度追加分]

原著：

- 1) Sato S¹⁾，Adachi A¹⁾，Satomura K⁽¹⁾ Central Institute for Electron Microscopic Researches)：The Ultrastructure of Spiralled Collagen in Liver Fibrosis. Med Electron Microsc 1996；29 (3-4)：153-158。
- 2) 大塚邦明¹⁾，伊東盛夫²⁾，早野順一郎³⁾，斎藤寛和，藤本幸弘⁴⁾，犀川哲典⁵⁾，中西 正⁶⁾，長嶋正實⁷⁾，久保豊¹⁾ (1) 東京女子医科大学附属第二病院内科I，2) 大分医科大学臨床検査医学，3) 名古屋市立大学第三内科，4) 鳥取大学第一内科，5) 大分医科大学第一内科，6) 京都府立医科大学臨床検査医学，7) 名古屋大学小児科)：心拍変動解析器に関するアンケートのまとめ。Ther Res 1996；17 (11)：4174-4180。
- 3) 早川弘一：アンカロン市販後調査報告：特に副作用について。Prog Med 1997；17 (1)：1113-1116。

綜説：

- 1) 大坂元久：心拍変動の概日リズムと不整脈：線形解析と非線形解析。医学のあゆみ 1996；177 (9)：602-606。
- 2) 呉 小怡，小原俊彦，小倉宏道，大村和子，野村敦宣，小林義典，斎藤寛和，新 博次，加藤貴雄，早川弘

一：心機能低下例におけるアミオダロンの薬理作用：高分解能心電図を用いた検討. Prog.Med. 1997 ; 17 (1) : 1128-1131.

- 3) 岸田 浩：3.発症の日内変動にどんな意味があるか：発症の引金から予防まで. Ther Res 1997 ; 18 (3) : 147-154.
- 4) 加藤貴雄：4.心室性期外収縮：治療すべきか否か. Ther Res 1997 ; 18 (3) : 121-126.
- 5) 新 博次：Brugada型心電図異常. Cardiologist 1997 ; 2 (3) : 217.

(1) 原著：

- 1) Ogura H, Katoh T, Kasanuki H¹⁾, Iinuma H²⁾, Ozawa Y³⁾, Majima S⁴⁾, Hayakawa H (¹⁾ Department of Cardiology, The Heart Institute of Japan, Tokyo Women's Medical College, ²⁾ Cardiovascular Institute, ³⁾ Second Department of Internal Medicine, Nihon University School, ⁴⁾ Department of Internal Medicine, Division of Cardiology, Showa University) : Recent therapeutic strategy for sustained ventricular tachycardia in Japan. Heart Vessels 1997 ; 12 : 162-164.
- 2) Sekiyama T, Komeichi H, Nagano T, Ohsuga M, Terada H, Katsuta Y, Satomura K, Aramaki T : Effects of the α -/ β -Blocking Agent Carvedilol on Hepatic and Systemic Hemodynamics in Patients with Cirrhosis and Portal Hypertension. Arzneim-Forsch./Drug Res 1997 ; 47 (1) : 353-355.
- 3) Ishiwata T¹⁾, Guo F¹⁾, Naito Z¹⁾, Asano G¹⁾, Nishigaki R (¹⁾ Department of Pathology) : Differential Distribution of eNOS and iNOS mRNA in Rat Heart after Endotoxin Administration. Jpn Heart J 1997 ; 38 (3) : 445-455.
- 4) Kitayama H, Kiuchi K, Endo T, Hayakawa H : Value of Cardiac Ultrafast Computed Tomography for Detecting Right Atrial Thrombi in Chronic Atrial Fibrillation. Am J Cardiol 1997 ; 79 (9) : 1292-1295.
- 5) Kobayashi Y, Atarashi H, Ino T, Kuruma A, Nomura A, Saitoh H, Hayakawa H : Clinical and Electrophysiologic Effects of Dofetilide in Patients with Supraventricular Tachyarrhythmias. J Cardiovasc PharmacolTM 1997 ; 30 (3) : 367-373.
- 6) Tomita Y, Kusama Y, Seino Y, Munakata K, Kishida H, Hayakawa H : Increased accumulation of acidic fibroblast growth factor in left ventricular myocytes of patients with idiopathic cardiomyopathy. Am J Cardiol 1997 ; 134 (4) : 779-786.
- 7) Ma HH, Honma H, Munakata K, Hayakawa H : Mitral Insufficiency as a Complication of Acute Myocardial Infarction and Left Ventricular Remodeling. Jpn Circ J 1997 ; 61 (11) : 912-920.
- 8) Kobayashi Y, Ino T, Miyauchi Y, Kawaguchi N, Ogura H, Ohmura K, Ohara T, Tadera T, Endoh Y, Yashima M, Kuruma A, Onodera T, Saitoh H, Atarashi H, Katoh T, Kishida H, Hayakawa H : Curative percutaneous catheter ablation for various supraventricular and ventricular tachyarrhythmias. J Nippon Med Sch 1997 ; 64 (6) : 546-565.
- 9) Osaka M, Saitoh H, Yokoshima T, Kishida H, Hayakawa H, Cohen RJ¹⁾ (¹⁾ Harvard-MIT Division of Health Sciences and Technology, Cambridge) : Nonlinear Pattern Analysis of Ventricular Premature Beats by Mutual Information. Meth Inform Med 1997 ; 36 (4-5) : 257-260.
- 10) Ino T, Atarashi H, Kuruma A, Onodera T, Saitoh H, Hayakawa H : Electrophysiologic and Hemodynamic Effects of a Single Oral Dose of Pilsicainide Hydrochloride, a New Class Ic Antiarrhythmic Agent. J Cardiovasc PharmacolTM 1998 ; 31 (1) : 157-164.
- 11) Osaka M, Aroundas AA¹⁾, Saitoh H, Atarashi H, Ito T²⁾, Katoh T, Kishida H, Rosenbaum DS³⁾, Cohen RJ¹⁾, Hayakawa H (¹⁾ Harvard University-Massachusetts Institute of Technology, Division of Health

- Sciences and Technology, ² Centre of Informatics Science, ³ Departments of Medicine and Biomedical Engineering, Case Western Reserve University) : Relationship of Circadian Rhythm of Ventricular Premature Beats with Sudden Cardiac Death. *Ther Res* 1998 ; 19 (2) : 253-256.
- 12) Tada Y, Kishida H, Hanashi A, Sano J, Fukuma N, Saitoh T, Kusama Y, Hayakawa H : Relationship between the Interval of Ischemic Episodes and Severity of Ischemia in Patients with Variant Angina. *Ther Res* 1998 ; 19 (2) : 281-282.
- 13) Kiuchi K, Endo T, Nejima J, Okamatsu K, Takayama M, Takano T, Hayakawa H : Purulent Pericarditis With Tamponade Caused by Salmonella Enteritidis. *Jpn Circ J* 1998 ; 62 (2) : 139-141.
- 14) Uechi M¹, Asai K¹, Osaka M, Smith A¹, Sato N¹, Wagner TE², Ishikawa Y¹, Hayakawa H, Vatner DE¹, Shannon RP¹, Homcy C³, Vatner S¹ (¹ the Cardiovascular and Pulmonary Research Institute, Allegheny University of Health Sciences, ² the Department of Molecular and Cellular Biology, The Edison Institute Ohio University, ³ COR Therapeutics) : Depressed Heart Rate Variability and Arterial Baroreflex in Conscious Transgenic Mice With Overexpression of Cardiac G_{sα}. *Circ Res* 1998 ; 82 : 416-423.
- 15) 加藤和三¹, 岸田 浩, 谷口興一², 齋藤宗靖³, 細田瑛一⁴, 飯沼宏之⁵, 杉本恒明⁶, 片桐 敬⁷, 村山正博⁸, 篠山重威⁹, 下村克朗¹⁰, 南野隆三¹¹ (¹ 心臓血管研究所, ² 東京医科歯科大学医学部附属霞ヶ浦分院 (現群馬県立循環器病センター, ³ 自治医科大学附属大宮医療センター心臓血管科, ⁴ 東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所循環器内科, ⁵ 心臓血管研究所付属病院, ⁶ 東京大学医学部第2内科 (現関東中央病院), ⁷ 昭和大学医学部第3内科, ⁸ 聖マリアンヌ医科大学第2内科, ⁹ 富山医科薬科大学医学部第2内科 (現京都大学医学部第3内科), ¹⁰ 国立循環器病センター, ¹¹ 桜橋渡辺病院) : ニトログリセリン経皮吸収剤MZ-218の狭心症に対する効果 : 間欠投与法による第II相臨床試験. *医学と薬学* 1997 ; 37 (4) : 849-862.
- 16) 加藤和三¹, 岸田 浩, 谷口興一², 齋藤宗靖³, 飯沼宏之⁴, 片桐 敬⁵ (¹ 心臓血管研究所, ² 群馬県立循環器病センター, ³ 自治医科大学附属大宮医療センター内科, ⁴ 心臓血管研究所付属病院内科, ⁵ 昭和大学医学部第3内科) : MZ-218 (ニトログリセリン経皮吸収剤) の狭心症に対する長期投与試験. *医学と薬学* 1997 ; 37 (4) : 897-920.
- 17) 新 博次 : 心房細動の内科的治療. *JPN J ELECTRO CARDIOLOGY* 1997 ; 17 (2) : 64-83.
- 18) 川口直美, 平山悦之, 新 博次, 早川弘一 : 自動診断心電計による心筋梗塞診断精度の検討. *JPN J ELECTRO CARDIOLOGY* 1997 ; 17 (3) : 301-304.
- 19) 加藤貴雄, 角尾道夫¹, 三橋武司¹, 新 博次, 井野 威, 黒木伸一, 田中 隆, 亀井真一郎, 遠藤康実, 野村敦宣, 早川弘一, 平田 宏² (¹ 医療法人社団鳳川診療所, ² 三井製薬工業株式会社生物科学研究所) : MS-551注射剤の第I相試験 (第1報) : 単回投与試験. *臨床医薬* 1997 ; 13 (7) : 1659-1674.
- 20) 加藤貴雄, 角尾道夫¹, 新 博次, 黒木伸一, 金 應文, 藤森ひろみ, 国見聡宏, 小原俊彦, 宮本新次郎, 小林利行, 早川弘一, 平田 宏² (¹ 医療法人社団貴薬会ほうせん診療所, ² 三井製薬工業株式会社生物科学研究所) : MS-551注射剤の第I相試験 (第2報) : 持続静注試験. *臨床医薬* 1997 ; 13 (7) : 1675-1687.
- 21) 加藤和三¹, 加藤貴雄, 飯沼宏之¹, 笠貫 宏² (¹ 心臓血管研究所付属病院内科, ² 東京女子医科大学心臓循環器内科) : 頻脈性不整脈に対するMS-551注射剤の臨床効果 : 多施設共同による初期第II相試験. *臨床医薬* 1997 ; 13 (7) : 1689-1710.
- 22) 加藤貴雄, 田中啓治¹, 水野杏一², 高山守正³, 子島 潤³, 田中 隆¹, 小原俊彦, 宮内靖史³ (¹ 日本医科大学付属千葉北総病院集中治療部, ² 日本医科大学付属千葉北総病院内科, ³ 集中治療室) : 心筋梗塞症急性期の心行動態に及ぼすMS-551注射剤の影響. *臨床医薬* 1997 ; 13 (7) : 1821-1833.
- 23) 小林義典, 宮内靖史, 清水秀一, 坪 宏一, 北山浩気, 川口直美, 小倉宏道, 小原俊彦, 野村敦宣, 田寺 長, 八島正明, 齋藤寛和, 井野 威, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一 : 潜在性WPW症候群においてアブレーション

カテーテル先端で記録される洞調律時Pre-Potentialの意義. 臨床心臓電気生理 1997; 20: 163-170.

- 24) 北山浩気, 新 博次, 遠藤康実, 斎藤寛和, 小林義典, 岸田 浩, 早川弘一: 心筋梗塞臨床経過におけるQT dispersionの意義. 循環器科 1997; 41 (6): 632-635.
- 25) 草間芳樹, 高木 元, 本間 博, 佐野純子, 哲翁弥生, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一: 心筋梗塞例におけるドブタミン負荷心エコーの残存心筋虚血検出能: 運動負荷タリウム心筋シンチグラフィーとの比較. 心臓 1997; 29 (4): 124-126.
- 26) 福間長知, 岸田 浩, 富村正登, 及川恵子, 馬淵浩輔, 松田裕之, 笠神康平, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 佐野純子, 斎藤 勉, 草間芳樹, 宗像一雄, 早川弘一: Phenylephrineおよびnitroglycerin負荷試験と運動負荷時血圧・心拍応答の関係. 心臓 1997; 29 (4): 43-45.
- 27) 山田和生¹⁾, 梶原長雄²⁾, 岸田 浩, 比江嶋一昌³⁾, 関口守衛⁴⁾, 村上暎二⁵⁾, 竹越 襄⁵⁾, 林 博史⁶⁾, 伊藤隆之⁷⁾, 松原達昭⁸⁾, 水野 康⁹⁾, 菱田仁士¹⁰⁾, 小林 正¹¹⁾, 藤浪隆夫¹²⁾, 安井昭二¹³⁾, 伊藤裕康¹⁴⁾, 中野 起¹⁵⁾, 荒川規矩男¹⁶⁾, 戸嶋裕徳¹⁷⁾, 中島光好¹⁸⁾ (1) 名鉄病院長, 2) 日本大学総合科学研究所, 3) 東京医科歯科大学第一内科, 4) 信州大学第一内科, 5) 金沢医科大学循環器内科, 6) 名古屋大学第一内科, 7) 名古屋大学第二内科, 8) 名古屋大学第三内科, 9) 藤田保健衛生大学, 10) 藤田保健衛生大学内科, 11) 愛知医科大学第三内科, 12) 名古屋市立大学第三内科, 13) 国立名古屋病院, 14) 慈明会澤田病院, 15) 三重大学第一内科, 16) 福岡大学第二内科, 17) 久留米大学第三内科, 18) 浜松医科大学薬理学): ニトログリセリン経口錠 (SK-878) の狭心症を対象とした臨床評価: 硝酸イソソルビド徐放錠を対照とした二重盲験群間比較試験. 基礎と臨床 1997; 31 (9): 3021-3041.
- 28) 猿田享男, 川合眞一, 新 博次, 荒牧琢己, 江口研二, 小野寺昭一, 景山 茂, 武谷雄二, 増田寛次郎, 溝口昌子, 八木剛平, 水島 裕: フォーラム医薬品の必須適応法拡大についての専門医の見解: 日本臨床薬理学会拡大学術委員会による調査. 臨床薬理 1997; 28 (3): 729-741.
- 29) 林 明聡, 小林義典, 森田典成, 小林利行, 川口直美, 宮内靖史, 大村和子, 小原俊彦, 斎藤寛和, 新 博次, 早川弘一: 重症心室性不整脈における抗不整脈併用療法: 新世代除細動器植え込み例での検討. Prg Med 1997; 17 (10): 2861-2868.
- 30) 松岡健平¹⁾, 平田幸正²⁾, 金澤康徳³⁾, 矢崎義雄⁴⁾, 大竹 稔, 開原成允⁵⁾ (1) 東京都済生会中央病院内科, 2) 東京女子医科大学附属糖尿病センター, 3) 自治医科大学附属大宮医療センター, 4) 東京大学医学部第3内科, 5) 東京大学医学部附属病院中央医療情報部): 塩酸メキシレチン (MX-PDN) の糖尿病性神経障害に対する二重盲検比較試験. 医学と薬学 1997; 38 (4): 759-776.
- 31) 長戸孝道, 関山達也, 松田裕之, 勝田悌実, 里村克章, 荒牧琢己, 吉田 寛¹⁾, 梅原松臣¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 恩田昌彦¹⁾ (1) 第1外科): 側副血行路閉塞術により淡蒼球のMRI T1強調画像高信号が消失したportal-systemic encephalopathyの1例. 肝臓 1997; 38 (11): 668-672.
- 32) 加藤和三¹⁾, 早川弘一, 新 博次, 杉本恒明²⁾, 井上 博³⁾, 比江嶋一昌⁴⁾, 小川 聡⁵⁾, 飯沼宏之¹⁾, 中田八洲郎⁶⁾, 田辺晃久⁷⁾, 笠貫 宏⁸⁾ (1) 心臓血管研究所附属病院, 2) 関東中央病院内科, 3) 東京大学医学部第二内科, 4) 東京医科歯科大学第一内科, 5) 慶應義塾大学医学部内科呼吸循環科, 6) 順天堂大学医学部循環器内科, 7) 東海大学医学部第一内科, 8) 東京女子医科大学日本心臓血圧研究所循環器内科): 超短時間作用型 β_1 遮断薬: 塩酸ランジオロール (ONO-1101) の発作性心房細動・粗動, 発作性上室性頻拍に対する臨床評価: 3用量比較による多施設共同オープン比較試験 (用量設定試験). 臨床医薬 1997; 13 (19): 4873-4901.
- 33) 加藤和三¹⁾, 早川弘一, 新 博次, 杉本恒明²⁾, 井上 博³⁾, 比江嶋一昌⁴⁾, 小川 聡⁵⁾, 飯沼宏之¹⁾, 中田八洲郎⁶⁾, 田辺晃久⁷⁾, 笠貫 宏⁸⁾, 花岡一雄⁹⁾ (1) 心臓血管研究所附属病院, 2) 関東中央病院内科, 3) 富山医科薬科大学第二内科, 4) 東京医科歯科大学第一内科, 5) 慶應義塾大学医学部呼吸循環器内科, 6) 順天堂伊豆長岡病院循環器内科, 7) 東海大学医学部第一内科, 8) 東京女子医科大学日本心臓血圧研究所循環器内科, 9) 東京大学医学部麻酔科): 超短時間作用型 β_1 遮断薬: 塩酸ランジオロール (ONO-1101) 静脈内投与の発作性心房細動・

- 粗動に対する臨床効果：プラセボを対照薬とする多施設共同二重盲検比較試験. 臨床医薬 1997;13 (19) : 4903-4924.
- 34) 小野卓哉, 斎藤寛和, 新 博次, 早川弘一：誘発にIsoproterenol投与を要する神経調節性失神の特色. 自律神経 1997;34 (6) : 409-416.
- 35) 関山達也, 長戸孝道, 吉田明弘, 古明地弘和, 長野具雄, 大須賀勝, 寺田秀人, 勝田悌実, 里村克章, 荒牧琢己：門脈圧亢進症における肺循環に関する検討. 日門食会誌 1997;3 : 209-213.
- 36) 福岡長知, 松田裕之, 及川恵子, 馬淵浩輔, 富村正登, 多田祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 宗像一雄, 岸田浩, 早川弘一：動脈圧受容体反射と心肺圧受容体反射の心拍変動に対する影響：血管拡張薬投与後の心拍変動の検討. Ther Res 1998;19 (2) : 303-306.
- 37) 説田浩一¹⁾, 大塚俊昭¹⁾, 小川 剛¹⁾, 清宮康嗣⁽¹⁾ 博慈会記念総合病院循環器内科)：慢性心不全におけるapoptosisの関与について. 老人病研究所紀要 1998; (7) : 51-54.
- 38) 福岡長知, 及川恵子, 馬淵浩輔, 松田裕之, 笠神康平, 富村正登, 多田祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一：Syndrome X 症例におけるNitrate投与後の過大な反射性血管収縮反応. Jpn J Clin Pharmacol Ther 1998;29 (1,2) : 385-386.
- 39) 里村克章, 関山達也, 勝田悌実, 荒牧琢己, 飯田和美¹⁾, 藤田敬四郎¹⁾, 大竹 稔¹⁾ (1) ワクチン療法研究施設)：SSM (丸山ワクチン) によるサイトカイン産生について. Jpn J Clin Pharmacol Ther 1998;29 (1,2) : 159-160.
- (2) 綜説：
- 1) 岸田 浩：無症候性心筋虚血をどう診断するか？. 臨床医 1997;23 (4) : 551-553.
 - 2) 野村敦宣, 松本 真, 加藤貴雄：T波変動解析. 臨床医 1997;23 (4) : 628-630.
 - 3) 大坂元久, 岸田 浩, 早川弘一：心拍変動解析のアルゴリズム. 心臓 1997;29 (4) : 335-341.
 - 4) 遠藤康実, 新 博次：抗不整脈薬の注意すべき副作用, 留意すべき相互作用：医師の立場より (特集：不整脈一求められる情報提供とその実践). 薬局 1997;48 (4) : 594-600.
 - 5) 宮内靖史, 加藤貴雄：不整脈 (特集：救急薬品を使いこなす—救急病態・疾患からみた薬品の具体的な処方). 救急医学 1997;21 (4) : 419-423.
 - 6) 加藤貴雄：5. Controversy：除細動か, 心拍数コントロールか (特集：心房細動revisited). Heart View 1997;1 (4) : 460-464.
 - 7) 小林義典, 新 博次：心房細動に対する除細動の適応と方法 (特集心房細動と塞栓症：塞栓をどう防ぐか). 循環器Today 1997;1 (6) : 703-708.
 - 8) 大村和子, 加藤貴雄：カフェインと不整脈. 循環科学 1997;17 (5) : 502-504.
 - 9) 岸田 浩：無症候性心筋虚血 (SMI). 医学のあゆみ 1997;181 (9) : 849-850.
 - 10) 荒牧琢己：4. 食道・胃静脈瘤 (特集：慢性疾患の治療マニュアル). 総合臨牀 1997;46 : 1063-1068.
 - 11) 斎藤寛和：ストレス・自律神経機能と不整脈：臨床的意義と対処法. Medical Practice 1997;14 (5) : 741-747.
 - 12) 遠藤康実, 新 博次：新しい抗不整脈の特徴とその使いかた. Medical Practice 1997;14 (5) : 807-810.
 - 13) 加藤貴雄：心不全患者における不整脈治療の進めかた. Medical Practice 1997;14 (5) : 821-826.
 - 14) 山家智之¹⁾, 大坂元久, 吉澤 誠²⁾, 高安秀樹³⁾, 田林暁一⁴⁾, 大和田直樹¹⁾, 南家俊介¹⁾, 静 和彦¹⁾, 小林信一¹⁾, 永沼 滋¹⁾, 田中 明²⁾, 福寿岳雄⁴⁾, 三浦 誠⁴⁾, 斎藤寛和, 岸田 浩, 早川弘一, 仁田新一¹⁾ (1) 東北大学加齢医学研究所病態計測制御, 2) 東北大学大学院工学研究科システム制御工学, 3) 東北大学大学院情報科学研究科イメージ画像解析学, 4) 東北大学医学部胸部外科)：心臓血管系のカオスのダイナミクスはどこからくるのか？. Ther Res 1997;18 (5) : 1483-1489.
 - 15) 斉藤 勉：心臓交感神経活動とインシュリン (特集：自律神経研究の進歩). 骨・関節・韧带 1997;10 (5) :

635-641.

- 16) 新 博次：新しいIII群薬開発の現状と展望. 医学のあゆみ 1997; 181 (10) : 924-927.
- 17) 本間 博, 草間芳樹, 岸田 浩：Dobutamine stress echocardiography (DSE) による虚血性心疾患の診断：臨床におけるDSEの有用性. Cardiologist 1997; 2 (6) : 436-437.
- 18) 早川弘一：Overdrive Suppression と血圧. 循環制御 1997; 18 (2) : 147-147.
- 19) 新 博次, 早川弘一：不整脈の治療：薬物治療 Kチャンネルブロッカーによる薬物治療 (テーマ：不整脈治療のトピックス). Coronary 1997; 14 (2) : 117-122.
- 20) 岸田 浩：冠動脈硬化 (特集：動脈硬化—最近の話題から動脈硬化の臨床病態と診断). Current Therapy 1997; 15 (6) : 957-963.
- 21) 新 博次：不整脈への緊急対応 (特集：不整脈の基礎②). HEART nursing 1997; 10 (6) : 545-549.
- 22) 草間芳樹, 加藤貴雄：転換期を迎えた不整脈薬物治療法 2 分子生物学的・電気生理学的アプローチ 心筋虚血時における抗不整脈薬の催不整脈作用と陰性変力作用. Pharma Medica 1997; 15 (7) : 95-99.
- 23) 草間芳樹, 岸田 浩：冠動脈造影法の出現で虚血性疾患はどう変わったか (特集：虚血性心疾患の診断と治療—最近のトピックスを踏まえて：基礎から臨床まで). 循環科学 1997; 17 (7) : 650-651.
- 24) 清野精彦：カルシウム拮抗薬と心不全. 呼と循 1997; 45 (8) : 831-832.
- 25) 斎藤寛和, 佐藤 越, 新 博次：心電図 運動誘発性房室ブロックをみたら. 日本醫事新報 1997; (3825) : 53-56.
- 26) 新 博次：循環器疾患 発作性頻拍. medicina 1997; 34 (9) : 1737-1740.
- 27) 加藤貴雄：どのような不整脈を治療対象とすべきか—CAST後の治療適応, 治療目標の考え方— (特集：どのような不整脈をどのように治療すべきか). Cardiologist 1997; 2 (9) : 620-624.
- 28) 新 博次：特発性心室細動の病態と対策 (特集・日常臨床に必要な不整脈の最新知識). クリニカ 1997; 24 (5) : 348-351.
- 29) 菊池健次郎¹⁾, 大橋京一²⁾, 岸田 浩 (¹⁾ 旭川医科大学第一内科, ²⁾ 浜松医科大学臨床薬理学) : Ca拮抗薬：その適切な使用方法. Ther Res 1997; 18 (9) : 3063-3073.
- 30) 加藤貴雄：Sicilian Gambitの臨床応用発作性上室性頻拍 (特集：これからの不整脈薬物療法). MEDICAL DIGEST 1997; 46 (5) : 11-14.
- 31) 岸田 浩：臨床心電図—検査法から治療へ：心筋虚血silent myocardial ischemia. 診断と治療 1997; 85 (9) : 1449-1452.
- 32) 岸田 浩：無症候性心機能低下例の治療と管理. 総合臨牀 1997; 46 (10) : 2589-2590.
- 33) 新 博次：心房細動の治療法の進歩. 日医雑誌 1997; 118 (8) : 1192-1193.
- 34) 清野精彦：第7回世界集中治療医学会. 集中治療 1997; 9 (11) : 1285-1286.
- 35) 清野精彦：心不全治療の新展開'96 (特集：心不全治療の新展開). 進歩する心臓研究 1997; 17 (2) : 47-49.
- 36) 清野精彦：右室梗塞の病態と治療：特に右室梗塞の血行動態規定因子について. 心臓 1997; 29 (10) : 834-835.
- 37) 佐藤直樹, 清野精彦：薬物治療の実際 5. Ca拮抗薬 (特集：慢性心不全の新しい視点—病理生理から治療への新しいアプローチ—). Prog Med 1997; 17 (10) : 2709-2713.
- 38) 新 博次：抗不整脈薬の使い方：上室性不整脈. 診療と新薬 1997; 34 (10) : 1071-1080.
- 39) 加藤貴雄：抗アレルギー薬の薬物相互作用：Torsades de pointesの原因と機序. Prog Med 1997; 17 (11) : 3101-3107.
- 40) 新 博次：不整脈薬物治療の変遷. 治療 1997; 79 (11) : 2367-2369.
- 41) 小林義典, 新 博次：急性心筋梗塞の不整脈の管理 (特集：重症頻脈性不整脈の管理). 集中治療 1997; 9 (12) : 1379-1386.
- 42) 加藤貴雄：日常診療における不整脈のプライマリ・ケア (特集：不整脈の治療1). 日医雑誌 1997; 118

(13) : 1823-1828.

- 43) 清野精彦, 草間芳樹, 本間 博, 佐野純子, 高木郁代, 塚田弥生, 岸田 浩, 早川弘一, 高野照夫¹⁾, 汲田伸一郎²⁾ (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 放射線科学教室): 心疾患患者の術前評価と麻酔計画 虚血性心疾患の病態と術前評価. 日臨麻会誌 1997; 17 (10) : 561-567.
- 44) 加藤貴雄: 心不全例の不整脈治療の実際—薬剤選択・治療期間の具体的めやす—症候性心室性期外収縮の治療 (特集: 心不全と不整脈). Cardiac Practice 1998; 9 (1) : 73-77.
- 45) 岸田 浩: 心電図でどこまでわかるか (特集: 狭心症'98). Heart View 1998; 2 (1) : 8-14.
- 46) 内田高浩, 加藤貴雄: 不整脈の診断: 精査を必要とする場合 (特集: プライマリケア医が診る不整脈). 臨床と薬物治療 1998; 17 (1) : 13-15.
- 47) 新 博次: 大規模臨床比較試験: これまでの流れ (特集: プライマリケア医が診る不整脈). 臨床と薬物治療 1998; 17 (1) : 46-49.
- 48) 新 博次: 期外収縮 (特集: 患者のQOLを考慮した私の第一選択薬). 治療 (増刊号) 1998; 80 : 416-417.
- 49) 古明地弘和, 筒井 仁, 荒牧琢己, 大矢 徹¹⁾, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 放射線科学教室): 肝細胞癌の再発と治療. 日医大誌 1998; 65 (1) : 69-72.
- 50) 清野精彦, 富田喜文: 心筋傷害マーカーによる診断と予後の推測: 心筋トロポニンT, ミオシン軽鎖について (特集: 急性心筋梗塞の診療の最前線). Heart View 1998; 2 (2) : 132-138.
- 51) 野村敦宣, 櫻田春水¹⁾, 平岡昌和²⁾ (¹⁾ 都立広尾病院循環器科, ²⁾ 東京医科歯科大学難治疾患研究所, 成人疾患研究部門 (循環器病)): 基礎と臨床の関係: リエントリー, 異常自動能, 激発活動 (特集: 心室性不整脈—基礎から臨床まで). 循環科学 1998; 18 (2) : 114-116.
- 52) 新 博次: 再発性心房細動の薬物治療 (特集: 不整脈 不整脈の治療). CURRENT THERAPY 1998; 16 (2) : 83-86.
- 53) 岸田 浩: 狭心症の発症時刻と時間治療 3. 無症候性心筋虚血 (特集: 循環器疾患の発症リズム・悪化のリズム—生体リズムを考慮した時間診断と時間治療—). Prog Med 1998; 18 (2) : 213-218.
- 54) 岸田 浩, 斎藤寛和: 心筋虚血と日内変動 1. 虚血閾値の日内変動 (特集: 循環器疾患の発症リズム・悪化のリズム—生体リズムを考慮した時間診断と時間治療—). Prog. Med. 1998; 18 (2) : 219-224.
- 55) 清野精彦: ホスホジエステラーゼ (PDE) 阻害薬: ICUにおける心血管作動薬 3. 集中治療 1998; 10 (3) : 325-328.
- (3) 研究報告書:
- 1) 村山正博¹⁾, 太田壽城²⁾, 大津文雄³⁾, 川久保清⁴⁾, 岸田 浩, 久保田功⁵⁾, 外畑 巖⁶⁾, 平井真理⁷⁾, 武者春樹⁸⁾ (¹⁾ 聖マリアンナ医科大学第二内科, ²⁾ 国立健康・栄養研究所健康増進部, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院, ⁴⁾ 東京大学医学部保健管理学教室, ⁵⁾ 山形大学医学部第一内科, ⁶⁾ 常滑市民病院, ⁷⁾ 名古屋大学医学部第一内科, ⁸⁾ 聖マリアンナ医科大学横浜西部病院): 日本心電学会「運動負荷心電図の標準化に関する委員会」1996年報告 トレッドミル負荷試験による抗狭心症薬薬効判定に関する研究. JPN. J. ELECTRO CARDIOLOGY 1997; 17 (4) : pp393-399.
- 2) 早川弘一, 杉本恒明¹⁾, 比江嶋一昌²⁾, 小川 聡³⁾, 山口 巖⁴⁾, 井上 博⁵⁾, 笠貫 宏⁶⁾, 飯沼宏之⁷⁾, 下村克朗⁸⁾, 加藤貴雄, 小倉宏道 (¹⁾ 関東中央病院, ²⁾ 東京医科歯科大学第一内科, ³⁾ 慶応義塾大学内科, ⁴⁾ 筑波大学内科, ⁵⁾ 富山医科薬科大学第二内科, ⁶⁾ 東京女子医科大学日本心臓血圧研究所内科, ⁷⁾ 心臓血管研究所付属病院内科, ⁸⁾ 国立循環器病センター内科): 日本循環器学会学術委員会 (1994-1996年度報告) 調査研究: 頻脈性, 特に心室性不整脈の長期予後についての大規模調査. Jpn Circ J 1997; 61 (2) : pp750-756.
- 3) 猿田享男, 川合眞一, 新 博次, 荒牧琢己, 江口研二, 小野寺昭一, 景山 茂, 武谷雄二, 増田寛次郎, 溝口昌子, 八木剛平, 水島 裕: 医薬品の必須適応拡大についての専門医の見解—日本臨床薬理学会拡大学術委員

会による調査一. 臨床薬理 1997; 28 (3): pp729-741.

- 4) 早川弘一, 加藤貴雄, 小倉宏道, 杉本恒明¹⁾, 比江嶋一昌²⁾, 小川 聡³⁾, 山口 巖⁴⁾, 井上 博⁵⁾, 笠貫 宏⁶⁾, 飯沼宏之⁷⁾, 下村克朗⁸⁾ (1) 関東中央病院, 2) 東京医科歯科大学医学部第一内科, 3) 慶應義塾大学医学部内科, 4) 筑波大学医学部内科, 5) 富山医科薬科大学医学部第二内科, 6) 東京女子医科大学日本心臓血圧研究所循環器内科, 7) 心臓血管研究所附属病院内科, 8) 国立循環器病センター内科): 日循学術委員会研究班報告 調査研究: 頻脈性, 特に心室性不整脈の長期予後についての大規模調査 (1994~1996年度調査). 循環器専門医 1997; 5 (2): pp343-350.
- 5) 小沢友紀雄¹⁾, 加藤貴雄, 佐々木康之²⁾, 岩 亨³⁾, 新村一郎⁴⁾, 福並正剛⁵⁾, 中里裕二⁶⁾, 谷川 直⁷⁾ (1) 日本大学第二内科, 3) 信州大学第二内科, 4) 愛知医科大学第三内科, 5) 横浜市立大学小児科, 6) 大阪府立病院心臓内科, 7) 順天堂大学内科, 8) 日本大学第二内科): 日本循環器学会学術委員会 (1994年-1996年度報告) 診療基準研究: 時空間心電情報の定量化とその診断応用 II 高分解能心電図 (加算平均心電図). Jpn Circ J 1998; 61 (3): pp904-906.
- 6) 伊東盛夫¹⁾, 大塚邦明²⁾, 早野順一郎³⁾, 斎藤寛和, 中西 正⁴⁾, 藤本幸弘⁵⁾, 犀川哲典⁶⁾, 長嶋正実⁷⁾, 品川亮⁸⁾ (1) 大分医科大学臨床検査医学, 2) 東京女子医科大学, 3) 名古屋市立大学第三内科, 4) 京都府立医科大学, 5) 鳥取大学第一内科, 6) 大分医科大学第一内科, 7) 名古屋大学小児科, 8) 東京女子医科大学): 日本循環器学会学術委員会 (1994年-1996年度報告) 診療基準研究: 時空間心電情報の定量化とその診断応用 IV. 心拍変動解析. Jpn Circ J 1998; 61 (3): pp909-912.

著 書

- 1) 新 博次: [分担] 2.循環器 2.不整脈. 認定医・専門医のための内科学レビュー'97—最新主要文献と解説— (酒井 紀, 早川弘一, 西崎 統, 小林祥泰, 福井次矢編), 1997; pp39-44, 総合医学社.
- 2) 清野精彦, 柏木睦美, 塚本 浩: [分担] 2.循環器 5.大動脈・末梢血管疾患. 認定医・専門医のための内科学レビュー'97—最新主要文献と解説— (酒井 紀, 早川弘一, 西崎 統, 小林祥泰, 福井次矢編), 1997; pp59-64, 総合医学社.
- 3) 小濱啓次¹⁾, 青野 允²⁾, 石田詔治³⁾, 小川雄之亮⁴⁾, 上嶋権兵衛⁵⁾, 川田志明⁶⁾, 早川弘一, 村上誠一⁷⁾, 村沢真一郎⁸⁾, 酒井英治⁹⁾, 銭谷真美¹⁰⁾, 磯部文雄¹¹⁾, 西村清司¹²⁾, 佐藤忠義¹³⁾, 宮坂雄平¹⁴⁾ (1) 川崎医科大学救急医学, 2) 金沢医科大学麻酔学, 3) 兵庫医科大学救急部, 4) 埼玉医科大学総合医療センター小児科学, 5) 東邦大学救命救急センター, 6) 慶應義塾大学医学部外科学, 7) 金沢大学, 8) 警察庁交通局運転免許課, 9) 総務庁長官官房交通安全対策室, 10) 文部省体育局学校健康教育課, 11) 厚生省健康政策局, 12) 消防庁救急救助課, 13) 日本赤十字社救護・福祉部, 14) 日本医師会担当): [監修] 指導者のための救急蘇生法の指針 (日本医師会編), 1997; へるす出版.
- 4) 酒井 紀¹⁾, 早川弘一, 西崎 統²⁾, 小林祥泰³⁾, 福井次矢⁴⁾ (1) 東京慈恵会医科大学, 2) 聖路加国際病院, 3) 鳥根医科大学, 4) 京都大学医学部): [監修] 認定医・専門医のための内科学レビュー'97—最新主要文献と解説—, 1997; 総合医学社.
- 5) 本間 博: [分担] 3. 負荷心エコー法の手技と評価法. 負荷心エコー法 (高野照夫監修), 1997; pp33-54.
- 6) 本間 博, 草間芳樹: [分担] 5. viabilityの評価における負荷心エコー法 5. 1 ドプタミン負荷. 負荷心エコー法 (高野照夫監修), 1997; pp137-159.
- 7) 本間 博, 草間芳樹: [分担] viabilityの評価における負荷心エコー法: ドプタミン負荷 (CD-ROMメニュー). 負荷心エコー法 (高野照夫監修), 1997.
- 8) 加藤貴雄: [分担] 基本編 4.右室肥大, 両室肥大. 心電図を読み解く (井上 博編), 1997; pp19-23, 文光堂.
- 9) 新 博次: [分担] 基本編 3.左室肥大. 心電図を読み解く (井上 博編), 1997; pp14-18, 文光堂.

- 10) 新 博次：〔分担〕基本編 5.低電位差。心電図を読み解く（井上 博編），1997；pp24-26，文光堂。
- 11) 井野 威，早川弘一：〔分担〕V. 心室性不整脈 3.大規模試験後の薬物治療の考え方は変わるか わが国における大規模試験の現状と展望。心臓病診療プラクティス 13.心疾患の薬物治療を考える：大規模試験を踏まえて（吉川純一，笠貫 宏，土師一夫，別府慎太郎，松崎益徳編），1997；pp163-164，文光堂。
- 12) 岸田 浩：〔分担〕IX. 慢性冠動脈疾患 1.作用機序と薬物動態。心臓病診療プラクティス 13.心疾患の薬物治療を考える：大規模試験を踏まえて（吉川純一，笠貫 宏，土師一夫，別府慎太郎，松崎益徳編），1997；pp294-299，文光堂。
- 13) 荒牧琢己：〔分担〕門脈圧亢進。今日の診断指針第4版（亀山正邦，亀田治男，高久史磨，阿部令彦編），1997；pp373-375，医学書院。
- 14) 早川弘一，斎藤寛和，松本 真，緒方憲一，小野卓也，清水秀一：〔監修〕CH2000によるT波オルタナンス解析ガイド。T波オルタナンス解析ガイド，1997；Cambridge Heart。
- 15) 岸田 浩：〔分担〕4. 循環器疾患 狭心症。今日の診断指針〔ポケット版〕（亀山正邦，亀田治男，高久史磨，阿部令彦編），1997；pp777-783，医学書院。
- 16) 新 博次：〔分担〕15. Ic群薬と上室性頻拍性不整脈。不整脈'97（杉本恒明編），1997；pp156-163，メディカルレビュー社。
- 17) 富田喜文，高野照夫¹⁾（¹⁾ 集中治療室）：〔分担〕概論II. 心臓性突然死の疫学 D.来院時心肺停止（DOA）の実態。心臓性突然死（村山正博，笠貫 宏編），1997；pp73-79，医学書院。
- 18) 早川弘一：〔分担〕循環器の病気概論。最新決定版・家庭医学事典，1997；pp217-218，法研。
- 19) 早川弘一：〔分担〕不整脈（脈の乱れる病気）。最新決定版・家庭医学事典，1997；pp270-277，法研。
- 20) 里村克章，上村竜太¹⁾，青砥泰二²⁾，森本 進²⁾（¹⁾ 集中治療室，²⁾ 中央検査部）：〔分担〕VII. 臨床各科の感染対策（5）CCUの感染防止対策。ポケット版感染対策ハンドブック（小林寛伊編），1997；pp265-268，小学館。
- 21) 荒牧琢己，勝田悌実，関山達也：〔分担〕12. 門脈圧亢進症 治療／薬物療法。肝臓病—今日の診断と最新の治療（川崎寛中編），1997；pp259-269，国際医書出版。
- 22) 清野精彦：〔分担〕5.病態・重症度に応じた治療選択。実地医家のための心不全治療マニュアル（高野照夫編），1998；pp60-72，医薬ジャーナル社。
- 23) 清野精彦：〔分担〕第1部 腎移植におけるタクロリムスの問題点 2.心症状。腎移植におけるタクロリムス（園田孝夫，大島伸一，東間 紘編），1998；pp8-13，ライフサイエンス出版。
- 24) 新 博次：〔分担〕第II章 抗不整脈薬。不整脈薬物治療のゴール（井上 博編），1998；pp61-82，メディカルレビュー社。
- 25) 斎藤寛和，新 博次：〔分担〕第III章各論 1.心房期外収縮。不整脈薬物治療のゴール（井上 博編），1998；pp83-96，メディカルレビュー社。
- 26) 新 博次，斎藤寛和：〔分担〕第III章各論 2.心房細動と心房粗動。不整脈薬物治療のゴール（井上 博編），1998；pp97-126，メディカルレビュー社。
- 27) 斎藤寛和：〔分担〕第III章各論 8-1. 徐脈性不整脈—洞不全症候群—。不整脈薬物治療のゴール（井上 博編），1998；pp255-270，メディカルレビュー社。
- 28) 斎藤寛和：〔分担〕第III章各論 8-2.徐脈性不整脈—房室ブロッカー—。不整脈薬物治療のゴール（井上 博編），1998；pp271-291，メディカルレビュー社。
- 29) 岸田 浩：〔分担〕6. 虚血性心疾患 59.異型狭心症とは。心臓病専門医にきく最新の臨床（永井良三，三田村秀雄，川名正敏編），1998；pp274-275，中外医学社。
- 30) 岸田 浩：〔分担〕6. 虚血性心疾患 60.無症候性心筋虚血とは。心臓病専門医にきく最新の臨床（永井良三，三田村秀雄，川名正敏編），1998；pp276-277，中外医学社。

- 31) 岸田 浩：〔分担〕6. 虚血性心疾患 61. Holter心電図による心筋虚血の判断. 心臓病専門医にきく最新の臨床 (永井良三, 三田村秀雄, 川名正敏編), 1998; pp278-278, 中外医学社.
- 32) 新 博次：〔分担〕2.不整脈 5.発作性心房細動の予防法. 心臓病専門医にきく最新の臨床 (永井良三, 三田村秀雄, 川名正敏編), 1998; pp43-43, 中外医学社.
- 33) 新 博次：〔分担〕2. 不整脈 8.心房粗・細動と心拍数の調節. 心臓病専門医にきく最新の臨床 (永井良三, 三田村秀雄, 川名正敏編), 1998; pp48-48, 中外医学社.
- 34) 新 博次：〔分担〕2. 不整脈 12.発作性上室性頻拍・心房粗細動の頓服療法. 心臓病専門医にきく最新の臨床 (永井良三, 三田村秀雄, 川名正敏編), 1998; pp54-54, 中外医学社.
- 35) 新 博次：〔分担〕2. 循環器 2.不整脈. 認定医・専門医のための内科学レビュー'98—最新主要文献と解説— (酒井 紀, 早川弘一, 西崎 統, 小林祥泰, 福井次矢編), 1998; pp36-40, 総合医学社.
- 36) 清野精彦, 福本裕子, 柏木陸美：〔分担〕2.循環器 6.大動脈・末梢血管疾患. 認定医・専門医のための内科学レビュー'98—最新主要文献と解説— (酒井 紀, 早川弘一, 西崎 統, 小林祥泰, 福井次矢編), 1998; pp61-66, 総合医学社.
- 37) 酒井 紀¹⁾, 早川弘一, 西崎 統²⁾, 小林祥泰³⁾, 福井次矢⁴⁾ (1) 東京慈恵会医科大学/東急病院, 2) 聖路加国際病院, 3) 島根医科大学, 4) 京都大学医学部)：〔監修〕認定医・専門医のための内科学レビュー'98—最新主要文献と解説—, 1998; 総合医学社.
- 38) 加藤貴雄：〔分担〕質疑応答編 不整脈 (上室性および心室性) 抗不整脈薬静注時の血圧低下とその対策. 質疑応答による不整脈 (松尾博司編), 1998; pp40-42, 日本醫事新報社.
- 39) 加藤貴雄：〔分担〕質疑応答編 心室性不整脈 ショートラン型心室期外収縮の治療方針. 質疑応答による不整脈 (松尾博司編), 1998; pp103-105, 日本醫事新報社.
- 40) 加藤貴雄：〔分担〕質疑応答編 その他 心電図自動診断の信頼性. 質疑応答による不整脈 (松尾博司編), 1998; pp155-157, 日本醫事新報社.
- 41) 斎藤寛和, 岸田 浩：〔分担〕質疑応答編 心房細動・粗動 発作性心房細動の薬理学的除細動と血栓塞栓症. 質疑応答による不整脈 (松尾博司編), 1998; pp83-84, 日本醫事新報社.
- 42) 加藤貴雄, 平山悦之, 大村和子, 本間 博, 青木 聡：〔監訳〕心臓の生理と薬理. Physiology and Pharmacology of the Heart (Hilary Brown, Roland Kozlowski eds), 1998; メディカル・サイエンス・インターナショナル.

学会発表

〔1996年度追加分〕

一般講演：

- 1) Yasutake M, Avkiran M : Exacerbation of reperfusion arrhythmias by phorbol ester : A role for Na⁺/H⁺ exchanger activation via protein kinase C. American Heart Association the 69th Scientific Sessions (New Orleans), 1996. 11.

(1) 会長講演：

- 1) 早川弘一：抗不整脈薬併用療法. 第18回日本臨床薬理学会, 1997. 12.

(2) 教育講演：

- 1) Hayakawa H : Selection of antiarrhythmic drugs - hasa the issue been decided? (Ventricular arrhythmias : New diagnostic and management approaches). VI Asian-Pacific Symposium of Cardiac Pacing & Electrophysiology (New Delhi), 1997. 10.

(3) シンポジウム：

- 1) Seino Y : Current Concepts in Acute Myocardial Infarction (From Pain to Perfusion). The 7th World Congress of Internal and Critical Care Medicine (Ottawa), 1997. 6.
- 2) 清野精彦, 富田喜文, 星野公彦, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 岸田 浩, 早川弘一, 高野照夫¹⁾, 大林完二²⁾ (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ Tokyo TROP T Trial) : Acute Coronary Syndromeにおける心筋傷害進展の検出 : 心筋 troponin T (TnT) 遊出動態の分析とTnT全血迅速判定法 (TROP T) の活用. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 3) 清野精彦 : 心血管疾患とERT—血管機能への影響— (血管とEstrogen). 第12回日本更年期医学会学術集会, 1997. 11.
- 4) 草間芳樹 : 薬物療法の選択 (冠動脈疾患の病態と治療の最前線). 第7回循環器セラピューティック・フォーラム, 1997. 11.
- 5) 富田喜文 : 不安定狭心症の病態と治療戦略—特に虚血の流血中マーカーについて— (冠動脈疾患の病態と治療の最前線). 第7回循環器セラピューティック・フォーラム, 1997. 11.
- 6) 岸田 浩 : 治験責任医師の立場から (新GCP実施をめぐる諸問題). 第18回日本学術会議薬理学研連臨床薬理シンポジウム, 1997. 12.
- 7) 子島 潤¹⁾, 上村竜太¹⁾, 高野照夫¹⁾, 木内 要¹⁾, 高山守正¹⁾, 島井新一郎¹⁾, 清野精彦, 早川弘一 (¹⁾ 集中治療室) : 静注用強心薬からの離脱とその後の管理 (心不全に対する強心薬治療). 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 8) 高山守正¹⁾, 関戸司久¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 富田喜文, 大久保直子¹⁾, 木内 要¹⁾, 草間芳樹, 子島 潤¹⁾, 高野照夫¹⁾, 早川弘一 (¹⁾ 集中治療室) : 心原性ショックを呈する急性心筋梗塞の治療成績 : 特に重症3枝障害への対策の重要性. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 勝田悌実, 本間 博, 張 雪君, 大須賀勝, 古明地弘和, 関山達也, 荒牧琢己 : 慢性肝疾患 (CLD) における肺循環異常と動脈血酸素化障害 : 拡散—血流障害. 第4回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会総会, 1997. 9.
- 2) 小林義典 : 薬物治療 (心房細動—機序から治療まで). 第14回日本心電学会学術集会, 1997. 10.
- 3) 本間 博, 馬 煥煥, 横山広行, 子島 潤¹⁾, 草間芳樹, 高山守正¹⁾, 宗像一雄, 高野照夫¹⁾, 岸田 浩, 早川弘一 (¹⁾ 集中治療室) : 急性心筋梗塞に伴う僧帽弁閉鎖不全—急性期再灌流療法と左室リモデリングの影響. 第11回日本冠疾患学会学術集会, 1997. 12.
- 4) 新 博次 : 治験責任医師の立場から (治験現場よりみたモニタリングおよび監査). 第18回日本臨床薬理学会, 1997. 12.

(5) セミナー：

- 1) 清野精彦 : 心症状 (腎移植におけるタクロリムスの問題点). 第33回日本移植学会総会, 1997. 9.

(6) ワークショップ：

- 1) 斎藤寛和, 小野卓哉, 早川弘一 : 神経調節性失神の自律神経学的背景—Head-up Tilt試験と薬理学的自律神経機能検査による検討—. 第44回日本臨床病理学会総会, 1997. 10.

(7) 一般講演：

- 1) Osaka M, Yambe T¹⁾, Saitoh H, Yoshizawa M¹⁾, Atarashi H, Katoh T, Kishida H, Hayakawa H, Nitta S¹⁾ (¹⁾ Tohoku University) : Quantification of mutual dependence among heart rate, sympathetic activity and blood pressure in artificial-heart implanted dogs. The 22nd Annual Conference of International Society for Computerized Electrocardiology (Palm Coast, Florida), 1997. 4.
- 2) Ohara T, Katoh T, Wu X, Nomura A, Ohmura K, Kobayashi Y, Saitoh H, Hayakawa H : A New Non-

- Invasive Technique to Disclose Hidden Abnormal Micropotentials in QRS Complex. The 22nd Annual Conference of International Society of Computerized Electrocardiology (Palm Coast, Florida), 1997. 4.
- 3) Saitoh H, Ono T, Matsumoto, Ogata K, Nomura A, Ohara T, Osaka M, Sasabe N, Atarashi H, Katoh T, Hayakawa H : Wavelet transform of heart rate variability in the analysis of autonomic nervous activity. The 22nd Annual Conference of International Society of Computerized Electrocardiology (Palm Coast, Florida), 1997. 4.
 - 4) Takayama H, Ohara T, Wu X, Ogura H, Ohmura K, Katoh T, Hayakawa H : Wavelet Transform System Makes One-Beat Analysis Possible in Late Potential Evaluation. The 22nd Annual Conference of International Society of Computerized Electrocardiology (Palm Coast, Florida), 1997. 4.
 - 5) Ono T, Saitoh H, Nomura A, Kobayashi Y, Atarashi H, Katoh T, Hayakawa H : Proarrhythmic effect of class III antiarrhythmic agent in relation to its effects on both QT interval and QT dispersion. The 22nd Annual Conference of International Society of Computerized Electrocardiology (Palm Coast, Florida), 1997. 4.
 - 6) Setsuta K¹⁾, Seino Y, Takano T, Hayakawa H, Harada A²⁾ (¹⁾ Department of Cardiology, Hakujiikai Memorial General Hospital, ²⁾ Cardiovascular Center, Ebina General Hospital) : Clinical significance and short-term prognostic value of elevated levels of cardiac troponin T detected by second generation assay in patients with chronic heart failure. The 7th World Congress of Internal and Critical Care Medicine (Ottawa), 1997. 6.
 - 7) Jia D, Yasutake M, Kusama Y, Kishida H, Hayakawa H : Effects of a novel K_{ATP} channel opener KRN2391 on infarct size : when to be given?. International Society For Heart Research European Section XVIII European Section Meeting (Paris), 1997. 7.
 - 8) Yasutake M, Jia D, Kusama Y, Kishida H, Hayakawa H : Infarct-limiting effect of a novel K_{ATP} channel opener JTV506 : A study using regional low-flow ischemia model in isolated rat hearts. International Society For Heart Research European Section XVIII European Section Meeting (Paris), 1997. 7.
 - 9) Ohta M, Takano T, Yokoyama H, Fujita N, Tanaka K, Mori N, Tomita Y, Nejima J, Takayama M, Hashimoto H, Ohtake M, Aramaki T, Hayakawa H : Influence of diabetes on development of cardiogenic shock during acute myocardial infarction. 16th International Diabetes Federation Congress (Helsinki), 1997. 7.
 - 10) Sano J, Saitoh T, Mabuchi K, Tomimura M, Hanashi A, Tada Y, Fukuma N, Kusama Y, Kishida H : Influence of interval of consecutive transient myocardial ischemia on ST depression. 19th Congress of European Society of Cardiology (Stockholm), 1997. 8.
 - 11) Katoh T : Clinical treatment of ventricular tachyarrhythmia. 19th Congress of European Society of Cardiology Stockholm Symposium, 1997. 8.
 - 12) Tomita Y, He Y, Kusama Y, Munakata K, Kishida H, Hayakawa H : Immunohistochemistry of Fibroblast Growth Factors in Cardiomyopathy and Myocarditis. The 4th International Symposium on Cardiomyopathy & Myocarditis (ISCM-TOKYO), 1997. 9.
 - 13) Ono T, Saitoh H, Atarashi H, Hayakawa H : The Contribution of Abnormal - Adrenergic Response to Neurally Mediated Syncope. VI Asian-Pacific Symposium of Cardiac Pacing & Electrophysiology (New Delhi), 1997. 10.
 - 14) Yasutake M, Jia D, Kusama Y, Kishida H : Thrombin Reduces Myocardial Infarct Size : A Possible Role for K_{ATP} Channel Activation via Protein Kinase C. American Heart Association the 70th Scientific Sessions (Orlando, Florida), 1997. 11.

- 15) Jia D, Yasutake M, Kusama Y, Kishida H : Effects of Phenylephrine, Endothelin and Angiotensin II on Reperfusion Arrhythmias : A Role for Na⁺/H⁺ Exchanger Activation via Protein Kinase C. American Heart Association the 70th Scientific Sessions (Orlando, Florida), 1997. 11.
- 16) Yasutake M, Jia D, Kusama Y, Kishida H : Characterization of Regional Low-Flow Ischemia Infarct Model Using Dual Perfusion Cannula in Rat : Effects of K_{ATP} Channel Opener JTV506 vs Cromakalim. American Heart Association the 70th Scientific Sessions (Orlando, Florida), 1997. 11.
- 17) Kobayashi Y, Atarashi H, Hayakawa H : The Efficacy of Pure Class III Antiarrhythmic Agents in Acute Termination of Atrial Flutter, and its Mechanism. The 1st Taipei-Tokyo Cardiac Arrhythmia Joint Conference (Taipei), 1998. 1.
- 18) Setsuta K¹⁾, Ohtsuka T¹⁾, Ogawa T¹⁾, Seino Y, Takano T, Seimiya K, Takahashi N, Kishida H, Hayakawa H, Sasaki K, Harada A (¹⁾ Hakujuikai Memorial General Hospital) : Prognostic Value of Second Generation Cardiac Troponin T in Patients with Chronic Heart Failure. American College of Cardiology 47th Annual Scientific Session (Atlanta), 1998. 3.
- 19) Katoh T, Hayakawa H, Katoh K¹⁾ (¹⁾ The Cardiovascular Institute) : Anti-Bradycardiac Effects of AF-DX 116, A New Selective M₂ -Muscarinic Blockade. American College of Cardiology 47th Annual Scientific Session (Atlanta), 1998. 3.
- 20) Ibuki C, Hoshino K, Kusama Y, Munakata K, Hayakawa H : Preconditioning with Angiotensin-II improves LV functional recovery in rat hearts ; Dose response study. 国際心臓研究学会 (ISHR) 第14回日本本部会, 1997. 7.
- 21) Ibuki C, Hoshino K, Ja D, Kusama Y, Munakata K, Hayakawa H : Protective effects of Angiotensin II preconditioning against reperfusion-induced left ventricular dysfunction is mediated via catecholamine in the rat heart. 第62回日本循環器学会学術集会, 1998. 3.
- 22) 本間 博, 草間芳樹, 酒井俊太, 宗像一雄, 岸田 浩, 荒牧琢己, 早川弘一, 今泉孝敬¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾ (¹⁾ 集中治療室) : 心臓以外の手術を受ける高齢者の術前評価—ドブタミン負荷心エコー法を用いて—. 第94回日本内科学会講演会, 1997. 4.
- 23) 松本 真, 野村敦宣, 清水秀一, 大野則彦, 緒方憲一, 小野卓哉, 小倉宏道, 小原俊彦, 大坂元久, 小林義典, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一 : T波周波数解析により検出されたT-wave alternans (TWA) の意義. 第94回日本内科学会講演会, 1997. 4.
- 24) 大坂元久, 斎藤寛和, 佐々部典子, 加藤貴雄, 伊藤高司¹⁾, 岸田 浩, 早川弘一, Leeman DE²⁾, Shubrooks SJ²⁾, Albrecht P²⁾, Cohen RJ²⁾ (¹⁾ 情報科学センター, ²⁾ MIT) : 体表面ラプラシアン心電図による心筋虚血部位の検出—経皮的冠動脈形成術施行中における検討—. 第36回日本エムイー学会大会, 1997. 4.
- 25) 勝田悌実, 本間 博, 古明地弘和, 大須賀勝, 寺田秀人, 関山達也, 里村克章, 荒牧琢己 : 慢性肝疾患の動脈血酸素化と肺循環時間. 第94回日本内科学会講演会, 1997. 4.
- 26) 三浦洋司, 吉田博史, 長野具雄, 富田喜文, 関山達也, 岸田 浩, 荒牧琢己 : 不安定狭心症を合併したWerner症候群の1例. 第454回日本内科学会関東地方会, 1997. 5.
- 27) 長戸孝道, 古明地弘和, 長野具雄, 大須賀勝, 関山達也, 勝田悌実, 里村克章, 荒牧琢己, 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 第1外科) : B-RTO, PTO後に淡蒼球のT1強調画像高信号域の消失を認めた肝性脳症の1例. 第244回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 5.
- 28) 福間長知, 及川恵子, 松田裕之, 馬淵浩輔, 多田祐美子, 斎藤 勉, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一 : 反射性循環調節系活性化による動脈圧波成分の変化—PREDICTを用いた検討. 第18回日本循環制御医学会総会, 1997. 5.

- 29) 青木 聡, 石川 源¹⁾, 大森裕也¹⁾, 大村和子, 星野公彦, 木内 要¹⁾, 中西一浩¹⁾, 藤田信輔, 今泉孝敬¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾, 早川弘一, 川俣博志²⁾, 弦間和仁²⁾, 隈崎達夫²⁾ (1) 集中治療室, 2) 放射線科): 血栓吸引療法によって初めて有効な原因治療が可能であった肺血栓塞栓症の2例. 第24回日本集中治療医学会総会, 1997. 5.
- 30) 小倉宏道, 大村和子, 小原俊彦, 小林義典, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: Pilsicainide投与後右側胸部誘導のST上昇をきたした2例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第164回学術集会, 1997. 6.
- 31) 大坂元久, 斎藤寛和, 岸田 浩, 早川弘一, Armoundas AA¹⁾, Cohen RJ¹⁾ (1) MIT): 心臓突然死と心室期外収縮の概日リズムとの関連. 第17回ホルター心電図研究会, 1997. 6.
- 32) 豊田隆志, 小野卓哉, 小林利行, 小林義典, 関山達也, 荒牧琢己, 北村博司¹⁾, 山中宣昭¹⁾, 松信精一²⁾, 飯野靖彦²⁾ (1) 第1病理, 2) 第2内科): 心臓カテーテル検査を契機に出現した好酸球増加症を伴うrenal cholesterol embolizationの1例. 第456回日本内科学会関東地方会, 1997. 7.
- 33) 関山達也, 長戸孝道, 長野具雄, 張 雪君, 古明地弘和, 大須賀勝, 寺田秀人, 勝田悌実, 里村克章, 荒牧琢己: インターフェロン療法後HCVRNAとともにHBs抗原が陰性化した肝硬変の1例. 第245回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 7.
- 34) 高山守正¹⁾, 関戸司久¹⁾, 上村竜太¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 青木 聡, 宮内靖史, 今泉孝敬¹⁾, 子島 潤¹⁾, 富田喜文, 草間芳樹, 高野照夫¹⁾ (1) 集中治療室): 急性心筋梗塞 (AMI) 発症24時間以後の責任冠動脈完全閉塞への遅延期再灌流は有益か. 第6回日本心血管インターベンション学会学術集会, 1997. 7.
- 35) 福岡長知, 松田裕之, 岸田 浩, 馬淵浩輔, 富村正登, 多田祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 宗像一雄, 早川弘一: 動脈圧受容体反射と心肺圧受容体反射の心拍変動に対する影響—血管拡張薬投与後の心拍変動の検討—. 第3回非観血的循環動態モニター研究会, 1997. 8.
- 36) 斉藤 勉, 福岡長知, 草間芳樹, 岸田 浩, 早川弘一: 異型狭心症の一過性心筋虚血発作における自律神経活動とcatecholamineの寄与. 第44回循環器負荷研究会, 1997. 8.
- 37) 関山達也, 張 雪君, 長野具雄, 古明地弘和, 大須賀勝, 勝田悌実, 里村克章, 荒牧琢己: C型慢性肝炎に対するインターフェロン治療後の血液生化学的検査値の推移. 第23回臨床肝臓懇話会, 1997. 8.
- 38) 及川恵子, 福岡長知, 岸田 浩, 馬淵浩輔, 松田裕之, 富村正登, 多田祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 宗像一雄, 早川弘一: 運動時心拍反応と神経性調節機能との関係—圧受容体反射感受性とMetabolic Reserveを用いた検討—. 第3回日本心臓リハビリテーション学会総会, 1997. 9.
- 39) 平澤泰宏, 福岡長知, 富田喜文, 関山達也, 清野精彦, 宗像一雄, 荒牧琢己: 高血糖を誘因とするhemiballismを合併した肝硬変の1例. 第457回日本内科学会関東地方会, 1997. 9.
- 40) 緒方憲一, 石井健輔, 斉藤 勉, 斎藤寛和, 岸田 浩, 早川弘一, 宮内靖史¹⁾, 高野照夫¹⁾ (1) 集中治療室): 偽性大動脈縮窄症に合併した急性大動脈解離の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第165回学術集会, 1997. 9.
- 41) 亀山幹彦¹⁾, 木内 要¹⁾, 子島 潤¹⁾, 上村竜太¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 関戸司久¹⁾, 小倉宏道¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 富田喜文¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾, 加藤貴雄, 早川弘一, 中島敦夫²⁾, 中村 洋²⁾, 吉野慎一²⁾ (1) 集中治療室, 2) リウマチ科): 多中心性細網組織球症に高度房室ブロックを合併した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第165回学術集会, 1997. 9.
- 42) 斎藤寛和: 心拍変動解析の限界と展望. 第24回比較心電図研究会, 1997. 9.
- 43) 長戸孝道, 張 雪君, 古明地弘和, 長野具雄, 大須賀勝, 寺田秀人, 関山達也, 勝田悌実, 里村克章, 荒牧琢己: 高アンモニア血症を伴う慢性肝疾患におけるMRI T1強調像淡蒼球高信号の病態. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 44) 及川恵子, 福岡長知, 岸田 浩, 馬淵浩輔, 富村正登, 松田裕之, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 佐野純子, 斉藤

- 勉, 宗像一雄, 早川弘一: 運動時心拍反応に対する圧受容体反射感受性の影響—神経性因子と代謝性因子を介した心拍反応性の変化—. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 45) 高橋 啓, 斉藤 勉, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 塚田弥生, 佐野純子, 福間長知, 草間芳樹, 岸田 浩, 早川弘一: 流血中Macrophage Colony Stimulating Factorと冠動脈重症度. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 46) 林 明聰, 小林義典, 川口直美, 宮内靖史, 小倉宏道, 小原俊彦, 大村和子, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一, 別所竜蔵¹⁾, 矢島俊巳¹⁾, 田中茂夫¹⁾ (第2外科): Non-invasive EPSによるアミオダロン・ICD併用例のフォローアップ. 第2回アミオダロン研究会, 1997. 9.
- 47) 相澤瑞穂, 緒方憲一, 小林義典, 関山達也, 荒牧琢己, 金子昌裕¹⁾, 山本一仁¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 恩田昌彦¹⁾ (第1外科): 側副血行路閉塞術を2回施行した巨大シャントを伴う肝性脳症の1例. 第246回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 9.
- 48) 新 博次: 心房細動: 主に薬物療法を中心に (頻脈性不整脈の診断と治療). 第3回四万十川カンファレンス, 1997. 9.
- 49) 斉藤 勉, 岸田 浩, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 哲翁弥生, 佐野純子, 福間長知, 草間芳樹, 早川弘一: 流血中Macrophage Colony Stimulating Factorと冠動脈重症度. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 50) 佐野純子, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 福間長知, 斉藤 勉, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一, 汲田伸一郎¹⁾, 隈崎達夫¹⁾ (第1放射線科): 安静時²⁰¹Tl/負荷時^{99m}Tc-Tetrofosmin2核種同時心筋SPECTデータ収集法による心筋虚血自動診断. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 51) 青木 聡¹⁾, 高山守正¹⁾, 上村竜太¹⁾, 関戸司久¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 富田喜文, 子島 潤¹⁾, 草間芳樹, 宗像一雄, 高野照夫¹⁾ (第1集中治療室): 急性心筋梗塞に対する急性期ステント治療の長期予後. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 52) 及川恵子, 福間長知, 富村正登, 馬淵浩輔, 松田裕之, 多田祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 宗像一雄, 岸田浩: 運動負荷に対するchronotropic incompetenceと圧受容体反射機能障害との関係. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 53) 上村竜太¹⁾, 高山守正¹⁾, 青木 聡, 関戸司久¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 佐藤直樹, 富田喜文, 草間芳樹, 宗像一雄, 高野照夫¹⁾ (第1集中治療室): Pressure wire使用における冠動脈側副血行血流量の定量評価について. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 54) 関戸司久¹⁾, 高山守正¹⁾, 山田研一¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 青木 聡, 酒井俊太¹⁾, 木内 要¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高野照夫¹⁾, 早川弘一 (第1集中治療室): 最近10年間の感染性内膜炎の動向. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 55) 高山守正¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 子島 潤¹⁾, 雪吹周生, 安武正弘, 富田喜文, 宗像一雄, 高野照夫¹⁾ (第1集中治療室): 血栓溶解療法主体の再灌流時代 (80年代) に治療された心筋梗塞例の遠隔期予後. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 56) 今泉孝敬¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高野照夫¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 関戸司久¹⁾, 上村竜太¹⁾, 星野公彦, 高山守正¹⁾, 田中啓治¹⁾, 早川弘一 (第1集中治療室): 冠動脈洞採血による急性心筋梗塞 (AMI) 再灌流療法後のEndothelin (ET-1) の動態と産生部位の検討. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 57) 小倉宏道, 加藤貴雄, 小沢友紀雄, 飯沼宏之, 笠貫 宏, 真島三郎, 早川弘一 (車両競技公益資金記念財団助成研究「抗不整脈薬長期治療の在り方」研究班): 我が国における持続性心室頻拍治療の現況—第2報—. 第14回日本心電学会学術集会, 1997. 10.
- 58) 田中古登子, 小海信一, Martin RL¹⁾, 丸山光紀, 名知仁子, 佐藤良一²⁾, 長澤絃一, 早川弘一 (第1) University of Chicago, ²⁾ Northwestern University): 心不全心筋におけるhuman ATP-sensitive K channelのATP感受性の変性. 第14回日本心電学会学術集会, 1997. 10.
- 59) 田中古登子, 小海信一, Martin RL¹⁾, 丸山光紀, 名知仁子, 佐藤良一²⁾, 長澤絃一, 早川弘一 (第1) University

- of Chicago, ² Northwestern University) : Normal human heart 伸展誘発性Cl⁻ channelの特性. 第14回日本心電学会学術集会, 1997. 10.
- 60) 緒方憲一, 野村敦宣, 清水秀一¹⁾, 斎藤寛和, 松本 真, 小野卓哉, 小林義典, 新 博次, 早川弘一 (¹ 都立駒込病院循環器科) : T波alternansの機序—犬生体位心低体温モデルによる検討—. 第14回日本心電学会学術集会, 1997. 10.
- 61) 林 明聰, 小林義典, 川口直美, 宮内靖史, 小倉宏道, 小原俊彦, 大村和子, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一, 矢島俊巳¹⁾, 田中茂夫¹⁾ (¹ 第2外科) : 新世代除細動器植え込み例において抗頻拍ペーシング時に頻拍周期accelerationの出現する背景因子. 第14回日本心電学会学術集会, 1997. 10.
- 62) 田中古登子, 小海信一, Martin RL¹⁾, 佐藤良一²⁾, 丸山光紀, 藤田信輔, 田中邦夫, 井野 威, 鈴木 健, 長澤紘一, 早川弘一 (¹ University of Chicago, ² Northwestern University) : Human heart Iki channelクローン(HIRKI) 過分極不活性化程のchloramine-Tによる修飾. 第14回日本心電学会学術集会, 1997. 10.
- 63) 斎藤寛和, 野村敦宣, 加藤貴雄, 小野卓哉, 松本 真, 緒方憲一, 遠藤康実, 小林義典, 新 博次, 岸田 浩, 長澤紘一¹⁾, 早川弘一 (¹ 多摩永山病院内科) : QT間隔及びQT dispersionの再現性とinter-observer variation—第2報—. 第14回日本心電学会学術集会, 1997. 10.
- 64) イゴル ストフスキ, 呉 小怡, 高木啓倫, 高山英男, 小原俊彦, 加藤貴雄, 早川弘一 : I群抗不整脈薬による心電図QRS高周波成分の変化とその予測. 第14回日本心電学会学術集会, 1997. 10.
- 65) 本間 博, 馬 煥煥, 子島 潤¹⁾, 草間芳樹, 高山守正¹⁾, 宗像一雄, 高野照夫¹⁾, 岸田 浩, 早川弘一 (¹ 集中治療室) : 急性心筋梗塞後の左室リモデリングと僧帽弁閉鎖不全. 第34回日本臨床生理学会総会, 1997. 10.
- 66) 大坂元久, 斎藤寛和, 新 博次, 伊藤高司¹⁾, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一, Armoundas AA²⁾, Cohen RJ²⁾ (¹ 情報科学センター, ² Massachusetts Institute of Technology) : 心室期外収縮の概日リズムと心臓突然死の関連. 第20回心筋代謝研究会, 1997. 10.
- 67) 竹永清人, 小原俊彦, 富田喜文, 関山達也, 清野精彦, 加藤貴雄, 岸田 浩, 荒牧琢己 : 多発性肺動脈狭窄および閉塞による肺閉塞を合併したバーチェット病の1例. 第458回日本内科学会関東地方会, 1997. 10.
- 68) 関山達也, 長戸孝道, 古明地弘和, 長野具雄, 大須賀勝, 寺田秀人, 勝田悌実, 里村克章, 荒牧琢己 : 循環障害性肝障害に関する臨床病理学的検討. 第1回日本肝臓学会大会, 1997. 10.
- 69) 櫻井 薫, 佐藤直樹, 岡松健太郎, 富田喜文, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩 : 中性脂肪の変動が心筋梗塞の発症に関係しているか?. 第38回日本脈管学会総会, 1997. 10.
- 70) 大坂元久, 斎藤寛和, 松本 真, 小野卓哉, 佐々部典子, 岸田 浩, 早川弘一, 伊藤高司¹⁾ (¹ 情報センター) : T波オルタナンスと心室期外収縮概日リズム. 第13回時間循環器研究会, 1997. 10.
- 71) 多田祐美子, 岸田 浩, 葉梨亜矢, 塚田弥生, 佐野純子, 福岡長知, 斎藤 勉, 早川弘一 : 異型狭心症における発作間隔と発作重症度との関係. 第13回時間循環器研究会, 1997. 10.
- 72) 富田喜文, 何 媛, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一 : 心筋症モデル動物の心筋病変における細胞増殖因子とアポトーシスの関与について. 第1回日本心不全学会, 1997. 10.
- 73) 説田浩一¹⁾, 小川 剛¹⁾, 清野精彦, 高野照夫, 岸田 浩, 早川弘一, 原田 厚²⁾ (¹ 博慈会記念総合病院循環器科, ² 海老名総合病院循環器センター) : 慢性心不全症例における第二世代心筋トロポニンT測定系による心筋傷害進展の検出. 第1回日本心不全学会, 1997. 10.
- 74) 森田典成, 小林義典, 林 明聰, 松本 真, 小林利行, 川口直美, 宮内靖史, 小倉宏道, 小原俊彦, 大村和子, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一, 井野 威¹⁾, 田中茂夫²⁾ (¹ 多摩永山病院内科, ² 第2外科) : 左右両側に2本の副伝導路を有し, 左側副伝導路にのみ過常伝導が観察された潜在性WPW症候群の1例. 第9回カテーター・アブレーション委員会公開研究会, 1997. 11.
- 75) 石井健輔, 高橋 啓, 緒方憲一, 櫻井 薫, 古明地弘和, 斎藤 勉, 斎藤寛和, 関山達也, 岸田 浩, 荒牧琢

- 己：CREST症候群に冠攣縮性狭心症を合併した1例。第459回日本内科学会関東地方会，1997。11。
- 76) 持丸 博¹⁾，今井 力²⁾，田辺浩子，斉藤 勉，加藤貴雄，荒牧琢己，清水一雄³⁾ (¹⁾ 船堀クリニック，²⁾ 今井医院，³⁾ 第2外科)：Primary hyperaldosteronismの1症例。第15回江戸川医学会，1997。11。
- 77) 佐藤直樹，高山守正，相澤瑞穂，櫻井 薫，青木 聡，酒井俊太，富田喜文，草間芳樹，宗像一雄，岸田 浩，高野照夫：重症狭心症へのステント植え込み後にS状結腸癌から出血を呈し，少量の抗血小板薬にて癌根治術まで対処しえた1例。第11回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会，1997。11。
- 78) 岩崎雄樹，小野卓哉，松本 真，小林義典，本間 博，斎藤寛和，新 博次，加藤貴雄，早川弘一：アルコール負荷Head up tilt試験の有用性について。第50回日本自律神経学会総会，1997。11。
- 79) 小野卓哉，斎藤寛和，岩崎雄樹，大野則彦，小林義典，本間 博，新 博次，加藤貴雄，早川弘一：神経調節性失神の加齢による特色。第50回日本自律神経学会総会，1997。11。
- 80) 清水秀一，緒方憲一，大村和子，大坂元久，平山悦之，小林義典，斎藤寛和，新 博次，加藤貴雄，早川弘一：心房細動停止過程における細動波の空間的特性の変化一心房電位間相互情報量における検討一。第13回東京不整脈フォーラム，1997。11。
- 81) 高橋保裕，宮内靖史，加藤いすず，佐藤直樹，小林義典，子島 潤，高山守正，高野照夫，岸田 浩，川嶋徹生¹⁾，新田 隆¹⁾，田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 第2外科)：大動脈縮窄症を伴う冠攣縮により発症した若年性急性心筋梗塞の1例。日本循環器学会関東甲信越地方会第166回学術集会，1997。12。
- 82) 田邊 潤，内田高浩，小林義典，関山達也，荒牧琢己，吉村和泰¹⁾，田中宣威¹⁾，恩田昌彦¹⁾，小原俊彦²⁾，小川 剛²⁾ (¹⁾ 第1外科，²⁾ 博慈会記念総合病院)：術前に小腸狭窄を診断し得た特発性門脈・上腸間膜静脈血栓症の1例。第460回日本内科学会関東地方会，1997。12。
- 83) 高木啓倫，酒井俊太，小原俊彦，古明地弘和，関山達也，勝田悌実，里村克章，荒牧琢己：循環障害性肝障害にひきつづき出現した黄疸の1例。第247回日本消化器病学会関東支部例会，1997。12。
- 84) 福間長和，及川恵子，馬淵浩輔，松田裕之，笠神康平，富村正登，多田祐美子，佐野純子，斉藤 勉，草間芳樹，宗像一雄，岸田 浩，早川弘一：Syndrome X例におけるnitrate投与後の過大な反射性血管収縮反応。第18回日本臨床薬理学会，1997。12。
- 85) 里村克章，関山達也，勝田悌実，荒牧琢己，飯田和美¹⁾，藤田敬四郎¹⁾，大竹 稔¹⁾ (¹⁾ ワクチン療法研究施設)：SSM (丸山ワクチン) によるサイトカイン産生について。第18回日本臨床薬理学会，1997。12。
- 86) 賈 大林，安武正弘，草間芳樹，岸田 浩，早川弘一：ATP感受性Kチャンネル開口薬JTV-506の心筋梗塞サイズ縮小効果：ラット低流量心筋虚血モデルによる検討。第18回日本臨床薬理学会，1997。12。
- 87) 大須賀勝，張 雪君，長戸孝道，長野具雄，古明地弘和，寺田秀人，関山達也，里村克章，勝田悌実，荒牧琢己：門脈降圧薬が奏功した肝硬変患者 (いわゆるresponder) の全身ならびに肝血行動態の特徴。第18回日本臨床薬理学会，1997。12。
- 88) 小野卓哉，斎藤寛和，岩崎雄樹，松本 真，緒方憲一，小林義典，本間 博，新 博次，加藤貴雄，早川弘一：神経調節性失神に対する塩酸Pirfenolの有効性。第18回日本臨床薬理学会，1997。12。
- 89) 横山真也¹⁾，大國眞一¹⁾，富村正登¹⁾，高野雅允¹⁾，佐野純子¹⁾，岡松健太郎¹⁾，小林利行¹⁾，金子晴生¹⁾，水野杏一¹⁾，早川弘一 (¹⁾ 千葉北総病院内科)：抗高脂血症剤投与による接着分子の動向。第18回日本臨床薬理学会，1997。12。
- 90) 松崎つや子¹⁾，漆澤亜希¹⁾，水瀬 学¹⁾，佐藤淳子¹⁾，中村利枝¹⁾，本間 博，内田拓実，伊藤恵子，菅原博子，宗像一雄，岸田 浩，荒牧琢己，早川弘一 (¹⁾ 生理機能センター)：Acoustic Densitometry法により心筋性状の可逆的な変化を評価しえた急性心筋炎の1例。日本超音波医学会関東甲信越地方会第9回学術集会，1998。1。
- 91) 宮内靖史，小林義典，森田典成，岩崎雄樹，小川晃夫，林 明聡，小林利行，川口直美，小倉宏道，小原俊彦，大村和子，平山悦之，斎藤寛和，新 博次，早川弘一：左側前中隔に副伝導路を有する顕性WPW症候群の1例。

- 第10回臨床不整脈研究会, 1998. 1.
- 92) 櫻井 薫, 本間 博, 大塚俊昭, 内田拓実, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一: Acoustic Densitometry法による局所心機能の評価. 第32回日本成人病学会, 1998. 1.
- 93) 緒方憲一, 富田喜文, 太田眞夫, 橋本英洋, 大竹 稔, 荒牧琢己, 平松久弥子¹⁾, 関戸司久¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾, 松尾省吾²⁾ (¹⁾ 集中治療室, ²⁾ 下谷病院内科): Septic shockを併発する急性気腫性腎盂腎炎を発症し, 内科的に治療し得たNIDDMの1例. 日本糖尿病学会関東甲信越地方会第35回講演会, 1998. 1.
- 94) 高山英男, 小原俊彦, 加藤貴雄, 早川弘一: 心電図QRS高周波微小成分の一過性変化と不整脈発生の関連性. 第8回体表心臓微小電位研究会, 1998. 2.
- 95) 斎藤寛和, 緒方憲一, 岩崎雄樹, 清水秀一, 松本 真, 高山英男, 小原俊彦, 平山悦之, 小林義典, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: T波オルタナンスの機序—伝導か再分極か—. 第8回体表心臓微小電位研究会, 1998. 2.
- 96) 高橋保裕, 品田卓郎, 川口直美, 佐藤直樹, 内田高浩, 小林義典, 関山達也, 荒牧琢己, 原口秀司¹⁾, 小泉潔¹⁾ (¹⁾ 第2外科): 肝性胸水に対し胸腔鏡下横隔膜交通孔閉鎖術を施行した原発性胆汁性肝硬変の1例. 第248回日本消化器病学会関東支部例会, 1998. 2.
- 97) 相澤瑞穂, 佐藤直樹, 小林義典, 草間芳樹, 宗像一雄, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: 胸痛の原因として冠攣縮による心房虚血が示唆された単冠動脈の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第167回学術集会, 1998. 2.
- 98) 川嶋修司, 桜井 薫, 岸田 浩, 木内 要, 子島 潤, 上村竜太, 小谷英太郎, 関戸司久, 高山守正, 高野照夫: 脳梗塞と多量の血栓による急性心筋梗塞を発生したループスアンチコアグラント陽性の若年例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第167回学術集会, 1998. 2.
- 99) 吉田 晃¹⁾, 木内 要¹⁾, 高野照夫¹⁾, 上村竜太¹⁾, 石川 源¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 関戸司久¹⁾, 小倉宏道¹⁾, 川口直美¹⁾, 大久保直子¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 太田眞夫, 岸田 浩, 荒牧琢己, 早川弘一 (¹⁾ 集中治療室): 冠動脈疾患とインスリン抵抗性. 日本医科大学医学会第94回例会, 1998. 2.
- 100) 桜井 薫, 本間 博, 大塚俊昭, 内田拓実, 伊藤恵子, 菅原博子, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一: 左室心筋のIntegrated Backscatterによる局所心機能, 組織性状の評価. 日本医科大学医学会第94回例会, 1998. 2.
- 101) 岩崎雄樹, 平山悦之, 宮内靖史, 富田喜文, 関山達也, 高山守正, 岸田 浩, 高野照夫, 荒牧琢己, 河邊満彦¹⁾ (¹⁾ 第2内科): 慢性透析に伴うカルニチン欠乏による低血糖の1例. 第461回日本内科学会関東地方会, 1998. 2.
- 102) 福間長知, 及川恵子, 富村正登, 馬淵浩輔, 松田裕之, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 草間芳樹, 岸田 浩, 早川弘一: 圧受容体反射感受性低下による運動負荷初期と後期の心拍反応性の変化. 第45回循環器負荷研究会, 1998. 2.
- 103) 大塚俊昭¹⁾, 説田浩一¹⁾, 小川 剛¹⁾, 清宮康嗣, 富田喜文, 草間芳樹, 高山守正 (¹⁾ 博慈会記念総合病院第3内科): 当院におけるCoronary interventionの実状. 第13回足立医学会, 1998. 2.
- 104) 佐野純子, 斉藤 勉, 草間芳樹, 岸田 浩, 早川弘一: 冠動脈疾患における自律神経活動と心筋虚血. 日本適応医学会第2回学術集会, 1998. 2.
- 105) 徳山権一, 田邊 潤, 小林義典, 関山達也, 加藤貴雄, 岸田 浩, 荒牧琢己, 長谷川博一¹⁾ (¹⁾ 第1外科): 洞不全症候群, 腹膜炎を合併したFabry病の1例. 第462回日本内科学会関東地方会, 1998. 3.
- 106) 岩崎雄樹, 小野卓哉, 大坂元久, 斉藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: 誘因別にみた失神発作発症時間の検討. 第14回時間循環器研究会, 1998. 3.
- 107) 説田浩一¹⁾, 大塚俊昭¹⁾, 小川 剛¹⁾, 清野精彦, 高野照夫, 清宮康嗣, 高橋直人, 岸田 浩, 早川弘一, 原田厚²⁾, 佐々木建志²⁾ (¹⁾ 博慈会記念総合病院循環器内科, ²⁾ 海老名総合病院循環器センター): 慢性心不全における予後推測因子としての血清心筋Troponin T値の意義. 第62回日本循環器学会学術集会, 1998. 3.
- 108) 富田喜文, 吉田博史, 高久 俊, 櫻井 薫, 内田高浩, 佐藤直樹, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘

- 一：冠攣縮誘発後の血中細胞増殖因子流出動態の差異。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 109) 賈 大林，安武正弘，草間芳樹，岸田 浩，早川弘一：トロンビン受容体刺激によるラット心筋梗塞サイズ縮小効果。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 110) 大坂元久，斎藤寛和，松本 真，佐々部典子，新 博次，加藤貴雄，岸田 浩，早川弘一，伊藤高司¹⁾，Armoundas AA²⁾，Cohen RJ²⁾，Rosenbaum D²⁾ (¹⁾ 情報科学センター，²⁾ MIT)：心臓突然死と心室期外収縮の概日リズムとの関連。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 111) 多田祐美子，斉藤 勉，田辺浩子，高橋 啓，及川恵子，葉梨亜矢，塚田弥生，佐野純子，福間長知，草間芳樹，岸田 浩，早川弘一：異型狭心症における発作間隔と発作重症度の関係。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 112) 何 媛，富田喜文，内田高浩，佐藤直樹，草間芳樹，宗像一雄，岸田 浩，早川弘一，高山守正¹⁾，高野照夫¹⁾ (¹⁾ 集中治療室)：心筋梗塞患者におけるecNOS遺伝子多型性とACE遺伝子多型性の解析—特に発症年齢による差異について。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 113) 田辺浩子，斉藤 勉，高橋 啓，及川恵子，葉梨亜矢，塚田弥生，多田祐美子，佐野純子，福間長知，岸田 浩，早川弘一：糖尿病における微小血管病変の発現とMacrophage Colony Stimulating Factor (M-CSF)。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 114) 本間 博，草間芳樹，大塚俊昭，櫻井 薫，内田拓実，伊藤恵子，菅原博子，宗像一雄，岸田 浩，早川弘一：左室心筋Integrated Backscatterによる心サルコイドーシス早期診断の試み。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 115) 高橋 啓，斉藤 勉，田辺浩子，及川恵子，馬淵浩輔，富村正登，葉梨亜矢，塚田弥生，多田祐美子，佐野純子，福間長知，本間 博，早川弘一，岸田 浩：高血圧性心疾患における心筋肥大様式と流血中Macrophage Colony Stimulating Factor (M-CSF) およびTransforming Growth Factor β 1 (TGF- β 1) との関連性。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 116) 斉藤 勉，田辺浩子，高橋 啓，及川恵子，馬淵浩輔，富村正登，葉梨亜矢，塚田弥生，多田祐美子，佐野純子，福間長知，草間芳樹，岸田 浩，早川弘一：冠動脈疾患における流血中Macrophage colony Stimulating Factorと心事故発生。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 117) 福間長知，田辺浩子，高橋 啓，及川恵子，馬淵浩輔，松田裕之，多田祐美子，佐野純子，斉藤 勉，宗像一雄，岸田 浩，早川弘一：拡張期動脈圧波形成成分による血圧変化の予測—反射性循環調節系活性化による動脈圧波形の変化—。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 118) 酒井俊太¹⁾，岡松健太郎¹⁾，大野則彦¹⁾，松本 真¹⁾，北村克弘¹⁾，佐野純子¹⁾，大國眞一¹⁾，水野杏一¹⁾，星野公彦²⁾，今泉孝敬²⁾，田中啓治²⁾，関戸司久，上村竜太，富田喜文，草間芳樹，高山守正，宗像一雄，高野照夫，岸田 浩，早川弘一 (¹⁾ 千葉北総病院内科，²⁾ 同集中治療部)：急性心筋梗塞 (AMI) に対するステント治療—冠動脈内視鏡での検討。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 119) 清野精彦，子島 潤¹⁾，高山守正¹⁾，高野照夫¹⁾，大林完二²⁾ (¹⁾ 集中治療室，²⁾ 大林内科医院)：循環器救急外来における第二世代心筋Troponin T迅速判定法の評価：Tokyo TROP-T Trial II (4T-II)。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 120) 宮内靖史，小林義典，森田典成，林 明聰，小林利行，川口直美，小倉宏道，小原俊彦，大村和子，平山悦之，斎藤寛和，新 博次，加藤貴雄，岸田 浩，早川弘一，井野 威¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院内科)：左室特発性心室頻拍における緩徐伝導路—カテーテルアブレーション通電局所電位による検討—。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 121) 福間長知，及川恵子，馬淵浩輔，松田裕之，多田祐美子，佐野純子，斉藤 勉，宗像一雄，岸田 浩，早川弘一，汲田伸一郎¹⁾，隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 放射線科)：心臓交感神経のdenervationと運動負荷誘発性心室性期外収縮の

- 関係。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 122) 林 明聰，小林義典，森田典成，小林利行，川口直美，小倉宏道，宮内靖史，小原俊彦，大村和子，斎藤寛和，新 博次，加藤貴雄，岸田 浩，早川弘一，矢島俊巳¹⁾，新田 隆¹⁾，田中茂夫¹⁾ (第2外科)：非侵襲的EPSによる誘発心室性不整脈重症度の経時的変動—不整脈自然発生との関係—。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 123) 小林利行，斎藤 勉，葉梨亜矢，多田祐美子，岸田 浩，早川弘一：運動負荷によるTransforming Growth Factor- β 1 (TGF- β 1) の変化に及ぼすLp (a) の影響。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 124) 及川恵子，福間長知，富村正登，馬淵浩輔，松田裕之，多田祐美子，佐野純子，斎藤 勉，宗像一雄，岸田浩，早川弘一，汲田伸一郎¹⁾，隈崎達夫¹⁾ (放射線科)：心臓交感神経機能の運動負荷時心拍反応性におよぼす影響—心臓MIBGを用いた検討—。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 125) 及川恵子，福間長知，富村正登，松田裕之，多田祐美子，佐野純子，斎藤 勉，宗像一雄，岸田 浩，早川弘一：圧受容体反射機能低下に起因する運動負荷時のchronotropic incompetence—運動負荷初期と後期の心拍反応性の障害—。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 126) 青木 聡¹⁾，石川 源¹⁾，大森裕也¹⁾，大村和子，星野公彦，木内 要，中西一浩¹⁾，藤田信輔，今泉孝敬¹⁾，子島 潤¹⁾，高山守正¹⁾，高野照夫¹⁾，早川弘一 (集中治療室)：血栓吸引療法によって初めて有効な原因治療が可能であった肺血栓症の2例。第25回日本集中治療医学会総会，1998。3。
- 127) 高山守正¹⁾，関戸司久¹⁾，上村竜太¹⁾，酒井俊太¹⁾，青木 聡，宮内靖史，今泉孝敬¹⁾，子島 潤¹⁾，富田喜文，草間芳樹，高野照夫¹⁾ (集中治療室)：急性心筋梗塞 (AMI) 発症24時間以後の責任冠動脈完全閉塞への遅延期再灌流は有益か？。第25回日本集中治療医学会総会，1998。3。
- 128) 子島 潤¹⁾，高野照夫¹⁾，清野精彦，上村竜太¹⁾，小谷英太郎¹⁾，川口直美¹⁾，小倉宏道¹⁾，関戸司久¹⁾，大久保直子¹⁾，酒井俊太¹⁾，木内 要¹⁾，今泉孝敬¹⁾，高山守正¹⁾，宮内靖史¹⁾，中西一浩¹⁾，竹田晋浩¹⁾，富田喜文，早川弘一 (集中治療室)：新しい高感度トロポニンT迅速判定法による急性心筋梗塞早期診断制度の検討。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 129) 木内 要¹⁾，子島 潤，佐藤直樹，遠藤孝雄，早川弘一：心機能障害と高親和性 β 受容体—心機能障害時，カテコラミンに対する心筋反応性の低下は心筋 β 受容体細胞内情報伝達経路のどの因子と最も良く相関するか？。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 130) 高木郁代，高木 元，塚 宏一，山本 剛，佐藤直樹，遠藤孝雄，早川弘一，子島 潤，木内 要：アデニル酸シクラーゼ慢性直接刺激は家兎心筋 β 受容体を減少させるか。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 131) 佐藤直樹，木内 要，子島 潤，遠藤孝雄，早川弘一，Vatner SF¹⁾，Vatner DE¹⁾ (Harvard Medical Center)：心室支配神経は心不全の進展に関与しているか。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 132) 関戸司久¹⁾，高山守正¹⁾，上村竜太¹⁾，小谷英太郎¹⁾，小倉宏道¹⁾，川口直美¹⁾，酒井俊太¹⁾，木内 要¹⁾，子島潤¹⁾，高野照夫¹⁾，佐藤直樹，富田喜文，草間芳樹，宗像一雄，早川弘一 (集中治療室)：Ischemic Cardiomyopathyへの血行再建は遠隔期の左室機能と予後を改善するか。第62回日本循環器学会学術集会，1998。3。
- 133) 木内 要¹⁾，吉田 晃¹⁾，高野照夫¹⁾，子島 潤¹⁾，高山守正¹⁾，太田眞夫，岸田 浩，早川弘一 (集中治療室)：異型狭心症におけるインスリン抵抗性の役割。第9回日本臨床モニター学会総会，1998。3。

[付属病院老人科]

研究概要

老年者の糖尿病，動脈硬化，脂質代謝異常および肥満などに関する臨床的研究を行った。

糖尿病に関して，1) 血糖日内変動の検討から，老年者におけるスルホニル尿素薬の至適投与法の検討を行った。2)

微量アルブミン尿および尿中NAG指数をはじめとした各種糖尿病性腎症の指標について老年糖尿病患者における測定意義を明らかにした。3) 糖尿病患者における頸動脈病変と他の大血管病変との相互関係を明らかにした。4) 老年糖尿病患者におけるトログリタゾンの有用性を明らかにした。

脂質代謝に関しては、1) 高Lp (a) 血症の糖尿病患者における脳梗塞発症の危険因子としての意義を検討した。2) 日本脂質介入試験 (J-LIT) の臨床知見の中間報告を行った。3) The Pravastatin Anti-atherosclerosis Trial in the Elderly Group (PATE) において老年者の高コレステロール血症の治療意義を明らかにした。また、老年糖尿病患者における高コレステロール血症の臨床的意義についても併せて検討した。

肥満に関しては、1) 老年者の超音波法にて測定した脂肪分布と動脈硬化促進因子との相互関連を検討した。2) 老年者における血清レプチン濃度と体脂肪分布および加齢との関連を検討した。3) 老人健康診査における体脂肪率測定の意義について検討した。

その他、1) 尿中NAG指数と加齢および高血圧症との関連を明らかにした。2) 老人健康診査における痴呆テストの意義について検討した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Zhang J¹⁾, Metori S⁽¹⁾ (the first clinical college of China Medical University) : The relation between the urinary c peptide excretion level and countertransference system of cholesterol in patients with NIDDM. J China Medical University 1997 ; 26 (1) : 53-56.
- 2) 大庭建三, 山下直博, 岡崎恭次, 佐藤周三, 笹井恵子, 鈴木達也, 中野博司, 妻鳥昌平 : 老年糖尿病患者における血清フェリチンとその亜分画に関する検討. 日老医誌 1997 ; 34 (4) : 305-311.
- 3) 平井眞明, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 老年インスリン非依存型糖尿病患者における随時尿のアルブミン指数と尿中NAG指数測定の臨床的意義. 日医大誌 1997 ; 64 (6) : 518-525.
- 4) 永井信也¹⁾, 安室尚樹¹⁾, 荒井誠一²⁾, 鈴木久美²⁾, 越谷美由紀²⁾, 山賀節子²⁾, 玉手ひさ子²⁾, 池野廣幸²⁾, 原文男²⁾, 笹井恵子, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平^{(1) 健康管理科, 2) 第二病院中央検査室}) : 人間ドックにおける脂肪肝の診断—脂肪肝スコア化を用いて—. 健康医学 1997 ; 12 (3) : 98-102.

(2) 綜説：

- 1) 中野博司, 妻鳥昌平 : 老人糖尿病の診断およびコントロール基準. Diabetes Frontier 1997 ; 8 (2) : 155-158.
- 2) 大庭建三 : 痴呆のある老年糖尿病患者の教育・指導. 日本医事新報 1997 ; 3817 : 108-109.
- 3) 大庭建三 : 老年者糖尿病における薬物療法の進め方 (経口薬, インスリン). Medico 1997 ; 28 (7) : 9-12.
- 4) 井藤英喜¹⁾, 松岡健平²⁾, 井口昭久³⁾, 大庭建三^{(1) 東京都老人医療センター内分泌科, 2) 済生会糖尿病臨床研究センター, 3) 名古屋大学老年科}) : 老年者の糖尿病. Medico 1997 ; 7 (28) : 22-32.
- 5) 中野博司, 井川宗彦 : 老年者糖尿病のQOL—心理的・社会的問題も含めて—. プラクティス 1997 ; 14 (7・8) : 373-378.
- 6) 大庭建三, 鈴木達也, 中野博司 : 老年者の軽度耐糖能異常と動脈硬化. 内分泌・糖尿病科 1997 ; 5 (2) : 170-179.
- 7) 大庭建三 : 高齢者におけるOGTTと糖尿病診断. The Medical & Test Journal 1997 ; (592) : 6-6.
- 8) 妻鳥昌平 : 高齢者の糖尿病. 日老医誌 1997 ; 34 (8) : 612-616.
- 9) 佐藤周三, 妻鳥昌平 : 合併症を有する高齢者高血圧症の治療 ; 糖尿病. 老化と疾患 1997 ; 10 (9) : 1173-1179.
- 10) 妻鳥昌平 : 転倒と骨折予防—痛み. Gerontology 1997 ; 9 (4) : 421-429.
- 11) 大庭建三, 網代由美子, 笹井恵子, 中野博司 : 糖尿病. 臨床看護 1997 ; 23 (13) : 2060-2064.
- 12) 大庭建三, 鈴木達也, 中野博司, 妻鳥昌平 : 老年者糖尿病. 日本臨床 1997 ; 55 (1997臨時増刊号) : 620-625.

- 13) 中野博司, 妻鳥昌平: 低栄養. 総合臨床 1998; 47 (1): 85-88.
- 14) 大庭建三, 平井眞明, 中野博司, 佐藤周三: NAG. 日本臨床 1998; 56 (1998年増刊号): 400-406.
- 15) 岡崎恭次, 妻鳥昌平: 糖尿病・高脂血症. 臨床と研究 1998; 75 (2): 275-280.
- 16) 大庭建三, 中野博司: 老年者糖尿病の薬物療法. 実験と治療 1998; (650): 27-33.

(3) 研究報告書:

- 1) 大庭建三: 耐糖能別にみた老年者の長期生命予後に関する研究. 長寿科学総合研究平成8年度研究報告 Vol 4 老年病各論 1997; pp152-159.
- 2) 大庭建三: 低血糖症. 長寿科学研究エンサイクロペディア情報開発事業報告書 1998; pp673-674.

著 書

[1994年度追加分]

- 1) 妻鳥昌平, 中野博司: 糖尿病. エッセンシャル老年病学 (第2版), 1995; pp142-148, 医歯薬出版.
- 1) 大庭建三: 施設ケアと在宅ケア. 老年医学テキスト, 1997; pp118-120, メジカルビュー社.
- 2) 妻鳥昌平: 在宅医療. 老年医学テキスト, 1997; pp121-123, メジカルビュー社.
- 3) 大庭建三, 中野博司, 板垣晃之¹⁾, 妻鳥昌平, 佐々木陽²⁾, 葛谷英嗣³⁾ (1) 浴風会病院, 2) 大阪府立成人病センター, 3) 国立京都病院臨床研究部): 糖負荷試験判定基準 ('82) 境界型の取り扱い. 糖尿病記録号1996, 1997; pp41-48, 医学図書出版.
- 4) 春山 勝, 妻鳥昌平: 高齢者に見られる症状と徴候; 不明熱. 高齢者ケアマニュアル, 1997; pp107-108, 小学館.

学会発表

[1995年度追加分]

シンポジウム:

- 1) Ouchi Y¹⁾, Hattori A²⁾, Ito H²⁾, The Pravastatin Anti-atherosclerosis Trial in the Elderly Group (H Nakano, K Oba et al) (1) Department of Geriatrics, Faculty of Medicine, University of Tokyo, 2) Department of Endocrinology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital): Risk factors for cardiocerebrovascular diseases in elderly diabetic patients: Challenge for cholesterol-lowering therapy. International Symposium on Cardiovascular Diseases in the Elderly (Osaka), 1996. 3.

(1) 教育講演:

- 1) 妻鳥昌平: 高齢者の糖尿病. 第39回日本老年医学会学術集会総会, 1997. 6.
- 2) 大庭建三: インスリン抵抗性と老年者糖尿病. 川越医師会学術講演会, 1997. 6.
- 3) 大庭建三: 老人の糖尿病の特徴と診療の実際. 老年医学研修会, 第1回鹿児島研修会, 1997. 8.
- 4) 大庭建三: 老年者糖尿病の治療の実際とインスリン抵抗性. 船橋市内科医学術講演会, 1997. 9.
- 5) 妻鳥昌平: 高齢者糖尿病一予防の立場から一. 第1回高齢者糖尿病研究会, 1997. 9.
- 6) 大庭建三: 高齢者糖尿病治療の実際とインスリン抵抗性について. 足立区薬剤師会講演会, 1997. 10.
- 7) 大庭建三: 老人の糖尿病の特徴と診療の実際. 第40回日本医科大学静岡県支部総会講演会, 1997. 11.

(2) シンポジウム:

- 1) Ito H¹⁾, Ohashi Y²⁾, Ouchi Y²⁾, Saito Y³⁾, Ishikawa T⁴⁾, Nakamura H⁴⁾, Orimo H¹⁾, The Pravastatin Anti-atherosclerosis Trial in the Elderly Group (H Nakano, K Oba et al) (1) Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital, 2) Tokyo University, 3) Chiba University, 4) Natinal Defense Medical School): Reduction of

- cardiovascular events in the elderly by cholesterol lowering : The results of the PATE Study. The 16th Congress of the International Association of Gerontology (Adelade), 1997. 8.
- 2) Nakano H, Okazaki K, Sasai K, Oba K, Metori S : Clinical usefulness of pulse wave velocity, blood velocity of the common carotid artery, and thrombomodulin. 11th International Symposiums on Atherosclerosis (Paris), 1997. 10.
 - 3) Sasai K, Nakano H, Okazaki K, Oba K, Metori S : The influence of aging on serum leptin concentration. 11th International Symposiums on Atherosclerosis (Paris), 1997. 10.
 - 4) Ishikawa T¹⁾, The Pravastatin Anti-atherosclerosis Trial in the Elderly Group (H Nakano, K Oba, et al) (¹⁾ National Defense Medical Collage) : Reduction of cardiovascular events in the elderly by pravastatin (the PATE study) : Significance of diabetis mellitus. 11th International Symposiums on Atherosclerosis (Paris), 1997. 10.
- (3) フォーラムセッション :
- 1) 中野博司, 渡邊健太郎, 木川好章, 都宮 伸, 岡崎恭次, 井川宗彦, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 総頸動脈血流速左右比の心血管障害の指標としての臨床的有用性に関する検討. 平成9年度動脈硬化学会冬季大会, 1997. 11.
- (4) 一般講演 :
- 1) Nakano H, Okazaki K, Suzuki T, Sasai K, Oba K, Metori S : Urinary proteins and diabetic complications in NIDDM. 16th International Diabetes Federation Congress. (Helsinki), 1997. 7.
 - 2) Oba K, Okazaki K, Suzuki T, Sasai K, Nakano H, Metori S : Glibenclamide and daily blood glucose profiles : comparison of a single-dose and divided-doses schedules. 16th International Diabetes Federation Congress (Helsinki), 1997. 7.
 - 3) Suzuki T, Oba K, Nakano H, Metori S : Lipoprotein (a) levels and cerebral infarction in elderly diabetics. The 16th Congress of the International Association of Gerontology (Adelade), 1997. 8.
 - 4) Nakano H, Okazaki K, Satoh S, Suzuki T, Sasai K, Oba K, Metori S : Atherosclerosis of the common carotid artery and aorta as indicators for diabetic macroangiopathy in the elderly. The 16th Congress of the International Association of Gerontology (Adelade), 1997. 8.
 - 5) Satoh S, Nakano H, Okazaki K, Suzuki T, Sasai K, Oba K, Metori S : Urinary proteins and diabetic complications in elderly NIDDM. The 16th Congress of the International Association of Gerontology (Adelade), 1997. 8.
 - 6) Sasai K, Suzuki T, Nakano H, Oba K, Metori S : Serum immunoreactive-leptin concentrations and body fat distribution in older women. The 16th Congress of the International Association of Gerontology (Adelade), 1997. 8.
 - 7) Okazaki K, Oba K, Satoh S, Sasai K, Suzuki T, Nakano H, Metori S : N-acetyl- β -D-glucosaminidase and microalbumin in random spot urine samples as predictors of diabetic nephropathy in the elderly. The 16th Congress of the International Association of Gerontology (Adelade), 1997. 8.
 - 8) 大庭建三, 岡崎恭次, 草野宏和, 仲地紀勝, 鈴木達也, 中野博司, 妻鳥昌平 : 老年糖尿病患者の経口血糖降下剤療法—グリベンクラミドの至適投与法に関する検討—. 第94回日本内科学会講演会, 1997. 4.
 - 9) 鈴木達也, 網代由美子, 木川好章, 笹井恵子, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 糖尿病における高Lp (a)血症の臨床的意義—脳梗塞発症の面より—. 第94回日本内科学会講演会, 1997. 4.
 - 10) 中野博司, 井川宗彦, 佐藤周三, 鈴木達也, 笹井恵子, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 総頸動脈血流速の左右差は大血管障害の指標となりうるか. 第94回日本内科学会講演会, 1997. 4.
 - 11) 大森裕也¹⁾, 清水一雄¹⁾, 北村 裕¹⁾, 長浜充二¹⁾, 北川 亘¹⁾, 原口秀司¹⁾, Jasmi AY²⁾, 岡崎恭次, 田中茂夫¹⁾

- (¹) 外科第2, (²) University Kebangsaan Malaysia) : 遺伝子診断によるスクリーニングが有用であったMEN2Aの一家系. 第9回日本内分泌外科学会総会, 1997. 4.
- 12) 中野博司, 木川好章, 渡邊健太郎, 網代由美子, 井川宗彦, 仲地紀勝, 鈴木達也, 笹井恵子, 大庭建三, 妻鳥昌平: 大動脈脈波速度・総頸動脈血流速左右差は糖尿病の大血管障害の指標として有用か. 第40回日本糖尿病学会年次学術集会, 1997. 5.
 - 13) 都宮 伸, 中野博司, 佐藤周三, 犬塚有紀, 矢野 誠, 網代由美子, 井川宗彦, 笹井恵子, 大庭建三, 妻鳥昌平: 糖尿病腎症の指標としての各種尿マーカーの臨床的意義に関する比較検討. 第40回日本糖尿病学会年次学術集会, 1997. 5.
 - 14) 大庭建三, 渡邊威之, 草野宏和, 網代由美子, 岡崎恭次, 仲地紀勝, 鈴木達也, 平井眞明, 中野博司, 妻鳥昌平: 糖尿病患者の随時尿におけるNAG指数とアルブミン指数測定の意義—糖尿病性網膜症を指標とした検討一. 第40回日本糖尿病学会年次学術集会, 1997. 5.
 - 15) 鈴木達也, 鯉淵 仁, 猪狩吉雄, 松村典昭, 山口 祐, 笹井恵子, 渡邊健太郎, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 糖尿病における高Lp (a) 血症の臨床的意義—脳梗塞発症について—. 第40回日本糖尿病学会年次学術集会, 1997. 5.
 - 16) 岡崎恭次, 松浦良樹, 草野宏和, 佐藤周三, 永井信也, 安室尚樹, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: グリベンクラミドの投与方法と血糖日内変動—食事療法単独群との比較からの検討—. 第40回日本糖尿病学会年次学術集会, 1997. 5.
 - 17) 猪狩吉雅, 犬塚有紀, 笹井恵子, 渡邊健太郎, 松村典昭, 鯉淵 仁, 都宮 伸, 岡崎恭次, 網代由美子, 佐藤周三, 井川宗彦, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 老年女性の体脂肪分布と血清レプチン濃度. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
 - 18) 板倉弘重¹⁾, 平井眞明ほか (¹) JLIT研究会) : 日本脂質介入試験 (J-LIT) についての調査報告 (第4報) —登録された高脂血症患者5万例の3年間追跡結果分析—. 第29回日本動脈硬化学会総会, 1997. 6.
 - 19) 大庭建三, 草野宏和, 岡崎恭次, 佐藤周三, 鈴木達也, 平井眞明, 中野博司, 妻鳥昌平: 尿中NAG (N-acetyl- β -glucosamidase) 指数に及ぼす加齢および血圧因子の影響. 第39回日本老年医学会学術集会, 1997. 6.
 - 20) 中野博司, 岡崎恭次, 木川好章, 渡邊健太郎, 井川宗彦, 笹井恵子, 大庭建三, 妻鳥昌平: 老年糖尿病患者の大血管障害合併高度例の同定の試み. 第39回日本老年医学会学術集会, 1997. 6.
 - 21) 鈴木達也, 鯉淵 仁, 猪狩吉雅, 松村典昭, 山口 祐, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 老年者糖尿病における高Lp (a) 血症の臨床的意義—脳梗塞発症について—. 第39回日本老年医学会学術集会, 1997. 6.
 - 22) 笹井恵子, 犬塚有紀, 網代由美子, 井川宗彦, 仲地紀勝, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 老年者の体格指数・脂肪分布の評価法に関する検討. 第39回日本老年医学会学術集会, 1997. 6.
 - 23) 岡崎恭次, 松浦良樹, 草野宏和, 佐藤周三, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 老年者の経口血糖降下薬療法に関する検討—1回投与と分割投与による血糖血内変動の差違—. 第39回日本老年医学会学術集会, 1997. 6.
 - 24) 平井眞明, 渡邊威之, 仲地紀勝, 安室尚樹, 永井信也, 大庭建三, 中野博司, 妻鳥昌平: 老年者糖尿病患者における随時尿の尿中NAG指数とアルブミン指数測定の臨床的意義. 第39回日本老年医学会学術集会, 1997. 6.
 - 25) 佐藤周三, 中野博司, 都宮 伸, 矢野 誠, 網代由美子, 笹井恵子, 大庭建三, 妻鳥昌平: 老年者糖尿病の腎症の指標としての諸種尿指標の臨床的意義に関する検討. 第39回日本老年医学会学術集会, 1997. 6.
 - 26) 永井信也, 安室尚樹, 鈴木達也, 笹井恵子, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 老人健康診査における痴呆テストの意義. 第39回日本老年医学会学術集会, 1997. 6.
 - 27) 永井信也, 安室尚樹, 鈴木達也, 笹井恵子, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 人間ドック事後指導の評価; 生活習慣病について. 第38回日本人間ドック学会, 1997. 8.
 - 28) 松村典昭, 鈴木達也, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 笹井恵子, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 糖尿病における高

- Lp (a) 血症の臨床的意義—穿通枝脳梗塞発症についての年齢面よりの検討—。第65回日本医科大学医学学会総会，1997. 9.
- 29) 水野重芳，板垣眞一，渡邊健太郎，岡崎恭次，井川宗彦，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：ケトン性昏睡を併発した高齢インスリン非依存糖尿病の1例。第65回日本医科大学医学学会総会，1997. 9.
- 30) 山口 寛，佐藤周三，鯉淵 仁，山口 祐，網代由美子，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：低Na血症を認めた非ケトン性高浸透圧性糖尿病性昏睡の1例。第65回日本医科大学医学学会総会，1997. 9.
- 31) 永井信也，安室尚樹，鈴木達也，笹井恵子，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：老人健診における体脂肪率測定の意義について。第65回日本医科大学医学学会総会，1997. 9.
- 32) 越谷美由紀¹⁾，菊池英子¹⁾，玉手ひさ子¹⁾，山賀節子¹⁾，鈴木久美¹⁾，荒井誠一¹⁾，池野廣幸¹⁾，原 文男¹⁾，永井信也，安室尚樹 ¹⁾ 第二病院中央検査室)：人間ドックにおける眼底検査の異常発生頻度。第65回日本医科大学医学学会総会，1997. 9.
- 33) 岡崎恭次，松村典昭，渡邊健太郎，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平，寺崎太弘¹⁾，福田 悠¹⁾ ¹⁾ 病理部)：原発性胆汁性肝硬変に全身性強皮症を合併した1剖検例。第26回日本老年医学会関東甲信越地方会，1997. 9.
- 34) 矢野 誠：高齢者に対するノスカル錠の使用経験。第1回高齢者糖尿病研究会，1997. 9.
- 35) 平井眞明：老年インスリン非依存型糖尿病患者における随時尿のアルブミン指数と尿中NAG指数測定の臨床的意義。第1回高齢者糖尿病研究会，1997. 9.
- 36) 鈴木達也，網代由美子，佐藤周三，笹井恵子，平井眞明，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：糖尿病における高Lp (a) 血症の臨床的意義—脳梗塞発症について年齢面よりの検討—。平成9年度動脈硬化学会冬季大会，1997. 11.
- 37) 松村典昭，岡崎恭次，犬塚有紀，佐藤周三，鈴木達也，安室尚樹，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平，杉崎祐一¹⁾，山田宣孝²⁾ ¹⁾ 病理部，²⁾ 病理第2)：2年間の経過観察後，原発性マクログロブリン血症に移行した1例。第19回老年者造血管疾患研究会 ，1997. 11.
- 38) 鈴木達也，網代由美子，佐藤周三，笹井恵子，平井眞明，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：糖尿病における高Lp (a) 血症の臨床的意義—脳梗塞発症について年齢面よりの検討—。第2回Lp (a) カンファレンス，1997. 12.
- 39) 永井信也，安室尚樹，笹井恵子，鈴木達也，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：老人健診における隠れ肥満の検出と生活週間病との関連について。第15回川崎市医師会医学会，1998. 2.
- 40) 渡邊健太郎，岡崎恭次，山口 寛，佐藤周三，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平，国松志保¹⁾，松井洋法¹⁾，大原國俊¹⁾ ¹⁾ 眼科)：動脈硬化性頸動脈狭窄を伴った眼虚血症候群の3例。第27回日本老年医学会関東甲信越地方会，1998. 3.

[第二病院内科]

研究概要

当科では，虚血性心疾患，人工透析時の循環系の変化，老年高血圧に対する薬剤の効果に関する研究など循環器，腎臓を中心に研究を行っており，肝臓病ではC型慢性肝炎に対するインターフェロン療法について研究を行っている。

(1) 糖尿病患者の心筋病変について，負荷心筋シンチグラフィ，トレッドミルテスト，自律神経機能，ホルター心電図等を用いて研究を行っている。

(2) 維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図の変動に関する研究。

(3) うっ血性心不全に対する心房性ナトリウム利尿ペプチドの有効性に関する研究。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 築山久一郎¹⁾, 原文男, 木川田隆一¹⁾, 長田洋文¹⁾, 入交昭一郎¹⁾, 五島雄一郎¹⁾, 田辺晃久¹⁾, 元田 憲¹⁾, 石井當男¹⁾, 土井陸雄¹⁾, 栃久保修¹⁾, 高橋哲夫¹⁾ (1) 神奈川県老年者降圧治療研究会)：老年者高血圧における塩酸ベニジピンの長期服用の安全性と有効性の検討. *Geriatric Medicine* 1997; 35 (7)：989-1007.

(2) 綜説：

- 1) 原文男：循環器疾患と妊娠・分娩. *日医大誌* 1997; 64 (2)：180-183.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Chikao I, Kimihiko H¹⁾, Yoshiki K¹⁾, Kazuo M¹⁾, Hirokazu H¹⁾ (1) 付属病院第1内科)：Preconditioning with angiotensin-II improves LV Functional recovery in rat hearts：Dose response study. 国際心臓研究学会第14回日本部会, 1997. 7.
- 2) 櫛方美文, 清野精彦¹⁾, 島井新一郎¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾, 高野照夫²⁾, 熊谷和浩³⁾ (1) 付属病院第1内科, 2) 付属病院集中治療室, 3) 福生病院内科)：慢性腎透析症例における第II世代心筋Troponin T検出の臨床的意義. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 4.
- 3) 中村俊彦, 坪 宏一¹⁾, 笠神康平¹⁾, 星野公彦¹⁾, 田中 隆¹⁾, 田中啓治¹⁾ (1) 千葉北総病院集中治療部)：うっ血性心不全に対するヒト心房性ナトリウム利尿ペプチドの有効性について：併用薬の有無による検討. 第24回日本集中治療医学会総会, 1997. 5.
- 4) 東海林智子, 雪吹周生, 網谷賢一, 山口朋禎, 掃部弘行, 櫛方美文, 原文男：Propafenoneによる催不整脈作用により持続性心室頻拍が惹起された左室中部大型閉塞性心筋症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第164回学術集会, 1997. 6.
- 5) 村澤恒男, 網谷賢一, 東海林智子, 中村俊彦, 山口朋禎, 加藤欽也, 西垣朝裕, 増田康文, 上田征夫, 原文男：安定期維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図の変動(続報)：f-P持続時間と不整脈について. 第42回日本透析医学会総会, 1997. 7.
- 6) 新潟明子¹⁾, 大竹佳世子¹⁾, 成定昌昭¹⁾, 菊地英子¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 原文男 (1) 第二病院中央検査室)：低蛋白尿における蛋白分画検査(第1報)一銀染色を試みて一. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 7) 越谷美由紀¹⁾, 菊地英子¹⁾, 玉手ひさ子¹⁾, 山賀節子¹⁾, 鈴木久美¹⁾, 荒井誠一¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 原文男, 安室尚樹²⁾, 永井信也²⁾ (1) 第二病院中央検査室, 2) 第二病院健康管理科)：人間ドックにおける眼底検査の異常発生頻度. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 8) 畑 哲¹⁾, 小伊藤保雄¹⁾, 吉田美和¹⁾, 渡部紀子¹⁾, 菅原 通¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 原文男 (1) 第二病院中央検査室)：全自動EIA装置OLYDAS-120の基礎(第1報)一TSH・FT3・FT4一. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 9) 小伊藤保雄¹⁾, 畑 哲¹⁾, 吉田美和¹⁾, 渡部紀子¹⁾, 菅原 通¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 原文男 (1) 第二病院中央検査室)：全自動EIA装置OLYDAS-120の基礎的検討(第2報)一ペプシノゲンI, II一. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 10) 鈴木憲康¹⁾, 坂倉剛志¹⁾, 菅原 通¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 原文男 (1) 第二病院中央検査室)：当院における下痢原性大腸菌の検出状況と毒素産生. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 11) 田村朋美¹⁾, 井梅和美¹⁾, 井上雅則¹⁾, 隠岐和美¹⁾, 野本恵子¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 原文男 (1) 第二病院中央検査室)：当院で検出されたPartial D の1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.

- 12) 田中久美¹⁾, 吉岡美香¹⁾, 中島由美子¹⁾, 津金香代子¹⁾, 野本恵子¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 原文男¹⁾ (第二病院中央検査室): 検体保存条件による血液凝固検査の影響. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 13) 板倉剛志¹⁾, 鈴木憲康¹⁾, 菅原 通¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 原文男¹⁾ (第二病院中央検査室): 当検査におけるMRSAの分離状況 (第2報) —院内MRSAレポートより—. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 14) 菅原 通¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 鈴木憲康¹⁾, 原文男, 小坂好男²⁾, 菊地有道²⁾, 島田洋一³⁾ (1) 第二病院中央検査室, 2) 第二病院薬剤科, 3) 第二病院麻酔科): 調剤業務における空中微粒子と問題点. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 15) 森瀬景子, 中村俊彦, 山口朋禎, 立石淳一, 櫛方美文, 寺田秀人, 村澤恒男, 原文男, 松本光司¹⁾, 伊東文行²⁾ (1) 第二病院病理部, 2) 第二病院皮膚科): 肝細胞眼治療中に大腿上部外側に巨大な腫瘍形成をみた悪性リンパ腫の1例. 第460回日本内科学会関東地方会, 1997. 12.

[多摩永山病院内科]

研究概要

当科では、虚血性心疾患、不整脈、高血圧症、低血圧症、うっ血性心不全などの循環器疾患を中心に、肝疾患、糖尿病、気管支喘息についても臨床研究を行っている。

循環器病学では、虚血性心疾患に関して、1) 薬剤および運動負荷試験によるRIを用いた心筋梗塞患者の心筋viabilityの検討、2) 心筋虚血の新しい評価法としてdoppler flow wireを用いての冠血流予備能の検討を行っている。

不整脈に関する研究として、1) 電気生理学的アプローチによる各種不整脈発生機序の検討、2) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療の応用、3) 抗不整脈の薬理学的効果の検討を行っている。また、24時間携帯型血圧計、24時間ホルター心電図を用い、心拍変動パワースペクトル解析による高血圧の病態の研究も行っている。

肝臓病学では、C型慢性肝炎に対するインターフェロン療法について研究を行っている。

気管支喘息については、治療面からの検討をはじめ、季節変動その他の因子から発生機序の検討を行っている。また、薬剤科との共同研究として、1) より安全な治療法確立のため気管支拡張薬、抗不整脈薬などの使用にあたりTDM (Therapeutic Drug Monitoring) を臨床に取り入れ、治療薬剤の選択と患者のフォローアップのシステム化、2) 糖尿病薬 (スルフォニル尿素系製剤、 α -グルコシダーゼ阻害剤など) の病態による選択と服薬指導を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Koumi S, Sato R¹⁾, Nagasawa K, Hayakawa H²⁾ (1) First Department of Medicine Kinki University School of Medi, 2) First Department of Medicine Nippon Medical School): On the mechanism of cAMP-dependent modulation of single inward-rectifier K⁺ channel kinetics in the mammalian heart. J Nippon Med Sch 1997; 64: 275-277.
- 2) 柴田明佳¹⁾, 田所久子¹⁾, 佐藤知枝¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 鈴木 健¹⁾ (多摩永山病院中央検査室): 酵母様真菌分離地 CHROMagar Candidaの有用性の検討. 医学と薬学 1997; 38 (3): 607-612.
- 3) 長澤絃一, 北本 清¹⁾, 長澤俊彦¹⁾ (1) 杏林大学医学部第一内科): 高齢者の本態性高血圧症に対する塩酸マジピン (カルスロット®錠) の3年間長期投与における有用性の検討: 多施設共同研究. 臨床と研究 1997; 74 (10): 2630-2638.
- 4) 高瀬雅久¹⁾, 西里吉則¹⁾, 柏崎一男²⁾, 吉岡政洋³⁾, 久保幸祐⁴⁾, 瀬川 徹⁵⁾, 小泉和正⁶⁾, 永田 洋⁷⁾, 島井新一郎⁸⁾, 長澤絃一, 上田 洋, 中山 一⁹⁾, 遠藤素彦¹⁰⁾, 岡本 正¹¹⁾ (1) 東京医科大学八王子医療センター, 2) 国

家公務員共済組合連合会立川病院, ³⁾ 東京都国民健康保険団体連合会南多摩病院, ⁴⁾ 大和会東大和病院, ⁵⁾ 国立療養所村山病院, ⁶⁾ 稲城市立病院, ⁷⁾ 多摩丘陵病院, ⁸⁾ 東京都国民健康保険団体連合会福生病院, ⁹⁾ 立川中央病院, ¹⁰⁾ 西東京中央病院, ¹¹⁾ 仁成会高木病院): C型慢性活動性肝炎に対するrIFN α 2a (キャンフェロン®A) の投与方法別治療効果の判定. 新薬と臨床 1997; 46 (10): 1322-1335.

5) 長澤絃一: 低血圧: 最近の考え方とその治療. 鹿児島県内科医会報 1997; 29: 3-5.

6) 長澤絃一, 北本 清¹⁾, 長沢俊彦¹⁾ (¹⁾ 杏林大学第一内科): 高齢者本態性高血圧患者に対する塩酸マジピンノ3年間以上長期投与ノ有用性. 臨床薬理 1998; 29: 307-308.

著 書

1) Nagasawa K: [分担] Abnormal secretion and metabolism in orthostatic hypotension. Modern Orthostatic Hyotension (Honda K), 1997; pp45-64, Minerva Medica S.P.A., Torino Italy.

2) Nagasawa K: [分担] Orthostatic hypotension and related deiseases: 2. Neurocirculatory Asthenia. Modern Orthostatic Asthenia (Honda K Edited), 1997; pp163-164, Minerva Medica S.P.A, Torino Italy.

学会発表

(1) セミナー:

1) 長澤絃一: 本態性低血圧は存在するか?. 第2回日本診療内科学会, 1998. 1.

(2) 一般講演:

1) Yamanaka H, Suzuki T, Nachi S, Ohara K, Nagasawa K: Evaluation of slowing of ventricular rate on ambulatory electrocardiography by quantification of daily physical activity in patients with atrial fibrillation. 7th International Symposium on Cardiovascular Pharmacotherapy (Israel), 1997. 6.

2) 鈴木 健, 名知仁子, 小原啓子, 後藤正道, 藤田信輔, 田中邦夫, 井野 威, 長澤絃一: レートレスポンスパルスジェネレーター組込み型ホルター心電計による心拍コントロールの評価: 慢性心房細動例での検討. 第94回日本内科学会講演会, 1997. 4.

3) 馬淵浩輔, 稲見光春, 藤田信輔, 内田高浩, 山中博之, 小海信一, 田中邦夫, 井野 威, 鈴木 健, 長澤絃一: 広範な脳内石灰化を認めた特発性副甲状腺機能低下症の1例. 第454回日本内科学会関東地方会, 1997. 5.

4) 山中博之, 鈴木 健, 名知仁子, 長澤絃一, 鈴木摩理¹⁾, 佐藤寛之¹⁾, 飯野幸永¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院中央検査室): パルスジェネレーター組込み型ホルター心電計の臨床応用: 慢性心房細動例における心拍コントロール治療の評価. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.

5) 千葉逸子¹⁾, 浅井信治¹⁾, 井上 淳¹⁾, 福田節子¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 鈴木 健 (¹⁾ 多摩永山病院中央検査室): 日立7150型分析装置によるSAAラテックス試薬の検討. 第46回日本臨床衛生検査学会, 1997. 5.

6) 鈴木摩理¹⁾, 河村理馨子¹⁾, 手嶋浩恵¹⁾, 久保田稔¹⁾, 佐藤寛之¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 鈴木 健 (¹⁾ 多摩永山病院中央検査室): パルスジェネレーター組込み型ホルター心電計を用いた身体活動の定量化. 第46回日本臨床衛生検査学会, 1997. 5.

7) 田寺 長, 井野 威, 宮本新次郎, 田中古登子, 長澤絃一, 小林義典¹⁾, 新 博次¹⁾, 早川弘一¹⁾ (¹⁾ 付属病院第1内科): 左側副伝導路例における心房細動発生機序の検討: 冠静脈洞double potentialとの関連. 第27回臨床心臓電気生理研究会, 1997. 5.

8) 小谷英太郎, 田中邦夫, 井野 威, 鈴木 健, 長澤絃一: 高齢者における冠予備能の臨床的意義. 第39回日本老年医学会学術集会, 1997. 6.

9) 内田高浩, 田中邦夫, 小谷英太郎, 長澤絃一: 心タンポナーデで発症し, 救命し得た急性心筋梗塞の2例. 第6回多摩地区虚血性心疾患研究会, 1997. 6.

- 10) 中澤 宏¹⁾, 山本泰与¹⁾, 坂爪百合子¹⁾, 西島美輝子¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 鈴木 健¹⁾ (多摩永山病院中央検査室): 多項目自動血球計数装置K-4500の基礎的検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 11) 藤木直美¹⁾, 小林利恵子¹⁾, 千葉逸子¹⁾, 浅井信治¹⁾, 相沢 正¹⁾, 井上 淳¹⁾, 福田節子¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 鈴木 健¹⁾ (多摩永山病院中央検査室): 特異的 IgE・総 IgE自動測定装置2機種の有効性の検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 12) 井口輝彦¹⁾, 鈴木純子¹⁾, 恩田怜子¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 鈴木 健¹⁾ (多摩永山病院中央検査室): 寒冷凝集素吸収試薬 (RES_t) で吸収できなかつた自己抗HIの1症例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 13) 中澤 宏¹⁾, 山本泰与¹⁾, 坂爪百合子¹⁾, 西島美輝子¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 鈴木 健¹⁾ (多摩永山病院中央検査室): 多項目自動血球計数装置 E-4000において偽性白血球減少を呈した白血球凝集の1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 14) 柴田明佳¹⁾, 田所久子¹⁾, 佐藤知枝¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 鈴木 健¹⁾ (多摩永山病院中央検査室): 新しい細菌検査システムの有用性 (第1報): Auto sceptor systemについて. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 15) 田所久子¹⁾, 柴田明佳¹⁾, 佐藤知枝¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 鈴木 健¹⁾ (多摩永山病院中央検査室): 新しい細菌検査システムの有用性 (第2報): Micro scan walk awayについて. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 16) 飯野幸永¹⁾, 村田正弘²⁾, 柏木邦彦³⁾, 本間妙子⁴⁾, 福岡イツ子⁴⁾, 野口 素⁴⁾, 須崎紳一郎⁵⁾, 山田光輝⁶⁾, 沖濱裕司⁷⁾, 志村俊郎⁸⁾, 鈴木 健¹⁾ (多摩永山病院中央検査室, ²⁾ 同薬剤科, ³⁾ 同庶務課, ⁴⁾ 同看護科, ⁵⁾ 同救命救急センター, ⁶⁾ 同麻酔科, ⁷⁾ 同消化器科, ⁸⁾ 同脳神経科): MRSA院内感染防止対策対策としてのムピロシム製剤の有用性. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 17) 田寺 長, 井野 威, 宮本新次郎, 田中古登子: 心筋虚血発生における管血流予備能の測定意義. 第4回多摩地区虚血性心疾患研究会, 1997. 6.
- 18) 鈴木摩理¹⁾, 河村理馨子¹⁾, 手島浩恵¹⁾, 久保田稔¹⁾, 佐藤寛之¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 鈴木 健¹⁾ (多摩永山病院中央検査室): パルスジェネレーター組込み型ホルター心電計による身体活動の評価: パルス発生ブルトコル変更の影響. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 19) 小谷英太郎, 田中邦夫, 内田高浩, 国見聡宏, 藤田進彦, 藤田信輔, 井野 威, 鈴木 健, 長澤絃一: 狭心症症例における冠予備能低下の要因. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 20) 鈴木 健, 馬淵浩輔, 小谷英太郎, 名知仁子, 内田高浩, 山中博之, 藤田信輔, 田中邦夫, 長澤絃一: 心筋梗塞例における低容量運動時心機能と長期予後の関係: インピーダンス法による検討. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 21) 井野 威, 田寺 長, 宮本新次郎, 田中古登子, 大野忠明, 長澤絃一: 特異な心電図所見を呈した上室性頻拍の1例. 第15回東京不整脈シンポジウム, 1997. 9.
- 22) 山中博之, 鈴木 健, 馬淵浩輔, 清水秀治, 田中邦夫, 長澤絃一: 急性心筋梗塞患者における¹²³I-BMIPP/²⁰¹Tl心筋SPECTの乖離と心拍変動の関係. 第14回日本心電学会学術集会, 1997. 10.
- 23) 小海信一, 田中古登子, R.L. M¹⁾, 丸山光紀²⁾, 名知仁子, 佐藤良一³⁾, 長澤絃一, 早川弘一²⁾ (¹⁾ University of Chicago, ²⁾ 附属病院第1内科, ³⁾ Northwestern University): 心不全心筋におけるhuman ATP-sensitive K channelのATP感受性の変性. 第14回日本心電学会学術集会, 1997. 10.
- 24) 小海信一, 田中古登子, R.L. M¹⁾, 丸山光紀²⁾, 名知仁子, 佐藤良一³⁾, 長澤絃一, 早川弘一²⁾ (¹⁾ University of Chicago, ²⁾ 附属病院第1内科, ³⁾ Northwestern University): Normal human heart伸展誘発性 Cl⁻ channelの特性. 第14回日本心電学会学術集会, 1997. 10.
- 25) 小海信一, 田中古登子, R.L. M¹⁾, 丸山光紀²⁾, 名知仁子, 佐藤良一³⁾, 長澤絃一, 早川弘一 (¹⁾ University of Chicago, ²⁾ 附属病院第1内科, ³⁾ Northwestern University): Human heart I_{K1} channelクローン (HIRKI) 過分極不活性化程の chloramine-Tによる修飾. 第14回日本心電学会学術集会, 1997. 10.

- 26) 齊藤寛和¹⁾, 野村敦信¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 小野卓哉¹⁾, 松本 真¹⁾, 緒方憲一¹⁾, 遠藤康実¹⁾, 小林義典¹⁾, 新 博次¹⁾, 岸田 浩, 長澤絃一¹⁾, 早川弘一 (1) 付属病院第1内科): QT間隔及び QT dispersionの再現性と inter-observer variation: 第2報. 第14回日本心電学会学術集会, 1997. 10.
- 27) 山本 剛, 高木 元, 青木 聡, 田中邦夫, 長澤絃一: 当施設におけるインターベンションの現況. 第7回多摩地区虚血性心疾患研究会, 1997. 11.
- 28) 高木 元, 田中邦夫, 青木 聡, 山本 剛, 内田高浩, 小谷英太郎, 池下正敏¹⁾, 山手 昇¹⁾, 長澤絃一 (1) 聖マリアンナ医科大学第2外科): 心タンホナーデで発症し, 救命しえた急性心筋梗塞の2例. 第6回日本集中治療医学学会関東甲信地区会, 1997. 12.
- 29) 緒方憲一¹⁾, 淀川顕次¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 呉 小怡¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 小林義典¹⁾, 齊藤寛和¹⁾, 新 博次¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 早川弘一¹⁾, 井野 威 (1) 付属病院第1内科): 陳急性心筋梗塞患者における心機能と体表面 recovery time の関係. 第4回心不全と不整脈フォーラム, 1997. 12.
- 30) 長澤絃一, 北本 清¹⁾, 長澤俊彦¹⁾ (1) 杏林大学医学部第一内科): 高齢者本態性高血圧症患者に対する塩酸マニピンの3年間以上投与の有用性. 第18回日本臨床薬理学会, 1997. 12.
- 31) 大池澄孝, 鈴木 健, 藤田信輔, 長澤絃一: 労作狭心症における虚血耐性発現と年齢の関係. 第32回日本成人病学会, 1998. 1.
- 32) 大野忠明, 山中博之, 田寺 長, 藤田信輔, 田中邦夫, 井野 威, 鈴木 健, 長澤絃一: ヒト抗マウス抗体 (HAMA) による腫瘍マーカーおよび甲状腺ホルモン異常値のため診断に困窮した1例. 第461回日本内科学会関東地方会, 1998. 1.
- 33) 佐々木聡¹⁾, 村田正弘¹⁾, 小海信一, 長澤絃一, 早川弘一²⁾, 佐藤良一³⁾, 竹田純一³⁾ (1) 多摩永山病院薬剤科, 2) 付属病院第1内科, 3) ノースウェスタン大学): プロパフェノン (PF) 単回口粘膜投与の臨床薬理的検討. 第62回循環器学会学術集会, 1998. 3.
- 34) 宮内 靖¹⁾, 小林義典¹⁾, 森田典成¹⁾, 林 明聡¹⁾, 小林利行¹⁾, 川口直美¹⁾, 小倉宏道¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 大村和子¹⁾, 平山悦之¹⁾, 齊藤寛和¹⁾, 新 博次¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾, 井野 威 (1) 付属病院第1内科): 左室突発性心室頻拍における緩徐伝導路: カテーテルアブレーション通電局所電位による検討. 第62回循環器学会学術集会, 1998. 3.
- 35) 大國眞一¹⁾, 水野杏一¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 高山守正²⁾, 桜田真己³⁾, 勝木孝明⁴⁾, 永井知雄⁵⁾, 李 武志⁶⁾, 宮本明⁷⁾, 里村公生⁸⁾, 草間芳樹⁹⁾, 田中邦夫, 今泉孝敬¹⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 付属病院集中治療室, 3) 石心会狭山病院, 4) 自治医科大学大宮医療センター, 5) 自衛隊中央病院, 6) 八潮循環器病院, 7) 石心会川崎幸病院, 8) 防衛医科大学第1内科, 9) 付属病院第1内科): Cutting Balloon の多施設共同試験: Multi Institutional Cutting Balloon Angioplasty (MICBA Study) の中期成績. 第62回循環器学会学術集会, 1998. 3.

[千葉北総病院内科]

研究概要

内科4教室から医局員の派遣を受け臨床的研究を積極的に行っている。そのため研究も心臓，肝臓，神経，腎臓，消化器，および呼吸器疾患とほぼ内科領域全般を網羅している。

心臓では，虚血性心疾患が中心。心臓カテーテル検査による冠動脈形成術やNew Deviceを研究。冠動脈血管内視鏡，血管内超音波による動脈硬化や血管内血栓の評価，再狭窄の機序を研究中である。

肝臓では，肝機能障害の患者に対し各肝炎ウイルスマーカーの測定，画像診断および肝生検を実施。組織学的に慢性活動性肝炎と診断された症例にインターフェロン療法による治療効果の検討を行っている。

神経では，CT，MRI検査による各種筋疾患の経時変化，治療効果の検討，および電気生理検査による中枢，末梢

神経疾患の定量的評価，検討を行っている。

腎臓では，蛋白尿から急性，慢性腎不全まで腎生検を含め幅広く診断，医療を行っている。特に慢性腎不全の人工透析だけでなく他疾患の体外循環治療も積極的に行っている。

消化器では，食道蠕動異常と胸部症状との関連，ヘリコバクターピロリ除菌による胃，十二指腸潰瘍再発予防効果の検討を行っている。

呼吸器では，肺癌に対する併用療法，および各種間質性肺炎での気管支肺胞洗浄液中の細胞成分とサイトカインの解析，検討を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kaneko T, Osono E, Hayama N, Iino Y¹⁾, Terashi A¹⁾ (1) 日本医科大学第2内科) : T-cell activation modified by parathyroid hormone (PTH) in patients with end-stage renal disease. *Clinical Nephrology* 1997 ; 48 (6).
- 2) Koshi Y, Kitamura S, Komaba Y, Sakayori O, Mishina M, Tsuganesawa T, Terashi A : Central benzodiazepine receptor imaging in poststroke aphasia using 123I-iodazenil SPECT. *J CBF Metabolism* 1997 ; 17 : 121.
- 3) Kobayashi T, Yokoyama S, Okuni S, Mizuno K, Kasagami Y, Tanaka T, Tanaka K, Hayakawa H, Sugiyabu Y, Satomura K, Etsuda H, Arai T, Kikuchi M, Fukui M, Uchida A, Yamagata T, Mizoguchi T, Takeuchi K : The development of new coronary angioscopic catheter with cross-eye and good torque control. *Cardioangiography and Laser Cardioangioplasty* 1997 ; 6 : 9-10.
- 4) 岡田 進, 加藤友康, 山下 孝, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島なつき, 水野杏一, 森山雄吉, 河村 亮, 隈崎達夫 : 嚢胞状卵巣腫瘍内溶液と腹水の評価におけるMTR値の有用性. *日本磁気共鳴医学会雑誌* 1997 ; 17 (8) : 501-506.
- 5) 琴寄 誠, 藤森俊二, 長田裕二, 名知志子, 吉沢雅史, 渡 淳, 水野杏一 : 十二指腸球部から下降脚の認められた全周性潰瘍の1例. *Progress of Digestive Endoscopy* 1997 ; 51 : 186-187.
- 6) 高野雅充, 笠神康平, 大國眞一, 水野杏一 : Cutting balloonによる弾性リコイルの減少. *冠疾患誌* 1997 ; 3 (2) : 87-90.
- 7) 横山真也, 大國眞一, 北村克弘, 小林利行, 水野杏一 : Paradoxical shrinkageを示した病変に対照部径のバルーンを選択し解離を生じた1例. *Jpn J Interv Cardiol* 1997 ; 12 (4) : 371-375.

(2) 総説：

- 1) 水野杏一, 大國眞一, 荒井常憲, 桜田正己, 福井 勝, 内海 厚, 山縣俊彦, 溝口多聞, 竹内 清 : 血管内視鏡. *先端医療* 1997 ; 14 (2) : 50-53.
- 2) 高野雅充, 水野杏一 : 血管内視鏡. *医学のあゆみ* 1997 ; 181 (9) : 738.
- 3) 水野杏一 : 血管内視鏡の現状と将来. *Cardiologist* 1997 ; 2 (7) : 509-515.
- 4) 北村克弘, 水野杏一 : 冠動脈硬化内視鏡所見と高脂血症. *循環器科* 1997 ; 42 (1) : 7-12.
- 5) 高野雅充, 水野杏一 : 血管内視鏡用カテーテル. *救急医学* 1997 ; 21 (12) : 1564-1565.
- 6) 坪 宏一, 水野杏一 : 心不全・電解質管理. *医学のあゆみ* 1997 ; 183 (9) : 693-696.
- 7) 葉山修陽 : 浮腫の治療. *medicina* 1997 ; 34 (5).
- 8) 葉山修陽 : 合併症への対策 閉塞性動脈硬化症. *腎と透析* 1997 ; 42 (6).
- 9) 水野杏一 : 冠動脈疾患の新しい診断法—冠動脈内視鏡と冠動脈内エコー. *Cardiac Insight* 1997 ; 2 : 4-7.

- 10) 金子晴生, 水野杏一: ニューデバイスを用いた冠動脈再建術を中心に. *Current Circulation* 1997; 8 (3) : 31-33.
- 11) 永井知雄, 水野杏一: 再狭窄の予防はどこまでできるか. *循環器科* 1997; 17 (6) : 64-68.
- 12) 水野杏一: 血管内視鏡・IVUSで見る. *Heart View* 1997; 1 (7) : 814-818.
- 13) 水野杏一: 血管内視鏡でみた冠動脈硬化と血栓. *血栓止血誌 (Jpn J Thromb Hemost)* 1997; 8 (3) : 236-246.
- 14) 水野杏一, 大國眞一, 今泉孝敬, 桜田真己, 三宅隆之, 荒井恒憲, 吉川美弥, 菊池 真, 福田 勝, 内海 厚, 山縣俊彦, 溝口多聞: 冠動脈の新しい治療—特に冠動脈インターベンションについて—. *循環器情報処理* 1997; 12 : 13-17.
- 15) 水野杏一: 血管内視鏡でみるブランク崩壊. *Cardiologist* 1997; 3 (1) : 25-28.
- 16) 水野杏一: 血管内視鏡による動脈硬化診断とその意義. *Ther. Res.* 1997; 18 (12) : 11-14.
- 17) 里村公生, 水野杏一: 冠動脈再狭窄の臨床—血管内視鏡から. *Heart View* 1998; 2 (3) : 296-300.
- 18) 水野杏一, 葉山陽一: 急性心筋梗塞における再灌流療法の遠隔期成績. *医学と薬学* 1998; 39 (3) : 471-472.
- 19) 水野杏一: 動脈硬化の血管内視鏡所見. *MEDICO* 1998; 29 (1) : 6-8.

著 書

- 1) Mizuno K : [分担] *Angioscopy in acute myocardial infarction.* (Geschwind HJ, Kern MJ Eds.) *Guidebook to endovascular coronary diagnostic technique*, 1997 ; pp119-132, Futura Publishing Company, Inc. Armonk, NY.
- 2) 北村 伸, 酒寄 修, 越 泰彦 : [共著] *アルツハイマー型痴呆. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 1,* (赫 彰郎 監修). *アルツハイマー型痴呆. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 1,* (赫 彰郎 監修), 1997 ; ワールドプランニング.
- 3) 北村 伸, 酒寄 修, 越 泰彦 : [共著] *脳血管性痴呆. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 2,* (赫 彰郎 監修). *脳血管性痴呆. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 2,* (赫 彰郎 監修), 1997 ; ワールドプランニング.
- 4) 北村 伸, 酒寄 修, 越 泰彦 : [共著] *前頭葉性痴呆. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 3,* (赫 彰郎 監修). *前頭葉性痴呆. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 3,* (赫 彰郎 監修), 1997 ; ワールドプランニング.
- 5) 北村 伸, 酒寄 修, 越 泰彦 : [共著] *クロイツフェルト-ヤコブ病とその類縁疾患. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 4,* (赫 彰郎 監修). *クロイツフェルト-ヤコブ病とその類縁疾患. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 4,* (赫 彰郎 監修), 1997 ; ワールドプランニング.
- 6) 北村 伸, 酒寄 修, 越 泰彦 : [共著] *パーキンソン病とその類縁疾患. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 5,* (赫 彰郎 監修). *パーキンソン病とその類縁疾患. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 5,* (赫 彰郎 監修), 1997 ; ワールドプランニング.
- 7) 水野杏一 : [分担] *血管内視鏡からみたacute coronary syndromeの病態.* (泰江弘文編) *acute coronary syndrome [病態と治療]*, 1997 ; pp67-77, 南光堂.
- 8) 水野杏一 : [分担] *心血管内視鏡.* 井村裕夫, 尾形悦郎, 高久史麿, 垂井清一郎 (監修) (金澤一郎編集主幹) (小川 聰編集幹事) *最新内科学大系. 循環器疾患1. 疫学 (メガトライアル), 分子生物学, 病因・病態生理, 画像診断*, 1997 ; pp343-356, 中山書店.
- 9) 水野杏一, 北村克弘 : [分担] *心血管内視鏡. 循環器研修医ノート*, 1997 ; pp279-281, 診断と治療社.
- 10) 大國眞一, 水野杏一 : [分担] *急性心筋梗塞へのコロナリーインターベンション: 経皮経管冠動脈血栓溶解療法, 経皮的冠動脈形成術の実際.* (玉熊正悦監修, 編集) (大原 毅, 小川道雄, 沖永功太, 吉岡敏治編集) *ベッドサイド管理のてびき*, 1997 ; pp50-54, 医歯薬出版.
- 11) 水野杏一 : [分担] *血管内視鏡.* (北 徹, 横井正之編) *循環器病キーワード*, 1997 ; pp100-101, 羊土社.
- 12) 荒川 宏, 水野杏一 : [分担] *レーザー血管形成術.* (杉本恒明監修) (篠山重威, 矢崎義雄編集) *循環器疾患*

最新の治療1998-1999, 1998 ; pp281-284, 南江堂.

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 水野杏一, 大國眞一, 高野雅充, 富村正登, 今泉孝敬, 星野公彦, 里村公生, 荒川 宏, 渋谷利雄: インターベンション時の血管内視鏡の利用法 (シンポジウム「血管内エコーおよび血管内視鏡の進歩」). 38回日本脈管学会総会, 1997. 10.
- 2) 水野杏一: 血管内視鏡による動脈硬化診断とその意義 (3回Lipid Vasclar Scienceシンポジウム「心血管イベント防止を目的とした動脈硬化診断の進歩」). 29回日本動脈硬化学会総会, 1997.
- 3) 水野杏一: 急性冠動脈疾患における画像診断の役割 (シンポジウム「循環器救急における画像診断の役割」). 17回日本画像医学会, 1998. 2.
- 4) 水野杏一, 大國眞一, 高野雅充, 酒井俊太, 今泉孝敬, 北村克弘, 早川弘一, 里村公生, 渋谷利雄, 荒川 宏: 血管内視鏡・血管内超音波の新しい臨床応用 (シンポジウム「画像診断の進歩と臨床的意義」). 62回日本循環器学会総会, 1998. 3.

(2) パネルディスカッション :

- 1) 水野杏一, 大國眞一, 高野雅充, 富村正登, 佐野純子, 今泉孝敬, 荒川 宏, 渋谷利雄, 里村公生: 血管内視鏡による治療法選択と効果判定 (パネルディスカッション「治療法選択と効果判定のための画像診断法の進歩」). 45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.

(3) ワークショップ :

- 1) 田畑博嗣, 水野杏一, 里村公生, 渋谷利雄, 荒川 宏, 中村治雄: 選択的トロンピン阻害剤アルガトロバンの効果: 急性心筋梗塞再灌流療法後の再閉塞とPTCA後の再狭窄予防 (ワークショップ「循環器疾患における抗血栓療法」). 45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.

(4) 一般講演 :

- 1) Tsuganezawa T : The effect of PTH on T lymphocytes from normal subjects and dialysis patients. 第14回国際腎臓学会, 1997. 5.
- 2) Kitamura K, Mizuno K, Ookuni S, Miyake T, Nakamura H : Prediction of acute coronary syndrome by angiography. 70th Scientific Sessions American Heart Association, Orlando, USA, 1997. 11.
- 3) Koshi Y, Kitamura S, Nagazumi A, Sakayori O, Terashi A : Regional cerebral blood flow and periventricular hyperintensity in silent cerebral infarction. 16th World Congress of Neurology (Buenos Aires), 1997.
- 4) Koshi Y, Kitamura S, Komaba Y, Sakayori O, Mishina M, Tsuganesawa T, Terashi A : Central benzodiazepine receptor imaging in poststroke aphasia using 123I-iomazenil SPECT. The XVIth CBF & Metabolism (Baltimore), 1997.
- 5) Mizuno K, Ohkuni S, Imaizumi T, Arai T, Sakurada M : Novel multi-manipulatable functioned percutaneous transluminal coronary angioscope. 47th Annual Scientific Session of American College of Cardiology Atlanta, 1998.
- 6) Koshi Y, Kitamura S, Komiyama T, Sakayori O, Komaba Y, Terashi A : Quantitative SPECT study of regional cerebral blood flow in dementia of Alzheimer type. 8th Congress of the International Psychogeriatric Association (Jerusalem), 1997.
- 7) 葉山修陽, 金子朋広, 須賀 優, 水野杏一, 赫 彰郎¹⁾, 栗原 怜²⁾ (¹⁾ 日本医科大学第2内科, ²⁾ 春日部秀和病院腎臓内科): 血液浄化期間と血小板, 血管内皮細胞障害マ-カ-との関連について. 第94回日本内科学会講演

- 会, 1997. 4.
- 8) 水野杏一, 大國眞一, 高野雅充, 北村克弘, 佐野純子, 星野公彦, 富村正登, 小林利行, 金子晴生: Cutting balloonによる内臓損傷の軽減—血管内視鏡による検討. 第94回日本内科学会講演会, 1997. 4.
 - 9) 山田久木, 岩切勝彦¹⁾, 中川義也¹⁾, 柴田喜明, 琴寄 誠¹⁾, 杉浦敏明¹⁾, 川上明彦¹⁾, 小林正文¹⁾, 山門 進²⁾, 永井俊彦²⁾ (¹⁾ 日本医科大学第3内科, ²⁾ 東京都多摩老人医療センター消化器科): Ca拮抗薬 (nifedipine 10mg) 内服の胃食道逆流に及ぼす影響. 第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
 - 10) 藤森俊二, 吉田 豊¹⁾, 辰口 篤¹⁾, 伊月葉子¹⁾, 星野哲夫¹⁾, 田中 周¹⁾, 篠沢 功¹⁾, 佐藤 順¹⁾, 津久井拓¹⁾, 田口文彦¹⁾, 玉川恭士¹⁾, 岸田輝幸¹⁾, 小林正文¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学第3内科): Laser-Doppler flowmeter (LDF) を用いた大腸腺腫と大腸癌の表層血行動態の比較検討. 第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
 - 11) 榎原義之¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 間宮康貴¹⁾, 小泉信人¹⁾, 吉本 均¹⁾, 斎藤 整¹⁾, 星長春樹¹⁾, 多田教彦¹⁾, 松坂聡¹⁾, 渡 淳, 黒田 肇¹⁾, 小林正文¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学第3内科): TIPSにより食道静脈瘤破裂の待機的治療: 内視鏡硬化療法を対照治療としたretrospective study. 第33回日本肝臓病学会総会, 1997. 4.
 - 12) 星野公彦, 中村俊彦, 坏 宏一, 田中 隆, 田中啓治, 岡松健太郎, 高野雅充, 大國眞一, 水野杏一: Wiktor stent留置後の急性冠閉塞に対しウロキナーゼとIABPの併用が有効であった2症例. 第24回日本集中治療医学会総会, 1997. 5.
 - 13) 琴寄 誠, 藤森俊二, 長田裕二, 名知志子, 吉沢雅史, 渡 淳, 水野杏一: 十二指腸球部から下降脚に認めた全周性潰瘍の1例. 第64回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 6.
 - 14) 北村克弘, 水野杏一, 大國眞一, 星野公彦, 坏 宏一, 稲見茂信, 高野雅充, 富村正登, 渋谷利雄, 荒川 宏, 里村公生, 中村治雄, 三宅隆之: 急性冠動脈症候群発症の予測—冠動脈造影と血管内視鏡による検討. 第6回日本心血管インターベンション学会学術集会, 1997. 6.
 - 15) 高野雅充, 富村正登, 金子晴生, 大國眞一, 水野杏一: Cutting balloonによる血管拡張の機序. 第6回日本心血管インターベンション学会学術集会, 1997. 6.
 - 16) 西川健一郎, 里村公生, 西沢健也, 磯田菊生, 正田浩之, 荒川 宏, 渋谷利雄, 中村治雄, 水野杏一: 黄色ブランク (YP) がPTCA後再狭窄へ及ぼす影響について. 第6回日本心血管インターベンション学会学術集会, 1997. 6.
 - 17) 大國眞一, 高野雅充, 水野杏一, 荒井恒憲, 桜田真己, 山縣俊彦, 溝口多聞, 福井 勝, 内海 厚: 新しい冠動脈血管内視鏡 (トルクコントロール+斜視) の開発とその有用性: 従来の内視鏡との比較. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
 - 18) 西川健一郎, 里村公生, 荒川 宏, 渋谷利雄, 中村治雄, 水野杏一: 虚血性心疾患における病変部の黄色粥腫 (YP), 血栓 (TH) と血清フィブリノーゲンについて. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
 - 19) 琴寄 誠¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 山田久木¹⁾, 杉浦敏明¹⁾, 中川義也¹⁾, 川上明彦¹⁾, 小林正文¹⁾, 渡 淳 (¹⁾ 日本医科大学第3内科): 上部消化管内視鏡検査で異常を認めない食事時のdysphagiaを訴える症例の食道内圧検査による検討. 第39回日本消化器病学会大会, 1997. 10.
 - 20) 富村正登, 高野雅充, 坏 宏一, 金子晴生, 北村克弘, 大國眞一, 水野杏一: 冠動脈Paradoxical Remodeling について: IVUSでの検討. 34回日本臨床生理学回総会, 1997. 10.
 - 21) 須賀 優, 金子朋広, 葉山修陽, 北村博司¹⁾, 飯野靖彦²⁾, 赫 彰郎²⁾ (¹⁾ 日本医科大学第1病理, ²⁾ 日本医科大学第2内科): 腎不全にて発見された間質を主病変とする1症例. 第27回日本腎臓学会東部学術大会, 1997. 11.
 - 22) 金子朋広, 須賀 優, 葉山修陽, 北村博司¹⁾, 飯野靖彦²⁾, 赫 彰郎²⁾ (¹⁾ 日本医科大学第1病理, ²⁾ 日本医科大学第2内科): 肝腎症候群を呈したマラリアの1症例. 第27回日本腎臓学会東部学術大会, 1997. 11.
 - 23) 岡松健太郎, 横山真也, 大野則彦, 松本 真, 北村克行, 酒井俊太, 佐野純子, 大國眞一, 水野杏一, 高山英男¹⁾, 星野公彦¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院集中治療室): 血管内エコー (IVUS)

- 像, 心電図 (ECG) および冠動脈内圧同時記録法によるCoronary Artery Distensibility (DIST) の経皮的冠動脈形成術 (PTCA) 後にみとめられた改善. 第5回心血管内イメージング研究会, 1997. 12.
- 24) 岡松健太郎, 横山真也, 大野則彦, 松本 真, 北村克行, 酒井俊太, 佐野純子, 大國眞一, 水野杏一, 石井健輔¹⁾, 高山英男¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院集中治療室): AMIに対してprimary stentingを行った症例の血管内視鏡所見. 第6回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1997. 12.
- 25) 岡松健太郎, 高野雅充, 横山真也, 大野則彦, 松本 真, 北村克弘, 酒井俊太, 佐野純子, 大國眞一, 水野杏一, 星野公彦¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院集中治療室): 血管内エコー (IVUS) 像, 心電図 (ECG) および 冠動脈内圧同時記録法: Coronary Artery Distensibility (DIST) についての検討. 第11回日本冠疾患学会学術大会, 1997. 12.
- 26) 横山真也, 大國眞一, 富村正登, 高野雅充, 佐野純子, 岡松健太郎, 小林利行, 金子晴生, 水野杏一, 早川弘一: 抗高脂血症剤投与による接着分子の動向. 18回日本臨床薬理学会, 1997. 12.
- 27) 富村正登, 高野雅充, 佐野純子, 星野公彦, 大國眞一, 水野杏一: 冠動脈RemodelingとCutting Balloon (CB) 施行例の再狭窄について. 第11回日本冠疾患学会, 1997. 12.
- 28) 高野雅充, 岡松健太郎, 富村正登, 佐野純子, 北村克弘, 大國眞一, 水野杏一, 坏 宏一, 星野公彦, 今泉孝敬, 田中啓治: Cutting Balloon AngioplastyにおけるIVUSの有用性. 11回日本冠疾患学会, 1997. 12.
- 29) 星野公彦, 坏 宏一, 今泉孝敬, 田中啓治, 岡松健太郎, 高野雅充, 富村正登, 北村克弘, 佐野純子, 大國眞一, 水野杏一: プラークの性状にもとづくCutting BalloonとPOBAの拡張機序の差: IVUSでの検討. 第11回日本冠疾患学会, 1997. 12.
- 30) 越 泰彦, 北村 伸, 小林克史, 駒場祐一, 三品雅洋, 赫 彰郎: 脳梗塞後失語症におけるベンゾジアゼピン受容体画像の検討-失語症状の予後との関連. 第38回日本神経学会総会, 1997.
- 31) 越 泰彦, 北村 伸, 小林克史, 駒場祐一, 酒寄 修, 三品雅洋, 津金沢俊和, 永積 惇, 赫 彰郎: 脳梗塞後失語症におけるベンゾジアゼピン受容体画像の有用性についての検討. 第22回日本脳卒中学会総会, 1997.
- 32) 岩崎雄樹, 今泉敬孝, 坏 宏一, 星野公彦, 田中啓治, 高野雅充, 大國眞一, 水野杏一, 別所竜蔵, 五味潤誠, 浅野哲雄: Palmaz-Schatzステント留置直後に冠動脈破裂を来し, バルンにて出血を抑制, 救急開胸手術にて救命しえた狭心症の1例. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997.
- 33) 富村正登, 高野雅充, 坏 宏一, 金子晴生, 北村克弘, 大國眞一, 水野杏一: 冠動脈Paradoxical Remodelingについて: IVYSでの検討. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997.
- 34) 奥村昌夫, 日野光紀, 林原賢治, 古田知行, 榎本達治, 伊藤永喜, 小俣雅念, 水野杏一, 横田裕行, 加藤一良, 大秋美治: 気管支肺胞洗浄 (BAL) にて診断しえたpneumocystis carinii 肺炎3症例の検討. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997.
- 35) 岩田ともみ, 於保倫之助, 市堰 肇, 小林克史, 石井 洋, 水野杏一, 大秋美治, 森 修, 岡田 進, 新井裕至, 山崎峰雄, 赫 彰郎: Gliomatosis cerebriの1例: MRIと病理との比較. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997.
- 36) 岩崎雄樹, 今泉敬孝, 坏 宏一, 星野公彦, 田中啓治, 大國眞一, 水野杏一, 別所竜蔵, 五味潤誠, 浅野哲雄, 金子晴生: Palmaz-Schatzステント留置直後に冠動脈破裂を来し, バルンにて出血を抑制, 緊急開胸手術にて救命しえた狭心症の1例. 第164回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1997.
- 37) 稲見茂信, 大塚俊昭, 高野雅充, 富村正登, 大國眞一, 佐野純子, 小林克史, 市堰 肇, 於母倫之助, 水野杏一: 脊髄小脳変性症に大動脈四尖弁を合併した1例. 第164回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1997.
- 38) 上原隆志, 日野光紀, 平松久弥子, 海老沢雅子, 伊藤永喜, 古田知行, 林原賢治, 工藤翔二¹⁾, 葉山修陽, 大秋美治²⁾ (¹⁾ 日本医科大学第四内科, ²⁾ 日本医科大学付属千葉北総病院病理部): 顕微鏡的多発動脈炎の治療経過中に2種の肺病変を呈した1例. 第132回日本結核病学会関東支部・第127回日本呼吸器学会関東地方会合同学

- 会, 1997.
- 39) 町田幸雄, 目黒真喜子, 野本剛史, 水野杏一: 検査業務管理支援システムの構築: 検査室経営管理. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997.
- 40) 亀山雅弥, 野本剛史, 水野杏一: 開院後4年次における検出菌・薬剤感受性率の変動. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997.
- 41) 石渡統夫, 野本剛史, 水野杏一: 薬物血中濃度と脳波についての1症例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997.
- 42) 目黒真喜子, 町田幸雄, 野本剛史, 水野杏一: サーモグラフィー検査の現状と今後: 特に手指尖について. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997.
- 43) 野本剛史, 三谷真美子, 目黒真喜子, 石渡統夫, 町田幸雄, 亀山雅弥, 水野杏一: 新東京国際空港クリニックにおける診療支援体制: 特に臨床検査体制について. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997.
- 44) 三谷真美子, 野本剛史, 水野杏一: 持続性に完全左脚ブロック (CLBBB) を呈した心電図が後に正常化した1症例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997.
- 45) 高橋 啓, 岡松健太郎, 高野雅充, 富村正登, 佐野純子, 大國眞一, 水野杏一, 今泉孝敬, 田中啓治, 別所竜蔵, 山内茂生: 抗不整脈薬にてペーシング不全を生じたと思われた洞不全症候群の1例. 第165回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1997.
- 46) 稲見茂信, 亀山幹彦, 坪 宏一, 星野公彦, 今泉孝敬, 田中啓治, 平松久弥子, 石井 洋, 大國眞一, 渡 淳, 水野杏一, 長谷川節雄, 高田輝雄: 著しい好中球減少 ($192/\mu\text{l}$) を伴う慢性関節リウマチ兼 Sjogren 症候群に発症した急性心筋梗塞に, 顆粒球コロニー形成刺激因子を投与しながら PTCA を行った1症例. 第165回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1997.
- 47) 高野雅充, 高橋 啓, 岡松健太郎, 富村正登, 北村克弘, 佐野純子, 大國眞一, 水野杏一, 坪 宏一, 星野公彦, 今泉孝敬, 田中啓治: 石灰化病変に留置した gfx ステントが高度に変形した1例 (冠動脈造影と IVUS 所見の不一致例). 第11回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 1997.
- 48) 三浦洋司, 岡松健太郎, 大野則彦, 横山真也, 松本 真, 酒井俊太, 佐野純子, 大國眞一, 水野杏一, 竹永清人, 石井健輔, 服部達也, 高山英男, 星野公彦, 今泉孝敬, 田中啓治: ステント留置術後に冠動脈瘤を起こした1例. 第166回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1997.
- 49) 竹永清人, 石井健輔, 服部達也, 稲見茂信, 高山英男, 小原俊彦, 今泉孝敬, 田中啓治, 大國眞一, 水野杏一, 岡田 進, 別所竜蔵, 山内茂生, 五味淵誠: 逆行解離によって左冠動脈主幹部完全閉塞と上大静脈症候群を来した急性大動脈解離 (IIIb). 第166回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1997.
- 50) 服部達也, 小原俊彦, 石井健輔, 竹永清人, 品田卓郎, 森田典成, 高山英男, 今泉孝敬, 田中啓治, 海老沢雅子, 酒井俊太, 大國眞一, 水野杏一, 山内茂生: 洞不全症候群によるアダムスストークス発作がきっかけで診断された高齢エプスタイン奇形の1例. 第167回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1997.
- 51) 大野則彦, 三浦洋司, 小川晃生, 岡松健太郎, 松本 真, 酒井俊太, 多田裕美子, 佐野純子, 大國眞一, 水野杏一, 今泉孝敬, 田中啓治: 無治療にて長期生存した完全型心内膜床欠損症の1例. 第167回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1997.
- 52) 岡松健太郎, 横山真也, 大野則彦, 松本 真, 北村克行, 酒井俊太, 佐野純子, 大國眞一, 水野杏一, 高山英男¹⁾, 星野公彦¹⁾, 今泉孝敬¹⁾, 田中啓治¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院集中治療室): 血管内エコー (IVUS) 像, 心電図 (ECG) および冠動脈内圧同時記録法による Coronary Artery Distensibility (DIST) とプラークとの関係. 第62回日本循環器学会総会・学術集会, 1998. 3.
- 53) 佐野純子, 岡松健太郎, 高野雅充, 横山真也, 大野則彦, 富村正登, 松本 真, 北村克弘, 酒井俊太, 星野公彦, 大國眞一, 今泉孝敬, 水野杏一, 早川弘一: 緑茶飲用の冠動脈狭窄に対する影響: 何故, 日本人は冠動脈疾患が少ないか?. 第62回日本循環器学会総会東京, 1998. 3.

- 54) 大國眞一, 水野杏一, 酒井俊太, 高山守正, 桜田真己, 勝木孝明, 永井知雄, 李 武志, 宮本 明, 里村公生, 草間茂樹, 今泉孝敬: Cutting Balloon多施設共同試験—Multi Institutional Cutting Balloon Angioplasty (MICBA Study) の中期成績. 第62回日本循環器学会総会, 1998. 3.
- 55) 酒井俊太, 岡松健太郎, 大野則彦, 松本 真, 北村克弘, 佐野純子, 大國眞一, 水野杏一, 星野公彦, 今泉孝敬, 田中啓治, 関戸司久, 上村竜太, 富田喜文, 草間茂樹, 高山守正, 宗像 雄, 高野照夫, 岸田 浩, 早川弘一: 急性心筋梗塞 (AMI) に対するステント治療: 冠動脈内視鏡での検討. 第62回日本循環器学会総会, 1998. 3.
- 56) 北村克弘, 水野杏一, 大國眞一, 酒井俊太, 高野雅充, 岡松健太郎, 今泉孝敬, 佐野純子, 松本 真, 大野則彦, 星野公彦, 早川弘一, 荒川 宏, 中村治雄, 上畑昭美, 勝然秀一, 赤沼雅彦, 袴田尚弘, 五十嶋一成: 急性冠動脈疾患は線維性被膜が厚いプラークでも発症するか?: その機序に関する検討. 第62回日本循環器学会総会, 1998. 3.
- 57) 北村克弘, 田畑博嗣, 水野杏一, 大國眞一, 渋谷利雄, 荒川 宏, 里村公生, 中村治雄, 上畑昭美, 袴田尚弘, 勝然秀一, 五十嶋一成: 急性心筋梗塞症例におけるPTCA後の再狭窄に対するアルガトロバンの効果. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.

2. 内科学第二講座

[付属病院第2内科]

研究概要

内科学第二講座は神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としております。神経内科では脳血管障害の病態解明および治療を主要テーマとしております。研究にあたっては動物実験に基づく基礎的なアプローチと、実際の診断・治療に基づく臨床的なアプローチの両面から取り組んでいる。

実験的研究：脳虚血急性期の病態および治療の研究では各種の脳虚血モデルを作成してオートラジオグラフィ法やマイクロアッセイ法およびMRI (MRS) を用いて局所の脳循環代謝を測定し行っている。また、免疫組織化学や in situ hybridization法を用いてストレス蛋白や遺伝子の発現についても研究を進めている。遅発性神経細胞死、虚血耐性現象や慢性脳循環不全の病態も重要な研究課題の一つである。その他、興奮性アミノ酸拮抗薬、Ca²⁺拮抗薬および免疫抑制薬等の各種の治療薬剤の効果についても検討を行っている。臨床：脳卒中急性期の早期診断・早期治療に取り組み新しい治療法の試みを行っている。また、脳血管性痴呆やアルツハイマー型痴呆等の痴呆性疾患に対し、PET・MRI・SPECT等の画像診断器機を利用した研究を活発に行っている。さらに脊髄小脳変性症等の変性疾患における歩行時の脳循環代謝の変動についての検討もなされている。

腎臓内科では従来から行われてきた透析を中心とした研究に加え、糸球体腎炎に対するサイトカインの役割についても研究を進めており、さらに厚生省の腎傷害研究班の一員として多嚢胞腎の調査研究も行っている。また、平成元年度より開始された腎移植は現在症例数も増加し、その内容も充実しつつある。また、腎クリニックや北総病院内科に教室員の派遣を行い、各施設での診療・研究に貢献している。

以上、当教室では神経および腎臓内科学領域において、国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い、多くの論文を発表している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Katayama Y, Kamiya T, Muramatsu H, Abe H, Terashi A : Immunosuppressant FK506 enhances immediate-early gene expression and prevents delayed neuronal death in the gerbil hippocampus. *J Cereb Blood Flow Metab* 1997 ; 17 (Suppl. 1) : S492.
- 2) Ueda M, Kamiya T, Katayama Y, Mori T, Terashi A : Oligodendroglial DNA fragmentation following microglial activation contributes to white matter changes in chronic cerebral hypoperfused rats. *J Cereb Blood Flow Metab* 1997 ; 17 (Suppl. 1) : S432.
- 3) Kamiya T, Katayama Y, Aoyama S, Muramatsu H, Abe H, Terashi A : Neuroprotective effects of immunosuppressant FK506 in focal cerebral ischemia in the rat : The effect of cerebral infarction, brain edema, immediate-early gene and the heat shock protein hsp 72. *J Cereb Blood Flow Metab* 1997 ; 17 (Suppl. 1) : S372.
- 4) Mori T, Katayama Y, Kamiya T, Nagata K, Muramatsu H, Memezawa H, Minamisawa H, Terashi A : Histochemical detection of superoxide anion production after transient focal ischemia in rats. *J Cereb Blood Flow Metab* 1997 ; 17 (Suppl.1) : S92.
- 5) Kamiya T, Katayama Y, Muramatsu H, Terashi A : Ischemic tolerance phenomenon from an approach of

- protein synthesis in gerbils. *J Cereb Blood Flow Metab* 1997 ; 17 (Suppl. 1) : S54.
- 6) Igarashi H, Nakada T, Kwee IL, Katayama Y, Terashi A : ^1H MR spectroscopic imaging of permanent focal ischemia : Assignment of the unresolved peaks. *J Cereb Blood Flow Metab* 1997 ; 17 (Suppl. 1) : S508.
 - 7) Otori T, Katsumata T, Kashiwagi F, Katayama Y, Terashi A : Differences in vulnerability between cortex and white matter during chronic hypoperfusion in rat brain following bilateral carotid artery occlusion. *J Cereb Blood Flow Metab* 1997 ; 17 (Suppl. 1) : S588.
 - 8) Katsura K, Kurihara J, Hu B-R, Katayama Y, Terashi A, Siesjo BK, Wieloch T : Effects of different levels of acidosis on translocation of protein kinase C during complete ischemia. *J Cereb Blood Flow Metab* 1997 ; 17 (Suppl. 1) : S773.
 - 9) Minamisawa H, Katayama Y, Terashi A, Nakamura T, Kudo Y : Changes in calcium ion concentration and field potential recording in CA1 during complete ischemia and reperfusion in rat and the histopathological outcome seven days after the ischemic insult. *J Cereb Blood Flow Metab* 1997 ; 17 (Suppl. 1) : S783.
 - 10) Katayama Y, Katsumata T, Muramatsu H, Usuda K, Obo R, Terashi A : Effect of long-term administration of ethyl eicosapentate (EPA-E) on local cerebral blood flow and glucose utilization in stroke-prone spontaneously hypertensive rats (SHRSP). *Brain Res* 1997 ; 761 : 300-305.
 - 11) Ishiwata A, Sakayori O, Kitamura S, Tsuganesawa T, Terashi A : Is brain circulation maintained sufficiently in chronic renal failure patients under hemodialysis treatment?. *J Cereb Blood Flow and Metab* 1997 ; 17 (Suppl 1) : S465.
 - 12) Tsuganesawa T, Kitamura S, Koshi Y, Komiyama T, Sakayori O, Komaba Y, Oyama M, Mishina M, Terashi A : Benzodiazepine receptor and cerebral blood flow in early Alzheimer's disease. *J Cereb Blood Flow and Metab* 1997 ; 17 (Suppl 1) : S576.
 - 13) Komaba Y, Nomoto T, Kitamura S, Terashi A : Cavernous angioma with olivary hypertrophy and contralateral cerebellar diaschisis. *Internal Medicine* 1997 ; 36 : 504-507.
 - 14) Yamazaki M, Oyanagi K, Mori O, Ohyama M, Kitamura S, Terashi A : An autopsy case of variant Gerstmann-Strassler syndrome with codon 105 mutation of the prion protein gene, showing degeneration of the pallidum, thalamus and substantia nigra and widely distributed neurofibrillary tangles. *Brain Pathol* 1997 ; 7 : 1113.
 - 15) Koshi Y, Kitamura S, Komaba Y, Sakayori O, Mishina M, Tsuganesawa T, Terashi A : Central benzodiazepine receptor imaging in poststroke aphasia using $[^{123}\text{I}]$ iomazenil SPECT. *J Cereb Blood Flow and Metab* 1997 ; 17 (Suppl 1) : S121.
 - 16) Kaneko T, Osono E, Hayama N, Iino Y, Terashi A : T-cell activation modified by parathyroid hormone in patients with end-stage renal disease. *Clin Nephrol* 1997 ; 48 (6) : 353-358.
 - 17) Fukuo Y, Takagi S, Akaishi H, Kanbara R : Dual effects of bezafibrate on lipid metabolism and hepatobiliary enzymes. *Clin Drug Invest* 1997 ; 14 (2) : 125-131.
 - 18) Fukuo Y, Honda H, Nagashima M, Akaishi H, Terashi A : Purification of a factor inhibiting monocyte/macrophage differentiation from the thymus gland. *Atherosclerosis* 1997 ; 134 (nos1,2) : 230.
 - 19) Honda H, Fukuo Y, Akimaru K¹⁾, Katayama H¹⁾, Kameyama K²⁾, Nagashima M, Akaishi H, Terashi A (¹⁾ 多摩永山病院検査室, ²⁾ 第二病理) : Role of thymus in experimental atherogenesis in cholesterol-fed rabbits : Immunocytochemical analysis of cellular components. *Atherosclerosis* 1997 ; 134 (nos1,2) : 231.

- 20) Nagashima M, Fukuo Y, Honda H, Fukunaga Y¹⁾, Emi M²⁾, Terashi A (¹⁾ 小児科, ²⁾ 老人病研究所分子生物) : Glucocorticoids inhibit the CD18 and L-selectin in human myeloid THP-1 cells during monocytic differentiation. *Atherosclerosis* 1997 ; 134 (nos1,2) : 235.
- 21) Kambara R¹⁾, Fukuo Y, Nagashima M, Kanekawa T¹⁾, Terashi A (¹⁾ 田尻ヶ丘病院) : Dexamethasone modulates platelet-derived growth factor mRNA expression in human monocytic THP-1 cells. *Atherosclerosis* 1997 ; 134 (nos1,2) : 232.
- 22) Takagi S, Nakajima S, Fukuo Y, Terashi A : Effects of supplementary dietary methionine and tungsten on lipid metabolism in rabbits fed a low-cholesterol diet. *Atherosclerosis* 1997 ; 134 (nos 1,2) : 335.
- 23) Katayama Y, Fukuchi T, McKee A, Terashi A : Effect of nicardipine, a Ca²⁺ channel blocker, on pyruvate dehydrogenase activity and energy metabolites during cerebral ischemia and reperfusion in gerbil brain. *Brain Res* 1998 ; 781 : 212-217.
- 24) Komaba Y, Nomoto T, Hiraide T, Kitamura S, Terashi A : Persistent primitive hypolossal artery complicated by atrial septal defect and congenital intrahepatic shunts. *Internal Medicine* 1998 ; 37 : 60-64.
- 25) Ishiwata K, Ito T, Ohyama M, Yamada T, Mishina M, Ishii K, Nariai T, Sasaki T, Oda K, Toyama H, Senda M : Metabolite analysis of [11C] flumazenil in human plasma : Assessment as the standardized value for quantitative PET study. *Annals of Nuclear Medicine* 1998 ; 12 : 55-59.
- 26) Oosawa H, Osono E, Iino Y, Terashi A : Serum leptin concentration in kidney transplantation patients. *Clinical Experimental Nephrol* 1998 ; 2 (1) : 38-43.
- 27) Segawa K¹⁾, Kataoka T¹⁾, Fukuo Y (¹⁾ Japanese foundation for cancer research) : Cholesterol-lowering effects of psyllium seed associated with urea metabolism. *Biol Pharm. Bull* 1998 ; 21 (2) : 184-187.
- 28) 山室 学, 片山泰朗, 五十嵐博中, 赫 彰郎 : ラット脳梗塞モデルの¹Hおよび³¹P核磁気共鳴スペクトロスコピー. *日医大誌* 1997 ; 64 : 131-138.
- 29) 青山純夫, 片山泰朗, 赫 彰郎 : ラット一過性局所脳虚血モデルにおける免疫抑制薬FK506の脳梗塞縮小効果. *日医大誌* 1997 ; 64 : 416-421.
- 30) 大鳥達雄, 勝又俊弥, 片山泰朗, 赫 彰郎 : 両側総頸動脈結紮を施したラットにおける慢性脳循環不全の病態の検討—オートラジオグラフィ法による脳循環代謝の測定—. *日医大誌* 1997 ; 64 : 428-439.
- 31) 西山 穰, 片山泰朗, 赫 彰郎, 有井一正, 坂本静樹 : ¹²³IMP-SPECTを用いた慢性期脳梗塞患者におけるvinpocetineの脳血流増加作用及び臨床効果の検討. *薬理と治療* 1997 ; 25 : 2977-2983.
- 32) 西山 穰, 坂本静樹, 片山泰朗, 三品雅洋, 赫 彰郎 : シアリドーシス成人発症例の脳循環代謝所見. *臨床神経学* 1997 ; 37 : 982-986.
- 33) 若林一二, 金子泰之, 忽骨谷直孝, 神谷達司, 本田光芳, 逸見しのぶ, 川本雅司 : 長期間の全身性紅斑狼瘡(SLE)の経過中に呼吸困難, 意識障害を呈し死亡した1例. *内科* 1997 ; 80 : 146-152.
- 34) 酒寄 修, 北村 伸, 永積 惇, 赫 彰郎 : 無症候性脳梗塞患者における非特異的自覚症状の臨床的意義について—脳循環代謝所見を中心としたアプローチ—. *脳卒中* 1997 ; 19 : 333-339.
- 35) 酒寄 修, 北村 伸, 三品雅洋, 山崎峰雄, 赫 彰郎 : 脳血管選択性Ca拮抗薬(Nilvadipine)投与による慢性期脳梗塞例の精神症候および非特異的自覚症状と局所脳血流量の変化について—SPECT-ARG法による検討—. *脳卒中* 1997 ; 19 : 397-405.
- 36) 山崎峰雄, 赫 彰郎 : 脳梗塞後の遷延する凝固壊死の画像(CTおよびMRI所見)と病理. *財団法人博慈会老人病研究所紀要* 1997 ; 6 : 12-17.
- 37) 坂本静樹, 片山泰朗, 神谷達司, 勝又俊弥, 赫 彰郎 : 慢性期脳梗塞症に対するTRH療法による脳循環と髄液神経伝達物質の変化の検討. *神経治療学* 1998 ; 15 : 15-21.

- 38) 片山泰朗, 今泉孝敬, 吉村明修, 木内 要, 松信精一, 山中宣昭, 工藤翔二, 北村博司, 田村浩一, 川本雅司, 荒牧琢己: 重症冠動脈疾患に間質性肺炎の急性増悪を合併した1例. 内科 1998; 81: 368-378.
- 39) 長尾毅彦, 平林久吾, 横地正之, 田川由美, 結城伸泰: Bickerstaff型脳幹脳炎の診断と急性期治療-早期の血液浄化療法の重要性を裏づけた1例. 日本神経救急研究会雑誌 1998; 11: 99-102.
- 40) 清水光義, 飯野靖彦, 赫 彰郎: 腎移植によるインスリン感受性の改善. 日医大誌 1998; 65: 50-54.
- (2) 綜説:
- 1) 長尾毅彦, 濱本 真, 赫 彰郎: 脳梗塞の抗トロンピン療法. *Medicina* 1997; 17 (11): 3024-3030.
 - 2) 長尾毅彦, 濱本 真, 赫 彰郎: アテローム血栓性脳梗塞の急性期治療. *Medicina* 1997; 34 (13): 2361-2365.
 - 3) 片山泰朗, 神谷達司: 第3回国際脳卒中学会. 脳と循環 1997; 2: 173-175.
 - 4) 坂本静樹: 輸液剤の適応と使い方: 頭蓋内圧降下薬. 臨床医 1997; 23: 2241-2243.
 - 5) 桂研一郎: 第18回国際脳循環代謝学会. 脳と循環 1997; 2: 363-366.
 - 6) 桂研一郎: 脳虚血病態への分子生物学的アプローチ. *Current Circulation* 1997; 18: 27-29.
 - 7) 中澤 勝, 北村 伸, 赫 彰郎: 脳血管障害の病型分類と画像診断—X線CTからPETまで—. 循環器科 1997; 41: 8-15.
 - 8) 北村 伸: 大後頭神経痛. 今月の治療 1997; 5: 33-35.
 - 9) 北村 伸, 赫 彰郎: 脳血管性痴呆の予後を改善するための対応. 老年期痴呆 1997; 11: 181-187.
 - 10) 北村 伸: 無症候性脳梗塞の臨床 脳循環代謝. 日内会誌 1997; 86: 764-769.
 - 11) 北村 伸: 痴呆のリハビリテーション 画像診断. 総合リハ 1997; 25: 413-418.
 - 12) 赫 彰郎, 津金澤俊和, 北村 伸: 血圧管理と脳血管性痴呆. *Geriatric Medicine* 1997; 35: 601-605.
 - 13) 酒寄 修, 北村 伸, 赫 彰郎: 脳血管性痴呆と白質障害①画像. 老年期痴呆 1997; 11: 39-50.
 - 14) 北村 伸, 赫 彰郎: 痴呆. 神経治療 1997; 14: 297-299.
 - 15) 北村 伸, 赫 彰郎: 画像診断 (形態, 機能). 臨床と研究 1997; 74: 2425-2429.
 - 16) 赫 彰郎, 石渡明子, 北村 伸: treatable dementiaの鑑別診断. 老年精神医学 1997; 8: 1289-1295.
 - 17) 山崎峰雄, 中野今治: 神経細胞のアポトーシス. 現代医療 1997; 29: 93-98.
 - 18) 山崎峰雄: (特集/グリアの変化) Alzheimer病, Pick病のグリアの変化. 神経内科 1997; 46: 575-583.
 - 19) 山崎峰雄: (特集/神経系疾患と臨床検査) 神経疾患とTUNEL法. 臨床検査 1997; 41: 1504.
 - 20) 石渡明子, 北村 伸, 赫 彰郎: 痴呆の鑑別診断「treatable dementiaの鑑別診断」. 老年精神医学雑誌 1997; 8 (12): 1289-1295.
 - 21) 飯野靖彦: 浮腫の形成機序. 内科 1997; 79 (5): 825-827.
 - 22) 飯野靖彦: 尿の新しいみかた. 臨床医 1997; 23 (12): 2193-2194.
 - 23) 飯野靖彦, 益子邦洋, 謝 宋安: 輸液の実際. 臨床医 1997; 23 (12): 2298-2310.
 - 24) 飯野靖彦, 白鳥康史: むくみ 腹水への対応. 臨床成人病 1997; 27 (4): 477-488.
 - 25) 飯野靖彦: 乳酸アシドーシス. 内科 1997; 79 (6): 1261-1263.
 - 26) 飯野靖彦, 松信精一: 腎移植 臓器提供の適応. 臨床透析 1997; 13 (12): 1625-1629.
 - 27) 飯野靖彦: 浮腫形成に関するホルモン. 腎と透析 1997; 44 (1): 29-32.
 - 28) 森 貴博, 飯野靖彦: 高K血症の鑑別診断. *Medicina* 1997; 34 (5): 888-890.
 - 29) 柏木哲也, 飯野靖彦, 赫 彰郎: 多発性嚢胞腎. *Medicina* 1997; 34 (13): 2439-2444.
 - 30) 福生吉裕: 臨床医の目 薬剤の意外な効能効果について—bezafibrateも含めて—. 日本医事新報 1997; 3810: 43-47.
 - 31) 福生吉裕: イヌイットの教訓から学ぶものは. 日医大誌 1997; 64: 89-90.

- 32) 福生吉裕：八丈島レポート。EPA 1997；12（4）：12-13.
 - 33) 福生吉裕：トリグリセライドと動脈硬化 リスクファクターとしてのトリグリセライド。EPA 1997；1（4）：1-2.
 - 34) 福生吉裕，大内尉義，山田信博：動脈硬化の一次予防について。治療 1997；31（11）：91-103.
 - 35) 福生吉裕：2020年に向けての健康医療ルールを。治療 1997；31（11）：36.
 - 36) 青山純夫，片山泰朗，赫 彰郎：高血圧と脳血管障害：脳血管障害急性期の降圧療法のあり方。血圧 1998；5：37-42.
 - 37) 赫 彰郎，上田雅之：脳血管障害の病態。医学と薬学 1998；39：221-226.
 - 38) 北村 伸，赫 彰郎：記憶障害の検査 画像検査。Clinical Neuroscience 1998；16：193-196.
- (3) 研究報告書：
- 1) 山崎峰雄：大和證券ヘルス財団の助成による研究業績集 第21集 血管性およびアルツハイマー型痴呆における臨床診断と病理診断の不一致例の検討—老年期痴呆のより正確な臨床診断をめざして—。大和證券ヘルス財団の助成による研究業績集 1998；21：pp54-59.

著 書

- 1) Katsura K：Acidosis as a complicating factor. Primer on Cerebrovascular Diseases, 1997；pp159-162, Welch, Caplan, Reis, Siesjo, Weir.
- 2) 北村 伸，酒寄 修，越 泰彦：アルツハイマー型痴呆。痴呆性疾患の画像診断シリーズ1，1997；ワールドプランニング。
- 3) 北村 伸，酒寄 修，越 泰彦：脳血管性痴呆。痴呆性疾患の画像診断シリーズ2，1997；ワールドプランニング。
- 4) 北村 伸，酒寄 修，越 泰彦：前頭葉型痴呆。痴呆性疾患の画像診断シリーズ3，1997；ワールドプランニング。
- 5) 北村 伸，酒寄 修，越 泰彦：クロイツフェルト-ヤコブ病とその類縁疾患。痴呆性疾患の画像診断シリーズ4，1997；ワールドプランニング。
- 6) 越 泰彦，北村 伸，赫 彰郎：脳血管障害の画像診断 SPECT, PET. 脳血管障害患者の治療とケア（金谷春之編集），1997；pp132-138，メディカ出版。
- 7) 北村 伸：痴呆の画像診断はどこまで可能か？PVL, leucoaraiosisと痴呆との関連は？PET, SPECTは痴呆の診断に有効か？。痴呆Q&A（今井幸充編集），1997；pp94-99，医薬ジャーナル社。
- 8) 北村 伸：ALSのPET "KEY WORD 1988-99 神経変性疾患"（水野美邦，柳澤信夫，中野今治編集），1997；pp224-225，先端医学社。
- 9) 山崎峰雄：運動ニューロン疾患とアポトーシス。KEY WORD 1997-98 神経変性疾患,3. 運動ニューロン疾患，1997；pp206-207，先端医学社。
- 10) 飯野靖彦：一目でわかる輸液，1997；p98，メデカルサイエンス・インターナショナル。
- 11) 飯野靖彦：〔分担〕慢性腎炎。臨床看護辞典（第2版）（監修：高久史廣，大国真彦，森岡恭彦，坂元正一），1997；pp1934-1936，メデカルフレンド。
- 12) 飯野靖彦：〔分担〕腎移植。新臨床内科学7版（監修：高久史廣，尾形悦朗），1997；pp1124-1125，医学書院。
- 13) 飯野靖彦：〔分担〕尿路閉塞症。EBM現代内科学（監修：黒川 清，斉藤英彦，矢崎義雄），1997；pp1805-1807，金芳堂。
- 14) 片山泰朗：超急性期の治療，1998；pp11-24，第11回チクロピジン・シンポジウム。
- 15) 坂本静樹：〔分担〕IV.脳梗塞の成因：多発性脳梗塞。脳血管障害の成因（横内正利編），1998；pp191-195，現

代医療社。

- 16) 北村 伸, 酒寄 修, 越 泰彦: パーキンソン病とその類縁疾患. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ5, 1998; ワールドプランニング.
- 17) 酒寄 修, 坂本静樹, 北村 伸, 赫 彰郎: 脳梗塞後遺症の薬物療法指針 (平井俊策監修), 1998; pp44-63, ヴァン・メディカル.
- 18) 福生吉裕: [分担] レシチンでストレス対策, 1998; pp1-22, LAVIE 6.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 飯野靖彦: 非免疫学的機序による移植腎障害. 第31回日本腎移植臨床研究会, 1998. 1.

(2) シンポジウム:

- 1) Nagao T, Ueda M, Hamamoto M, Terashi A: Correlation between hypercoagulable state and the effect of antithrombotic drugs in acute ischemic stroke. The 31th Penner Blood Conference (Sofia, Bulgaria), 1997. 6.
- 2) Katayama Y: Current research in cerebral ischemia in Japan. The Third Meeting of the Neuropsychopharmacology Researchers Group, 1997. 11.
- 3) 北村 伸, 石渡明子, 増谷祐之, 津金澤俊和, 越 泰彦, 中沢 勝, 駒場祐一, 酒寄 修, 永積 惇, 赫 彰郎: 加齢による物忘れ患者と早期アルツハイマー病患者の鑑別に脳血流所見は有用か?. 第6回日本脳ドック学会総会, 1997. 5.
- 4) 長尾毅彦, 濱本 真, 上田雅之, 赫 彰郎: 脳梗塞急性期における血液凝固異常と治療効果の関連: アテローム血栓性梗塞とラクナ梗塞の治療効果について. 第1回脳梗塞フォーラム, 1997. 5.
- 5) 片山泰朗: 虚血性脳血管障害治療のStrategy -Therapeutic Windows- 1.超急性期の治療. 第11回チクロピジンシンポジウム, 1997. 7.
- 6) 大沢弘和, 中村 正, 飯野靖彦: 透析患者のレプチン濃度と血清脂質. 第42回日本透析医学会学術集会, 1997. 7.
- 7) 北村 伸, 酒寄 修, 津金澤俊和, 駒場祐一, 越 泰彦, 中沢 勝, 増谷祐之, 石渡明子, 赫 彰郎: 無症候性脳梗塞患者の脳血流量—123I-IMP SPECT ARG法を用いて—. 第13回ブレイン・ファンクション・イメージング・カンファレンス, 1997. 9.
- 8) 酒寄 修, 北村 伸: 脳室周囲異常信号域の臨床的意義. 第32回日本成人病学会総会, 1998. 1.
- 9) 片山泰朗, 神谷達司, 五十嵐博中, 目々澤肇, 赫 彰郎: 脳梗塞治療薬の臨床での問題点. 第71回日本薬理学会年会, 1998. 3.

(3) 一般講演:

- 1) Toyama H, Yamada T, Uemura K, Kimura Y, Ishii K, Ohyama M, Mishina M, Senda M: Quantitative mapping of benzodiazepine receptor concentration in a static PET study. First International Symposium on Functional Neuroreceptor Mapping of Living Brain (Aarhus), 1997. 5.
- 2) Sakayori O, Kitamura S, Kawabe M, Iino Y, Terashi A: Is brain circulation maintained sufficiently under hemodialysis (HD) treatment?. XIVth International Congress of Nephrology (Sydney), 1997. 5.
- 3) Mori T, Katayama Y, Kamiya T, Nagata K, Muramatsu H, Memezawa H, Minamisawa H, Terashi A: Histochemical detection of superoxide anion production after transient focal ischemia in rats. XVIII International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism, 1997. 6.
- 4) Kamiya T, Katayama Y, Muramatsu H, Terashi A: Ischemic tolerance phenomenon from an approach of protein synthesis in gerbils. XVIII International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism, 1997. 6.

- 5) Kamiya T, Katayama Y, Aoyama S, Muramatsu H, Abe H, Terashi A : Neuroprotective effects of immunosuppressant FK506 in focal cerebral ischemia in the rat - The effect of cerebral infarction, brain edema, immediate-early gene and the heat shock protein hsp 72. XVIII International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism, 1997. 6.
- 6) Ueda M, Kamiya T, Katayama Y, Mori T, Terashi A : Oligodendroglial DNA fragmentation following microglial activation contributes to white matter changes in chronic cerebral hypoperfused rats. XVIII International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism, 1997. 6.
- 7) Katayama Y, Kamiya T, Muramatsu H, Abe H, Terashi A : Immunosuppressant FK506 enhances immediate-early gene expression and prevents delayed neuronal death in the gerbil hippocampus. XVIII International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism, 1997. 6.
- 8) Igarashi H, Nakada T, Kwee IL, Katayama Y, Terashi A : ^1H MR spectroscopic imaging of permanent focal ischemia : Assignment of the unresolved peaks. XVIII International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism, 1997. 6.
- 9) Otori T, Katsumata T, Kashiwagi F, Katayama Y, Terashi A : Differences in vulnerability between cortex and white matter during chronic hypoperfusion in rat brain following bilateral carotid artery occlusion. XVIII International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism, 1997. 6.
- 10) Katsura K, Kurihara J, Hu B-R, Katayama Y, Terashi A, Siesjo BK, Wieloch T : Effects of different levels of acidosis on translocation of protein kinase C during complete ischemia. XVIII International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism, 1997. 6.
- 11) Minamisawa H, Katayama Y, Terashi A, Nakamura T, Kudo Y : Changes in calcium ion concentration and field potential recording in CA_1 during complete ischemia and reperfusion in rat and the histopathological outcome seven days after the ischemic insult. XVIII International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism, 1997. 6.
- 12) Koshi Y, Kitamura S, Komaba Y, Sakayori O, Mishina M, Tsuganesawa T, Terashi A : Central benzodiazepine receptor imaging in poststroke aphasia using ^{123}I iomazenil SPECT. J Cereb Blood Flow and Metab, 1997. 6.
- 13) Ishiwata A, Sakayori O, Kitamura S, Tsuganesawa T, Terashi A : Is brain circulation maintained sufficiently in chronic renal failure patients under hemodialysis treatment?. J Cereb Blood Flow and Metab, 1997. 6.
- 14) Tsuganesawa T, Kitamura S, Koshi Y, Komiyama T, Sakayori O, Komaba Y, Oyama M, Mishina M, Terashi A : Benzodiazepine receptor and cerebral blood flow in early Alzheimer's disease. J Cereb Blood Flow and Metab, 1997. 6.
- 15) Kitamura S, Koshi Y, Sakayori O, Komaba Y, Tsuganesawa T, Ishiwata A, Terashi A : Benzodiazepine receptor and cerebral blood flow in early Alzheimer's disease. VIIIth Congress of The International Psychogeriatric Association, 1997. 8.
- 16) Yamazaki M, Oyanagi K, Mori O, Ohyama M, Kitamura S, Terashi A : An autopsy case of variant Gerstmann-Strassler syndrome with codon 105 mutation of the prion protein gene, showing degeneration of the pallidum, thalamus and substantia nigra and widely distributed neurofibrillary tangles. The 13th International Congress of Neuropathology (Perth), 1997. 9.
- 17) Fukuo Y, Honda H, Nagashima M, Akaishi H, Terashi A : Purification of a factor inhibiting monocyte/macrophage differentiation from the thymus gland. XIth International Symposium on

- Atherosclerosis (Paris), 1997. 10.
- 18) Honda H, Fukuo Y, Akimaru K¹⁾, Katayama H¹⁾, Kameyama K²⁾, Nagashima M, Akaishi H, Terashi A (1) 永山病院検査室, 2) 第二病理): Role of thymus in experimental atherogenesis in cholesterol-fed rabbits: Immunocytochemical analysis of cellular components. XIth International Symposium on Atherosclerosis (Paris), 1997. 10.
 - 19) Nagashima M, Fukuo Y, Honda H, Fukunaga Y¹⁾, Emi M²⁾, Terashi A (1) 小児科, 2) 老人病研究所分子生物): Glucocorticoids inhibit the CD18 and L-selectin in human myeloid THP-1 cells during monocytic differentiation. XIth International Symposium on Atherosclerosis (Paris), 1997. 10.
 - 20) Kambara R¹⁾, Fukuo Y, Nagashima M, Kanekawa T¹⁾, Terashi A (1) 田尻ヶ丘病院): Dexamethasone modulates platelet-derived growth factor mRNA expression in human monocytic THP-1 cells. XIth International Symposium on Atherosclerosis (Paris), 1997. 10.
 - 21) Takagi S, Nakajima S, Fukuo Y, Terashi A: Effects of supplementary dietary methionine and tungsten on lipid metabolism in rabbits fed a low-cholesterol diet. XIth International Symposium on Atherosclerosis (Paris), 1997. 10.
 - 22) 片山泰朗, 坂本静樹, 有井孝子, 久金 誠, 臼田和弘, 南澤宏明, 赫 彰郎: 慢性期脳梗塞患者におけるアニラセタムのHDS-Rおよび局所脳血流に及ぼす効果の検討. 第94回日本内科学会総会, 1997. 4.
 - 23) 五十嵐博中, 津金澤俊和, 片山泰朗, 山室 学, 赫 彰郎, 中田 力: Magnetic Resonance Axonography (MRX) による脳神経繊維走行の画像化: 基礎的検討および錐体路変性の評価. 第94回日本内科学会総会, 1997. 4.
 - 24) 神谷達司, 青山純夫, 片山泰朗, 赫 彰郎: ラット局所脳虚血モデルにおける免疫抑制剤FK506の神経保護作用の検討—脳梗塞や脳浮腫に及ぼす効果—. 第38回日本神経学会総会, 1997. 5.
 - 25) 桂研一郎, 片山泰朗, 赫 彰郎, Siesjo BK, Wieloch T: Acidosisの脳虚血細胞障害に対する影響: Protein phosphorylationへの影響. 第38回日本神経学会総会, 1997. 5.
 - 26) 北村 伸, 石渡明子, 酒寄 修, 越 泰彦, 赫 彰郎: 加齢による物忘れ患者と早期アルツハイマー病者の脳血流量についての検討. 第38回日本神経学会総会, 1997. 5.
 - 27) 中田悠皓, 荒木俊彦, 北村 伸, 赫 彰郎: 脊髄小脳変性症のARG-SPECTによる運動失調と脳循環の検討. 第38回日本神経学会総会, 1997. 5.
 - 28) 三品雅洋, 大山雅史, 北村 伸, 赫 彰郎, 石井賢二, 石渡喜一, 外山比南子, 千田道雄: 慢性期脳梗塞患者における脳血流・酸素代謝・benzodiazepine受容体画像を用いた検討. 第38回日本神経学会総会, 1997. 5.
 - 29) 越 泰彦, 北村 伸, 小林克史, 駒場祐一, 三品雅洋, 赫 彰郎: 脳梗塞後失語症におけるベンゾジアゼピン受容体画像の検討—失語症状の予後との関連—. 第38回日本神経学会総会, 1997. 5.
 - 30) 津金澤俊和, 五十嵐博中, 北村 伸, 片山泰朗, 赫 彰郎: MRI拡散強調画像によるleuko-araiosisおよび梗塞部白質の病態に関する検討. 第38回日本神経学会総会, 1997. 5.
 - 31) 駒場祐一, 北村 伸, 赫 彰郎: プロスタグランジンE₂製剤の陳旧性脳血管障害患者の脳血流におよぼす効果. 第38回日本神経学会総会, 1997. 5.
 - 32) 大山雅史, 北村 伸, 三品雅洋, 赫 彰郎, 千田道雄, 石渡喜一, 外山比南子, 石井賢二: Alzheimer病におけるPET (11C-flumazenil) およびSPECT (123I-iomazenil) を用いたbenzodiazepine受容体画像の評価. 第38回日本神経学会総会, 1997. 5.
 - 33) 永山 寛, 濱本 真, 仁藤智香子, 高木信一, 宮崎徳蔵: 超高齢発症パーキンソン病患者の臨床徴候の特徴. 第38回日本神経学会総会, 1997. 5.
 - 34) 屈 秋民, 津金澤俊和, 酒寄 修, 北村 伸, 永積 惇, 赫 彰郎: 非特異的自覚症状を有する患者の脳血流

- 量について。第6回日本脳ドック学会総会，1997。5。
- 35) 岩田ともみ，石井 洋，小林克史，市堰 肇，於保倫之助，水野杏一，大秋義治，森 修，岡田 進，新井裕至，山崎峰雄，赫 彰郎：Gliomatosis cerebriの1例—MRIと病理との比較—。日本医科大学医学会第92回例会，1997。5。
- 36) 長尾毅彦，平林久吾，横地正之，田川由美，結城伸泰：Bickerstaff型脳幹脳炎の診断と急性期治療—早期の血液浄化療法の重要性を裏づけた1例。第11回日本神経救急研究会，1997。5。
- 37) 瀬田健博，勝又俊弥，中村秀紀，佐伯和則¹⁾，笠神康平¹⁾，金 應文¹⁾，大場崇芳¹⁾，山本 剛¹⁾，荒井 茂²⁾（¹⁾ 北村山公立病院内科，²⁾ 山形大学第一病理）：皮下腫瘍で発症したアミロイドーシスの1例。第151回日本内科学会東北地方会，1997。5。
- 38) 山崎峰雄，小柳清光，森 修，北村 伸，大山雅史，赫 彰郎：歩行障害・痴呆を主徴とし，前頭葉萎縮に加え，淡蒼球・視床および黒質変性と多数の神経原線維変化を認めたGerstmann-Straussler-Scheinker病亜型の1剖検例。第38回日本神経病理学会総会学術研究会，1997。5。
- 39) 飯野靖彦，大藪英一，橋本和政，松信精一，河辺満彦，葉山修陽，赫 彰郎：多発性嚢胞腎患者におけるアンギオテンシン変換酵素の遺伝子多型。第40回日本腎臓学会学術総会，1997。5。
- 40) 内海甲一¹⁾，伊藤孝司¹⁾，山本正雅²⁾，加瀬良一¹⁾，新本美智枝¹⁾，斎藤 博³⁾，葉山修陽，飯野靖彦，桜庭 均¹⁾（¹⁾ 東京都臨床医学総合研究所臨床遺伝学研究部，²⁾ 循環器研究部門，³⁾ 都立駒込病院腎臓内科）：ファブリー病における尿中ビトロネクチンレセプター（VNR，インテグリン $\alpha v \beta_3$ ）排泄の増加。第40回日本腎臓学会学術総会，1997。5。
- 41) 鶴岡秀一¹⁾，杉本孝一¹⁾，藤村昭夫¹⁾，飯野靖彦，赫 彰郎，Schwartz G²⁾（¹⁾ 自治医大臨床薬理学，²⁾ Univ. of Rochester）：代謝性アシドーシスは髄質外層集合管内帯（OMCDi）の炭酸脱水素酵素4型（CA4）を増加させる。第40回日本腎臓学会学術総会，1997。5。
- 42) 中島敦夫¹⁾，吉野慎一¹⁾，飯野靖彦，奥村 康²⁾（¹⁾ 日本医科大学リウマチ科，²⁾ 順天堂大学医学部免疫）：ループス腎炎発症におけるIL-12とIL-4の役割：Immune deviationによるTh1/Th2バランスの抑制。第40回日本腎臓学会学術総会，1997。5。
- 43) 鶴岡秀一¹⁾，杉本孝一¹⁾，藤村昭夫¹⁾，飯野靖彦，赫 彰郎（¹⁾ 自治医大臨床薬理学）：遺伝性高カルシウム尿症および結石発症ラット（GHSrat）における腎カルシウム再呼吸障害。第40回日本腎臓学会学術総会，1997。5。
- 44) 柏木哲也，河辺満彦，葉山修陽，飯野靖彦，赫 彰郎，中島敦夫¹⁾，吉野慎一¹⁾，竹内正至²⁾，栗原 怜²⁾，奥村 康³⁾（¹⁾ 日本医科大学リウマチ科，²⁾ 春日部秀和病院，³⁾ 順天堂大学免疫学教室）：血液透析ならびに腹膜透析患者における可溶性Fas抗原。第40回日本腎臓学会学術総会，1997。5。
- 45) 大藪英一¹⁾，栗原 怜¹⁾，米島秀夫¹⁾，橋本和政，葉山修陽，飯野靖彦（¹⁾ 春日部秀和病院腎内科）：血液透析患者におけるACE gene polymorphismと心室壁肥厚との関与。第40回日本腎臓学会学術総会，1997。5。
- 46) 北本 清¹⁾，鈴木洋通²⁾，飯野靖彦，猿田亨男²⁾，長澤俊彦¹⁾（¹⁾ 杏林大学第一内科，²⁾ 慶應義塾大学腎内分泌代謝科）：Nipradilolの蛋白尿減少効果についての臨床的検討。第40回日本腎臓学会学術総会，1997。5。
- 47) 勝又俊弥，村松浩美，大鳥達雄，片山泰朗，赫 彰郎，米森文彦¹⁾，山田英喜¹⁾（¹⁾ 日本たばこ産業）：新規TRHアナログJTP-2942の中大脳動脈閉塞再灌流モデルにおける脳血流およびグルコース利用率に対する作用。第15回日本神経治療学会，1997。6。
- 48) 勝又俊弥，村松浩美，大鳥達雄，片山泰朗，赫 彰郎，米森文彦¹⁾，山田英喜¹⁾（¹⁾ 日本たばこ産業）：新規TRHアナログJTP-2942の局所脳虚血後長期投与による改善作用。第15回日本神経治療学会，1997。6。
- 49) 永山 寛，濱本 真，仁藤智香子，高木信一，宮崎徳蔵，赫 彰郎：高齢パーキンソン病患者のL-DOPA体内動態の問題点。第15回日本神経治療学会，1997。6。
- 50) 雨宮志門，山崎峰雄，駒場祐一，北村 伸，赫 彰郎：後天性特発性全身性無汗症と考えられた1例。第141回

- 日本神経学会関東地方会, 1997. 6.
- 51) 平林久吾, 長尾毅彦, 横地正之, 鈴木恵美子, 三邊武幸: 脳血管炎を合併した慢性中耳炎由来の髄膜炎の1例. 第141回日本神経学会関東地方会, 1997. 6.
- 52) 本田治久, 福生吉裕, 秋山しのぶ, 赫 彰郎, 仲間一雅: 粥状硬化形成におけるVitamin D3の影響—in vitroと in vivoでの検討—. 第29回日本動脈硬化学会総会, 1997. 6.
- 53) 石渡明子, 酒寄 修, 北村 伸, 永積 惇, 赫 彰郎: 加齢に伴う記憶障害患者の脳血流量. 第12回日本老年精神医学会, 1997. 7.
- 54) 高田大輔, 神谷達司, 五十嵐博中, 上田雅之, 坂本静樹, 片山泰朗, 赫 彰郎: anisotropic diffusion weighted-MRIが診断に有用であった筋萎縮性側索硬化症の1例. 第456回日本内科学会関東地方会, 1997. 7.
- 55) 柏木哲也, 河辺満彦, 飯野靖彦, 赫 彰郎: 透析患者および腎移植患者における妊娠・分娩の問題点. 第42回日本透析医学会学術集会, 1997. 7.
- 56) 浅野 泰¹⁾, 飯野靖彦⁽¹⁾ 自治医科大学腎臓内科): 腎移植ネットワークの活動と透析医の関与. 第42回日本透析医学会学術集会, 1997. 7.
- 57) 竹内正至¹⁾, 栗原 怜¹⁾, 桜井祐成¹⁾, 大和田一博¹⁾, 小野田教高¹⁾, 米島秀夫¹⁾, 葉山修陽, 飯野靖彦, 赫 彰郎⁽¹⁾ 春日部秀和病院腎臓内科): CAPD患者の副甲状腺 (PTG) 機能についての検討. 第42回日本透析医学会学術集会, 1997. 7.
- 58) 河辺満彦, 白木優子, 青木 宏, 清水光義, 葉山修陽, 飯野靖彦, 赫 彰郎, 高橋知彦¹⁾, 高橋 厚¹⁾ ⁽¹⁾ 愛和病院): 各種透析膜における血清 β_2 -microglobulin値とその変動. 第42回日本透析医学会学術集会, 1997. 7.
- 59) 柏木哲也, 河辺満彦, 葉山修陽, 飯野靖彦, 赫 彰郎, 中島敦夫¹⁾, 吉野楨一¹⁾, 竹内正至²⁾, 栗原 怜²⁾, 奥村 康³⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学リウマチ科, ²⁾ 春日部秀和病院, ³⁾ 順天堂大学免疫学): 透析患者および腎移植患者における可溶性Fas抗原. 第42回日本透析医学会学術集会, 1997. 7.
- 60) 橋本和政, 飯野靖彦, 大藪英一, 小原功裕, 青木 宏, 清水光義, 河辺満彦, 栗原 怜, 赫 彰郎: アンジオテンシン変換酵素遺伝子多形性の末期腎疾患に対する影響. 第42回日本透析医学会学術集会, 1997. 7.
- 61) 清水光義, 飯野靖彦, 小原功裕, 青木 宏, 橋本和政, 河辺満彦, 赫 彰郎: 副甲状腺機能亢進症を有する透析患者のインスリン感受性. 第42回日本透析医学会学術集会, 1997. 7.
- 62) 名取国彦¹⁾, 王 恒維¹⁾, 森 貴博¹⁾, 新井弘一¹⁾, 漆山和夫¹⁾, 飯野靖彦, 赫 彰郎⁽¹⁾ 栃木県南総合病院): 腎不全患者における無症候性脳梗塞の検討. 第42回日本透析医学会学術集会, 1997. 7.
- 63) 松岡由美子¹⁾, 結城ゆり子¹⁾, 佐藤尚子¹⁾, 清水光義, 飯野靖彦⁽¹⁾ 岩本町腎クリニック): 日本語を理解出来ない外国人患者への援助. 第42回日本透析医学会学術集会, 1997. 7.
- 64) 松信精一, 大沢弘和, 中村 正, 飯野靖彦, 赫 彰郎: SLEを原疾患とする維持透析患者に合併した解離性大動脈瘤の1例. 第42回日本透析医学会学術集会, 1997. 7.
- 65) 中村 正, 大沢弘和, 松信精一, 飯野靖彦, 赫 彰郎: 活動性抑止に頻回の血漿交換療法を要したSLEの1例. 第42回日本透析医学会学術集会, 1997. 7.
- 66) 西山 稜, 片山泰朗, 赫 彰郎: 両側総頸動脈狭窄モデルにおける正常血圧及び高血圧ラットの脳梁白質病変の検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 67) 萩原 浩, 坂本静樹, 白田和弘, 片山泰朗, 赫 彰郎: 麻痺が軽度であったstriatocapsular infarctionの1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 68) 高田大輔, 神谷達司, 五十嵐博中, 上田雅之, 坂本静樹, 片山泰朗, 赫 彰郎: 3 dimensional anisotropy contrast magnetic resonance imaging (3DAC-MRI) が診断に有用であった筋萎縮性側索硬化症の1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 69) 渡辺めぐみ, 山室 学, 坂本静樹, 片山泰朗, 赫 彰郎: 血清HTLV-1抗体陽性瘧疾性対麻痺の1症例. 第65回日

本医科大学医学会総会, 1997. 9.

- 70) 藤田有子, 臼田和弘, 有井孝子, 三品雅洋, 大山雅史, 有井一正, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗, 赫 彰郎: 糖代謝・血流とドパミン分泌および受容体にmismatchを認めたcorticobasal degenerationの1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 71) 和田健太郎, 中沢 勝, 松信精一, 飯野靖彦, 片山泰朗, 赫 彰郎: 多発性嚢胞腎に合併した肝嚢胞に対し, 塩酸ミノサイクリン硬化療法を行った1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 72) 福生吉裕, 本田治久, 赤石治美, 永島幹夫, 赫 彰郎: 単球分化抑制する胸腺因子はカルボキシルエステラーゼと相同性が高い. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 73) 赤石治美, 中島信治, 福生吉裕, 赫 彰郎: 尿中Ca濃度の加齢による変化. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 74) 永島幹夫, 福生吉裕, 秋山しのぶ¹⁾, 福永慶隆¹⁾, 赫 彰郎 (¹⁾ 小児科): グルココルチコイドの単球/マクロファージ分化過程におけるインテグリン発現に及ぼす影響. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 75) 本田治久, 福生吉裕, 秋丸虎甫¹⁾, 亀山孝二²⁾, 片山博徳³⁾, 赫 彰郎 (¹⁾ 第二外科, ²⁾ 第二病理, ³⁾ 多摩永山病院病理部): 粥状硬化形成における胸腺の役割. ウサギ大動脈での免疫・生化学的検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 76) 渡辺めぐみ, 山室 学, 坂本静樹, 片山泰朗, 赫 彰郎: 血清HTLV-1抗体陽性対麻痺の1症例. 第142回日本神経学会関東地方会, 1997. 9.
- 77) 桂研一郎, 片山泰朗, 赫 彰郎, Siesjo BK: 高血糖の脳虚血後のエネルギー代謝及び細胞内pHに及ぼす影響. 第12回Brain Hypoxia研究会, 1997. 9.
- 78) 津金澤俊和, 五十嵐博中, 北村 伸, 片山泰朗, 赫 彰郎: Binswanger型白質脳症と広汎なLeuko-Araiosisを認める非痴呆例の差異について—MR拡散強調画像を用いた形態学的検討—. 第25回日本磁気共鳴医学会大会, 1997. 9.
- 79) 和田健太郎, 神谷達司, 中沢 勝, 松信精一, 飯野靖彦, 片山泰朗, 赫 彰郎: 合併した肝嚢胞に対し, 塩酸ミノサイクリン硬化療法が有用であった多発性嚢胞腎の1例. 第458回日本内科学会関東地方会, 1997. 10.
- 80) 上田雅之, 村松浩美, 神谷達司, 森 隆, 片山泰朗, 赫 彰郎: ラット慢性脳循環不全モデル白質病変に対する免疫抑制剤FK506の保護効果. 第9回日本脳循環代謝学会総会, 1997. 11.
- 81) 五十嵐博中, 村松浩美, 上田雅之, 津金澤俊和, 片山泰朗, 赫 彰郎: Diffusion weighted MRIによる慢性脳循環不全ラットの経時的観察—ADCおよびanisotropyの検討—. 第9回日本脳循環代謝学会総会, 1997. 11.
- 82) 酒寄 修, 石渡明子, 越 泰彦, 橋本和政, 北村 伸, 赫 彰郎: 慢性腎不全による血液維持透析患者の脳循環は適切に保たれているか?—SPECT ARG法による検討—. 第9回日本脳循環代謝学会総会, 1997. 11.
- 83) 石渡明子, 越 泰彦, 酒寄 修, 北村 伸, 永積 惇, 赫 彰郎: 早期アルツハイマー病と加齢に伴う記憶障害患者の脳血流量—SPECT ARG法による検討—. 第9回日本脳循環代謝学会総会, 1997. 11.
- 84) 大山雅史, 北村 伸, 三品雅洋, 赫 彰郎, 千田道雄, 石渡喜一, 外山比南子, 織田圭一, 佐々木徹, 石井賢二: Alzheimer病におけるPET (11C-flumazenil) およびSPECT (123I-iomazenil) を用いたbenzodiazepine受容体画像の評価続報. 第37回日本核医学会総会, 1997. 11.
- 85) 三品雅洋, 大山雅史, 北村 伸, 赫 彰郎, 石井賢二, 織田圭一, 前川 智, 石井信一, 佐々木徹, 伊藤岳人, 石渡喜一, 外山比南子, 千田道雄: 11C-flumazenil PETによるbenzodiazepine receptor定性画像を得るための至適スキャン時間の検討. 第37回日本核医学会総会, 1997. 11.
- 86) 越 泰彦, 石渡明子, 三品雅洋, 中沢 勝, 大山雅史, 駒場祐一, 北村 伸, 赫 彰郎: 123I-iomazenil SPECTによる脳梗塞後失語症患者のベンゾジアゼピン受容体分布についての検討. 第37回日本核医学会総会, 1997. 11.

- 87) 五十嵐博中, 片山泰朗, 赫 彰郎: Waller変性の3DAC MRI. 第2回臨床脳機能研究会, 1997. 11.
- 88) 辰巳 格, 田中正之, 千田道雄, 三品雅洋, 大山雅史, 外山比南子: カテゴリー (固有名詞, 生物, 無生物), 音韻にもとづく単語の生成と, 脳の活動部位. 第42回日本音声言語医学会総会, 1997. 11.
- 89) 山崎峰雄, 荒木俊彦, 森 修, 新井裕至, 赫 彰郎, 小柳清光: 家族歴を有し, 痴呆で発症したCorticobasal degenerationと考えられる1剖検例. 第58回日本臨床神経病理懇話会, 1997. 11.
- 90) 藤田有子, 白田和弘, 有井孝子, 三品雅洋, 大山雅史, 有井一正, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗, 赫 彰郎: 糖代謝・血流とドパミン分泌・受容体にmismatchを認めたcorticobasal degeneration (CBD) の1例. 第459回日本内科学会関東地方会, 1997. 11.
- 91) 渡辺めぐみ, 山室 学, 松信精一, 片山泰朗, 赫 彰郎: 妊娠初期に合併したギラン・バレー症候群の1例. 第143回日本神経学会関東地方会, 1997. 11.
- 92) 柏木哲也, 鎌野千佐子, 武井寛之, 大沢弘和, 中村 正, 松信精一, 飯野靖彦, 赫 彰郎, 小林利行¹⁾, 荒牧琢己¹⁾, 北村博司²⁾ (¹⁾ 日本医科大学第一内科, ²⁾ 日本医科大学第一病理): 心臓カテーテル検査により半月体形成性腎炎を呈したrenal cholesterol embolizationの1例. 第27回日本腎臓学会東部学術大会, 1997. 11.
- 93) 金子朋広¹⁾, 須賀 優¹⁾, 葉山修陽¹⁾, 北村博司²⁾, 飯野靖彦, 赫 彰郎 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院内科, ²⁾ 日本医科大学第一病理): 肝腎症候群を呈したマラリアの1症例. 第27回日本腎臓学会東部学術大会, 1997. 11.
- 94) 須賀 優¹⁾, 金子朋広¹⁾, 葉山修陽¹⁾, 北村博司²⁾, 飯野靖彦, 赫 彰郎 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院内科, ²⁾ 日本医科大学第一病理): 腎不全にて発見された間質を主病変とする1症例. 第27回日本腎臓学会東部学術大会, 1997. 11.
- 95) 武井寛之, 中村 正, 松信精一, 北村博司, 大沢弘和, 柏木哲也, 鎌野千佐子, 飯野靖彦, 赫 彰郎: 特発性血小板減少性紫斑病の加療中にネフローゼ症候群を呈したループス腎炎の1例. 第27回日本腎臓学会東部学術大会, 1997. 11.
- 96) 鎌野千佐子, 大沢弘和, 松信精一, 中村 正, 柏木哲也, 武井寛之, 飯野靖彦, 赫 彰郎: 糖尿病性腎症によるネフローゼ症候群の治療中に化膿性脊椎炎をきたした1例. 第27回日本腎臓学会東部学術大会, 1997. 11.
- 97) 山口 博, 五十嵐博中, 片山泰朗, 赫 彰郎, 井田正博¹⁾ (¹⁾ 都立荏原病院放射線科): 急性期脳梗塞例に対するdynamic contrast enhanced perfusion MRIの臨床応用. 日本医科大学医学会第94回例会, 1998. 2.
- 98) 北村純一¹⁾, 大矢亜野¹⁾, 栗栖宏二¹⁾, 竹内孝仁¹⁾, 赫 彰郎 (¹⁾ 第二病院リハビリテーションセンター): 長ループ反射による脳卒中片麻痺の手指の機能回復の検討. 日本医科大学医学会第94回例会, 1998. 2.
- 99) 松信精一, 飯野靖彦, 王 恒維, 鎌野千佐子, 武井寛之, 森 貴博, 青木 宏, 大沢弘和, 橋本和政, 清水光義, 大藪英一, 河辺満彦, 赫 彰郎, 柏木哲也¹⁾, 中村 正¹⁾ (¹⁾ 博慈会記念総合病院腎臓内科): 腎糸球体疾患に対する免疫抑制薬の効果—シクロスポリンAとデオキシスパーガリンに関して—. 日本医科大学医学会第94回例会, 1998. 2.
- 100) 萩原 浩, 神谷達司, 金子明弘, 白田和弘, 坂本静樹, 片山泰朗, 赫 彰郎: 寛解12年後にMLF症候群にて増悪した多発性硬化症の1例. 第462回日本内科学会関東地方会, 1998. 3.
- 101) 石井 洋, 三品雅洋, 坂本静樹, 片山泰朗, 赫 彰郎: 肺塞栓後の遅発性無酸素性脳症により舞踏病様不随意運動を呈した症例のPETによる検討. 第144回日本神経学会関東地方会, 1998. 3.
- 102) 野本達也, 長尾毅彦, 萩原万里子, 横地正之, 井田正博: MR拡散強調画像により多発脳塞栓を急性期に診断しえた1例. 第144回日本神経学会関東地方会, 1998. 3.
- 103) 岩崎容子, 三浦祐理子, 木村 陽, 伊東文行, 北村 伸: 神経ベーチェットの1例. 日本皮膚科学会第735回東京地方会, 1998. 3.

[付属病院リウマチ外科]

研究概要

リウマチ外科における研究課題は、関節リウマチ (RA) ・全身性変形性関節症 (JOA) のトータルマネージメントと、滑膜組織および滑膜培養細胞を用いた基礎的研究、膠原病を代表とした自己免疫疾患の発症機序の解明とその制御に関する検討を行っている。

より具体的に述べれば、臨床研究として1) 根治的多関節滑膜切除術 (RaMs) による関節リウマチの集学的治療法、2) より大きな可動域を達成した人工膝関節システムの開発、3) 慢性関節リウマチ患者さんの全人的ケアのため、精神・神経-免疫-内分泌システムの相関に関する研究を中心として行っている。

一方、基礎的研究としては、1) リウマチ滑膜組織における血管増殖因子の関与、2) 各種抗リウマチ剤の滑膜培養細胞に対する増殖抑制作用およびそのサイトカイン産生抑制作用、3) 全身性エリテマトーデス・関節リウマチの発症におけるリンパ球表面分子の役割とその制御、4) 自己免疫疾患発症の免疫学的解析、Th1/Th2誘導に関与する分子群の同定とその機能、5) JOA発症における免疫学的機序の解明、などを行っている。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著：

- 1) Hirohata S¹⁾, Yanagida T¹⁾, Hashimoto H²⁾, Tomita T²⁾, Ochi T²⁾, Nakamura H, Yoshino S (¹⁾ Department of internal medicine, Teikyo , ²⁾ Department of Orthopedic surgery, Osaka) : Differential influences of gold sodium thiomalate and bucillamine on the generation of CD14+ monocyte-lineage cells from bone marrow of rheumatoid arthritis patients. Clin Immunol Immunophthol 1997 ; 84 (1) : 290-295.
- 2) Yoshino S, Nakamura H, Shiga H, Ishiuchi N : Recovery of full flexion after total knee replacement in rheumatoid arthritis-a follow-up study. Int Orthop 1997 ; 21 (2) : 98-100.
- 3) Kajino A, Yoshino S, Kameyama S, Kohda M, Nagashima M : Comparison of the results of bilateral total knee arthroplasty with and without pateller replacement for rheumatoid arthritis. JBJS 1997 ; 79 (4) : 570-574.

(1) 原著：

- 1) Nakajima A, Watanabe N¹⁾, Yoshino S, Yagita H²⁾, Okumura K²⁾, Azuma M³⁾ (¹⁾ 慈恵医大熱帯医学, ²⁾ 順天堂大医免疫, ³⁾ 国立小児医療研究センター免疫) : Requirement of CD28-CD86 co-stimulation in the interaction between antigen-primed T helper type 2 and B cells. Int Immunol 1997 ; 9 (5) : 637-644.
- 2) Kawahara T¹⁾, Kasai S¹⁾, Yagita H²⁾, Kato K¹⁾, Sawa M¹⁾, Iwai M¹⁾, Azuma M³⁾, Nakajima A, Okumura K²⁾, Futagawa S⁴⁾, Mito M¹⁾ (¹⁾ 旭川医大外科, ²⁾ 順天堂医免疫, ³⁾ 国立小児医療研究センター免疫, ⁴⁾ 順天堂医外科) : Involvement of Fas and Fas ligand interaction in allogeneic hepatocyte rejection in spleen. Transplantation Proc 1997 ; 29 (5) : 2187-2189.
- 3) Takei M¹⁾, Mitamura K¹⁾, Fujiwara S¹⁾, Horie T¹⁾, Ryu J¹⁾, Osaka S¹⁾, Yoshino S, Sawada S¹⁾ (¹⁾ 日本大学医一内) : Detection of Epstein-Barr virus-encoded small RNA1 and latent membrane protein 1 in synovial lining cells from rheumatoid arthritis patients. Int Immunol 1997 ; 9 (5) : 739-743.
- 4) Nakajima M¹⁾, Nakajima A, Kayagaki N²⁾, Honda M¹⁾, Yagita H²⁾, Okumura K²⁾ (¹⁾ 日本医大皮膚科, ²⁾ 順天堂大医免疫) : Expression of Fas ligand and its receptor in cutaneous lupus. Clin Immunol

- Immunopathol 1997 ; 83 (1) : 223-229.
- 5) Kawahara T¹⁾, Kasai S¹⁾, Yagita H²⁾, Sawa M¹⁾, Kato K¹⁾, Miyuki A³⁾, Nakajima A, Okumura K²⁾, Futagawa S⁴⁾, Mito M¹⁾ (¹⁾ 旭川医大外科, ²⁾ 順天堂大医免疫, ³⁾ 国立小児医療研究センター免疫, ⁴⁾ 順天堂大医外科) : Critical role of Fas/Fas ligand interaction in CD28-independent pathway of allogenic hepatocyte rejection. Hepatology 1997 ; 26 (4) : 944.
 - 6) Nakamura H, Yoshino S, Nakajima A, Miyamoto Y, Matsushita T¹⁾, Yamada N²⁾ (¹⁾ 日本医大内視鏡科, ²⁾ 日本医大病理) : Gastroduodenal lesion and Helicobacter pylori infection in patients with rheumatoid arthritis. Arthritis Rheum 1997 ; 40 : 93-93.
 - 7) Nakajima A, Morimoto S¹⁾, Yoshino S, Yagita H²⁾, Okumura K²⁾ (¹⁾ 順天堂大医膠原病内科, ²⁾ 順天堂大医免疫) : Inappropriate expression of CD40 ligand can elicit anti-self immune response. Arthritis Rheum 1997 ; 40 : 307-307.
 - 8) Morimoto S¹⁾, Kobata T²⁾, Nakajima A, Tokano Y¹⁾, Yagita H²⁾, Takasaki Y¹⁾, Okumura K²⁾, Hashimoto H¹⁾ (¹⁾ 順天堂大医膠原病内科, ²⁾ 順天堂大医免疫) : Hyerexpression of CD27 and CD70 in patients with systemic lupus erythematosus and its role in pathogenic autoantibody production. Arthritis Rheum 1997 ; 40 : 307-307.
 - 9) Nakajima M¹⁾, Nakajima A, Morimoto S²⁾, Yoshino S, Kobata T³⁾, Yagita H³⁾, Okumura K³⁾ (¹⁾ 国立小児病院皮膚科, ²⁾ 順天堂大医膠原病内科, ³⁾ 順天堂大医免疫) : Role of CD70/CD27 costimulatory pathway in the development of Th1-mediated autoimmunity. Arthritis Rheum 1997 ; 40 : 225-225.
 - 10) Nakamura H, Yoshino S, Shiga H, Tanaka H, Katsumata S : A case of spontaneous femoral neck fracture associated with multicentric reticulohistiocytosis : observation if interlwukin 1 β , interleukin-6, and tumor necrosis factor α by affected synovial cells. Arthritis Rheum 1997 ; 40 : 2266-2270.
 - 11) Shiga H, Yoshino S, Nakamura H, Nagashima M : Long-term results of Yoshino total knee arthroplasties in rheumatoid arthritis. Arch Orthop Trauma Surg 1998 ; 117 (1) : 15-17.
 - 12) 藤森十郎, 吉野禎一, 梶野明英 : 特集 : 人工膝関節置換術マニュアル 人工膝関節において膝蓋骨を置換すべきか. MB Orthop 1997 ; 10 (5) : 31-38.
 - 13) 川村龍吉¹⁾, 中島敦夫, 東みゆき²⁾ (¹⁾ 順天堂大医免疫, ²⁾ 国立小児医療研究センター免疫) : CD28 とCD80, CD86. アレルギー科 1997 ; 3 (6) : 406-412.
 - 14) 郡司直哉, 吉野禎一, 藤森十郎, 志賀弘朗, 向井英一, 永島正一 : 人工膝関節置換術後, 両側大腿骨頸部疲労骨折を生じた1例. リウマチ科 1997 ; 17 (6) : 627-631.
 - 15) 田中秀和, 吉野禎一, 藤森十郎, 志賀弘朗, 長島正一, 郡司直哉 : 関節リウマチ患者における bipolar 型人工股関節形成術の長期成績について. リウマチ科 1997 ; 17 (6) : 632.
 - 16) 中島敦夫, 東みゆき¹⁾ (¹⁾ 国立小児医療研究センター) : T細胞の分化・機能におけるcostimulatory分子の役割と自己免疫. 日本臨牀 1997 ; 55 (9) : 1419-1424.
 - 17) 金子博行¹⁾, 中島敦夫, 東みゆき²⁾ (¹⁾ 順天堂大医膠原病内科, ²⁾ 国立小児医療研究センター免疫) : 自己免疫疾患におけるcostimulatoryシグナルの制御. 日本臨牀 1997 ; 55 (9) : 1531-1536.
 - 18) 中村 洋, 吉野禎一, 西村泰治¹⁾ (¹⁾ 熊本大学院医免疫識別) : 根治的多関節滑膜切除術の術後成績と予後予測因子としてのHLA-DRB1*0405. リウマチ科 1997 ; 18 (9) : 253-257.
 - 19) 榎本達治¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 村田 朗¹⁾, 谷口泰之¹⁾, 中広一善¹⁾, 高橋卓夫¹⁾, 橋本恭士¹⁾, 金子泰之, 安部信二, 工藤翔二¹⁾, 判治直人, 吉野禎一 (¹⁾ 日本医大第4内科) : 慢性関節リウマチ患者における肺病変の解析. アレルギー 1997 ; 46 (11) : 1156-1162.
 - 20) 永島正一, 吉野禎一, 中村 洋, 黄田道信¹⁾ (¹⁾ 都立墨東病院 整形外科) : 関節リウマチ滑膜培養細胞に対す

るDMARDsの薬理効果—各種サイトカインに対する抑制効果. 臨床薬理 1998;29 (1):161-162.

- 21) 中村 洋, 吉野槇一: MTX無効RA症例に対する根治的多関節滑膜切除術の成績. 関節の外科 1998;25 (1):1-4.
- 22) 中村 洋: 集学的治療の概念. 炎症と免疫 1998; (2):173-178.
- 23) 中村 洋, 吉野槇一, 永島正一, 岡田匡司, 小岩政仁: 根治的多関節滑膜切除術3年以上経過例の手術成績. 関節外科 1998;17 (3):329-332.

(2) 綜説:

- 1) 吉野槇一: 関節リウマチの外科的滑膜切除術. リウマチ 1998;38 (1):45-51.

著 書

- 1) 吉野槇一: [分担] 関節症状. 新臨床内科学 第7版 (高久史磨, 尾形悦郎編), 1997; pp110-113, 医学書院.
- 2) 中島敦夫, 八木田秀雄¹⁾ (¹⁾ 順天堂大医免疫): [分担] CD80. CD86. ノックアウトマウスデータブック (黒川清・笹月健彦監修), 1997; pp95-96, 中山書店.

学会発表

[1996年度追加分]

パネルディスカッション:

- 1) 吉野槇一, 田中秀和, 立原章年, 河原 徹, 岡田匡司: Hy-Flex II Total Knee and Ligament Balancing System—デザイン, 手術手技, 短期術後成績について. 第28回日本人工関節学会 (金沢), 1997. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 吉野槇一: RAのTKAについて. 第16回城南整形外科フォーラム (東京), 1997. 4.
- 2) 吉野槇一: T細胞KRの問題点. 第4回膝関節セミナー (熊本), 1997. 7.
- 3) 吉野槇一: リウマチ性疾患の診断. 平成9年度 (第23回) 財団法人日本リウマチ財団中央教育研修会 (大阪), 1997. 7.
- 4) 吉野槇一: RAのtotal management. 第7回神戸臨床リウマチ懇話会 (神戸), 1997. 9.
- 5) 吉野槇一: RAのtotal management. 第4回岩手リウマチ・自己免疫セミナー (盛岡), 1997. 10.
- 6) 吉野槇一: RAの神経・内分泌・免疫系について. 平成9年度財団法人日本リウマチ財団広島地区リウマチ教育研修会 (広島), 1997. 10.
- 7) 吉野槇一: RAの治療戦略. 平成9年度財団法人日本リウマチ財団宮崎地区リウマチ教育研修会 (宮崎), 1997. 11.
- 8) 吉野槇一: RAの外科治療. 第3回リウマチフォーラム (葉山), 1998. 1.
- 9) 吉野槇一: RAのtotal management. 第81回大阪臨床整形外科研究会 (大阪), 1998. 1.
- 10) 吉野槇一: 正座可能な total knee を求めて. 第29回岡山リウマチ研究会 (岡山), 1998. 3.

(2) 教育講演:

- 1) 中村 洋: 早期RA滑膜の病理所見の特徴. 日本リウマチ学会教育研修会, ミニ・国際シンポジウム (東京), 1997. 11.
- 2) 中村 洋: リウマチとは. 厚生省助成事業 関東地区リウマチのリハビリテーションケアの会 (東京), 1998. 2.
- 3) 中島敦夫: 関節リウマチとその周辺疾患. 厚生省助成事業 関東地区リウマチのリハビリテーションケアの会 (東京), 1998. 2.
- 4) 吉野槇一: 関節リウマチの神経, 内分泌, 免疫系. 厚生省助成事業 関東地区リウマチのリハビリテーション

ケアの会（東京），1998. 2.

- 5) 田中秀和：関節リウマチの薬物治療。厚生省助成事業 関東地区リウマチのリハビリテーションケアの会（東京），1998. 2.
 - 6) 鈴木伸之：関節リウマチの外科治療。厚生省助成事業 関東地区リウマチのリハビリテーションケアの会（東京），1998. 2.
 - 7) 志賀弘朗：関節リウマチ患者のQOL。厚生省助成事業 関東地区リウマチのリハビリテーション（ケア）研修会（東京），1998. 2.
- (3) シンポジウム：
- 1) 中島敦夫，吉野慎一，広瀬幸子¹⁾，白井俊一¹⁾，八木田秀雄²⁾，奥村 康²⁾（¹⁾ 順天堂大医病理，²⁾ 順天堂大医免疫）：自己免疫疾患発症とTh1/Th2。第41回日本リウマチ学会総会（名古屋），1997. 5.
 - 2) 広畑俊成¹⁾，柳田たみ子¹⁾，中村 洋，吉野慎一，富田哲也²⁾，越智隆弘²⁾（¹⁾ 帝京大学医学部第二内科，²⁾ 大阪大学医学部整形外科）：RAにおける骨髄の異常。第41回日本リウマチ学会総会（名古屋），1997. 5.
 - 3) 中村 洋，吉野慎一，東 威¹⁾，橋本博史²⁾，粕川禮司³⁾（¹⁾ 聖マリアンナ医科大学，²⁾ 順天堂大学膠原病内科，³⁾ 福島県立医大第2内科）：MTX無効症例に対する根治的多関節滑膜切除術。第26回リウマチの外科研究会（仙台），1997. 9.
 - 4) 中村 洋，吉野慎一，東 威¹⁾，橋本博史²⁾，粕川禮司³⁾（¹⁾ 聖マリアンナ医科大学，²⁾ 順天堂大学膠原病内科，³⁾ 福島県立医大第2内科）：顆粒球体外吸着療法（G-1）の原理と効果。第12回日本臨床リウマチ学会（福岡），1997. 12.
 - 5) 志賀弘朗，吉野慎一，平井 博，立原章年，河原 徹，岡田匡司：歩行不能RAに対する人工関節置換術の長期成績。第12回日本臨床リウマチ学会（福岡），1997. 12.
- (4) ワークショップ：
- 1) 西尾純子¹⁾，上坂 等²⁾，小池竜司¹⁾，水島 昇¹⁾，野坂ゆかり¹⁾，中村 洋，吉野慎一，宮坂伸之³⁾（¹⁾ 東京医科歯科大学第1内科，²⁾ 同難治疾患研究所）：慢性関節リウマチ滑膜細胞におけるIL-15レセプター発現の検討。第41回日本リウマチ学会総会（名古屋），1997. 4.
 - 2) 柏木伸仁¹⁾，中村 洋，益山純一²⁾，阿岸鉄三³⁾，吉野慎一，粕川禮司（¹⁾ 日本抗体研究所，²⁾ 自治医科大学アレルギー膠原病内科，³⁾ 東京女子医大腎センター，⁵⁾ 福島県立医大第2内科）：顆粒球体外吸着療法（G-1）の検討（1）治療経過に伴う単球TNF α 産生能の低下。第41回日本リウマチ学会総会（名古屋），1997. 4.
 - 3) 勝又信一，吉野慎一，中村 洋，志賀弘朗，向井英一，角本土幸：関節リウマチに対する手関節滑膜切除術にSauve Kapandji 法を併用した症例の短期成績。第41回日本リウマチ学会総会（名古屋），1997. 5.
 - 4) 石内直樹，吉野慎一，中村 洋，志賀弘朗，永島正一，横山宗伯¹⁾，浅野伍朗¹⁾（¹⁾ 第2病理）：関節リウマチ滑膜におけるNOS発現について。第41回日本リウマチ学会総会（名古屋），1997. 5.
 - 5) 志賀弘朗，吉野慎一，鈴木伸之，石内直樹，西島 徹，宮本洋介：関節リウマチに対する多関節置換術の長期成績。第41回日本リウマチ学会総会（名古屋），1997. 5.
 - 6) 中村 洋，吉野慎一，東 威¹⁾，橋本博史²⁾，粕川禮司³⁾（¹⁾ 聖マリアンナ医科大学，²⁾ 順天堂大学膠原病内科，³⁾ 福島県立医大第2内科）：顆粒球体外吸着療法（G-1）の検討（2）・RA患者164症例の臨床成績と免疫調節効果。第41回日本リウマチ学会総会（名古屋），1997. 5.
 - 7) 中島敦夫，吉野慎一，東みゆき¹⁾，奥村 康²⁾，渡辺直熙³⁾（¹⁾ 国立小児医療研究センター，²⁾ 順天堂大学医学部免疫，³⁾ 慈恵会医科大学熱帯医学）：Th2細胞-B細胞間相互作用による抗原特異的 IgE 産生におけるCD80/CD86-CD28 costimulation の役割。第25回日本臨床免疫学会総会（東京），1997. 9.
 - 8) 中村 洋，吉野慎一，永島正一，鈴木伸之，郡司直哉：根治的多関節滑膜切除術後3年以上経過したRA症例の術後成績と関節破壊の進行。第25回日本リウマチ関節外科学会，1997. 10.

(5) 一般講演：

- 1) Nagashima M, Yoshino S, Nakamura H, Yoshioka T : Effects of DMARDs on the angiogenic factors in cultured cells. XIXTH ILAR Congress of Rheumatology (Singapore), 1997. 6.
- 2) Shiga H, Yoshino S : Long Term Outcome of Total Joints Arthroplasties of Nonambulatory Rheumatoid Arthritis. XIX ILAR congress of rheumatology (Singapore), 1997. 6.
- 3) Tanaka H, Yoshino S, Nagasha M, Shiga H, Yokoyama M¹⁾, Asano G¹⁾ (¹⁾ 病理第2) : The Expression of B-Endorphin in Synovium of Rheumatoid Arthritis - In Situ Hybridization and Immunohistochemical Study. XIX ILAR congress of rheumatology (Singapore), 1997. 6.
- 4) Nakajima M¹⁾, Nakajima A, Morimoto S²⁾, Yoshino S, Kobata T³⁾, Yagita H³⁾, Okumura K³⁾ (¹⁾ 国立小児病院皮膚科, ²⁾ 順天堂大医膠原病内科, ³⁾ 順天堂大医免疫) : Role of CD70/CD27 costimulatory pathway in the development of Th1-mediated autoimmunity. 1 st National Meeting, American College of Rheumatology, Washington D. C., 1997. 11.
- 5) Nakajima A, Morimoto S¹⁾, Yoshino S, Yagita H²⁾, Okumura K²⁾ (¹⁾ 順天堂大医膠原病内科, ²⁾ 順天堂大医免疫) : Inappropriate expression of CD40 ligand can elicit anti-self immune response. 61st National Meeting, American College of Rheumatology, Washington D. C., 1997. 11.
- 6) Morimoto S¹⁾, Kobata T²⁾, Nakajima A, Tokano Y¹⁾, Yagita H²⁾, Takasaki Y¹⁾, Okumura K²⁾, Hashimoto H¹⁾ (¹⁾ 順天堂大医膠原病内科, ²⁾ 順天堂大医免疫) : Hyperexpression of CD27 and CD70 in patients with systemic lupus erythematosus and its role in pathogenic autoantibody production. 61st National Meeting, American College of Rheumatology, Washington D. C., 1997. 11.
- 7) Nakamura H, Yoshino S, Nakajima A, Miyamoto Y, Matsushita T, Yamada N : Gastrointestinal lesion and Helicobacter Pylori infection in patients with rheumatoid arthritis. 61th American College of Rheumatology National Scientific Meeting, (Washington D.C.), 1997. 11.
- 8) 中島敦夫, 吉野慎一, 飯野靖彦¹⁾, 奥村 康²⁾ (¹⁾ 第二内科, ²⁾ 順天堂大医免疫) : ループス腎炎発症におけるIL-12とIL-4の役割 : Immune deviationによるTh1/Th2バランスの制御. 第40回日本腎臓病学会総会 (新潟), 1997. 5.
- 9) 柏木哲也¹⁾, 河辺満彦¹⁾, 葉山修陽¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 赫 彰郎¹⁾, 中島敦夫, 吉野慎一, 竹内正至²⁾, 栗原 怜²⁾, 奥村 康³⁾ (¹⁾ 日本医大第二内科, ²⁾ 春日部秀和病院内科, ³⁾ 順天堂大医免疫) : 血液透析ならびに腹膜透析患者における可溶性Fas抗原. 第40回日本腎臓病学会総会 (新潟), 1997. 5.
- 10) 永島正一, 吉野慎一, 中村 洋, 青野浩之¹⁾, 高井美和¹⁾, 能勢真文¹⁾, 笹野 稔¹⁾ (¹⁾ 参天製薬開発研究本部薬理研究グループ) : 関節リウマチ滑膜培養細胞の血管増殖因子に対するDMARDs抑制効果. 第41回日本リウマチ学会総会 (名古屋), 1997. 5.
- 11) 西島 徹, 吉野慎一, 中村 洋, 志賀弘朗, 永島正一, 角本土幸, 宮本洋介 : 関節リウマチの人工関節置換術における術後回収式自己血輸血の有用性. 第41回日本リウマチ学会総会 (名古屋), 1997. 5.
- 12) 立原章年¹⁾, 竹田裕之¹⁾, 平野大地¹⁾, 角本土幸¹⁾, 川村晴也¹⁾, 志賀弘朗 (¹⁾ 白十字総合病院整形外科) : 外傷性股関節前方脱臼の2症例. 茨城整形外科集談会 (茨城), 1997. 5.
- 13) 竹田裕之¹⁾, 川村晴也¹⁾, 平野大地¹⁾, 立原章年¹⁾, 角本土幸¹⁾, 志賀弘朗 (¹⁾ 白十字総合病院整形外科) : TKR手術の際に止血帯が無効であった慢性関節リウマチの1例. 茨城整形外科集談会 (茨城), 1997. 5.
- 14) 中村 洋, 吉野慎一, 松野博明¹⁾, 小泉富美朝²⁾ (¹⁾ 富山医科薬科大学整形外科, ²⁾ 同病理) : 超早期RA滑膜の組織学的検討. 第41回日本リウマチ学会総会 (名古屋), 1997. 5.
- 15) 関根太一¹⁾, 加藤智啓¹⁾, 増子佳代¹⁾, 小端哲二¹⁾, 笹川広子¹⁾, 中村 洋, 吉野慎一, 西岡久寿樹¹⁾, 山本一彦²⁾ (¹⁾ 聖マリアンナ医大難治研臨床遺伝, ²⁾ 九大生医研臨床免疫) : 慢性関節リウマチ患者関節内におけるII型コ

- ラーゲンに特異的なT細胞の集積. 第41回日本リウマチ学会総会 (名古屋), 1997. 5.
- 16) 郡司直哉, 吉野慎一, 藤森十郎, 中村 洋, 志賀弘朗, 角本土幸: 早期RAにおける寛解群と非寛解群の骨破壊進行度の検討. 第41回日本リウマチ学会総会 (名古屋), 1997. 5.
 - 17) 田中秀和, 吉野慎一, 藤森十郎, 中村 洋, 志賀弘朗, 向井英一, 鈴木伸之: 急激に進行し大腿骨に病的骨折をきたした多中心性細網組織球症の1例. 第41回日本リウマチ学会総会 (名古屋), 1997. 5.
 - 18) 立原章年¹⁾, 竹田裕之¹⁾, 平野大地¹⁾, 角本土幸, 志賀弘朗 (¹⁾ 白十字総合病院): 外傷性前方股関節脱臼の3症例. 第84回茨城県整形外科集団会, 1997. 5.
 - 19) 志賀弘朗, 吉野慎一, 郡司直哉, 石内直樹, 角本土幸, 宮本洋介: 術後5年以上経過した人工膝関節再置換術とその臨床成績. 第70回日本整形外科学会 (札幌), 1997. 6.
 - 20) 中島敦夫, 東みゆき¹⁾, 大島秀男²⁾, 八木田秀雄³⁾, 奥村 康³⁾ (¹⁾ 国立小児医療研究センター免疫, ²⁾ 東大外科, ³⁾ 順天堂大医免疫): CD40L遺伝子導入による抗腫瘍効果. 第56回日本癌学会総会 (京都), 1997. 9.
 - 21) 森本真司¹⁾, 中島敦夫, 大島秀男²⁾, 野原千洋子³⁾, 小端哲二⁴⁾, 八木田秀雄⁴⁾, 奥村 康⁴⁾ (¹⁾ 順天堂大医膠原病内科, ²⁾ 東大外科, ³⁾ 順天堂大医神経内科, ⁴⁾ 順天堂大医免疫): EAE発症における抗CD70抗体投与の効果. 第27回日本免疫学会総会 (北海道), 1997. 10.
 - 22) 中島敦夫, 東みゆき¹⁾, 大島秀男²⁾, 八木田秀雄³⁾, 奥村 康³⁾ (¹⁾ 国立小児医療研究センター免疫, ²⁾ 東大外科, ³⁾ 順天堂大医免疫): CD40Lによる抗腫瘍免疫の誘導. 第27回日本免疫学会総会 (北海道), 1997. 10.
 - 23) 山本宗弘¹⁾, 川村晴也¹⁾, 竹田裕之¹⁾, 平野大地¹⁾, 勝又信一¹⁾, 田中秀和 (¹⁾ 白十字総合病院整形外科): フィン付髓内釘による足関節固定術の経験. 第84回茨城整形外科集談会 (茨城), 1997. 10.
 - 24) 中村 洋, 吉野慎一, 東 威¹⁾, 橋本博史²⁾, 粕川禮司³⁾ (¹⁾ 聖マリアンナ医科大学, ²⁾ 順天堂大学膠原病内科, ³⁾ 福島県立医大第2内科): 顆粒球体外吸着療法 (G-1) の検討. 第18回日本炎症学会 (東京), 1997. 11.
 - 25) 永島正一, 吉野慎一, 中村 洋, 黄田道信¹⁾ (¹⁾ 都立墨東病院リウマチ科): 関節リウマチ滑膜培養細胞に対するDMARDsの薬理効果—各種サイトカインに対する抑制効果. 第18回日本臨床薬理学会総会 (東京), 1997. 12.
 - 26) 田中秀和, 吉野慎一, 永島正一, 中島敦夫, 横山宗範, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 第2病理): 関節リウマチ (RA) 滑膜組織におけるオピオイドペプチドの産生と局在について. 第8回日本リウマチ学会関東地方会 (東京), 1997. 12.
 - 27) 中島敦夫, 大島秀男²⁾, 八木田秀雄¹⁾, 吉野慎一, 奥村 康¹⁾ (¹⁾ 順天堂大学免疫, ²⁾ 東京大学第1外科): Th1介在性自己免疫疾患におけるCD70-CD27 costimulation の役割. 第8回日本リウマチ学会関東地方会 (東京), 1997. 12.
 - 28) 永島正一, 吉野慎一, 中村 洋, 黄田道信: 関節リウマチ滑膜培養細胞に対するDMARDsの薬理効果—各種サイトカインに対する抑制効果—. 第18回日本臨床薬理学会 (東京), 1997. 12.

3. 内科学第三講座

[付属病院第3内科]

研究概要

内分泌学領域の基礎的研究では (1) 甲状腺腫瘍におけるFGF受容体の発現, (2) 肥満遺伝子受容体の分布について, (3) 成長ホルモン, IGF-IIによる成長ホルモン分泌促進因子受容体の修飾作用, (4) 成長ホルモンのフィードバック機構について, (5) 成長ホルモン分泌促進ペプチド (GHRP) の作用機序, GHRPの摂食促進作用, GHRP受容体の同定に関する検討を行った。臨床面では両側副腎病変によるクッシング症候群の解析を行い報告した。

血液学領域の基礎的研究では (1) 血小板産生機構に関する検討, (2) 骨髄異形成症候群の細胞生物学的解析, (3) 造血器腫瘍の分子生物学的解析, (4) 臍帯血幹細胞の細胞生物学的解析, (5) 免疫能と加齢に関する研究, などを重点的に行い, 臨床的研究では, (6) 急性白血病の治療法に関する検討, (7) 造血幹細胞移植療法の治療成績に関する検討などを行い, また多施設共同研究に参加した。

消化器病学は (1) 逆流性食道炎, 食道運動機能異常に対する病態生理学的検討, (2) 上部消化管疾患に対するHelicobacter pylori感染の意義, (3) 慢性炎症性腸疾患の病態生理に関する検討, (4) 大腸腺腫, 癌の病態に関する検討, (5) 大腸癌の診断法に関する研究, (6) 門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術およびその全身に及ぼす影響に関する検討, (7) 慢性活動性C型肝炎の治療と免疫能, など臨床的課題を中心に昨年度に引き続き研究を進め, (8) 消化管粘膜の分子機構に関する研究, COX-2の消化管癌に対する役割, など基礎的研究も実施されつつある。

研究業績

論 文

(1) 原著:

- 1) Tamura H, Ogata K, Dan K, Nomura T: Rationale and hematologic target points in response-oriented individualized induction chemotherapy for acute myeloid leukemia. *Int J Hematol* 1997; 66: 325-334.
- 2) Kishida T, Taguchi F, Li F, Tatsuguchi A, Sato J, Fujimori S, Tachikawa H, Tamagawa Y, Yoshida Y, Kobayashi M: Analysis of bile acids in colon residual liquid or fecal material in patients with colorectal neoplasia and control subjects. *J Gastroenterol* 1997; 32: 306-311.
- 3) Hildesheim A, Schiffman MH, Tsukui T, Swanson CA, Lucci J 3rd, Scott DR, Glass AG, Rush BB, Lorincz AT, Corrigan A, Burk RD, Helgessen K, Houghten RA, Sherman ME, Kurman RJ, Berzofsky JA, Kramer TR: Immune activation in cervical neoplasia: cross-sectional between plasma soluble interleukin 2 receptor levels and disease. *Cancer Epidemiology, Biomarkers & Prevention* 1997; 6 (10): 807-813.
- 4) Ogata K, Yokose N, Tamura H, An E, Nakamura K, Dan K, Nomura T: Natural killer cells in the late decades of human life. *Clin Immunol Immunopathol* 1997; 84: 269-275.
- 5) Yokose N, Ogata K: Plasma soluble interleukin-2 receptors in patients with myelodysplastic syndromes. *Leukemia and Lymphoma* 1997; 28: 171-176.
- 6) Gomi S, Hasegawa S, Dan K, Wakabayashi I: A comparative analysis of the transplant potential of umbilical cord blood versus mobilized peripheral blood stem cells. *J Nippon Med Sch* 1997; 64: 307-313.
- 7) Yamaguchi H, Nakamura H, Mamiya Y, Yamamoto Y, Tajika K, Sugihara H, Gomi S, Inokuchi K,

- Hasegawa S, Schibasaki T, Dan K, Wakabayashi I : Acute lymphoblastic leukemia with isolated adrenocorticotrophic hormone deficiency. *Intern Med* 1997 ; 36 : 819-821.
- 8) Inokuchi K, Futaki M, Hanawa H, Tanosaki S, Yamaguchi H, Iwakiri R, Nomura T, Dan K : Heterogenous expression of bcr-abl fusion mRNA in a patient with Philadelphia-chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia. *Brit J Haematol* 1997 ; 97 : 837-840.
 - 9) Yokose N, Ogata K, Nakamura K, Kamikubo K, Tamura H, An E, Dan K, Nomura T : Hypofibrinogenemia induced by prednisolone therapy in a patient with chronic lymphocytic leukemia complicated with autoimmune hemolytic anemia. *Am J Hematol* 1997 ; 55 : 166-167.
 - 10) Nagamura-Inoue T, Togo A, Ikebuchi K, Takahashi S, Ogura H, Shinodoh E, Nagamura F, Uemura N, Watari K, Irie S, Setoyama M, Tajika K, Nakayama M, Nagayama H, Kobayashi Y, Shirafuji N, Sato N, Okamoto S, Ozawa K, Tani K, Asano S : Autologous bone marrow transplantation for patients with advanced chronic myelogenous leukemia. *Int J Hematol* 1997 ; 66 : 493-503.
 - 11) Minami S, Suzuki N, Okada K, Sugihara H, Emoto N, Wakabayashi I : Microinjection of rat growth hormone but not human insulin-like growth factor-I into a defined area of the hypothalamus inhibits endogenous growth hormone secretion in rats. *J Endocrinol* 1997 ; 153 : 283-290.
 - 12) Yamauchi N, Shibasaki T, Wakabayashi I, Demura H : Brain β -endorphin and other opioids are involved in restraint stress-induced stimulation of the hypothalamic-pituitary-adrenal axis, the sympathetic nervous system, and the adrenal medullas in the rat. *Brain Res* 1997 ; 777 : 140-146.
 - 13) Shioda S, Shuto Y, Somogyvarivigh A, Legradi G, Onda H, Coy D, Nakajo S, Arimura A : Localization and gene expression of the receptor for pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide in the rat brain. *Neurosci Res* 1997 ; 28 : 345-354.
 - 14) Tamura H, Sugihara H, Minami S, Emoto N, Shibasaki T, Shuto Y, Shimizu K, Gomi Y, Sasano H, Wakabayashi I : Cushing's syndrome due to bilateral adrenocortical adenomas with different pathological features. *Intern Med* 1997 ; 36 : 819-821.
 - 15) Sueoka N, Koizumi N, Inokuchi K, Wakabayashi I : Combined endoscopic clipping and ethanol injection for treatment of Dieulafoy's lesions in the duodenum. *Gastrointest Endosc* 1997 ; 46 : 574-575.
 - 16) Yokose N, Ogata K : Plasma soluble interleukin-2 receptors in patients with myelodysplastic syndromes. *Leukimia and Lymphoma* 1997 ; 28 : 171-176.
 - 17) Hasegawa S, Rodgers GP, Dwyer N, Noguchi CT, Blancette-Mackie EJ, Uyesaka N, Schechter AN, Fibach E : Sickling of nucleated erythroid precursors from patients with sickle cell anemia. *Exp Hematol* 1998 ; 26 : 314-319.
 - 18) Sueoka N, Inokuchi K, Nishigaki H, Futaki M, Inokuchi M, Sugisaki Y, Dan K, Wakabayashi I : Genotype configuration in a case of primary gastric lymphoma with T-cell phenotype. *Cancer Genet Cytogenet* 1998 ; 101 : 103-108.
 - 19) Yamaguchi H, Inokuchi K, Shinohara T, Dan K : Extramedullary presentation of chronic myelogenous leukemia with p190 BCR/ABL transcripts. *Cancer Genet Cytogenet* 1998 ; 102 : 74-77.
 - 20) Tajika K, Ikebuchi K, Inokuchi K, Hasegawa S, Dan K, Sekiguchi S, Nakahata T, Asano S : IL-6 and SCF exert different effects on megakaryocyte maturation. *Brit J Haematol* 1998 ; 100 : 105-111.
 - 21) Emoto N, Onose H, Yamada H, Minami S, Tsushima T, Wakabayashi I : Growth factors increase pericellular proteoglycans independently of their mitogenic effects on A10 rat vascular smooth muscle cells. *Inter J Cell Biol* 1998 ; 30 : 47-54.

- 22) Tsumori C, Shibasaki T, Hotta M, Takeuchi K, Yamauchi N, Imaki T, Wakabayashi I, Demura H : Interleukin-1-beta administered intracerebroventricularly stimulates the release of noradrenaline in the hypothalamic paraventricular nucleus via prostaglandin in the rat. *Endocrine J* 1998 ; 45 : 127-130.
- 23) Li M, Nakayama K, Shuto Y, Somogyvarivigh A, Arimura A : Testis-specific prohormone convertase PC4 processing the precursor of pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide (PACAP). *Peptides* 1998 ; 19 : 259-268.
- 24) Wada K, Sakamoto C, Matsuda K, Uchida T, Noguchi H, Mizuno H : Gastric epithelial cells secrete a PDGF-like peptide, a potent mitogen for human gastric fibroblasts. *Proc Soc Exp Biol Med* 1998 ; 217 : 109-115.
- 25) 星田有人, 篠木 啓, 山手祐一郎, 竹内 司, 山門 進, 永井俊彦 : 低用量の塩酸プロプラノロール投与により門脈圧亢進性胃症からの出血がコントロールしえた肝硬変症の1例. *Prog. Dig. Endosc* 1997 ; 50 : 258-259.
- 26) 辰口篤志, 岸田輝幸, 佐藤 順, 藤森俊二, 吉田 豊, 小林正文, 山門 進 : 大腸早期癌の部位別発育パターンの違いについて—Polypoid growth. Nonpolypoid growth別検討—. *Prog Dig Endosc* 1997 ; 51 : 50-51.
- 27) 篠澤 功, 田中 周, 星野哲夫, 辰口篤志, 佐藤 順, 伊月葉子, 藤森俊二, 立川裕理, 李 峰, 田口文彦, 玉川恭士, 吉田 豊, 岸田輝幸, 小林正文 : 過去5年間の大腸ポリペクトミーの成績. *Ther Res* 1997 ; 18 (2) : 168-171.
- 28) 田中 周, 篠澤 功, 星野哲夫, 李 峰, 辰口篤志, 佐藤 順, 伊月葉子, 藤森俊二, 立川裕理, 玉川恭士, 田口文彦, 岸田輝幸, 吉田 豊, 小林正文 : 当科における虚血性大腸炎の臨床的検討. *Ther Res* 1997 ; 18 (2) : 377-378.
- 29) 佐藤 順, 篠澤 功, 田中 周, 星野哲夫, 辰口篤志, 李 峰, 藤森俊二, 立川裕理, 山門 進, 田口文彦, 玉川恭士, 岸田輝幸, 吉田 豊, 小林正文 : 急性出血性直腸潰瘍11例の臨床的検討. *Ther Res* 1997 ; 18 (2) : 387-388.
- 30) 岩切勝彦 : 食事・体位の胃食道逆流に及ぼす影響. *薬理と治療* 1997 ; 25 : 1267-1272.
- 31) 黒田 肇, 名知志子, 竹内 司, 間宮康貴, 津久井拓, 植原義之, 小林正文, 石田 博¹⁾ (石田内科医院) : 腹腔鏡からみた膵癌の特徴. *Prog Dig Endosc* 1997 ; 50 : 112-115.
- 32) 吉本 均, 斎藤 整, 金沢秀典, 小林正文 : 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) 後のshunt dysfunction に対するカラードプラ超音波検査の診断能. *日本消化器病学会雑誌* 1997 ; 94 : 455-463.
- 33) 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 橘美紀子, 平塚哲郎, 琴寄 誠, 山田久木, 中川義也, 川上明彦, 小林正文, 立川裕理¹⁾ (深川立川病院) : Ipratropium bromide吸入が著効した非特異的食道運動機能異常症の1例. *日本消化器病学会雑誌* 1998 ; 95 : 31-35.
- 34) 金沢秀典, 長田祐二, 吉本 均, 植原義之, 間宮康貴, 斎藤 整, 松阪 聡, 多田教彦, 小林正文, 川俣博志¹⁾, 隈崎達夫¹⁾ (放射線科) : 経頸静脈肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) によるrefractory ascitesの治療. *日本消化器病学会雑誌* 1998 ; 95 : 221-229.
- 35) 檀 和夫 : 血液疾患におけるG-CSFの役割. *臨床血液* 1997 ; 38 : 367-370.
- 36) 前田美穂, 継 仁, 大久保隆志, 山本正生, 中村恭子, 檀 和夫 : *All-trans retinoic acid* 治療施行中の急性前骨髄球性白血病母体より出生した新生児例. *臨床血液* 1997 ; 38 : 770-775.
- 37) 坂本長逸 : フオイパン錠投与により自覚症状の軽減をみたアルコール性慢性膵炎 (準確診例) の1例. *新薬と臨床* 1997 ; 46 : 78-79.
- 38) 水野 壽, 坂本長逸 : テブレノンのCOX-1, COX-2遺伝子発現, 酵素活性に及ぼす影響—in vitro, in vivoにおける検討—. *Progress in Medicine* 1998 ; 18 : 422-424.

(2) 綜説：

- 1) 猪口孝一：DNA修復異常と造血器腫瘍。血液・免疫・腫瘍 1997；2 (2)：137-142.
- 2) 猪口孝一：癌抑制遺伝子DCCの生物学的意義。血液・腫瘍科 1997；35 (1)：58-65.
- 3) 平川恒久：ヘリコバクターピロリの診断と治療を中心に。日医大誌 1997；64：353-355.
- 4) 金沢秀典：TIPS用カテーテル。救急医学 1997；21：1618-1619.
- 5) 檀 和夫：貧血症。診療の基本と治療のトピックス。日医大誌 1997；64：176-179.
- 6) 檀 和夫：悪性リンパ腫（非Hodgkinリンパ腫）（特集：エビデンスに基づく内科疾患の治療戦略）。内科 1997；79：1526-1530.
- 7) 檀 和夫：シクロスポリン療法（特集：再製不良性貧血の病態と治療—最近の進歩）。血液・腫瘍科 1997；34：373-377.
- 8) 檀 和夫：悪性リンパ腫の治療。G-CSF併用CHOP療法（特集：悪性リンパ腫—造血幹細胞移植を含めた治療の新展開）。内科 1997；80：471-473.
- 9) 檀 和夫：高度悪性非ホジキンリンパ腫（特集：幹細胞移植を含む悪性リンパ腫治療の現状と問題点）。血液・腫瘍科 1997；35：410-415.
- 10) 江本直也：骨系統疾患とFGF。内分泌・糖尿病科 1997；4 (4)：359-366.
- 11) 坂本長逸：胃粘膜細胞培養を用いた研究—胃粘膜細胞障害と保護作用—。G I Research 1997；5：18-24.
- 12) 坂本長逸：ストレスを主座において治療をどう考えるか。Helicobacter pylori時代の胃疾患の治療 1997；68：29-39.
- 13) 西崎 朗，坂本長逸：旅行者下痢症—原因菌・症状・治療について—。医薬ジャーナル 1997；33：144-147.
- 14) 永井俊彦，山門 進：高齢者の腹痛マップ。治療 1997；79：1775-1775.
- 15) 徳永 昭，恩田昌彦，小栗 剛，瀧田雅仁，白川 毅，松倉則夫，松岡伸夫，的場康德：増殖因子と消化管。G I Research. 1997；5 (2)：223-230.
- 16) 金沢秀典，小林正文：食道静脈瘤の薬物療法。臨床外科 1998；53：181-186.
- 17) 小林正文：嚥下障害。患者のQOLを考慮した私の第一選択薬。治療 1998；80：494-495.
- 18) 二神生爾，高橋秀実²⁾，大橋和史²⁾，鷹取美雪³⁾，辰口篤志，廣田 薫，小林正文⁽¹⁾ 微生物免疫学，²⁾ 臨床薬理センター，³⁾ 日本医科大学附属病院研究室）：胃炎の慢性化の機序について。消化器科 1998；26：41-46.
- 19) 檀 和夫：特発性血小板減少性紫斑病（特集：患者のQOLを考慮した私の第一選択薬）。治療 1998；80：930-931.
- 20) 檀 和夫：アメリカ血液学会のクリニカルガイドライン概説（特集：特発性血小板減少性紫斑病（ITP））。血液・腫瘍科 1998；36：128-134.
- 21) 檀 和夫：自己免疫性溶血性貧血（特集：免疫学的機序による血球減少とその病態）。炎症と免疫 1998；6：131-135.
- 22) 檀 和夫：赤血球数（RBC），ヘモグロビン（Hb），ヘマトクリット（Ht）（特集：検査データマニュアル）。総合臨床 1998；47：1175-1177.

(3) 研究報告書：

- 1) 江本直也：軟骨発育不全症の原因遺伝子となるFGF受容体（FGFR3）正常型の過剰発現による細胞増殖への影響の検討。財団法人成長科学協会，研究年報，第20号（平成8年度） 1997；pp189-195.

著 書

- 1) 芝崎 保，若林一二：〔分担〕神経ペプチドY。情動とホルモン（伊藤真次，熊谷 朗，出村 博編），1997；pp201-221，中山書店.

- 2) 若林一二：〔分担〕間脳下垂体の内分泌機能 第5巻 間脳下垂体一機能・解剖・手術. 図説脳神経外科New Approach (高倉公明編), 1997; pp24-31, メジカルビュー社.
- 3) 若林一二, 伊藤真次：〔共著〕内分泌学第4版, 1997; 理工学社.
- 4) 岸田輝幸：〔分担〕大腸内視鏡の弱点. 消化器内視鏡のコツと落とし穴 (下部消化管). (鈴木博昭編), 1997; pp66-67, 中山書店.
- 5) 平川恒久：〔分担〕安全で負荷をかけない内視鏡挿入法. 消化器内視鏡のコツと落とし穴 (上部消化管1). (鈴木博昭編), 1997; pp106-107, 中山書店.
- 6) 平川恒久：〔分担〕胃の診断は正面視より始まる—前方視内視鏡のみでよいか. 消化器内視鏡のコツと落とし穴 (上部消化管1). (鈴木博昭編), 1997; pp192-193, 中山書店.
- 7) 三宅一昌, 小林正文：〔分担〕消化性潰瘍の出血に対する治療の対応と限界. 胃潰瘍・十二指腸潰瘍の診断と治療, 1997; pp88-97, 真興交易株式会社図書出版部.
- 8) 江本直也, 對馬敏夫：〔分担〕血管新生促進因子のレセプターの病態—病的状態における変化など—第3章 血管新生に関与する因子とその作用機序. 血管新生療法—基礎と臨床— (内田康美, 小塚 裕編), 1997; 真興交易医書出版部.
- 9) 坂本長逸：〔分担〕胰酵素の生成と分泌の分子細胞生物学. 現代内科学, 1997; 金芳堂.
- 10) 坂本長逸：〔分担〕消化管とプロスタグランディン. Annual Review消化器, 1997; 中外医学社.
- 11) 小林正文：〔分担〕急性腸炎. 内科治療ガイド98 (和田攻編), 1998; pp643-648, 文光堂.
- 12) 小林正文：〔分担〕胃食道逆流症の治療. プロトンポンプインヒビター (寺野 彰編), 1998; pp63-73, メジカルビュー社.
- 13) 長谷川節雄, 田近賢二, 檀 和夫：〔分担〕再生不良性貧血 (重症型) に対する強力免疫抑制療法. 貧血・出血傾向・白血病の診断と治療 (30の大学病院による診断と治療シリーズ), 1998; pp22-28, 真興交易医書出版部.
- 14) 坂本長逸：〔分担〕消化性潰瘍における誘導型シクロオキシゲナーゼの発現. 胃粘膜防御因子, 21世紀の論点, 1998; 国際医書出版.
- 15) 坂本長逸：〔分担〕慢性胃炎. Annual Review消化器, 1998; 中外医学社.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 猪口孝一, 埴 秀樹, 三宅弘一, 檀 和夫：治療抵抗性late appearing Ph1陽性白血病細胞の核型異常進展とvariant P190 bcr/abl, ETV6, EVI-1遺伝子解析. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.

(2) パネルディスカッション：

- 1) 斎藤 整, 金沢秀典：TIPSの治療効果と術後短絡路機能評価におけるカラードプラ超音波検査の有用性 (門亢症—診断と治療の進歩). 第33回日本肝臓学会総会, 1997. 4.
- 2) 二神生爾, 高橋秀実¹⁾ (1) 微生物免疫：胃炎における新しい進歩. Helicobacter pylori (HP) 感染に起因した胃炎慢性化の組織血清学的検討 (HPウレアーゼに対する抗体ならびにその産生細胞の追跡). 第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
- 3) 間宮康貴, 金沢秀典：肝硬変のTIPSによるエンドセリン1の変化. 門亢症の循環動態. 第3回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会, 1997. 9.

(3) ワークショップ：

- 1) 辰口篤志, 岸田輝幸, 山門 進¹⁾ (1) 東京都多摩老人医療センター消化器科：直腸癌 (Ra, Rb) の発育進展をめぐって—結腸癌との対比. 大腸早期癌の部位別発育パターンの違いについて—Polypoid growth. Nonpolypoid growth別検討. 第64回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 6.

- 2) 辰口篤志, 岸田輝幸, 吉田 豊, 山門 進¹⁾ (1) 東京都多摩老人医療センター内科) : 大腸早期癌の部位別発育パターンの違いについて—PG.NPG別検討—. 第64回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 6.
 - 3) 中塚雄久, 金沢秀典 : 経頸静脈の肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) による門脈圧変動が portal hypertensive gastropathy に及ぶ影響. 第39回日本消化器病学会大会, 1997. 10.
 - 4) 中塚雄久¹⁾, 杉山弘高, 中川洋子, 高橋秀実¹⁾ (1) 微生物免疫) : 肝細胞癌特異的CTLが認識するclass-I MHC分子結合peptideの分離及び解析. 第27回日本免疫学会学術集会, 1997. 10.
 - 5) 中川洋子¹⁾, 中塚雄久, 高橋秀実¹⁾ (1) 微生物免疫) : オブアルブミン (OVA) 由来ペプチドをパルスした樹状細胞の免疫による抗原特異的キラーT細胞の誘導及びそのin vivoにおける抗腫瘍効果について. 第27回日本免疫学会学術集会, 1997. 10.
- (4) 一般講演 :
- 1) Ogata K, Tamura H, Luo S, An E, Dan K, Nomura T, Hamaguchi H¹⁾, Sakamaki H²⁾, Onozawa Y²⁾, Tohyama K³⁾, Yoshida Y³⁾, Kato T⁴⁾, Tahara T⁴⁾ (1) Musashino Red Cross Hospital, 2) Komagome Hospital, 3) Kyoto University, 4) Kirin Brewery.) : Plasma thrombopoietin (TPO) level in patients with myelodysplastic syndromes (MDS). 4th International Symposium on myelodysplastic syndromes, 1997. 4.
 - 2) Onose H, Emoto N, Minami S, Shimizu K¹⁾, Wakabayashi I (1) Department of Surgery.) : Bioavailable FGF-2 is increased in human papillary thyroid carcinomas. The Endocrine Society 79th annual meeting (Minneapolis), 1997. 6.
 - 3) Shibasaki T, Yamauchi N, Takeuchi K, Ishii S, Suhigara H, Minami S, Wakabayashi I : Effect of fasting, stress, corticotropin-releasing factor or somatostatin on growth hormone-releasing peptide KP-102-induced food intake in rats. The Endocrine Society 79th annual meeting (Minneapolis), 1997. 6.
 - 4) Kamegai J, Kineman RD¹⁾, Frohman LA¹⁾, Unterman TG^{1,2)} (1) Section of Endocrinology and Metabolism, Dept of Medicine, University of Illinois Chicago, 2) Veterans Administration West Side.) : Selective absence of growth hormone (GH) results in upregulation of the GH-releasing hormone (GHRH) -GHRH receptor system. The Endocrine Society 79th annual meeting (Minneapolis), 1997. 6.
 - 5) Emoto N, Onose H, Sugihara H, Minami S, Shimizu K¹⁾, Wakabayashi I (1) Department of surgery.) : Overexpression of the fibroblast growth factor receptor 3 in a human thyroid carcinoma cell line results in different cellular organization and increased final cell density. 第6回アジア・オセアニア甲状腺学会議 (大阪), 1997. 11.
 - 6) 藤森俊二, 吉田 豊, 辰口篤志, 伊月葉子, 星野哲夫, 田中 周, 篠澤 功, 佐藤 順, 津久井拓, 田口文彦, 玉川恭士, 岸田輝幸, 小林正文, 山門 進¹⁾ (1) 東京都多摩老人医療センター消化器科) : Leser-Doppler flowmeter (LDF) を用いた大腸腺腫と大腸癌の表層血行動態の比較検討. 第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
 - 7) 佐藤 順, 吉田 豊, 篠澤 功, 星野哲夫, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, 岸田輝幸, 小林正文, 笹島耕二¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 恩田昌彦¹⁾ (1) 日本医科大学第1外科) : 潰瘍性大腸炎患者血清中の細胞死の指標としての核マトリックス蛋白 (NMP-41) の検討. 第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
 - 8) 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 琴寄 誠, 山田久木, 柴田喜明, 中川義也, 川上明彦, 小林正文 : 健常者, 逆流性食道炎患者における体位 (背臥位, 座位) によるLES静止圧の変化. 第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
 - 9) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 山田久木, 琴寄 誠, 柴田喜明, 中川義也, 川上明彦, 小林正文 : 健常者における座位時の一過性下部食道括約部 (LES) 弛緩発生増加の病態度 (一過性LES弛緩と胃内圧). 第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
 - 10) 伊月葉子, 平川恒久, 廣田 薫, 三宅一昌, 丸山正明, 松坂 聡, 香川隆男, 小林正文 : H. Pylori数種除菌法の比較. 第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.

- 11) 山田久木, 岩切勝彦, 中川義也, 琴寄 誠, 柴田喜明, 杉浦敏昭, 川上勝彦, 小林正文, 山門 進¹⁾, 永井俊彦¹⁾ (¹⁾ 東京都多摩老人医療センター消化器科) : Ca拮抗薬 (nifedipine 10mg) 内服の胃食道逆流に及ぼす影響. 第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
- 12) 榎原義之, 金沢秀典, 間宮康貴, 長田祐二, 小泉信人, 吉本 均, 斎藤 整, 星長春樹, 多田教彦, 松坂 聡, 渡 淳, 黒田 肇, 小林正文: TIPSによる食道静脈瘤破裂の待期的治療: 内視鏡的硬化療法を対照治療法としたretrospective study. 第33回日本肝臓学会総会, 1997. 4.
- 13) 中塚雄久, 高橋秀実¹⁾, 杉山弘高¹⁾, 中川洋子¹⁾, 野呂瀬嘉彦¹⁾, 金沢秀典, 黒田 肇, 小林正文 (¹⁾ 微生物免疫) : B7-1発現肝細胞癌株を用いて誘導した肝細胞癌特異的キラーT細胞の性状およびin vivoにおける抗腫瘍効果. 第33回日本肝臓学会総会, 1997. 4.
- 14) 周東祐仁, 田村秀樹, 杉原 仁, 南 史朗, 芝崎 保, 若林一二: 両側副腎病変を有するACTH非依存性Cushing症候群におけるG蛋白質変異の検討. 第94回日本内科学会講演会, 1997. 4.
- 15) 名知志子, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 吉本 均, 中塚雄久, 吉沢雅史, 斎藤 整, 星長春樹, 竹内 司, 山田裕之, 多田教彦, 金沢秀典, 黒田 肇, 小林正文: C型慢性肝炎のインターフェロン (IFN) 治療効果に関する検討. 第94回日本内科学会講演会, 1997. 4.
- 16) 田野崎栄, 猪口孝一, 塙 秀樹, 中村佳代, 山口博樹, 二木真琴, 檀 和夫: 慢性骨髄性白血病の血小板増多とc-mpl遺伝子発現および血清トロンボポエチン濃度との関連. 第94回日本内科学会講演会, 1997. 4.
- 17) 西垣 均, 末岡伸夫, 竹内 司, 青木正明, 香川隆男, 小林正文: Barrett食道診断におけるMethylene blue染色の有用性に関する検討. 第53回日本消化器内視鏡学会総会, 1997. 4.
- 18) 岩切勝彦, 杉浦敏昭, 橋美紀子, 山田久木, 琴寄 誠, 中川義也, 川上昭彦, 小林正文, 立川裕理¹⁾ (¹⁾ 深川立川病院) : Ipratropium bromideが著効した食道同時性収縮を主体とする食道運動異常症の1例. 第244回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 5.
- 19) 中山一隆, 中村弘之, 中村恭子, 上久保圭子, 田村秀人, 横瀬紀夫, 安 恵美, 田近賢二, 五味聖二, 緒方清行, 長谷川節雄, 檀 和夫: パセドウ病の発症に伴ないEvans症候群へ移行したITPの1例. 第129回日本臨床血液学会例会, 1997. 5.
- 20) 藤浪謙至¹⁾, 中野忠澄¹⁾, 宮川高一¹⁾, 武井 司¹⁾, 周東祐仁, 井上剛輔²⁾ (¹⁾ 東京都多摩老人医療センター内分泌科, ²⁾ 内科) : 高齢者糖尿病患者における高Cペプチド血症. 第40回日本糖尿病学会年次学術集会, 1997. 5.
- 21) 星田有人, 篠木 啓, 山内 司, 山門 進¹⁾, 永井俊彦¹⁾, 百名祐介²⁾, 伊藤雄二³⁾ (¹⁾ 東京都多摩老人医療センター内科, ²⁾ 東京都多摩老人医療センター外科, ³⁾ 東京都多摩老人医療センター病理) : アルコール性肝硬変による血液凝固異常により形成された慢性深部静脈血栓症が原因と考えられたBudd-Chiari症候群の1例. 第244回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 5.
- 22) 小野瀬裕之, 江本直也, 長谷川修, 杉原 仁, 南 史朗, 清水一雄¹⁾, 若林一二 (¹⁾ 第2外科) : 甲状腺におけるFGF受容体mRNA発現パターン. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 23) 江本直也, 小野瀬裕之, 南 史朗, 清水一雄¹⁾, 若林一二 (¹⁾ 第2外科) : 甲状腺癌における細胞外マトリックスのFGF-2結合能に関する検討. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 24) 杉原 仁, 南 史朗, 石井新哉, 小野瀬裕之, 江本直也, 芝崎 保, 若林一二: 成長ホルモン (GH), GH分泌促進因子 (GRF), インスリン様成長因子 (IGF-I) のリンパ球c-fos遺伝子発現に与える影響. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 25) 南 史朗, 鈴木信周, 杉原 仁, 田村秀樹, 江本直也, 芝崎 保, 若林一二: 視床下部を介する成長ホルモン自己分泌調節機構の検討 (2). 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 26) 竹内香織, 芝崎 保, 山内直子, 石井新哉, 杉原 仁, 南 史朗, 若林一二: ラットにおける成長ホルモン放出ペプチドKP-102の摂食促進作用に関する検討. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.

- 27) 周東祐仁¹⁾, 田村康博¹⁾, 武井 司¹⁾, 中野忠澄¹⁾, 若林一二 (1) 東京都多摩老人医療センター, 内分泌科): 低血糖発作を契機に発見されたGH, TSH, FSH高値と著明なIGF-I低値を呈した症例. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 28) 石井新哉, 芝崎 保, 村上 尚¹⁾, 小野瀬裕之, 長谷川修, 杉原 仁, 南 史朗, 島 健二¹⁾, 若林一二 (1) 徳島大学臨床検査医学): ラットレプチン受容体遺伝子発現部位に関する検討. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 29) 武井 司¹⁾, 周東祐仁, 中野忠澄¹⁾, 原田信行²⁾, 木村吉雄²⁾ (1) 東京都多摩老人医療センター, 内分泌科, 2) 循環器科): 中高年者甲状腺機能亢進症の臨床像. 第39回日本老年医学会学術集会, 1997. 6.
- 30) 篠木 啓, 星田有人¹⁾, 竹内 司, 山門 進¹⁾, 永井俊彦¹⁾ (1) 東京都多摩老人センター内科): 高齢者胆石症患者の総胆管結石症合併の予測の検討. 第39回日本老年医学会学術集会, 1997. 6.
- 31) 篠木 啓, 星田有人¹⁾, 竹内 司, 山門 進¹⁾, 永井俊彦¹⁾ (1) 東京都多摩老人医療センター内科): 食道壁内血腫の1例. 第64回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 6.
- 32) 星野哲夫, 岩切勝彦, 佐藤 順, 柴田喜明, 篠澤 功, 田中 周, 辰口篤志, 藤森俊二, 伊月葉子, 立川裕理¹⁾, 玉川恭士, 田口文彦, 岸田輝幸, 吉田 豊, 小林正文 (1) 深川立川病院): 小腸アニサキス症によると思われる急性腸閉塞の1例. 第245回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 7.
- 33) 榎原義之, 金沢秀典, 間宮康貴, 長田祐二, 吉本 均, 斎藤 整, 松坂 聡, 多田教彦, 黒田 肇, 小林正文: TIPSの長期的な肝機能に及ぼす影響. 第3回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会, 1997. 9.
- 34) 吉本 均, 金沢秀典, 榎原義之, 長田祐二, 間宮康貴, 斎藤 整, 多田教彦, 松坂 聡, 黒田 肇: TIPS後の短絡路狭窄時における短絡路内血流速度の評価. 第3回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会, 1997. 9.
- 35) 足澤美樹, 中山一隆, 中村佳代, 埴 秀樹, 松岡弘樹, 岩切理歌, 三宅弘一, 田野崎栄, 田近賢二, 五味聖二, 猪口孝一, 長谷川節雄, 檀 和夫: 9年目に再発した急性前骨髄球性白血病. 第130回日本臨床血液学会例会, 1997. 9.
- 36) 竹内 司, 山門 進¹⁾, 三井啓吾, 永井俊彦¹⁾, 百名祐介²⁾ (1) 東京都多摩老人医療センター内科, 2) 東京都多摩老人医療センター外科): 深部静脈血栓症 (DVT) と血栓性静脈炎を合併した潰瘍性大腸炎 (UC) の1例. 第245回消化器病学会関東支部例会, 1997. 9.
- 37) 橋本充弘, 滝 保彦, 津久井拓, 竹内 司, 榎原義之, 間宮康貴, 中川義也, 多田教彦, 黒田 肇, 小林正文: 肝炎の急性増悪をみた原発性胆汁性肝硬変と自己免疫性肝炎のoverlapした1症例. 第245回消化器病学会関東支部例会, 1997. 9.
- 38) 岩切勝彦, 山田久木, 琴寄 誠, 杉浦敏昭, 中川義也, 川上昭彦, 小林正文: 急速な食事摂取時の胸痛, 嚥下困難発生の病態 (食道内圧検査による検討). 第39回日本消化器病学会大会, 1997. 10.
- 39) 琴寄 誠, 岩切勝彦, 山田久木, 杉浦敏昭, 中川義也, 川上明彦, 小林正文, 渡 淳¹⁾ (1) 千葉北総病院内科): 上部消化管内視鏡検査で異常を認めない食事時のdysphagia を訴える症例の食道内圧検査による検討. 第39回日本消化器病学会大会, 1997. 10.
- 40) 山田久木, 岩切勝彦, 中川義也, 琴寄 誠, 杉浦敏昭, 川上明彦, 小林正文, 山門 進¹⁾, 永井俊彦¹⁾ (1) 東京都多摩老人医療センター消化器科): 逆流性食道炎患者におけるCa拮抗薬 (nifedipine 10mg) 内服の胃食道逆流に及ぼす影響. 第39回日本消化器病学会大会, 1997. 10.
- 41) 岸田輝幸, 柴田喜明, 星野哲夫, 田中 周, 篠澤 功, 李 峰, 辰口篤志, 佐藤 順, 伊月葉子, 藤森俊二, 田口文彦, 吉田 豊, 黒田 肇, 小林正文: 血清胆汁酸と十二指腸液胆汁酸の相関について. 第39回日本消化器病学会大会, 1997. 10.
- 42) 伊月葉子, 平川恒久, 篠澤 功, 星野哲夫, 榎原義之, 廣田 薫, 香川隆男, 小林正文: H₂ blocker+抗生物質2剤によるH. Pylori除菌の試み. 第39回日本消化器病学会大会, 1997. 10.

- 43) 榎原義之, 金沢秀典, 間宮康貴, 長田祐二, 小泉信人, 吉本 均, 斎藤 整, 多田教彦, 松坂 聡, 小林正文, 川俣博志¹⁾ (¹⁾放射線科): refractory ascitesに対するTIPSの効果. 第39回日本消化器病学会大会, 1997. 10.
- 44) 長田祐二, 金沢秀典, 榎原義之, 間宮康貴, 吉本 均, 竹内 司, 斎藤 整, 多田教彦, 松坂 聡, 小林正文, 高橋修司¹⁾, 川俣博司¹⁾ (¹⁾放射線科): TIPSの合併症に関する検討. 第39回日本消化器病学会大会, 1997. 10.
- 45) 羅 善順, 上久保圭子, 安 恵美, 田村秀人, 横瀬紀夫, 中村恭子, 緒方清行, 檀 和夫, 通山 薫, 吉田弥太郎: トロンボポエチン (TPO) の骨髓異形成症候群 (MDS) 芽球増殖に対する効果. 第39回日本臨床血液学会総会, 1997. 10.
- 46) 緒方清行, 安 恵美, 田村秀人, 横瀬紀夫, 中村恭子, 檀 和夫, 野村武夫: 高齢者のナチュラルキラー (NK) 細胞活性と感染症の発生・予後との関連について. 第39回日本臨床血液学会総会, 1997. 10.
- 47) 横瀬紀夫, 緒方清行, 安 恵美, 田村秀人, 上久保圭子, 田野崎栄, 羅 善順, 檀 和夫: 赤芽球瘍 (PRCA) を合併した若年発症の原発性マクログロブリン血症. 第39回日本臨床血液学会総会, 1997. 10.
- 48) 山田 隆, 檀 和夫, 田賀井篤平: ハイドロキシアパタイトを用いた骨髓長期培養の試み (第1報). 第39回日本臨床血液学会総会, 1997. 10.
- 49) 猪口孝一, 山口博樹, 塙 秀樹, 田野崎栄, 松岡弘樹, 檀 和夫, 篠原多美子: Late appearing Ph陽性白血病細胞におけるcomplex t (5;9;10;22;22) のFISH解析. 第39回日本臨床血液学会総会, 1997. 10.
- 50) 上久保圭子, 緒方清行, 羅 善順, 横瀬紀夫, 田村秀人, 中村恭子, 安 恵美, 長谷川節雄, 檀 和夫: HTLV-1抗体陰性, HTLV-1プロウイルスDNA陽性成人T細胞白血病 (ATL) の1例. 第39回日本臨床血液学会総会, 1997. 10.
- 51) 山口博樹, 中村佳代, 塙 秀樹, 田野崎栄, 松岡弘樹, 三宅弘一, 猪口孝一, 檀 和夫: 高3倍体染色体, t (14;18) を認めた悪性リンパ腫由来の細胞株 (TKcell) の樹立とその性状. 第39回日本臨床血液学会総会, 1997. 10.
- 52) 三井啓吾, 荻原祐子¹⁾, 竹内 司, 山門 進¹⁾, 永井俊彦¹⁾ (¹⁾東京都多摩老人医療センター内科): 結核菌のPCR法による検出が有用であった結核性腹膜炎の1例. 第26会日本老年医学会関東甲信越地方会, 1997. 10.
- 53) 徳永 昭¹⁾, 末岡伸夫, 恩田昌彦¹⁾, 小栗 剛¹⁾, 池田研吾¹⁾, 平本義浩¹⁾, 寺本 忠¹⁾, 藤田逸朗¹⁾, 奥田武志¹⁾, 飯田信也¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 松倉則夫¹⁾ (¹⁾第1外科): 消化管の創傷治癒: 十二指腸潰瘍内視鏡生検材料におけるTGF- α ・EGF/EGF receptorおよびpS2の発現. 第39回日本消化器病学会大会, 1997. 10.
- 54) 岸田輝幸, 佐藤 順, 米澤真興, 吉田 豊: 年齢別にみた集検発見大腸癌の特徴. 第35回日本消化器集団検診学会秋季大会, 1997. 11.
- 55) 田中 周, 米澤真興, 柴田喜明, 篠澤 功, 星野哲夫, 辰口篤志, 佐藤 順, 伊月葉子, 藤森俊二, 立川裕理¹⁾, 玉川恭士, 田口文彦, 吉田 豊, 岸田輝幸, 小林正文 (¹⁾深川立川病院): 緊急下部消化管内視鏡検査症例の検討. 第54回日本消化器内視鏡学会総会, 1997. 11.
- 56) 李 峰, 岸田輝幸, 小林正文: 大腸癌患者の血清鉄・フェリチンの臨床的意義—大きさ別, 部位別, 進行度別検討. 第8回日本医科大学外国人留学者研究会, 1997. 11.
- 57) 岩切勝彦: 下部食道括約部 (LES) 静止圧に及す体位の影響. GERD研究会第2回研究会, 1997. 11.
- 58) 牧野晋也¹⁾, 西山 充¹⁾, 浅羽宏一¹⁾, 橋本浩三¹⁾, 芝崎 保²⁾, 山内直子, 若林一二 (¹⁾高知医科大学第二内科, ²⁾日本医科大学第2生理): 心理ストレスにおける室傍核及び扁桃体中心核のCRHmRNAの変化. 第24回日本神経内分泌学会, 1997. 11.
- 59) 杉原 仁, 南 史朗, 江本直也, 小野瀬裕之, 石井新哉, 田村秀樹, 若林一二: インスリン様成長因子 (IGF-I) の成長ホルモン (GH) 分泌促進因子 (GRF) 受容体発現に対する効果. 第24回日本神経内分泌学会, 1997. 11.
- 60) 鈴木健治¹⁾, 大島久幸¹⁾, 芝崎 保¹⁾, 山内直子, 若林一二 (¹⁾第2生理): ラット成長ホルモン放出ペプチドの中枢性摂食促進作用発現部位の解析. 第24回日本神経内分泌学会, 1997. 11.

- 61) 岩切勝彦, 山田久木, 琴寄 誠, 杉浦敏昭, 平塚哲郎, 中川義也, 川上明彦, 黒田 肇, 小林正文: 心因的要因により発症したと考えられたhypertensive LES (HLES) の1例. 第247回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 12.
- 62) 星野哲夫, 米澤真興, 柴田喜明, 篠澤 功, 田中 周, 辰口篤志, 佐藤 順, 藤森俊二, 伊月葉子, 立川裕理¹⁾, 玉川恭士, 田口文彦, 吉田 豊, 岸田輝幸, 小林正文 (¹⁾ 深川立川病院): 大腸アメーバ赤痢に合併したランブル鞭毛虫の1例. 第65回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 12.
- 63) 津久井拓, Alexander-Miller M, Parker K, Pendleton D, Coligan J, 高橋秀実, Berzofsky JA: HIV-1 env抗原由来のペプチドp18を認識するHLA-A2.1拘束性キラーT細胞の誘導とエピトープの解析. 第27回日本免疫学会総会, 1997. 12.
- 64) 山門 進¹⁾, 伊藤雄二²⁾, 三井啓吾, 江藤滋彦¹⁾, 竹内 司, 永井俊彦¹⁾, 岡田 夢²⁾, 相田順子²⁾ (¹⁾ 東京都多摩老人医療センター内科, ²⁾ 東京都多摩老人医療センター病理): ネフローゼ症候群を合併したCronkhite-Canada症候群の1例. 第65回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 12.
- 65) 篠木 啓, 中村弘之, 山口博樹, 上久保圭子, 田村秀人, 横瀬紀夫, 安 恵美, 田近賢二, 山田 隆, 五味聖二, 緒方清行, 檀 和夫: 多発性の腫瘍および胸水中の芽球増殖で急性化を来した真性多血症. 第131回日本臨床血液学会例会, 1998. 1.
- 66) 武井 司¹⁾, 上田 諭¹⁾, 周東祐仁, 中野忠澄¹⁾ (¹⁾ 東京都多摩老人医療センター内分泌科): 急速な尿流停滞などにより明らかな尿所見を呈さなかったと考えられる気腫性腎盂腎炎の糖尿病症例. 第35回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 1998. 1.
- 67) 小野瀬裕之, 瀬尾継彦, 林 良紀, 杉原 仁, 江本直也, 南 史朗, 芝崎 保, 若林一二: 尿崩症で発症した神経サルコイドーシスの1例. 第8回日本間脳下垂体腫瘍学会, 1998. 1.
- 68) 吉本 均, 末岡伸夫, 三宅一昌, 津久井拓, 琴寄 誠, 坂本長逸, 小林正文: 胃原発と考えられた扁平上皮癌の1例. 第248回日本消化器病学会関東支部例会, 1998. 2.
- 69) 横瀬紀夫, 緒方清行, 安 恵美, 田村秀人, 田近賢二, 山田 隆, 五味聖二, 檀 和夫, 野村武夫: 予後不良因子を持つ急性骨髄性白血病 (AML) の寛解持続に関する検討. 第60回日本血液学会総会, 1998. 3.
- 70) 田野崎栄, 猪口孝一, 山口博樹, 中村佳代, 塙 秀樹, 松岡弘樹, 浜口裕之, 檀 和夫: 1番染色体異常を有する白血病におけるp53遺伝子の解析. 第60回日本血液学会総会, 1998. 3.
- 71) 田村秀人, 緒方清行, 中村恭子, 安 恵美, 横瀬紀夫, 羅 善順, 塙 秀樹, 檀 和夫, 坂巻 壽, 吉田弥太郎, 桑木知朗: 骨髄異形成症候群 (MDS) 患者の血小板トロンボポエチン (TPO) 受容体についての検討. 第60回日本血液学会総会, 1998. 3.
- 72) 中村弘之, 田近賢二, 中山一隆, 五味聖二, 山田 隆, 猪口孝一, 緒方清行, 檀 和夫: MDSおよび難治性AMLに対するCAG療法の有効性と合併症の検討. 第60回日本血液学会総会, 1998. 3.
- 73) 山口博樹, 猪口孝一, 中村佳代, 塙 秀樹, 田野崎栄, 松岡弘樹, 三宅弘一, 檀 和夫: 急性白血病におけるbcl-xL, bcl-xS遺伝子の解析. 第60回日本血液学会総会, 1998. 3.
- 74) 猪口孝一, 山口博樹, 塙 秀樹, 田野崎栄, 松岡弘樹, 三宅弘一, 野村武夫, 檀 和夫: 樹立2細胞株のCalpastatinおよびその相同遺伝子発現の解析. 第60回日本血液学会総会, 1998. 3.
- 75) 中村恭子, 安 恵美, 羅 善順, 上久保圭子, 田村秀人, 横瀬紀夫, 緒方清行, 檀 和夫: フローサイトメトリー法による急性骨髄性白血病 (AML) の微小残存病変 (MRD) 解析. 第60回日本血液学会総会, 1998. 3.
- 76) 塙 秀樹, 猪口孝一, 山口博樹, 中村佳代, 田野崎栄, 檀 和夫: c-mpl mRNAのisoformの検索. 第60回日本血液学会総会, 1998. 3.
- 77) 田近賢二, 中村弘之, 中山一隆, 五味聖二, 猪口孝一, 長谷川節雄, 檀 和夫: Thrombopoietin (TPO) の成熟巨核球におよぼす影響. 第60回日本血液学会総会, 1998. 3.

- 78) 田村秀樹, 子島 潤¹⁾, 木内 要¹⁾, 中西一浩²⁾, 酒井俊太¹⁾, 大久保直子³⁾, 小倉宏道¹⁾, 関戸司久¹⁾, 中島祐史²⁾, 石川 源²⁾, 上村竜太¹⁾, 伊月葉子, 米澤真興, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾ (1) 集中治療室, 2) 麻酔科, 3) 第2外科) : 急性心筋梗塞診断における心筋トロポニンI測定の有用性についての検討—他の心筋障害マーカー特にトロポニンTとの比較—. 第62回日本循環器学会学術集会, 1998. 3.

4. 内科学第四講座

[付属病院第4内科]

研究概要

内科学第四講座では呼吸器疾患を対象に平成9年度以下の臨床的、基礎的研究を展開した。

臨床研究として、①マクロライドの放射線肺臓炎に対する予防効果および各種呼吸器疾患に対する有効性の検討、②びまん性汎細気管支炎 (DPB) の予後調査、③慢性関節リウマチ患者の肺臓炎に関する臨床的研究、④無線聴診器の臨床的評価、⑤肺音および咳嗽の音響学解析、⑥日常労作 (入浴等) の慢性閉塞性肺疾患患者の肺機能に及ぼす影響、⑦肺癌化学療法の臨床研究 [非小細胞癌: weekly CDDP+CPT-11 (phase II), CDDP+CPT 11 vs CDDP+VDS (phase III), low dose CDDP+UFT (phase II), 新規抗癌剤 (phase I, II), 小細胞癌: 2つの combinationによるalternating chemotherapy], ⑧各種制吐剤の臨床試験等を行った。

基礎研究としては、①プレオマイシンにより誘発されるマウス肺臓炎に対するマクロライドの予防効果とその機序、②慢性気道炎症の発症機序ならびにそれに対するマクロライドの効果発現機序、③シリカ投与ラット肺におけるマクロライドの作用、④急性肺傷害の発症における活性酸素および好中球エラスターゼの役割、⑤DPBに関する遺伝子の解析、⑥ヒト肺腺癌株 (PC-9) の高転移株の樹立とその細胞生物学的特徴、⑦Laminin-1 peptide (AC-Y16, AG-73) の腫瘍増殖、実験的転移に及ぼす効果と発現機序、⑧マクロライドの実験的肺転移抑制効果の機序、⑨新規抗癌剤 (taxotere) を用いた併用療法のマウスにおける基礎的検討、⑩サルコイドーシスにおけるApoptosis抑制因子の関与、⑪癌遺伝子治療の基礎的研究、⑫細胞周期調節因子のクローニングとゲノム構造の決定、⑬ヒト肺癌における癌抑制遺伝子候補の変異解析、⑭癌発生母地としての肺線維症の分子生物学的研究等の研究を推進した。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著:

- 1) 石原陽子, 忽滑谷直孝, 小林国彦: 癌化学療法時の制吐剤用QOL調査書の開発, 信頼性と妥当性の検討. 癌と化学療法 1996; 23 (6): 745-755.

綜説:

- 1) 小林国彦: 癌薬物治療の現状と問題点 肺癌. Journal of Japanese Society of Hospital Pharmacists 1996; 32 (1): 17-22.
- 2) 小林国彦: 白金化合物とフッ化ピリミジンの効果的投与方法—肺癌. 癌と化学療法 1996; 23 (13): 1747-1756.

(1) 原著:

- 1) Gemma A, Hagiwara K¹⁾, Ke Y¹⁾, Burke L¹⁾, Kahn M¹⁾, Nagashima M¹⁾, Bennett W¹⁾, Harris C¹⁾
(¹⁾ Laboratory of Carcinogenesis, NCI/NIH): FHIT mutations in human primary gastric cancer. Cancer Research 1997; 57: 1435-1437.
- 2) Vincent F, Nagashima M, Takenoshita S, Kahn M, Gemma A, Bennett W: Mutation analysis of the transforming growth factor-b type II receptor in human cell lines resistant to growth inhibition by transforming growth factor-b. Oncogene 1997; 15: 117-122.
- 3) Takenoshita S, Hagiwara K¹⁾, Gemma A, Nagashima M¹⁾, Ryberg D¹⁾, Lindsted B¹⁾, Bennett W¹⁾,

- Haugen A¹⁾, Harris C¹⁾ (¹⁾Laboratory of Human Carcinogenesis, NCI/NIH) : Absence of mutations in the transforming growth factor-b type II receptor in sporadic lung cancers with microsatellite instability and rare H-ras1 alleles. *Carcinogenesis* 1997 ; 18 : 1427-1429.
- 4) Kurane S, Arca M¹⁾, Aruga A¹⁾, Krinock R¹⁾, Krauss J¹⁾, Chang A¹⁾ (¹⁾ Division of Surgical Oncology, University of Michigan, The C) : Cytokines as an Adjuvant to Tumor Vaccines : Efficacy of Local Methods of Delivery. *Annals of Surgical Oncology* 1997 ; 4 (7) : 579-585.
- 5) Kurane S, Watari E¹⁾, Krauss J²⁾, Kudoh S (¹⁾ Microbiology and Immunology, ²⁾ The Cleveland Clinic Foundation) : vaccination with interleukin 2 gene-transfected-tumor induced tumor-reactive lymphocyte in the local lymph nodes of tumor-bearing immunocompromised mice. *Biomedical Research* 1997 ; 18 (6) : 413-422.
- 6) Uematsu K, Yasuda J¹⁾, Sekine T¹⁾, Sugano K¹⁾, Kudoh S¹⁾, Sekiya T¹⁾ (¹⁾ Oncogene Division, National Cancer Center Research Institute) : A New T-Lymphocyte Cloning Assay for Detection of In Vivo Mutations in the Human Hypoxanthine guanine phosphoribosyltransferase Gene. *Environmental and Molecular Mutagenesis* 1997 ; 30 (1) : 31-39.
- 7) Gemma A, Hagiwara K¹⁾, Vincent F¹⁾, Ke Y¹⁾, Hancock A¹⁾, Nagashima M¹⁾, Bennett W¹⁾, Harris C¹⁾ (¹⁾ Laboratory of Human Carcinogenesis, NCI/NIH) : hSmad5 gene, a member of human Smad family genes : its full length cDNA, genomic structure, promotor region and mutation analysis in human tumors. *Oncogene* 1998 ; 16 : 951-956.
- 8) Arata A, Tomoyuki F, Tatsuji E, Yasushi H, Kazutsugu U, Naotaka N, Akira M : Preventive Effect of Erythromycin on Experimental Bleomycin-Induced Acute Lung Injury. *Thorax* 1998 ; 53 : 186-189.
- 9) 阿部信二, 安藤真弘, 金子泰之, 奈良道哉, 小林国彦, 村田 朗, 吾妻安良太, 吉村明修, 高崎雄司, 工藤翔二 : 間接吸入によるイソシアネート過敏性肺臓炎の1例. *日胸* 1997 ; 56 (12) : 1034-1039.
- 10) 有吉 寛¹⁾, 忽滑谷直孝, 赤阪雄一郎²⁾, 住永雅司³⁾, 太田 潤⁴⁾, 池田正典⁵⁾, 田口鐵男⁶⁾ (¹⁾ 愛知県立がんセンター血液化学療法部, ²⁾ 東京慈恵医科大学付属柏病院泌尿器科, ³⁾ 帝京大学医学部附属溝口病院第四内科, ⁴⁾ 錦秀会阪和住吉総合病院外科, ⁵⁾ 近畿大学医学部附属病院産婦人科, ⁶⁾ がん薬物療法研究会) : Ondansetronの新剤型(口腔内崩壊錠), GG032X錠のcisplatin誘発悪心, 嘔吐に対する臨床効果. *癌と化学療法* 1997 ; 24 (8) .
- 11) 村田 朗, 金子泰之, 谷口泰之, 工藤翔二, 渋谷惇夫 : 咳嗽音の音響学的解析. *Therapeutic Research* 1997 ; 18 (9) : 2950-2955.
- 12) 谷口泰之, 村田 朗, 田中庸介, 竹中 圭, 小久保豊, 神尾孝一郎, 忽滑谷直孝, 小林国彦, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 持丸 博, 福田 悠 : 血痰で発症し, 脳転移を伴ったEpithelioid Hemangioendotheliomaの1症例. *日本胸部臨床* 1997 ; 56 (5) : 399-405.
- 13) 安藤真弘, 清家正博, 栗本太嗣, 山本和男, 渡辺秀一, 長谷川浩一, 左近司光明, 坪井栄孝, 工藤翔二 : シェーグレン症候群と縦隔リンパ節腫大を伴うリンパ球性間質性肺炎の1開胸肺生検例. *日本胸部疾患学会雑誌* 1997 ; 35 (3) : 346-351.
- 14) 安藤真弘, 小林国彦, 工藤翔二, 武田文和 : 緩和ケア用QOL調査書「ケアノート」の開発. *日医大誌* 1997 ; 64 (6) : 1-8.
- 15) 渡 潤¹⁾, 田島廣之¹⁾, 徐 向英¹⁾, 隅崎達夫¹⁾, 工藤翔二, 吉村明修, 村田 朗, 松本満臣²⁾, 宮本忠昭³⁾, 松本 徹³⁾, 矢野 侃⁴⁾ (¹⁾ 放射線科, ²⁾ 都立医療短大, ³⁾ 放医研, ⁴⁾ 荒川がん予防センター) : 肺癌一次検診察におけるらせんCTの導入. *胸部CT* 1997 ; 4 (2) : 44-47.
- 16) 榎本達治, 吾妻安良太, 村田 朗, 谷口泰之, 中広一善, 高橋卓夫, 橋元恭士, 金子泰之, 阿部信二, 工藤翔二, 判治直人¹⁾, 吉野慎一¹⁾ (¹⁾ リウマチ科) : 慢性関節リウマチ患者における肺病変の解析. *アレルギー*

1997; 46 (11) : 1156-1162.

- 17) 阿部信二, 安藤真弘, 金子泰之, 奈良道哉, 小林国彦, 村田 朗, 吾妻安良太, 吉村明修, 高崎雄司, 工藤翔二: 間接吸入によるイソシアネート過敏性肺臓炎の1例. 日本胸部臨床 1997; 56 : 1034-1039.
 - 18) 渡 潤¹⁾, 田島廣之¹⁾, 徐 向英¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 工藤翔二, 吉村明修, 村田 朗, 松本満臣²⁾, 宮本忠昭³⁾, 松本 徹³⁾, 矢野 侃⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学放射線医学教室, ²⁾ 都立医療短期大学, ³⁾ 放射線医学総合研究所, ⁴⁾ 荒川がん予防センター): 高速らせんCTを用いた肺癌一次検診システムの構築—初期臨床経験—. 映像情報MEDICAL 1997; 29 (14) : 833-838.
 - 19) 中広一善, 村田 朗, 金子泰之, 高崎雄司: 肺気腫患者における入浴の呼吸器系に及ぼす影響. 日胸疾会誌 1998; 36 (2) : 150-156.
 - 20) 高崎雄司, 太田保世, 西村正治, 川上義和, 木村 弘, 栗山喬之, 赤柴恒人, 堀江孝至, 大井元晴, 久野健志: わが国の睡眠時無呼吸症候群-全国5医療機関によるSASの病態とnasalCPAP効果の検討. 日胸疾会誌 1998; 36 (1) : 53-60.
- (2) 綜説 :
- 1) 吾妻安良太, 工藤翔二: マクロライドの構造と活性工藤翔二. 今日の感染症 (スタンダード・マッキングタイヤ) 1997; 16 (4) : 6-9.
 - 2) 高崎雄司: 睡眠時無呼吸症候群. 内科 1997; 79 (6) : 1035-1038.
 - 3) 高崎雄司, 工藤翔二: 酸塩基平衡の異常: 呼吸性アシドーシスと呼吸性アルカローシス. 日内会誌 1997; 86 (10) : 1884-1890.
 - 4) 久野健志, 赤柴恒人, 妹脊和男, 大井元春, 高崎雄司, 徳永 豊: CPAC, BIPAP, NIPPVをめぐって. 呼吸 1997; 16 (10) : 1400-1413.
 - 5) 高崎雄司, 金子泰之: 夜間に低酸素血症となる症例. 臨床医 1997; 23 (11) : 2124-2127.
 - 6) 工藤翔二: DPBの子後の改善とマクロライド療法. 日本医師会雑誌 1997; 117 (3) : 330-331.
 - 7) 工藤翔二: びまん性汎細気管支炎の病態と治療の進歩. 日本胸部疾患学会雑誌 1997; 134 : 19-24.
 - 8) 工藤翔二: びまん性汎細気管支炎・気管支拡張症. 実験 治療 1997; 646 : 55-57.
 - 9) 工藤翔二: びまん性汎細気管支炎の遺伝背景. 分子呼吸器病 1997; 1 (3) : 58-59.
 - 10) 工藤翔二: 中国, 韓国, 台湾におけるDPBの現状. 感染症と化学療法 1997; 4 (2) : 1-4.
 - 11) 工藤翔二: マクロライド系抗生剤. 第19回呼吸器セミナー 1997; 5-11.
 - 12) 工藤翔二: 薬の正しい使い方「質疑応答」主要疾患の薬物療法. 日本医師会雑誌 1997; 117 (6) : 809-825.
 - 13) 工藤翔二: ランチョンレクチャー1 副鼻腔気管支炎の病因・病態と治療の最新の考え方. 日本気管食道科学会会報 1997; 48 (2) : 142-144.
 - 14) 工藤翔二: 結核症の基礎知識 (日本結核病学会教育委員会). 結核 1997; 72 (9) : 523-545.
 - 15) 工藤翔二, 福田 悠, 安藤真弘: 呼吸器疾患・結核 わが国における呼吸器疾患の現状と課題. 資料と展望 1997; 7 (22) : 11-26.
 - 16) 渋谷昌彦: 日本癌治療学会薬物有害反応判定基準について. 癌と化学療法 1997; 24 : 2036-2041.
 - 17) 渋谷昌彦: 放射線肺臓炎の早期診断と治療. THE LUNG perspectives 1997; 5 (3) : 96-97.
 - 18) 小久保豊: 知っておきたいことアラカルト: かぜ症候群. Medical Practice 1997; 14 (7) : 1196-1197.
 - 19) 吾妻安良太: Bispecific抗体療法 (サイトカインと臨床). Surgery Frontier 1997; 4 (2) : 87-93.
 - 20) 吾妻安良太, 工藤翔二: 最近のトピック; びまん性汎細気管支炎. 小児呼吸器病学会誌 1997; 8 (2) : 144-149.
 - 21) 吾妻安良太, 工藤翔二: マクロライド抗生物質と抗炎症作用. アレルギー科 1997; 4 (3) : 303-308.
 - 22) 吉村明修, 工藤翔二: 肺化膿症・膿胸. 総合臨床 1997; 46 : 924-928.
 - 23) 弦間昭彦: 細胞周期制御因子と癌抑制遺伝子候補. 日医大誌 1997; 64 (3) : 72-73.

- 24) 高崎雄司, 金子泰之: 睡眠時無呼吸症候群に対する在宅人工呼吸. The LUNG perspective 1998; 6 (1): 37-41.
 - 25) 高崎雄司, 金子泰之, 工藤翔二: COPDの急性増悪の病態. 集中治療 1998; 10 (3): 253-261.
 - 26) 安藤真弘, 渋谷昌彦: 癌マーカーによるスクリーニング. medicina 1998; 35 (3): 446-448.
 - 27) 倉根修二: 結核後遺症としての膿胸原発リンパ腫. モダンフィジシャン 1998; 18 (3): 291-293.
 - 28) 吾妻安良太, 工藤翔二: マクロライド (抗生剤) の長期投与. 臨床成人病 1998; 28: 86-90.
- (3) 研究報告書:
- 1) 工藤翔二: 呼吸器系疾患調査研究班びまん性肺炎分科会. 厚生省特定疾患平成9年度研究報告書 1997.
 - 2) 工藤翔二, 村田 朗, 谷口康之, 橋元恭士: 呼吸音のデジタル解析による, 自動解析システムの開発に関する研究 (研究課題番号08670684). 厚生省科学研究 (基盤研究C2) 研究成果報告書 1998.

著 書

- 1) 村田 朗, 工藤翔二: [分担] 肺音分析法. 日本臨床増刊号 現代臨床肺機能検査—その実際と解釈—, 1997; pp80-83, 日本臨床社.
- 2) 村田 朗, 工藤翔二: [分担] 肺音分析法. 日本臨床増刊号 現代臨床肺機能検査—その実際と解釈—, 1997; pp80-83, 日本臨床社.
- 3) 高崎雄司: [分担] 睡眠呼吸障害. 今日の診断指針 第4版 (亀山正邦, 亀田治男, 高久史麿, 阿部令彦総編集), 1997; 医学書院.
- 4) 工藤翔二: [自著] 慢性気道感染症の病態とマクロライド療法. 最新内科学体系プロGRESS11, 1997; pp134-148, 中山書店.
- 5) 工藤翔二, 原沢道美, 仁井谷久暢: [監修] A.解剖・生理・症候 改訂. 呼吸器診療のための規約と基準, 1997; 現代医療社.
- 6) 工藤翔二: [自著] わが国における呼吸器疾患の現状と動向. today's diagnosis 4th edition, 1997; p866, 医学書院.
- 7) 村田 朗, 工藤翔二: [分担] 慢性呼吸不全の病態と在宅酸素療法. 看護, 1997; pp169-178, 日本看護協会出版会.
- 8) 忽滑谷直孝: [分担] 第35回日本癌治療学会関連特集 癌治療最新の話 癌化学療法と制吐. MEDICAL NEWS1560号, 1997; pp16-17, ライフサイエンス.
- 9) 忽滑谷直孝, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 仁井谷久暢: [分担] 疼痛対策. 肺癌診療ハンドブック, 1997; pp208-213, 中外出版.
- 10) 渋谷昌彦, 工藤翔二, 和田 攻, 大久保昭行, 永田直一, 矢崎義雄: [分担] 肺癌. 内科治療ガイド'97, 1997; pp292-296, 文光堂.
- 11) 渋谷昌彦, 工藤翔二, 和田 攻, 大久保昭行, 永田直一, 矢崎義雄: [分担] 肺癌. 内科治療ガイド'98, 1997; pp297-301, 文光堂.
- 12) 渋谷昌彦, 仁井谷久暢, 阿部令彦: [分担] 癌治療の効果判定. 癌治療の知識, 1997; pp459-472, 篠原出版.
- 13) 村田 朗, 工藤翔二: [分担] 慢性呼吸不全の病態と在宅酸素療法. 慢性呼吸不全の病態と在宅酸素療法, 1997; pp169-178, 日本看護協会出版会.
- 14) 村田 朗, 工藤翔二, 原沢道美, 仁井谷久暢: [共著] A解剖・生理・症候. 呼吸器診療のための規約と基準, 1997; pp2-79, 現代医療社.
- 15) 高崎雄司, 金子泰之: [分担] 睡眠時無呼吸症候群. 呼吸器疾患最新の治療 1998-2000 (工藤翔二, 中田絢一郎, 貫和敏博編), 1998; 南江堂.
- 16) 工藤翔二: [自著] 特集: 私の第一選択薬 びまん性汎細気管支炎. 治療, 1998; p80, 南江堂.

- 17) 工藤翔二：〔自著〕新しい動向とその臨床的意義。慢性気道感染症とマクロライド Medical Practice, 1998；文光堂。
- 18) 工藤翔二：〔自著〕特集：気管支炎の治療-薬物療法を中心に一気道における感染と炎症, 1998；pp491-494, 今月の治療。
- 19) 村田 朗, 和田 攻, 大久保昭行, 永田直一, 矢崎義雄：〔分担〕胸水。臨床検査ガイド'98, 1998；pp1001-1004, 文光堂。
- 20) 渋谷昌彦, 工藤翔二, 中田紘一郎：〔分担〕抗癌剤の副作用。呼吸器疾患最新の治療（1998-2000）, 1998；pp320-322, 南江堂。
- 21) 渋谷昌彦, 大野泰亮, 原沢道美, 仁井谷久暢, 工藤翔二：〔分担〕肺癌。改訂呼吸器診療のための規約と基準, 1998；pp128-145, 現代医療社。
- 22) 谷口泰之, 工藤翔二, 中田紘一郎, 貫和敏博：〔分担〕メタリックステントによる気道狭窄治療。呼吸器疾患最新の治療1998-2000, 1998；pp97-100, 南江堂。

学会発表

〔1996年度追加分〕

一般講演：

- 1) Kobayashi K, Soma T, Shinbara A, Kudoh K, Kabe J, Hino M, Shibuya M, Kudoh S：Phase I study of irinotecan (CPT-11) and cisplatin (CDDP) by divided administration in patients with non-small cell lung cancer (NSCLC). American Society of Clinical Oncology, 1996.
- 2) 小林国彦, 工藤宏一郎¹⁾, 可部順三郎¹⁾, 日野光紀, 渋谷昌彦, 工藤翔二 (¹⁾ 国際医療センター)：分割投薬によるシスプラチン (CDDP) とイリノテカン (CPT-11併用) の第1相試験。日本癌治療学会総会, 1996. 10.
- 3) 小林国彦, 松崎靖司, 渋谷昌彦, 工藤翔二：胆汁酸負荷試験によるCPT-11誘発下痢の予測。日本癌学会総会, 1996. 10.
- 4) 小林国彦：がん克服戦略事業「がん患者の緩和ケアに関する研究」班QOL質問紙表ケアノートの開発。がん克服戦略事業「がん患者の緩和ケアに関する研究」班会議, 1996.

(1) シンポジウム：

- 1) Azuma A, Takahashi S, Enomoto T, Hashimoto Y, Takahashi T, Kudoh S：E-SELECTION AS AN ESSENTIAL FACTOR OF BLEOMYCIN INDUCED LUNG FIBROSIS IN MICE. International Conference of American Thoracic Society (San Francisco, USA), 1997. 5.
- 2) 吉村明修：「抗がん剤による肺障害」Irinotecan. 第1回新抗がん剤東京フォーラム, 1997. 8.

(2) パネルディスカッション：

- 1) Murata A, Taniguchi Y, Kaneko Y, Kudoh S, Shibuya A, Mori M：Discrimination of productive cough and non-productive cough by sound analysis. International Conference of American Thoracic Society (San Francisco, USA), 1997. 5.
- 2) Hibino S, Kobayashi K, Shinbara A¹⁾, Kudoh K¹⁾, Yoshimura A, Shibuya M, Kudoh S (¹⁾ 国立国際医療センター)：Phase I study of irinotecan (CPT-11) and cisplatin (CDDP) by divided administration in patients with non-small cell lung cancer (NSCLC). 8th World Conference on Lung Cancer, 1997. 8.
- 3) 村田 朗, 谷口泰之, 橋元恭士, 金子泰之, 工藤翔二：音響解析による湿性咳嗽と乾性咳嗽の識別。第94回日本内科学会, 1997. 4.

(3) ワークショップ：

- 1) 吉村明修, 工藤翔二, 福岡正博¹⁾, 石岡伸一²⁾, 鈴木栄一³⁾, 松井 薫⁴⁾ (¹⁾ 近畿大学第四内科, ²⁾ 広島大学第二内科, ³⁾ 新潟大学第二内科, ⁴⁾ 府立羽曳野病院第二内科)：医原性肺疾患-現況と対策：抗癌剤による肺障害。第38回日本呼吸器学会総会, 1997. 4.
- 2) 吾妻安良太, 高橋 智, 能勢真人, 工藤翔二：可溶性E-selectinによる肺線維症の抑制。日本炎症学会総会, 1997. 11.

(4) 一般講演：

- 1) Kurane S, Krauss J¹⁾, Watari E²⁾, Chang A³⁾, Kudoh S (¹⁾ Cleveland Clinic Foundation, ²⁾ Dept . of Microbiology and Immunology, Nippon Medical School, ³⁾ University of Michigan)：Targeting gene therapy to cancer cells with a monoclonal antibody and plasmid complex. American Association for Cancer Research (San Diego, USA), 1997. 4.
- 2) Nakahiro K, Murata A, Kaneko Y, Takasaki Y, Kudoh S：Effect of bathing with COPD patients. International Conference of American Thoracic Society (San Francisco, USA), 1997. 5.
- 3) Enomoto T, Azuma A, Hashimoto Y, Takahashi T, Maruta A, Kudoh S：THE ROLE OF NEUTROPHIL ELASTASE AND ACTIVE OXYGEN IN BLEOMYCIN-INDUCED LUNG FIBROSIS IN MICE. International Conference of American Thoracic Society (San Francisco, USA), 1997. 5.
- 4) Takahashi T, Aso S, Azuma A, Abe S, Murata A, Ohara K, Ohota S, Kudoh S (¹⁾ Division of Biochemistry Institute of Gerontology)：High Expression of Bcl-2 Proteins in BALF Cells from Patients with Sarcoidosis. International Conference of American Thoracic Society (San Fransisco, USA), 1997. 5.
- 5) Shimada K, Goto H, Inamatsu T, Sano Y, Yamato K, Horiuchi T, Ishihara A, Kikuchi N, Morinari H, Nakada K, Kimura H, Murai Y, Kawakami M¹⁾, Suzuki H, Tanaka T, Oritu M, Kudo S (¹⁾ Tokyo Study Group of Psnipnrm/Betamipron for Respiratory In)：Efficacy and safety of panipenem/betamipron in respiratory infection of aged people. 第20回国際化学療法学会, 1997. 6.
- 6) Kokubo Y, Shibuya M, Hino M, Azuma A, Datong Z, Kudoh S：Effect of Clarithromycin on Experimental Lung metastasis. INTERNATIONAL CONGRESS OF CHEMOTHERAPY (SYDNEY, AUSTRALIA), 1997. 6.
- 7) Azuma A, Kudoh S：E-SELECTION AS AN ESSENTIAL FACTOR OF BLEOMYCIN INDUCED LUNG FIBROSIS IN MICE. Lung Development Confence, 1997. 6.
- 8) Burke L, Khan M, Freedman A, Rusin M, Gemma A, Guinee J, Bennett W, Caporaso N, Fleming M, Travis W, Colby T, Trastek V, Pairolero P, Tazelaar H, Midthun D, Liotta L, Harris C：Allelic deletion analysis of the fragile histidine triad (FHIT) gene in non-small cell lung cancer (NSCLC). 8th World Conference on Lung Cancer Ireland, 1997. 8.
- 9) Ishihara Y¹⁾, Sakai H²⁾, Kobayashi K³⁾, Nukariya N³⁾, Yoneda S²⁾, Matsuoka R⁴⁾, Hojo N⁵⁾, Nishiwaki Y⁵⁾, Hoshi A⁶⁾, Kuratomi Y⁶⁾, Nagai A⁶⁾, Kagawa J¹⁾, Kitamura S⁶⁾ (¹⁾ Tokyo Women's Med. Uni., ²⁾ Saitama Cancer Center, ³⁾ Nippon Med. School, ⁴⁾ Koritu Showa Hosp., ⁵⁾ National Cancer Center East Hosp., ⁶⁾ Jichi Med. School)：New approach for evaluation of QOL questionarie on comparison with two kinds of chemotherapy in patients with advanced lung cancer. 8th Conferance of Lung Cancer 1998, 1997. 9.
- 10) Takahashi T, Aso S, Azuma A, Abe S, Murata A, Ohara , Ohota S, SKudoh S, S, Kudoh：The Expression of Bcl-2 and Bcl-xL Proteins in BALF Cells Prepared from Sarcoidosis Patients. 5th World Association of Sarcoidosis and Other Granulomatous disease (Essen Germany), 1997. 9.
- 11) Shibuya M, Kokubo Y, Hibino S, Ono Y, Tekechi A, Aoyama A, Matsuda K, Zou D, Kudoh S：

- Inhibitory Effect of Clarithromycin on Experimental Lung Metastasis. The 4th Internatinal Coference on the macrolides, Azalides, Streptogramines & Ketolides (Barcelona, Spain), 1998. 1.
- 12) Takasaki Y, Ohta Y, Nishimura M, Kawakami Y, Kimura H, Kuriyama T, Akashiba T, Horie T, Ohi M, Kuno K : Sleep apnea syndrome in Japan : An analysis of its charaateristics in nasal CPAP effectiveness. International Conferance of American Thoracic Society (San Fransisco, USA), 1998. 5.
 - 13) Ono Y, Takasaki Y, Kamio K, Kamiya U, Iga T, Kobayasi T, Kikuchi N, Matsuura Y, Ohta Y, Yamabayasi H : Effect of nasal CPAP treatment on platect aggregation in obstructive sleep apnea. International Conferance of American Thoracic Society (San Fransisco, USA), 1998. 5.
 - 14) 谷口泰之, 村田 朗, 橋元恭士, 金子泰之, 工藤翔二, 毛利昌史 : 音響解析による湿性咳嗽と乾性咳嗽の識別. 第37回日本胸部疾患学会総会, 1997. 4.
 - 15) 中広一善, 金子泰之, 村田 朗, 高崎雄司, 工藤翔二 : 肺気腫患者における入浴の影響と指導についての検討. 第37回日本胸部疾患学会総会, 1997. 4.
 - 16) 中広一善, 村田 朗, 金子泰之, 高崎雄司, 工藤翔二 : 肺気腫患者における入浴の呼吸器系に及ぼす影響と指導に関する検討. 第94回日本内科学会, 1997. 4.
 - 17) 安藤真弘, 小久保豊, 篠田欣也, 日比野俊, 忽滑谷直孝, 小林国彦, 倉根修二, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二 : 非小細胞肺癌に対するCDDP+UFT療法のPILOT STUDY. 第37回日本胸部疾患学会総会, 1997. 4.
 - 18) 篠田欣也, 小林国彦, 新原礼子, 小久保豊, 安藤真弘, 竹中 圭, 日比野俊, 忽滑谷直孝, 倉根修二, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤宏一郎, 工藤翔二 : Weekly分割投与によるシスプラチン (CDDP) とイリノテカン (CPT-11) 併用第I相試験. 第37回日本胸部疾患学会総会, 1997. 4.
 - 19) 榎本達治, 吾妻安良太, 持丸 博, 橋元恭士, 高橋卓夫, 村田 朗, 工藤 : プレオマイシン肺傷害に対するONO-5046, Rebamipideの作用. 第37回日本胸部疾患学会総会, 1997. 4.
 - 20) 谷口泰之, 村田 朗, 橋元恭士, 金子泰之, 工藤翔二, 毛利昌史¹⁾ (1) 国療東京病院) : 音響解析による湿性咳嗽と乾性咳嗽の識別. 第37回日本胸部疾患学会総会, 1997. 4.
 - 21) 吾妻安良太, 高橋 智, 榎本達治, 橋元恭士, 高橋卓夫, 宮本晴子, 村田 朗, 工藤翔二 : プレオマイシン肺傷害の好中球接着におけるE selection (CD62E) の関与. 第37回胸部疾患学会総会, 1997. 4.
 - 22) 阿部信二, 高橋卓夫, 麻生定光¹⁾, 吾妻安良太, 橋元恭士, 榎本達治, 植松和嗣, 村田 朗, 吉村明修, 工藤翔二, 太田成男¹⁾ (1) 老人病研究所) : サルコイドーシス患者のBALF細胞におけるアポトーシス抑制因子の関与. 第37回胸部疾患学会総会, 1997. 4.
 - 23) 工藤翔二, 村田 朗, 中広一善, 谷口泰之, 大山裕子, 千葉弘子, 後藤 元, 岡村 樹, 上村鈴子, 斉藤いし, 村井容子, 太田 隆, 石川 朗 : 高齢患者に対する症状の把握, 日常生活行動の程度に基づくケアの指標化. 公害健康被害補償予防協会 第8回研究懇話会, 1997. 5.
 - 24) 小久保豊, 渋谷昌彦, 日野光紀, 吾妻安良太, 青山昭徳, 松田久仁子, 鄒 大同, 工藤翔二 : クラリスロマイシンの実験的肺転移に及ぼす影響. 第4回マクロライド新作用研究会, 1997. 7.
 - 25) 吉村明修, 安藤真弘, 忽滑谷直孝, 村田 朗, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 渡 潤¹⁾, 田島広之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 矢野 侃²⁾, 松本満臣³⁾, 宮本忠昭⁴⁾, 松本 徹⁴⁾ (1) 放射線科, 2) 荒川区がん予防センター, 3) 都立医療技術短期大学, 4) 放射線医学総合研究所) : ヘリカルCTによる肺癌1次検診の試み. 厚生省がん研究助成金「微小肺癌の診断および治療法の開発に関する研究」, 1997. 7.
 - 26) 吉村明修 : FK-973. 第1回新抗がん剤東京フォーラム, 1997. 8.
 - 27) 吉村明修, 安藤真弘, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 渡 潤¹⁾, 田島広之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 矢野 侃²⁾, 松本満臣³⁾, 宮本忠昭⁴⁾, 松本 徹⁴⁾ (1) 放射線科, 2) 荒川区がん予防センター, 3) 都立医療技術短期大学, 4) 放射線医学総合研究所) : らせんCTによる肺癌1次検診-CR 検診との比較/CT検診発見肺癌の特徴. 平成9年度第2回らせんCT

- 肺癌検診システム開発評価班・班会議, 1997. 8.
- 28) 倉根修二, 松田久仁子, 細谷曜子, 工藤翔二: 組織特異的プロモーターとモノクローナル抗体を併用した癌標的遺伝子治療の試み. 日本癌学会, 1997. 9.
- 29) 高橋卓夫, 吾妻安良太, 持丸 博, 阿部信二, 宮本晴子¹⁾, 橋元恭士, 榎本達治, 村田 朗, 高崎雄司, 工藤翔二, 大原國俊¹⁾, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾ (¹⁾ 眼科, ²⁾ 老人病研究所): サルコイドーシス患者のBALF細胞におけるアポトーシス抑制因子の関与. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 30) Gemma A, Hagiwara K¹⁾, Nagashima M¹⁾, Harris C¹⁾ (¹⁾ Laboratory of Carcinogenesis, NCI/NIH): FHIT mutations in human primary gastric cancer. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 31) 弦間昭彦, Harris C¹⁾ (¹⁾ Laboratory of Carcinogenesis, NCI/NIH): 細胞周期調節因子と癌抑制候補遺伝子. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 32) 倉根修二, 渡理英二¹⁾, 渋谷昌彦, 工藤翔二 (¹⁾ 日本医科大学微生物免疫): SCIDマウス移植肺腺癌に対するCEA 特異的プロモーターとモノクローナル抗体を併用した標的遺伝子治療の効果. 日本癌治療学会, 1997. 10.
- 33) 篠田欣也, 竹中 圭, 日比野俊, 竹田雄一郎, 松田久仁子, 渋谷昌彦, 武市朗子, 小野 靖, 工藤翔二: ヒト肺癌高転移株の樹立とインテグリン変化検討. 第38回日本肺癌学会総会, 1997. 11.
- 34) 清家正博, 植松和嗣, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二: 肺癌を合併した特異性間質性肺炎 (IIP) の臨床的特徴. 第38回日本肺癌学会総会, 1997. 11.
- 35) 武村 明, 池田 徹¹⁾, 酒井 洋¹⁾, 野口行雄¹⁾, 米田修一¹⁾, 窪倉浩俊²⁾, 秋山博彦²⁾, 西村仁志²⁾, 山本充伸²⁾, 外山勝弘³⁾, 楢本智子³⁾, 加藤真吾³⁾, 佐倉瑞良³⁾, 出雲俊之⁴⁾, 土屋永寿⁴⁾ (¹⁾ 埼玉県立がんセンター呼吸器科, ²⁾ 埼玉県立がんセンター胸部外科, ³⁾ 埼玉県立がんセンター放射線科, ⁴⁾ 埼玉県立がんセンター臨床病理部): III期非小細胞肺癌に対する三者併用療法 (化学療法・放射線療法・手術) についての検討. 第38回日本肺癌学会, 1997. 11.
- 36) 吉村明修, 安藤真弘, 忽滑谷直孝, 村田 朗, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 渡 潤¹⁾, 田島広之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 矢野 侃²⁾, 松本満臣³⁾, 宮本忠昭⁴⁾, 松本 徹⁴⁾ (¹⁾ 放射線科, ²⁾ 荒川区がん予防センター, ³⁾ 都立医療技術短期大学, ⁴⁾ 放射線医学総合研究所): ヘリカルCTによる肺癌1次検診の試み. 第38回日本肺癌学会総会, 1997. 11.
- 37) 安藤真弘, 吉村明修, 忽滑谷直孝, 村田 朗, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 渡 潤, 徐 向英, 田島広之, 隈崎達夫, 矢野, 松本満臣, 宮本忠昭, 松本 徹: 荒川区がん予防センターにおけるヘリカルCTによる肺癌1次検診の試み. 第5回日本がん検診・診断学会, 1997. 12.
- 38) 安藤真弘, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 渡 潤, 徐 向英, 田島広之, 隈崎達夫, 矢野 侃, 松本満臣, 宮本忠昭, 松本 徹: ヘリカルCT肺癌検診により発見された肺癌症例の検討. 第120回日本肺癌学会関東部会, 1997. 12.
- 39) 小久保豊, 渋谷昌彦, 日野光紀, 日比野俊, 吾妻安良太, 青山昭徳, 松田久仁子, 鄒 大同, 工藤翔二: クラリスロマイシンによる実験的肺転移に及ぼす影響. 日本BRM学会, 1997. 12.
- 40) 安藤真弘, 小林国彦, 文元日和, 忽滑谷直孝, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 長谷川浩一, 坪井栄孝, 武田文和: 緩和ケア用QOL調査書「ケアノート」の開発. 第38回日本肺癌学会総会 仙台, 1997.
- 41) 清家正博, 服部達也, 植松和嗣, 吾妻安良太, 吉村明修, 高崎雄司, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 逸見しのぶ, 持丸博, 福田 悠: アルミニウム肺に顕微鏡的多発動脈炎を合併した1例. 第132回日本呼吸器学会関東地方会, 1997.
- 42) 渡 潤, 田島広之¹⁾, 吉村明修, 安藤真弘 (¹⁾ 放射線科): らせんCTによる肺癌1次検診-荒川区がん予防センターにおける成績. 平成9年度第1回らせんCT肺癌検診システム開発評価班・班会議, 1997.
- 43) 吾妻安良太, 橋元恭士, 榎本達治, 阿部信二, 宮本晴子, 高橋卓夫, 工藤翔二: プレオマイシン誘発肺線維症のマクロライド系抗生物質による抑制機序の解析. 第38回日本呼吸器学会総会, 1998. 3.

- 44) 児島利哉, 橋本 修, 権寧 博, 淀井淳司, 吾妻安良太, 工藤翔二, 福田 悠, 堀江孝至: 間質性肺疾患におけるヒトTioredoxin発現の検討. 第38回日本呼吸器学会総会, 1998. 3.
- 45) 武村 明, 黒木麗喜, 外山勝弘, 酒井 洋, 野口行雄, 米田修一: 肺癌における副腎転移の臨床的検討. 第38回日本呼吸器学会総会, 1998. 3.
- 46) 清家正博, 植松和嗣, 吉村明修, 高崎雄司, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 竹中 圭¹⁾, 神尾孝一郎¹⁾, 岡野哲也¹⁾, 山本和男¹⁾, 渡辺秀一¹⁾, 長谷川浩一¹⁾ (¹⁾ 坪井病院内科): 特発性間質性肺炎 (IIP) に合併肺癌の臨床的特徴と肺癌治療に伴うIIP急性増悪についての検討. 第38回日本呼吸器学会総会, 1998. 4.

5. 精神医学講座

[付属病院神経科・第一病院神経科（多摩永山病院神経科）・千葉北総病院神経科・付属病院東洋医学科]

研究概要

精神生理学，時間生物学，脳画像などの生物学的研究をはじめ，コンサルテーション・リエゾン精神医学，精神科救急，社会精神医学，パセドウ精神障害，セネストパチー，心身症などの臨床研究，力動精神医学など多岐にわたる研究が行われた。

精神生理学的研究では，気分障害を対象として定量脳波分析や事象関連電位に加え本年度はSPECTによる脳血流量の検討が活発におこなわれ，これらの間の関連が追及された。さらに，老年うつ病の症状と脳血流量にたいするbifemelaneの影響も検討された。また，新しい方法論としてフラクタル解析の脳波応用の際の様々なbiasについての基礎的研究が精力的に進められた。ストレス負荷に対する香りの影響にたいする精神生理学的研究では事象関連電位，定量脳波分析のほか，フラクタル解析による検討がおこなわれた。時間生物学的研究では，うつ病の概日リズムや抗うつ薬の及ぼす影響についてPSG, MSLT および睡眠調査票を用いた研究に体温リズムを加えた検討が進められている。また，老人痴呆患者の概日リズムについて，PSG，アクチグラフ，メラトニン量などの研究が開始された。さらに，zopicloneなど睡眠薬投与時の脳波パワーやPSGについて定量薬物脳波研究も行われた。

コンサルテーション・リエゾン精神医学領域では，ICU 入院のアルコール関連患者の検討，脊椎手術患者の精神心理学的側面についての研究がさらに進められ，また，せん妄の脳血流量など従来のICU症候群や術後精神障害研究に新しい研究側面が加わった。

社会精神医学研究では，慢性精神障害者のリハビリテーション施設である援護寮に関する問題や重度痴呆患者デイケアなどが研究された。心身医学では，従来からのパセドウ精神障害につき特にその長期経過を中心に研究され，また，歯科領域の愁訴をもつ患者の心身医学的検討が開始された。さらに，視覚障害の訴えを伴った全生活史健忘をはじめとする珍しいいくつかの症例報告がなされた。力動精神医学領域では，不登校生のエディプス・コンプレックスや転移の問題が研究された。

東洋医学科では不定愁訴や更年期障害の東洋医学的病態についての研究が開始された。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Okawa M¹⁾, Yamadera H (¹⁾ National Center of Neurology and Psychiatry) : Vitamine B12 treatment for delayed sleep phase syndrome : A multi-center double-blind study. Psychiatry and Clinical Neurosciences 1997 ; 51 : 275-279.
- 2) Yamadera H, Kato M¹⁾ (¹⁾ National Center Hospital for Mental, Nervous and Muscular Dis) : Relationship between the effects of a hypnotic drug, zopiclone, on polysomnography and on daytime EEGs. Neuropsychobiology 1997 ; 35 (3) : 152-155.
- 3) Yamadera H, Kato M¹⁾ (¹⁾ National Center Hospital for Mental, Nervous and Muscular Dis) : Zopiclone versus diazepam effects on EEG power maps in healthy volunteers. Acta Neurobiologiae Experimentalis 1997 ; 57 (2) : 151-155.
- 4) Shimoda K, Robinson R : Effect of anxiety disorder on impairment and recovery from stroke. The Journal

- of Neuropsychiatry and Clinical Neurosciences 1998; 1 (Winter): 34-40.
- 5) 遠藤幸彦, 守屋直樹¹⁾, 皆川邦直²⁾ (¹⁾ 社会保険埼玉中央病院, ²⁾ 東京都精神医学総合研究所): 不登校生徒における精神療法とエディプスコンプレックス. 精神科治療学 1997; 12 (6): 699-708.
 - 6) 山寺博史, 加藤昌明¹⁾, 上埜高志²⁾, 鈴木英朗, 中村秀一, 大熊輝雄³⁾ (¹⁾ 国立精神神経センター武蔵病院, ²⁾ 東北大学教育学部, ³⁾ 国立精神神経センター): 開眼時脳波に及ぼすdiazepamのトポグラフィーの研究. 日本神経精神薬理学雑誌 1997; 17 (3): 137-143.
 - 7) 竹澤健司, 黒澤 尚, 柴田靖史¹⁾, 遠藤俊吉 (¹⁾ 高度救命救急センター): アルコール関連問題患者の研究—若年酩酊者を中心に—. 日本アルコール精神医学雑誌 1997; 4 (1): 61-65.
 - 8) 岸 泰宏, 黒澤 尚, 佐々木高伸¹⁾, 東谷慶昭²⁾ (¹⁾ 社会保険広島市民病院, ²⁾ 山形県立中央病院): 総合病院精神科の機能はどうあるべきか—ラウンドテーブル・ディスカッションの結果から—. 総合病院 精神医学 1997; (9): 131-134.
 - 9) 今井理子, 木村真人, 鈴木博子, 森 隆夫: ストレス負荷に対する香りの精神生理学的効果—脳波と事象関連電位を用いた検討—. 催眠と科学 1997; 12 (1): 26-33.
 - 10) 竹澤健司, 森 隆夫, 鬼頭 諭, 木村真人, 鈴木博子, 葉田道雄, 下田健吾, 河野貴美子¹⁾, 遠藤俊吉 (¹⁾ 情報科学センター): ストレス負荷に対する香りの精神生理学的研究—フラクタル次元解析を用いた検討—. 催眠と科学 1997; 12 (1): 35-40.
 - 11) 黒木宣夫¹⁾, 桂川修一¹⁾, 小堀俊一²⁾, 金子晃一³⁾, 佐藤茂樹⁴⁾, 田原明夫⁵⁾, 山根巨州⁶⁾, 保坂 隆⁷⁾, 黒澤 尚 (¹⁾ 東邦大学佐倉病院, ²⁾ 東京労災病院, ³⁾ 小出病院, ⁴⁾ 成田赤十字病院, ⁵⁾ 京都市立病院, ⁶⁾ 鳥根県立中央病院, ⁷⁾ 東海大学医学部附属病院): 総合病院精神科の適正配置と臨床研修指定病院精神科. 総合病院精神医学 1997; 9 (2): 104-118.
 - 12) 山寺博史: 睡眠・覚醒リズムにおけるトリアゾラム療法. ハルシオン症例報告集—1 Scope 1997; 36 (10): 4-5.
 - 13) 遠藤幸彦: 転移の取り扱いはなぜ重視されるのか. 精神科治療学 1998; 13 (1): 118-120.
- (2) 綜説:
- 1) Kurosawa H: ICU syndrome. Aisan Medical Journal 1997; 40: 198-203.
 - 2) 藤波茂忠: 特集: プライマリケアでの実践: 専門医との連携 (臓器症状) の特徴 精神異常. 臨床と薬物治療 1997; 16 (4): 323-325.
 - 3) 黒澤 尚: 「ICU症候群」を考える. 集中治療 1997; 471-474.
 - 4) 岸 泰宏, 黒澤 尚: 精神的ダメージを受けている傷病者への接し方. 救急医療 ジャーナル 1997; 5 (6): 15-18.
 - 5) 木村真人: うつ病の外来治療. Modern Physician 1997; 17 (6): 795.
 - 6) 鈴木博子, 木村真人, 森 隆夫, 遠藤俊吉: 全般性不安障害 (精神疾患の治療薬). Clinical Neuroscience 1997; 15 (6): 666-668.
 - 7) 鈴木博子: うつ病者の大脳半球機能—脳波でうつ病の病態にせまる. 医学のあゆみ 1997; 182 (2): 140-141.
 - 8) 黒澤 尚: ICU症候群という用語の使用をやめよう. 治療学 1997; 1009.
 - 9) 森 隆夫: ドクター教育の光と影 (1) —医療の基本は患者と医師の信頼関係—. 病院経営新事情 1997; (151): 31-35.
 - 10) 森 隆夫: ドクター教育の光と影 (2) —人間的教育は大学では不可能か—. 病院経営事情 1997; (153): 39-43.
 - 11) 鈴木英朗, 黒澤 尚: 精神神経疾患患者の救急医療. 日本医事新報 1997; (3833): 22-27.
 - 12) 森 隆夫: ドクター教育の光と影 (3) —研修医教育は育てる側の判断が重要—. 病院経営事情 1997; (155): 43-48.

- 13) 森 隆夫：採用面接にみる人の見方，採り方—人材採用の面接時の場面づくり—。婦長主任新事情 1997；(41)：12-14.
 - 14) 森 隆夫：ドクター教育の光と影 (4) —研修医に求められる医療経済の勉強—。病院経営新事情 1997；(157)：45-49.
 - 15) 黒澤 尚：Critical care unitの場でみられる精神症状と対応。心療内科 1997；1：293-297.
 - 16) 黒澤 尚：日本総合病院精神医学会について。精神医学 1997；39：1138-1139.
 - 17) 木村真人：睡眠相遅延症候群 (Delayed Sleep Phase Syndrome；DSPS) の診断と治療。Modern Physician 1997；17 (12)：1427.
 - 18) 山寺博史：(特集：抗てんかん薬) 抗てんかん薬の併用，副作用 (相互作用)。医薬ジャーナル 1997；33：69-73.
 - 19) 山寺博史，伊藤敬雄：MTゼミナール メラトニンと睡眠・覚醒リズム障害。Medical Terminology 1997；25：1260-1262.
 - 20) 岸 泰宏：てんかん。てんかん 1997；48：1641-1647.
 - 21) 森 隆夫：ドクター教育の光と影 (5) —研修医の一週間—。病院経営事情 1998；(159)：44-48.
 - 22) 森 隆夫：看護婦の新人教育—新入職者教育のポイント—。婦長主任事情 1998；(48)：5-7.
 - 23) 山寺博史：(特集：睡眠薬) 開発中の睡眠薬。日本臨床 1998；56：515-520.
 - 24) 森 隆夫：ドクター教育の光と影 (6) —研修医 (救急医) のとある一日—。病院経営新事情 1998；(162)：44-48.
 - 25) 鈴木英朗：反復性過眠症。日本臨床 1998；56 (2)：95-100.
 - 26) 森 隆夫：ドクター教育の光と影 (7) —博士号と海外留学—。病院経営新事情 1998；(164)：45-49.
- (3) Proceeding：
- 1) Kito S, Mori T, Kimura M, Takezawa K, Hada M, Endo S, Watanabe N：The stochastic process of EEG：In terms of the fractal dimension. Biol Psychiatry (Supple) 1997；42：50.
 - 2) Kimura M, Mori T, Suzuki H, Hada M, Endo S：Scalp distribution of EEG power and P300 amplitude in depression. Biol Psychiatry (Supple) 1997；42：259.
- (4) 学会印象記：
- 1) 森 隆夫：第25回日本精神病院協会精神医学会印象記。日精協雑誌 1997；16 (5)：90-91.
 - 2) 遠藤俊吉：第9回日本アルコール精神医学会。日本アルコール精神医学会雑誌 1997；(4)：187-188.
 - 3) 下田健吾：アイオワ留学記。Medical World 1997；22 (9)：16.

著 書

〔1996年度追加分〕

- 1) Hada M, Kito S, Kimura M, Suzuki H, Mori T, Yamadera H, Endo S：〔分担〕Lateralization of N100 and P300 components event-related potentials in depression. Recent advanced in event-related brain potential research (eds. by C Ogura, Y Koga, M Schimokouchi). The 11th International Conference in Event-related Potential (EPIC), 1996；pp1015-1018, Elsevier, Amsterdam.
- 1) Tateno A, Hada M, Kimura M, Mori T, Suzuki H, Endo S, Mizumura S¹⁾ (1) Department of Radiology)：〔分担〕P3 and rCBF characteristics of patients with major depression in depressed and remitted phases. Brain Topography Today (Y Koga, K Nagata and K Hirata eds), 1998；pp445-449, Elsevier Science B.V..

- 2) Yamadera H, Kato M¹⁾, Tsukahara Y¹⁾, Kajimura N¹⁾, Okuma T¹⁾ (¹⁾ National Center Hospital for Mental, Nervous and Muscular Dis) : [分担] Effects of zopiclone on polysomnography and daytime EEG-vigilance controlled EEG and resting EEG. Brain Topography Today (Y Koga, K Nagata and K Hirata eds), 1998 ; pp697-702, Elsevier Science B.V..
- 3) 黒澤 尚 : [共著] 術後精神障害の考え方. ベッドサイド管理の手引き (編集 : 玉熊正悦 他), 1997 ; pp583-587, 医歯薬出版.
- 4) 長谷川朝穂, 黒澤 尚 : [共著] 精神科救急外来. 精神療法マニュアル (編集 : 阿部 裕他), 1997 ; pp231-235, 朝倉書店.
- 5) 遠藤俊吉 : [分担] 術後精神病. 今日の精神科治療指針 (大原健士郎, 廣瀬徹也監修), 1997 ; pp176-177, 星和書店.
- 6) 岸 泰宏 : [分担] 精神科. 「アメリカ臨床留学への道」 (編集 : 佐藤隆美, 中川信生), 1997 ; pp309-320, 南山堂.
- 7) 森 隆夫 : [分担] 抗不安薬. 治療薬ガイド' 98, 1998 ; pp31-43, 文光堂.
- 8) 遠藤俊吉 : [分担] 心身症. 内科治療ガイド (Medical Practice編集委員会編), 1998 ; pp220-226, 文光堂.

学会発表

[1996年度追加分]

パネルディスカッション :

- 1) 山寺博史 : 中枢神経作用薬と脳波 (とくに定量脳波) 指定討論. 第26回日本脳波筋電図学会学術大会, 1996. 11. 一般講演 :
- 1) 佐藤明美¹⁾, 鬼頭 諭, 佐藤陽子¹⁾, 秋山文子¹⁾, 松尾ひとみ¹⁾, 森 隆夫 (¹⁾ 愛精会愛精病院) : 分裂病を主とした青年期外来集団療法の試み. 日本精神病院協会精神医学会, 1997. 1.

(1) 学術講演 :

- 1) 黒澤 尚 : 術後精神障害の考え方. 第17回日本臨床麻酔学会総会, 1997. 11.

(2) シンポジウム :

- 1) Yamadera H : Pharmaco-EEG and clinical applications : Effects of zopiclone on polysomnography and daytime EEG-vigilance controlled EEG and resting EEG. 3rd Pan-Pacific Conference on Brain Topography (BTOPS), 1997. 4.
- 2) 藤波茂忠, 吉川栄省, 鈴木雅博, 中村美帆, 松井康絵, 高木宏昌 : 拳児願望の強いバセドウ病難治例の15年の経緯にみる心身医学的側面. 第38回日本心身医学会総会, 1997. 5.
- 3) 黒澤 尚 : 総合病院救急医療における精神科の役割. 群馬県精神保健協会設立準備会シンポジウム, 1997. 7.
- 4) 竹澤健司, 黒澤 尚, 柴田靖史¹⁾, 山本保博²⁾ (¹⁾ 高度救命救急センター, ²⁾ 救急医学教室) : 高度救命救急センターにおけるアルコール関連問題. 第9回日本アルコール精神医学会, 1997. 7.
- 5) 岸 泰宏, 黒澤 尚, 佐々木高伸¹⁾, 東谷慶昭²⁾ (¹⁾ 社会保険広島市民病院, ²⁾ 山形県立中央病院) : 総合病院精神科の機能はどうあるべきか. 第10回日本総合病院精神科医学会総会, 1997. 12.

(3) セミナー :

- 1) 黒澤 尚 : ICU症候群を考え直そう. 第24回日本集中治療医学会総会, 1997. 5.

(4) 一般講演 :

- 1) Tateno A, Hada M, Kimura M, Mori T, Suzuki H, Endo S : P300 Topography and 123I-IMP SPECT Characteristics of Patients with Major Depression in Depressed Remitted Phases. 3rd Pan-Pacific Conference on Brain Topography (BTOPS), 1997. 4.

- 2) Robinson R¹⁾, Shimoda K (¹⁾ University of Iowa) : Relationship between social functioning and recovery from stroke. 150th American Psychiatric Association Annual Meeting, 1997. 5.
- 3) Kimura M, Mori T, Suzuki H, Hada M, Endo S : Scalp distribution of EEG power and P300 amplitude in depression. 6th World Congress of Biological Psychiatry, 1997. 6.
- 4) Kito S, Mori T, Kimura M, Takezawa K, Hada M, Endo S, Watanabe N : The stochastic process of EEG ; In terms of the fractal dimension. 6th World Congress of Biological Psychiatry, 1997. 6.
- 5) Kishi Y, Hoshino K¹⁾, Sakamoto A¹⁾, Suzuki H, Endo S (¹⁾ Department of Anesthesiology) : The use of ECT in a non psychiatric chronic pain patient. 1997 Annual Meeting of the Association of Medicine and Psychiatry, Coronado, California, 1997. 11.
- 6) 遠藤幸彦 : 不登校生徒の精神療法とエディプスコンプレックス. 第10回日本思春期青年期精神医学会, 1997. 4.
- 7) 鈴木雅博, 藤波茂忠, 吉川栄省, 松井康絵, 中村美帆, 高木宏昌, 佐藤田鶴子¹⁾ (¹⁾ 日本歯科大学心療歯科) : 口腔外科領域の違和感を訴え歯科を訪れたうつ病症例からみた歯科と精神科との連携. 第38回日本心身医学会総会, 1997. 5.
- 8) 館野 周, 木村真人, 下田健吾, 葉田道雄, 鈴木博子, 森 隆夫, 遠藤俊吉, 水村 直¹⁾ (¹⁾ 放射線医学教室) : 高齢うつ病者のbifemelane投与による精神症状の変化とSPECT所見の関連について. 第50回東京精神医学会, 1997. 5.
- 9) 鈴木英朗, 山寺博史, 中村秀一, 遠藤俊吉 : 塩酸トラゾドンの血中濃度とPSGパラメーターとの関連. 第7回日本薬物脳波研究会, 1997. 6.
- 10) 村田雄一, 佐藤忠宏¹⁾, 笹尾 純¹⁾, 伊藤敬雄, 遠藤俊吉 (¹⁾ 公德会佐藤病院) : 重度痴呆患者デイケア退所者の動向—第2報—. 第12回日本老年精神医学会, 1997. 7.
- 11) 下田健吾, 鈴木博子, 山寺博史, 倉品克之, 遠藤俊吉 : 視覚障害の訴えを同伴した全生活史健忘の1例. 第80回心身医学会関東地方会, 1997. 9.
- 12) 下田健吾 : Anxiety disorder and depressive disorder following stroke. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 13) 横田裕行¹⁾, 中村 敏¹⁾, 小川理郎¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 小川 薫¹⁾, 加藤一良¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾, 黒澤 尚 (¹⁾ 救急医学教室) : せん妄症例における脳血流量の検討. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 10.
- 14) 小泉幸子, 岸 泰宏, 黒澤 尚, 遠藤俊吉, 元文芳和¹⁾, 宮本雅史¹⁾, 白井康正¹⁾ (¹⁾ 整形外科教室) : 脊椎手術患者の精神面の評価. 第10回日本総合病院精神医学会総会, 1997. 10.
- 15) 遠藤幸彦 : 不登校生徒におけるエディプスコンプレックス. 第43回日本精神分析学会, 1997. 10.
- 16) 竹澤健司, 森 隆夫, 木村真人, 鬼頭 諭, 鈴木博子, 葉田道雄, 河野貴美子¹⁾, 遠藤俊吉 (¹⁾ 情報科学センター) : ストレス負荷に対する香りの精神生理学的研究—相関次元およびリアプノフ指数を用いた検討—. 第13回日本催眠学会, 1997. 10.
- 17) 下田健吾, 木村真人, 小泉幸子, 鈴木博子, 遠藤俊吉 : 強迫症状のみが先行したうつ病の2症例について. 第51回東京精神医学会, 1997. 10.
- 18) 鈴木英朗, 山寺博史, 中村秀一, 遠藤俊吉 : 塩酸トラゾドン投与によるPSGパラメーターの変化と血中濃度との関連について. 第27回日本脳波・筋電図学会学術大会, 1997. 11.
- 19) 中村秀一, 山寺博史, 鈴木英朗, 遠藤俊吉 : 塩酸トラゾドンとイミプラミンの終夜睡眠ポリグラフ (PSG) への影響について. 第27回日本脳波・筋電図学会学術大会, 1997. 11.
- 20) 下田健吾, 木村真人, 館野 周, 葉田道雄, 森 隆夫, 鈴木博子, 遠藤俊吉, 水村 直¹⁾ (¹⁾ 放射線医学) : うつ病における123I-IMP SPECT所見とP300トポグラフィの関連について—縦断的検討—. 第10回日本総合病院精神医学会総会, 1997. 11.
- 21) 木村真人, 森 隆夫, 鈴木博子, 葉田道雄, 遠藤俊吉 : うつ病における脳波パワーとP300振幅の頭皮上分布—

- 病相期と寛解期の比較一. 第17回日本精神科診断学会, 1997. 11.
- 22) 岩川こずえ¹⁾, 内山 真¹⁾, 大川匡子¹⁾, 渋井佳代¹⁾, 長村恭子¹⁾, 大久保順司¹⁾, 亀井雄一²⁾, 早川達郎²⁾, 工藤吉尚, 石橋健一³⁾, 金 圭子⁴⁾ (1) 国立精神・神経センター精神保健研究所精神生理部, 2) 国立精神・神経センター国府台病院精神科, 3) 東京都多摩老人医療センター精神科, 4) 東京女子医科大学神経精神科): 健常成人におけるsleep propensity と内因性リズムの関係. 第3回日本時間生物学会, 1997. 11.
- 23) 大川匡子¹⁾, 内山 真¹⁾, 尾崎 茂¹⁾, 亀井雄一²⁾, 早川達郎²⁾, 浦田重治郎²⁾, 工藤吉尚, 金 圭子³⁾ (1) 国立精神・神経センター精神保健研究所精神生理部, 2) 国立精神・神経センター国府台病院精神科, 3) 東京女子医科大学神経精神科): メラトニンによる概日リズム睡眠障害治療. 第3回日本時間生物学会, 1997. 11.
- 24) 長村恭子¹⁾, 渋井佳代¹⁾, 岩川こずえ¹⁾, 諸伏雅代²⁾, 大久保順司¹⁾, 工藤吉尚, 金 圭子³⁾, 赤松達也⁴⁾, 太田克也⁵⁾, 石橋健一⁶⁾, 亀井雄一⁷⁾, 早川達郎⁷⁾, 内山 真¹⁾, 大川 匡¹⁾ (1) 国立精神・神経センター精神保健研究所精神生理部, 2) 奈良女子大学生生活環境学部, 3) 東京女子医科大学神経精神科, 4) 昭和大学医学部産婦人科, 5) 東京医科歯科大学神経精神科, 6) 東京都多摩老人医療センター精神科, 7) 国立精神・神経センター国府台病院精神科): 女性の月経周期に伴うsleep propensityの変動. 第3回日本時間生物学会, 1997. 11.
- 25) 工藤吉尚, 内山 真¹⁾, 大川匡子¹⁾, 尾崎 茂¹⁾, 渋井佳代¹⁾, 大久保順司¹⁾, 長村恭子¹⁾, 岩川こずえ¹⁾, 亀井雄一²⁾, 早川達郎³⁾, 浦田重治郎³⁾ (1) 国立精神・神経センター精神保健研究所精神生理部, 2) 国立精神・神経センター国府台病院精神科): 睡眠相後退症候群におけるsleep propensityとメラトニンリズム. 第3回日本時間生物学会, 1997. 11.
- 26) 渋井佳代¹⁾, 内山 真¹⁾, 大川匡子¹⁾, 亀井雄一²⁾, 早川達郎²⁾, 工藤吉尚, 金 圭子³⁾, 太田克也⁴⁾, 石橋健一⁵⁾ (1) 国立精神・神経センター精神保健研究所精神生理部, 2) 国立精神・神経センター国府台病院, 3) 東京女子医科大学神経精神科, 4) 東京医科歯科大学精神科, 5) 東京都多摩老人医療センター精神科): 女性の月経周期に伴うsleep propensityの変動. 第3回日本時間生物学会, 1997. 11.
- 27) 伊藤敬雄, 佐藤忠宏¹⁾, 平山理津子 (1) 公徳会佐藤病院): 援護寮の現場報告を通じた社会復帰対策に対する具体的な提言. 第26回精神病院医学会, 1998. 1.
- 28) 本間房恵: ロールシャッパ自殺指標の臨床的適用一ケース研究一. 第26回日本精神病院協会精神医学会, 1998. 1.
- 29) 黄民淑, 佐藤忠宏¹⁾ (1) 公徳会佐藤病院): 急性期治療棟実施の経験から. 第26回日本精神病院協会精神医学会, 1998. 1.
- 30) 小西俊一郎, 木村真人, 下田健吾, 中村秀一, 小泉幸子, 遠藤俊吉: けいれん発作のみで始まり3年後に多彩な精神症状をもって再発した単純ヘルペス脳炎の1例. 第52回東京精神医学会, 1998. 2.
- 31) 内山 真¹⁾, 大川匡子¹⁾, 渋井佳代¹⁾, 金 圭子²⁾, 工藤吉尚, 亀井雄一³⁾, 早川達郎³⁾, 浦田重治郎³⁾ (1) 国立精神・神経センター精神保健研究所精神生理部, 2) 東京女子医科大学神経精神科, 3) 国立精神・神経センター): 睡眠相後退症候群における睡眠制御について. 第20回日本生物学的精神医学会, 1998. 3.
- 32) 海老澤尚¹⁾, 梶村尚史⁴⁾, 内山 真³⁾, 加藤昌明⁴⁾, 関本正規⁴⁾, 渡辺 剛⁴⁾, 池田正明²⁾, 上土井貴子⁵⁾, 杉下真理子¹⁾, 亀井雄一⁶⁾, 金 圭子⁷⁾, 渋井佳代³⁾, 工藤吉尚, 大川匡子³⁾, 高橋清久⁴⁾, 山内俊雄¹⁾ (1) 埼玉医科大学精神科, 2) 埼玉医科大学第一生理学, 3) 国立精神・神経センター精神保健研究所精神生理部, 4) 国立精神・神経センター武蔵病院, 5) 熊本大学発達小児科, 6) 国立精神・神経センター国府台病院精神科, 7) 東京女子医科大学神経精神科): リズム障害疾患におけるメラトニン1A, 1B受容体遺伝子の変異の解析. 第20回日本生物学的精神医学会, 1998. 3.
- 33) 大川匡子¹⁾, 内山 真¹⁾, 渋井佳代¹⁾, 亀井雄一²⁾, 早川達郎²⁾, 浦田重治郎²⁾, 金 圭子³⁾, 工藤吉尚 (1) 国立精神・神経センター精神保健研究所精神生理部, 2) 国立精神・神経センター国府台病院精神科, 3) 東京女子医科大学神経精神科): 概日リズム睡眠障害へのメラトニン投与法. 第20回日本生物学的精神医学会, 1998. 3.
- 34) 工藤吉尚, 内山 真¹⁾, 大川匡子¹⁾, 渋井佳代¹⁾, 亀井雄一²⁾, 早川達郎²⁾, 石橋健一³⁾, 金 圭子⁴⁾ (1) 国立精

神・神経センター精神保健研究所精神生理部,²⁾ 国立精神・神経センター国府台病院,³⁾ 東京都多摩老人医療センター,⁴⁾ 東京女子医科大学神経精神科)：健常成人のsleep propensityとメラトニンリズム. 第20回日本生物学的精神医学会, 1998. 3.

[付属病院東洋医学科]

研究概要

東洋医学の有用性の研究と東洋医学的病態概念の科学的実証, これが当科の研究目標である.

東洋医学の有用性の研究業績:

- ①種々の漢方方剤の新たな応用を検討し発表した.
- ②漢方方剤について中国とは異なる新たな解釈を行った.
- ③東洋医学の原典医書の解釈を現代的により深化させ中国で研究発表した.

病態概念の科学的実証研究:

- ①自律神経失調症, 及び更年期障害の東洋医学的病態像を臨床例に基づき検討し新たな知見を得た.
- ②昨年に引き続き花粉症の東洋医学的病態像を検討した. さらにこの結果に基づき花粉症治療の漢方方剤の選択基準を明確にした.
- ③盗汗の病態像について検討を加え, 従来指摘のあまりない病態に出現することを明確にした. また, 盗汗の歴史的病理観を検討した.

研究業績

論文

[1996年度追加分]

綜説:

- 1) 白石佳正: 日中漢方医学の歴史秘話. 人体科学会 NEWS LETTER 1997; (6): 38-44.

(1) 原著:

- 1) 岡田研吉, 郭秀梅¹⁾ (1) 順天堂大学医史学研究室): 張仲景生活的時間与空間. 國醫論壇 1997; 12 (1): 10-11.
- 2) 郭秀梅¹⁾, 岡田研吉 (1) 順天堂大学医史学研究室): 難經文字考: 管窺. 長春中医学院学報 1998; 14 (1): 61-63.
- 3) 三浦於菟: 更年期障害の漢方療法. 漢方と最新治療 1997; 6 (2): 161-166.
- 4) 三浦於菟, 興津寛: 湿熱証の盗汗とその病態. 東静漢方研究室 1997; 20 (3): 1-6.

(2) 綜説:

- 1) 郭秀梅¹⁾, 岡田研吉 (1) 順天堂大学医史学研究室): 傷寒論: 中の方言俗語. 医古文知識 1998; 39-41.
- 2) 白石佳正: 気功の臨床応用: 第3回 外気功エネルギーの考察. 気功 1997; (63): 4-7.
- 3) 三浦於菟: 中国医学とその世界観. HOLISTIC Magazine.97 1997; 1 (1): 36-37.
- 4) 三浦於菟: 風邪の東洋医学的治療. Santi Margah'98 No.1 1998; 1 (1): 43-49.

著書

- 1) 岡田研吉: [監修] 現代病に鯉エキスが効くガン・肝臓病・糖尿病・うつ病・アトピー, 1997; pp1-207, 冬青社.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演：

- 1) 五十嵐美加¹⁾，筒井末春¹⁾，三浦於菟⁽¹⁾（東邦大学医学部心身医学教室）：加味逍遙散が奏功した頭痛を主訴とした男性症例。第33回日本東洋心身医学研究会学術総会，1997. 2.

(1) 教育講演：

- 1) 三浦於菟：盗汗の病態理論について。日本東洋医学会第54回長野県部会平成9年度教育講演会，1997. 7.

(2) シンポジウム：

- 1) 三浦於菟：自律神経失調症の東洋医学的病態（シンポジウム：自律神経失調症）。日本東洋医学会第54回関東甲信越支部学術総会，1997. 10.
- 2) 三浦於菟：東洋医学理論と気（シンポジウム：気とは何か）。人体科学会第7回大会，1997. 11.

(3) 一般講演：

- 1) 三浦於菟，興津 寛，武島英人¹⁾，赤池正博，白石佳正，岡田研吉，斎藤輝夫，渡邊 裕⁽¹⁾（救世軍ブース記念病院）：鎮肝熄風湯と天麻釣藤飲の相違について。第48回日本東洋医学会学術総会，1997. 5.
- 2) 武島英人¹⁾，興津 寛，赤池正博，三浦於菟，斎藤輝夫，渡邊 裕，石橋 晃¹⁾（救世軍ブース記念病院）：補腎剤併用で効果を見た更年期障害の経験。第48回日本東洋医学会学術総会，1997. 5.
- 3) 興津 寛，武島英人¹⁾，赤池正博，岡田研吉，三浦於菟，斎藤輝夫，白石佳正，渡邊 裕⁽¹⁾（救世軍ブース記念病院）：陰虚胃痛に養胃方を用いた1例。第48回日本東洋医学会学術総会，1997. 5.
- 4) 三浦於菟，興津 寛，武島英人¹⁾，赤池正博，白石佳正，岡田研吉，斎藤輝夫，渡邊 裕⁽¹⁾（救世軍ブース記念病院）：陽虚証不眠の1例。日本東洋医学会第54回関東甲信越支部学術総会，1997. 10.
- 5) 興津 寛，三浦於菟，武島英人¹⁾，赤池正博，白石佳正，岡田研吉，斎藤輝夫，渡邊 裕⁽¹⁾（救世軍ブース記念病院）：難治性の咳嗽に加味逍遙散加減にて軽快をみた1例。日本東洋医学会第54回関東甲信越支部学術総会，1997. 10.
- 6) 武島英人¹⁾，興津 寛，三浦於菟，赤池正博，白石佳正，岡田研吉，斎藤輝夫，渡邊 裕⁽¹⁾（救世軍ブース記念病院）：当帰湯の症例。日本東洋医学会第54回関東甲信越支部学術総会，1997. 10.
- 7) 三浦於菟，興津 寛，白石佳正：盗汗の東洋医学的病理観の史的変遷。人体科学会第7回大会，1997. 11.
- 8) 白石佳正，斎藤輝夫，三浦於菟，渡邊 裕：我が国への温病学伝播の謎。第15回日本東方医学会，1997. 11.

6. 小児科学講座

[付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]

研究概要

付属病院では血液・腫瘍性疾患，膠原病・免疫性疾患，内分泌・代謝性疾患，循環器疾患，腎・泌尿器疾患を，第二病院では神経・筋疾患，新生児・未熟児を，多摩永山病院ではアレルギー疾患，呼吸器疾患を，千葉北総病院では腎・泌尿器疾患，小児保健を主な研究対象としており，それぞれの病院の小児科の特色をだしている。

なお，付属病院では，産科および生化学第二との協力のもとに遺伝子診断および遺伝相談部門を開設している。小児科学教室は付属4病院が常に有機的連携を保ち，なによりも患者サイドにたった臨床的研究を心がけている。業績は4病院一括して報告する。

血液・悪性腫瘍：白血病をはじめとした小児悪性腫瘍の治療法の改善，予後因子の解析，晩期障害の検討。鉄欠乏性貧血の病態解析，思春期貧血のマススクリーニングの実施に伴う諸条件の検討。

膠原病・免疫：自己免疫性疾患における自己抗体産出機序の検討と出現自己抗体の分子生物学的解析。不定愁訴をもつ学童生徒における自己抗体出現の機序と臨床的意義。

内分泌・代謝：小児糖尿病の合併症併発諸因子の検討。肥満児の病態解析と治療法の開発。小人症の治療と随伴する微量の代謝。先天性代謝異常児の遺伝子解析。

循環器：薬剤負荷による各種評価法を用いた心筋虚血病変の検討。川崎病後の血管リモデリングに対する遺伝子および分子生物学的検討。心筋細胞の成長・発達に伴う変化に対する分子生理学・分子生物学を用いた検討。抗腫瘍剤による心機能に及ぼす影響の因子解析。

神経・筋：けいれん性疾患脳波学的解析。各種神経疾患におけるSPECTによる脳血流の解析。筋変性疾患の病理組織学的検討と遺伝子解析。

腎・泌尿器：各種腎疾患の病理組織学的検討と免疫学的背景の臨床的検討。腎・尿路疾患のマススクリーニング陽性者の解析。乳児期腎臓超音波マススクリーニング検査の臨床的意味付け。

アレルギー：アトピー性疾患病態に関する基礎的・臨床的検討。喘息患児におけるテオフィリン系薬剤の血行動態と臨床像諸因子との関連性。食餌性アレルギーをもつ乳児の腸管各種免疫グロブリンの解析と蛋白透過性の検討。

呼吸器：新生児～学童の呼吸音の音響学的変化解析。小児期適応肺機能検査法の改善と評価。各種疾患における気管支洗浄液の免疫学的，細胞学的検討。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著：

- 1) Fujiyama J, Sakuraba H, Kuriyama M, Fujita T, Nagata K, Nakagawa H, Osame M : A new mutation (LIPA Tyr22X) of lysosomal acid lipase gene in a Japanese patient with wolman disease. Human Mutation 1996 ; 8 : 377-380.

(1) 原著：

- 1) Murakami M, Tatsuma N, Tsugu H, Ambo K, Tsuchiya M, Yamauchi K, Yamamoto M : Incidence of

- hypocomplementemia in elementary and junior high school children with urinary abnormalities. *Acta Paediatric Jap* 1997; 39: 413-415.
- 2) Ogawa S, Fukazawa R, Ohukubo T, Zhang J, Takechi N, Kuramochi Y, Hino Y, Jimbo O, Katsube Y, Kamisago M, Genma Y, Yamamoto M: Silent myocardial ischemia in Kawasaki disease evaluation of percutaneous transluminal coronary angioplasty by dobutamine stress testing. *Circulation* 1997; 96: 3384-3389.
 - 3) Itoh Y, Hamada H, Imai T, Seki T, Igarashi T, Yuge K, Fukunaga Y, Yamamoto M: Antinuclear antibodies in children with chronic nonspecific complaints. *Autoimmunity* 1997; 25 (4): 243-250.
 - 4) Genma Y, Ogawa S, Zhang J, Yamamoto M: Evaluation of myocardial ischemia in Kawasaki disease by dobutamine stress sigbal-averaged ventricular late potentials. *Cardiovasc Res* 1998; 36: 323-329.
 - 5) Nishino I¹⁾, Kobayashi O¹⁾, Goto Y¹⁾, Kurihara M²⁾, Kumagai K²⁾, Fujita T, Hashimoto K, Horai S³⁾, Nonaka I¹⁾ (¹⁾ NCNP, ²⁾ Kanagawa Rehabilitation Center, ³⁾ National Institute of Genetics): A new congenital muscular dystrophy with mitochondrial structural abnormalities. *Muscle & Nerve* 1998; 21: 40-47.
 - 6) Asano T, Sawa R¹⁾, Araki T¹⁾, Yamamoto M (¹⁾ Department of Obstetrics and Gynecology): Incidence of thrombocytopenia in infants born to mothers with idiopathic thrombocytopenic purpura. *Acta Paediatrica Jap* 1998; 40: 112-115.
 - 7) Katsube Y, Yokoshiki H¹⁾, Nuguen L¹⁾, Yamamoto M, and Sperelakis N¹⁾ (¹⁾ University of Cincinnati): Developmental changes of the effects of tyrosine kinase inhibitor, genistein, on Ca²⁺ current in freshly isolated neonatal and adult rat ventricular myocytes. *Eur J Pharmacol* 1998; 345: 309-314.
 - 8) Asano T, Nachi T, Maruyama K¹⁾, Morita T¹⁾, Murakami M, Yamamoto M (¹⁾ National Tosei Hospital): Changes in the duration of urinary abnormality of purpura nephritis over the last 15 years. *Acta Paediatrica Jap* 1998; 40: 236-238.
 - 9) 前田美穂, 継 仁, 大久保隆志, 山本正生, 中村恭子¹⁾, 壇 和夫¹⁾ (¹⁾ 日本医大第3内科): ALL-trans retinoic acid治療施行中の急性前骨髄性白血病母体より出生した新生児例. *臨床血液* 1997; 38: 770-775.
 - 10) 今井文英, 前田美穂, 五十嵐徹, 継 仁, 山本正生, 松井玄代¹⁾ (¹⁾ 日産玉川病院): 三日熱・熱帯性マラリア混合感染の1男児例. *小児科* 1997; 38: 1545-1548.
 - 11) 橋爪真弘, 大川拓也, 入江 学, 前田美穂, 大木由加志, 山本正生: GH治療中に皮下気腫を起こし Munchausen症候群が疑われた1例. *小児科* 1997; 38: 1045-1050.
 - 12) 野呂恵子, 吉田順子, 植田高弘, 渡辺 淳, 金子清志, 前田美穂, 福永慶隆, 山本正生, 前澤勝美¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 高崎秀明¹⁾, 恩田昌彦¹⁾ (¹⁾ 日本医大第1外科): 未熟型胃奇形腫に重複尿管を合併した1新生児例. *小児が*ん 1997; 34: 80-82.
 - 13) 浅野 健, 前田美穂, 山本正生: 肺ヘモジデロシス. *日医大誌* 1997; 64: 332-356.
 - 14) 立麻典子, 継 仁, 村上睦美: 小児期発症のIgA腎症におけるHLA-DQ β ,TCRC β 遺伝子多型の関与. *日本小児腎臓病会誌* 1997; 39 (7): 734-739.
 - 15) 伊藤保彦, 福永慶隆, 濱田久光, 五十嵐徹, 関 隆志, 今井大洋, 弓削邦夫, 村上睦美, 山本正生: 抗核抗体陽性慢性疲労症候群の1家族例. *日見誌* 1997; 101 (10): 1517-1521.
 - 16) 伊藤保彦: 小児における慢性的不定愁訴と自己免疫—自己免疫性疲労症候群—. *日医大誌* 1997; 64: 597-599.
 - 17) 吉田順子, 伊藤保彦, 今井大洋, 継 仁, 関 隆志, 五十嵐徹, 土屋正己, 藤野 修, 弓削邦夫, 村上睦美: 乳幼児感染症に対するCefdinir (CFDN) の有効性および安全性に関する研究. *小児科臨床* 1997; 50: 2105-2111.

- 18) 野呂恵子, 前田美穂, 山本正生: 新生児期および乳児期における zinc protoporphyrin (ZPP) の検討. 日本小児血液学会 1997; 11: 345-350.
 - 19) 雨宮 伸, 佐々木望, 松浦信夫, 大木由加志, 他 (小児インスリン治療研究会): 多施設間のグリコヘモグロビン測定標準化の検討—その成果と問題点. 糖尿病 1997; 40: 219-229.
 - 20) 竹田幸代, 岡部俊成, 飛田正俊, 向後俊昭: アトピー性皮膚炎患児におけるぶどう球菌由来 Peptidoglycan および N-acetylmuramyl-L-alanyl-Disoglutamine の IgE および Inteleukin, 6 産生におよぼす影響. 日小児アレルギー会誌 1997; 11 (2): 86-95.
 - 21) 竹田幸代, 村上由加里, 飛田正俊, 岡部俊成, 向後俊昭, 細根 勝¹⁾, 前田正太郎¹⁾ (1) 多摩永山病院病理部): 慢性活動性 EBV 感染症経過中に発症し Hemophagocytic syndrome を呈した Peripheral T cell lymphoma の1幼児例. 小児感染症免疫 1997; 9 (3・4): 275-280.
 - 22) 岸 恵, 大木由加志, 折茂裕美, 入江 学, 五島利佳子, 山本正生: 成長ホルモン補充療法中にアレルギー症状の改善をみとめた成長ホルモン分泌不全性低身長児の検討. 日児誌 1997; 101: 1667-1673.
 - 23) 高瀬真人, Pasterkamp H¹⁾ (1) マニトバ大学小児科): 肺胞呼吸音スペクトル解析による軽度気道狭窄の検出. Therapeutic Research 1997; 18: 3015-3020.
 - 24) 城田和彦, 稲葉八興, 今井大洋, 高瀬真人, 吉田 豊, 工藤翔二¹⁾, 渋谷惇夫²⁾ (1) 日本医大第4内科, 2) 日本女子大家政学部): 新生児呼吸音の音響学的解析 (第2報) —呼吸適応時期における経時的変化—. Therapeutic Research 1997; 18: 3009-3014.
 - 25) 藤野 修, 藤田武久: 熱性けいれんおよび関連てんかん症候群. 日医大誌 1998; 65: 58-61.
 - 26) 前田美穂, 山本正生: 思春期の鉄欠乏性貧血の実態と貧血検診の重要性. 東京都予防医学協会年報 1998; 27: 66-68.
 - 27) 山内仁紫¹⁾, 岩城秀行¹⁾, 井村 肇¹⁾, 檜山和弘¹⁾, 二宮純一¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 小川俊一, 上砂光裕, 日野佳昭, 大久保隆志, 山本正生, 田中浩一²⁾ (1) 日本医大第2外科, 2) 日本医大病理部): 小児期発症 Annulo-aortic ectasia の病理所見と上行大動脈径の経年変化. 日小児循環器会誌 1998; 13: 738-744.
 - 28) 望月信幸, 折茂裕美, 朝倉由美, 大木由加志, 山本正生: 肥満児における体脂肪率と皮脂肪厚および高インスリン血症, 高脂血症, 肝機能障害との関係. 日児誌 1998; 102: 124-130.
 - 29) 藤井正大¹⁾, 若林武雄¹⁾, 古川良弥¹⁾, 檜山和弘¹⁾, 石川秀雄¹⁾, 平山恒憲, 仁保幸次²⁾, 村上睦美, 田中茂夫³⁾ (1) 国療福島病院外科, 2) 同小児科, 3) 日本医大第2外科): Bartter 病症候群を合併した直腸癌の1手術例. 医療 1998; 52: 49-52.
- (2) 総説:
- 1) 山本正生: 小児の鉄欠乏性貧血. 日常診療と血液 1997; 7: 1543-1551.
 - 2) 浅野 健, 浅野ありさ: ITP 母体からの出生児における合併症とその管理. 小児科 1997; 38: 329-332.
 - 3) 浅野 健, 山本正生: 中腎腫瘍 (mesonephric tumor), 中腎癌 (mesonephric carcinoma): 腎臓症候群—その他の腎臓疾患を含めて—. 日本臨床別冊 (本田西男編集) 1997; 512-516.
 - 4) 伊藤保彦, 福永慶隆: 抗核抗体陽性慢性疲労症候群. 小児内科 1997; 29 (7): 1035-1039.
 - 5) 村上睦美, 土屋正己: 学校検尿の総合化は可能か. 各項目別検診から総合化の可能性を探る—尿検査 (腎臓病検診) の立場から—. 循環器情報処理研究会雑誌 1997; 12: 99-103.
 - 6) 村上睦美, 土屋正己, 安保和俊: 小児膜性増殖性腎炎はなぜ減ったのか?. 腎と透析 1997; 43: 555-560.
 - 7) 村上睦美: 異常所見尿読み方・対応の仕方 (1) —小児・学童の尿異常—. 日本医師会雑誌 1997; 118: 1303-1305.
 - 8) 土屋正己, 立麻典子, 村上睦美: ネフローゼ症候群の合併症とその対策—長期ステロイド投与による副作用—. 小児内科 1997; 29: 1581-1586.

- 9) 前田美穂, 山本正生: 先天性中胚葉性腎腫瘍領域別症候群シリーズNo16腎臓症候群. 別冊日本臨床 1997; 505-508.
 - 10) 前田美穂: 赤血球のヘモグロビン異常症. 小児科診療 Q and A 1997; 25: 1633ノ2-3.
 - 11) 前田美穂, 山本正生: 小児の鉄欠乏症・鉄欠乏性貧血. 小児科診療 Q and A 1997; 25 (1612): 1313ノ3.
 - 12) 平山恒憲, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 日本医大老人病研究所分子生物部門): 悪性腫瘍の遺伝的背景. Biotherapy 1997; 11: 1039-1043.
 - 13) 大木由加志: インスリン非依存性糖尿病. 今日の小児治療指針・第11版, 9 代謝性疾患, 栄養障害. 医学書院 1997; 206.
 - 14) 吉田 豊, 高瀬真人, 千葉 隆, 今井大洋, 稲葉八興, 城田和彦, 飛田正俊, 向後俊昭: 小児のARDS. 小児科 1997; 38: 419-429.
 - 15) 高瀬真人: 呼吸音の音響学的解析と気道狭窄. 日本小児呼吸器疾患学会雑誌 1997; 8: 119-127.
 - 16) 小川俊一: 小児の心血管疾患に対するカテーテル治療. 日医大誌 1998; 65: 62-68.
 - 17) 浅野 健: 悪性腫瘍に対する新しい治療法, 5. 脳腫瘍. 小児科 1998; 39.
 - 18) 伊藤保彦, 福永慶隆, 五十嵐徹, 山本正生: 新生児ループス. 炎症と免疫 1998; 6 (2): 212-218.
 - 19) 村上睦美, 土屋正己: 感染後腎炎—溶連菌感染後急性糸球体腎炎, 細菌性心内膜炎による腎炎—. 腎と透析 1998; 44: 329-334.
 - 20) 村上睦美: 無症候性蛋白尿・血尿. 治療 (増刊号) 1998; 80: 680-681.
 - 21) 村上睦美, 安保和俊, 土屋正己: 小児のスクリーニングの現状と今後—腎疾患・糖尿病と学校検尿—. 小児科 1998; 39: 237-244.
- (3) 研究報告書:
- 1) 磯山恵一¹⁾, 大川洋二¹⁾, 林 泰秀¹⁾, 沖本由理¹⁾, 花田良二¹⁾, 前田美穂, 斎藤友博¹⁾, 土田昌博¹⁾, 中澤眞平¹⁾ (¹⁾ 東京小児がん研究グループ): 乳児ALL64例の検討. 厚生省がん研究助成—小児の難治性白血病, 二次性白血病の治療法の確立に関する研究— (主任研究者: 月本一郎) 1997; pp81-83.
 - 2) 伊藤保彦, 福永慶隆, 五十嵐徹, 濱田久光: 慢性的不定愁訴児童における抗核抗体の意義と膠原病との関連に関する検討. 母子健康協会第8回医学助成研究報告 1997; 8: pp31-34.

著 書

- 1) 橋本 清: [分担] Andre-ThomasとJran Aicardi. 脳と発達, 1997; pp5-2, 診断と治療社.
- 2) 村上睦美: [分担] 慢性疾患・障害を有する子どものスポーツ指導の医学的注意—腎疾患—. 新・子どものスポーツ医学 (井形高明, 武藤芳照, 浅井利夫編), 1997; pp212-214, 南江堂.
- 3) 村上睦美: [分担] 慢性疾患児の生活指導—腎臓病, 障害児・病児のための発達理解と発達の援助 (前川喜平, 三宅和夫編), 1997; pp263-275, ミネルバ書房.
- 4) 村上睦美: [分担] A: 学校検尿-システムと疫学. 小児科学 (白木和夫, 前川善平編), 1997; pp1178-1180, 医学書院.
- 5) 村上睦美: [分担] B: 無症候性血尿・蛋白尿. 小児科学 (白木和夫, 前川善平編), 1997; pp1181-1184, 医学書院.
- 6) 向後俊昭, 山本正生: [分担] 牛乳貧血. 小児科診療Q&A追録, 1997; pp1618-1619, 六法出版社.
- 7) 福永慶隆: [分担] 腎性貧血. 小児科診療Q&A, 1997; pp1466-1645, 六法出版社.
- 8) 伊藤保彦, 福永慶隆: [分担] 多形滲出性紅斑・結節性紅斑. 小児内科増刊号, 1997; pp1121-1123, 東京医学社.
- 9) 平山恒憲: [翻訳・分担] 第17章 体細胞変異とがん. ヒトの分子遺伝学 (村松正實編), 1997; pp486-490,

メディカル・サイエンス・インターナショナル。

- 10) 山本正生：〔分担〕小児の鉄欠乏性貧血。今日の治療指針（監修 日野原重明，阿部正和），1998；pp171-790，医学書院。
- 11) 小川俊一：〔分担〕肺動脈狭窄症・大動脈狭窄症・大動脈縮窄症。小児心電図の臨床（浅井利夫編），1998；pp110-120，文光堂。
- 12) 千葉 隆，山本正生：〔分担〕小児気管支喘息の診断と治療。小児の発熱・アレルギー・喘息の診断と治療—30の大学病院による診断と治療シリーズ，1998；pp169-181，真興交易医書出版部。

学会発表

〔1996年度追加分〕

特別講演：

- 1) 橋本 清：神経皮膚症候群について。第11回埼玉小児神経懇話会，1997. 2.
- 2) 橋本 清：フランス小児神経との出会い。第41回大阪小児神経学懇話会，1997. 2.

一般講演：

- 1) 五十嵐徹，伊藤保彦，福永慶隆，山本正生：皮膚筋炎に合併した間質性肺炎の1例。第40回日本リウマチ学会，1996. 5.
- 2) 五十嵐徹，倉持雪穂，山本正生：プロマゼパム中毒の初期治療にフルマゼニルが有効であった1幼児例。第53回日本小児科学会茨城地方会，1996. 6.
- 3) 五十嵐徹，山本佳樹，山本正生：川崎病の診断基準を満たしたマイコプラズマ肺炎の3例。第54回日本小児科学会茨城地方会，1996. 11.
- 4) 五十嵐徹，山本佳樹，山本正生，武藤隆雄¹⁾（¹⁾武藤小児科）：コーンスターチ療法を継続している糖尿病III型男児の1例。第55回日本小児科学会茨城地方会，1997. 2.

(1) 教育講演：

- 1) 村上陸美：学校検尿の事後処理と腎疾患患児の管理—夏休みをどう過ごすか—。第199回学校保健セミナー，1997. 7.
- 2) 村上陸美：検尿陽性児の事後措置について。八千代医師会学術講習会，1997. 10.

(2) シンポジウム：

- 1) Maeda M, Nakazawa S¹⁾, Yamamoto M (¹⁾Yamanashi Medical University) : Anthracycline Cardiotoxicity in children with acute leukemia. 2nd Japana-U. S. Symposium on Pediatric Cancer, 1997. 4.

(3) 奨学賞受賞記念講演：

- 1) 伊藤保彦：小児における慢性的不定愁訴と自己免疫—自己免疫性疲労症候群—。第65回日本医大医学会総会，1997. 9.

(4) 公開講座：

- 1) 今井大洋：アレルギーシリーズ「気管支喘息について」。日本医大千葉北総病院第5回公開講座，1998. 2.

(5) 一般講演：

- 1) Ogawa S, Takachi N, Hino Y, Jimbo O, Katsube Y, Fukazawa R, Kamisago M, Genma Y, Seki T, Ohkubo T, Zhang J, Kuramochi Y, Yamamoto M : Effects of percutaneous transluminal coronary angioplasty to silent myocardial ischemia in patients with Kawasaki disease. 5th World Congress on Heart Failure-Mechnisms and Management-, 1997. 5.
- 2) Hino Y, Ogawa S, Jimbo O, Katsube Y, Nagai Y, Hayashi R, Kamisago M, Genma Y, Ohkubo T,

- Takechi N, Kuramochi Y, Hirayama T, Yamamoto M : Estimation of the change of vasoactive substances, lactic acid and pyruvic acid and cardiovascular function in differences with or without myocardial ischemia by Dobutamine stress in patients with Kawasaki Disease having coronary disease. The Second World Congress of Pediatrics Cardiology and Cardiac Surgery, 1997. 5.
- 3) Kuramochi Y, Ogawa S, Hino Y, Jimbo O, Katsube Y, Nagai Y, Hayashi R, Kamisago M, Genma Y, Ohkubo T, Takechi N, Hirayama T, Yamamoto M : Longitudinal estimation of late potentials and their relation to echocardiogenic ventricular function in children with Kawasaki disease. The Second World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery, 1997. 5.
- 4) Ohkubo T, Ogawa S, Hino Y, Jimbo O, Katsube Y, Nagai Y, Hayashi R, Kamisago M, Genma Y, Takechi N, Kuramochi Y, Hirayama T, Yamamoto M : Evaluation of myocardial ischemia by ventricular late potential judged by criteria including a factor of QRS initial micro-potentials in children with Kawasaki disease. The Second World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery, 1997. 5.
- 5) Takechi N, Ogawa S, Hino Y, Jimbo O, Katsube Y, Nagai Y, Hayashi R, Kamisago M, Genma Y, Ohkubo T, Kuramochi Y, Hirayama T, Yamamoto M : Estimation of silent myocardial ischemia by dobutamine stress ^{99m}Tc Tetrofosmin myocardial scintigraphy, body surface mapping and ventricular late potentials. The Second World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery, 1997. 5.
- 6) Katsube Y, Yokoshiki H¹⁾, Sunagawa M¹⁾, Seki T, Sperelakis N¹⁾, Yamamoto M (¹⁾ University of Cincinnati) : Developmental changes in the regulation of slow Ca²⁺ current produced by muscarinic agonists in neonatal and adult rat atrial and ventricular cells. The Second World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery, 1997. 5.
- 7) Katsube Y, Yokoshiki H¹⁾, Sunagawa M¹⁾, Seki T, Sperelakis N¹⁾, Yamamoto M (¹⁾ University of Cincinnati) : Tyrosine kinase stimulation of slow Ca²⁺ channels in rats ventricular cells is greater than in neonatal than in adult. The Second World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery, 1997. 5.
- 8) Tsuchiya M, Yoshida J, Tatsuma N, Ambo K, Murakami M : Pathological findings of renal biopsy and clinical features in infants and young children with glomerular disease. 14th International Congress of Nephrology, 1997. 5.
- 9) Itoh Y, Fukunaga Y, Hamada H, Igarashi T, Imai T, Fujino O, Murakami M, Yamamoto M, Yuge K : Autoimmune fatigue syndrome and chronic fatigue syndrome in children. 19th ILAR Congress of Rheumatology, 1997. 6.
- 10) Ohki Y, Kishi M, Orimo H, Irie M, Yamamoto M : The efficiency of diet therapy by the combination of very low calorie diet (VLCD) and low calorie diet (LCD) in obese adolescents : Comparison between thirty-day and ten-day hospitalization therapy. The 22th Annual Meeting of International Study Group of Diabetes in Children and Adolescents, 1997. 7.
- 11) Ohki Y, Kishi M, Orimo H, Irie M, Yamamoto M : The efficiency of diet therapy by the combination of very low calorie diet (VLCD) and low calorie diet (LCD) in obese adolescents (2). The 16th International Diabetes Federation Congress, 1997. 7.
- 12) Ogawa S, Takechi N, Hino Y, Jimbo O, Katsube Y, Nagai Y, Hayashi R, Kamisago M, Genma Y, Ohkubo T, Kuramochi Y, Yamamoto M : Effects of Percutaneous Transluminal Coronary Angioplasty using Intravascular Ultrasound Imaging to Silent Myocardial Ischemia in Patients with Kawasaki Disease. XIXth Congress of The European Society of Cardiology, 1997. 8.
- 13) Katsube Y, Yokoshiki H¹⁾, Sunagawa M¹⁾, Seki T, Sperelakis N¹⁾, Yamamoto M (¹⁾ University of

- Cincinnati) : Developmental changes in the regulation of slow Ca²⁺ current produced by muscarinic agonists in neonatal and adult rat atrial and ventricular cells. XIXth Congress of The European Society of Cardiology, 1997. 8.
- 14) Nakagawa H, Kitamura J, Hashimoto K, Takahashi S : Body weight distribution at supine position analyzed by a photoelastic method in hemiplegia. The 8th World Congress of the International Rehabilitation Medicine Association, 1997. 8.
 - 15) Takase M, Pasterkamp H¹⁾ (¹⁾ University of Manitoba) : Changes in normal breath sound spectra during iso-flow maximum volume breathing. The 22nd International Conference on Lung Sounds, 1997. 10.
 - 16) Ogawa S, Katsube Y, Ohkubo T, Takechi N, Kuramochi Y, Hino Y, Jimbo O, Kamisago M, Genma Y, Fukumi D, Uchikoba Y, Yamamoto M : Early detection of anthracycline cardiotoxicity by signal-averaged electrocardiographic late potentials in children with acute leukemia. 70th Scientific Sessions of American Heart Association, 1997. 11.
 - 17) Seki T, Yokoshiki H¹⁾, Katsube Y (¹⁾ University of Cincinnati) : Involvement of tyrosine protein kinases and phosphatidylinositol-3-kinase in angiotensin-II stimulation of Ca²⁺ channels, independent of PK-C, in vascular smooth muscle cells. 70th Scientific Sessions of American Heart Association, 1997. 11.
 - 18) 弦間優紀子, 小川俊一, 二宮恵子, 日野佳昭, 神保 修, 永井雄一, 勝部康弘, 林 毅陸, 上砂光裕, 大久保隆志, 武智信幸, 倉持雪穂, 平山恒夫, 山本正生 : 加算平均心電図のQRS初期微小電位を含む新しい小児の心室遅延電位の判定基準. 第100回日本小児科学会学術集会, 1997. 4.
 - 19) 武智信幸, 小川俊一, 弦間優紀子, 二宮恵子, 日野佳昭, 神保 修, 永井雄一, 勝部康弘, 林 毅陸, 上砂光裕, 大久保隆志, 倉持雪穂, 平山恒夫, 山本正生 : QRS初期微小電位の検討を含む新しい心室遅延電位の判定基準を用いた川崎病既往児の心筋虚血の評価. 第100回日本小児科学会学術集会, 1997. 4.
 - 20) 土屋正己, 吉田順子, 大橋隆治, 立麻典子, 安保和俊, 宗像恵美子, 村上睦美, 山本正生, 岡田義治¹⁾, 山内邦昭¹⁾ (¹⁾ 東京都予防医学協会) : 小中学生に対する尿路感染症スクリーニング方式の検討. 第100回日本小児科学会学術集会, 1997. 4.
 - 21) 前田美穂, 津田晃男, 濱田久光, 野呂恵子, 浅野 健, 金子清志, 岸 恵, 大木由加志, 山本正生 : GH療法に伴う血色素および鉄代謝の変動. 第100回日本小児科学会学術集会, 1997. 4.
 - 22) 高瀬真人, 稲葉八興, 城田和彦, 吉田 豊, 山本正生, Pasterkamp H¹⁾ (¹⁾ マニトバ大学小児科) : 肺胞呼吸音スペクトル解析による軽度気道狭窄の検出. 第100回日本小児科学会学術集会, 1997. 4.
 - 23) 岸 恵, 大木由加志, 大川拓也, 折茂裕美, 入江 学, 山本正生 : 成長ホルモン分泌不全性低身長児 (GHD) のGH補充療法前後の耐糖能についての検討. 第100回日本小児科学会学術集会, 1997. 4.
 - 24) 伊藤保彦, 濱田久光, 五十嵐徹, 福永慶隆, 山本正生 : 小児慢性疲労症候群の臨床的・免疫学的検討. 第41回日本リウマチ学会総会, 1997. 5.
 - 25) 伊藤保彦, 吉田順子, 今井大洋, 土屋正己, 藤野 修, 村上睦美 : 自己免疫性疲労症候群. 日本医大医学会第92回例会, 1997. 5.
 - 26) 立麻典子, 吉田順子, 大橋隆治, 宗像恵美子, 安保和俊, 土屋正己, 村上睦美, 山本正生 : 小児各種腎疾患におけるACE遺伝子多型性の検討. 第40回日本腎臓病学会学術総会, 1997. 5.
 - 27) 岡部俊成, 竹田幸代, 飛田正俊, 坂口雅弘¹⁾, 井上 栄¹⁾, 名知尚子, 村上由加里, 向後俊昭 (¹⁾ 国立予防衛生研究所感染症疫学) : 夏期転地療養施設におけるダニ抗原量と喘息児の発作状況について. 第8回日本アレルギー学会春期臨床大会, 1997. 5.
 - 28) 中野起久恵, 小川俊一, 前田美穂, 藤野 修, 山本正生 : 両側腎血管筋脂肪腫を合併した結節性硬化症の1例. 第33回日本小児放射線学会, 1997. 5.

- 29) 岸 恵, 大木由加志, 大川拓也, 折茂裕美, 入江 学, 山本正生: 成長ホルモン分泌不全性低身長児 (GHD) の耐糖能に対するGH補充療法の影響. 第40回日本糖尿病学会総会, 1997. 5.
- 30) 雨宮 伸, 望月美恵, 小林基章, 大木由加志, 他 (小児インスリン治療研究会): 多施設共同研究でのグリコヘモグロビン標準化 JDS補正への対応とその成果. 第40回日本糖尿病学会総会, 1997. 5.
- 31) 伊藤保彦, 福永慶隆, 五十嵐徹, 今井大洋, 吉田順子, 土屋正己, 藤野 修, 村上睦美, 山本正生: 小児の慢性疲労症候群と抗核抗体. 第2回慢性疲労症候群 (CFS) 公開シンポジウム, 1997. 6.
- 32) 立麻典子, 幡谷浩史¹⁾, 田中百合子¹⁾, 川村 研¹⁾, 本田雅敬¹⁾ (¹⁾ 都立清瀬小児病院腎内科): 小児腹膜透析患者の栄養評価について一血液生化学検査の有用性一. 第32回日本小児腎臓病学会, 1997. 6.
- 33) 土屋正己, 吉田順子, 大橋隆治, 立麻典子, 安保和俊, 宗像恵美子, 芦田光則¹⁾, 山本博章²⁾, 村上睦美, 岡田義治³⁾, 山内邦昭³⁾ (¹⁾ 勝楽堂病院, ²⁾ 川崎協同病院, ³⁾ 東京都予防医学協会): 試験紙法による尿路感染症スクリーニング—学校検尿における陽性率と疾患発見頻度に関する検討—. 第32回日本小児腎臓病学会, 1997. 6.
- 34) 藤松真理子, 神保 修, 藤田武久, 松岡和彦, 橋本 清, 中野美和子¹⁾, 佐伯守洋¹⁾ (¹⁾ 国立小児病院外科): 1ヶ月健診で発見された巨大腹部腫瘍の1例. 第227回日本小児科学会神奈川県地方会, 1997. 6.
- 35) 藤松真理子, 藤田武久, 橋本 清, 中川博文¹⁾ (¹⁾ 日南学園): 光弾性手法による低出生体重児背臥位姿勢の接触圧分布解析. 第39回日本小児神経学会, 1997. 6.
- 36) 高石康子, 藤野 修, 藤田武久, 榎戸 久, 小松崎英樹, 平山恒憲, 桑原健太郎, 藤松真理子, 橋本 清: SPECT画像の分析法について. 第39回日本小児神経学会, 1997. 6.
- 37) 藤野 修, 高石康子, 橋本 清, 藤田武久, 桑原健太郎, 榎戸 久, 岡田一芳: MRIにて限局性大脳病変を呈した経過良好な小児てんかんの3例. 第39回日本小児神経学会, 1997. 6.
- 38) 倉持雪穂, 小川俊一, 二宮恵子, 日野佳昭, 神保 修, 勝部康弘, 永井雄一, 林 毅陸, 上砂光裕, 弦間優紀子, 大久保隆志, 武智信幸, 平山恒夫, 山本正生: 異なる契機により診断された左冠動脈肺動脈起始症 (ALCAPA, BWG症候群) の3例. 第33回日本小児循環器学会, 1997. 7.
- 39) 弦間優紀子, 小川俊一, 二宮恵子, 武智信幸, 日野佳昭, 神保 修, 勝部康弘, 永井雄一, 林 毅陸, 上砂光裕, 大久保隆志, 倉持雪穂, 平山恒夫, 山本正生: QRS初期微小電位の検討を含む判定基準を用いた塩酸ドブタミン負荷心室遅延電位による川崎病既往児の心筋虚血の評価. 第33回日本小児循環器学会, 1997. 7.
- 40) 武智信幸, 小川俊一, 二宮恵子, 日野佳昭, 神保 修, 勝部康弘, 永井雄一, 林 毅陸, 上砂光裕, 弦間優紀子, 大久保隆志, 倉持雪穂, 平山恒夫, 山本正生: 塩酸ドブタミン負荷体表面マッピングによる心筋虚血の有無および局在部位の評価. 第33回日本小児循環器学会, 1997. 7.
- 41) 尾内善四郎¹⁾, 勝部康弘, Sperelakis N²⁾, 山本正生 (¹⁾ 京都府立医科大学小児科, ²⁾ University of Cincinnati): ラット発達心筋のCa²⁺電流に対する β -adrenergic agonist, isoproterenolならびにMuscarinic cholinergic agonist, carbacholの効果の差異. 第33回日本小児循環器学会, 1997. 7.
- 42) 平山恒憲, 橋本 清, 藤田武久, 小松崎英樹, 川上康彦, 藤松真理子: てんかんとしてフォローされていたヒステリーの1例. 第20回神奈川小児神経懇話会, 1997. 7.
- 43) 平山恒憲, 江見 充¹⁾, 八巻恵美¹⁾, 橋本 清, 山本正生, 辻 昌宏²⁾, 羽田 明³⁾ (¹⁾ 日本医大老人病研究所分子生物部門, ²⁾ 北海道社会保険中央病院内科, ³⁾ 北海道大学公衆衛生学): 家族性高コレステロール血症にCETP遺伝子変異と認めた一家系. 第7回Medical Genetics研究会, 1997. 7.
- 44) 西澤善樹, 藤松真理子, 藤田武久: 当院NICUにおける院外出生時の死亡例と転院例—三次NICUへの直接入院が適切な例はなかったか?—. 第33回日本新生児学会総会, 1997. 7.
- 45) 大川拓也, 大木由加志, 野呂恵子, 折茂裕美, 岸 恵, 入江 学, 伊藤保彦, 山本正生: 摂食障害を合併したIDDMの2例. 第3回小児・思春期糖尿病研究会, 1997. 8.
- 46) 永島幹夫¹⁾, 福生吉裕¹⁾, 秋山しのぶ¹⁾, 赫 彰郎¹⁾, 福永慶隆 (¹⁾ 日本医大第2内科): グルココルチコイドの

- 単球のマクロファージ分化過程におけるインテグリン発現に及ぼす影響. 第65回日本医大医学会総会, 1997. 9.
- 47) 前田美穂, 山本正生, 土田昌宏¹⁾, 杉田憲一¹⁾, 細谷亮太¹⁾, 恒松由記子¹⁾, 齋藤友博¹⁾, 中澤眞平¹⁾ (¹⁾ 東京小児がん研究グループ): 小児急性白血病人における晩期障害の検討. 第39回日本小児血液学会, 1997. 9.
- 48) 五十嵐徹, 伊藤保彦, 金子清志, 前田美穂, 福永慶隆, 山本正生, 八田貞人¹⁾ (¹⁾ 鹿島白十字病院): 茨城県の一地方における小学生・中学生の平成8年度貧血検診の実施成績. 第39回日本小児血液学会, 1997. 9.
- 49) 沖本由理, 生田幸一郎, 石本浩一, 磯山恵一, 小原 明, 大川洋二, 金子 隆, 小池憲一, 佐藤武幸, 渋谷温, 杉田完爾, 杉田健一, 豊田恭徳, 花田良二, 藤沢康司, 前田美穂, 真部 淳, 森泰二郎, 土田昌宏, 齋藤友博, 中澤眞平 (東京小児がん研究グループ): TCCSG L89-12プロトコールによるスタンダードリスクALLの治療成績. 第39回日本小児血液学会, 1997. 9.
- 50) 豊田恭徳, 土田昌宏, 生田幸一郎, 石本浩一, 磯山恵一, 小原 明, 沖本由理, 大川洋二, 金子 隆, 小池健一, 佐藤武幸, 渋谷 温, 杉田完爾, 杉田健一, 花田良二, 藤沢康司, 前田美穂, 真部 淳, 森 泰二郎, 矢部普正, 齋藤友博, 中澤眞平 (東京小児がん研究グループ): Tokyo Children's Cancer Study Group ALL L92-13 protocolの成績. 第39回日本小児血液学会, 1997. 9.
- 51) 西澤善樹, 藤松真理子, 岸 恵, 松岡和彦, 藤田武久, 橋本 清: 甲状腺機能亢進症の母親から出生した新生児Basedow病の低出生双胎例. 第228回日本小児科学会神奈川県地方会, 1997. 9.
- 52) 藤田武久, 橋本 清, 小松崎英樹, 川上康彦, 平山恒憲, 藤松真理子, 藤野 修, 高石康子: 先天性片側肥大, 低蛋白血症をともなった結節性硬化症の1例. 第27回日本小児神経学会関東地方会, 1997. 9.
- 53) 平山恒憲, 江見 充¹⁾, 八巻恵美¹⁾, 橋本 清, 山本正生 (¹⁾ 日本医大老人病研究所分子生物部門): 高脂血症家系におけるLDL受容体遺伝子変異とCETP遺伝子変異の相互作用. 第65回日本医大医学会総会, 1997. 9.
- 54) 藤松真理子, 藤田武久, 橋本 清, 中川博文¹⁾ (¹⁾ 日南学園): 光弾性手法による低出生体重児背臥位姿勢の接触圧分布解析. 第65回日本医大医学会総会, 1997. 9.
- 55) 倉持雪穂, 小川俊一, 日野佳昭, 神保 修, 勝部康弘, 永井雄一, 弦間優紀子, 大久保隆志, 武智信幸, 山本正生: 冠動脈瘤を合併した川崎病既往児の瘤内血流速度および灌流圧の検討. 第17回日本川崎病研究会, 1997. 10.
- 56) 大久保隆志, 小川俊一, 勝部康弘, 武智信幸, 倉持雪穂, 山本正生: 遠隔期冠動脈造影検査にて右冠動脈・右心房瘻を認めた川崎病既往児の1例. 第17回日本川崎病研究会, 1997. 10.
- 57) 武智信幸, 小川俊一, 日野佳昭, 神保 修, 永井雄一, 勝部康弘, 弦間優紀子, 大久保隆志, 倉持雪穂, 山本正生: 川崎病既往後の無症候性心筋虚血に対し生後11ヶ月後時にPTCAを施行し有効であった1乳児例. 第17回日本川崎病研究会, 1997. 10.
- 58) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆, 山本正生: 小児の線維筋痛症と自己免疫性疲労症候群. 第7回日本小児リウマチ研究会, 1997. 10.
- 59) 檜崎彦彦, 前田美穂, 濱田久光, 浅野 健, 金子清志, 福永慶隆, 山本正生: 13歳で診断された発作性夜間血色素症 (PNH) の1例. 第461回日本小児科学会東京都地方会, 1997. 10.
- 60) 折茂裕美, 太田耕造, 大木由加志, 五十嵐徹, 植田高広, 伊藤保彦, 岸 恵, 入江 学, 山本正生: 学童期および思春期肥満児の免疫能の検討—VLCD療法前後での比較—. 第18回日本肥満学会, 1997. 10.
- 61) 入江 学, 立麻典子, 村上由佳里, 中野起久恵, 折茂裕美, 岸 恵, 大木由加志, 山本正生: 一過性中枢性尿崩症の2例. 第31回日本小児内分泌学会, 1997. 10.
- 62) 倉持雪穂, 武智信幸, 大久保隆志, 前田美穂, 山本正生, 大坪保雄¹⁾, 柴田浩之¹⁾, 尾花和子²⁾, 橋都浩平²⁾ (¹⁾ 日本医大産婦人科, ²⁾ 東京大学小児科): 胎児期により疑いえた先天性梨状窩瘻の1例. 第462回日本小児科学会東京都地方会, 1997. 11.
- 63) 土屋正己, 吉田順子, 大橋隆治, 立麻典子, 安保和俊, 宗像恵美子, 芦田光則¹⁾, 山本博章²⁾, 村上睦美, 岡田

- 義治³⁾, 山内邦昭³⁾ (1) 勝楽堂病院, ²⁾ 川崎協同病院, ³⁾ 東京都予防医学協会): 学校検尿における試験紙法による尿路感染症スクリーニング. 第44回日本小児保健学会, 1997. 11.
- 64) 前田美穂, 野呂恵子, 山本正生, 岡田義治¹⁾, 山元健治¹⁾, 山内邦昭¹⁾ (1) 東京都予防医学協会): 学校における貧血検診の重要性を今一度考える. 第44回日本小児保健学会, 1997. 11.
- 65) 西澤善樹, 藤松真理子, 藤田武久, 松岡和彦, 橋本 清: 当院におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 敗血症の検討. 第42回日本未熟児新生児学会, 1997. 11.
- 66) 濱田久光, 金子清志, 浅野 健, 前田美穂, 山本正生: Idarubicin (IDR) により寛解導入に成功した小児における二次性白血病再発の1症例. 第39回日本臨床血液学会, 1997. 11.
- 67) 濱田久光, 前田美穂, 山本正生: 小児放射線治療時におけるPropofolによる全身麻酔について. 第13回小児がん学会, 1997. 11.
- 68) 高瀬真人, 稲葉八興, 城田和彦, 千葉 隆, 今井大洋: 小児胸壁上の肺音スペクトルと肺機能との相関について. 第30回日本小児呼吸器疾患学会, 1997. 11.
- 69) 稲葉八興, 高瀬真人, 城田和彦, 吉田 豊, Pasterkamp H¹⁾ (1) マニトバ大学小児科): 横隔膜筋音測定を試み. 第30回日本小児呼吸器疾患学会, 1997. 11.
- 70) 伊藤保彦, 福永慶隆, 山本正生: 小児の慢性疲労症候群と自己免疫. 第8回日本リウマチ学会関東地方会, 1997. 12.
- 71) 五十嵐徹, 福永慶隆, 前田美穂, 山本正生, 八田貞人¹⁾, 内田二郎²⁾, 武藤隆雄³⁾ (1) 鹿島白十字病院, ²⁾ 鹿浦小児科医院, ³⁾ 武藤小児科): 茨城県鹿島郡・行方郡における小中学生を対象とした平成8年度貧血検診の結果について. 第57回日本小児科学会茨城地方会, 1997. 12.
- 72) 山下行雄¹⁾, 三浦善之¹⁾, 柳澤信子¹⁾, 神保 修, 他¹⁾ (1) 川崎市医師会学校医部会・心臓病判定委員会): 川崎市における川崎病の管理指導—神奈川県—. 第28回関東甲信越静学校心臓病予防研究会埼玉大会, 1997. 12.
- 73) 藤田武久, 橋本 清, 小松崎英樹, 川上康彦, 平山恒憲, 藤松真理子, 日野佳昭, 向後俊昭, 戸田茂樹¹⁾, 松本正博¹⁾ (1) 日本医大付属多摩永山病院脳神経外科): 頭部外傷後ミオクロニー発作に罹患し経過中に両側硬膜下血腫を認めた1乳児例. 第21回神奈川小児神経懇話会, 1998. 1.
- 74) 林田真理, 倉持雪穂, 浅野 健, 前田美穂, 山本正生: 内視鏡クリッピング術により止血し得た急性十二指腸潰瘍出血の1幼児例. 第464回日本小児科学会東京都地方会, 1998. 2.
- 75) 大久保隆志, 小川俊一, 日野佳昭, 神保 修, 勝部康弘, 弦間優紀子, 武智信幸, 倉持雪穂, 内木場庸子, 福見大地, 山本正生: 川崎病後の冠動脈狭窄を有する児における心筋血流予備量比 (FFR myo) を用いた心筋虚血の検討. 第9回小児カテーテルインターベンション研究会, 1998. 2.
- 76) 小川耕一, 浅野 健, 林田真理, 前田美穂, 山本正生: 肥厚性硬膜炎が原因として疑われた再生不良性貧血の頭蓋内出血. 第48回埼玉小児血液同好会, 1998. 3.
- 77) 滝 智彦¹⁾, 井田孔明¹⁾, 林 泰秀¹⁾, 別所文雄¹⁾, 野呂恵子, 山本正生, 他²⁾ (1) 東京大学小児科, ²⁾ 国立がんセンター放射線科): 治療関連二次白血病 (t-AML) にみられたt (11; 22) (q23; q13) におけるMLL遺伝子とp300遺伝子の融合. 第60回日本血液学会, 1998. 3.
- 78) 倉持雪穂, 小川俊一, 日野佳昭, 神保 修, 大久保隆志, 武智信幸, 福見大地, 内木場庸子, 平山恒夫, 山本正生: 冠動脈瘤を合併した川崎病既往児の瘤内血流速度および灌流圧の検討. 第62回日本循環器学会, 1998. 3.
- 79) 前田美穂, 山本正生, 土田昌宏¹⁾, 杉田憲一¹⁾, 細谷亮太¹⁾, 恒松由記子, 齋藤友博¹⁾, 中澤眞平¹⁾ (1) 東京小児がん研究グループ): 小児ALL長期生存者における晩期障害の検討. 第60回日本血液学会総会, 1998. 3.
- 80) 竹田幸代, 福永慶隆, 五十嵐徹, 山本正生, 内田二郎¹⁾, 武藤隆雄²⁾, 箕輪富公³⁾, 中沢信江⁴⁾ (1) 鹿浦小児科医院, ²⁾ 武藤小児科, ³⁾ 三笠小児クリニック, ⁴⁾ 中沢医院): 平成9年度に当院に来院した麻疹の流行について. 第58回日本小児科学会茨城地方会, 1998. 3.

7. 放射線医学講座

[付属病院放射線科]

研究概要

1) 核医学分野では心電図同期心筋SPECTデータを用いたQGSプログラムによる3次元機能解析法の臨床的有用性を確立し、短時間収集法に基づく負荷時機能評価も順調に進められている。また、心筋イメージ撮像時の呼吸同期システムを開発した。末梢循環に関しては、テクネチウム心筋血流製剤を用いた負荷に関する研究に新知見をもたらした。脳血流SPECTでは動脈硬化症・動脈閉塞症に対する薬剤負荷を用いた循環予備能評価に関する研究、さらに動態解析を加えた新しい研究も行われている。

2) 教室がその研究の主体となった高速らせんCTによる3次元CTは、おおむね完成し様々な血管病変のスクリーニングから確定診断まで幅広く活用されるに至った。現在は新たな再構成法の開発に取り組んでいる。腹部実質臓器に関しては、肝臓・脾臓を中心いくつかのCT診断上の知見が得られた。肺癌検診におけるらせんCTの導入については、放射線医学総合研究所との共同研究が進んだ。

3) MRIは、骨髄病変に関し多くの新知見を得た。中枢神経疾患に関してはStanford大学との共同開発中のソフトを用いdiffusion imageを応用した拡散異放性につき研究中である。血管病変に対しては、moving-table MR血管造影法を開発中である。

4) 放射線治療分野では「良性疾患」を数多く経験し、ケロイド治療の研究が目立つ。悪性腫瘍では頭頸部と骨盤部が多いが、両領域とも障害軽減の研究が評価を受けている。また、電子メールと添付ファイルのみを使った遠隔診察(仮称:電脳診察)は唯一機能しているシステムとして評価を受けた。さらに全国規模の「日本放射線腫瘍学研究グループ」を組織し効果安全性の面から参画している。

5) 血管内治療では、大動脈瘤・大動脈解離に対するステント・グラフト治療の臨床評価が開始され、みるべき成果を得た。閉塞性動脈硬化症に対するPTA・ステント治療、肺血栓塞栓症に対する血栓溶解療法、外傷性出血に対する塞栓術、経内頸静脈的肝内門脈体循環短絡術などの研究が継続し確実な発展がみられている。また、支援画像としてコンビーム3次元CTの研究を開始した。食道・気道・胆道系のステント治療の研究にも進歩が見られ、またCTガイド下生検は実地の臨床に直結した研究として成果を上げている。

6) 救急領域においては教室が中心となり「救急疾患のIVR」を上梓したことが特筆される。また、肝癌破裂、外傷性大動脈損傷、横隔膜損傷等を中心として画像診断上の新知見を得た。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著:

- 1) Kawakatsu M¹⁾, Vilgrain V²⁾, Zins M²⁾, Vullierme M²⁾, Belghiti J²⁾, Nenu Y²⁾ (1) Department of Radiology Kosei Hospital, (2) Department of Radiology, Hospital Beaujon): Radiologic features of papillary adenoma and papillomatosis of the biliary tract. *Abdom Imaging* 1997; 22 (1): 87-90.

(1) 原著:

- 1) Tajima H, Hosaka J, Tajima N, Kumazaki T: Arteriovenous malformation of the gallbladder. *Eur Radiol* 1997; 7 (3): 333-334.

- 2) Kawakatsu M¹⁾, Vilgrain V²⁾, Erlinber S²⁾, Nahum H²⁾ (¹⁾ Department of Radiology Kosei Hospital, ²⁾ Department of Radiology, Hospital Beaujon) : Disappearance of liver cell adenoma : CT and MR imaging. *Abdom Imaging* 1997 ; 22 (3) : 274-276.
- 3) Amano Y, Takaura J, Kumazaki T : The MRI diagnosis of bone marrow infarction in a child with leukaemia. *Clin Radiol* 1997 ; 52 (7) : 560-561.
- 4) Amano Y, Kumazaki T : Magnetization transfer imaging of bone marrow with and without fat-suppression technique. *Acad Radiol* 1997 ; 4 (12) : 812-815.
- 5) Ishihara M, Kobayashi H¹⁾, Ichikawa T, Cho K, Gemma K, Kumazaki T (¹⁾ Fukuoka Tokushukai Hospital) : The value of emergency CT studies in spontaneous rupture of hepatocellular carcinoma : Analysis for tumor protrusion and hemorrhagic ascites. *J Nippon Med Sch* 1997 ; 64 (6) : 38-43.
- 6) Amano Y, Onda M¹⁾, Amano M, Kumazaki K (¹⁾ 2nd Department of Pathology) : Magnetic resonance imaging of myelofibrosis : STIR and gadolinium enhanced MR images. *Clin Imaging* 1997 ; 21 (4) : 264-268.
- 7) Murakami R, Tajima H, Ichikawa K, Kobayashi Y, Sugizaki K, Yamamoto K, Kurokawa A¹⁾, Kumazaki T (¹⁾ Dept of Emergency Medicine) : A cute traumatic injury of the distal descending aorta associated with thoracic spine injury. *Eur Radiol* 1998 ; 8 (1) : 60-62.
- 8) Murakami R, Tajima H, Kobayashi Y, Sugizaki K, Ogura J, Yamamoto K, Kumazaki T, Egami K¹⁾, Maeda S²⁾ (¹⁾ Dept of Surgery, ²⁾ Dept of Pathology) : Mesenteric schwannoma. *Eur Radiol* 1998 ; 8 (2) : 277-279.
- 9) 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 水村 直, 木島鉄仁, 石原真木子, 鳥羽正浩, 井上幸平, 隈崎達夫, 佐野純子²⁾, 多田裕美子²⁾, 哲翁弥生²⁾, 酒井俊太²⁾, 草間芳樹²⁾, 宗像一雄²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 第一内科) : Tc-99m-Tetrofosmin心拍同期心筋SPECTデータを用いた左室収縮能評価 : 左室辺縁自動描出法による容量算出に基づく機能解析. *核医* 1997 ; 33 (4) : 237-242.
- 10) 内山菜智子¹⁾, 宮川国久¹⁾, 村松幸男¹⁾ (¹⁾ 国立がんセンター放射線診断部) : 子宮原発 malignant mixed Mullerian tumorのMRI所見. *画像診断* 1997 ; 17 (4) : 415-420.
- 11) 天野康雄, 隈崎達夫, 新井宣行¹⁾ (¹⁾ GE横河メディカルシステム) : 再生不良性貧血における過形成髄の1H MR Spectroscopy. *日医放線会誌* 1997 ; 57 (5) : 253-257.
- 12) 鴨下 亨¹⁾, 横倉稔明²⁾ (¹⁾ 簡易保険総合検診センター, ²⁾ やすらぎの丘温泉病院) : 経直腸的超音波断層法を用いた前立腺疾患に関する研究 : 前立腺疾患における射精管の画像上の変化の分析. *日超音波医学会誌* 1997 ; 24 (4) : 669-677.
- 13) 鳥羽正浩¹⁾, 汲田伸一郎, 水村 直, 趙 圭一²⁾, 木島鉄仁, 隈崎達夫, 酒井俊太³⁾, 草間芳樹³⁾, 宗像一雄³⁾ (¹⁾ 国立循環器病センター放射線診断部, ²⁾ 千葉北総病院放射線科, ³⁾ 第一内科) : 再灌流後早期における局所心筋壁運動改善の予測 : 低容量ドプタミン負荷Tc-99m-MIBI心拍同期心筋シンチグラフィを用いた検討. *核医* 1997 ; 34 (5) : 315-322.
- 14) 朝戸健夫, 田島廣之 : 原発性肝細胞癌における回転デジタル血管造影の診断の有用性に関する研究. *日医大誌* 1997 ; 64 (5) : 401-410.
- 15) 天野康雄, 隈崎達夫, 石原真木子, 中原 圓, 天野真紀, 渡 潤 : 骨髄病変に対する脂肪抑制法併用 magnetization transfer imagingの検討. *日磁気共鳴医学会誌* 1997 ; 17 (6) : 370-376.
- 16) 天野康雄, 林 宏光, 石原真木子, 川俣博志, 隈崎達夫, 槇 利夫¹⁾, 土橋俊男¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科技師) : 骨盤部動脈に対する心電図同期2次元time-of-flight MRAとsmartprep3次元造影MRAの試み. *日磁気共鳴医学会誌* 1997 ; 17 (8) : 523-525.

- 17) 川勝樹夫, 福永 淳¹⁾, 月岡健雄¹⁾, 高浜克也¹⁾, 笹川道三¹⁾ (¹⁾ 栃木県立がんセンター画像診断部): 原発巣摘出4年後に孤立性腹腔内転移を呈した卵巣腫瘍の1例. 臨画像 1997; 13 (11): 1378-1381.
- 18) 渡 潤, 田島廣之, 徐 向英, 隈崎達夫, 工藤翔二¹⁾, 吉村明修¹⁾, 村田 朗¹⁾, 松本満臣²⁾, 宮本忠昭³⁾, 松本 徹³⁾, 矢野 侃⁴⁾ (¹⁾ 第四内科, ²⁾ 都立医療短大, ³⁾ 放射線医学総合研究所, ⁴⁾ 荒川がん予防センター): 肺癌一次検診におけるらせんCTの導入. 胸部CT検 1997; 4 (2): 44-47.
- 19) 町田 稔, 亀山孝二¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 病理学第二): 交感受性物質Hematoporphyrinによるヒト大動脈硬化病変と蛍光スペクトルの検討. 脈管学 1997; 37: 799-807.
- 20) 岡田 進¹⁾, 矢野真知子²⁾, 澤野誠志³⁾, 山田恵子³⁾, 山下 孝³⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 矢野眼科医院, ³⁾ 癌研病院放射線科): 海綿静脈洞部の腫瘍による動眼神経麻痺症例の検討. 臨放線 1998; 43 (2): 241-245.
- 21) 林 宏光, 小林尚志¹⁾, 高木 亮, 若林洋行, 市川太郎, 川俣博志, 弦間和仁²⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 福岡徳州会病院, ²⁾ 多摩永山病院放射線科): 高速らせんCTによる血管性病変の3次元画像診断: Voxel transmission法による3D-CT angiographyとvirtual CT endoscopy: cruising eye view. 脈管学 1998; 38 (3): 137-141.
- 22) 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 水村 直, 木島鉄仁, 石原真木子, 鳥羽正浩²⁾, 山田文士, 井上幸平, 隈崎達夫, 佐野純子³⁾, 多田裕美子³⁾, 哲翁弥生³⁾, 酒井俊太³⁾, 草間芳樹³⁾, 宗像一雄³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 国立循環器病センター放射線診断部, ³⁾ 第一内科): Tc-99m-Tetrofosmin心拍同期心筋シンチグラフィを用いた左室機能解析. 第22回ニュータウンカンファレンス報文集 1998; 22: 66-69.
- (2) 綜説:
- 1) 田島廣之, 川俣博志, 後藤慎介, 高橋修司, 岡島雄史, 市川和雄, 古川一博, 山田 明, 村上隆介¹⁾, 弦間和仁²⁾, 田島なつき³⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 第一病院放射線科, ³⁾ 千葉北総病院放射線科): 腹部外傷の画像診断: 骨盤外傷. 画像診断 1997; 17 (4): 392-399.
- 2) 市川太郎, 小林尚志¹⁾, 高木 亮, 林 宏光, 隈崎達夫 (¹⁾ 福岡徳州会病院): CTアンギオグラフィによる肝・胆・脾の低侵襲的血管イメージング. 日獨医報 1997; 41 (4): 829-834.
- 3) 川俣博志, 林 宏光, 田島廣之, 隈崎達夫, 大矢 徹¹⁾ (¹⁾ 日産玉川病院放射線科): 8. 大動脈解離の診断: 偽腔開存型と血栓閉鎖型. 日血管造影・Intervent Radiol研究会誌 1997; 12 (2): 214-219.
- 4) 石原聖久¹⁾, 清水康弘¹⁾, 隈崎達夫, 佐藤薫隆²⁾ (¹⁾ 佼成病院放射線科, ²⁾ 平塚胃腸病院外科): DIC-ヘリカルCT, 現代臨床機能検査—その実際と解釈—. 日臨 1997; 55: 180-182.
- 5) 天野真紀, 山田恵子¹⁾, 林 敏彦¹⁾, 山下 孝¹⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 癌研病院放射線科): CT検査・骨盤部 (各種画像診断法の特徴). 臨看 1997; 23 (6): 867-872.
- 6) 篠原義智¹⁾, 渡 潤, 隈崎達夫 (¹⁾ 多摩南部地域病院放射線科): (特集: 肺がん) 診断法の進歩, これからの経皮的肺針生検. 臨と研 1997; 74 (6): 1365-1369.
- 7) 川俣博志, 隈崎達夫, 市川和雄, 林 宏光, 市川太郎, 小林尚志¹⁾ (¹⁾ 福岡徳州会病院): 腎・尿路系における三次元CT. 臨泌 1997; 51 (7): 445-451.
- 8) 岡島雄史, 林 宏光, 天野康雄, 隈崎達夫, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 病理学第二): 症例から学ぶ: 坐骨原発の悪性リンパ腫. 日医大誌 1997; 64 (3): 272-274.
- 9) 隈崎達夫: 新しい画像診断シリーズ. 11. 心血管の回転デジタル撮影法. 臨科学 1997; 33 (7): 867-873.
- 10) 渡 潤, 田島廣之, 徐 向英, 隈崎達夫, 工藤翔二¹⁾, 吉村明修¹⁾, 村田 朗¹⁾, 松本満臣²⁾, 宮本忠昭³⁾, 松本 徹³⁾, 矢野 侃⁴⁾ (¹⁾ 第四内科, ²⁾ 都立医療技術短大, ³⁾ 放射線医学総合研究所, ⁴⁾ 荒川区がん予防センター): 高速らせんCTを用いた肺癌一次検診システムの構築: 初期臨床経験. 映像情報Med 1997; 29 (14): 833-838.
- 11) 石原真木子, 天野康雄, 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 水村 直, 中原 圓, 岡田 進¹⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病

- 院放射線科)：EPI perfusion studyを用いた大脳白質病変の評価。日臨 1997；55 (7)：122-127.
- 12) 市川太郎，隈崎達夫，林 宏光，高木 亮：高速らせんCTの使い方。臨画像 1997；13 (8)：858-859.
- 13) 市川太郎，林 宏光，高木 亮，隈崎達夫：症例で見る高速らせんCTの実際：骨盤下肢。Innervation 1997；12 (8)：91-94.
- 14) 林 宏光，隈崎達夫：Virtual CT endoscopy：cruising eye view による血管性病変の評価。医のあゆみ 1997；182 (8)：463-466.
- 15) 林 宏光：3次元CTの臨床応用。通信医 1997；49 (8)：413-432.
- 16) 市川太郎，隈崎達夫：膀胱。臨床医 1997；23 (増刊号)：1748-1749.
- 17) 隈崎達夫：日血管造影・Intervent Radiol 研究会誌 1997；12 (4)：511-512.
- 18) 中條秀信，林 宏光，高木 亮，若林洋行，松田 亮，森下 実，隈崎達夫：CT4半世紀の成果と展望：血管性病変の3次元CT。新医療 1997；24 (10)：77-79.
- 19) 田島廣之，隈崎達夫，矢野 潔¹⁾ (1) 千葉北総病院放射線科)：カテーテル検査とカテーテル治療：塞栓術用カテーテル。救急医 1997；21 (12)：1580-1581.
- 20) 市川太郎，隈崎達夫：ルーチンとしてのヘリカルCTの最近の話題：睽。臨画像 1997；13 (11)：1332-1338.
- 21) 天野康雄，館野 温，宮下次廣，隈崎達夫，堀内淳一¹⁾，五味聖二²⁾，檀 和夫²⁾ (1) 博慈会記念総合病院放射線科，²⁾ 第三内科)：画像に基づく悪性腫瘍のstage診断：悪性リンパ腫。臨画像 1997；13 (11)：166-173.
- 22) 汲田伸一郎，趙 圭一¹⁾，水村 直，木島鉄仁，中條秀信，石原真木子，隈崎達夫 (1) 千葉北総病院放射線科)：虚血性心疾患に対する新しい形態機能画像診断：RIによる機能評価および予後予測を中心に。カレントセラピー 1997；15 (12)：177-182.
- 23) 田島廣之，隈崎達夫：腎尿路系疾患の検査，ベッドサイドノート：造影剤による副作用とその対策。腎と透析 1997；43 (増刊号)：824-826.
- 24) 汲田伸一郎，隈崎達夫，趙 圭一¹⁾，水村 直，木島鉄仁，石原真木子，鳥羽正浩，多田裕美子²⁾，酒井俊太²⁾，佐野純子²⁾，哲翁弥生²⁾，草間芳樹²⁾，宗像一雄²⁾ (1) 千葉北総病院放射線科，²⁾ 第一内科)：心筋血流SPECTイメージング：Tc-99m標識血流トレーサを用いた心機能解析を含めて。先端医療 1997；4 (2)：30-32.
- 25) 林 宏光，小林尚志¹⁾，若林洋行，高木 亮，高浜克也，中條秀信，石原真木子，天野康雄，川俣博志，弦間和仁²⁾ (1) 福岡徳州会病院，²⁾ 多摩永山病院放射線科)：骨盤・下肢血管性病変の3次元CT血管造影法。日獨医報 1997；41：856-869.
- 26) 林 宏光：放射線科専門医試験受験に必要な基礎知識—画像診断から治療まで：結核性心膜炎。日医放会誌 1997；57：368-369.
- 27) 林 宏光，川俣博志，高橋修司，弦間和仁¹⁾，高木 亮，隈崎達夫 (1) 多摩永山病院放射線科)：血栓閉鎖型大動脈解離におけるUlcerlike Projectionの臨床的意義。集中治療 1997；11：1255-1264.
- 28) 林 宏光，天野康雄，高木 亮，川俣博志，隈崎達夫：血管病変の画像診断。カレントセラピー 1997；15：207-214.
- 29) 林 宏光，高木 亮，隈崎達夫：Digital Imaging Update 次世代の画像診断“3次元CT”。Curr Topic Radiol 1997；2：3-13.
- 30) 林 宏光，隈崎達夫：Virtual CT endoscopy：Cruising eye view 法。Vascular Diseases and Therapies 1997；3：12-14.
- 31) 川俣博志，隈崎達夫：血管造影：動脈造影，静脈造影，下大動脈造影，サンプリング。腎と透析 1997；43 (増刊号)：891-897.
- 32) 高木 亮：胸部CT検査について。BRAIN 1997；47：6-7.
- 33) 高木 亮，林 宏光，若林洋行，中條秀信，市川太郎，小林尚志¹⁾，隈崎達夫，青木祐子²⁾，高木 博²⁾ (1) 福

- 岡徳州会病院, ²⁾ 日立メディコ) : 脳動脈瘤診断における3次元CT血管造影法 : Multi-Angle Reconstruction Plan (MARP) 法の臨床応用. MEDIX 1997 ; 28 : 15-20.
- 34) 田島廣之, 岡部哲夫¹⁾ (¹⁾ 鈴鹿医療科学技術大学) : Progress in Radiology '96 報告 : 日本スキャンジナビア放射線医学シンポジウム. 映像情報Med 1998 ; 30 (4) : 231-233.
- 35) 高木 亮, 林 宏光, 田島廣之, 後藤慎介, 隈崎達夫 : 胸郭・縦隔膜損傷. 救急医 1998 ; 22 (3) : 367-370.

著 書

- 1) 中原 圓, 市川太郎, 林 宏光, 高木 亮, 片桐究代¹⁾, 町田 幹, 隈崎達夫, 谷澤 徹²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 東京医科歯科大・保健衛生学科形態検査学) : [分担] 症例13. 肝に認められたReactive Lymphoid Hyperplasiaの1例. 腹部画像診断アトラス3 (打田日出夫, 他編), 1997 ; pp40-41, 腹部放射線研究会.
- 2) 町田 幹, 天野康雄, 川俣博志, 市川太郎, 隈崎達夫, 渡辺恵子¹⁾, 山本正生¹⁾ (¹⁾ 小児科) : [分担] 症例59. 胃原発未熟型奇形腫の1例. 腹部画像診断アトラス3 (打田日出夫, 他編), 1997 ; pp158-159, 腹部放射線研究会.
- 3) 林 宏光, 隈崎達夫 : [分担] 大動脈/2. 大動脈瘤 : 3) CTによる大動脈瘤の診断. 心臓病プラクティス 14. 画像で心臓を捉える (別府慎太郎, 内藤博昭編), 1997 ; pp296-301, 文光堂.
- 4) 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 尾科隆司²⁾, 中條秀信, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 付属病院放射線科技師) : [分担] 心電図同期SPECT. 心臓核医学の基礎と臨床—最新の心臓核医学の手法と臨床応用への手がかり— (玉木長良監修), 1998 ; pp39-42, メジカルセンス.
- 5) 汲田伸一郎, 中條秀信, 隈崎達夫 : [分担] 心拍同期心筋SPECT. SPECT機能画像一定量化の基礎と臨床— (西村恒彦編集), 1998 ; pp138-143, メジカルビュー社.
- 6) 川俣博志, 隈崎達夫 : [分担] 2門脈. 1. 食道胃静脈瘤に対するTIPS. 消化器病セミナー70 消化器疾患に対するIVR (打田日出夫編集), 1998 ; pp25-40, へるす出版.
- 7) 市川太郎, 石原眞木子, 中原 圓, 隈崎達夫 : [分担] 6. 腹部—脾・脾—. 臨床画像SPECIAL 改訂 最新MRI診断 (平松慶博編集), 1998 ; pp199-206, メジカルビュー社.
- 8) 隈崎達夫, 石川 徹¹⁾ (¹⁾ 聖マリアンナ医大) : [編集] 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川徹編), 1998 ; メジカルビュー社.
- 9) 田島廣之, 吉田陽一¹⁾ (¹⁾ 脳神経外科) : [分担] 1. Vascular IVR ; 1. 頭部・頸部—脳血管攣縮—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998 ; pp6-7, メジカルビュー社.
- 10) 村上隆介¹⁾, 田島廣之 (¹⁾ 多摩永山病院放射線科) : [分担] 1. Vascular IVR ; 1. 頭部・頸部—鼻出血—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998 ; pp8-9, メジカルビュー社.
- 11) 後藤慎介, 田島廣之 : [分担] 1. Vascular IVR ; 1. 頭部・頸部—頭部外傷—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998 ; pp10-11, メジカルビュー社.
- 12) 田島廣之, 隈崎達夫 : [分担] 1. Vascular IVR ; 2. 胸部—肺血栓塞栓症 血栓溶解療法—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998 ; pp12-13, メジカルビュー社.
- 13) 田島廣之, 川俣博志 : [分担] 1. Vascular IVR ; 2. 胸部—肺血栓塞栓症 血栓吸引療法—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998 ; pp14-15, メジカルビュー社.
- 14) 田島廣之, 町田 幹 : [分担] 1. Vascular IVR ; 2. 胸部—咯血—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998 ; pp16-17, メジカルビュー社.
- 15) 岡島雄史, 田島廣之 : [分担] 1. Vascular IVR ; 2. 胸部—外傷性肺動脈損傷—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998 ; pp18-19, メジカルビュー社.
- 16) 田島廣之, 弦間和仁¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院放射線科) : [分担] 1. Vascular IVR ; 2. 胸部—上大静脈症候群—.

- 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp20-21, メジカルビュー社.
- 17) 高山守正¹⁾, 隈崎達夫 (1) 集中治療室): [分担] 1. Vascular IVR; 3. 心・大血管—急性心筋梗塞—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp22-25, メジカルビュー社.
 - 18) 川俣博志, 伊藤公一郎¹⁾ (1) 千葉北総病院放射線科): [分担] 1. Vascular IVR; 3. 心・大血管—肺血栓塞栓症 下大静脈フィルター (パーマネントタイプ) —. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp34-35, メジカルビュー社.
 - 19) 高橋修司, 田島廣之: [分担] 1. Vascular IVR; 3. 心・大血管—肺血栓塞栓症 下大静脈フィルター (テンポラリータイプ) —. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp36-37, メジカルビュー社.
 - 20) 村上隆介¹⁾, 田島廣之 (1) 多摩永山病院放射線科): [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—肝損傷—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp38-39, メジカルビュー社.
 - 21) 岡島雄史, 田島廣之: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—脾損傷—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp40-41, メジカルビュー社.
 - 22) 岡島雄史, 川俣博志: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—腎損傷—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp42-43, メジカルビュー社.
 - 23) 岡島雄史, 田島廣之: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—副腎損傷—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp44-45, メジカルビュー社.
 - 24) 後藤慎介, 川俣博志: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—十二指腸潰瘍—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp48-49, メジカルビュー社.
 - 25) 川俣博志, 大矢 徹¹⁾ (1) 日産玉川病院放射線科): [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—食道胃静脈瘤 (TIPS) —. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp50-51, メジカルビュー社.
 - 26) 田島廣之, 古川一博: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—食道胃静脈瘤 (PTO/TIO) —. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp52-53, メジカルビュー社.
 - 27) 高橋修司, 田島廣之: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—胃静脈瘤 (BRTO) —. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp54-55, メジカルビュー社.
 - 28) 田島廣之, 市川和雄: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—食道胃静脈瘤 (SAE) —. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp56-57, メジカルビュー社.
 - 29) 田島廣之, 片山信仁¹⁾ (1) 帝京溝の口病院放射線科): [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—ヘモビリアー—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp58-59, メジカルビュー社.
 - 30) 村上隆介¹⁾, 田島廣之 (1) 多摩永山病院放射線科): [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—十二指腸静脈瘤—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp60-61, メジカルビュー社.
 - 31) 川俣博志, 館野 温: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—小腸粘膜下腫瘍—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp62-63, メジカルビュー社.
 - 32) 高橋修司, 田島廣之: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—潰瘍性大腸炎—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp64-65, メジカルビュー社.
 - 33) 田島廣之, 石王道人: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—大腸憩室症—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp66-67, メジカルビュー社.
 - 34) 高橋修司, 川俣博志: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—原発性肝細胞癌破裂—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp68-69, メジカルビュー社.
 - 35) 高橋修司, 川俣博志: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—肝動脈瘤破裂—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp70-71, メジカルビュー社.

- 36) 田島廣之, 保坂純郎¹⁾ (1) 千葉北総病院放射線科): [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—胃動脈瘤破裂—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp72-73, メジカルビュー社.
- 37) 高橋修司, 川俣博志: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—脾動静脈奇形—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp74-75, メジカルビュー社.
- 38) 田島廣之, 田島なつき¹⁾ (1) 千葉北総病院放射線科): [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—術後出血—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp76-77, メジカルビュー社.
- 39) 川俣博志, 植田候平: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—術後血尿—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp78-79, メジカルビュー社.
- 40) 田島廣之, 高浜克也: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—上腸間膜動脈閉塞症—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp80-81, メジカルビュー社.
- 41) 高橋修司, 川俣博志: [分担] 1. Vascular IVR; 4. 腹部—門脈血栓症—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp82-83, メジカルビュー社.
- 42) 後藤慎介, 高橋修司: [分担] 1. Vascular IVR; 5. 骨盤・四肢—骨盤骨折—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp86-87, メジカルビュー社.
- 43) 高橋修司, 田島廣之: [分担] 1. Vascular IVR; 5. 骨盤・四肢—会陰部損傷—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp88-89, メジカルビュー社.
- 44) 高橋修司, 田島廣之: [分担] 1. Vascular IVR; 5. 骨盤・四肢—女性性器出血—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp90-91, メジカルビュー社.
- 45) 市川和雄, 田島廣之: [分担] 1. Vascular IVR; 5. 骨盤・四肢—持続性陰茎勃起症—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp92-93, メジカルビュー社.
- 46) 川俣博志, 飯田英次¹⁾ (1) 海老名総合病院放射線科): [分担] 1. Vascular IVR; 5. 骨盤・四肢—急性四肢動脈閉塞症—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp94-95, メジカルビュー社.
- 47) 田島廣之, 青山俊也¹⁾ (1) 吉川中央病院): [分担] 1. Vascular IVR; 5. 骨盤・四肢—四肢動脈損傷—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp96-97, メジカルビュー社.
- 48) 田島廣之, 山田 明: [分担] 1. Vascular IVR; 6. その他: 血管内異物除去 (門脈系). 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp100-101, メジカルビュー社.
- 49) 渡 潤¹⁾, 田島廣之 (1) 下谷病院放射線科): [分担] 2. Non Vascular IVR; 2. 胸部—気道熱傷による気管・気管支狭窄—. 救急疾患のIVR—手技の実際とポイント— (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp106-107, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) Ichikawa T: 3D-CT Imaging in digestive diseases. 9th Korean Association of Hepato-Biliary Pancreatic Surgery (Seoul), 1997. 9.
- 2) 隈崎達夫: 血管性病変の画像診断と血管内治療—最新の動向を中心として—. 三郡市医師会合同学術講演会, 1997. 4.
- 3) 隈崎達夫: 3次元CT診断の最前線—特に血管性病変の診断と治療をめぐって—. 第319回学術講演会, 1997. 5.
- 4) 隈崎達夫: 血管領域に於ける3次元画像診断の最前線; IVRも含めて. 第15回奈良放射線医学UP-DATE/第3回血管領域の画像診断とIVR, 1997. 6.
- 5) 林 宏光: 高速らせんCTを用いた3次元CT診断—血管性病変を中心として—. 第4回郡山高速ラセンCT研究会,

1997. 7.

- 6) 林 宏光：高速らせんCTによる3次元CT—その基礎から最新の3次元画像まで—。第1回宮城県ヘリカルCT研究会，1997. 9.
 - 7) 高木 亮：脳動脈瘤の3次元CT。東京レントゲンカンファレンス，1997. 9.
 - 8) 隈崎達夫：血管病変の新しい3次元画像診断；インターベンションも含めて。第6回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，1997. 12.
 - 9) 汲田伸一郎：99mTc-Tetrofosminを用いた心拍同期心筋シンチグラフィ—データ収集から臨床応用まで—。第38回栃木県核医学研修会，1998. 2.
 - 10) 林 宏光：高速らせんCTによる3次元画像診断。聖マリアンナ医科大学放射線医学教室研究会「Radiology Seminar」，1998. 3.
 - 11) 林 宏光：3次元CT顕微鏡のための新補間再構成法の開発。医用原子力技術に関する研究助成総合報告会，1998. 3.
 - 12) 高木 亮：頭部3次元CTの実際。Four Seasons Forum，1998. 3.
- (2) 招待講演：
- 1) Kumazaki T：Dynamic 3D imaging system -value for cardiovascular diagnosis and intervention. The 1997 Mount Tai International Radiology (Shandong, China)，1997. 4.
- (3) 教育講演：
- 1) 隈崎達夫：血管病変の3次元画像診断と血管内治療；患者さんにやさしい診断を目指して。福島県支部総会 生涯教育講演，1997. 9.
 - 2) 田島廣之：腹部。腹部外傷の画像診断（日常診療のための画像診断リフレッシャーコース）。日本医学放射線学会関東地方会セミナー，1998. 2.
 - 3) 市川太郎：ヘリカルCTの基礎と応用について。簡易保険福祉事業団医療職員技術研修会，1998. 2.
 - 4) 田島廣之：胸部X線写真の評価について。簡易保険福祉事業団医療職員技術研修会，1998. 2.
- (4) シンポジウム：
- 1) 堀内淳一：密封小線源治療のコツ。第18回頭頸部手術手技研究会，1997. 6.
 - 2) 林 宏光：骨盤部閉塞性動脈硬化症のIVRと3次元画像診断—治療支援画像としての接点を探る—（インターベンショナルラジオロジー・画像診断最新技術のIVRへの臨床応用）。第6回造影剤と放射線シンポジウム，1997. 6.
 - 3) 汲田伸一郎：テクネ製剤の心電図同期心筋SPECTについて。第11回心臓核医学談話会，1997. 7.
 - 4) 林 宏光，隈崎達夫：Endovascular Interventionの治療支援画像としての3次元画像診断。（下肢ASOに於ける血管内治療の最前線）。第3回日本血管内治療学会，1997. 7.
 - 5) 渡 潤，田島廣之，隈崎達夫：食道ステントの現況。第9回関東IVR研究会，1997. 7.
 - 6) 田島廣之，隈崎達夫，川俣博志，後藤慎介，高橋修司，高山守正¹⁾，子島 潤¹⁾，高野照夫¹⁾（¹⁾ 集中治療室）：急性肺動脈血栓塞栓症に対するt-PA動注血栓溶解療法—特に超選択的動注法について—。第38回日本脈管学会総会，1997. 10.
 - 7) 林 宏光，川俣博志，高木 亮，天野康雄，市川和雄，隈崎達夫：3D-CTA,3D-MRAによるMinimally Invasive Vascular Imaging：Update。第38回日本脈管学会総会，1997. 10.
 - 8) 川俣博志，隈崎達夫：Ulcerlike projectionについて。第38回日本脈管学会総会，1997. 10.
 - 9) 高木 亮，林 宏光，中條秀信，市川和雄，隈崎達夫，池田幸穂¹⁾，足立好司²⁾，野手洋治²⁾，寺本 明（¹⁾ 救急医学，²⁾ 脳神経外科）：半自動3次元CT画像再構成処理法（MARP法）を用いた脳動脈瘤診断への臨床応用。第21回日本脳神経CI学会総会，1998. 2.
 - 10) 林 宏光，高木 亮，若林洋行，市川太郎，隈崎達夫：3次元画像診断の進歩。腹部領域における3次元画像診

断の現状とその臨床的有用性—3次元CT血管造影法を中心に—。第17回日本画像医学会，1998。2。

(5) オーガナイズドセッション：

- 1) 隈崎達夫，市川和雄，坂本理恵子¹⁾ (1) 日立メディコ)：II検出型コーンビーム3D-CTの臨床応用—血管性病変を中心として—。第16回日本医用画像工学会 (JAMIT Annual Meeting'97)，1997。7。
- 2) 隈崎達夫：Virtual endoscopy, Cone-beam CTなど。第3回慶応国際エグゼクティブプログラム (KIEP)，1997。9。

(6) ランチョンセミナー：

- 1) 隈崎達夫：新しい3次元の血管造影診断：小児循環器疾患を含めて。第16回日本小児循環器学会総会，1997。7。
- 2) 市川太郎：肝の画像診断—らせんCTとMRI—。1.らせんCT。第33回日本医学放射線学会秋季臨床大会，1997。10。
- 3) 隈崎達夫：血管3次元画像診断の最前線：新技術の開発と臨床応用。第11回日本冠疾患学会学術大会，1997。12。
- 4) 汲田伸一郎，隈崎達夫，草間芳樹¹⁾，宗像一雄¹⁾ (1) 第一内科)：99mTc-Tetrofosminによる心拍同期SPECT—心機能同時評価の有用性—。第62回日本循環器学会総会学術集会，1998。3。
- 5) 汲田伸一郎，隈崎達夫，草間芳樹¹⁾，宗像一雄¹⁾ (1) 第一内科)：99mTc-sestamibiを用いた心拍同期心筋シンチグラフィの臨床応用。第62回日本循環器学会総会，1998。3。
- 6) 汲田伸一郎，隈崎達夫，草間芳樹¹⁾，宗像一雄¹⁾ (1) 第一内科)：Gated SPECTによる心機能と血流の同時評価。第62回日本循環器学会総会学術集会ファイアサイドセミナー，1998。3。

(7) ワークショップ：

- 1) 後藤慎介，田島廣之，川俣博志，高橋修司，市川和雄，岡島雄史，隈崎達夫：救急医療と画像診断；骨盤外傷。第17回日本画像医学会，1998。2。

(8) 指名講演：

- 1) 汲田伸一郎：99mTc標識製剤を用いた心拍同期心筋SPECTデータ収集—心筋血流および心機能解析値における検討—。ADACセミナー，1997。11。
- 2) 水村 直，汲田伸一郎，隈崎達夫：99mTc-ECD dynamic, static SPECTを用いた脳循環の検討：Diamox stress imageとの比較。ECDフォーラム，1997。11。
- 3) 汲田伸一郎，趙 圭一¹⁾，水村 直，木島鉄仁，中條秀信，隈崎達夫，佐野純子²⁾，多田裕美子²⁾，酒井俊太²⁾，哲翁弥生²⁾，草間芳樹²⁾，宗像一雄²⁾ (1) 千葉北総病院放射線科，2) 第一内科)：99mTc-Tetrofosminを用いた運動負荷時心拍同期心筋SPECTデータ収集。第23回ニュータウンカンファレンス，1998。1。

(9) 一般講演：

- 1) Amano Y, Kumazaki T, Amano M, Ishihara M, Watari J: Magnetization Transfer Imaging of the Bone Marrow with and without Fat-suppression Technique. 5th International Society for Magnetic Resonance in Medicine (Vancouver, Canada), 1997。4。
- 2) Ishihara M, Kumazaki T, Cho K, Amano Y, Takagi R, Mizumura S, Nakahara M: Simultaneous Assessment of Regional Microcirculatory Changes by EPI Diffusion Perfusion Studies in Patients with Multiple Lacunar Infarction. 5th International Society for Magnetic Resonance in Medicine (Vancouver, Canada), 1997。4。
- 3) Ishihara M, Hayashi H, Kumita S, Mizumura S, Cho K, Kijima T, Kumazaki T: Semiquantitative assessment of regional cerebral blood flow and diffusional anisotropy in patients with multi-infarct dementia: Correlation with global cognitive ability. Radiological Society of North America 1997 (Chicago), 1997。11。
- 4) Yamashita K¹⁾, Shimizu K¹⁾, Kitagawa W¹⁾, Kitamura Y¹⁾, Akasu H¹⁾, Ishii R¹⁾, Mimura T¹⁾, Nagahama M²⁾, Ito K²⁾, Kawamata H, Kumazaki T, Wakabayashi K³⁾, Tanaka S¹⁾ (1) Dept of Surgery

- (II), ²⁾ Ito Hospital, ³⁾ Dept of Internal Medicine) : A case of downhill esophageal varices associated with recurrent Graves disease. 6th Biennial Congress Asian Association of Endocrine Surgeons (Kuala Lumpur, Malaysia), 1998. 3.
- 5) 隈崎達夫, 市川和雄, 弦間和仁¹⁾, 川俣博志, 坂本理恵子²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 日立メディコ) : II検出型コーンビーム3次元CT : 現状と将来展望. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
 - 6) 宮下次廣, 館野 温, 杉崎健一¹⁾, 天野康雄, 市川太郎, 高木 亮, 中原 圓, 片桐究代²⁾, 若林洋行, 隈崎達夫 (¹⁾ 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 千葉北総病院放射線科) : 頭頸部癌放射線治療初診時に行う超音波診断の有用性. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
 - 7) 田島廣之, 田島なつき¹⁾, 葉山修陽²⁾, 大国真一²⁾, 岡田 進¹⁾, 松丸和弘¹⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 千葉北総病院内科) : 透析患者に対する血管造影検査後における肝胆道系への造影剤排泄 : CTを用いた検討. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
 - 8) 田島なつき¹⁾, 田島廣之, 岡田 進¹⁾, 伊藤公一郎¹⁾, 保坂純郎¹⁾, 趙 圭一¹⁾, 浅野哲雄²⁾, 隈崎達夫, 加藤丈司¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 千葉北総病院胸部外科) : 下肢静脈瘤の造影MR venography. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
 - 9) 汲田伸一郎, 水村 直, 趙 圭一¹⁾, 木島鉄仁, 石原眞木子, 鳥羽正浩, 山田丈士, 井上幸平, 宮下次廣, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科) : Gd-153線源を用いたTc-99m心筋血流SPECT画像の吸収補正. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
 - 10) 林 宏光, 小林尚志¹⁾, 若林洋行, 高木 亮, 中條秀信, 川俣博志, 弦間和仁²⁾, 山田 明, 市川太郎, 隈崎達夫 (¹⁾ 福岡徳州会病院, ²⁾ 第一病院放射線科) : 骨盤部閉塞性動脈硬化症の3次元CT血管造影診断 : 動脈造影法との比較検討. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
 - 11) 渡 潤, 田島廣之, 天野康雄, 隈崎達夫, 松本満臣¹⁾, 宮本忠昭²⁾, 工藤翔二³⁾, 吉村明修³⁾, 村田 朗³⁾ (¹⁾ 都立医療短大, ²⁾ 放医研, ³⁾ 第4内科) : 高速らせんCTを用いた肺癌一次検診システムの構築. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
 - 12) 天野康雄, 石原眞木子, 中原 圓, 天野真紀, 渡 潤, 片桐究代¹⁾, 吉川 晃, 町田 幹, 隈崎達夫, 新井宣行²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ GE横河メディカルシステム) : 再生不良性貧血のMRI信号とMRS所見の比較. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
 - 13) 川俣博志, 汲田伸一郎, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 田島廣之, 小林尚志¹⁾, 隈崎達夫, 大矢徹²⁾ (¹⁾ 福岡徳州会病院, ²⁾ 日産玉川病院放射線科) : TIPS後の肝血流の変化 : Scintiphotosplenopographyを用いた評価. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
 - 14) 高木 亮, 林 宏光, 小林尚志¹⁾, 中條秀信, 山田 明, 中原 圓, 市川太郎, 若林洋行, 町田 幹, 隈崎達夫 : 小脳橋角部腫瘍の3次元CT. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
 - 15) 高橋修司, 川俣博志, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 渡 潤, 片桐究代¹⁾, 田島廣之, 隈崎達夫, 大矢徹²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 日産玉川病院放射線科) : 門脈血栓症に対するTIPSの有用性. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
 - 16) 水村 直, 汲田伸一郎, 石原眞木子, 趙 圭一¹⁾, 木島鉄仁, 鳥羽正浩, 山田丈士, 井上幸平, 宮下次廣, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科) : 多発白質梗塞における大脳皮質血流分布への影響 : 連合野血流低下と痴呆・Periventricular High Intensity (PVH) との関係. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
 - 17) 後藤慎介, 川俣博志, 高橋修司, 岡島雄史, 市川和雄, 吉川 晃, 古川一博, 田島廣之, 隈崎達夫, 大矢 徹¹⁾ (¹⁾ 日産玉川病院放射線科) : TIPS後のshunt dysfunctionとshunt revision. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
 - 18) 館野 温, 宮下次廣, 後藤慎介, 山田 明, 古川一博, 町田 幹, 秋山一義, 市川太郎, 渡 潤, 隈崎達夫

- 夫：頭頸部治療における Protruding Tongue Method の味覚障害軽減効果。第56回日本医学放射線学会総会，1997. 4.
- 19) 中原 圓，天野康雄，高木 亮，石原眞木子，水村 直，町田 稔¹⁾，片桐究代²⁾，市川太郎，隈崎達夫⁽¹⁾ 病理学第2，²⁾ 千葉北総病院放射線科)：Periventricular capの診断的意義について。第56回日本医学放射線学会総会，1997. 4.
- 20) 木島鉄仁，汲田伸一郎，水村 直，趙 圭一¹⁾，石原眞木子，鳥羽正浩，山田丈士，井上幸平，古川一博，隈崎達夫⁽¹⁾ 千葉北総病院放射線科)：Tc-99m Tetrofosmin運動負荷下肢シンチグラフィ：Dynamic法併用による下肢虚血評価。第56回日本医学放射線学会総会，1997. 4.
- 21) 岡島雄史，隈崎達夫，田島廣之，川俣博志，高橋修司，後藤慎介，市川和雄，山田 明，古川一博，秋山一義：救急疾患に対する回転デジタル血管撮影の応用。第56回日本医学放射線学会総会，1997. 4.
- 22) 市川和雄，隈崎達夫，田島廣之，川俣博志，弦間和仁¹⁾，高橋修司，岡島雄史⁽¹⁾ 第一病院放射線科)：Cone-beam3次元CTの泌尿生殖器疾患に対する応用。第56回日本医学放射線学会総会，1997. 4.
- 23) 石原眞木子，天野康雄，高木 亮，水村 直，中原 圓，鳥羽正浩，趙 圭一¹⁾，渡 潤，汲田伸一郎，隈崎達夫⁽¹⁾ 千葉北総病院放射線科)：MR-EPI perfusion studyによる大脳白質病変の評価。第56回日本医学放射線学会総会，1997. 4.
- 24) 鳥羽正浩，汲田伸一郎，水村 直，趙 圭一¹⁾，石原眞木子，木島鉄仁，山田丈士，吉川 晃，井上幸平，隈崎達夫⁽¹⁾ 千葉北総病院放射線科)：低容量ドブタミン負荷Tc-99m-MIBI心拍同期心筋シンチグラフィを用いた局所心筋viability評価法。第56回日本医学放射線学会総会，1997. 4.
- 25) 古川一博，隈崎達夫，田島廣之，弦間和仁¹⁾，川俣博志，高橋修司，後藤慎介，岡島雄史，市川和雄，秋山一義⁽¹⁾ 第一病院放射線科)：回転デジタル血管撮影：1948例における臨床評価。第56回日本医学放射線学会総会，1997. 4.
- 26) 趙 圭一¹⁾，汲田伸一郎，水村 直，木島鉄仁，鳥羽正浩，保坂純郎¹⁾，伊藤公一郎¹⁾，田島なつき¹⁾，岡田進¹⁾，隈崎達夫⁽¹⁾ 千葉北総病院放射線科)：Tc-99m MIBI心拍同期心筋血流SPECTを用いた虚血部心筋血流：容積分布と収縮能に関する検討。第56回日本医学放射線学会総会，1997. 4.
- 27) 青山俊也¹⁾，町田 稔²⁾，田島廣之，川俣博志，弦間和仁³⁾，隈崎達夫⁽¹⁾ 大洗海岸病院放射線科，²⁾ 病理第2，³⁾ 第一病院放射線科)：IVR症例におけるcolor doppler法とM-mode法による循環動態の検討。第56回日本医学放射線学会総会，1997. 4.
- 28) 紋谷 薫¹⁾，百瀬 旬¹⁾，鬼頭秀彰¹⁾，神崎美恵¹⁾，山沢出雲¹⁾，松本秀樹¹⁾，伊藤俊太¹⁾，小林尚志²⁾，林 宏光，隈崎達夫，青木祐子³⁾ ⁽¹⁾ 至誠会第二病院放射線科，²⁾ 福岡徳州会病院，³⁾ 日立メデイコ)：臍頭十二指腸切除後における門脈径の一過性狭小化について：3D-CTによる評価。第53回日本放射線技術学会総会，1997. 4.
- 29) 青木祐子¹⁾，広瀬繁治¹⁾，高木 博¹⁾，林 宏光，高木 亮，小林尚志²⁾，隈崎達夫⁽¹⁾ 日立メデイコ，²⁾ 福岡徳州会病院)：3次元CT画像作成におけるMulti Angle Reconstruction Plan (MARP) の有用性。第53回日本放射線技術学会総会，1997. 4.
- 30) 後藤慎介，田島廣之，川俣博志，高橋修司，市川和雄，岡島雄史，隈崎達夫，川井 真¹⁾，益子邦洋¹⁾ ⁽¹⁾ 救急医学)：重傷骨盤骨折の画像診断：特にCTの役割について。第11回日本外傷学会，1997. 5.
- 31) 長田祐二¹⁾，原 義之¹⁾，間宮康貴¹⁾，吉本 均¹⁾，齊藤 整¹⁾，多田強彦¹⁾，松坂 聡¹⁾，金沢秀典¹⁾，小林正文¹⁾，高橋修司，川俣博志⁽¹⁾ 第3内科)：門脈圧亢進症に対する経頸静脈的門脈大循環短絡術 (TIPS) による治療。日本医科大学医学会第92回例会，1997. 5.
- 32) 川俣博志，隈崎達夫，田島廣之，高橋修司，後藤慎介，岡島雄史，市川和雄，弦間和仁¹⁾，小林尚志²⁾，大矢徹³⁾ ⁽¹⁾ 第一病院放射線科，²⁾ 福岡徳州会病院，³⁾ 日産玉川病院放射線科)：医原性動脈解離，動脈瘤に対するステント留置術。第26回日本血管造影・IVR学会，1997. 6.

- 33) 市川和雄, 隈崎達夫, 林 宏光, 田島廣之, 川俣博志, 弦間和仁¹⁾, 後藤慎介, 高橋修司, 岡島雄史¹⁾ (第一病院放射線科): 血管性病変におけるコーンビーム3次元CTの応用: 回転デジタル血管撮影との比較. 第45回心臓血管放射線研究会, 1997. 6.
- 34) 若林洋行, 林 宏光, 市川和雄, 川俣博志, 高木 亮, 隈崎達夫: 下大動脈欠損および合併内臓奇形の診断に3D-CTAが有用であった1例. 第45回心臓血管放射線研究会, 1997. 6.
- 35) 川俣博志, 後藤慎介, 高橋修司, 林 宏光, 岡島雄史, 市川和雄, 町田 幹, 田島廣之, 隈崎達夫, 大矢 徹¹⁾ (日産玉川病院放射線科): 閉塞性動脈硬化症に対する腸骨動脈領域のアテレクトミー: 初期成功に関する検討. 第3回日本血管内治療学会, 1997. 7.
- 36) 後藤慎介, 川俣博志, 高橋修司, 林 宏光, 岡島雄史, 市川和雄, 田島廣之, 隈崎達夫, 大矢 徹¹⁾ (日産玉川病院放射線科): TIPS後の短絡路狭窄とsecondary intervention. 第3回日本血管内治療学会, 1997. 7.
- 37) 川俣博志, 小林尚志¹⁾, 隈崎達夫, 田島廣之, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 村田幸彦²⁾, 安田研一²⁾ (福岡徳州会病院, 2) テルモ株式会社愛鷹工場): 新しいMeasuring Guidewireの作製とその臨床応用. 第9回関東IVR研究会, 1997. 7.
- 38) 高橋修司, 隈崎達夫, 田島廣之, 川俣博志, 後藤慎介, 岡島雄史, 山本一仁¹⁾, 金子昌裕¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 荒牧琢己²⁾ (第1外科, 2) 第1内科): 門脈圧亢進症を合併した脾動静脈奇形の2例. 第9回関東IVR研究会, 1997. 7.
- 39) 田島廣之: 急性血栓症のIVR—最新の治療を含めて—(胸部). 第9回関東IVR研究会, 1997. 7.
- 40) 田島廣之, 渡 潤, 徐 向英, 隈崎達夫, 吉村明修¹⁾, 安藤真弘¹⁾, 村田 朗¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 矢野 侃²⁾, 松本満臣³⁾, 宮本忠昭⁴⁾, 松本 徹⁴⁾ (第4内科, 2) 荒川区がん予防センター, 3) 都立医療技術短大, 4) 放射線医学研究所): らせんCTによる肺癌一次検診: 荒川区がん予防センターに於ける成績. 第1回らせんCT肺癌検診システム開発に関する研究班会議/LSCT研究会, 1997. 8.
- 41) 川俣博志, 隈崎達夫, 田島廣之, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史, 市川和雄, 大矢 徹¹⁾, 長田祐二²⁾, 金沢秀典²⁾ (日産玉川病院放射線科, 2) 第3内科): TIPSの合併症とその治療に関する検討. 第13回Metallic Stent研究会, 1997. 8.
- 42) 岡島雄史, 田島廣之, 渡 潤, 川俣博志, 高橋修司, 後藤慎介, 市川和雄, 山田 明, 古川一博, 井上幸平, 隈崎達夫: 食道ステント症例に対して気管・気管支ステント留置を行った2例. 第13回Metallic Stent研究会, 1997. 8.
- 43) 宮下次廣, 館野 温, 隈崎達夫, 玉井 仁¹⁾, 山本 鼎¹⁾, 佐藤飯作²⁾, 堀内淳一³⁾ (多摩永山病院放射線科, 2) 多摩永山病院放射線科技師, 3) 博慈会記念総合病院放射線科): 電子メールを利用した病院間放射線治療支援の試み. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 44) 田島廣之, 隈崎達夫, 市川和雄, 水村 直, 渡 潤, 松田 亮, 鈴木 健¹⁾, 尾科隆司¹⁾ (付属病院放射線科技師): 付属病院における新しい画像ネットワークの構築. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 45) 渡 潤, 田島廣之, 徐 向英, 魏 偉, 隈崎達夫, 工藤翔二¹⁾, 吉村明修¹⁾, 村田 朗¹⁾, 福島光浩²⁾, 恩田宗彦 (第4内科, 2) 第1病理, 3) 第2病理): 肺野型微小肺癌のHRCT所見の検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 46) 中原 圓, 天野康雄, 石原真木子, 高木 亮, 渡 潤, 林 宏光, 町田 幹, 隈崎達夫, 森 守¹⁾ (千葉北総病院病理部): Periventricular capの形態的变化とMagnetization transfer ratioの対比. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 47) 館野 温, 宮下次廣, 神代勝敏¹⁾, 隈崎達夫, 堀内淳一²⁾ (付属病院放射線科技師, 2) 博慈会記念総合病院放射線科): 新しい放射線治療: イリジウム192高線量率アフターローダの使用経験. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 48) 石原真木子, 林 宏光, 渡 潤, 高木 亮, 水村 直, 中原 圓, 隈崎達夫, 趙 圭一¹⁾, 岡田 進¹⁾ (千

- 葉北総病院放射線科)：EPI拡散強調像によるADC比画像を用いた大脳連合線維の評価：脳梁膝の拡散異方性と精神機能低下の関係について。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 49) 中條秀信，汲田伸一郎，趙 圭一¹⁾，水村 直，木島鉄仁，古川一博，清水康弘，秋山一義，隈崎達夫 (1) 千葉北総病院放射線科)：99mTc心拍同期心筋シンチグラフィを用いた心筋梗塞部の局所機能解析：Regional ejection fraction vs %wall thickening. 第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 50) 市川和雄，隈崎達夫，林 宏光，田島廣之，川俣博志，後藤慎介，高橋修司，岡島雄史：コーンビーム3次元CT：初期臨床応用。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 51) 吉村明修¹⁾，安藤真弘¹⁾，勿滑谷直孝¹⁾，村田 朗¹⁾，渋谷昌彦¹⁾，工藤翔二¹⁾，渡 潤，田島廣之，隈崎達夫，矢野 侃²⁾，松本満臣³⁾，宮本忠昭⁴⁾，松本 徹⁴⁾ (1) 第4内科，2) 荒川区がん予防センター，3) 都立医療技術研大，4) 放医研)：荒川区がん予防センターにおけるヘリカルCTによる肺癌一次検診の試み。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 52) 中村慶春¹⁾，恩田昌彦¹⁾，内田英二¹⁾，山村 進¹⁾，広瀬洋一洋¹⁾，山本一仁¹⁾，丸山 弘¹⁾，相本隆幸¹⁾，吉田寛¹⁾，梅原松臣¹⁾，有馬保生¹⁾，田尻 孝¹⁾，山下精彦¹⁾，市川太郎，田島廣之，隈崎達夫 (1) 第1外科)：急性肺炎重症度の早期判定と持続動注療法。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 53) 吉田 寛¹⁾，恩田昌彦¹⁾，田尻 孝¹⁾，梅原松臣¹⁾，真々田裕宏¹⁾，西久保秀紀¹⁾，谷谷信彦¹⁾，松本智司¹⁾，小嶋隆行¹⁾，松崎 栄¹⁾，山本一仁¹⁾，広瀬洋一郎¹⁾，金子昌裕¹⁾，板東功一¹⁾，田島廣之，隈崎達夫 (1) 第1外科)：当科における原発性肝癌破裂例の治療成績の検討。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 54) 糸井由里恵¹⁾，百東比古¹⁾，三橋 清¹⁾，宮下次廣 (1) 形成外科)：当科におけるケロイド及び肥厚性癬痕の治療：特に手術後の電子線照射について。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 55) 中原 圓，天野康雄，石原真木子，高木 亮，渡 潤，林 宏光，町田 幹，隈崎達夫：Periventricular capの形態的変化とMagnetization transfer ratioとの対比。第25回磁気共鳴医学会大会，1997. 9.
- 56) 石原真木子，天野康雄，林 宏光，高木 亮，中原 圓，趙 圭一¹⁾，岡田 進¹⁾，隈崎達夫 (1) 千葉北総病院放射線科)：EPI diffusion studyによるADC比 (ANR) 画像を用いた大脳連合線維の評価：脳梁膝の拡散異方性と精神機能の関係について。第25回磁気共鳴医学会大会，1997. 9.
- 57) 後藤慎介，川俣博志，高橋修司，岡島雄史，市川和雄，田島廣之，隈崎達夫，益子邦洋¹⁾，山本保博¹⁾ (1) 救急医学)：TAEにより止血しえた十二指腸出血の1例。第29回日本腹部救急医学会総会，1997. 9.
- 58) 岡島雄史，田島廣之，川俣博志，後藤慎介，高橋修司，市川和雄，隈崎達夫，益子邦洋¹⁾，山本保博¹⁾ (1) 救急医学)：稀な外傷性副腎出血にTAEが奏功した1例。第29回日本腹部救急医学会総会，1997. 9.
- 59) 館野 温：良性疾患の放射線治療。第296回放射線治療談話会，1997. 9.
- 60) 高橋修司，川俣博志，田島廣之，隈崎達夫，大矢 徹¹⁾ (1) 日産玉川病院放射線科)：門脈血栓症に対するTIPSの有効性。第29回日本腹部救急医学会総会，1997. 9.
- 61) 渡 潤，田島廣之，徐 向英，隈崎達夫：らせんCTによる肺癌一次検診—シネ表示の有用性—。第8回医用デジタル動画像研究会，1997. 10.
- 62) 川俣博志，田島廣之，林 宏光，高橋修司，後藤慎介，岡島雄史，市川和雄，山田 明，町田 幹，古川一博，隈崎達夫，加地正人¹⁾，益子邦洋¹⁾，山本保博¹⁾ (1) 救急医学)：腹部大動脈に発生したpenetrating atherosclerotic ulcerの1例。第7回救急放射線研究会，1997. 10.
- 63) 町田 幹，林 宏光，高木 亮，高橋修司，川俣博志，田島廣之，隈崎達夫：小腸平滑筋腫による腸重積の1例—CTによる画像評価を中心に—。第7回救急放射線研究会，1997. 10.
- 64) 市川和雄，隈崎達夫，田島廣之，林 宏光，川俣博志，後藤慎介，高橋修司，岡島雄史：コーンビーム3次元CT—動画像表示について—。第8回医用デジタル動画像研究会，1997. 10.
- 65) 高橋修司，市川和雄，田島廣之，川俣博志，後藤慎介，高橋修司，岡島雄史，隈崎達夫：下肢静脈造影に対す

- るdigital radiographyの初期経験. 第38回日本脈管学会総会, 1997. 10.
- 66) 市川和雄, 隈崎達夫, 林 宏光, 田島廣之, 川俣博志, 後藤慎介, 高橋修司, 岡島雄史: 血管性病変におけるコーンビーム3次元CTの応用—初期臨床経験—. 第38回日本脈管学会総会, 1997. 10.
- 67) 汲田伸一郎, 尾科隆司¹⁾, 趙 圭一²⁾, 水村 直, 木島鉄仁, 石原眞木子, 鳥羽正浩³⁾, 隈崎達夫, 多田祐美子⁴⁾, 酒井俊太⁴⁾, 哲翁弥生⁴⁾, 佐野純子⁴⁾, 草間芳樹⁴⁾, 宗像一雄⁴⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科技師, ²⁾ 千葉北総病院放射線科, ³⁾ 国立循環器病センター, ⁴⁾ 第1内科): 99mTc-tetrofosminを用いた心拍同期心筋シンチグラフィにおける短時間データ収集. 第37回日本核医学会総会, 1997. 10.
- 68) 水村 直, 汲田伸一郎, 石原眞木子, 趙 圭一¹⁾, 木島鉄仁, 鳥羽正浩²⁾, 隈崎達夫, 小島豊之³⁾, 吉川一郎³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 国立循環器病センター, ³⁾ 博慈会記念総合病院放射線科): 被殻・視床出血における同側大脳皮質血流の経時的変化. 第37回日本核医学会総会, 1997. 10.
- 69) 趙 圭一¹⁾, 汲田伸一郎, 水村 直, 石原眞木子, 木島鉄仁, 鳥羽正浩²⁾, 岡田 進¹⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 国立循環器病センター): 心拍同期心筋SPECTを用いた局所壁運動の定量的評価—心筋血流正常例における検討—. 第37回日本核医学会総会, 1997. 10.
- 70) 石原眞木子, 汲田伸一郎, 水村 直, 趙 圭一¹⁾, 木島鉄仁, 天野康雄, 鳥羽正浩²⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 国立循環器病センター): 多発梗塞性痴呆 (MID) における大脳皮質血流の評価—大脳連合線維の拡散異方法との比較—. 第37回日本核医学会総会, 1997. 10.
- 71) 木島鉄仁, 汲田伸一郎, 趙 圭一¹⁾, 水村 直, 石原眞木子, 鳥羽正浩²⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 国立循環器病センター): 99mTc-Tetrofosmin運動負荷下肢シンチグラフィによる下肢虚血評価—最大負荷4分後静注法における静脈早期描出—. 第37回日本核医学会総会, 1997. 10.
- 72) 尾科隆司¹⁾, 汲田伸一郎, 水村 直, 趙 圭一²⁾, 石原眞木子, 小菅 豊¹⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 付属病院放射線科技師, ²⁾ 千葉北総病院放射線科): 心拍同期心筋SPECT短時間収集における条件設定—ファントムを用いた基礎的検討—. 第37回日本核医学会総会, 1997. 10.
- 73) 櫻井 実¹⁾, 汲田伸一郎, 趙 圭一²⁾, 塚塚鉄雄¹⁾, 中村亜矢¹⁾, 川村義彦¹⁾, 岡田 進²⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総病院放射線科技師, ²⁾ 千葉北総病院放射線科): 心筋SPECTにおける横隔膜による後下壁集積減衰の補正. 第37回日本核医学会総会, 1997. 10.
- 74) 吉村明修¹⁾, 安藤真弘¹⁾, 勿滑谷直孝¹⁾, 村田 朗¹⁾, 渋谷昌彦¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 渡 潤, 田島廣之, 隈崎達夫, 矢野 侃²⁾, 松本満臣³⁾, 宮本忠昭⁴⁾, 松本 徹⁴⁾ (¹⁾ 第4内科, ²⁾ 荒川区がん予防センター, ³⁾ 都立医療技術短大, ⁴⁾ 放医研): ヘリカルCTによる肺癌一次検診の試み. 第38回日本肺癌学会総会, 1997. 11.
- 75) 篠原義智¹⁾, 山本 鼎²⁾, 渡 潤 (¹⁾ 多摩南部地域病院放射線科, ²⁾ 多摩永山病院放射線科): 肺野小病変 (主径15mm以下) に対する通常のCTガイド下針生検の命中の限界. 第38回日本肺癌学会総会, 1997. 11.
- 76) 館野 温, 宮下次廣, 井上幸平, 神代勝敏¹⁾, 隈崎達夫 (¹⁾ 付属病院放射線科技師): HDR-Ir192小線源治療装置ガンマメッドの使用経験. 第412回日本医学放射線学会関東地方会, 1997. 12.
- 77) 井上幸平, 岡島雄史, 松田 亮, 森下 実, 隈崎達夫, 鴨下 亨¹⁾ (¹⁾ 東京簡易保険検診センター): 大腸に発生した神経線維腫の1例. 第412回日本医学放射線学会関東地方会, 1997. 12.
- 78) 徐 向英, 渡 潤, 田島廣之, 隈崎達夫, 王若皎¹⁾ (¹⁾ 病理学第2): 肺癌検診によるらせんCTの有有用性—二次精検例のCT画像と摘出標本の病理との比較も含めて—. 第8回日本医科大学外国人留学生研究会, 1997. 12.
- 79) 徐 向英, 渡 潤, 田島廣之, 宮下次廣, 隈崎達夫, 堀内淳一¹⁾ (¹⁾ 博慈会記念総合病院放射線科): 肺癌69例に対するHDR192Ir Micro線源を用いた治療経験. 第120回日本肺癌学会関東地方会, 1997. 12.
- 80) 安藤 真弘¹⁾, 吉村明修¹⁾, 渋谷昌彦¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 渡 潤, 田島廣之, 隈崎達夫, 矢野 侃²⁾, 松本満臣³⁾, 宮本忠昭⁴⁾, 松本 徹⁴⁾ (¹⁾ 第4内科, ²⁾ 荒川がん予防センター, ³⁾ 都立医療技術短大, ⁴⁾ 放医研): ヘリカルCT肺癌検診により発見された肺癌症例の検討. 第120回日本肺癌学会関東地方会, 1997. 12.

- 81) 川俣博志, 隈崎達夫, 田島廣之, 林 宏光, 高橋修司, 後藤慎介, 市川和雄, 岡島雄史, 吉川公彦¹⁾, 打田日出夫¹⁾ (¹⁾ 奈良医大放射線科) : 腹部大動脈瘤に対するstent-graft治療の初期臨床応用. 第46回心臓血管放射線研究会, 1998. 1.
- 82) 高木 亮, 太組一郎¹⁾, 杉山 誠¹⁾, 山王なほ子¹⁾, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 脳神経外科) : 頭蓋底・トルコ鞍近傍腫瘍の三次元CT. 第8回日本間脳下垂体腫瘍学会, 1998. 1.
- 83) 徐 向英, 田島廣之, 渡 潤, 隈崎達夫 : らせんCTを用いた都市型・施設型肺癌一次検診. 第5回胸部CT検診研究会, 1998. 1.
- 84) 堀内淳一, 宮下次廣 : 放射線治療で治癒を得たホジキン病症例. 第13回足立医学会, 1998. 2.
- 85) 中條秀信, 高木 亮, 林 宏光, 市川和雄, 隈崎達夫, 池田幸穂¹⁾, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 救急医学, ²⁾ 脳神経外科) : 脳動静脈奇形の画像診断—三次元CT血管造影法の有用性について—. 第21回日本脳神経CI学会総会, 1998. 2.
- 86) 市川和雄, 高木 亮, 林 宏光, 川俣博志, 中條秀信, 隈崎達夫, 吉田陽一¹⁾, 野手洋治¹⁾, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 脳神経外科) : コーンビームCTが有用であった巨大内頸動脈瘤の1例. 第21回日本脳神経CI学会総会, 1998. 2.
- 87) 林 宏光, 高木 亮, 市川太郎, 若林洋行, 町田 幹, 隈崎達夫, 小林尚志¹⁾, 青木祐子²⁾ (¹⁾ 福岡徳州会病院, ²⁾ 日立メディコ) : 3次元CT作成における最適閾値設定法 (Optimal Threshold Setting Plan : OPT Plan) の有用性 : 肝腫瘍ならびに肝実質病変に対する初期臨床経験. 第3回3次元CT研究会, 1998. 3.
- 88) 高木 亮, 林 宏光, 隈崎達夫, 小林尚志¹⁾, 村井保夫²⁾, 池田幸穂²⁾ (¹⁾ 福岡徳州会病院, ²⁾ 救急医学) : 超急性期脳出血のspiral CT : 造影剤血管外漏出像の描出について. 第3回3次元CT研究会, 1998. 3.
- 89) 藤木健司¹⁾, 高木 博¹⁾, 林 宏光, 高木 亮, 隈崎達夫 (¹⁾ 日立メディコ) : PTV法の開発. 第3回3次元CT研究会, 1998. 3.
- 90) 市川和雄, 隈崎達夫, 川俣博志, 田島廣之, 林 宏光, 高橋修司, 後藤慎介, 岡島雄史, 吉川公彦¹⁾, 打田日出夫¹⁾ (¹⁾ 奈良医大放射線科) : 嚢状腹部大動脈瘤に対する準緊急的ステント・グラフト内挿術の1例. 第30回日本腹部救急医学会総会, 1998. 3.
- 91) 岡島雄史, 田島廣之, 川俣博志, 高橋修司, 後藤慎介, 市川和雄, 井上幸平, 隈崎達夫 : 腹部救急疾患に対するTAEにおける回転デジタル血管撮影システムの有用性について. 第30回日本腹部救急医学会総会, 1998. 3.

[第二病院放射線科]

研究概要

放射線診断学 : 1) 呼吸器疾患に対し, 気管支鏡を用いたBAL, 肺生検を施行し, 画像診断の向上に力を注いでいる. 肺切除病理標本とCT画像の比較検討から, 詳細な画像所見の分析を試みている.

2) 川崎市民の胸部間接撮影による胸部疾患集団検診業務の中心的役割を果たし, 結核, 癌のみならず広く胸部疾患を取り上げている. 肺癌の早期診断及び早期治療に胸部検診業務の重要性を啓蒙している.

3) 上部消化管の消化性潰瘍のX線診断学において単に潰瘍のみの形態的診断に止まらず, 潰瘍形成の背景となる攻撃因子 (胃分泌機能) 及び粘膜自体の防御因子等粘膜のもつ機能を画像に表現する. いわゆるFunctional radiologyに目標をおき, また*H.Pylori*の胃粘膜の胃粘膜変化についても研究中である.

4) 腸管微細粘膜像と生理機能との関係解明を研究中である.

5) 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画像検診業務に参画し, より効率の良い, より精度の高い集検体系の確立をめざし研究中である.

6) MRIを用いた婦人科, 産科学的診断について研究中である.

Interventional radiology : 1) 悪性胆道閉塞患者に対し, 減黄及びQOL向上を目的とし, ステント挿入及び放射線

治療を施行している。さらにこの分野での研究に取り組んでいる。

- 2) 悪性肝臓腫瘍の治療として経動脈塞栓術，経皮的エタノール注入療法を集学的治療に組み込んでいる。
放射線治療学：1) 肺癌に対して，放射線治療を集学的治療の一つとして積極的に取り組んでいる。
核医学：1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる。
- 2) 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在等の検出率の評価に取り組んでいる。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 細根 勝¹⁾，佐藤雅史，高間都支，久吉隆郎²⁾，前田昭太郎¹⁾，浅野伍朗¹⁾ (1) 多摩永山病院病理部，²⁾ 第二病院外科)：胸部の悪性リンパ腫：病理学的特徴と画像診断 (特集：悪性リンパ腫の画像診断)。臨床画像 1997；13 (5)：530-542。
- 2) 岡田 静，佐藤雅史：4.肺動静脈奇形 1.肺血管 II.胸部 (臨床医が知っておきたい画像所見)。臨床医 1997；23：144-145。
- 3) 陽川春江，佐藤雅史：11.気管支閉鎖症 5.腫瘍病変 II.胸部 (臨床医が知っておきたい画像所見)。臨床医 1997；23：244-245。
- 4) 佐藤雅史：胸部単純写真とCT所見 (特集：救急領域における胸部CT診断マニュアル)。救急医学 1998；22 (3)：256-258。

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 梶原景子，佐藤雅史，菊竹晴子，岡田 静，菊池真理，陽川春江，高間都支，山本 彰，小俣 香¹⁾ (1) 鹿島診療所)：肺腺癌の肺胞進展のCT値と病理学上の含気率との相関。第56回日本医学放射線学会総会，1997。4。
- 2) 菊竹晴子，梶原景子，岡田 静，菊池真理，陽川春江，高間都支，山本 彰，佐藤雅史：腹部単純CTをきっかけとして発見された上腸間膜静脈血栓症の1例。第411回日本医学放射線学会関東地方会，1997。6。
- 3) 高橋政之¹⁾，堀内淳一¹⁾，羽山 亨²⁾，谷口善朗³⁾ (1) 博慈会記念総合病院放射線科，²⁾ 博慈会記念総合病院内科，³⁾ 博慈会記念総合病院外科)：左胆管が胃前庭部に開口していた1例。第411回日本医学放射線学会関東地方会，1997。6。
- 4) 岡田 静，梶原景子，菊竹晴子，菊池真理，陽川春江，高間都支，山本 彰，佐藤雅史：12年前より肺炎を繰り返していた気管支内過誤腫の1例。第17回胸部放射線研究会東京部会，1997。6。
- 5) 梶原景子，菊竹晴子，岡田 静，菊池真理，陽川春江，高間都支，高橋政之，山本 彰，佐藤雅史：Hamman症候群について。第65回日本医科大学医学会総会，1997。9。
- 6) 久吉隆郎¹⁾，平田知己¹⁾，三嶋拓也¹⁾，川村 準¹⁾，山岸茂樹¹⁾，山下康夫¹⁾，平野茂敬¹⁾，増田 栄¹⁾，家所良夫¹⁾，日置正文¹⁾，佐藤雅史，松本光司²⁾，川並汪一³⁾，田中茂夫⁴⁾ (1) 第二病院外科，²⁾ 第二病院病理部，³⁾ 老人病研究所病理部門，⁴⁾ 外科第2)：肺リンパ系増殖性疾患症例の検討。第65回日本医科大学医学会総会，1997。9。
- 7) 菊池真理，梶原景子，菊竹晴子，岡田 静，陽川春江，高間都支，高橋政之，山本 彰，佐藤雅史，久吉隆郎¹⁾ (1) 第二病院外科)：長期経過観察後，遺伝子再構成で診断されたBALT lymphomaの1例。第33回日本放射線学会秋季臨床大会，1997。10。
- 8) 佐藤雅史，久吉隆郎¹⁾，平田知己¹⁾ (1) 第二病院外科)：空洞内に血管・気管支を残し発育した細気管支肺胞上皮癌の2例―野火型進展症例―。第38回日本肺癌学会総会，1997。11。
- 9) 久吉隆郎¹⁾，平田知己¹⁾，日置正文¹⁾，家所良夫¹⁾，増田 栄¹⁾，朽方規喜¹⁾，山下康夫¹⁾，山岸茂樹¹⁾，三嶋拓

- 也¹⁾、川村 準¹⁾、佐藤雅史、田中茂夫²⁾ (1) 第二病院外科, 2) 外科第2) : 肺癌症例におけるOK-432に対する lymphocyte stimulating test と予後に関する検討. 第38回日本肺癌学会総会, 1997. 11.
- 10) 梶原景子, 菊竹晴子, 岡田 静, 菊池真理, 南部春江, 高間都支, 高橋政之, 山本 彰, 佐藤雅史 : Hamman 症候群の概念に関して. 第18回胸部放射線研究会東京部会, 1997. 12.
- 11) 陽川春江, 梶原景子, 菊竹晴子, 岡田 静, 菊池真理, 高間都支, 高橋政之, 山本 彰, 佐藤雅史, 小俣 香¹⁾ (1) 鹿島診療所) : 気管支閉鎖症のMRI. 第412回日本医学放射線学会関東地方会, 1997. 12.

[多摩永山病院放射線科]

研究概要

1. 当院, 救急救命センターと共同で頭部外傷, 胸, 腹部臓器損傷におけるMRI診断の有用性について研究を続けている.
2. 高濃度バリウムによる食道, 胃X線診断, 特に集団検診における有用性につき検討を加えた.
3. 川崎市主催の住民検診を利用した肺癌の集団健診に参加し, 肺癌における集検の有用性の確立を目指している.
4. 胸部疾患におけるCTガイド下肺生検の精度の向上と普及に努めている. さらに腹部臓器におけるCTガイド下穿刺の有用性についても検討を加えている.
5. コンピューターを活用した医療画像処理の研究を続けている.
6. IVRに関しては, 悪性腫瘍に対する動注を含めた集学的治療, 救急患者のカテーテル治療についての研究が行われている.
7. 細気管支肺胞上皮癌の自然史につきX線診断学的に検討を続けている.
8. 婦人科, 整形外科領域におけるMRI診断について研究, 検討が行われている.

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著 :

- 1) 浜本鉄也¹⁾, 岡田 清²⁾, 宮川 昇²⁾, 高橋英彦²⁾, 石川みずえ²⁾, 茂古沼吉宗³⁾, 小林由子 (1) 多摩南部地域病院検査科病理, 2) 多摩南部地域病院婦人科, 3) 三楽病院放射線科) : 陶器様卵巣 : びまん性石灰化皮様嚢腫の1症例. 臨床婦人科産科 1997 ; 51 (1) : 565-568.
- 2) 若林洋行¹⁾, 市川太郎¹⁾, 田島なつき²⁾, 岡田 進²⁾, 山本 鼎, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 千葉北総病院放射線科) : 高速CTにより臍断裂と診断できた1例. 日本腹部救急医学会雑誌 1997 ; 17 (2) : 307-309.

(1) 原著 :

- 1) Murakami R, Tajima H¹⁾, Ichikawa K¹⁾, Kobayashi Y, Sugizaki K, Yamamoto K, Kurokawa A²⁾, Kumazaki T¹⁾ (1) Dept. of Radiology Main Hospital, 2) Dept. of Emergency Medicine Tama Nagayama Hospital) : Acute traumatic injury of the distal descending aorta associated with thoracic spine injury. European Radiology 1998 ; 8 (1) : 60-62.
- 2) Murakami R, Tajima H¹⁾, Kobayashi Y, Sugizaki K, Ogura J, Yamamoto K, Kumazaki T¹⁾, Egami K²⁾, Maeda S³⁾ (1) Dept. of Radiology Main Hospital, 2) Dept. of Surgery Tama Nagayama Hospital, 3) Dept. of Pathology Tama Nagayama Hospital) : Mesenteric schwannoma. European Radiology 1998 ; 8 (2) : 277-279.

- 3) 田島廣之¹⁾, 川俣博志¹⁾, 後藤慎介¹⁾, 高橋修司¹⁾, 岡高雄史¹⁾, 市川和雄¹⁾, 古川一博¹⁾, 山田 明¹⁾, 村上隆介, 弦間和仁²⁾, 田島なつき³⁾, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 第一病院放射線科, 3) 千葉北総病院放射線科): 腹部外傷の画像診断: 骨盤外傷. 画像診断 1997; 17 (4): 392-399.
- 4) 小林由子, 村上隆介, 杉崎健一, 山本 鼎, 田島なつき¹⁾, 間瀬泰彦²⁾, 隈崎達夫³⁾ (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 多摩永山病院整形外科, 3) 付属病院放射線科): Gd-DTPA静注による膝関節損傷のMRI: 単純MRIおよびGd-DTPA 関節内直接注入との比較. 日本磁気共鳴医学雑誌 1997; 17 (9): 246-255.
- 5) 小林由子, 田島なつき¹⁾, 山本 鼎, 隈崎達夫²⁾ (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 付属病院放射線科): 内側膝蓋滑膜ひだ (タナ) 障害のMRI診断: 生理食塩水関節内注入法の有用性. 日本磁気共鳴医学会雑誌 1997; 17 (10): 328-334.
- 6) 小林由子, 村上隆介, 杉崎健一, 小倉順子, 滝川崇弘, 市川和雄¹⁾, 玉井 仁, 篠原義智²⁾, 山本 鼎, 佐々木茂³⁾, 前田昭太郎⁴⁾, 恩田宗彦¹⁾, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 多摩南部地域病院放射線科, 3) 多摩永山病院産婦人科, 4) 多摩永山病院病理部): 卵巣平滑筋腫の1例. 腹部画像診断アトラス 1997; (3): 186-187.
- 7) 林 宏光¹⁾, 川俣博志¹⁾, 高橋修司¹⁾, 弦間和仁, 高木 亮¹⁾, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科): 血栓閉鎖型大動脈解離におけるUlcerlike Projectionの臨床意義. 集中治療 1997; (11): 1255-1264.
- 8) 阿部裕行¹⁾, 西村泰司¹⁾, 伊藤 博¹⁾, 池田一則¹⁾, 岡 史篤¹⁾, 弦間和仁, 石王道人²⁾ (1) 第一病院泌尿器科, 2) 付属病院放射線科): 融合性交叉性腎変位の1例: 3DCTによる診断. 西日本泌尿器科別冊 1997; 59 (12).
- 9) 小倉順子, 村上隆介, 小林由子, 玉井 仁, 山本 鼎, 隈崎達夫¹⁾, 細根 勝²⁾, 清水有二³⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 多摩永山病院泌尿器科): 腎嚢胞症との鑑別を要した両側多発性腎細胞癌. 日本医事新報 1998; (3854): 53-56.
- 10) 林 宏光¹⁾, 小林尚志²⁾, 高木 亮¹⁾, 若林洋行¹⁾, 市川太郎¹⁾, 川俣博志¹⁾, 弦間和仁, 隈崎達夫¹⁾ (1) 付属病院放射線科, 2) 福岡徳州会病院): 高速らせんCTによる血管性病変の3次元画像診断: voxel transmission hou法による3D-CT angiographyとvirtual CT endoscopy Cruising Eye View. 脈管学 1998; 38 (3): 137-141.
- 11) 松田忠義¹⁾, 船橋哲哉²⁾, 間宮敏雄²⁾, 吉岡 明²⁾, 小林由子, 菊地博敦²⁾ (1) 多摩南部地域病院顧問, 2) 多摩南部地域病院放射線科): MEVATRON 6740による高エネルギー電子線治療の研究. メディカルレビュー 1998; (68): 22-23.

著 書

- 1) 村上隆介, 田島廣之¹⁾ (1) 付属病院放射線科): [分担] Vascular IVR: 1. 頭部・頸部—鼻出血—. 救急疾患のIVR: 手技の実際のポイント (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp8-9, メジカルビュー社.
- 2) 田島廣之¹⁾, 弦間和仁 (1) 付属病院放射線科): [分担] Vascular IVR: 2. 胸部—上動脈症候群—. 救急疾患のIVR: 手技の実際のポイント (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp38-39, メジカルビュー社.
- 3) 村上隆介, 田島廣之¹⁾ (1) 付属病院放射線科): [分担] Vascular IVR: 4. 腹部—肝損傷—. 救急疾患のIVR: 手技の実際のポイント (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp40-41, メジカルビュー社.
- 4) 村上隆介, 田島廣之¹⁾ (1) 付属病院放射線科): [分担] Vascular IVR: 4. 腹部—十二指腸静脈瘤—. 救急疾患のIVR: 手技の実際のポイント (隈崎達夫, 石川 徹編), 1998; pp60-61, メジカルビュー社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 弦間和仁: 聴骨動脈閉鎖性動脈硬化症の画像診断について. 第5回糖尿病足病変研究会, 1997. 6.

(2) 一般講演:

- 1) 篠原義智¹⁾, 小林由子¹⁾, 滝川崇弘, 小倉順子, 杉崎健一, 村上隆介, 玉井 仁, 山本 鼎, 隈崎達夫²⁾ (1) 多

- 摩南部地域病院放射線科, ²⁾ 付属病院放射線科) : CTガイド下肺針生検における自動生検針の使用経験. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
- 2) 間宮敏雄¹⁾, 小林由子, 松田忠義¹⁾ (¹⁾ 多摩南部地域病院放射線科) : 新システム原体照射法の評価. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
- 3) 玉井 仁, 滝川崇弘, 小倉順子, 杉崎健一, 村上隆介, 篠原義智¹⁾, 山本 鼎, 隈崎達夫²⁾ (¹⁾ 多摩南部地域病院放射線科, ²⁾ 付属病院放射線科) : パソコンGUI上での医用画像3次元処理システムの開発. 第56回日本医学放射線学会総会, 1997. 4.
- 4) 小倉順子, 滝川崇弘, 杉崎健一, 村上隆介, 玉井 仁, 山本 鼎, 清水有二¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院泌尿器科) : 腎嚢胞症との鑑別が必要であった両側多発性腎細胞癌の1例. 第411回日本医学放射線学会関東地方会, 1997. 6.
- 5) 玉井 仁, 山本 鼎, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科) : パソコンGUIを用いた回転血管造影の表示. 3次元画像コンファレンス '97, 1997. 7.
- 6) 玉井 仁, 滝川崇弘, 小倉順子, 山本 鼎, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科) : パソコンによるデジタル血管造影の画像表示. 第16回日本医用画像工学会大会, 1997. 7.
- 7) 村上隆介, 杉崎健一¹⁾, 小林由子, 山田丈士, 滝川崇弘, 小倉順子, 玉井 仁, 山本 鼎, 江上 格²⁾, 市川和雄³⁾, 隈崎達夫³⁾ (¹⁾ 多摩南部地域病院放射線科, ²⁾ 多摩永山病院外科, ³⁾ 付属病院放射線科) : Focal Spared Area in Fatty Liver Associated with Aberrant Gastric Venous Drainage. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 8) 小林由子, 小倉順子, 杉崎健一¹⁾, 村上隆介, 山田丈士, 滝川崇弘, 玉井 仁, 山本 鼎, 隈崎達夫²⁾ (¹⁾ 多摩南部地域病院放射線科, ²⁾ 付属病院放射線科) : 超小児頭大腫瘍を呈した子宮筋腫のMRI. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 9) 小倉順子, 山田丈士, 滝川崇弘, 小林由子, 杉崎健一¹⁾, 村上隆介, 玉井 仁, 山本 鼎, 細根 勝²⁾, 隈崎達夫³⁾ (¹⁾ 多摩南部地域病院放射線科, ²⁾ 多摩永山病院病理部, ³⁾ 付属病院放射線科) : 卵巣癌手術後再発におけるMRI. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 10) 木村和義¹⁾, 小野 靖¹⁾, 久勝章司¹⁾, 弦間和仁 (¹⁾ 博慈会記念総合病院第一内科) : 大咯血が予想され, 気管支動脈塞栓術を施行した1例. 第82回日本気管支学会関東支部会, 1997. 9.
- 11) 玉井 仁, 山田丈士, 小倉順子, 小林由子, 村上隆介, 山本 鼎, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科) : Windows95用DICOM動画ビューワーの作成. 第8回医用デジタル動画像研究会, 1997. 10.
- 12) 篠原義智¹⁾, 山本 鼎, 渡 潤²⁾ (¹⁾ 多摩南部地域病院放射線科, ²⁾ 付属病院放射線科) : 肺野小病変 (15mm以下) に対する通常のCTガイド下針生検の命中の限界. 第38回日本肺癌学会総会, 1997. 11.

[千葉北総病院放射線科]

研究概要

千葉北総病院放射線科では, 画像診断一般について研究を行っているが, MRI・核医学・インターベンショナルラジオロジーにの発表が多い。

MRIにおいては, MRI用の造影剤の安全性についての研究, MRI血管撮影に関する研究, 脳血管障害についての研究, 骨盤部のMRIについての研究が主なものである。造影剤の安全性については, 特に透析患者での安全性について研究しており, 基礎的な実験検討および臨床検討について科研費の援助を得て行っている。MRI血管撮影の検討は以前から行っているもので, 造影剤を用いて非常に良好な画像をえており, 臨床例を重ねて研究している。脳血管障害については, 超高速撮像法であるEPIを用いた発症早期の脳梗塞の検討や脳出血のMRI像の検討を行っている。骨盤部については, EPIを用いた検討およびアーチファクト除去についての検討について発表している。

核医学領域では広い領域での研究を行っているが、心臓核医学領域について、心電同期を用いた壁運動の定量的評価や呼吸同期装置の開発検討を行って発表している。また、救命救急部と共同で、臓器血流の評価の検討を行っている。

インターベンショナルラジオロジー領域では、Temporary Venous Spring Filterの発表を行っている。

CTでは、肝機能と肝臓の造影所見との検討について研究している。

その他に、FCRを用いた単純X線像の画質向上について、新しい方法を用いて検討を行っており、発表を予定している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hosaka J, Roy S¹⁾, Kvernebo K²⁾, Enge I¹⁾, Laerum F¹⁾ (1) Section for Experimental Radiology, Institute for Surgical Research, The Natoinal Hospital, University of Oslo, 2) Department of Cardiovascular Surgery, Ullevaal Hospital, University of Oslo) : Adjustable Temporary Venous Spring Filter : In Vitro Assessment. Academic Radiology 1997 ; 4 (7) : 513-518.
- 2) 伊藤公一郎, 岡田 進, 渡辺典男¹⁾, 桜井 実¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 斉藤春美¹⁾, 榎 利夫²⁾, 隈崎達夫²⁾ (1) 千葉北総病院中央画像検査室, 2) 付属病院放射線科) : 腹部圧迫による骨盤部MRI の呼吸性アーチファクト抑制. 千葉MR 研究会誌 1997 ; 8 (1) : 35-38.
- 3) 岡田 進, 加藤友康¹⁾, 山下 孝²⁾, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島なつき, 水野杏一³⁾, 森山雄吉⁴⁾, 河村 克⁵⁾, 隈崎達夫⁶⁾ (1) 癌研・婦人, 2) 同・婦人, 3) 千葉北総・内, 4) 同・外, 5) 同・産婦人, 6) 付属・放) : 嚢胞状卵巣腫瘍内容液と腹水の評価におけるMTC値の有用性. 日本磁気共鳴学会雑誌 1997 ; 17 (8) : 501-506.
- 4) 片桐究代, 岡田 進, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島なつき, 隈崎達夫, 坪井成美¹⁾, 横山博美²⁾ (1) 泌尿器科, 2) 医新会クリニック泌尿器科) : 透析によるガドリニウム造影剤の除去 : 臨床的検討. 千葉MR 研究会誌 1997 ; 8 (2) : 13-16.
- 5) 伊藤公一郎, 岡田 進, 桜井 実¹⁾, 斉藤春美¹⁾, 高岡慎市¹⁾, 加藤丈司¹⁾, 隈崎達夫²⁾, 森谷浩人³⁾ (1) 千葉北総病院中央画像検査室, 2) 付属病院放射線科, 3) GE 横河メディカルシステム) : Fastcard STAR (gated k-space segmentation signal targeting with alternative radiofrequency) による頭部MRAの検討. 日本磁気共鳴医学会雑誌 1997 ; 17 (5) : 256-262.
- 6) 岡田 進, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島なつき, 小林士郎¹⁾, 隈崎達夫²⁾, 高橋良行³⁾ (1) 千葉北総・脳外, 2) 付属・放, 3) GE YMS) : 早期脳梗塞および脳出血の拡散強調EPI. 臨床放射線 1997 ; 42 (12) : 1519-1525.
- 7) 加藤丈司¹⁾, 川村義彦¹⁾, 斉藤晴美¹⁾, 伊藤公一郎, 岡田 進 (1) 千葉北総・中央画像) : Signal targeting with alternating radiofrequency (STAR) 法を用いた頭部MR angiographyの撮像条件の基礎的検討. 日本放射線技術学会誌 1997 ; 53 (12) : 1809-1815.
- 8) 小池 薫, 趙 圭一, 小川理郎¹⁾, 高橋幸道¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 加藤一良¹⁾, 横田裕行¹⁾, 田島なつき, 岡田 進 (1) 千葉北総・救命救急) : 出血性ショック蘇生後も腹腔内臓器への血流分配低下は遷延することを示した1例 : 一パーテクネチド急速注入による腹部ファーストパス像を用いた検討一. 日本外科感染症研究 1997 ; 9 : 161-165.
- 9) 加藤丈司¹⁾, 斉藤晴美¹⁾, 富里謙一¹⁾, 桜井 実¹⁾, 丸山智之¹⁾, 渡辺典男¹⁾, 川村義彦¹⁾, 伊藤公一郎, 田島なつき, 岡田 進 (1) 千葉北総・中央画像) : Echo Planar T2強調画像におけるクエン酸鉄アンモニウム製剤を用

いた消化管信号除去の実験的検討. 千葉MR研究会誌 1997; 8 (1) : 33-34.

- 10) 趙 圭一, 岡田 進, 汲田伸一郎¹⁾, 石原真木子¹⁾, 天野康雄¹⁾, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島なつき, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科) : EPI perfusion studyによる脳循環動態の評価. 日本臨床 1997; 55 : 112-116.
 - 11) 趙 圭一, 汲田伸一郎¹⁾, 水村 直¹⁾, 木島鉄仁¹⁾, 中條秀信¹⁾, 石原真木子¹⁾, 矢野 潔, 保坂純郎, 岡田 進, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科) : 99mTc-MIBI心拍同期心筋SPECTを用いた下後壁梗塞評価. 映像情報MEDICAL 1997; 29 : 1325-1329.
 - 12) 岡田 進, 矢野真知子¹⁾, 澤野誠志²⁾, 山田恵子²⁾, 山下 孝²⁾, 隈崎達夫³⁾ (¹⁾ 矢野眼科医院・眼, ²⁾ 癌研・放, ³⁾ 付属・放) : 海綿静脈洞部の腫瘍による動眼神経麻痺症例の検討. 臨床放射線 1998; 43 (2) : 241-245.
- (2) 綜説 :
- 1) 伊藤公一郎 : 第一線の臨床現場より : 画像情報の電子化・ネットワーク化. 映像情報M 1998; 30 (6) : 342-343.

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) 趙 圭一, 汲田伸一郎¹⁾, 水村 直¹⁾, 木島鉄仁¹⁾, 中條秀信¹⁾, 岡田 進, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科) : MIBIを用いた呼吸同期心筋シンチグラフィ—呼吸同期装置の開発—. 心臓核医学フォーラム, 1998. 3.

(2) シンポジウム :

- 1) 小池 薫¹⁾, 趙 圭一, 岡田 進, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 千葉北総・救命救急) : 重症感染症とSIRS—小腸低灌流が及ぼす影響—. 第6回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1997. 10.

(3) 一般講演 :

- 1) Ito K, Okada S, Kumazaki T¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Nippon Medical School) : Sequential gadolinium-enhanced MR angiography of the pelvis and lower extremities with repetitive administration of low dose contrast agent. International Society for Magnetic Resonance in Medicine. 5th Scientific Meeting, 1997. 4.
- 2) Cho K, Kumita S¹⁾, Mizumura S¹⁾, Ishihara M¹⁾, Okada S, Kumazaki T¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology, Main Hospital) : Comparison between Necrotic Volume and Left Ventricular Contractility Using ECG-gated Myocardial SPECT with Tc-99m MIBI in Patients with Ischemic Heart Disease. Radiological Society of North America, 1997. 12.
- 3) Katoh K¹⁾, Yokota H¹⁾, Inutsuka S¹⁾, Koike K¹⁾, Ogawa S¹⁾, Ishikawa N¹⁾, Okada S, Tajima N, Ito K (¹⁾ 千葉北総・救命救急部) : Severity of non-penetrating cervical injury and findings of magnetic resonance imaging (MRI). 57th Meeting, American Association for the Surgery of Trauma, 1997.
- 4) 田島なつき, 岡田 進, 保坂純郎, 趙 圭一, 加藤丈司¹⁾, 浅野哲雄²⁾, 田島廣之, 隈崎達夫³⁾ (¹⁾ 千葉北総・中央画像検査室, ²⁾ 千葉北総・胸外, ³⁾ 付属・放) : 下肢静脈瘤の造影MR Venography. 第56回日本医学放射線学会学術発表会, 1997. 4.
- 5) 田島廣之¹⁾, 田島なつき, 岡田 進, 松丸和弘²⁾, 隈崎達夫¹⁾, 葉山修陽³⁾, 大国真一³⁾ (¹⁾ 付属・放, ²⁾ 千葉北総・中央画像検査室, ³⁾ 千葉北総・内) : 透析患者に対する心血管造影検査後における肝胆道系への造影剤排泄—CTを用いた検討—. 第56回日本医学放射線学会学術発表会, 1997. 4.
- 6) 岡田 進, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島なつき, 隈崎達夫¹⁾, 高橋良行²⁾ (¹⁾ 付属・放, ²⁾ GE横河メディカル) : 中枢神経系のEPI拡散強調MRI. 第56回日本医学放射線学会学術発表会, 1997. 4.
- 7) 小池 薫¹⁾, 趙 圭一, 小川理郎¹⁾, 高橋幸道¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 加藤一良¹⁾, 横田裕行¹⁾, 大塚敏文²⁾, 田島なつき, 岡田 進 (¹⁾ 千葉北総・救命救急部, ²⁾ 付属・救命救急部) : RIアンギオグラフィによる腹腔内臓機への

- 血液灌流状態の検討—鈍的外傷3例・非外傷性手術症例2例を用いて—。第11回日本外傷学会，1997。5。
- 8) 岩田ともみ¹⁾，於保倫之助¹⁾，市堰 肇¹⁾，小林克史¹⁾，石井 洋¹⁾，水野杏一¹⁾，大秋美治²⁾，森 修²⁾，岡田 進，新井裕至³⁾，山崎峰雄³⁾，赫 彰郎³⁾ (¹⁾ 千葉北総・内，²⁾ 同・病理，³⁾ 日医大・2内)：Gliomatosis cerebriの1例—MRIと病理との比較—。日本医科大学医学会第92回例会，1997。5。
 - 9) 岡田 進，田島なつき，伊藤公一郎，保坂純郎，趙 圭一，隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 付属・放)：脳血管障害に対するEPI拡散強調MRI。日本医科大学医学会第92回例会，1997。5。
 - 10) 小川理郎¹⁾，趙 圭一，高橋幸道¹⁾，犬塚 祥¹⁾，加藤一良¹⁾，横田裕行¹⁾，大塚敏文²⁾，田島なつき，岡田 進 (¹⁾ 千葉北総・集中治療，²⁾ 付属・集中治療)：RIアンギオグラフィーによる腹腔内臓器への血流灌流状態の検討—鈍的外傷例・非外傷性手術症例2例を用いて—。第11回日本外傷学会，1997。5。
 - 11) 片桐究代，岡田 進，田島なつき，伊藤公一郎，保坂純郎，趙 圭一，京野昭二¹⁾，森山雄吉¹⁾，大秋美治²⁾，隈崎達夫 (¹⁾ 千葉北総外科，²⁾ 同・病理)：胃外に大きな腫瘤を形成した，胃のleiomyoblastomaの1例。第411回日本医学放射線学会 関東地方会，1997。6。
 - 12) 富里謙一¹⁾，斉藤晴美¹⁾，櫻井 実¹⁾，加藤文司¹⁾，川村義彦¹⁾，榎 利夫²⁾，土橋俊男²⁾，片桐究代，伊藤公一郎，田島なつき，岡田 進 (¹⁾ 千葉北総・中央画像検査室，²⁾ 付属・放)：EPI-FLAIRにおけるsequenceの検討。第16回千葉MR研究会，1997。7。
 - 13) 片桐究代，岡田 進，趙 圭一，保坂純郎，伊藤公一郎，田島なつき，隈崎達夫，坪井成美¹⁾，横山博美²⁾ (¹⁾ 泌尿器科，²⁾ 医新会クリニック泌尿器科)：透析によるガドリニウム造影剤の除去：臨床的検討。千葉MRI研究会，1997。7。
 - 14) 斉藤晴美¹⁾，櫻井 実¹⁾，加藤文司¹⁾，川村義彦¹⁾，岡田 進，趙 圭一 (¹⁾ 日医大千葉北総・中央画像)：MRIを用いた安静時呼吸下における左室壁変位の評価。第25回日本磁気共鳴医学会大会，1997。9。
 - 15) 片桐究代，岡田 進，趙 圭一，保坂純郎，伊藤公一郎，田島なつき，隈崎達夫，坪井成美¹⁾，横山博美²⁾ (¹⁾ 泌尿器科，²⁾ 医新会クリニック泌尿器科)：透析によるガドリニウム造影剤の除去：臨床的検討。第25回日本磁気共鳴医学会大会，1997。9。
 - 16) 伊藤公一郎，岡田 進，片桐 究代，趙 圭一，保坂 純郎，田島 なつき，斉藤春美，櫻井 実，隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科)：Multishot Multislice SE-EPI による女性骨盤部の造影MRI。第25 回日本磁気共鳴医学会大会，1997。9。
 - 17) 趙 圭一，汲田伸一郎¹⁾，水村 直¹⁾，石原真木子¹⁾，木島鉄仁¹⁾，鳥羽正浩¹⁾，岡田 進，隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科)：心拍同期心筋SPECTを用いた局所壁運動の定量的評価—心筋血流正常例における検討—。日本核医学会，1997。11。

8. 皮膚科学講座

[付属病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚の炎症反応におけるストレス関連ホルモン
免疫担当細胞, マスト細胞, 自律神経, 微小循環系に対するCRHの作用メカニズム.
CRHが及ぼす情動, 異常搔破行動への影響.
アトピー性皮膚炎患者への精神医学的, 心理学的アプローチ.
2. 自己免疫性水疱症の発症機序
免疫担当細胞 (特にランゲルハンス細胞, マスト細胞) の動態について.
3. 腫瘍免疫機構の解明
皮膚腫瘍の免疫組織化学, 電顕的解析. 特にマスト細胞の動態について.
悪性腫瘍におけるin vitro制癌剤感受性試験および温熱感受性試験法の開発.
4. 薬疹, 接触皮膚炎の原因抗原の解析
他抗原物質との交叉反応, 抗原決定基の研究. 遅延型過敏反応のin vitro測定法の開発.
5. ヘリコバクター・ピロリ感染症と難治性皮膚疾患との関係
慢性蕁麻疹, 掌蹠膿疱症, 乾癬, アトピー性皮膚炎が対象.
6. 紫外線の発癌メカニズム
皮膚ランゲルハンス細胞の動態を中心に研究.
7. 真菌感染と生体防御機構

研究業績

論文

[1996年度追加分]

綜説:

- 1) 青木見佳子: 金属によるアレルギー性接触皮膚炎. 調剤と情報 1997; 3 (2): 156-159.

(1) 原著:

- 1) Tachihara R: The effect of dacarbazine and vinblastine sulfate on human melanoma cell lines: In vitro analysis of interaction on DNA synthesis, RNA synthesis and protein synthesis. 日医大誌 1997; 64: 238-248.
- 2) Nakajima M, Nakajima A, Kayagaki N, Honda M, Yagita H, Okumura K: Expression of Fas ligand and its receptor in cutaneous lupus: Implication in tissue injury. Clinical Immunology and Immunopathology 1997; 83 (3): 223-229.
- 3) Login G: Immunocytochemical localization of chymase to cytoplasmic vesicles after rat peritoneal mast cell stimulation by compound 48/80. J Histochem Cytochem 1997; 45: 1379-1391.
- 4) Kaneko K, Aoki M, Hata M, Yajima J, Kawana S, Hattori S¹⁾ (1) Department of dermatology, Chiba Hokusoh Hospital): Allergic contact dermatitis from amorolfine cream. Contact Dermatitis 1997; 37 (6): 307.
- 5) Kawana S: Drug eruption induced by Cyanamide (Carbimide): A clinical and histopathologic study of 7

- patients. *Dermatology* 1997; 195: 30-34.
- 6) 天野薫子：局所麻酔剤によるパッチテスト陽性例についての検討。日医大誌 1997; 64: 139-146.
 - 7) 畑三恵子, 本田光芳：非ステロイド系消炎鎮痛外用剤の副作用発現頻度。日本医事新報 1997; 3807: 114-115.
 - 8) 中島美知子, 佐々木りか子：小児の肥満細胞症40例に関する検討。日本小児皮膚科学会雑誌 1997; 16 (1): 37-40.
 - 9) 中島美知子, 佐々木りか子, 山本一哉¹⁾ (1) 愛育病院皮膚科)：Hutchinson-Gilford progeria syndrome. 日本小児皮膚科学会雑誌 1997; 16 (1): 31-35.
 - 10) 橋本網子, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳：プロポリスによる接触皮膚炎。皮膚科の臨床 1997; 39 (5): 755-758.
 - 11) 弓削真由美, 天野薫子, 新見やよい, 青木見佳子, 本田光芳, 高木 修¹⁾, 斎藤 裕²⁾ (1) 浦和市, 2) 文京区)：爪下外骨腫の2例。日本小児皮膚科学会雑誌 1997; 16 (1): 41-44.
 - 12) 青木見佳子, 本田光芳, 嘉陽宗隆¹⁾, 涌井史典²⁾ (1) 形成外科, 2) 日本大学医学部皮膚科)：14歳女子の足縁に生じた黒色結節。Skin Cancer 1997; 12: 26-29.
 - 13) 立原利江子：HIV感染者における皮膚病変について。日医大誌 1997; 64: 282.
 - 14) 天野薫子, 尾見徳弥, 藤本和久, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 青野昭男¹⁾, 後藤美江子²⁾ (1) 複十字病院細菌検査室, 2) 東京大学医学研究所感染症研究部)：Mycobacterium marinum による皮膚非定型抗酸菌症の1例。皮膚科の臨床 1997; 39 (6): 921-924.
 - 15) 二神綾子, 新見やよい, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 本田英世¹⁾ (1) 慈愛病院)：原因検索が非常に困難であったそばアレルギーの1例。皮膚科の臨床 1997; 39 (9): 1347-1350.
 - 16) 青木見佳子, 本田光芳：接触皮膚炎。皮膚病診療 1997; 19 (8): 713-715.
 - 17) 青木見佳子, 本田光芳, 山本 達¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 形成外科)：木村病：マスト細胞の電顕的脱顆粒形態。臨床皮膚科 1997; 51: 785-790.
 - 18) 佐々木りか子：癬によるこどもの皮膚病変。治療 1997; 79: 1229-1231.
 - 19) 佐々木りか子：虫刺と急性痒疹。皮膚病診療 1997; 19 (9): 807-810.
 - 20) 二神綾子, 新見やよい, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 八島正明¹⁾, 西野武士²⁾ (1) 第一内科, 2) 第一生化学)：痛風結節の1例。皮膚科の臨床 1997; 39 (11): 1695-1699.
 - 21) 佐々木りか子, 中島美知子, 伊藤 中¹⁾ (1) 株式会社ノブ開発室)：いわゆる低刺激性頭皮ケアローションの小児にあける使用経験。日本小児皮膚科学会雑誌 1997; 16 (2): 203-209.
 - 22) 天野薫子, 藤本和久, 青木見佳子, 佐々木映子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 斎藤 裕¹⁾, 中溝宗永²⁾ (1) 文京区, 2) 耳鼻咽喉科)：Mycobacterium fortuitumによる皮膚非定型抗酸菌症の1例。皮膚科の臨床 1997; 39 (12): 1897-1900.
 - 23) 橋本網子, 青木見佳子, 本田光芳, 高木 修¹⁾ (1) 浦和市)：有棘細胞癌を思わせた皮膚自傷症の1例。皮膚科の臨床 1997; 39 (12): 1871-1874.
 - 24) 東 直行, 天野薫子, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 有吉雅徳¹⁾, 百束比古¹⁾ (1) 形成外科)：BCG接種後に生じた皮膚結核性肉芽腫の2例。日本小児皮膚科学会雑誌 1997; 16 (2): 197-201.
 - 25) 新見やよい, 青木見佳子, 本田光芳：大腿に生じたHidradenoma Papilliferum。皮膚科の臨床 1997; 39 (13): 1951-1955.
 - 26) 青木順子：点眼剤によるアレルギー性接触皮膚炎：その臨床像, 貼布試験結果について。日医大誌 1997; 64 (3): 26-31.
 - 27) 北原東一：日本医科大学付属病院における梅毒の臨床的検討。日本性感染症学会誌 1997; 8: 136-144.
 - 28) 東 直行, 二神綾子, 新見やよい, 青木見佳子, 本田光芳：基底細胞癌の1例—当科における基底細胞癌の統計

一. Skin Cancer 1997;12 (3):357-361.

- 29) 竹内淳子, 丸山陽子, 新見やよい, 本田光芳: ロメフロキサシンによる蕁麻疹型薬疹の1例. 皮膚科の臨床 1998;40:39-41.
- 30) 竹内淳子, 新見やよい, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 北原東一, 五十嵐利一¹⁾ (1) 荒川区): Nerve Sheath Myxomaの1例. 皮膚科の臨床 1998;40:173-176.
- 31) 弓削真由美, 新見やよい, 矢島 純, 本田光芳, 北原東一: 耳介に発生した基底細胞癌. 皮膚科の臨床 1998;40 (1):218-219.
- 32) 丸山陽子, 新見やよい, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 藤田敏子¹⁾ (1) 墨田区): Chilblain lupusの1例. 皮膚科の臨床 1998;40:357-361.
- 33) 東 直行, 金子勝美, 北原東一, 服部怜美¹⁾, 大秋美治²⁾, 青木見佳子, 本田光芳 (1) 千葉北総病院皮膚科, ²⁾ 千葉北総病院病理部): Fibrous hamartoma of infancyの1例. 臨床皮膚科 1998;52 (2):114-117.
- 34) 立原利江子, 相良宗徳¹⁾, 中村進一²⁾ (1) 多摩永山病院皮膚科, ²⁾ 江東区): 慢性関節リウマチを伴った角層下膿疱症の1例. 皮膚科の臨床 1998;40 (3):503-506.
- 35) 近藤裕美, 太田眞琴, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 岩澤博俊¹⁾, 粉川隆行²⁾, 草間芳樹³⁾, 内藤善也⁴⁾, 浅野伍朗⁴⁾ (1) 眼科, ²⁾ 耳鼻咽喉科, ³⁾ 第一内科, ⁴⁾ 第二病理学): 再発性多発性軟骨炎の1例. 皮膚科の臨床 1998;40 (3):459-462.
- 36) 北原東一¹⁾, 服部怜美¹⁾, 青木見佳子, 本田光芳, 大秋美治²⁾ (1) 千葉北総病院皮膚科, ²⁾ 千葉北総病院病理部): Bowen病の病巣部に生じたMerkel細胞癌の1例. Skin Cancer 1997;12:91-95.

(2) 総説:

- 1) 尾見徳弥, Olesen A¹⁾, Therestrup-Pedersen K¹⁾, 山本一哉²⁾ (1) Department of Dermatology, Marselisborg Hospital, University, ²⁾ 愛育病院皮膚科): 高齢出産はアトピー性皮膚炎の発症因子となるか?—Old motherの仮説—. 日本小児皮膚科学会雑誌 1997;16 (1):21-26.
- 2) 青木見佳子: 固定疹型薬疹. 調剤と情報 1997;3:672-675.
- 3) 畑三恵子, 本田光芳: 湿疹型薬疹. 調剤と情報 1997;3 (7):818-821.
- 4) 本田光芳, 新見やよい: 皮膚結核の変遷. 皮膚科の臨床 1997;39 (9):1367-1371.
- 5) 藤本和久: 光線過敏型薬疹: 苔癬型薬疹. 調剤と情報 1997;3 (8):960-963.
- 6) 新見やよい: 蕁麻疹型薬疹. 調剤と情報 1997;3 (10):1258-1261.
- 7) 佐々木りか子: 血管腫と母斑. 周産期医学 1997;27:601-602.
- 8) 藤本和久, 本田光芳: 皮膚科領域におけるCiclosporinについて. 日医大誌 1997;64 (2):203-204.
- 9) 川名誠司: 天疱瘡における細胞間接着障害. 日医大誌 1997;64:588-590.
- 10) 青木見佳子, 本田光芳: 高齢者の外陰部病変. デルマ 1998;7:59-66.
- 11) 川名誠司: 蕁麻疹様紅斑. 皮膚病診療 1998;20 (2):105-110.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演:

- 1) 楠 俊雄, 楠万左子¹⁾, 飯泉陽子²⁾ (1) 清瀬市, ²⁾ 国立埼玉病院皮膚科): イトラコナゾール内服治療に抵抗したスポロトリコーシスの1例. 第61回日本皮膚科学会東京支部総会術大会, 1997. 2.

(1) ワークショップ:

- 1) 秋元正宇¹⁾, 百東比古, 利根川均, 青木見佳子²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 付属病院皮膚科): 隆起性皮膚

繊維肉腫の切除範囲に関する考察：当科における過去20年30症例の統計から：DFSP, MFH. 第13回日本皮膚悪性腫瘍学会総会, 1997. 7.

(2) CPC :

1) 新見やよい, 橋本網子, 東 直行, 青木見佳子, 安武正弘¹⁾ (1) 第一内科) : 水疱症の1例. 第96回日本皮膚科学会総会学術大会, 1997. 4.

(3) 一般講演 :

- 1) Tachihara R, Nakamura S, Matsuhisa T¹⁾ (1) Department of Gastroendoscopy) : Association between Helicobacter Pylori infection and chronic urticaria. XVI International Congress of Allergology and Clinical Immunology, 1997. 10.
- 2) Nakajima M, Nakajima A¹⁾, Morimoto S²⁾, Yoshino S¹⁾, Kobata T²⁾, Yagita H²⁾, Okumura K²⁾ (1) Department of Rheumatology, 2) Department of Immunology, Juntendo University) : Role of CD70/CD27 costimulatory pathway in the development of TH1-mediated autoimmunity. American College of Rheumatology 61th National Scientific Meeting Association of Rheumatology Health Professionals 32th National Scientific Meeting, 1997. 11.
- 3) 青木順子, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 七田俊彦, 本田光芳 : 点眼剤によるアレルギー性接触皮膚炎の統計的観察. 第96回日本皮膚科学会総会学術大会, 1997. 4.
- 4) 天野薫子, 高田香織, 弓削真由美, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 七田俊彦, 本田光芳 : 局所麻酔剤含有外用剤によるアレルギー性接触皮膚炎の統計的観察. 第96回日本皮膚科学会総会学術大会, 1997. 4.
- 5) 荒牧 純, 栗原和久, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳 : セバシン酸ジエチルによるアレルギー性接触皮膚炎. 第27回日本皮膚アレルギー学会, 1997. 5.
- 6) 中島美知子, 佐々木りか子, 金田一純子¹⁾ (1) 国立小児病院歯科) : 先天性無汗性外胚葉形成不全症の1例. 第21回日本小児皮膚科学会学術大会, 1997. 5.
- 7) 沼野香世子, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳 : 小麦粉による食餌アレルギーの1例. 第21回日本小児皮膚科学会学術大会, 1997. 5.
- 8) 青木順子, 荒牧 純, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳 : 顔面播種状粟粒性狼瘡の1例. 第21回日本小児皮膚科学会学術大会, 1997. 5.
- 9) 天野薫子, 沼野香世子, 米山英子, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳 : アセトアミノフェンによる固定薬疹の1例. 第21回日本小児皮膚科学会学術大会, 1997. 5.
- 10) 金子勝美, 北原東一, 関 正計¹⁾, 服部怜美²⁾, 田村秀樹³⁾, 南 史朗³⁾ (1) 水戸市, 2) 千葉北総病院皮膚科, 3) 第三内科) : 脛骨前粘液水腫の1例. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 11) 弓削真由美, 天野薫子, 新見やよい, 青木見佳子, 本田光芳, 高木 修¹⁾, 斎藤 裕²⁾ (1) 浦和市, 2) 文京区) : 爪下外骨腫の2例. 第21回日本小児皮膚科学会学術大会, 1997. 5.
- 12) 金子勝美, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 川名誠司, 服部怜美¹⁾ (1) 千葉北総病院皮膚科) : 塩酸アモロロフィンによるアレルギー性接触皮膚炎の1例. 日本皮膚科学会第730回東京地方会, 1997. 7.
- 13) 佐々木りか子, 中島美知子 : Netherton's syndromeの1例. 第12回角化症研究会, 1997. 8.
- 14) 有吉雅徳¹⁾, 百束比古¹⁾, 青木見佳子 (1) 形成外科) : ウルトラパルス炭酸ガスレーザーによる皮膚形成術. 第15回日本美容皮膚科学会学術大会, 1997. 8.
- 15) 尾見徳弥 : 皮膚固有Tリンパ球の in vitro での培養 : アトピー性皮膚炎と高齢出産に関係する仮説. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 16) 井上幸彦¹⁾, 野中尚子¹⁾, 尾形さやか¹⁾, 百束比古¹⁾, 青木見佳子 (1) 形成外科) : 本院における皮膚悪性腫瘍症例の検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.

- 17) 土佐真美子¹⁾, 青木 律¹⁾, 百束比古¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 青木見佳子 (¹⁾ 形成外科) : 高齢者のLangerhans cell histiocytosisの1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 18) 仲田幸世¹⁾, 千明美保¹⁾, 百束比古¹⁾, 高 建華¹⁾, 青木見佳子 (¹⁾ 形成外科) : 顔面に発生した悪性黒色腫の1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 19) 太田真琴, 服部怜美¹⁾, 山西貴仁¹⁾, 秋田政彦¹⁾, 岩田とも美²⁾, 水野杏一²⁾, 大秋美治³⁾, 金子勝美, 北原東一 (¹⁾ 千葉北総病院皮膚科, ²⁾ 千葉北総病院内科, ³⁾ 千葉北総病院病理部) : 胆管癌の皮膚転移の1例. 第49回日本皮膚科学会西部支部総会学術大会, 1997. 9.
- 20) 栗原和久, 藤本和久, 天野薫子, 畑三恵子, 矢島 純, 川名誠司 : フッ化水素酸による化学熱傷の1例. 日本皮膚科学会第731回東京地方会, 1997. 9.
- 21) 高田香織, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 川名誠司, 濱田久光¹⁾, 副島清美²⁾ (¹⁾ 小児科, ²⁾ 賛育会) : Langerhans' cell histiocytosisの1例. 日本皮膚科学会第732回東京地方会, 1997. 10.
- 22) 青木見佳子, 川名誠司, 青木 律¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 原 一夫²⁾ (¹⁾ 形成外科, ²⁾ 愛知医科大学病理学) : Langerhans' cell histiocytosisの1例. 第48回日本皮膚科学会中部支部総会学術大会, 1997. 10.
- 23) 金子勝美, 青木見佳子, 川名誠司 : アロポー稽留性肢端皮膚炎の1例. 日本皮膚科学会第732回東京地方会, 1997. 10.
- 24) 秋田政彦¹⁾, 太田真琴¹⁾, 山西貴仁¹⁾, 服部怜美¹⁾, 大秋美治²⁾, 川名誠司 (¹⁾ 千葉北総病院皮膚科, ²⁾ 千葉北総病院病理部) : Eccrine poromaの病巣内悪性化を生じた1例. 日本皮膚科学会第732回東京地方会, 1997. 10.
- 25) 沼野香世子, 米山英子, 藤本和久, 畑三恵子, 川名誠司 : 抗真菌外用剤, 感作性と交叉感作について. 第4回 Dermatological Mycology Club例会, 1997. 11.
- 26) 菊地伊豆美, 金子勝美, 畑三恵子, 川名誠司, 福井朋子¹⁾, 立麻典子¹⁾, 山本正生¹⁾, 中原美和子²⁾, 茨城信博²⁾ (¹⁾ 小児科, ²⁾ 眼科) : 色素失調症の1例. 日本皮膚科学会第733回東京地方会, 1997. 11.
- 27) 落合廣武, 弓削真由美, 青木見佳子, 川名誠司, 青木孝文¹⁾ (¹⁾ 整形外科) : ライター病の1例. 日本皮膚科学会第733回東京地方会, 1997. 11.
- 28) 荒牧 純, 天野薫子, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 川名誠司 : 塩酸ジブカインによるアレルギー性接触皮膚炎. 第22回日本接触皮膚炎学会総会学術大会, 1997. 11.
- 29) 群家正彦¹⁾, 百束比古¹⁾, 青木 律¹⁾, 新見やよい, 青木見佳子, 中溝宗永²⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科, ²⁾ 付属病院耳鼻咽喉科) : 自己免疫性水疱症患者に見られた開口障害に対する再建術の経験. 第15回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 1997. 11.
- 30) 五十嵐司, 青木見佳子, 畑三恵子, 川名誠司 : 線状苔癬の1例. 日本皮膚科学会第735回東京地方会, 1998. 1.
- 31) 中島美知子, 佐々木りか子 : Bloch-Sulzberger症候群の20例. 第61回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 1998. 2.
- 32) 立原利江子, 川名誠司, 嘉村恵理子¹⁾ (¹⁾ 耳鼻咽喉科) : RAを伴ったシェーグレン症候群にみられたムチン沈着によるびまん性脱毛の1例. 第21回皮膚脈管懇話会・第12回膠原病研究会, 1998. 2.
- 33) 尾見徳弥, 本田光芳, 山本一哉¹⁾, Thestrup-Pedersen K²⁾ (¹⁾ 愛育病院皮膚科, ²⁾ Department of Dermatology, Aarhus University) : 高齢出産のアトピー性皮膚炎発症因子としての可能性. 第61回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 1998. 2.
- 34) 弓削真由美, 二神綾子, 新見やよい, 川名誠司 : 胡椒に含まれたそばによるアレルギーの2例. 第61回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 1998. 2.
- 35) 糸井由里恵¹⁾, 青木 律¹⁾, 千明美保¹⁾, 仲田幸世¹⁾, 百束比古¹⁾, 青木見佳子, 利根川均²⁾ (¹⁾ 形成外科, ²⁾ 博慈会記念病院形成外科) : Malignant hemangioendothelioma2例の治療経験. 第207回日本形成外科学会東京地方会, 1998. 3.

[第二病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚腫瘍の臨床診断, 病理組織学的検索, 電顕, 酵素抗体法, 形成外科的治療.
2. ポリ・モノクローナル抗体を用いた梅毒疹の特異的診断. HIV感染と梅毒の併発による梅毒の進行や抗体価の異常等の検索. *T. Pallidum*のcross reactivityの検討.
3. GUDのPCRを用いた早期診断.
4. 接触皮膚炎, 薬疹では国際的な方法で原因物質の検索をする.
5. アトピー性皮膚炎の増悪因子としてのブドウ球菌や*M. furfur*の果たす役割を特に成人型について検討する.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 矢代加奈, 伊東文行, 増澤俊幸¹⁾, 柳原保武¹⁾ (1) 静岡県立大学薬学部微生物学教室): 慢性遊走性紅斑を伴ったライム病. 皮膚病診療 1997; 19 (4): 331-334.
- 2) 鈴木かやの, 矢代加奈, 遠藤祐理子, 伊東文行, 山田浩之¹⁾, 瀬戸皖一¹⁾ (1) 鶴見大学歯学部・口腔外科): 上顎犬歯より発生した外歯瘻. 皮膚科の臨床 1997; 39 (6): 972-973.
- 3) 伊東文行, 米山英子¹⁾, 太田真琴¹⁾, 畑三恵子¹⁾, 本田光芳¹⁾, 中村進一²⁾ (1) 付属病院皮膚科, 2) 第一病院皮膚科): 塩酸ブテナフィン (メンタックスR) の足白癬に対する治療効果および治癒後の再発検討. 新薬と臨床 1997; 46 (7): 925-933.
- 4) 矢代加奈, 堺 則康, 岩崎容子, 遠藤祐理子, 横山 泉, 伊東文行: ノルウェー疥癬の1例. 皮膚科の臨床 1997; 39 (8): 1336-1337.
- 5) 岩崎容子, 鈴木かやの, 伊東文行, 畑三恵子¹⁾, 天野薫子¹⁾, 本田光芳¹⁾, 相良宗徳²⁾, 中村進一²⁾ (1) 付属病院皮膚科, 2) 第一病院皮膚科): ニューキノロン系外用抗菌剤の尋常性ざ瘡に対する治療効果—各種抗生物質内服との併用—. 西日本皮膚科 (別冊) 1997; 59 (6): 880-882.
- 6) 堺 則康, 矢代加奈, 木村陽一, 三浦祐理子, 横山 泉, 伊東文行: D-ペニシラミンによって誘発された天疱瘡様皮膚病変. 皮膚科の臨床 1998; 40 (2): 305-308.
- 7) 木村陽一, 岩崎容子, 矢代加奈, 堺 則康, 横山 泉, 伊東文行: Symmetrical Lividities of Soles of the Feet の2例. 皮膚科の臨床 1998; 40 (2): 379-382.

著書

- 1) 伊東文行: [分担] 毛虱症. 皮膚疾患最新の治療 '97-'98 (堀 嘉昭・新村真人編), 1997; pp176-176, 南江堂.
- 2) 伊東文行: [分担] 梅毒. 総合臨牀, 1997; pp602-607, 永井書店.
- 3) 伊東文行: [分担] 梅毒. 今月の治療, 1997; pp43-45, 総合医学社.
- 4) 伊東文行: [分担] 性感染症: 最近の進歩. 専門医のための皮膚科学レビュー'98 (宮地良樹編), 1998; pp143-147, 総合医学社.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 小坂祥子, 遠藤祐理子, 矢代加奈, 木村陽一, 伊東文行: フマル酸ケトチフェン (ザジデンR) 点眼薬によるアレルギー性接触皮膚炎の4例. 第27回日本皮膚アレルギー学会, 1997. 5.

- 2) 小林伸子, 堺 則康, 矢代加奈, 木村陽一, 伊東文行: Chilblain lupusの1例. 日本皮膚科学会第728回東京地方会, 1997. 5.
- 3) 岩崎容子, 矢代加奈, 堺 則康, 木村陽一, 伊東文行: Clear cell syringomaの1例. 日本皮膚科学会第730回東京地方会, 1997. 7.
- 4) 森下宣明, 堺 則康, 木村陽一, 三浦祐理子, 伊東文行, 楠 俊雄¹⁾ (1) 清瀬市): Microsporum gypseumによるケルスス禿瘡の2例. 第42回神奈川医真菌談話会, 1997. 7.
- 5) 森下宣明, 堺 則康, 木村陽一, 三浦祐理子, 伊東文行, 楠 俊雄¹⁾ (1) 清瀬市): Microsporum gypseumによるケルスス禿瘡の2例. 日本皮膚科学会第731回東京地方会, 1997. 9.
- 6) 矢代加奈, 三浦祐理子, 伊東文行, 重光剛志¹⁾, 内山喜一郎¹⁾, 馬越正通¹⁾ (1) 消化器病センター): マイトマイシン血管外漏出による皮膚硬結の1例. 日本皮膚科学会第733回東京地方会, 1997. 11.
- 7) 岩崎容子, 三浦祐理子, 木村陽一, 伊東文行, 北村 伸¹⁾ (1) 第二内科): 神経パーチェット病の1例. 日本皮膚科学会第735回東京地方会, 1998. 1.
- 8) 野尻陽子, 矢代加奈, 堺 則康, 三浦祐理子, 伊東文行: 脛骨前粘液水腫の1例. 日本皮膚科学会第735回東京地方会, 1998. 1.
- 9) 加藤篤衛, 木村陽一, 鈴木かやの, 伊東文行: 手指に生じた血管平滑筋腫の1例. 日本皮膚科学会第735回東京地方会, 1998. 1.

[多摩永山病院皮膚科]

研究概要

1. Contact hypersensitivity (UVB照射時の遅延型過敏反応の抑制) についての研究
2. GVHDの発現についての基礎的研究
3. 電子顕微鏡による組織内スピロヘータの証明, スピロヘータの構造解析に関する研究
4. 病理組織学的, 電子顕微鏡的アプローチによる皮膚腫瘍の発生および診断に関する研究

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 濱松 優: 経皮感作における感作成立評価法としてのリンパ球proliferative assayと経皮感作成立における接触皮膚炎発現の必要性について. 日医大誌 1997; 64: 249-255.
- 2) 豊田かおる, 相良宗徳¹⁾, 星 健二²⁾, 中村進一 (1) 東京都, 2) 福島県): MRSAが検出されたアトピー性皮膚炎に色素剤が奏効した1例. 皮膚科の臨床 1997; 39 (11): 1637-1639.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Hamamatsu Y, Kanamori S¹⁾, Tachihara R¹⁾, Fukui A, Nakamura S²⁾ (1) Department of Dermatology, Main Hospital, 2) 江東区): Whether allergic contact dermatitis is necessary to induce systemic immunization by applied haptens. World Congress of Dermatology, 1997. 6.
- 2) 内田美香, 立原利江子¹⁾, 中村進一²⁾, 福生吉裕³⁾ (1) 付属病院皮膚科, 2) 江東区, 3) 第二内科): 坑カルジオライピン抗体陽性を示した深在性エリテマトーデスの1例. 第96回日本皮膚科学会総会学術大会, 1997. 4.
- 3) 濱崎せり, 五十嵐司¹⁾, 立原利江子¹⁾, 西原 潔, 中村進一, 飯田章太郎²⁾, 松久威史²⁾, 山本泰一³⁾ (1) 付属病

院皮膚科，²⁾ 付属多摩永山病院内視鏡科，³⁾ 戸田中央臨床検査研究所)：顆粒細胞腫の2例。第730回日本皮膚科学会東京地方会，1997. 7.

[千葉北総病院皮膚科]

研究概要

- 1) 薬疹，接触皮膚炎：patch scratch test, challenge test による原因物質の確認と，アレルギーカードの発行
- 2) 皮膚腫瘍の臨床診断および病理学的研究：特に電顕，酵素抗体法を用いた研究
- 3) 円形脱毛症におけるHLAタイプの検索
- 4) アトピー性皮膚炎における精神的要素の研究

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kaneko K¹⁾, Aoki M¹⁾, Hata M¹⁾, Yajima J¹⁾, Kawana S¹⁾, Hattori S (¹⁾ 付属病院皮膚科)：Allergic contact dermatitis from amorolfine cream. Contact Dermatitis 1997；37 (6)：307.
- 2) 服部怜美：搔痒，与薬にいかす症状別くすりの知識。臨床看護 1997；23：647-650.
- 3) 北原東一¹⁾，服部怜美，青木見佳子¹⁾，本田光芳¹⁾，大秋美治²⁾ (¹⁾ 付属病院皮膚科，²⁾ 千葉北総病院病理部)：Bowen病の病巣部に生じたMerkel細胞癌の1例。Skin Cancer 1997；12 (1)：91-95.
- 4) 東 直行¹⁾，金子勝美¹⁾，北原東一¹⁾，服部怜美，大秋美治²⁾，青木美佳子¹⁾，本田光芳¹⁾ (¹⁾ 付属病院皮膚科，²⁾ 千葉北総病院病理部)：Fibrous hamartoma of infancy の1例。臨床皮膚科 1998；52 (2)：114-117.

学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) 秋元正宇¹⁾，百東比古²⁾，利根川均²⁾，青木見佳子，服部怜美 (¹⁾ 千葉北総病院形成外科，²⁾ 付属病院形成外科)：隆起性皮膚繊維肉腫の切除範囲に関する考察：当科における過去20年30症例の統計から：DFSP，MFH。第13回日本皮膚悪性腫瘍学会総会，1997. 7.

(2) 一般講演：

- 1) 秋元正宇¹⁾，百東比古²⁾，服部怜美，青木見佳子³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院形成外科，²⁾ 付属病院形成外科，³⁾ 付属病院皮膚科)：20年間に経験した隆起性皮膚繊維肉腫24症例の検討。第40回日本形成外科学会学術集会，1997. 4.
- 2) 金子勝美¹⁾，北原東一¹⁾，関 正計²⁾，服部怜美，田村秀樹³⁾，南 史朗³⁾ (¹⁾ 付属病院皮膚科，²⁾ 水戸，³⁾ 付属病院第三内科)：脛骨前粘液水腫の1例。日本医科大学医学会第92回例会，1997. 5.
- 3) 金子勝美¹⁾，川名誠司¹⁾，服部怜美 (¹⁾ 付属病院皮膚科)：ペキロンによる接触皮膚炎の1例。日本皮膚科学会第730回東京地方会合同臨床学会，1997. 7.
- 4) 太田真琴，服部怜美，秋田政彦，山西貴仁：胆管癌の皮膚転移の1例。第49回日本皮膚科学会西部支部学術大会，1997. 9.
- 5) 秋田政彦，太田真琴，山西貴仁，服部怜美，大秋美治¹⁾，川名誠司²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院病理部，²⁾ 付属病院皮膚科)：Eccrine poroma の病巣内悪性化を生じた1例。第732回日本皮膚科学会東京地方会，1997. 10.
- 6) 山西貴仁，服部怜美，秋田政彦，太田真琴，川名誠司¹⁾ (²⁾ 付属病院皮膚科)：メフェナム酸による固定薬疹の1例。第22回日本接触皮膚炎学会，1997. 11.

9. 外科学第一講座

[付属病院第1外科]

研究概要

教室では消化器外科学，一般外科学，さらにその関連領域に関する以下のテーマについて臨床的，基礎的研究を進めており，その成果を積極的に学会ならびに学会誌および専門誌に発表し，着実な評価を得ている。

- 1) 創傷治療，外科侵襲，外科感染症の基礎的研究を基に積極的に臨床応用を図っている。
- 2) 急性腹症の病態の解析，とくにジッツマークを用いたイレウスの新しい診断と治療の選択法は，臨床上の有用性に対して内外で高い評価を得ている。
- 3) 腹腔鏡下手術はその適応範囲を拡げ，胆嚢摘出術はもとより，胃・十二指腸潰瘍の穿孔性腹膜炎に対しても積極的に用い，さらに早期胃癌，早期大腸癌，門脈圧亢進症にも応用され，良好な成績を得ている。患者に対して侵襲の少ない手術として評価を得ている。
- 4) 進行食道癌，胃癌，大腸癌に対する手術と化学療法の組み合わせにより，患者のQOLの向上を図っている。
- 5) 肝硬変症，門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療により，病態に応じた治療法の選択が可能となり，良好な成績を上げている。
- 6) 内視鏡下手術の進歩により，早期胃癌に対するEMR，また総胆管結石，膵石に対する内視鏡的摘出術，閉塞性黄疸に対する内視鏡的減黄術等，種々の内視鏡下手術に取り組んでいる。
- 7) ヘリコバクター・ピロリの胃炎，胃潰瘍，胃癌との関係の臨床的および基礎的な研究が進められている。
- 8) 遺伝子治療の研究にも取り組んでおり，胃癌における遺伝子治療もその基礎的研究が進行している。
- 9) 食道癌，肝臓癌，膵臓癌に対する基礎的，臨床的研究が進められ，手術法の進歩とあいまって手術成績の向上が得られつつある。
- 10) 乳癌手術に対して積極的に縮小手術を取り入れ良好な成績を挙げており，さらに進行乳癌に対する動注化学療法，化学内分泌療法を組み合わせた治療法を採用し，患者のQOLの向上に努め良好な成績を得ている。

教授，助教授，講師の指導の下に，これらの各テーマに若手医局員が配属され，日夜熱心に研究が行われており，下記のように内外の学会誌，専門誌に発表された。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kato S, Onda M, Matsukura N, Tokunaga A, Matsuda N, Tajiri T, Yamashita K, Shields P : *Helicobacter pylori* infection and genetic polymorphisms for cancer-related genes in gastric carcinogenesis. *Biomedicine & Pharmacotherapy* 1997 ; 51 : 145-149.
- 2) Aida K, Onda M, Asano G, Nakazawa N : Predisposition of subclones of pancreatic carcinoma cells, AsPC-1, to changes in functional and histopathological features of xenograft tumors with response to extracellular matrix. *J Nippon Med Sch* 1997 ; 64 : 163-171.
- 3) Matsukura N, Onda M, Kato S, Hasegawa H, Okawa K, Shirakawa T, Tokunaga A, Yamashita K, Hayashi A¹⁾ (¹⁾ Mitsubishi-Kagaku Bio-Clinical Laboratory) : Cytotoxin genes of *Helicobacter pylori* in chronic gastritis, gastroduodenal ulcer and gastric cancer : An age and gender matched case-control study. *Jpn J Cancer Res* 1997 ; 88 : 532-536.

- 4) Matsukura N, Onda M, Tokunaga A, Kato S, Yoshiyuki T, Hasegawa H, Yamashita K¹⁾, Tomtitchong P²⁾, Hayashi A³⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾ Department of Surgery, Faculty of Medicine, Thammasat University, ³⁾ Mitsubishi-Kagaku Bio-Clinical Laboratory) : Role of *Helicobacter pylori* infection in perforation of peptic ulcer : An age-and gender-matched case-control study. J Clin Gastroenterol 1997 ; 25 (1) : 235-239.
- 5) Miyashita M, Onda M, Okawa K, Matsutani T, Yoshiyuki T, Sasajima K, Kyono S, Yamashita K : Endoscopic dexamethasone injection following balloon dilatation in anastomotic stricture of esophagogastronomy. Am J Surg 1997 ; 174 : 442-444.
- 6) Takubo K, Nakamura K, Izumiyama N, Mafune K, Tanaka Y, Miyashita M, Sasajima K, Kato M, Oshima M : Telomerase activity in esophageal carcinoma. Surg Oncol 1997 ; 66.
- 7) Takeda S, Ogawa R, Nakanishi K, Kim C, Miyashita M, Sasajima K, Onda M, Takano T : The effect preoperative high dose methylprednisolone in attenuating the metabolic response after oesophageal resection. Eur J Surg 1997 ; 163 : 511-517.
- 8) Witte M, Thornton F, Kiyama T, Tantry U, Barbul A : Nitric oxide enhances wound collagen deposition in diabetic rats. Surgical Forum 1997 ; XLVIII : 665-667.
- 9) Sejourne F, Suzuki H, Alkan-Onyuksel H, Gao X, Ikezaki H, Rubinstein I : I. Mechanisms of vasodilation elicited by VIP in sterically stabilized liposomes in vivo. Am. J Physiol 1997 ; 273 : 287-292.
- 10) Gao X, Suzuki H, Olopade C, Pakhlevaniants S, Rubinstein I : Angiotensin-converting enzyme and neutral endopeptidase modulate smokeless tobacco-induced increase in macromolecular efflux from the oral mucosa in vivo. J Lab Clin Med 1997 ; 130 (4) : 395-400.
- 11) Gao X, Suzuki H, Olopade C, Pakhlevaniants S, Rubinstein I : Purified ACE attenuates smokeless tobacco-induced macromolecular efflux from the oral mucosa. J Appl Physiol 1997 ; 83 : 74-81.
- 12) Thomas C, Artwohl J, Suzuki H, Gao X, White E, Saroli A, Bunte R, Rubinstein I : Initial characterization of hamsters with spontaneous hypertension. Hypertension 1997 ; 30 : 301-304.
- 13) Matsuzaki S, Onda M, Tajiri T, Deug YK : Hepatic lobar difference in progression of chronic liver disease : Correlation of asialoglycoprotein scintigraphy and hepatic functional reserve. Hepatology 1997 ; 25 (4) : 828-832.
- 14) Reali-Forster C, Kolobow T, Giacomini M, Hayashi T, Horiba K, Ferrans V : New ultrathin-walled endotracheal tube with a novel laryngeal seal design. Long-term evaluation in sheep. Anesthesiology, Discussion 27A 1997 ; 84 (1) : 162-172.
- 15) Trawoger R, Kolobow T, Giacomini M, Usuki J, Horiba K, Ferrans V : Clearance of mucus from endotracheal tubes during intratracheal pulmonary ventilation. Anesthesiology 1997 ; 86 (6) : 1367-1374.
- 16) Akiyama N^{1,2)}, Sasaki H¹⁾, Ishizuka T, Kishi T¹⁾, Sakamoto H¹⁾, Onda M, Hirai H²⁾, Yazaki Y²⁾, Sugimura T¹⁾, Terada M¹⁾ (¹⁾ 国立がんセンター研究所分子腫瘍, ²⁾ 東京大学・三内) : Isolation of candidate gene, CAB1, for cholesterol transport to mitochondria from the c-ERBB-2 Amplicon by a modified cDNA selection method. Cancer Res 1997 ; 57 : 3548-3553.
- 17) Takeda S¹⁾, Ogawa R²⁾, Nakanishi K¹⁾, Kim C²⁾, Miyashita M, Sasajima K, Onda M, Takano T¹⁾ (¹⁾ Intensive Care Medicine, ²⁾ Anaesthesiology) : The effect of preoperative high dose methylprednisolone in attenuating the metabolic response after oesophageal resection. Eur J Surg 1997 ; 163 : 511-517.
- 18) Okawa K, Onda M, Miyashita M, Sasajima K : Systemic and pulmonary responses of inflammatory cytokines following esophagectomy. J Nippon Med Sch 1998 ; 65 (1) : 42-49.

- 19) Suzuki H, Caughey G, Gao X, Olopade C, Rubinstein I: Mast cell chymase-like Protease (s) modulates *Escherichia coli* lipopolysaccharide-induced vasomotor dysfunction in skeletal muscle *in vivo*. J Pharmacol Exp Ther 1998; 284: 1156-1164.
- 20) 松田範子, 恩田昌彦, 加藤俊二, 梅原松臣, 松倉則夫, 徳永 昭, 田尻 孝, 山下精彦: 発癌物質の代謝に関与するチトクロームP450 2E1 (CYP2E1) の遺伝子多型性分析による肝癌発生の予測. 肝臓 1997; 38: 467-468.
- 21) 長戸孝道¹⁾, 関山達也¹⁾, 松田裕之¹⁾, 勝田悌実¹⁾, 里村克章¹⁾, 荒牧琢己¹⁾, 吉田 寛, 梅原松臣, 田尻 孝, 恩田昌彦 (¹⁾ 第1内科): 側副血行路閉塞術により淡蒼球のMRI T1強調画像高信号が消失したportal-systemic encephalopathyの1例. 肝臓 1997; 38 (11): 668-672.
- 22) 山本一仁, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 広瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 山下精彦, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 放射線科): 食道静脈瘤に対する内視鏡的硬化・結紮術治療前後の左胃静脈血行動態の変化について. 日本門脈圧亢進症学会 1997; 3: 201-207.
- 23) 松田範子: 特集: 酸素中毒における遅延因子と促進因子. 日高圧医誌 1997; 31: 175-180.
- 24) 松田範子: 特集: 肝疾患と高圧酸素療法に関する基礎的および臨床的研究. 日高圧医誌 1997; 31: 217-225.
- 25) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 松倉則夫, 田尻 孝, 山下精彦: グルタチオン還元酵素の遺伝子欠損と胃癌術後肝障害との関連. 日本外科学会雑誌 1997; 98 (7): 665.
- 26) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 井上松広, 山村 進, 相本隆幸, 丸山 弘, 横山滋彦, 田尻 孝, 山下精彦, 山口敏和, 暉 暁青: 膵管内視鏡とK-ras癌遺伝子による膵癌の診断. Prog Digest Endosc 1997; 50: 116-120.
- 27) 松倉則夫, 恩田昌彦, 大川敬一, 白川 毅, 加藤俊二, 長谷川博一, 徳永 昭, 山下精彦, 山初順一¹⁾, 本吉光隆²⁾ (¹⁾ 泉中央病院, ²⁾ 上総記念病院): ヘリコバクター・ピロリの2段階除菌法. 日消誌 1997; 94 (8): 569.
- 28) 松倉則夫, 恩田昌彦, 長谷川博一, 徳永 昭, 星野有哉¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 鈴木 聡²⁾, 島田 隆²⁾ (¹⁾ 第2外科, ²⁾ 第2生化): 胃癌転移に対する遺伝子治療の可能性. 癌と化学療法 1997; 24 (12): 1778-1780.
- 29) 松倉則夫, 恩田昌彦, 徳永 昭, 加藤俊二, 長谷川博一, 吉行俊郎, 内藤善哉¹⁾, 山田宣孝¹⁾, 京野昭二²⁾, 山下精彦²⁾, 山初順一³⁾ (¹⁾ 第2病理, ²⁾ 千葉北総病院外科, ³⁾ 泉中央病院): Epstein-Barr virus と *Helicobacter pylori* に感染した胃粘膜から発生した多発早期胃癌の1例. 日本外科系連合学会誌 1997; 22 (6): 937-941.
- 30) 大川敬一, 恩田昌彦, 松倉則夫, 秋谷行宏, 白川 毅, 加藤俊二, 徳永 昭, 山下精彦: 輸送培地での *Helicobacter pylori* 検出感度の向上—¹³C尿素呼気試験 (¹³C-UBT), 胃液PCR法との比較—. 消化器内視鏡の進歩 1997; 50: 6465.
- 31) 萩原信敏, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 大川敬一, 松谷 毅, 土屋喜一, 山下精彦¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科): 食道癌術後合併症とSIRS (systemic inflammatory response syndrome). 日本外科感染症研究 1997; 9: 73-77.
- 32) 山下直行, 恩田昌彦, 田中宣威, 尾田 恭¹⁾, 有村佳昭¹⁾, 源 利成³⁾, 落合淳志²⁾, 羽尾邦彦⁴⁾, 江角浩安¹⁾ (¹⁾ 国立がんセンター研究所支所がん治療開発部, ²⁾ 同病理部, ³⁾ 金沢大学がん研究所外科, ⁴⁾ 国立横須賀病院外科): HNPCCにおけるaberrant crypt foci (ACF): sporadic (単発) 症例との比較. 消化器癌の発生と進展 1997; 9: 281-285.
- 33) 吉田 寛, 江上 格, 和田雅世, 前田昭太郎, 田中宣威, 恩田昌彦: 直腸悪性神経鞘腫の1例. 日消外会誌 1997; 30 (7): 1809-1813.
- 34) 徳永 昭, 恩田昌彦, 小栗 剛, 白川 毅, 瀧田雅仁, 池田研吾, 平本義浩, 藤田逸郎, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 第2病理): 十二指腸潰瘍修復過程と創傷治癒. PROGRESS IN MEDICINE 1997;

- 17 (9) : 2602-2603.
- 35) 谷口善郎, 吉安正行, 谷田貝茂雄, 恩田昌彦, 池田研吾, 土屋喜一: 外科領域における腹腔鏡下手術の発展 (腹腔鏡下胆嚢摘出術を中心として). 第12回足立医学会論文集 1997; 12-15.
- 36) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 松倉則夫, 田尻 孝, 山下精彦: 胃癌手術後における肝障害発生の要因解析—C型肝炎抗体陽性や手術侵襲, 術式の影響—. 日本外科系連合学会誌 1998; 23 (1) : 51-56.
- 37) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 松倉則夫, 田尻 孝, 田中宣威, 山下精彦: 高ガストリン血症により胃全摘後, 大腸癌およびその肝転移を手術した1例. 日本臨床外科学会雑誌 1998; 59 : 76-81.
- 38) 谷田貝茂雄, 吉安正行, 野村 務, 谷口善郎, 池田研吾, 土屋喜一: 当院外科における最近一年間の高齢者手術の現況. 博慈会老人病研究所紀要 1998; 7 : 36-38.
- 39) 仲村 賢, 田久保海誉, 田中 洋, 真船健一, 笹島耕二, 宮下正夫, 江崎行芳, 加藤基伸, 押村光雄 : 腫瘍マーカーとしてのテロメレース活性—食道癌を例として. 腫瘍マーカー研究会誌 1998; 12 : 117-119.
- 40) 西邑信男¹⁾, 小倉 忍¹⁾, 吉安正行, 谷口善郎, 井伊京一郎²⁾, 今野俊介²⁾ (¹⁾ 博慈会記念総合病院麻酔科, ²⁾ 同整形外科): 持続硬膜外麻酔後に脊髄硬膜外血腫により対麻痺を起こした1症例. 臨床麻酔 1998; 22 (4) : 566-568.
- 41) 瀧田雅仁, 恩田昌彦, 徳永 昭, 白川 毅, 池田研吾, 平本義浩, 寺本 忠, 小栗 剛, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫 : 5'-DFUR・Lentian併用により著明な肝転移縮小をみた Thymidine Phosphorylase (dThdPase) 陽性胃癌の1例. 癌と治療誌 1998; 25 (1) : 129-133.
- (2) 総説 :
- 1) 美濃部かおり, 松本智司, 江見 充 : 乳癌の遺伝子診断. 臨床と研究 1997; 74 (4) : 764-769.
- 2) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 田尻 孝, 田中宣威 : 創部・ドレーンの管理 (特集 : 安全な術後管理のためのマニュアル). 消化器外科 1997; 20 (4) : 447-455.
- 3) 田尻 孝, 恩田昌彦, 山下精彦, 有馬保生, 内田英二, 梅原松臣 : 胆嚢摘出後症候群とその取り扱い (診断の指針・治療の指針). 総合臨床 1997; 46 (6) : 1853-1854.
- 4) 松倉則夫, 恩田昌彦, 長谷川博一, 加藤俊二, 吉行俊郎, 有馬保生, 徳永 昭, 田尻 孝, 山下精彦, 温敏¹⁾, 山田宣孝¹⁾, 松久威史²⁾ (¹⁾ 第2病理, ²⁾ 多摩永山病院内視鏡科): ヘリコバクター・ピロリと胃十二指腸疾患外科の立場より. 日医大誌 1997; 64 (5) : 479-482.
- 5) 丸山 弘, 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 秋谷行宏, 芦荻正幸, 前澤勝美 : 術後真菌感染症の治療. 消化器外科 1997; 20 : 1769-1775.
- 6) 松倉則夫, 恩田昌彦, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 第2生化): 胃癌の遺伝子治療. 消化器科 1997; 25 (1) : 31-37.
- 7) 松倉則夫, 恩田昌彦, 加藤俊二, 徳永 昭, 山下精彦, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 第2病理): 胃潰瘍と胃癌. 日医大誌 1997; 64 (3) : 207-210.
- 8) 徳永 昭, 恩田昌彦, 小栗 剛, 瀧田雅仁, 白川 毅, 松倉則夫, 末岡伸夫¹⁾, 的場康德²⁾ (¹⁾ 第3内科, ²⁾ 第二病院消化器病センター): 増殖因子と消化管. GI Research 1997; 5 (2) : 223-230.
- 9) 徳永 昭, 白川 毅 : 創傷管理と入浴・シャワー. 日本醫事新報 1997; 3841 : 112-113.
- 10) 田中宣威, 恩田昌彦, 古川清憲, 金沢義一 : 急性虫垂炎の開腹術. 外科手術事典 外科治療 1997; 76 : 707-710.
- 11) 田中宣威 : 腸管損傷—修復はここがポイント— (特集 : 実戦婦人科手術のPitfalls and Knacks-マニュアルにのらない現場のノウハウ). 産婦人科の実際 1997; 46 : 1737-1744.
- 12) 田中宣威, 恩田昌彦, 横山滋彦 : 術後の腸管癒着. 外科治療 1998; 78 : 111-112.
- 13) 田尻 孝, 恩田昌彦, 山下精彦, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 隈崎達夫 : 食道・胃静脈瘤に対する経カテーテル的処置 (PTO・TIO) (特集 : 腹部・消化器における非観血的手技). 外科治療 1998; 78

(2) : 156-162.

- 14) 田尻 孝, 恩田昌彦, 山下精彦, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 隈崎達夫¹⁾ (放射線科) : PTO・TIO (経門脈の食道・胃静脈瘤塞栓術) (特集: 食道・胃静脈瘤攻略法). 臨外 1998; 53 (2) : 169-174.

著 書

- 1) Kato S, Onda M, Matsukura N, Matsuda N, Yoshiyuki T, Tokunaga A, Yamashita K : [分担] *HELICOBACTER PYLORI* INFECTION, SERUM MARKERS FOR GASTRIC MUCOSAL ATROPHY AND GENETIC PORIMORPHISMS OF CANCER RELATED GENES FOR STOMACH CARCINOGENESIS. Progress in Gastric Cancer Research (edi Jorg Rudiger Siewert, Jurgen D Roder), 1997 ; pp23-27, (Monduzzi Ed). Bologna Italy.
- 2) Matsutani T, Onda M, Miyashita M, Okawa K, Furukawa K, Akiya Y, Maruyama H, Suzuki H, Yamashita K, Sasajima K : [共著] Soluble adhesion molecules and cytokines on the development of complications following major surgery. "4th international congress on the immune consequences of trauma, shock and sepsis" (E Faist ed.), 1997 ; pp443-447, Monduzzi Editore (Bologna).
- 3) Shirakawa T, Onda M, Tokunaga A, Fujita I, Hiramoto Y, Ikeda K, Takita M, Teramoto T, Oguri T, Matsukura N : [分担] Immunosuppressive activity of cytokines in local exudate after gastric and breast cancer surgery. Progress in Gastric Cancer Research (Siewert JR, Roder JD eds), 1997 ; pp767-770, Monduzzi Editore, Bologna.
- 4) Yoshiyuki T, Onda M, Tokunaga A, Hiramoto Y, Ikeda K, Shirakawa T, Takita M, Teramoto T, Oguri T, Kiyama T, Kato S, Miyashita M, Matsukura N, Yamashita K : [分担] Preoperative Chemotherapy for Advanced Gastric Cancer : Immunohistochemical examination of pretreatment endoscopic biopsies. Progress in gastric cancer research, 1997 ; pp1305-1310, Monduzzi Editore S.p.A. (Bologna,Italy).
- 5) 吉行俊郎, 恩田昌彦 : [分担] 消化管術後通過障害. ベッドサイド管理のてびき (玉熊正悦監修), 1997 ; pp588-593, 医歯薬出版.
- 6) 田尻 孝 : [分担] 腹腔鏡下脾摘除術における術前脾動脈塞栓術. 消化器内視鏡のコツと落とし穴. 腹腔鏡下手術 (編集: 鈴木博昭), 1997 ; pp132-133, 中山書店.
- 7) 田尻 孝 : [分担] 内視鏡的静脈瘤結紮術 (EVL) における手技の工夫—密集結紮法. 消化器内視鏡のコツと落とし穴. 上部消化管2 (編集: 鈴木博昭), 1997 ; pp140-141, 中山書店.
- 8) 高崎秀明, 恩田昌彦 : [分担] 患者のQOLを考慮した「私の第一選択薬」腸管癒着症. 治療増刊号, 1998 ; 南山堂.
- 9) 樋口勝美, 恩田昌彦, 古川清憲 : [分担] 乳がんの診断と治療. 30の大学病院による乳がんの診断と治療, 1998 ; pp142-151, 真興交易医書出版部.
- 10) 徳永 昭, 恩田昌彦, 藤田逸郎, 白川 毅 : [分担] 生体反応の新しい視点—創傷治療. 臨床侵襲学, 1998 ; pp374-381, へるす出版.
- 11) 飯田信也, 恩田昌彦 : [分担] サザンプロット法. Surgery Frontier 第5巻増刊号, 1998 ; pp51-54, メディカルレビュー社.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演 :

- 1) Chu S, Matsumoto Y, Horiba K, Usuki J, Tsai Y, Ferrans V : Characterization of the antigenic markers

in lymphangiomyomatosis : Upregulation in lung of melanocyte lineage-specific antigen gp100. ATS international Conference, New Orleans, 1996. 5.

2) Horiba K, Fukuda Y, Ferrans V : Immunohistochemical study of Fas antigen and Bcl-2 protein in cells undergoing apoptosis during rat tracheal wound healing. ATS International Conference, 1996. 5.

(1) 特別講演 :

1) 田尻 孝 : 胆道・膵領域の内視鏡診断および治療の現況. 第13回埼玉県消化器内視鏡講習会主催日本消化器内視鏡学会関東支部会, 埼玉県消化器内視鏡技師会, 1997. 7.

(2) シンポジウム :

1) Tajiri T, Onda M, Arima Y, Uchida E, Higuchi K, Umehara M, Saitoh T, Matsuzaki S, Kojima T, Nakamura Y, Yamamoto K, Kaneko M, Yamashita K : Effectiveness of preoperative partial splenic embolization (PSE) for laparoscopic splenectomy. 37th World Congress of Surgery, International Surgical week ISW97, International Society of Surgery (ISS,SIC), Acapulco, Mexico, 1997. 8.

2) Kato S, Onda M, Matsuda N, Yoshida H, Umehara M, Matsukura N, Tokunaga A, Tajiri T, Yamashita K, Shields P : Genetic polymorphism of acetaldehyde dehydrogenase 2 (ALDH2) : Enzyme for liver cirrhosis and liver carcinogenesis. 89th American Association for Cancer Research Meeting, 1998. 3.

3) 長谷川博一, 恩田昌彦, 松倉則夫, 鈴木 聡²⁾, 星野有哉¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 島田 隆²⁾ (1) 第2外科, 2) 第2生化) : Adenovirus vectorを用いた経内視鏡的自殺遺伝子導入によるイヌ実験胃癌の遺伝子治療 (主題: 消化器癌における分子生物学的研究の進歩-内視鏡領域への応用-). 第64回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 6.

4) 田尻 孝, 恩田昌彦, 有馬保生, 樋口勝美, 梅原松臣, 吉田 寛, 斎藤忠生, 丸山 弘, 中村慶春, 山本一仁, 金子昌仁, 内田英二, 山下精彦 : 腹腔鏡下脾臓摘出術における術前脾動脈塞栓術の応用. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 7.

5) 高崎秀明, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 吉村和泰, 横山滋彦, 永嶋裕司 : 当科における絞扼性イレウス症例の検討. 第29回日本腹部救急医学会総会, 1997. 9.

6) 山本一仁, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 小川芳雄, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 広瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 山下精彦, 隈崎達夫¹⁾ (1) 放射線科) : 食道胃静脈瘤出血症例に対する止血手技と成績に関する検討. 第30回日本腹部救急医学会総会, 1998. 3.

(3) パネルディスカッション :

1) 柳 健, 恩田昌彦, 加藤俊二, 瀧田雅仁, 吉行俊郎, 宮下正夫, 松倉則夫, 徳永 昭, 笹島耕二, 田尻 孝, 山下精彦 : 高ガストリン血症をともなう上部消化管難治性多発潰瘍に対する各種抗潰瘍剤の減酸効果. 第83回日本消化器病学会, 1997. 4.

2) 宮下正夫, 恩田昌彦 : 食道再建術後の吻合部狭窄に対する内視鏡的拡張術とステロイド局注併用療法の効果. 第53回日本消化器内視鏡学会総会, 1997. 4.

3) 坂東功一, 恩田昌彦, 松本智司, 江見 充¹⁾ (1) 老人病研究所分子生物部門) : 6q・11qにおける染色体欠失と乳癌組織型との相関. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.

4) 吉田 寛, 田尻 孝 : 食道静脈瘤に対する内視鏡治療の適応と限界. (病態からみた食道・胃静脈瘤に対する内視鏡的治療の適応と限界). 第54回日本消化器内視鏡学会総会, 1997. 11.

5) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 小川芳雄, 梅原松臣, 真々田裕宏, 西久保秀紀, 谷合信彦, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 広瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 山下精彦 : 食道静脈瘤に対する手術療法の位置づけ. (食道静脈瘤に対する治療戦略の再考). 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.

6) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 小川芳雄, 梅原松臣, 真々田裕宏, 西久保秀紀, 谷合信彦, 松本

智司, 松崎 栄, 小嶋隆行, 山本一仁, 広瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 山下精彦 : 食道胃静脈瘤に対する治療法の選択. (胃・食道静脈瘤に対する治療法の選択とその遠隔成績). 第30回日本腹部救急医学会総会, 1998. 3.

(4) ワークショップ :

- 1) 徳永 昭, 恩田昌彦, 白川 毅, 藤田逸郎, 瀧田雅仁, 池田研吾, 平本義浩, 吉行俊郎, 木山輝郎, 松倉則夫 : 胃癌術後の免疫能低下に関する研究 : 腹腔滲出液サイトカイン (TGF- β , IL-6) の存在とNK細胞活性. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 2) 松倉則夫, 恩田昌彦, 星野有哉, 五十嵐健人, 長谷川博一, 徳永 昭, 鈴木 聡¹⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 第2生化) : イヌ実験胃癌を用いた *in situ in vivo* 自殺遺伝子治療 : Surgery と molecular surgery の併用療法の可能性. 第35回日本癌治療学会総会, 1997. 10.

(5) 指名講演 :

- 1) 山本一仁, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 広瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 山下精彦 : 食道静脈瘤に対するEVL密集結紮法による再発例の検討. 第4回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会総会, 1997. 9.

(6) 一般講演 :

- 1) Kato S, Onda M, Matsuda N, Umehara M, Matsukura N, Kim D, Tokunaga A, Tajiri T, Yamashita K, Shields P : Genetic polymorphisms of alcohol metabolic enzymes for liver cirrhosis and liver carcinogenesis. 88th, American Association for Cancer Research Meeting, 1997. 4.
- 2) Kato S, Onda M, Matsukura N, Matsuda N, Yoshiyuki T, Tokunaga A, Yamashita K : Helicobacter Pylori infection, Serum markers for gastric mucosal atrophy, and genetic polymorphisms of cancer related genes for stomach carcinogenesis. 2nd International Gastric Cancer Congress, 1997. 4.
- 3) Matsukura N, Onda M, Hoshino A, Igarashi T¹⁾, Hasegawa H, Tokunaga A, Takubo K²⁾, Suzuki S³⁾, Shimada T³⁾ (¹⁾ Second Department of Surgery, ²⁾ Department of Pathology, Tokyo Metropolitan Institute of Ger, ³⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology) : *In situ* gene therapy with endoscopy for experimental canine gastric cancer induced by ENNG. 88th Annual Meeting of American Association for Cancer Research (San Diego), 1997. 4.
- 4) Shirakawa T, Onda M, Tokunaga A, Fujita I, Hiramoto Y, Ikeda K, Takita M, Teramoto T, Oguri T, Kiyama T, Yoshiyuki T, Matsukura N : Immunosuppressive activity of cytokines in local exudate after gastric and breast cancer surgery. 2nd International Gastric Cancer Congress (Munich), 1997. 4.
- 5) Hiramoto Y, Onda M, Tokunaga A, Ikeda K, Takita M, Shirakawa T, Okuda T, Kiyama T, Yoshida H, Yoshiyuki T, Kato S, Matsukura N, Tajiri T, Naito Z¹⁾, Asano G¹⁾ (¹⁾ Dept of Pathology) : Endocrine cell carcinoma of the stomach : A report of three cases. Progress in Gastric Cancer Research, Munich, 1997. 4.
- 6) Yoshiyuki T, Onda M, Tokunaga A, Hiramoto Y, Ikeda K, Shirakawa T, Takita M, Teramoto T, Oguri T, Kiyama T, Kato S, Miyashita M, Matsukura N, Yamashita K : Preoperative chemotherapy for advanced gastric cancer : Immunohistochemical examination of pretreatment endoscopic biopsies. The 2nd International Gastric Cancer Congress, Munich, 1997. 4.
- 7) Matsukura N, Onda M, Okawa K, Kato S, Hasegawa H, Yoshiyuki T, Tokunaga A, Yamahatsu J, Yamada N¹⁾ (¹⁾ Second Department of Pathology) : Two step therapy for *H.pylori* eradication with lansoprazole amoxicillin and a mucosal protective agent : Ecabet sodium. 97th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Washington DC), 1997. 5.

- 8) Okawa K, Onda M, Matsukura N, Akiya Y, Shirakawa T, Kato S, Tokunaga A, Yamashita K : Detection of *H.pylori* infection by 13C-urea breath test : With special references to the one point measurement without pretreated breath samples. American Gastroenterological Association (Washington D.C.), 1997. 5.
- 9) Caughey G, Suzuki H, Gao X, Rubinstein I : A role for mast cell chymase in LPS-induced vasomotor dysfunction in hamster skeletal muscle. American Lung Association/American Thoracic Society International Conference (San Francisco), 1997. 5.
- 10) Sejourne F, Suzuki H, Gao X, Rubinstein I : Mechanisms of vasodilation elicited in vivo by vasoactive intestinal peptide in sterically stabilized liposomes. American Lung Association/American Thoracic Society International Conference (San Francisco), 1997. 5.
- 11) Ikezaki H, Suzuki H, Patel M, Alkan-Onyuksel H, Gao X, Rubinstein I : Calmodulin potentiates vasorelaxation elicited by vasoactive intestinal peptide in sterically stabilized liposomes in vivo. American Lung Association/American Thoracic Society International Conference (San Francisco), 1997. 5.
- 12) Yoshida H, Onda M, Tajiri T, Toba M, Umehara M, Mamada Y, Nishikubo H, Taniai N, Matsumoto S, Matsuzaki S, Yamamoto K, Hirose Y, Kaneko M, Miyashita M, Yamashita K : A Comparison of the long term results between distal splenorenal shunt and esophageal transection for the treatment of esophageal varices. 4th Congress of the Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (Tokyo), 1997. 6.
- 13) Kato S, Onda M, Matsuda N, Matsukura N, Yoshida H, Umehara M, Tokunaga A, Tajiri T, Yamashita K : Genetic polymorphisms of chemical and alcohol metabolic enzymes in the patients with liver cirrhosis and hepatocellular carcinoma. 4th Congress of the Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 1997. 6.
- 14) Uchida E, Onda M, Nakamura Y, Tajiri T, Yamamura S, Inoue M, Aimoto T, Maruyama H, Umehara M, Yamashita K : Degree of fibrosis in pancreatic stump and postoperative remnant pancreatic exocrine activity in insufficiency of pancreaticointestinal anastomosis. Forth Congress of the Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (Tokyo), 1997. 6.
- 15) Iida S, Onda M, Tokunaga A, Takita M, Shirakawa T, Ikeda K, Hiramoto Y, Matsukura N, Katayama H¹⁾, Asano G²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部, ²⁾ 第2病理) : Expression of basic fibroblast growth factor and fibroblast growth factor receptor in healing of human duodenal ulcer. The Wound Healing Society 7th Annual Meeting ,Nashville, 1997. 6.
- 16) Hiramoto Y, Onda M, Tokunaga A, Ikeda K, Takita M, Shirakawa T, Yoshiyuki T, Matsukura N : Experimental studies on esophagojejunal anastomosis with plus cecar after total gastrectomy in swine. The Wond Healing Society Seventh Annual Meeting ,Nashville, Tennessee, 1997. 6.
- 17) Yokoyama S, Onda M, Yamashita K, Tanaka N, Tajiri T, Arima Y, Uchida E, Higuchi K : Biliary duodenal shunt with percutaneous endoscopic gastrostomy for nonresectable malignant biliary obstruction. The Society for Minimally Invasive Therapy 9th Annual International Meeting, 1997. 7.
- 18) Kato S, Onda M, Matsukura N, Matsuda N, Yoshiyuki T, Tokunaga A, Tajiri T, Yamashita K : CLINICAL STUDY FOR THE PREDICTION OF LIVER DYSFUNCTION AFTER SURGERY : THE INFLUENCES OF THE SURGICAL STRESS AND INTER-INDIVIDUAL VARIATIONS OF THE METABLIC ENZYME ACTIVITY. 37回, International Surgical Week, 1997. 8.
- 19) Matsukura N, Onda M, Hoshino A¹⁾, Igarashi T¹⁾, Hasegawa H, Tokunaga A, Suzuki S²⁾, Shimada T²⁾ (¹⁾ Second Department of Surgery, ²⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology) : *In situ* gene

- therapy for canine gastric cancer. 37th World Congress of Surgery (Mexico), 1997. 8.
- 20) Tokunaga A, Onda M, Shirakawa T, Fujita I, Hiramoto Y, Ikeda K, Takita M, Teramoto T, Oguri T, Kiyama T, Yoshiyuki T, Matsukura N : PERITONEAL FLUID AFTER GASTRIC CANCER SURGERY HAS IMMUNOSUPPRESSIVE ACTIVITY. 37th World Congress of Surgery, 1997. 8.
 - 21) Kaneko M, Onda M, Tajiri T, Umehara M, Saito T, Yoshida H, Matsumoto S, Matsuzaki S, Kojima T, Yamamoto K, Yoshioka M, Yamashita K, Kumazaki T¹⁾ (¹⁾放射線科) : Arteriovenous fistula of splenic artery and vein with gastric cancer. 7th World Congress of Surgery, International surgical week ISW97, International Society of Surgery (ISS,SIC), Acapulco, Mexico, 1997. 8.
 - 22) Ikeda K, Onda M, Tokunaga A, Hiramoto Y, Takita M, Shirakawa T, Yoshiyuki T, Matsukura N : Experimental studies on Esophagojejunal Anastomosis with PLUS CEEA after Total gastrectomy. 37th International Surgical Week, 1997. 8.
 - 23) Takahashi Y, Onda M, Tanaka N, Seya T, Kanazawa Y, Furukawa K, Higuchi K, Takasaki H, Yoshimura K, Yamada T, Sugiura A : Establishment and characterization of human primary and metastatic neuroendocrine cell carcinoma cell lines. 6th United European Gastroenterology Week, 1997. 10.
 - 24) Witte M, Thornton F, Kiyama T, Tantry U, Barbul A : Nitric oxide enhances wound collagen deposition in diabetic rats. 52nd Annual Meeting of The American College Surgeons, Chicago, IL, 1997. 10.
 - 25) Seya T, Tanaka N, Onda M, Furukawa K, Higuchi K, Yoshimura K, Kanazawa Y, Yamada T, Sugiura A, Takahashi Y, Naitoh Z¹⁾, Asano G¹⁾ (¹⁾ Dept. of Pathol) : EXPRESSION OF HEPATOCYTE GROWTH FACTOR (HGF) AND ITS RECEPTOR, C-MET PROTOONCOGENE PRODUCT (PP) ,IN HUMAN COLORECTAL CANCER AND ITS LIVER METASTASIS. 6th United European Gastroenterology Week, 1997. 10.
 - 26) Uchida E, Onda N, Nakamura Y, Tajiri T, Yamamura S, Inoue M, Aimoto T, Yokoyama T, Kobayahi T, Yamanaka Y, Egami K, Umehara M, Yamashita K, Naito Z, Sugizaki Y, Asano G : Postoperative remnant exocrine pancreatic activity (REPA) and grade of fibrosis in pancreatic stump in insufficiency of pancreaticointestinal anastomosis. Annual Meeting of American Pancreatic Association (Chicago, USA), 1997. 11.
 - 27) Aimoto T, Onda M, Uchida E, Yamamura S, Nakamura Y, Inoue M, Yokoyama T, Kobayashi T, Yamanaka Y, Aida Y, Tajiri T, Naito Z, Sugizaki Y, Asano G : A study of tumor angiogenesis in human pancreatic carcinoma. Annual Meeting of American Pancreatic Association (Chicago, USA), 1997. 11.
 - 28) Yamamura S, Onda M, Uchida E, Inoue M, Yokoyama T, Nakamura Y, Aimoto T, Kobayashi T, Yamanaka Y, Tajiri T, Egami K, Yamashita K, Naito Z, Asano G : Anti-tumor effect of TNP-470 in hamster pancreatic cancer. Annual Meeting of American Pancreatic Association (Chicago, USA), 1997. 11.
 - 29) Nakamura Y, Onda M, Uchida E, Yamamura S, Inoue M, Aimoto T, Kobayashi T, Yoshida H, Umehara M, Arima Y, Tajiri T, Egami K, Yamashita K, Yamaguchi T, Yun S : Detection of K-ras mutations in duodenal lavage fluid in patients with pancreatic cancer. Annual Meeting of American Pancreatic Association (Chicago, USA), 1997. 11.
 - 30) Matsutani T, Onda M, Sasajima K, Miyashita M, Hagiwara N, Tsuchiya Y, Maruyama H, Akiya Y, Yamashita K, Takubo K : Barretts epithelium in the resected esophagus for esophageal carcinoma. Alimentary Diseasea Week, Hong Kong, 1997. 11.
 - 31) Kanazawa Y, Onda M, Tanaka N, Seya T, Furukawa K, Yokoi K, Takasaki H, Yoshimura K, Yamada T, Takahashi Y, Takizawa T : Proliferating cell nuclear antigen (PCNA) and p53 protein expression in

- early colorectal carcino. *Alimentary Disease Week, Hong Kong, 1997.* 12.
- 32) Hagiwara N, Onda M, Sasajima K, Miyashita M, Nomura T, Makino H, Matsutani T, Tsuchiya Y, Yamashita K, Takubo K¹⁾ (¹⁾ Department of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Institute) : Mucoepidermoid carcinoma of the esophagus : Seven cases report. 4th International Conference of Gastroenterology, Hong Kong, 1997. 12.
- 33) Sasajima K, Onda M, Miyashita M, Matsutani T, Nomura T, Makino K, Maruyama H, Hagiwara N, Tsuchiya Y, Yamashita K, Takubo K¹⁾ (¹⁾ Department of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Institute) : Changes in serum cytokine profile during treatment of ulcerative colitis. 4th International Conference of Gastroenterology, Hong Kong, 1997. 12.
- 34) Tsuchiya Y, Onda M, Miyashita M, Sasajima K, Matsutani T, Hagiwara N, Makino H, Nomura T, Takubo K¹⁾, Yamashita K (¹⁾ Department of Clinical Pathology, Tokyo Metropolitan Institute) : A CASE OF BASALOID-SQUAMOUS CARCINOMA OF THE ESOPHAGUS SUCCESSFULLY TREATED WITH PREOPERATIVE ADJUVANT CHEMOTHERAPY AND SURGERY. 4th International Conference of Gastroenterology, 1997. 12.
- 35) Horiba K, Tamura K, Fukuda Y, Usuki J, Stetler Stevenson W, Liotta L, Ferrans V : Expression of matrix metalloproteinases and their tissue inhibitors in floppy mitral valves. AHA Scientific Session, New Orleans, 1997.
- 36) Horiba K, Fukuda Y, Stetler Stevenson W, Liotta L, Ferrans V : Matrix metalloproteinases and tissue inhibitor of metalloproteinases during rat tracheal wound healing. USCA Annual Meeting, Washington DC, 1997.
- 37) Usuki J, Horiba K, Chu S, Matsumoto Y, Moss J, Ferrans V : Bcl-2 immunoreactivity in pulmonary lymphoangioliomyomatosis and its association with estrogen receptor positivity. ATS International conference, San Francisco, 1997.
- 38) Chu S, Horiba K, Usuki J, Avia N, Chen C, Travis W, Ferrans V : Comprehensive evaluation of 25 patients with lymphangioliomyomatosis. ATS International Conference, 1997.
- 39) Balducci E, Horiba K, Usuki J, Ferrans V, Moss J : Expression of a glycosylphosphatidylinositol-linked ADP-ribosyl transferase in human lung ciliated and intermediate epithelial cells. ATS International Conference, 1997.
- 40) Horiba K, Luna R, Usuki J, Paako P, Kaplan M, Liotta L, Stetler Stevenson W, Travis W, Ferrans V : Immunohistochemical study of matrix metalloproteinases and their tissue inhibitors in emphysema. ATS International Conference, 1997.
- 41) Kiyama T, Witte M, Thornton F, Barbul A : The route of nutritional support affects the early phase of wound healing. 22nd Clinical Congress of American Society for Parenteral and Enteral Nutrition, Orlando, FL, 1998. 1.
- 42) Matsukura N, Onda M, Hoshino A¹⁾, Igarashi T¹⁾, Hasegawa H²⁾, Suzuki S²⁾, Shimada T²⁾ (¹⁾ 2nd Department of Surgery, ²⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology) : Suicide Gene Therapy for Gastric Cancer in Dogs Induced by N-ethyl-N'-nitro-N-nitrosoguanidine. 4th AACA/JCA Joint Meeting Japanese Organizing Committee Innovative Approaches to the Prevention, Diagnosis and Therapy of Cancer (Maui), 1998. 2.
- 43) Matsukura N, Onda M, Tokunaga A, Kato S, Okawa K, Akiya Y, Shirakawa T, Ikeda K, Min W¹⁾, Yamada N¹⁾ (¹⁾ 2nd Department of Pathology) : Helicobacter pylori and chronic active gastritis in the

- remnant stomach : Possible role of H.pylori infection in gastric remnant cancer. Annual Meeting of American Association for Cancer Research (New Orleans), 1998. 3.
- 44) Miyashita M, Onda M, Matsutani T, Tsuchiya Y, Hagiwara N, Okawa K, Nomura T, Makino H, Sasajima K, Yamashita K : Serum level of cytokeratin 19 fragment indicates tumor stage and prognosis of squamous cell carcinoma of the esophagus. 89th Annual Meeting of the American Association for Cancer Research (New Orleans, U.S.A.), 1998.
- 45) Tokunaga A, Onda M, Yoshiyuki T, Ikeda K, Hiramoto Y, Shirakawa T, Takita M, Kato S, Kiyama T, Miyashita M, Yamashita K : OUT-OF-HOSPITAL SURVIVAL IN TREATMENT OF PATIENTS WITH RECURRENT GASTRIC CANCER AFTER CURATIVE RESECTION. 2nd International Gastric Cancer Congress, 1997. 4.
- 46) Tokunaga A, Onda M, Shirakawa T, Ikeda K, Hiramoto Y, Takita M, Fujita I, Kiyama T, Matsukura N : Th1 or Th2 : Does surgery after lymphocyte responses and cytokines?. The Wound Healing Society Seventh Annual Meeting, 1997. 6.
- 47) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 井上松応, 丸山 弘, 相本隆幸, 横山滋彦, 吉田 寛, 梅原松臣, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦 : 膵癌診断における膵液および十二指腸洗浄液中のK-ras癌遺伝子Codon-12点突然変異の解析. 第28回日本膵臓学会総会, 1997. 4.
- 48) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 松倉則夫, 田尻 孝, 山下精彦 : 術後の高度肝障害発生における宿主側の要因と発症の予測 : グルタチオン還元酵素 (glutathione S transferase M1およびT1) の遺伝子欠損と危険度評価. 第98回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 49) 加藤俊二, 恩田昌彦, 柳 健, 瀧田雅仁, 吉行俊郎, 宮下正夫, 松倉則夫, 徳永 昭, 笹島耕二, 田尻 孝, 山下精彦 : 高ガストリン血症をともなう上部消化管難治性多発潰瘍に対する各種抗潰瘍剤の減酸効果. 第83回日本消化器病学会, 1997. 4.
- 50) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 樋口勝美, 松倉則夫, 古川清憲, 田尻 孝, 山下精彦 : グルタチオン還元酵素 (glutathione S transferase M1) 遺伝子の欠損と術後肝機能障害の発生. 第33回日本肝臓学会, 1997. 4.
- 51) 広瀬洋一郎, 恩田昌彦, 田尻 孝, 有馬保生, 梅原松臣, 吉田 寛, 山本一仁, 金子昌裕, 寺田淑恵, 山下精彦 : 上腹部痛にて発症し, 急速に増大した孤立性肝嚢胞の1例. 第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
- 52) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 山中洋一郎, 会田邦晴, 笹島耕二, 田尻 孝, 江上 格, 山下精彦, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (第2病理) : ハムスター膵癌株 (PGHAM-1) の転移ならびに浸潤能の検討 : 移植方法の違いによる比較. 第23回日本膵臓学会大会, 1997. 4.
- 53) 相本隆幸, 内田英二, 恩田昌彦, 山村 進, 中村慶春, 平本義浩, 吉田 寛, 梅原松臣, 有馬保生, 松倉則夫, 田尻 孝, 山下精彦, 内藤善哉, 浅野伍朗, 山初順一 : 慢性膵炎に起因した膵仮性動脈瘤の1治験例. 第23回日本膵臓学会大会, 1997. 4.
- 54) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 井上松応, 丸山 弘, 相本隆幸, 横山滋彦, 吉田 寛, 梅原松臣, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦 : 膵癌診断における十二指腸洗浄液中のK-ras癌遺伝子codon12点突然変異の解析. 第23回日本膵臓学会大会, 1997. 4.
- 55) 有馬保生, 恩田昌彦, 田尻 孝, 金 徳栄, 内田英二, 中村慶春 : 悪性胆道閉塞に対する減黄術の検討. 第33回日本胆道学会総会, 1997. 4.
- 56) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 井上松応, 丸山 弘, 相本隆幸, 梅原松臣, 田尻 孝, 山下精彦, 田島廣之, 隈崎達夫 : 急性膵炎重症度のスコア化と持続動注療法. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 57) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 山中洋一郎, 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格, 山下精彦, 内藤善哉, 浅野伍朗 : ハムスター膵癌株 (PGHAM-1) の同種膵内移植モ

- デルにおける肝転移機序の解明. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 58) 松倉則夫, 恩田昌彦, 星野有哉¹⁾, 長谷川博一, 五十嵐健人^{1,2)}, 田中茂夫¹⁾, 飯島 修⁴⁾, 秋山勝彦⁴⁾, 後藤武, 鈴木 聡²⁾, 田久保海誉³⁾, 島田 隆²⁾ (¹⁾ 第2外科, ²⁾ 第2生化, ³⁾ 都老人研病理, ⁴⁾ 久光筑波研): イヌ実験胃癌の遺伝子治療: Adenovirus vectorによる経内視鏡的*in situ*自殺遺伝子導入. 第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
- 59) 大川敬一, 恩田昌彦, 松倉則夫, 秋谷行宏, 白川 毅, 加藤俊二, 徳永 昭, 山下精彦, 小林真紀¹⁾ (¹⁾ セティカンパニーリミテッド): *H.pylori* 感染診断における13C-呼气試験 (13C-UBT) 852例の評価と15分値1点測定法の有用性. 第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
- 60) 徳永 昭, 恩田昌彦, 白川 毅, 瀧田雅仁, 藤田逸郎, 寺本 忠, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦 (¹⁾ 千葉北総病院外科): 手術後免疫抑制に関する研究: 腹腔滲出液サイトカイン (TGF- β , IL-6) の存在とNK細胞活性. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 61) 徳永 昭, 恩田昌彦, 小栗 剛, 白川 毅, 瀧田雅仁, 池田研吾, 平本義浩, 藤田逸郎, 寺本 忠, 奥田武志, 水谷 崇, 吉行俊郎, 松倉則夫, 浅野伍朗¹⁾, 的場康徳²⁾ (¹⁾ 第2病理, ²⁾ 第二病院消化器病センター): 消化管粘膜損傷修復におけるTGF- α , EGF receptor, trefoil peptides (pS2) およびb-FGFの発現. 第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
- 62) 白川 毅, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 平本義浩, 藤田逸郎, 瀧田雅仁, 寺本 忠, 小栗 剛, 木山輝郎, 松倉則夫: 手術後免疫抑制に関する研究: 腹腔浸出液および創液中のサイトカインの影響. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 63) 有馬保生, 恩田昌彦, 田尻 孝, 伊藤誠二, 小川芳雄, 梅原松臣, 吉田 寛, 相本隆幸, 横山滋彦, 丸山 弘, 中村慶春: 手術不能胆道悪性狭窄症例に対するExpandable Metallic Stent (EMS) の功罪. 第33回日本胆道学会総会, 1997. 4.
- 64) 鈴木英之, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 樋口勝美, 斎藤忠生, 丸山 弘, 秋谷行宏, 芦菰正行, 前澤勝美, 山下精彦: エンドトキシンの微小血管収縮, 拡張作用とその機序. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 65) 山本一仁, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 谷谷信彦, 西久保秀紀, 小嶋隆行, 松崎 栄, 広瀬洋一郎, 金子昌裕, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 放射線科): 食道静脈瘤に対するESL (Endoscopic Scroero Ligation) 治療後の再発因子について. 第53回日本消化器内視鏡学会総会, 1997. 4.
- 66) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 白川 毅, 瀧田雅仁, 平本義浩, 飯田信也, 水谷 崇, 吉行俊郎, 吉村和泰, 高崎秀明, 松倉則夫, 田尻 孝, 田中宣威: 同時性肝転移を有する胃癌におけるリンパ節転移の検討—大腸癌との対比. 第26回癌とリンパ節研究会, 1997. 4.
- 67) 瀬谷知子, 恩田昌彦, 田中宣威, 金沢義一, 古川清憲, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 丸山 弘, 山田岳史, 高橋由至, 杉浦 篤, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 第2病理): 大腸癌原発巣および肝転移巣におけるTGF α , EGF, EGFRおよびVEGFの発現. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 68) 田中宣威, 恩田昌彦, 瀬谷知子, 金沢義一, 古川清憲, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 丸山 弘, 山田岳史, 内藤善哉, 浅野伍朗: ノードマウス可移植性ヒト直腸Neuroendocrine cell carcinoma (NECC) 株の樹立と各種薬剤の抗腫瘍効果. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 69) 瀬谷知子, 恩田昌彦, 田中宣威, 金沢義一, 古川清憲, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 丸山 弘, 山田岳史, 高橋由至, 杉浦 篤, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 第2病理): 腸癌原発巣および肝転移巣におけるTGF α , EGF, EGFRおよびVEGFの発現. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 70) 土屋喜一, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 松谷 毅, 大川敬一, 萩原信敏, 山下精彦¹⁾, 田久保海誉²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 東京都老人総合研究所臨床病理): 食道癌占拠部位, 深達度と頸部リンパ節転移. がんとリンパ節研究会, 1997. 4.

- 71) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 残胃癌の診断における術後定期的内視鏡検査の意義. 第53回日本消化器内視鏡学会総会, 1997. 4.
- 72) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 木山輝郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 田中茂夫¹⁾, 山下精彦²⁾ (1) 第2外科, ²⁾ 千葉北総病院外科): 重症心疾患を有する胃癌患者の術前心機能評価の検討. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 73) 長戸孝道¹⁾, 古明知弘和¹⁾, 長野具雄¹⁾, 大須賀勝¹⁾, 関山達也¹⁾, 勝田悌実¹⁾, 里村克章¹⁾, 荒牧琢己¹⁾, 田尻孝 (1) 第1内科): BRTO, PTO後に淡蒼球のT1強調画像高信号域の消失を認めた肝性脳症の1例. 第244回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 5.
- 74) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 松倉則夫, 田尻 孝, 山下精彦: 術後肝障害発生におよぼすC型肝炎抗体陽性や手術侵襲, 術式の影響. 第22回日本外科系連合学会, 1997. 6.
- 75) 松倉則夫, 恩田昌彦, 徳永 昭, 加藤俊二, 長谷川博一, 吉行俊郎, 内藤善哉¹⁾, 京野昭二²⁾, 山下精彦²⁾, 山初順一³⁾ (1) 第2病理, ²⁾ 千葉北総病院外科, ³⁾ 泉中央病院): Epstein-Barr virusと*Helicobacter pylori*に感染した胃粘膜に発生した胃癌の1例. 第22回日本外科系連合学会学術集会, 1997. 6.
- 76) 徳永 昭, 恩田昌彦, 吉行俊郎, 池田研吾, 平本義浩, 白川 毅, 瀧田雅仁, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 西 恵吾¹⁾ (1) エヌシー会西クリニック): 胃癌再発後の治療法の選択一再発確認からターミナル・ケアまでの期間. 第22回日本外科系連合学会学術集会, 1997. 6.
- 77) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 白川 毅, 寺本 忠, 瀧田雅仁, 平本義浩, 小栗 剛, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫: 肝転移巣に対し免疫化学療法 (レンチナン+5⁻DFUR) が奏功した胃癌肝転移の1例. 第6回日本癌病態治療研究会, 1997. 6.
- 78) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 寺本 忠, 瀧田雅仁, 白川 毅, 平本義浩, 小栗 剛, 藤田逸郎, 木山輝郎, 吉行俊郎, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 第2病理): 胃癌手術における術中腹腔細胞診の意義. 第69回胃癌研究会, 1997. 6.
- 79) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 木山輝郎, 松倉則夫, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 第2病理): 胃癌副腎転移と診断し術前化学療法施行した1例. 第22回日本外科系連合学会, 1997. 6.
- 80) 野村 務, 沖野哲也, 牧野浩司, 石川紀行, 小川芳雄, 横井公良, 京野昭二, 森山雄吉, 山下精彦, 宮下正夫, 伊藤誠二, 笹島耕二, 恩田昌彦, 田久保海誉¹⁾ (1) 東京都老人総合研究所 臨床病理部門): Iuに発生したBarrett食道潰瘍の1例. 第51回食道疾患研究会, 1997. 6.
- 81) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 長谷川博一, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 重症心疾患を合併する胃癌患者の心機能評価. 外科系連合学会, 1997. 6.
- 82) 樋口勝美, 恩田昌彦, 古川清憲, 田中宣威, 有馬保生, 美濃部かおり: 乳房温存療法後の合併症. 第5回日本乳癌学会, 1997. 7.
- 83) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 梅原松臣, 真々田裕宏, 西久保秀紀, 谷合信彦, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎栄, 山本一仁, 広瀬洋一郎, 金子昌裕, 山下精彦: 脾静脈血の肝癌発生に及ぼす影響. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 7.
- 84) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 平本義浩, 白川 毅, 瀧田雅仁, 吉行俊郎: 胃癌切除後の在院死症例の現況と反省からみた治療法選択基準作成の試み. 第50回日本消化器外科学会, 1997. 7.
- 85) 高橋由至, 恩田昌彦, 田中宣威, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 金沢義一, 古川清憲, 樋口勝美, 山田岳史, 杉浦 篤: 大腸neuroendocrine cell carcinoma細胞株の樹立と生物学的特性に関する検討. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 7.

- 86) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 相本隆幸, 井上松応, 山村 進, 丸山 弘, 横山滋彦, 吉田 寛, 梅原松臣, 有馬保生, 田尻 孝, 江上 格, 山下精彦, 内藤善哉: 臍腸吻合縫合不全における残臍活性と臍断端線維化およびoctreotide投与効果. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 7.
- 87) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 山中洋一郎, 会田邦晴, 笹島耕二, 田尻 孝, 江上 格, 山下精彦, 内藤善哉, 浅野伍朗: 第VIII因子染色からみた血管新生阻害物質TNP-470の臍癌における肝転移抑制の実験的検討. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 7.
- 88) 相本隆幸, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 中村慶春, 井上松応, 横山 正, 小林 匡, 山中洋一郎, 会田邦晴, 田尻 孝, 江上 格, 山下精彦, 内藤善哉, 杉崎祐一, 浅野伍朗: ヒト臍癌の腫瘍血管新生に関する検討—第VIII因子関連抗原およびVEGFの免疫組織化学的解析から—. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 7.
- 89) 松倉則夫, 恩田昌彦, 加藤俊二, 長谷川博一, 吉行俊郎, 松田範子, 徳永 昭, 山下精彦¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科): 消化性潰瘍と胃癌との関連: *H.pylori*感染, 胃粘膜萎縮, 宿主因子の検討から. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 7.
- 90) 美濃部かおり, 飯田有俊¹⁾, 江見 充¹⁾, 中村祐輔²⁾, 樋口勝美, 古川清憲, 恩田昌彦, 坂本吾偉³⁾, 霞富士雄⁴⁾ (¹⁾ 日本医大老研分子生物, ²⁾ 東大医研, ³⁾ 癌研病理, ⁴⁾ 癌研乳腺外科): 乳癌における第9番染色体欠失領域の検索. 第5回日本乳癌学会総会, 1997. 7.
- 91) 徳永 昭, 恩田昌彦, 吉行俊郎, 池田研吾, 平本義浩, 白川 毅, 瀧田雅仁, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾, 西 恵吾²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ エヌシー会西クリニック): 再発胃癌に対する治療法の選択とQOL—再発確認からターミナル・ケアまでの期間. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 7.
- 92) 梅原松臣, 恩田昌彦, 田尻 孝, 吉田 寛, 松本智司, 丸山 弘, 山本一仁, 広瀬洋一郎, 金子昌裕, 山下精彦: 肝細胞癌切除後の胸・腹水発生因子の検討. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 7.
- 93) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 広瀬洋一郎, 山本一仁, 丸山 弘, 相本隆幸, 吉田 寛, 梅原松臣, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦, 市川太郎¹⁾, 田島廣之¹⁾, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 放射線科): 予後点数による急性臍炎の早期重症度判定と持続動注療法. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 7.
- 94) 高橋修司¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 田島廣之¹⁾, 川俣博志¹⁾, 後藤慎介¹⁾, 岡島雄史¹⁾, 山本一仁, 金子昌裕, 田尻 孝, 荒牧琢己²⁾ (¹⁾ 放射線科, ²⁾ 第1内科): 臍動静脈奇形の2例. 第9回関東IVR研究会, 1997. 7.
- 95) 吉村和泰, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 樋口勝美, 高崎秀明, 瀬谷知子, 横山滋彦, 菅 隼人, 丸山 弘, 秋谷行宏, 山田岳史, 高橋由至, 杉浦 篤: 家族性大腸ポリポシス手術後に発生したアスモイド腫瘍についての考察. 第50回消化器外科学会総会, 1997. 7.
- 96) 山下直行, 恩田昌彦, 田中宣威, 尾田 恭¹⁾, 羽尾邦彦²⁾, 江角浩安¹⁾ (¹⁾ 国立がんセンター研究所支所がん治療開発部, ²⁾ 国立横須賀病院外科): 大腸aberrant crypt foci (ACF) におけるTGFb-Receptor IIの変異の検出. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 7.
- 97) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 瀧田雅仁, 白川 毅, 小栗 剛, 寺本 忠, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦: 胃癌術前化学療法におけるダウンステージ症例の検討—術前内視鏡生検材料の免疫染色との関連. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 7.
- 98) 瀬谷知子, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 金沢義一, 山田岳史, 高橋由至, 杉浦 篤, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 第2病理): 大腸癌原発巣および肝転移巣におけるTGF α , EGFおよびEGFRの発現. 第47回大腸癌研究会, 1997. 7.
- 99) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科): 心疾患合併胃癌患者の術前心機能評価. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 7.

- 100) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 真々田裕宏, 西久保秀紀, 谷合信彦, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 広瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 山下精彦: 胃静脈瘤に対する予防的治療の是非. 第4回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会, 1997. 9.
- 101) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 梅原松臣, 真々田裕宏, 西久保秀紀, 谷合信彦, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 広瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 田島廣之, 隈崎達夫: 当科における原発性肝癌破裂例の治療成績の検討. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 102) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 松田範子, 徳永 昭, 山下精彦: 胃癌の多段階発生過程における胃粘膜萎縮とチトクロームp450 (CYP) 1A1, CYP2E1遺伝子多型性の関連. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 103) 松田範子, 恩田昌彦, 加藤俊二, 吉田 寛, 梅原松臣, 松倉則夫, 徳永 昭, 田尻 孝, 山下精彦: アルコール代謝に関与するalcohol dehydrogenase 2 (ADH2), aldehyde dehydrogenase 2 (ALDH2) およびcytochrome p450 (CYP) 2E1遺伝子の個体差と肝硬変, 肝癌の発生. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 104) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 相本隆幸, 井上松応, 山村 進, 小林 匡, 丸山 弘, 梅原松臣, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝, 江上 格, 山下精彦, 内藤善哉, 浅野伍朗: 豚腸吻合縫合不全と残存膵機能—octreotideの投与効果—. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 105) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 広瀬洋一郎, 山本一仁, 丸山 弘, 相本隆幸, 吉田 寛, 梅原松臣, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦, 市川太郎, 田島廣之, 隈崎達夫: 急性肺炎重症度の早期判定と持続動注療法. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 106) 美濃部かおり, 飯田有俊¹⁾, 江見 充¹⁾, 樋口勝美, 古川清憲, 恩田昌彦⁽¹⁾ 老研, 分子生物): 乳癌における第9番染色体ヘテロ接合性の消失 (LOH) の解析. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 107) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 山中洋一郎, 会田邦晴, 笹島耕二, 田尻 孝, 江上 格, 山下精彦, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (第2病理): TNP-470のハムスター実験膵癌における抗腫瘍効果の検討. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 108) 横山滋彦, 恩田昌彦, 山下精彦, 田中宣威, 田尻 孝, 有馬保生, 内田英二, 樋口勝美, 小川芳雄, 梅原松臣, 斎藤忠生, 吉田 寛, 松本智司, 丸山 弘, 中村慶春: 悪性胆道閉塞に対する胆管経胃瘻十二指腸シャントの有用性. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 109) 相本隆幸, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 中村慶春, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 杉崎祐一²⁾ (第2病理, ²⁾ 病理部): ヒト膵癌におけるVEGFの発現と腫瘍内微小血管数の検討. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 110) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 白川 毅, 瀧田雅仁, 飯田信也, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 松倉則夫: 消化管の創傷治療: プタ食道空腸器械吻合創の治療過程をモデルとした実験. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 111) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 白川 毅, 瀧田雅仁, 奥田武志, 飯田信也, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 松倉則夫: プタ食道空腸器械吻合創の治療過程に発現する増殖因子と受容体. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 112) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 井上松応, 山村 進, 相本隆幸, 丸山 弘, 田尻 孝, 山下精彦, 山口敏和, 暉 晧青: 膵液および十二指腸洗浄液中のK-ras癌遺伝子突然変異. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 113) 山口敏和, 暉 晧青, 中村慶春, 内田英二: Enriched-PCR/ELMA法を用いたK-ras遺伝子変異解析による膵臓癌の診断. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 114) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 中村慶春, 井上松応, 相本隆幸, 小林 匡, 山中洋一郎, 田尻 孝, 山下精彦, 内藤善哉, 浅野伍朗: ハムスター実験膵癌におけるTNP-470の抗腫瘍効果の検討. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.

- 115) 相本隆幸, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 広瀬洋一郎, 井上松応, 丸山 弘, 相本隆幸, 梅原松臣, 有馬保生, 田尻 孝: ヒト臍癌における腫瘍血管新生の免疫組織化学的検討. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 116) 松倉則夫, 恩田昌彦, 徳永 昭, 長谷川博一, 吉行俊郎, 加藤俊二, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦: 十二指腸潰瘍穿孔に対する大網充填術後の*H.pylori*除菌治療. 第6回潰瘍病態研究会フォーラム, 1997. 9.
- 117) 松倉則夫, 恩田昌彦, Tomtitchong P, 加藤俊二, 長谷川博一, 吉行俊郎, 徳永 昭, 山下精彦: 残胃における*Helicobacter pylori*感染: 特に残胃癌発生部位の吻合法による差との関係について. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 118) 山下直行, 恩田昌彦, 田中宣威, 尾田 恭¹⁾, 落合淳志²⁾, 羽尾邦彦³⁾, 江角浩安¹⁾ (¹⁾ 国立がんセンター研究所支所がん治療開発部, ²⁾ 同病理部, ³⁾ 国立横須賀病院外科): 大腸aberrant crypt foci (ACF) におけるTGF-Receptor IIの変異. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 119) 杉浦 篤, 恩田昌彦, 田中宣威, 瀬谷知子, 金沢義一, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 山田岳史, 高橋由至, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 第2病理): 大腸癌におけるdThdPaseの発現. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 120) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 白川 毅, 瀧田雅仁, 平本義浩, 飯田信也, 水谷 崇, 吉行俊郎, 吉村和泰, 高崎秀明, 松倉則夫, 田尻 孝, 田中宣威: 胃癌または大腸癌肝転移におけるリンパ節転移の関与. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 121) 田中宣威, 恩田昌彦, 瀬谷知子, 古川清憲, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 山田岳史, 高橋由至, 内藤善哉, 浅野伍朗: 大腸癌原発巣および肝転移巣におけるVEGF, dThdPaseの発現. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 122) 瀬谷知子, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 金沢義一, 山田岳史, 杉浦 篤, 高橋由至, 内藤善哉, 浅野伍朗: 大腸癌原発巣および肝転移巣におけるHGFと増殖因子の発現. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 123) 山田岳史, 恩田昌彦, 田中宣威, 瀬谷知子, 金沢義一, 古川清憲, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 高橋由至, 杉浦 篤, 高藤英正: 大腸Neuroendocrine cell carcinoma (NECC) 細胞株の増殖に対するガストリン, ソマトスタチン, 5-Fuの影響. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 124) 石塚朋樹, 佐々木博己¹⁾, 根津雅彦¹⁾, 武藤 学¹⁾, 恩田昌彦, 杉村 隆¹⁾, 寺田雅昭¹⁾ (¹⁾ 国立がんセンター研究所分子腫瘍): 食道がんで増幅する新たな遺伝子 (AC1) の単離. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 125) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 木山輝郎, 吉田 寛, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 第2病理): 胃内分泌細胞癌の3例. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 126) 土屋喜一, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 松谷 毅, 萩原信敏, 山下精彦¹⁾, 田久保海誉²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 都老人研・臨床病理): 食道癌術前化学療法と転移陽性リンパ節個数の検討. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 127) 石塚朋樹, 佐々木博己¹⁾, 根津雅彦¹⁾, 武藤 学¹⁾, 恩田昌彦, 杉村 隆¹⁾, 寺田雅昭¹⁾ (¹⁾ 国立がんセンター研究所分子腫瘍): 食道がんで増幅する新たな遺伝子 (AC1) の単離. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 128) 美濃部かおり, 中田朋子¹⁾, 藤森 実²⁾, 横山史朗²⁾, 清水一雄³⁾, 田中茂夫³⁾, 伊藤國彦⁴⁾, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 日本医大老人研分子生物, ²⁾ 信州大, ^{2外)}, ³⁾ 第2外科, ⁴⁾ 伊藤病院): 甲状腺乳頭癌における*ret* 関連異常融合遺伝子の構造解析. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 129) 松谷 毅, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 丸山 弘, 萩原信敏, 土屋喜一, 山下精彦: 食道癌手術後の神経, 内分泌反応と炎症性サイトカインの関連と個体差. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 9.
- 130) 福原宗久, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 横山滋彦, 丸山 弘, 菅 隼人, 金沢義一, 佐々部一, 山田岳史, 永嶋裕司, 杉浦 篤, 高橋由至: 誤嚥魚骨の小腸穿通による癒着

- 性イレウスの1例。第29回日本腹部救急医学会総会，1997。9。
- 131) 有馬保生，恩田昌彦，田尻 孝，伊藤誠二，小川芳雄，梅原松臣，横室茂樹，丸山 弘，中村慶春，山下精彦：急性胆嚢炎の手術時期，手術方法の検討。第29回日本腹部救急医学会総会，1997。9。
- 132) 鈴木英之，恩田昌彦，古川清憲，斎藤忠生，丸山 弘，秋谷行宏，芦荻正幸，前澤勝美，田中宣威：エンドトキシシヨック時の微小循環変化に及ぼすmast cellの影響。第3回日本エンドトキシシン研究会，1997。9。
- 133) 内田英二，恩田昌彦，中村慶春，相本隆幸，井上松応，山村 進，山本一仁，丸山 弘，吉田 寛，梅原松臣，有馬保生，田尻 孝，山下精彦，市川太郎¹⁾，田島廣之¹⁾，隈崎達夫¹⁾ (¹⁾放射線科)：急性膵炎の早期重症度判定と膵酵素阻害剤持続動注療法。第29回日本腹部救急医学会総会，1997。9。
- 134) 長谷川博一，恩田昌彦，松倉則夫，吉行俊郎，加藤俊二，有馬保生，徳永 昭，田尻 孝：十二指腸潰瘍穿孔に対する腹腔鏡下大網充填術と術後*Helicobacter pylori*除菌療法。第29回日本腹部救急医学会総会，1997。9。
- 135) 金子昌裕，恩田昌彦，田尻 孝，鳥羽昌仁，梅原松臣，吉田 寛，真々田裕宏，谷谷信彦，西久保秀紀，松本智司，小嶋隆行，松崎 栄，山本一仁，広瀬洋一郎，坂東功一，山下精彦：内視鏡的食道静脈瘤治療後の胃静脈瘤の変化について一血管内注入法と局所治療法の比較一。第4回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会総会，1997。9。
- 136) 山下直行，恩田昌彦，田中宣威，尾田 恭¹⁾，羽尾邦彦²⁾，江角浩安¹⁾ (¹⁾国立がんセンター研究所支所がん治療開発部，²⁾国立横須賀病院外科)：大腸aberrant crypt foci (ACF)におけるTGFb-Receptor IIの変異の検出。第8回日本消化器癌発生学会，1997。9。
- 137) 中村慶春，恩田昌彦，内田英二，山村 進，広瀬洋一郎，井上松応，丸山 弘，相本隆幸，梅原松臣，有馬保生，田尻 孝：膵癌の診断における十二指腸洗浄液中K-ras点突然変異解析の有用性。第39回日本消化器病学会大会，1997。10。
- 138) 吉田 寛，恩田昌彦，田尻 孝，内田英二，有馬保生，梅原松臣，中村慶春，山本一仁，金子昌裕，寺田淑恵，隈崎達夫：膵癌に対するSMANCS Lipiodol動注の経験。第39回日本消化器病学会大会，1997。10。
- 139) 芦荻正幸，恩田昌彦，古川清憲，鈴木英之，丸山 弘，秋谷行宏，前澤勝美，樋口勝美，田中宣威：ラットエンドトキシシヨックモデルにおける脂質代謝の変動。第3回日本エンドトキシシン研究会，1997。10。
- 140) 松田範子，恩田昌彦，加藤俊二，吉田 寛，梅原松臣，樋口勝美，松倉則夫，徳永 昭，田尻 孝，山下精彦：アルコール代謝酵素およびglutathione S transferase (GST) 酵素の遺伝子多様性と肝硬変，肝癌の発症。第1回日本肝臓学会，1997。10。
- 141) 加藤俊二，恩田昌彦，田尻 孝，松田範子，吉田 寛，梅原松臣，樋口勝美，松倉則夫，徳永 昭，山下精彦：術後高度肝障害の発生とグルタチオン還元酵素 (glutathione S transferase M1およびT1) 遺伝子の欠損。第1回日本肝臓学会，1997。10。
- 142) 加藤俊二，恩田昌彦，田尻 孝，吉田 寛，梅原松臣，樋口勝美，松倉則夫，徳永 昭，山下精彦：アルコールや発癌物質の代謝に関与する遺伝子の多様性による酵素活性の個体差と肝硬変，肝癌の発症。第39回日本消化器病学会，1997。10。
- 143) 中村慶春，恩田昌彦，内田英二，山村 進，広瀬洋一郎，井上松応，丸山 弘，相本隆幸，梅原松臣，有馬保生，田尻 孝：膵癌の診断における十二指腸洗浄液中K-ras点突然変異解析の有用性。第39回日本消化器病学会大会，1997。10。
- 144) 松倉則夫，恩田昌彦，大川敬一，加藤俊二，長谷川博一，吉行俊郎，徳永 昭，山下精彦¹⁾ (¹⁾千葉北総病院外科)：消化性潰瘍および穿孔性十二指腸潰瘍術後の*H.pylori* 2段階除菌法と除菌後の再感染率。第39回日本消化器病学会大会，1997。10。
- 145) 徳永 昭，恩田昌彦，吉行俊郎，池田研吾，平本義浩，白川 毅，瀧田雅仁，小栗 剛，寺本 忠，藤田逸郎，奥田武志，水谷 崇，木山輝郎，加藤俊二，長谷川博一，宮下正夫，松倉則夫，西 恵吾¹⁾ (¹⁾エヌシー西クリニック)：再発胃癌患者に対するインフォームドコンセントと治療法の選択。第35回日本癌治療学会総会，1997。10。

- 146) 徳永 昭, 末岡伸夫¹⁾, 恩田昌彦, 小栗 剛, 池田研吾, 平本義浩, 寺本 忠, 藤田逸郎, 奥田武志, 飯田信也, 吉行俊郎, 松倉則夫 (¹⁾ 第3内科): 消化管の創傷治癒: 十二指腸潰瘍内視鏡生検材料におけるTGF- α ・EGF / EGFreceptorおよびpS2の発現. 第39回日本消化器病学会大会, 1997. 10.
- 147) 白川 毅, 恩田昌彦, 徳永 昭, 瀧田雅仁, 池田研吾, 平本義浩, 藤田逸郎, 寺本 忠, 小栗 剛, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫: 術後, 肝転移急速増大胃癌症例の検討—原発巣における血管新生因子の発現, 術後免疫抑制. 第35回日本癌治療学会総会, 1997. 10.
- 148) 奥田武志, 恩田昌彦, 徳永 昭, 小栗 剛, 池田研吾, 平本義浩, 寺本 忠, 藤田逸郎, 飯田信也, 吉行俊郎, 松倉則夫, 末岡伸夫¹⁾ (¹⁾ 第3内科): 消化管の創傷治癒: 十二指腸潰瘍内視鏡生検におけるTGF- α ・EGF / EGFreceptorおよびpS2の発現. 第84回日本消化器病学会総会, 1997. 10.
- 149) 有馬保生, 恩田昌彦, 田尻 孝, 金 徳栄, 内田英二, 中村慶春: 悪性胆道閉塞に対する減黄術の検討. 第39回日本消化器病学会大会, 1997. 10.
- 150) 金子昌裕, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 広瀬洋一郎, 樋口勝美, 田中宣威, 山下精彦, 隈崎達夫: 門脈体循環シャントに対する塞栓術が有効であった肝性脳症を伴った直腸静脈瘤の1例. 第1回日本肝臓学会大会, 1997. 10.
- 151) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 瀧田雅仁, 白川 毅, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫: 胃癌術前化学療法患者における術後合併症の検討. 第35回日本癌治療学会総会, 1997. 10.
- 152) 飯田信也, 恩田昌彦, 徳永 昭, 白川 毅, 瀧田雅仁, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾, 片山博徳²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 多摩永山病院病理部): ヒト十二指腸潰瘍における塩基性線維芽細胞増殖因子 (bFGF) および線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR) の発現の解析. 第39回日本消化器病学会, 1997. 10.
- 153) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 木山輝郎, 吉田 寛, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗 ¹⁾ (¹⁾ 第2病理): 胃内分泌細胞癌における血管新生因子 (TdrPase, VEGF) の検討. 第50回日本消化器外科学会, 1997. 10.
- 154) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 平本義浩, 瀧田雅仁, 白川 毅, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫: 胃癌術前化学療法患者における術後合併症の検討. 第35回日本癌治療学会総会, 1997. 10.
- 155) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 平本義浩, 瀧田雅仁, 白川 毅, 小栗 剛, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫: 胃癌術前化学療法: 内視鏡生検材料による効果予測の試み. 第35回日本癌治療学会総会, 1997. 10.
- 156) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 李 栄浩, 杉浦 篤, 丸山 弘, 横山滋彦, 斎藤忠生, 梅原松臣, 有馬保生, 金 徳栄, 田尻 孝, 山下精彦: 再発性無症候性膵島細胞癌の1切除例. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 157) 樋口勝美, 恩田昌彦, 古川清憲, 美濃部かおり, 田中宣威, 有馬保生, 長谷川博一, 内藤善哉¹⁾, 杉崎祐一¹⁾ (¹⁾ 病理): 術前動注療法にて癌細胞が消失した炎症性乳癌の1例. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 158) 秋谷行宏, 恩田昌彦, 古川清憲, 田中宣威, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 横山滋彦, 相本隆幸, 丸山 弘, 芦苅正幸, 前澤勝美, 山下精彦: 大腸手術の術後感染症の検討—一腸管処置法からみたprospective studyの中間報告—. 第59回日本臨床外科学会総会, 1997. 11.
- 159) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 梅原松臣, 真々田裕宏, 西久保秀紀, 谷合信彦, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 広瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一: 原発性肝癌破裂例に対する治療成績の検討. 第9回日本肝胆膵外科学会, 1997. 11.

- 160) 芦菰正幸, 恩田昌彦, 古川清憲, 田中宣威, 田尻 孝, 徳永 昭, 笹島耕二, 有馬保生, 内田英二, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 斎藤忠生, 丸山 弘, 秋谷行宏, 前澤勝美, 山下精彦¹⁾, 石川紀行¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科) : 術後IVHカテーテル感染症の発症要因と対策. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 161) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 平本義浩, 白川 毅, 瀧田雅仁, 吉行俊郎, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 笹島耕二, 山下精彦 : 胃癌術後在院死患者の検討 : 現況と反省. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 162) 丸山 弘, 恩田昌彦, 古川清憲, 田尻 孝, 梅原松臣, 吉田 寛, 鈴木英之, 秋谷行宏, 樋口勝美, 芦菰正幸, 前澤勝美, 山下精彦¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科) : 肝細胞癌に対する肝切除術後感染症の発症要因の検討. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 163) 相本隆幸, 恩田昌彦, 内田英二, 杉浦 篤, 芦菰正幸, 丸山 弘, 山村 進, 中村慶春, 吉田 寛, 梅原松臣, 有馬保生, 田尻 孝, 内藤善哉, 杉崎祐一, 浅野伍朗 : 十二指腸狭窄をきたした膵体部粘液性嚢胞腺癌の1例. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 164) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 相本隆幸, 山村 進, 梅原松臣, 丸山 弘, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦, 内藤善哉, 浅野伍朗, 杉崎祐一 : 膵腸吻合縫合不全におけるoctreotide投与症例の検討. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 165) 横山滋彦, 恩田昌彦, 山下精彦, 田中宣威, 田尻 孝, 有馬保生, 内田英二, 樋口勝美, 斎藤忠生 : 急性胆道閉塞に対する胆管経胃瘻十二指腸シャント. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 166) 松倉則夫, 恩田昌彦, Tomtitchong P, 加藤俊二, 長谷川博一, 吉行俊郎, 徳永 昭, 山下精彦 : 残胃における*Helicobacter pylori*感染の吻合法による差について. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 167) 徳永 昭, 恩田昌彦, 吉行俊郎, 池田研吾, 平本義浩, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 田中茂夫¹⁾, 山下精彦²⁾ (¹⁾ 第2外科, ²⁾ 千葉北総病院外科) : 重症心疾患合併胃癌手術 : 心機能評価と治療法の選択. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 168) 小泉岐博, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 横山滋彦, 菅 隼人, 金沢義一, 佐々部一, 山田岳史, 永嶋裕司, 高橋由至, 杉浦 篤, 田中元子 : 悪性変化をきたした成人前尾骨部類表皮嚢腫の1例. 第59回日本臨床外科学会総会, 1997. 11.
- 169) 山村 進, 恩田昌彦, 宮下正夫, 吉田 寛, 徳永 昭, 笹島耕二, 吉行俊郎, 加藤俊二, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾, 内藤善哉²⁾, 弦間和仁³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 第2病理, ³⁾ 放射線科) : 巨大胃非上皮性悪性腫瘍に対し術前動脈塞栓術を施行した2例. 第59回臨床外科学会総会, 1997. 11.
- 170) 金子昌裕, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 広瀬洋一郎, 山下精彦, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾ 放射線科) : 肝性脳症を伴った門脈体循環シャントに対する塞栓術の適応と限界. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 171) 永嶋裕司, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 佐々部一 : 癒着性イレウスの再発症例の治療方針の検討. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 172) 山田岳史, 恩田昌彦, 田中宣威, 瀬谷知子, 金沢義一, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 高橋由至, 杉浦 篤, 田中元子, 古川清憲 : 術前に低分化腺癌と診断された直腸Neuroendocrine cell carcinoma (NECC) の1例. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 173) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 平本義浩, 瀧田雅仁, 白川 毅, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 笹島耕二, 山下精彦¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科) : 残胃癌の早期発見と治療 : 術後定期的胃内視鏡検査の意義. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 174) 高橋由至, 恩田昌彦, 田中宣威, 瀬谷知子, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 金沢義一, 山田岳史, 杉浦 篤, 高藤英正¹⁾, 古川清憲 (¹⁾ 共利研) : 大腸neuroendocrine cell carcinoma (NEC) 原発巣および肝転移巣の培養

細胞株樹立とその性状。第56回日本癌学会総会，1997。11。

- 175) 内田英二，恩田昌彦，中村慶春，山村 進，井上松応，丸山 弘，相本隆幸，吉田 寛，梅原松臣，有馬保生，田尻 孝：膵癌診断におけるK-ras癌遺伝子：膵液および十二指腸洗浄液中の突然変異解析。第9回日本肝胆膵外科学会，1997。11。
- 176) 古川恵子，恩田昌彦，古川清憲，樋口勝美，美濃部かおり：乳房巨大腫瘍の1例。第24回東京乳腺研究会，1997。11。
- 177) 山本一仁，恩田昌彦，田尻 孝，鳥羽昌仁，梅原松臣，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，西久保秀紀，松本智司，小嶋隆行，松崎 栄，広瀬洋一郎，金子昌裕，坂東功一，山下精彦，隈崎達夫：血行動態からみた食道静脈瘤に対する内視鏡治療効果の持続性について。第54回日本消化器内視鏡学会総会，1997。11。
- 178) 金子昌裕，恩田昌彦，田尻 孝，鳥羽昌仁，梅原松臣，斎藤忠生，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，西久保秀紀，松本智司，小嶋隆行，松崎 栄，山本一仁，広瀬洋一郎，樋口勝美，山下精彦，隈崎達夫¹⁾ (放射線科)：胃癌および肝硬変を伴う脾動静脈瘻の1例。第9回日本肝胆膵外科学会，1997。11。
- 179) 永嶋裕司，恩田昌彦，田中宣威，古川清憲，高崎秀明，吉村和泰，横山滋彦，佐々部一：大腸癌術後腸管麻痺に対する大建中湯 (TJ-100) の効果。第7回漢方研究会，1997。11。
- 180) 松田範子，恩田昌彦，森山雄吉，徳永 昭，松倉則夫，樋口勝美，高崎秀明，小野寺浩之，吉村成子¹⁾，布施明²⁾，弥富俊太郎²⁾ (吉村せいこクリニック，²⁾ 高度救命救急センター)：重篤な呼吸不全を来したが救命し得た減圧症例。第32回日本高気圧環境医学会総会，1997。11。
- 181) 奥田武志，恩田昌彦，徳永 昭，小栗 剛，池田研吾，平本義浩，寺本 忠，藤田逸郎，飯田信也，吉行俊郎，松倉則夫，末岡伸夫¹⁾，杉崎祐一²⁾ (第3内科，²⁾ 第1病理)：消化管の創傷治癒：TGF- α /EGFRおよびpS2の発現をマーカーとした十二指腸潰瘍修復の検討。第27回創傷治癒研究会，1997。12。
- 182) 鈴木英之，恩田昌彦，古川清憲，小野寺浩之，高島良樹，前澤勝美，芦荻正幸，秋谷行宏，丸山 弘，瀬谷知子，吉村和泰，高崎秀明，樋口勝美，徳永 昭，田中宣威，山下精彦，谷田貝茂雄，谷口善郎，吉安正行：胃癌術後に発症した緑膿菌による重症壊死性筋膜炎の1例。第10回日本外科感染症研究会，1997。12。
- 183) 有馬保生，恩田昌彦，田尻 孝，伊藤誠二，内田英二，小川芳雄，梅原松臣，斎藤忠生，吉田 寛，相本隆幸，丸山 弘，中村慶春，山本一仁，山下精彦，黒田 肇¹⁾ (第3内科)：脾動脈塞栓術 (PSE) 施行後の腹腔鏡下脾臓摘出術4例の検討。第10回日本内視鏡外科学会総会，1997。12。
- 184) 池田研吾，恩田昌彦，徳永 昭，瀧田雅仁，平本義浩，白川 毅，寺本 忠，小栗 剛，飯田信也，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，長谷川博一，松倉則夫：消化管の創傷治癒 (I)：ブタ食道空腸器械吻合創の治癒過程をモデルとした実験。第27回創傷治癒研究会，1997。12。
- 185) 飯田信也，恩田昌彦，徳永 昭，白川 毅，瀧田雅仁，平本義浩，池田研吾，水谷 崇，木山輝郎，吉行俊郎，松倉則夫，山下精彦，浅野伍朗¹⁾，前田昭太郎²⁾，片山博徳²⁾ (第2病理，²⁾ 多摩永山病院同病理部)：ヒト十二指腸潰瘍における塩基性線維芽細胞増殖因子 (bFGF) および線維芽細胞増殖因子受容体 (FGFR) の発現の解析。第27回創傷治癒研究会，1997。12。
- 186) 奥田武志，恩田昌彦，徳永 昭，池田研吾，平本義浩，寺本 忠，藤田逸郎，飯田信也，吉行俊郎，松倉則夫，末岡伸夫¹⁾，杉崎祐一²⁾ (第3内科，²⁾ 病理部)：TGF- α /EGFRおよびpS2の発現をマーカーとした十二指腸潰瘍修復の検討。第27回創傷治癒研究会，1997。12。
- 187) 平本義浩，恩田昌彦，徳永 昭，池田研吾，瀧田雅仁，白川 毅，寺本 忠，藤田逸郎，奥田武志，飯田信也，木山輝郎，吉行俊郎，長谷川博一，松倉則夫：消化管の創傷治癒 (II)：ブタ食道空腸吻合創の治癒過程に発現する増殖因子と受容体。第27回創傷治癒研究会，1997。12。
- 188) 長谷川博一，恩田昌彦，松倉則夫，大川敬一，吉行俊郎，加藤俊二，徳永 昭，山下精彦：*Helicobacter pylori* 2段階除菌療法後の抗生剤耐性菌出現の検索。第65回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1997。12。

- 189) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 山村 進, 広瀬洋一郎, 山本一仁, 相本隆幸, 小林 匡, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝, 山下精彦: 急性膵炎の特徴的CT所見によるスコア化の有用性 (予後点数との比較). 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 190) 秋谷行宏, 恩田昌彦, 古川清憲, 鈴木英之, 丸山 弘, 芦刈正幸, 前澤勝美, 徳永 昭, 田中宣威, 山下精彦: 消化器外科術後感染発症の早期予測の試み. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 191) 吉岡正人, 恩田昌彦, 田尻 孝, 有馬保生, 小川芳雄, 梅原松臣, 鈴木英之, 吉田 寛, 松本智司, 山本一仁, 広瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 峯田 章, 小野寺浩之: 腹腔鏡下胆嚢摘出術後に診断された胆嚢の印環細胞癌の1例. 第248回消化器病学会関東地方会, 1998. 2.
- 192) 小林 匡, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 中村慶春, 相本隆幸, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 第2病理): ヒト膵癌におけるVEGF発現の意義—肝転移との関連性から—, 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 193) 川野陽一, 恩田昌彦, 倉持晋久, 松谷 毅, 吉行俊郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 宮下正夫, 笹島耕二, 徳永 昭, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 第2病理): 胃癌と十二指腸カルチノイドの併存した1例. 第248回日本消化器病学会関東支部例会, 1998. 2.
- 194) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦: 術後高度肝障害発生におよぼす麻酔剤, 抗生物質, 高カロリー輸液の使用と薬物代謝酵素の個体差の影響. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 195) 高橋由至, 恩田昌彦, 田中宣威, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 金沢義一, 古川清憲, 樋口勝美, 山田岳史, 杉浦 篤, 田中元子, 内藤善哉¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 第2病理): 大腸neuroendocrine cell carcinoma (NEC) 細胞株N-TAK1の増殖に対するガストリン関与についての検討. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 196) 寺田淑恵, 恩田昌彦, 田中宣威, 田尻 孝, 徳永 昭, 古川清憲, 松倉則夫, 樋口勝美, 鈴木英之, 吉田 寛, 寺本 忠, 秋谷行宏, 前澤勝美, 芦刈正幸, 氏原康之¹⁾ (¹⁾ 館山病院外科): 腹膜炎として緊急手術した胃腸リンパ節炎の1症例. 第30回日本腹部救急医学会総会, 1998. 2.
- 197) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 山村 進, 相本隆幸, 小林 匡, 山中洋一郎, 松下 晃, 柳 健, 田尻 孝, 山下精彦, 山口敏和, 暉 暁青: 十二指腸洗浄液におけるK-ras癌遺伝子解析—膵癌診断への応用. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 198) 相本隆幸, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 中村慶春, 小林 匡, 田尻 孝, 内藤善哉, 杉崎祐一, 浅野伍朗: 膵頭部膵管癌の術後局所再発における神経浸潤の意義—S-100およびlamininの免疫組織化学的解析から—. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 199) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 松下 晃, 柳 健, 井上松広, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 山中洋一郎, 田尻 孝, 山下精彦, 内藤善哉, 浅野伍朗: 膵癌の腹膜播種性転移機序の実験的説明. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 200) 斎藤忠生, 恩田昌彦, 真々田裕宏, 柳 健, 小泉岐博, 吉岡正人, 田尻 孝, 内田英二, 有馬保生, 山下精彦: 膵嚢胞空腸吻合術後6年を経て再発した膵仮性嚢胞の1手術例. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 201) 内田英二, 恩田昌彦, 田尻 孝, 小林 匡, 相本隆幸, 中村慶春, 山村 進, 松下 晃, 柳 健, 小川芳雄, 有馬保生: 乳頭拡張バルーンを用いた内視鏡的総胆管結石摘出術. 日本医科大学医学会第94回例会, 1998. 2.
- 202) 松倉則夫, 恩田昌彦, 徳永 昭, 大川敬一, 秋谷行宏, 白川 毅, 瀧田雅仁, 吉行俊郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 山下精彦: 残胃と*Helicobacter pylori*感染: 特にBillroth I法とII法との差について (第2報). 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 203) 松谷 毅, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 丸山 弘, 萩原信敏, 土屋喜一, 山下精彦: 食道癌手術後の高ビリルビン血症と炎症生サイトカインの関連. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 204) 徳永 昭, 恩田昌彦, 藤田逸郎, 白川 毅, 瀧田雅仁, 池田研吾, 平本義浩, 寺本 忠, 小栗 剛, 奥田武志,

- 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫: 手術侵襲定量化の試み—胃癌術後腹腔滲出液サイトカインと末梢血NK細胞活性, 可溶性IL-2受容体との関係. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 205) 山本一仁, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 広瀬洋一郎, 金子昌裕, 坂東功一, 小川芳雄, 山下精彦, 隈崎達夫: 食道静脈瘤に対する内視鏡治療効果の持続性について(血管造影所見からの検討). 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 206) 吉村和泰, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 樋口勝美, 高崎秀明, 瀬谷知子, 横山滋彦, 菅 隼人, 丸山 弘, 金沢義一, 佐々部一, 秋谷行宏, 山田岳史, 高橋由至, 杉浦 篤: 左右結腸癌の臨床病理学的検討. 第48回大腸癌研究会, 1998. 2.
- 207) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 白川 毅, 瀧田雅仁, 小栗 剛, 寺本 忠, 藤田逸郎, 飯田信也, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦: 胃癌術前化学療法効果予測の試み—内視鏡生検材料の免疫染色(TS,dThdPase)との関連. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 208) 長谷川博一, 恩田昌彦, 松倉則夫, 吉行俊郎, 加藤俊二, 有馬保生, 徳永 昭, 田尻 孝, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 十二指腸潰瘍穿孔に対する大網充填術と術後*H. pylori*除菌療法による再発予防. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 209) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 寺本 忠, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦 (1) 千葉北総病院外科): 早期胃癌再発高危険度群の設定と再発後の対策. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 210) 土屋喜一, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 松谷 毅, 大川敬一, 萩原信敏, 山下精彦¹⁾, 田久保海誉²⁾ (1) 千葉北総病院外科, ²⁾ 東京都老人総合研究所臨床病理): 胸部食道癌占拠部位とリンパ節転移と再発. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 211) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 飯田信也, 木山輝郎, 加藤俊二, 長谷川博一, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦¹⁾ (1) 千葉北総病院外科): 遠位側胃切除後の再建術式とその機能的評価. 第27回胃外科, 第10回胃術後障害合同研究会, 1998. 2.
- 212) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 笹島耕二, 松谷 毅, 土屋喜一, 萩原信敏, 宮下正夫, 徳永 昭, 山下精彦, 小泉 潔¹⁾, 田久保海誉²⁾ (1) 第2外科, ²⁾ 東京都老人総合研究所臨床病理): 胸腔鏡下補助手術にて切除しえた食道嚢腫の1例. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.
- 213) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 山村 進, 山本一仁, 相本隆幸, 小林 匡, 田尻 孝, 山下精彦, 田島廣之, 隈崎達夫: 重症度判定基準予後因子およびCT所見による急性膵炎の早期重症度判定と後期膿瘍形成の予測. 第30回日本腹部救急医学会総会, 1998. 3.
- 214) 鈴木英之, 恩田昌彦, 古川清憲, 樋口勝美, 丸山 弘, 秋谷行宏, 前澤勝美, 芦荊正幸, 高島良樹, 相本隆幸, 平本義浩, 有馬保生, 徳永 昭, 田尻 孝, 田中宣威: 術後に発症した重症壊死性筋膜炎の2症例. 第30回日本腹部救急医学会総会, 1998. 3.
- 215) 永嶋裕司, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 小林 匡, 芦荊正幸: 分娩後に初発で発症した劇症型潰瘍性大腸炎の1例. 第29回日本腹部救急医学会, 1998. 3.
- 216) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 瀧田雅仁, 白川 毅, 小栗 剛, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫: 少量化学療法およびBRM併用により血中CEA値低下およびQOL向上がみられた進行・再発胃癌3例. 第7回日本癌病態治療研究会, 1998. 3.
- 217) 富樫晃祥, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 横山滋彦, 永嶋裕司, 高橋由至, 杉浦 篤, 小泉岐博: 直腸印環細胞癌の1例. 第768回外科集談会, 1998. 3.
- 218) 長谷川博一, 恩田昌彦, 松倉則夫, 吉行俊郎, 加藤俊二, 有馬保生, 徳永 昭, 田尻 孝: 十二指腸潰瘍穿孔に対する腹腔鏡下手術と術後*Helicobacter pylori*除菌療法. 第30回日本腹部救急医学会総会, 1998. 3.

- 219) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 白川 毅, 池田研吾, 瀧田雅仁, 寺本 忠, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 長谷川博一, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 杉崎祐一¹⁾ (1) 病理部): ステージIII, IV胃癌手術における腹腔洗浄細胞診と腹腔内化学療法. 第20回日本癌局所療法研究会, 1998. 3.

[多摩永山病院外科]

研究概要

おもに消化器外科領域で臨床的研究を中心にして, 治療成績の向上をめざしている. また, 多摩地区の学会や研究会において, 地域の基幹病院としての役割を果たしている.

- 1) 中心的研究課題である肝・胆・膵疾患に対する研究が継続的に行われている. 悪性疾患に対しては外科的治療を中心とした集学的治療をおこない, 治療成績の向上をめざしている.
- 2) 腹腔鏡下外科手術は胆石症, 大腸, 胃腫瘍などに対して広く実施しており, 症例数は年々増加している.
- 3) 乳腺外来は地域住民の好評を得て患者数の増加も著しく, 病理部と提携し迅速穿刺吸引細胞心をおこない, 乳癌の早期診断および治療成績の向上に努力している.
- 4) 小児外科領域については外傷, 消化管異物等の臨床的研究が進められてる.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Egami K, Onda M¹⁾, Uchida E¹⁾, Matsuda T, Watanabe A, Arima Y¹⁾, Kim T¹⁾, Tajiri T¹⁾, Okazaki S, Kobayashi A, Kobayashi M (1) 外科学第一): Clinicopathological studies on association of gallbladder carcinoma and pancreaticobiliary maljunction. J Nippon Med Sch 1998; 65: 1-7.
- 2) 松田 健¹⁾, 沖浜裕司¹⁾, 本根隆幸¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 横山 正¹⁾, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 吉岡正智, 恩田昌彦¹⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 外科学第一): 膵のsolid and cystic tumor—自験例ならびに本邦報告405例の臨床的検討—. 多摩消化器シンポジ 1998; 12: 28-35.
- 3) 谷合信彦, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 横室茂樹, 吉岡正智, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 恩田昌彦²⁾ (1) 多摩永山病院病理, 2) 外科学第一): 胆嚢炎で発症した胆嚢原発平滑筋肉腫の1切除例. 日本消化器外科学会雑誌 1998; 31 (3): 870-874.

著書

- 1) 江上 格, 岡崎滋樹, 渡辺 章¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 小林正文²⁾ (1) 外科学第一, 2) 内科学第三): [分担] 膵・胆管合流異常—そのconsensusとcontroversy. (古味信彦監修), 1997; pp183-187, 医学図書出版.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Mizutani T, Onda M¹⁾, Tokunag A¹⁾, Shirakawa T¹⁾, Takita M¹⁾, Egami K, Tajiri T¹⁾ (1) 外科学第一): Earlier Liver Metastasis after Cncer Surgery and Chemotherapy. Report of Eight Cases. Fourth Congress of the Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, 1997. 6.
- 2) Genka A, Wada M, Taniguchi Y, Okazaki S, Egami K, Yoshioka M, Onda M¹⁾ (1) 外科学第一): A Clinical Case Study of Intractable Massive Ascites (Hepatic Lymphorrhoea): Occurring after Resection of Hepatic Carcinoma Complicated with Liver Cirrhosis. Fourth Congress of the Asian Society of Hepato-

- Biliary-Pancreatic Surgery, 1997. 6.
- 3) Matsuda T¹⁾, Egami K, Okihama Y¹⁾, Okazaki S, Wada M, Yoshioka M, Onda M²⁾, Mashiko K²⁾, Ohtsuka T²⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 外科学第一) : A study of hepatic injury following pediatric trauma. Fourth Congress of Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Tokyo, 1997. 6.
 - 4) Taniai N, Egami K, Okazaki S, Wada M, Yoshioka M, Maeda S¹⁾, Hosone M¹⁾, Onda M²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 外科学第一) : Primary Leiomyosarcoma of the Gallbladder-Report of a Case and Review of the Literature. Fourth Congress of Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Tokyo, 1997. 6.
 - 5) Taniai N, Egami K, Okazaki S, Wada M, Yoshioka M, Murakami R¹⁾, Onda M²⁾ (1) 多摩永山病院病理部, 2) 外科学第一) : Adrenal Metastasis from Hepatocellular Carcinoma (HCC) : Report of 3 Cases. Fourth Congress of Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Tokyo, 1997. 6.
 - 6) Teramoto T, Egami K, Okazaki S, Matsushima S, Wada M, Genka A, Yamamoto H, Mizutani T, Oguri T, Kojima T, Nagasawa S, Ishizuka T, Kudo H, Egami S, Yoshioka M : Treatment with Flexible Self-Expandable Metallic Stent for Palliation of Inoperable Advanced Esophageal Cancer, Report of Six Cases. The 14th Annual Meeting of Pan-Pacific Surgical Association Japan Chapter, Tokyo, 1997. 11.
 - 7) 沖浜裕司¹⁾, 松田 健¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 横山 正¹⁾, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 吉岡正智 (1) 多摩永山病院消化器科) : 潰瘍性大腸炎の臨床的研究—特に5-aminosalicylic acid (5-ASA) 注腸両方を中心として—. 第2回多摩消化器疾患研究会, 1997. 6.
 - 8) 松田 健¹⁾, 江上 格, 沖浜裕司¹⁾, 岡崎滋樹, 和田雅世, 吉岡正智, 恩田昌彦²⁾, 山本保博³⁾, 大塚敏文³⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 外科学第一) : 小児肝外傷の臨床的検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 9) 源河敦史, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 水谷 崇, 小栗 剛, 寺本 忠, 小嶋隆行, 長澤重直, 石塚朋樹, 工藤秀徳, 吉岡正智 : 食道癌科学療法中に合併した食道穿孔, 縦隔膿瘍に大使, 食道ガバードステント挿入および経皮的縦隔ドレナージを施行した1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 10) 山本英希, 松島申治, 三上 巖, 窪倉浩俊, 福島光浩, 星野有哉, 鈴木成治, 渋谷哲男, 原田秀司, 小泉 潔, 五味潤誠, 田中茂夫 : 両側自然気胸に対する治療方針. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 11) 大川敬一¹⁾, 沖浜裕司¹⁾, 松田 健¹⁾, 会田邦晴¹⁾, 江上 格, 岡崎滋樹, 吉岡正智, 恩田昌彦²⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 外科学第一) : 当科における潰瘍性大腸炎の臨床的研究—特に5-aminosalicylic acid (5-ASA) 注腸療法を中心として—. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 12) 江上 聡, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 源河敦史, 水谷 崇, 寺本 忠, 小栗 剛, 小嶋隆行, 長澤重直, 石塚朋樹, 工藤秀徳, 谷合信彦¹⁾, 松田 健¹⁾, 沖浜裕司¹⁾, 前田昭太郎²⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 多摩永山病院病理部) : 術前, 術中の画像診断にて胆嚢癌と診断された肝浸潤を伴う限局性肉芽腫の1例. 第246回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 9.
 - 13) 小栗 剛, 小嶋隆行, 寺本 忠, 水谷 崇, 源河敦史, 和田雅世, 岡崎滋樹, 江上 格 : 粘液産生腫瘍を合併した膵管癌と直腸癌の同時性重複癌の1例. 第55回城西外科学研究会, 1997. 9.
 - 14) 山本秀希, 渋谷哲男¹⁾, 酒井欣男¹⁾, 植田候平¹⁾, 相田成隆¹⁾, 田中茂夫¹⁾ (1) 外科学第二) : 後腹膜Castleman's diseaseの1例. 第59回日本臨床外科学会総会, 1997. 11.
 - 15) 谷合信彦¹⁾, 沖浜裕司¹⁾, 松田 健¹⁾, 江上 格, 吉岡正智, 恩田昌彦²⁾, 田尻 孝²⁾, 鳥羽昌仁²⁾, 梅原松臣²⁾, 吉田 寛²⁾, 山本一仁²⁾, 金子昌裕²⁾ (1) 多摩永山病院消化器科, 2) 外科学第一) : 食道静脈瘤に対する動脈塞栓術併用EVL療法の有用性の検討. 第54回日本消化器内視鏡病学会総会, 1997. 11.
 - 16) 松島申治, 山本英希, 星野有哉, 三上 巖, 原田秀司, 窪倉浩俊, 小泉 潔, 五味潤誠, 田中茂夫 : 胸腺腫切除例の臨床的検討. 第38回日本肺癌学会総会, 1997. 11.
 - 17) 山本英希, 渋谷哲男¹⁾, 松島申治, 内山喜一郎¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 天神敏博¹⁾, 小熊将之¹⁾, 酒井欣男¹⁾, 塩谷 猛¹⁾,

田中茂夫¹⁾、大場英巳²⁾ (¹⁾ 外科学第二, ²⁾ 俊成病院外科) : 胃壁内転移を有する食道癌症例の検討。第59回日本臨床外科学会誌, 1997. 11.

- 18) 工藤秀徳, 江上 格, 松島申治, 岡崎滋樹, 和田雅世, 源河敦史, 山本英希, 水谷 崇, 小栗 剛, 小嶋隆行, 寺本 忠, 長澤重直, 石塚朋樹, 江上 聡, 鈴木崇生 : 十二指腸転位術を施行したSMA症候群の1例。外科集談会, 1997. 12.
- 19) 源河敦史, 江上 格, 松島申治, 岡崎滋樹, 和田雅世, 山本英奇, 水谷 崇, 寺本 忠, 小栗 剛, 小嶋隆行, 長澤重直, 石塚朋樹, 工藤秀徳, 江上 聡, 吉岡正智 : 当科における大腸癌肝転移の治療方針。第17回多摩消化器シンポジウム, 1998. 1.
- 20) 松田 健¹⁾, 沖浜裕司¹⁾, 会田邦晴¹⁾, 大川敬一¹⁾, 江上 格, 松島申治, 岡崎滋樹, 和田雅世, 吉岡正智, 恩田昌彦²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院消化器科, ²⁾ 外科学第一) : 当科における消化器癌週末期医療の検討。第17回多摩消化器シンポジウム, 1998. 1.
- 21) 工藤秀徳, 江上 格, 松島申治, 岡崎滋樹, 和田雅世, 源河敦史, 山本英希, 水谷 崇, 小栗 剛, 小嶋隆行, 寺本 忠, 長澤重直, 石塚朋樹, 江上 聡, 恩田昌彦¹⁾ (¹⁾ 外科学第一) : 十二指腸転移術を施行したSMA症候群の1例。第768回外科集談会, 1998. 3.
- 22) 山本英希, 江上 格, 松島申治, 岡崎滋樹, 和田雅世, 源河敦史, 水谷 崇, 菅 隼人, 長澤重直, 瀧田雅仁, 山田岳史, 石塚朋樹, 工藤秀徳, 吉岡正智 : 特発性血気胸の1例。第56回城西外科研究会, 1998. 3.

[多摩永山病院消化器科]

研究概要

当科は消化器全般の内科的・外科的疾患をその診療の対象とし, それらに関する研究と, 幅広い視野・能力を有する臨床医の養成を目指している。現在, 地域中核病院の診療科として, 消化器疾患に対する以下のような診療ならびに研究活動を続けている。

- 1) 患者数の増加に伴って上部および下部消化管内視鏡検査件数も増え続けているが, それらの検査診断技術の向上に努めている。
- 2) 各種消化器疾患の内視鏡的治療および内視鏡下手術について臨床研究を行っている。早期癌の内視鏡的治療, 総胆管結石・胆道狭窄の内視鏡的処置などにつき研究および治療成績の向上に努めている。
- 3) 炎症性腸疾患の診断と治療については, とくに潰瘍性大腸炎の薬物療法を中心とした臨床研究を続けている。
- 4) イレウス, 腹膜炎を中心とする急性腹症の病態と治療について, 引き続き研究を継続中である。
- 5) 肝硬変症, 門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療と病態に応じた治療法の選択により, 放射線科・外科との共同で良好な治療成績を得ている。
- 6) C型慢性活動性肝炎に対するインターフェロン療法, 肝細胞癌に対する治療についても, 症例の蓄積を続けている。
- 7) ヘリコバクター・ピロリの除菌療法についても症例を蓄積している。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著 :

- 1) 飯田信也, 恩田昌彦¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 奥田武志¹⁾, 小栗 剛, 寺本 忠, 藤田逸郎, 木山輝郎¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 山下精彦¹⁾, 沖浜裕司, 松田 健, 前田昭太郎²⁾, 片山博徳²⁾ (¹⁾ 外科学第1, ²⁾ 多摩永山病院病理

部)：胃潰瘍修復過程を創傷治癒機転と対応して解析する。Progress in Medicine 1996；16：2717-2718.

(1) 原著：

- 1) Aida K, Onda M¹⁾, Asano G²⁾, Nakazawa N²⁾ (1) First Department of Surgery, Nippon Medical School, 2) Second Department of Pathology, Nippon Medical School) : Predisposition of subclones of pancreatic carcinoma cells, AsPC-1, to changes in functional and histopathological features of xenograft tumors with response to extracellular matrix. J Nippon Med Sch 1997；64：163-171.
- 2) Egami K¹⁾, Onda M²⁾, Uchida E²⁾, Matsuda T, Watanabe A²⁾, Arima Y²⁾, Kim T²⁾, Tajiri T²⁾, Okazaki S¹⁾, Kobayashi M³⁾ (1) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, 2) First Department of Surgery, Nippon Medical School, 3) Third Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Clinicopathological studies on association of gallbladder carcinoma and pancreaticobiliary maljunction. J Nippon Med Sch 1998；65：1-7.
- 3) 松田 健, 沖浜裕司, 相本隆幸, 谷合信彦, 横山 正, 江上 格¹⁾, 岡崎滋樹¹⁾, 和田雅世¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 恩田昌彦²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 外科学第1)：膵の solid and cystic tumor : 自験例ならびに本邦報告405例の臨床的検討。多摩消化器シンポジウム 1998；12：28-35.

(2) 綜説：

- 1) 松田 健, 沖浜裕司：上部消化管出血の臨床的検討：当科における最近3年間の救急症例を中心として。日医大誌 1997；64：61-64.

学会発表

〔1996年度追加分〕

一般講演：

- 1) 横室茂樹¹⁾, 江上 格¹⁾, 岡崎滋樹¹⁾, 谷口善郎¹⁾, 和田雅世¹⁾, 会田邦晴, 横山 正, 吉岡正智¹⁾, 松田 健, 沖浜裕司 (1) 多摩永山病院外科)：肝切除を施行した肝門部胆管癌の治療成績と問題点。第25回日本胆道外科研究会, 1996. 5.
- 2) 藤田逸郎, 江上 格¹⁾, 岡崎滋樹¹⁾, 和田雅世¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 会田邦晴, 小林 匡¹⁾, 谷合信彦, 鶴田宏之¹⁾, 服部千秋¹⁾, 加藤圭介¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 松田 健, 沖浜裕司, 前田昭太郎²⁾, 山下精彦³⁾, 恩田昌彦³⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 外科学第1)：術前診断が困難であった巨大胃平滑筋肉腫の1例。第241回日本消化器病学会関東支部例会, 1996. 9.
- 3) 飯野幸永¹⁾, 佐藤知枝¹⁾, 千葉逸子¹⁾, 北村誠一²⁾, 村田正弘³⁾, 鹿田あき子⁴⁾, 遠藤三代子⁴⁾, 政次富美子⁴⁾, 森本千秋⁵⁾, 宮本由紀夫⁶⁾, 柏木邦彦⁶⁾, 鈴木 健⁷⁾, 沖浜裕司 (1) 多摩永山病院中央検査室, 2) 多摩永山病院放射線科, 3) 多摩永山病院薬剤科, 4) 多摩永山病院看護部, 5) 多摩永山病院栄養科, 6) 多摩永山病院事務部, 7) 多摩永山病院内科)：当院における過去4年間の針刺し事故の集計。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.

(1) シンポジウム：

- 1) 松田 健, 沖浜裕司, 会田邦晴, 大川敬一, 江上 格¹⁾, 松島申治¹⁾, 岡崎滋樹¹⁾, 和田雅世¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 恩田昌彦²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 外科学第1)：当科における消化器癌終末期医療の検討。第17回多摩消化器シンポジウム, 1998. 1.

(2) 一般講演：

- 1) Matsuda T, Egami K¹⁾, Okihama Y, Okazaki S¹⁾, Wada M¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Onda M²⁾, Mashiko K³⁾, Ohtsuka T³⁾ (1) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, 2) First

- Department of Surgery, Nippon Medical School, ³ Department of Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : A study of hepatic injury following pediatric trauma. 4th Congress of Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (Tokyo), 1997. 6.
- 2) Taniai N, Egami K¹), Okazaki S¹), Wada M¹), Yoshioka M¹), Maeda S²), Hosone M²), Onda M³) (¹ Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, ² Department of Pathology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, ³ First Department of Surgery, Nippon Medical School) : Primary leiomyosarcoma of the gallbladder : Report of a case and review of the literature. 4th Congress of Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (Tokyo), 1997. 6.
- 3) Taniai N, Egami K¹), Okazaki S¹), Wada M¹), Yoshioka M¹), Murakami R²), Onda M³) (¹ Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, ² Department of Radiology, Tama-Nagayama Hospital, Nippon Medical School, ³ First Department of Surgery, Nippon Medical School) : Adrenal metastasis from hepatocellular carcinoma (HCC) : report of 3 cases. 4th Congress of Asian Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery (Tokyo), 1997. 6.
- 4) 谷合信彦, 江上 格¹), 岡崎滋樹¹), 和田雅世¹), 源河敦史¹), 水谷 崇¹), 中村 孝¹), 吉岡正智¹), 村上隆介²), 恩田昌彦³) (¹ 多摩永山病院外科, ² 多摩永山病院放射線科, ³ 外科学第1) : 胆嚢動脈により支配されていた肝細胞癌の1切除例. 第244回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 5.
- 5) 沖浜裕司, 松田 健, 谷合信彦, 横山 正, 江上 格¹), 岡崎滋樹¹), 和田雅世¹), 吉岡正智¹) (¹ 多摩永山病院外科) : 潰瘍性大腸炎の臨床的研究 : 特に 5-aminosalicylic acid (5-ASA) 注腸療法を中心として. 第2回多摩消化器疾患研究会, 1997. 6.
- 6) 松田 健, 江上 格¹), 沖浜裕司, 岡崎滋樹¹), 和田雅世¹), 吉岡正智¹), 恩田昌彦²), 山本保博³), 大塚敏文³) (¹ 多摩永山病院外科, ² 外科学第1, ³ 救急医学科) : 小児肝外傷の臨床的検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 7) 会田邦晴, 沖浜裕司, 松田 健, 谷合信彦, 横山 正, 大川敬一, 恩田昌彦¹) (¹ 外科学第1) : 大腸リンパ管腫の臨床的検討 : 2治験例と本邦報告例の検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 8) 大川敬一, 沖浜裕司, 松田 健, 会田邦晴, 江上 格¹), 岡崎滋樹¹), 吉岡正智¹), 恩田昌彦²) (¹ 多摩永山病院外科, ² 外科学第1) : 当科における潰瘍性大腸炎の臨床的検討 : とくに 5-aminosalicylic acid (5-ASA) 注腸療法を中心として. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 9) 飯野幸永¹), 村田正弘¹), 柏木邦彦¹), 本間妙子¹), 福岡イツ子¹), 野口 素¹), 須崎紳一郎¹), 山田光輝¹), 沖浜裕司, 志村俊郎¹), 鈴木 健¹) (¹ 多摩永山病院感染対策小委員会) : MRSA院内感染防止対策としてのムピロシン製剤の有用性. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 10) 江上 聡¹), 江上 格¹), 岡崎滋樹¹), 和田雅世¹), 源河敦史¹), 水谷 崇¹), 寺本 忠, 小栗 剛, 小嶋隆行¹), 長澤重直¹), 石塚朋樹¹), 工藤秀徳¹), 谷合信彦, 松田 健, 沖浜裕司, 前田昭太郎²) (¹ 多摩永山病院外科, ² 多摩永山病院病理) : 術前, 術中の画像診断にて胆嚢癌と診断された肝浸潤を伴う限局性肉芽腫の1例. 第246回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 9.
- 11) 谷合信彦, 沖浜裕司, 松田 健, 江上 格¹), 吉岡正智¹), 恩田昌彦²), 鳥羽昌仁²), 梅原松臣²), 吉田 寛²), 山本一仁²), 金子昌裕²) (¹ 多摩永山病院外科, ² 外科学第1) : 食道静脈瘤に対する動脈塞栓術併用EVL療法の有用性の検討. 第54回日本消化器内視鏡病学会総会, 1997. 11.

[千葉北総病院外科]

研究概要

消化器外科ならびに一般外科疾患を対象として臨床的研究を行い、治療成績を中心としてその成果を学会および学会誌で報告している。

開院後4年目であるが、外来・入院患者とも徐々に増加し、それに伴い年間手術件数も500例を超え、来年度はさらに増える見通しで地域における基幹病院として、また千葉北部地区の学会・研究会にも積極的に参加し、その重責を担っている。

1) 胃癌・大腸癌を中心とした消化器癌に乳癌、甲状腺癌を加えた悪性疾患が主たる対象疾患で、特に食道、胃、大腸癌が多く、これらに対し手術、化学療法を組み合わせた集学的治療をさらに精度を高めるため、専門的な診療、研究体制を整いつつある。また、胃、大腸の早期癌に対しては従来よりEMRを行っているが、腹腔鏡下胆摘手術をさらに発展させ胃、大腸腫瘍にも腹腔鏡下外科的切除を積極的に取り入れている。

2) 良性疾患には従来の手技手法を基本に、新しい手技を取り入れている。

3) 院内において内科、病理、放射線科と合同conferenceを定期的に行っており、個々の症例について臨床的検討をより深めている。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著：

1) 森山雄吉：高気圧酸素環境での生体現象：加圧による生体現象。日本高気圧環境医学会誌 1997；32（3）：125-129。

(1) 原著：

1) 横井公良，森山雄吉，京野昭二，山下精彦，吉行俊郎¹⁾，恩田昌彦¹⁾（¹⁾第1外科）：前方転位術を施行した高齢者上腸間膜動脈症候群の1例。日本臨床外科医学会雑誌 1997；58（11）：2574-2579。

2) 石川紀行，森山雄吉，京野昭二，横井公良，小川芳雄，工藤秀徳，山初順一¹⁾，山下精彦（¹⁾泉中央病院）：食道癌術後胃管穿孔に対する治療法の一工夫。Progress of Digestive Endoscopy 1997；51：154-155。

著書

1) 山下精彦：〔分担〕食道疾患 7. 食道良性狭窄。新臨床内科学 第7版，1997；pp547-548，医学書院。

2) 山下精彦：〔分担〕食道疾患 8. 食道破裂，穿孔。新臨床内科学 第7版，1997；pp548-549，医学書院。

3) 山下精彦：〔分担〕内視鏡施行時の説明とリラックス法。消化器内視鏡のコツと落とし穴：上部消化管1，1997；p8，中山書店。

4) 山下精彦：〔分担〕上部消化管内視鏡挿入時の要領と注意点。消化器内視鏡のコツと落とし穴：上部消化管1，1997；pp100-101，中山書店。

5) 山下精彦：〔分担〕鎮静法・麻酔法：上部消化管内視鏡挿入時の要領と注意点。消化器内視鏡のコツと落とし穴 上部消化管1，1997；pp100-101，中山書店。

6) 山下精彦：〔分担〕インフォームドコンセント：内視鏡施行時の説明とリラックス法。消化器内視鏡のコツと落とし穴 上部消化管1（編集：鈴木博昭），1997；p8，中山書店。

7) 山下精彦：〔分担〕食道良性狭窄。新臨床内科学 コンパクト版（第2版），1998；p196，医学書院。

8) 山下精彦：〔分担〕食道破裂，穿孔．新臨床内科学 コンパクト版（第2版），1998；pp196-197，医学書院．

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 石川紀行，森山雄吉，京野昭二，横井公良，小川芳雄，工藤秀徳，山初順一¹⁾，山下精彦⁽¹⁾ 泉中央病院)：食道癌術後偶発性胃管穿孔に対する治療法の一工夫．第64回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1997．6．
- 2) 横井公良，山下精彦，森山雄吉，京野昭二，小川芳雄，石川紀行，菅 隼人，恩田昌彦¹⁾，田中宣威¹⁾，瀬谷知子¹⁾，長澤重直¹⁾，大秋美治²⁾ (¹⁾ 第1外科，²⁾ 千葉北総病院病理部)：直腸Stromal Tumor の1例．第52回日本大腸肛門病学会総会，1997．10．
- 3) 石川紀行，森山雄吉，京野昭二，横井公良，小川芳雄，工藤秀徳，山初順一¹⁾，山下精彦⁽¹⁾ 泉中央病院)：人工食道挿管が食道気管支瘻食道癌および食道癌術後胃管穿孔に有効であった3症例．第59回日本臨床外科医学会総会，1997．11．
- 4) 土屋喜一¹⁾，恩田昌彦¹⁾，笹島耕二¹⁾，宮下正夫¹⁾，松谷 毅¹⁾，大川敬一，萩原信敏，山下精彦，田久保海誉²⁾ (¹⁾ 第1外科，²⁾ 東京都老人総合研究所・臨床病理)：胸部食道癌占拠部位とリンパ節転移と再発．第51回腹部救急医学会総会，1998．2．
- 5) 森 正陽，森山雄吉，京野昭二，横井公良，石川紀行，菅 隼人，藤田逸郎，松崎 栄，佐々部一，廣井 信，山下精彦，恩田昌彦¹⁾ (¹⁾ 第1外科)：イレウス手術症例の検討—術後イレウスを中心として—．第30回日本腹部救急医学会総会，1998．3．

10. 外科学第二講座

[付属病院第2外科]

研究概要

外科学第二講座は付属病院第2外科，付属第二病院外科，付属第二病院消化器病センター，千葉北総病院胸部外科，多摩永山病院胸部外科，多摩永山病院内視鏡センターにおいて教育，研究，診療を担っている。付属病院第2外科では以下の項目を重点的に研究している。

1) 心臓血管外科では年間約200例の開心術をおこない，虚血性心疾患が最も多く，続いて先天性心疾患，心臓弁膜疾患，胸部大動脈瘤がこれにつぐ。したがって，虚血性心疾患領域での研究が多い。また，不整脈外科の研究は教室では特に力を注いでおり，新しい研究発表も多い。大動脈瘤の手術症例数も多く，手術手技の工夫，長期予後の改善に関する研究が多い。

2) 呼吸器外科では悪性腫瘍に加えて，最近では肺気腫にたいする外科治療としてvolume reduction surgeryの工夫がなされ，研究発表も多い。さらに開胸手術にたいしてvideo assisted thoracoscopic surgery (VATS) に関する手術手技の工夫，研究に力を注いでいる。基礎的研究としてはFISH法による遺伝子診断にて，肺癌手術症例の予後判定，化学療法，放射線療法の選択に関する研究が続けられている。

3) 内分泌外科では甲状腺疾患，上皮小体，副腎腫瘍に関する研究が目立つ。バセドウ病にたいする外科手術に際し，切除された甲状腺を凍結保存し，術後に甲状腺機能低下をきたす症例に再移植する方法は新しい治療法として注目を集めている。さらに甲状腺疾患，乳腺疾患にたいする内視鏡下手術は術後のQOLの改善も含めて注目されつつある。

その他，海外留学先での遺伝子診断，治療の研究も盛んである。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nitta T, Ikeshita M, Bessho R, Satoh Y, Tanaka S : Superior-septal approach for trans-mitral mapping and cryoablation of ventricular tachycardia. J Cardiovasc Surg 1997 ; 38 (6) : 615-617.
- 2) Kitamura Y, Goodfellow P¹⁾, Shimizu K, Nagahama M, Ito K²⁾, Kitagawa W, Akasu H²⁾, Takami H³⁾, Tanaka S, Wells S Jr¹⁾ (¹⁾ Dept of Surgery, Washington University, ²⁾ Ito Hospital, ³⁾ 1st Dept of Surgery, Teikyo University) : Novel germline RET proto-oncogene mutations associated with medullary thyroid carcinoma (MTC) : Mutation analysis in Japanese patients with MTC. Oncogene 1997 ; 14 : 3103-3106.
- 3) Ochi M, Yamauchi S, Yajima T, Bessho R, Tanaka S : Limb-salvage tibiotibial bypass using the inferior epigastric artery. J Vasc Surg 1997 ; 25 : 591-592.
- 4) Ochi M, Yamauchi S, Yajima T, Bessho R, Tanaka S : Simultaneous Subclavian Artery Reconstruction in Coronary Artery Bypass Grafting. Ann Thorac Surg 1997 ; 63 : 1284-1287.
- 5) Suzuki S, Tenjin T, Chin K, Watanabe H, Matsushima S, Shibuya T, Tanaka S : Low level c-myc gene amplification in gastric cancer detected by dual color fluorescence in situ hybridization analysis. J Surg Oncol 1997 ; 66 : 173-178.
- 6) Koizumi K, Akaishi T¹⁾, Wakabayashi A¹⁾ (¹⁾ University of Irvine California Dept of Surgery) : Anatomic Segmental Resection of The Lung by Thoracoscopy : An Experimental Study. Surgery Today JJS 1997 ;

- 27 (11) : 1051-1055.
- 7) Shimizu K, Nagahama M, Kitamura Y, Jasmi A, Tanaka S : Autotransplantation of cryopreserved thyroid tissue for the treatment of irreversible postoperative hypothyroid Graves' disease-Report. *Thyroidol Clin Exp* 1997 ; 9 : 23-26.
 - 8) Watanabe H, Sakai Y, Yamamoto H, Natori J, Suzuki S, Kodaira Y, Ezure T, Shibuya T, Tanaka S : Surgical treatment for gastric cancer in aged patients over 75 years old. *Progress in Gastric Cancer Research 1997 Monduzzi Editore Bologna (Italy)* 1997 ; 1067-1070.
 - 9) Nitta T, Schuessler R¹⁾, Mitsuno M¹⁾, Rokkas C¹⁾, Isobe F¹⁾, Cronin C¹⁾, Cox J¹⁾, Boineau J¹⁾ (¹⁾ Washington University) : Return Cycle Mapping After Entrainment of Ventricular Tachycardia. *Circulation* 1998 ; 97 : 1164-1175.
 - 10) Koizumi K, Haraguchi S, Akiyama H, Mikami I, Fukushima M, Tanaka S : VATS Lobectomy for Primary Lung Cancer-Experiences based on Provisional Indications. *Surgery Today JJS* 1998 ; 28 (1) : 36-40.
 - 11) 原口秀司, 仁科 大, 岡田大輔, 飯田竹美, 福島光浩, 秋山博彦, 小泉 潔, 田中茂夫 : 肺尖部胸壁浸潤肺癌の治療経験. *日医大誌* 1997 ; 64 (2) : 184-186.
 - 12) 原口秀司, 小泉 潔, 飯田竹美, 川島徹生, 田中茂夫 : 骨転移を疑った胸囲結核の1切除例. *日本胸部臨床* 1997 ; 56 (9) : 774-776.
 - 13) 三上 巖, 山本光伸¹⁾, 西村仁志¹⁾, 小泉 潔, 五味測誠, 田中茂夫 (¹⁾ 埼玉県立がんセンター胸部外科) : 肺癌術前検査において認められた副腎腫瘍4例の検討. *日胸外会誌* 1997 ; 45 (10) : 1733-1737.
 - 14) 小平祐造, 真木一茂¹⁾, 生田宏一¹⁾, 馬淵綾子²⁾, 宮崎純一¹⁾, 田中茂夫, 横室公三²⁾ (¹⁾ 東京大学医学部疾患遺伝子制御 (サンド), ²⁾ 微生物免疫学) : 肝内 γ δ 細胞の分化機構の解説. *MINOPHAGEN MEDICAL REVIEW* 1997 ; 42 (6) : 35-39.
 - 15) 山内仁紫, 岩城秀行, 井村 肇, 檜山和弘, 二宮淳一, 田中茂夫, 小川俊一¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 日野佳昭¹⁾, 大久保隆志¹⁾, 山本正生¹⁾, 田村浩一²⁾ (¹⁾ 小児科, ²⁾ 病理第一) : 小児期発症Annulo-aortic ectasiaの病理所見と上行大動脈の経年変化. *日本小児循環器学会誌* 1997 ; 13 (6) : 738-744.
 - 16) 落 雅美, 家所良夫, 別所竜蔵, 田中茂夫 : 冠状動脈と鎖骨下動脈の同時血行再建の経験. *手術* 1997 ; 51 : 1753-1757.
 - 17) 落 雅美, 田中茂夫, 別所竜蔵, 山内茂生, 矢島俊巳 : 重症不安定狭心症に対するCABGの時期. *冠動脈外科の進歩* 1997 ; 235-239.
 - 18) 新田 隆, 田中茂夫, 池下正敏, 山内茂生, 杉本忠彦, 保坂浩希, 別所竜蔵, 石井庸介, 庄司 佑 : 心室頻拍に対するアブレーション : アブレーション部位同定の理論. *心臓ペーシング* 1997 ; 13 (4) : 367-373.
 - 19) 新田 隆 : 心房細動に対する心房放射状切開術. *日医大誌* 1997 ; 64 (5) : 491-492.
 - 20) 宇都宮英敏 : 大動脈瘤を伴う胸痛. *治療* 1998 ; 80 (2) : 1130-1136.
 - 21) 原口秀司, 小泉 潔, 秋山博彦, 福島光浩, 仁科 大, 田中茂夫 : 右肺尖部胸壁浸潤肺癌における鎖骨下静脈の切除再建法. *日本呼吸器外科学会雑誌* 1998 ; 12 : 78-82.
 - 22) 藤井正大, 若林武雄¹⁾, 古川良弥¹⁾, 檜山和弘, 石川秀雄¹⁾, 平山恒憲²⁾, 仁保幸次¹⁾, 村上陸美³⁾, 田中茂夫 (¹⁾ 国立療養所福島病院, ²⁾ 付属病院小児科, ³⁾ 千葉北総病院小児科) : Bartter症候群を合併した直腸癌の1手術例. *医療* 1998 ; 52 : 49-52.
- (2) 綜説 :
- 1) 田中茂夫, 山田研一, 別所竜蔵, 矢島俊巳 : 特集 : ICDは有効か? 医工学的にみたICDの進歩と展望. *循環器Today* 1997 ; 1 (5) : 506-512.
 - 2) 田中茂夫 : 植込み型除細動器. 保険償還承認後の現状と展望. *医学のあゆみ* 1997 ; 181 (10) : 957-961.

- 3) 矢島俊巳, 岩城秀行, 田中茂夫: 植込み型除細動器 (ICD) の現況と展望. HEART nursing 1997; 10 (11): 60-64.
- 4) 田中茂夫: 重症頻脈性不整脈の管理. 植込み型除細動器の適応と管理. 集中治療 1997; 9 (12): 1431-1440.
- 5) 北村 裕, 清水一雄, 田中茂夫: 遺伝性甲状腺髄様癌におけるRET遺伝子検索. 臨床外科 1997; 52: 1137-1142.
- 6) 清水一雄, 長浜充二, 北川 亘, 赤須東樹, 三村 孝¹⁾, 伊藤國彦¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾ 伊藤病院): 嚢胞造影が外科的治療に有効であった再発性正中頸嚢胞の2例. 日臨外医学会誌 1997; 58: 67-71.
- 7) 清水一雄: マレーシアにおける内分泌外科を中心とした学術交流の経験: 第2報マレーシア国民大学を再訪問して. 内分泌外科 1997; 14: 332-335.
- 8) 長浜充二, 清水一雄, 北村 裕, 五十嵐健人, 渋谷哲男, 田中茂夫: 成人に発生した甲状腺奇形腫の1例. 日臨外医学会誌 1997; 58: 72-75.
- 9) 田中茂夫: 植え込み型除細動器 (ICD) とepilepsy. 集中治療 1998; 10 (1): 81.
- 10) 井村 肇, 田中茂夫: カテコラミン. 集中治療 1998; 10 (1): 82-85.
- 11) 田中茂夫, 矢島俊巳: 心室性不整脈 基礎から臨床まで臨床2植込み型除細動器. 循環科学 1998; 18 (2): 138-141.
- 12) 小泉 潔, 勝見 敦¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾, 秋山博彦, 原口秀司, 田中茂夫, 大塚敏文¹⁾ (¹⁾ 付属病院救命救急センター): (特集: 腹部救急疾患に対する腹腔鏡手術) 胸部外傷に対する胸腔鏡下手術. 日本内視鏡外科学会雑誌 1998; 2 (6): 550-556.

著 書

- 1) Koizumi K, Hraguchi S, Akiyama H, Mikami I, Fukushima M, Kubokura H, Okada D, Tanaka S: [共著] Minimally Invasive Combined Therapy for Patients with Small Peripheral Stage 1 Lung Cancer by means of Thoracoscopic Partial Resection and Concurrent Internal Radio-therapy. VATS' 97 : 4th International Symposium on Thoracoscopy and Video-assisted Thoracic Surgery, 1998; pp117-123, Litosey-Rastignano, Italy.
- 2) 小泉 潔: [共著] 図説 胸腔鏡手術アトラス. 図説 胸腔鏡手術アトラス, 1997; pp326-330, 金原出版.
- 3) 清水一雄: [共著] 第91回医師国家試験問題解説書. 第91回医師国家試験問題解説書, 1997; 医学評論社.
- 4) 清水一雄: [分担] 内分泌疾患, クッシング症候群. 経静脈治療オーダーマニュアル, 1997; pp281-285, メディカルレビュー.
- 5) 清水一雄: [共著] 甲状腺, 上皮小体. 国試外科学1 (改訂第3版), 1997; pp178-195, 医学評論社.
- 6) 清水一雄: [共著] 副腎. 国試外科学2 (改訂第3版), 1997; pp286-290, 医学評論社.
- 7) 田中茂夫: [共著] 植込み型除細動器 (ICD). 実地医家のための心不全治療マニュアル, 1998; pp394-405, 医薬ジャーナル社.
- 8) 田中茂夫, 新田 隆: [分担] 心房細動の発生機序とその外科治療. 質疑応答による不整脈, 1998; pp77-79, 日本医事新報社.
- 9) 清水一雄: [共著] 第92回医師国家試験問題解説書. 第92回医師国家試験問題解説書, 1998; 医学評論社.
- 10) 矢島俊巳, 田中茂夫: [共著] 植込み型除細動器. 循環器疾患の最新の治療, 1998; pp341-343, 南江堂.
- 11) 清水一雄: [共著] クッシング症候群. 英静脈治療オーダーマニュアル' 98内分泌疾患, 1998; pp281-285, メディカルレビュー.

学会発表

(1996年度追加分)

一般講演：

- 1) Lee R¹⁾, Nitta T, Schuessler R¹⁾, Gay W¹⁾ (1) Washington University) : Mechanism of L-arginine myocardial infarct reduction is primarily an inhibition of reperfusion injury. Forty-sixth Annual Meeting of The American College of Cardiology, 1997. 3.
- 2) Lee R¹⁾, Nitta T, Schuessler R¹⁾, Gay W¹⁾ (1) Washington University) : The mechanism of lidocaine-induced myocardial infarct reduction requires local delivery prior to reperfusion. Forty-sixth Annual Meeting of The American College of Cardiology, 1997. 3.
- 3) 新田 隆, 石井律子, 石井庸介, 小笠原英継, 三上 巖, 山田研一, 菅野重人, 田中茂夫 : 心房細動に対する新しい手術術式 : Radial Approach. 日本医科大学医学会第94回例会, 1997. 2.

(1) 特別講演：

- 1) 清水一雄 : パセドウ病術後永続的甲状腺機能低下症に対する新しい治療の試み—凍結保存甲状腺組織の自家移植—. 第25回内分泌代謝研究会, 1997. 4.
- 2) 田中茂夫 : 植込み型除細動器 (ICD) による不整脈治療の現状と将来の展望. 第6回不整脈研究会, 1997. 5.

(2) 教育講演：

- 1) 田中茂夫 : 植込み型除細動器 (ICD). 第35回日本人工臓器学会大会, 1997. 9.

(3) シンポジウム：

- 1) Kitamura Y, Goodfellow P¹⁾, Shimizu K, Nagahama M, Kitagawa W, Akasu H²⁾, Ito K²⁾, Tanaka S, Wells Jr S¹⁾ (1) Dept of Surgery, Washington University, 2) Ito Hospital) : Mutation analysis of the RET proto-oncogene in Japanese patients with medullary thyroid carcinoma (MTC) : Novel germline and somatic mutations associated with MTC. Tokyo symposium on multiple endocrine neoplasia, 1997. 5.
- 2) Koizumi K, Haraguchi S, Akiyama H, Mikami I, Fukushima M, Kubokura H, Okada D, Tanaka S : Minimally Invasive Combined Therapy for Patients with Small Peripheral Stage 1 Lung Cancer by means of Thoracoscopic Partial resection and Concurrent Internal Radio-therapy. 4th International Symposium on Thoracoscopy and Video-assisted Thoracic Surgery. SaoPaulo, Brazil, 1997. 5.
- 3) 須田雍夫¹⁾, 渡辺秀裕, 内田健二¹⁾, 桑島良夫²⁾, 岸紀代三²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター腹部外科, 2) 埼玉県立がんセンター臨床病理部) : 胃癌術後のTegafur投与時における薬物代謝酵素P450およびThymidylate Synthaseの意義. 第7回全国がん (成人病) センターがん臨床フォーラム, 1997. 6.
- 4) 落 雅美, 山内茂生, 矢島俊巳, 別所竜蔵, 井村 肇, 山田研一, 田中茂夫 : 有茎動脈グラフトのsequential吻合を用いたCABG-遠隔成績より見た適応と手技上の工夫. 第2回日本冠動脈外科学会, 1997. 7.
- 5) 田中茂夫 : 植え込み型除細動器 (ICD) による致死性不整脈治療の適応と将来の展望. 第15回東京不整脈シンポジウム, 1997. 10.
- 6) 小泉 潔, 原口秀司, 秋山博彦, 三上 巖, 福島光浩, 窪倉浩俊, 岡田大輔, 田中茂夫 : 肺癌に対するVATS肺葉切除術—暫定適応症例の術前・術後肺機能からの検討—. 第10回日本内視鏡外科学会総会, 1997. 12.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 落 雅美, 山内茂生, 矢島俊巳, 別所竜蔵, 井村 肇, 山田研一, 田中茂夫, 高山守正²⁾, 高野照夫²⁾ (2) 付属病院集中治療室) : 冠動脈疾患急性期に於ける治療方針—CCUでの緊急手術の指針—. 第2回日本冠動脈外科学会, 1997. 7.
- 2) 落 雅美, 矢島俊巳, 菅野重人, 山田研一, 石井庸介, 小笠原英継, 田中茂夫 : 心拍動下CABGでの工夫と問

題点。関東心臓外科手術手技研究会，1997. 11.

(5) セミナー：

1) 田中茂夫：ICDの現状と展望：第4世代から次世代へ。第3回ICD研修セミナープログラム，1997. 6.

(6) 一般講演：

- 1) Shimizu K, Nagahama M, Kitamura Y, Kitagawa W, Akasu H, Chin K, Igarashi T, Ishii R, Tanaka S : Autotransplantation of Cryopreserved Thyroid Tissue for the Treatment of Permanent Postoperative Hypothyroidism in Patients with Graves' Disease-From Experimental Results. The 6th Asia and Oceania Thyroid Association Congress in Conjunction with the 40th Annual Meeting of Japan Thyroid Association, 1997. 4.
- 2) Nitta T, Yamauchi S, Yajima T, Hosaka H, Imura H, Bessho R, Tanaka S : Wavelength and inhomogeneity of conduction in patients with isolated mitral valve disease and atrial fibrillation. Eighteenth Annual Scientific Sessions of The North American Society of Pacing and Electrophysiology, 1997. 5.
- 3) Yamauchi H, Ninomiya J, Imura H, Iwaki H, Hinokiyama K, Sakamoto S, Tanaka S, Kumazaki T¹⁾ (¹⁾ The Department of Radiology) : Total cavopulmonary connection without the prosthetic material : Post operative evaluation with rotational stereo-digital angiography. The Second World Congress of Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery, 1997. 5.
- 4) Koizumi K, Haraguchi S, Akiyama H, Mikami I, Fukushima M, Kubokura H, Okada D, Tanaka S : Comparison of Pulmonary Function on yne Patient who underwent lobectomy by Video Assisted Thoracic surgery and the one who underwent lobectomy by standard thoracotomy for primary lung cancer. 8th World Congress on Lung Cancer, Dublin, Irland, 1997. 8.
- 5) Akimaru K, Katou S, Iwama H, Onda M : Jejunal pouch reservoir for reconstruction after subtotal gastrectomy. The 37th World Congress of Surgery of the ISS/SIC, Akapuluko, 1997. 8.
- 6) Tenjin T, Suzuki S, Chin K, Koguma K, Watanabe H, Masusima S, Sibuya T, Tanaka S : Relationship between c myc gene amplification and cancer stage as determined by dual color fluorescence in situ hybridization. The First Joint Meeting of Japan Cytometry Society for Analytical Cytology, 1997. 8.
- 7) Ochi M, Yamauchi S, Yajima T, Bessho R, Imura H, Yamada K, Tanaka S : Usfulness of Sequential Anastomoses of InSitu Internal Thoracic and Rigft Gastroepiploic Arteries for multiple Coronary revascularization. 23rd World Congress of The International Society for Cardiovascular Surgery, 1997. 9.
- 8) Suzuki S, Tenjin T, Chin K, Watanabe H, Matsushima S, Shibuya T, Tanaka S : Low level c-myc gene amplification in gastric cancer detected by dual color fluorescence in situ hybridization analysis. The First Joint Meeting of Japan Cytometry Society and International Society for Analytical Cytology, 1997. 10.
- 9) Ochi M, Yamauchi S, Yajima T, Bessho R, Imura H, Yamada K, Tanaka S : Sequential Anastomoses of In situ Arterial grafts for Multiple Coronary Bypass. 13th Biennial Asian Congress on Thoracic and Cardiovascular Surgery, 1997. 10.
- 10) Mikami I, Koizumi K, Yamamoto M¹⁾, Izumo T¹⁾, Nishimura H¹⁾, Haraguchi S, Akiyama H, Ishii R, Tanaka S (¹⁾ Dept of Thoracic Surgery, Saitama Cancer Center) : Surgical intervention in cases of intrathoracic malignant schwannoma. 13th Biennial Asian Congress on Thoracic and Cardiovascular Surgery (Sydney), 1997. 10.
- 11) Nitta T, Schuessler R¹⁾, Lee R¹⁾, Watanabe H¹⁾, Boineau J¹⁾ (¹⁾ Washington University) : Repolarization dynamics assessed by activation-recovery interval mapping. Seventieth Scientific Sessions of The American Heart Association, 1997. 11.

- 12) Suda Y¹⁾, Uchida K¹⁾, Watanabe H, Akazawa S²⁾ (¹⁾ Division of Abdominal Surgery, ²⁾ Division of Gastroenterology) : Long-term survivors after non-curative gastrectomy. 2nd International Gastric Cancer Congress (Germany), 1997.
- 13) Watanabe H, Sakai Y, Yamamoto H, Natori J, Suzuki S, Kodaira Y, Ezure T, Shibuya T, Tanaka S : Surgical treatment for gastric cancer in aged patients over 75 years old. 2nd International Gastric Cancer Congress (Germany), 1997.
- 14) Igarashi T, Suzuki S, Shimada T : A novel strategy for cell targeting by two step gene transfer. Keystone Symposia on Molecular and Cellular Biology of Gene Therapy, 1998. 1.
- 15) Ochi M, Yajima T, Kannno S, Bessho R, Yamada K, Orii K, Tanaka S : Initial experience of coronary artery bypass grafting on a beating heart-Indications and anastomotic techniques. The Annual Meeting of Asian Society for Cardiovascular Surgery, 1998. 1.
- 16) Nitta T, Lee R¹⁾, Watanabe H¹⁾, Harris K¹⁾, Erikson J¹⁾, Schuessler R¹⁾, Boineau J¹⁾, Cox J¹⁾ (¹⁾ Washington University) : Radial Approach : A New Concept in Surgical Treatment for Atrial Fibrillation. Thirty-fourth Annual Meeting of The Society of Thoracic Surgeons, 1998. 2.
- 17) Kitamura Y, Shimizu K, Kitagawa W, Akasu H, Ishii R, Tanaka S : No mutations of p53 gene in patients with medullary thyroid carcinoma. 6th Asian Association of Endocrine Surgeons, 1998. 3.
- 18) Yamashita K, Shimizu K, Kitagawa W, Kitamura Y, Akasu H, Ishii R, Mimura T³⁾, Nagahama M³⁾, Ito J³⁾, Ito K³⁾, Kawamata H¹⁾, Kumazaki T¹⁾, Wakabayash I²⁾, Tanaka S (¹⁾ Dept of Radiology, ²⁾ Dept of Internal Medicine III, ³⁾ Ito Hospital) : A Case of Downhill Esophageal Varices Associated With Recurrent Graves' Disease. 6th Biennial Congress of Asian Association of Endocrine Surgeons, 1998. 3.
- 19) Shimizu K, Kitamura Y, Kitagawa W, Akasu H, Ishii R, Nagae Y¹⁾, Mukai S¹⁾, Ito K²⁾, Miyajima K²⁾, Nagahama M, Sugino K²⁾, Ozaki O²⁾, Mimura T²⁾, Tanaka S (¹⁾ Kousei Hospital, ²⁾ Ito Hospital) : Thyroid disorders requiring urgent surgical management for acute respiratory distress. 6th Biennial Congress of Asian Association of Endocrine Surgeons, 1998. 3.
- 20) Suzuki S, Yajima M, Shimizu K, Kitamura Y, Tanaka S : Aneurysm of superior thyroid artery found to be a cervical tumor-A case report. 6th Biennial Congress of Asian Association of Endocrine Surgeons, 1998. 3.
- 21) Kitagawa W, Ozaki O¹⁾, Shimizu K, Kitamura Y, Akasu H, Ishii R, Nagahama M¹⁾, Ito K¹⁾, Mimura T¹⁾, Ito K¹⁾, Tanaka S (¹⁾ Ito Hospital) : Adenolipoma of the thyroid gland : A case report. 6th Biennial Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons, 1998. 3.
- 22) 鈴木成治, 天神敏博, 渡辺秀裕, 南部弘太郎, 名取穰治, 菅野重人, 山本英希, 長浜充二, 酒井欣男, 小熊将之, 家所良夫, 内山喜一郎, 松島申治, 渋谷哲男, 田中茂夫 : Multi color FISH法を用いた胃癌組織の17番染色体数的異常率とp 53遺伝子欠失率の検討. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 23) 北村 裕, 清水一雄, 長浜充二, 北川 亘, 赤須東樹¹⁾, 伊藤國彦¹⁾, Goodfellow P²⁾, Goodfellow P²⁾ (¹⁾ 伊藤病院, ²⁾ Washington大学外科) : 甲状腺腫瘍連続症例におけるRET遺伝子異常の検討. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 24) 天神敏博, 小熊将之, 鈴木成治, 南部弘太郎, 名取穰治, 菅野重人, 山本英希, 酒井欣男, 長浜充二, 渡辺秀裕, 家所良夫, 内山喜一郎, 松島伸二, 渋谷哲男, 田中茂夫 : 大腸癌におけるdual color FISH法を用いたp 53欠失率の測定. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 25) 北村 裕, 清水一雄, 長浜充二, 北川 亘, 赤須東樹¹⁾, 伊藤國彦¹⁾, Goodfellow P²⁾, 田中茂夫 (¹⁾ 伊藤病院, ²⁾ Washington大学外科) : 臨床的散発性甲状腺腫瘍におけるRET遺伝子異常の検討. 第9回日本内分泌外科学会総会, 1997. 4.

- 26) 相田成隆, 清水一雄, 長浜充二, 北村 裕, 北川 亘, 渋谷哲男, 田中茂夫, 向井佐志彦²⁾, 森超栄太²⁾, 大場英巳²⁾ (²⁾ 倭成病院外科): 乳癌術後CEA高値により発見された甲状腺髄様癌の1例. 第9回日本内分泌外科学会総会, 1997. 4.
- 27) 清水一雄, 北村 裕, 長浜充二, 北川 亘, 田村秀樹, 杉原 仁, 五味由加利, 伊藤國彦¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾ 伊藤病院): 両側副腎腺腫によるCushing症候群. 第9回日本内分泌外科学会総会, 1997. 4.
- 28) 清水一雄, 長浜充二, 北村 裕, 北川 亘, 赤須東樹, 五十嵐健人, 相田成隆, 山本基子, 田中茂夫: パセドウ病術後永続的甲状腺機能低下症に対する新しい治療法: 凍結保存甲状腺自家移植の3例報告. 第9回日本内分泌外科学会総会, 1997. 4.
- 29) 大森裕也, 清水一雄, 北村 裕, 長浜充二, 北川 亘, 原口秀司, Jasmi A, 岡崎恭次, 田中茂夫: 遺伝子診断によるスクリーニングが有用であったMEN2Aの1家計. 第9回日本内分泌外科学会総会, 1997. 4.
- 30) 飯田竹美, 清水一雄, 福島光浩, 北村 裕, 長浜充二, 北川 亘, 杉崎祐一¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾ 病理第一): 巨細胞の密集像を呈した甲状腺原発monocytoid B cell lymphoplastic lymphomaの1例. 第9回日本内分泌外科学会総会, 1997. 4.
- 31) 高津圭介, 清水一雄, 北村 裕, 長浜充二, 北川 亘, 小原邦彦¹⁾, 大場英巳²⁾, 田中茂夫 (¹⁾ 病理, ²⁾ 倭成病院外科): 腎明細胞癌の甲状腺転移を来した1症例. 第9回日本内分泌外科学会総会, 1997. 4.
- 32) 北川 亘, 清水一雄, 江本直也¹⁾, 長浜充二, 北村 裕, 赤須東樹²⁾, 三村 孝²⁾, 伊藤國彦²⁾, 田中茂夫 (¹⁾ 第3内科, ²⁾ 伊藤病院): 腺腫様甲状腺腫術後29年目にAFTNを発症した1例. 第9回日本内分泌外科学会総会, 1997. 4.
- 33) 清水一雄, 江本直也¹⁾, 小野瀬裕之¹⁾, 北村 裕, 長浜充二, 石井律子, 田中茂夫, 伊藤國彦²⁾ (¹⁾ 付属病院第3内科, ²⁾ 伊藤病院): 腎明細胞癌甲状腺転移と甲状腺原発明細胞癌はbFGF組織化学染色法で鑑別できるか?. 第30回甲状腺外科検討会, 1997. 4.
- 34) 落 雅美, 山内茂生, 矢島俊巳, 別所竜蔵, 井村 肇, 山田研一, 岡田大輔, 高津圭介, 川島徹生, 田中茂夫: 他部位血管病変を合併する冠動脈血行再建例の検討. 第25回日本血管外科学会総会, 1997. 5.
- 35) 原口秀司, 小泉 潔, 秋山博彦, 福島光浩, 仁科 大, 田中茂夫: 鎖骨下動静脈を切除再建した右肺尖部胸壁浸潤肺癌の1切除例. 第1回呼吸器手術フォーラム, 1997. 5.
- 36) 窪倉浩俊, 三上 巖, 秋山博彦, 真崎義隆, 原口秀司, 田中茂夫, 西村仁志¹⁾, 山本光伸¹⁾ (¹⁾ 埼玉県立がんセンター胸部外科): pN2長期生存症例に対する検討. 第14回日本呼吸器外科学会総会, 1997. 5.
- 37) 秋山博彦, 小泉 潔, 原口秀司, 三上 巖, 福島光浩, 窪倉浩俊, 飯田竹美, 岡田大輔, 高津圭介, 川島徹生, 鈴木世考, 田中茂夫: 縦隔・胸壁腫瘍に対する胸腔鏡下手術の検討. 第14回日本呼吸器外科学会総会, 1997. 5.
- 38) 三上 巖, 五味測誠, 浅野哲雄, 檜山和弘, 大森裕也, 仁科 大, 岡田大輔, 福島光浩, 窪倉浩俊, 秋山博彦, 原口秀司, 小泉 潔, 田中茂夫: von Recklinghausen病に合併した慢性膿胸の1例. 第14回日本呼吸器外科学会総会, 1997. 5.
- 39) 天神敏博, 鈴木成治, 小熊將之, 渡辺秀裕, 松島伸治, 渋谷哲男, 田中茂夫: Dual Color FISHを用いた大腸癌におけるc-myc gene増幅率の測定. 第7回日本サイトメトリー学会, 1997. 6.
- 40) 山内仁紫, 二宮淳一, 井村 肇, 岩城秀行, 榎本 豊, 仁科 大, 田中茂夫, 武智信幸¹⁾, 大久保隆志¹⁾, 小川俊一¹⁾, 山本正生¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学小児科): 小児開心術におけるTerminal blood cardioplegia の心筋代謝に及ぼす影響. 第33回日本小児循環器学会総会, 1997. 7.
- 41) 小笠原英継, 向井佐志彦¹⁾, 富士崎隆¹⁾, 大場英巳¹⁾ (¹⁾ 立正佼成会付属倭成病院外科): 乳癌術後疼痛に対するICNB (肋間上腕神経ブロック) の有効性に関する検討. 第5回乳癌学会総会, 1997. 7.
- 42) 五十嵐健人, 鈴木 聡¹⁾, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 第二生化): アデノウィルスベクターとレトロウィルスベクターの二重感染による遺伝子導入法の開発. 第70回日本生化学会, 1997. 9.

- 43) 秋丸琥甫, 加藤修志¹⁾, 石黒慎吾¹⁾, 三宅健治¹⁾ (¹⁾ 総合会津中央病院外科): 胃全適後の全小腸捻転による小腸大量切除の1例. 第29回日本腹部救急医学会総会, 1997. 9.
- 44) 天神敏博, 塩谷 猛, 山本英希, 長浜充二, 渡辺秀裕, 松島伸治, 渋谷哲男, 田中茂夫: 大腸癌におけるFISH法を用いたc-myc gene増幅率の測定. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 45) 三上 巖, 小泉 潔, 原口秀司, 秋山博彦, 福島光浩, 窪倉浩俊, 鈴木世考, 岡田大輔, 川島徹生, 榎本 豊, 石井律子, 田中茂夫: 治療に抵抗する発熱を主症状とした肺Inflammatory pseudotumorの1例. 第103回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1997. 9.
- 46) 北村 裕: Mutation analysis of the RET proto-oncogene in patients with medullary thyroid carcinoma. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 47) 北村 裕, 清水一雄, 長浜充二, 北川 亘, 赤須東樹, 五十嵐健人, 石井律子, 伊藤國彦¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾ 伊藤病院): 甲状腺髄様癌におけるp53遺伝子異常の検討. 第30回甲状腺外科検討会, 1997. 10.
- 48) 落 雅美, 山内茂生, 矢島俊巳, 別所竜蔵, 井村 肇, 山田研一, 田中茂夫: 左内胸動脈, 右胃大網動脈によるsequentialバイパス100例の検討. 第50回日本胸部外科学会総会, 1997. 10.
- 49) 原口秀司, 小泉 潔, 三上 巖, 福島光浩, 飯田竹美, 岡田大輔, 川島徹生, 高津圭介, 鈴木世考, 吉野直之, 松島中治, 五味測誠, 田中茂夫: 予測肺機能からみた肺癌肺切除例における術後合併症と予後への影響について. 第50回日本胸部外科学会総会, 1997. 10.
- 50) 小泉 潔, 原口秀司, 秋山博彦, 三上 巖, 福島光浩, 窪倉浩俊, 飯田竹美, 榎本 豊, 岡田大輔, 仁科 大, 川本雄司¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾ 病理第一): 肺気腫外科治療における右心機能の推移. 第45回日本胸部外科学会総会, 1997. 10.
- 51) 窪倉浩俊, 秋山博彦, 西村仁志¹⁾, 山本光伸¹⁾, 武村 明²⁾, 池田 徹²⁾, 酒井 洋²⁾, 野口行雄²⁾, 米田修一²⁾ (¹⁾ 埼玉県立がんセンター胸部外科, ²⁾ 埼玉県立がんセンター呼吸器科): cN2症例における手術成績の検討. 第38回日本肺癌学会総会, 1997. 10.
- 52) 山内仁紫, 二宮淳一, 井村 肇, 岩城秀行, 大森裕也, 仁科 大, 榎本 豊, 田中茂夫: 小児開心術におけるleukocyte-depleted terminal blood cardioplegiaの効果. 第50回日本胸部外科学会, 1997. 10.
- 53) 秋山博彦, 窪倉浩俊, 西村仁志¹⁾, 山本光伸¹⁾ (¹⁾ 埼玉県立がんセンター胸部外科): 当科における転移性肺腫瘍の治療成績. 第50回日本胸部外科学会総会, 1997. 10.
- 54) 三上 巖, 小泉 潔, 原口秀司, 秋山博彦, 福島光浩, 窪倉浩俊, 飯田竹美, 榎本 豊, 岡田大輔, 仁科 大, 川本雅司¹⁾, 田中茂夫 (¹⁾ 病理第一): 右心機能からみた肺癌に対するVATS肺葉切除術の検討: 定型的肺葉切除例との比較. 第50回日本胸部外科学会総会, 1997. 10.
- 55) 岡田大輔: 大細胞癌切除例の検討. 第38回日本肺癌学会総会, 1997. 11.
- 56) 檜山和弘, 吉津 博¹⁾, 羽島信郎¹⁾, 志水正史¹⁾, 瀬川大輔¹⁾, 田中 勸¹⁾ (¹⁾ 防衛医科大学第二外科): 慢性膝窩動脈閉塞の外科治療. 第59回日本臨床外科医学会総会, 1997. 11.
- 57) 秋山博彦, 窪倉浩俊, 西村仁志¹⁾, 山本光伸¹⁾ (¹⁾ 埼玉県立がんセンター胸部外科): 当科における大腸癌肺転移に対する治療成績. 第38回日本肺癌学会総会, 1997. 11.
- 58) 三上 巖, 小泉 潔, 山本光伸¹⁾, 西村仁志¹⁾, 原口秀司, 秋山博彦, 窪倉浩俊, 福島光浩, 岡田大輔, 川島徹生, 田中茂夫 (¹⁾ 埼玉県立がんセンター胸部外科): 病理病期 期小細胞肺癌の検討. 第38回日本肺癌学会総会, 1997. 11.
- 59) 三上 巖, 小泉 潔, 原口秀司, 秋山博彦, 福島光浩, 岡田大輔, 川島徹生, 鈴木世考, 榎本 豊, 田中茂夫: 間質性肺疾患の確定診断のため胸腔鏡下肺生検を行った8例の検討. 第10回日本内視鏡外科学会総会, 1997. 11.
- 60) 岡田大輔: 胸腔鏡下に摘出した上縦隔発生のdumbbell型腫瘍の1症例. 第10回日本内視鏡外科学会総会, 1997. 12.

- 61) 窪倉浩俊, 秋山博彦, 西村仁志¹⁾, 山本光伸¹⁾, 西田一徳²⁾, 小林康人²⁾, 土屋永寿²⁾ (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科, 2) 埼玉県立がんセンター病理部) : 肉腫様変化を伴った肺腺扁平上皮癌の1症例. 第120回日本肺癌学会関東支部会, 1997. 12.
- 62) 秋山博彦, 窪倉浩俊, 西村仁志¹⁾, 山本光伸¹⁾ (1) 埼玉県立がんセンター胸部外科) : 胃癌肺転移症例に対する手術成績. 第35回埼玉県医学会総会, 1998. 1.
- 63) 新田 隆 : 心房細動に対する新しい手術術式 : Radial Approach. 新潟不整脈外科フォーラム98, 1998. 2.
- 64) 新田 隆, 石井律子, 石井庸介, 小笠原英継, 三上 巖, 山田研一, 菅野重人, 落 雅美, 田中茂夫 : 心房細動に対するRadial Approachの経験. 第12回不整脈外科研究会, 1998. 2.
- 65) 清水一雄, 北村 裕, 北川 亘, 赤須東樹, 石井律子, 田中茂夫 : パセドウ病術後永続的甲状腺機能低下症に対する新しい治療の試み : 凍結保存甲状腺組織の自家移植 (基礎から臨床へ). 日本医科大学医学会第94回例会, 1998. 2.
- 66) 清水一雄, 北村 裕, 北川 亘, 天神敏博, 田中茂夫 : モノクローナル抗体HISL-19を応用した消化管腫瘍の組織化学的, 生化学的検討. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 3.

[第二病院外科]

研究概要

心臓血管外科, 呼吸器外科, 乳腺甲状腺内分泌の3大領域に研究の中心を置いている。(1) 心臓血管外科 : 開心術の周術期における心機能に対する諸種の薬剤の薬理効果の研究を行っており, 術後合併症に対する薬剤の効果, 術後管理における有効な心機能改善法の開発に努めている。また, 開心術後の癒着防止に関する研究, 高齢者や合併症を有する心血管手術例の分析, 人工弁と心機能の研究がある。手術手技に関する研究としては, 人工弁置換術等に対するminimally invasive surgeryや心臓手術への胸腔鏡の応用がある。(2) 呼吸器外科領域 : 肺癌症例でOK432に対するlymphocyte stimulation test を行い免疫療法の定量的な効果予測を研究中である。再発肺癌や2次肺癌に対して積極的に手術を行い成績を分析。非癌性肺腫瘍性疾患ではリンパ系腫瘍の検討を行い, 病理遺伝子の診断と臨床的経過との不一致性について報告した。また, 比較的頻度の少ない胸壁腫瘍性病変に対し, 積極的に切除再建術を行い, stainless steel mesh を用いた胸壁再建術や胸腔鏡を併用した手術手技を開発。(3) 乳腺甲状腺内分泌系 : 男性乳癌などの特殊な乳癌に対する臨床研究の他に, 進行性・再発乳癌に対しては術前に局所動注療法施行後に原発巣切除を行い, 集学的治療の有効性妥当性について分析中である。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Hioki M, Iedokoro Y, Yamagishi S, Yamashita Y, Orii K, Hirano S, Hirata T, Masuda S, Kutsukata N, Hisayoshi T, Tanaka S¹⁾ (1) Department of Surgery II) : Prevention of Postoperative Adhesions with a Defibrinogenating Agent. International Surgery 1998 ; 83 (1) : 11-14.
- 2) 日置正文, 増田 栄, 山岸茂樹, 織井恒安, 山下康夫, 平野滋之, 平田知己, 朽方規喜, 久吉隆郎, 小笠原英継¹⁾, 家所良夫, 田中茂夫¹⁾ (1) 第2外科) : 人工弁置換術後心不全に対するアンジオテンシン変換酵素阻害薬の効果. 新薬と臨床 1997 ; 46 (5) : 104-109.
- 3) 細根 勝¹⁾, 佐藤雅史²⁾, 高間都支²⁾, 久吉隆郎, 前田昭太郎¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 田中茂夫³⁾ (1) 第二病理, 2) 第二病院放射線科, 3) 第2外科) : 胸部の悪性リンパ腫. 臨床画像 1997 ; 13 (5) : 530-542.
- 4) 山本眞二¹⁾, 平田知己, 山岸茂樹, 山下康夫, 平野滋之, 朽方規喜, 増田 栄, 久吉隆郎, 日置正文, 田中茂

夫⁽¹⁾ 指扇病院外科) : UFT, Low Dose Cisplatin, Leucovorinの3剤併用術前化学療法が奏効し, 手術可能となった高度進行胃癌の1例. 癌と化学療法 1997; 24 (9) : 1157-1160.

- 5) 朽方規喜, 平野滋之, 平田知己, 久吉隆郎, 日置正文, 田中茂夫¹⁾ (第2外科) : 黄疸を呈した収縮性心膜炎の1例. 日本心臓血管外科学会雑誌 1997; 27 (2) : 111-113.

著書

- 1) 平田知己, 難波 亨, 望月 功¹⁾, 馬越正通²⁾ (第1) 東戸塚記念病院外科, ²⁾ 第二病院消化器病センター) : [分担] True carcinosarcoma の1例. 神奈川県食道疾患懇話会100症例集, 1998; pp223-224, 神奈川県食道疾患懇話会.

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Iedokoro Y, Hioki M, Masuda S, Hisayoshi T, Hirata T, Yamagishi S, Kawamura J, Tanaka S¹⁾ (第1) Department of Surgery II) : Minimally Invasive Mitral Valve Repair and Replacement. The 6th Annual Meeting of ASCVS, 1998. 2.
- 2) Ochi M¹⁾, Yajima T¹⁾, Kanno S¹⁾, Bessho R¹⁾, Yamada K¹⁾, Orii K, Tanaka S¹⁾ (第1) Department of Surgery II) : Initial Experience of Coronary Artery Bypass Grafting on a Beating Heart -Indications and Anastomotic Techniques-. The 6th Annual Meeting of ASCVS, 1998. 2.
- 3) 平田知己, 久吉隆郎, 山下康夫, 山岸茂樹, 朽方規喜, 増田 栄, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫¹⁾ (第2外科) : Completion pneumonectomy症例の外科的検討. 第14回日本呼吸器外科学会, 1997. 5.
- 4) 山下康夫, 久吉隆郎, 平田知己, 山岸茂樹, 朽方規喜, 増田 栄, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫¹⁾ (第2外科) : 感染を合併した気腫性膿胞の2切断例. 第14回日本呼吸器外科学会総会, 1997. 5.
- 5) 久吉隆郎, 平田知己, 山下康夫, 山岸茂樹, 朽方規喜, 増田 栄, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫¹⁾ (第2外科) : 高度胸郭変形に対する呼吸器手術症例の検討. 第14回日本呼吸器外科学会総会, 1997. 5.
- 6) 増田 栄, 日置正文, 家所良夫, 朽方規喜, 久吉隆郎, 平田知己, 平野滋之, 増田 栄, 山下康夫, 山岸茂樹, 森瀬景子¹⁾, 雪吹周生¹⁾, 田中茂夫²⁾ (第1) 第二病院内科, ²⁾ 第2外科) : 急性腹症を呈した感染症心内膜炎の2例. 第102回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1997. 6.
- 7) 平田知己, 久吉隆郎, 日置正文, 山岸茂樹, 織井恒安, 山下康夫, 平野滋之, 増田 栄, 朽方規喜, 家所良夫, 佐藤雅史¹⁾, 松本光司²⁾, 田中茂夫³⁾ (第1) 第二病院放射線科, ²⁾ 第二病院病理部, ³⁾ 第2外科) : 内視鏡的切除を施行した気管支内過誤腫の1例. 第102回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1997. 6.
- 8) 織井恒安, 落 雅美¹⁾, 矢島俊己¹⁾, 菅野重人¹⁾, 山田研一¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 山内茂生²⁾, 別所竜蔵²⁾ (第2外科, ²⁾ 千葉北総病院胸部外科) : 体外循環を使用しない心拍動下冠状動脈バイパス術の経験-低侵襲心拍動下-CABG-. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 9) 久吉隆郎, 平田知己, 三嶋拓也, 川村 純, 山岸茂樹, 山下康夫, 平野滋之, 増田 栄, 家所良夫, 日置正文, 佐藤雅史¹⁾, 松本光司²⁾, 川並汪一³⁾, 田中茂夫⁴⁾ (第1) 第二病院放射線科, ²⁾ 第二病院病理部, ³⁾ 老人病研究所病理部門, ⁴⁾ 第2外科) : 肺リンパ系増殖性疾患症例の検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 10) 川村 純, 日置正文, 家所良夫, 増田 栄, 平田知己, 平野滋之, 山下康夫, 山岸茂樹, 三嶋拓也, 久吉隆郎, 田中茂夫¹⁾ (第2外科) : 胸腔鏡が有用であったペースメーカー挿入後右室穿孔の1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 11) 横田 隆¹⁾, 江見 充¹⁾, 久吉隆郎, 日置正文, 田中茂夫²⁾ (第1) 老人病研究所分子生物学部門, ²⁾ 第2外科) : 乳癌における第8番染色体長腕増幅領域の解析. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 12) 山下康夫, 久吉隆郎, 平田知己, 増田 栄, 平野滋之, 山岸茂樹, 川村 純, 三嶋拓也, 家所良夫, 日置正文,

- 田中茂夫¹⁾ (1) 第2外科)：男性乳癌3切除例の検討。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 13) 山岸茂樹，日置正文，家所良夫，増田 栄，立石淳一¹⁾，雪吹周生¹⁾，田中茂夫²⁾ (1) 第二病院内科，²⁾ 第2外科)：細菌性肺梗塞を呈した動脈管開存症の1例。第103回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1997. 9.
- 14) 平田知己，久吉隆郎，日置正文，川村 純，三嶋拓也，山岸茂樹，山下康夫，織井恒安，平野滋之，増田 栄，朽方規喜，家所良夫，松島伸治¹⁾，田中茂夫¹⁾ (1) 第2外科)：胸壁に発生した骨肉腫の1例。第103回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1997. 9.
- 15) 久吉隆郎，日置正文，家所良夫，平田知己，平野滋之，増田 栄，朽方規喜，山下康夫，田中茂夫¹⁾ (1) 第2外科)：術後経過と呼吸能からみたstainless steel mesh と marlex mesh 胸壁再建法の有用性。第50回日本胸部外科学会総会，1997. 10.
- 16) 佐藤雅史¹⁾，久吉隆郎，平田知己，田中茂夫²⁾ (1) 第二病院放射線科，²⁾ 第2外科)：空洞内に血管気管支を残し発育した肺胞上皮癌の2例—野火型進展症例—。第38回肺癌学会総会，1997. 10.
- 17) 久吉隆郎，平田知己，日置正文，家所良夫，増田 栄，朽方規喜，山下康夫，山岸茂樹，三嶋拓也，川村 純，佐藤雅史¹⁾，田中茂夫²⁾ (1) 第二病院放射線科，²⁾ 第2外科)：肺癌症例におけるOK-432に対するlymphocyte stimulating test と予後に関する検討。第38回日本肺癌学会総会，1997. 10.
- 18) 久吉隆郎，平田知己，山岸茂樹，山下康夫，増田 栄，朽方規喜，家所良夫，日置正文，田中茂夫¹⁾ (1) 第2外科)：原発性胸壁腫瘍切除再建症例の検討。第59回日本臨床外科医学会総会，1997. 11.
- 19) 朽方規喜，保坂浩希¹⁾，山内茂生¹⁾，落 雅美¹⁾，日置正文，田中茂夫¹⁾，寺田功一²⁾ (1) 第2外科，²⁾ 総合会津中央病院循環器科)：出血性ショックを呈した非動脈瘤性特発性左総腸骨動脈破裂の1例。第59回日本臨床外科医学会総会，1997. 11.
- 20) 三嶋拓也，久吉隆郎，平田知己，山岸茂樹，家所良夫，日置正文，田中茂夫¹⁾ (1) 第2外科)：胸囲結核の一手術例。第90回神奈川臨床外科医学会集談会，1997. 11.
- 21) 織井恒安，日置正文，家所良夫，増田 栄，川村 純，三嶋拓也，山岸茂樹，山下康夫，平野滋之，平田知己，久吉隆郎，田中茂夫¹⁾ (1) 第2外科)：腹部大動脈瘤術後約5年を経て突然のショック症状により発症した腹部大動脈十二指腸瘻の一治療例。第768回外科集談会，1998. 3.

[多摩永山病院内視鏡科]

研究概要

平成9年9月に付属第一病院より付属多摩永山病院内視鏡科が移動した。当科では、従来より消化管全般の研究を行っている。東南アジア諸国における上部消化管疾患の現地における調査も順調に進行している。タイ王国 (350例)，中国 (200例)，ベトナム国 (100例) における内視鏡検査の成績も蓄積し，日本人との相違も徐々に明らかとなってきた。さらに，多くの症例の集積，その他の東南アジア諸国 (ラオス，マレーシア，他) との比較，検討も行う予定である。

1) 昨年度に続き，消化器領域において現在最も話題となっているヘリコバクター・ピロリについての研究が中心となっている。ヘリコバクター・ピロリに関する論文発表，海外における特別講演，シンポジウム，国内学会でのワークショップ講演を多数行った。

2) 付属第一病院リウマチ科，病理部との共同研究により，慢性関節リウマチ患者における胃十二指腸疾患の特徴，ヘリコバクター・ピロリ感染を調査し，その成績を国際学会で報告した。

3) 古くから当科の研究テーマである消化管運動に関しては，体表面から測定した胃電図成績を胃電図研究会で発表した。

4) 上部消化管の希な疾患について症例報告を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Wen M¹⁾, Yamada N¹⁾, Zhang Y²⁾, Matsuhisa T (¹⁾ 第一病院病理部, ²⁾ 中国廣州第一軍醫大學南方醫院消化内科) : Morphologic changes of *Helicobacter pylori* after antibacterial therapy : An electron microscopic study. Med Electron Microsc 1997 ; 30 : 131-137.
- 2) 松久威史, 羽山享宏, 飯田章太郎, 新井朱音, 草間 泉, 遠藤まゆみ, 吉原一郎, 井上泰夫, 森 洋, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第一病院病理部) : *Helicobacter pylori*除菌療法の評価. 消化器内視鏡の進歩 1997 ; (50) : 152-156.
- 3) 遠藤まゆみ, 羽山享宏, 井上泰夫, 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第一病院病理部) : 十二指腸潰瘍と*Helicobacter pylori*感染—背景胃粘膜の観察を含めて—. 消化器内視鏡の進歩 1997 ; (50) : 236-237.
- 4) 朝倉啓文¹⁾, 荒木 勤²⁾, 松久威史 (¹⁾ 第一病院産婦人科, ²⁾ 付属病院産婦人科) : 胃癌合併妊娠. 産婦人科の実際 1997 ; 46 : 829-835.
- 5) 松久威史 : 老年者消化性潰瘍におけるM *Helicobacter pylori*感染—内視鏡的胃粘膜性状との関連を含めて—. 日本老年医学会雑誌 1997 ; (34) : 623-630.
- 6) 松倉則夫¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 長谷川博一¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 有馬保生¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 山下精彦¹⁾, 温 敏²⁾, 山田宣孝²⁾, 松久威史 (¹⁾ 外科学第1, ²⁾ 第一病院病理部) : ヘリコバクター・ピロリと胃十二指腸疾患—外科の立場より—. 日医大誌 1997 ; 64 : 479-482.
- 7) 松久威史, 羽山享宏, 飯田章太郎, 井上泰夫, 森 洋, 吉原一郎, 新井朱音, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第一病院病理部) : *Helicobacter pylori*感染と慢性活動性胃炎. 消化器内視鏡の進歩 1998 ; 51 : 142-143.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 松久威史 : *Helicobacter pylori* infection and atrophic gastritis. Chiang Mai University (タイ王国, チェンマイ), 1998. 1.

(2) シンポジウム：

- 1) Matsukura N¹⁾, Onda M¹⁾, Tomtitchong P²⁾, Okawa K¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Matsuhisa T, Yamada N³⁾ (¹⁾ 外科学第1, ²⁾ タイ王国Thammasat大学外科, ³⁾ 第一病院病理部) : *Helicobacter pylori* infection in the gastric remnant after gastrectomy for gastric cancer or peptic ulcer : Difference between Billroth I and II anastomosis. Washington-Shimoda Symposium-The 7th International Symposium on Gastroenterology- (米国, ワシントン), 1997. 5.
- 2) Matsuhisa T, Hayama T, Iida S, Kusama I, Arai A, Yoshihara I, Inoue Y, Mori H, Nakamura H¹⁾, Yoshino S¹⁾, Yamada N²⁾ (¹⁾ 第一病院リウマチ科, ²⁾ 第一病院病理部) : Evaluation of rebamipide in patients with rheumatoid arthritis under NSAIDs and steroid therapy. International Symposium on Inflammation and Mucosal Injury—The 2nd Symposium in Hawaii 1977 (米国, ハワイ), 1997. 6.
- 3) 松久威史 : 幽門螺旋菌感染と萎縮性胃炎の关系. 第3回中日友好*Helicobacter pylori*与胃・十二指腸疾患 Symposium (中国, 北京), 1997. 8.

(3) ワークショップ：

- 1) 松久威史, 森 洋 : 非 *H. pylori* 非 NSAIDs消化性潰瘍の病態. (*H. pylori*陰性の消化性潰瘍の病態). 第39回日本消化器病学会大会, 1997. 10.

(4) 一般講演：

- 1) Tachihara R¹⁾, Nakamura S²⁾, Matsuhisa T (¹⁾ 付属病院皮膚科, ²⁾ 第一病院皮膚科) : Association between

- Helicobacter pylori* infection and chronic urticaria. XVI International Congress of Allergology & Clinical Immunology (カンクン, メキシコ), 1997. 10.
- 2) Nakamura H¹⁾, Yoshino S¹⁾, Nakajima A¹⁾, Miyamoto Y¹⁾, Matsuhisa T, Yamada N²⁾ (¹⁾ 付属病院リウマチ外科, ²⁾ 病理学第2教室): Gastroduodenal lesion and *Helicobacter pylori* infection in patients with rheumatoid arthritis. American College of Rheumatology 61st National Scientific Meeting (米国, ワシントン), 1997. 11.
 - 3) 松久威史, 飯田章太郎, 森 洋: 上部消化管内視鏡検査時の胃電図について—内視鏡検査前との比較—. 第5回胃電図研究会, 1997. 4.
 - 4) 飯田章太郎, 森 洋, 松久威史: 胃電図からみた胃運動機能. 第5回胃電図研究会, 1997. 4.
 - 5) 松久威史, 羽山享宏, 井上泰夫, 飯田章太郎, 新井朱音, 草間 泉, 吉原一郎, 森 洋, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第一病院病理部): *Helicobacter pylori*感染と胃生検部位別にみた組織学的活動性の関連性について. 第83回日本消化器病学会総会, 1997. 4.
 - 6) 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第一病院病理部): 日本人とタイ人における*Helicobacter pylori*感染の比較観察. 第53回日本消化器内視鏡学会総会, 1997. 4.
 - 7) 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第一病院病理部): 日本とタイにおける*Helicobacter pylori*感染の観察. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
 - 8) 松久威史, 羽山享宏, 飯田章太郎, 草間 泉, 井上泰夫, 森 洋, 吉原一郎, 新井朱音, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第一病院病理部): *Helicobacter pylori*感染と慢性活動性胃炎. 第64回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 6.
 - 9) 磯 長光, 松久威史: 内視鏡的に切除した胃好酸球形肉芽腫の1例. 第64回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 6.
 - 10) 濱崎せり¹⁾, 五十嵐司¹⁾, 立原利江子¹⁾, 西原 潔¹⁾, 中村進一¹⁾, 飯田章太郎, 松久威史, 山本泰一²⁾ (¹⁾ 第一病院皮膚科, ²⁾ 戸田中央臨床検査研究所): 顆粒細胞腫の2例. 日本皮膚科学会第730回東京地方会 (合同臨床地方会), 1997. 7.
 - 11) 松久威史, 羽山享宏, 飯田章太郎, 草間 泉, 井上泰夫, 森 洋, 吉原一郎, 新井朱音, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第一病院病理部): *Helicobacter pylori*感染からみた背景胃粘膜の胃炎像. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 12) 井上泰夫, 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第一病院病理部): The Sydney Systemにより診断した組織学的胃炎—*Helicobacter pylori*感染の観点より—. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 13) 権田昌洋, 森 洋, 松久威史, 温 敏¹⁾, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第一病院病理部): The Sydney Systemを用いた組織学的胃炎, *Helicobacter pylori*感染の診断基準. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 14) 磯 長光, 松久威史, 金内秀士¹⁾ (¹⁾ 金内メディカルクリニック): 内視鏡的に切除しえたinflammatory fibroid polypの1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 15) 松久威史, 井上泰夫: *Helicobacter pylori*除菌の胃粘膜萎縮, 腸上皮化生に及ぼす影響—画像解析装置による粘膜血流成績を含めて—. 第54回日本消化器内視鏡学会総会, 1997. 11.
 - 16) 松久威史, 羽山享宏, 井上泰夫, 森 洋, 権田昌洋, 飯田章太郎, 吉原一郎, 新井朱音, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 第一病院病理部): 年齢層別にみた*Helicobacter pylori*感染—活動性scoreとの関連性—. 第65回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 12.
 - 17) 日下部史郎, 羽山享宏, 権田昌洋, 井上泰夫, 飯田章太郎, 森 洋, 吉原一郎, 新井朱音, 松久威史, 山田宣孝¹⁾ (¹⁾ 病理学第2教室): シメチジンを用いた*Helicobacter pylori*に対する3剤除菌療法の検討. 日本医科大学医学会第94回例会, 1998. 2.
 - 18) 権田昌洋, 井上泰夫, 松久威史: 内視鏡的十二指腸ポリペクトミー後に心因性夢幻状態を来した1症例. 第248回日本消化器病学会関東支部例会, 1998. 2.

[千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科]

研究概要

北総病院胸部外科は常に付属病院第二外科と密接な関係をもち、主に心臓血管の循環器疾患と、肺・呼吸器・胸壁疾患の外科治療を行っている。昨年度に比べて本年度は手術症例も増加し、治療内容がさらに充実してきた。

本年度は循環器については「不整脈の外科」に関する研究が多かった。虚血性心疾患や大動脈瘤に対する手術も倍増しており、これらに関する研究も積極的に行っている。呼吸器では従来の手術適応や術後のQOLに関する研究もより幅広く継続しつつある。また、肺癌を中心に胸腔鏡だけでなく最新機器の積極的な導入・開発を行い、研究を進めている。切除手術適応外の症例にもその治療成績向上のために内科と協力し様々な研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yamauchi S, Imura H, Bessho R, Yamada K, Tanaka S : Simultaneous Surgical Correction of a Common Atrium and Impure Flutter. *Ann Thorac Surg* 1997 ; 64 : 548-552.
- 2) Bessho R, Tanaka S : Measurement of the upper limit of vulnerability during defibrillator implantation can substitute defibrillation threshold measurement. *Int J Artif Organs* 1998 ; 21 (3) : 151-160.
- 3) Yamauchi S, Boineau J¹⁾, Schuessler R¹⁾, Cox J¹⁾ (¹⁾ Washington University School of Medicine, Barnes Hospital) : Varying Types of Circus Movement Re-entry With Both Normal and Dissociated Contralateral Conduction Causing Different Right and Left Atrial Rhythms in Canine Atrial Flutter. *Japanese Circulation Journal* 1998 ; 62 (3) : 201-210.
- 4) 真崎義隆, 山本光伸¹⁾, 西村 仁¹⁾, 五味潤誠, 田中茂夫²⁾ (¹⁾ 埼玉県立がんセンター胸部外科, ²⁾ 日本医科大学第2外科) : 肺癌に対するエタノール注入療法. *胸部外科* 1997 ; 50 (5) : 384-388.
- 5) 真崎義隆, 笹井 巧¹⁾, 五味潤誠, 原口秀司²⁾, 田中茂夫²⁾ (¹⁾ 海老名総合病院呼吸器科, ²⁾ 日本医科大学第2外科) : 開胸術後疼痛に対する胸腔内局麻剤注入法の効果について. *日本呼吸器外科学会雑誌* 1997 ; 11 (5) : 609-613.
- 6) 真崎義隆, 五味潤誠, 田中茂夫¹⁾, 笹井 巧²⁾ (¹⁾ 日本医科大学第2外科, ²⁾ 海老名総合病院呼吸器科) : 原発巣不明肺門縦隔リンパ節癌の本邦報告例の検討. *胸部外科* 1997 ; 50 (9) : 743-747.
- 7) 別所竜蔵, 山田研一, 矢島俊巳, 田中茂夫 : 植込み型除細動器の現状と将来. *診断と治療* 1997 ; 85 (9) : 1661-1666.
- 8) 山内茂生, 井村 肇, 別所竜蔵, 山田研一, 矢島俊巳, 山内仁紫, 二宮淳一, 田中茂夫 : 成人先天性心疾患と心房細動の一期的手術. *心臓* 1997 ; 29 (3) : 19-24.

著書

- 1) 別所竜蔵, 田中茂夫 : [分担] ICD各機種の特徴と機能 (CPI社製ICD). 植込み型除細動器の臨床, 1998 ; pp113-137, 医学書院.
- 2) 五味潤誠 : [分担] 肺動静脈瘻. 呼吸器疾患最新の治療, 1998 ; pp333-334, 南江堂.

学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) 五味潤誠, 真崎義隆, 三上 巖, 窪倉浩俊, 檜山和裕, 岡田大輔, 仁科 大, 大森裕也, 浅野哲雄, 田中茂

夫：他臓器合併切除を要する悪性縦隔腫瘍の治療。第14回日本呼吸器外科学会，1997。5。

(2) 一般講演：

- 1) Enomoto Y, Shimizu K, Haraguchi S, Omori H, Kitamura Y, Ishii R, Fukunari N¹⁾, Tanaka S (1) JR Tokyo Hospital) : Vertebral metastasis from follicular carcinoma of the thyroid representing the elevation of serum thyroglobulin. 11th Meeting of Asian-Pacific Endocrine Conference, 1998. 1.
- 2) 真崎義隆, 笹井 巧¹⁾, 五味測誠, 田中茂夫²⁾ (1) 海老名総合病院呼吸器科, 2) 日本医科大学第2外科) : 原発巣不明縦隔リンパ節転移癌に関する検討。第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 3) 真崎義隆, 笹井 巧¹⁾, 田中茂夫²⁾ (1) 海老名総合病院呼吸器科, 2) 日本医科大学第2外科) : 胸腔胸手術時にブラ, プレブを認めない自然気胸について。第37回日本胸部疾患学会総会, 1997. 4.
- 4) 別所竜蔵, 落 雅美, 山内茂生, 矢島俊巳, 井村 肇, 山田研一, 山内仁紫, 二宮淳一, 田中茂夫 : 緊急冠動脈バイパス術の手術成績と遠隔期予後。第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 5) 別所竜蔵, 浅野哲雄, 五味測誠, 真崎義隆, 檜山和弘, 藤井正大, 大森裕也, 新田 隆¹⁾, 矢島俊巳¹⁾, 山田研一¹⁾, 田中茂夫¹⁾ (1) 日本医科大学) : 致死性心室性不整脈に対する植込み型除細動器治療。日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 6) 三上 巖, 五味測誠, 浅野哲雄, 檜山和弘, 大森裕也, 仁科 大, 岡田大輔, 福島光浩, 窪倉浩俊, 秋山博彦, 原口秀司, 小泉 潔, 田中茂夫 : von Recklinghausen病に合併した慢性肺胸の1例。第14回日本呼吸器外科学会, 1997. 5.
- 7) 別所竜蔵, 山田研一, 新田 隆, 山内茂生, 矢島俊巳, 井村 肇, 田中茂夫, 齊藤義明¹⁾ (1) 新潟大学工学部) : 電荷の蓄積による心室細動の誘発。第12回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会, 1997. 6.
- 8) 大森裕也, 五味測誠, 杉本忠彦, 真崎義隆, 別所竜蔵, 三上 巖, 岡田大輔, 鈴木世考, 浅野哲雄, 田中茂夫 : 術後G-CSFが高値を示した肺大細胞癌副腎転移の1症例。第102回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1997. 6.
- 9) 別所竜蔵¹⁾, 新田 隆¹⁾, 矢島俊巳¹⁾, 山内茂生¹⁾, 井村 肇¹⁾, 山田研一¹⁾, 落 雅美¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 浅野哲雄 (1) 日本医科大学第2外科) : 心内膜電極を用いた非開胸法による植込み型除細動器手術の検討一より低侵襲な手術をめざして一。第50回日本胸部外科学会総会, 1997. 10.
- 10) 真崎義隆, 五味測誠, 藤井正大, 大森裕也, 田中茂夫¹⁾, 笹井 巧²⁾, 山野義光²⁾ (1) 日本医科大学第2外科, 2) 海老名総合病院呼吸器科) : 診断に胸腔胸が有用であったBilateral multiple pleural plaquesの1例。第38回日本肺癌学会総会, 1997. 11.
- 11) 橋元恭士¹⁾, 日野光紀¹⁾, 林原賢治¹⁾, 古田知行¹⁾, 伊藤永喜¹⁾, 小俣雅稔¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 奈良道也¹⁾, 水野杏一¹⁾, 五味測誠, 大秋美治²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院病理部) : 胸膜直下の小結節影を経過観察中, 3ヶ月後に胸膜播種性転移で発症した肺小細胞癌の1例。東葛肺癌研究会, 1997. 11.
- 12) 海老沢雅子¹⁾, 伊藤永喜¹⁾, 日野光紀¹⁾, 林原賢治¹⁾, 古田知行¹⁾, 上原隆志¹⁾, 榊原桂太郎¹⁾, 水野杏一¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 真崎義隆, 五味測誠, 大秋美治²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院内科, 2) 日本医科大学千葉北総病院病理部) : 抗癌剤化学療法中にG-CSF値を追った肺未分化大細胞癌の1例。第120回日本肺癌学会関東部会, 1997. 12.

11. 脳神経外科学講座

[付属病院脳神経外科]

研究概要

脳神経外科学教室の研究グループは、下垂体班、腫瘍班、血管班及び外傷班の4つに分かれており、それぞれ10名前後が属している。各グループは毎月ミーティングを行い、研究の方向性、テーマ、学会対策等を検討している。

平成9年度、下垂体班には山王講師が加わり、その研究内容は一挙に向上した。主な研究内容は人や実験動物の下垂体及び下垂体腫瘍に関する機能的病理学である。免疫組織化学, in site hybridization. さらにin situ RT-PCR免疫電顕等を用いてその病態の分析を行っている。これらに関する昨年度の英文論文はグループとして14編にのぼる(和文12編)。

脳腫瘍班では、悪性脳腫瘍の治療計画の立案と実施、その基礎的裏付けの実験等を行っている。さらに病理学教室の協力を得て、神経病理検討会を主催している。英文1編、和文6編を発表した。

血管班では脳血管障害に対する治療プロトコルの作成と実施、さらに脳浮腫や脳血管攣縮の基礎実験を行っている。英文1編、和文5編を出した。

外傷班では、実験頭部外傷モデルを用いて脳浮腫、脳損傷と脳保護薬の効果検証している。救命救急科と共同で低温治療法の治療成績や治療下の病態分析も行っている。英文1編、和文3編を発表した。

上記いずれの範疇にも属さない業績として英文3編の報告があった。なお、著書(分担)は27編、学会発表等は109題であった。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Sanno N, Sugawara A¹⁾, Teramoto A, Abe Y²⁾, Yen PM³⁾, Chen WW⁴⁾, Osamura RY⁴⁾ (1) 2nd Department of Internal Medicine, Tohoku University School, 2) Internal Medicine, Tokai University School of Medicine, 3) Division of Genetics, Department of Medicine, Brigham and Wome, 4) Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Immunohistochemical Expression of Retinoid X Receptor Isoforms in Human Pituitaries and Pituitary Adenomas. *Clinical Neuroendocrinology* 1997 ; 65 (4) : 299-306.
- 2) Matsuno A, Takekoshi S, Sanno N, Utsunomiya H, Ohsugi Y, Saito N, Kanemitsu H, Tamura A, Nagashima T, Osamura RY¹⁾, Watanabe K (1) Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Modulation of Protein Kinases and Microtubule-associated Proteins and Changes in Ultrastructure in Female Rat Pituitary Cells : Effects of Estrogen and Bromocriptine. *J Histochem Cytochem* 1997 ; 45 (6) : 805-813.
- 3) Takano K, Takano J, Teramoto A, Fujita T : Gi3 mediates somatostation-induced activation of an inwardly rectifying K⁺ current in human growth hormone-secreting adenoma cells. *Endocrinol* 1997 ; 138 (6) : 2405-2409.
- 4) Sanno N, Jin L¹⁾, Qian X¹⁾, Osamura RY²⁾, Scheithner B¹⁾, Kovacs K³⁾, Lloyd R¹⁾ (1) Department of Laboratory Medicine and Pathology and Division, 2) Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, 3) Department of Pathology, St. Michael Hospital, University of To) : Gonadotropin releasing

- hormone mRNA and gonadotropin releasing hormone receptor mRNA expression in pituitaries and pituitary adenomas. *J Clin Endocrinol Metab* 1997 ; 82 (6) : 1974-1982.
- 5) Abe T¹⁾, Sanno N, Osamura RY²⁾, Matumoto K¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Showa University School of Medicine, ²⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Proliferative Potential in Pituitary Adenomas : Measurement by Monoclonal Antibody MIB-1. *Acta Neurochir (Wien)* 1997 ; 139 (7) : 613-618.
 - 6) Jin L¹⁾, Qian X¹⁾, Kulig E¹⁾, Sanno N, Scheithauer B¹⁾, Kovacs K²⁾, William F Y³⁾, Lloyd R¹⁾ (¹⁾ Department of Laboratory Medicine and Pathology and Division, ²⁾ Department of Pathology, St. Michael Hospital, University of Toronto, ³⁾ Metabolism and Internal Medicine, Mayo Clinic) : Transforming Growth Factor- β , Transforming Growth Factor- β Receptor II, and p27Kip1 Expression in Nontumorous and Neoplastic Human Pituitaries. *Am J Pathol* 1997 ; 151 (2) : 509-519.
 - 7) Sanno N, Teramoto A, Osamura RY¹⁾, Genka S, Katakami H, Jin L²⁾, Lloyd R²⁾, Kovacs K³⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, ²⁾ Department of Laboratory Medicine and Pathology and Division, ³⁾ Department of Pathology, St. Michael Hospital, University of Toronto) : A growth hormone-releasing hormone-producing pancreatic islet cell tumor metastasized to the pituitary is associated with pituitary somatotroph hyperplasia and acromegaly. *J Clin Endocrinol Metab* 1997 ; 82 (8) : 2731-2737.
 - 8) Sugawara A¹⁾, Sanno N, Takahashi N¹⁾, Osamura RY²⁾, Abe K (¹⁾ 2nd Department of Internal Medicine, Tohoku University School, ²⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Retinoid X receptors in the kidney : Their protein expression and functional significance. *Endocrinol* 1997 ; 138 (8) : 3175-3180.
 - 9) Abe T¹⁾, Matsumoto K¹⁾, Iida M¹⁾, Hayashi M¹⁾, Sanno N, Osamura RY²⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Showa University School of Medicine, ²⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Malignant Carcinoid Tumor of The Anterior Mediastinum Metastasis To A Prolactin-Secreting Pituitary Adenoma : A Case Report. *Surg Neurol* 1997 ; 48 (4) : 389-394.
 - 10) Sanno N, Itoh J¹⁾, Teramoto A, Itoh Y¹⁾, Hori S¹⁾, Osamura RY¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Immunohistochemical detection of human natural pituitary adenomas, using monoclonal antibody NK-1. *J Neuro-Oncol* 1997 ; 35 (1) : 29-38.
 - 11) Takahashi H, Teramoto A, Takakura K¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Tokyo Women's University School of) : Biological response modifiers and central nervous system in oncology. *Crit Rev Neurosurg* 1997 ; 7 : 373-379.
 - 12) Sanno N, Osamura RY¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Molecular pathology of the pituitary adenomas. *Endocrin Pathol* 1997 ; 8 : 137-142.
 - 13) Muramatsu H, Shimura T, Matsumoto M, Isayama K, Teramoto A : Recovery of stroke hemiplegic grade in chronic stage : Outcome through neurosurgical intervention. *IRMAVIII* 1997 ; 1587-1592.
 - 14) 志村俊郎¹⁾, 寺本 明, 相原 薫 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : ラット実験脳腫瘍における抗癌剤持続局所注入療法の病理組織学およびオートラジオグラフィ法による研究—急性期実験モデルを中心に—. *癌と化学療法* 1997 ; 24 : 713-718.
 - 15) 勝又規行, 田中敏章, 長谷川行洋, 寺本 明 : コスミック社製RIAキットを用いたインスリン様成長因子結合蛋白-3 (IGFBP-3) 測定の基礎的および臨床的検討. *ホルモンと臨床* 1997 ; 45 (5) : 509-517.
 - 16) 川本俊樹, 池田幸穂¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 付属病院救急医学) : ラット一過性前脳虚血時におけるL-histidine (singletoxygenscavenger) の脳保護効果. *BRAIN and NERVE* 1997 ; 49 (7) : 612-618.
 - 17) 田原重志, 池田幸穂¹⁾, 野手洋治, 寺本 明, 諫山和男²⁾, 高木 亮³⁾, 隈崎達夫³⁾ (¹⁾ 付属病院救急医学,

- 2) 目白病院脳神経外科, 3) 付属病院放射線科) : 破裂椎骨動脈瘤に対するproximal clipping術後評価における3D-CTAの有用性. 脳神経外科 1997; 25 (8) : 695-700.
- 18) 濱田 浩, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明, 吉井利郎 (¹⁾ 第二病院脳神経外科) : Arginine Vasopressin (AVP) 分泌抑制剤RU599の腫瘍性脳浮腫に対する抑制効果について. 脳神経 1997; 49 (10) : 1001-1006.
- 19) 寺本 明 : 高齢者下垂体腫瘍に対する経蝶形骨手術. Geriatric Neurosurgery 1997; 9 : 37-40.
- 20) 杉山 誠, 太組一朗, 寺本 明, 山王直子, 長村義之¹⁾, Wylie V (¹⁾ 東海大学医学部病態診断系病理学) : 下垂体腺腫におけるIngibin α, β Aの免疫組織学的検討. ホルモンと臨床 1997; 45 (臨時増刊号).
- 21) 田原重志, 杉山 誠, 太組一朗, 山王直子, 寺本 明, 長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学医学部病態診断系病理学) : 下垂体腺腫におけるSynaptophysin, Chromogranin A,Bの免疫組織科学的検討. ホルモンと臨床 1997; 45 (冬期増刊号) : 86-89.
- 22) 喜多村孝幸, 寺本 明 : 脳血管障害を伴い高トリグリセライド (TG) 血症を有する閉塞性動脈硬化症患者におけるシロスタゾールの血清脂質に対する効果. Jpn Pharmacol Ther 1997; 25 : 1391-1393.
- 23) 松野 彰¹⁾, 宇都宮洋才, 竹腰 進, 山王直子, 長村義之²⁾, 大杉芳孝, 長島 正¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 帝京大学市原病院脳神経外科, ²⁾ 東海大学医学部病態診断系病理学) : ラット下垂体細胞におけるGHとGH mRNAの細胞内局在の電顕的二重染色法による検討—免疫電顕と電顕in situ hybridization. ホルモンと臨床 1997; 45 (臨時増刊号) : 15-18.
- 24) 山王直子, 杉山 誠, 太組一朗, 田原重志, 寺本 明, 長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学医学部病態診断系病理学) : 下垂体腺腫におけるRetinoid X receptorとPit-1mRNAの発現. 脳神経外科速報 1997; 7 : 379-384.
- 25) 山王直子, Lloyd R¹⁾, 寺本 明, 長村義之²⁾ (¹⁾ Department of Laboratory Medicine and Pathology and Division, ²⁾ 東海大学医学部病態診断系病理学) : In situ PCR法とその応用—ヒト下垂体腺腫におけるgonadotropin releasing hormone (GnRH) mRNAおよびGnRH receptor mRNAの検出. 病理と臨床 1997; 15 : 363-366.
- 26) 志村俊郎¹⁾, 向井敏二, 寺本 明, 戸田茂樹, 山本保博, 中村俊彦, 高取健彦, 遠藤任彦 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : 頭部銃創例の臨床病理学的研究. 脳神経外科 1997; 25 : 607-612.
- 27) 杉山 誠, 太組一朗, 山王直子, 寺本 明, 長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学医学部病態診断系病理学) : プロラクチン産生腺腫にGerminomaを合併した稀な1症例. ホルモンと臨床 1997; 45 (秋季増刊号).
- 28) 村松 光¹⁾, 戸田茂樹, 松本正博²⁾, 志村俊郎²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 春日居リハビリテーション病院内科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : リハビリテーション経過中に発症した正常圧水頭症の治療経験—圧可変式シャントシステムを用いた1症例—. リハビリテーション医学 1997; 34 : 605-609.
- (2) 綜説 :
- 1) 寺本 明 : 原著を探る—末端肥大症Acromegaly. Clinical Neuroscience 1997; 15 (7) : 100.
- 2) 山王直子, 寺本 明 : 脳とホルモン視床下部-下垂体と松果体—脳外科の立場から. Clinical Neuroscience 1997; 15 (11) : 1279-1283.
- 3) 田原重志, 寺本 明, 長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学医学部病態診断系病理学) : 下垂体細胞・腺腫における分泌顆粒の形成, 放出の分子機構に関する最近の知見. 脳神経外科速報 1997; 7 : 795-802.
- 4) 高橋 弘¹⁾, 足立好司, 山口文雄¹⁾, 志村俊郎²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科) : Low grade gliomaの治療方針について. Neuro Oncology 1997; 7 : 61-62.
- 5) 寺本 明 : Leurence-Moon-Biedle症候群. Clinical Neuroscience 1997; 15 : 100.
- 6) 山王直子, 寺本 明 : 下垂体機能低下症. 臨床栄養 1997; 91 (臨時増刊号) : 421-423.
- 7) 田原重志, 寺本 明 : 特殊検査—下垂体・海綿静脈洞血サンプリング. ホルモンと臨床 1997; 45 (増刊号) : 164-166.

- 8) 山王直子, 長村義之¹⁾ (1) 東海大学医学部病態診断系病理学): Pit-1異常症, Combined pituitary hormone deficiency and Pit-1. 病理と臨床 1997; 15 (臨時増刊号): 138.

著 書

- 1) 寺本 明: [自著] 糖タンパクホルモン産生腫瘍. EBM現代内科学, 1997; pp1114-1116.
- 2) 寺本 明: [自著] 7.脳下垂体. 看護のための基礎知識—脳神経疾患—, 1997; pp340-363, 真興交易.
- 3) 寺本 明: [自著] 選択的海綿静脈洞サンプリング. 内分泌・代謝疾患—state of arts—, 1997; pp154-156.
- 4) 寺本 明: [自著] 下垂体腫瘍—Acromegaly, Prolactinoma—. 図説 脳神経外科New Approach.間脳・下垂体, 1997; pp96-105, メディカルビュー社.
- 5) 野手洋治, 寺本 明: [共著] トルコ鞍・斜台. 手術に必要な機能・解剖学. 図説 脳神経外科New Approache, 頭蓋底, 1997; メディカルビュー社.
- 6) 喜多村孝幸: [自著] 脊髄電気刺激. キーワードを読む脳・神経, 1997; p113, 医学書院.
- 7) 山王直子, 長村義之¹⁾ (1) 東海大学病態診断系病理学): [共著] Pit-1タンパク. キーワードを読む脳・神経, 1997; p127, 医学書院.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) Kitamura T, Teramoto A: The Clinical efficacy of very small diameter neuroendoscopy in spinal cord stimulation. Bakken Research Center Seminar Maastricht (Netherland), 1997. 6.
- 2) Teramoto A: Technical aspects of transsphenoidal surgery for pituitary tumores. 1st Meeting of Indonesian College of Neurosurgery (Jakarta), 1997. 11.
- 3) Teramoto A: Recent management of functioning pituitary adenomas. 1st Meeting of Indonesian College of Neurosurgery (Jakarta), 1997. 11.
- 4) 寺本 明: 脳下垂体腫瘍の診断と治療—最近の動向—. 東京医科大学脳神経外科講習会, 1997. 4.
- 5) 寺本 明: 経蝶形骨下垂体手術—手術のコツと合併症の対策—. 第20回金剛脳神経外科コロキウム, 1997. 5.
- 6) 寺本 明: 下垂体腫瘍の基本手術手技. 第7回秋田脳神経外科ビデオシンポジウム, 1997. 7.
- 7) 寺本 明: Cushing病の診断と治療. 第16回ニセコカンファランス, 1997. 8.
- 8) 寺本 明: 脳下垂体腫瘍の診断と治療. 山形大学特別講演会, 1997. 12.

(2) 招待講演:

- 1) 寺本 明: Pituitary incidentalomaの頻度と治療方針—1000例の剖検下垂体の検索により—. 第6回脳神経外科手術と機器学会, 1997. 5.
- 2) 寺本 明: Pituitary incidentalomaの頻度と治療方針—1000例の剖検下垂体の検索より—. 第6回日本脳ドック学会総会, 1997. 5.

(3) 教育講演:

- 1) 寺本 明: 経蝶形骨手術のスタンダード. 第6回脳神経外科手術と機器学会, 1997. 5.

(4) シンポジウム:

- 1) Sanno N, Osamura RY¹⁾ (1) 東海大学病態診断系病理学): Molecular Pathology Adenomas. 第86回日本病理学会, 1997. 6.
- 2) 喜多村孝幸, 寺本 明: 中心溝近傍腫瘍に対するニューロナビゲーター皮質SEP併用の意義. 第1回ニューロナビゲーターセミナー, 1997. 10.
- 3) 寺本 明: Pituitary incidentalomaの治療方針—剖検下垂体1000例の検索及び臨床例の分析—. 第56回日本脳神

- 経外科学会, 1997. 10.
- 4) 山王直子, 寺本 明, Lloyd R¹⁾, 長村義之²⁾ (1) Department of Pathology, St. Michael Hospital, University of To, 2) 東海大学病態診断系病理学): 下垂体腺腫におけるRT-PCR, In situ RT-PCR法による微量遺伝子の解析. 第8回日本間脳下垂体腫瘍学会, 1998. 1.
 - 5) 吉田陽一, 山王直子, 足立好司, 喜多村孝幸, 野手洋治, 寺本 明: Cushing症候群に対する海綿静脈洞Multi spot samplingの有用性. 第8回日本間脳下垂体腫瘍学会, 1998. 1.
- (5) セミナー:
- 1) 寺本 明: 脳腫瘍の症例を中心に. 第2回脳神経外科看護セミナー, 1997. 7.
- (6) 一般講演:
- 1) Yamaguchi F, Takahashi H, Teramoto A: Expression of Telomerase RNA component in glioma and its application for glioma gene therapy. The 65th Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons (Denver), 1997. 4.
 - 2) Kitamura T, Teramoto A, Manaka S: Effect of calcium antagonist on spreading depression in migraine. 8th CONGRESS of The International Headache Society (Amsterdam), 1997. 6.
 - 3) Sanno N, Jin L¹⁾, Osamura RY²⁾, Teramoto A, Lloyd R³⁾ (1) Department of Laboratory Medicine and Pathology and Division, 2) Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, 3) Department of Pathology, St. Michael Hospital, University of To): Gonadotropin releasing hormone and Gonadotropin releasing hormone receptor messenger RNA expression in nontumorous and neoplastic human pituitaries. 79th Annual Meeting of the Endocrine Society (Minneapolis), 1997. 6.
 - 4) Node Y, Teramoto A: The use of hydroxyapatite ceramics in the reconstruction of surgical skull defects following a frontotemporal approach. 11th International Congress Neurological Surgery (Amsterdam), 1997. 7.
 - 5) Node Y, Teramoto A: Clinical features of elderly patients with meningioma. 11th International Congress Neurological Surgery (Amsterdam), 1997. 7.
 - 6) Takahashi H, Adachi K, Yamaguchi F, Teramoto A: Usefulness of immunotherapy combined with chemotherapy for pontine glioma. 11th International Congress Neurological Surgery (Amsterdam), 1997. 7.
 - 7) Muramatsu H, Shimura T, Matsumoto M, Isayama K, Teramoto A: Recovery of stroke hemiplegic grade in chronic stage: Outcome through neurosurgical intervention. 8th World Congress of The International Rehabilitation Medicine Association (Kyoto), 1997. 9.
 - 8) Hoshino S, Kobayashi S, Furukawa T, Oaki Y, Mori O, Shimura T, Teramoto A: Early alzheimer-like brain damage in chronic stage of fluid-percussion injury in rat brain. 13th International Congress of Neuropathology (Australia), 1997. 9.
 - 9) 志村俊郎¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 寺本 明, 松本正博¹⁾, 水成隆之³⁾, 星野 茂³⁾, 高橋 弘⁴⁾, 片山博徳²⁾, 大秋美治⁵⁾ (1) 多摩永山病院脳神経外科, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 千葉北総病院脳神経外科, 4) 第二病院脳神経外科, 5) 千葉北総病院病理部): 小脳血管芽腫の免疫組織学および電子顕微鏡学的検討. 第15回日本脳腫瘍病理学会, 1997. 4.
 - 10) 高橋 弘¹⁾, 足立好司, 山口文雄¹⁾, 志村俊郎²⁾, 寺本 明 (1) 第二病院脳神経外科, 2) 多摩永山病院脳神経外科): Low grade gliomaの治療方針について. 第13回ニューオンコロジーの会, 1997. 4.
 - 11) 杉山 誠, 太組一朗, 野手洋治, 寺本 明, 山王直子, 長村義之¹⁾ (1) 東海大学病態診断系病理学): 鞍内, 鞍上部に発生したGerminomaにプロラクチン産生腺腫を合併した稀な1症例. 神経病理学会, 1997. 5.
 - 12) 星野 茂¹⁾, 小林士郎¹⁾, 古川哲也, 志村俊郎²⁾, 寺本 明, 小黑辰夫³⁾, 森 修³⁾, 大秋美治³⁾ (1) 千葉北総

- 病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ³⁾ 千葉北総病院病理部): 実験的頭部外傷慢性期における早期アルツハイマー病様脳障害. 第38回日本神経病理学会総会, 1997. 5.
- 13) 山王直子, 湯河 茂, 田原重志, 杉山 誠, 太組一朗, 片上秀喜¹⁾, 長村義之²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 宮崎医科大学第3内科, ²⁾ 東海大学病態診断系病理学): GHRH産生転移性下垂体腫瘍の下垂体における分子免疫組織科学的検討. 第38回日本神経病理学会総会, 1997. 5.
- 14) 田原重志, 杉山 誠, 太組一朗, 山王直子, 寺本 明, 片上秀喜¹⁾, 長村義之²⁾ (¹⁾ 宮崎医科大学第3内科, ²⁾ 東海大学病態診断系病理学): ラット下垂体細胞におけるRab3蛋白の免疫組織科学的研究. 第38回日本神経病理学会総会, 1997. 5.
- 15) 吹野晃一, 梅岡克哉, 喜多村孝幸, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科): 頭蓋内静脈洞系の拡大・頭皮下血管腫・脳回形成異常を呈した1症例. 第25回日本小児神経外科学研究会, 1997. 5.
- 16) 高橋 弘¹⁾, 山口文雄¹⁾, 渡辺国博, 杉山 誠, 佐々木光由¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科): 術前診断が困難な若年者傍鞍部腺腫瘍について. 第25回小児神経外科学研究会, 1997. 5.
- 17) 山王直子: 下垂体腺腫における転写活性因子と核内受容体の発現—分子病理学的手法を用いて. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 18) 杉山 誠, 太組一朗, 田原重志, 寺本 明, 山王直子, 長村義之¹⁾, 諸橋憲一郎²⁾ (¹⁾ 東海大学病態診断系病理学, ²⁾ 九州大学分子生命科学教室): ヒト正常下垂体, 下垂体腺腫におけるAd4BPの発現の免疫組織化学検討. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 19) 田原重志, 杉山 誠, 太組一朗, 山王直子, 寺本 明, 片上秀喜¹⁾, 長村義之²⁾ (¹⁾ 宮崎医科大学第3内科, ²⁾ 東海大学病態診断系病理学): ラット下垂体細胞におけるRab3蛋白の免疫組織化学的検討. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 20) 山王直子, 寺本 明, Jin L¹⁾, Lloyd R²⁾, 杉山 誠, 太組一朗, 田原重志, 長村義之³⁾ (¹⁾ Department of Laboratory Medicine and Pathology and Division, ²⁾ Department of Pathology, St. Michael Hospital, University of To, ³⁾ 東海大学病態診断系病理学): 下垂体腺腫におけるGonadotropin releasing hormone (GnRH) , GnRH receptorの発現—in situ RT-PCR法による解析—. 第70回内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 21) 田原重志, 杉山 誠, 太組一朗, 山王直子, 寺本 明, 片上秀喜¹⁾, 長村義之²⁾ (¹⁾ 宮崎医科大学第3内科, ²⁾ 東海大学病態診断系病理学): ラット下垂体細胞におけるRab3蛋白の免疫組織化学的研究. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 22) 山王直子, 寺本 明, 杉山 誠, 太組一朗, 菅原 明¹⁾, 長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学病態診断系病理学): 下垂体腺腫におけるretinoid X receptorおよびPit-1mPNAの発現—combined ISH-IHC法により解析—. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 23) 横田裕行¹⁾, 小川理郎¹⁾, 布施 明²⁾, 佐藤秀貴²⁾, 中林基明²⁾, 池田幸穂²⁾, 益子邦洋²⁾, 黒川 顕²⁾, 山本保博²⁾, 星野 茂³⁾, 小林士郎³⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院救命救急部, ²⁾ 付属病院救急医学, ³⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 頭部外傷後の脳代謝・血流障害. 第3回脳代謝モニタリング研究会, 1997. 6.
- 24) 金 景成, 池田幸穂¹⁾, 布施 明¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 村上 守¹⁾, 大橋一善¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾, 大塚敏文¹⁾, 植松正樹, 寺本 明 (¹⁾ 付属病院救急医学): 心肺停止蘇生後における下垂体前葉機能の検討. 第10回脳死・脳蘇生研究会, 1997. 6.
- 25) 山田昌興, 山口文雄¹⁾, Morrison R, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科): Antisense oligonucleotidesを用いたFGFR1発現抑制によるヒト膠芽腫細胞の増殖抑制効果. 第10回「脳と免疫」研究会, 1997. 6.
- 26) 河原 清, 佐々木光由¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 玉置智規, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科): 繰り返す脳内出血にて発症した神経膠芽腫の1例. 第66回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 6.

- 27) 渡辺 玲, 戸田茂樹, 松本正博¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 村松 光²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 春日居リハビリテーション病院内科): 脳室—腹腔シャント術に伴い胸水貯留を来した1症例. 第66回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 6.
- 28) 村井保夫, 山下陽一, 池田幸穂¹⁾, 野手洋治, 寺本 明 (¹⁾ 付属病院救急医学): 前頭蓋窩硬膜動静脈奇形を伴った前大脳動脈瘤の1例. 第66回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 6.
- 29) 寺本 明: 脳腫瘍の治療と看護の要点. 第7回脳神経外科看護教育研修会, 1997. 8.
- 30) 喜多村孝幸, 野手洋治, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科): Eloquent areaのグリオーマ手術におけるニューロナビゲーターの有用性. 第2回日本脳腫瘍の外科研究会, 1997. 9.
- 31) 高橋 弘¹⁾, 山口文雄¹⁾, 草薷博昭, 喜多村孝幸, 野手洋治, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科): 小児悪性グリオーマにおける手術を初めとする初期intensive treatmentの有用性. 第2回日本脳腫瘍の外科研究会, 1997. 9.
- 32) 山田昌興, 野手洋治, 喜多村孝幸, 寺本 明, 志村俊郎¹⁾, 高橋 弘²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 第二病院脳神経外科): 画像上診断が困難であった小脳グリオーマの1例. 第2回日本脳腫瘍の外科研究会, 1997. 9.
- 33) 吹野晃一, 塚元和弘¹⁾, 相馬 祥¹⁾, 寺本 明, 江見 充¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所分子生物学部門): 乳癌における第17番染色体長腕の欠失と組織型及びホルモン受容体との相関. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 34) 水谷暢秀, 戸田茂樹, 松本正博¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科): MRI画像上両側基底核および視床に広範な異常信号を呈した深部静脈血栓症の治療例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 35) 小南修史: Neuroradiologie Vasculaire Diagnostique et Therapeutique, 最新の脳血管内手術法の進歩—特に脳動脈瘤と能動静脈奇形の治療について. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 36) 村松 光¹⁾, 戸田茂樹, 松本正博²⁾, 志村俊郎²⁾, 野手洋治, 寺本 明 (¹⁾ 春日居リハビリテーション病院内科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科): リハビリテーション治療経過中に合併した正常圧水頭症の治療経過—メドス圧可変式バブルシャントシステムの有用性について—. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 37) 河原 清, 佐々木光由¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 玉置智規, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科): 初発症状として脳内出血を繰り返した神経膠芽腫の1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 38) 山田昌興, 吉田大蔵¹⁾, 寺本 明, 志村俊郎²⁾ (¹⁾ 第二病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科): 生下時より認められた頭蓋骨海綿状血管腫の1例. 第67回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 9.
- 39) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 星野 茂¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科): V-P shunt術後, 自然縮小を来した松果体部germinomaの1例. 第67回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 9.
- 40) 水谷暢秀, 戸田茂樹, 松本正博¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科): 破裂細菌性動脈瘤の手術例: ほぼ同時期に外側中大動脈瘤を併発した1例. 第67回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 9.
- 41) 河原 清, 山口文雄¹⁾, 佐々木光由¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科): 中枢性顔面神経麻痺で発見された多発性髄膜腫. 第67回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 9.
- 42) 高橋 弘¹⁾, 足立好司, 山口文雄¹⁾, 志村俊郎²⁾, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科): Low grade astrocytomaに対する有用な補助療法選択のための臨床的検討. 第56回日本脳神経外科学会, 1997. 10.
- 43) 志村俊郎¹⁾, 寺本 明, 杉崎祐一²⁾, 前田昭太郎³⁾, 高橋 弘⁴⁾, 松本正博¹⁾, 野手洋治, 水成隆之⁵⁾ (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院病理部, ³⁾ 多摩永山病院病理部, ⁴⁾ 第二病院脳神経外科, ⁵⁾ 千葉北総病院脳神経外科): 小脳血管芽腫の免疫組織学および電子顕微鏡学的研究—特にstromal cellの起源を中心に—. 第56回日本脳神経外科学会, 1997. 10.
- 44) 山口文雄¹⁾, 山田昌興, 吹野晃一, Morrison R, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科): FGF receptor 1 Alternative Splicing Patternを利用したグリオーマの悪性度診断. 第56回日本脳神経外科学会, 1997. 10.

- 45) 野手洋治, 小松原清光, 山王直子, 太組一朗, 杉山 誠, 田原重志, 寺本 明: 前頭蓋底手術における抗生剤選択の臨床的検討. 第56回日本脳神経外科学会, 1997. 10.
- 46) 喜多村孝幸, 金 景成, 寺本 明: 脊髄硬膜外電気刺激療法 (SCS) における極径神経内視鏡の有用性. 第56回日本脳神経外科学会, 1997. 10.
- 47) 喜多村孝幸, 大山健一, 野手洋治, 寺本 明: 中心溝近傍腫瘍に対するニューロナビゲーター・皮質SEP併用の意義. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 48) 山王直子, 寺本 明, Jin L¹⁾, Lloyd R²⁾, 杉山 誠, 太組一朗, 田原重志, 長村義之³⁾ (¹⁾ Department of Laboratory Medicine and Pathology and Division, ²⁾ Department of Pathology, St. Michael Hospital, University of To, ³⁾ 東海大学病態診断系病理学): 下垂体腺腫におけるGonadotropin releasing hormone (GnRH) ,GnRH receptorの発現—in situ RT-PCR法による解析—. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 49) 杉山 誠, 太組一朗, 田原重志, 山王直子, 寺本 明, 長村義之¹⁾, 諸橋憲一郎²⁾ (¹⁾ 東海大学病態診断系病理学): ヒト正常下垂体, 下垂体腺腫におけるAd4BPの発現の免疫組織科学的検討. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 50) 田原重志, 山王直子, 杉山 誠, 太組一朗, 寺本 明, 長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学病態診断系病理学): ラット下垂体細胞におけるRad3蛋白の免疫組織学的研究. 第38回日本組織細胞科学会総会学術集会, 1997. 10.
- 51) 田原重志, 山王直子, 杉山 誠, 太組一朗, 長村義之¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 東海大学病態診断系病理学): 正常下垂体および下垂体腺腫におけるRad3B蛋白発現の病理学的検討. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 52) 諫山和男¹⁾, 粟谷 栄¹⁾, 前川正義¹⁾, 池田幸穂²⁾, 高木 亮³⁾, 田原重志, 玉置智規, 寺本 明 (¹⁾ 目白病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院救急医学, ³⁾ 付属病院放射線科): くも膜下出血術後3D-CTAの有用性. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 53) 池田幸穂¹⁾, 川本俊樹, 寺本 明, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 付属病院救急医学): 虚血性および外傷性脳浮腫に対するL-histidine (singlet oxygen scavenger) の抗浮腫効果. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 54) 池田幸穂¹⁾, 山本保博¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 付属病院救急医学): 急性脳損傷に対するArginine Vasopressin内分泌抑制剤 (Kappa-opioid receptor agonist) の脳保護効果. 第25回日本救急医学総会, 1997. 11.
- 55) 山口文雄¹⁾, 山田昌興, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科): gliomaにおけるCFR (cysteine-rich FGH receptor) の発現. 第6回日本脳腫瘍カンファレンス, 1997. 11.
- 56) 足立好司, 清水健司, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 第二病院脳神経外科): ラットグリオーマ細胞に対するNK活性を増殖するBRM. 第6回日本脳腫瘍カンファレンス, 1997. 11.
- 57) 喜多村孝幸, 金 景成, 吉田陽一, 大山健一, 寺本 明: 脊髄硬膜外電気刺激療法 (SCS) における極細径神経内視鏡の意義. 第4回日本神経内視鏡研究会, 1997. 11.
- 58) 山王直子: In situ PCRの基礎と実際. 第323回学際セミナー, 1997. 11.
- 59) 利井静子, 山王直子, 野手洋治, 直江康孝¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 付属病院救急医学): 錐体骨尖端部xanthogranulomaの1例. 第68回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 11.
- 60) 水谷暢秀, 戸田茂樹, 松本正博¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科): 破裂細菌性脳動脈瘤の手術例—ほぼ同時期に対側中大脳動脈閉塞を併発した1例. 第68回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 11.
- 61) 吉田陽一, 小南修史, 小林士郎¹⁾, 寺本 明, 根本 繁²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 東京警察病院脳神経外科): 硬膜動静脈瘻に対する塞栓術の検討. 第13回日本脳神経血管内手術研究会, 1997. 11.
- 62) 志村俊郎¹⁾, 松本正博¹⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科): 緊張型および混合型頭痛患者における塩酸チザニジンの使用経験—頭痛日記による自覚症状の週間変動を中心に—. 第24回頭痛研究会, 1997. 11.
- 63) 志村俊郎¹⁾, 木暮一成, 草彌博昭, 松本正博¹⁾, 戸田茂樹, 寺本 明, 山本保博 (¹⁾ 多摩永山病院脳神経外

- 科)：頭部銃創症例の検討。第16回多摩脳神経外科懇話会，1997. 11.
- 64) 山王直子，菅原 明¹⁾，杉山 誠，太組一朗，田原重志，長村義之¹⁾，寺本 明⁽¹⁾ 東海大学病態診断系病理学)：下垂体腺腫におけるRetinoid X-Receptorの発現—In situ RT-PCR法による検討—。第8回日本間脳下垂体腫瘍学会，1998. 1.
- 65) 太組一朗，山王直子，杉山 誠，田原重志，小松原清光，寺本 明，福岡秀興，長村義之²⁾ ⁽¹⁾ 東海大学病態診断系病理学)：閉経後女性下垂体・下垂体腺腫におけるhCG- β の発現—剖検症例および手術症例の免疫組織化学的解析—。第8回日本間脳下垂体腫瘍学会，1998. 1.
- 66) 杉山 誠，太組一朗，田原重志，山王直子，寺本 明，長村義之¹⁾，諸橋憲一郎²⁾ ⁽¹⁾ 東海大学病態診断系病理学，²⁾ 九州大学分子生命科学教室)：ヒト正常下垂体，下垂体腺腫におけるAd4BPの発現の免疫組織化学的検討。第8回日本間脳下垂体腫瘍学会，1998. 1.
- 67) 田原重志，山王直子，杉山 誠，太組一朗，寺本 明，長村義之¹⁾ ⁽¹⁾ 東海大学病態診断系病理学)：正常ヒト下垂体細胞および下垂体腺腫におけるRab3蛋白の免疫組織化学的検討。第8回日本間脳下垂体腫瘍学会，1998. 1.
- 68) 高木 亮¹⁾，太組一朗，杉山 誠，山王直子，寺本 明⁽¹⁾ 付属病院放射線科)：頭蓋底・トルコ鞍近傍腫瘍の三次元CT。第8回日本間脳下垂体腫瘍学会，1998. 1.
- 69) 大山健一，林 伸吉，太組一朗，山王直子，長村義之¹⁾，寺本 明⁽¹⁾ 東海大学病態診断系病理学)：Double functioning pituitary adenomaの3例。第8回日本間脳下垂体腫瘍学会，1998. 1.
- 70) 小松原清光，野手洋治，山王直子，太組一朗，杉山 誠，田原重志，寺本 明)：前頭蓋底手術における抗生剤選択の臨床的検討。第8回日本間脳下垂体腫瘍学会，1998. 1.
- 71) 玉置智規，喜多村孝幸，太組一朗，山王直子，寺本 明)：下垂体結石を伴ったGH産生腫瘍の1例。第8回日本間脳下垂体腫瘍学会，1998. 1.
- 72) 野手洋治，寺本 明)：無症候性髄膜腫の治療方針。第11回日本老年脳神経外科学会，1998. 2.
- 73) 梅岡克哉，足立好司，鈴木紀成，野手洋治，寺本 明)：多発性内分泌腺腫症I型の2例。第69回日本脳神経外科学会関東地方会，1998. 3.

[第二病院脳神経外科]

研究概要

第二病院脳神経外科は，付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら，脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経奇形などあらゆる脳神経疾患の外科的治療を対象として臨床的，基礎的研究を行っている。

特に，悪性脳腫瘍に関しては，すでに多くの基礎的研究が積み重ねられており，その結果に基づいて腫瘍抗原に対するヒト型モノクローナル抗体を用いた特異的免疫療法と各種のBRM製剤を用いた非特異的免疫療法を臨床的に応用し，確実な効果をあげてきている。

また，分子生物学的基礎研究も盛んで，将来の遺伝子治療を目指して脳腫瘍の悪性度に従って発現が異なる成長因子受容体を遺伝子レベルで解析する研究や，複数の癌抑制遺伝子を用いた遺伝子カクテル療法の基礎的研究，さらには他臓器に用いられている抗癌剤の悪性グリオーマに及ぼす効果とその機序の遺伝子レベルでの解明が，それぞれ文部省科学研究費補助金の援助を受けながら行われている。

一方，臨床的には従来摘出困難と思われていた脳幹部などの腫瘍に関しても積極的に手術療法を適用し，悪性脳腫瘍に対しては新しい化学免疫療法を手術後の補助療法として施行し，良好な結果をおさめてきている。

脳血管障害や頭部外傷に関しては，超音波ドップラーやSPECTを用いて脳循環を詳細に測定することにより，非観血的に正確な病態把握を行う臨床的研究が盛んである。

小児疾患に関しても，腫瘍性疾患の治療を主体に行っているが，中枢神経奇形についても，形成外科と協力しながら

ら積極的に治療に取り組んでいる。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Takahashi H, Teramoto A¹⁾, Takakura K²⁾ (1) 付属病院脳神経外科, 2) 東京女子医科大学脳神経外科) : Biological response modifiers and central nervous system in oncology. Crit Rev Neurosurg 1997; 7 (6) : 373-379.
- 2) Yoshida D, Piepmeier J¹⁾, Bergenheim T²⁾, Henriksson R³⁾, Teramoto A⁴⁾ (1) エール大学脳神経外科, 2) ウメア大学脳神経外科, 3) ウメア大学腫瘍学科, 4) 付属病院脳神経外科) : Suppression of matrix metalloproteinase-2-mediated cell invasion in U87MG, human glioma cells by anti-microtubule agent : In vitro study. Brit J Cancer 1998; 77 (1) : 21-25.
- 3) 高橋 弘：悪性脳腫瘍と漢方療法. 日本小児東洋医学研究会会誌 1997; 13 (1) : 5-13.
- 4) 高橋 弘, 足立好司¹⁾, 山口文雄, 志村俊郎²⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科, 2) 付属多摩永山病院脳神経外科) : Low grade gliomaの治療方針について. Neuro-Oncol. 1997; 7 (1) : 61-62.
- 5) 浜田 浩¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾, 吉井敏郎²⁾ (1) 付属病院脳神経外科, 2) 実生研) : Arginine Vasopressin (AVP) 分泌抑制剤RU599の腫瘍性脳浮腫に対する抑制効果について. 脳神経 1997; 49 (11) : 1001-1006.
- 6) 松居 徹¹⁾, 藤原 悟¹⁾, 高橋 弘, 塩貝敏之¹⁾, 上田守三¹⁾, 大平貴之¹⁾, 竹内栄一¹⁾, 横山哲也¹⁾, 山城勝美¹⁾, 片山容一¹⁾, 神野哲夫¹⁾, 太田富雄¹⁾ (1) 慢性期意識障害スコアリング小委員会) : 慢性期重症意識障害に対する脳脊髄電気刺激療法の現況. 脳神経外科ジャーナル 1998; 7 (1) : 14-23.

著書

- 1) Takahashi H, Adachi K¹⁾, Yamaguchi F, Teramoto A¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : [分担] Usefulness of immunotherapy combined with chemotherapy for pontine glioma. 11th International Congress of Neurological Surgery (van Alphen A ed), 1997; pp387-391, Monduzzi Editore, Bologna.
- 2) 高橋 弘：[分担] モノクローナル抗体療法. キーワードを読む 脳・神経 (岩田 誠, 寺本 明, 清水輝夫 編), 1997; p110, 医学書院.
- 3) 高橋 弘：[分担] BRM療法. キーワードを読む 脳・神経 (岩田 誠, 寺本 明, 清水輝夫 編), 1997; p112, 医学書院.
- 4) 高橋 弘：[分担] P-糖蛋白質. キーワードを読む 脳・神経 (岩田 誠, 寺本 明, 清水輝夫 編), 1997; p147, 医学書院.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演：

- 1) 渡辺国博, 山口文雄, 佐々木光由, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 術前診断が困難であった鞍上部嚢胞性星細胞腫の1例. 第65回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 3.
- 2) 福見大地¹⁾, 橋本 清¹⁾, 内木場庸子¹⁾, 藤田武久¹⁾, 小松崎英樹¹⁾, 藤松真理子¹⁾, 平山恒憲¹⁾, 高橋 弘, 山口文雄, 村井保夫 (1) 付属第二病院小児科) : 痙攣発作を初発症状とした脳腫瘍の1例. 第26回日本小児神経学会関東地方会, 1997. 3.

(1) 一般講演：

- 1) Yamaguchi F, Takahashi H, Teramoto A¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : Expression of Telomerase RNA component in glioma and its application for glioma gene therapy. The 65th Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons (Denver), 1997. 4.
- 2) Takahashi H, Adachi K¹⁾, Yamaguchi F, Teramoto A¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : Usefulness of immunotherapy combined with chemotherapy for pontine glioma. 11th International Congress of Neurological Surgery (Amsterdam), 1997. 7.
- 3) 高橋 弘, 足立好司¹⁾, 山口文雄, 志村俊郎²⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科, ²⁾ 付属多摩永山病院脳神経外科) : Low grade gliomaの治療方針について. 第13回ニューロオンコロジーの会, 1997. 4.
- 4) 高橋 弘, 山口文雄, 渡辺国博, 杉山 誠¹⁾, 佐々木光由, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 術前診断が困難な若年者傍鞍部腫瘍について. 第25回日本小児神経外科学研究会, 1997. 5.
- 5) 河原 清, 佐々木光由, 高橋 弘, 玉置智規¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 東戸塚記念病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科) : 繰り返す脳内出血にて発症した神経膠芽腫の1例. 第66回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 6.
- 6) 山田昌興¹⁾, 山口文雄, Morrison R²⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科, ²⁾ ワシントン大学脳神経外科) : Antisense oligonucleotidesを用いたFGFR 1発現抑制によるヒト膠芽腫細胞の増殖抑制効果. 第10回「脳と免疫」研究会, 1997. 6.
- 7) 高橋 弘, 山口文雄, 草彌博昭¹⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 野手洋治¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 小児悪性グリオーマにおける手術を初めとする初期intensive treatmentの有用性. 第2回日本脳腫瘍の外科研究会, 1997. 9.
- 8) 喜多村孝幸¹⁾, 野手洋治¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : Eloquent areaのグリオーマ手術におけるニューロナビゲーターの有用性. 第2回日本脳腫瘍の外科研究会, 1997. 9.
- 9) 山田昌興¹⁾, 野手洋治¹⁾, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明¹⁾, 志村俊郎²⁾, 高橋 弘 (1) 付属病院脳神経外科, ²⁾ 付属多摩永山病院脳神経外科) : 画像上診断が困難であった小脳グリオーマの1例. 第2回日本脳腫瘍の外科研究会, 1997. 9.
- 10) 河原 清, 山口文雄, 佐々木光由, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 中枢性顔面神経麻痺で発見された多発性髄膜腫. 第67回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 9.
- 11) 河原 清, 佐々木光由, 高橋 弘, 玉置智規¹⁾, 寺本 明²⁾ (1) 東戸塚記念病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科) : 初発症状として脳内出血を繰り返した神経膠芽腫の1例. 第65回日本医科大学医学部総会, 1997. 9.
- 12) 高橋 弘, 足立好司¹⁾, 山口文雄, 志村俊郎²⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科, ²⁾ 付属多摩永山病院脳神経外科) : Low grade gliomaに対する有用な補助療法選択のための臨床的検討. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 13) 志村俊郎¹⁾, 寺本 明²⁾, 杉崎祐一³⁾, 前田昭太郎⁴⁾, 高橋 弘, 松本正博¹⁾, 野手洋治²⁾, 水成隆之⁵⁾ (1) 付属多摩永山病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科, ³⁾ 付属病院病理部, ⁴⁾ 付属多摩永山病院病理部, ⁵⁾ 付属千葉北総病院脳神経外科) : 小脳血管芽腫の免疫組織学および電子顕微鏡学的研究：特にStromal cellの起源を中心に. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 14) 山口文雄, 山田昌興¹⁾, 吹野晃一¹⁾, Morrison R²⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科, ²⁾ ワシントン大学脳神経外科) : FGF receptor 1 Alternative Splicing Patternを利用したグリオーマの悪性度診断. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 15) 足立好司¹⁾, 清水健司¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : ラットグリオーマ細胞に対するNK活性を増殖するBRM. 第6回日本脳腫瘍カンファレンス, 1997. 11.
- 16) 山口文雄, 山田昌興¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : GliomaにおけるCFR (cysteine-rich FGF receptor) の発現. 第6回日本脳腫瘍カンファレンス, 1997. 11.

- 17) 山口文雄, 高橋 弘, 山田昌興¹⁾, 吹野晃一¹⁾, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 付属病院脳神経外科): FGF receptor alternative splicing patternを利用したグリオーマの分子生物学的悪性度診断. 日本医科大学医学会第94回例会, 1998. 2.
- 18) 原島克之, 山口文雄, 佐々木光由, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 付属病院脳神経外科): 脳室外に発生したテント上anaplastic ependymomaの稀な1例. 第69回日本脳神経外科学会関東地方会, 1998. 3.

[多摩永山病院脳神経外科]

研究概要

多摩永山病院脳神経外科は, 日本脳神経外科学会専門医訓練施設として診療, 教育, 研究を付属病院脳神経外科学教室の指導の下に行っている。

当科の第1の研究テーマは, 主として外傷性びまん性脳損傷と急性期脳血管障害の症例において, 持続頭蓋内圧測定 (光センサー硬膜下法), 脳血流測定 (超音波ドップラー法), SPECT, およびトレンドグラフを用いた電気生理学的検査 (聴性脳幹反応, 体性感覚誘発電位), MRI・MRA等の多くの諸検査の経時的な測定をすることによりその軸索損傷および脳虚血の病態解明を行っている。

第2のテーマは頭痛患者外来において筋弛緩剤チザニジン投与による頭痛日記とTranscranial ドップラーによる脳血流測定を行うことによりその臨床薬理学的効果を正常成人例と対比し検討している。

第3のテーマは頭蓋内悪性リンパ腫と小脳血管芽腫の電子顕微鏡学および分子神経病理学的研究を行っている。

第4のテーマは悪性脳腫瘍の治療に伴う臨床および病理形態学的研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Muramatsu H¹⁾, Shimura T, Matsumoto M, Isayama K²⁾, Teramoto A³⁾ (¹⁾ Cardiovascular Medicine and Rehabilitation Kasugai Rehabilitation Hospital, ²⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, ³⁾ Department of Neurosurgery Nippon Medical School): Recovery of stroke hemiplegic grade in chronic stage: Outcome through neurosurgical intervention. Copyright 1997 by Monduzzi Editore S.p.a.-Bologna (Italy) 1997; 1587-1592.
- 2) 志村俊郎, 寺本 明¹⁾, 相原 薫²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設): ラット実験脳腫瘍における抗癌剤持続局所注入療法の病理組織学およびオートラジオグラフィ法による研究—急性期実験モデルを中心に—. 癌と化学療法 1997; 24: 713-718.
- 3) 志村俊郎, 向井敏二^{1,2)}, 寺本 明³⁾, 戸田茂樹³⁾, 山本保博⁴⁾, 中村俊彦²⁾, 高取健彦⁵⁾, 遠藤任彦¹⁾ (¹⁾ 東京医科大学法医学教室, ²⁾ 東京都監察医務院, ³⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科, ⁴⁾ 日本医科大学救急医学教室, ⁵⁾ 東京大学法医学教室): 頭部銃創例の臨床病理学的研究. 脳神経外科 1997; 25: 607-612.
- 4) 村松 光¹⁾, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 春日居リハビリテーション病院内科, ²⁾ 付属病院脳神経外科): リハビリテーション経過中に発症した正常圧水頭症の治療経験—圧可変式シャントシステムを用いた一症例—. リハビリテーション医学 1997; 34: 605-609.
- 5) 高橋 弘¹⁾, 足立好司¹⁾, 志村俊郎, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科): Low grade gliomaの治療方針について. Neuro-Oncology 1997; 7: 61-62.
- 6) 王 運杰¹⁾, 志村俊郎, 小林士郎¹⁾, 寺本 明¹⁾, 中沢省三²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科, ²⁾ 東戸塚記念病院): ラット実験的脳損傷におけるその動物モデルの作成と病理組織学的検討. 日医大誌 1997; 64: 76-79.

- 7) 志村俊郎, 松本正博, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科): 頸肩腕症候群に伴う緊張型および混合型頭痛患者における塩酸チザニジンの使用経験—脳外科外来における頭痛日記による自覚症状の週間推移を中心に—. 診断と新薬 1998; 35 (2): 103-111.

著 書

- 1) 志村俊郎: [分担] TIL療法. "キーワードを読む 脳・神経" (岩田 誠, 寺本 明, 清水輝男編), 1997; p111, 医学書院.
- 2) 志村俊郎, 阿部 聰¹⁾ (1) 新潟大学脳研究所分子神経病理): [分担] Intravascular malignant lymphomatosis. "キーワードを読む 脳・神経" (岩田 誠, 寺本 明, 清水輝男編), 1997; p137, 医学書院.
- 3) 志村俊郎: [分担] 未分化神経外胚葉性腫瘍. "キーワードを読む 脳・神経" (岩田 誠, 寺本 明, 清水輝男編), 1997; p148, 医学書院.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演:

- 1) Muramatsu H¹⁾, Shimura T, Matsumoto M, Isayama K²⁾, Teramoto A²⁾ (1) Kasugai Rehabilitation Hospital, 2) Department of Neurosurgery Nippon Medical School): Late Recovery of Hemiplegic Grade of Stroke: Outcome Through Neurosurgical Intervention in the Chronic Stage. American Congress of Rehabilitation Medicine, 1997. 2.
- 2) 渡辺 玲, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 源河敦史¹⁾, 江上 格¹⁾, 村松 光²⁾ (1) 日本医科大学付属多摩永山病院外科, 2) 春日居リハビリテーション病院内科): 脳室—腹腔シャント後に胸水貯留を来した1症例. 日本医科大学医学会第91回例会, 1997. 2.
- 3) 内木場庸子¹⁾, 村上由加里¹⁾, 向後俊昭¹⁾, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 島田早苗²⁾, 山本 鼎³⁾ (1) 日本医科大学付属多摩永山病院小児科, 2) 日本医科大学付属多摩永山病院耳鼻咽喉科, 3) 日本医科大学付属多摩永山病院放射線科): 副鼻腔炎に続発した化膿性髄膜炎・硬膜下膿瘍の1例. 日本医科大学医学会第91回例会, 1997. 2.
- 4) 渡辺 玲, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 山下陽一¹⁾ (1) 目白第3病院脳神経外科): くも膜嚢胞に慢性硬膜下出血を合併した2症例. 第65回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 3.

(1) 特別講演:

- 1) Shimura T: Electron Microscopic and Immunohistochemical Studies of Acute Stages of Severe brain Injury in Rats. Kazakh State Medical University Almaty City, Republic of Kazakhstan, 1998. 3.

(2) 一般講演:

- 1) Hoshino S¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Furukawa T¹⁾, Oaki Y²⁾, Mori O²⁾, Shimura T, Teramoto A³⁾ (1) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, 2) Department of Pathology, Nippon Medical School, Chiba Hokusoh Hospital, 3) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Early Alzheimer-like Brain Damage in Chronic Stage of Fluid-Percussion injury in Rat Brain. 13th International Congress of Neuropathology (Australia), 1997. 9.
- 2) Muramatsu H¹⁾, Shimura T, Matsumoto M, Isayama K²⁾, Teramoto A²⁾ (1) Kasugai Rehabilitation Hospital, 2) Department of Neurosurgery Nippon Medical School): Recovery of stroke hemiplegic grade in chronic stage: Outcome through neurosurgical intervention. 8th World Congress of The International Rehabilitation Medicine Association (Kyoto), 1997. 9.

- 3) 高橋 弘¹⁾, 足立好司²⁾, 山口文雄²⁾, 志村俊郎, 寺本 明²⁾ (1) 日本医科大学付属第二病院脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院脳神経外科): Low grade gliomaの治療方針について. 第13回ニューロオンコロジーの会, 1997. 4.
- 4) 志村俊郎, 前田昭太郎¹⁾, 寺本 明²⁾, 松本正博, 水成隆之³⁾, 星野 茂²⁾, 高橋 弘⁴⁾, 片山博徳¹⁾, 大秋美治⁵⁾ (1) 日本医科大学付属多摩永山病院病理部, 2) 日本医科大学付属病院脳神経外科, 3) 日本医科大学付属千葉北総病院脳神経外科, 4) 日本医科大学付属第二病院脳神経外科, 5) 日本医科大学付属千葉北総病院病理部): 小脳血管芽腫の免疫組織学および電子顕微鏡学的検討. 第15回日本脳腫瘍病理学会, 1997. 4.
- 5) 星野 茂¹⁾, 小林士郎²⁾, 古川哲也¹⁾, 志村俊郎, 寺本 明¹⁾, 小黒辰夫³⁾, 森 修³⁾, 大秋美治³⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科, 2) 日本医科大学付属千葉北総病院脳神経外科, 3) 日本医科大学付属千葉北総病院病理部): 実験的頭部外傷慢性期における早期アルツハイマー病様脳障害. 第38回日本神経病理学会総会, 1997. 5.
- 6) 渡辺 玲, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 村松 光¹⁾ (1) 春日居リハビリテーション病院内科): 脳室—腹腔シャント術に伴い胸水貯留を来した1症例. 第66回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 6.
- 7) 山田昌興¹⁾, 吉田大蔵¹⁾, 寺本 明²⁾, 志村俊郎 (1) 立正佼成会病院脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院脳神経外科): 生下時より認められた頭蓋骨海綿状血管腫の1例. 第67回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 9.
- 8) 村松 光¹⁾, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 野手洋治²⁾, 寺本 明²⁾ (1) 春日居リハビリテーション病院内科, 2) 日本医科大学付属病院脳神経外科): リハビリテーション治療経過中に合併した正常圧水頭症の治療経過—メドス圧可変式バルブシャントシステムの有用性について—. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 9) 小南修史, Lasjaunias P¹⁾ (1) Neuroradiologie Vasculaire Diagnostique et Thérapeutique, Centre Hospitalier Universitaire Bicêtre, FRANCE): 最新の脳血管内手術法の進歩—特に脳動脈瘤と脳動静脈奇形の治療について—. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 10) 水谷暢秀, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科): MRI画像上, 両側基底核及び視床に広範な異常信号を呈した深部静脈血栓症の1治験例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 11) 飯野幸永¹⁾, 村田正広¹⁾, 柏木邦彦¹⁾, 本間妙子¹⁾, 福岡イツ子¹⁾, 野口 素¹⁾, 須崎紳一郎¹⁾, 山田光輝¹⁾, 沖濱裕司¹⁾, 志村俊郎, 鈴木 健¹⁾ (1) 日本医科大学付属多摩永山病院院内感染対策小委員会): MRSA院内感染防止対策としてのピムロシン製剤の有用性. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 12) 志村俊郎, 寺本 明¹⁾, 杉崎祐一²⁾, 前田昭太郎³⁾, 高橋 弘⁴⁾, 松本正博, 野手洋治¹⁾, 水成隆之⁵⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院病理部, 3) 日本医科大学付属多摩永山病院病理部, 4) 日本医科大学付属第二病院脳神経外科, 5) 日本医科大学付属千葉北総病院脳神経外科): 小脳血管芽腫の免疫組織学および電子顕微鏡学的研究—特にStromal cellの起源を中心に—. 第56回脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 13) 志村俊郎, 松本正博, 喜多村孝幸¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科): 緊張型および混合型頭痛患者における塩酸チザニジンの使用経験—頭痛日記による自覚症状の週間変動を中心に—. 第24回頭痛研究会, 1997. 11.
- 14) 志村俊郎, 木暮一成, 草彌博昭, 戸田茂樹¹⁾, 寺本 明¹⁾, 山本保博²⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 頭部銃創症例の検討. 第16回多摩脳神経外科懇話会, 1997. 11.
- 15) 水谷暢秀, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科): 破裂細菌性脳動脈瘤の手術例—ほぼ同時期に対側中大脳動脈閉塞を併発した1例. 第68回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 11.
- 16) 水谷暢秀, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 寺本 明¹⁾: 両側基底核及び視床に広範な病変を来した深部静脈血栓症において, 画像上, 再開通を確認し得た一治験例. 第21回日本脳神経CI学会総会, 1998. 2.

- 17) 野手洋治¹⁾, 松本正博, 古川哲也²⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院脳神経外科, 2) 日本医科大学付属千葉北総病院脳神経外科): 転移性脳腫瘍の原発巣, 組織診断とMRIおよび手術所見との関連性について. 第21回日本脳神経CI学会総会, 1998. 2.

[千葉北総病院脳神経外科]

研究概要

開設後4年が経過した千葉北総病院脳神経外科は, 付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら脳血管障害, 頭部外傷, 脳腫瘍を中心とした臨床的および基礎的研究を行った.

1) 脳血管障害: クモ膜下出血の永年の研究課題である脳血管攣縮の病態解明のため, TCDによる脳血流速度, Xe-CTによる脳血流量の経時的測定dateの集積を行い, 塩酸ババリンの動注療法の有効性を確認するとともに, かかる療法前後におけるTCDの変化を集計した.

前交通動脈瘤に対して新しい手術法であるorbito-cranial approachによる手術症例の経験を重ね, 従来の方法であるinterhemispheric approachとの比較を行った. 血管内手術では硬膜動静脈瘻に対する塞栓術を検討した.

2) 頭部外傷: fluid percussion (PF) 法を用いたラット実験頭部外傷モデルを使用して, その慢性期における早期アルツハイマー病様脳障害を証明した. 臨床例では, Xe-CTによる経時的検討を行い, Xe-CTからみた頭部外傷の病態を解明した.

3) 脳腫瘍: 種々の出血性脳腫瘍例に対する術前の人工塞栓術の有効性を確認した. 新に導入した骨メス (Maidas Rex) を使用して行う頭蓋底外科の内, far-lateral tranclondyle approachの検討を行った.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 王 運杰¹⁾, 志村俊郎²⁾, 小林士郎, 寺本 明¹⁾, 中沢省三¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科, 2) 多摩永山病院脳神経外科): ラット実験的脳損傷におけるその動物モデルの作成と病理組織学的検討. 日医大誌 1997; 64: 76-79.
- 2) 横田裕行¹⁾, 小川理郎²⁾, 布施 明³⁾, 諫山和男³⁾, 益子邦洋²⁾, 山本保博³⁾, 大塚敏文³⁾, 星野 茂, 小林士郎, 寺本 明 (1) 多摩永山病院救命救急センター, 2) 千葉北総病院救急部, 3) 救急医学): 頭部外傷後の脳血流障害: Xe-CTによる経時的検討. 神経外傷 1997; 20: 49-53.
- 3) 岡田 進¹⁾, 趙 圭一¹⁾, 保坂純郎¹⁾, 伊藤公一郎¹⁾, 田島なつき¹⁾, 小林士郎, 隈崎達夫²⁾, 高橋良行²⁾ (1) 千葉北総病院放射線科, 2) 付属病院放射線科): 早期脳梗塞および脳出血の拡散強調EPI. 臨放 1997; 42: 1519-1523.
- 4) 横田裕行¹⁾, 布施 明²⁾, 二宮宣文²⁾, 池田幸穂²⁾, 小関一英²⁾, 黒川 顕¹⁾, 山本保博²⁾, 大塚敏文²⁾, 小林士郎, 寺本 明³⁾ (1) 多摩永山病院救命救急センター, 2) 救急医学, 3) 付属病院脳神経外科): 重症頭部外傷における低体温療法時の循環呼吸器合併症. 脳神経外科ジャーナル 1998; 7: 9-13.

著書

- 1) 小林士郎: [分担] 頭部外傷. 脳神経外科 (伊東 洋編), 1997; pp221-268, 医学評論社.
- 2) 小林士郎: [分担] びまん性軸索損傷. キーワードを読む脳・神経 (岩田 誠, 寺本 明, 清水輝夫編), 1997; p144, 医学書院.
- 3) 小林士郎: [分担] 頭部外傷. 国試外科 (呉屋朝幸, 三石 績編), 1998; pp50-75, 医学評論社.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Kudo T¹⁾, Kobayashi H¹⁾, Adachi S¹⁾, Okada M¹⁾, Kobayashi S, Hoshino S, Teramoto A²⁾ (1) 石岡脳神経外科病院, 2) 付属病院脳神経外科) : Anterolateral cervical discectomy without fusion. 11th International Congress of Neurological Surgery (Amsterdam), 1997. 7.
- 2) Kudo T¹⁾, Kobayashi H¹⁾, Adachi S¹⁾, Okada M¹⁾, Kobayashi S, Hoshino S, Teramoto A²⁾ (1) 石岡脳神経外科病院, 2) 付属病院脳神経外科) : Anterolateral cervical discectomy without fusion. The 1st Biennial Meeting of Japan-Korea Conference on Spinal Surgery (Nogaya), 1997. 9.
- 3) Yokota H¹⁾, Naoe Y²⁾, Fuse A²⁾, Sato H²⁾, Ikeda Y²⁾, Kurokawa A¹⁾, Yamamoto Y²⁾, Teramoto A³⁾, Kobayashi S (1) 多摩永山病院救命救急センター, 2) 救急医学, 3) 付属病院脳神経外科) : Measurements of cortical neuronal pH in acute severe head injury. 4th International Neurotrauma Symposium (Seoul), 1997. 9.
- 4) Hoshino S, Kobayashi S : Early Alzheimer like brain damage in chronic stage of fluid-percussion injury in rat brain. 13th International Congress of Neuropathology (Australia), 1997. 9.
- 5) 志村俊郎¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 寺本 明³⁾, 松本正博¹⁾, 水成隆之, 星野 茂, 高橋 弘⁴⁾, 片山弘徳²⁾, 大秋美治⁵⁾ (1) 多摩永山病院脳神経外科, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 付属病院脳神経外科, 4) 第二病院脳神経外科, 5) 千葉北総病院病理部) : 小脳血管芽腫の免疫組織学および電子顕微鏡学的検討. 第15回日本脳腫瘍病理学会, 1997. 4.
- 6) 星野 茂, 小林士郎, 古川哲也, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明²⁾, 小黒辰夫³⁾, 森 修³⁾, 大秋美治³⁾ (1) 多摩永山病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科, 3) 千葉北総病院病理部) : 実験的頭部外傷慢性期における早期アルツハイマー病様脳障害. 第38回日本神経病理学会総会, 1997. 5.
- 7) 横田裕行¹⁾, 小川理郎²⁾, 布施 明³⁾, 佐藤秀貴³⁾, 中村基明³⁾, 池田幸穂³⁾, 益子邦洋²⁾, 黒川 顕¹⁾, 山本保博³⁾, 星野 茂, 小林士郎, 寺本 明⁴⁾ (1) 多摩永山病院救命救急センター, 2) 千葉北総病院救急部, 3) 救急医学, 4) 付属病院脳神経外科) : 頭部外傷後の脳代謝・血流障害. 第3回脳代謝モニタリング研究会, 1997. 6.
- 8) 斉藤寛浩, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎 : 水頭症を来した頸髄神経鞘腫の1例. 第29回東葛地区脳神経外科研究会, 1997. 6.
- 9) 黒田周一¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 小林士郎, 水成隆之, 横田裕行²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 多摩永山病院救命救急センター) : 血管柄付遊離腹直筋弁移植による頭蓋底周辺部の再建における有用性について. 第65回日本医科大学医学部総会, 1997. 9.
- 10) 村井保夫, 水成隆之, 星野 茂, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : V-P shunt術後, 自然縮小を来した松果体部germinomaの1例. 第67回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 9.
- 11) 横田裕行¹⁾, 布施 明²⁾, 佐藤秀貴²⁾, 畝本恭子¹⁾, 池田幸穂²⁾, 黒川 顕¹⁾, 山本保博²⁾, 小林士郎, 寺本 明³⁾ (1) 多摩永山病院救命救急センター, 2) 救急医学, 3) 付属病院脳神経外科) : モニタリングとしてのXe-CT意義 : 特に予後との関連から. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 12) 吉田陽一¹⁾, 小関修史¹⁾, 小林士郎, 寺本 明¹⁾, 根本 繁²⁾ (1) 付属病院脳神経外科, 2) 東京警察病院脳神経外科) : 硬膜動脈静脈瘻に対する塞栓術の検討. 第13回日本脳神経血管内手術研究会, 1997. 11.
- 13) 金澤隆三郎, 石井雄道, 植松正樹, 太組一朗, 古川哲也, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎 : 髄膜炎で発症した中頭蓋窩encephaloceleの1例. 第32回東葛地区脳神経外科研究会, 1998. 2.
- 14) 石井雄道, 太組一朗, 星野 茂, 小林士郎, 寺本 明¹⁾ (1) 付属病院脳神経外科) : 大脳皮質に浸潤した大脳円蓋部血管腫型髄膜腫の1例. 第69回日本脳神経外科学会関東地方会, 1998. 3.
- 15) 横田裕行¹⁾, 中村基明¹⁾, 猪鹿倉恭子¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 布施 明²⁾, 佐藤秀貴²⁾, 池田幸穂²⁾, 山本保博²⁾, 小林士郎, 寺本 明³⁾ (1) 多摩永山病院救命救急センター, 2) 救急医学, 3) 付属病院脳神経外科) : Xe-CTからみた頭部外傷の病態. 第21回日本神経外傷研究会, 1998. 3.

12. 整形外科学講座

[付属病院整形外科・第一病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科]

研究概要

現代の整形外科学の研究範囲は膨大な範囲に涉っているので、そのすべてを網羅することは到底不可能であるが、出来るだけ広範囲にしかも深く研究するのが教室の使命であると考えている。

研究項目は：

- 1) 電気生理学；脊髄電位，神経電位，交感神経電位，筋電図，電気刺激および電磁場刺激による骨・軟骨・神経の再生。
- 2) Biomechanics；脊椎，膝関節，股関節，仙腸関節，肩関節などのBiomechanics。
- 3) 軟骨再生と移植；将来には骨銀行のみでなく軟骨銀行をめざしている。
- 4) 人工関節，人工靭帯，人工骨の開発実験および関節（主として股・膝関節）の同種移植。
- 5) 椎管内血管の解剖学。
- 6) 脊髄馬尾の解剖学。
- 7) 手根骨動態。
- 8) 職業性腰痛の疫学・予防対策。
- 9) Back School の実施。
- 10) 交感神経電気活動状況。
- 11) レーザー治療による除痛効果の基礎研究。
- 12) スポーツ医学外来（各種スポーツ障害・外傷の治療）
- 13) 臨床的研究；伝統的に脊髄・脊髄疾患に対する治療例が圧倒的に多く，その手術法の開発と予後の検索を行っている。また，現代の流れで，交通事故の外傷，老人の人工関節置換術や，骨粗鬆症，若者のスポーツ医学や近年急増している骨・軟部悪性腫瘍等に関して先進的かつ独自の治療法を試みている。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著：

- 1) 間瀬泰克，白井康正，渡辺 誠，南 和文，梶本陽司，金 竜：鏡視下膝前十字靭帯2重束再建における骨孔間距離の測定。膝 1996；22：95-99。

(1) 原著：

- 1) Genbun Y, Shirai Y, Miyamoto M, Kaneda K, Koizumi S¹⁾, Kurosawa H¹⁾ (¹⁾ Neuropsychiatry) : Comparison of pre-operative psychological evaluations and clinical results in patients with spinal disorders. J Nippon Med Sch 1997 ; 64 (4) : 359-361.
- 2) Nakayama Y, Shirai Y, Narita T, Mori A : A follow-up arthroscopy after anterior cruciate reconstruction using the patellar tendon augmented by woven polyester. J Nippon Med Sch 1997 ; 64 : 512-517.
- 3) Miyamoto M, Shirai Y, Genbun Y : Ascending myelitis in association with herpes simplex virus. J Nippon

Med Sch 1997; 64: 566-568.

- 4) 金田琴恵, 白井康正: 腰痛患者の筋交感神経活動. 骨・関節・靭帯 1997; 10 (5): 621-626.
- 5) 高山景範, 白井康正, 伊藤博元, 橋口 宏, 井出勝彦, 水江史樹, 丸山晴久, 柴崎 徹¹⁾ (1) 柴崎整形外科): 上腕骨近位端骨折, 脱臼骨折に対する人工骨頭置換術の治療成績. 肩関節 1997; 21 (3): 565-568.
- 6) 飯沢典茂: 膝蓋腱と吸収性人工素材を用いた膝前十字靭帯再建術: ウサギによる組織学的・分子生物学的検討. 日医大誌 1997; 64 (4): 298-306.
- 7) 沢泉卓哉, 白井康正, 飯沢典茂, 南部昭彦, 六郷知行: TFCC損傷に対する器具療法の検討. 日本手の外科学会誌 1997; 14 (2): 230-233.
- 8) 玉井健介, 白井康正, 武内俊次, 藤井信人, 深井靖雄: いわゆる一次性股関節症の検討. Hip Joint 1997; 23: 23-26.
- 9) 玉井健介, 白井康正, 武内俊次, 池田龍二, 村田修二: MRIによる大腿骨頸部内側骨折後のLate Segmental Collapse の予知. Hip Joint 1997; 23: 179-182.
- 10) 宮本雅史, 白井康正, 武内俊次, 元文芳和, 金田和容, 柴田靖章: 運搬用大型車両運転手における職業性腰痛の疫学的検討. 日本腰痛研究会誌 1997; 3 (1): 49-54.
- 11) 北川泰之, 白井康正, 伊藤博元, 成田哲也, 青木孝文, 高比良薫: 脛骨近位端部骨巨細胞腫の治療経験. 日医大誌 1997; 64 (5): 483-486.
- 12) 小林俊之, 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和: 脊椎硬膜外膿瘍に関する原因と臨床的検討. 日本外科感染症研究 1997; 9: 189-193.
- 13) 林 英俊, 白井康正, 中山義人, 成田哲也, 森 淳, 橘田雅美, 小林 薫, 飯沢典茂: 膝蓋腱と吸収性人工素材を用いた家兎膝前十字靭帯再建実験の動力的検討. 日本臨床バイオメカニクス学会誌 1997; 18: 505-509.
- 14) 大野達朗: 低出力半導体レーザー照射の疼痛抑制に関する研究ラット脊髄後根神経節内サブスタンスPの定量的検討. 日医大誌 1997; 64 (5): 395-400.
- 15) 南野光彦, 金田琴恵: 橈骨骨密度 (DXA法) と骨折について. 印刷局医学会 1997; 43: 109-114.
- 16) 青木孝文, 白井康正, 中山義人, 小池竜哉, 吉原 潔, 川並汪一¹⁾ (1) 老人病研究所病理部門): 成人弾発指における腱鞘の病理組織像について. 東日本震災会誌 1997; 9 (4): 506-508.
- 17) 元文芳和, 白井康正, 伊藤博元, 成田哲也, 肥沼正明, 中井文彦: Pulsing Electromagnetic Fields による四肢難治性骨折の治療成績. 日本生体電気刺激研究会誌 1997; 11: 53-54.
- 18) 元文芳和, 白井康正, 宮本雅史, 金田和容, 小泉幸子¹⁾, 黒澤 尚¹⁾ (1) 付属病院神経科): 脊椎手術患者の術前後における精神状態の検討. 東日本震災会誌 1997; 9 (4): 469-472.
- 19) 家田俊也, 橋口 宏: アキレス腱皮下断裂に対する Quadri looped suture 法の術後成績: 超音波画像による検討. 東日本震災会誌 1997; 9: 434-437.
- 20) 北川泰之, 白井康正, 宮本雅史: 頸部リンパ節腫脹を伴った小児頸椎椎間板石灰化症の1例. 整形外科 1997; 48: 1784-1785.
- 21) 小林由子¹⁾, 村上隆介¹⁾, 杉崎健一¹⁾, 山本 鼎¹⁾, 田島なつき²⁾, 間瀬泰克, 隈崎達夫³⁾ (1) 多摩永山病院放射線科, 2) 千葉北総病院放射線科, 3) 付属病院放射線科): Gd-DTPA 静注による膝関節損傷のMR 関節造影. 日本磁気共鳴医学会雑誌 1997; 17 (5): 246-255.
- 22) 上坂真司, 白井康正, 中山義人, 藤井信人, 橘田雅美, 吉原 潔, 小池竜哉, 梶原浩嗣, 田中功一: 変形性膝関節症における血中および関節液中ヒアルロン酸濃度. 関節の外科 1997; 23: 130-135.
- 23) 上坂真司, 白井康正, 中山義人, 藤井信人, 橘田雅美, 吉原 潔, 梶原浩嗣, 田中功一: 変形性膝関節症における関節液の生化学的分析. 東京膝関節学会誌 1997; 18: 16-20.

- 24) 藤井信人, 白井康正, 武内俊次, 今野俊介, 栗山直之, 金 竜: 外傷性頸部症候群における C-response の検討. 関東整形災害外科学会誌 1997; 28: 142-145.
- 25) 沢泉卓哉, 白井康正, 伊藤博元, 飯沢典茂, 栗山直之, 六郷知行: 小児上腕骨顆上骨折に対する簡便な経皮的整復法. 骨折 1997; 19 (2): 667-671.
- 26) 高木賢治, 田中 守, 庄司豊彦, 松浦美喜雄, 市原真仁, 伊藤康二, 伊藤博元, 柴崎昌浩, 司馬正邦, 堀田芳彦, 大谷 清, 小谷野誠司, 石井良章, 西 法正: 非ステロイド性抗炎症剤 (NSAIDs) 長期使用患者に合併する胃粘膜病変に対するレバミピドおよびH2受容体拮抗剤の臨床的有用性の検討. リウマチ科 1997; 18 (5): 506-514.
- 27) 沢泉卓哉, 白井康正, 金田和容, 金田琴恵, 中原義人, 南部昭彦: Rolando 骨折に対する治療経験: 特に創外固定の有用性について. 骨折 1997; 19: 782-786.
- 28) 飯沢典茂, 白井康正, 沢泉卓哉, 大野達朗, 南部昭彦: 手関節三角線維軟骨複合体損傷に対する装具療法. 運動療法と物理療法 1997; 8: 38-41.
- 29) 丸山晴久, 白井康正, 沢泉卓哉, 藤井信人, 金田琴恵, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理学第二教室): 内軟骨腫に起因する深指屈筋腱停止部剥離骨折の1症例. 骨・関節・靭帯 1997; 10: 359-362.
- 30) 小笠原浩明, 渡理英二¹⁾, 白井康正, 横室公三¹⁾ (1) 微生物学免疫学教室): II型コラーゲンの門脈内投与によるコラーゲン誘導関節炎抑制効果. 日医大誌 1997; 64 (3): 220-224.
- 31) 萬歳祐子, 白井康正, 沢泉卓哉, 飯沢典茂, 大野達朗, 中原義人: SKI POLEによる母指靭帯損傷 (skier's thumb). 日本スキー学会誌 1997; 205-209.
- 32) 橋口 宏, 家田俊也: 大腿骨転子部骨折に対する Intramedullary Hip Screw (IMHS) の術後成績. 骨折 1997; 19: 159-163.
- 33) 橋口 宏, 家田俊也: 腰椎椎間板ヘルニアに対する顕微鏡下椎間板摘出術の治療成績. 東北整形災害外科紀要 1997; 41: 132-134.
- 34) 橋口 宏: 踵骨骨折に対する Cannulated Screw を用いた Westhues 変法の治療成績. 東北整形災害外科紀要 1997; 41: 229-233.
- 35) 森 淳, 白井康正, 中山義人, 成田哲也, 飯沢典茂, 林 英俊, 杉山 修: 3-Dimensional Field Echo 法 MRI による膝前十字靭帯損傷形態診断の検討: 部分損傷と完全損傷の鑑別について. 東京膝関節学会誌 1998; 18: 129-133.
- 36) 青木孝文, 白井康正, 武内俊次, 沢泉卓哉, 金 竜, 服部幹彦: 廃用性筋萎縮の電気診断: 筋放電の周波数解析を中心として. 日整会誌 1998; 72: S64.
- 37) 吉原 潔, 中山義人, 藤井信人, 橋田雅美, 田中功一, 白井康正: 腰椎椎間板ヘルニアにおける多裂筋の組織化学的検討. 神奈川整形災害外科医会雑誌 1998; 10 (5).
- 38) 水野伸一: キノリン酸は新生ラット脊髄運動ニューロンをNMDA受容体を介して脱分極する. 日医大誌 1998; 65 (2): 161-166.
- 39) 宮本雅史, 白井康正, 武内俊次, 元文芳和, 青木孝文, 金田和容: 新入看護職員を対象とした腰痛教室. 整形災害外科 1998; 41 (3): 223-230.
- 40) 間瀬泰克, 白井康正, 渡辺 誠, 南 和文, 肥沼正明, 梶本陽司, 小林由子¹⁾, 杉崎健一¹⁾ (1) 多摩永山病院放射線科): 半月板損傷に対する MR 関節造影: 単純 MRI との比較. 東京膝関節学会誌 1998; 18: 124-128.

(2) 綜説:

- 1) 木村哲彦: 褥瘡の治療と予防. 整形外科看護 1997; 2: 31-35.
- 2) 木村哲彦: リハビリテーションに於ける VR 技術の応用と今後の実用性. 新医療 1997; 275: 101-103.
- 3) 伊藤博元: 外傷性肩関節前方脱臼の病態と診断. MB Orthopaedics 1997; 10 (10): 17-25.

(3) 研究報告書：

- 1) 近藤正勝¹⁾, 松村 豊²⁾, 塔尾武夫²⁾, 小川光哉³⁾, 館岡儀科⁴⁾, 松本 茂³⁾, 南 和文, 野田雄二⁵⁾, 桑森真介⁶⁾
(¹⁾ 日本大学, ²⁾ 拓殖大学, ³⁾ 日本体育大学, ⁴⁾ 駒沢大学, ⁵⁾ 玉川大学, ⁶⁾ 明治大学)：学生相撲選手の身体組成, 体脂肪組成および筋力に関する縦断的研究. 平成9年度日本オリンピック委員会 スポーツ医・科学研究報告 NoII競技種目別競技力向上に関する研究 (第21報). 1997；pp183-194.

著 書

- 1) 玉井健介：〔翻訳〕整形外科外傷マニュアル (第2版), 1997；メディカルサイエンス・インターナショナル。
2) 白井康正：〔監訳〕整形外科外傷マニュアル (第2版), 1997；メディカル・サイエンス・インターナショナル。
3) 木村哲彦：〔翻訳〕グリープの最新徒手医学. グリープの最新徒手医学, 1997；pp1-397, Churchill Livingstone.
4) 中山義人：〔分担〕プラクティカルマニュアル膝疾患保存療法. 膝蓋骨骨折, 1997；pp107-111, 金原出版。
5) 木村哲彦：〔共著〕総論：福祉用具プランナー教科書, 1997；厚生省テクノエイド協会。
6) 白井康正：〔分担〕創外固定. 1997今日の治療指針 (vol 39), 1997；pp97-98, 医学書院。
7) 木村哲彦：〔分担〕骨・骨格・関節・筋・移動. 人間生物学 Human Biology, 1998；pp55-80, 三輪書店。
8) 白井康正：〔分担〕医学大辞典, 1998；南山堂。
9) 元文芳和, 白井康正：〔分担〕マイナートランクリライザー. 整形外科常用処方実践マニュアル, 1998；pp86-91, 全日本病院出版会。
10) 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和, 金田和容：〔共著〕建設業従事者の腰痛に関する報告. 建設業従事者の腰痛に関する報告, 1998；建設業労働災害防止協会。
11) 白井康正：〔編集〕エッセンシャル整形外科 (第2版増刷), 1998；医歯薬出版。

学会発表

〔1996年度追加分〕

教育講演：

- 1) 白井康正：骨と筋肉について. 建設業災害防止協会, 1997. 3.

一般講演：

- 1) 上坂真司, 白井康正, 中山義人, 藤井信人, 橘田雅美, 吉原 潔, 小池竜哉, 梶原浩嗣, 田中功一：変形性膝関節症におけるヒアルロン酸ナトリウム関節内注入療法による関節液性状の変化. 第18回東京膝関節学会, 1997. 2.
2) 藤井信人, 中山義人, 橘田雅美, 吉原 潔, 上坂真司, 梶原浩嗣, 田中功一, 尾崎大也, 白井康正：第3中足骨単独リスフラン関節脱臼骨折の1例. 第26回神奈川関節外科研究会, 1997. 3.
3) 吉原 潔, 中山義人, 藤井信人, 橘田雅美, 小池竜哉, 上坂真司, 田中功一, 梶原浩嗣, 白井康正：腰椎椎間板ヘルニアにおける多裂筋の病態：組織科学的ならびに筋電図学的検討. 第99回神奈川整形災害外科学会, 1997. 3.
4) 小笠原浩明, 白井康正, 沢泉卓哉, 栗山直人：ゴルフによる尺側手根伸筋筋腱脱臼の1例. 第5回関東整形災害外科学会月例会, 1997. 3.

(1) 特別講演：

- 1) 木村哲彦：姿勢制御・筋トレーニング関節可動域. 1997年度VR学会セミナー, 1997. 7.
2) 木村哲彦：福祉機器開発に望む. 1997年度Life Support Technology 学会, 1997. 10.

(2) 招待講演：

- 1) 木村哲彦：生馬シュミレータの医学的応用の可能性。1997年度VR学会総会，1997。6。

(3) 教育講演：

- 1) 伊藤博元：スポーツによる肩関節の障害。葛飾区医師会研修会，1997。4。
- 2) 白井康正：頸椎牽引の基礎と臨床。久留米医師会教育研修会，1997。4。
- 3) 白井康正：腰痛予防対策。労働官教育セミナー，1997。6。
- 4) 伊藤博元：肩関節周辺のスポーツ外傷と障害。富士宮医師会研修講演会，1997。7。
- 5) 白井康正：仙腸関節とスポーツ。第20回多摩整形外科学会，1997。9。
- 6) 成田哲也：スポーツ選手における関節障害の診断と治療。日本医師会生涯教育講座，1997。10。
- 7) 武内俊次：骨粗鬆症と骨折。日本医師会生涯教育講座，1997。10。
- 8) 成田哲也：スポーツと整形外科：正しいスポーツ医へのかかわりかた。平成9年度文京区教育委員会体育指導者講習会，1998。2。
- 9) 白井康正：スポーツによる仙腸関節障害。第33回埼玉整形外科学会，1998。3。

(4) シンポジウム：

- 1) Nakayama Y：Osteoarthritic changes of patellofemoral joint after cruciate ligament reconstruction. 7th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium, Taichung, Taiwan, 1997。5。
- 2) Ito H：Prosthetic replacement for severe fractures of proximal humerus. 7th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium, Taichung, Taiwan, 1997。5。
- 3) Shirai Y：Pain control in laser. 7th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium, Taichung, Taiwan, 1997。5。
- 4) Shirai Y, Miyamoto M, Genbun Y：Cervical Traction. 1997 SICOT Asia Orthopedic Trainee Meeting in Taiwan, 1997。10。
- 5) Kimura T：脊髄損傷の治療・予防データベース構築について。1997年度WHO国際セミナー，1997。11。

(5) パネルディスカッション：

- 1) 宮本雅史，白井康正，武内俊次，元文芳和，金田和容：当院における新入看護職員を対象とした腰痛教室。第70回日本整形外科学会，1997。6。
- 2) 木村哲彦：福祉機器開発の実用性に期待するもの。1997年度日本機械学会，1997。8。

(6) ワークショップ：

- 1) 木村哲彦：車椅子処方支援CABの開発。第7回車椅子スポーツ研究会，1997。8。

(7) 一般講演：

- 1) Miyamoto M, Shirai Y, Gembun Y：Epidemiologic study for low back pain in truck drivers. Joint meeting of International meeting of SICOT, 1997。10。
- 2) 橋口 宏：踵骨骨折に対するCannulated Screwを用いたWestthues 変法の治療成績。第89回東北整形外科学会，1997。4。
- 3) 宮本雅史，白井康正，元文芳和，清水要吉，今野俊介，金田和容：棘突起従割式脊柱管拡大術の治療成績とX線学的検討。第26回脊椎外科学会，1997。4。
- 4) 元文芳和，白井康正，伊藤博元，肥沼正明，中井文彦：電磁場刺激法（Pulsing Electromagnetic Fields）による四肢難治性骨折の治療成績。第24回日本生体電気刺激研究会，1997。4。
- 5) 内山真紀，加藤昌克¹⁾，折笠千登世¹⁾，佐久間康夫¹⁾（¹⁾生理学第一教室）：GHRHラット下垂体濾胞星状細胞に作用し細胞内カルシウム濃度を変化させる。第70回日本内分泌学会学術総会，1997。5。
- 6) 森 淳，白井康正，中山義人，成田哲也，飯沢典茂，林 英俊：膝前十時靭帯再建後アスレチックリハビリテーションの筋力改善効果の検討。第23回日本整形外科スポーツ医学会学術集会，1997。5。

- 7) 六郷知行, 白井康正, 沢泉卓哉, 青木孝文, 金田和容, 林 英俊: 中・高齢者における手指の仮骨延長術の小経験. 第34回関東整形災害外科学会, 1997. 5.
- 8) 沢泉卓哉, 白井康正, 飯沢典茂, 南部昭彦, 六郷知行: TFCC損傷に対する装具療法の検討. 第40回日本手の外科学会, 1997. 5.
- 9) 南 和文, 白井康正, 間瀬泰克, 小林明雄, 大場俊二¹⁾ (¹⁾ 大場整形外科クリニック): 成長期の腰椎分離症の画像診断. 第23回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会, 1997. 5.
- 10) 柴田靖章, 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和, 赤石文洋, 飯沢典茂: ヘリカルCTを用いた仙腸関節変性の評価. 第34回関東整形災害外科学会, 1997. 5.
- 11) 青木孝文, 白井康正, 藤井信人, 柴田靖章, 金 竜, 山田哲士: 踵骨骨折後に生じた絞扼性腓腹神経障害の1例. 第22回日本足の外科学会, 1997. 6.
- 12) 伊藤博元, 白井康正, 高山景範, 橋口 宏, 井出勝彦, 水江史樹, 丸山晴久: 肩関節外傷性前方不安定症に対するBoytchev変法の長期成績: Hill Sachs lesionとの関連について. 第70回日本整形外科学術集会, 1997. 6.
- 13) 藤井信人, 白井康正, 成田哲也, 沢泉卓哉, 千葉由雄, 梶原浩嗣: Brooker Tibial system を用いた脛骨骨幹部骨折の治療成績: reaming例とnon reaming例の比較検討. 第23回日本骨折治療学会, 1997. 7.
- 14) 青木孝文, 白井康正, 沢泉卓哉, 千葉由雄, 林 英俊, 小野寺剛: 橈骨遠位端関節内骨折に対する吸収性骨接合材の使用成績. 第23回日本骨折治療学会, 1997. 7.
- 15) 橋口 宏, 山田哲士: Intramedullary Hip Screw (IMHS) の術後評価. 第23回日本骨折治療学会, 1997. 7.
- 16) 橋口 宏, 山田哲士: 腓骨遠位部骨折に対するStainless Steel Taper (SST) nailの術後成績. 第23回日本骨折治療学会, 1997. 7.
- 17) 沢泉卓哉, 白井康正, 伊藤博元, 青木孝文, 六郷知行, 萬歳祐子: 小児上腕骨顆上骨折に対する簡便な経皮的整復法2. 第23回日本骨折治療学会, 1997. 7.
- 18) 井伊京一郎, 城 武俊, 渋川正人, 吉田恒丸: ポリ-L-乳酸ピンを用いて肘関節内骨折片を固定した2症例. 第23回日本骨折治療学会, 1997. 7.
- 19) 間瀬泰克, 白井康正, 渡辺 誠, 南 和文, 肥沼正明, 梶本陽司: スポーツ障害肩に対する肩関節鏡視下手術の経験. 第46回東日本整形外科学会, 1997. 8.
- 20) 上坂真司, 白井康正, 中山義人, 藤井信人, 橘田雅美, 吉原 潔, 梶原浩嗣, 田中功一, 尾崎大也: 変形性膝関節症における関節液中コンドロイチン硫酸濃度. 第26回リウマチの外科研究会, 1997. 8.
- 21) 吉原 潔: 髓内釘の遠位スクリュー挿入法の工夫. 第46回東日本整形災害外科学会, 1997. 8.
- 22) 青木孝文, 白井康正, 藤井信人, 星川裕一, 太田信孝: 足関節果部骨折の術後療法におけるダイナミックキャスト法の有用性について. 第46回東日本整形災害外科学会, 1997. 8.
- 23) 田中功一, 白井康正, 中山義人, 渡辺 誠, 玉井健介: 橈骨遠位端骨折の短期成績. 第46回東日本整形災害外科学会, 1997. 8.
- 24) 青木孝文, 白井康正, 沢泉卓哉, 成田哲也, 中原義人, 六郷知行: 上腕骨遠位端関節内骨折の治療成績. 第3回神奈川手・肘の外科研究会, 1997. 9.
- 25) 八百板仁志, 白井康正, 成田哲也, 南野光彦, 林 英俊, 丸山晴久, 小野寺剛: 半月板のう腫を合併した大腿骨外顆離断性骨軟骨炎の1例. 第583回関東整形外科学会月例会, 1997. 9.
- 26) 南 和文, 掛川裕二, 竹内良夫¹⁾ (¹⁾ 微生物学免疫学教室): 陥入爪と靴内の細菌学的検討. 第11回日本靴医学会学術集会, 1997. 9.
- 27) 高野雅彦, 白井康正, 渡辺 誠, 伊藤博元, 肥沼正明, 丸山晴久, 前田昭太郎¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院病理部): 胸髄に発生した未分化神経胚葉性腫瘍の1例. 第584回関東整形災害外科学会地方会, 1997. 10.
- 28) 水江史樹, 白井康正, 伊藤博元, 高山景範, 井出勝彦, 丸山晴久: Wolter Clavicular plateによる鎖骨遠位端骨

- 折の治療成績. 第24回肩関節学会, 1997. 10.
- 29) 丸山晴久, 白井康正, 伊藤博元, 高山景範, 橋口 宏, 水江史樹: 外傷性肩関節後方脱臼骨折の3例. 第24回肩関節学会, 1997. 10.
- 30) 林 英俊: 膝蓋腱と吸収性人工素材を用いた家兔膝前十字靭帯再建実験の力学的検討. 第12回日本整形外科学会基礎学術集会, 1997. 10.
- 31) 江川慶長, 白井康正, 沢泉卓哉, 青木孝文, 橋田雅美, 熊坂庸恵, 萬歳祐子: 両側同時受傷の舟状骨両側偽関節の1例. 第35回関東整形外科学会, 1997. 11.
- 32) 橋口 宏: 肩腱板広範囲断裂の治療成績. 第90回東北整形災害外科学会, 1997. 11.
- 33) 宮本雅史, 白井康正, 元文芳和, 金田和容, 柴田靖章, 小野寺剛: 陸上貨物輸送業における腰痛の疫学調査. 第5回日本腰痛研究会, 1997. 11.
- 34) 青木孝文, 白井康正, 沢泉卓哉, 成田哲也, 中原義人, 六郷知行: 足部の絞扼性神経障害に対するインテング法の応用. 第27回日本脳波・筋電図学会, 1997. 11.
- 35) 金 竜, 白井康正, 武内俊次, 青木孝文, 南部昭彦, 萬歳祐子, 江川慶長: 脛髄損傷患者のF波による機能予後予測について. 第27回脳波・筋電図学会, 1997. 11.
- 36) 武田知通, 白井康正, 中山義人, 成田哲也, 森 淳, 林 英俊, 萬歳祐子: サッカー選手における床反力計を用いたターン動作の解析. 第24回日本臨床バイオメカクス学会, 1997. 11.
- 37) 元文芳和, 白井康正, 宮本雅史, 金田和容, 小野寺剛, 服部幹彦: 腰椎手術患者の術前後における精神状態の検討. 第5回腰痛研究会, 1997. 11.
- 38) 南野光彦, 金田琴恵: 単純性股関節炎の超音波画像診断. 第44回印刷局医学研究会, 1997. 11.
- 39) 小林俊之, 白井康正, 玉井健介, 村田修二: 足趾に発生したmicrogeodic diseaseの1例. 第35回関東整形災害外科学会, 1997. 11.
- 40) 橋田雅美, 白井康正, 渡辺 誠, 中山義人, 玉井健介, 南 和文: 腰椎椎間板ヘルニアのMRI所見と臨床所見との相関. 第5回日本腰痛研究会, 1997. 11.
- 41) 玉井健介, 白井康正, 武内俊次, 小林俊之, 村田修二: 大腿骨頭壊死の自然経過. 第24回日本股関節学会, 1997. 11.
- 42) 南 和文, 白井康正, 間瀬泰克, 成田哲也, 大場俊二¹⁾ (1) 大場整形外科クリニック): 小学生の腰椎分離症と骨癒合. 第8回日本小児整形外科学会学術集会, 1997. 11.
- 43) 南 和文, 白井康正: 股関節臼蓋形成不全に使用する骨補. 第24回日本股関節学会, 1997. 11.
- 44) 南 和文, 白井康正, 成田哲也, 間瀬泰克, 大場俊二¹⁾ (1) 大場整形外科クリニック): スポーツによる第3, 4腰椎分離症の治療. 第8回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 1997. 11.
- 45) 鈴木康之, 白井康正, 沢泉卓哉, 北川泰之: 示指に発生した骨外軟骨腫の1例. 第585回関東整形外科学会月例会, 1997. 12.
- 46) 大野達朗, 白井康正, 大場俊二¹⁾, 昌司博美¹⁾ (1) 大場整形外科クリニック): 高校長距離陸上部員のシンスプリントと脛骨疲労骨折. 第9回九州スポーツ医科学会, 1997. 12.
- 47) 掛川裕治, 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和, 栗山直之, 中原義人: 成人に発生した環軸回旋位固定の1例. 第586回関東整形外科学会地方会, 1998. 1.
- 48) 青木孝文, 白井康正, 沢泉卓哉, 中原義人, 六郷知行, 南部昭彦, 萬歳祐子, 中山義人: 骨性マレット指に対する小切開ピンニング法の治療成績. 第12回東日本手の外科研究会, 1998. 2.
- 49) 中原義人, 白井康正, 沢泉卓哉, 青木孝文: 橈骨手根関節背側脱臼骨折の1例. 第12回東日本手の外科研究会, 1998. 2.
- 50) 杉山 修, 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和, 金田和容, 柴田靖章: 仙腸関節炎を初発として発症したパーチェ

ット病の1例. 第587回関東整形災害外科学会月例会, 1998. 2.

51) 柴田靖章, 白井康正, 青木孝文, 北川泰之: 足趾末節骨に発生した類骨骨腫の1例. 第587回関東整形災害外科学会月例会, 1998. 2.

52) 加藤昌克¹⁾, 内山真紀, 佐久間康夫¹⁾ (¹⁾ 生理学第一教室): 視床下部ペプチドによるラット下垂体濾胞星状細胞の細胞内カルシウムの調節. 第75回日本生理学大会, 1998. 3.

53) 田中功一, 中山義人, 藤井信人, 橘田雅美, 吉原 潔, 上坂真司, 梶原浩嗣, 尾崎大也, 森 淳, 白井康正: 大腿骨顆部冠状骨折の治療. 第27回神奈川関節外科学会研究会, 1998. 3.

13. 産婦人科学講座

[付属病院産婦人科]

研究概要

当教室の研究テーマは以下のように多岐に渡る分野で様々な基礎的、臨床的研究が行われた。(1) 周産期医学：胎児疾病に関する研究, (2) 産科学：妊娠中毒症などハイリスク妊娠に関する研究, (3) 婦人科学；婦人科腫瘍の発生、治療に関する研究, (4) 不妊症：受精着床障害に関する検討, (5) 内視鏡手術による検査、診断、治療に関する研究。

研究内容の主なものをあげる。(1) 周産期分野；教室の今までの研究成果を荒木教授が日本産科婦人科学会における特別講演で『胎児の体温調節』として集大成した。本年度はさらに、胎児脳温調節機構に関する研究が加わり、新知見が加わった。また、臨床的にはIUGR児におけるヒポキサンチンの意義を見出し、双胎間輸血症候群についてシンポジウムで発表した。妊娠中毒症では、胎盤のNOS活性の測定が行われ、羊水栓塞の臨床背景に関する研究が関東連合地方部会の学会奨励賞をうけた。(3) 婦人科腫瘍関連では、子宮筋腫発生における新規融合遺伝子を見出し、臨床においては当教室における子宮肉腫の臨床治療成績をまとめた。(4) 不妊症では、流産のメカニズムにつき研究が行われ、(5) 内視鏡関係ではシンポジウムにおいて当科における臨床成績のまとめが行われた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Tanaka K, Kawamura T, Asakura H, Araki T : Effect of maternal infection on prostaglandin production and uterine contraction in late-gestation pregnant goats. *J Nippon Med School* 1997 ; 64 (5) : 422-427.
- 2) Kubonoya K, Yoneyama Y, Sawa R, Shin S, Suzuki S, Satomi M, Miura A, Konishi H , Araki T : T. Cord malondialdehyde level in growth-retarded fetuses before labor. *Acta. Gynecol Obstet Scand* 1997 ; 76 (62).
- 3) Oya A, Asakura H, Koshino T, Araki T : Thermographic demonstration of nonshivering thermogenesis in human newborns after birth : its relation to umbilical gases. *J Perinatal Med* 1997 ; 25 : 447-454.
- 4) Ghazizadeh M, Sasaki Y, Araki T, Konishi H, Aihara K : Prognostic value of proliferative activity of ovarian carcinoma as revealed by PCNA and AgNOR. *Analysis Am J Clin Pathol* 1997 ; 107 : 451-458.
- 5) Kato H, Yoneyama Y, Araki T : Fetal plasma lipid peroxide levels in pregnancies complicated by preeclampsia. *Gynecol Obstet Invest* 1997 ; 43 : 158-161.
- 6) Sawa R, Yoneyama Y, Suzuki S, Otsubo Y, Power GG, Araki T : Umbilical venous plasma hypoxanthine concentration in growth-retarded fetuses before labor. *J Clin Endocrinol Metab* 1997 ; 82.
- 7) Sawa R, Yoneyama Y, Otsubo Y, Suzuki S, Kubonoya K, Power GG, Araki T : Fetal plasma hypoxanthine level in growth-retarded fetuses before labor. *J Clin Endocrinol Metab* 1997 ; 82 : 1423-6.
- 8) Takano M, Aida H, Tsuneki I, Takakuwa K, Hasagawa I, Hatae H, Chen JT, Takahashi K, Hasagawa K, Toyoda N, Saito N, Yakushiji M, Araki T, Tanaka K : Mutational analysis of BRCA1 gene in ovarian and breast cancer families in Japan. *Jap J Cancer Reseach* 1997 ; 88 : 407.
- 9) Ohta Y, Tsutsumi K, Kikuchi K, Yasumoto S : Two distinct human uterine cervical epithelial cell Lines established after transfection with human papillomavirus 16 DNA. *Jpn J Cancer Res* 1997 ; 88 : 644-651.
- 10) Hayasi Z, Orimo H, Araki T, Shimada T : Perinatal diagnosis of steroid 21-hydroxylase deficiency by analysis of polymerase chain reaction-single strand conformation polymorphism (PCR-SSCP) profiles.

- Perinatal Diagnosis 1997 ; 17 (5) : 425-442.
- 11) Ahlers JD, Takeshita T, P endleton CD, Berzofsky JA : Enhanced immunogenicity of HIV-1 vaccine construct by modification of the native peptide sequence. Proc Natl Acad Sci USA 1997 ; 94 : 10856-10861.
 - 12) Asano T, Ishii H, Sawa R, Araki T, Yamamoto M : Incidence of thrombocytopenia in infants born to mother with idiopathic thrombocytopenic purpura. Acta Paediatrica Japonica 1998 ; 40 : 6-9.
 - 13) Iida A, Kurose K, Isobe R, Akiyama F, Sakamoto G, Yoshimoto M, Kasumi F, Nakamura Y, Emi M : Mapping of a new target region of allelic loss to a 2-cM interval at 22q13.1 in primary breast cancer. Genes Chromosom Cancer 1998 ; 21 : 108-112.
 - 14) Takeshita T, Takahashi H, Araki T : Prevention of spontaneous fetal resorption by IP. injection with monoclonal antibodies to ICAM-1 and LFA-1. Proceedings of the 12th Annual Meeting of Japan Society for Immunology of Reproduction 1998 ; 12.
 - 15) Takeshita T, Arisaka Y, Asakura H, Koshino T, Araki T : Enhancement of ICAM-1 expression on the endothelial cells and NK cell activity in pre-eclampsia. 日本妊娠中毒症学会誌 1997 ; (5) : 69-70.
 - 16) 荒木 勤, 大坪保雄, 窪谷 潔, 澤倫太郎, 米山芳雄, 進 純郎 : "Intrauterine Fetal Brain Death". 日本産科婦人科学会東京会誌 1998 ; 47 (1) : 129-132.
 - 17) 中山裕樹, 土居大祐, 小野瀬亮, 河合尚基, 加藤久盛, 岡島弘幸, 小松祐子, 岩撫成子, 中村満美子, 早淵洋子 : 子宮頸癌一次検診における頸部細胞診を取り巻く諸問題の検討. 日本臨床細胞学会雑誌 36 (5) : 478-483.
 - 18) 浜本鉄也, 岡田 清, 宮川 昇, 高橋英彦, 石川みずえ, 茂古沼吉宗, 小林由子 : 陶器様卵巣 : びまん性石灰化皮様嚢腫の1症例. 臨床婦人科産科 1997 ; 51 : 565-568.
 - 19) 進 純郎, 荒木 勤 : IUGRの定義と胎児発育に関する用語. 産婦人科の実際 1997 ; 46 (13) : 1905-1908.
 - 20) 進 純郎, 荒木 勤 : 妊娠の診断と分娩予定日の算出. 周産期医学 1997 ; 27 (増刊号) : 5-7.
 - 21) 大屋敦子, 白井文男, 梅沢勝弘, 横田明重, 朝倉啓文, 越野立夫 : 附属器切除後に子宮溜血腫を発症した双角子宮の1例. 東京地方部会誌 1997 ; 46 (4) : 381-384.
 - 22) 安達志野, 米山剛一, 里見操緒, 松下径広, 大坪保雄, 小西英喜, 進 純郎, 荒木 勤 : 高齢に発症した侵入奇胎の治療経験. 日医大誌 1997 ; 64 : 574-575.
 - 23) 竹内久美, 朝倉啓文, 大屋敦子, 横田明重, 竹下俊之, 越野立夫, 荒木 勤, 佐々木静子 : 妊娠悪阻における褐色脂肪の熱産生. 日産婦栄養代謝研究会誌 1997 ; 3 (1) : 39-40.
 - 24) 安達志野, 米山剛一, 里見操緒, 松下径広, 窪谷 潔, 大坪保雄, 小西英喜, 荒木 勤 : 高齢に発症した侵入奇胎の1例. 日産婦東京会誌 1997 ; 46 : 320-323.
 - 25) 栗山秀樹, 澤倫太郎, 米山芳雄, 鈴木俊治, 三浦 敦, 進 純郎, 荒木 勤 : 重症妊娠 悪阻に心筋炎を合併した1例. 日産婦東京会誌 1997 ; 46 : 154-8.
 - 26) 石川博臣¹⁾, 米山剛一, 八田充子, 大野明子¹⁾, 河合尚基¹⁾, 岡野匡雄²⁾ (¹⁾ 東部地域病院婦人科, ²⁾ 同検査科) : 卵巣癌を含む四重癌の1例および当院における重複癌の検討. 日産婦東京会誌 1997 ; 46 : 191-194.
 - 27) 八田充子, 米山剛一, 松下径広, 西 弥生, 高田秀一, 小西英喜, 進 純郎, 荒木 勤 : 嚢胞性子宮腺筋症に類内膜腺癌を合併した1例. 日産婦東京会誌 1997 ; 46 : 343-346.
 - 28) 安達志野, 米山剛一, 里見操緒, 松下径広, 窪谷 潔, 大坪保雄, 小西英喜, 荒木 勤 : 高齢に発症した子宮腫瘍との鑑別が困難であった小腸腸間膜侵入奇胎の1例. 日産婦東京会誌 1997 ; 46 : 320-323.
 - 29) 八田充子, 米山剛一, 松下径広, 西 弥生, 高田秀一, 小西英喜, 進 純郎, 荒木 勤 : 嚢胞性子宮腺筋症に類内膜癌を合併した1例. 日産婦東京会誌 1997 ; 46 : 343-346.
 - 30) 谷内良成, 横田明重, 広瀬正則, 朝倉啓文, 越野立夫, 松本光司, 山田宣孝 : 当科における卵巣腫瘍術中迅速病理診断の臨床的検討. 日産婦東京地方部会誌 1997 ; 46 : 2183-186.

- 31) 八田充子, 米山剛一: 子宮漿膜直下の嚢胞性子宮腺筋症に類内膜腺癌を合併した1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 1997; 46 (4).
 - 32) 桑島豊彦, 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 進純 郎, 荒木 勤: 切迫早産治療中に 深部血栓症を発症した1例. 日本産婦人科新生児血液学会誌 1997; 7 (2): 67-68.
 - 33) 里見 操, 大坪保雄, 窪谷 潔, 澤倫太郎, 米山芳雄, 進 純郎, 荒木 勤: MDS (骨髄異形成症候群) 合併妊娠の2症例に関する検討. 日本産婦人科新生児血液学会誌 1997; 7 (2): S13-14.
 - 34) 澤倫太郎, 米山芳雄, 大坪保雄, 鈴木俊治, 進 純郎, 兼子和彦, 荒木 勤: TTTSの概念の再考. 日本産婦人科新生児血液学会誌 1997; 7 (2): S1-2.
 - 35) 明楽重夫, 可世木久幸, 石原珠紀, 荏原弘光, 荒木 勤: 中隔・弓状子宮に対するレーザー子宮鏡による子宮腔形成術と臨床成績. 日本受精着床学会雑誌 1997; 14: 139-141.
 - 36) 都甲明子, 岩崎卓爾, 山口 暁, 田中 彰, 河村 堯, 荒木 勤, 横山宗伯, 山川義寛: パルボウイルスB19感染により一児に胎児水腫が発症したと考えられる双胎妊娠の1症例. 日本新生児学会雑誌 1997; 33 (3): 336-370.
 - 37) 兼子和彦, 竹内正人: 弛緩出血の処置, 産婦治療. 1997; 74: 833-836.
 - 38) 瑪依努爾, 進 純郎, 荒木 勤: 妊娠中期の早産. 周産期医学 1998; 28 (2): 147-151.
 - 39) 田中純也, 前田昭太郎, 浅野伍朗, 荒木 勤: 子宮頸部のサイトケラチンの局在変化と子宮頸癌の浸潤様式との関係. 日医大誌 1998; 65 (1): 14-27.
- (2) 綜説:
- 1) 米山芳雄, 窪谷 潔, 澤倫太郎, 荒木 勤: Fetal asphyxiaにおける胎仔低体温が胎仔温度調節, 代謝に及ぼす影響に関する研究. 産婦人科治療 1997; 75: 706.
 - 2) 竹下俊行, 荒木 勤: 周産期の生理学: 妊娠に伴う生理的変化 3.呼吸系の変化. ペリネイタルケア 1997; 202: 1073-1076.
 - 3) 黒瀬圭輔, 江見 充, 中村祐輔: 多段階発癌. 遺伝子医学 1997; 1997 (1): 204-208.
 - 4) 黒瀬圭輔, 松本智司, 江見 充: BRCA1, BRCA2遺伝子と家族性乳癌. 医学と薬学 1997; 37: 817-821.
 - 5) 竹下俊行, 明楽重夫, 可世木久幸, 荒木 勤: 外来で可能な子宮鏡下GIFT法の有用性. 産婦の実際 1997; 46 (8): 1097-1102.
 - 6) 荒木 勤: 婦人科手術をめぐる最近の話題. 産婦治療 1997; 74 (5): 481-184.
 - 7) 朝倉啓文, 荒木 勤: 産科ショックとその対策. 産婦治療 1997; 75 (3): 275-279.
 - 8) 竹下俊行, 明楽重夫, 可世木久幸, 荒木 勤: 外来で可能な子宮鏡下GIFT法の有用性. 産婦人科の実際 1997; 46 (8): 1097-1102.
 - 9) 可世木久幸, 荏原弘光, 明楽重夫, 荒木 勤: 家兎を用いた実験的卵管閉塞モデルの確立人. 産婦人科マイクロサージェリー学会誌 1997; 10 (1): 42-44.
 - 10) 平原史樹, 住吉好雄, 田中政信, 朝倉啓文, 水口弘司: 先天異常モニタリング. 産婦人科治療 1997; 74: 467-472.
 - 11) 河村 堯, 荒木 勤: 羊水の代謝 (羊水過多, 過少). 周産期医学 1997; 27 (4): 507-510.
 - 12) 朝倉啓文: 妊娠悪阻の危機管理. 周産期医学 1997; 28 (3): 275-278.
 - 13) 米山芳雄, 瑪依努爾, 進 純郎, 荒木 勤: 胎内治療: 酸素療法. 周産期医学 1997; 27: 1335-1337.
 - 14) 澤倫太郎, 進 純郎, 荒木 勤: 妊娠初期に必要な血液検査と異常値の解釈. 周産期医学 1997; 27: 15-16.
 - 15) 澤倫太郎, 進 純郎, 荒木 勤: 妊娠初期 (初診時) の問診. 周産期医学 1997; 27: 2-4.
 - 16) 桑島豊彦, 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 進 純郎, 荒木 勤: 切迫早産治療中に深部静脈血栓症を発症した1例. 日産婦新生児血液学会誌 1997; 7 (2): 67-68.

- 17) 竹下俊行, 荒木 勤: 卵巣機能と子宮筋腫. 今月の臨床. 臨床婦人科産科 1997; 51 (12): 1252-55.
 - 18) 竹下俊行, 荒木 勤: 子宮筋腫-最新情報 子宮筋腫と卵巣機. 臨床婦人科産科 1997; 51 (12): 1252-1255.
 - 19) 澤倫太郎, 荒木 勤: 重症悪阻—ビタミンB1欠乏とWernicke脳症. 臨婦産 1997; 51 (10): 1090-1092.
 - 20) 朝倉啓文, 荒木 勤, 松久威史: 産婦の実際 1997; 46 (6): 829-830.
 - 21) 朝倉啓文: 胎児, 新生児の体温調節. 産婦の実際 1997; 46 (12): 1843-1850.
 - 22) 米山芳雄, 荒木 勤: 胎児well-beingの検査. 臨床検査 1997; 41: 793-798.
 - 23) 朝倉啓文, Miaji M, 大坪保雄, 進 純郎, 荒木 勤: 胎盤, 臍帯の異常, 前置胎盤, 単一臍帯動脈. 産と婦 1998; 65: 273-279.
 - 24) 米山剛一, 進 純郎, 荒木 勤: 産科診療と凝固異常, 羊水塞栓症. 臨婦産 1998; 52: 326-329.
- (3) 研究報告書:
- 1) 朝倉啓文, 越野立夫, 中井章人: 母体運動負荷による胎児well beingの評価: 胎児循環制御機構からの検討. 厚生省科学研究課題番号07671830.
 - 2) 兼子和彦, 竹内正人: 妊娠悪阻に伴うWernicke-Korsakoff症候群, 厚生省心身障害研究: 妊産婦死亡の防止に関する研究 (主任 武田佳彦). 平成8年度研究報告書 1997; p199.

著 書

- 1) Asakura H, Nakai A, Oya A, Koshino T, Araki T: [分担] Significance of blood flow velocimetry in renal interlobar artery in women with pregnancy induced hypertension. (M Nakabayashi & T Araki ed.) In 'Recent advance on the pathophysiology of pregnancy'; pp155-158, Simul International Press, Tokyo.
- 2) Nakabayashi M, Araki T: Recent Advances on the Pathophysiology of pregnancy; Simul Internathional 1.
- 3) Araki T, Sawa R, Kubonoya K, Yoneyama Y: The physiological role of plasma adenosine in growth retarded fetuses. Proceedings of the seventh Fukuoka international symposium on perinatal medicine. (ed. H Nakano, S Suita, T Koyanagi).
- 4) 荒木 勤: [分担] 妊娠分娩の管理と検査. NEW 産婦人科 (矢嶋 聰, 中野仁雄, 武谷雄二編): pp310-321, 南江堂.
- 5) 荒木 勤, 明楽重夫: [分担] Women's Health—女性が健康に生きるために—. 日本母性衛生学会編; pp155-160, 南山堂.
- 6) 荒木 勤, 鈴木俊治: [分担] 臨床看護辞典 (監修: 高久史麿, 大國真彦, 森岡恭彦, 坂元正一): メジカルフレンド社.
- 7) 黒瀬圭輔, 江見 充: [分担] BRCA1, BRCA2と乳癌. がん遺伝子・がん抑制遺伝子. (渋谷正史, 山本 雅編): 中外医学社.
- 8) 寺尾俊彦, 荒木 勤, 矢内原巧, 野澤志朗: 産科出血の臨床; メジカルビュー社.
- 9) 竹下俊行, 可世木久幸, 荒木 勤: [分担] 30の大学病院による診断と治療シリーズ. 不妊症の診断と治療; pp84-92, 真興交易医書出版.
- 10) 竹下俊行, 荒木 勤: [分担] 産科出血の臨床, 流産 (寺尾俊彦, 荒木 勤, 矢内原巧, 野澤志朗編): メジカルビュー社.
- 11) 竹下俊行, 荒木 勤: [分担] 流産. 産科出血の臨床 (寺尾俊彦, 荒木 勤, 矢内原巧, 野澤志朗編): pp34-40, メジカルビュー社.
- 12) 朝倉啓文: [分担] 分娩の異常 (ナースのための産科学). (坂元正一監修): pp155-200, 南山堂.
- 13) 朝倉啓文: [分担] 胎児心拍数図の判定法. 今日の治療指針 (亀山正邦, 亀田治男, 高久史麿, 阿部令彦 総編集): pp481-484, 医学書院.

- 14) 明楽重夫, 荒木 勤: [分担] 子宮外妊娠.産科出血の臨床. (寺尾俊彦, 荒木 勤, 矢内原巧, 野澤志朗編): pp42-49.
- 15) 明楽重夫, 荒木 勤: [分担] 更年期障害とHRT. Women's Health—女性が健康に生きるために—. 日本母性衛生学会編; pp155-160, 南山堂.
- 16) 明楽重夫, 荒木 勤: [分担] 低出生体重児.Women's Health—女性が健康に生きるために—. 日本母性衛生学会編; pp228-229, 南山堂.
- 17) 澤倫太郎, 荒木 勤: [分担] 常位胎盤早期剥離. 産科出血の臨床; pp84-89, メディカルビュー社.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演:

- 1) Oya A, Asakura H, Takeuchi K, Koshino T, Araki T: The possible role of nonshivering thermogenesis in hyperemesis gravidarum. 29th International Congress on Pathophysiology of Pregnancy, 1997. 1.
- 2) 大屋敦子, 白井文男, 梅沢勝弘, 横田明重, 朝倉啓文, 越野立夫: 付属器切除後に子宮溜血腫を発症した双角子宮の1例. 第303回東京地方部会, 1997. 1.
- 3) 横田明重, 大屋敦子, 白井文男, 梅沢勝弘, 中井章人, 竹下俊之, 越野立夫, 荒木 勤: 子宮内外同時妊娠3例の臨床的検討. 第38回日本母性衛生学会, 1997. 1.
- 4) 加藤真紀子, 桑原慶充, 都甲明子, 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 進 純郎, 荒木 勤: 非免疫性胎児水腫 (NIHF) 6例の臨床的検討. 第94回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1997. 1.
- 5) 栗山秀樹, 澤倫太郎, 米山芳雄, 鈴木俊治, 三浦 敦, 進 純郎, 荒木 勤, 伊月葉子, 志賀俊哉, 木内 要, 高野照夫: 重症妊娠悪阻に心筋炎を合併した1例. 第301回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1997. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 荒木 勤: 腹腔鏡下手術の新展開—吊り上げ法の導入による適応拡大—. 第5回北海道内視鏡下婦人科研究会, 1997. 8.
- 2) 荒木 勤: 双胎一児死亡の周産期管理. 平成9年度東京都産婦人科多摩支部連合会研修会, 1997. 11.

(2) 招待講演:

- 1) 明楽重夫: 腹腔鏡手術の新展開・吊り上げ法の導入による適応拡大—. 第115回日本産科婦人科学会茨城地方部会, 1997. 6.
- 2) 朝倉啓文: 既往帝切後妊婦の経陰分娩. 平成9年度日母東北社保ブロック協議会, 1997. 9.
- 3) 朝倉啓文: 産科出血の搬送のタイミング. 葛飾区産婦人科医会集談会, 1997. 12.
- 4) 米山剛一: 産科救急—羊水塞栓症を中心に—. 葛飾区医師会平成9年11月集談会, 1997.

(3) 教育講演:

- 1) 竹下俊行: 不育症の取り扱い・免疫療法を中心に. 平成9年度第4回医学講座日本医師会生涯教育講座, 1998. 2.
- 2) 明楽重夫: 体外受精・胚移植 (IVF-ET) の現状と未来. 第4回医学講座日本医師会生涯教育講座, 1998. 2.

(4) シンポジウム:

- 1) 加世木久幸, 明楽重夫, 荒木 勤: 内視鏡下外科の現状と今後の展望—4. 産婦人科. 日本医科機会学大会, 1997. 5.
- 2) 澤倫太郎: 双胎間輸血症候群. 第7回日本産婦人科血液学会, 1997. 6.
- 3) 澤倫太郎, 米山芳雄, 大坪保雄, 鈴木俊治, 進 純郎, 兼子和彦, 荒木 勤: TTTSの概念の再考. 第7回日本産婦人科新生児血液学会, 1997. 6.

- 4) 中山裕樹, 土居大祐, 小野瀬亮, 加藤久盛, 岡島弘幸: 婦人科領域の組織細胞診材料によるテロメラーゼ活性. 第36回日本臨床細胞学会秋期大会, 1997. 11.
- 5) 加藤久盛, 土居大祐, 小野瀬亮, 中山裕樹, 岡島弘幸: 新FIGO分類による子宮頸癌Ia1,Ia2期の臨床的取り扱いについての検討. 第37回子宮癌研究会, 1997. 12.
- (5) マルチメディアセッション:
 - 1) Kaseki H, Shinagawa T, Yamanaka A, Ichikawa M, Akira S, Araki T: New operating hysteroscope- Application for myolysis metroplasty and hysteroscopic ultrasound biopsy. XV FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Copenhagen, Denmark), 1997. 8.
- (6) ワークショップ:
 - 1) Asakura H, Nakai A, Koshino T, Araki T: Significance of blood flow velocimetry in renal interlobar artery in women with pregnancy induced hypertension. 29th International Congress on Pathophysiology of Pregnancy, 1997. 10.
 - 2) 明楽重夫: 妊婦に対する腹腔鏡手術・卵巣腫瘍摘出術を中心として. 第37回日本産科婦人科内視鏡学会, 1997. 8.
 - 3) 加藤久盛, 土居大祐, 小野瀬亮, 中山裕樹, 岡島弘幸: 産婦人科臨床における子宮頸部細胞診の精度と利用の実際. 第38回日本臨床細胞学会総会, 1997.
- (7) 一般講演:
 - 1) Ghazizadeh M, Ogawa H, Sasaki Y, Konishi H, Araki T, Aihara K: Expression of apoptosis regulating gene products in human ovarian carcinoma. 86th Japan Pathology Society Congress, 1997. 6.
 - 2) Kubonoya K, Yoneyama Y, Sawa R, Shin S, Suzuki S, Satomi M, Miura A, Konishi H, Araki T: T. Cord malondialdehyde level in growth-retarded fetuses before labor. 15th FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Copenhagen, Denmark), 1997. 8.
 - 3) Akira S, Ishihara T, Adachi S, Shinagawa T, Kaseki H, Araki T: Gasless laparoscopic ovarian cystectomy during pregnancy. 15th World Congress of Gynecology and Obstetrics, 1997. 8.
 - 4) Ghazizadeh M, Sasaki Y, Inoue K, Ogawa H, Konishi H, Araki T, Aihara K: Carbohydrate antigens (T, Tn, and sialyl-Tn) in Human ovarian carcinomas: Relationship with histopathology and prognosis. European Congress of Pathology, Maastricht (Netherlands), 1997. 8.
 - 5) Kaseki H, Sekiya T, Kobayashi M, Takeuchi K, Konishi K, Ishihara K, Araki T: Laparoscopic ultrasound color doppler. 10th Congress of the International Perinatal Doppler Society, 1997. 8.
 - 6) Kobayashi S, Sato M, Otabe T, Fukami T, Takeuchi M, Sekiya T, Ogata E, Takeshita T, Takahashi T, Isgihara K, Kikuti S, Araki T: The change of acceptance of people with AIDS in (PWA) Japanese Hospital. FIGO World Congress of Gynecol and Obstet, 1997. 8.
 - 7) Yoneyama K, Hatta M, Ishikawa H, Okano T¹⁾, Araki T (¹⁾ Tobu Regional Hospital): Clinicopathologic evaluation of 50 cases of mature cystic teratoma of ovary. The 15th FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Copenhagen Denmark), 1997. 8.
 - 8) Akira S, Ishihara T, Adachi S, Shinagawa T, Kaseki H, Araki T: Gasless laparoscopic ovarian cystectomy during pregnancy. XV FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Copenhagen, Denmark), 1997. 8.
 - 9) Takeshita T, Takahashi H, Tsukada K, Ishihara K, Koshino T, Kikuchi S, Araki T: Prevention of spontaneous fetal resorption by I.P. injection of anti-cell adhesion molecule antibodies. XV FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics, (Copenhagen Denmark), 1997. 8.

- 10) Kaseki H, Araki T : Laser hysterofiberscopic surgery. XV FIGO World Congress of Gynecol and Obstet (Copenhagen, Denmark), 1997. 8.
- 11) Ghazizadeh M, Sasaki Y, Inoui K, Ogawa H, Konishi H, Araki T : MUC1 mucin gene products in ovarian tumors. 56th Annual Meeting of Japanese Cancer Association, 1997. 9.
- 12) Takeshita T, Arisaka Y, Asakura H, Koshino T, Araki T : Enhancement of ICAM-1 expression on the endothelial cells and NK cell activity in preeclampsia. 29th International Congress on Pathophysiology of Pregnancy, 1997. 10.
- 13) Yoneyama K, Konishi H, Matsusita N, Hatta M, Ogawa H¹⁾, Araki T (¹⁾ National Yokosuka Hospital) : Clinicopathologic evaluation of carcinosarcoma of the uterus. Sixth Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society, 1997.
- 14) 松下径広, 小西英喜, 小川秀臣, 太田雄次郎, 荒木 勤 : 卵巣癌組織におけるcd4+ およびCD8+卵巣浸潤リンパ球に関連するHLA-ABC, HLA-DR,CA125抗原の発現. 1997. 11.
- 15) 米山芳雄, 澤倫太郎, 窪谷 潔, 鈴木俊治, 河村 亮, 進 純郎, Power GG : ヒツジ胎仔臍帯repeated occlusionモデルにおける胎仔子宮内低体温の生理的影響の検討. 第49回日本産科婦人科学会総会, 1997. 4.
- 16) 竹下俊行, 高橋秀実, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤 : 抗接着分子抗体の妊娠初期投与による流産防止効果について. 第49回日本産科婦人科学会学術講演会, 1997. 4.
- 17) 窪谷 潔, 澤倫太郎, 米山芳雄, 鈴木俊治, 大坪保雄, 進 純郎, Power GG, 荒木 勤 : ヒツジ胎仔臍帯圧迫モデルにおける胎仔脳温および大動脈温の変化の検討. 第49回日本産科婦人科学会総会, 1997. 4.
- 18) 明楽重夫, 安達志乃, 山中温子, 荏原弘光, 可世木久幸, 荒木 勤, 今城純子 : 正常およびIUGRラット胎仔におけるCRH,CRHレセプターI型mRNAの発現. 第49回日本産科婦人科学会総会, 1997. 4.
- 19) 朝倉啓文, 横田明重, 竹下俊之, 越野立夫, 荒木 勤 : 一過性虚血によるラット胎仔脳における一酸化窒素(NO)産生の観察 : Oxydative stressとの関係. 日産婦学会, 1997. 4.
- 20) 大野明子¹⁾, 石川博臣, 河合尚基, 岡野匡雄²⁾ (¹⁾ 東部地域病院婦人科, ²⁾ 東部地域病院検査科) : 悪性プレナー腫瘍の1例. 第302回日本産婦人科学会東京地方部会例会, 1997. 5.
- 21) 安達志野, 米山剛一, 里見操緒, 松下径広, 窪谷 潔, 大坪保雄, 小西英喜, 荒木 勤 : 高齢に発症した侵入奇胎の1例. 第302回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1997. 5.
- 22) 大下知子¹⁾, 石川博臣, 河合尚基, 岡野匡雄²⁾ (¹⁾ 東部地域病院婦人科, ²⁾ 東部地域病院検査科) : 卵巣腫瘍と鑑別が困難であった小腸平滑筋肉腫の1例. 第303回日本産婦人科学会東京地方部会例会, 1997. 5.
- 23) 里見操緒, 大坪保雄, 澤倫太郎, 進 純郎, 荒木 勤 : 産褥9日目に発症したMRSAを起炎菌とするToxic Shock Syndromeの1例. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 24) 深見武彦, 小田部徹, 吉松和彦, 根本芳広, 関谷隆夫, 石原下階輔, 荒木 勤 : 子宮頸の超音波画像からみた分娩予後一特に頸管腺領域像との関連について一. 日本超音波医学会第69回研究発表会, 1997. 5.
- 25) 安達志乃, 品川寿弥, 大坪保雄, 可世木久幸, 明楽重夫, 荒木 勤 : 酢酸リュープロレリン投与中に出血傾向を認めた1症例. 第18回エンドメトリオーシス研究会, 1997. 6.
- 26) 島 良雄, 稲毛明郎, 与田仁志, 川上 義, 中島やよい, 岩間 直, 赤松 洋, 沢倫太郎, 荒木 勤, 武智信幸, 山本正夫 : 胎内より一児に頭蓋内多発性病変と両側副腎石灰化が観察された一絨毛膜性不均衡双胎の1例. 第7回日本産婦人科, 新生児血液内分泌学会, 1997. 6.
- 27) 桑島豊彦, 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 進 純郎, 荒木 勤 : 切迫早産治療中に深部血栓症を発症した1例. 第7回日本産婦人科新生児血液学会, 1997. 6.
- 28) 里見 操, 大坪保雄, 窪谷 潔, 澤倫太郎, 米山芳雄, 進 純郎, 荒木 勤 : MDS (骨髄異形成症候群) 合併妊娠の2症例に関する検討. 第7回日本産婦人科新生児血液学会, 1997. 6.

- 29) 三並信士, 寺嶋真理子, 松島 隆, 小西公麿, 塚田克也, 石原階輔, 菊池三郎, 荒木 勤: 卵管に原発した成熟奇形種の1例. 第93回日産婦関東連合地方部会, 1997. 6.
- 30) 深見武彦, 小田部徹, 吉松和彦, 根本芳広, 関谷隆夫, 石原階輔, 菊池三郎, 荒木 勤: 頸管腺領域の消失所見と妊娠予後との関連. 第93回日産婦関東連合地方部会, 1997. 6.
- 31) 斉藤 恵, 小田部徹, 深見武彦, 小林三平, 竹内正弥, 竹下俊之, 石原階輔, 菊池三郎, 荒木 勤: 分娩後無気肺をきたした1例. 第93回日産婦関東連合地方部会, 1997. 6.
- 32) 田中 彰, 高橋 肇, 谷内良成, 都甲明子, 岩崎卓爾, 山口 暁, 河村 堯, 荒木 勤: 双頸総角子宮の片側に発症した月経モリミナの一例. 第93回日産婦関東連合地方部会, 1997. 6.
- 33) 藤井俊彦, 磯崎太一, 三田俊二, 田中純也, 若月雅美, 松本穰二, 安達志野, 佐々木茂, 荒木 勤: 治療に抵抗した絨毛癌に対するMAP療法. 第93回日産婦関東連合地方部会, 1997. 6.
- 34) 有坂康子, 小西公麿, 塚田克也, 関谷隆夫, 竹下俊之, 石原階輔, 菊池三郎, 荒木 勤: 画像上診断に苦慮した卵巣癌の1例. 第93回日産婦関東連合地方部会, 1997. 6.
- 35) 三浦 敦, 大坪保雄, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 進 純郎, 荒木 勤: 臍帯全周囲性にChorioamniotic separationを認めた周郭胎盤の1例. 第93回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1997. 6.
- 36) 林 隆, 品川寿弥, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 進 純郎, 荒木 勤: 一児に羊膜炎候群を認めた三胎の1例. 第93回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1997. 6.
- 37) 市川雅男, 可世木久幸, 品川寿弥, 米山剛一, 明楽重夫, 荒木 勤: ヒステロファイバースコープ下レーザー子宮筋腫手術—laser hysterofiberscopic myolysis (LHFM) —. 第93回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1997. 6.
- 38) 松下径広, 小川秀臣, 米山剛一, 小西英喜, 荒木 勤: MPA単独療法が奏効した子宮体癌の2例. 第93回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1997. 6.
- 39) 米山剛一, 八田充子, 荒木 勤, 石川博臣¹⁾, 大野明子¹⁾, 河合尚基¹⁾, 岡野匡雄²⁾ (¹⁾ 東部地域病院婦人科, ²⁾ 東部地域病院検査科): 深部静脈血栓症, 肺梗塞を合併した巨大子宮平滑筋肉腫の1剖検例. 第93回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1997. 6.
- 40) 黒瀬圭輔, 飯田有俊, 中田朋子, 小西英喜, 荒木 勤, 江見 充: 子宮平滑筋腫において再構成・融合異常をきたした新規遺伝子の解析. Medical Genetics研究会, 1997. 7.
- 41) 小田部徹, 深見武彦, 松島 隆, 関谷隆夫, 塚田克也, 可世木久幸, 石原階輔, 荒木 勤: 閉経期子宮の超音波学的考察. 第12回日本更年期医学会, 1997. 7.
- 42) 寺嶋真理子, 関谷隆一, 松島 隆, 塚田克也, 可世木久幸, 石原階輔, 荒木 勤: 超音波断層法による多嚢胞性内膜像の臨床的意義. 第20回日本産科婦人科ME懇話会, 1997. 7.
- 43) 八田充子, 米山剛一, 松下径広, 西 弥生, 高田秀一, 小西英喜, 進 純郎, 荒木 勤: 子宮漿膜直下の嚢胞性子宮腺筋症に類内膜癌を合併した1例. 第303回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1997. 7.
- 44) 竹内正人, 峯 伸也, 林 瑞成, 篠原継男, 栗田口康一, 山田恵三, 兼子和彦: 双胎胎児におけるacceleration, 胎動, behavior patternの同期生の検討. 第33回日本新生児学会, 1997. 7.
- 45) 窪谷 潔, 米山芳雄, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 大坪保雄, 進 純郎, Power GG, 荒木 勤: ヒツジ胎仔臍帯repeated occlusionにおける胎仔脳温および大動脈温の変化に関する検討. 第33回日本新生児学会, 1997. 7.
- 46) 澤倫太郎, 米山芳雄, 窪谷 潔, 鈴木俊治, 進 純郎, Power GG, 荒木 勤: 脳虚血および低酸素症における胎仔低体温が胎仔温度調節, 代謝に及ぼす影響に関する検討. 第33回日本新生児学会総会, 1997. 7.
- 47) 小川秀臣, 大下知子, 大野明子, 小西英喜, 荒木 勤, 弦間和仁, 隈崎達夫: 侵入奇胎に対する新しい血管撮影の試み—Fast rotational digital angiographyを用いて—. 第49回日本産科婦人科学会総会, 1997. 7.
- 48) 朝倉啓文, 横田明重, 竹下俊之, 越野立夫, 荒木 勤: 一過性虚血によるラット胎仔脳における一酸化窒素

(NO) 産生の観察. 日本新生児学会, 1997. 7.

- 49) 都甲明子, 高橋 肇, 岩崎卓爾, 山口 暁, 田中 彰, 河村 堯, 荒木 勤: 出生前に羊水過多と腎拡大を認めたBeckwith-wiedemann症候群の1症例. 日本新生児学会, 1997. 7.
- 50) 平原史樹, 住吉好雄, 朝倉啓文, 田中政信, 坂本正一: 日本母性保護産婦人科医学会外表奇形等調査の分析: 母体合併症, 特にてんかんとの関係について. 日本先天異常学会, 1997. 7.
- 51) 窪谷 潔, 米山芳雄, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 大坪保雄, 進 純郎, Power GG, 荒木 勤: ヒツジ胎仔臍帯 repeated occlusionにおける胎仔脳温および大動脈温の変化に関する検討. 第21回日本産科婦人科栄養・代謝研究会, 1997. 8.
- 52) 弘末卓成, 進 純郎, 窪谷 潔, 澤倫太郎, 大坪保雄, 米山芳雄, 荒木 勤: 妊娠全期における双胎の膜性診断の検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 53) 柴田浩之, 窪谷 潔, 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 進 純郎, 荒木 勤: 羊水過多を伴った胎児梨状窪癭の1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 54) 黒瀬圭輔, 飯田有俊, 江見 充, 関谷隆夫, 石原楷輔, 米山剛一, 小西英喜, 荒木 勤, 浜谷次郎: 子宮平滑筋腫において再構成・融合異常をきたした新規融合遺伝子の同定. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 55) 柴田浩之, 大坪保雄, 沢倫太郎, 米山芳雄, 窪谷 潔, 朝倉啓文, 進 純郎, 荒木 勤: 付属器断端に着床し, 靱帯内方向に発育したと思われる子宮外妊娠の1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 56) 奥平さやか, 進 純郎, 澤倫太郎, 大坪保雄, 窪谷 潔, 米山芳雄, 荒木 勤: 常位胎盤早期剥離の予知. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 57) 沖野恵子, 里見操緒, 大坪保雄, 澤倫太郎, 朝倉啓文, 進 純郎, 荒木 勤: 産褥9日目に発症したMRSAを起炎菌とするtoxic shock syndromeの1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 58) 加藤真紀子, 桑原慶充, 都甲明子, 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 朝倉啓文, 進純 郎, 荒木 勤: 非免疫性胎児水腫 (NIHF) 6例の臨床的検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 59) 桑原慶充, 武内 務, 窪谷 潔, 大坪保雄, 澤倫太郎, 朝倉啓文, 進 純郎, 荒木 勤: 胎児cystic hygromaに対し胎児治療を施行した2例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 60) 西 弥生, 米山剛一, 八田充子, 松下径広, 小西英喜, 進 純郎, 荒木 勤, 相本隆幸, 恩田昌彦: 子宮腫瘍との鑑別が困難であった小腸腸間膜悪性神経鞘腫の1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 61) 沖野恵子, 里見操緒, 大坪保雄, 沢倫太郎, 朝倉啓文, 進 純郎, 荒木 勤: 産褥9日目に発症したMRSAを起炎菌とするtoxic shock syndromeの1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 62) 磯崎太一, 三田俊治, 藤井俊彦, 家永 聡, 若月雅美, 松本譲治, 佐々木茂, 荒木 勤, Cole IA: 妊婦尿中hcgbeta - core fragment測定による妊娠前半期におけるDOWN 症児のスクリーニングについて. 第49 回日本産婦人科学総会, 1997. 9.
- 63) 根本芳広, 吉松和彦, 関谷隆夫, 石原楷輔, 菊池三郎, 荒木 勤, 岩崎孝一, 久保田繁: 出血性卵巣嚢方胞の超音波画像, 臨床知見の検討. 第49回日産婦学会総会, 1997. 9.
- 64) 菊池慶司, 太田雄治郎, 堤康一郎, 国村忠司, 安本 茂: ヒト上皮不死化細胞株での神経成長因子受容体(P75NFR)の発見とその機能. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 65) 太田雄治郎, 菊池慶司, 堤康一郎, 安本 茂: 低親和性神経細胞成長因子レセプターを発見するヒト上皮不死化細胞の特性. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 66) 黒瀬圭輔, 飯田有俊, 中田朋子, 小西英喜, 荒木 勤, 江見 充: 子宮平滑筋腫において再構成・融合異常をきたした新規遺伝子のクローニング. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 67) 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 進 純郎, 竹内正人, 兼子和彦, 荒木 勤: Wernicke-Korsakoff症候群を合併した重症妊娠悪阻50症例の検討. 第19回日本臨床栄養学会総会, 1997. 10.

- 68) 竹下俊行, 高橋秀実, 中川洋子, 荒木 勤: 妊娠と接着分子—抗接着分子抗体の投与によるマウス胎位吸収の防止—。第27回日本免疫学会, 1997. 10.
- 69) 松下径広, 八田充子, 米山剛一, 小西英喜, 小川秀臣, 荒木 勤: 卵巣癌組織における細胞障害性Tリンパ球の腫瘍浸潤とHLA—DRと腫瘍 マーカーCA125出現との関係。第35回日本癌治療学会総会, 1997. 10.
- 70) 米山剛一, 小西英喜, 松下径広, 八田充子, 小川秀臣¹⁾, 荒木 勤 (¹⁾ 国立横須賀病院産婦人科): 子宮原発carcinosarcoma の臨床的検討。第35回日本癌治療学会総会, 1997. 10.
- 71) 八田充子, 松下径広, 米山剛一, 小西英喜, 太田雄治郎¹⁾, 荒木 勤 (¹⁾ ヘブロン会大宮中央総合病院産婦人科): PIP療法が有効であった子宮頸部癌再発例。第35回日本癌治療学会総会, 1997. 10.
- 72) 松下径広, 八田充子, 米山剛一, 小西英喜, 荒木 勤: 卵巣癌組織における細胞障害性Tリンパ球の腫瘍浸潤とHLA-DRと腫瘍マーカーCA125出現との関係。第35回日本癌治療学会総会, 1997. 10.
- 73) 米山剛一, 小西英喜, 松下径広, 八田充子, 小川秀臣, 荒木 勤: 子宮原発carcinosarcomaの臨床的検討。第35回日本癌治療学会総会, 1997. 10.
- 74) 山口 暁, 高橋 肇, 岩崎卓爾, 田中 彰, 河村 暁, 荒木 勤: 最近経験した妊娠に合併した脾臓破裂の2例。第38回日本母性衛生学会, 1997. 10.
- 75) 竹下俊行, 塚田克也, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤: 抗ICAM-1抗体, 抗LFA-1抗体の投与による免疫学的流産防止効果。第42回日本不妊学会, 1997. 10.
- 76) 岩崎卓爾, 高橋 肇, 都甲明子, 山口 暁, 田中 彰, 河村 堯, 荒木 勤: 当院で経験した先天性消化器疾患6例の妊娠経過の検討。第94回日産婦関東連合地方部会, 1997. 10.
- 77) 臼井文男, 朝倉啓文, 竹下俊行, 有坂康子, 横田明重, 越野立夫, 荒木 勤: 重症妊娠中毒症妊婦における帝王切開後の血小板数の変化とEndothelinの推移。第94回日産婦学会関東連合地方部会, 1997. 10.
- 78) 関谷隆夫, 小田部徹, 吉松和彦, 根本芳広, 塚田克也, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 機能性不妊例。第94回日産婦学会関東連合地方部会, 1997. 10.
- 79) 小田部徹, 可世木久幸, 貝原賢二, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: Sonohysterographyが診断に有用であった子宮体癌の1例。第94回日産婦学会関東連合地方部会, 1997. 10.
- 80) 高橋 肇, 都甲明子, 岩崎卓爾, 山口 暁, 田中 彰, 河村 堯: 帝王切開術後に発症した肺血栓症の1例。第94回日産婦関東連合地方部会, 1997. 10.
- 81) 沖野恵子, 里見操緒, 大坪保雄, 澤倫太郎, 朝倉啓文, 進 純郎, 荒木 勤: 産褥9日目に発症したMRSAを起炎菌とするToxic shock syndromeの1例。第94回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1997. 10.
- 82) 桑原慶充, 武内 努, 窪谷 潔, 大坪保雄, 澤倫太郎, 朝倉啓文, 進 純郎, 荒木 勤: 胎児Cystic hygromaに対し胎児治療を施行した2例。第94回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1997. 10.
- 83) 柴田浩之, 安達志乃, 八田充子, 大村 浩, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行, 荒木 勤: 付属器断端に着床し靱帯内方向に発育したと思われた子宮外妊娠の1例。第94回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1997. 10.
- 84) 西 弥生, 米山剛一, 八田充子, 松下径広, 小西英喜, 進 純郎, 荒木 勤, 相本隆幸¹⁾, 恩田昌彦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学第一外科): 子宮腫瘍との鑑別が困難であった小腸腸管膜悪性神経鞘腫の1例。第94回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1997. 10.
- 85) 米山剛一, 進 純郎, 荒木 勤: 羊水塞栓症の診断および臨床背景に関する検討。第94回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1997. 10.
- 86) 三宅秀一, 若月雅美, 藤井俊彦, 三田俊二, 磯崎太一, 松本穰二, 佐々木茂, 荒木 勤: 卵管間質部妊娠の画像診断—カラーフローマッピングが有用であった症例を中心に—。第94回日本産科婦人科関東連合地方部会, 1997. 10.
- 87) 寺嶋真理子, 関谷隆一, 小田部徹, 松島 隆, 塚田克也, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 超音波断層法に

- よる多嚢胞性内膜像の臨床的意義。第94回日本産科婦人科関東連合地方部会, 1997. 10.
- 88) 小西公磨, 関谷隆夫, 石原階輔, 荒木 勤: Martius法, Guthmann法撮影時の性腺被爆線量の測定。第94回日本産科婦人科関東連合地方部会, 1997. 10.
- 89) 有坂康子, 塚田克也, 松島 隆, 関谷隆夫, 石原階輔, 荒木 勤: 妊娠ラット門脈の虚血再環流実験。第94回日本産科婦人科関東連合地方部会, 1997. 10.
- 90) 小田部徹, 深見武彦, 松島 隆, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原階輔, 荒木 勤: 閉経期性器出血時における子宮の観察。日本超音波医学会第70回研究発表会, 1997. 11.
- 91) 明楽重夫, 三浦 敦, 市川雅男, 安達志乃, 品川寿弥, 可世木久幸, 荒木 勤: 妊婦に対する腹腔鏡一母児へのより低侵襲な手術をめざして一。第10回日本内視鏡外科学会総会, 1997. 12.
- 92) 竹下俊行, 高橋秀実, 荒木 勤: 抗ICAM-1, 抗LFA-1抗体の投与によるマウス胎仔吸収の抑制。第12回日本生殖免疫学会, 1997. 12.
- 93) 荒木 勤, 大坪保雄, 窪谷 潔, 澤倫太郎, 米山芳雄, 進 純郎: Intrauterine fetal death. 第301回日産婦東京地方部会例会, 1997. 12.
- 94) 峯 伸也, 竹内正人, 林 瑞成, 篠原継男, 粟田口康一, 山田恵三, 兼子和彦: メトロイリント挿入中に発症した無症候性胎盤早期剥離の1例。第304回日本産科婦人科学会東京地方部会, 1997. 12.
- 95) 石川博臣¹⁾, 大下知子, 河合尚基, 岡野匡雄²⁾ (¹⁾ 東部地域病院婦人科, ²⁾ 東部地域病院検査科): 卵巣悪性腫瘍との鑑別が困難であった子宮円靭帯原発平滑筋腫の1例。第304回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1997. 12.
- 96) 三宅秀彦, 朝倉啓文, 横田明重, 若麻積佳樹, 越野達夫, 荒木 勤: 経膈超音波断層法による妊娠初期の胎児四肢骨の観察。93回日産婦関東連合地方部会, 1997.
- 97) 竹内正人, 峯 伸也, 林 瑞成, 篠原継男, 粟田口康一, 山田恵三, 兼子和彦: 妊娠合併卵巣腫瘍の検討。江東千葉西ブロック産婦人科卒後研修会, 1997.
- 98) 竹内正人, 峯 伸也, 林 瑞成, 篠原継男, 粟田口康一, 山田恵三, 兼子和彦: 骨盤位胎児の血流動態の検討。第33回日本赤十字社医学会総会, 1997.
- 99) 松下径広, 小川秀臣, 米山剛一, 小西英喜, 荒木 勤: MPA単独療法が奏功した子宮体癌の2例。第93回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1997.
- 100) 米山剛一, 八田充子, 石川博臣¹⁾, 大野明子¹⁾, 河合尚基¹⁾, 岡野匡雄²⁾, 荒木 勤 (¹⁾ 東部地域病院婦人科, ²⁾ 東部地域病院検査科): 深部静脈血栓症, 肺梗塞を合併した巨大子宮平滑筋肉腫の1剖検例。第93回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1997.
- 101) 竹内正人, 峯 伸也, 林 瑞成, 篠原継男, 粟田口康一, 山田恵三, 兼子和彦: 胎児水腫の自然治癒をみた染色体13番と17番の転座1症例。第94回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1997.
- 102) 朝倉啓文, 竹下俊之, 越野立夫, 荒木 勤: ラット胎仔脳内NO産生と子宮胎盤血行の一過性虚血との関係。第9回ビタミンE研究会, 1998. 1.
- 103) 黒瀬圭輔, 八田充子, 松下径広, 米山剛一, 小西英喜, 鴨井青龍, 荒木 勤, 江見 充: 子宮平滑筋腫における新規融合遺伝子の同定。第2回日本産科婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学, 1998. 2.
- 104) 大下知子¹⁾, 石川博臣, 河合尚基, 岡野匡雄²⁾ (¹⁾ 東部地域病院婦人科, ²⁾ 東部地域病院検査科): 子宮内膜吸引細胞診により診断されたBorrmann・型胃癌の1例。第305回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1998. 2.
- 105) 瑪依努爾, 進 純郎, 小西英喜, 米山芳雄, 荒木 勤: 腹圧性尿失禁に対する薬物療法の有用性検討。第305回日産婦東京地方部会例会, 1998. 2.
- 106) 小木三郎, 大村 浩, 明楽重夫, 竹下俊行, 荒木 勤: 婦人科領域における細径腹腔鏡の有用性について。日本医科大学医学会第94回例会, 1998. 2.

[第一病院産婦人科]

研究概要

本年度の当教室の主な研究内容は以下の如くである。

- 1) 妊婦とスポーツ：妊婦スポーツの安全性や効果について、身体的および精神神経的側面から研究を行っている。身体面では、超音波パルスドプラを用いた運動中の母児の血行動態変化、心機能変化の評価をはじめ、妊娠、分娩予後を広く調査している。また、精神神経学的にも種々の感情調査に加え、 β -エンドルフィンなどの測定を行い、より科学的な側面からその変化を捉えようとしている。
- 2) 周産期領域：妊娠悪阻、妊娠中毒症、子宮内胎児発育遅延に対し、サーモグラフィー、超音波断層装置、生化学検査などを用いその病態生理の解明につとめ、成果を上げつつある。
- 3) 胎児、新生児低酸素脳症に関する動物実験：虚血再灌流傷害が脳内のエネルギー代謝に与える影響について、ラット成獣、胎仔を用い検討している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nakai A, Kuroda S¹⁾, Kristian T²⁾, Siesjo B²⁾ (1) Dep. Neurosurg. Hokkaido Univ., 2) Exp. Brain. Res. Lund Univ.) : The immunosuppressant drug FK506 ameliorates secondary mitochondrial dysfunction following transient focal cerebral ischemia in the rat. *Neurobiology of Disease* 1997 ; 4 : 288-300.
- 2) Oya A, Asakura H, Koshino T, Araki T : Thermographic demonstration of nonshivering thermogenesis in human newborns after birth : Its relation to umbilical gases. *Journal of Perinatal Medicine* 1997 ; 25 : 447-454.
- 3) Kuroda S¹⁾, Nakai A, Kristian T¹⁾, Siesjo B¹⁾ (1) Exp. Brain. Res.) : The calmodulin antagonist trifluoperazine in transient focal brain ischemia in rats : Anti-ischemic Effect and Therapeutic Window. *Stroke* 1997 ; 28 (12) : 2539-2544.
- 4) 谷内良成, 横田明重, 広瀬正典, 朝倉啓文, 越野立夫, 松本光司¹⁾, 山田宣孝¹⁾ (1) 第一病院病理部) : 当科における卵巣腫瘍術中迅速病理診断の臨床的検討. *日産婦東京会誌* 1997 ; 46 (2) : 183-186.
- 5) 大屋敦子, 臼井文男, 梅沢勝弘, 横田明重, 朝倉啓文, 越野立夫 : 付属器切除後に子宮溜血腫を発症した双角子宮の1例. *日産婦東京会誌* 1997 ; 46 (4) : 381-384.

(2) 綜説：

- 1) 越野立夫, 横田明重 : 産科編II妊娠中・後期：子癇. *周産期診療指針'97 周産期医学* 1997 ; 27 (増刊号) : 141-143.
- 2) 山口 暁, 越野立夫 : 産科編III分娩時：常位胎盤早期剥離. *周産期診療指針'97 周産期医学* 1997 ; 27 (増刊号) : 300-302.
- 3) 越野立夫 : スポーツと臨床検査：第II部機能検査：8.産婦人科領域：胎児心拍数, 陣痛図. *臨床スポーツ医学* 1997 ; 14 (臨時増刊号) : 321-322.
- 4) 大屋敦子, 越野立夫 : 今月の臨床：子宮筋腫—最新情報：合併症への対応3：子宮筋腫の変性・感染. *臨産婦* 1997 ; 51 (12) : 1288-1290.
- 5) 中井章人, 越野立夫 : 21世紀へ向けての妊産婦生活指導 (特集：21世紀に向けての周産期医療). *周産期医学* 1998 ; 28 (1) : 97-101.

著書

- 1) Asakura H, Nakai A, Oya A, Koshino T, Araki T : [分担] Significance of Blood Flow Velocimetry in Renal Interlobar Artery in Women with Pregnancy Induced Hypertension. Recent Advances on the Pathophysiology of Pregnancy, 1997 ; pp155-158, Simal International Press. Tokyo.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 越野立夫 : 胎教を考える. 川崎市産婦人科医会研修会, 1997. 6.
- 2) 越野立夫 : 子宮外妊娠 : 診断と治療の変遷. 第11回多摩産婦人科病診連携懇話会, 1997. 7.
- 3) 越野立夫 : 子宮外妊娠の診断と治療の変遷. 座間・綾瀬・海老名産婦人科医会, 1997. 9.

(2) ワークショップ :

- 1) Asakura H, Nakai A, Koshino T, Araki T : Significance of Blood Flow Velocimetry in Renal Interlobar Artery in Women with Pregnancy Induced Hypertension. 29th International Congress on Pathophysiology of Pregnancy (Hakone, Japan), 1997. 10.

(3) 一般講演 :

- 1) Nakai A, Kuroda S¹⁾, Siesjo BOK¹⁾ (¹⁾ Exp. Brain. Res. LUND UNIV.) : Protective Effect of FK506 on Secondary Mitochondrial Dysfunction due to Transient Focal Cerebral Ischemia in the Rat. BRAIN 97 XVIIIth International Symposium on Cerebral Blood Flow and Metabolism (Baltimore, Maryland, U.S.A.), 1997. 6.
- 2) Oya A, Asakura H, Takeuchi K, Koshino T, Araki T : The Possible Role of Nonshivering Thermogenesis in Hyperemesis Gravidarum. 29th International Congress on Pathophysiology of Pregnancy (Hakone, Japan), 1997. 10.
- 3) 竹下俊行, 高橋秀美¹⁾, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤 (¹⁾ 日本医大微生物学免疫学) : 抗接着分子抗体の妊娠初期投与による流産防止効果について. 第49回日本産科婦人科学会学術講演会, 1997. 4.
- 4) 朝倉啓文, 竹下俊行, 有坂康子, 山口 暁, 横田明重, 越野立夫, 荒木 勤 : 脳虚血再灌流時の胎児脳内一酸化窒素 (NO) 産生と抗酸化作用との関連性 : ラット胎仔を用いての検討. 第49回日本産科婦人科学会学術講演会, 1997. 4.
- 5) 梅沢勝弘, 臼井文男, 大屋敦子, 横田明重, 朝倉啓文, 越野立夫 : 腹腔鏡下手術後に認めた著明な皮下気腫の症例. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 6) 三宅秀彦, 朝倉啓文, 横田明重, 若麻績佳樹, 越野立夫, 荒木 勤 : 経膈超音波断層法による妊娠初期の胎児四肢骨の観察. 第93回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1997. 6.
- 7) 朝倉啓文, 横田明重, 竹下俊行, 越野立夫, 荒木 勤 : 一過性虚血によるラット胎仔脳における一酸化窒素 (NO) 産生の観察 : Oxidative stressとの関係. 第33回日本新生児学会総会, 1997. 7.
- 8) 梅沢勝弘, 臼井文男, 大屋敦子, 横田明重, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤 : 腹腔鏡下手術後に全身皮下気腫を来した一症例. 第37回日本産科婦人科内視鏡学会, 1997. 8.
- 9) 大屋敦子, 臼井文男, 梅沢勝弘, 横田明重, 朝倉啓文, 越野立夫 : 付属器切除術後に子宮溜血腫を発症した双角子宮の1例. 第303回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1997. 9.
- 10) 臼井文男, 朝倉啓文, 竹下俊行, 有坂康子, 横田明重, 越野立夫, 荒木 勤 : 重症妊娠中毒症妊婦における帝王切開後の血小数の変化と Endothelin の推移. 第94回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1997. 10.
- 11) 横田明重, 大屋敦子, 臼井文男, 梅沢勝弘, 中井章人, 竹下俊行, 越野立夫, 荒木 勤 : 子宮内外同時妊娠3例の臨床的検討. 第38回日本母性衛生学会総会, 1997. 10.

- 12) 神戸 仁¹⁾, 若麻績佳樹¹⁾, 山口 稔²⁾, 横田明重, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤⁽¹⁾ 都立母子保健院, ²⁾ 山口病院) : 妊婦エアロピクスによる感情と母体血中 β -エンドルフィンの関係. 第38回日本母性衛生学会総会, 1997. 10.

[第二病院産婦人科]

研究概要

本年度の研究項目と内容を示す

1) 超音波断層法を用いた画像診断の研究

超音波断層法に関する研究は当科における主要研究テーマでのひとつである。産科領域においては妊娠子宮の子宮頸管の評価、特に頸管腺領域像を用いた切迫早産の診断と予後の予測の試みは、近年新しい子宮頸部の評価の指標として注目されている。また、婦人科領域においては、子宮腔内に生理的食塩水を注入し、腔内病変をエンハンスして観察するsonohysterographyに関する研究があり、特に不妊例の内膜像や、嚢胞状内膜像の臨床的意義についての説明が進んでいる。

2) 内視鏡を用いた研究

レーザーメスや腹腔内超音波探触子を用いた新しい内視鏡手術や、子宮鏡と高周波超音波断層装置を組み合わせた超音波内視鏡の開発および臨床応用に関する研究を行い、特に子宮奇形や子宮内病変の診断／治療に関して広く評価を得ている。

3) 卵巣に関する病理学的研究

不妊症等の病因解明を目的とした、黄体の血管新生に関する研究を動物および人体にて行っている。具体的には新生血管の超微形態を観察し、黄体の生理的機能を明らかにするための基礎的研究である。

4) 母体骨盤の基礎的研究

長年のテーマである母体骨盤の問題は、従来の入口面のみ解析に加え、尾骨や仙骨を含めた立体的な解析を行っているが、さらに骨盤撮影における卵巣の放射線被曝量についても同時に検討している。

5) 妊娠中毒症やHELLP症候群の発症モデルに関する研究

ラットを用いて妊娠中毒症やHELLP症候群のモデルを作製し、門脈血流状態や各組織像の変化を検討することにより、本症の病因解明を試みる研究を行っている

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著：

- 1) 可世木久幸：Laser hysteroscopy v.s. Resectoscopy. 第16回日本レーザー医学会大会論文集 1996；201-206.
- 2) 石井 洋, 可世木久幸, 荒木 勤：卵管機能検査—造影剤注入圧と卵管内圧の比較—. 産婦人科マイクロサージャリー学会雑誌 1996；9：112-115.
- 3) 可世木久幸, 大坪保雄, 小川秀臣, 品川寿也, 明楽重夫, 荒木 勤：術中超音波の進め方. 臨床婦人科産科 1996；50：392-397.
- 4) 可世木久幸, 荒木 勤：子宮鏡の適応は、その進め方については？. 臨床婦人科産科 1996；50：1428-1430.

(1) 原著：

- 1) Ishihara K¹⁾, Nemoto Y²⁾ : Sonographic appearance of hemorrhagic ovarian cyst with acute abdomen by trans vaginal scan. J Nippon Med Sch 1997；64 (5) : 411-415.

- 2) 小林三平, 可世木久幸, 竹内正弥, 関谷隆夫, 市川雅男, 品川寿弥, 米山剛一, 明楽重夫, 竹下俊行, 石原楷輔, 荒木 勤: Hysteroscopic Snaring. 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 1997; 13: 83-86.
- (2) 綜説:
- 1) 関谷隆夫, 松島 隆, 石原楷輔, 菊池三郎: 頸管縫縮術. 産婦人科治療 1997; 74 (5): 803-809.
 - 2) 関谷隆夫, 石原楷輔: エコーガイド下で何が出来るか 4. 子宮筋腫の部位別診断. 臨床婦人科産科 1997; 51 (5): 496-500.
 - 3) 関谷隆夫, 石原楷輔: 産科における検査法—有用性と再評価: 羊水過多のエコー診断で原因がわかるか. 臨床婦人科産科 1997; 51 (8): 808-815.
 - 4) 関谷隆夫, 石原楷輔: IUGRの超音波診断—ここまで進んだ診断と治療—. 産婦人科の実際 1997; 46 (13): 1909-1923.
 - 5) 関谷隆夫, 石原楷輔: 臍帯血流波形と児のwell being. ペリネイタルケア 1998; 17 (1): 30-34.
 - 6) 石原楷輔: 前置胎盤の超音波診断. 産婦人科治療 1998; 76 (2): 201-205.
- (3) 研究報告書:
- 1) 可世木久幸: 臨床生殖医学における内視鏡超音波法の開発と応用 (06671694). 平成6—7年度文部省科学研究費補助金 (一般研究C) 研究成果報告書. 1997.

著 書

〔1996年度追加分〕

- 1) Kaseki H, Araki T: 〔分担〕Laparoscopic ultrasonography for infertile patients. Doppler in Gynecology and infertility (edit A Kurjak, S Kupesic), 1996; pp35-44, CIC Edizioni Internazionali, Rome, Italy.
 - 2) Kaseki H, Araki T: Transhysteroscopic ultrasonography (edit A Kurjak, S Kupesic), 1996; pp45-54, CIC Edizioni Internazionali, Rome, Italy.
- 1) Kaseki H, Kurjak A: 〔分担〕Laparoscopy and Hysteroscopy. Interventional Ultrasound (Edit S Weiner and A Kurjak): 1997; Parthenon Publishing, Lancs, UK.
 - 2) 石原楷輔: 〔自著〕産褥子宮内感染. 今日の産婦人科治療指針, 1997; 医学書院.
 - 3) 石原楷輔: 〔自著〕子宮復古不全. 今日の産婦人科治療指針, 1997; 医学書院.
 - 4) 石原楷輔, 根本芳広, 関谷隆夫, 荒木 勤: 〔自著〕急性腹症と出血性卵巣嚢腫. 図説産婦人科VIEW29: 腫瘍編, 1997; メジカルビュー社.
 - 5) 石原楷輔: 〔分担〕早産. 産科出血の臨床, 1997; メジカルビュー社.
 - 6) 石原楷輔: 〔分担〕前置胎盤. 産科出血の臨床, 1997; メジカルビュー社.
 - 7) 可世木久幸: 〔分担〕乳汁分泌のメカニズム. 産褥の管理 (編者: 荒木 勤), 1997; 永井書店.

学会発表

〔1996年度追加分〕

特別講演:

- 1) Kaseki H, Araki T: Laparoscopic ultrasonography for confirmative diagnosis and monitoring of hysteroscopic metroplasty of arcuate uterus. 20th Anniversary Memorial Lecture of Changun Memorial Hospital, Taipei, Taiwan, 1996. 10.
- 2) 可世木久幸: Laser hysteroscopy. 第324回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 1996. 5.
- 3) 可世木久幸: 産婦人科腹腔鏡の今後の展開. 第7回産婦人科腹腔内化学療法研究会, 1996. 11.

ワークショップ：

- 1) 可世木久幸：子宮内病変の新しい診断法。子宮腔内超音波内視鏡。第67回日本超音波医学研究会発表会，1996。 6.
- 2) 可世木久幸，明楽重夫，荒木 勤：緊急時の腹腔鏡。第36回日本産科婦人科内視鏡学会学術集会，1996。 8.

一般講演：

- 1) 斎藤 恵，小田部徹，深見武彦，関谷隆夫，竹下俊行，石原楷輔，荒木 勤：分娩後無気肺を来した1例。第94回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会，1996。 6.
- 2) 可世木久幸：子宮外妊娠。第1回日本産科婦人科内視鏡学会実地研修会，1996。 10.
- 3) 貝原賢二，斎藤 恵，有坂康子，松島 隆，関谷隆夫，可世木久幸，石原楷輔：常位胎盤早期剥離に超音波検査は有用か。第11回分娩監視研究会，1997。 1.
- 4) 菊谷真理子，小田部徹，斎藤 恵，三並伸二，関谷隆夫，菊池三郎：新生児身体パラメーター測定性の意外性。第14回川崎市医師会医学会，1997。 2.

(1) 特別講演：

- 1) Kaseki H：Diagnostic and therapeutic hysteroscopy. the VIII International Course Gynecology and Obstetrics in the New Millenium. Asciacion Peruano ano Japonisa del Peru Departamento Policlinico (Lima, Peru), 1998. 3.
- 2) Kaseki H：Laparoscopy combined with ultrasound in G-O (Endosonography). the VIII International Course Gynecology and Obstetrics in the New Millenium. Asciacion Peruano ano Japonisa del Peru Departamento Policlinico (Lima, Peru), 1998. 3.
- 3) Kaseki H：Practical demonstration of Endoscopic Surgery in G-O. the VIII International Course Gynecology and Obstetrics in the New Millenium. Asciacion Peruano ano Japonisa del Peru Departamento Policlinico (Lima, Peru), 1998. 3.

(2) 教育講演：

- 1) 関谷隆夫：21世紀につながる生涯研修：子宮頸部経腔超音波所見と早産の予測。第331回日本産科婦人科学会神奈川地方部会，1997.

(3) シンポジウム：

- 1) 可世木久幸，明楽重夫，荒木 勤：内視鏡外科の現状と今後の展望—産婦人科—。第72回日本医科器械学会大会シンポジウム，1997。 5.
- 2) 可世木久幸：癒着—子宮腔癒着実験モデル—。第20回産婦人科マイクロサージャリー学会学術講演会，1997。 8.
- 3) 可世木久幸：腹腔鏡下卵巣嚢胞摘出・核出術。第42回日本不妊学会学術講演会，1997。 10.

(4) パネルディスカッション：

- 1) 関谷隆夫：流早産：流早産の頸管所見。第326回日本産科婦人科学会神奈川地方部会，1997.

(5) 一般講演：

- 1) Kaseki H, Shinagawa T, Yamanaka A, Ichikawa M, Akira S, Araki T：New operating hysteroscope. Application for myolysis, metroplasty, and hysteroscopic ultrasound biopsy. XV FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Denmark), 1997. 8.
- 2) Shinagawa T, Kaseki H, Kuriyama T, Hayashi T, Akira S, Araki T：Asherman syndrome：Animal experimental model of intra-uterine synechia. XV FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Denmark), 1997. 8.
- 3) Kaseki H, Araki T：Laser hysteroscopic surgery. XV FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Denmark), 1997. 8.

- 4) Fukami T, Tsukada K, Matsushima T, Yoshimatsu K, Nemoto Y, Sekiya T, Ishihara K, Araki T: The disappearance of cervical gland area and pregnancy outcome. The 2nd World Congress on Labor and Delivery, 1997. 5.
- 5) 深見武彦, 吉松和彦, 根本芳広, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: 子宮頸管の超音波画像から見た分娩予後—特に頸管腺領域像との関連について—. 日本超音波医学会第69回研究発表会, 1997. 5.
- 6) 小田部徹, 菊谷真理子, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔: 経陰走査法による多嚢胞内膜像の意義. 第324回日産婦神奈川地方部会, 1997. 5.
- 7) 斎藤 恵, 吉松和彦, 塚田克也, 関谷隆夫, 竹下俊行, 石原楷輔, 荒木 勤: 原因に家族的因子が推測された頸管無力症の2例. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 8) 可世木久幸: 子宮外妊娠. 第2回日本産科婦人科内視鏡学会実地研修会, 1997. 5.
- 9) 深見武彦, 小田部徹, 吉松和彦, 根本芳広, 関谷隆夫, 石原楷輔, 菊池三郎, 荒木 勤: 頸管腺領域像の消失所見と妊娠予後の関連. 第93回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1997. 6.
- 10) 小西公麿, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔, 菊池三郎: Martius法, Guthman法撮影時の性腺被曝量の測定. 第93回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1997. 6.
- 11) 斎藤 恵, 平田昌二, 小林三平, 塚田克也, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: 高度一過性除脈の1例. 第9回分娩監視研究会, 1997. 6.
- 12) 斎藤 恵, 松島 隆, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔: 卵巣嚢腫茎捻転と術前診断した2症例の検討. 第28回日本医大産婦人科同窓会臨床研究会, 1997. 6.
- 13) 三並伸二, 寺嶋真理子, 松島 隆, 小西公麿, 塚田克也, 石原楷輔, 菊池三郎, 荒木 勤: 卵管に原発した成熟奇形腫の1例. 第93回関東連合地方部会, 1997. 6.
- 14) 関谷隆夫, 小田部徹, 塚田克也, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 機能性不妊例における混合型超音波内膜像の意義—Sonohysterographyとhysteroscopyによる検討—. 第70回日本超音波医学会, 1997. 6.
- 15) 石原楷輔: 更年期外来における経陰超音波検査の応用. 千葉日本母性保護, 日本産婦人科合同研究会, 1997. 6.
- 16) 斎藤 恵, 小田部徹, 深見武彦, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 分娩後無気肺を来した1例. 第94回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1997. 6.
- 17) 斎藤 恵, 平田昌二, 塚田克也, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 高度一過性除脈の1例. 第9回分娩監視研究会, 1997. 6.
- 18) 石原楷輔: 妊娠中, 後期における経陰超音波の応用とカラードブラの臨床応用. 守口市産婦人科医会, 1997. 7.
- 19) 菊谷真理子, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 超音波断層法による多嚢胞性内膜像の臨床的意義. 第20回日本産科婦人科ME懇話会, 1997. 8.
- 20) 石原楷輔: 妊娠初期, 中期の超音波診断とカラードブラの臨床応用. 豊島区産婦人科医会, 1997. 8.
- 21) 有坂康子, 塚田克也, 松島 隆, 関谷隆夫, 石原楷輔: 妊娠ラット門脈の虚血再灌流実験. 第94回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1997. 9.
- 22) 菊谷真理子, 小西公麿, 塚田克也, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔: 卵管原発の成熟奇形種の1例. 日産婦神奈川地方部会, 1997. 9.
- 23) 石原楷輔: 経陰超音波診断とカラードブラの臨床応用. 郡山産婦人科医会, 1997. 9.
- 24) 吉松和彦, 小田部徹, 根本芳広, 塚田克也, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 経陰超音波画像による切迫早産予後診断への活用. 第92回産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1997. 10.
- 25) 三並伸二, 貝原賢二, 吉松和彦, 塚田克也, 関谷隆夫, 石原楷輔: 癒着胎盤により大量出血をきたした1症例. 第37回周産期救急連絡会, 1997. 10.
- 26) 小田部徹, 林 康子, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 胎児頻拍が持続し

- た胎盤早期剥離の1例. 第10回分娩監視研究会, 1997. 10.
- 27) 菊谷真理子, 小田部徹, 松島 隆, 塚田克也, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 超音波断層法による多嚢胞性内膜像の臨床的意義. 第94回日産婦関東連合地方部会, 1997. 10.
- 28) 小田部徹, 貝原賢二, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: Sonohistographyが診断に有用であった若年性子宮体癌の1例. 第94回日産婦関東連合, 1997. 10.
- 29) 有坂康子, 塚田克也, 松島 隆, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: 妊娠ラット門脈の虚血再灌流実験. 第94回関東連合地方部会, 1997. 10.
- 30) 石原楷輔: 妊娠中, 後期における経腔超音波の応用とカラードブラの臨床応用. 和歌山市産婦人科医会, 1997. 10.
- 31) 可世木久幸: 子宮外妊娠. 第1回日本産科婦人科内視鏡学会実地研修会, 1997. 10.
- 32) 有坂康子, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔: 胎児頰脈を来した辺縁胎盤早期剥離の1例. 第327回日産婦神奈川地方部会, 1997. 11.
- 33) 吉松和彦, 小田部徹, 深見武彦, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 切迫早産の予後予測における頸管腺領域像の意義—頸管長短縮所見と内子宮口楔状開大所見との比較—. 第70回日本超音波医学会研究発表会, 1997. 11.
- 34) 小田部徹, 深見武彦, 松島 隆, 関谷隆夫, 塚田克也, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 閉経期子宮の超音波学的考察. 第12回日本更年期医学会, 1997. 11.
- 35) 三並伸二, 貝原賢二, 吉松和彦, 塚田克也, 関谷隆夫, 石原楷輔: 癒着胎盤により大量出血をきたした1症例. 第327回日本産婦人科学会神奈川地方部会, 1997. 11.
- 36) 小田部徹, 深見武彦, 松島 隆, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 閉経期性器出血時における子宮の観察. 第70回超音波医学会, 1997. 11.
- 37) 菊谷真理子, 小田部徹, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 超音波断層法による多嚢性膜像の臨床的意義. 第12回更年期学会学術集会, 1997. 11.
- 38) 石原楷輔: 更年期外来における経腔超音波における応用. 神奈川県央部地区産婦人科ME研究会, 1997. 11.
- 39) 石原楷輔: 最新の超音波診断法について—実践テクニックからカラードブラまで—. 江戸川医師会, 産婦人科医会, 1997. 11.
- 40) 小田部徹, 菊谷真理子, 松島 隆, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔: 超音波断層法にて子宮内膜の肥厚を示し, 子宮内膜掻爬術が困難であった子宮体癌の2例. 第328回日産婦神奈川地方部会, 1997. 12.
- 41) 小林三平, 小田部徹, 深見武彦, 林 康子, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔: 切迫早産治療中にHELLP症候群を発症した1症例. 第328回日産婦神奈川地方部会, 1997. 12.
- 42) 斎藤 恵, 小田部徹, 深見武彦, 林 康子, 小林三平, 塚田克也, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: 切迫早産治療中にHELLP症候群を発症した1例. 第328回日産婦神奈川地方部会, 1997. 12.
- 43) 関谷隆夫, 小田部徹, 塚田克也, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 機能性不妊例における混合型超音波内膜像の意義: Sonohysterographyとhysteroscopyによる検討. 第20回日本産婦人科内視鏡学会, 1997.
- 44) 関谷隆夫, 小田部徹, 塚田克也, 可世木久幸, 石原楷輔, 荒木 勤: 機能性不妊例における混合型超音波内膜像の意義: Sonohysterographyとhysteroscopyによる検討. 第94回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1997.
- 45) 石原楷輔: 超音波検査法の教育を考える. 日本超音波医学会第69回研究発表会東京国際フォーラム, 1997.
- 46) 石原楷輔: 経腔超音波診断とカラードブラの臨床応用. 燕市産婦人科医会, 1997.
- 47) 石原楷輔: 更年期外来における経腔超音波検査の応用. 横浜市産婦人科医会, 1997.
- 48) 三並伸二: 癒着胎盤により大量出血をきたした1症例. 第37回周産期救急連絡会, 1997.
- 49) 斎藤 恵, 貝原賢二, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔: 当科における過去5年間の帝王切開困難例の検討. 第29回日本医大産婦人科同窓会臨床研究会, 1998. 1.

- 50) 貝原賢二, 松島 隆, 塚田克也, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔: 陰原発のAmelanotic malignant melanoma の1症例. 第329回日本産婦人科学会神奈川県支部会, 1998. 1.
- 51) 石原楷輔: 更年期外来における経腔超音波検査とカラードブラの臨床応用. 京都市産婦人科医会, 1998. 1.
- 52) 石原楷輔: 更年期外来における経腔超音波検査の応用. 産婦人科MEセミナー東京, 1998. 1.
- 53) 石原楷輔: 最新の超音波診断法について. 水戸市産婦人科医会, 1998. 2.
- 54) 石原楷輔: 最新の超音波外来—カラードブラの臨床応用を含めて—. 宇都宮産婦人科医会, 1998. 2.
- 55) 貝原賢二, 斎藤 恵, 有坂康子, 松島 隆, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔: 常位胎盤早期剥離に超音波検査は有用か?. 第330回日本産婦人科学会神奈川県支部会, 1998. 3.
- 56) 貝原賢二, 斎藤 恵, 有坂康子, 松島 隆, 関谷隆夫, 可世木久幸, 石原楷輔: 常位胎盤早期剥離に超音波検査は有用か?. 川崎医会, 1998. 3.

[多摩永山病院産婦人科]

研究概要

多摩永山病院産婦人科の平成9年度の臨床研究としては、ダウン症の出生前診断の有力なスクリーニング法のひとつとして、磯崎医師が米国エール大学で研究してきた妊婦尿中hCGの β -core fragment測定による方法について、日本人妊婦についてのスタンダード作りが続けられている。また、従前から日本人類遺伝学会臨床遺伝学認定医制度研修指導施設として行っている羊水穿刺による出生前診断の染色体検査はついに累計1,000症例の分析を数えるに至った。来年度にまとめてその成績を発表する予定である。研究用に限定されていた染色体プローブが本年後半より臨床に应用することが可能となったことから、研究的に行っていたFISH法を羊水細胞にも臨床応用として使用開始した。流産組織にも応用してその主たる原因のひとつである染色体異常を追及している。絨毛癌の増殖機構に関する基礎的研究も引き続き続けられている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 王 華麗¹⁾, 孔 北華¹⁾, 郭 玲玲¹⁾, 江 森¹⁾, 佐々木茂⁽¹⁾ 中国山東医科大学産婦人科学教室): A study of PCNA and C-myc oncogene overexpression in CIN and cervical squamous cell carcinoma and its clinical value. 現代婦産科進展 1997; 6: 208-212.
- 2) 佐々木茂, 磯崎太一, 若月雅美, 三田俊二, 孔 北華: 絨毛癌細胞の増殖とサイトカイン. 産と婦 1997; 64 (8): 1091-1097.
- 3) 佐々木茂: 絨毛性疾患減少の理由. 日本医事新報 1998; (3846): 142-143.
- 4) 大園恵美¹⁾, 増永久美子¹⁾, 小林有紀子¹⁾, 小林信子¹⁾, 池谷登美枝¹⁾, 福岡イツ子¹⁾, 野口 素¹⁾, 堀川佳津美²⁾, 三田俊二, 磯崎太一, 松本譲二, 佐々木茂⁽¹⁾ 多摩永山病院産婦人科病棟, ²⁾ 多摩永山病院薬剤科): 私たちの行っている終末期における疼痛の緩和: 子宮頸癌の事例を通して. 東京母性衛生学会誌 1998; 14 (1): 56-59.
- 5) 田中純也, 前田昭太郎¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 荒木 勤⁽¹⁾ 日本医科大学病理学第2教室): 子宮頸部のサイトケラチンの局在変化と子宮頸癌の浸潤様式との関係. 日医大誌 1998; 65 (1): 14-27.
- 6) 三宅秀彦, 藤井俊彦, 三田俊二, 梅沢勝弘, 中井章人, 松本譲二, 佐々木茂, 越野立夫: 分娩後HELLP症候群と産褥子癩をおこした双胎の1例. 日産婦東京会誌 1998; 47 (1): 117-120.

著書

- 1) 佐々木茂：〔分担〕異常分娩後の注意すべきポイント（本多 洋編集）．タイムテーブルにもとづいた産後の保健指導マニュアル，1997；pp51-61，メヂカ出版．
- 2) 佐々木茂：〔分担〕胎児診断（方法，意義，現況）：妊娠・分娩時の保健（日本母性衛生学会編）．Women's Health：女性が健康に生きるために，1998；pp122-124，南山堂．
- 3) 若麻績佳樹¹⁾，三宅秀彦⁽¹⁾ 都立母子保健院）：〔分担〕無痛分娩：マメ知識（日本母性衛生学会編）．Women's Health：女性が健康に生きるために，1998；pp232-233，南山堂．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 越野立夫：妊婦スポーツの変遷と現状．第3回マタニティーフィットネスコンベンション，1998．3．

(2) 教育講演：

- 1) 佐々木茂：最近の絨毛性疾患の治療．南多摩産婦人科医会，1997．7．

(3) 一般講演：

- 1) 磯崎太一，三田俊二，藤井俊彦，家永 聡，若月雅美，松本譲二，佐々木茂，荒木 勤，Cole LA：妊婦尿中hCG β -core fragment測定による妊娠前半期におけるtrisomy：特にDown症児のスクリーニングについて．第49回日本産科婦人科学会学術講演会，1997．4．
- 2) 辻 麻美¹⁾，河下英子¹⁾，野田理奈¹⁾，宮井真紀¹⁾，竹本寿江¹⁾，北條由紀¹⁾，田畑末美¹⁾，酒井和子¹⁾，磯崎太一，佐々木茂⁽¹⁾ 多摩永山病院周産期病棟）：産褥期における乳母緊満と食事摂取状況との関係について．第15回東京母性衛生学会，1997．5．
- 3) 大園恵美¹⁾，増永久美子¹⁾，小林有紀子¹⁾，小林信子¹⁾，池谷登美枝¹⁾，福岡イツ子¹⁾，三田俊二，磯崎太一，佐々木茂⁽¹⁾ 多摩永山病院産婦人科病棟）：終末期における疼痛の緩和：子宮頸癌の患者の事例を通して．第15回東京母性衛生学会，1997．5．
- 4) 藤井俊彦，磯崎太一，三田俊二，田中純也，若月雅美，松本譲二，佐々木茂，荒木 勤：治療に抵抗を示した絨毛癌に対するEMA-P療法．第93回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，1997．6．
- 5) 三宅秀彦，若月雅美，藤井俊彦，三田俊二，磯崎太一，松本譲二，佐々木茂，荒木 勤：卵管間質部妊娠の画像診断：カラーフローマッピングが有用であった症例を中心に．第94回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会，1997．10．
- 6) 磯崎太一，佐々木茂，藤井俊彦，三田俊二，横田明重，松本譲二，越野立夫，荒木 勤：治療に抵抗を示した絨毛癌に対するEMA-F療法．第15回絨毛性疾患研究会，1997．11．
- 7) 三宅秀彦，藤井俊彦，三田俊二，梅沢勝弘，中井章人，松本譲二，佐々木茂，越野立夫：分娩後HELLP症候群と産褥子癩をおこした双胎の1例．第304回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，1997．12．
- 8) 神戸 仁，山口 稔，中井章人，朝倉啓文，越野立夫：妊産婦における運動前後の感情変化と母体血中 β -エンドルフィンとの関係について．第11回女性スポーツ医学研究会学術集会，1997．12．
- 9) 梅沢勝弘，三田俊二，臼井文男，横田明重，中井章人，佐々木茂，越野立夫：消化管閉鎖・穿孔による著明な胎児腹水を伴った羊水過多の1例．第11回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第305回日産婦東京地方部会例会，1998．2．

[千葉北総病院産婦人科]

研究概要

当医局の特徴は，産婦人科と新生児管理を切り離さず，母子センターとして総合的に機能させているところにある．

周産期管理とそれに引き続く母児管理は、同施設内のGCU (Growing Care Unit) において行っている。現在、周産期管理の側からみた新生児管理と新生児管理の側からみた周産期管理の相互の観点から総合的研究を始めている。また、成田国際空港にも近く、近隣地域の救命救急センターとして、核的存在ともなっており、他科と並診を余儀なくされる産婦人科救急疾患も多数存在し、産婦人科医としての救命救急医療についての研究も行っている。現在のところ、臨床的研究が主であるが、今後基礎的研究も発展させたいと考えている。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著：

- 1) 清水敬生¹⁾, 鴨井青龍, 山内一弘¹⁾, Silverberg SG²⁾ (1) 癌研究会附属病院, 2) University of Maryland Medical System) : 卵巣癌の分化度診断と分化度による治療の諸問題. 日本婦人化病理・コルポスコピー学会雑誌 1996 ; 14 (2) : 150-157.
- 2) 清水敬生¹⁾, 鴨井青龍, 尼田 覚²⁾, 秋山 太¹⁾, Silverberg S²⁾ (1) 癌研究会附属病院, 2) University of Maryland Medical System) : 卵巣癌に対する新しい分化度診断法. 産婦人科治療 1997 ; 74 (2) : 154-164.

(1) 原著：

- 1) Shimizu Y¹⁾, Kamoi S, Satoshi A²⁾, Futoshi A¹⁾, Silverberg SG³⁾ (1) Cancer Institute Hospital, 2) Kyushu Universty Medical Center, 3) Universty of Maryland Medical System) : Toward the development of a Universal Grading System for Ovarian Epithelial Carcinoma. Cancer 1998 ; 82 (5) : 893-901.
- 2) 山口 暁, 都甲明子, 岩崎卓爾, 田中 彰, 河村 堯, 荒木 勤 : 妊娠早期に診断しえた無心体の1例. 日本新生児学会雑誌 1997 ; 363 (2) : 282-286.
- 3) 都甲明子, 岩崎卓爾, 山口 暁, 田中 彰, 河村 堯, 大秋美治¹⁾, 横山宗伯¹⁾, 山川義寛²⁾ (1) 日本医大附属千葉北総病院病理部, 2) 富山医科薬科大学産婦人科) : パルボウイルスB19感染により一児に胎児水腫が発症したと考えられる双胎妊娠の一症例. 日本新生児学会雑誌 1997 ; 33 (3) : 366-370.
- 4) 安達志野, 米山剛一, 里見操緒, 松下径広, 窪谷 潔, 大坪保雄, 小西英喜, 荒木 勤 : 高齢に発症した侵入奇胎の1例. 日本産科婦人科学会東京地方部会誌 1997 ; 46 (3) : 320-323.
- 5) 安達志野, 米山剛一, 里見操緒, 松下径広, 大坪保雄, 進 純郎, 荒木 勤 : 高齢に発症した侵入奇胎の治療経験. 日医大誌 1997 ; 64 (6) : 574-575.
- 6) 里見操緒, 高田秀一, 明楽重夫, 荒木 勤 : 卵巣癌との鑑別が困難であったクラミジア感染症の1例. 日本外科感染症研究 1997 ; 9 : 167-169.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演：

- 1) Schlesinger C¹⁾, Kamoi S, Ascher S¹⁾, Kendell M²⁾, Lage J²⁾, Silverberg S¹⁾ (1) The George Washington University, 2) The Georgetown Universty) : A comparison of Endometrial Polyps in Patients Receiving Tamoxifen (TMX) with Two Control Groups. The 86th Annual Meeting of United States and Canadian Academy of Pathology (Orlando), 1997. 3.

(1) 一般講演：

- 1) Kamoi S, Iskander M¹⁾, Akin M²⁾, Silverberg S²⁾ (1) University of Maryland Medical System, 2) Loma Linda University) : Immunohistochemical Distinction Between Endometrial and Endocervical Adenocarcinomas : Site of Origin Versus Pathway of Differentiation. The 87th Annual Meeting of United States and Canadian Academy of Pathology (Boston), 1998. 3.
- 2) Kamoi S, Park W¹⁾, Vortmeyer A¹⁾, Zhuang Z¹⁾, Silverberg S²⁾ (1) National Cancer Institute, 2) University of Maryland) : Loss of Heterozygosity (LOH) Analysis in Serous and Mucinous Benign, Low Malignant Potential and Carcinomatous Ovarian Tumors. The 87th Annual Meeting of United States and Canadian Academy of Pathology (Boston), 1998. 3.
- 3) Shimizu Y¹⁾, Kamoi S, Amada S²⁾, Akiyama F¹⁾, Hasumi K¹⁾, Silverberg S²⁾ (1) Cancer Institute Hospital, Tokyo, 2) University of Maryland Medical System) : The Grader and The Typer Should be Friends : A Study of Comparative Value of Histopathologic Grading and Typing of Ovarian Epithelial Carcinoma. The 87th Annual Meeting of United States and Canadian Academy of Pathology (Boston), 1998. 3.
- 4) 里見操緒, 大坪保雄, 澤倫太郎, 米山芳雄, 進 純郎, 荒木 勤 : 産褥9日目に発症したMRSAを起因菌とする Toxic Shock Syndromeの1例. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 5) 安達志野, 米山剛一, 里見操緒, 松下径広, 窪谷 潔, 大坪保雄, 小西英喜, 荒木 勤 : 高齢に発症した侵入奇胎の1例. 第302回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1997. 5.
- 6) 里見操緒, 大坪保雄, 窪谷 潔, 澤倫太郎, 米山芳雄, 進 純郎, 荒木 勤 : MDS (骨髄異形成症候群) 合併妊娠の二症例に関する検討. 日本産婦人科・新生児血液学会, 1997. 6.
- 7) 安達志野, 品川寿弥, 大坪保雄, 可世木久幸, 明楽重夫, 荒木 勤 : 酢酸リユープロレリン投与中に出血傾向を認めた一症例. 第18回エンドメトリオーシス研究会, 1997. 6.
- 8) 田中 彰, 高橋 肇, 安達志野, 岩崎卓爾, 山口 暁, 河村 堯 : LH単独欠損症を強く疑わせる一症例. 第4回千葉県生殖内分泌懇話会, 1997. 9.
- 9) 高橋 肇, 山口 暁, 都甲明子, 岩崎卓爾, 田中 彰, 河村 堯, 小池 薫¹⁾, 横田裕行¹⁾ (1) 千葉北総病院救命救急部) : 帝王切開後に発症した肺塞栓症の一例. 日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1997. 11.
- 10) 安達志野, 田中 彰, 高橋 肇, 岩崎卓爾, 若月雅美, 山口 暁, 鴨井青龍, 河村 堯 : LH単独欠損症を強く疑わせる一症例. 日本産科婦人科学会千葉地方部会平成9年度冬季学術講演会, 1998. 1.
- 11) 高橋 肇, 安達志野, 岩崎卓爾, 若月雅美, 山口 暁, 田中 彰, 鴨井青龍, 河村 堯 : 重症筋無力症合併妊娠の1例. 日本産科婦人科学会千葉地方部会, 1998. 1.
- 12) 鴨井青龍, 荒木 勤, Zhuang Z¹⁾, Silverberg S²⁾ (1) National Cancer Institute, 2) University of Maryland) : 癌抑制遺伝子からみた上皮性卵巣腫瘍の悪性化機序における研究. 第2回日本産科婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学会学術集会, 1998. 2.
- 13) 黒瀬圭輔, 八田充子, 松下径広, 米山剛一, 小西英樹, 鴨井青龍, 荒木 勤, 江見 充¹⁾ (1) 日本医科大学付属老人病研究所) : 子宮平滑筋腫における新規融合遺伝子の同定. 第2回日本産科婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学会学術集会, 1998. 2.
- 14) 安達志野, 田中 彰, 高橋 肇, 岩崎卓爾, 若月雅美, 山口 暁, 鴨井青龍, 河村 堯 : LH単独欠損症を強く疑わせる一症例. 日本医科大学医学会第94回例会, 1998. 2.
- 15) 何 群¹⁾, 大秋美治¹⁾, 森 修¹⁾, 鴨井青龍, 河村 堯 (1) 日本医科大学付属千葉北総病院病理部) : 子宮内膜癌に合併した筋層内間質腫瘍の1例. 第9回日本病理医協会千葉県支部集会, 1998. 3.

14. 耳鼻咽喉科学講座

[付属病院耳鼻咽喉科]

研究概要

教室の主研究テーマは、耳科学、聴覚学、平衡神経科学、免疫学、アレルギー学、頭頸部腫瘍学であるが、昨年度から音声言語学についての研究も始まり軌道にのりつつある。本年度は、厚生省特定疾患前庭機能異常調査研究部分科会の分科会長として八木が2年目に入り、メニエール病や遅発性内リンパ水腫に関する研究がさらに加速された。また、眼球運動の三次元解析に関する研究も、本年度は大きなソフトウェアの改良などの研究進歩があった。これらの研究の一部は、国際学会でも発表されている。また、厚生科学研究費補助金、感覚器障害研究事業として54,700,000円の援助を受けた(八木)。聴覚学に関しては、耳鳴の発生機序とその治療に関する研究が大きな進歩をみせている。免疫学では、呼吸上皮の検討や内耳での免疫応答に関する研究が、一層の展開を見せている。また、アレルギー学ではその基礎と薬物治療に関する研究も引き続き積極的に行われている。また、文部省科学研究費の基礎研究や奨励研究を得て、それぞれの分野で研究が活発に行われている。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著：

- 1) Nibu K¹⁾, Kamata S²⁾, Kawabata K²⁾, Nakamizo M, Nigauri T²⁾, Hoki K²⁾ (1) Department of Otolaryngology, University of Tokyo, Japan, (2) Division of Head and Neck, Cancer Institute Hospital, Tokyo) : Partial laryngectomy in the treatment of radiation-failure of early glottic carcinoma. HEAD&NECK 1997 ; 19 : 116-120.

(1) 原著：

- 1) Jinnouchi K, Tomiyama S, Pawankar R, Yagi T : Preliminary study of the role of endothelin-1 in the homeostasis of the inner ear. Acta Otolaryngol 1997 ; 528 : 10-14.
- 2) Pawankar R, Okuda M, Yssel H²⁾, Okumura K¹⁾, Ra C¹⁾ (1) Dept. of Immunology, Juntendo Univ Sch of Medicine, (2) Dept. of Human Immunology, DNAX Research Centre, U.S.A.) : Nasal mast cells in perennial allergic rhinitis exhibit increased expression of the Fc ε RI, CD40L, IL-4 and IL-13, and can induce IgE synthesis in B cells. J Clin Invest 1997 ; 99 (7) : 1492-1499.
- 3) Pawankar R, Okuda M, Yagi T, Okumura K¹⁾, Ra C¹⁾ (1) Dept. of Immunology, Juntendo Univ Sch of Medicine) : The Fc ε RI expressing cells in the nasal mucosa of perennial allergic rhinitics. Amer J Rhinol 1997 ; 16 : 161-163.
- 4) Pawankar R, Okuda M, Yagi T, Okumura K¹⁾, Ra C¹⁾ (1) Dept. of Immunology, Juntendo Univ Sch of Medicine) : Fc ε RI expression in nasal mast cells of perennial allergic and chronic infective rhinitics. 免疫アレルギー 1997 ; 15 (2) : 102-104.
- 5) Yagi T, Ohyama Y, Suzuki K, Kamura E, Kokawa T : 3D analysis of nystagmus in peripheral vertigo. Acta Otolaryngol 1997 ; 117 : 135-138.
- 6) Watanabe K, Okawara D, Baba S, Yagi T : Electrocochleographic analysis of the suppression of tinnitus

- by electric promontory stimulation. *Audiol* 1997 ; 36 : 147-154.
- 7) Ohyama Y, Yagi T, Ushio K, Suzuki K : 3D analysis of nystagmus during peripheral vertiginous attack. *Acta Otolaryngol* 1997 ; 528 : 77-79.
 - 8) Nibu K¹⁾, Nakagawa K²⁾, Kamata S³⁾, Kawabata K³⁾, Nakamizo M, Nigauri T³⁾, Hoki K²⁾
(¹⁾ Department of Otolaryngology, University of Tokyo, Japan, ²⁾ Department of Thoracic Surgery, Cancer Institute Hospital, Tok, ³⁾ Division of Head and Neck ,Cancer Institute Hospital,Tokyo) : Surgical Treatment for Pulmonary Metastases of Squamous Cell Carcinoma of the Head and Neck. *American Journal of Otolaryngology* 1997 ; 18 (6) : 391-395.
 - 9) Moss RB¹⁾, Nagata H¹⁾, Goff J²⁾, Okubo K, Hausfeld J³⁾, Kaliner MA³⁾ (¹⁾ Aallergic Diseases Section, LCI, NIH, ²⁾ Dept. of Microbiology, Division of Molecular Virology and Immunology, Georgetown University, ³⁾ Dept. of Facial, Plastic and Reconstructive Surgery, Washington Hospital Center) : Constitutive mRNA and immunoreactivity for IL-2 in human nasal mucosa. *Clin Exp Allergy* 1997 ; 27 : 406-412.
 - 10) Pawankar R, Tomiyama S, Jinnouchi K, Ikezono T, Nonaka M, Yagi T : Intercellular adhesion molecule-1 expression in the inner ear following secondary immune reaction in the endolymphatic sac. *頭頸部自律神経* 1998 ; 12 : 16-23.
 - 11) Pawankar R, Suzuki K¹⁾, Okuda M, Yagi T, Okumura K¹⁾, Ra C¹⁾ (¹⁾ Dept. of Immunology, Juntendo Univ Sch of Medicine) : Increased Fc ϵ RI expression, cell bound IgE and IgE-mediated mediator release in nasal mast cells of patients with perennial allergic rhinitis. *免疫アレルギー* 1998 ; 16 : 7-15.
 - 12) 野中 学, Pawankar R, 八木聰明 : 線維芽細胞に対するマクロライド抗生物質の影響. *J J Antibiotics* 1997 ; 50 (増刊) : 145-147.
 - 13) 相原康孝 : 直達外力による外傷 : 外傷性外リンパ瘻. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 1997 ; 69 (6) : 47-51.
 - 14) 馬場俊吉, 渡邊健一, 神尾友信, 八木聰明 : 予後からみた突発性難聴. *Audiology Japan* 1997 ; 40 (5) : 505-506.
 - 15) 神尾友信, 渡邊健一, 馬場俊吉, 八木聰明 : バンドノイズマスキによる耳鳴抑制とDPOAEの継時的変化. *Audiology Japan* 1997 ; 40 (5) : 403-404.
 - 16) 渡邊健一, 神尾友信, 馬場俊吉, 八木聰明 : 機能性難聴症例における歪成分耳音響放射. *Audiology Japan* 1997 ; 40 (5) : 301-302.
 - 17) 富山俊一, Pawankar R, 陣内 賢, 池園哲郎, 野中 学 : 内リンパ嚢局所免疫反応におけるIFN- γ の動態. *免疫アレルギー* 1997 ; 15 (2) : 184-185.
 - 18) 野中 学, Ra C¹⁾, 佐地富砂子, 八木聰明 : マクロライド抗生物質の線維芽細胞に対する影響について. *免疫アレルギー* 1997 ; 15 (2) : 104-105.
 - 19) 大久保公裕, Pawankar R, 奥田 稔, 八木聰明 : アレルギー性鼻炎鼻粘膜上皮層におけるエンドセリン発現 (抗体誘発との関係). *免疫アレルギー* 1997 ; 15 (2) : 64-65.
 - 20) 富山俊一, Pawankar R, 陣内 賢, 池園哲郎, 野中 学 : 内リンパ嚢局所免疫反応におけるIFN- γ の動態. *免疫アレルギー* 1997 ; 15 (2) : 184-185.
 - 21) 苦瓜知彦¹⁾, 鎌田信悦¹⁾, 川端一嘉¹⁾, 保喜克文¹⁾, 三谷浩樹¹⁾, 横島一彦, 吉本世一¹⁾ (¹⁾ 癌研究会付属病院頭頸科) : 中咽頭再建手術後の形態と機能. *頭頸部外科* 1997 ; 7 (3) : 113-116.
 - 22) 野中 学, Pawankar R, 八木聰明 : 気道線維芽細胞に対するロキシスロマイシンの影響について. *気道病態研究UPDATE* 1997 ; 9 : 77-81.
 - 23) 粉川隆行, 相原康孝, 大山義雄, 馬場俊吉, 八木聰明 : 直達外力によるアブミ骨陥入症例の検討. *耳喉頭頸* 1997 ; 69 : 355-359.

- 24) 八木聰明：めまい疾患の眼振三次元解析。東京都医師会雑誌 1997；50：81-84.
- 25) 八木聰明：めまいの分類と鑑別疾患。Medicina 1997；34：1316-1319.
- 26) 三枝英人，小野卓哉¹⁾，林 明聡¹⁾，豊田雅基，新美成二²⁾，八木聰明（¹⁾ 日本医科大学第一内科，²⁾ 東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室）：人工咽頭作成の試み：重症嚥下障害の筋緊張性ジストロフィー症例に対して。日気食会報 1997；48：297-302.
- 27) 渡邊健一，神尾友信，大河原大次，青木秀治，馬場俊吉，八木聰明：バンドノイズマスクによる耳鳴抑制治療：600例の検討。日耳鼻 1997；100：920-926.
- 28) 佐地富砂子，野中 学，陣内 賢，粉川隆行，馬場俊吉，八木聰明：Guillain-Barre症候群と考えられた両側同時性顔面神経麻痺の1例。耳喉頭頸 1997；69：911-915.
- 29) 三枝英人，新美成二¹⁾，八木聰明（¹⁾ 東京大学大学院医学系研究科音声・言語医学教室）：アンギオテンシン変換酵素阻害剤の副作用である咳嗽が誘因と考えられた喉頭肉芽腫の1例。喉頭 1997；9：167-169.
- 30) 三枝英人，豊田雅基，小野卓哉，林 明聡，新美成二¹⁾，八木聰明（¹⁾ 東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室）：人工喉頭作製の試み。日気食会報 1997；48：297-302.
- 31) 三枝英人，新美成二¹⁾，八木聰明（¹⁾ 東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室）：アンギオテンシン変換酵素阻害剤の副作用である咳嗽が誘因と考えられた喉頭肉芽腫の1例。喉頭 1997；9：167-169.
- 32) 矢嶋裕徳，野中 学，森園徹志，渡邊高弘¹⁾，後藤裕一，矢嶋 洋¹⁾（¹⁾ 静岡済生会総合病院）：蝶形骨洞に発生した軟骨肉腫例。耳鼻臨床 1997；90：681-685.
- 33) 森園徹志：当院アレルギー外来患者の咽・喉頭症状について。臨床と研究 1997；74：2321-2323.
- 34) 野中 学，Pawankar R，佐地富砂子，八木聰明：マクロライド抗生物質の線維芽細胞に対する影響について（第2報）。J J Antibiotics 1998；51（増刊）：112-115.
- 35) 野中 学，Pawankar R，佐地富砂子，八木聰明：線維芽細胞の増殖及びサイトカイン産生に対するマクロライドの影響について。頭頸部自律神経 1998；12：56-59.
- 36) 奥田 稔，Pawankar R，羅 智靖¹⁾（¹⁾ 順天堂大学医学部免疫学）：局所リンパ球動態- アレルギーと感染。アレルギー性鼻炎，最近のトピックス，耳鼻科から他科に 1998；1：11-14.
- 37) 野中 学，渡邊健一，野中玲子，馬場俊吉，八木聰明：内耳障害を伴った急性中耳炎症例の検討。Oto Jpn 1998；8：6-11.
- 38) 渡邊健一，三枝英人，陣内 賢，大河原大次，大久保公裕，杉崎裕一¹⁾，八木聰明（¹⁾ 日本医科大学病理学教室）：耳下腺Oncocytomaの1例。耳鼻 1998；44：5-7.
- 39) 渡邊健一，後藤 穰，陣内 賢，秋元利香，大河原大次，中溝宗永，大久保公裕，八木聰明，内藤善哉¹⁾，杉崎裕一¹⁾（¹⁾ 日本医科大学病理学教室）：11歳男児にみられた上顎洞癌の1症例。耳喉頭頸 1998；70：183-186.
- 40) 渡邊健一，後藤 穰，陣内 賢，大河原大次，中溝宗永，八木聰明：外傷性頸部膿瘍の1例。耳鼻 1998；44：150-153.
- (2) 綜説：
- 1) 馬場俊吉：メニエール病。臨床栄養 1997；90（4）：418-420.
- 2) 八木聰明：めまい。耳喉頭頸 1997；69：414-420.
- 3) 奥田 稔，大久保公裕，藤田洋祐：アレルギー性鼻炎の新しい重症度分類：スコア化の試み。アレルギー領域 1997；4（11）：97-102.
- 4) 大久保公裕，後藤 穰，奥田 稔：スギ花粉の免疫療法。Prog Med 1997；17：3094-3100.
- 5) 後藤 穰，大久保公裕，奥田 稔：鼻汁好酸球検査。アレルギーの臨床 1997；17（12）：54-56.
- 6) 相原康孝：めまいの薬物療法。JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION 1998；7（2）：202-205.
- 7) 富山俊一：内耳アレルギー。JHONS 1998；14（2）：146-150.

- 8) Pawankar R：鼻アレルギーと $\gamma\delta$ T細胞. アレルギー科 1997；286-292.
- (3) 研究報告書：
- 1) 八木聰明, 陣内 賢, 富山俊一, Pawankar R：蝸牛におけるエンドセリン変換酵素の分布について. 厚生省特定疾患前庭機能異常研究分科会平成9年度報告書. 1998；pp10-12.
 - 2) 八木聰明, Pawankar R, 馬場俊吉：Immunoregulation in inner ear diseases. 厚生省特定疾患前庭機能異常調査研究分科会平成9年度報告書. 1998；pp13-15.
 - 3) 八木聰明, 池園哲郎, 富山俊一, Pawankar R, 陣内 賢, 鈴木 豊¹⁾, 小坂和己⁽¹⁾ 伊勢崎市民病院)：リンパ球受け身移入による自己免疫性迷路炎. 厚生省特定疾患前庭機能異常調査研究分科会平成9年度報告書. 1998；pp16-18.
 - 4) 八木聰明, 大久保公裕, 高橋光明¹⁾, 山下俊夫²⁾, 渡辺行雄³⁾ ⁽¹⁾ 旭川医大, ²⁾ 関西医大, ³⁾ 富山医科薬科大)：遅発性内リンパ水腫患者血清中の内耳抗原に対する抗体の存在. 厚生省特定疾患前庭機能異常調査研究分科会平成9年度報告書. 1998；pp19-22.
 - 5) 富山俊一, 池園哲郎, Pawankar R, 陣内 賢, 八木聰明：内耳自己免疫病モデル動物開発. 厚生省特定疾患前庭機能異常調査研究分科会平成9年度報告書. 1998；pp110-114.
 - 6) 八木聰明, 陣内 賢, 富山俊一, Pawankar R, 池園哲郎：蝸牛におけるエンドセリンの変換酵素の分布. 厚生省特定疾患前庭機能異常調査研究分科会平成9年度報告書. 1998；pp10-12.
 - 7) 八木聰明, 池園哲郎, 富山俊一, Pawankar R, 陣内 賢, 小坂和己, 鈴木 豊¹⁾ ⁽¹⁾ 伊勢崎市民病院病理)：リンパ球受け身移入による自己免疫性迷路炎. 厚生省特定疾患前庭機能異常調査研究分科会平成9年度報告書. 1998；pp16-18.
 - 8) 高橋光明¹⁾, 富山俊一⁽¹⁾ 旭川医大耳鼻咽喉科)：内リンパ水腫作成動物の対側内耳の変化. 厚生省特定疾患前庭機能異常調査研究分科会平成9年度報告書. 1998；pp53-56.
 - 9) 高橋光明¹⁾, 富山俊一⁽¹⁾ 旭川医科大学耳鼻咽喉科)：内リンパ嚢およびくも膜下腔に注入した KLH抗原の動態. 厚生省特定疾患前庭機能異常調査研究分科会平成9年度報告書. 1998；pp57-59.

著 書

- 1) Pawankar R：アレルギー炎症細胞の動態：リンパ球. 那須ティーチン学術集会記録集, 1997；pp29-39.
- 2) 八木聰明：〔分担〕聴性脳幹反応検査. Text耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 1997；pp72-75, 南山堂.
- 3) 八木聰明：〔分担〕蝸電図検査. Text耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 1997；pp76-77, 南山堂.
- 4) 八木聰明：〔分担〕誘発耳音響検査. Text耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 1997；南山堂.
- 5) 八木聰明：〔分担〕耳科学外傷. Text耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 1997；pp143-146, 南山堂.
- 6) 八木聰明：〔分担〕めまい. 研修医チェックガイド, 1997；pp186-191, 新興医学出版.
- 7) 八木聰明：〔自著〕眼球運動の三次元解析からみた平衡機能とその異常. 眼球運動の三次元解析からみた平衡機能とその異常, 1997；pp1-131, 医学書院.
- 8) 八木聰明：〔分担〕耳鳴. 今日の診断指針, 1997；pp172-174, 医学書院.
- 9) 大久保公裕, 大西正樹：〔分担〕鼻局所ステロイドの効果と副作用. 気道アレルギー'97 (牧野莊平, 石川 哮監修), 1997；pp209-215, メディカルレビュー社 (東京).
- 10) 大久保公裕：〔分担〕スギ花粉の免疫療法 (アレルギー免疫療法). 第2回那須ティーチン記録集 (石川 哮監修), 1997；pp71-77, 日本アレルギー協会 (東京).
- 11) 中溝宗永, 鎌田信悦¹⁾ ⁽¹⁾ 癌研究会付属病院頭頸科)：〔分担〕多重癌は増加しているか. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科クリニカルトレンド, 1998；pp268-269, 中山書店.
- 12) 八木聰明：〔分担〕当科におけるめまい・慢性中耳炎の診断と治療. めまい・慢性中耳炎の診断と治療,

1998 ; pp76-83, 新興交易医書出版部.

- 13) 八木聰明：〔分担〕 CCDカメラを用いて眼振をどのように解析するか. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科クリニカルト
レンド, 1998 ; pp118-119, 中山書店.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 八木聰明：めまい症例の取り扱い. 第318回小田原医師会学術講演会, 1997. 4.
- 2) 八木聰明：眼振の三次元解析からみためまい疾患. 第21回関西めまい循環不全懇話会, 1997. 7.
- 3) 馬場俊吉：一般臨床医のための「難聴とめまい」の診療. 川口医師会学術講演会, 1997. 7.
- 4) 八木聰明：真珠腫性中耳炎. クリニカルイブニング (長崎市), 1997. 11.
- 5) 八木聰明：眼球運動三次元解析からみた平衡機能とその異常. 日耳鼻愛媛県地方部会学術講演会, 1998. 2.
- 6) 大久保公裕：アレルギー講演会—耳鼻咽喉科—. 第4回アレルギー講演会 (日本アレルギー協会), 1998. 2.
- 7) 大久保公裕：鼻アレルギーに対する免疫療法. 仙台花粉症学術講演会, 1998. 2.
- 8) 八木聰明：日常診療におけるめまい. 津地区久一志地区医師会医学研修会, 1998. 3.

(2) 宿題講演：

- 1) 八木聰明：眼振の三次元解析からみた平衡機能とその異常. 第98回日本耳鼻咽喉科学会総会, 1997. 5.

(3) 招待講演：

- 1) Pawankar R : Nasal mast cells in perennial allergic rhinitis express increased levels of the Fc ϵ RI and can induce IgE synthesis in B cells. Seminar on Allergic diseases, 1997. 4.
- 2) Pawankar R : アレルギー性鼻炎におけるTリンパ球及び肥満細胞の役割. 第2回島根鼻アレルギー関連疾患研究会, 1998. 1.

(4) 教育講演：

- 1) 八木聰明：耳鳴の評価と治療. 第21回多摩耳鼻咽喉科臨床研究会, 1997. 11.

(5) シンポジウム：

- 1) Pawankar R, Okuda M, Azuma M¹⁾, Yagi T, Okumura K¹⁾, Ra C¹⁾ (¹⁾ Dept. of Immunology, Juntendo Univ Sch of Medicine) : Heterogeneity of nasal and peripheral blood $\gamma \delta$ T cells in patients with perennial allergic rhinitis. 2nd Asian Research Symposium in Rhinology, 1997. 11.
- 2) Pawankar R : Role of T cells and the T cell receptor. 1st International Symposium on Basic Approaches to Allergic Rhinitis, 1998. 2.
- 3) Okuda M, Pawankar R, Otsuka H, Kawabori S¹⁾, Okubo K (¹⁾ Dept. of Otolaryngology, Asahikawa Medical School) : Heterogeneity of nasal mast cells. Symposium on Airway Allergy, 1998. 3.
- 4) 大久保公裕, 奥田 稔：通年性アレルギー性鼻炎の治療とSymptom-Medication Scoreによる評価 (ポスターワークショップ3; アレルギー性鼻炎の治療と効果判定). 第9回日本アレルギー春期学会, 1997. 5.
- 5) Pawankar R : アレルギー炎症細胞の動態：リンパ球. 第2回那須ティーチン, 1997. 7.
- 6) 大久保公裕, : スギ花粉の免疫療法 (アレルギー免疫療法). 第2回那須ティーチン, 1997. 7.
- 7) Pawankar R, 奥田 稔, 奥村 康¹⁾, 羅 智靖¹⁾ (¹⁾ 順天堂大学医学部免疫学) : IgE-Fc ϵ RI - マスト細胞枢軸 : Nasal mast cells in perennial allergic rhinitis. 第47回日本アレルギー学会総会, 1997. 10.
- 8) 大久保公裕, 奥田 稔：プルラン結合スギ花粉抗原による免疫療法 (イブニングシンポジウム5; アレルギー免疫療法の評価と将来の展望). 第47回日本アレルギー学会総会, 1997. 10.
- 9) 大久保公裕, 藤田洋祐¹⁾ (¹⁾ 藤田耳鼻咽喉科医院) : アレルギー性鼻炎の臨床分類 (シンポジウム18; アレルギー性鼻炎, 最近のトピックス—耳鼻科から他科に). 第47回日本アレルギー学会総会, 1997. 10.

- 10) 奥田 稔, Pawankar R, 羅 智靖¹⁾ (1) 順天堂大学医学部免疫学) : 局所リンパ球の動態-アレルギーと感染. 第47回日本アレルギー学会総会, 1997. 10.
 - 11) 羅 智靖¹⁾, Pawankar R, 西山千春¹⁾ (1) 順天堂大学医学部免疫学) : アレルギーにおけるIgE-FcεRI-マスト細胞軸. 第27回日本免疫学会, 1997. 10.
 - 12) Pawankar R, 奥田 稔, 八木聰明 : 第33回鼻科学基礎問題研究会 : アレルゲンに対する鼻局所免疫応答 : 通年性アレルギー性鼻炎におけるリンパ球について. 第36回日本鼻科学会, 1997. 11.
 - 13) 大久保公裕, Pawankar R, 後藤 稔, 奥田 稔 : アレルギー鼻粘膜上皮層におけるエンドセリン発現 (抗原誘発との関係). 第10回気道病態シンポジウム, 1998. 1.
 - 14) Pawankar R, 奥田 稔, 八木聰明, 奥村 康¹⁾, 羅 智靖¹⁾ (1) 順天堂大学医学部免疫学) : Mucosal immunology of upper airway : Reassessing the roles of mast cells and T cells in the pathogenesis of allergic rhinitis. 第16回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1998. 3.
- (6) 一般講演 :
- 1) Pawankar R, Okuda M, Okumura K¹⁾, Ra C¹⁾ (1) 順天堂大学医学部免疫学) : Nasal mast cells in perennial allergic rhinitis can induce IgE synthesis in B cells. 第9回日本アレルギー学会春季臨床大会, 1997. 5.
 - 2) Nonaka M, Pawankar R, Saji F, Yagi T : Lipopolysaccharide induces expression of RANTES and GM-CSF in human nasal, but not in other airway fibroblasts. 9th International Congress of Rhinology, 1997. 7.
 - 3) Pawankar R, Okuda M, Yagi T, Okumura K¹⁾, Ra C¹⁾ (1) Dept. of Immunology, Juntendo Univ Sch of Medicine) : Nasal mast cells in perennial allergic rhinitis express increased levels of the FcεRI and can induce IgE synthesis in B cells. 9th International Congress of Rhinology, 1997. 7.
 - 4) Pawankar R, Tomiyama S, Jinnouchi K, Ikezono T, Nonaka M, Yagi T : Intercellular adhesion molecule-1 expression in the inner ear following secondary immune reaction in the endolymphatic sac. 第15回頭頸部自律神経研究会, 1997. 8.
 - 5) Okubo K, Okuda M : Late phase response of allergic rhinitis. 4th International Congress Allergy and Clinical Immunology, 1997. 10.
 - 6) Kobayashi T¹⁾, Okayama Y¹⁾, Pawankar R, Ra C²⁾ (1) 1st Dept. of Internal Medicine, Gunma University, 2) Dept. of Immunology, Juntendo Univ Sch. of Medicine) : IL-13 production by human lung mast cells. Symposium on Asthma, 1998. 2.
 - 7) 三枝英人, 新美成二¹⁾, 八木聰明 (1) 東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室) : フィーディングチューブを用いた嚥下のリハビリテーション. 第6回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会, 1997. 4.
 - 8) 保喜克文¹⁾, 鎌田信悦¹⁾, 川端一嘉¹⁾, 苦瓜知彦¹⁾, 三谷浩樹¹⁾, 横島一彦, 吉本世一¹⁾ (1) 癌研究会付属病院頭頸科) : 下咽頭癌の根治的放射線治療について. 第98回日本耳鼻咽喉科学会総会, 1997. 5.
 - 9) 後藤 稔, 大久保公裕 : BK鼻粘膜誘発のACE阻害剤による変化-腺と血管の反応性について-. 第9回日本アレルギー春季大会, 1997. 5.
 - 10) 大久保公裕, 大塚博邦, 八木聰明, 吉田博一¹⁾, 馬場廣太郎 (1) 獨協医科大学耳鼻咽喉科) : スギ花粉症に対するペミロラスタカリウムの有効性の検討. 第9回日本アレルギー春季大会, 1997. 5.
 - 11) 横島一彦, 苦瓜知彦¹⁾, 鎌田信悦¹⁾, 川端一嘉¹⁾, 保喜克文¹⁾, 三谷浩樹¹⁾, 吉本世一¹⁾ (1) 癌研究会付属病院頭頸科) : 中咽頭扁平上皮癌Stage IVの治療についての検討. 第21回日本頭頸部腫瘍学会, 1997. 6.
 - 12) 保喜克文¹⁾, 鎌田信悦¹⁾, 川端一嘉¹⁾, 苦瓜知彦¹⁾, 三谷浩樹¹⁾, 横島一彦, 吉本世一¹⁾ (1) 癌研究会付属病院頭頸科) : 上咽頭癌に対する手術法. 第21回日本頭頸部腫瘍学会, 1997. 6.
 - 13) 陣内 賢, 中溝宗永, 八木聰明 : 過去10年間の耳下腺腫瘍の臨床統計. 第21回頭頸部腫瘍学会, 1997. 6.
 - 14) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明 : マクロライド抗生物質の線維芽細胞に対する影響について

- (第2報). 第4回マクロライド新作用研究, 1997. 7.
- 15) 森園徹志, 滝沢竜太, 橋本泰幸¹⁾, 日賀一成, 矢嶋 洋¹⁾ (¹⁾ 静岡済生会総合病院): 頸部食道透視のビデオ記録が有効だった下咽頭癌症例. 第52回日耳鼻静岡県地方部会, 1997. 7.
 - 16) 島田健一, 野中 学, 渡邊健一, 馬場俊吉, 八木聡明: 両側性ムンプス難聴の1症例. 第121回日耳鼻東京都地方部会, 1997. 7.
 - 17) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聡明: 線維芽細胞の増殖及びサイトカイン産生に対するマクロライドの影響について. 第15回頭頸部自律神経研究会, 1997. 8.
 - 18) 森園徹志, 滝沢竜太, 橋本泰幸¹⁾, 日賀一成 (¹⁾ 静岡済生会総合病院): 音声外科的処置を行った甲状腺手術症例. 第6回静岡県頭頸部腫瘍研究会, 1997. 9.
 - 19) 後藤 稔, 三枝英人, 渡邊健一, 中溝宗永, 八木聡明: いびきを主訴にした頸部神経鞘腫の一症例. 第49回日本気管食道科学会総会, 学術講演会, 1997. 10.
 - 20) 佐久間文子¹⁾, 相原康孝, 八木聡明 (¹⁾ 神尾記念病院): 下肢, 体幹筋への振動刺激による重心動揺. 第56回日本平衡神経科学会総会, 1997. 10.
 - 21) 富山俊一, 陣内 賢, 池園哲郎, Pawankar R, 小坂和己, 八木聡明: 実験的内耳自己免疫病: 第2報: 自己抗体. 第7回日本耳科学会, 1997. 10.
 - 22) 陣内 賢, 富山俊一, Pawankar R, 池園哲郎, 八木聡明: ラセン神経節, 前庭神経節におけるエンドセリン. 第7回日本耳科学会, 1997. 10.
 - 23) 高橋光明¹⁾, 富山俊一 (¹⁾ 旭川医大耳鼻咽喉科教室): 内リンパ水腫作成動物の対側耳の変化. 第7回日本耳科学会, 1997. 10.
 - 24) 長谷川俊史¹⁾, Pawankar R, 鈴木勝宏²⁾, 古川 漸¹⁾, 奥村 康²⁾, 羅 智靖²⁾ (¹⁾ 山口大学医学部小児科, ²⁾ 順天堂大学医学部免疫学): ヒト血小板における高親和性IgE受容体 (FcεRI) の発現および機能の検討 (続報). 第47回日本アレルギー学会総会, 1997. 10.
 - 25) 秋元利香, Pawankar R, 八木聡明, 馬場俊吉: 真珠腫におけるTNF-αとICAM-1の発現. 第7回日本耳科学会総会, 1997. 10.
 - 26) 松田 浩¹⁾, Pawankar R, 奥村 康¹⁾, 羅 智靖¹⁾ (¹⁾ 順天堂大学医学部免疫学): マウス高新和性IgEレセプター-α鎖モノクロナル抗体の樹立とマスト細胞の解析. 第27回日本免疫学会, 1997. 10.
 - 27) 馬場俊吉, 渡邊健一, 神尾友信, 八木聡明: 予後からみた突発性難聴. 第42回日本聴覚医学会総会ならびに学術講演会, 1997. 10.
 - 28) 渡邊健一, 神尾友信, 馬場俊吉, 八木聡明: 機能性難聴症例における歪成分耳音響放射. 第42回日本聴覚医学会総会ならびに学術講演会, 1997. 10.
 - 29) 神尾友信, 渡邊健一, 馬場俊吉, 八木聡明: バンドノイズマスキによる耳鳴抑制とDPOAEの継時的変化. 第42回日本聴覚医学会総会ならびに学術講演会, 1997. 10.
 - 30) 三枝英人, 新美成二¹⁾, 八木聡明 (¹⁾ 東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室): 直接的・間接的嚥下訓練. 第49回日本気管食道科学会総会, 1997. 10.
 - 31) 設楽明子, 嘉村恵理子, 粉川隆行, 八木聡明: 頭部傾斜 (rollとpitch) による眼球運動の三次元解析. 第56回日本平衡神経科学会, 1997. 10.
 - 32) 大山義雄, 八木聡明: 頸部誘発眼振と前庭代償. 第56回日本平衡神経科学会総会, 1997. 10.
 - 33) 斉藤明彦, 後藤 稔, 山岸茂夫, 岩崎智治, 野中 学, 大久保公裕, 八木聡明: 平成5年~8年度のアレルギー外来統計. 第123回日耳鼻東京都地方部会, 1997. 10.
 - 34) 大久保公裕, Pawankar R, 後藤 稔, 八木聡明: アレルギー鼻粘膜 explant culture での抗原反応性Fマル産エメダスチンの効果. 第36回日本鼻科学会, 1997. 11.

- 35) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聡明: 鼻粘膜線維芽細胞からのRANTES産生. 第36回日本鼻科学会, 1997. 11.
- 36) 三枝英人, 小泉康夫, 新美成二¹⁾, 八木聡明 (¹⁾ 東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室): カラードプ
ラ超音波による舌構音動態の観察. 第42回日本音声言語医学会総会, 1997. 11.
- 37) 小泉康夫, 三枝英人, 新美成二¹⁾, 八木聡明 (¹⁾ 東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室): 嚥下困難を
主訴として発見されたArnold-Chiari奇形の1症例. 第42回日本音声言語医学会総会, 1997. 11.
- 38) 森園徹志, 滝沢竜太, 橋本泰幸, 日賀一成: 内視鏡下鼻内手術時の出血量を減らす工夫について. 第4回静岡県
耳鼻咽喉科手術手技研究会 (静岡市), 1997. 11.
- 39) 郡家正彦¹⁾, 百束比古¹⁾, 青木 律¹⁾, 新見やよい²⁾, 青木見佳子²⁾, 中溝宗永 (¹⁾ 付属病院形成外科, ²⁾ 付属病
院皮膚科): 自己免疫性水疱症患者に見られた開口障害に対する再建術の経験. 第15回日本頭蓋顎顔面外科学会
学術集会, 1997. 11.
- 40) 斉藤明彦, 後藤 稔, 山岸茂夫, 岩崎智治, 野中 学, 大久保公裕, 八木聡明: 平成5年~8年度のアレルギー
外来統計. 第40回臨床アレルギー研究会, 1997. 11.
- 41) 横島一彦, 中溝宗永, 陣内 賢, 矢嶋裕徳, 八木聡明: 前腕皮弁患皮部の整容改善の一法. 第8回日本頭頸部外
科学会, 1998. 1.
- 42) 中溝宗永, 横島一彦, 陣内 賢, 矢嶋裕徳: 下咽頭再建における前腕皮弁のモニターの一法. 第8回日本頭頸部
外科学会, 1998. 1.
- 43) 森園徹志: 静岡県下過去7年間の花粉飛散と患者動向について. 第16回静岡県耳鼻咽喉科アレルギー研究会,
1998. 1.
- 44) 森園徹志, 矢嶋 洋¹⁾ (¹⁾ 静岡済生会総合病院): 背部・頸部に発生した腹壁外デスマイオイドの1例. 第8回日本頭
頸部外科学会, 1998. 1.
- 45) 三枝英人, 新美成二¹⁾, 八木聡明 (¹⁾ 東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室): 直接的・間接的嚥下訓
練. 第18回嚥下研究会, 1998. 2.
- 46) 三枝英人, 馬場俊吉, 八木聡明, 新美成二¹⁾ (¹⁾ 東京大学大学院医学系研究科音声言語医学教室): 嚥下のリハ
ビリテーション. 日耳鼻東京都地方部会第4回教育パネル, 1998. 2.
- 47) 日賀一成, 森園徹志: 肩・頸部デスマイオイド腫瘍の1症例. 第155回中部耳鼻科集談会, 1998. 2.
- 48) 森園徹志: 静岡県下各地の気象条件と花粉飛散. 第155回中部耳鼻科集談会, 1998. 2.
- 49) 横島一彦, 山岸茂夫, 大久保公裕, 後藤 稔: ハウスダスト鼻アレルギーの減感作療法における増量法の検討.
第16回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1998. 3.
- 50) 富山俊一, 池園哲郎, 陣内 賢, Pawankar R, 八木聡明: 内耳自己免疫病・臓器特異的抗原性の実験動物での
検討. 第16回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1998. 3.
- 51) 大久保公裕, Pawankar R, 後藤 稔, 八木聡明: アレルギー鼻粘膜adhesive explant culture. 第16回日本耳
鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1998. 3.
- 52) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聡明: 鼻粘膜線維芽細胞の特殊性-Lipopolysaccharideに対する反応
について. 第16回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1998. 3.
- 53) 佐地富砂子, 野中 学, Pawankar R, 八木聡明: 鼻粘膜線維芽細胞からのRANTES産生. 第16回日本耳鼻咽
喉科免疫アレルギー学会, 1998. 3.
- 54) 三枝英人, 豊田雅基, 島田早苗, 頼 徳成, 添野眞一, 新美成二¹⁾, 八木聡明 (¹⁾ 東京大学大学院医学系研究
科音声言語医学教室): 声門前部, 後部癒着症の治療経験. 第10回日本喉頭科学会総会, 1998. 3.
- 55) 森下まき, 三枝英人, 八木聡明: めまい, 構音障害を主訴として発見された極めて希な脳奇形の1例. 第125回
日耳鼻東京都地方部会, 1998. 3.

[第二病院耳鼻咽喉科]

研究概要

平成9年度の当科における研究は鼻アレルギーの発生機序を中心に行われた。鼻アレルギー発症に重要な肥満細胞の機能学的性質を中心に研究が行われた。鼻粘膜の表層付近に増多する粘膜型肥満細胞は抗原と反応しヒスタミン、ロイコトリエンなどを強く遊離させるが、粘膜の深部に分布する結合型肥満細胞の抗原による遊離活性はほとんどみられないことを平成7年に見出した。ヒト肥満細胞増殖因子に関する研究を平成6年度より行っているが、鼻粘膜上皮細胞からSCF（肥満細胞増殖因子）が産生されていることを明らかにし、鼻アレルギー患者の鼻粘膜上皮内肥満細胞の増多に関与する可能性について J Allergy Clin Immunologyに投稿し、受理された。このSCFは鼻粘膜肥満細胞の化学伝達物質の遊離活性に重要であることも同時に見出し、現在その内容のまとめを行っている。さらに、鼻アレルギーの即時型反応に続く遅発相において、好塩基球細胞の遊走が重要視されているが好塩基球刺激因子の局在が鼻粘膜のどの細胞にあるのかを明らかにし、Archives Otorhinolaryngologyに投稿し受理された

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 黒崎貞行, 大塚博邦：鼻アレルギーにおけるUni CAPの臨床意義。耳鼻臨床 1997；90（5）：549-554.
- 2) 黒崎貞行, 大塚博邦, 波多野吟哉¹⁾, 渋谷和俊²⁾, 直江史郎²⁾（¹⁾ 新松戸中央病院耳鼻咽喉科, ²⁾ 東邦大学大橋病院臨床病理科）：アレルギー性真菌性副鼻腔炎の一症例。耳鼻と臨床 1997；43（4）：516-520.
- 3) 藤倉輝道, 秋元利香¹⁾, 馬場俊吉²⁾（¹⁾ 谷津保健病院, ²⁾ 附属病院耳鼻咽喉科）：深頸部感染症の5症例。耳鼻咽喉科展望 1997；40（2）：180-185.
- 4) 奥田 稔¹⁾, 八木聰明²⁾, 大西正樹³⁾, 大久保公裕²⁾, 横島一彦²⁾, 目沢朗憲⁴⁾, 大塚博邦, 藤倉輝道, 他78名（¹⁾ 臨床アレルギー研究所, ²⁾ 附属病院耳鼻咽喉科, ³⁾ 大西耳鼻咽喉科, ⁴⁾ 博慈会記念病院）：通年性アレルギー性鼻炎に対するTMK-688の臨床評価一適投与量の検討一。耳鼻と臨床 1997；43（3）：218-235.
- 5) 奥田 稔¹⁾, 八木聰明²⁾, 大西正樹³⁾, 大久保公裕²⁾, 横島一彦²⁾, 大塚博邦, 藤倉輝道（¹⁾ 臨床アレルギー研究所, ²⁾ 附属病院耳鼻咽喉科, ³⁾ 大西耳鼻咽喉科）：通年性アレルギーに対するTMK-688の臨床評価一低用量側での至適投与量の検討一。耳鼻と臨床 1997；43（3）：239-260.

(2) 綜説：

- 1) 大塚博邦：肥満細胞とトリプターゼ。アレルギーの臨床 1997；223（9）：725-749.
- 2) 大塚博邦：アレルギー疾患：花粉症。治療 1998；80（1）：864-865.

著書

- 1) 大塚博邦：〔分担〕急性副鼻腔炎・慢性副鼻腔炎・鼻茸・術後性頬部嚢胞・乾酪性副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎・薬物性鼻炎・血管運動性鼻炎。最新決定版家庭医学大事典, 1997；pp524-531, 法研.
- 2) 大塚博邦：〔分担〕花粉症, 鼻アレルギー。内科治療ガイド 98, 1998；pp1172-1177, 文光堂.
- 3) 大塚博邦：〔分担〕アレルギー性鼻炎（花粉症）。アレルギー性疾患イラストレイテッド, 1998；pp53-61, メディカルレビュー社.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 大塚博邦：小児における耳鼻咽喉科疾患。川崎市小児医会, 1998, 1.

- 2) 大塚博邦：スギ花粉症の診断と治療。神奈川県スギ花粉症研究会，1998。2。
 - 3) 大塚博邦：アレルギー性鼻炎の正しい診断と治療。関東アレルギーセミナー，1998。2。
 - 4) 大塚博邦：スギ花粉症の発症機序からみた診断と治療。全国保険医連合会京都府保険協会講演会，1998。2。
 - 5) 大塚博邦：スギ花粉症の診断と治療。佐賀県耳鼻咽喉科医会，1998。2。
 - 6) 大塚博邦：スギ花粉症の診断。神奈川西部スギ花粉症研究会，1998。2。
- (2) セミナー：
- 1) 大塚博邦：鼻アレルギーの治療 Meeting with Experts and Professors。第9回日本アレルギー学会春期臨床大会，1997。5。
 - 2) 大塚博邦：花粉症の治療，ランチョンセミナー。第59回耳鼻咽喉科臨床学会，1997。6。
 - 3) 大塚博邦：鼻アレルギーの発症機序における肥満細胞の役割 教育セミナー。第99回日本耳鼻咽喉科学会総会学術講演会，1998。5。
 - 4) 大塚博邦：鼻アレルギーの発症機序，病態と治療。第12回日本アレルギー学会認定医教育セミナー，1998。8。
- (3) 一般講演：
- 1) 國友万由美，黒崎貞行，後藤裕一，小山 守，久野陽子，大塚博邦：スギ HD のCAP-RAST scoreとスギ花粉症発症の関係について。第39回臨床アレルギー研究会，1997。5。
 - 2) 小山 守，黒崎貞行，久野陽子，國友万由美，後藤裕一，大塚博邦：下咽頭梨状窩瘻による急性化膿性甲状腺炎の一症例。第59回耳鼻咽喉科臨床学会，1997。6。
 - 3) 上野則之，服部康夫¹⁾，山本 薫¹⁾，松生愛彦¹⁾ (¹⁾ 多摩永山病院耳鼻咽喉科)：ヒト鼓膜の形態学的観察。第29回日本臨床電子顕微鏡学会，1997。9。
 - 4) 藤倉輝道，大塚博邦：鼻粘膜におけるMCP-1，MCP-3産生細胞についての検討。第47回日本アレルギー学会，1997。10。
 - 5) 國友万由美，黒崎貞行，後藤裕一，小山 守，久野陽子，大塚博邦：CAP-RAST Score とスギ，ハウスダストアレルギー発症との関係について。第36回日本鼻科学会総会，1997。11。

[多摩永山病院耳鼻咽喉科]

研究概要

臨床的研究：

- 1, 鼻副鼻腔乳頭腫の，肉眼的所見と病理組織所見及び電顕的所見との関係。手術法の選択についての検討。
- 2, 耳鳴と自律神経失調。神経症やうつ状態との関連について，診療内科的に研究。
- 3, 頭頸部領域の穿刺吸引細胞診の有用性と応用についての検索。
- 4, 扁桃の加齢による機能変化の研究。
- 5, 鼻疾患の手術前後における呼吸動態についての研究。

基礎的研究：

- 1, Imotile cilia syndrome を中心に各種気道疾患の鼻腔と気管支線毛を電顕的に観察し，線毛の異常構造の検索を行って。
- 2, 蒸留水注入による鼻粘膜の変化の形態学的観察。
- 3, 物理的気道粘膜損傷の再生についての免疫組織化学的観察。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 町野 満, 服部康夫, 上野則之：挿管によるラット気管粘膜傷害とその修復過程における細胞動態に関する実験的研究. 日本気管食道科学会会報 1997；48：327-329.
- 2) 添野真一, 島田早苗：スギ花粉症. 日医大誌 1997；64：77.
- 3) 鈴木重剛, 服部康夫, 松生愛彦, 町野 満：蒸留水によるラット鼻粘膜傷害とその再生に関する実験的研究. 日耳鼻 1997；100：694-705.
- 4) 三枝英人, 小野卓哉, 林 明, 豊田雅基, 新見成二, 八木聰明：人工咽頭作製の試み—重度嚥下障害の筋緊張性ジストロフィー症例に対して—. 気食 1997；48：297-302.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 上野則之, 服部康夫, 山本 薫, 松生愛彦, 並松重樹：ヒト鼓膜の形態学的観察. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1997. 9.
- 2) 頼 徳成, 豊田雅基, 添野真一, 島田早苗, 細根 勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾ (¹⁾多摩永山病院病理部)：耳介部 Primitive neuroectodermal tumor の1症例. 第123回日耳鼻東京都地方部会, 1997. 10.
- 3) 添野真一：老人性難聴と耳鳴—特に老人ホーム入所者の難聴と耳鳴. 第21回多摩耳鼻咽喉科臨床研究会, 1997. 11.

[千葉北総病院耳鼻咽喉科]

研究概要

基礎的研究としては、眼球運動の三次元解析、マクロライド抗生物質の繊維芽細胞に対する影響、バンドノイズマスキによる耳鳴抑制治療を中心に、平衡神経学、聴覚、鼻アレルギーとバランスの取れた研究を行っている。現在は北総病院内に研究施設はなく、病理学部門の一部をかりて研究機器を設置したり、他の付属病院の研究施設を利用して研究を行っているのが現状である。北総病院敷地内に研究棟の建設が決定とのこと、早期の実現が熱望されている。臨床研究は、開院5年目を迎え、症例の蓄積により、多くの原著と学会発表が行われている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yagi T, Ohyama Y, Suzuki K, Kamura E, Kokawa T：3D Analysis of Nystagmus in Peripheral Vertigo. Acta Otolaryngol (Stockh) 1997；117：135-138.
- 2) Tremblay G¹⁾, Nonaka M, Sarnstrand B¹⁾, Dolovich J²⁾, Gauldie J¹⁾, Jordana M¹⁾ (¹⁾マックマスター大学病理, ²⁾マックマスター大学小児科)：Myofibroblasts in nasal polyposis：Regulation by topical steroids. Canadian Respiratory Journal 1997；4 (4)：205-210.
- 3) Watanabe K, Okawara D, Baba S, Yagi T：Electrocochleographic analysis of the suppression of tinnitus by electrical promontory stimulation. Audiology 1997；36：147-154.
- 4) 野中 学, Pawankar R, 八木聰明：線維芽細胞に対するマクロライド抗生物質の影響. Japanese Journal Antibiotics 1997；50 (増刊)：145-147.

- 5) 野中 学, 野中玲子, Dolovich J¹⁾, Jordana M²⁾ (1) マックマスター大学小児科, 2) マックマスター大学病理) : 鼻茸好酸球からのインターロイキン4産生. 耳鼻咽喉科展望 1997; 40 (補冊2) : 78-84.
- 6) 矢嶋裕徳, 野中 学, 渡辺高弘¹⁾, 森園徹志¹⁾, 矢島 洋¹⁾ (1) 静岡済生会総合病院耳鼻咽喉科) : 蝶形洞原発軟骨肉腫の1症例. 耳鼻咽喉科臨床 1997; 90 (6) : 681-685.
- 7) 山岸茂夫, 後藤 譲, 野中 学, 大久保公裕, 八木聰明 : Hollister社製スギ抗原の減感作での治療効果 (鳥居薬品との比較) 第2報. 耳鼻咽喉科免疫アレルギー 1997; 15 (2) : 84-85.
- 8) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明 : マクロライド抗生物質の線維芽細胞に対する影響について (第2報). 耳鼻咽喉科免疫アレルギー 1997; 15 (2) : 104-105.
- 9) 富山俊一, Pawankar R, 陣内 賢, 池園哲郎, 野中 学 : 内リンパ嚢局所免疫反応におけるIFN- γ の動態. 耳鼻咽喉科免疫アレルギー 1997; 15 (2) : 184-185.
- 10) 渡邊健一, 神尾友信, 大河原大次, 青木秀治, 馬場俊吉, 八木聰明 : バンドノイズマスキによる耳鳴抑制治療—600症例の検討—. 日本耳鼻咽喉科学会会報 1997; 100 (9) : 920-926.
- 11) 馬場俊吉, 渡邊健一, 神尾友信, 八木聰明 : 予後からみた突発性難聴. Audiology Japan 1997; 40 (5) : 505-506.
- 12) 渡邊健一, 神尾友信, 馬場俊吉, 八木聰明 : 機能性難聴症例における歪成分耳音響放射. Audiology Japan 1997; 40 (5) : 301-302.
- 13) 神尾友信, 渡邊健一, 馬場俊吉, 八木聰明 : バンドノイズマスキによる耳鳴抑制とDPOAEの経時的変化. Audiology Japan 1997; 40 (5) : 403-404.
- 14) 野中 学, Pawankar R, 八木聰明 : 気道線維芽細胞に対するロキシシロマイシンの影響について. 気道病態研究UPDATE 1997; 9 : 77-81.
- 15) 佐地富砂子, 野中 学, 陣内 賢, 粉川隆行, 馬場俊吉, 八木聰明 : Guillian-Barre症候群と考えられた両側同時性顔面神経麻痺の1例. 耳鼻咽喉科頭頸部外科 1998; 69 (13) : 911-915.
- 16) 野中 学, 渡辺健一, 野中玲子, 馬場俊吉, 八木聰明 : 内耳障害を伴った急性中耳炎症例の検討. Otology Japan 1998; 8 (1) : 6-11.
- 17) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明 : マクロライド抗生物質の線維芽細胞に対する影響について (第2報). Japanese Journal Antibiotics 1998; 51 (増刊) : 112-115.
- 18) 渡邊健一, 三枝英人, 陣内 賢, 大河原大次, 大久保公裕, 杉崎祐一¹⁾, 八木聰明 (1) 付属病院病理部) : 耳下腺Oncocytomaの1例. 耳鼻と臨床 1998; 44 (1) : 5-7.
- 19) 渡邊健一, 神尾友信, 大河原大次, 馬場俊吉, 八木聰明 : 耳鳴と自発耳音響放射の関連性について. Audiology Japan 1998; 41 (1) : 26-31.
- 20) 野中 学, 野中玲子, マネルジョルダナ¹⁾, ジェリードロビッチ²⁾ (1) マックマスター大学病理, 2) マックマスター大学小児科) : 鼻粘膜上皮細胞の免疫組織学的検討. 耳鼻咽喉科臨床 1998; 91 (1) : 91-97.
- 21) 野中玲子, 小坂和己, 野中 学, 永井昭彦¹⁾, 森園徹志²⁾, 青木秀治 (1) 静岡済生会総合病院歯科, 2) 静岡済生会総合病院耳鼻咽喉科) : 口腔粘膜病変で発症した水疱症の2症例. 耳鼻咽喉科臨床 1998; 91 (3) : 273-280.
- 22) 渡邊健一, 後藤 稔, 陣内 賢, 秋元利香, 大河原大次, 中溝宗永, 大久保公裕, 八木聰明, 内藤善哉¹⁾, 杉崎祐一¹⁾ (1) 付属病院病理部) : 11歳男児にみられた上咽頭癌の1症例. 耳鼻咽喉科頭頸部外科 1998; 70 (3) : 183-186.
- 23) 渡邊健一, 後藤 稔, 陣内 賢, 大河原大次, 中溝宗永, 八木聰明 : 外傷性頸部膿瘍の1例. 耳鼻と臨床 1998; 44 (2) : 150-153.

著書

- 1) 奥田 稔, 渡辺秀行, 小坂和己, 大西正樹:〔共著〕加齢と鼻アレルギー. 長寿社会のための耳鼻咽喉科, 1997; pp62-65, 千寿製薬株式会社.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 野中 学:花粉症について. 第5回タウン講座, 1998. 2.

(2) 一般講演:

- 1) Nonaka M, Pawankar R, Saji F, Yagi T: Lipopolysaccharide Induces Expression of RANTES and GM-CSF in Human Nasal, But Not in Other Airway, Fibroblasts. 9th Congress of the International Rhinologic Society, 1997. 6.
- 2) 小坂和己, 青木秀治: 当科における顔面神経麻痺症例の検討. 第46回千葉県地方部会, 1997. 6.
- 3) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明: マクロライド抗生物質の線維芽細胞に対する影響について(第2報). 第4回マクロライド新作用研究会, 1997. 7.
- 4) 島田健一, 野中 学, 渡辺健一, 馬場俊吉, 八木聰明: 両側性ムンプス難聴の1症例. 第121回東京都地方部会, 1997. 7.
- 5) 神尾友信, 渡邊健一, 馬場俊吉, 八木聰明: バンドノイズマスキによる耳鳴抑制治療—600症例の検討—. 第17回日本聴覚医学会耳鳴研究会, 1997. 7.
- 6) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明: 線維芽細胞の増殖及びサイトカイン産生に対するマクロライドの影響について. 第15回頭頸部自律神経研究会, 1997. 8.
- 7) Pawankar R, 富山俊一, 陣内 賢, 池園哲朗, 野中 学, 八木聰明: Intracellular Adhesion Molecule-1 Expression in the Inner Ear Following Secondary Immune Reaction in the Endolymphatic Sac. 第15回頭頸部自律神経研究会, 1997. 8.
- 8) 後藤 稔, 三枝英人, 渡邊健一, 中溝宗永, 八木聰明: いびきを主訴にした頸部神経鞘腫の1症例. 第49回日本気管食道学会学術講演会, 1997. 10.
- 9) 渡邊健一, 神尾友信, 馬場俊吉, 八木聰明: 機能性難聴症例における歪成分耳音響放射. 第42回日本聴覚医学会, 1997. 10.
- 10) 神尾友信, 渡邊健一, 馬場俊吉, 八木聰明: バンドノイズマスキによる耳鳴抑制とDPOAEの経時的変化. 第42回日本聴覚医学会, 1997. 10.
- 11) 馬場俊吉, 渡邊健一, 神尾友信, 八木聰明: 子後からみた突発性難聴. 第42回日本聴覚医学会, 1997. 10.
- 12) 富山俊一, 陣内 賢, 池園哲郎, Pawankar R, 小坂和己, 八木聰明: 実験的内耳自己免疫病: 第2報. 第7回日本耳科学会, 1997. 10.
- 13) 嘉村恵理子, 設楽明子, 八木聰明: OVARによる眼球運動の3次元解析. 第56回日本平衡神経科学会, 1997. 10.
- 14) 設楽明子, 嘉村恵理子, 粉川隆行, 潮建司朗, 八木聰明: 頭部傾斜 (RollとPitch) による眼球運動の3次元解析. 第56回日本平衡神経科学会, 1997. 10.
- 15) 青木秀治, 八木聰明: 一側内耳破壊モルモットの対側外側半規管一次ニューロンの活動. 第56回日本平衡神経科学会, 1997. 10.
- 16) 渡辺健一, 小坂和己, 野中 学, 青木秀治: 当科における突発性難聴の検討. 第47回千葉県地方部会, 1997. 11.
- 17) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明: 鼻腔線維芽細胞からのRANTES産生. 第36回日本鼻科学会総会, 1997. 11.

- 18) 仲村 敏¹⁾, 森田良平¹⁾, 東 和明¹⁾, 工廣紀斗司¹⁾, 原 義明¹⁾, 小川理郎¹⁾, 小池 薫¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 小坂和己 (救命救急部) : 急激な経過で呼吸不全に陥った重症頸部感染症の2例. 第10回日本外科感染症研究会, 1997. 12.
- 19) 野中 学, 嘉村恵理子, 渡辺健一, 小坂和己, 青木秀治 : 内耳障害を伴った急性中耳炎症例の検討. 第48回千葉県地方部会, 1998. 2.
- 20) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聰明 : 鼻腔線維芽細胞の特殊性—Lipopolysaccharideに対する反応について—. 第16回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1998. 3.
- 21) 佐地富砂子, 野中 学, Pawankar R, 八木聰明 : 鼻腔線維芽細胞からのRANTES産生. 第16回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1998. 3.

15. 泌尿器科学講座

[付属病院泌尿器科]

研究概要

泌尿器科学講座では泌尿器腫瘍学，尿路結石学，尿路神経学，泌尿器内視鏡学，男性学（Andrology），腎移植学，婦人科的泌尿器科学，血液浄化療法などに力を入れて研究を行っている。

1) 泌尿器腫瘍学

Cytokeratin19 fragment の膀胱腫瘍における腫瘍マーカーとしての意義，ヒト泌尿器腫瘍細胞内におけるメタルチオネインの局在，ヒト泌尿器腫瘍の遺伝子治療の基礎的検討，尿路上皮内癌に対するBCG注入療法，浸潤性尿路腫瘍に対する手術療法・化学療法を中心とした集学的治療，QOLを重視した尿路変向術，前立腺癌に対する早期発見，手術療法・ホルモン療法を中心に研究している。

2) 尿路結石学

腎結石，尿管結石に対する体外衝撃波結石破碎術，経尿道的結石碎石術などの研究および診療をしている。

3) 尿路神経学

前立腺肥大症に対する α blockerの早期臨床効果，排尿障害自覚症状スコアの各種排尿障害に対する有用性，排尿障害患者に対するPressure flow studyの有用性について検討し，臨床応用している。

4) 泌尿器内視鏡学

前立腺肥大症に対する経尿道的電気蒸散法，極細尿管鏡，腹腔鏡下手術の有用性について研究している。さらに，上部尿路疾患に対する細径プローブ超音波診断装置の開発を行っている。

5) 男性学（Andrology）

基礎的には雄ラットの性行動における勃起活動のモニタリングを，臨床的にはインポテンスの病態と治療についての研究を行っている。

6) 腎移植学

ブタ腎のヒトへの異種移植に関する基礎的検討を行っている。

7) 婦人科的泌尿器科学

腹圧性尿失禁に対する薬物療法を中心とした保存的療法について検討している。

8) 血液浄化療法

腎機能障害者に対する血液透析の造影剤除去効率の検討，様々な疾患に対する血液浄化療法の有用性について臨床的検討を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kondo Y, Rusnuk J¹⁾, Hoyt D¹⁾, Settiner C¹⁾, Pitt B¹⁾, Lazo J¹⁾ (1) Dept. of Pharmacology, Univ. of Pittsburgh) : Enhanced Apoptosis in Metallothionein Null Cells. *Mol Pharmacol* 1997 ; 52 : 195-201.
- 2) Yamada K¹⁾, Gianello P¹⁾, Ierino F¹⁾, Shimizu A¹⁾, Meehan S¹⁾, Colvin R¹⁾, Sachs D¹⁾ (1) Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General) : The influence of the thymus on transplantation tolerance in miniature swine. *Transplantation Proc* 1997 ; 29 : 1076.
- 3) Giangrande I¹⁾, Yamada K¹⁾, Germana S¹⁾, Sachs D¹⁾, LeGuern C¹⁾ (1) Transplantation Biology Research

- Center, Massachusetts Gener) : Tolerance cells infiltrating class I mismatched swine kidney grafts lack the CD4 single positive subset and down regulate TCR expression. *Transplant Proc* 1997 ; 29 : 1132.
- 4) Yamamoto A¹⁾, Yamada K¹⁾, Sablinski T¹⁾, LeGuern C¹⁾, Sykes M¹⁾, Sachs D¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts Gener) : Mechanism of tolerance following class II transduction of autologous swine bone marrow. *Transplant Proc* 1997 ; 29 : 1132.
 - 5) Ierino F¹⁾, Yamada K¹⁾, Hatch T¹⁾, Sachs D¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts Gener) : Preliminary in-vitro evidence for regulatory cells in a miniature swine allograft model. *Transplant Proc* 1997 ; 29 : 1165.
 - 6) Shimizu A¹⁾, Yamada K¹⁾, Meehan S¹⁾, Sachs D¹⁾, Colvin R¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts Gener) : Intragraft cellular events associated with tolerance in pig allograft. *Transplant Proc* 1997 ; 29 : 1155.
 - 7) Yamada K¹⁾, Gianello P¹⁾, Ierino F¹⁾, Shimizu A¹⁾, Colvin R¹⁾, Sachs D¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts Gener) : Role of the thymus in transplantation tolerance miniature swine. *Journal of Experimental Medicine* 1997 ; 186 (4) : 497-506.
 - 8) Giangrande I¹⁾, Yamada K¹⁾, Arn J¹⁾, Lorf T¹⁾, Sachs D¹⁾, LeGuern C¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts Gener) : Selective increase in CD4 positive graft infiltrating cells among the infiltrates in class I disparate kidney grafts undergoing rejection. *Transplantation* 1997 ; 63 (5) : 722-728.
 - 9) Li S¹⁾, Goko H¹⁾, Xu Z¹⁾, Kimura G, Sun Y¹⁾, Kawachi M¹⁾, Wilson T¹⁾, Whilczynski S¹⁾, Fujita-Yamaguchi Y¹⁾ (¹⁾ Beckman Research Institute of the City of Hope (COH) : Expression of insulin-like growth factor (IGF) -II in human prostate, breast, and paraganglioma tumors. *Cell Tissue Res* 1998 ; 291 : 469-479.
 - 10) Madsen J¹⁾, Yamada K¹⁾, Allen J¹⁾, Choo J¹⁾, Vesga L¹⁾, Pins M¹⁾, Sachs D¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts Gener) : Transplantation tolerance prevents cardiac allograft vasculopathy in MHC class I disparate miniature swine. *Transplantation* 1998 ; 65 (3) : 304-318.
 - 11) 鈴木康友, 堀内和孝, 木村 剛, 千賀康弘, 沖 守, 秋元成太 : 腎細胞癌と鑑別困難であった肺癌腎転移. *臨泌* 1997 ; 51 (11) : 853-855.
 - 12) 鈴木 央, 吉田和弘 : 腎腫瘍内毛細血管の微細構造. *日泌尿会誌* 1998 ; 89 : 14-22.
 - 13) 渡辺 潤, 藤岡良彰¹⁾, 清水宏之, 秋元成太 (¹⁾ 河北総合病院泌尿器科) : 若年者に発症した陰茎扁平上皮癌の1例. *西日泌* 1998 ; 60 : 45-48.
 - 14) 内木場拓史, 服部智任, 木村 剛, 長谷川潤, 秋元成太 : ダウン症候群に合併した精巣退形成性セミノーマ. *臨泌* 1998 ; 52 (2) : 137-139.
 - 15) 大垣憲司, 近藤幸尋, 木村 剛, 千賀康弘, 三浦剛史, 長谷川潤, 秋元成太 : 褐色細胞腫を合併した腎細胞癌の2例. *泌尿紀要* 1998 ; 44 : 167-170.
- (2) 綜説 :
- 1) 堀内和孝, 秋元成太 : 日常診療の指針 : 前立腺肥大症の温熱療法. *外科治療* 1997 ; (4) : 455-456.
 - 2) 吉田和弘 : (特集 : 前立腺癌)・LH-RH・agonist. *カレントセラピー* 1997 ; 15 (9) : 1537-1543.
 - 3) 服部智任, 秋元成太 : 腎尿路系疾患の検査ベッドサイドノート X. 腫瘍マーカー : シフラ. *腎と透析* 1997 ; 43 : 782-784.
 - 4) 秋元成太, 堀内和孝 : (特集 : 腎泌尿器疾患における内視鏡の進歩II) 各疾患における内視鏡, 4. 前立腺肥大症. *腎と透析* 1997 ; 43 : 11-15.
 - 5) 山田和彦 : Miniature swineを用いた同種移植の免疫寛容 : 免疫寛容とMHC. *今日の移植* 1997 ; 10 (5) : 667-673.

- 6) 吉田和弘：前立腺癌の新臨床。日医大誌 1997；64（4）：377-378.
 - 7) 大垣憲司，江見 充¹⁾（¹⁾日本医科大学老研分子生物）：家族性乳癌の遺伝子異常と遺伝子診断。Pharma Medica 1998；16：27-32.
 - 8) 堀内和孝：（特集：膀胱全摘除術と尿路変向術のすべて）：術前処置。臨泌 1998；52：33-38.
 - 9) 山田和彦：Miniature swine腎移植の手術手技。今日の移植 1998；11（1）：23-33.
- (3) 学会報告：
- 1) 吉田和弘：第92回米国泌尿器科学会総会（AUA）。臨泌 1997；51：698-699.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 堀内和孝：新しい前立腺肥大症の治療法はTURPを超えられるか？：電気切除・蒸散併用ループによるTURP。第85回日本泌尿器科学会総会（横浜），1997. 4.
- 2) 寺島保典，鈴木 聡¹⁾，島田 隆¹⁾，秋元成太（¹⁾日本医科大学第二生化学教室）：膀胱癌に対する実験的遺伝子治療。第85回日本泌尿器科学会総会（横浜），1997. 4.

(2) 一般講演：

- 1) Kondo Y, Yanagita T¹⁾, Schwartz D²⁾, Akimoto M, Lazo J²⁾, Imura N²⁾（¹⁾ Dept. of Public Health, Kitasato Univ., ²⁾ Dept. of Pharmacol, Univ. of Pittsburgh.）：p53 independent apoptotic cell death by cisplatin in SV40 transformed cells with targeted disruption of metallothionein I and II genes. The 87th American Association for Cancer Research（San Diego, USA），1997. 4.
- 2) Ierino F¹⁾, Banerjee P¹⁾, Gere J¹⁾, Giovono M¹⁾, Kozlowski T¹⁾, Yamada K¹⁾, Sachs D¹⁾（¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts Gener）：A Genetic approach toward tolerance induction in a pig to baboon preclinical xenotransplantation model. XXI Annual Scientific Meeting of American Society of Transplantation Physicians（Chicago, USA），1997. 5.
- 3) Shimizu A¹⁾, Yamada K¹⁾, Sachs D¹⁾, Colvin R¹⁾（¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts Gener）：Persistent immunologic destruction of tubules and peritubular capillaries is associated with progressive interstitial fibrosis in chronic rejection. XXI Annual Scientific Meeting of American Society of Transplantation Physicians（Chicago, USA），1997. 5.
- 4) Yamada K¹⁾, Choo J¹⁾, Erhorn A¹⁾, Allan J¹⁾, Slisz J¹⁾, Sachs D¹⁾, Madsen J¹⁾（¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts Gener）：The effect of thymectomy on transplantation tolerance and cardiac allograft vasculopathy in a miniature swine heart/kidney transplant model. XXII Annual Scientific Meeting of American Society of Transplantation Physicians（Chicago, USA），1997. 5.
- 5) Yamada K¹⁾, Fishbein J¹⁾, Gianello P¹⁾, Ierino F¹⁾, Shimizu A¹⁾, Colvin R¹⁾, Sachs R¹⁾（¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts Gener）：Effect of sensitization and persistence of antigen on the maintenance of tolerance to vascularized renal allografts in miniature. XXII Annual Scientific Meeting of American Society of Transplantation Physicians（Chicago, USA），1997. 5.
- 6) Horiuchi K：Newly developed transurethral resection of the prostate. Society for Minimally Invasive Therapy, 9th, Annual International Meeting（Kyoto, Japan），1997. 7.
- 7) Yanagita T¹⁾, Yazawa K¹⁾, Saito A¹⁾, Sengan K¹⁾, Sekiguchi Y¹⁾, Kondo Y, Imura N¹⁾（¹⁾ Dept. of Public Health, Kitasato Univ.）：Establishment of cadmium resistant cells derived from metallothionein null mice. The 4th International Metallothionein Meeting（Kansas City, USA），1997. 9.
- 8) Kondo Y, Nakagawa I¹⁾, Akimoto M, Imura N¹⁾（¹⁾ Dept. of Public Health, Kitasato Univ.）：Role of

- metallothionein as a possible marker of tumor progression in renal cell carcinomas. The 4th International Metallothionein Meeting (Kansas City, USA), 1997. 9.
- 9) Akimoto M, Kondo Y : Role for metallothionein as a new progressive marker in renal cell carcinomas. The 24th Society of International Urology (Montreal, Canada), 1997. 9.
 - 10) Shimizu A¹⁾, Yamada K¹⁾, Sachs D¹⁾, Colvin R¹⁾ (1) Transplantation Biology Research Center, Massachusetts Gener) : Progression to chronic rejection vs tolerance in pig renal allografts. 30th Annual Meeting of American Society of Nephrology (USA), 1997. 11.
 - 11) Yamada K¹⁾, Choo J¹⁾, Erhorn A¹⁾, Allan J¹⁾, Slisz J¹⁾, Sachs D¹⁾, Madsen J¹⁾ (1) Transplantation Biology Research Center, Massachusetts Gener) : The Mechanism of transplantation tolerance and cardiac allograft vasculopathy in a miniature swine heart/kidney transplant model. 70th Annual Meeting of Heart Association (Orlando, USA), 1997. 11.
 - 12) Madsen J¹⁾, Yamada K¹⁾, Choo J¹⁾, Erhorn A¹⁾, Allan J¹⁾, Slisz J¹⁾, Sachs D¹⁾ (1) Transplantation Biology Research Center, Massachusetts Gener) : Prevention of Cardiac allograft vasculopathy across class I MHC disparates by the induction of transplantation tolerance. 70th Annual Meeting of Heart Association (Orlando, USA), 1997. 11.
 - 13) Endo W¹⁾, Kondo Y, Himeno S¹⁾, Imura N¹⁾ (1) Dept. of Public Health, Kitasato Univ.) : Characterization of cisplatin-resistant strains derived from metallothionein mull cells. Society of Toxicology (Seattle, USA), 1998. 3.
 - 14) Kondo Y, Endo W¹⁾, Mita M¹⁾, Himeno S¹⁾, Akimoto M¹⁾, Imura N¹⁾ (1) Dept. of Public Health, Kitasato Univ.) : Metallothionein prevents carcinogenicity of N-butyl-N- (4-hydroxybutyl) nitrosamine in mice. The 88th American Association for Cancer Research (New Orleans, USA), 1998. 3.
 - 15) 山形健治, 近藤幸尋, 秋元成太 : 担瘤ヌードマウスを用いたCDDPの薬理動態. 第85回日本泌尿器科学会総会 (横浜), 1997. 4.
 - 16) 木村 剛¹⁾, 服部智任, 鈴木康友¹⁾, 秋元成太 (1) 北村山公立病院泌尿器科) : 前立腺肥大症に対する塩酸タムスロシンの効果 : Pressure Flow Studyに基づく2群間での比較. 第85回日本泌尿器科学会総会 (横浜), 1997. 4.
 - 17) 三浦剛史, 堀内和孝, 寺島保典, 大垣憲司, 橋本義孝, 吉田和弘, 秋元成太 : 排尿障害自覚症状スコアの年齢および性別の検討. 第85回日本泌尿器科学会総会 (横浜), 1997. 4.
 - 18) 近藤幸尋, 堀内和孝, 服部智任, 沖 守, 長谷川潤, 吉田和弘, 秋元成太 : 腎機能と血漿中グルタチオンペルオキシダーゼ活性化セレン濃度. 第85回日本泌尿器科学会総会 (横浜), 1997. 4.
 - 19) 坪井成美, 堀内和孝, 大澤秀一, 渡辺 潤, 沖 守, 長谷川潤, 秋元成太 : 当科で行なっているTUR-Btによる膀胱腫瘍のStaging. 第85回日本泌尿器科学会総会 (横浜), 1997. 4.
 - 20) 千賀康弘, 堀内和孝, 近藤幸尋, 沖 守, 秋元成太 : ESWLを施行した高齢尿路結石症例の検討. 第10回老人泌尿器科研究会 (岡山), 1997. 5.
 - 21) 根本 勺, 服部智任, 内木場拓史, 千賀康弘, 木村 剛, 秋元成太 : 尿閉を主訴に発見された後腹膜線維肉腫の1例. 第519回日本泌尿器科学会東京地方会 (東京), 1997. 6.
 - 22) 鈴木 央, 堀内和孝, 秋元成太 : 高齢者における腎摘除術前後の腎機能推移. 第39回日本老年医学会学術集会総会 (東京), 1997. 6.
 - 23) 内木場拓史, 服部智任, 木村 剛, 長谷川潤, 秋元成太 : ダウン症候群に合併した精巣退形成性セミノーマの1例. 第520回日本泌尿器科学会東京地方会 (東京), 1997. 7.
 - 24) 堀内和孝, 吉田和弘, 近藤幸尋, 服部智任, 秋元成太 : 血液透析による造影剤除去効果に関する検討 : 予報.

第42回日本透析医学会学術集会・総会（横浜），1997. 7.

- 25) 藤井克彦¹⁾，沖 守，木村 剛，山形健治，佐藤三洋，吉田和弘，秋元成太（¹⁾ 付属病院人工透析室）：REFにより溶血性尿毒症候群を呈した1例. 第42回日本透析医学会学術集会（横浜），1997. 7.
- 26) 内木場拓史，木村 剛，鈴木康友，服部智任，根本 勺，長谷川潤，秋元成太：当院における最近10年間の精巣腫瘍の臨床的検討. 第65回日本医科大学医学会総会（東京），1997. 9.
- 27) 大垣憲司，飯田有俊¹⁾，江見 充¹⁾，秋元成太（¹⁾ 日本医科大学老研分子生物）：散発性乳癌における第21番染色体欠失地図の作成. 第65回日本医科大学医学会総会（東京），1997. 9.
- 28) 鈴木康友，近藤幸尋，根本 勺，秋元成太：ホルモン非依存性前立腺癌細胞における抗酸化酵素の役割. 第65回日本医科大学医学会総会（東京），1997. 9.
- 29) 渡辺 潤，坪井成美，大澤秀一，内木場拓史，大垣憲司，藤原博通，秋元成太：Alexantriptorを用いた経尿道的尿管結石破砕術（TUL）の臨床経験. 第65回日本医科大学医学会総会（東京），1997. 9.
- 30) 大垣憲司，飯田有俊¹⁾，吉本賢隆²⁾，霞富士雄²⁾，秋山 太³⁾，坂元吾偉³⁾，中村祐輔⁴⁾，江見 充¹⁾（¹⁾ 日本医科大学老研分子生物，²⁾ 癌研究会付属病院外科，³⁾ 癌研究会付属病院病理，⁴⁾ 東京大学医科学研究所）：乳癌における第1番染色体欠失の検討. 第56回日本癌学会総会（京都），1997. 9.
- 31) 木村 剛¹⁾，服部智任，鈴木康友，根本 勺，橋本義孝¹⁾，秋元成太（¹⁾ 北村山公立病院泌尿器科）：非閉塞型前立腺肥大症例に対する塩酸タムスロシンの早期効果. 第4回日本神経因性膀胱学会（横浜），1997. 9.
- 32) 遠藤和香子¹⁾，姫野誠一郎¹⁾，井村伸正¹⁾，近藤幸尋（¹⁾ 北里大学薬学部公衆衛生学教室）：メタロチオネイン欠損細胞からのシスプラチン耐性細胞株の樹立. 第56回日本癌学会総会（京都），1997. 9.
- 33) 千賀康弘，近藤幸尋，沖 守，長谷川潤，坪井成美，渡辺 潤，秋元成太：合併疾患を有する高齢者上部尿路結石症例に対するESWLの検討. 第62回日本泌尿器科学会東部総会（甲府），1997. 10.
- 34) 鈴木康友，木村 剛，服部智任，根本 勺，本田 了¹⁾，長谷川潤，秋元成太（¹⁾ 海老名総合病院泌尿器科）：当院における最近10年間の精巣腫瘍の臨床的検討. 第62回日本泌尿器科学会東部総会（甲府），1997. 10.
- 35) 内木場拓史，近藤幸尋，山形健治，濱崎 務，大垣憲司，寺島保典，秋元成太：高齢者における腎摘除術前後の腎機能推移. 第62回日本泌尿器科学会東部総会（甲府），1997. 10.
- 36) 堀内和孝，吉田和弘，服部智任，松沢一郎，沖 守，長谷川潤，秋元成太：細径プローブによる上部尿路超音波診断. 第62回日本泌尿器科学会東部総会（甲府），1997. 10.
- 37) 三浦剛史，近藤幸尋，沖 守，橋本義孝，堀内和孝，吉田和弘，秋元成太：尿路内視鏡における仙骨硬膜外麻酔の検討. 第62回日本泌尿器科学会東部総会（甲府），1997. 10.
- 38) 服部智任，千賀康弘，濱崎 務，秋元成太：膀胱癌における尿中シフラ21とメタロプロテナーゼ2（MMP-2）発現の意義. 第35回日本癌治療学会総会（京都），1997. 10.
- 39) 柳谷隆宏¹⁾，湯澤恵子¹⁾，斎藤安芸子¹⁾，井村伸正¹⁾，近藤幸尋，Lazo J²⁾（¹⁾ 北里大学薬学部公衆衛生学教室，²⁾ Dept. of Pharmacol, Univ. of Pittsbargh.）：カドミウムに対する耐性獲得におけるメタロチオネイン以外の因子の関与. 第24回日本毒科学会（東京），1997. 10.
- 40) 三浦剛史，近藤保彦¹⁾，秋元成太，佐久間康夫¹⁾（¹⁾ 日本医科大学第一生理学教室）：ラット性行動中における球海綿体筋および坐骨海綿体筋の活動. 第8回日本性機能学会（横浜），1997. 10.
- 41) 山形健治，堀内和孝，松沢一郎，橋本義孝，近藤幸尋，沖 守，吉田和弘，秋元成太：改良型（Wedgeタイプ）ループによる経尿道的前立腺切除術：1年間の経験. 第11回日本Endourology・ESWL学会総会（四日市），1997. 11.
- 42) 渡辺 潤，坪井成美，大澤秀一，濱崎 務，塩路 豪，千賀康弘，秋元成太：Experience of Transurethral Endopyeloplasty with Nd-YAG laser against Uretero Pelvic Junction Stenosis. 第11回日本Endourology・ESWL学会総会（四日市），1997. 11.

- 43) 坪井成美, 西村泰司¹⁾, 宮下次広²⁾, 葵沢利行³⁾, 小林京子⁴⁾, 間庭裕子⁴⁾, 加治裕子⁴⁾, 久保田麻美⁴⁾, 横川文恵⁴⁾ (1) 付属千葉北総病院泌尿器科, 2) 付属病院放射線科, 3) 藤間病院, 4) 藤間病院超音波検査室): 小さな腎のHyperechoic mass: 診断と取り扱い. 日本超音波医学会第70回研究発表会(仙台), 1997. 11.
- 44) 藤原博通, 堀内和孝, 秋元成太, 川村直樹¹⁾, 本田 了¹⁾, 矢島勇臣¹⁾ (1) 海老名総合病院泌尿器科): 同時発見された両側精巣腫瘍の1例. 第522回日本泌尿器科学会東京地方会(東京), 1997. 12.
- 45) 橋本義孝, 山形健治, 近藤幸尋, 塩路 豪, 濱崎 務, 坪井成美, 秋元成太: 下大静脈腫瘍塞栓を伴う後腹膜原発胎児性癌の1例. 第524回日本泌尿器科学会東京地方会(東京), 1998. 2.
- 46) 鈴木康友, 近藤幸尋, 根本 勺, 秋元成太: ホルモン非依存性前立腺癌における抗酸化酵素の役割. 第7回泌尿器科細胞解析研究会(札幌), 1998. 2.
- 47) 松沢一郎, 堀内和孝, 大垣憲司, 渡辺 潤, 山形健治, 近藤幸尋, 坪井成美, 吉田和弘, 秋元成太: 上部尿路腫瘍に対する細径プローブ超音波診断. 日本医科大学医学会第94回例会(東京), 1998. 2.
- 48) 橋本義孝, 木村 剛, 服部智任, 鈴木康友, 根本 勺, 秋元成太: 非閉塞型を示す前立腺肥大症例に対する塩酸タムスロシンの効果. 日本医科大学医学会第94回例会(東京), 1998. 2.
- 49) 加治裕子¹⁾, 小林京子¹⁾, 横川文恵¹⁾, 久保田麻美¹⁾, 間庭裕子¹⁾, 坪井成美, 西村泰司²⁾ (1) 藤間病院超音波検査室, 2) 付属千葉北総病院泌尿器科): 超音波で発見された腎細胞癌. 日本総合健診医学会第26回大会(東京), 1998. 2.
- 50) 藤原博通, 山形健治, 塩路 豪, 近藤幸尋, 木村 剛, 坪井成美, 秋元成太: 膀胱原発神経内分泌癌の1例. 第525回日本泌尿器科学会東京地方会(東京), 1998. 3.

[第二病院泌尿器科]

研究概要

第二病院泌尿器科では、尿路感染症、MRSA感染症、膀胱腫瘍、特に膀胱腔内注入療法など主に臨床的各研究を行っている。最近は男子不妊症、尿失禁に関する臨床的研究にも力をいれている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Ito H, Nishimura T, Ikeda K, Oka H, Abe H: bilateral hydronephrosis due to intramural ureteral involvement with systemic sclerosis. J Urol 1997; 157: 2244-2244.
- 2) Nakamoto Y¹⁾, Motohashi S¹⁾, Kasahara H¹⁾, Numasawa K (1) Mitaka Kitaguchi Hospital): Irreversible tubulointerstitial nephropathy associated with prolonged, massive intake vitamin C. Nephrol Dial Transplant 1998; 13: 754-756.
- 3) 阿部貴弥¹⁾, 大場修司¹⁾, 佐藤三洋, 杉山 彰¹⁾ (1) 国立東静病院): 副腎神経節神経腫の1例. 臨床放射線 1997; 42: 845-848.
- 4) 阿部裕行, 西村泰司, 伊藤 博, 池田一則, 岡 史篤, 弦間和仁¹⁾, 石王道人¹⁾ (1) 第一病院放射線科): 融合性交叉性腎変位の1例: 3DCTによる診断. 西日本泌尿器科 1997; 59 (12): 942-944.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 清水有二, 左 維, 平岡保紀, 矢島勇臣, 岩本和矢, 高橋洋文, 林 昭棟, 沼沢和夫: 膀胱癌に対するMTX

- 膀胱壁内注射療法を併用した集学的治療法の検討. 第85回日本泌尿器科学会総会, 1997. 4.
- 2) 平岡保紀, 高橋洋文, 清水有二, 岩本和矢, 矢島勇臣, 左 維, 林 昭棟, 沼沢和夫: 早期癌に対する根治的会陰式前立腺全摘除術. 第85回日本泌尿器科学会総会, 1997. 4.
- 3) 佐藤三洋, 大場修司¹⁾ (1) 国立東静岡病院): 女子傍尿道 adenomatoid tumorの1例. 第519回日本泌尿器科学会東京地方会, 1997. 6.
- 4) 藤井克彦, 沖 守, 木村 剛, 山形健治, 佐藤三洋, 吉田和弘, 秋元成太: RFPにより溶血性尿毒症性症候群を呈した1例. 第42回日本透析医学会総会, 1997. 7.
- 5) 三好将和¹⁾, 大久保正智¹⁾, 山村美和¹⁾, 富田 勝, 廣瀬始之, 清水宏之, 三橋 清²⁾ (1) 日本医科大学第二病院形成外科, 2) 東戸塚記念病院形成外科): 壊死性筋膜炎の治療経験. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 6) 清水有二, 平岡保紀, 矢島勇臣, 岩本和矢, 高橋洋文, 沼沢和夫, 秋元成太: 両側性多発性腎嚢胞と鑑別困難だった両側性多発性腎細胞癌の1例. 第62回日本泌尿器科学会東部総会, 1997. 10.
- 7) 笠原 仁¹⁾, 本橋 茂¹⁾, 中嶋雅彦¹⁾, 中本 安¹⁾, 高梨勝男²⁾, 沼沢和夫 (1) 三鷹北口病院内科, 2) 三鷹北口病院泌尿器科): 蛋白尿, 血尿を呈した成人型のGlomerulocystic Kidney Diseaseの1例. 第27回日本腎臓学会東部学術大会, 1997. 11.

[多摩永山病院泌尿器科]

研究概要

当科は開設して9年になるが研究業績の主なものは次のようなものである。

前立腺肥大症: 前立腺肥大症に対する平岡式経尿道的前立腺剥離切除術は1984年に開始して以来1,800例を超えている。本術式は安全に肥大腺腫を完全切除ができる唯一の内視鏡手術である。

前立腺癌: 平岡式経尿道的前立腺剥離切除術(剥離TURP)は内腺と外腺とを確実に区別して組織を得られるという特徴がある。この特徴を生かして、内腺を完全切除したあと、外腺を生検切除する平岡式剥離TURP法を開発した。これにより、前立腺偶発癌の見落としが一番少ない方法であり、外腺域内の癌の残存の有無までも知ることができるという新しい道を開いている。最近では早期前立腺癌に対して、会陰式根治的前立腺全摘術を施行し、限局性進行前立腺癌に対するネオアジュバント療法として、ホルモンと放射線療法の併用を行っている。

膀胱癌: 進行性膀胱癌の微小転移の存在とその転移経路としては組織間隙性転移の発見を我々は行っている。最近、治療としては組織間隙内抗癌剤投与という新しい治療法の開発とCDDPと放射線照射との併用治療を行っている。

腎細胞癌: 腎腫瘍に腎血管動脈造影的に超選択的に腎腫瘍血管を24時間一時的に阻血し、インターフェロンを動注し、腫瘍壊死を起こさせる方法を行っている。3カ月から6カ月後に腫瘍核手術、腎部分切除術か腎摘出術を行っている。今までの研究では、9割は阻血療法で腫瘍細胞は完全壊死が得られている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Homma Y¹⁾, Akaza H²⁾, Okada K³⁾, Yokoyama M⁴⁾, Moriyama N¹⁾, Usami M⁵⁾, Hirao Y⁶⁾, Tsushima T⁷⁾, Sakamoto A⁸⁾, Ohashi Y⁹⁾, Aso Y¹⁰⁾, Hiraoka Y (1) Department of Urology, University of Tokyo, 2) University of Tsukuba, 3) Nihon University, 4) Toranomon Hospital, 5) Osaka Medical Center for Cancer and Cardiovascular Diseases, 6) Nara Medical University, 7) Okayama University, 8) Department of Pathology, University of Tokyo, 9) Department of Epidemiology and Biostatistics, School of Heal,

- 10) Fujieda Municipal General Hospital) : Preoperative Endocrine Therapy for Clinical Stage A₂B, and C Prostate Cancer : An Interim Report on Short-Term Effects. International Journal of Urology 1997 ; 4 (2) : 144-151.
- 2) 甲田雅一¹⁾, 宇田川郁子¹⁾, 福原淳子¹⁾, 竹内美香¹⁾, 田村恵子¹⁾, 松崎廣子¹⁾, 本間請子¹⁾, 橋村 勲²⁾, 清水有二¹⁾ (東京警察病院臨床検査第一部, ²⁾ 同泌尿器科) : *Chlamydia trachomatis* 抗原検出キット クリアビュー・クラミジアMFの男性尿試料を用いての評価. 臨床と微生物 1998 ; 25 (1) : 95-100.
- (2) 綜説 :
- 1) 平岡保紀, 秋元成太¹⁾ (1) 附属病院泌尿器科) : 根治的会陰式前立腺摘除術. 臨床泌尿器科 1997 ; 51 (9) : 623-628.
- 2) 平岡保紀 : 米国の前立腺癌検診の現況. 日医大誌 1998 ; 65 (1) : 104.

学会発表

- (1) 一般講演 :
- 1) 平岡保紀, 高橋洋文, 清水有二, 岩本和矢, 左 維, 林 昭棟, 沼沢和夫, 矢島勇臣¹⁾ (1) 附属第二病院泌尿器科) : 早期癌に対する根治的会陰式前立腺全摘術. 第85回日本泌尿器科学会総会, 1997. 4.
- 2) 清水有二, 平岡保紀, 高橋洋文, 岩本和矢, 左 維, 林 昭棟, 沼沢和夫, 矢島勇臣¹⁾ (1) 附属第二病院泌尿器科) : 膀胱癌に対するMTX膀胱壁内注射療法を併用した集学的治療法の検討. 第85回日本泌尿器科学会総会, 1997. 4.
- 3) 左 維, 平岡保紀, 岩本和矢, 高橋洋文, 清水有二, 林 昭棟, 沼沢和夫 : 浸潤性膀胱癌に対する術前放射線化学療法併用の治療効果. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 4) 小川秀彌¹⁾, 桐山 功¹⁾, 堀 夏樹¹⁾, 久保田正充¹⁾, 田中求平¹⁾, 石井洋二¹⁾, 平岡保紀, 秋元成太²⁾ (1) 関東通信病院泌尿器科, ²⁾ 附属病院泌尿器科) : 膀胱癌 (T2) に対する抗腫瘍剤の膀胱腔内注入療法による再発予防効果. 第49回日本泌尿器科学会西日本総会, 1997. 10.
- 5) 小川秀彌¹⁾, 桐山 功¹⁾, 堀 夏樹¹⁾, 久保田正充¹⁾, 田中求平¹⁾, 石井洋二¹⁾, 平岡保紀, 秋元成太²⁾ (1) 関東通信病院泌尿器科, ²⁾ 附属病院泌尿器科) : 膀胱癌 (T2) に対する膀胱保存的治療と予後の検討. 第49回日本泌尿器科学会西日本総会, 1997. 10.
- 6) 小川秀彌¹⁾, 桐山 功¹⁾, 堀 夏樹¹⁾, 久保田正充¹⁾, 田中求平¹⁾, 石井洋二¹⁾, 平岡保紀, 秋元成太²⁾ (1) 関東通信病院泌尿器科, ²⁾ 附属病院泌尿器科) : 膀胱癌 (T2) に対する抗腫瘍剤の膀胱腔内注入治療効果. 第49回日本泌尿器科学会西日本総会, 1997. 10.
- 7) 清水有二, 平岡保紀, 岩本和矢, 高橋洋文, 沼沢和夫, 林 昭棟, 左 維, 小倉順子¹⁾, 細根 勝²⁾ (1) 多摩永山病院放射線科, ²⁾ 同病理部) : 一部腎嚢胞様所見を呈した両側同期性多発性腎細胞癌の1例. 第62回日本泌尿器科学会東部総会, 1997. 10.
- 8) 桐山 功¹⁾, 小川秀彌¹⁾, 堀 夏樹¹⁾, 久保田正充¹⁾, 田中求平¹⁾, 平岡保紀, 秋元成太²⁾ (1) 関東通信病院泌尿器科, ²⁾ 附属病院泌尿器科) : 低分化型の進行前立腺癌の治療について. 第47回日本泌尿器科学会中部総会, 1997. 11.
- 9) 平岡保紀, 岩本和矢, 高橋洋文, 清水有二, 左 維, 林 昭棟, 沼沢和夫 : 尿失禁に対する永山式経陰恥骨結合尿道吊り上げ術の経験. 第38回多摩泌尿器科医会, 1998. 1.

[千葉北総病院泌尿器科]

研究概要

1) 泌尿器内視鏡学：前立腺肥大症に対する最もよい外科的治療法である経尿道的前立腺電気蒸散に関する本邦初の発表を行い、良好な結果を得て、引き続き前立腺肥大症の中でも特に著しく大きい前立腺肥大症に対する有用性について臨床検討を行ったが、この方法は経尿道的膀胱腫瘍切除術においても、出血が少なく、かつ浸潤度判定に必要な組織が得られる点で有用なことが解かり、症例を増やし検討中である。

また膀胱腫瘍に対する経尿道的切除例においては腫瘍の浸潤度及び上皮内癌の存在が問題となるが、スネアーを用いて、筋層を含む十分な組織を採取できる独自の方法を開発し検討中である。

2) 泌尿器腫瘍学：(a)：近年、活性酸素がDNA、生体膜、酵素などの生体高分子に酸化障害を引き起こし、様々な疾病や老化の原因となることが知られてきた。活性酸素に対する抗酸化物質として電解還元水が注目されてきている。我々はin vitro, in vivoにおける還元水の抗腫瘍効果を検討中である。

(b)：局所浸潤性膀胱腫瘍に対し、経尿道的腫瘍切除術と動注化学療法を併用することで、膀胱保存を試みている。12例に治療がなされ、9例で膀胱保存（癌なし生存）されている。症例を増やし、また長期予後についても検討中である。

3) 尿路感染症学：慢性化する尿路感染症の機序を解明する手掛かりとして、種々の尿路感染患者尿中のサイトカイン、とくに泌尿器科領域では研究されたことのないIL-1receptor antagonist (IL-1ra) に関する研究を行い、IL-1に対するIL-1raが少ないことが前立腺炎の長期慢性化に関与することはないという結果を得たが、症例の多い急性膀胱炎においてこれらを検討し再発との関連を調べている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nishimura T, Abe H, Ito H, Ikeda K, Oka F, Terashima Y, Oki M, Hasegawa J, Feng Xiao Li, Akimoto M, Ogawa H¹⁾ (1) Dept. of Urology, Kanto Teishin Hospital) : Teaching transurethral resection of the prostate : Resection experience for trainees. Jap J Endourol ESWL 1997 ; 10 (1) : 50-52.
- 2) Nishimura T, Abe H, Ito H, Ikeda K, Oka F : New technological methods of managing BPH. Transurethral vaporization of the prostate (TVP). Jap J Endourol ESWL 1997 ; 10 (1) : 8-12.
- 3) Ito H, Nishimura T, Ikeda K, Oka F, Abe H : Bilateral hydronephrosis due to intramural ureteral involvement with systemic sclerosis. J Urol 1997 ; 157 (6) : 2244-2244.
- 4) Ogawa H¹⁾, Nishimura T, Hori N¹⁾, Abe H, Ito H, Kubota M¹⁾, Kiriya M¹⁾ (1) Dept. of Urology, Kanto Teishin Hospital) : 10-year survival rate in 92 patients with invasive bladder carcinoma treated by bladder sparing methods. J Nippon Med Sch 1997 ; 64 (5) : 446-454.
- 5) Nishimura T, Abe H, Ito H, Ikeda K, Oka F, Yamamoto M : IL-1ra versus IL-1 levels in prostatic fluid from prostatitis patients. Urol Int 1998 ; 60 (1) : 92-96.
- 6) 西村泰司, 伊藤一人¹⁾ (1) 立川相互病院泌尿器科) : 女性の多発性膀胱結石に対する頭側上位とした経尿道的手術. 臨泌 1997 ; 51 (4) : 337-337.
- 7) 西村泰司, 阿部裕行 : 高齢女性に対する側臥位での膀胱鏡検査. 臨泌 1997 ; 51 (6) : 426-426.
- 8) 阿部裕行, 西村泰司, 伊藤 博, 池田一則, 岡 史篤, 弦間和仁¹⁾, 石王道人¹⁾ (1) 第一病院放射線科) : 融合性交叉腎変位の1例—3DCTによる診断—. 西日泌尿 1997 ; 59 (12) : 942-944.

(2) 綜説：

- 1) 西村泰司：術者からみた局所解剖，II.下部尿路系の局所解剖，経尿道的前立腺切除術。臨泌 1997；51（5 増刊号）：113-118.
- 2) 西村泰司，阿部裕行：患者QOLをみすえた前立腺肥大症の治療，[治療後の注意点] 再度症状が出現した場合。臨床と薬物治療 1997；16（9）：815-818.
- 3) 西村泰司，阿部裕行，大澤秀一，浜崎 務：中年からの前立腺疾患の診断とその治療。総合臨床 1998；47（3）：615-621.
- 4) 西村泰司，阿部裕行：感染症の予防と管理—尿路感染症—。訪問看護と介護 1998；3（3）：182-188.

著 書

- 1) 西村泰司：〔分担〕腎・尿管損傷。今日の治療指針，1998；pp483-484，医学書院。

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Nishimura T, Abe H, Ito H, Ikeda K, Oka F: Transurethral vaporization of the larger prostate glands with Olympus Band loop and UES-20 new version surgical unit. 9th Annual International Meeting, Society for Minimally Invasive Surgery, 1997. 7.
- 2) 濱崎 務，服部智任，木村 剛，秋元成太：膀胱癌浸潤能とMatrixMetalloproteinase-2 (MMP-2) の発現。第85回日本泌尿器科学会総会，1997. 4.
- 3) 西村泰司，阿部裕行，伊藤 博，池田一則，岡 史篤：尿路感染症における尿中IL-1とIL-1リセプターアンタゴニストの意義。第85回日本泌尿器科学会総会，1997. 4.
- 4) 西村泰司，阿部裕行，伊藤 博，池田一則，岡 史篤：前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺電気蒸散法—比較的大きい前立腺肥大症における有用性についての検討—。第85回日本泌尿器科学会総会，1997. 4.
- 5) 渡辺 潤¹⁾，坪井成美¹⁾，大澤秀一¹⁾，山形健治²⁾，堀内和孝²⁾，秋元成太²⁾（¹⁾千葉北総病院泌尿器科，²⁾付属病院泌尿器科）：上部尿管結石に対するESWLとTULの治療成績の比較—初回治療法としての優位性の検討—。第85回日本泌尿器科学会総会，1997. 4.
- 6) 濱崎 務，長谷川潤¹⁾，清水宏之¹⁾，広瀬始之²⁾，吉田和弘¹⁾，秋元成太¹⁾，本田 了³⁾，川村直樹³⁾（¹⁾付属病院泌尿器科，²⁾第二病院泌尿器科，³⁾海老名総合病院泌尿器科）：重症急性膀胱炎に対する血漿交換の有用性。42回日本透析医学会総会，1997. 7.
- 7) 西村泰司，阿部裕行，伊藤 博，池田一則，岡 史篤：電気蒸散法を用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術。第62回日本泌尿器科学会東部総会，1997. 10.
- 8) 阿部裕行，西村泰司，伊藤 博，岡 史篤，池田一則：吸引とスネアーループを用いた膀胱生検の検討。第62回日本泌尿器科学会東部総会，1997. 10.
- 9) 大澤秀一¹⁾，坪井成美¹⁾，渡辺 潤¹⁾，富田 勝²⁾，広瀬始之²⁾，山本史郎²⁾，清水宏之²⁾，堀内和孝²⁾，山形健治³⁾，秋元成太³⁾（¹⁾千葉北総病院泌尿器科，²⁾第二病院泌尿器科，³⁾付属病院泌尿器科）：浸潤性膀胱腫瘍に対する動注療法による膀胱保存の試み。第35回日本癌治療学会総会，1997. 10.
- 10) 坪井成美，西村泰司，宮下次広¹⁾，菱沢利行²⁾，小林京子²⁾，間庭裕子²⁾，加治裕子²⁾，久保田麻美²⁾，横川文江²⁾（¹⁾日本医大付属病院放射線科，²⁾藤間病院）：小さな腎のhyperechoic mass—診断と取り扱い—。日本超音波医学会第70回研究発表会，1997. 11.
- 11) 西村泰司，阿部裕行，大澤秀一，浜崎 務，伊藤 博，池田一則，岡 史篤，坪井成美，小林京子¹⁾，間庭裕子¹⁾（¹⁾藤間病院）：尿潜血精査時のエコー上の軽度水腎症例における排尿後エコーの有用性について。日本超

音波医学会第70回研究発表会，1997. 11.

- 12) 西村泰司，阿部裕行，浜崎 務，大澤秀一：TVP用バンド電極は従来のTURループ電極より有用か？. 第68回千葉泌尿器科集談会，1997. 12.
- 13) 阿部裕行，西村泰司，大澤秀一，浜崎 務，岡 史篤：両側腎結石に対する同時ESWL後に発生した膀胱炎の1例. 第68回千葉泌尿器科集談会，1997. 12.
- 14) 加治裕子¹⁾，小林京子¹⁾，横川文江¹⁾，久保田麻美¹⁾，間庭裕子¹⁾，坪井成美，西村泰司 (¹⁾ 藤間病院総合健診システム)：超音波で見えられた腎細胞癌. 第26回日本総合健診医学会，1998. 2.

16. 眼科学講座

[付属病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科]

研究概要

平成9年8月第一病院の閉院に伴い、三浦雅博講師が千葉北総病院に転勤となった。平成10年3月千葉北総病院の清水洋一助教授が退職、同4月三浦雅博講師が千葉北総病院眼科部長代理となった。

臨床研究：

大原國俊教授を中心にサルコイドーシスを中心としたぶどう膜炎の臨床研究を継続させた。茨木信博助教授は、斜視・弱視疾患の臨床研究を、高橋浩講師は、角結膜疾患の臨床研究、鈴木康之講師は緑内障疾患の臨床研究を継続させた。

清水暢夫助教授、中山滋章助教授、清水洋一助教授、三浦雅博講師が第二病院、多摩永山病院、千葉北総病院で臨床研究にあたった。

雑賀寿和、裨津直久、大久保彰、江口秀一郎、赤星隆幸、堀田一樹兼任講師が付属病院で臨床研究を行った。

基礎研究：

茨木信博助教授は、ヒト水晶体上皮細胞株を用いた、細胞外基質の影響を検討するとともに、無血清培養法を樹立した。高橋浩講師は、角結膜上皮細胞のグルコーストランスポーターに対する研究を継続させた。鈴木康之講師は、緑内障の遺伝子分析の研究を継続させた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ayaki M¹⁾, Tung W¹⁾, Wolf J¹⁾, Shinohara T¹⁾, Ibaraki N, Oharazawa H, Ohara K, Chylack L¹⁾ (1) Harvard Medical School) : New non-contact specular microscope for lens epithelial cell visualization. *Exp Eye Res* 1997 ; 65 : 143-146.
- 2) Suzuki Y, Shirato S¹⁾, Taniguchi S¹⁾, Ohara K, Nishimaki K²⁾, Ohta S²⁾ (1) 東京大学, 2) 日本医科大学老人病研究所) : Mutation in the TIGR gene in familial primary open-angle glaucoma in Japan. *Am J Hum Genet* 1997 ; 61 : 1202-1204.
- 3) Sears M, Sears J, Giovannelli A, Suzuki Y : Studying controls for aqueous humor formation. *Proceeding of the first international symposium of Ophthalmology* 1997 ; 147-150.
- 4) Shirato S¹⁾, Kagaya F²⁾, Suzuki Y, Joukou S³⁾ (1) 東京大学, 2) 三井記念病院, 3) 国立療多摩全生園) : Stevens-Johnson syndrome induced by methazolamide treatment. *Arch Ophthalmol* 1997 ; 115 : 550-553.
- 5) Hashimoto E¹⁾, Hirakata A¹⁾, Hotta K, Shinoda K, Miki D¹⁾, Hida T¹⁾ (1) 杏林大学) : Unusual macular retinal detachment associated with vitreomacular traction syndrome. *British Journal of Ophthalmology* 1997 ; 82 : 326-327.
- 6) Hiraoka M, Saito I¹⁾, Tsubota K²⁾, Sugai S³⁾, Miyasaka N¹⁾ (1) 東京医科歯科大学, 2) 東京歯科大学, 3) 金沢医科大学) : Augment Expression of CD44 splice variants in lymphoproliferative disorder of the lacrimal gland in sjogren's syndrome. *Jpn J Ophthalmol* 1997 ; 41 : 312-318.
- 7) Reddy V¹⁾, Lin L¹⁾, Ho Y¹⁾, Magnenat J¹⁾, Ibaraki N, Giblin F¹⁾, Dang L¹⁾ (1) Oakland University) : Peroxidase-induced damage in lenses of transgenic mice with deficient and elevated levels of glutathione

- peroxidase. *Ophthalmologica* 1997; 211: 192-200.
- 8) Ibaraki N: A brighter future for cataract surgery. *Nature Medicine* 1997; 3: 10-11.
 - 9) Akahoshi T: Phaco Prechop. *MVP Video Journal of Ophthalmology* 1997; 13 (4).
 - 10) Saito T¹⁾, Takizawa T¹⁾, Yashiro T¹⁾, Akahoshi T (1) 自治医科大学): HVEM Observation of Phagosome-Lysosome Fusion in the Pigment Epithelium. *Acta Histochem* 1997; 30: 675-683.
 - 11) Kobayashi S, Vidal I¹⁾, Pena J¹⁾, Hernandez M¹⁾ (1) Washington University): Expression of neural cell adhesion molecule (NCAM) characterizes a subpopulation of type 1 astrocytes in human optic nerve head. *GLIA* 1997; 20: 262-273.
 - 12) 酒井理恵子¹⁾, 川島秀俊¹⁾, 釜田恵子¹⁾, 佐々木洋¹⁾, 清水由花¹⁾, 伊野田繁¹⁾, 大久保好子²⁾, 大久保彰, 大原國俊 (1) 自治医科大学, 2) おおくぼ眼科): 健常者に発症した真菌性眼内炎の2症例. *臨眼* 1997; 51: 1733-1737.
 - 13) 渋井洋文¹⁾, 川島秀俊¹⁾, 釜田恵子¹⁾, 清水昊幸¹⁾, 佐々木洋²⁾, 大久保彰, 大原國俊, 嶋田孝吉³⁾ (1) 自治医科大学, 2) 金沢医科大学, 3) 嶋田眼科): 自治医科大学眼科におけるBehcet病眼症治療の経験. あたらしい眼科 1997; 14: 1723-1727.
 - 14) 高橋雄二, 大久保彰, 小口和子¹⁾, 宮入純子¹⁾, 大久保好子²⁾, 大久保泰宏³⁾, 吉田良二³⁾ (1) 自治医科大学, 2) おおくぼ眼科, 3) 済生会宇都宮病院内科): 透析患者への白内障手術. 日本眼内レンズ屈折手術学会誌 1997; 11: 195-199.
 - 15) 高橋雄二, 大久保彰, 小口和子¹⁾, 宮入純子¹⁾, 大久保好子²⁾, 茨木信博 (1) 自治医科大学, 2) おおくぼ眼科): クロロプロマジン長期内服後の前眼部所見. *臨眼* 1997; 51: 1656-1657.
 - 16) 林 康司¹⁾, 中村 弘, 前田利根¹⁾, 井上洋一¹⁾ (1) オリビア眼科病院): 若年者の正常眼圧緑内障. あたらしい眼科 1997; 14: 1235-1241.
 - 17) 永井靖子¹⁾, 平形明人¹⁾, 三木大二郎¹⁾, 堀田一樹, 篠田 啓²⁾, 樋田哲夫¹⁾, 藤原隆明¹⁾ (1) 杏林大学, 2) 慶應義塾大学): 内眼手術後眼内炎の治療成績. *臨眼* 1997; (51): 581-584.
 - 18) 杉谷篤彦¹⁾, 市橋左登美¹⁾, 堀田一樹, 篠田 啓¹⁾, 平形明人¹⁾, 三木大二郎¹⁾, 森村佳弘¹⁾, 吉野 啓¹⁾, 樋田哲夫¹⁾ (1) 杏林大学): 眼球破裂の視力予後. *臨眼* 1997; 51: 1029-1032.
 - 19) 渡辺敏樹¹⁾, 平形明人¹⁾, 堀田一樹, 井上 真¹⁾, 三木大二郎¹⁾, 樋田哲夫¹⁾ (1) 杏林大学): 巨大裂孔網膜剥離に対する硝子体手術における液体パーフルオロカーボンの使用経験. *眼科手術* 1997; (10): 381-384.
 - 20) 堀田一樹, 平形明人¹⁾, 篠田 啓¹⁾, 三木大二郎¹⁾, 樋田哲夫¹⁾ (1) 杏林大学): 特発性黄斑円孔に対する硝子体手術の後眼部合併症. *日眼会誌* 1997; (101): 808-813.
 - 21) 良田夕里子, 高橋真紀, 原 彰: 半導体レーザーによる経強膜毛様体光凝固の試み. *眼臨* 1997; 91: 51-52.
 - 22) 襦津直久: 個別定数からみたSRK/T眼内レンズパワー計算式の検討. *臨眼* 1997; 5: 911-914.
 - 23) 襦津直久: 眼科データの入力方法—データベース. あたらしい眼科 1997; 15 (1): 29-36.
 - 24) 襦津直久: 水晶体の位置からの術後前房深度予測. *IOL&RS* 1997; 12: 44-47.
 - 25) 襦津直久: 光線追跡法と前後嚢の位置による眼内レンズの術後屈折予測. *臨眼* 1997; 52 (5): 795-798.
 - 26) 遠藤哲治, 中山滋章, 塚本佐知子, 大原國俊: Acute Macular neuroretinopathyが疑われた1症例. *臨眼* 1997; 51: 627-630.
 - 27) 高橋雄二, 大久保彰, 小口和子¹⁾, 宮入純子¹⁾, 大久保好子²⁾, 田辺和子¹⁾ (1) 自治医科大学, 2) おおくぼ眼科): *Klebsiella pneumoniae*による両眼性転移性眼内炎の1例. あたらしい眼科 1998; 15: 121-124.
 - 28) 堀 直之¹⁾, 堀田一樹, 平形明人¹⁾, 樋田哲夫¹⁾, 秋山理津子¹⁾ (1) 杏林大学): 乳頭面上網膜動脈瘤の予後. *眼臨* 1998; (92): 150-153.
 - 29) 堀田一樹, 平形明人¹⁾, 篠田 啓¹⁾, 三木大二郎¹⁾, 樋田哲夫¹⁾ (1) 杏林大学): 脈絡膜コロボーマに合併した網

膜剥離の特徴. 日眼会誌 1998; (102): 207-214.

30) 竹田洋子¹⁾, 堀田一樹, 平形明人¹⁾, 三木大二郎¹⁾, 前田利根²⁾, 樋田哲夫¹⁾ (1) 杏林大学, 2) オリンピア眼科病院): 網膜色素変性症に合併した黄斑円孔に対する硝子体手術の経験. 眼臨 1998; 92: 286-290.

(2) 綜説:

1) Ibaraki N: A brighter future for cataract surgery. Nature Medicine 1997; 3: 10-11.

2) Akahoshi T: Phaco Prechop could mean an end to grooving. The technique employs a new surgical instrument to chop up nuclei before phacoemulsification. Ocular Surgery 1997; 8 (10): 18-19.

3) 水谷由紀夫: コンタクトレンズの展望—1995年度—. 眼科 1997; 39: 1015-1042.

4) 水谷由紀夫: ハードコンタクトレンズの特徴と処方方法について教えて下さい: 屈折矯正Q&AIIコンタクトレンズ. あたらしい眼科 1997; 14: 105-108.

著書

1) 赤星隆幸: [分担] 強角膜切開長所と短所. 眼科ブレイクスルー 白内障IOL手術, 1997; pp48-49, 中山書店.

2) 赤星隆幸, 國富由紀子¹⁾, 加賀谷文絵¹⁾, 北岡千晶¹⁾, 丸尾京子¹⁾, 北澤万里子¹⁾ (1) 三井記念病院): [自著] 新・こんな眼にあったら. 新・こんな眼にあったら: 最新眼科治療, 1997; 人間と歴史社.

3) 赤星隆幸, 丸山寛之¹⁾ (1) 医薬ジャーナリスト): [自著] たった5分で終わる入院不要の新技术白内障. 名医が治す (ビタミン文庫), 1997; マキノ文庫.

4) 大久保彰: [共著] 裂孔原性網膜剥離. イラストでみる今日の眼科手術7, 1998; pp54-59, メディカルビュー社.

学会発表

(1) 特別講演:

1) 大原國俊: 眼サルコイドーシス. 第30回道南眼科集談会, 1997. 5.

2) 赤星隆幸: Phaco Prechopと角膜切開無縫合手術. 日本医科大学眼科症例検討会, 1997. 5.

3) 赤星隆幸: 角膜切開無縫合白内障手術: 最新の手術術式と臨床成績. 第1回下町眼科フォーラム, 1997. 7.

4) 欄津直久: A定数の問題点と新しい術後前房深度の予測方法について. 第88回東邦大学眼科学術研究会, 1997. 7.

5) 水谷由紀夫: 円錐角膜に対するコンタクトレンズ処方. 日本医大眼科症例検討会, 1997. 9.

6) 茨木信博: 水晶体上皮細胞の増殖と接着. 第7回水晶体再生研究会, 1997. 10.

7) 大原國俊: 眼サルコイドーシス—その多彩な臨床像. 第698会東京眼科集談会, 1997. 11.

8) 鈴木康之: 緑内障の遺伝的要因について. 第91回日本医科大学眼科症例検討会, 1997. 12.

(2) 招待講演:

1) Akahoshi T: Phaco Prechop with Acrysof. 1997 International Medical Panel for the Advancement of Cataract Treatment, 1997. 7.

2) Akahoshi T: Phaco Prechop. 29th Annual Scientific Congress of the Royal Australian College of Ophthalmologists, 1997. 11.

3) Akahoshi T: Experience with Acrysof Lens. 29th Annual Scientific Congress of the Royal Australian College of Ophthalmologists, 1997. 11.

(3) 教育講演:

1) 大原國俊: 糖尿病網膜症の臨床像と治療. 日本医科大学千駄木臨床研究会, 1997. 6.

2) 茨木信博: 今日の白内障眼内レンズ手術. 日本医科大学千駄木臨床研究会, 1997. 6.

(4) シンポジウム：

- 1) 茨木信博：Bioactivity of human lens epithelial cells. 第24回水晶体研究会, 1998. 1.
- 2) 鈴木康之：原発開放隅角緑内障の進行. 第101回日本眼科学会総会, 1997. 5.
- 3) 茨木信博：水晶体上皮細胞と水晶体嚢の関連—ヒト水晶体上皮株化細胞での検討—. 第36回日本白内障学会, 1997. 6.

(5) 一般講演：

- 1) Suzuki Y, Shirato S¹⁾, Ohta S²⁾ (¹⁾ 東京大学, ²⁾ 日本医科大学老人病研究所) : Search for TIGR gene mutation in POAG in Japanese. 1st Inaugural Scientific Meeting of Asian-Oceanic Glaucoma Society, 1997. 4.
- 2) Akahoshi T : Phaco Prechop. '97 ASCRS Symposium on Cataract IOL and Refractive Surgery, 1997. 4.
- 3) Wada C : Enhanced wound healing characteristic of SV40 largeT-antigen transfected human corneal endothelial cells. ARVO, 1997. 5.
- 4) Shinoda K¹⁾, Hirakata A¹⁾, Nagai Y¹⁾, Hotta K, Miki D¹⁾, Hida T¹⁾ (¹⁾ 杏林大学) : Clinico pathological features of vitreomacular traction syndrome. ARVO, 1997. 5.
- 5) Hotta K, Yamamoto R, Hirakata A¹⁾, Shinoda K¹⁾, Oshitari K¹⁾, Ohi Y¹⁾, Hida T¹⁾ (¹⁾ 杏林大学) : Ultrasound biomicroscopy (UBM) for examination of the sclerotomy site in eye of PDR patients after vitrectomy. ARVO, 1997. 5.
- 6) Ibaraki N, Chen S¹⁾, Lin L¹⁾, Reddy V¹⁾, Pipas J²⁾ (¹⁾ Oakland University, ²⁾ University of Pittsburgh) : Human lens epithelial cell line. ARVO, 1997. 5.
- 7) Oharazawa H, Matui H, Ibaraki N, Ohara K : Specular microscopy of human lens epithelial cells in vivo. ARVO, 1997. 5.
- 8) Kobayashi S, Pena J¹⁾, Hernandez M¹⁾ (¹⁾ Washington University School of Medicine) : Cultured astrocytes from human optic nerves respond to elevated hydrostatic pressure. ARVO, 1997. 5.
- 9) Pena J¹⁾, Kobayashi S, Hernandez M¹⁾ (¹⁾ Washington University School of Medicine) : Elastin associated microfibrils in human optic nerve heads in vivo and in vitro. ARVO, 1997. 5.
- 10) Yuge K, Okamoto H, Ibaraki N¹⁾, Oharazawa H¹⁾, Lin L¹⁾, Shinohara T²⁾, Reddy V¹⁾ (¹⁾ Oakland University, ²⁾ Harvard Medical School) : Effect of growth factors and cytokines on human lens epithelial cells. ARVO, 1997. 5.
- 11) Akahoshi T : Phaco Prechop. 10th Annual Meeting of German Ophthalmic Surgeons, 1997. 6.
- 12) Ozaki N, Ishizaki M¹⁾, Wakamatsu K¹⁾, Yamanaka N¹⁾ (¹⁾ 病理学第1) : Programmed cell death (Apoptosis) mediates the decrease in cellularity during the healing process of typeIII hypersensitivity in cornea. 16 European Congress of Pathology Maastricht, 1997. 8.
- 13) Akahoshi T : Phaco Prechopper. 15th Congress of the European Society of Cataract & Refractive Surgeons, 1997. 9.
- 14) Akahoshi T : Clinical experience of 5000 cases of Acrys of implantation after temporal clear corneal cataract surgery. 15th Congress of the European Society of Cataract & Refractive Surgeons, 1997. 9.
- 15) Akahoshi T : Efficacy of Phaco Prechop. 15th Congress of the European Society of Cataract & Refractive Surgeons, 1997. 9.
- 16) Hernandez M¹⁾, Pena J¹⁾, Kobayashi S (¹⁾ Washington University) : Alterations of connective tissue matrix of the optic nerve in glaucoma. American Academy of Ophthalmology Annual Meeting, 1997. 10.
- 17) Akahoshi T : Clear Corneal Cataract Surgery & Phaco Prechop. 29th Annual Scientific Congress of the Royal Australian College of Ophthalmologists, 1997. 11.

- 18) Oharazawa H, Ibaraki N, Matui H, Takahashi Y, Lin L¹⁾, Reddy V¹⁾ (¹⁾ Oakland University) : The effect of extracellular matrix in cell attachment and proliferation in human lens epithelial cell lines. US-Japan Cooperative Cataract Research Group Meetings, 1997. 11.
- 19) Ricard C¹⁾, Kobayashi S, Pena J¹⁾, Selvidge J¹⁾, Hernandez M¹⁾ (¹⁾ Washington University) : Differential expression of neural cell adhesion molecule (NCAM) by human optic nerve head (ONH) astrocytes in vitro and situ. 37th American Society for Cell Biology Annual Meeting, 1997. 12.
- 20) Mizutani Y, Mizutani S¹⁾ (¹⁾ 愛知医科大学) : Observation of contact lens fit : from the temporal position and from below. '98 CLAO Annual Meeting, 1998. 1.
- 21) Hernandez M¹⁾, Pena J¹⁾, Doyle M¹⁾, Ricard C¹⁾, Kobayashi S (¹⁾ Washington University) : Astrocytes in glaucomatous optic neuropathy : I situ and in vitro studies. 2nd International Glaucoma Symposium, 1998. 3.
- 22) 大久保彰, 高橋雄二, 小口和子¹⁾, 宮入純子¹⁾, 大久保好子²⁾ (¹⁾ 済生会宇都宮病院, ²⁾ おおくほ眼科) : 経過観察12年目に発症した家族性滲出性硝子体網膜症 (FEVR) 裂孔原生網膜剥離. 第33回栃木県眼科集談会, 1997. 4.
- 23) 高橋雄二, 大久保彰, 小口和子¹⁾, 宮入純子¹⁾, 大久保好子²⁾ (¹⁾ 済生会宇都宮病院, ²⁾ おおくほ眼科) : 腎透析患者への白内障手術. 第89回日本医科大学眼科症例検討会, 1997. 5.
- 24) 高山 淳¹⁾, 鈴木康之, 新家 真¹⁾ (¹⁾ 東京大学) : 緑内障におけるnerve fiber layer thicknessのパターン分析. 第101回日本眼科学会, 1997. 5.
- 25) 高橋 浩, Zieske J¹⁾, Kaminski A¹⁾ (¹⁾ Harvard Medical School) : 角膜上皮創傷治療過程におけるグルコーストランスポーター1 (GLUT 1) 発現の検討. 第101回日本眼科学会, 1997. 5.
- 26) 平岡美紀, 小池竜二¹⁾, 反町典子¹⁾, 宮坂信之¹⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学) : 抗CD44抗体による実験的自己免疫性ぶどう膜炎発症への影響. 第101回日本眼科学会総会, 1997. 5.
- 27) 国松志保, 鈴木康之, 大原國俊, 小関信之¹⁾, 新家 真²⁾ (¹⁾ 東京都老人医療センター, ²⁾ 東京大学) : 正常眼圧緑内障における視神経乳頭の大きさが視野障害に及ぼす影響の検討. 第101回日本眼科学会, 1997. 5.
- 28) 井上立州¹⁾, 白土城照¹⁾, 鈴木康之 (¹⁾ 東京大学) : 次世代精密閾値検査プログラムSITAの検査精度ならびに再現性の検討. 第101回日本眼科学会総会, 1997. 5.
- 29) 福嶋はるみ¹⁾, 白土城照¹⁾, 鈴木康之 (¹⁾ 東京大学) : 新しいアルゴリズムによる精密閾値検査プログラムSITAと従来の精密閾値検査法との比較. 第101回日本眼科学会総会, 1997. 5.
- 30) 北 葉月¹⁾, 堀田一樹, 栗原久美子¹⁾, 平形明人¹⁾, 樋田哲夫¹⁾ (¹⁾ 杏林大学) : 白子様眼底のWaardenburg症候群に合併した網膜剥離の治療経験. 第14回関東眼科学会, 1997. 5.
- 31) 瀬津直久 : 平均音速による眼軸長計算の誤差について. 第13回日本眼内レンズ屈折手術学会, 1997. 5.
- 32) 矢口智恵美, 茨木信博, 大原國俊 : IOL移植で視力改善を得たlenticonusの1例. 日本医大症例検討会, 1997. 5.
- 33) 岩波美陽, 茨木信博, 長松淳一 : 多発性網膜色素上皮剥離を伴ったSDMDの1症例. 日本医大眼科症例検討会, 1997. 5.
- 34) 大久保彰, 高橋雄二 : 超音波水晶体乳化吸引術に核落下を来たし, 硝子体腔内超音波乳化吸引術を施行した1例. 第4回栃木県眼科手術談話会, 1997. 6.
- 35) 下田真理子, 雑賀寿和, 佐藤 茂¹⁾, 水谷 聡²⁾, 伊藤孝雄³⁾ (¹⁾ 日本医科大学電頭施設, ²⁾ 愛知医大, ³⁾ 日本コンタクトレンズ研究所) : 抗アレルギー点眼剤はCLに影響を及ぼすか?. 第40回日本コンタクトレンズ学会総会, 1997. 6.
- 36) 水谷由紀夫, 千賀 勤¹⁾, 大島明人¹⁾ (¹⁾ 日本コンタクトレンズ研究所) : 円錐角膜とコンタクトレンズ. 第40回日本コンタクトレンズ学会総会, 1997. 6.
- 37) 水谷由紀夫, 松田整二¹⁾, 桜木保豊²⁾, 足立恒弘²⁾ (¹⁾ 誠心眼科, ²⁾ 日本コンタクトレンズ研究所) : 総着コンタクトレンズの下方からの観察. 第40回日本コンタクトレンズ学会総会, 1997. 6.

- 38) 今泉信一郎¹⁾, 中西史憲, 秋田恵子, 茨木信博 (¹⁾ 今泉眼科病院) : 屈折型多焦点眼内レンズの装用眼の視機能. 第36回日本白内障学会, 1997. 6.
- 39) 高橋雄二, 大久保彰, 小口和子¹⁾, 宮入純子¹⁾, 大久保好子²⁾, 大久保泰宏³⁾, 吉田良二³⁾ (¹⁾ 済生会宇都宮病院, ²⁾ おおくぼ眼科, ³⁾ 済生会宇都宮病院内科) : 透析患者への白内障手術. 第12回日本眼内レンズ屈折手術学会, 1997. 6.
- 40) 小原澤英彰, 茨木信博, 大原國俊 : ヒト水晶体上皮細胞株の接着能に対する各種細胞外基質の影響. 第36回日本白内障学会, 1997. 6.
- 41) 赤星隆幸, 丸尾京子¹⁾ (¹⁾ 三井記念病院) : Phaco Prechopによる白内障手術教育. 第12回日本眼内レンズ屈折手術学会, 1997. 6.
- 42) 瀬津直久 : 前囊, 後囊の位置からの術後前房深度予測の可能性について. 第12回日本眼内レンズ, 1997. 6.
- 43) 鈴木康之, 大原國俊, 谷口富美子¹⁾, 白土城照¹⁾, 太田成男²⁾ (¹⁾ 東京大学, ²⁾ 日本医科大学老人病研究所) : 開放隅角緑内障におけるTIGR gene mutationの検索. 第8回日本緑内障学会, 1997. 7.
- 44) 前田利根¹⁾, 竹田洋子¹⁾, 杉山 純¹⁾, 林 康司¹⁾, 中村 弘, 井上洋一¹⁾ (¹⁾ オリントピア眼科病院) : 緑内障眼に対する白内障手術. 第8回日本緑内障学会, 1997. 7.
- 45) 国松志保, 鈴木康之, 大原國俊, 新家 真¹⁾ (¹⁾ 東京大学) : 緑内障視野測定におけるゲイズトラックの有用性の評価. 第8回日本緑内障学会, 1997. 7.
- 46) 林 康司¹⁾, 中村 弘, 前田利根¹⁾, 井上洋一¹⁾ (¹⁾ オリントピア眼科病院) : 若年者と中高年者の正常眼圧緑内障(NTG)の比較. 第8回日本緑内障学会, 1997. 7.
- 47) 中村 弘, 林 康司¹⁾, 前田利根¹⁾, 井上洋一¹⁾ (¹⁾ オリントピア眼科病院) : 初期POAG眼におけるオクトパス101/G2プログラムとNo.32プログラムとの比較. 第8回日本緑内障学会, 1997. 7.
- 48) 今泉信一郎¹⁾, 中西史憲, 秋田恵子, 茨木信博 (¹⁾ 今泉眼科病院) : レーザースキャンニングトモグラフィでの緑内障治療薬別の視神経乳頭の変化. 第8回日本緑内障学会, 1997. 7.
- 49) 高橋雄二, 大久保彰, 小口和子¹⁾, 宮入純子¹⁾, 田邊和子¹⁾, 大久保好子²⁾ (¹⁾ 済生会宇都宮病院, ²⁾ おおくぼ眼科) : Klebsiella pneumoniaeによる両側転移性眼内炎の1例. 第34回日本眼感染症学会, 1997. 7.
- 50) 橋本英理子¹⁾, 平形明人¹⁾, 堀田一樹, 篠田 啓¹⁾, 三木大二郎¹⁾, 樋田哲夫¹⁾ (¹⁾ 杏林大学) : 黄斑変性を合併した硝子体黄斑牽引症候群の2例. 第36回日本網膜硝子体学会, 1997. 7.
- 51) 小野賀子¹⁾, 堀田一樹, 平形明人¹⁾, 小田 仁¹⁾, 三木大二郎¹⁾, 樋田哲夫¹⁾ (¹⁾ 杏林大学) : 黄斑円孔非閉鎖例の検討. 第36回日本網膜硝子体学会, 1997. 7.
- 52) 高橋卓夫¹⁾, 麻生定光²⁾, 吾妻安良太¹⁾, 持丸 博¹⁾, 阿部信二¹⁾, 宮本晴子¹⁾, 橋元恭子¹⁾, 榎本達治¹⁾, 村田朗¹⁾, 高橋雄司¹⁾, 大原國俊, 太田成男²⁾, 工藤翔二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学第4内科, ²⁾ 日本医科大学老人病研究所) : サルコイドーシス患者のBALF細胞におけるアポトーシス抑制因子Bc-2, Bcl-xlの蛋白量の検討. 第17回日本サルコイドーシス学会総会, 1997. 9.
- 53) 阿部信二¹⁾, 高橋卓夫¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 村田 朗¹⁾, 高橋雄司¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 大原國俊 (¹⁾ 日本医科大学第4内科) : 眼サルコイドーシスが疑われた患者の肺病変の検討. 第17回日本サルコイドーシス学会総会, 1997. 9.
- 54) 秋田恵子, 矢口智恵美, 大原國俊, 吾妻安良太¹⁾, 高橋卓夫¹⁾, 阿部信二¹⁾, 工藤翔二¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学第4内科) : 眼科診療におけるサルコイドーシス性ぶどう膜炎診断の問題点. 第17回日本サルコイドーシス学会総会, 1997. 9.
- 55) 大山夏子, 国松志保, 茨木信博 : 青色強膜にみられた裂孔原生網膜剥離の1例. 日本医大眼科症例検討会, 1997. 9.
- 56) 国松志保, 大原國俊 : サルコイドーシス患者における中間部ぶどう膜炎の超音波生体顕微鏡での観察. 日本医大眼科症例検討会, 1997. 9.
- 57) 良田夕里子, 清水暢夫 : うっ血乳頭を呈した胃痛による髄膜癌腫症の1例. 日本医大眼科症例検討会, 1997. 9.

- 58) 林 康司¹⁾, 中村 弘, 前田利根¹⁾, 井上洋一¹⁾ (1) オリンピア眼科病院): 乳頭蛍光輪が視野障害におよぼす影響. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 59) 山本成径¹⁾, 村上喜三雄¹⁾, 福興貴秀¹⁾, 富田美智子¹⁾, 尾崎憲子, 菅田安男¹⁾ (1) 都立駒込病院): 眼内徐放性ガンシクロビルインプラントを移植したサイトメガウイルス網膜炎の1例. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 60) 井上立州¹⁾, 鈴木康之, 白土城照¹⁾, 安達 京¹⁾ (1) 東京大学): 原発開放隅角緑内障における視野障害の進行—上下半視野での比較—. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 61) 坪井俊一¹⁾, 中村 弘, 前田利根¹⁾, 井上洋一¹⁾ (1) オリンピア眼科病院): Heidekberg retina tomographにおける新しい診断指標の検討. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 62) 谷口富美子¹⁾, 鈴木康之, 白土城照¹⁾, 太田成男²⁾ (1) 東京大学, 2) 日本医科大学老人病研究所): 若年発症原発開放隅角緑内障の父娘に見られたTIGR遺伝子の変異. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 63) 襦津直久: 光線追跡法と前後囊の位置による眼内レンズの術後屈折予測. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 64) 佐々木郁子, 国松志保, 大原國俊: 地図状脈絡膜炎様の所見を呈したサルコイドーシスの1例. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 65) 国松志保, 大原國俊: サルコイドーシス患者における中間部ぶどう膜炎の超音波生体顕微鏡での観察. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 66) 秋田恵子, 矢口智恵美, 大原國俊, 吾妻安良太¹⁾, 高橋卓夫¹⁾, 阿部信二¹⁾, 工藤翔二¹⁾ (1) 日本医科大学第4内科): 眼サルコイドーシス診断の問題点. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 67) 福興貴秀¹⁾, 山本成径¹⁾, 尾崎憲子, 岸恵美子¹⁾, 田中明子¹⁾, 藤井恵子¹⁾, 森戸栄子¹⁾, 星野淳子¹⁾, 吉田恵美子²⁾, 原田美世子³⁾ (1) 都立駒込病院, 2) 都立荏原病院, 3) 北療育医療センター): 老視に対する訓練: 第6報5年間の総括. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 68) 矢口智恵美, 国松志保, 鈴木康之, 大原國俊: 糖尿病網膜症に対する光凝固の網膜神経線維層厚への影響. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 69) 大山夏子, 国松志保, 鈴木康之, 大原國俊: 原田病における網膜神経線維層厚の変化. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 70) 中村 弘, 山田幸永, 鈴木康之, 大原國俊: 日本人における年齢別緑内障患者の推定. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 71) 杉山 純¹⁾, 中村 弘, 後藤公子¹⁾, 井上洋一¹⁾ (1) オリンピア眼科病院): 甲状腺眼症の上眼瞼後退と α -blocker点眼療法. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 72) 赤星隆幸: Phaco Prechop Q&A. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 73) 吉川順子¹⁾, 小田 仁¹⁾, 堀田一樹, 吉野 啓¹⁾, 大久保敏男¹⁾, 平形明人¹⁾, 樋田哲夫¹⁾ (1) 杏林大学): 糖尿病性血管新生緑内障の他眼の予後. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 74) 秋田恵子, 大原國俊, 田中 寧¹⁾, 今泉信一郎²⁾ (1) 独協医大越谷, 2) 今泉眼科病院): ぶどう膜炎と重篤な硝子体出血をきたした全身性エリテマトーデスの1例. 第51回日本臨床眼科学会, 1997. 10.
- 75) 大久保彰, 高橋雄二, 小口和子¹⁾, 宮入純子¹⁾, 田辺和子¹⁾ (1) 済生会宇都宮病院): 落下水晶体に対する硝子体腔内超音波乳化吸引術. 第34回栃木県眼科集談会, 1997. 10.
- 76) 高橋雄二, 大久保彰, 小口和子¹⁾, 宮入純子¹⁾, 田辺和子¹⁾ (1) 済生会宇都宮病院): 硝子体手術を施行した転移性細菌性眼内炎の1例. 第34回栃木県眼科集談会, 1997. 10.
- 77) 中西史憲, 高橋 浩, 大原國俊: 眼部帯状疱疹に続発した桐沢型ぶどう膜炎の1例. 第698回東京眼科集談会, 1997. 11.
- 78) 中村 弘, 山田幸永, 鈴木康之, 井上洋一¹⁾ (1) オリンピア眼科病院): 視野障害を反映するHRTパラメーターの検討. 第698回東京眼科集談会, 1997. 11.

- 79) 安田典子¹⁾, 中村 弘, 南野麻美¹⁾, 石井 暁¹⁾, 矢部浩也¹⁾ (¹⁾ 東京警察病院): MMC併用トラベクトロミ
ー. 順天堂大学合同症例検討会, 1997. 12.
- 80) 中原美和子, 矢口智恵美, 高橋 浩, 茨木信博: 色素失調症の1例. 日本医大眼科症例検討会, 1997. 12.
- 81) 岸岡浩之, 茨木信博: 乳児期に眼内レンズ移植術を施行した先天性白内障の1症例. 日本医大眼科症例検討会,
1997. 12.
- 82) 中村 弘, 井上洋一¹⁾ (¹⁾ オリビア眼科病院): 著しい乳頭腫瘍を伴ったDysthyroid optic neuropathyの2例.
日本医大眼科症例検討会, 1997. 12.
- 83) 土佐真美子¹⁾, 百束比古¹⁾, 青木 律¹⁾, 茨木信博, 松井洋法 (¹⁾ 日本医科大学形成外科): 術後球後血腫による
眼球突出の治療経験. 第17回日本美容外科学会, 1998. 1.
- 84) 小原澤英彰, 松井洋法, 高橋雄二, 茨木信博, 大原國俊: ヒト水晶体上皮細胞株の接着・遊走に対する細胞外
基質の影響. 第24回水晶体再生研究会, 1998. 1.
- 85) 高橋 浩, 佐々木郁子, 国松志保, 鈴木康之, 大原國俊, 新見やよい¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学皮膚科): 緑内障を併
発した非典型的の原発性癬痕性角結膜上皮疾患の1例. 第22回角膜カンファレンス, 1998. 2.
- 86) 赤星隆幸: Phaco Prechop. 10th seminar on Cataract IOL & Refractive Corneal Surgery "APPI Crystal Club
'97", 1998. 2.
- 87) 秋田恵子, 中原美和子, 茨木信博, 高橋 浩, 大原國俊: 表層角膜移植術を施行した原因不明の周辺部角膜穿
孔の2例. 第22回角膜カンファレンス, 1998. 2.
- 88) 高橋雄二, 大久保彰: 核落下の処理について. 第5回栃木県眼科手術談話会, 1998. 3.
- 89) 鈴木輝彦, 長松淳一, 塚本佐知子, 中山滋章: 7年後に病変の拡大を呈した卵黄様黄斑変性症の1症例. 日本医
大眼科症例検討会, 1998. 3.
- 90) 鰐原 淳, 三浦雅博, 中元兼二, 藤井博明, 清水洋一: 妊娠中毒症に合併した漿液性網膜剥離. 日本医大眼科
症例検討会, 1998. 3.
- 91) 平岡美紀, 中西史憲, 大原國俊: 両側眼窩内に発症した悪性リンパ腫の1例. 日本医大眼科症例検討会, 1998.
3.

17. 麻酔科学講座

[付属病院麻酔科]

研究概要

本年度も、教室の従来からのテーマである手術侵襲とその防御についての研究、外科系集中治療管理についての成果が多く発表された。また、教室の基本テーマである、ショックの病態生理と治療、麻酔と循環動態、術後疼痛管理およびペインクリニックにつき幅広く、その基礎的・臨床的研究がなされた。以下に本年度の主な研究を示す。

基礎的研究：生体内c-fos発現と日内変動、局所麻酔薬と心機能、各種ショック時の一酸化窒素と心機能、各種血管拡張薬の血管反応特性

臨床的研究：手術侵襲による生体反応とその治療（気管支内サイトカイン測定法、敗血症時の循環動態、至適術中糖および電解質負荷の検討、サイトカインの変動とステロイドの効果、TEEによる循環動態の検討）、術後痛・ペインクリニック患者に対する新たな評価法と治療法の検討、呼吸不全の病態把握と新たな治療法の検討、集中治療領域での患者評価法と対策等。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Wajima Z, Shitara T, Nakajima Y, Kim C, Kobayashi N, Kadotani H, Adachi H, Ishikawa G, Kaneko K, Inoue T, Ogawa R: Continuous brachial plexus infusion of butorphanol-mepivacaine mixtures for analgesia after upper extremity surgery. *Br J Anaesth* 1997; 78: 83-85.
- 2) Kitamura A, Sakamoto A, Inoue T¹⁾, Ogawa R (1) 日本医科大学千葉北総病院麻酔科) : Efficacy of ultrashort-acting β -adrenoceptor blocker (ONO-1101) in attenuating cardiovascular responses to endotracheal intubation. *Eur J Clin Pharmacol* 1997; 51: 467-471.
- 3) Takamura T, Sakamoto A, Ogawa R: Bupivacaine combined with isoflurane synergistically depressed myocardial contractility in rat working heart preparation. *J Nippon Med Sch* 1997; 64: 292-297.
- 4) Maruyama K, Nakajima¹⁾, Hayashi¹⁾, Ohnishi¹⁾, Kuro¹⁾ (1) 国立循環器病センター麻酔科) : A guide to preventing deep insertion of the cannulation needle during catheterization of the internal jugular vein. *J Cardiothorac Vasc Anes* 1997; 11: 192-194.
- 5) Katoh N, Ogawa R: Waveform Analysis of Blood Pressure by Arterial Tonometry during Controlled Hypotensive Anesthesia with Nitroglycerin or Nicardipine. *Circ Cont* 1997; 18: 226-234.
- 6) Takeda S, Takano T¹⁾, Ogawa R (1) 日本医科大学集中治療室) : The effect of nasal continuous positive airway pressure on plasma endothelin-1 concentrations in patients with severe cardiogenic pulmonary edema. *Anest Analg* 1997; 84: 1091-1096.
- 7) Takeda S, Ogawa R, Nakanishi K, Kim C, Miyashita M¹⁾, Sasajima K¹⁾, Onda M¹⁾, Takano T²⁾ (1) 日本医科大学第一外科, 2) 同集中治療室) : The effect of preoperative high dose methylprednisolone in attenuating the metabolic response after oesophageal resection. *Eur J Sur* 1997; 163: 511-517.
- 8) Takeda S, Nakanishi K, Inoue T¹⁾, Ogawa R (1) 日本医科大学千葉北総病院麻酔科) : Delayed elevation of plasma endothelin-1 during unilateral alveolar hypoxia without systemic hypoxemia in humans. *Acta Anaesthesiol Scand* 1997; 41: 274-280.

- 9) Takeda S, Takano T¹⁾, Nakanishi K, Nejima J¹⁾, Takayama M¹⁾, Kim C, Ogawa R (¹⁾ 日本医科大学集中治療室) : Amrione improves lung compliance in patients receiving mechanical ventilation for cardiogenic pulmonary edema. *Acta Anaesthesiol Scand* 1997 ; 41 : 624-628.
 - 10) Takeda S, Nakanishi K, Takano T¹⁾, Nejima J¹⁾, Takayama M¹⁾, Ishikawa G, Ogawa R (¹⁾ 日本医科大学集中治療室) : The combination of external high-frequency oscillation and pressure support ventilation in acute respiratory failure. *Acta Anaesthesiol Scand* 1997 ; 41 : 670-674.
 - 11) Takeda S, Nakanishi K, Takano T¹⁾, Ishikawa G, Ogawa R (¹⁾ 日本医科大学集中治療室) : Effect of external high-frequency oscillation on severe cardiogenic pulmonary edema. *Journal of Anesthesia* 1997 ; 11 : 83-87.
 - 12) Wajima Z, Shitara T, Ishikawa G, Kaneko K, Inoue T¹⁾, Ogawa R (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院麻醉科) : Analgesia after upper abdominal surgery using extradural administration of a fixed dose of buprenorphine in combination with lignocaine given at two infusion rates : A comparative study. *Acta Anaesthesiologica Scandinavica* 1997 ; 41 : 1061-1065.
 - 13) Takeda S, Takano T¹⁾, Nakanishi K, Nejima J¹⁾, Takayama M¹⁾, Kim C, Ogawa R (¹⁾ 日本医科大学集中治療室) : Amrinone improves lung compliance in patients receiving mechanical ventilation for cardiogenic pulmonary edema. *Acta Anaesthesiol Scand* 1997 ; 41 : 624-628.
 - 14) Okawa K¹⁾, Onda M¹⁾, Miyashita M¹⁾, Matsutani T¹⁾, Maruyama H¹⁾, Akiya Y¹⁾, Sasajima K¹⁾, Takeda S, Ogawa R (¹⁾ 日本医科大学第一外科) : Detection of cytokines in bronchoalveolar lavage (BAL) after major surgery. 4th International Congress on the Immune Consequences of Trauma, Shock and Sepsis 1997 ; 571-574.
 - 15) Wajima Z, Shitara T, Ishikawa G, Inoue T¹⁾, Ogawa R (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院麻醉科) : Analgesia after upper abdominal surgery with extradural buprenorphine with lidocaine. *Canadian Journal of Anaesthesia* 1998 ; 45 : 28-33.
 - 16) Takeda S, Nejima J¹⁾, Takano T¹⁾, Nakanishi K, Takayama M¹⁾, Sakamoto A, Ogawa R (¹⁾ 日本医科大学集中治療室) : Respiratory management of patients with acute myocardial infarction complicated by pulmonary edema. *Jpn Circ J* 1998.
 - 17) Shiga T : Thoracic Epidural Blockade Preserves Left Ventricular Early Diastolic Filling Assessed By Transesophageal Echocardiography. *J Anesth* 1998 ; 12 : 7-12.
 - 18) Maruyama K, Agata H, Ono K, Hiroki K, Fujihara T : Slow induction with sevoflurane was associated with complete atrioventricular block in a child with hypertension, renal dysfunction, and impaired cardiac conduction. *Paediatric Anaesthesia* 1998 ; 8 : 73-78.
 - 19) 斎藤敏之, 藤田和明, 大井良之 : 帝王切開術患者での脊椎麻酔, 硬膜外麻酔の術中体温変化, 温覚, ふるえの差異. *臨床麻酔* 1997 ; 21 (5) : 739-745.
 - 20) 董 文毅, 北村純一, 島田洋一, 小川 龍 : 腰部硬膜外麻酔中の下腹部手術における体性感覚誘発電位の臨床的検討. *日医大誌* 1997 ; 64 : 264-267.
- (2) 総説 :
- 1) 小川 龍 : 抗炎症薬を用いたSIRSの病態の調節とMOF予防. *医学の歩み* 1997 ; 181 : 100-103.
 - 2) 小川 龍 : 術前術後の管理 : 硬膜外麻酔. *産婦人科治療* 1997 ; 74 : 543-546.
 - 3) 小川 龍 : 麻酔とストレス. *外科治療* 1997 ; 76 : 981-986.
 - 4) 小川 龍 : 侵襲制御の意義と展望. *日本歯科麻酔学会雑誌* 1997 ; 25 : 315-319.
 - 5) 小川 龍 : 痛みと交感神経. *神経精神薬理* 1997 ; 19 : 701-707.

- 6) 小川 龍：重症患者における臓器相互作用—外傷，火傷患者における臓器相互作用．集中治療 1997；9：857-862.
- 7) 大井良之，志賀俊哉，篁 武郎，小林千絵，寺嶋克幸，板羽秀徳，中西一浩¹⁾，山口真人，星野 健，中島祐史¹⁾，石川 源¹⁾，清水 亨，清水 淳，坂本篤裕，小川 龍（¹⁾ 日本医科大学集中治療室）：Minimally Invasive Direct Coronary Artery Bypassと心筋保護．臨床麻酔 1997；21（10）.
- 8) 大井良之，小川 龍：侵襲時・ショック時の輸液．日本臨床麻酔学会誌 1997；17（10）.
- 9) 坂本篤裕，小川 龍：ショックにおける心収縮性障害．循環制御 1997；508-512.
- 10) 小川 龍：DICの治療．JOHNS 1998；14：407-410.

著 書

- 1) 坂本篤裕，小川 龍：〔分担〕生体反応の分子機構，活性酸素．臨床侵襲学（小川道雄，斎藤英昭 編集），1998；pp197-200，へるす出版.
- 2) 中西一浩，高野照夫¹⁾（¹⁾ 日本医科大学集中治療室）：〔分担〕循環器系合併症．臨床泌尿器科，1998；pp285-290，医学書院.

学会発表

〔1996年度追加分〕

一般講演：

- 1) Terajima K, Kim C, Nakanishi K, Takeda H, Takano T¹⁾, Miyashita M²⁾, Sasajima K²⁾, Onda M²⁾, Ogawa R（¹⁾ 日本医科大学集中治療室，²⁾ 同第一外科）：The effect of methylprednisolone on cytokine in the bronchoalveolar lavage fluid after esophageal operations. 4th International Congress on The Immune Consequences of Trauma：Shock and Sepsis（Munich），1997. 3.

(1) 教育講演：

- 1) 坂本篤裕，高尾あや子¹⁾，小川 龍（¹⁾ 榊原記念病院麻酔科）：開心術における血管拡張薬の使い方．第2回日本心臓血管麻酔学会，1997. 9.

(2) シンポジウム：

- 1) Ogawa R：The role of NO in the pathogenesis of circulatory derangements in sepsis. 4th Indonesian International Symposium on shock and critical care, 1997. 8.
- 2) Ogawa R：Down regulation of adrenergic beta receptor in patients with shock. 4th Indonesian International Symposium on shock and critical care, 1997. 8.
- 3) 坂本篤裕，小川 龍：老年麻酔の現況と問題点：高齢者に対する緊急麻酔の問題点．第10回日本老年麻酔学会総会，1998. 2.

(3) セミナー：

- 1) 坂本篤裕：緊急手術の麻酔一態勢と問題点一．平成9年度近畿麻酔科医会基礎医学セミナー，1997. 8.

(4) ワークショップ：

- 1) 結城禎一¹⁾，小川 龍（¹⁾ 東京都職員共済組合青山病院麻酔科）：心停止蘇生をめぐる諸問題．（蘇生後症候群（Post-resuscitation syndrome：PRS））．第18回日本循環制御医学会総会，1997. 5.
- 2) 坂本篤裕，小川 龍：各種ショック摘出心の心収縮力特性．第18回日本循環制御医学会総会，1997. 5.

(5) 一般講演：

- 1) 寺嶋克幸，大井良之，小川 龍：胃切除術における術中の糖負荷の影響．第44回日本麻酔学会総会，1997. 4.

- 2) 赤田信二, 寺嶋克幸, 金 徹, 小川 龍: 経食道心エコー (TEE) によって気付かれた左心耳左房内陥入による急性循環障害. 第44回日本麻酔学会総会, 1997. 4.
- 3) 金 徹, 竹田晋浩¹⁾, 坂本篤裕, 高野照夫¹⁾, 小川 龍 (¹⁾ 日本医科大学集中治療室): 食道手術後の血中及び気管支肺洗浄液中のサイトカイン濃度に対するメチルプレドニゾロンの効果. 第44回日本麻酔学会総会, 1997. 4.
- 4) 星野 健, 金 正, 大井良之, 坂本篤裕, 小川 龍: 慢性上歯槽痛に, 電気痙攣療法が有効であった1例. 第44回日本麻酔学会総会, 1997. 4.
- 5) 岸川洋昭, 石川 源, 中西一浩, 竹田晋浩, 浮谷勝郎, 坂本篤裕, 高野照夫, 小川 龍: 虚血性心疾患合併非心臓手術症例の検討. 第44回日本麻酔学会総会, 1997. 4.
- 6) 森山みちる, 小林正雄, 金 徹, 坂本篤裕, 小川 龍: CICRが正常であった開頭術中の劇症悪性高熱症の1症例. 第44回日本麻酔学会総会, 1997. 4.
- 7) 北村 晶, 豊川秀樹, 岸川洋昭, 志賀俊哉, 金 正, 小川 龍: 糖尿病性末梢循環機能障害が周術期体温変動に及ぼす影響. 第18回日本循環制御医学会総会, 1997. 5.
- 8) 羅 元侠, 坂本篤裕, 小川 龍: 内臓虚血性ショックにおける一酸化窒素 (NO) の関与と治療. 第12回日本ショック学会総会, 1997. 5.
- 9) 鈴木規仁, 金子武彦¹⁾, 忍田純哉¹⁾, 梅村直治¹⁾, 大脇 明¹⁾ (¹⁾ 東京都立清瀬小児病院麻酔科): 人工呼吸管理を要した乳児結核症例のウイニング. 第24回日本集中治療医学会, 1997. 5.
- 10) 鈴木規仁, 星野 健, 坂本篤裕, 岸 泰博¹⁾, 鈴木博子¹⁾, 小川 龍 (¹⁾ 日本医科大学神経科): 痛みを有する神経科入院患者における電気痙攣療法の効果. 第31回日本ペインクリニック学会総会, 1997. 7.
- 11) 志賀俊哉, 坂本篤裕, 星野 健, 原口秀司¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 小川 龍 (¹⁾ 日本医科大学第二外科): 手掌多汗症に対する胸腔鏡下交感神経焼灼術の検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 12) 志賀俊哉, 寺嶋克幸, 坂本篤裕, 小川 龍: 心拍動下冠動脈バイパス術 (MIDCAB) の麻酔管理. 第2回日本心臓血管麻酔学会, 1997. 9.
- 13) 松村純也, 志賀俊哉, 寺嶋克幸, 篁 武郎, 坂本篤裕, 小川 龍: 心拍動下冠動脈バイパス術 (MIDCAB) の麻酔管理. 第37回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 1997. 9.
- 14) 上原 清¹⁾, 角田 健, 横田哲也¹⁾, 遠藤正宏¹⁾, 野本幸子¹⁾ (¹⁾ 関東労災病院麻酔科): 帯状疱疹後神経痛に対するケタミン持続点滴療法の効果. 第37回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 1997. 9.
- 15) Maruyama K, Hiroki K, Ono K, Namatame R, Fujihara T: Pentazocine had no early preemptive effect in strabismus surgery in children. (poster presentation). 第3回日本小児麻酔学会, 1997. 9.
- 16) 岩崎かな子, 星野 健, 坂本篤裕, 小川 龍: 腹壁吊り上げ式による内視鏡腹腔内手術の麻酔. 第37回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 1997. 9.
- 17) 赤田信二, 清水 淳, 坂本篤裕, 小川 龍: エホバの証人で出血性ショック及び敗血症性ショックを合併した症例の麻酔経験. 第16回日本蘇生学会総会, 1997. 10.
- 18) 志賀俊哉, 中西一浩, 竹田晋浩, 坂本篤裕, 小川 龍: Hayek Oscillatorによる Negative Pressure Ventilationの循環動態に与える影響: 経食道心エコーによる評価. 第17回日本臨床麻酔学会総会, 1997. 11.
- 19) 角田 健, 横田哲也¹⁾, 上原 清¹⁾, 遠藤正宏¹⁾, 野本幸子¹⁾, 藤田和明²⁾, 山田光輝²⁾, 小川 龍 (¹⁾ 関東労災病院麻酔科, ²⁾ 日本医科大学多摩永山病院麻酔科): プロポフォールを用いたPatient Controlled Sedation (PCS) 第2報. 第17回日本臨床麻酔学会総会, 1997. 11.
- 20) 石田浩康, 北村 晶, 小川 龍: 細菌除去能フィルター付人工鼻 (F-HME) における加湿効果と細菌除去能効果. 第17回日本臨床麻酔学会, 1997. 11.
- 21) 鈴木規仁, 石田浩康, 小林正雄, 坂本篤裕, 小川 龍: 術後1日目に高ミオグロビン尿症を呈して透析を行った

- 症例. 第17回日本臨床麻酔学会, 1997. 11.
- 22) 中西一浩, 竹田晋浩, 石川 源, 坂本篤裕, 高野照夫¹⁾, 小川 龍⁽¹⁾ 日本医科大学集中治療室): 心肺バイパス (CPB) 及びCPB後の炎症性サイトカイン値上昇が心筋障害指標 (Troponin T, Tmyosin Light Chain) ・心機能の与える影響. 第17回日本臨床麻酔学会総会, 1997. 11.
- 23) 清水 淳, 坂本篤裕, 小川 龍, 中西一浩, 竹田晋浩: 虚血性心疾患, 心不全既往患者の非心臓手術における術前評価 (ドブタミン負荷心エコー法を用いて). 第17回日本臨床麻酔学会総会, 1997. 11.
- 24) 福島光浩¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 坂本篤裕, 原口秀司¹⁾, 秋山博彦¹⁾, 三上 徹¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 田中茂夫¹⁾ (日本医科大学第二外科): 胸腔鏡下胸部交感神経節焼灼術の経験. 第10回日本内視鏡外科学会総会, 1997. 12.
- 25) 森山みちる, 中西一浩¹⁾, 吉田 晃¹⁾, 保坂浩希²⁾, 大久保直子¹⁾, 木内 要¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 小川 龍, 高野照夫¹⁾ (日本医科大学集中治療室, ²⁾ 総合高津中央病院): 急性腎障害を合併した急性心筋梗塞・うっ血性心不全重症例に対する血液浄化法. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 26) 志賀俊哉, 星野 健, 篁 武郎, 坂本篤裕, 小川 龍: 慢性疼痛患者に対するサイアミラール, ケタミン, ベンゾジアゼピンテストの有用性. 第27回日本慢性疼痛学会, 1998. 3.
- 27) 森山みちる, 坂本篤裕, 小川 龍: 腹部救急手術の重症度と麻酔管理. 第29回日本腹部救急医学会, 1998. 3.
- 28) 中島祐史, 赤田信二, 森山みちる, 石川 源, 中西一浩, 坂本篤裕, 小川 龍, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 宮下正夫¹⁾ (日本医科大学集中治療室): 食道術後患者における著明な白血球減少を示した症例. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 29) 清水 淳, 中西一浩, 坂本篤裕, 小川 龍, 竹田晋浩¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 高野照夫¹⁾ (日本医科大学集中治療室): 虚血性心疾患, 心不全既往患者の非心臓手術における術前評価 (ドブタミン負荷心エコー法を用いて). 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.

[第二病院麻酔科]

研究概要

独特な診断技術である陰陽・虚実、気・血・水、証の概念を知って投与しなければならない漢方薬の中で、もっとも単純な生薬から構成されるものは芍薬甘草湯である。構成成分の芍薬と甘草はそれぞれ単独であるいは共に、何らかの鎮痛目的で使用される方剤には殆ど配合されている。通常、芍薬甘草湯は中医学的な証等を考慮せずとも良く、ペインクリニックの漢方としては使い易く、それらがどのような徐痛効果をもたらすかを引き続き研究した。また、胸部外科開設に伴い、人工心肺施行中に経験した注意すべき症例について報告した。

研究業績

論文

(1) 総説:

- 1) 島田洋一, 赤羽日出男, 木下隆央, 内木亮介: 機能性月経困難症における芍薬甘草湯のVisual Analogue Scale (VAS) による除痛効果の検討. 痛みと漢方 1997; 7 (別冊): pp17-24.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演:

- 1) 鈴木恵一郎, 赤羽日出男, 木下隆央, 島田洋一: 芍薬甘草湯による機能性月経困難症の治療例. 神奈川専門医学会, 1997. 2.

(1) 一般講演：

- 1) 大島正行，鈴木恵一郎，横山健至，岩田隆成，杉本季久造，島田洋一：人工心肺開始直後に高カリウム血症を来たした1例．第17回日本臨床麻酔学会総会，1997．11．
- 2) 鈴木恵一郎，丸茂穂積，木下隆央，杉本季久造，島田洋一：麻酔導入前の末梢静脈路確保時に心停止を来たした1例．第17回日本臨床麻酔学会総会，1997．11．

[多摩永山病院麻酔科]

研究概要

当教室は，以下に記す継続的研究内容を持ち研究報告を行っている．

(1) 脊椎麻酔：脊椎麻酔の広がり重要な因子となる脊椎の弯曲をMRIにて検討，高比重と等比重2%リドカイン脊椎麻酔の比較，0.5%プリバカインの注入速度による脊椎麻酔の広がり比較，脊椎麻酔下の徐脈や不整脈，脊椎麻酔中のプロポフォール鎮静，0.5%テトラカイン脊椎麻酔の溶媒による比較，高度肥満者の脊椎麻酔，脊椎麻酔下の体位変換による徐脈と低血圧，ネオペルカミンSの臨床薬理的調査

(2) 硬膜外併用脊椎麻酔：近年麻酔法として確立してきた麻酔法であるが硬膜外に注入した局所麻酔薬による脊椎麻酔域の上昇を検討

(3) 硬膜外麻酔：2%リドカインによる硬膜外麻酔の広がり，正中法による硬膜外穿刺法，術後鎮痛

(4) 低流量麻酔：低流量麻酔中のHbCO，低流量麻酔とプロポフォール

(5) 慢性関節リウマチ患者の麻酔：両膝人工関節置換術に対する輸血のタイミング，喉頭蓋の位置と形態，鎖骨下法腕神経叢ブロック，気管内隆起性病変を疑った症例，手術を中止した悪性慢性関節リウマチ患者症例

(6) 麻酔中の不整脈：脊椎麻酔下の不整脈，局所麻酔下のST低下，VT，心筋梗塞

(7) 術後鎮痛：注入式簡易PCAシステムの検討，持続硬膜外麻酔による腹部手術の術後鎮痛，術後鎮痛のために胃潰瘍の発見遅延症例

(8) 疼痛管理：ジブカインによる陰部神経ブロック，頸部交感神経ブロックによる反対側の上肢血流の比較，化膿性頸椎椎間板炎の臨床的検討，救急・ICU・外科系病棟におけるベッドサイドの鎮痛・鎮静管理

(9) プロポフォール：プロポフォールのPCA，プロポフォールによる喘息発作，ラリンゴマイクロに対する使用，低流量麻酔との併用，脊椎麻酔や腕神経叢ブロック時の鎮静薬としての使用

(10) その他：透析患者麻酔の総説，バセドウ病，亜型悪性高熱症，等の症例報告

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著：

- 1) Masuda R¹⁾, Tanuma K²⁾, Inoue T³⁾, Yokoyama K¹⁾ (1) Daiichi Hospital, 2) Second Department Anatomy, 3) Chiba-Hokusou Hospital) : The effects of unilateral cervical sympathetic block on the contralateral limb blood flow. The International Monitor 1997 ; 9 (3) : 186-186.
- 2) Omi S¹⁾, Shiga M¹⁾, Yokoyama K¹⁾ (1) Daiichi Hospital) : Effect of speed of injection on the spread of spinal anesthesia with 0.5% plain bupivacaine. The International Monitor 1997 ; 9 (3) : 163-163.
- 3) Yokoyama K¹⁾, Omi S¹⁾, Shiga M¹⁾ (1) Daiichi Hospital) : Magnetic Resonance Imaging of the lumbar spinal column in supine position. The International Monitor 1997 ; 9 (3) : 56-56.

(1) 原著：

- 1) 志賀麻記子¹⁾, 横山和子¹⁾ (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : 慢性関節リウマチ患者の人工膝関節置換術における輸血のタイミング. 臨麻 1997 ; 21 (5) : 773-776.
- 2) 藤田和明, 金子勝利, 斎藤敏之, 山田光輝, 田島英雄¹⁾, 加藤秀一¹⁾ (¹⁾ 東海大学医学部麻酔科学教室) : 注入式簡易PCAシステム (K-PCA [®]) におけるリザーバー容量の精度と使用感の検討. ペインクリニック 1997 ; 18 (6) : 792-794.
- 3) 佐藤英記¹⁾, 矢野善章¹⁾, 横山和子¹⁾ (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : 分離肺換気による全身麻酔中に重症悪性高熱症が疑われた1症例. 麻酔と蘇生 1997 ; 33 : 39-42.
- 4) 佐伯 茂¹⁾, 鈴木 太¹⁾, 小川節郎¹⁾, 花岡一雄²⁾, 釘宮豊城³⁾, 横山和子⁴⁾, 一色 淳⁵⁾, 細山田明義⁶⁾, 菊池博達⁷⁾, (¹⁾ 駿河台日本大学病院麻酔科, ²⁾ 東京大学医学部付属病院麻酔科, ³⁾ 順天堂大学付属順天堂医院麻酔科, ⁴⁾ 付属第一病院麻酔科, ⁵⁾ 東京医科大学麻酔科, ⁶⁾ 昭和大学病院麻酔科, ⁷⁾ 東邦大学医学部附属大森病院麻酔科) : ネオベルカミンSの臨床薬理学的調査. 新薬と臨床 1997 ; 46 (12) : 213-226.
- 5) 南須原宏城¹⁾, 近江禎子¹⁾, 横山和子¹⁾ (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : Laryngomicrosurgeryにおける propofolの使用経験. PHARMACOANESTHESIOLOGY 1998 ; 10 (2) : 62-63.

(2) 綜説：

- 1) 横山和子¹⁾ (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : 透析患者の麻酔法. 臨床透析 1997 ; 13 (7) : 809-818.
- 2) 横山和子¹⁾ (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : 第16回ヨーロッパ局所麻酔学会学会総会. ペインクリニック 1997 ; 18 (8) : 1189.
- 3) 横山和子¹⁾ (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : 第10回日本局所麻酔学会総会. ペインクリニック 1998 ; 19 (1) : 148.
- 4) 横山和子¹⁾ (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : 維持透析患者の麻酔—第42回日本透析医学会カレントコンセプトより—. 透析会誌 1998 ; 31 (1) : 25-29.

著 書

- 1) 横山和子 (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : [翻訳・分担] 神経・筋疾患を持つ患者の麻酔, 脊髄損傷に対する麻酔. 脳神経外科と麻酔ハンドブック [落合亮一監修], 1997 ; pp123-153, 医学書院.
- 2) 横山和子 (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : [分担] 術後鎮痛・鎮静法について [田上 恵編]. 救急・ICU・外科系病棟におけるベッドサイドの鎮痛・鎮静管理, 1998 ; pp227-235, 真興交易医学出版.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演：

- 1) 志賀麻記子¹⁾, 益田律子¹⁾, 横山和子¹⁾, 雨宮志門²⁾ (¹⁾ 付属第一病院, ²⁾ 千葉北総病院内科) : 左側腰部交感神経節アルコールブロック特発性全身無汗症となった1症例. 第9回日本ペインクリニック学会・東京地方会, 1997. 3.

(1) 一般講演：

- 1) Yokoyama K¹⁾, Omi S¹⁾, Shiga M¹⁾ (¹⁾ Daiichi Hospital) : Magnetic Resonance Imaging of the Lumbar Spinal Column in Supine Position. X VI ANNUAL ESRA CONGRESS (London), 1997. 9.
- 2) Omi S¹⁾, Shiga M¹⁾, Yokoyama K¹⁾ (¹⁾ Daiichi Hospital) : Effect of Speed of Injection on The Spread of Spinal Anesthesia with 0.5 % Plain Bupivacaine. X VI ANNUAL ESRA CONGRESS (London), 1997. 9.

- 3) Masuda R¹⁾, Tanuma K²⁾, Inoue T³⁾, Yokoyama K¹⁾ (1) Daiichi Hospital, 2) Second Department Anatomy, 3) Chiba-Hokusou Hospital) : The Effects of Unilateral Cervical Sympathetic Block on The Contralateral Limb Blood Flow. X VI ANNUAL ESRA CONGRESS (London), 1997. 9.
- 4) Matsuo C¹⁾, Yokoyama K¹⁾, Shiga M¹⁾, Iino O¹⁾ (1) Daiichi Hospital) : Evaluation of An Epidural Top-Up in Combined Spinal Epidural Anesthesia Using Two Different Techniques. 10th ASEAN CONGRESS OF ANESTHESIOLOGISTS, 1997. 12.
- 5) Yokoyama K¹⁾, Omi S¹⁾, Siga M¹⁾ (1) Daiichi Hospital) : Incidence of Hypotension and Bradycardia Following Spinal Anesthesia. 10th ASEAN CONGRESS OF ANESTHESIOLOGISTS, 1997. 12.
- 6) Iino O¹⁾, Omi S¹⁾, Yokoyama K¹⁾ (1) Daiichi Hospital) : Quantative Assessment of Spinal Anesthesia by Using 2% Hyperbaric or Isobaric Lidocaine. 10th ASEAN CONGRESS OF ANESTHESIOLOGISTS, 1997. 12.
- 7) Shibasaki Y¹⁾, Omi S¹⁾, Yokoyama K¹⁾ (1) Daiichi Hospital) : The Spread of Epidural Analgesia by Injection 2% Lidocaine. 10th ASEAN CONGRESS OF ANESTHESIOLOGISTS, 1997. 12.
- 8) Shibasaki Y, Nasuhara H, Yokoyama K : Propofol Sedation During Spinal Anesthesia. 1st CONGRESS OF ASIAN AND OCEANIC SOCIETY FOR INTRAVENOUS ANESTHESIA, 1998. 2.
- 9) 柴崎敬乃¹⁾, 横山和子¹⁾ (1) 付属第一病院麻酔科) : 0.125% BupivacaineとMorphineによる術後鎮痛効果について。硬膜外麻酔研究会, 1997. 4.
- 10) 益田律子¹⁾, 横山和子¹⁾ (1) 付属第一病院麻酔科) : 側臥位下肢整形外科手術における0.5%テトラカイン脊椎麻酔について—溶媒3種類による低・等比重脊椎麻酔の比較。第44回日本麻酔学会総会, 1997. 4.
- 11) 近江禎子¹⁾, 横山和子¹⁾ (1) 付属第一病院麻酔科) : 2%高比重リドカインによる脊椎麻酔—2%等比重リドカインとの比較。第44回日本麻酔学会, 1997. 4.
- 12) 志賀麻記子¹⁾, 横山和子¹⁾ (1) 付属第一病院麻酔科) : 低流量麻酔とプロポフォル持続静注の併用。第44回日本麻酔学会総会, 1997. 4.
- 13) 松尾千恵美¹⁾, 横山和子¹⁾ (1) 付属第一病院麻酔科) : 低流量GOI麻酔下におけるCOHb値の経時的変化。第44回日本麻酔学会総会, 1997. 4.
- 14) 飯野 治¹⁾, 近江禎子¹⁾, 横山和子¹⁾ (1) 付属第一病院麻酔科) : 胸部レ線上の大動脈弓部石灰化の麻酔導入時の高血圧との相関について。第44回日本麻酔学会総会, 1997. 4.
- 15) 鈴木高佳¹⁾, 川田亜紀子¹⁾, 横山和子¹⁾ (1) 付属第一病院麻酔科) : 仰臥位における腰部脊椎の湾曲に関する検討。第44回日本麻酔学会総会, 1997. 4.
- 16) 矢野喜章¹⁾, 松尾千恵美¹⁾, 横山和子¹⁾ (1) 付属第一病院麻酔科) : 慢性関節リウマチ患者20例の喉頭蓋の位置及び形態に関する考察。第44回日本麻酔学会総会, 1997. 4.
- 17) 志賀麻記子¹⁾, 飯野 治¹⁾, 横山和子¹⁾ (1) 付属第一病院麻酔科) : 慢性関節リウマチ患者における鎖骨下法による腕神経叢ブロックの検討。第41回日本リウマチ学会, 1997. 5.
- 18) 南須原宏城¹⁾, 近江禎子¹⁾, 益田律子¹⁾, 横山和子¹⁾ (1) 付属第一病院麻酔科) : Laryngomicrosurgeryにおけるpropofolの使用経験。日本麻酔・薬理学会, 1997. 6.
- 19) 益田律子¹⁾, 日下部史郎¹⁾, 横山和子¹⁾ (1) 付属第一病院麻酔科) : 星状神経節ブロックに合併した頸椎化膿性椎体椎間板炎の臨床的検討。第31回日本ペインクリニック学会, 1997. 7.
- 20) 斎藤敏之¹⁾, 山田光輝, 平賀一陽 (1) 国立癌センター麻酔科) : 陰部神経痛にジブカインによる陰部神経ブロックが有効性を示した1症例。第31回日本ペインクリニック学会, 1997. 7.
- 21) 南須原宏城¹⁾, 近江禎子¹⁾, 横山和子¹⁾ (1) 付属第一病院麻酔科) : 脊椎麻酔とpropofolの併用について。第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.

- 22) 飯野 治¹⁾, 志賀麻記子¹⁾, 横山和子¹⁾ (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : 手術, 麻酔を中止せざるをえなかった悪性関節リウマチ患者の1症例. 第37回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 1997. 9.
- 23) 南須原宏城¹⁾, 志賀麻記子¹⁾, 横山和子¹⁾ (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : 術前頸部X-Pで気管内隆起病変が疑われたRA患者の1症例. 第37回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 1997. 9.
- 24) 柴崎敬乃¹⁾, 志賀麻記子¹⁾, 横山和子¹⁾ (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : 眼科手術の局所麻酔施行後, 急性心筋梗塞の発作が疑われた1症例. 第37回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 1997. 9.
- 25) 石原之法, 山田光輝, 天本 治 : プロポフォール麻酔中に喘息発作を発症した1症例. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 26) 近江禎子, 横山和子 : 急激な体位変換により徐脈と低血圧を呈した脊椎麻酔症例. 第10回日本局所麻酔学会, 1997. 11.
- 27) 南須原宏城, 近江禎子, 横山和子 : 脊椎麻酔とpropofolの併用について. 第10回日本局所麻酔学会, 1997. 11.
- 28) 角田 健¹⁾, 横田哲也¹⁾, 上原 清¹⁾, 遠藤正宏¹⁾, 野本幸子¹⁾, 藤田和明, 山田光輝, 小川 龍²⁾ (¹⁾ 関東労災病院麻酔科, ²⁾ 日本医大麻酔科学教室) : プロポフォールを用いたPatient Controlled Sedation (PCS) 第2報. 第17回日本臨床麻酔学会総会, 1997. 11.
- 29) 横山和子¹⁾, 近江禎子¹⁾, 志賀麻記子¹⁾ (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : 脊椎麻酔直後にみられる低血圧と徐脈についての検討. 第17回日本臨床麻酔学会, 1997. 11.
- 30) 近江禎子¹⁾, 横山和子¹⁾ (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : 高度肥満者での脊椎麻酔の広がりやうまく調節しえた1症例. 第17回日本臨床麻酔学会, 1997. 11.
- 31) 飯野 治¹⁾, 志賀麻記子¹⁾, 横山和子¹⁾ (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : 術中の頻脈からHyperthyroidism が判明した1症例. 第17回日本臨床麻酔学会, 1997. 11.
- 32) 志賀麻記子¹⁾, 横山和子 (¹⁾ 付属第一病院麻酔科) : 低流量麻酔とプロポフォール持続静注の併用. 第5回低流量麻酔研究会, 1997. 11.
- 33) 近江禎子, 森 秀樹¹⁾, 横山和子 (¹⁾ 日下部病院) : 術後鎮痛のため胃潰瘍の発見が遅延した1症例. 第10回日本老年麻酔学会総会, 1998. 2.
- 34) 志賀麻記子, 近江禎子, 横山和子 : 硬膜外穿刺法 (正中法) について. 第4回硬膜外麻酔研究会, 1998. 3.

[千葉北総病院麻酔科]

研究概要

医局員の主力が付属病院からの出向者で占められ, 入れ替わりもあるため小川龍主任教授主導の「外科的侵襲に対する生体反応の調節・抑止を目指した麻酔法の探求」は依然付属病院と共通テーマである. さらに教室伝統の「硬膜外麻酔による生理学的影響」のほか, 第一病院から益田律子講師を迎え, 横山和子教授主導の「脊椎麻酔」や疼痛管理に関する臨床研究も新たなテーマとなりつつある. 今後とも, 各付属病院との連携が非常に大切となろう.

現在のところ臨床研究に限られているが, 手術室やペインクリニックの日常診療の中からオリジナリティーのある研究の芽が育ちつつある. 腹腔鏡下手術時の硬膜外圧, 硬膜外穿刺法の再評価, プロポフォール注入時痛に対する硬膜外麻酔の効果, 星状神経節や三叉神経ブロックの効果の考察, 挿管困難の具体策などごく身近な臨床での疑問や知見から出発した研究課題である. また本年は, これも麻酔臨床の基本中の基本である気道管理に関する英文テキストを医局員数名で翻訳出版した.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kitamura A¹⁾, Sakamoto A¹⁾, Inoue T, Ogawa R¹⁾ (¹⁾ Dept. of Anaesthesia, Nippon Medical School) : Efficacy of an ultrashort-acting β -adrenoceptor blocker (ONO-1101) in attenuating cardiovascular responses to endotracheal intubation. *Eur J Pharmacol* 1997 ; 51 : 467-471.
- 2) Yoshikawa T, Ogura A¹⁾, Inoue T (¹⁾ Dept. of Anesth., Jap. Red Cross Med. Cent.) : Atypical course of complications observed in a mandibular nerve block using 10% phenol in glycerin. *Jpn J Soc Pain Clinic* 1997 ; 4 : 467-471.
- 3) Wajima Z, Shitara T¹⁾, Ishikawa G¹⁾, Kaneko K¹⁾, Inoue T, Ogawa R²⁾ (¹⁾ Dept. of Anaesthesia, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. of Anaesthesia, Japan Red Cross Hospital) : Analgesia after upper abdominal surgery using extradural administration of a fixed dose of buprenorphine in combination with lignocaine given at two infusion rates : A comparative study. *Acta Anaesthesiol Scand* 1997 ; 41 : 1061-1065.
- 4) Wajima Z, Shitara T¹⁾, Ishikawa G, Inoue T (¹⁾ Dept. of Anaesthesia, Nippon Medical School) : Analgesia after upper abdominal surgery with extradural buprenorphine with lidocaine. *Can J Anaesth* 1998 ; 45 : 28-33.
- 5) 小倉 明¹⁾, 吉河達祐, 池田健次, 井上哲夫 (¹⁾ 日本赤十字社医療センター麻酔科) : 腹腔鏡下胆嚢摘出術における気腹操作の硬膜外圧に及ぼす影響. *麻酔* 1997 ; 46 : 484-491.
- 6) 井上哲夫, 池田健次, 釘宮豊城¹⁾, 伊藤博巳¹⁾ (¹⁾ 順天堂大学医学部麻酔科) : 局所圧迫止血材STP-IIによる動脈留置カニューレ抜去後の止血に対する臨床的評価. 薬理と治療 1997 ; 25 : 2195-2202.
- 7) 加藤啓一¹⁾, 種田益造¹⁾, 内山 陸¹⁾, 田島夕紀子¹⁾, 小倉 明, 小澤和紀 (¹⁾ 日本赤十字社医療センター麻酔科) : 硬膜外カテーテル径がディスプレイ持続注入器流量に及ぼす影響—DIBカテーテル (50ml-24hrタイプ) での検討—. *臨床麻酔* 1997 ; 21 (10) : 1530-1534.
- 8) 吉河達祐, 輪嶋善一郎, 井上哲夫 : オッシロメトリック法による加圧過程測定式自動血圧計 (USM-700GV) の精度に関する研究. *日本手術医学会誌* 1997 ; 18 : 408-413.

(2) 綜説：

- 1) 井上哲夫 : 挿管困難の予測と対策 (特集 : 気道確保). *オペナーシング* 1997 ; 27 : 631-636.
- 2) 井上哲夫 : 気管内挿管困難の対策. *日本臨床麻酔学会誌* 1997 ; 17 : 349-356.
- 3) 吉河達祐 : 麻酔科領域のアレルギー性疾患-気管支喘息, 花粉症の経験. *アレルギーの領域* 1997 ; 4 (7) : 96-101.
- 4) 益田律子 : 神経ブロックによる疼痛管理. *臨床と薬物治療* 1997 ; 16 (10) : 870-874.

著書

- 1) 井上哲夫, 吉河達祐, 小倉 明 : [監修翻訳] エアウェイブック. エアウェイブック (井上哲夫監訳), 1997 ; pp1-297, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 2) 井上哲夫 : [分担翻訳] 気道の解剖, 気道管理に用いる装置・器具, ファイバースコープによる挿管, 挿管前の気道評価, 挿管困難, 機械的人工呼吸. エアウェイブック (井上哲夫監訳), 1997 ; pp1-288, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 3) 吉河達祐 : [分担翻訳] 基本的な気道管理と心肺蘇生 (CPR), 挿管手技, 気道管理の外科的アプローチ. エアウェイブック (井上哲夫監訳), 1997 ; pp15-244, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 4) 小倉 明 : [分担翻訳] 挿管の適応と準備・前処置. エアウェイブック (井上哲夫監訳), 1997 ; pp117-276, メディカル・サイエンス・インターナショナル.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 益田律子：維持透析患者の局所麻酔．第31回日本透析医学会学術集会・総会，1997．7．

(2) 一般講演：

- 1) Masuda R, Tanuma K¹⁾, Inoue T, Yokoyama K²⁾ (¹⁾ Second dept. Anatomy, ²⁾ Dept. of Anaesthesia, Tamanagayama Hosp.) : The effects of unilateral cervical sympathetic block on the contralateral limb blood flow. XVI Annual ESRA Congress (London), 1997. 9.
- 2) Ogura A¹⁾, Yoshikawa T, Ozawa K¹⁾, Inoue T (¹⁾ Japanese Red Cross Medical Center) : A clinical comparison between the midline and paramedian approach for epidural puncture. 10th Asean Congress of Anesthesiologists (Chenmai), 1997. 12.
- 3) 小倉 明, 吉河達祐, 井上哲夫：腰部硬膜外穿刺時における正中法と傍正中法の比較．第44回日本麻酔学会総会，1997．4．
- 4) 輪嶋善一郎¹⁾, 設楽敏朗²⁾, 中島祐史¹⁾, 金 徹¹⁾, 小林徳行¹⁾, 角谷仁司, 足立 仁, 石川 源¹⁾, 金子勝利¹⁾ (¹⁾ 付属病院麻酔科, ²⁾ 国立循環器病センター麻酔科) : 腕神経叢ブロック (腋窩法) の術後疼痛管理への応用．第44回日本麻酔学会総会，1997．4．
- 5) 原田昌明, 角谷仁司, 小倉 明¹⁾, 池田健次, 井上哲夫 (¹⁾ 日本赤十字社赤医療センター麻酔科) : 挿管時に発見された巨大口頭蓋嚢胞の1例．第37回日本麻酔学会関東甲信越地方会，1997．9．
- 6) 青山晋作¹⁾, 田二見栄助¹⁾, 高津奈緒美¹⁾, 藤川郷美¹⁾, 井上哲夫 (¹⁾ 日本医科大学付属千葉北総病院中央手術室) : 気道確保困難用カートの試作．第19回日本手術医学会総会，1997．9．
- 7) 吉河達祐, 輪嶋善一郎, 今永和幸, 益田律子, 井上哲夫：プロポフォール静脈内注入時の血管痛に対する硬膜外麻酔の効果．第16回日本臨床麻酔学会総会，1997．11．
- 8) 小倉 明¹⁾, 吉河達祐, 角谷仁司, 井上哲夫 (¹⁾ 日本赤十字社医療センター麻酔科) : 腰部硬膜外カテーテル造影によるカテーテル走行の確認：正中法および傍正中法の比較．第16回日本臨床麻酔学会総会，1997．11．
- 9) 吉河達祐, 輪嶋善一郎, 井上哲夫：プロポフォール静脈内注入時の血管痛に対する硬膜外麻酔の効果 (2)．第4回日本静脈麻酔・Infusion Technology研究会，1997．11．
- 10) 益田律子, 鶴田宏之¹⁾, 井上哲夫 (¹⁾ 付属千葉北総病院外科) : ナロキソン持続投与により管理し得た硬膜外大量モルヒネ誤投与の一症例．第11回日本ペインクリニック学会東京地方会，1998．1．
- 11) 小倉 明¹⁾, 吉河達祐, 小澤和紀¹⁾, 井上哲夫 (¹⁾ 日本赤十字社医療センター麻酔科) : 腰部硬膜外穿刺時における合併症の出現率およびカテーテル走行の確認-正中法および傍正中法の比較．第4回硬膜外麻酔研究会，1998．3．

18. 救急医学講座

[付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・千葉北総病院救命救急部・新東京国際空港クリニック]

研究概要

本年度は、山本保博主任教授就任初年度であったが、脳低体温療法、外傷における凝固線溶、集中治療における感染症に関する論文を中心に21編の例年に勝る原著論文が掲載された。英文の論文は9編が掲載された。3編は学位論文であり、望月医員の論文は日本熱傷学会でも高い評価を受けた。

当教室はこれまで救急医学の先頭に立ち診療活動のみならず、学会発表、論文においても多くの業績も収めてきたが、救急医学が学問としての成熟するとともに、学会においては、基礎研究を中心とした質の高い発表と論文が望まれるようになってきている。新主任教授はこれに対処するため、就任後さっそく基礎研究班の新設と臨床研究班の再編成を行った。特に基礎研究班は基礎研究の業績の多い小池医員を班長に、多臓器不全発症のメカニズムを解明するために、動物実験を開始したところである。臨床研究班も各班とも年間予定をすでに立てており、これで体制は整い、英文原著論文を中心に執筆されるであろう。

また、当教室は本年度は、国立国際医療センターへ医局員が出向し、これで6施設の救命救急センター、2施設の救命部、そして一つのクリニックを擁するに至ったが、今後は互いに切磋琢磨するとともに、多施設合同研究を施行していく計画である。

[付属病院高度救命救急センター]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kodama M¹⁾, Tani T¹⁾, Hanasawa K¹⁾, Hirata K²⁾, Hirasawa H³⁾, Oda S³⁾, Otsuka T⁴⁾, Yamamoto Y⁴⁾, Kanesaka S⁵⁾, Takahashi Y⁵⁾, Maekawa K⁶⁾, Wakabayashi Y⁷⁾, Tamakuma S⁸⁾, Sugimoto T⁹⁾, The PMX Clinical Study Group (1) First Department of Surgery, Shiga University of Medical Science, (2) First Department of Surgery, Sapporo Medical College, (3) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Chiba University School of Medicine, (4) Department of Emergency and Critical Care Medicine, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, (5) Showa University Fugigaoka Hospital, (6) Department of Traumatology and Critical Care Medicine, Faculty of Medicine, Tokyo University, (7) Department of Emergency and Critical Care Medicine, School of Medicine, Kitasato University, (8) First Department of Surgery, National Defense Medical College, (9) Department of Traumatology, Osaka University Medical School) : Treatment of sepsis by plasma endotoxin removal : hemoperfusion using a polymyxin-B immobilized column. *Journal of Endotoxin Research* 1997 ; 4 (4) : 293-300.
- 2) Ikeda Y, Toda S¹⁾, Kawamoto T¹⁾, Teramoto T¹⁾ (1) 脳神経外科) : Arginine vasopressin release inhibitor RU51599 attenuates brain oedema following transient forebrain ischaemia in rats. *Acta Neurochir (Wien)* 1997 ; 139 (12) : 1166-1172.
- 3) Ikeda Y, Teramoto T¹⁾ (1) 脳神経外科, (2) 実生研) : Attenuation of cryogenic induced brain oedema by arginine vasopressin release inhibitor RU51599. *Acta Neurochir (Wien)* 1997 ; 139 (12) : 1173-1180.

- 4) Miyauchi M, Hisayasu S, Shimada T : Influenza Fusogenic peptide in DNA complex Enhances Asialoglycoprotein Receptor : Mediated Gene Transfer to Hepatoma Cells : A strategy for Liver - Targeting Gene therapy. J Clin Biochem Nutr 1997 ; 23 : 85-93.
- 5) Koike K, Yamamoto Y, Otsuka T, Peterson VM : Splenic Myelopoiesis in a Murine Model of Thermal Injury. 熱傷 1997 ; 23 : 145-151.
- 6) Taoka Y, Okajima K, Uchiba M, Murakami K, Kushimoto S, Johnno M, Naruo M, Okabe H, Takatsuki K : Role of neutrophils in spinal cord injury in the rat. Neuroscience 1997 ; 79 (4) : 1177-1182.
- 7) Taoka Y, Okajima K, Uchiba M, Murakami K, Kushimoto S, Johnno M, Naruo M, Okabe H, Takatsuki K : Gabexate mesilate, a synthetic protease inhibitor, prevents compression - induced spinal cord injury by inhibiting activation of leukocytes in rats. Crit Care Med 1997 ; 25 (5) : 874-879.
- 8) Homma M, Henmi H, Otomo Y, Inoue J, Kato H, Arai T : Coagulation and fibrinolysis after head injury. Crit Care 1998 ; 2 (Suppl 1) : 22.
- 9) Murai Y¹⁾, Ikeda Y (¹⁾ 脳神経外科) : Magnetic resonance imaging documented extravasation as an indication of acute hypertensive intracerebral hemorrhage. J Neurosurg 1998 ; 88 : 650-655.
- 10) Koike K, Yamamoto Y, Peterson VM : Myelopoietic effects of interleukin - 1a in a murine model of thermal injury. 熱傷 1998 ; 24 : 11-20.
- 11) Otomo Y, Henmi H, Honma M, Kato H, Inoue J, Arai T : Significance of the changes in blood fibrinogen levels as an acute phase reactant in septic DIC. Crit Care 1998 ; 2 (Suppl 1) : 21.
- 12) 井上潤一, 大友康裕, 小野寺謙吾, 加藤 宏, 雅楽川 聡, 本間正人, 原口義座, 辺見 弘 : 直腸損傷を伴った開放性骨盤骨折の2症例. 日救急医学会関東誌 1997 ; 18 (1) : 30-31.
- 13) 加藤 宏, 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 小野寺謙吾, 原口義座, 辺見 弘 : 四肢における新鮮動脈損傷の臨床的検討. 日救急医学会関東誌 1997 ; 18 (1) : 34-35.
- 14) 本間正人, 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 小野寺謙吾, 原口義座, 辺見 弘, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文 : 重症急性膵炎死亡例の検討. 日救急医学会関東誌 1997 ; 18 (1) : 96-97.
- 15) 小柳正雄, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 犬塚 祥, 高橋幸道, 小川理郎, 谷本佐理名, 松浦有里子, 大塚敏文 : 長期停滞した消化管異物による穿孔性腹膜炎の1例. 日救急医学会関東誌 1997 ; 18 (1) : 116-117.
- 16) 鷺見 学, 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 小野寺謙吾, 雅楽川聡, 原口義座, 辺見 弘 : 近赤外線スペクトロスコープから見た各種心肺蘇生法における脳血流の比較. 日救急医学会関東誌 1997 ; 18 (1) : 128-129.
- 17) 松浦有里子, 横田裕行, 加藤一良, 犬塚 祥, 小池 薫, 小川理郎, 谷本佐理名, 大塚敏文, 日野光紀, 大秋美治 : 急激な臨床経過を呈した好酸球性肺炎の1例. 日救急医学会関東誌 1997 ; 18 (1) : 212-213.
- 18) 二宮宣文, 土佐亮一, 金 史英, 宮沢とも子, 小関一英 : 低体温療法中のトロンボモジュリンとプロテインCの変動. 日救急医学会関東誌 1997 ; 18 (1) : 292-293.
- 19) 小野寺謙吾, 雅楽川聡, 原口義座, 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 辺見 弘 : 低体温療法中の易感染性とその基礎病態. 日救急医学会関東誌 1997 ; 18 (1) : 294-295.
- 20) 島田 靖, 久志本成樹, 木村昭夫, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文, 柴田泰史¹⁾ (¹⁾ 付属病院中央検査部) : 自動血液ガス分析装置AVL OPTI 1の使用経験. 日救急医学会関東誌 1997 ; 18 (1) : 314-315.
- 21) 池田幸穂, 横田裕行, 山本保博 : 破裂末梢性中大脳動脈瘤の検討. 日救急医学会関東誌 1997 ; 18 (2) : 262-263.
- 22) 井上潤一, 大友康裕, 本間正人, 雅楽川聡, 小野寺謙吾, 原口義座, 辺見 弘 : 多部位腸管断裂 (小腸2カ所, 横行結腸, S状結腸) に対して一期的吻合術を施行した腹部刺創の1例. 日救急医学会関東誌 1997 ; 18 (2) : 500-501.
- 23) 鷺見 学, 井上潤一, 大友康裕, 加藤 宏, 小野寺謙吾, 本間正人, 雅楽川聡, 小野田忠, 原口義座, 辺見

- 弘：胸骨横断両側開胸下ドレナージにより救命し得た深頸部縦隔膿瘍の1例。日救急医学会関東誌 1997；18 (2)：594-595.
- 24) 小野寺謙吾，本間正人，雅楽川聡，井上潤一，加藤 宏，大友康裕，原口義座，辺見 弘：血液型判定に難渋したAB型亜型 (A1Bm) の1症例。日救急医学会関東誌 1997；18 (2)：654-655.
- 25) 川井 真，原 義明，大泉 旭，益子邦洋，山本保博，大塚敏文：救命センターにおける労働災害症例の現状。日災医学会誌 1997；45 (6)：368-373.
- 26) 布施 明，横田裕行，池田幸穂，大橋一善，村上 守，佐藤秀貴，木村昭夫，小井土雄一，二宮宣文，黒川 顕，山本保博：重症脳障害に対する低体温療法。救急医 1997；21 (9)：1091-1094.
- 27) 牧野俊郎，前田容子，小池 薫，木村昭夫，川井 真，横田裕行，益子邦洋，山本保博，大塚敏文：国際空港と救急医療体制。救急医 1997；21 (11)：1500-1503.
- 28) 池田幸穂，布施 明，益子邦洋，山本保博：頭蓋内圧 (ICP) 測定用カテーテル。救急医 1997；21：1544-1546.
- 29) 池田幸穂：第4回国際神経外傷シンポジウム。救急医 1997；21 (13)：1755.
- 30) 望月 徹，木村昭夫，西澤健司¹⁾ (1) 付属病院薬剤部)：重症熱傷症例におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌肺炎に対する抗菌化学療法の研究。熱傷 1997；23 (5)：21.
- 31) 大友康裕，本間正人，辺見 弘：DICを併発した外科的SIRSにおける急性相蛋白としてのフィブリノーゲンの意義。バイオメデ 1997；7：35-42.
- 32) 柴田泰史¹⁾，里村克章¹⁾，木村昭夫，久志本成樹，益子邦洋，山本保博，大塚敏文，西澤健司²⁾ (1) 付属病院中央検査部，2) 付属病院薬剤部)：ATIII製剤投与による血中メディエーターの変動：抗炎症性サイトカインを中心に。バイオメデ 1997；7：75-83.
- 33) 本間正人，大友康裕，井上潤一，雅楽川聡，原口義座，辺見 弘：近赤外線スペクトロスコープから見た各種心肺蘇生法における脳血流の比較。脳死・脳蘇生研究会誌 1997；10：73-74.
- 34) 後藤真弓：凍結保存皮膚における生存能の指標としてのATP量測定の意義に関する研究。熱傷 1997；23 (5)：355-361.
- 35) 川本俊樹¹⁾，池田幸穂，寺本 明¹⁾ (1) 脳神経外科)：ラット一過性前脳虚血時におけるL-histidine (Singlet oxygen scavenger) の脳保護効果。脳と神 1997；49 (7)：612-618.
- 36) 田原重志¹⁾，池田幸穂，野手洋治¹⁾，寺本 明¹⁾，諫山和男¹⁾，高木 亮²⁾，隈崎達夫²⁾ (1) 脳神経外科，2) 放射線科)：破裂椎骨動脈瘤に対するproximal clipping術後評価における3次元CT血管造影法 (3D-CTA) の有用性。脳神経外科 1997；25 (8)：695-700.
- 37) 山下陽一¹⁾，鈴木紀成¹⁾，清水健司¹⁾，池田幸穂，寺本 明¹⁾ (1) 脳神経外科)：脳梁辺縁動脈非血管分岐部より生じた破裂脳動脈瘤の1例。脳神経外科 1997；25 (10)：933-937.
- 38) 仁平 信¹⁾，林田眞喜子¹⁾，大野曜吉¹⁾，犬塚 祥，柴田泰史²⁾，益子邦洋，山本保博 (1) 法医学教室，2) 付属病院中央検査部)：救急患者に対する簡易尿中薬物スクリーニングキットTriage[®]使用の評価。機器・試薬 1997；20 (4)：519-525.
- 39) 布施 明，横田裕行，池田幸穂，村上 守，大橋一善，佐藤秀貴，木村昭夫，小井土雄一，山本保博：重症頭部外傷に対する低体温療法の問題点：特に循環系，呼吸器感染症について。神経外傷 1997；20 (1)：33-37.
- 40) 村上 守，池田幸穂，諫山和男，饒波正博，布施 明，佐藤秀貴，柴田泰史，木村昭夫，山本保博：重症頭部外傷患者に対する低体温療法時の栄養管理。神経外傷 1997；20 (1)：38-42.
- 41) 宮内雅人，相星淳一，須崎紳一郎，木村昭夫，益子邦洋，黒川 顕，山本保博：エンドトキシン吸着療法 (PMX) におけるサイトカインの変動。エンドトキシン血症治療研究会誌 1997；1 (1)：3-8.
- 42) 小池 薫，趙 圭一，小川理郎，高橋幸道，犬塚 祥，加藤一良，横田裕行，田島なつき，岡田 進：99mTcO₄-急速注入による腹部ファーストパス像を用いた検討：出血性ショック蘇生後も腹腔内臓器への血流

分配低下は遷延することを示唆した1例. 日外感染症研会誌 1997; 9: 161-165.

- 43) 松本 尚, 益子邦洋, 木村昭夫, 山本保博, 大塚敏文, 小関一英, 大友康裕, 辺見 弘: 腹部刺創における診断的腹腔洗浄法の有用性. 日外傷会誌 1997; 11 (4): 237-241.
- 44) 小池 薫, Moore EE, 山本保博: 小腸虚血・再灌流が細菌感染に及ぼす影響. 外科と代謝・栄 1997; 31: 267-270.
- 45) 川井 真, 大泉 旭, 原 義明, 野崎正太郎, 高野研一郎, 益子邦洋, 山本保博: 重度骨盤骨折におけるC-Clamp戦略の意義. 日外傷会誌 1998; 12 (1): 17-22.
- 46) 山本保博: 大災害を想定した災害医療について. 全自病協雑誌 1998; 2月号: 19-27.
- 47) 横田裕行, 布施 明, 二宮宣文, 池田幸穂, 小関一英, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文, 小林士郎, 寺本明: 重症頭部外傷における低体温療法時の循環・呼吸器合併症. 脳外誌 1998; 7 (1): 9-13.
- 48) 木村昭夫, 留目優子, 大國寿士, 桜田紳策, 山本保博: Moderate Hypothermia下における多核白血球の遊走並びに貧食能の検討. 日救医会誌 1998; 9 (1): 18-19.
- 49) 川井 真, 勝見 敦, 和田貴子, 田中秀治, 辺見 弘, 島崎修次, 山本保博: スキンバンクとそのシステム. 集中治療 1998; 10 (2): 169-175.

(2) 総説:

- 1) Koike K, Yamamoto Y, Otsuka H, Murakami M, Kudo I: Phospholipase A2 in inflamed tissues and inflammatory exudates. Uhl W, Nevalainen TJ, Buchler MW (eds): Phospholipase A2. Basic and Clinical Aspects in inflammatory Disease. Prog Surg. Basel, Karger 1997; 24: 94-103.
- 2) 山本保博, 牧野俊郎: 成人病と水電解質異常: 病態と水電解質: 熱射病と水電解質. 臨成人病 1997; 27 (4): 551-553.
- 3) 大友康裕: 気道, 食道異物. 診断と治療 1997; 85 (Suppl): 484-491.
- 4) 大友康裕: 消化器病セミナー67「腹部外傷-診断と治療の進歩-」診断総論. 2) その他の診断法とその評価. 消化器病セミナー 1997; 67: 39-56.
- 5) 久志本成樹, 加地正人, 益子邦洋: 各種病態に対する輸液療法(質と量): 出血性ショック. 救急医 1997; 21 (5): 541-546.
- 6) 井上潤一, 本間正人, 加藤 宏, 大友康裕, 辺見 弘: 臍損傷の手術. 救急医 1997; 21: 757-769.
- 7) 本間正人, 大友康裕, 辺見 弘, 倉本憲明: カテーテル治療の現状と将来. 救急医 1997; 21: 1537-1542.
- 8) 小井土雄一, 益子邦洋, 山本保博: 血栓塞栓除去用バルーンカテーテル. 救急医 1997; 21 (12): 1598-1600.
- 9) 山本保博: 大規模災害における救急医療. 日救急医会関東誌 1997; 18 (1): 9-20.
- 10) 原口義座, 大友康裕, 本間正人, 雅楽川聡, 井上潤一, 加藤 宏, 小野寺謙吾, 辺見 弘: ヘリコプターによる患者搬送法の訓練・研修の問題点: 災害時対応を含めて. 日救急医会関東誌 1997; 18 (2): 488-489.
- 11) 小井土雄一, 黒川 顕: 外傷性胆道損傷の診断と治療. 外科治療 1997; 77 (4): 427-435.
- 12) 中村京太, 木村昭夫: 破傷風. 診断と治療 1997; 85: 423-431.
- 13) 吉田竜介, 益子邦洋, 山本保博: ATLS course for health care providers. 治療学 1997; 31 (8): 965-967.
- 14) 横田裕行, 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 佐藤秀貴, 布施 明, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文: 頭部外傷. 集中治療 1997; 9 (4): 399-407.
- 15) 益子邦洋, 久志本成樹: 急性症に対する輸液: 多発外傷. 医のあゆみ 1997; 183: 677-682.
- 16) 久志本成樹, 川井 真: 早期切除の実際と周術期患者管理. Emergency Nursing 1997; 10 (12): 1105-1111.
- 17) 山本保博: 21世紀に世界で起こる災害について. Emergency Nursing 1998; 11 (1): 1-1.
- 18) 山本保博: 国際医療協力はおもしろい. Emergency Nursing 1998; 11 (1): 10-14.
- 19) 二宮宣文: 国際災害医療協力: 政府組織JMTDRの活動. Emergency Nursing 1998; 11 (1): 21-25.

- 20) 山本保博：癒しの対話：第4話。Emergency Nursing 1998；11（1）：49-55.
- 21) 大友康裕：災害医療情報ネットワークについて。救急医療ジャーナル 1998；6：12-18.
- 22) 後藤真弓，大友康裕，辺見 弘：疾患特異的な栄養療法：熱傷患者。Medicina 1998；35：272-274.
- 23) 須崎紳一郎：虎穴に入らずんば虎子を得ず：臨床研修指定病院での卒後臨床研修。LiSA (Life Support and Anesthesia) 1998；5（1）：24-27.
- 24) 小池 薫：多臓器不全とホスホリパーゼA2。炎症と免疫 1998；6：24-29.
- 25) 久志本成樹，須崎紳一郎：ショックの鑑別診断と初期治療の考え方。内科 1998；81（5）：810-813.

著 書

- 1) Kushimoto S, Okajima K, Harada N, Mashiko K, Yamamoto Y, Otsuka T : Role of microthrombus formation in ischemia/reperfusion injury of rat liver. The Immune Consequences of Trauma, Shock and Sepsis. Faist E (Ed). Bologna, Monduzzi editore, 1997；pp495-502.
- 2) Harada N, Okajima K, Kushimoto S, Tanaka K, Okabe H : Antithrombin III attenuates ischemia/reperfusion injury of rat liver by inhibiting activation of leukocytes. The Immune Consequences of Trauma, Shock and Sepsis. Faist E (Ed). Bologna, Monduzzi editore, 1997；pp625-630.
- 3) 小池 薫：〔翻訳〕第50章 発熱。救急外来マニュアル第2版（監訳山本保博，上嶋権兵衛），1997；pp467-470，メデイカルサイエンスインターナショナル。
- 4) 小池 薫：〔翻訳〕第55章 腫瘍に伴う救急。救急外来マニュアル第2版（監訳山本保博，上嶋権兵衛），1997；pp493-500，メデイカルサイエンスインターナショナル。
- 5) 小池 薫：〔翻訳〕第56章 小児の鎮静。救急外来マニュアル第2版（監訳山本保博，上嶋権兵衛），1997；pp501-506，メデイカルサイエンスインターナショナル。
- 6) 小池 薫：〔翻訳〕第58章 放射線障害と被曝。救急外来マニュアル第2版（監訳山本保博，上嶋権兵衛），1997；pp580-591，メデイカルサイエンスインターナショナル。
- 7) 小池 薫：〔翻訳〕第59章 発疹，第60章 煙の吸入，第61章 自殺。救急外来マニュアル第2版（監訳山本保博，上嶋権兵衛），1997；pp592-612，メデイカルサイエンスインターナショナル。
- 8) 小池 薫：〔翻訳〕第60章 煙の吸入，第61章 自殺。救急外来マニュアル第2版（監訳山本保博，上嶋権兵衛），1997；pp613-615，メデイカルサイエンスインターナショナル。
- 9) 小池 薫：〔翻訳〕第61章 自殺。救急外来マニュアル第2版（監訳山本保博，上嶋権兵衛），1997；pp616-617，メデイカルサイエンスインターナショナル。
- 10) 山本保博：〔分担〕災害の種類とその対応。災害時の地域保健医療活動（監修厚生省健康政策局計画課・厚生省健康政策局指導課），1997；pp8-13，新企画出版社。
- 11) 山本保博：〔分担〕災害時における応急手当。災害時の地域保健医療活動（監修厚生省健康政策局計画課・厚生省健康政策局指導課），1997；pp33-44，新企画出版社。
- 12) 山本保博：〔分担〕11.中毒性疾患：中毒の特殊療法。内科治療ガイド'97：治療戦略の立て方と病態に応じた治療の実際（Medical Practice編集委員会・編），1997；pp1255-1260，文光堂。
- 13) 山本保博：〔分担〕災害の経時的変化とその対応。災害時の地域保健医療活動（監修厚生省健康政策局計画課・厚生省健康政策局指導課），1997；pp14-21，新企画出版社。
- 14) 牧野俊郎：〔共著〕第11回救急救命士国家試験問題 解答 解説集。第11回救急救命士国家試験問題 解答 解説集（監修山本保博），1997；へるす出版。
- 15) 小池 薫：〔分担〕第11回救命救急士国家試験問題解答解説集。第11回救命救急士国家試験問題解答解説集（監修 山本保博），1997；pp26-36，ヘルス出版。

- 16) 山本保博：〔監修〕第12回救急救命士国家試験問題 解答・解説集。第12回救急救命士国家試験問題 解答・解説集（監修山本保博），1997；へるす出版。
- 17) 山本保博：〔監修〕第11回救急救命士国家試験問題 解答・解説集。第11回救急救命士国家試験問題 解答・解説集（監修 山本保博），1997；へるす出版。
- 18) 牧野俊郎：〔共著〕Do notで学ぶ：救急看護のしてはいけないこと。Do notで学ぶ：救急看護のしてはいけないこと，1997；メディカ出版。
- 19) 牧野俊郎：〔共著〕第12回救急救命士国家試験問題 解答 解説集。第12回救急救命士国家試験問題 解答 解説集（監修 山本保博），1997；へるす出版。
- 20) 小池 薫：〔分担〕第12回救命救急士国家試験問題解答解説集。第12回救命救急士国家試験問題解答解説集（監修 山本保博），1997；pp26-35，へるす出版。
- 21) 池田幸穂：〔分担〕主要症候・意識障害。NEW CHART脳神経外科（伊東 洋編），1997；pp32-42，医学評論社。
- 22) 黒川 顕：〔分担〕第12回救急救命士国家試験問題 解答 解説集。第12回救急救命士国家試験問題 解答 解説集（監修 山本保博），1997；pp54-66，へるす出版。
- 23) 池田幸穂：〔分担〕CPM (central pontine myelinolysis)。キーワードで読む脳・神経（岩田 誠，寺本 明，清水輝夫編），1997；pp150-150，医学書院。
- 24) 吉田竜介：〔分担〕気道異物吸引。呼吸器疾患最新の治療1998-2000（編集 工藤翔二他），1998；pp132-134，南江堂。
- 25) 山本保博：〔分担〕11.中毒性疾患：中毒の特殊療法。内科治療ガイド'98：治療戦略の立て方と病態に応じた治療の実際（Medical Practice編集委員会・編），1998；pp1301-1306，文光堂。
- 26) 須崎紳一郎：〔分担〕覚醒剤急性中毒（中毒性疾患）。今日の治療指針1998（日野原重明，阿部正和監修），1998；pp125-126，医学書院。
- 27) 山本保博：〔監訳〕救急外来マニュアル。救急外来マニュアル（監訳 山本保博／上嶋権兵衛），1997；メディカル・サイエンス・インターナショナル。
- 28) 小池 薫：〔翻訳〕第52章 温熱障害と寒冷障害。救急外来マニュアル第2版（監訳 山本保博，上嶋権兵衛），1997；pp478-485，メディカルサイエンスインターナショナル。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 山本保博：大規模災害における救急医療。第13回日本救急医学会東海地方会，1997。9。

(2) 教育講演：

- 1) 吉田竜介，益子邦洋，山本保博，辺見 弘：ATLS (Advanced Trauma Life Support course)：いわゆる外傷初期治療講習。日本救急医学会関東地方会第30回救急隊員学術研究会，1997。6。

(3) シンポジウム：

- 1) Ikeda Y, Teramoto A¹⁾ (1) 脳神経外科)：Future in Neuroprotection. 4th International Neurotrauma Symposium (Korea), 1997. 8.
- 2) Yamamoto Y, Yoshida R, Ninomiya N, Yoido Y, Yamaguchi K¹⁾ (1) Yokosuka-Kyosai Hospital)：Data Transfer in Disaster Situations. 10th World Congress on Emergency and Disaster Medicine (Mainz, Germany), 1997. 9.
- 3) 川井 真，勝見 敦，加地正人，新井正徳，後藤真弓，辻井厚子，益子邦洋，辺見 弘，山本保博：広範囲熱傷における早期手術戦略の実際。第23回日本熱傷学会，1997。5。
- 4) 大友康裕，本間正人，雅楽川聡，井上潤一，加藤 宏，原口義座，辺見 弘：集中治療におけるサイトカイン

- の意義 SIRS症例における血中IL-6濃度と血中急性相蛋白濃度の相関について：予後不良症例における血中IL-6濃度異常高値の意義。第24回日本集中治療医学会総会，1997. 5.
- 5) 布施 明，池田幸穂，横田裕行，村上 守，佐藤秀貴，益子邦洋，山本保博，大塚敏文：低体温療法における循環系への影響。第3回脳代謝モニタリング研究会，1997. 6.
 - 6) 横田裕行，小川理郎，布施 明，佐藤秀貴，中林基明，池田幸穂，益子邦洋，黒川 顕，山本保博，星野 茂，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ (1) 脳神経外科)：頭部外傷後の脳代謝・血流障害。第3回脳代謝モニタリング研究会，1997. 6.
 - 7) 川井 真，大泉 旭，原 義明，加藤 宏，野崎正太郎，高野研一郎，大木更一郎，山本保博，白井康正¹⁾ (1) 整形外科)：軟部組織損傷に対する集学的初期治療戦略 (特にGIII型開放創に対して)。第23回骨折治療学会，1997. 7.
 - 8) 小池 薫：外傷性ショックとBacterial Translocation。第24回日本腹部救急医学会総会，1997. 9.
 - 9) 横田裕行，布施 明，佐藤秀貴，畝本恭子，池田幸穂，黒川 顕，山本保博，小林士郎¹⁾，寺本 明¹⁾ (1) 脳神経外科)：モニタリングとしてのXe-CTの意義：特に予後との関連から。第56回日本脳神経外科学会総会，1997. 10.
 - 10) 小池 薫，山本保博，堀 洋三，小野 隆：Critical careにおける新しい薬物療法の試み：多臓器不全に対するII型ホスホリパーゼA2阻害剤治療の可能性：小腸虚血再灌流モデルを用いた研究。第25回日本救急医学会総会，1997. 11.
 - 11) 原田直明，岡嶋研二，久志本成樹，磯部博隆，田中経一：アンチトロンビンIIIは白血球の活性化を抑制して肝虚血再灌流障害を軽減する。第25回日本救急医学会総会，1997. 11.
 - 12) 川井 真，勝見 敦，辻井厚子，久志本成樹，辺見 弘，山本保博：皮膚凍結保存の臨床現状と人工真皮の将来。第24回日本低温医学会総会，1997. 11.
 - 13) 小池 薫：重症感染症とSIRS。第6回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，1997. 12.
 - 14) 高木 亮¹⁾，林 宏光¹⁾，中条秀信¹⁾，市川和雄¹⁾，隈崎達夫¹⁾，池田幸穂，足立好司²⁾，野手洋治²⁾，寺本 明²⁾ (1) 放射線科，2) 脳神経外科)：3次元画像の将来展望：半自動3次元CT画像再構成処理法 (MARP法) を用いた脳動脈瘤診断への臨床応用。第21回脳神経CI学会総会，1998. 2.
 - 15) 川本俊樹¹⁾，池田幸穂，戸田茂樹¹⁾，渡辺 玲¹⁾，朝倉隆之¹⁾，寺本 明¹⁾，山本保博 (1) 脳神経外科)：実験的急性脳損傷に対する一重項酸素消去剤の脳保護効果。第23回日本微小循環学会，1998. 2.
 - 16) 池田幸穂，山本保博，黒川 顕，横田裕行，畝本恭子，佐藤秀貴，布施 明，村上 守，寺本 明¹⁾，高木亮²⁾ (1) 脳神経外科，2) 放射線科)：くも膜下出血急性期の管理。第18回日本脳神経外科コンgres，1998. 3.
 - 17) 佐藤秀貴，池田幸穂，横田裕行，小関一英，直江康孝，村上 守，布施 明，大橋一善，二宮宣文，山本保博：重症頭部外傷における低体温療法時の適応と問題点。第21回日本神経外傷研究会，1998. 3.
- (4) パネルディスカッション：
- 1) 木村昭夫，益子邦洋，大塚敏文，山本保博：救急医学教育用CDROMの開発。第22回外科系連合学会，1997. 6.
 - 2) 川井 真，大泉 旭，原 義明，加藤 宏，野崎正太郎，高野研一郎，山本保博：多発外傷におけるMissed injuryの検討 (整形外傷を中心に)。第22回日本外科系連合学会，1997. 6.
 - 3) 小井土雄一，富岡譲二，辻井厚子，高橋 聡，中林基明，畝本恭子，長谷川栄寿，宮田美穂，須崎紳一郎，黒川 顕，高柳和江：外傷重症度 (予測救命率Ps) と医療費の関係。第25回日本救急医学会総会，1997. 11.
- (5) フォーラムセッション：
- 1) 久志本成樹，岡嶋研二，原田直明，益子邦洋，山本保博：肝虚血再灌流障害のメカニズム：血管内皮細胞障害と微小血栓形成。第29回日本腹部救急医学会総会，1997. 9.
 - 2) 川井 真，大泉 旭，加藤 宏，原 義明，野崎正太郎，山本保博：The tertiary trauma survey の意義。第25回日本救急医学会総会，1997. 11.

- 3) 池田幸穂, 寺本 明¹⁾, 山本保博 (1) 脳神経外科) : 急性脳損傷に対する Arginine Vasopressin 分泌抑制剤 (Kappa opioid agonist) の脳保護効果. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 4) 本間正人, 雅楽川聡, 井上潤一, 加藤 宏, 大友康裕, 原口義座, 辺見 弘 : 頭部外傷後は凝固線溶異常を来しやすいか? : 凝固線溶分子マーカーからの検討. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- (6) セミナー :
 - 1) 牧野俊郎 : 航空機事故および乱気流事故対応についての検討. 第3回災害医療セミナー, 1998. 3.
- (7) マルチメディアセッション :
 - 1) 木村昭夫, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文 : 救急医学教育用マルチメディアCD-ROM教材の開発 : 重症外傷の仮想臨床体験学習を中心に. 第11回日本外傷学会, 1997. 5.
 - 2) 木村昭夫, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文 : マルチメディアによる救急医学講義の試み. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- (8) ワークショップ :
 - 1) 大友康裕, 辺見 弘, 本間正人, 井上潤一, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文 : 腎損傷 : 手術適応と腎温存手術について : 外傷による腹腔内臓器損傷とその対策. 第29回日本腹部救急医学会総会, 1997. 9.
- (9) 一般講演 :
 - 1) Koike K : Gut ischemia-reperfusion produces lung injury via a mechanism which involves xanthine oxidase and phospholipase A2. 37th World Congress of Surgery, International Surgical Week 97, Acapulco, Mexico, 1997. 8.
 - 2) Kimura A, Mochizuki T : Antibiotic strategies for Methicillin-resistant Staphylococcus aureus pneumonia : a Japanese experience. 57th Annual Meeting of AAST (American Association for the Surgery of Trauma), 1997. 9.
 - 3) Ninomiya N, Inoue H, Harada M, Koseki Y, Yamamoto Y : Disaster response system of fire service and emergency medical, Saitama prefecture, Japan. 10th World Congress on Emergency and Disaster Medicine (Maimz, Germany), 1997. 9.
 - 4) Koike K, Hori Y : Group II phospholipase A2-mediated and -nonmediated distant organ injury in gut ischemia-reperfusion. The 56th annual Meeting of the American Association for the Surgery of Trauma, Hawaii, USA, 1997. 9.
 - 5) Otomo Y, Henmi H, Honma M, Kato K, Koike K, Mashiko K, Yamamoto Y : New Diagnostic Peritoneal Lavage (DPL) Criteria for Diagnosing Intestinal Injury. The 57th annual meeting of American Association for the Surgery of Trauma, 1997. 9.
 - 6) Otomo Y, Henmi H : New diagnostic peritoneal lavage (DPL) criteria for diagnostic intestinal injury. The 56th Annual Meeting of the American Association for the Surgery of Trauma, Hawaii, USA, 1997. 9.
 - 7) Kawai M, Oizumi A, Hara Y, Shirai Y, Yamamoto Y : Three Cases of Atlantoaxial Rotatory Dislocation in Polytraumatized Patients. Orthopaedic Trauma Association (Boston), 1997. 10.
 - 8) Harada N, Okajima K : Gabexate mesilate, a synthetic protease inhibitor, prevents ischemia/reperfusion injury of rat liver by increasing hepatic tissue blood flow. Society of Critical Care Medicine, 27th Educational and Scientific Symposium San Antonio, Texas, USA, 1998. 2.
 - 9) Mori M, Okajima K : ONO-5046, a specific neutrophil elastase inhibitor, improves hepatic tissue blood flow after ischemia/reperfusion of the rat liver. Society of Critical Care Medicine, 27th Educational and Scientific Symposium San Antonio, Texas, USA, 1998. 2.
 - 10) Honma M, Henmi H, Otomo Y, Inoue J, Kato H, Arai T : Coagulation and fibrinolysis after head injury.

- 17th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine, Bruxelles, 1998. 3.
- 11) Otomo Y, Henmi H, Honma M, Kato H, Inoue J, Arai T : Significance of the changes in blood fibrinogen levels as an acute phase reactant in septic DIC. 17th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine, Bruxelles, 1998. 3.
 - 12) 井上潤一, 大友康裕, 鷺見 学, 加藤 宏, 小野寺謙吾, 雅楽川聡, 本間正人, 小野田忠, 原口義座, 辺見 弘 : Clamshell thoracotomyによるドレナージが有効であった深頸部縦隔膿瘍の1例. 第19回過大侵襲研究会, 1997. 4.
 - 13) 久志本成樹, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文 : 肝虚血再灌流障害における好中球エラスターゼの関与. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
 - 14) 本間正人, 大友康裕, 辺見 弘 : 急性肺炎における客観的重症度指標の比較検討. 第97回日本外科学会, 1997. 4.
 - 15) 井上潤一, 小野田忠, 大友康裕, 本間正人, 原口義座, 辺見 弘, 加勢田静 : 救急医療における胸腔下手術の応用 : 特発性血気胸を呈した3例の経験より. 第97回日本外科学会, 1997. 4.
 - 16) 松浦有里子, 小柳正雄, 近藤久禎, 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行 : 治療に難渋した腹部外傷の1例. 第19回過大侵襲研究会, 1997. 4.
 - 17) 小池 薫, 趙 圭一, 小川理郎, 高橋幸道, 犬塚 祥, 加藤一良, 横田裕行, 大塚敏文, 田島なつき, 岡田進 : RIアンギオグラフィーによる腹腔内臓器への血液灌流状態の検討. 鈍的外傷3例・非外傷性手術症例2例を用いて. 第11回日本外傷学会, 1997. 5.
 - 18) 大木更一郎, 木村昭夫, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文, 平井 隆¹⁾, 百束比古¹⁾, 村上正洋²⁾ (¹⁾ 形成外科, ²⁾ 大浜第一病院形成外科) : 外傷患者における初期顔面外傷治療. 第11回日本外傷学会, 1997. 5.
 - 19) 井上潤一, 大友康裕, 加藤 宏, 本間正人, 雅楽川聡, 小野田忠, 原口義座, 辺見 弘 : 外傷性横隔膜損傷に対して自動縫合結紮器を用い胸腔鏡下修復術を施行した1例. 第11回日本外傷学会, 1997. 5.
 - 20) 久志本成樹, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文 : 肝虚血再灌流障害に対するgabexate mesilateの効果. 第11回日本外傷学会, 1997. 5.
 - 21) 村上 守, 池田幸穂, 諫山和男, 布施 明, 佐藤秀貴¹⁾, 柴田泰史²⁾, 益子邦洋, 大塚敏文¹⁾ (¹⁾ 救急医学科, ²⁾ 附属病院中央検査部) : 重症頭部外傷患者に対する低体温療法時の輸液と組織酸素代謝. 第11回日本外傷学会, 1997. 5.
 - 22) 大友康裕, 加藤 宏, 井上潤一, 雅楽川聡, 本間正人, 原口義座, 加藤一良, 横田裕行, 辺見 弘 : 重度骨盤骨折に対する開腹下両側内腸骨動脈塞栓術の意義. 第11回日本外傷学会, 1997. 5.
 - 23) 川井 真, 大泉 旭, 原 義明, 高野研一郎, 益子邦洋, 山本保博 : 重度骨盤骨折循環蘇生時におけるC-Clamp戦略. 第11回日本外傷学会, 1997. 5.
 - 24) 本間正人, 大友康裕, 辺見 弘, 益子邦洋, 大塚敏文, 黒川 顕, 松田 潔 : 膝損傷におけるERP所見と術中所見の比較検討. 第11回日本外傷学会, 1997. 5.
 - 25) 本間正人, 小野寺謙吾, 雅楽川聡, 大友康裕, 原口義座, 辺見 弘 : 急性肺炎における客観的重症度指標の比較検討. 第24回日本集中治療医学会総会, 1997. 5.
 - 26) 小野寺謙吾, 雅楽川聡, 原口義座, 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 辺見 弘 : 低体温療法中の感染症対策としての内分泌-免疫賦活に関する検討. 第24回日本集中治療医学会総会, 1997. 5.
 - 27) 村上 守, 池田幸穂, 諫山和男, 佐藤秀貴, 布施 明, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文 : 後頭蓋窩破裂脳動脈瘤の治療成績. 第11回日本神経救急研究会, 1997. 5.
 - 28) 柴田喜明, 松浦有里子, 中村 敏, 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 山本保博 : 航空機内で発症した肺水腫の2例. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
 - 29) 高橋 肇, 山口 暁, 都甲明子, 岩崎 卓, 田中 彰, 河村 堯, 小池 薫, 横田裕行 : 帝王切開後に発症し

- た肺血栓症の1例。第92回日本医科大学医学会例会，1997。5。
- 30) 佐藤秀貴，池田幸穂，横田裕行，諫山和男，布施 明，村上 守，益子邦洋，大塚敏文：高齢者テント下破裂脳動脈静脈奇形の1例。第11回日本神経救急研究会，1997。5。
 - 31) 小池 薫，大塚敏文，Peterson VM：熱傷後のIL-1治療が食細胞増殖能に及ぼす影響。第23回日本熱傷学会総会，1997。5。
 - 32) 小池 薫，趙 圭一，小川理郎，犬塚 祥，加藤一良，横田裕行，田島なつき，岡田 進：腹腔内臓器の血液低下をもたらした重症急性膵炎の1例。第11回日本ショック学会，1997。5。
 - 33) 原口義座，大友康裕，本間正人，雅楽川聡，井上潤一，加藤 宏，小野寺謙吾，辺見 弘，友保洋三：ヘリコプターによる患者搬送法の訓練・研修の問題点：災害時対応を含めて。第43回日本救急医学会関東地方会，1997。6。
 - 34) 中村 敏，横田裕行，加藤一良，小池 薫，犬塚 祥，小川理郎，松浦有里子，大秋美治：救急外来で突然死した大動脈弁狭窄症の1剖検例。第43回日本救急医学会関東地方会，1997。6。
 - 35) 鷺見 学，大友康裕，本間正人，雅楽川聡，井上潤一，松島俊介，原口義座，辺見 弘：胸骨横断両側開胸下ドレナージにより救命し得た頸部縦隔壊死性軟部組織感染症の1例。第43回日本救急医学会関東地方会，1997。6。
 - 36) 小野寺謙吾，本間正人，雅楽川聡，井上潤一，加藤 宏，大友康裕，原口義座，辺見 弘：血液型判定に難渋したAB型亜型(A1 Bm)の1症例。第43回日本救急医学会関東地方会，1997。6。
 - 37) 近藤久禎，横田裕行，加藤一良，小池 薫，犬塚 祥，小川理郎，松浦有里子，小柳正雄，大秋美治，牧野俊郎，山本保博：重症呼吸不全を合併したAIDSの2症例。第43回日本救急医学会関東地方会，1997。6。
 - 38) 井上潤一，大友康裕，本間正人，雅楽川聡，松島俊介，原口義座，辺見 弘：多部位腸管断裂(小腸2カ所，横行結腸，S状結腸)に対して一期的吻合を施行した腹部刺創の1例。第43回日本救急医学会関東地方会，1997。6。
 - 39) 佐藤秀貴，池田幸穂，布施 明，村上 守，大橋一善，山本保博：破裂中大動脈末梢部動脈瘤の1例。第43回日本救急医学会関東地方会，1997。6。
 - 40) 金 景成¹⁾，植松正樹¹⁾，寺本 明¹⁾，池田幸穂，布施 明，佐藤秀貴，村上 守，大橋一善，木村昭夫，益子邦洋，山本保博⁽¹⁾ 脳神経外科)：心肺停止蘇生後における下垂体前葉機能の検討。第10回脳死・脳蘇生研究会，1997。6。
 - 41) 本間正人，大友康裕，井上潤一，雅楽川聡，原口義座，辺見 弘：近赤外線スペクトロスコープから見た各種心肺蘇生法における脳血流の比較。第10回脳死・脳蘇生研究会，1997。6。
 - 42) 小川理郎，横田裕行，加藤一良，小池 薫，犬塚 祥，松浦有里子，山本保博：心肺脳蘇生におけるACD-CPRの有用性：持続SjO₂測定値の結果から。第10回脳死・脳蘇生研究会，1997。6。
 - 43) 吉田竜介¹⁾，柴田泰史²⁾，西澤健司³⁾，木村昭夫，益子邦洋，山本保博¹⁾ (1) 救急医学科，2) 附属病院中央検査部，3) 附属病院薬剤部)：中毒疾患におけるアルコールの及ぼす影響の検討。第19回日本中毒学会総会，1997。7。
 - 44) 百束比古¹⁾，平井 隆¹⁾，大木更一郎，青木 律¹⁾ (1) 形成外科)：flap prefabricationにおけるわれわれの手法(free vascular bundle transfer)の新たな応用について。第65回日本医科大学医学会総会，1997。9。
 - 45) 飯野幸永，村田正弘，柏木邦彦，本間妙子，福岡イツ子，須崎紳一郎，山田光輝，沖濱裕司，志村俊郎，鈴木健：MRSA院内感染防止対策としてのムピロシン製剤の有用性。第65回日本医科大学医学会総会，1997。9。
 - 46) 森田良平，上笹 宙，工廣紀斗司，原 義明，中村 敏，小川理郎，小池 薫，犬塚 祥，加藤一良，横田裕行，山本保博：呼吸停止で搬送され救命し得た上位頸髄損傷の1症例。第65回日本医科大学医学会総会，1997。9。
 - 47) 上笹 宙，森田良平，工廣紀斗司，原 義明，中村 敏，小川理郎，犬塚 祥，小池 薫，加藤一良，横田裕行，山本保博：自然治癒した閉鎖孔ヘルニアによるイレウスの2症例。第65回日本医科大学医学会総会，1997。9。
 - 48) 望月 徹，木村昭夫，川井 真，益子邦洋，山本保博¹⁾，柴田泰史，青砥泰二²⁾，西澤健司³⁾ (1) 救急医学科，2) 附属病院中央検査部，3) 附属病院薬剤部)：重症熱傷症例におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌肺炎に対す

- る抗菌化学療法の研究. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 49) 原田直明, 岡嶋研二, 久志本成樹, 森 正和, 村上和憲, 磯部博隆, 田中経一, 岡部紘明: メシル酸ガベキサートは, サイトカイン産生を抑制して肝虚血再灌流障害を軽減する. 第20回日本血栓止血学会, 1997. 9.
- 50) 中間哲也, 辺見 弘, 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 小野田忠, 荒井他嘉司: 頸部膿瘍から波及した縦隔内広範囲壊死性軟部組織感染症の1例. 第55回城西外科研究会, 1997. 9.
- 51) 牧野俊郎, 前田容子, 黒川 顕, 山本保博, 柴田 稔, 河井研二: 新食道閉鎖式エアウェイの開発と検討. 第12回日本救命医療研究会, 1997. 9.
- 52) 小井土雄一, 辻井厚子, 中林基明, 富岡譲二, 高橋 聡, 畝本恭子, 須崎紳一郎, 黒川 顕: 腹部外傷術後に広範囲腸管壊死を来たした1例. 第24回日本腹部救急医学会総会, 1997. 9.
- 53) 本間正人, 大友康裕, 辺見 弘, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文, 黒川 顕, 松田 潔: 膝損傷におけるERP所見と術中所見. 第24回日本腹部救急医学会総会, 1997. 9.
- 54) 諫山和男¹⁾, 粟屋 栄¹⁾, 前川正義¹⁾, 池田幸穂, 高木 亮¹⁾, 田原重志¹⁾, 玉置智規¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 脳神経外科): くも膜下出血後3D-CTAの有用性. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 55) 猪鹿倉恭子, 中林基明, 黒川 顕, 布施 明, 池田幸穂, 横田裕行, 直江康孝, 志村俊郎¹⁾, 寺本 明¹⁾ (1) 脳神経外科): くも膜下出血重症例に対する脳低温療法: 施行時期の検討. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 56) 池田幸穂, 川本俊樹¹⁾, 寺本 明¹⁾, 山本保博 (1) 脳神経外科): 虚血性および外傷性脳浮腫に対するL-histidine (Singlet oxygen scavenger) の抗脳浮腫効果. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 57) 布施 明, 池田幸穂, 横田裕行, 村上 守, 大橋一善, 山本保博: 重症頭部外傷に対する各種治療のモニタリングと予後. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 58) 佐藤秀貴, 二宮宣文, 小関一英, 池田幸穂, 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博: 重症頭部外傷に対する低体温療法の問題点: 心機能および腎機能からの評価. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 59) 村上 守, 池田幸穂, 諫山和男, 饒波正博, 布施 明, 佐藤秀貴, 柴田泰史, 木村昭夫, 山本保博: 重症頭部外傷患者に対する低体温療法時の栄養管理. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 60) 小川理郎, 原 義明, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行: Repatriation (医療帰省) 中に航空機内で急性肺水腫をきたした1症例. 第4回日本エアレスキュー研究会, 1997. 11.
- 61) 東 和明, 工廣紀斗司, 森田良平, 中村 敏, 原 義明, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋: Whole gut washoutを施行した重症外傷後SIRSの1例. 第9回千葉Critical Care Medicine 研究会, 1997. 11.
- 62) 大友康裕, 本間正人, 雅楽川聡, 井上潤一, 加藤 宏, 原口義座, 辺見 弘: SIRS症例における血中IL-6濃度と急性相蛋白濃度の相関: 予後不良例における血中IL-6異常高値の意義. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 63) 西澤健司, 平野公晟¹⁾, 望月 徹, 木村昭夫, 山本保博²⁾, 柴田泰史³⁾, (1) 付属病院薬剤部, 2) 救急医学科, 3) 付属病院中央検査部): アミノグリコシド系抗菌薬の分布容積と患者重症度. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 64) 横田裕行, 中村 敏, 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 益子邦洋, 山本保博, 黒澤 尚: せん妄症例における脳血流の検討. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 65) 富岡譲二, 須崎紳一郎, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文: パラコートが腸管運動に与える影響とその機序に関する研究. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 66) 横田裕行, 近藤久禎, 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 牧野俊郎, 益子邦洋, 山本保博: 医療経済的側面からみた外国人救急医療の問題点. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 67) 吉田竜介, 益子邦洋, 山本保博, 富岡譲二, 大塚敏文: 救急救命士養成課程研修生の成績に影響を及ぼす因子の統計学的考察. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 68) 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 大友康裕, 益子邦洋, 山本保博, 大秋美治, 田中啓

- 治：胸骨圧迫式心マッサージ直後の心筋傷害の検討：剖検による組織学的検討から。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 69) 水江史樹，久志本成樹，小井土雄一，川井 真，須崎紳一郎，山本保博：血管損傷を伴った3肢開放性骨折と Abdominal Compartment Syndromeにより治療に難渋した1例。第20回過大侵襲研究会，1997。11。
- 70) 須崎紳一郎，富岡譲二，辻井厚子，高橋 聡，小井土雄一，黒川 顕，二宮宣文，大泉 旭，布施 明，山本保博：国際患者搬送における航空搬送中の患者管理：International Repatriationの諸問題（第4報）。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 71) 二宮宣文，金 史英，宮沢とも子，小関一英，山本保博：彩の国レスキュー隊。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 72) 大木更一郎，山本保博，百束比古¹⁾（¹⁾形成外科）：耳介部熱傷変形に対する早期対策と再建法の選択について。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 73) 柴田泰史，里村克章¹⁾，村上 守，池田幸穂，吉田竜介，木村昭夫，益子邦洋，山本保博²⁾，西澤健司³⁾（¹⁾ 付属病院中央検査部，²⁾ 救急医学科，³⁾ 付属病院薬剤）：重症頭部外傷患者および脳血管障害患者に対する低体温療法時の栄養管理。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 74) 望月 徹，木村昭夫，川井 真，益子邦洋，山本保博，西澤健司¹⁾（¹⁾ 付属病院薬剤部）：重症熱傷症例に対する Sulfamethoxazole-trimethoprim 合剤の長期投与の検討。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 75) 布施 明，横田裕行，池田幸穂，村上 守，佐藤秀貴，山本保博：低体温療法時の循環系の変化。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 76) 二宮宣文，宮沢とも子，金 史英，佐藤秀貴，尾本健一郎，小関一英，山本保博：頭部外傷低体温療法における線溶凝固系の検討。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 77) 雅楽川聡，林 成之，辺見 弘，高里良男，原口義座，大友康裕，本間正人，井上潤一，加藤 宏，小野寺謙吾，正岡博幸，脇本浩明，野尻武子，渋谷 肇，木下浩作，守谷 俊，白井邦博：脳低体温療法施行患者における易感染性の検討および宿主免疫応答活性化に対する一工夫。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 78) 久志本成樹，益子邦洋，山本保博，岡嶋研二，原田直明：白血球減少ラットにおける肝虚血再灌流障害：肝細胞障害と血液凝固異常に対する影響。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 79) 加藤一良，横田裕行，犬塚 祥，小池 薫，小川理郎，松浦有里子，益子邦洋，山本保博，秋元正宇，百束比古：腹部外傷後の急性腹壁欠損の管理と修復法："Silo" techniqueとcomopnents separation法の応用。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 80) 大友康裕，辺見 弘，本間正人，井上潤一，加藤 宏，松島俊介，塩崎隆博，原口義座，友保洋三，倉本憲明，藤本幸宏，小島廸子，和田弘夫，小原千秋：災害時トリアージ後の院内対応の問題点。第3回日本集団災害医療研究会，1997。11。
- 81) 本間正人，辺見 弘，大友康裕，井上潤一，加藤 宏，原口義座，友保洋三，倉本憲明，藤本幸宏，小島廸子，和田弘夫，小原千秋：新しい災害訓練の取り組みについて。第3回日本集団災害医療研究会，1997。11。
- 82) 工廣紀斗司，益子邦洋，犬塚 祥，小池 薫，小川理郎，中村 敏，原義明，東 和明，森田良平：多発外傷に難治性出血性胃潰瘍を併発した1例。第20回過大侵襲研究会，1997。11。
- 83) 牧野俊郎，浅野悦洋，前田容子，横田裕行，益子邦洋，山本保博，大塚敏文：国際空港における救急医療の実情と問題点。第43回日本宇宙航空環境医学会総会，1997。11。
- 84) 中村 敏，森田良平，東 和明，工廣紀斗司，原 義明，小川理郎，小池 薫，犬塚 祥，益子邦洋，小坂和己：急激な経過で呼吸不全に陥った重症頸部感染症の2例。第10回日本外科感染症研究会，1997。12。
- 85) 川本俊樹¹⁾，池田幸穂，戸田茂樹，渡辺 玲，朝倉隆之，寺本 明¹⁾，山本保博，岡部栄逸朗²⁾，大橋達也²⁾，李 昌一²⁾（¹⁾ 脳神経外科，²⁾ 神奈川歯大薬理）：急性脳損傷に対する一重項酸素消去剤の効果。第12回生体フ

リーラジカル研究会, 1997. 12.

- 86) 柴田泰史, 里村克章¹⁾, 木村昭夫, 久志本成樹, 山本保博²⁾, 西澤健司³⁾, (1) 付属病院中央診査部, (2) 救急医学科, (3) 付属病院薬剤部): 敗血症性DICに対するATIII製剤投与による血中メディエーターの変動. 第8回バイオメディカルフォーラム, 1997. 12.
- 87) 大木更一郎, 王 春梅¹⁾, 平井 隆¹⁾, 百東比古¹⁾ (1) 形成外科): Cryopreservationによる同種血管移植法: 第3報 皮弁の生着および血管新生過程について. 日本形成外科学会基礎学術集会, 1997.
- 88) 浅利 靖, 浅井康文, 金田正樹, 山崎達枝, 松坂正訓, 近藤久禎, 二宮宣文, 新藤正輝, 杉本勝彦, 甲斐達朗, 山口孝治, 大友康裕, 鶴飼 卓, 山本保博: 国際緊急援助隊医療チーム (JMTDR) のバングラディッシュ人民共和国竜巻災害医療援助の評価. 第3回日本集団災害医療研究会, 1997. 12.
- 89) 高田雅史, 犬塚 祥, 森田良平, 東 和明, 中村 敏, 工廣紀斗司, 原 義明, 小川理郎, 小池 薫, 益子邦洋, 横田裕行, 山本保博, 片岡博邦: 当院解説以来の急性中毒症例の検討. 第12回日本中毒学会東日本部会, 1998. 1.
- 90) 東 和明, 工廣紀斗司, 犬塚 祥, 小川理郎, 益子邦洋, 小池 薫, 中村 敏, 原 義明, 森田良平: PMX施行症例におけるスーパーアンチゲンの検討. 第2回エンドトキシン血症治療研究会, 1998. 2.
- 91) 中村 敏, 工廣紀斗司, 東 和明, 早川秀幸, 近藤久禎, 原 義明, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋: PMX施行症例における酸素代謝ならびにサイトカインの変動. 第13回千葉集中治療研究会, 1998. 2.
- 92) 東 和明, 工廣紀斗司, 犬塚 祥, 小川理郎, 益子邦洋, 小池 薫, 中村 敏, 原 義明, 森田良平: SIRS症例におけるsuper antigenの検討. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 93) 工廣紀斗司, 森田良平, 東 和明, 原 義明, 中村 敏, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋: Body Packerにおけるスクリーニングとしての腹部エコーの有用性. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 94) 原 俊輔, 久志本成樹, 二宮宣文, 川井 真, 須崎紳一郎, 山本保博: PCPSを併用した気道熱傷に対するtracheal stent. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 95) 小山 敦, 弥富俊太郎, 石之神小織, 望月 徹, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 山本保博: TAE後脾仮性嚢胞の1例. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 96) 柴田泰史, 里村克章¹⁾, 久志本成樹, 山本保博²⁾ (1) 付属病院中央検査部, (2) 救急医学科): コバスマシラプラス自動分析装置による動脈血ケトン体比測定試薬の検討. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 97) 岩瀬史明, 勝見 敦, 直江康孝, 野崎正太郎, 大泉 旭, 吉田竜介, 須崎紳一郎, 山本保博: 画像診断上形態的变化を呈さなかった劇症肝炎の1例. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 98) 森田良平, 原 義明, 東 和明, 工廣紀斗司, 中村 敏, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋: 開放性Floating kneeの1例. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 99) 松島俊介, 辺見 弘, 大友康裕, 倉本憲明, 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 小林辰輔, 塩崎隆博: 経カテーテルの血栓溶解療法抵抗性腸骨下肢静脈血栓症の1例. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 100) 小林辰輔, 辺見 弘, 大友康裕, 井上潤一, 本間正人, 加藤 宏, 松島俊介, 塩崎隆博: 止血に難渋した特発性門脈圧亢進症併消化管出血の1例. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 101) 小川理郎, 小池 薫, 森田良平, 東 和明, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 犬塚 祥, 益子邦洋: 耳下腺炎, MOFで発症したシェーグレン症候群の1例. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 102) 布施 明, 池田幸穂, 小南修史¹⁾, 石之神小織, 大橋一善, 村井保夫, 村上 守, 小井土雄一, 山本保博, 寺本 明¹⁾ (1) 脳神経外科): 重症破裂脳動脈瘤に対して急性期血管内手術を施行した1例. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 103) 井上潤一, 辺見 弘, 大友康裕, 小野田忠, 工藤裕弘, 本間正人, 加藤 宏, 小林辰輔: 食道異物(義歯)の4例. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.

- 104) 大橋一善, 村上 守, 村井保夫, 石之神小織, 直江康孝, 布施 明, 池田幸穂, 山本保博: 頭蓋外解離性椎骨動脈瘤の1例. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 105) 石之神小織, 大橋一善, 村井保夫, 村上 守, 直江康孝, 布施 明, 池田幸穂, 山本保博: 同時にテント上下に発症した高血圧性脳内出血の2例. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 106) 村上 守, 池田幸穂, 布施 明, 川井 真, 柴田泰史, 西沢健司, 山本保博, 大塚敏文: 重症頭部外傷患者に対する低体温療法時の輸液・栄養管理. 第2回CCM輸液・栄養研究会, 1998. 2.
- 107) 池田幸穂, 山本保博, 川本茂樹¹⁾, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 脳神経外科): 脳浮腫に対する一重項酸素消去剤の効果. 第16回Cytoprotection研究会, 1998. 2.
- 108) 横田裕行, 中林基明, 畝本恭子, 黒川 顕, 布施 明, 佐藤秀貴, 池田幸穂, 山本保博, 小林士郎¹⁾, 寺本明¹⁾ (¹⁾ 脳神経外科): Xe-CTからみた頭部外傷の病態. 第21回日本神経外傷研究会, 1998. 3.
- 109) 大橋一善, 村上 守, 梅岡克哉, 布施 明, 池田幸穂, 山本保博: ラント上下に同時発生した高血圧性脳出血の検討. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 110) 早川秀幸, 池田幸穂, 布施 明, 山本保博: 血管内治療により救命しえた重症破裂脳動脈瘤の2例. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 111) 池田幸穂, 川本俊樹¹⁾, 寺本 明¹⁾, 山本保博 (¹⁾ 脳神経外科): 実験的急性脳損傷に対する一重項酸素と一重項酸素消去剤の脳保護効果. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 112) 布施 明, 池田幸穂, 横田裕行, 大橋一善, 村上 守, 佐藤秀貴, 小井土雄一, 二宮宣文, 黒川 顕, 山本保博: 循環動態からみた低体温療法の問題点. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 113) 小池 薫, 犬塚 祥, 小川理郎, 原義明, 工廣紀斗司, 益子邦洋, 山本保博: 小腸虚血とバクテリアルトランスロケーション. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 114) 小林辰穂, 池田幸穂, 加地正人, 川井 真, 久志本成樹, 岩瀬史明, 大橋一善, 山本保博: 第1腰椎病的骨折部に生じた椎体炎から難治性MRSA髄膜炎を合併した1例. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 115) 高木 亮¹⁾, 林 宏光¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 小林尚志¹⁾, 村井保夫²⁾, 池田幸穂 (¹⁾ 放射線科, ²⁾ 脳神経外科): 超急性期脳出血のspiral CT: 造影剤血管外漏出後の描出について. 第3回3次元CT研究会, 1998. 3.
- 116) 望月 徹, 木村昭夫, 山本保博, 西沢健司¹⁾ (¹⁾ 付属病院薬剤部): 腹部リサーチ: 重症腹部救急疾患におけるST合剤投与のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌肺炎発生の予防効果. 第30回日本腹部救急医学会総会, 1998. 3.
- 117) 工廣紀斗司, 益子邦洋, 犬塚 祥, 小池 薫, 小川理郎, 中村 敏, 原義明, 東 和明, 森田良平: 慢性関節リウマチに多発性小腸潰瘍穿孔を併発した1例. 第30回日本腹部救急医学会総会, 1998. 3.
- 118) 村上 守, 池田幸穂, 大橋一善, 石之神小織, 村井保夫, 直江康孝, 布施 明, 佐藤秀貴, 山本保博: 両側性前頭葉脳挫傷症例の臨床的検討. 第21回日本神経外傷研究会, 1998. 3.

[多摩永山病院救命救急センター]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nihira M¹⁾, Hayashida M¹⁾, Ohno Y¹⁾, Inuzuka S²⁾, Yokota H, Yamamoto Y³⁾ (1) 日本医科大学法医学教室, 2) 日本医科大学付属千葉北総病院救命救急センター, 3) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : Urinalysis of body packer in Japan. Journal of Analytical Toxicology 1998 ; 22 : 61-65.
- 2) 畝本恭子, 辻井厚子, 富岡譲二, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 黒川 顕 : 急性散在性脳脊髄膜炎 (ADEM) を疑わせた出産後内分泌異常の1例. 日本救急医学会関東地方会誌 1997 ; 18 (1) : 278-279.
- 3) 須崎紳一郎 : 善きサマリア人の法 : CPRの法的根拠. Life Support and Anesthesia 1997 ; 4 (7) : 666-671.
- 4) 富岡譲二 : パラコートが腸管運動に与える影響とその機序に関する研究. 日本救急医学会雑誌 1997 ; 8 (11) : 583-591.
- 5) 横田裕行, 小川理郎¹⁾, 布施 明²⁾, 諫山和男²⁾, 益子邦洋²⁾, 山本保博²⁾, 大塚敏文²⁾, 星野 茂²⁾, 小林士郎³⁾, 寺本 明³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急部, 2) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター, 3) 日本医科大学附属病院脳神経外科) : 頭部外傷後の脳血流障害 : Xe-CT による経時的検討. 神経外傷 1997 ; 20 : 49-53.
- 6) 布施 明¹⁾, 横田裕行, 池田幸穂¹⁾, 村上 守¹⁾, 大橋一善¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター) : 重症頭部外傷に対する低体温療法の問題点 : 特に循環系, 呼吸器感染症に対して. 神経外傷 1997 ; 20 : 33-37.
- 7) 中村 敏¹⁾, 横田裕行, 加藤一良¹⁾, 小池 薫¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 小川理郎¹⁾, 松浦有里子²⁾, 大秋美治²⁾, 山本保博²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急部, 2) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター) : 救急外来で突然死した大動脈弁狭窄症の1剖検例. 日本救急医学会関東誌 1997 ; 18 : 136-137.
- 8) 近藤久禎¹⁾, 横田裕行, 加藤一良¹⁾, 小池 薫¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 小川理郎¹⁾, 松浦有里子²⁾, 大秋美治²⁾, 牧野俊郎³⁾, 山本保博²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急部, 2) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター, 3) 国際空港クリニック) : 重症呼吸不全を合併したAIDSの2症例. 日本救急医学会関東誌 1997 ; 18 : 156-157.
- 9) 市川和雄¹⁾, 田島なつき¹⁾, 田島広之¹⁾, 村上隆介¹⁾, 岡田 進¹⁾, 保坂純郎¹⁾, 山本 鼎²⁾, 隈崎達夫²⁾, 増野智彦²⁾, 横田裕行, 牧野俊郎³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線科, 2) 日本医科大学多摩永山病院放射線科, 3) 国際空港クリニック) : Body packerの画像診断. 日本放射線学会雑誌 1997 ; 57 : 89-93.
- 10) 横田裕行, 布施 明¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 池田幸穂¹⁾, 小関一英²⁾, 黒川 顕, 山本保博¹⁾, 大塚敏文¹⁾, 小林士郎³⁾, 寺本 明³⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 川口市立川口医療センター救命救急センター, 3) 日本医科大学付属病院脳神経外科) : 重症頭部外傷における低体温療法時の循環・呼吸器合併症. 脳神経外科ジャーナル 1998 ; 7 : 9-13.

(2) 綜説：

- 1) 黒川 顕 : 腰背痛. 救急医学 1997 ; 21 (6) : 680-681.
- 2) 須崎紳一郎, 黒川 顕 : 肺水腫. 救急医学 1997 ; 21 (9) : 421-428.
- 3) 畝本恭子, 中林基明, 横田裕行, 黒川 顕 : 脳室ドレナージカテーテル. 救急医学 1997 ; 21 : 1570-1571.
- 4) 横田裕行, 富岡譲二, 辻井厚子, 高橋 聡, 黒川 顕, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター) : 意識障害・痙攣. EXPERT NURSE 1997 ; 13 : 100-104.
- 5) 横田裕行, 加藤一良¹⁾, 山本保博²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急部, 2) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター) : 臓器提供施設のあり方. 臨床透析 1997 ; 13 : 1593-1599.

- 6) 石川尚子¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部) : 顔面外傷. 臨床外科 1997 ; 52 : 36-37.
 - 7) 中村 敏¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部) : 意識障害患者の取扱いと看護治療. Emergency Nursing 1997 ; 10 : 995-1101.
 - 8) 有賀 徹¹⁾, 北原孝雄²⁾, 坂本哲也³⁾, 福田充宏⁴⁾, 横田裕行 (¹⁾ 昭和大学救急医学, ²⁾ 北里大学救命救急医学, ³⁾ 公立昭和病院救命救急センター, ⁴⁾ 川崎医科大学救急医学) : 脳死の切迫した状態から脳死判定に至る過程に関する一考察. 救急医学 1997 ; 21 : 1109-1114.
 - 9) 布施 明¹⁾, 横田裕行, 池田幸穂¹⁾, 大橋一善¹⁾, 村上 守¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 黒川 顕, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター) : 重症脳障害に対する低体温療法. 救急医学 1997 ; 21 : 1091-1094.
 - 10) 横田裕行 : 脳死 : 脳死への過程. Life Support and Anesthesia 1997 ; 4 : 560-563.
 - 11) 小川理郎¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院) : 頭部軟部組織の外傷. 救急医学 1997 ; 21 : 146-150.
 - 12) 横田裕行, 小川理郎¹⁾, 佐藤秀貴²⁾, 布施 明²⁾, 黒川 顕, 山本保博²⁾, 大塚敏文²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部, ²⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター) : 頭部外傷 知っておくべき救急疾患100. 診断と治療 1997 ; 85 : 537-545.
 - 13) 布施 明¹⁾, 横田裕行, 益子邦洋¹⁾, 黒川 顕, 山本保博¹⁾, 大塚敏文¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター) : 痙攣. 救急医学 1997 ; 21 : 379-400.
 - 14) 横田裕行, 小川理郎¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 小池 薫¹⁾, 加藤一良¹⁾, 佐藤秀貴²⁾, 布施 明²⁾, 益子邦洋²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部, ²⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター) : 重症患者と意識障害 : 頭部外傷. 集中治療 1997 ; 9 (4) : 399-407.
 - 15) 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター) : 救命救急部救急医療の立場からみた臓器提供システムに関する問題点. 今日の移植 1998 ; 11 : 115-117.
 - 16) 黒川 顕 : 体内留置カテーテルマニュアル・腹膜透析用カテーテル. Emergency Nursing 1998 ; (新春増刊号) : 166-170.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 横田裕行, 加藤一良¹⁾, 大塚敏文²⁾, 有賀 徹³⁾, 佐藤 章⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部, ²⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター, ³⁾ 昭和大学救急医学, ⁴⁾ 千葉県救急医療センター) : 平成八年度厚生科学研究費補助金臓器技術臨床研究開発事業 : 臓器移植の社会的問題に関する研究班 (B班). 臓器提供施設マニュアル 1997.

著 書

- 1) 須崎紳一郎 : [共訳] 救急外来マニュアル : 第2版 (山本保博・上嶋権兵衛監訳). 救急外来マニュアル : 第2版, 1997 ; pp27-119, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 2) 富岡譲二 : [分担] 第11回救急救命士国家試験問題 解答・解説集. 第11回救急救命士国家試験問題 解答・解説集, 1997 ; へるす出版.
- 3) 須崎紳一郎, 吉田竜介, 富岡譲二, 小池 薫, 黒川 顕, 牧野俊郎¹⁾ (¹⁾ 国際空港クリニック) : [分担] 第11回救急救命士国家試験問題 解答・解説集 (山本保博監修). 第11回救急救命士国家試験問題 解答・解説集, 1997 ; pp46-60, へるす出版.
- 4) 黒川 顕 : [分担] 第11回救急救命士国家試験問題 解答・解説集. 第11回救急救命士国家試験問題解答・解説集, 1997 ; pp3-14, へるす出版.
- 5) 黒川 顕 : [分担] 睡眠薬中毒. 今日の診断指針 第4版, 1997 ; pp1259-1261, 医学書院.
- 6) 富岡譲二, 須崎紳一郎, 吉田竜介, 小池 薫, 黒川 顕, 牧野俊郎¹⁾ (¹⁾ 国際空港クリニック) : [分担] 第12

回救急救命士国家試験問題 解答・解説集. 第12回救急救命士国家試験問題 解答・解説集, 1997;へるす出版.

- 7) 黒川 顕:〔分担〕第12回救急救命士国家試験問題 解答・解説集. 第12回救急救命士国家試験問題解答・解説集, 1997; pp3-14, へるす出版.
- 8) 横田裕行:〔分担〕出血性ショック:経静脈治療. オータマニュアル97, 1997; pp36-39.
- 9) 横田裕行:〔共著〕突然の意識障害. 今日の治療指針(日野原重明, 阿部正和監修), 1997; pp5-6, 医学書院.
- 10) 黒川 顕:〔分担〕不整脈. 今日の治療指針, 1998; pp13-14, 医学書院.

学会発表

(1) 招待講演:

- 1) 横田裕行:救命救急における脳死の諸問題. 多摩市医師会講演会, 1998. 1.

(2) 教育講演:

- 1) 黒川 顕:頭部外傷患者の治療. 第7回脳神経外科看護教育研修会, 1997. 8.
- 2) 富岡譲二:教育現場での観察:見逃してはいけない所見を中心として. 第5回船橋教輪会総会, 1997. 9.
- 3) 富岡譲二:高規格救急車内の資器材の取り扱いについて. 第1回長野県救急救命士セミナー, 1997. 11.
- 4) 富岡譲二:患者の情報を得るための監視装置:治療のための医療機器. 第4回救急隊員の発展向上をめざすセミナー, 1997. 12.
- 5) 富岡譲二:救急救命士の卒前・卒後教育へのインターネットの応用:第1報 国家試験データベースの作成. 全国救急隊員セミナー, 1998. 2.

(3) シンポジウム:

- 1) 新井正徳¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 松田 潔¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 黒川 顕, 山本保博¹⁾, 大塚敏文¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター): Damage control surgery を要した腹部外傷症例の検討. 第11回日本外傷学会, 1997. 5.

(4) パネルディスカッション:

- 1) 横田裕行:脳死状態:医療現場での判断と説明. 第10回脳死・脳蘇生研究会, 1997. 6.
- 2) 加地正人, 山本保博¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 吉田竜介¹⁾, 久志本成樹¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院救命救急センター): 腹部血管損傷の治療:緊急室手術と治療戦略. 第25回救急医学総会, 1997. 11.
- 3) 富岡譲二:ICUにおけるQuality of Deathの提言. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.

(5) 一般講演:

- 1) Yokota H, Naoe Y¹⁾, Huse A¹⁾, Sato H¹⁾, Ikeda Y¹⁾, Kurokawa A, Yamamoto Y¹⁾, Teramoto A²⁾, Kobayashi S²⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学附属病院脳神経外科): Measurements of cortical neuronal pH in acute severe head injury. 4th International Neurotrauma Symposium (Seoul, Korea), 1997. 8.
- 2) 石川尚子¹⁾, 横田裕行¹⁾, 加藤一良¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 高橋幸道¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部): 出血性十二指腸潰瘍に対する内視鏡的止血—特にクリッピング法について. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 3) 富岡譲二, 小井土雄一, 山下照代, 黒川 顕:死は誰のものか:ICUにおけるQuality of Death の提言. 第24回日本集中治療医学会, 1997. 5.
- 4) 富岡譲二, 小井土雄一, 辻井厚子, 畝本恭子, 山下照代, 中林基明, 須崎紳一郎, 黒川 顕:精神神経疾患は外傷患者の予後を左右するか:第1報 YRISS Methodによる分析. 第11回日本外傷学会総会, 1997. 5.
- 5) 辻井厚子, 中林基明, 小井土雄一, 畝本恭子, 富岡譲二, 須崎紳一郎, 黒川 顕, 加地正人, 益子邦洋¹⁾, 大塚敏文¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター): 鈍的外傷による心破裂を伴った大動脈起始部断裂

の1救命例。第11回日本外傷学会，1997. 5.

- 6) 小池 薫¹⁾，超 圭²⁾，小川理郎¹⁾，高橋幸道¹⁾，犬塚 祥¹⁾，加藤一良¹⁾，横田裕行，大塚敏文³⁾，田島なつき²⁾，岡田 進²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急部，2) 日本医科大学千葉北総病院放射線科，3) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：RIアンギオグラフィーによる腹腔内臓器への血流灌流状態の検討：鈍的外傷3例・非外傷性手術症例2例を用いて。第11回日本外傷学会，1997. 5.
- 7) 佐藤秀貴¹⁾，池田幸穂¹⁾，横田裕行，諫山和男¹⁾，布施 明¹⁾，村上 守¹⁾，益子邦洋¹⁾，山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：高齢者テント下破裂脳動脈奇形の1例。第11回日本神経救急研究会，1997. 5.
- 8) 高橋 肇¹⁾，山口 暁¹⁾，都甲明子¹⁾，岩崎卓爾¹⁾，田中 彰¹⁾，河村 堯¹⁾，横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院産婦人科)：帝王切開後に発症した肺血栓症の1例。日本医科大学医学会第92回例会，1997. 5.
- 9) 柴田泰史¹⁾，横田裕行，松浦有里子¹⁾，中村 敏¹⁾，小川理郎¹⁾，犬塚 祥¹⁾，小池 薫¹⁾，加藤一良¹⁾，山本保博²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急部，2) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：航空機内で発症した肺水腫の2症例。日本医科大学医学会第92回例会，1997. 5.
- 10) 奥村昌夫¹⁾，日野光紀¹⁾，林原賢治¹⁾，古田知行¹⁾，榎本達治¹⁾，伊藤永喜¹⁾，小俣雅念¹⁾，水野杏一¹⁾，横田裕行，加藤一良²⁾，大秋美治³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院内科，2) 日本医科大学千葉北総病院救命救急部，3) 日本医科大学千葉北総病院病理部)：気管支肺洗浄 (BAL) にて診断しえたpneumocystis carinii肺炎3症例の検討。日本医科大学医学会第92回例会，1997. 5.
- 11) 小池 薫¹⁾，超 圭²⁾，小川理郎¹⁾，犬塚 祥¹⁾，加藤一良¹⁾，横田裕行，田島なつき²⁾，岡田 進²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急部，2) 日本医科大学千葉北総病院放射線科)：腹腔内臓器の血流低下をもたらした重症急性脾炎の1例。第12回日本SHOCK学会総会，1997. 5.
- 12) 小川理郎¹⁾，横田裕行，加藤一良¹⁾，小池 薫¹⁾，犬塚 祥¹⁾，松浦有里子¹⁾，山本保博²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急部，2) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：心肺脳蘇生術におけるACD-CPRの有用性。第10回脳死・脳蘇生研究会，1997. 6.
- 13) 横田裕行，小川理郎¹⁾，布施 明²⁾，佐藤秀貴²⁾，中林基明，池田幸穂²⁾，益子邦洋²⁾，黒川 顕，山本保博²⁾，星野 茂³⁾，小林士郎³⁾，寺本 明³⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急部，2) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター，3) 日本医科大学附属病院脳神経外科)：頭部外傷後の脳代謝・血流障害。第3回脳代謝モニタリング研究会，1997. 6.
- 14) 布施 明¹⁾，池田幸穂¹⁾，横田裕行，村上 守¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，益子邦洋¹⁾，山本保博¹⁾，大塚敏文¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：低体温療法中における循環系への影響。第3回脳代謝モニタリング研究会，1997. 6.
- 15) 富岡譲二，中林基明，辻井厚子，小井土雄一，畝本恭子，高橋 聡，須崎紳一郎，黒川 顕：重篤な不整脈を合併した四環系抗うつ薬中毒の1例。第43回日本救急医学会関東地方会，1997. 6.
- 16) 中村 敏¹⁾，横田裕行，加藤一良¹⁾，小池 薫¹⁾，犬塚 祥¹⁾，小川理郎¹⁾，松浦有里子²⁾，大秋美治³⁾，山本保博²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急部，2) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター，3) 日本医科大学千葉北総病院病理部)：救急外来で突然死した大動脈弁狭窄症の1剖検例。第43回日本救急医学会関東地方会，1997. 6.
- 17) 近藤久禎¹⁾，横田裕行，加藤一良¹⁾，小池 薫¹⁾，犬塚 祥¹⁾，小川理郎¹⁾，松浦有里子²⁾，小柳正雄¹⁾，大秋美治³⁾，牧野俊郎⁴⁾，山本保博²⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院救命救急部，2) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター，3) 日本医科大学千葉北総病院病理部，4) 国際空港クリニック)：重症呼吸不全を合併したAIDSの2症例。第43回日本救急医学会関東地方会，1997. 6.
- 18) 小川理郎¹⁾，横田裕行，加藤一良¹⁾，小池 薫¹⁾，犬塚 祥¹⁾，松浦有里子²⁾，山本保博²⁾ (1) 日本医科大学千葉

- 北総病院救命救急部,²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 心肺脳蘇生におけるACD-CPRの有
 用性. 第10回脳死・脳蘇生研究会, 1997. 6.
- 19) 富岡譲二, 須崎紳一郎, 黒川 顕, 山本保博¹⁾, 大塚敏文¹⁾, 根本香代²⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救
 急センター, ²⁾ 日本医科大学薬理学教室): パラコートが腸管運動に与える影響とその機序: 第2報 GTP γ S
 存在したでのパラコートの作用について. 第19回日本中毒学会総会, 1997. 7.
- 20) 富岡譲二, 黒川 顕, 平田清貴: インターネットによる中毒症例データベース構築の試み: 1インターネットを
 用いた症例収集・交換についてのアンケート結果. 第19回日本中毒学会総会, 1997. 7.
- 21) 富岡譲二, 白川洋一¹⁾, 屋敷幹雄²⁾, 後藤京子³⁾, 越智元郎¹⁾, 西岡憲吾⁴⁾ (¹⁾ 愛媛大学救急医学教室, ²⁾ 広島大
 学法医学教室, ³⁾ 日本中毒情報センター, ⁴⁾ 北九州総合病院救命救急センター): インターネットによる中毒症
 例データベース構築の試み: 2データベースの試験運用の経過. 第19回日本中毒学会総会, 1997. 7.
- 22) 黒川 顕, 富岡譲二, 須崎紳一郎¹⁾, 平田清貴²⁾, 村田正弘²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター,
²⁾ 日本医科大学附属多摩永山病院薬剤部): 3次救急医療施設における急性医薬品中毒の実態. 第19回日本中
 毒学会総会, 1997. 7.
- 23) 森田良平¹⁾, 上笹 宙¹⁾, 工廣紀斗司¹⁾, 原 義明¹⁾, 中村 敏¹⁾, 小川理郎¹⁾, 小池 薫¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 加藤一
 良¹⁾, 横田裕行, 山本保博²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部, ²⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急
 センター): 呼吸停止で搬送され救命し得た上位頸髄損傷の1症例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 24) 黒田周一¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 小林士郎²⁾, 水成隆之²⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院形成外科, ²⁾ 日本
 医科大学千葉北総病院脳神経外科): 血管柄付遊離腹直筋弁移植による頭蓋底周辺部の再建における有用性につ
 いて. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 25) 上笹 宙¹⁾, 森田良平¹⁾, 工廣紀斗司¹⁾, 原 義明¹⁾, 中村 敏¹⁾, 小川理郎¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 小池 薫¹⁾, 加藤一
 良¹⁾, 横田裕行, 山本保博²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部, ²⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急
 センター): 自然治癒した閉鎖孔ヘルニアによるイレウスの2症例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 26) 牧野俊郎¹⁾, 前田容子¹⁾, 黒川 顕, 山本保博²⁾, 柴田 稔, 河井研二 (¹⁾ 国際空港クリニック, ²⁾ 日本医科大
 学附属病院高度救命救急センター): 新食道閉鎖式エアウェイの開発と検討. 第12回日本救命医療研究会, 1997.
 9.
- 27) 小井土雄一¹⁾, 辻井厚子, 中林基明, 富岡譲二, 高橋 聡, 畝本恭子, 須崎紳一郎¹⁾, 黒川 顕 (¹⁾ 日本医科大
 学附属病院高度救命救急センター): 腹部外傷術後に広範腸管壊死を来した1例. 第29回日本腹部救急医学会総
 会, 1997. 9.
- 28) 横田裕行, 布施 明¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 畝本恭子, 池田幸穂¹⁾, 黒川 顕, 山本保博¹⁾, 小林士郎²⁾, 寺本 明²⁾
 (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学附属病院脳神経外科): モニタリングとして
 のXe-CT意義一特に予後との関連から. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 29) 布施 明¹⁾, 池田幸穂¹⁾, 横田裕行, 村上 守¹⁾, 大橋一善¹⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救
 急センター): 重症頭部外傷に対する各種のモニタリングと予後: 外減圧, 過換気療法, マンニトール, 脳室ド
 レナーゼ, 低体温療法の検討. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 30) 佐藤秀貴¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 小関一英²⁾, 池田幸穂¹⁾, 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院
 高度救命救急センター, ²⁾ 川口市立医療センター救命救急部): 重症頭部外傷患者に対する低体温療法の問題
 点: 心機能および腎機能からの評価. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 31) 猪鹿倉恭子, 中林基明, 黒川 顕, 布施 明¹⁾, 池田幸穂¹⁾, 横田裕行, 直江康孝²⁾, 志村俊郎²⁾, 寺本 明²⁾
 (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学附属病院脳神経外科): くも膜下出血重症例
 に対する脳低体温療法: 施行時期の検討. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 32) 富岡譲二, 須崎紳一郎, 黒川 顕, 山本保博¹⁾, 大塚敏文¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急セクタ

- 一)：パラコートが腸管運動に与える影響とその機序に関する研究。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 33) 小池 薫¹⁾，横田裕行，加藤一良¹⁾，犬塚 祥¹⁾，小川理郎¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部)：外傷性ショックとバクテリアトランスロケーション。第29回日本腹部救急医学会，1997。11。
- 34) 益子邦洋¹⁾，工廣紀斗司²⁾，森田良平²⁾，横田裕行，二宮宣文¹⁾，近藤久禎¹⁾，島田 靖¹⁾，山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急センター)：日本医科大学千葉北総病院における基幹災害医療センターとしての災害対策について。第3回日本集団災害医療研究会，1997。11。
- 35) 近藤久禎¹⁾，益子邦洋²⁾，工廣紀斗司¹⁾，森田良平¹⁾，横田裕行，二宮宣文²⁾，島田 靖²⁾，山本保博²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部，²⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：日本医科大学千葉北総病院における災害訓練・災害セミナーについて。第3回日本集団災害医療研究会，1997。11。
- 36) 小川理郎¹⁾，原 義明¹⁾，犬塚 祥¹⁾，小池 薫¹⁾，加藤一良¹⁾，横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部)：Repatriation (海外帰省)中に航空機内で急性肺水腫をきたした1症例。第4回日本エアレスキュー研究会，1997。11。
- 37) 本橋典久，小坂祥子，中林基明，加地正人，富岡譲二，高橋 聡，辻井厚子，畝本恭子，横田裕行，黒川 顕：広範な脳内病変を来した脂肪塞栓症候群の1例。第20回過大侵襲研究会，1997。11。
- 38) 横田裕行：脳死・臓器移植を考える：救急医の立場から。日本医科大学学会第94回例会，1997。11。
- 39) 辻井厚子，益子邦洋¹⁾，黒川 顕，川井 真¹⁾，小井土雄一，勝見 敦，高橋 聡，辺見 弘，山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：熱傷患者における死亡例の検討：判別分析を用いた検討。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 40) 横田裕行，近藤久禎，小川理郎¹⁾，小池 薫¹⁾，犬塚 祥¹⁾，加藤一良¹⁾，牧野俊郎³⁾，益子邦洋²⁾，山本保博²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部，²⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター，³⁾ 国際空港クリニック)：医療経済的側面からみた外国人救急医療の問題点。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 41) 近藤久禎¹⁾，松浦有里子²⁾，小川理郎¹⁾，犬塚 祥¹⁾，小池 薫¹⁾，加藤一良¹⁾，横田裕行，黒川 顕，山本保博²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部，²⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：ベトナムにおけるprehospital careを中心とした救急医療体制について。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 42) 横田裕行，中村 敏¹⁾，小川理郎¹⁾，犬塚 祥¹⁾，小池 薫¹⁾，加藤一良¹⁾，益子邦洋²⁾，山本保博²⁾，黒沢 尚²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部，²⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：せん妄症例における脳血流の検討。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 43) 犬塚 祥¹⁾，木村昭夫²⁾，加藤一良¹⁾，横田裕行，益子邦洋²⁾，山本保博²⁾，辺見 弘³⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部，²⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター，³⁾ 東京災害医療センター)：十二指腸損傷に対するpyloric exclusion：術後follow upからの検討。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 44) 加藤一良¹⁾，横田裕行，犬塚 祥¹⁾，小池 薫¹⁾，小川理郎¹⁾，松浦有里子²⁾，益子邦洋²⁾，山本保博²⁾，秋元正宇³⁾，百束比古³⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部，²⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急部，³⁾ 日本医科大学附属病院形成外科)：腹部外傷後の急性腹壁欠損の管理と修復法：silo techniqueとcomponets separation法の応用。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 45) 布施 明¹⁾，横田裕行，池田幸穂¹⁾，村上 守¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：低体温療法時の循環系の変化。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 46) 須崎紳一郎¹⁾，富岡譲二，辻井厚子，高橋 聡，小井土雄一¹⁾，黒川 顕，二宮宣文¹⁾，大泉 旭¹⁾，布施 明¹⁾，山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：国際患者搬送における航空搬送中の患者管理：international repatriationの諸問題 第4報。第25回日本救急医学会総会，1997。11。
- 47) 畝本恭子，横田裕行，中林基明，富岡譲二，黒川 顕：延髄出血によるオンディーヌの呪(睡眠時無呼吸症候群)の1例。第17回多摩地区脳卒中研究会，1997。11。

- 48) 中林基明, 黒川 顕, 須崎伸一郎¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 辻井厚子, 猪鹿倉恭子, 富岡譲二 (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター) : 低頻度の自発呼吸のみ存在した蘇生後脳症の画像及び脳幹機能検査. 第10回脳死・脳蘇生研究会, 1997. 12.
- 49) 中野渡雄一, 横田裕行, 黒川 顕 : 脂肪塞栓症候群の2症例. 第10回多摩救命救急研究会, 1998. 1.
- 50) 高田雅史¹⁾, 犬塚 祥²⁾, 森田良平²⁾, 東 和明²⁾, 中村 敏²⁾, 工廣紀斗史²⁾, 原 義明²⁾, 小川理郎²⁾, 小池薫²⁾, 益子邦洋²⁾, 横田裕行, 山本保博³⁾, 片岡博邦¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院薬剤科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院救命救急部, ³⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 当院開設以来の急性中毒症例の検討. 第12回日本中毒学会東日本部会, 1998. 1.
- 51) 横田裕行, 黒川 顕, 村田正弘¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院薬剤科) : 市民のための中毒講座. 第12回中毒学会東日本部会, 1998. 1.
- 52) 森園英子¹⁾, 橋本恵美¹⁾, 須永美由紀¹⁾, 小林信子¹⁾, 石川秀一¹⁾, 塩津正己¹⁾, 青木はるみ¹⁾, 緋田雅美¹⁾, 遠藤三代子¹⁾, 平田清貴²⁾, 黒川 顕 (¹⁾ 日本医科大学附属多摩永山病院救命救急センター看護部, ²⁾ 日本医科大学附属多摩永山病院薬剤部) : 当院救命救急センターにおける解熱鎮痛薬中毒患者の実態. 第12回中毒学会東日本部会, 1998. 1.
- 53) 松本宣明¹⁾, 平田清貴²⁾, 浜口夕香¹⁾, 村田正弘²⁾, 富岡譲二, 黒川 顕, 福岡正道¹⁾, 松本光雄³⁾ (¹⁾ 昭和薬科大学薬物動態学教室, ²⁾ 日本医科大学附属多摩永山病院薬剤部, ³⁾ 昭和薬科大学薬理学教室) : 国外から持ち込まれた睡眠薬による急性中毒患者の薬物分析. 第12回中毒学会東日本部会, 1998. 1.
- 54) 稲葉育広¹⁾, 平田清貴¹⁾, 村田正弘¹⁾, 富岡譲二, 黒川 顕 (¹⁾ 日本医科大学附属多摩永山病院薬剤部) : FPIA法による急性アセトアミノフェン中毒の分析. 第12回日本中毒学会東日本部会, 1998. 1.
- 55) 加地正人, 黒川 顕, 横田裕行, 富岡譲二, 高橋 聡, 辻井厚子, 畝本恭子, 中林基明 : 鼠径部仮性動脈瘤の1例. 多摩クリティカル・ケア研究会, 1998. 2.
- 56) 富岡譲二, 根本香代¹⁾, 岡村忠夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学薬理学教室) : Paraquat のモルモット腸管弛緩作用における cyclic nucleotideの関与. 第71回日本薬理学会年会, 1998. 3.
- 57) 横田裕行, 中林基明, 猪鹿倉恭子, 黒川 顕, 布施 明¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 池田幸穂¹⁾, 山本保博¹⁾, 小林士郎²⁾, 寺本 明²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科) : Xe-CTからみた頭部外傷の病態. 第21回日本神経外傷研究会, 1998. 3.
- 58) 佐藤秀貴¹⁾, 池田幸穂¹⁾, 横田裕行, 小関一英²⁾, 直江康孝²⁾, 村上 守¹⁾, 布施 明¹⁾, 大橋一善¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²⁾ 川口市立川口医療センター) : 重症頭部外傷における低地温療法の適応と問題点. 第21回日本神経外傷研究会, 1998. 3.
- 59) 黒川 顕 : 救急におけるMRSA予防対策. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.

[千葉北総病院救命救急センター]

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著 :

- 1) 石原 哲¹⁾, 小泉和雄¹⁾, 丸茂裕和¹⁾, 木村佑介²⁾, 安田栄一²⁾, 益子邦洋, 新垣 哲⁴⁾, 古畑 正⁴⁾, 中西 泉⁴⁾ (¹⁾ 東京都私立病院救急委員会, ²⁾ 東京都医師会救急委員会, ³⁾ 日本医科大学救急医学科, ⁴⁾ 全日本病院協会救急委員会) : 大災害時における病診連携と搬送システムの問題点. 日本災害医学会会誌 1997; 45 (3) : 185-192.

(1) 原著：

- 1) Nihira M¹⁾, Hayashida M¹⁾, Ohno Y¹⁾, Inuzuka S, Yokota H, Yamamoto Y²⁾ (1) 日本医科大学法医学教室, 2) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター)：Urinalysis of body packer in Japan. Journal of Analytical Toxicology 1998；22：61-65.
- 2) 仁平 信¹⁾, 林田真喜子¹⁾, 大野曜吉¹⁾, 犬塚 祥²⁾, 柴田泰史³⁾, 益子邦洋, 山本保博²⁾ (1) 日本医科大学法医学教室, 2) 日本医科大学救急医学教室, 3) 日本医科大学付属病院中央検査部)：救急患者に対する簡易尿中薬物スクリーニングキットTriage使用の評価. 機器・試薬 1997；20 (4)：519-525.
- 3) 牧野俊郎¹⁾, 前田容子¹⁾, 小池 薫²⁾, 木村昭夫²⁾, 川井 真²⁾, 横田裕行²⁾, 益子邦洋, 山本保博²⁾, 大塚敏文²⁾ (1) 日本医科大学新東京国際空港クリニック, 2) 日本医科大学救急医学教室)：国際空港と救急医療体制. 救急医学 1997；21 (11)：1500-1503.
- 4) 益子邦洋, 川井 真¹⁾, 勝見 敦¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 山本保博¹⁾, 大塚敏文¹⁾, 辺見 弘²⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター, 2) 国立病院東京災害医療センター)：東京都における重傷熱傷集団発生への対応. 熱傷 1997；23 (4)：215-220.
- 5) 小泉 潔¹⁾, 勝見 敦²⁾, 益子邦洋, 山本保博²⁾, 秋山博彦¹⁾, 原口秀司¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 大塚敏文²⁾ (1) 日本医科大学第2外科, 2) 日本医科大学救急医学科)：胸部外傷に対する胸腔鏡下手術. JSES 1997；2 (6)：550-556.
- 6) 横田裕行, 小川理郎, 布施 明¹⁾, 諫山和男¹⁾, 益子邦洋, 山本保博¹⁾, 大塚敏文¹⁾, 星野 茂¹⁾, 小林士郎²⁾, 寺本 明²⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター, 2) 日本医科大学附属病院脳神経外科)：頭部外傷後の脳血流障害：Xe-CTによる経時的検討. 神経外傷 1997；20：49-53.
- 7) 布施 明¹⁾, 横田裕行, 池田幸穂¹⁾, 村上 守¹⁾, 大橋一善¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：重症頭部外傷に対する低体温療法の問題点：特に循環系, 呼吸器感染症に対して. 神経外傷 1997；20：33-37.
- 8) 中村 敏, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 犬塚 祥, 小川理郎, 松浦有里子¹⁾, 大秋美治, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：救急外来で突然死した大動脈弁狭窄症の1剖検例. 日本救急医学会関東誌 1997；18：136-137.
- 9) 近藤久禎, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 犬塚 祥, 小川理郎, 松浦有里子¹⁾, 大秋美治, 牧野俊郎²⁾, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター, 2) 国際空港クリニック)：重症呼吸不全を合併したAIDSの2症例. 日本救急医学会関東誌 1997；18：156-157.
- 10) 市川和雄¹⁾, 田島なつき¹⁾, 田島広之¹⁾, 村上隆介¹⁾, 岡田 進¹⁾, 保坂純郎¹⁾, 山本 鼎²⁾, 隈崎達夫³⁾, 増野智彦³⁾, 横田裕行, 牧野俊郎⁴⁾ (1) 日本医科大学千葉北総病院放射線科, 2) 日本医科大学多摩永山病院放射線科, 3) 日本医科大学付属病院放射線科, 4) 国際空港クリニック)：Body packerの画像診断. 日本放射線学会雑誌 1997；57：89-93.
- 11) 犬塚 祥, 林田真喜子¹⁾, 仁平 信¹⁾ (1) 日本医科大学法医学教室)：救急医療施設における薬物使用の実態と迅速薬物スクリーニングの有用性についての研究. 日本医大誌 1997；64 (4)：344-352.
- 12) 村上正洋, 益子邦洋, 大塚敏文¹⁾, 秋元正宇²⁾, 百東比古²⁾ (1) 日本医科大学救急医学科, 2) 日本医科大学形成外科)：顔面骨骨折治療におけるBi-Temporal Approachの経験と適応. 日災医学会誌 1997；45：496-500.

(2) 綜説：

- 1) 益子邦洋：救命救急センターにおける医師確保の現状と課題. ASKA21 1997；6 (2)：8-10.
- 2) 久志本成樹¹⁾, 加地正人¹⁾, 益子邦洋 (1) 日本医科大学高度救命救急センター)：出血性ショック. 救急医学 1997；21 (5)：541-546.
- 3) 益子邦洋：高度救命救急の現状. 日本病院会雑誌 1997；44 (6)：927-937.

- 4) 益子邦洋：病院前心肺停止例の調査からみたプレホスピタルケアの重要性。ASKA21 1997；6 (3)：14-16.
 - 5) 益子邦洋，小野寺謙吾¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学科)：CT編：心臓。救急医学 1997；21 (10)：1162-1170.
 - 6) 益子邦洋：交通事故の発生による人身傷害及び社会的，経済的損失の研究。ASKA21 1997；6 (4)：14-16.
 - 7) 大塚敏文¹⁾，益子邦洋 (1) 日本医科大学救急医学科)：救急救命士に求められるもの。救急医療ジャーナル 1997；5 (5)：8-11.
 - 8) 益子邦洋，久志本成樹¹⁾ (1) 日本医科大学高度救命救急センター)：急性症に対する輸液；多発外傷。医学のあゆみ 1997；183 (9)：677-682.
 - 9) 益子邦洋：カテーテル検査とカテーテル治療：編集にあたって。救急医学 1997；21 (12)：1529.
 - 10) 益子邦洋，犬塚 祥，辺見 弘¹⁾ (1) 国立病院東京災害医療センター)：破裂性腹部大動脈瘤，腸骨動脈瘤。臨床外 1997；52 (13)：1571-1577.
 - 11) 横田裕行，加藤一良，山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：臓器提供施設のあり方。臨床透析 1997；13：1593-1599.
 - 12) 石川尚子，横田裕行：顔面外傷。臨床外科 1997；52：36-37.
 - 13) 中村 敏，横田裕行：意識障害患者の取扱いと看護治療。Emergency Nursing 1997；10：995-1101.
 - 14) 有賀 徹¹⁾，北原孝雄²⁾，坂本哲也³⁾，福田充宏⁴⁾，横田裕行 (1) 昭和大学救急医学，2) 北里大学救命救急医学，3) 公立昭和病院救命救急センター，4) 川崎医科大学救急医学)：脳死の切迫した状態から脳死判定に至る過程に関する一考察。救急医学 1997；21：1109-1114.
 - 15) 布施 明¹⁾，横田裕行，池田幸穂¹⁾，大橋一善¹⁾，村上 守¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，木村昭夫¹⁾，小井土雄一¹⁾，二宮宣文¹⁾，黒川 顕，山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：重症脳障害に対する低体温療法。救急医学 1997；21：1091-1094.
 - 16) 横田裕行：脳死：脳死への過程。Life Support and Anesthesia 1997；4：560-563.
 - 17) 小川理郎，横田裕行：頭部軟部組織の外傷。救急医学 1997；21：146-150.
 - 18) 横田裕行，小川理郎，佐藤秀貴¹⁾，布施 明¹⁾，黒川 顕，山本保博¹⁾，大塚敏文¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：頭部外傷 知っておくべき救急疾患100。診断と治療 1997；85：537-545.
 - 19) 布施 明¹⁾，横田裕行，益子邦洋¹⁾，黒川 顕，山本保博¹⁾，大塚敏文¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：痙攣。救急医学 1997；21：379-400.
 - 20) 横田裕行，小川理郎，犬塚 祥，小池 薫，加藤一良，佐藤秀貴¹⁾，布施 明¹⁾，益子邦洋¹⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：重症患者と意識障害：頭部外傷。集中治療 1997；9 (4)：399-407.
 - 21) 益子邦洋，中村 敏，東 和明：ショックの分類と評価法。JOHNS 1998；14 (3)：369-374.
- (3) 研究報告書：
- 1) 高津光洋¹⁾，馬場英彦¹⁾，平賀睦夫¹⁾，益子邦洋，森 尚雄¹⁾，島崎有平¹⁾，中川雅量¹⁾，上田 茂¹⁾，柴田耕介¹⁾，三宅哲志¹⁾，花村民夫¹⁾，嶋倉征雄¹⁾ (1) 総務庁「交通事故の発生と人身傷害及び社会的・経済的損失に係る総合的分析に関する調査研究」委員会)：交通事故の発生と人身傷害及び社会的・経済的損失に係る総合的分析に関する調査研究報告書。1997.
 - 2) 横田裕行，加藤一良，大塚敏文¹⁾，有賀 徹²⁾，佐藤 章³⁾ (1) 日本医科大学附属病院高度救命救急センター，2) 昭和大学救急医学，3) 千葉県救急医療センター)：平成八年度厚生科学研究費補助金臓器技術臨床研究開発事業：臓器移植の社会的問題に関する研究班 (B班)。臓器提供施設マニュアル 1997.
 - 3) 大塚敏文，益子邦洋，円山啓司¹⁾，宮坂雄平¹⁾ (1) 総務庁調査研究委員会)：アンケート調査票及び分析。交通事故における応急手当普及促進方策に関する調査研究報告書。1998.

著 書

- 1) 須崎紳一郎²⁾, 吉田竜介²⁾, 富岡譲二²⁾, 小池 薫, 黒川 顕²⁾, 牧野俊郎¹⁾ (1) 国際空港クリニック, ²⁾ 日本医科大学付属多摩永山病院救命救急部): [分担] 第11回救急救命士国家試験問題 解答・解説集 (山本保博監修). 第11回救急救命士国家試験問題 解答・解説集, 1997; pp46-60, へるす出版.
- 2) 大塚敏文, 益子邦洋: [共著] 救急医療ファーストエイドマニュアル, 1997; インターメディカ.
- 3) 川井 真, 益子邦洋: [分担] 熱傷ショック. 経静脈治療オーダーマニュアル, 1997; pp55-59, メディカルビュー社.
- 4) 大塚 祥, 益子邦洋: [分担] 臓器温存と選択的開腹. 腹部外傷—診断と治療の進歩—, 1997; pp57-66, へるす出版.
- 5) 益子邦洋: [分担] 動揺胸郭. 今日の診断指針 第4版, 1997; pp505-507, 医学書院.
- 6) 大塚 祥, 益子邦洋: [分担] 多発外傷. 救急マニュアル, 1997; pp192-195, 照林社.
- 7) 益子邦洋: [分担] フレイルチェスト. 家庭医学事典, 1997; pp1170-1171, 法研.
- 8) 益子邦洋: [分担] 心タンポナーデ. 家庭医学事典, 1997; p1171, 法研.
- 9) 富岡譲二²⁾, 須崎紳一郎²⁾, 吉田竜介²⁾, 小池 薫, 黒川 顕²⁾, 牧野俊郎¹⁾ (1) 国際空港クリニック, ²⁾ 日本医科大学付属多摩永山病院救命救急センター): [分担] 第12回救急救命士国家試験問題 解答・解説集. 第12回救急救命士国家試験問題 解答・解説集, 1997; へるす出版.
- 10) 横田裕行: [共著] 突然の意識障害. 今日の治療指針 (日野原重明, 阿部正和監修), 1997; pp5-6, 医学書院.
- 11) 益子邦洋: [分担] 心臓外傷. 今日の治療指針1998, 1998; pp26-27, 医学書院.
- 12) 益子邦洋, 加藤一良: [分担] 心不全. 臨床侵襲学, 1998; pp471-479, へるす出版.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 益子邦洋: 緊急検査データの評価. 日本救急医学会 医師救急医療業務実施修練合同研修会, 1997. 9.
- 2) 益子邦洋: 多発外傷観察・判断の落とし穴. 日本救急医学会関東地方会 第31回救急隊員学術研究会, 1998. 2.

(2) シンポジウム:

- 1) 益子邦洋, 川井 真¹⁾, 勝見 敦¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 山本保博¹⁾, 大塚敏文¹⁾, 辺見 弘²⁾ (1) 日本医科大学救急医学科, ²⁾ 国立病院東京災害医療センター): 東京都における重症熱傷集団発生への対応. 第23回日本熱傷学会総会, 1997. 5.
- 2) 新井正徳¹⁾, 益子邦洋, 木村昭夫¹⁾, 松田 潔²⁾, 小井土雄一³⁾, 黒川 顕³⁾, 山本保博¹⁾, 大塚敏文¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学科, ²⁾ 山梨県立中央病院救命救急センター, ³⁾ 日本医科大学付属多摩永山病院救命救急センター): Damage Control Surgeryを要した腹部外傷症例の検討. 第11回日本外傷学会, 1997. 5.

(3) パネルディスカッション:

- 1) 木村昭夫¹⁾, 大塚敏文¹⁾, 山本保博¹⁾, 益子邦洋 (1) 日本医科大学救急医学教室): 救急医学教育用CD-Romの開発. 第22回日本外科系連合学会学術集会, 1997. 6.
- 2) 横田裕行: 脳死状態: 医療現場での判断と説明. 第10回脳死・脳蘇生研究会, 1997. 6.
- 3) 川井 真¹⁾, 原 義明¹⁾, 大泉 旭¹⁾, 益子邦洋, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学救急医学教室): 多発外傷における Missed injuryの検討 (整形外傷を中心に). 第22回日本外科系連合学会学術集会, 1997. 6.

(4) ワークショップ:

- 1) 勝見 敦¹⁾, 益子邦洋, 木村昭夫¹⁾, 加地正人¹⁾, 山本保博¹⁾, 大塚敏文¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 救急医療における胸腹腔鏡の応用—胸腹部外傷に対する診断治療の意義—. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.

- 2) 益子邦洋, 犬塚 祥, 木村昭夫¹⁾, 山本保博¹⁾, 辺見 弘²⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学科, ²⁾ 国立病院東京災害医療センター) : 十二指腸損傷に対する pyloric exclusion の有用性. 第29回日本腹部救急医学会総会, 1997. 9.
- 3) 益子邦洋, 工廣紀斗司, 森田良平, 横田裕行¹⁾, 二宮宣文²⁾, 近藤久禎, 島田 靖²⁾, 山本保博²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属多摩永山病院救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学救急医学科) : 日本医科大学付属千葉北総病院における基幹災害医療センターとしての災害対策について. 第3回日本集団災害医療研究会, 1997. 11.
- (5) 一般講演 :
- 1) Honma M¹⁾, Henmi H¹⁾, Ohtomo Y¹⁾, Inoue J¹⁾, Mashiko K, Yamamoto Y²⁾, Otsuka T²⁾ (¹⁾ National Hospital Tokyo Disaster Medical Center, ²⁾ Dept. of Emergency and Critical Care Medicine) : Usefulness of near - infrared spectroscopy for monitoring a cerebral tissue oxygen saturation during cardio pulmonary resuscitation (CPR). 17th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine, 1997. 6.
- 2) Ohtomo Y¹⁾, Henmi H¹⁾, Mashiko K, Yamamoto Y²⁾, Otsuka T²⁾ (¹⁾ National Hospital Tokyo Disaster Medical Center, ²⁾ Dept. of Emergency and Critical Care Medicine) : New diagnostic peritoneal lavage (DPL) criteria for diagnosing hollow - viscus injury. 17th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine, 1997. 6.
- 3) Mashiko K, Arai M¹⁾, Kimura A¹⁾, Katsumi A¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Tanaka S²⁾ (¹⁾ Dept. of Emergency and Critical Care Medicine, ²⁾ Dept. of Thoracic and Cardiovascular Surgery) : Survival limit of blunt cardiac rupture in 1997. Japan Chapter of International Society of Cardio-Thoracic Surgeon, 1997. 7.
- 4) Katsumi A¹⁾, Kimura A¹⁾, Mashiko K, Yamamoto Y¹⁾ (¹⁾ Dept. of Emergency and Critical Care Medicine) : Thoracoscopic surgery in chest trauma. Japan Chapter of International Society of Cardio-Thoracic Surgeons, 1997. 7.
- 5) Yokota H, Naoe Y¹⁾, Huse A¹⁾, Sato H¹⁾, Ikeda Y¹⁾, Kurokawa A, Yamamoto Y¹⁾, Teramoto A²⁾, Kobayashi S²⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター, ²⁾ 日本医科大学附属病院脳神経外科) : Measurements of cortical neuronal pH in acute severe head injury Dept. of Traumatology and Critical Care. 4th International Neurotrauma Symposium (Seoul, Korea), 1997. 8.
- 6) 石川尚子, 横田裕行, 加藤一良, 犬塚 祥, 高橋幸道 : 出血性十二指腸潰瘍に対する内視鏡的止血—特にクリッピング法について. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 7) 望月 徹¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 益子邦洋, 山本保博¹⁾, 大塚敏文¹⁾, 西澤健司²⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学科, ²⁾ 日本医科大学付属病院薬剤部) : 早期植皮術後の重症熱傷症例におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌肺炎に対する抗菌薬の予防的投与と治療. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
- 8) 佐藤秀貴¹⁾, 池田幸穂¹⁾, 横田裕行, 諫山和男¹⁾, 布施 明¹⁾, 村上 守¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 高齢者テント下破裂脳動静脈奇形の1例. 第11回日本神経救急研究会, 1997. 5.
- 9) 高橋 肇¹⁾, 山口 暁¹⁾, 都甲明子¹⁾, 岩崎卓爾¹⁾, 田中 彰¹⁾, 河村 堯¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院産婦人科) : 帝王切開後に発症した肺血栓症の1例. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 10) 柴田喜明, 横田裕行, 松浦有里子, 中村 敏, 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 航空機内で発症した肺水腫の2症例. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 11) 奥村昌夫¹⁾, 日野光紀¹⁾, 林原賢治¹⁾, 古田知行¹⁾, 榎本達治¹⁾, 伊藤永喜¹⁾, 小俣雅念¹⁾, 水野杏一¹⁾, 横田裕行, 加藤一良, 大秋美治²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院内科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院病理部) : 気管支肺洗浄 (BAL) にて診断した pneumocystis carinii 肺炎3症例の検討. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 12) 小池 薫, 超 圭一¹⁾, 小川理郎, 犬塚 祥, 加藤一良, 横田裕行, 田島なつき¹⁾, 岡田 進¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学

- 学千葉北総病院放射線科)：腹腔内臓器の血流低下をもたらした重症急性膵炎の1例。第12回日本SHOCK学会総会，1997。5。
- 13) 小池 薫，超 圭一¹⁾，小川理郎，高橋幸道，犬塚 祥，加藤一良，横田裕行¹⁾，大塚敏文²⁾，田島なつき¹⁾，岡田 進¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院放射線科，²⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：RIアンギオグラフィによる腹腔内臓器への血流灌流状態の検討：鈍的外傷3例・非外傷性手術症例2例を用いて。第11回日本外傷学会，1997。5。
 - 14) 後藤慎介¹⁾，田島廣之¹⁾，川俣博志¹⁾，高橋修司¹⁾，岡島雄史¹⁾，市川和雄¹⁾，弦間和仁¹⁾，隈崎達夫¹⁾，川井 真²⁾，益子邦洋 (¹⁾ 日本医科大学放射線医学教室，²⁾ 日本医科大学救急医学科)：重症骨盤骨折の画像診断—特にCTの役割について—。第11回日本外傷学会，1997。5。
 - 15) 小関一英¹⁾，有賀 徹²⁾，益子邦洋，坂本哲也⁴⁾，小井土雄一³⁾，菊野隆明⁵⁾，佐々木勝⁶⁾，杉本勝彦⁷⁾，松田潔⁸⁾，森村尚登⁹⁾，平間久雄¹⁰⁾，高柳和江¹¹⁾ (¹⁾ 川口市立医療センター，²⁾ 昭和大学救急医学，³⁾ 日本医科大学救急医学，⁴⁾ 公立昭和病院，⁵⁾ 国立東京第2病院，⁶⁾ 都立府中病院，⁷⁾ 北里大学救命救急医学，⁸⁾ 山梨県立中央病院，⁹⁾ 横浜市立大学救命救急センター，¹⁰⁾ 総合会津中央病院救命救急センター，¹¹⁾ 日本医科大学医療管理学教室)：救命救急センターにおける多発外傷治療の質的評価と治療における問題点；多施設共同研究による"preventable trauma death (PTD)の解析から。第11回日本外傷学会，1997。5。
 - 16) 木村昭夫¹⁾，益子邦洋，山本保博¹⁾，大塚敏文¹⁾，鈴木 勇²⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学科，²⁾ 旭化成情報システム)：救急医学教育用マルチメディアCD-ROM教材の開発。第11回日本外傷学会，1997。5。
 - 17) 原 義明¹⁾，高野研一郎¹⁾，大泉 旭¹⁾，川井 真¹⁾，益子邦洋，山本保博¹⁾，大塚敏文¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学高度救命救急センター)：当施設におけるFloating Hip症例の検討。第11回日本外傷学会，1997。5。
 - 18) 小川理郎，横田裕行，加藤一良，小池 薫，犬塚 祥，松浦有里子，山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：心肺脳蘇生術におけるACD-CPRの有用性。第10回脳死・脳蘇生研究会，1997。6。
 - 19) 横田裕行，小川理郎，布施 明¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，中林基明，池田幸穂¹⁾，益子邦洋¹⁾，黒川 顕，山本保博¹⁾，星野 茂²⁾，小林士郎²⁾，寺本 明²⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター，²⁾ 日本医科大学附属病院脳神経外科)：頭部外傷後の脳代謝・血流障害。第3回脳代謝モニタリング研究会，1997。6。
 - 20) 布施 明¹⁾，池田幸穂¹⁾，横田裕行，村上 守¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，益子邦洋，山本保博¹⁾，大塚敏文¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：低体温療法中における循環系への影響。第3回脳代謝モニタリング研究会，1997。6。
 - 21) 中村 敏，横田裕行，加藤一良，小池 薫，犬塚 祥，小川理郎，松浦有里子¹⁾，大秋美治²⁾，山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院病理部)：救急外来で突然死した大動脈弁狭窄症の1剖検例。第43回日本救急医学会関東地方会，1997。6。
 - 22) 近藤久禎，横田裕行，加藤一良，小池 薫，犬塚 祥，小川理郎，松浦有里子¹⁾，小柳正雄，大秋美治²⁾，牧野俊郎³⁾，山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター，²⁾ 日本医科大学千葉北総病院病理部，³⁾ 国際空港クリニック)：重症呼吸不全を合併したAIDSの2症例。第43回日本救急医学会関東地方会，1997。6。
 - 23) 小川理郎，横田裕行，加藤一良，小池 薫，犬塚 祥，松浦有里子¹⁾，山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：心肺脳蘇生におけるACD-CPRの有用性。第10回脳死・脳蘇生研究会，1997。6。
 - 24) 安田栄一¹⁾，石原 哲¹⁾，西原英至¹⁾，津端 徹¹⁾，春山広臣¹⁾，小林建一¹⁾，吉方一悟¹⁾，中西 泉¹⁾，花輪聡¹⁾，相川直樹¹⁾，林 成之¹⁾，益子邦洋，佐々木仁也¹⁾ (¹⁾ 東京都医師会)：大災害時の医療対策に対する東京都医師会の取り組み。第43回日本救急医学会関東地方会，1997。6。
 - 25) 三井啓吾¹⁾，木村昭夫¹⁾，石川尚子¹⁾，村上 守¹⁾，新井正徳¹⁾，益子邦洋，山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター)：下血および腸重積を呈した小腸腫瘍の1例。第43回日本救急医学会関東地方会，1997。6。

- 26) 中間哲郎¹⁾, 勝見 敦¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 益子邦洋, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 破裂性内腸骨動脈瘤の1治験例. 第43回日本救急医学会関東地方会, 1997. 6.
- 27) 小山 敦¹⁾, 望月 徹¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 益子邦洋, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 下行結腸腫瘍の後腹膜穿孔によりガス壊疽をきたした2例. 第43回日本救急医学会関東地方会, 1997. 6.
- 28) 吉田竜介¹⁾, 柴田泰史²⁾, 西澤健司³⁾, 木村昭夫¹⁾, 益子邦洋, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 日本医科大学付属病院中央検査部, 3) 日本医科大学付属病院薬剤部): 中毒疾患におけるアルコールの及ぼす影響の検討. 第19回日本中毒学会学術集会, 1997. 7.
- 29) 原 義明, 川井 真¹⁾, 大泉 旭¹⁾, 高野研一郎¹⁾, 野崎正太郎¹⁾, 山本保博¹⁾, 白井康正²⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 日本医科大学整形外科): 当施設におけるFloating Shoulderの検討. 日本骨折治療学会, 1997. 7.
- 30) 黒田周一¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 小林士郎²⁾, 水成隆之²⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学千葉北総病院形成外科, 2) 日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): 血管柄付遊離腹直筋弁移植による頭蓋底周辺部の再建における有用性について. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 31) 森田良平, 上笹 宙, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 加藤一良, 横田裕行, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 呼吸停止で搬送され救命し得た上位頸髄損傷の1症例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 32) 上笹 宙, 森田良平, 工廣紀斗司, 原 義明, 中村 敏, 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 自然治癒した閉鎖孔ヘルニアによるイレウスの2症例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 33) 布施 明¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 畝本恭子, 池田幸穂¹⁾, 黒川 顕, 山本保博¹⁾, 小林士郎²⁾, 寺本 明²⁾, 横田裕行 (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 日本医科大学付属病院脳神経外科): モリタリングとしてのXe-CT意義一特に予後との関連から. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 34) 布施 明¹⁾, 池田幸穂¹⁾, 横田裕行, 村上 守¹⁾, 大橋一善¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 重症頭部外傷に対する各種のモニタリングと予後: 外減圧, 過換気療法, マンニトール, 脳室ドレナージ, 低体温療法の検討. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 35) 佐藤秀貴¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 小関一英²⁾, 池田幸穂¹⁾, 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 川口市立医療センター救命救急部): 重症頭部外傷患者に対する低体温療法の問題点: 心機能および腎機能からの評価. 第56回日本脳神経外科学会総会, 1997. 10.
- 36) 原 義明, 川井 真¹⁾, 大泉 旭¹⁾, 野崎正太郎¹⁾, 森田良平, 益子邦洋, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 治療に難渋した上腕骨近位骨折の1例. 救急整形外傷セミナー・関東地方会, 1997. 10.
- 37) 小池 薫, 横田裕行, 加藤一良, 犬塚 祥, 小川理郎: 外傷性ショックとバクテリアトランスロケーション. 第29回日本腹部救急医学会, 1997. 11.
- 38) 近藤久禎, 益子邦洋¹⁾, 工廣紀斗司, 森田良平, 横田裕行, 二宮宣文¹⁾, 島田 靖¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 日本医科大学千葉北総病院における災害訓練・災害セミナーについて. 第3回日本集団災害医療研究会, 1997. 11.
- 39) 小川理郎, 原 義明, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行: Repatriation (海外帰省) 中に航空機内で急性肺水腫をきたした1症例. 第4回日本エアーレスキュー研究会, 1997. 11.
- 40) 横田裕行, 近藤久禎, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 加藤一良, 牧野俊郎²⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 2) 国際空港クリニック): 医療経済的側面からみた外国人救急医療の問題点. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.

- 41) 近藤久禎, 松浦有里子¹⁾, 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 黒川 顕, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター) : ベトナムにおけるprehospital care を中心とした救急医療体制について. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 42) 横田裕行, 中村 敏, 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾, 黒沢 尚¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター) : せん妄症例における脳血流の検討. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 43) 犬塚 祥, 木村昭夫¹⁾, 加藤一良, 横田裕行, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾, 辺見 弘²⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター, ²⁾ 東京災害医療センター) : 十二指腸損傷に対するpyloric exclusion : 術後 follow up からの検討. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 44) 加藤一良, 横田裕行, 犬塚 祥, 小池 薫, 小川理郎, 松浦有里子¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾, 秋元正宇²⁾, 百束比古²⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急部, ²⁾ 日本医科大学附属病院形成外科) : 腹部外傷後の急性腹壁欠損の管理と修復法 : Silo techniqueとcomponets separation法の応用. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 45) 原 義明, 川井 真¹⁾, 大泉 旭¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学科高度救命センター) : 両側大腿骨骨折における重症度とその治療. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 46) 工廣紀斗司, 益子邦洋, 犬塚 祥, 小池 薫, 小川理郎, 中村 敏, 原 義明, 東 和明, 森田良平 : 多発外傷に難治性出血性胃潰瘍を併発した1例. 第20回過大侵襲研究会, 1997. 11.
- 47) 中村 敏, 森田良平, 東 和明, 工廣紀斗司, 原 義明, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋, 小坂和己¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学附属千葉北総病院耳鼻咽喉科) : 急激な経過で呼吸不全に陥った重症頸部感染症の2例. 日本外科感染症研究会, 1997. 12.
- 48) 高田雅史¹⁾, 犬塚 祥, 森田良平, 東 和明, 中村 敏, 工廣紀斗司, 原 義明, 小川理郎, 小池 薫, 益子邦洋, 横田裕行, 山本保博²⁾, 片岡博邦²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院薬剤科, ²⁾ 日本医科大学附属病院高度救命救急センター) : 当院開設以来の急性中毒症例の検討. 第12回日本中毒学会東日本部会, 1998. 1.
- 49) 工廣紀斗司, 森田良平, 東 和明, 原 義明, 中村 敏, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学教室) : Body packer におけるスクリーニングとしての腹部エコーの有用性. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 50) 東 和明, 工廣紀斗司, 犬塚 祥, 小川理郎, 益子邦洋, 小池 薫, 中村 敏, 原 義明, 森田良平 : SIRS症例におけるsuper antigenの検討. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 51) 森田良平, 原 義明, 東 和明, 工廣紀斗司, 中村 敏, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋 : 開放性floating kneeの1例. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 52) 小川理郎, 小池 薫, 森田良平, 原 義明, 東 和明, 工廣紀斗司, 中村 敏, 犬塚 祥, 益子邦洋 : 耳下腺炎・MOFで発症したシェーグレン症候群の一症例. 第44回日本救急医学会関東地方会, 1998. 2.
- 53) 中村 敏, 工廣紀斗司, 東 和明, 早川秀幸, 原 義明, 小川理郎, 小池 薫, 犬塚 祥, 益子邦洋 : PMX施行症例における酸素代謝ならびにサイトカインの変動. 第13回千葉県集中治療研究会, 1998. 2.
- 54) 工廣紀斗司, 益子邦洋, 犬塚 祥, 小池 薫, 小川理郎, 中村 敏, 原 義明, 東 和明, 森田良平 : 慢性関節リウマチに多発性小腸潰瘍穿孔を併発した1例. 第30回日本腹部救急医学会総会, 1998. 3.

19. 形成外科学講座

[付属病院形成外科]

研究概要

本年度は、当教室において中国広州第一軍医大学との共同研究のもとに進められてきた真皮下血管網皮弁の臨床および研究が、学会において大きな関心を集めた。このトピックに関して、学会ではシンポジウムが、雑誌では特集が組まれ、次第にその有用性が国内外に浸透するに至っている。また、当教室にて従来より開発が進められてきた prefabricated flap に関しては、走査電子顕微鏡を用いた三次元的な血管再構築像が報告され、その皮弁血行動態が解明されつつあり、同研究報告は学会誌において優秀研究奨励賞を受賞した。さらに本年度は、英国セントジェームズ大学形成外科との共同研究により、マイクロサージャリーにおける皮弁の開発が試みられた。なかでも静脈移植を併用した耳介部皮弁を用いた鼻尖部、鼻翼部再建が報告され、整容的に優れた再建結果が注目された。また、従来あまり報告の無かった上腕部をドナーサイトとする皮弁について、その有用性が報告され今後の臨床応用への可能性が示された。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著：

- 1) 簡野晃次¹⁾、百束比古⁽¹⁾ 西新井皮膚科形成外科)：各種疾患におけるレーザーの適応および効果について。第12回足立医学会論文集 1997；66-68.
- (1) 原著：
 - 1) Tew P¹⁾、Aoki R、Quinn M¹⁾、Gibson W²⁾ (¹⁾ Department of Plastic and Recons, ²⁾ Department of Otolaryngology Royal Prince Al)：Congenital Ear Lobe Deformity. Aust J Otolaryng 1997；2 (6)：586-588.
 - 2) Aoki R、Hyakusoku H、Mitsuhashi K：Immediate Reaugmentation of the Breasts Using Bilaterally Divided TRAM Flaps After Removing Injected Silicone Gel and Granulomas. Aesth Plast Surg 1997；(21)：276-279.
 - 3) Shimbashi T¹⁾、Hyakusoku H、Okinaga M²⁾ (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery J, ²⁾ Nogizaka Clinic)：Treatment of Nevus of Ota by Q-Switched Ruby Laser. Aesth Plast Surg 1997；(21)：118-121.
 - 4) 百束比古：体内埋入異物について：特に美容目的のもの。日本医事新報 1997；3820：33-36.
 - 5) 青木見佳子¹⁾、本田光芳¹⁾、山本 達、百束比古 (¹⁾ 付属病院皮膚科)：木村病：マスト細胞の電顕的脱顆粒形態。臨床皮膚科 1997；51 (10)：785-790.
 - 6) 東 直行¹⁾、天野薫子¹⁾、青木見佳子¹⁾、畑三恵子¹⁾、矢島 純¹⁾、本田光芳¹⁾、有吉正徳、百束比古 (¹⁾ 付属病院皮膚科)：BCG接種後に生じた皮膚結核性肉芽腫の2例。日小児皮会誌 1997；16 (2)：123-127.
 - 7) 村上正洋、益子邦洋¹⁾、大塚敏文¹⁾、秋元正宇²⁾、百束比古 (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター、²⁾ 北総病院形成外科)：顔面骨折治療におけるBi-Temporal Approach の経験と適応。日災医会誌 1997；45 (8)：496-499.
 - 8) 大木更一郎：Secondary Vascularized Island Flap における血管構築に関する実験的研究。日形会誌 1997；

17：615-667.

- 9) 青木 律, 大木更一郎, 岩切 致, 糸井由利恵, 百束比古：採皮創に対する綿状キチンの臨床効果. 新薬と臨床 1998；47 (3)：47-51.

(2) 綜説：

- 1) 百束比古：ロボットからレプリカントへ. 形成外科 1997；40 (7)：8.

著 書

- 1) 高久史磨¹⁾, 百束比古 (1) 自治医科大学)：〔編集〕ステッドマン医学大辞典ナース版, 1998；メディカルビュー社.
- 2) 高久史磨¹⁾, 百束比古 (1) 自治医科大学)：〔編集〕ステッドマン医学大辞典, 1998；メディカルビュー社.

学会発表

〔1996年度追加分〕

一般講演：

- 1) 山村美和¹⁾, 百束比古, 王 春梅, 銅冶英雄²⁾ (1) 第二病院形成外科, ²⁾ 東戸塚記念病院外科)：当科における内視鏡手術の経験：特に遊離軟部組織移植における利用. 第2回形成外科内視鏡手術研究会, 1997. 3.

(1) 招待講演：

- 1) 百束比古：小児形成外科の最近の進歩. 第156回所沢小児科医学会学術講演会, 1997. 6.

(2) シンポジウム：

- 1) Hyakusoku H, Hirai T：Prefabricated or secondary vascularized flaps . XXth congress of Group for Advancement of Microsurgery, 1997. 5.
- 2) 平井 隆, 百束比古：他科との境界領域における形成外科の役割：境界領域における形成外科の役割. 第40回日本形成外科学会総会学術集会, 1997. 4.
- 3) 平井 隆, 百束比古：より薄い皮弁を求めて：真皮下血管網皮弁の顔面頸部への応用：再建外科における Aesthetic mind. 第24回日本マイクロサージャリー学会, 1997. 11.

(3) パネルディスカッション：

- 1) Hyakusoku H, Hirai T：Secondary or neovascularized prefabricated flaps for facial reconstructions. 20th Congress of Group for Advancement of Microsurgery, 1997. 5.
- 2) Hyakusoku H, Hirai T, Oki K：Current status of prefabricated flaps. Annual Meeting of American Society of Microsurgery (Scotsdale), 1998. 1.
- 3) 百束比古：熱傷瘢痕, 瘢痕拘縮の手術：植皮と皮弁の組み合わせを中心に：熱傷瘢痕の治療. 第23回日本熱傷学会総会, 1997. 5.
- 4) 大木更一郎¹⁾, 村上正洋²⁾, 高木 亮³⁾, 平井 隆, 百束比古 (1) 高度救命救急センター, ²⁾ 大浜第一病院形成外科, ³⁾ 附属病院放射線科)：Target 3D-CT による顎関節突起骨折の評価：第1報：手術適応と術後評価について：頭蓋顎顔面外科における画像診断の進歩. 第15回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 1997. 11.

(4) ワークショップ：

- 1) 秋元正宇¹⁾, 百束比古, 利根川均, 青木見佳子²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 附属病院皮膚科)：隆起性皮膚繊維肉腫の切除範囲に関する考察：当科における過去20年30症例の統計から：DFSP,MFH. 第13回日本皮膚悪性腫瘍学会総会, 1997. 7.
- 2) 秋元正宇¹⁾, 百束比古, 利根川均, 青木見佳子²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, ²⁾ 附属病院皮膚科)：隆起性皮膚

繊維肉腫の切除範囲に関する考察：当科における過去20年30症例の統計から：DFSP, MFH. 第13回日本皮膚悪性腫瘍学会総会, 1997. 7.

(5) 一般講演：

- 1) Hirai T, Oki K¹⁾ (1) Emergency Medicine) : Potential utility of allogeneic vessels as pedicles of prefabricated flaps. 20th Congress of Group for Advancement of Microsurgery, 1997. 5.
- 2) Aoki R, Ogata S, Hyakusoku H, Chigira M, Hirai T, Akimoto M (1) 千葉北総病院形成外科) : Usefulness of the immediate reconstruction of the heel with sensory medial plantar flap after resection of malignant melanoma. 4th World Conference on Melanoma (Sydney), 1997. 6.
- 3) Quinn M¹⁾, Crotty K¹⁾, Thompson J¹⁾, Aoki R (1) The Sydney Melanoma Unit) : Suungual melanoma. 4th World Conference on Melanoma (Sydney), 1997. 6.
- 4) Aoki R, Ogata S, Hyakusoku H, Chigira M, Hirai T, Akimoto M¹⁾ (1) 千葉北総病院形成外科) : Usefulness of the immediate reconstruction of the heel with sensory medial plantar flap after resection of malignant melanoma. 4th World Conference on Melanoma (Sydney), 1997. 6.
- 5) 王 春梅, 岩切 致, 百束比古, 植草協子¹⁾, 仁平 信¹⁾ (1) 法医学教室) : H-NMR法を用いた癒痕組織の代謝学的分析. 第8回日中形成外科交流学術集会, 1997. 10.
- 6) 佐野和史, 百束比古, 有吉雅徳, 大木更一郎 : マイクロサージャリーを用いた下腿再建. 第8回日中形成外科交流学術集会, 1997. 10.
- 7) 高 建華, 百束比古, 青木 律, 千明美保 : Bilateral free TRAM flap による異物肉芽腫摘出後乳房再建. 第8回日中形成外科交流学術集会, 1997. 10.
- 8) 土佐真美子, 大木更一郎, 百束比古 : 真皮下血管網皮弁の移植床との血行再開に関する実験的研究 : ラットにおける皮弁SEICHAKU過程. 第8回日中形成外科交流学術集会, 1997. 10.
- 9) 朱 武¹⁾, 高 建華, 百束比古, 青木 律 (1) 中国第一軍医大学南方病院形成外科) : 狭茎ランダム皮弁に関する実験的研究 : Narroe pedicle と wide flap の関連について. 第8回日中形成外科交流学術集会, 1997. 10.
- 10) 朱 武¹⁾, 高 建華, 百束比古, 青木 律 (1) 中国第一軍医大学南方病院形成外科) : 狭茎ランダム皮弁における核酸量測定. 第8回日中形成外科学術交流集会, 1997. 10.
- 11) 有吉雅徳, 百束比古 : ウルトラパルス炭酸ガスレーザーによる皮膚形成術. 第8回日中形成外科学術交流集会, 1997. 10.
- 12) 秋元正字¹⁾, 百束比古 (1) 千葉北総病院形成外科) : 20年間に経験した隆起性皮膚繊維肉腫の24症例の検討. 第40回日本形成外科学会総会学術集会, 1997. 4.
- 13) 利根川均, 百束比古 : Distally based sural flap の分類と適応の検討 : 10年間の経験から. 第40回日本形成外科学会総会学術集会, 1997. 4.
- 14) 秋元正字¹⁾, 百束比古 (1) 千葉北総病院形成外科) : 超音波診断装置の3次元表示装置の開発と鼻骨形態観察への応用. 第40回日本形成外科学会総会学術集会, 1997. 4.
- 15) 有吉雅徳, 百束比古 : 正方弁法による埋没耳形成術. 第40回日本形成外科学会総会学術集会, 1997. 4.
- 16) 佐野和史, 百束比古 : 浅頸動脈を主栄養血管とする単茎および微小血管束付き真皮下血管網皮弁. 第40回日本形成外科学会総会学術集会, 1997. 4.
- 17) 村上正洋¹⁾, 石井和博¹⁾, 百束比古, 平井 隆 (1) 大浜第一病院形成外科) : DIEA paraumbilical perforator flap あるいはそのsubdermal vascular network flap version による再建症例. 第40回日本形成外科学会総会, 1997. 4.
- 18) 利根川均, 百束比古, 秋元正字¹⁾ (1) 千葉北総病院形成外科) : 近位茎あるいは遠位腓腹部皮弁による熱傷後再建症例の検討. 第23回日本熱傷学会総会, 1997. 5.

- 19) 嘉陽宗隆¹⁾, 百束比古, 利根川均, 尾形さやか (1) 北村山公立病院形成外科) : 広頸筋を基とする真皮下血管網皮弁による頸部熱傷再建. 第23回日本熱傷学会総会, 1997. 5.
- 20) 千明美保, 百束比古, 三橋 清¹⁾ (1) 東戸塚記念病院形成外科) : 耳介部の癬痕ケロイドの処置とピアス孔作成の試み. 第69回日本美容外科学会, 1997. 7.
- 21) 有吉雅徳, 百束比古 : ウルトラパルス炭酸ガスレーザーによる治療経過について. 第69回日本美容外科学会, 1997. 7.
- 22) 真崎信行¹⁾, 有吉雅徳 (1) 共立美容外科) : 脂肪吸引におけるスキンプロテクターの使用について : 8年間の統計的考察. 第69回日本美容外科学会, 1997. 7.
- 23) 平井 隆, 百束比古 : アンカリングピンを用いたtissue suspension法の経験. 第203回日本形成外科学会東京地方会, 1997. 7.
- 24) 有吉雅徳, 百束比古, 青木見佳子¹⁾ (1) 附属病院皮膚科) : ウルトラパルス炭酸ガスレーザーによる皮膚形成術. 第15回日本美容皮膚科学会学術大会, 1997. 8.
- 25) 土佐真美子, 百束比古, 平井 隆, 大久保正智¹⁾ (1) 第二病院形成外科) : 先天性脳回転状頭皮の治療経験. 第204回日本形成外科学会東京地方会, 1997. 9.
- 26) 青木 律 : Malignant melanoma におけるsentinel node biopsy について. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 27) 平井 隆 : Prefabricated flap の現状と将来展望. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 28) 井上幸彦¹⁾, 野中尚子¹⁾, 尾形さやか, 百束比古, 青木見佳子²⁾ (1) 総合会津中央病院形成外科, 2) 附属病院皮膚科) : 本院における皮膚悪性腫瘍症例の検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 29) 糸井由里恵, 百束比古, 三橋 清¹⁾, 宮下次廣²⁾ (1) 東戸塚記念病院形成外科, 2) 附属病院放射線科) : 当科におけるケロイドおよび肥厚性癬痕の治療 : 特に手術後の電子線照射について. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 30) 三好将和, 大久保正智¹⁾, 山村美和¹⁾, 富田 勝²⁾, 広瀬始之²⁾, 清水弘之²⁾, 三橋 清³⁾ (1) 第二病院形成外科, 2) 第二病院泌尿器科, 3) 東戸塚記念病院形成外科) : 壊死性筋膜炎の治療経験. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 31) 嘉陽宗隆¹⁾, 百束比古 (1) 北村山公立病院形成外科) : cross lip flap による上口唇再建の2例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 32) 千明美保, 百束比古, 三橋 清¹⁾, 宮下次廣²⁾ (1) 東戸塚記念病院形成外科, 2) 附属病院放射線科) : 耳介部に生じた癬痕ケロイドの治療について. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 33) 有吉雅徳, 百束比古 : ウルトラパルス炭酸ガスレーザーによる小隆起皮膚病変の治療. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 34) 百束比古, 平井 隆, 大木更一郎¹⁾, 青木 律 (1) 救急医学) : Flap prefabrication におけるわれわれの手法 (free vascular bundle transfer) の新たな応用について. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 35) 土佐真美子, 青木 律, 百束比古, 秋元正宇¹⁾, 青木見佳子²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 附属病院皮膚科) : 高齢者のLangerhans cell histiocytosis の1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 36) 王 春梅, 岩切 致, 百束比古, 平川慶子¹⁾, 植草協子¹⁾, 仁平 信¹⁾ (1) 法医学) : 1H-NMR法を用いた癬痕組織の代謝学的分析. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 37) 利根川均, 百束比古, 秋元正宇¹⁾ (1) 千葉北総病院形成外科) : 近位基あるいは遠位基sural flap による熱傷後再建症例の検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 38) 高 建華, 百束比古, 青木 律, 三橋 清¹⁾ (1) 東戸塚記念病院形成外科) : 埋入異物摘出術後乳房両側同時再建における遊離分割型横軸腹直筋皮弁の有用性と応用. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.

- 39) 佐野和史, 百束比古: 熱傷後頸部癍痕拘縮における浅頸血管を主栄養血管とする微小血管付き真皮下血管網皮弁の有用性. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 40) 郡家正彦, 百束比古, 糸井由里恵, 利根川均: 口腔外科疾患供覧: 口腔内外骨腫の1例. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 41) 仲田幸世, 千明美保, 百束比古, 高 建華, 青木見佳子¹⁾ (1) 附属病院皮膚科): 顔面に発生した悪性黒色腫の1例. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 42) 秋元正字¹⁾, 黒田周一¹⁾, 山本 達, 百束比古 (1) 千葉北総病院形成外科): 鼻骨骨折の3次元的超音波画像による診断. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 43) 野中尚子¹⁾, 井上幸彦¹⁾, 百束比古, 利根川均, 岡 敏行, 大久保正智²⁾ (1) 総合会津中央病院形成外科, 2) 第二病院形成外科): スノーボード外傷の経験. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 44) 尾形さやか¹⁾, 井上幸彦¹⁾, 野中尚子¹⁾, 百束比古 (1) 総合会津中央病院形成外科): 本院における褥瘡患者の実態と治療について. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 45) 村上正洋¹⁾, 石井和博¹⁾, 百束比古 (1) 大浜第一病院形成外科): 先天性頭皮欠損症と思われる3例. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 46) 土佐真美子, 青木 律, 百束比古, 秋元正字¹⁾, 青木見佳子²⁾ (1) 千葉北総病院形成外科, 2) 附属病院皮膚科): 高齢者のLangerhans cell histiocytosis の1例. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 47) 利根川均, 百束比古, 秋元正字¹⁾ (1) 千葉北総病院形成外科): 近位茎あるいは遠位茎sural flap による熱傷後再建症例の検討. 第65回日本医科大学医学学会総会, 1997. 9.
- 48) 岩切 致, 王 春梅, 平川慶子¹⁾, 仁平 信¹⁾ (1) 法医学): 1H-NMR法を用いた癍痕組織の代謝学的分析. 第6回日本形成外科学会基礎学術集会, 1997. 10.
- 49) 大木更一郎¹⁾, 平井 隆, 百束比古 (1) 救急医学): Cryopreservationによる同種血管移植法第3報: 皮弁の正着および血管新生過程. 第6回日本形成外科学会基礎学術集会, 1997. 10.
- 50) 青木見佳子¹⁾, 川名誠司¹⁾, 青木 律, 秋元正字²⁾, 原 一夫³⁾ (1) 附属病院皮膚科, 2) 千葉北総病院形成外科, 3) 愛知医科大学病理学): Langerhans' cell histiocytosisの1例. 第48回日本皮膚科学会中部支部総会学術大会, 1997. 10.
- 51) 佐野和史, 百束比古: DIEA vascular bundle implantation によるsecondary vascularized flap を用いた眉毛部有毛性母斑の治療. 第24回日本マイクロサージャリー学会, 1997. 11.
- 52) 佐野和史, 百束比古: マイクロサージャリーを用いた下腿骨髄炎の治療経験. 第24回日本マイクロサージャリー学会, 1997. 11.
- 53) 青木 律, 百束比古: 埋入異物摘出後両側乳房同時再建における遊離分割横軸腹直筋皮弁の有用性と応用. 第24回日本マイクロサージャリー学会, 1997. 11.
- 54) 高 建華, 百束比古, 青木 律, 山村美和¹⁾, 三橋 清²⁾ (1) 第二病院形成外科, 2) 東戸塚記念病院形成外科): 埋入異物摘出後乳房両側同時再建における遊離分割型横軸腹直筋皮弁の有用性と応用. 第8回学校法人日本医科大学外国人留学者研究会, 1997. 9.
- 55) 王 春梅, 岩切 致, 百束比古, 平川慶子¹⁾, 植草協子¹⁾, 仁平 信¹⁾ (1) 法医学): 1H-NMR法を用いた癍痕組織の代謝学的分析. 第8回学校法人日本医科大学外国人留学者研究会, 1997. 11.
- 56) 加藤一良¹⁾, 横田裕行¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 小池 薫¹⁾, 小川理郎¹⁾, 松浦有里子¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾, 秋元正字²⁾, 百束比古 (1) 千葉北総病院救命救急部, 2) 千葉北総病院形成外科): 腹部外傷後の急性腹壁欠損の管理と修復法: Silo thechnique とcomponents separation 法の応用. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 57) 郡家正彦, 百束比古, 青木 律, 新見やよい¹⁾, 青木見佳子¹⁾, 中溝宗永²⁾ (1) 附属病院皮膚科, 2) 附属病院耳鼻咽喉科): 自己免疫性水疱症患者に見られた開口障害に対する再建術の経験. 第15回日本頭蓋顎顔面外科学会

学術集会, 1997. 11.

- 58) 井上幸彦¹⁾, 野中尚子¹⁾, 百束比古, 利根川均, 岡 敏行, 大久保正智²⁾ (1) 総合会津中央病院形成外科, 2) 第二病院形成外科): スノーボード外傷の経験. 第15回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 1997. 11.
- 59) 土佐真美子, 百束比古, 青木 律: Benign symmetrical lipomatosis の治療経験. 第205回日本形成外科学会東京地方会, 1997. 12.
- 60) 郡家正彦, 百束比古, 有吉雅徳, 青木 律: 再建手術経過中に死亡した高度広範囲熱傷患者2例の検討. 第6回日本熱傷学会関東地方会, 1998. 1.
- 61) 土佐真美子, 百束比古, 青木 律, 松井洋法¹⁾, 茨木信博¹⁾ (1) 附属病院眼科): 顔面手術後発症した眼窩膿瘍の治療経験. 第71回日本美容外科学会学術集会, 1998. 1.
- 62) 簡野晃次¹⁾, 青木 律, 高 建華, 百束比古 (1) 西新井皮膚科形成外科): 漢方薬草を併用したケミカルピーリングの効果について. 第71回日本美容外科学会学術集会, 1998. 1.
- 63) 王 春梅, 百束比古, 青木 律: 内視鏡を用いた小児の眉毛外側部の皮下腫瘍摘出の経験. 第3回形成外科内視鏡手術研究会, 1998. 2.
- 64) 郡家正彦, 百束比古, 青木 律: 内視鏡を用いた側部筋筋膜弁による顎関節症の手術. 第3回形成外科内視鏡手術研究会, 1998. 2.
- 65) 糸井由里恵, 青木 律, 千明美保, 仲田幸世, 百束比古, 青木見佳子¹⁾, 利根川均²⁾ (1) 附属病院皮膚科, 2) 博慈会記念病院形成外科): Malignant hemangioendothelioma 2例の治療経験. 第207回日本形成外科学会東京地方会, 1998. 3.

[第二病院形成外科]

研究業績

学会発表

[1996年度追加分]

(1) 一般講演:

- 1) 山村美和, 百束比古¹⁾, 王 春梅¹⁾, 銅冶英雄²⁾ (1) 付属病院形成外科, 2) 東戸塚記念病院形成外科): 当科における内視鏡手術の経験: 特に遊離軟部組織移植における利用. 第2回形成外科内視鏡手術研究会, 1997. 3.
- 1) 土佐真美子¹⁾, 百束比古¹⁾, 平井 隆¹⁾, 大久保正智 (1) 付属病院形成外科): 先天性脳回転状頭皮の治療経験. 第204回日本形成外科学会東京地方会, 1997. 9.
- 2) 三好将和, 大久保正智, 山村美和, 富田 勝¹⁾, 広瀬始之¹⁾, 清水弘之¹⁾, 三橋 清²⁾ (1) 第二病院泌尿器科, 2) 東戸塚記念病院形成外科): 壊死性筋膜炎の治療経験. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 3) 野中尚子¹⁾, 井上幸彦¹⁾, 百束比古²⁾, 利根川均²⁾, 岡 敏行²⁾, 大久保正智 (1) 総合会津中央病院形成外科, 2) 付属病院形成外科): スノーボード外傷の経験. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 4) 青木見佳子¹⁾, 川名誠司¹⁾, 青木 律, 秋元正宇²⁾, 原 一夫³⁾ (1) 附属病院皮膚科, 2) 千葉北総病院形成外科, 3) 愛知医科大学病理学): Langerhans' cell histiocytosisの1例. 第48回日本皮膚科学会中部支部総会学術大会, 1997. 10.
- 5) 高 建華¹⁾, 百束比古¹⁾, 青木 律¹⁾, 山村美和, 三橋 清²⁾ (1) 付属病院形成外科, 2) 東戸塚記念病院形成外科): 埋入異物摘出後乳房両側同時再建における遊離分割型横軸腹直筋皮弁の有用性と応用. 第8回学校法人日本医科大学外国人留学生研究会, 1997. 11.
- 6) 井上幸彦¹⁾, 野中尚子¹⁾, 百束比古²⁾, 利根川均²⁾, 岡 敏行²⁾, 大久保正智 (1) 総合会津中央病院形成外科,

2) 付属病院形成外科)：スノーボード外傷の経験。第15回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，1997。11。

[千葉北総病院形成外科]

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 村上正洋¹⁾，益子邦洋²⁾，大塚敏文²⁾，秋元正宇，百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科，2) 付属病院高度救命救急センター)：顔面骨骨折治療におけるBi-temporal Approachの経験と適応。日災医会誌 1997；45 (8)：496-499。

学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) 秋元正宇，百束比古¹⁾，青木見佳子²⁾，服部怜美³⁾，利根川均¹⁾ (1) 付属病院形成外科，2) 付属病院皮膚科，3) 千葉北総病院皮膚科)：隆起性皮膚線維肉腫 (DFSP) の切除範囲に関する考察：当科における過去20年30症例の経験から。第13回皮膚悪性腫瘍学会，1998。5。

(2) 一般講演：

- 1) 秋元正宇，山本 達，黒田周一，百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科)：超音波診断装置の3次元表示装置の開発と鼻骨形態観察への応用。第40回日本形成外科学会学術集会，1997。4。
- 2) 秋元正宇，百束比古¹⁾，服部怜美²⁾，青木見佳子³⁾ (1) 付属病院形成外科，2) 付属千葉北総病院皮膚科，3) 付属病院皮膚科)：20年間に経験した隆起性皮膚線維肉腫24症例の検討。第40回日本形成外科学会学術集会，1997。4。
- 3) 利根川均¹⁾，百束比古¹⁾，秋元正宇 (1) 付属病院形成外科)：近位茎あるいは遠位茎腓腹部皮弁による熱傷後再建症例の検討。第23回日本熱傷学会，1997。5。
- 4) 秋元正宇，黒田周一，山本 達¹⁾，百束比古¹⁾ (1) 付属病院形成外科)：鼻骨骨折の3次元超音波画像による診断。第65回日本医科大学医学会総会，1997。9。
- 5) 利根川均¹⁾，百束比古¹⁾，秋元正宇 (1) 付属病院形成外科)：近位茎あるいは遠位茎sural flapによる熱傷後再建症例の検討。第65回日本医科大学医学会総会，1997。9。
- 6) 土佐真美子¹⁾，青木 律¹⁾，百束比古¹⁾，秋元正宇，青木見佳子²⁾ (1) 付属病院形成外科，2) 付属病院皮膚科)：高齢者のLangerhans cell histiocytosisの1例。第65回日本医科大学医学会総会，1997。9。
- 7) 黒田周一，秋元正宇，小林士郎¹⁾，水成隆之¹⁾，横田裕行²⁾ (1) 千葉北総病院脳神経外科，2) 千葉北総病院救命救急部)：血管柄付き遊離腹直筋皮弁による頭蓋底周辺部の再建における有用性について。第65回日本医科大学医学会総会，1997。9。
- 8) 青木見佳子¹⁾，川名誠司¹⁾，青木 律²⁾，秋元正宇，原 一夫³⁾ (1) 付属病院皮膚科，2) 付属病院形成外科，3) 愛知医科大学病理学)：Langerhans' cell histiocytosisの1例。第48回日本皮膚科学会中部支部総会学術大会，1997。10。
- 9) 加藤一良¹⁾，横田裕行¹⁾，犬塚 洋¹⁾，小池 薫¹⁾，小川理郎¹⁾，松浦有理子¹⁾，益子邦洋²⁾，山本保博²⁾，秋元正宇，百束比古³⁾ (1) 千葉北総病院救命救急部，2) 付属病院高度救命救急センター，3) 付属病院形成外科)：腹部外傷後の急性腹壁欠損の管理と修復法：Silo techniqueとcomponents separation法の応用。第25回日本救急医学会総会，1997。11。

20. 付属病院付置施設等

[付属病院集中治療室]

研究概要

集中治療室は都内21施設よりなる東京都CCUネットワークの事務局としてその中心的役割を果たし、その豊富な症例を背景に、心肺血管緊急症の臨床に即した病態、診断、治療あるいは疫学、社会学に関する研究を継続する一方、新しい診断治療法についても研究を進めた。また、心不全の病態生理に関する実験的研究も実施した。

急性心筋梗塞の課題は早期収容、早期診断、早期治療、ポンプ不全の救命、発症予防である。東京都CCUネットワークを通じて集積されたデータをもとに疫学的社会的観点から循環器救命疾患を総括、年次報告として発表し、体制改善のための基礎資料を提供した。本年は特に急性冠症候群の発症状況に焦点を当て詳細に分析した。早期診断では全国に先駆け導入したトロポニンTおよびトロポニンI測定の意義、第二世代トロポニンT迅速測定法の実地臨床における有用性を示した。治療では専用の緊急心血管造影診断治療室を活用、積極的に経皮的冠血管形成術(PTCA)やステント、DCAなどのインターベンションを実施した。このうち、圧センサー付冠ガイドワイヤーを用い再灌流療法後の冠病態が慢性期心機能に及ぼす効果を示した。また、新世代の血栓溶解療法薬、抗凝固薬、抗血小板薬の全国的治験の中心施設として活動した。発症予防に関しては積極的血清脂質低下療法の研究(Coronary Lipid Study)を継続、他の因子特に女性ホルモン(Coronary And Sex Hormone (CASH) Study)やLupus Anticoagulantなどについてもデータを集積している。心不全に対しては、厚生省委託研究の一環として、コンダクタンスカテーテルを用いた圧容積関係-E_{max}、あるいは神経体液性因子による心不全治療効果判定法につき研究を進めた。また、重症心不全に対する心移植の臨床的適応基準につき自験例を分析し検討を加えた。薬物治療では、フォルスコリン誘導体の効果に関する多施設共同研究の中心施設として活動する一方、心筋βアドレナリン受容体と細胞内刺激伝達系に及ぼす効果を実験的に調べ発表した。本年度特筆すべき活動のひとつは、閉鎖性肥大型心筋症に対する経皮的心筋中隔焼灼術(PTSMA)を積極的に実施し、その有用性を示したことである。これに加え人工臓臓を用いてインスリン抵抗性を評価し冠動脈疾患との関連につき研究した。重症呼吸不全では、当施設のテーマである各種基礎疾患にもとづくARDSの病態の解明と治療法に関する研究を継続、サイトカインやエンドセリンの関与、PDE阻害薬の肺コンプライアンスに対する効果、マスクCPAP及び体外式高頻度陰圧換気法(Hayek Oscillator)の有用性を検討し、さらに食道手術など術後呼吸不全を来しやすい疾患に対する予防的抗炎症薬投与の効果についても検討を加え発表した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kitayama H¹⁾, Kiuchi K, Endo T¹⁾, Hayakawa H¹⁾ (1) 内科第一) : Value of cardiac ultrafast computed tomography for detecting right atrial thrombi in chronic atrial fibrillation. *Am J Cardiol* 1997 ; 79 : 1292-1295.
- 2) Takeda S, Takano T, Ogawa R¹⁾ (1) 麻酔科) : The effect of nasal continuous positive airway pressure on plasma endothelin-1 concentrations in patients with severe cardiogenic pulmonary edema. *Anesth Analg* 1997 ; 84 : 1091-1096.
- 3) Takeda S, Nakanishi K¹⁾, Inoue T²⁾, Ogawa R¹⁾ (1) 麻酔科, 2) 千葉北総病院麻酔科) : Delayed elevation of plasma endothelin-1 during unilateral alveolar hypoxia without systemic hypoxemia in humans. *Acta Anaesthesiol Scand* 1997 ; 41 : 274-280.

- 4) Takeda S, Ogawa R¹⁾, Nakanishi K¹⁾, Kim C¹⁾, Miyashita M²⁾, Sasajima K²⁾, Onda M²⁾, Takano T (1) 麻酔科, 2) 第一外科): The effect of preoperative high dose methylprednisolone in attenuating the metabolic response after oesophageal resection. *Eur J Sur* 1997; 163: 511-517.
- 5) Takeda S, Takano T, Nakanishi K¹⁾, Nejima J, Takayama M, Kim C¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) 麻酔科): Amrinone improves lung compliance in patients receiving mechanical ventilation for cardiogenic pulmonary edema. *Acta Anaesthesiol Scand* 1997; 41: 624-628.
- 6) Takeda S, Nakanishi K¹⁾, Takano T, Nejima J, Takayama M, Ishikawa G¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) 麻酔科): The combination of external high-frequency oscillation and pressure support ventilation in acute respiratory failure. *Acta Anaesthesiol Scand* 1997; 41: 670-674.
- 7) Takeda S, Nakanishi K¹⁾, Takano T, Ishikawa G¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) 麻酔科): Effect of external high-frequency oscillation on severe cardiogenic pulmonary edema. *Journal of Anesthesia* 1997; 11: 83-87.
- 8) Takeda S, Nakanishi K¹⁾, Takano T, Nejima J, Takayama M, Sakamoto A¹⁾, Ogawa R¹⁾ (1) 麻酔科): External high-frequency oscillation for hypercapnia after upper abdominal surgery. *J Nippon Med Sch* 1997; 64: 440-445.
- 9) Kiuchi K, Endo T¹⁾, Nejima J, Okamatsu K¹⁾, Takayama M, Takano T, Hayakawa H¹⁾ (1) 内科第一): Purulent Pericarditis with tamponade caused by Salmonella enteritidis. *Jap Circ J* 1998; 62: 139-141.
- 10) 高野照夫, 細田瑳一¹⁾, 片桐 敬²⁾, 本宮武司³⁾, 戸嶋裕徳⁴⁾, 篠山重威⁵⁾, 百村伸一⁶⁾ (1) 東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所, 2) 昭和大学医学部附属病院, 3) 東京都立広尾病院, 4) 久留米大学医学部附属病院, 5) 京都大学医学部附属病院, 6) 東京大学医学部附属病院): 急性心不全に対するNKH477の臨床的有用性の検討: 用量設定のための多施設共同後期第2相試験. *臨床薬理* 1997; 28 (2): 563-582.
- 11) 細田瑳一¹⁾, 本宮武司²⁾, 片桐 敬³⁾, 高野照夫, 篠山重威⁴⁾, 戸嶋裕徳⁵⁾, 小川暢也⁶⁾ (1) 東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所, 2) 東京都立広尾病院, 3) 昭和大学医学部附属病院, 4) 京都大学医学部附属病院, 5) 久留米大学医学部附属病院, 6) 愛知大学): 急性心不全に対するNHK477注射剤の臨床的有用性の検討: 多施設共同第3相二重盲検比較試験. *臨床薬理* 1997; 28 (2): 583-602.
- 12) 栗山秀樹, 澤倫太郎¹⁾, 米山芳雄¹⁾, 鈴木俊治¹⁾, 三浦 敦¹⁾, 進 澄郎¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 木内 要, 高野照夫 (1) 産婦人科): 重症妊娠悪阻に心筋炎を合併した1例. *日本産婦人科学会東京地方会誌* 1997; 46: 154-158.
- 13) 高野照夫, 木内 要, 子島 潤, 高山守正, 内田拓実¹⁾, 本宮武司²⁾, 本江純子³⁾, 高橋早苗⁴⁾, 長尾 建⁵⁾, 上松瀬勝男³⁾, 上嶋権兵衛⁶⁾, 小船井良夫⁷⁾, 住吉徹哉⁷⁾, 廣沢弘七郎⁷⁾, 坂井 誠⁸⁾, 片桐 敬⁹⁾, 横井 尚¹⁰⁾, 木村 満¹¹⁾, 河合 靖¹²⁾, 中西成元¹³⁾, 内田達郎¹⁴⁾, 一色高明¹⁵⁾, 内山隆史¹⁶⁾, 山口 徹¹⁷⁾, 田村 勤¹⁸⁾, 林田憲明¹⁹⁾, 吉野秀朗²⁰⁾, 相良耕一²¹⁾, 木村佑介²²⁾ (1) 内科第一, 2) 東京都立広尾病院, 3) 日本大学医学部附属板橋病院, 4) 立正佼成会付属病院, 5) 駿河台日本大学, 6) 東邦大学医学部附属大森病院, 7) 榊原記念病院, 8) 東京都老人医療センター, 9) 昭和大学医学部附属病院, 10) 順天堂大学医学部附属順天堂医院, 11) 東京都済生会中央病院, 12) 西新井病院, 13) 虎の門病院, 14) 東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所, 15) 帝京大学医学部附属病院, 16) 東京医科大学八王子医療センター, 17) 東邦大学医学部附属大橋病院, 18) 三井記念病院, 19) 聖路加国際病院, 20) 杏林大学医学部附属病院, 21) 心臓血圧研究所附属病院, 22) 東京都医師会): 急性冠症候群の発症状況: 特に発症時間および発症時の身体活動について. *心臓* 1997; 29: 587-596.
- 14) 高野照夫, 高山守正, 子島 潤, 木内 要, 中西成元¹⁾, 一色高明²⁾, 吉野秀朗³⁾, 内山隆史⁴⁾, 木村 満⁵⁾, 本宮武司⁶⁾, 河合 靖⁷⁾, 本江純子⁸⁾, 長尾 建⁹⁾, 上嶋権兵衛¹⁰⁾, 住吉徹哉¹¹⁾, 廣沢弘七郎¹¹⁾, 山口 徹¹²⁾, 坂井 誠¹³⁾, 高橋早苗¹⁴⁾, 田村 勤¹⁵⁾, 林田憲明¹⁶⁾, 嶽山陽一¹⁷⁾, 横井 尚¹⁸⁾, 河口正雄¹⁹⁾, 相良耕一²⁰⁾ (1) 虎の門病院, 2) 帝京大学医学部附属病院, 3) 杏林大学医学部附属病院, 4) 東京医科大学八王子医療センター, 5) 東京都済生会中央病院, 6) 東京都立広尾病院, 7) 西新井病院, 8) 日本大学医学部附属板橋病院, 9) 駿河台日

本大学, ¹⁰⁾ 東邦大学医学部附属大森病院, ¹¹⁾ 榊原記念病院, ¹²⁾ 東邦大学医学部附属大橋病院, ¹³⁾ 東京都老人医療センター, ¹⁴⁾ 立正佼成会付属佼成病院, ¹⁵⁾ 三井記念病院, ¹⁶⁾ 聖路加国際病院, ¹⁷⁾ 昭和大学医学部附属病院, ¹⁸⁾ 順天堂大学医学部附属順天堂医院, ¹⁹⁾ 東京女子医科大学, ²⁰⁾ 心臓血圧研究所附属病院) : 東京都CCUネットワークの活動状況報告と急性冠症候群の発症状況について. Therapeutic Research 1997; 18: 2555-2560.

15) 高山守正, 酒井俊夫, 今泉孝敬, 吹雪周生¹⁾, 安武正弘¹⁾, 富田善文¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 高野昭夫¹⁾ (内科第一) : 血栓溶解剤主流の再灌流時代 (1980年代) の急性心筋梗塞の遠隔期予後. 医学と薬学 1998; 39: 488-491.

(2) 綜説 :

- 1) 木内 要, 高野昭夫: 循環からみた臓器相互作用 (特集: 重症患者における臓器相互作用). 集中治療 1997; 9 (8): 889-894.
- 2) 太田眞夫¹⁾, 高野昭夫 (内科第一) : 心不全救命率の日欧格差と救急医療体制 (特集: 慢性心不全). 総合臨床 1997; 46 (7): 1904-1906.
- 3) 高山守正: 急性心筋梗塞: 血栓溶解薬の使い方. medicina 1997; 34 (8): 1542-1545.
- 4) 高山守正, 高野昭夫: Acute Coronary Syndromeと抗凝固療法: 急性期から慢性期への移行 (特集: 血小板と心疾患: その新展開). 呼吸と循環 1997; 45 (8): 759-767.
- 5) 高野昭夫, 木内 要, 子島 潤, 横山広行¹⁾ (内科第一) : 重症急性心不全の最新の治療: 静注用強心薬からの離脱とその後の治療管理. 臨床と研究 1997; 74 (10): 2599-2605.
- 6) 木内 要, 高野昭夫: カテコールアミン製剤の効用と限界 (特集: 強心薬とカルシウム: Therapy). CLINICAL CALCIUM 1997; 7 (11): 1504-1508.
- 7) 高山守正: 臨床試験とインフォームドコンセント (特集: 循環器疾患におけるインフォームドコンセント: 患者にどこまで説明するか). Cardiologist 1997; 2 (12): 897-899.
- 8) 高山守正: 心嚢ドレナージ用カテーテル (特集: カテーテル検査とカテーテル治療). 救急医学 1997; 11: 1606-1607.
- 9) 木内 要, 高野昭夫: 心筋梗塞の薬物療法: 急性期. Clinical Pharmacotherapy 1997; 3 (4): 293-298.
- 10) 木内 要: Case Study: 駅の階段で胸痛を自覚した49歳男性. Cardio 1997; 1: 1-6.
- 11) 子島 潤: スワンガンツカテーテル. Heart Nursing 1997; 23 (3): 377-379.
- 12) 子島 潤: 急性心不全. 臨床医 1997; 23 (3): 377-379.
- 13) 高山守正, 高野輝夫: 積極的薬物治療 (特集: 急性冠症候群). Heart View 1997; 1: 1132-1139.
- 14) 川口直美, 子島 潤, 高野昭夫: 不整脈発生の日内リズムと時間治療 6. CCUモニターから (特集: 循環器疾患の発症リズム: 悪化のリズム). Progress in Medicine 1998; 18 (2): 296-299.
- 15) 中西一浩, 高野昭夫: 術後合併症とその対策: 循環器系合併症. 臨床泌尿器科 1998; 52 (4): 285-291.
- 16) 木内 要, 高野昭夫: ショック時の心機能不全の病態と新しい薬物療法 (特集: ショックを見直す). 集中治療 1998; 10 (4): 387-396.
- 17) 木内 要, 高野昭夫: 心移植. J Nippon Med Sch 1998; 65: 105.
- 18) 大久保直子, 高野昭夫, 木内 要: Critical careにおけるIABPの適応と問題点. 救急医学 1998; 22 (2): 137-140.
- 19) 子島 潤: 機械的補助循環法の適応と効果. 循環制御 1998; 19: 27-32.

著書

〔1996年度追加分〕

- 1) 高野照夫：〔分担〕大動脈内バルーンパンピング法。今日の治療指針，1997；p63，医学書院。

- 1) 高野照夫，木内 要：〔分担〕13. 心疾患の薬物療法を考える：大規模試験を踏まえて大規模試験の結果から急性心不全の治療を考える。心臓病プラクティス，1997；pp58-63，文光堂。
- 2) 高野照夫：〔分担〕患者急変時のモニターの見方。エキスパートナースMOOK7 改訂版救急マニュアル，1997；pp15-19，照林社。
- 3) 高野照夫：〔分担〕急性心不全治療薬 ミルリノン。今日の医薬情報，1997；pp17-21，医事新報社。
- 4) 高野照夫：〔分担〕非薬物療法の手順。実地医科のための心不全治療マニュアル，1998；pp108-119，医薬ジャーナル社。
- 5) 子島 潤：〔分担〕ナトリウム利尿ペプチド。実地医科のための心不全治療マニュアル，1998；pp353-362，医薬ジャーナル社。
- 6) 木内 要，高野照夫：〔分担〕薬物療法：血管拡張薬。実地医科のための心不全治療マニュアル，1998；pp312-319，医薬ジャーナル社。
- 7) 木内 要，高野照夫：〔分担〕慢性心不全治療薬の選択。心臓病専門医にきく最新の臨床，1998；pp5-7，文光堂。
- 8) 木内 要，高野照夫：〔分担〕心不全治療の利尿と輸血。心臓病専門医にきく最新の臨床，1998；pp16-17，文光堂。
- 9) 田寺 長¹⁾，高野照夫⁽¹⁾ 多摩永山病院内科)：〔分担〕経食道ペースティングの手技とその効果。質疑応答による不整脈，1998；pp158-160，日本医事新報社。
- 10) 木内 要，高野照夫：〔分担〕16. 心不全を癒す：補助循環をいつ，どのように使うか。心臓病診療プラクティス，1998；pp138-141，文光堂。
- 11) 高野照夫，富田喜文¹⁾，草間芳樹¹⁾，落 雅美²⁾ (¹⁾ 内科第一， ²⁾ 胸部外科)：〔分担〕3. 循環疾患：不安定狭心症。内科治療ガイド '98，1998；pp444-450，文光堂。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 高山守正：糖尿病におけるCoronary Intervention。第31回糖尿病血管障害講演会，1997。4。

(2) シンポジウム：

- 1) 清野精彦¹⁾，富田喜文¹⁾，星野公彦¹⁾，子島 潤，高山守正，岸田 浩，早川弘一¹⁾，高野照夫，大林完二²⁾ (¹⁾ 内科第一， ²⁾ 大林内科医院)：Acute Coronary Syndrom における心筋傷害進展の検出-心筋troponin T (TnT) 遊出動態の分析とTnT全血迅速判定法 (TROP T) の活用。第45回日本心臓病学会学術集会，1997。9。
- 2) 木内 要：脳死・臓器移植を考える：内科医の立場から。日本医科大学医学会第93回例会，1997。
- 3) 子島 潤，今泉孝敬：冠動脈再灌流療法時のエンドセリンとインターロイキン6の動態。日本シネアンジオ研究会，1997。
- 4) 高野照夫，上村竜太，木内 要，子島 潤，高山守正：集中治療からの心臓移植適応例の検討。第32回日本成人病学会，1998。1。
- 5) 子島 潤，上村竜太，高野照夫，木内 要，高山守正，島井新一郎¹⁾，清野精彦¹⁾，早川弘一¹⁾ (¹⁾ 第一内科)：静注用強心薬からの離脱とその後の管理。第25回日本集中治療学会総会，1998。3。
- 6) 清水 淳¹⁾，中西一浩¹⁾，坂本篤裕¹⁾，小川 龍¹⁾，竹田晋浩，子島 潤，高山守正，高野照夫 (¹⁾ 麻酔科)：虚

血性心疾患：心不全即往患者の非心臓手術における術前評価：ドブタミン負荷エコー法を用いて。第25回日本集中治療学会総会，1998。3。

- 7) 酒井俊太，宮内靖史¹⁾，上村竜太，石川 源，関戸司久，大久保直子，中西一浩，木内 要，今泉孝敬，子島潤，高山守正，高野照夫⁽¹⁾ 第一内科)：心室中隔穿孔を合併した急性心筋梗塞に対し，経皮的心肺補助循環装置(PCPS)の使用が効果上で疑問視された1例。第25回日本集中治療医学会総会，1998。3。
 - 8) 高山守正，関戸司久，酒井俊太，富田喜文¹⁾，大久保直子，木内 要，草間芳樹¹⁾，子島潤，高野照夫，早川弘一¹⁾ (1) 内科第一)：心原性ショックを呈する急性心筋梗塞の治療成績：特に重症3枝障害への対策の重要性。第25回日本集中治療医学会総会，1998。3。
- (3) プレナリーセッション：
- 1) 木内 要：ペーシング刺激誘発性心不全とGs/Gi蛋白。第1回日本心不全学会，1997。
- (4) 一般講演：
- 1) Nakamura M¹⁾，Suzuki T²⁾，Mtsubara T³⁾，Kobayashi T⁴⁾，Muramatsu T⁵⁾，Asakura Y⁶⁾，Chin W⁷⁾，Nishikawa H⁸⁾，Takayama M，Yamaguchi T¹⁾ (1) 東邦大学第三内科，2) 国療豊橋東病院循環器内科，3) 県立岐阜病院循環器内科，4) 大阪府立成人病センター循環器動態科，5) 川崎中央総合病院循環器内科，6) 慶應大学呼吸循環器内科，7) 国立大阪病院循環器科，8) 山田赤十字病院内科)：Results of cutting balloon angioplasty for stent restenosis. Japanese Multicenter Registry. The 47th Annual Meeting of American College of Cardiology, 1998. 3。
 - 2) 本間 博¹⁾，草間芳樹¹⁾，酒井俊太¹⁾，宗像一雄¹⁾，岸田 浩¹⁾，荒牧琢己¹⁾，早川弘一¹⁾，今泉孝敬，子島潤，高山守正，高野照夫⁽¹⁾ 内科第一)：心臓医学の手術を受ける高齢者の術前評価：ドブタミン負荷心エコー法を用いて。第94回日本内科学会，1997。4。
 - 3) 上村竜太，高山守正，関戸司久，桜井 薫¹⁾，大塚俊昭¹⁾，今泉孝敬，富田善文¹⁾，青木 聡，酒井俊太，佐藤直樹¹⁾，草間芳樹¹⁾，宗像一雄¹⁾ (1) 内科第一)：Palmaz-Schatz+Wiktorステント留置約80日後に冠閉塞を来とし，急性心筋梗塞の再発作を発祥した1例。第10回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会，1997. 4。
 - 4) 青木 聡，石川 源，大森裕也，大村和子¹⁾，星野公彦¹⁾，木内 要，中西一浩，藤田信輔¹⁾，今泉孝敬，子島潤，高山守正，高野照夫，早川弘一¹⁾，川俣博志²⁾，弦間和仁²⁾，隈崎達夫²⁾ (1) 内科第一，2) 放射線科)：血栓吸引療法によって初めて有効な原因治療が可能であった肺血栓塞栓症の2例。第24回日本集中治療医学会総会，1997。5。
 - 5) 桧山和弘¹⁾，別所竜蔵¹⁾，山内茂生¹⁾，落 雅美¹⁾，二宮淳一¹⁾，田中茂夫¹⁾，大森裕也，山田研一，子島潤，高野照夫⁽¹⁾ 胸部外科)：植え込み型除細動器手術症例における心室頻脈と心室細動の発症と時間的要因について。第24回日本集中治療医学会総会，1997。5。
 - 6) 岸川洋昭，石川 源，中西一浩，竹田晋浩，子島潤，高山守正，坂本篤裕¹⁾，高野照夫，小川 龍¹⁾ (1) 麻酔科)：虚血性心疾患合併心臓手術患者について-最近の自施設の動向から。第24回日本集中治療医学会総会，1997。5。
 - 7) 中西一浩，竹田晋浩，石川 源，子島潤，高山守正，高野照夫，小川 龍¹⁾ (1) 麻酔科)：心肺バイパス(CPB)後の炎症性サイトカイン値上昇が心筋傷害・心機能抑制に与える影響。第24回日本集中治療医学会総会，1997。5。
 - 8) 保坂浩希¹⁾，高野照夫，子島潤，高山守正，今泉孝敬，中西一浩，酒井俊太，青木 聡，鈴木世孝¹⁾，寺田功一¹⁾，二宮淳一¹⁾，田中茂夫¹⁾ (1) 胸部外科)：経皮的心肺補助装置使用患者における連続脳内酸素飽和度測定の意義。第24回日本集中治療医学会総会，1997。5。
 - 9) 高山守正，酒井俊太，今泉孝敬，吹雪周生¹⁾，安武正弘¹⁾，富田善文¹⁾，草間芳樹¹⁾，宗像一雄¹⁾，高野照男⁽¹⁾ 内科第一)：血栓溶解役主流の再灌流時代(1980年代)の心筋梗塞罹患例の遠隔期予後。第20回Coronary

Thrombolysis 研究会, 1997. 5.

- 10) 高山守正, 青木 聡, 酒井俊太, 関戸司久, 岡松健太郎, 大塚俊昭¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 上村竜太, 佐藤直樹¹⁾, 今泉孝敬, 子島 潤, 富田善文¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第一): 冠インターベンション時代の超高齢者急性心筋梗塞の急性期治療の現況. 第6回日本心血管インターベンション学会学術集会, 1997. 6.
- 11) 高山守正, 酒井俊太, 子島 潤, 雪吹周生¹⁾, 安武正弘¹⁾, 富田喜文¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第一): 血栓溶解療法主体の再灌流時代 (80年代) に治療された心筋梗塞例の遠隔期予後. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 12) 関戸司久, 高山守正, 山田研一, 宮内靖史, 青木 聡, 酒井俊太, 木内 要, 子島 潤, 高山守正, 早川弘一¹⁾ (1) 内科第一): 最近10年間の感染性心内膜炎の動向. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 13) 青木 聡, 高山守正, 上村竜太, 関戸司久, 酒井俊太, 富田喜文¹⁾, 子島 潤, 草間芳樹, 宗像一雄¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第一): 急性心筋梗塞に対する急性期ステント治療の長期予後. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 14) 今泉孝敬, 子島 潤, 高野照夫, 酒井俊太, 関戸司久, 上村竜太, 星野公彦¹⁾, 高山守正, 田中啓治²⁾, 早川弘一 (1) 内科第一, 2) 千葉北総病院集中治療部): 冠静脈洞採血による急性心筋梗塞 (AMI) 再灌流療法後 Endothelin (ET-1) の動態と産生部位の検討. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 15) 上村竜太, 高山守正, 青木 聡, 関戸司久, 酒井俊太, 佐藤直樹¹⁾, 富田喜文¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第一): Pressure wire 使用における冠動脈側副血行血流流量の定量評価について. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 16) 宮崎裕代, 渡瀬美希, 本橋昌美, 吉澤綾子, 高橋真理, 竹内真奈美, 太田久子, 高野照夫: 循環器疾患患者の口渇に対する援助. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 17) 柏木睦美¹⁾, 清野精彦¹⁾, 塚本 浩¹⁾, 高野照夫, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾, 可世木久幸²⁾ (1) 内科第一, 2) 産婦人科): 閉経女性において経皮的エストロジェン補充療法が血流依存性血管内皮機能及び神経体液性因子に及ぼす影響について. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 18) 清野精彦¹⁾, 富田喜文¹⁾, 星野公彦¹⁾, 子島 潤, 高山守正, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾, 高野照夫, 大林完二²⁾ (1) 内科第一, 2) 大林内科医院): Acute coronary syndromeにおける心筋傷害進展の検出-心筋troponin T (TnT) 遊出動態の分析とTnT全血迅速判定法 (Trop T) の活用. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 19) 榎本 豊¹⁾, 清水一雄¹⁾, 原口秀司¹⁾, 大森裕也¹⁾, 北村 裕¹⁾, 長浜充二¹⁾, 石井律子¹⁾, 小川晃生²⁾, 高山守正, 福成信博³⁾, 田中茂夫¹⁾ (1) 胸部外科, 2) 内科第一, 3) JR東京病院外科): サイログロブリン高値で発見された甲状腺濾胞眼の脊椎転移. 第30回甲状腺外科検討会, 1997. 10.
- 20) 佐藤直樹¹⁾, 高山守正, 相沢瑞穂¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 青木 聡¹⁾, 酒井俊太, 富田喜文¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第一): 重症狭心症へのステント植え込み後にS状結腸癌から出血を呈し, 少量の抗血小板薬にて根治手術まで対処し得た1例. 第11回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 1997. 11.
- 21) 上村竜太¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 青木 聡¹⁾, 季 武志²⁾, 南 和²⁾, 高山守正, 笹栗志郎³⁾ (1) 八潮循環器病院内科, 2) 八潮循環器病院外科, 3) 順天堂大学胸部外科): 腹部大動脈瘤切迫破裂に対する緊急手術直後に亜急性冠動脈ステント血栓症を発祥した1例. 第11回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会, 1997. 11.
- 22) 大久保直子, 坂本俊一郎, 木内 要, 子島 潤, 高山守正, 落 雅美¹⁾, 高野照夫, 田中茂夫¹⁾ (1) 胸部外科): 経食道心エコー以外では診断し得なかった重症ARを伴う限局性全周性の急性大動脈解離の1例. 第6回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1997. 12.
- 23) 本間 博¹⁾, 馬 煥煥¹⁾, 横山広行¹⁾, 子島 潤, 草間芳樹¹⁾, 高山守正, 宗像一雄¹⁾, 高野照夫, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 内科第一): 急性心筋梗塞に従う僧帽弁閉鎖不全-急性期再灌流療法と左室リモデリングの影響.

第11回日本冠疾患学会学術大会, 1997. 12.

- 24) 高橋保裕¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 加藤いすず¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 小林義典¹⁾, 小島 潤, 高山守正, 高野照夫, 岸田 浩¹⁾, 川島徹生²⁾, 新田 隆²⁾, 田中茂夫²⁾ (1) 内科第一, 2) 胸部外科): 大動脈狭窄症を伴う冠攣縮により発症した若年性急性心筋梗塞の1例. 第161回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1997. 12.
- 25) 高山守正, 関戸司久, 上村竜太, 酒井俊太, 青木 聡, 宮内靖史, 今泉孝敬, 子島 潤, 富田喜文¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高野照夫 (1) 内科第一): 急性心筋梗塞 (AMI) 発症24時間以後の責任冠動脈完全閉塞への遅延期再灌流は有益か. 第6回日本心血管インターベンション学会学術集会, 1997.
- 26) 橘美紀子, 仁科 大, 高木啓倫, 関戸司久, 宮内靖史, 大久保直子, 酒井俊太, 中西一浩, 木内 要, 子島潤, 高山守正, 高野照夫: 左室内の球状血栓の消失過程を観察し得た急性心筋炎の1例. 第164回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1997.
- 27) 亀山幹彦, 木内 要, 子島 潤, 上村竜太, 宮内靖史, 関戸司久, 小倉宏道, 酒井俊太, 富田喜文¹⁾, 高山守正, 高野照夫, 加藤貴雄¹⁾, 早川弘一¹⁾, 中島敦夫²⁾, 中村 洋²⁾, 吉野横一²⁾ (1) 内科第一, 2) リウマチ科): 多中心性細網組織球症に高度房室ブロックを合併した1例. 第165回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1997.
- 28) 佐藤直樹¹⁾, 木内 要, 子島 潤, 遠藤孝雄¹⁾, 早川弘一¹⁾, Vatner SF²⁾ (1) 内科第一, 2) Allegheny University): 心不全におけるカテコラミン反応性低下の機序: 除神経による直接的証明. 第1回日本心不全学会, 1997.
- 29) 木内 要, 上村竜太, 高野照夫: 急性心不全に対する内科的治療の限界と心移植の適応. 第9回日本医科大学第二外科研究会, 1997.
- 30) 岩崎雄樹¹⁾, 平山悦之¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 富田喜文¹⁾, 関山達也¹⁾, 高山守正, 岸田 浩¹⁾, 高野照夫, 荒牧琢己¹⁾, 河邊満彦²⁾ (1) 内科第一, 2) 胸部外科): 慢性透析に伴うカルニチン欠乏による低血糖の1例. 第461回日本内科学会関東地方会, 1998. 2.
- 31) 吉田 晃, 木内 要, 高野照夫, 上村竜太, 小谷英太郎, 川口直美, 関戸司久, 小倉宏道, 大久保直子, 竹田晋浩, 子島 潤, 高山守正, 太田眞夫¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 内科第一): 冠動脈疾患とインスリン抵抗性. 日本医科大学医学部第94回例会, 1998. 2.
- 32) 森山みちる¹⁾, 中西一浩, 吉田 晃, 保坂浩希²⁾, 大久保直子, 木内 要, 子島 潤, 高山守正, 小川 龍¹⁾, 高野照夫 (1) 麻酔科, 2) 胸部外科): 急性腎障害を合併した急性心筋梗塞・慢性心不全重症例に対する血液浄化法. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 33) 中西一浩, 竹田晋浩, 中島佑史¹⁾, 石川 源, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 小川 龍¹⁾ (1) 麻酔科): 過大手術侵襲下における炎症性サイトカインの心機能抑制効果. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 34) 中島佑史¹⁾, 赤田信二¹⁾, 森山みちる¹⁾, 石川 源, 中西一浩, 坂本篤裕¹⁾, 小川 龍¹⁾, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 松谷 毅²⁾, 宮下正夫 (1) 麻酔科, 2) 第一外科): 食道癌術後患者における著明な白血球減少を示した症例. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 35) 木内 要, 佐藤直樹¹⁾, 子島 潤, 遠藤孝雄¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 内科第一): 心機能障害と高親和性 β 受容体心機能障害時, カテコラミンに対する心筋反応性の低下は心筋 β 受容体細胞内情報伝達経路のどの因子と最も良く相関するか?. 第62回日本循環器学会総会, 1998. 3.
- 36) 関戸司久, 高山守正, 上村竜太, 小谷英太郎, 小倉宏道, 川口直美, 酒井俊太, 佐藤直樹, 木内 要, 子島潤, 富田喜文¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 高野照夫, 早川弘一¹⁾ (1) 内科第一): Ischemic cardiomyopathyへの血行再建は遠隔期の左心機能と予後を改善するか?. 第62回日本循環器学会総会, 1998. 3.
- 37) 高木郁代¹⁾, 子島 潤, 高木 元¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 木内 要, 遠藤孝雄¹⁾, 高野照夫, 早川弘一¹⁾ (1) 第一内科): アデニール酸シクラーゼ慢性直接刺激は家兎心筋 β 受容体数を減少させる. 第62回日本循環器学会総会, 1998. 3.

- 38) 佐藤直樹¹⁾, 木内 要, 子島 潤, 遠藤孝雄¹⁾, 早川弘一¹⁾, Vatner S²⁾, Vatner D²⁾ (¹⁾ 内科第一, ²⁾ Allegheny University) : 心室支配神経は心不全の進展に関係しているか. 第62回日本循環器学会総会, 1998. 3.
- 39) 田村秀樹, 子島 潤, 木内 要, 中西一浩, 酒井俊太, 大久保直子, 小倉宏道, 関戸司久, 宮内靖史, 中島佑史, 石川 源, 米澤真興, 高山守正, 高野照夫 : 急性心筋梗塞診断における心筋トロポニンT測定の有用性についての検討 : 他の心筋障害マーカー特にトロポニンTとの比較. 第62回日本循環器学会総会, 1998. 3.
- 40) 上村竜太, 木内 要, 子島 潤, 高山守正, 関戸司久, 小谷英太郎, 小倉宏道, 川口直美, 高野照夫 : 心臓集中治療からみた心移植適応例の検討. 第62回日本循環器学会総会, 1998. 3.
- 41) 子島 潤, 高野照夫, 清野精彦¹⁾, 上村竜太, 小谷英太郎, 川口直美, 小倉宏道, 関戸司久, 大久保直子, 酒井俊太, 木内 要, 今泉孝敬, 高山守正, 宮内靖史, 中西一浩, 竹田晋浩, 富田喜文¹⁾, 早川弘一¹⁾ (¹⁾ 内科第一) : 新しい高感度心筋トロポニンT迅速判定法による急性心筋梗塞早期診断精度の検討. 第62回日本循環器学会総会, 1998. 3.
- 42) 木内 要, 吉田 晃, 高野照夫, 子島 潤, 高山守正, 太田眞夫¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (¹⁾ 内科第一) : 異型狭心症におけるインスリン抵抗性の役割. 第62回日本循環器学会総会, 1998. 3.
- 43) 清野精彦¹⁾, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 大林完二²⁾ (¹⁾ 内科第一, ²⁾ 大林内科医院) : 循環器救急外来における第二世代心筋Troponin T迅速判定法の評価 : Tokyo Trop-T Trial-II (4T-II). 第62回日本循環器学会総会, 1998. 3.
- 44) 川嶋修司, 桜井 薫¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 木内 要, 子島 潤, 上村竜太, 小谷英太郎, 関戸司久, 高山守正, 高野照夫 (¹⁾ 内科第一) : 脳梗塞と多量の血栓による急性心筋梗塞を発生したループスアンチコアグラント陽性の若年例. 第167回日本循環器学会関東甲信越地方回, 1998.

[付属病院病理部]

研究概要

第一病院の閉院に伴う人員の再配置により, 9月からは病理部の専任医師3名, 技師10名, 事務職1名になり, 日常の診断業務をこなしながらも, 臨床各科との共同研究に対応出来る体制の構築に向けて漸く半歩踏み出すことが出来た年であった. 成果の出るのに少し時間がかかるが, 兼務医として病理部に参画願っている病理学教室の山田助教授・消化器のグループとの*Helicobacter pylori*に関する共同研究, 診断精度の向上の面から検体処理のシステム化に血液内科を中心として関係各科と取り組んできた悪性リンパ腫関連の症例において, 病態の解析の研究に参画出来たことは, 病理部の今後の研究体制構築の可能性を示すものであろう.

その他, 従来からの研究テーマについても,

- 1) 心血管系については, 病態の解析に向けての研究を継続している.
- 2) 腎臓に関しては, 動物実験を含めた基礎的研究を病理学教室の腎臓グループと共同研究を継続している.
- 3) 人体例を対象とした研究では, 新しい手法を駆使した病理学教室との共同研究に加えて, 病理部としてもさらに積極的に取り組んでいく予定である
- 4) 技師も, 細胞診を中心に精度管理の面からの検討を続ける中から研究発表を行ってきたが, 成果を論文として纏める予定である.

来年度は, さらに幅広く共同研究を進めていくとともに, 病理部がイニシアチブを取って成果を纏められる体制に持っていきたいと考えている.

研究業績

論文

〔1996年度追加分〕

綜説：

- 1) 田村浩一：感染性心内膜炎：病理の立場から（特集：感染性心内膜炎）. 胸部外科 1996；49（8）：606-611.

(1) 原著：

- 1) Shimizu A¹⁾, Kitamura H¹⁾, Masuda Y¹⁾, Sugisaki Y, Yamanaka N¹⁾ (1) 病理学第1) : Rare glomerular capillary regeneration and subsequent capillary regeneration with endothelial cell apoptosis in progressive glomerulonephrosis. Am J Pathol 1997；151（12）：1231-1239.
- 2) Wen M, Yamada N¹⁾, Zhang Y²⁾, Matsuhisa T³⁾ (1) 病理学第2, 2) 中国広州南医院消化内科, 3) 多摩永山病院内視鏡科) : Morphological changes of *Helicobacter pylori* after antibacterial therapy : an electron microscope study. Med Electron Microsc 1997；30：131-137.
- 3) Matsumoto K, Wen M, Yamada N¹⁾, Asano G¹⁾ (1) 病理学第2) : Gastrointestinal autonomic nerve tumors : Immunohistochemical and ultrastructural studies in cases of gastrointestinal stromal tumor. Pathology International 1997；47：308-314.
- 4) Sueoka N¹⁾, Inokuchi K¹⁾, Nishigaki H¹⁾, Futaki M¹⁾, Inokuchi M¹⁾, Sugisaki Y, Dan K¹⁾, Wakabayashi I¹⁾ (1) 3rd Internal Medicine) : Genotype configuration in a case of primary gastric lymphoma with T-cell phenotype. Cancer Genet Cytogenet 1998；101：103-108.
- 5) Tamura H¹⁾, Ogata K¹⁾, Mori S²⁾, Tajika I¹⁾, Sugisaki Y, Dan K¹⁾ (1) 内科学第3, 2) 東大医科研病理学研究所) : Lymphoblastic lymphoma of natural killer cell origin presenting origin as pancreatic tumor . Histopathol 1998.
- 6) 山内仁紫¹⁾, 岩城秀行¹⁾, 井村 肇¹⁾, 檜山和広¹⁾, 二宮淳一¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 小川俊一²⁾, 上砂光裕²⁾, 日野佳昭²⁾, 大久保隆志²⁾, 山本正生²⁾, 田村浩一 (1) 付属病院第2外科, 2) 付属病院小児科) : 小児期発症Annulo-aortic ectasiaの病理所見と上行大動脈径の経年変化. 日小循誌 1997；13（6）：738-744.
- 7) 渡邊健一¹⁾, 三枝英人¹⁾, 陣内 賢¹⁾, 大河原大次¹⁾, 大久保公裕¹⁾, 杉崎祐一, 八木聡明¹⁾ (1) 耳鼻科学教室) : 耳下腺Oncocytomaの1例. 耳鼻と臨床 1998；44：5-7.
- 8) 田村浩一：大動脈解離の病理：解離腔経時的変化について. ICUとCCU 1998；22（2）：115-121.
- 9) 片山泰朗¹⁾, 今泉孝敬²⁾, 吉村明修³⁾, 木内 要²⁾, 松信精一¹⁾, 山中宣昭⁴⁾, 工藤翔二³⁾, 北村博司⁴⁾, 田村浩一, 川本雅司⁴⁾, 荒牧琢己²⁾ (1) 内科学第2, 2) 内科学第1, 3) 内科学第4, 4) 病理学第1) : 重症冠動脈疾患に間質性肺炎の急性増悪を合併した1例. 内科 1998；81（2）：368-378.

(2) 綜説：

- 1) 松倉則夫¹⁾, 恩田昌彦¹⁾, 長谷川博一¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 吉行俊郎¹⁾, 有馬保生¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 山下精彦¹⁾, 温 敏, 山田宣孝²⁾, 松久威史³⁾ (1) 外科学第1, 2) 病理学第2, 3) 多摩永山病院内視鏡科) : ヘリコバクターピロリと胃十二指腸疾患. 日医大誌 1997；64：479-482.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 温 敏, 山田宣孝¹⁾ (1) 病理学第2) : 幽門螺旋菌の除菌治療及治療効果判定. Second Chinese Symposium on *Helicobacter pylori*, 1997. 4.
- 2) Kitamura H¹⁾, Ohashi R¹⁾, Kaminaga C¹⁾, Masuda Y¹⁾, Sugisaki Y, Yamanaka N¹⁾ (1) 病理学第1) :

- Complement dependent mesangial cell apoptosis. 30th Annual Meeting of American Society of Nephrology, 1997. 11.
- 3) 大橋隆治¹⁾, 北村博司¹⁾, 石崎正通¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭¹⁾ (1) 病理学第1) : 抗Thy1腎炎低用量モデルにおけるアポトーシス. 第40回日本腎臓学会総会, 1997. 4.
 - 4) 北村博司¹⁾, 石崎正通¹⁾, 益田幸成¹⁾, 大橋隆治¹⁾, 神長ちふみ¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭¹⁾ (1) 病理学第1) : 抗Thy1. 1抗体によるメサングウム細胞の補体依存性アポトーシス. 第40回日本腎臓学会総会, 1997. 4.
 - 5) 益田幸成¹⁾, 北村博司¹⁾, 神長ちふみ¹⁾, 大橋隆治¹⁾, 石崎正通¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭¹⁾ (1) 病理学第1) : Thy1.1腎炎修復過程における内皮細胞の重要性について. 第40回日本腎臓学会総会, 1997. 4.
 - 6) 神長ちふみ¹⁾, 石崎正通¹⁾, 北村博司¹⁾, 益田幸成¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭¹⁾ (1) 病理学第1) : Mongolian gerbillにおけるThy1. 1腎炎. 第40回日本腎臓学会総会, 1997. 4.
 - 7) 温 敏, 山中宣昭¹⁾ (1) 病理学第1) : 糸球体発生と無吻合分葉の形成. 第40回日本腎臓学会総会, 1997. 4.
 - 8) 松原美幸, 横山宗伯¹⁾, 渡会泰彦, 杉崎祐一, 丸山晴久²⁾, 前田昭太郎³⁾ (1) 病理学第2, 2) 整形外科, 3) 多摩永山病院病理部) : Small cell osteosarcomaの1例: 鑑別診断を中心に. 第38回日本臨床細胞学会総会, 1997. 5.
 - 9) 温 敏, 相田成隆¹⁾, 山田宣孝¹⁾ (1) 病理学第2) : *H. pylori*除菌効果について病理組織学的検討. 第86回日本病理学会, 1997. 5.
 - 10) 山田宣孝¹⁾, 相田成隆¹⁾, 温 敏 (1) 病理学第2) : 日本人とタイ人, 中国人における胃炎像の病理組織学的比較: *Helicobacter pylori*感染と胃炎の関係を中心として. 第86回日本病理学会総会, 1997. 5.
 - 11) 田村浩一, 石崎正通¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭¹⁾ (1) 病理学第1) : 大動脈解離剖検例の検討. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
 - 12) 飯田竹美¹⁾, 田村浩一, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理学第2) : 大動脈弁floppy valveの検討. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
 - 13) 川本雅司¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭¹⁾, 小川真紀²⁾ (1) 病理学第1, 2) 東京警察病院) : Langerhans細胞増生を伴う血球貪食症候群 (HPS) と, HUSを呈した1剖検例. 第112回東京病理集談会, 1997. 6.
 - 14) 北村博司¹⁾, 益田幸成¹⁾, 大橋隆治¹⁾, 神長ちふみ¹⁾, 石崎正通¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭¹⁾ (1) 病理学第1) : 腎血管炎における間質病変と傍尿管毛細血管炎. 第86回病理学会総会, 1997. 6.
 - 15) 大橋隆治¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭¹⁾ (1) 病理学第1) : 高齢発症の脾原発性非ホジキンリンパ腫の1剖検例. 第86回病理学会総会, 1997. 6.
 - 16) 永井祥子, 渡会泰彦, 松原美幸, 浅川一枝, 佐藤春明, 釜口晴美, 野沢きくえ, 村瀬幸宏, 尾崎正行, 田村浩一, 杉崎祐一: 甲状腺手術例における組織診・細胞診の比較検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 17) 渡会泰彦, 松原美幸, 浅川一枝, 佐藤春明, 釜口晴美, 永井祥子, 野沢きくえ, 村瀬幸弘, 尾崎正行, 田村浩一, 杉崎祐一: 尿路変更術後の尿細胞像についての検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 18) 権田昌洋¹⁾, 森 洋¹⁾, 松久威史¹⁾, 温 敏, 山田宣孝²⁾ (1) 多摩永山病院内視鏡科, 2) 病理学第2) : The Sydney Systemを用いた組織学的胃炎, *Helicobacter pylori*感染の診断基準. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 19) 三富規行¹⁾, 田村浩一, 杉崎祐一 (1) 自習学習学生) : 胃癌手術症例における*Helicobacter pylori*の検索. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 20) 広畑泰久¹⁾, 朝倉健太郎²⁾, 相原 薫, 古荘貞男³⁾, 山本資次³⁾, 今坂統一³⁾, 片岡宣義³⁾, 並松茂樹 (1) 中央電子顕微鏡研究施設, 2) 東京大学工学部, 3) 中央精機 (株)) : リニアモーターステージを試料送り機構に用いたウルトラミクロトームの開発. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1997. 10.
 - 21) 佐藤 茂¹⁾, 並松茂樹, 若松恭子²⁾, 五十嵐俊夫³⁾ (1) 中央電子顕微鏡研究施設, 2) 病理学第1, 3) 東京都立母子保健院) : 胎児心臓におけるdesmosome-like structure の役割. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1997. 10.

- 22) 佐佐木喜広¹⁾, 佐藤 茂¹⁾, 鈴木克哉¹⁾, 安達彰子¹⁾, 井上京子¹⁾, Ghazizadeh M¹⁾, 並松茂樹, 五十嵐俊夫²⁾, 若松恭子³⁾, 山中宣昭³⁾ (1) 中央電子顕微鏡研究施設, 2) 東京都立母子保健院, 3) 病理学第1) : 腎皮質における結合組織の加齢による変化: 腎生検を用いての検討. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1997. 10.
- 23) 安達彰子¹⁾, 佐藤 茂¹⁾, 鈴木克哉¹⁾, 並松茂樹, 若松恭子²⁾, 五十嵐俊夫³⁾ (1) 中央電子顕微鏡研究室, 2) 病理学第1, 3) 東京都立母子保健院) : 急性肝炎における肝マクロファージの電顕観察: 肝生検を用いて. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1997. 10.
- 24) 益田幸成¹⁾, 北村博司¹⁾, 石川吾利美¹⁾, 田村尚美¹⁾, 杉崎祐一, 山中宣昭¹⁾ (1) 病理学第1) : IgA腎臓の蛍光強度と免疫沈着物. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会, 1997. 10.

[付属病院中央検査部]

研究概要

本年度は検査部内検体検査システム改革と共に、極めて多岐に渡る活動が行われ、各分野における概要は (1) 免疫学分野におけるLE因子やHCV抗体に関する種々の解析法と症例検索, (2) 細菌学分野では臨床各科を対象とした月毎のMRSA・細菌集計データと感染防止対策の充実について、また院内各所の衛生度チェックとその管理等, (3) 血液学分野では網赤血球の分画等、形態学における解析, (4) 生理学分野におけるサ-モグラフィ-の利用効果や超音波検査による石灰化症例の検索, 抗てんかん薬投与患者の動態や心疾患患者の予後観察法について, (5) 高度救命救急分野では重症の外傷患者における低体温療法に伴う組織酵素代謝や栄養管理, MRSA性肺炎や感染症患者の抗菌薬の分布容積の研究, 中毒患者へ及ぼすアルコールの影響, ATIII投与によるメデイエ-タ-の変動, 動脈血中のケトン体比やガス分析, 尿中薬物分析等, (6) その他, 管理分野においては新東京国際空港の診療支援体制の構築や, 保険医療に基づく検査業務の経営管理システムの他, 公共機関を通した首都圏の検査精度管理状況の調査など. 幅広く積極的に取り組む努力は多方面にて安定した評価が得られつつあり, 数々の継続課題と共に更なる今後の成果が期待される.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 橋本政子, 森本 進, 里村克章: ウシ胸腺由来核酸蛋白を用いたLE因子検出試薬 “スマイテスト [ラテックス] LE” の基礎的検討. 臨床検査機器・試薬 1997; 20 (5): 735-739.
- 2) 島田 靖¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾, 大塚敏文¹⁾, 柴田泰史 (1) 救急医学教室) : 全自動血液ガス分析装置AVLOPTI 1の使用経験. 日救急医学会誌 1997; 18 (1) : 314-315.
- 3) 仁平 信²⁾, 林田真喜子²⁾, 大野曜吉²⁾, 犬塚 祥¹⁾, 柴田泰史, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾ (1) 救急医学教室, 2) 法医学教室) : 救急患者に対する簡易尿中薬物スクリ-ニングキットTriage使用の評価. 機器・試薬 1997; 20 (4) : 519-525.
- 4) 柴田泰史, 里村克章, 木村昭夫¹⁾, 久志本成樹¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾, 大塚敏文¹⁾, 西澤健司²⁾ (1) 救急医学教室, 2) 付属病院薬剤部) : ATIII製剤投与による血中メデイエ-タ-の変動: 抗炎症性サイトカインを中心に. バイオメディカル 1997; 7: 75-83.

著書

- 1) 里村克章, 上村竜太¹⁾, 青砥泰二, 森本 進 (1) 集中治療室) : [分担] XII臨床各科の感染対策: ⑤CCUの感染防止対策. ポケット版 感染対策ハンドブック第1版, 1997; pp265-268, 照林社.

- 2) 野本剛史：〔分担〕平成九年度第16回東京都衛生検査所精度管理事業報告書（東京都立衛生研究所精度管理室編），1998；東京都衛生局医療計画部。

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 村上 守¹⁾，池田幸穂¹⁾，諫山和男¹⁾，布施 明¹⁾，佐藤秀貴¹⁾，柴田泰史，益子邦洋¹⁾，大塚敏文¹⁾（¹⁾ 救急医学教室）：重症頭部外傷患者に対する低体温療法時の輸液と組織酸素代謝。第11回日本外傷学会，1997. 5.
- 2) 野本剛史，町田幸雄¹⁾，石渡統夫¹⁾，亀山雅弥¹⁾（¹⁾ 付属千葉北総病院中央検査室）：保険医療と臨床検査に関する問題点への対応：特に収益率の向上と意識改革について。第46回日本臨床衛生検査学会，1997. 5.
- 3) 石渡統夫¹⁾，西村とき子¹⁾，野本剛史（¹⁾ 付属千葉北総病院中央検査室）：抗てんかん薬を飲み忘れ救急外来に搬送された1例。第46回日本臨床衛生検査学会，1997. 5.
- 4) 西村とき子¹⁾，石渡統夫¹⁾，亀山雅弥¹⁾，野本剛史（¹⁾ 付属千葉北総病院中央検査室）：血栓エコ-像に類似した下大静脈の石灰化。第46回日本臨床衛生検査学会，1997. 5.
- 5) 吉田竜介¹⁾，柴田泰史，西澤健司²⁾，木村昭夫¹⁾，益子邦洋¹⁾，山本保博¹⁾（¹⁾ 救急医学教室，²⁾ 付属病院薬剤部）：中毒疾患におけるアルコールの及ぼす影響の検討。第19回日本中毒学会総会，1997. 7.
- 6) 中村祐三，山本信也，森本 進，里村克章：自動網赤血球測定装置R-3000に於けるHFR分画の有用性について。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 7) 園部一成，橋本政子，森本 進，里村克章：特徴的なHCV抗体試薬がHCV感染診断に与える影響。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 8) 望月 徹¹⁾，木村昭夫¹⁾，川井 真¹⁾，益子邦洋¹⁾，山本保博¹⁾，柴田泰史，青砥泰二，西澤健司²⁾（¹⁾ 救急医学教室，²⁾ 付属病院薬剤部）：重症熱傷症例におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌肺炎に対する抗菌化学療法の研究。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 9) 野本剛史，三谷真実江¹⁾，目黒真喜子¹⁾，石渡統夫¹⁾，町田幸雄¹⁾，亀山雅弥¹⁾，水野杏一¹⁾，牧野俊郎²⁾（¹⁾ 付属千葉北総病院中央検査室，²⁾ 新東京国際空港クリニック）：新東京国際空港クリニックにおける診療支援体制：特に臨床検査体制について。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 10) 町田幸雄¹⁾，目黒真喜子¹⁾，野本剛史，水野杏一¹⁾（¹⁾ 付属千葉北総病院中央検査室）：検査業務管理システムの構築：検査室経営管理。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 11) 目黒真喜子¹⁾，町田幸雄¹⁾，野本剛史，水野杏一¹⁾（¹⁾ 付属千葉北総病院中央検査室）：サ-モグラフィ検査の現状と今後：特に手指尖について。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 12) 亀山雅弥¹⁾，野本剛史，水野杏一¹⁾（¹⁾ 付属千葉北総病院中央検査室）：開院後4年次における検出菌・薬剤感受性率の変動。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 13) 石渡統夫¹⁾，野本剛史，水野杏一¹⁾（¹⁾ 付属千葉北総病院中央検査室）：薬物血中濃度と脳波についての1症例。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 14) 三谷真実江¹⁾，野本剛史，水野杏一¹⁾（¹⁾ 付属千葉北総病院中央検査室）：持続性に完全左脚ブロック（CLBBB）を呈した心電図が後に正常化した1症例。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 15) 柴田泰史，里村克章，村上 守¹⁾，池田幸穂¹⁾，吉田竜介¹⁾，木村昭夫¹⁾，益子邦洋¹⁾，山本保博¹⁾，西澤健司²⁾（¹⁾ 救急医学教室，²⁾ 付属病院薬剤部）：重症頭部外傷患者および脳血管障害患者に対する低体温療法時の栄養管理。第25回日本救急医学会総会，1997. 11.
- 16) 西澤健司¹⁾，平野公晟¹⁾，望月 徹²⁾，木村昭夫²⁾，山本保博²⁾，柴田泰史（¹⁾ 付属病院薬剤部，²⁾ 救急医学教室）：アミノグリコシド系抗菌薬の分布容積と患者重症度。第25回日本救急医学会総会，1997. 11.
- 17) 柴田泰史，里村克章，木村昭夫¹⁾，久志本成樹¹⁾，山本保博¹⁾，西澤健司²⁾（¹⁾ 救急医学教室，²⁾ 付属病院薬剤部）

部)：敗血症性DICに対するATIII製剤投与による血中メディエーターの変動。第8回バイオメディカルフォーラム，1997. 12.

- 18) 柴田泰史，里村克章，久志本成樹¹⁾，山本保博¹⁾ (¹⁾ 救急医学教室)：コバスマイラプラス自動分析装置による動脈血ケトン体比測定試薬の検討。第44回日本救急医学会関東地方会，1998. 2.

[付属病院薬剤部]

研究概要

平成9年4月より改正薬事法，改正薬剤師法が施行され，医薬品の適正使用に対する薬剤師の責任は益々重くなった。今年度は，これらの法改正に対応するため，薬剤師が医薬品の有効性，安全性，経済性の確保にどのように関わって行くべきか及び調剤薬に対する患者への情報提供をどのように行うべきかをメインテーマとして多くの研究を行った。

有効性・安全性に関しては (1) アミノグリコシド系抗菌薬の分布容積と患者の重症度との間にどのような関連があるか (2) 高カロリー輸液投与時において必要とされるビタミンB₁の安定性が，高カロリー輸液中の成分の相違によって影響を受けるのか (3) 緊急安全性情報に対し，医療機関全体のシステムとしてどのような取り組みが必要なかなどについて研究し発表した。

経済性に関しては，注射薬品供給業務において，薬剤師が医療経済を考慮したシステムを構築することにより，医療費の抑制に大きく貢献できる可能性があること等について発表した。

患者への薬剤情報の提供については，医薬品適正使用の向上と患者のQOLの向上が目的であることを明確にし，その目的を遂行するためにどのような情報をどのようにして患者へ伝えるべきかなどについて検討し発表した。

その他，臨床試験実施における薬剤師の役割，薬剤師の質の向上のために必要な薬学生の長期実習に関する問題等についても検討し発表した。

現在，医療を取り巻く環境は激変しており，求められる薬剤師の役割も大きく変化している。今後も薬学的な視点から，医療の質の向上と医療経済的な役割を推進するための研究を継続して行きたいと考えている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 柴田泰史¹⁾，里村克章¹⁾，木村昭夫²⁾，久志本成樹²⁾，益子邦洋²⁾，山本保博²⁾，大塚敏文²⁾，西澤健司 (¹⁾ 中央検査部，²⁾ 救急医学科)：AT III 製剤投与による血中メディエーターの変動：抗炎症性サイトカインを中心に。バイオメディカル 1997；7：75-83.
- 2) 望月 徹¹⁾，木村昭夫¹⁾，西澤健司 (¹⁾ 救急医学科)：重症熱傷症例におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌肺炎に対する抗菌化学療法の研究。日本熱傷学会会誌 1997；23 (5)：343-354.

著書

- 1) 村田和也，平野公晟：〔分担〕輸液剤の適応と使い方。臨床医，1997；pp67-70，中外医学社。

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 江口博美，宮田広樹，中嶋基広，西澤健司，平野公晟：退院時服薬指導について。関東私立医大薬剤部研究会，1997. 6.

- 2) 西澤健司, 酒井紀美子, 平野公晟, 山村重雄¹⁾, 百瀬弥寿徳¹⁾, 木村昭夫²⁾, 益子邦洋²⁾ (¹⁾ 東邦大学薬学部, ²⁾ 救急医学科): 硫酸アルベカシンの分布容積と敗血症を合併したICU患者の重症度の検討. 第14回日本TDM学会, 1997. 6.
- 3) 吉田竜介¹⁾, 柴田泰史²⁾, 西澤健司, 木村昭夫¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 救急医学科, ²⁾ 中央検査部): 中毒疾患におけるアルコールの及ぼす影響の検討. 第19回日本中毒学会, 1997. 7.
- 4) 中嶋基広, 村田和也, 佐治名保子, 石原朋子, 江口博美, 宮田広樹, 赤木千世, 本城和義, 平野公晟: 注射薬供給業務における薬剤師の役割 (その5): 医薬品費に与える影響. 関東ブロック第27回学術大会, 1997. 8.
- 5) 菅谷量俊, 西澤健司, 平野公晟: 小児血液疾患患者に対する薬物療法での薬剤師の役割. 東京都病院薬剤師会第2回病棟業務研究会, 1997. 8.
- 6) 中嶋基広, 村田和也, 平野公晟: 高カロリー輸液中のビタミン安定性の検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 7) 望月 徹¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 川井 真¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾, 西澤健司, 柴田泰史²⁾, 青砥泰二²⁾ (¹⁾ 救急医学科, ²⁾ 中央検査部): 重症熱傷症例におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌肺炎に対する抗菌化学療法の研究. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 8) 水落伊治, 濃沼政美, 菅谷量俊, 渋谷香奈子, 片山志郎, 平野公晟: 患者に対する医薬品情報提供への取り組み (第1報): 薬剤師法第25条の2への対応. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 9) 渋谷香奈子, 菅谷量俊, 片山志郎, 平野公晟: β_2 刺激薬吸入剤の使用方法に関する問題点. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 10) 西澤健司, 平野公晟, 新井正徳¹⁾, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 救急医学科): 重症熱傷時におけるアセテートリンゲル初期輸液の検討. 第7回日本病院薬学会年会, 1997. 9.
- 11) 宮田広樹, 赤木千世, 西澤健司, 平野公晟: 泌尿器科病棟における薬剤管理指導業務. 第7回日本病院薬学会年会, 1997. 9.
- 12) 中山ともみ, 片山志郎, 小林一江, 西澤光代, 平野公晟, 松井洋法¹⁾ (¹⁾ 眼科): ヒアルロン酸ナトリウム点眼液がトロピカミド・フェニレフリン点眼剤の散瞳効果に及ぼす影響. 第7回日本病院薬学会年会, 1997. 9.
- 13) 柴田泰史¹⁾, 村上 守²⁾, 吉田竜介²⁾, 益子邦洋²⁾, 西澤健司, 里村克章¹⁾, 木村昭夫²⁾, 山本保博²⁾ (¹⁾ 中央検査部, ²⁾ 救急医学科): 重症頭部外傷患者および脳血管障害患者に対する低体温療法時の栄養管理. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 14) 望月 徹¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博¹⁾, 西澤健司 (¹⁾ 救急医学科): 重症熱傷例に対する sulfamethoxazole-trimethoprim合剤 (ST合剤) の長期投与の検討. 第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 15) 西澤健司, 平野公晟, 望月 徹¹⁾, 木村昭夫¹⁾, 山本保博¹⁾, 柴田泰史²⁾ (¹⁾ 救急医学科, ²⁾ 中央検査部): アミノグリコシド系抗菌薬の分布容積と患者重症度. 第25回救急医学会総会, 1997. 11.
- 16) 柴田泰史¹⁾, 里村克章¹⁾, 木村昭夫²⁾, 久志本成樹²⁾, 山本保博²⁾, 西澤健司 (¹⁾ 中央検査部, ²⁾ 救急医学科): 敗血症性DICに対するAT III 製剤投与による血中メディエーターの変動. 第8回バイオメディカルフォーラム, 1997. 12.
- 17) 村田和也, 中嶋基広, 平野公晟: 高カロリー輸液中におけるビタミンB₁安定性の検討. 日本薬学会第118年会, 1998. 3.
- 18) 山村重雄¹⁾, 百瀬弥寿徳¹⁾, 西澤健司, 片山志郎, 平野公晟, 木村昭夫²⁾, 山本保博²⁾ (¹⁾ 東邦大学薬学部, ²⁾ 救急医学科): ニューラルネットワークシュミレーションを用いた各種患者データからの薬物動態の予測. 日本薬学会第118年会, 1998. 3.
- 19) 西澤健司, 中嶋博子, 平野公晟: 医薬品の臨床試験における薬剤師の役割. 日本薬学会第118年会, 1998. 3.
- 20) 菅谷量俊, 渋谷香奈子, 片山志郎, 平野公晟: 緊急安全性情報に対する当院の取り組み. 日本薬学会第118年会,

1998. 3.

- 21) 鷺見正宏¹⁾, 西谷篤彦¹⁾, 明石貴雄¹⁾, 小清水美千子¹⁾, 濱 敏弘¹⁾, 村田和也, 石射正英¹⁾, 平野公晟, 八木下将也¹⁾ (1) 東京都病院薬剤師会第2教育研修部) : 薬学生長期実習受け入れ体制の整備 (2) : 評価基準の作成. 日本薬学会第118年会, 1998. 3.
- 22) 明石貴雄¹⁾, 安部和史¹⁾, 小高雅信¹⁾, 豊川志保子¹⁾, 中山延幸¹⁾, 濱 敏弘¹⁾, 前 彰¹⁾, 牟田 静¹⁾, 吉尾隆¹⁾, 石射正英¹⁾, 平野公晟, 八木下将也¹⁾ (1) 東京都病院薬剤師会第二教育研修部) : 薬学生長期実習受け入れ体制の整備 (1) : モデルカリキュラムの作成. 日本薬学会第118年会, 1998. 3.

[付属病院生理機能センター]

研究概要

当センターでは、質の高い生理学的な検査データを迅速に臨床側に提供すべく、日常業務の整備、充実のために努力している。このような状況の中で、前年に引き続き、心臓超音波、特にドブタミン負荷心エコーを中心に研究を進め、成果を上げている。

近年の医療環境の激変により、医療スタッフの一員として臨床検査技師の果たす役割は年々重要なものとなっている。特に平成9年度は、トレッドミル検査に力を入れて、医師と協力して検査を行い、実績を伸ばしている。今後、このように、医師と協調して業務の拡大、研究に寄与していきたいと考えている。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著 :

- 1) Ma. HH¹⁾, Honma H, Munakata K¹⁾, Hayakawa H¹⁾ (1) 第一内科学教室) : Mitral Insufficiency as a Complication of Acute Myocardial Infarction and Left Ventricular Remodeling. Japanese Journal Circulation 1997 ; 61 (11) : 912-920.

綜説 :

- 1) 本間 博, 草間芳樹¹⁾, 岸田 浩¹⁾ (1) 第一内科学教室) : Dobutamine stress echocardiography (DSE) による虚血性心疾患の診断 : 臨床におけるDSEの有用性. Cardiologist 1997 ; 2 (6) : 436-437.

著書

- 1) 本間 博 : [分担] 3. 負荷心エコー法の手技と評価法. 負荷心エコー法 (高野照夫監修, 小柳左門, 本間 博編), 1997 ; pp33-54, 中山書店.
- 2) 本間 博, 草間芳樹¹⁾ (1) 第一内科学教室) : [分担] 5. Viability評価における負荷心エコー法 5. 1ドブタミン負荷. 負荷心エコー法 (高野照夫監修, 小柳左門, 本間 博編), 1997 ; pp137-159, 中山書店.
- 3) 本間 博, 草間芳樹¹⁾ (1) 第一内科学教室) : [分担] Viabilityの評価における負荷心エコー法 (1ドブタミン負荷). (CD-ROM) 負荷心エコー法 (高野照夫監修, 小柳左門, 本間 博編), 1997 ; 中山書店.
- 4) 本間 博, 平山悦之¹⁾, 大村和子¹⁾, 青木 聡¹⁾, 加藤貴雄¹⁾ (1) 第一内科学教室) : [翻訳] 10 心筋における興奮収縮連関と機械的電気的調節機構 11 心筋収縮力 12 自律神経系による心拍数と収縮力の調節 13 心拍出量の測定. 心臓の生理と薬理, 1998 ; メディカル・サイエンス・インターナショナル.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 本間 博, 草間芳樹¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 荒牧琢己¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 第一内科学教室)：心臓以外の手術を受ける高齢者の術前評価：ドブタミン負荷心エコー法を用いて。第94回日本内科学会講演会, 1997. 4.
- 2) 藤井克彦, 沖 守¹⁾, 木村 剛¹⁾, 山形健治¹⁾, 佐藤三洋¹⁾, 吉田和弘¹⁾, 秋元成太¹⁾ (1) 泌尿器科学教室)：RFPにより溶血性尿毒症性症候群を呈した1例。第42回日本透析医学会学術集会・総会, 1997. 7.
- 3) 本間 博, 馬 煥煥¹⁾, 子島 潤¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高山守正¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 高野照夫¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 第一内科学教室)：急性心筋梗塞後の左室リモデリングと僧帽弁閉鎖不全。第34回日本臨床生理学学会総会, 1997. 10.
- 4) 本間 博, 馬 煥煥¹⁾, 横山広行¹⁾, 子島 潤¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高山守正¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 高野照夫¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 第一内科学教室)：急性心筋梗塞に伴う僧帽弁閉鎖不全：急性期再還流療法と左室リモデリングの影響。第11回日本冠疾患学会学術大会, 1997. 12.
- 5) 桜井 薫¹⁾, 本間 博, 大塚俊昭¹⁾, 内田拓実¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 第一内科学教室)：Acoustic Densitometry 法による局所心機能の評価。第32回日本成人病学会, 1998. 1.
- 6) 松崎つや子, 漆澤亜希, 水瀬 学, 佐藤淳子, 中村利枝, 本間 博, 内田拓実¹⁾, 伊藤恵子¹⁾, 菅原博子¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 荒牧琢己¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 第一内科学教室)：Acoustic Densitometry 法により心筋性状の可逆的な変化を評価しえた急性心筋炎の1例。第9回日本超音波医学会関東甲信越地方会・学術集会, 1998. 1.
- 7) 吉田 晃, 木内 要¹⁾, 高野照夫¹⁾, 上村竜太¹⁾, 石川 源¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 関戸司久¹⁾, 小倉宏道¹⁾, 川口直美¹⁾, 大久保直子¹⁾, 竹田 晋¹⁾, 子島 潤¹⁾, 高山守正¹⁾, 太田眞夫¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 荒牧琢己¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 第一内科学教室)：冠動脈疾患とインスリン抵抗性。日本医科大学医学会第94回例会, 1998. 2.
- 8) 本間 博, 草間芳樹¹⁾, 大塚俊昭¹⁾, 桜井 薫¹⁾, 内田拓実¹⁾, 伊藤恵子¹⁾, 菅原博子¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 早川弘一¹⁾ (1) 第一内科学教室)：左室心筋Integrated Backscatter によるサルコイドーシス早期診断の試み。第62回日本循環器学会総会・学術集会, 1998. 3.

[日本医科大学腎クリニック]

研究概要

当施設は、付属病院の付置施設として、平成9年2月に新設され、腎臓内科（第2内科学教室）が診療・研究・教育を担当しております。主たる診療内容は、外来維持透析（血液透析・腹膜透析）の他、腎疾患外来（対象疾患；保存期慢性腎不全・慢性糸球体腎炎・糖尿病性腎症・嚢胞腎など）を行っております。

研究課題；a. 腎性骨異常症、透析amyloidosisの予防と治療を目的として、保存期から長期維持透析期にまで、骨密度、各種骨マーカー、PTH、 β_2 MG、AGEs及び空腹時血清insulin濃度測定などを経時的に行い、活性型vitaminD₃、リン吸着薬、透析dialyzer膜の影響などを検討し、予防を中心に積極的な治療と研究を行っております。b. 糖尿病性腎症は、微量albumin尿の出現する早期腎症からの適切な治療が大切であります。蛋白制限食の開始時期、ACE阻害薬の適切な投与などを検討しながら、腎機能の正確な把握に努め、積極的に応用し、研究しております。c. 慢性腎不全患者は筋蛋白異化亢進状態であり低栄養状態に陥りやすい。体組成分析（impedance法）を経時的に行い、その状態の把握と十分な栄養管理の検討を行っております。d. 古典的モデルから、より数理学的理論に基づく方法による腹膜管理に努め、腹膜透析をより安全に、長期に行えるよう検討しております。e. 脳出血、心血管障害などは透析患者の重要な合併症であり、そのriskを高める高血圧患者は多いです。また、腎性貧血の治療としてerythropoietin投与に伴う高血圧合併症の頻度も多く、それらの病態把握と治療を検討しております。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著：

- 1) Kaneko T¹⁾, Osono E²⁾, Hayama N¹⁾, Iino Y, Terashi A²⁾ (¹⁾ Int. Med. of Chiba-Hokuso Hosp., ²⁾ The 2nd Dept. of Int. Med.) : T-cell activation modified by parathyroid hormone in patients with end-stage renal disease. *Clinical Nephrology* 1997 ; 2 (48) : 353-358.
- 2) Osawa H, Osono E¹⁾, Iino Y, Terashi A¹⁾ (¹⁾ The 2nd Dept. of Int. Med.) : A Serum Leptin Concentration in Kidney Transplantation Patients. *Clinical and Experimental Nephrology* 1997 ; 2 (2) : 38-43.

綜説：

- 1) 飯野靖彦¹⁾, 白鳥康史 (¹⁾ 内科学第2教室) : むくみ, 腹水への対応. *臨床成人病* 1997 ; 27 (3) : 477-488.

(1) 綜説：

- 1) 森 貴博¹⁾, 飯野靖彦¹⁾ (¹⁾ 内科学第2教室) : 高K血症の鑑別診断. *medicina* 1997 ; 34 (4) : 888-890.
- 2) 飯野靖彦¹⁾ (¹⁾ 内科学第2教室) : 浮腫の形成機序. *内科* 1997 ; 79 (6) : 825-827.
- 3) 飯野靖彦¹⁾ (¹⁾ 内科学第2教室) : 尿の新しいみかた. *臨床医* 1997 ; 23 (8) : 2193-2194.
- 4) 飯野靖彦¹⁾ (¹⁾ 内科学第2教室) : 乳酸アシドーシス. *内科* 1997 ; 79 (8) : 1261-1263.
- 5) 白木優子, 飯野靖彦, 河辺満彦 : 血中電解質検査のポイント. *診断と治療* 1997 ; 85 (8) : 1769-1772.
- 6) 柏木哲也¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 赫 彰郎¹⁾ (¹⁾ 内科学第2教室) : 多発性嚢胞腎. *medicina* 1997 ; 34 (10) : 2439-2444.
- 7) 飯野靖彦¹⁾, 松信精一¹⁾ (¹⁾ 内科学第2教室) : 臓器提供の適応. *臨床透析* 1997 ; 13 (10) : 1625-1629.
- 8) 飯野靖彦¹⁾, 益子邦洋²⁾, 謝 宋安²⁾ (¹⁾ 内科学第2教室, ²⁾ 救急医学教室) : 輸液の実際. *臨床医* 1997 ; 23 (11) : 2298-2310.
- 9) 飯野靖彦¹⁾ (¹⁾ 内科学第2教室) : 浮腫形成に関するホルモン. *腎と透析* 1998 ; 44 (1) : 29-32.

著書

- 1) 飯野靖彦 : [自著] 目でわかる輸液, 1997 ; メディカルサイエンス インターナショナル.
- 2) 飯野靖彦 : [分担] 慢性腎炎. *臨床看護辞典*, 1997 ; pp1934-1936, メジカルフレンド.
- 3) 飯野靖彦 : [分担] 薬物性腎障害. *今日の診断指針* 第4版, 1997 ; pp1001-1002, 医学書院.
- 4) 飯野靖彦 : [分担] 腎移植. *新臨床内科学*, 1997 ; pp1124-1125, 医学書院.
- 5) 飯野靖彦 : [分担] 尿路閉塞症. *EBM現代内科学*, 1997 ; pp1805-1807, 金芳堂.
- 6) 飯野靖彦 : [分担] 手術前後の輸液計画. *透析療法*, 1997 ; pp190-191, 中外医学社.
- 7) 飯野靖彦 : [分担] 降圧薬療法の選択と血圧目標値. *透析療法*, 1997 ; pp244-245, 中外医学社.
- 8) 飯野靖彦 : [共著] 生命と水Na. *水とNaの臨床*, 1998 ; pp1-11, 診断と治療社.
- 9) 飯野靖彦 : [分担] 酸塩基平衡とその異常. *腎臓病学エッセンス*, 1998 ; pp53-60, 中外医学社.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演：

- 1) Kawabe M, Hayama N¹⁾, Iino Y, Terashi A (¹⁾ Chiba-hokuso Hosp.) : Prospective Effect of Lean Body Mass as an Adequate Index for Peritoneal Dialysis Patients. The 17th Annual Conference on Peritoneal

Dialysis, 1997. 2.

(1) 一般講演：

- 1) Kawabe M, Hayama N¹⁾, Iino Y, Terashi A (¹⁾ Int. Med. of Chiba-hokuso Hosp.) : Alteration of %Lean Body Mass as an Adequate Index for Peritoneal Dialysis Patients. The 14th International Congress of Nephrology (Australia), 1997. 5.
- 2) 河邊満彦, 白木優子, 青木 宏, 清水光義, 葉山修陽¹⁾, 飯野靖彦, 赫 彰郎 (¹⁾ 千葉北総病院内科) : 各種透析膜における血清 β_2 -microglobulin 値とその変動. 第41回日本透析医学会, 1997. 6.
- 3) 大藪英一, 栗原 怜¹⁾, 米島秀夫¹⁾, 橋本和政, 葉山修陽²⁾, 飯野靖彦 (¹⁾ 春日部秀和病院腎臓内科, ²⁾ 千葉北総病院内科) : 血液透析患者におけるACE gene polymorphism と心室壁肥厚との関与. 第40回日本腎臓学会総会, 1997. 6.
- 4) 飯野靖彦, 大藪英一, 橋本和政, 松信精一, 河辺満彦, 他2名 : 多発性嚢胞腎患者におけるアンジオテンシン変換酵素の遺伝子多型. 第40回日本腎臓学会総会, 1997. 6.

[付属病院看護部]

研究概要

1. 患者の高齢化がすすみ, 健康問題を持ちながらも患者個々の日常生活の自立やQOLへの取り組みは老人看護の重要課題である. 転倒を起こしやすい環境条件, 転倒・転落のリスクを抱えた患者, そのような状況下で中間管理職と看護婦が事故に対する予測をどう行ったのか, また, 事故を予防するための指示・伝達の過程に何か問題はなかったかを明らかにする取り組みを行った.

2. 救命救急センター看護部においては, 熱傷患者のケアの改善, 呼吸不全患者の標準看護計画の作成やフィジカルアセスメントの導入, 脳死患者家族への看護ケア標準モデルの検討などを行った. 集中治療室においてもCCU入室患者への家族援助の在り方を考察した.

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 大槻義昭 : 熱傷の治療とケアのポイント : 全身管理時の処置とケアのポイント. 小児看護 1998 ; 21 (2) : 216-219.
- 2) 佐藤憲明 : NPAC看護診断データベースを用いた精神的援助 : 危機的状況におかれた患者の看護介入の実際. Emergency Nursing 1998 ; 3.

著書

- 1) 大谷和子 : [分担] 疾患別口腔ケア糖尿病患者 : 介護保険と口腔ケア基礎から実践まで. 1997 ; pp62-66, 財団法人口腔保健協会.
- 2) 前原茂子, 竹田秀子 : [分担] 疾患別口腔ケア肝臓病患者 : 介護保険と口腔ケア基礎から実践まで. 1997 ; pp67-71, 財団法人口腔保健協会.
- 3) 長谷川幸子 : [分担] 疾患別口腔ケア痴呆患者 : 介護保険と口腔ケア基礎から実践まで. 1997 ; pp72-75, 財団法人口腔保健協会.
- 4) 千葉弘子 : [分担] 疾患別口腔ケア白血病患者 : 介護保険と口腔ケア基礎から実践まで. 1997 ; pp76-79, 財団

法人口腔保健協会。

- 5) 長野由美, 周藤和美: [分担] 慢性腎炎看護の展開: 臨床看護学辞典 第2版 (高久史磨, 大國真彦, 森岡恭彦, 坂元正一監修), 1998; pp1936-1939, メヂカルフレンド社.
- 6) 早坂百合子: [分担] 急性中毒看護の展開: 臨床看護学辞典 第2版 (高久史磨, 大國真彦, 森岡恭彦, 坂元正一監修), 1998; pp388-391, メヂカルフレンド社.
- 7) 原 千鶴: [分担] 突発性血小板減少性紫斑病看護の展開: 臨床看護学辞典 第2版 (高久史磨, 大國真彦, 森岡恭彦, 坂元正一監修), 1998; pp1505-1508, メヂカルフレンド社.
- 8) 斑目由美: [分担] ハイリスク妊娠看護の展開: 臨床看護学辞典 第2版 (高久史磨, 大國真彦, 森岡恭彦, 坂元正一監修), 1998; pp1707-1709, メヂカルフレンド社.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 藤田昌久, 青木栄美, 野中奈緒美, 佐野容子, 田口涼子, 関口百合子: 熱傷患者のガーゼ交換における工夫: 疼痛コントロールアセスメントの活用. 日本熱傷学会総会, 1997. 5.
- 2) 野中奈緒美: 熱傷患者の眼障害予防を工夫した一症例. 第23回日本熱傷学会総会, 1997. 5.
- 3) 萬田俊雄, 川崎義子, 関口百合子: 呼吸不全患者アセスメントシート: 標準看護計画用紙の作成. 第43回日本救急医学会関東地方会, 1997. 6.
- 4) 梅野奈美, 大橋留美, 福士真由美, 岡本史江, 関口百合子: 脳低体温療法における温度管理: 体温コントロールデータベースアセスメントシートの活用. 第43回日本救急医学会関東地方会, 1997. 6.
- 5) 宮崎裕代, 渡瀬美希, 本橋昌美, 吉澤綾子, 高橋真里, 竹内真奈美: 循環器疾患患者の口渇に対する援助. 第45回日本心臓学会学術集会, 1997. 9.
- 6) 長谷川幸子, 周藤和美: 大学病院における患者の転倒事故の要因分析: 予測と情報伝達の観点から. 東京都看護協会看護研究学会, 1997. 11.
- 7) 武石知子, 佐藤憲明, 中佐友美, 岩佐有華, 関口百合子: 危機的患者の心理的対処プロセスと看護の実際: 危機モデルを用いた事例研究. 第25回日本救急医学会総会看護部会, 1997. 11.
- 8) 佐藤憲明, 中佐友美, 武石知子, 岩佐有華, 関口百合子: NPAC看護診断データベースを用いた精神的援助: 危機的状況におかれた患者介入の実際. 第25回日本救急医学会総会看護部会, 1997. 11.
- 9) 福井美和子, 木野毅彦, 松崎美紀, 福島人美, 松長真穂, 瀬戸利昌, 関口百合子: 当施設における肺理学療法の検討: フィジカルアセスメントの導入を試みて. 第25回日本救急医学会総会看護部会, 1997. 11.
- 10) 佐藤憲明, 中佐友美, 岩佐有華, 武石知子, 関口百合子: 脳死患者家族の看護ケア標準モデルの作成: 心理的対処プロセスを基に. 第25回日本救急医学会総会看護部会, 1997. 11.
- 11) 岩佐有華, 佐藤憲明, 中佐友美, 武石知子, 関口百合子: 脳死患者家族への看護ケアの実際: 家族の心理的対処プロセスによる事例研究. 第25回日本救急医学会総会看護部会, 1997. 11.
- 12) 大平雅子, 遠藤晴子, 岩崎由紀子, 菅野京子, 高柳桃子, 小山可子, 飯島淳子, 太田久子, 高野照夫¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学集中治療室): CCUにおけるプライマリー看護婦の家族への援助. 第6回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1997. 12.
- 13) 上原圭子, 竹田秀子, 長谷川幸子: 熱傷の皮膚ケアのアセスメントシートの開発. 第6回日本熱傷学会関東地方会, 1998. 1.

21. 第二病院付置施設等

〔第二病院消化器病センター〕

研究概要

当センターは消化器外科，同内科，内視鏡の各専門分野から構成され，それらが総合的に消化器疾患の診療を行っている。センター設立以来着実に診療実績が伸び，平成9年には旧付属第一病院消化器外科グループが合流し，ますます発展している。平成10年度には馬越部長の定年退職の後を受け森山雄吉教授が新部長として着任した。1) 胆石胆汁の微量元素分析，2) 閉塞性黄疸（切除不能悪性腫瘍）に対する減黄術と化学療法，3) 肝の免疫機能，4) イレウスの病態と治療，5) 大腸癌の検診と集学的治療，6) 消化器疾患の内視鏡的治療，7) 消化器疾患の背景粘膜に対する病理学的・免疫組織化学的検討，8) 電子内視鏡画像処理と病理組織学的所見との比較，9) 感染症，特にMRSA腸炎について，10) 胃・十二指腸疾患とHelicobacter Pylori，11) 腹腔鏡下胆嚢摘出術，12) 胃・十二指腸潰瘍穿孔に対するOmental Implantationの病理組織学的研究，13) 消化管と微量元素および免疫，14) 消化管癌と癌遺伝子，15) 分類不能炎症性大腸炎の内視鏡所見と病態生理，16) Functional dyspepsia，17) ヘパリチナーゼを用いた癌転移の血清学的診断と治療効果判定の臨床応用，18) 胃癌，大腸癌の根治手術と再建の工夫，19) 肝臓，胆嚢，膵臓癌に対する積極的アプローチと再建の工夫，20) 悪性腫瘍の術式とともに腫瘍マーカーあるいはDNAレベルでの悪性度判定，特に遺伝子に関しては大腸癌の肝またはリンパ節転移を規定する分子生物学的因子についての検索的研究，21) 自己血輸血。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Tsunoda S, Ito M, Koyama M, Fukuda T, Inoue N, Sato N, Umakoshi M, Sakurai S¹⁾, Yukawa M²⁾ (1) Otsuma Women's University, 2) National Institute of Radiological Sci.) : A Study of Trace Elements Levels in the Colonic Mucosa Using P.I.X.E. Analysis. Therapeutic Research 1997 ; 12 : 217-221.
- 2) Uchiyama K, Shibuya T, Watanabe Y, Chin K, Tanaka S¹⁾ (1) Second Department of Surgery) : Spigelian Hernia. Nippon Medi Sch 1998 ; 65 (1) : 55-57.
- 3) 小原邦彦，大場英己¹⁾，為我井芳郎¹⁾，渡辺一彦¹⁾，加藤秀和¹⁾ (1) 倭成病院外科) : 術前に確定診断しえたS状結腸子宮内膜症の1例。Progress of Digestive Endoscopy 1997 ; 50 : 296-297.
- 4) 塩谷 猛，窪倉浩俊，鈴木章一，川村一彦¹⁾，内山喜一郎，渋谷哲男，田中茂夫²⁾ (1) 栃木県南総合病院外科，2) 外科学第2講座) : 大腸内視鏡によりS状結腸穿孔をきたした潰瘍性大腸炎患者の1治療例。日本外科系連学会誌 1997 ; 22 : 662-665.
- 5) 的場康徳，片山博徳¹⁾，大網 弘²⁾ (1) 多摩永山病院病理部，2) 観音台クリニック) : 穿孔性酢酸潰瘍における大網の抗炎症作用と創傷治療。Ulcer Research 1997 ; 24 : 77-80.
- 6) 小山雅章，伊藤正秀，田中賢助，角田誠之，重田明子，馬越正通 : 有愁訴患者に対する免疫学的便潜血反応検査実施の意義：フォローアップ症例の結果も併せて。Therapeutic Research 1997 ; 18 (2) : 149-152.
- 7) 重田明子，伊藤正秀，角田誠之，陸川秀智，小山雅章，田中賢助，馬越正通 : 在日ザイール人に見られた胃カボジ肉腫。Progress of Digestive Endoscopy 1997 ; 51 : 170-171.
- 8) 南部弘太郎¹⁾，佐藤薫隆¹⁾，為我井芳郎¹⁾，今井 茂²⁾，内山正一²⁾，渋谷哲男³⁾ (1) 倭成病院外科，2) 東急病院外科，3) 日本医科大学付属第一病院外科) : 10年以上経過した魚骨の横行結腸穿孔による腹腔内炎症性腫瘍の1

例. 日本臨床外科学会雑誌 1998 ; 59 (2) : 423-427.

- 9) 小熊将之, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 天神敏博, 大坂信太郎, 塩谷 猛, 有田 淳, 南部弘太郎, 田中茂夫¹⁾
(¹⁾ 外科学第2講座) : 食道癌手術における自己血輸血の検討. 日本臨床外科学会雑誌 1998 ; 59 (3) : 610-616.

著 書

- 1) 渋谷哲男, 田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 外科学第2講座) : [共著] 生検. ビジュアル外科外来マニュアル, 1997 ; pp92-96, 日本臨床社.
2) 伊藤正秀 : [分担] 高齢者上部消化管内視鏡検査の落とし穴. 消化器内視鏡検査のコツと落とし穴, 1997 ; pp68-69, 中山書店.

学会発表

- (1) 特別講演 :
1) 角田誠之 : 医学分野に於ける3次元画像処理. 大妻女子大学社会情報学部社会情報学講演会, 1997. 6.
- (2) シンポジウム :
1) 馬越正通 : Oncologic emergenciesの診断と治療 : 下部消化管閉塞・穿孔におけるOncologic emergencies. 第29回日本腹部救急医学会総会, 1997. 11.
- (3) ワークショップ :
1) 的場康徳, 内山喜一郎, 原 一郎, 渋谷哲男, 馬越正通, 松林富士男 (¹⁾ プラザ記念病院) : Omental Implantationの成績. 第30回日本腹部救急医学会総会, 1998. 3.
- (4) 一般講演 :
1) Shibuya T, Uchiyama K, Shioya T, Tanaka S, Ishio M¹⁾, Kumazaki T¹⁾ (¹⁾ Department of Radiology) : Indication of expansive metallic stent (EMS) for stenosis in esophageal disease. The 37th World Congress of International Society of Surgery (Acapulco Mexico), 1997. 8.
2) 田中賢助, 伊藤正秀, 角田誠之, 小山雅章, 重田明子, 陸川秀智, 馬越正通 : 出血性直腸炎難治例の内視鏡的臨床的検討. 第3回日中大腸肛門病学会交流会 (北京), 1997. 5.
3) 小山雅章, 伊藤正秀, 角田誠之, 田中賢助, 陸川秀智, 重田明子, 馬越正通 : 消化器病センター外来受診者に対する免疫学的便潜血反応検査実施の臨床的検討. 第3回日中大腸肛門病学会交流会 (北京), 1997. 5.
4) 豊島 明, 伊藤正秀, 田中賢助, 角田誠之, 小山雅章, 陸川秀智, 堀口 実, 吉森 勝, 河西 徹, 斎藤 勉, 福田達也, 井上直己, 馬越正通 : 下血に対するcolonoscopyの臨床的検討. 第3回日中大腸肛門病学会交流会 (北京), 1997. 5.
5) 小峰 修, 内藤英二, 吉野雅則, 水谷 聡, 田崎達也, 原 一郎, 馬越正通 : 当科における急性虫垂炎手術症例の検討. 第29回日本腹部救急医学会総会, 1997. 5.
6) 小熊将之, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 平井恭二, 相田成隆, 有田 淳, 長江 康, 田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 外科学第2講座) : バレット食道腺癌の1切除例. 第51回日本食道疾患研究会, 1997. 6.
7) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 馬越正通 : 消化性潰瘍の背景胃粘膜における異型上皮と*Helicobacter Pylori*, 逆流胆汁酸, 胃粘膜内微量元素との関連. 第64回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 6.
8) 重田明子, 伊藤正秀, 角田誠之, 陸川秀智, 小山雅章, 田中賢助, 馬越正通 : 在日ザイール人に見られた胃カポジ肉腫. 第64回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 6.
9) 小熊将之, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 天神敏博, 大坂信太郎, 有田 淳, 長江 康, 原田智浩, 田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 外科学第二講座) : 消化器外科手術における自己血輸血の検討. 第50回日本消化器外科学会総会, 1997. 7.
10) 小熊将之, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 大坂信太郎, 塩谷 猛, 有田 淳, 田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 外科学第2講座) : 消化器

- 外科手術における自己血輸血の検討。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 11) 角田誠之，伊藤正秀，福田達也，重田明子，小山雅章，馬越正通，桜井四郎¹⁾，湯川雅枝²⁾ (¹⁾ 大妻女子大学社会情報学部， ²⁾ 国立放射線医学総合研究所環境衛生部)：大腸粘膜微量元素の検討：第6報：金属薄膜法によるPIXE分析の応用。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
 - 12) 小山雅章，伊藤正秀，角田誠之，重田明子，田中賢助，陸川秀智，堀口 実，吉森 勝，馬越正通：当センターにおける大腸内視鏡検査の検討 第1報 年齢別にみた疾患構成。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
 - 13) 田中賢助，伊藤正秀，重田明子，陸川秀智，小山雅章，角田誠之，馬越正通：著明な胃カボジ肉腫を伴ったエイズの1例。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
 - 14) 重田明子，伊藤正秀，平野文也，吉野雅則，角田誠之，馬越正通，小山譲治¹⁾ (¹⁾ 小山内科医院)：40年の間隔を以て発症した大腸結核の1症例。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
 - 15) 横井雅一¹⁾，増田純一，鈴木和徳¹⁾，松島 誠¹⁾ (¹⁾ 松島病院)：脊椎麻酔科の肛門良性疾患手術における内臓痛：適切な麻酔レベルについての検討。第52回日本大腸肛門病学会総会，1997. 9.
 - 16) 長谷川信吾¹⁾，田中良明¹⁾，鈴木和徳，松島誠一¹⁾ (¹⁾ 松島病院)：裂肛治療における肛門内圧検査の意義：側方皮下内括約筋切開術の適応についての再考。第52回日本大腸肛門病学会総会，1997. 9.
 - 17) 塩谷 猛，渡辺秀裕，渡辺善正，名取譲治，山本英希，酒井欣男，小熊将之，天神敏博，内山喜一郎，松島伸治，渋谷哲男，田中茂夫¹⁾，山田宣孝²⁾ (¹⁾ 外科学第2講座， ²⁾ 日本医科大学病理部)：痔瘻に合併した顆粒膜細胞腫の1例。第52回日本大腸肛門病学会総会，1997. 10.
 - 18) 小熊将之，松島伸二，渋谷哲男，内山喜一郎，塩谷 猛，有田 淳，相田成隆，長江 康，織井恒安，田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 外科学第2講座)：食道・いわゆる癌肉腫と早期胃癌の同時性重複癌の1切除例。第59回日本臨床外科医学会総会，1997. 11.
 - 19) 原 一郎，的場康徳，渡辺昌則，内藤英二，田崎達也，内山喜一郎，馬越正通：他臓器合併症を有する急性胆嚢炎に対する超音波下経皮経肝胆嚢穿刺吸引法 (PTGBA) の検討。第59回日本臨床外科医学会総会，1997. 11.
 - 20) 渡辺昌則，水谷 聡，栗原雄司，内山喜一郎，原 一郎，馬越正通：術前・術後の集学的治療が奏効した進行食道癌の1切除例。第59回日本臨床外科医学会総会，1997. 11.
 - 21) 栗原雄司，水谷 聡，吉野雅則，内藤英二，渡辺昌則，田崎達也，原 一郎，馬越正通：後腹膜膿瘍を伴った漆喰腎の1例。第59回日本臨床外科医学会総会，1997. 11.
 - 22) 内山喜一郎，渋谷哲男，小熊将之，渡辺秀裕，天神敏博，山本英希，塩谷 猛，渡辺善正，田中茂夫¹⁾，大場英巳 (¹⁾ 外科学第2講座)：TAE治療により6年間経過観察中の両側腎血管筋脂肪腫の1例。第59回日本臨床外科医学会総会，1997. 11.
 - 23) 渋谷哲男，内山喜一郎，渡辺秀裕，塩谷 猛，小熊将之，山本英希，田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 外科学第2講座)：難治性臍液瘻に対し皮下瘻孔空腸吻合術により治癒した1例。第59回日本臨床外科医学会総会，1997. 11.
 - 24) 塩谷 猛，渡辺善正，山本英希，小熊将之，天神敏博，渡辺秀裕，内山喜一郎，松島伸治，渋谷哲男，田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 外科学第2講座)：同時性四重複癌 (食道・大腸) の1治験例。第59回日本臨床外科医学会総会，1997. 11.
 - 25) 豊島 明，伊藤正秀，角田誠之，馬越正通，桜井四郎¹⁾，湯川雅枝²⁾ (¹⁾ 大妻女子大学社会情報学部， ²⁾ 放射線医学総合研究所環境衛生研究部)：消化性潰瘍の背景胃粘膜と*Hericobacter Pylori*，粘膜内Zn濃度，逆流胆汁酸 (TCDC) との関連。第54回日本消化器内視鏡学会総会，1997. 11.
 - 26) 重田明子，伊藤正秀，平野文也，吉野雅則，角田誠之，馬越正通，小山譲治¹⁾ (¹⁾ 小山内科医院)：直腸癌術後吻合部再発との鑑別を要した大腸結核の1例。第15回日本大腸検査学会総会，1997. 11.
 - 27) 南部弘太郎¹⁾，高橋真佐司¹⁾，岩村太郎¹⁾ (¹⁾ 湯河原厚生年金病院外科)：食道平滑筋腫の1例。第90回神奈川臨床外科医学会集談会，1997. 11.

- 28) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 馬越正通, 桜井四郎¹⁾, 湯川雅枝²⁾ (¹⁾ 大妻女子大学社会情報学部, ²⁾ 放射線医学総合研究所環境衛生研究部) : 胃粘膜内*Helicobacter Pylori*との関連からみた病態生理. 第90回神奈川臨床外科医学会集談会, 1997. 11.
- 29) 須山出穂, 伊藤正秀, 小山雅章, 角田誠之, 重田明子, 田中賢助, 陸川秀智, 堀口 実, 吉森 勝, 馬越正通 : 大腸病変における外科手術と内視鏡的治療 : 年齢別にみた疾患構成と外科手術の適応. 第90回神奈川臨床外科医学会集談会, 1997. 11.
- 30) 千原直人, 坊 英樹, 的場康徳, 渡辺昌則, 吉田 宏, 内山喜一郎, 原 一郎, 渋谷哲男, 馬越正通 : 当院における腹腔鏡下胆嚢摘出術の現状. 第90回神奈川臨床外科医学会集談会, 1997. 11.
- 31) 角田誠之, 伊藤正秀, 福田達也, 重田明子, 小山雅章, 馬越正通, 桜井四郎¹⁾, 湯川雅枝²⁾ (¹⁾ 大妻女子大学社会情報学部, ²⁾ 国立放射線医学総合研究所環境衛生部) : 大腸粘膜内微量元素検討 : 第7報 : 金属薄膜法によるPIXE分析の応用. 第15回日本大腸検査学会総会, 1997. 11.
- 32) 角田誠之, 伊藤正秀, 福田達也, 馬越正通, 桜井四郎¹⁾, 松沢みのり¹⁾, 湯川雅枝²⁾ (¹⁾ 大妻女子大学社会情報学部, ²⁾ 国立放射線医学総合研究所環境衛生部) : PIXE法の大腸粘膜内微量元素分析への応用—腺腫と正常粘膜の比較検討—. 第15回PIXEシンポジウム, 1997. 11.
- 33) 小原邦彦, 今井 茂¹⁾, 内山正一¹⁾ (¹⁾ 東急病院) : 腹腔鏡下胆嚢摘出後に認めた肝内血腫の1例. 第59回日本臨床外科学会総会, 1997. 11.
- 34) 原 一郎, 渡辺昌則, 内山喜一郎, 渋谷哲男, 馬越正通, 小坂祥子¹⁾, 寺田秀人²⁾ (¹⁾ 第二病院皮膚科, ²⁾ 第二病院内科) : OK432局注が有効であった肝硬変合併胃癌の1例. 第247回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 12.
- 35) 原 一郎, 千原直人, 渡辺昌則, 吉田 宏, 伊藤正秀, 馬越正通 : 若年性異時性多発性早期胃癌の1例. 第65回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1997. 12.
- 36) 栗原雄司, 渡辺昌則, 廣田 淳, 馬越正通 : 胃癌術後吻合部狭窄に対し化学療法+ステント療法が有効であった1例. 第13回神奈川胃癌治療研究会, 1997. 12.
- 37) 渡辺昌則, 栗原雄司, 内山喜一郎, 原 一郎, 渋谷哲男, 馬越正通, 松本光司¹⁾ (¹⁾ 第二病院病理部) : T細胞型胃悪性リンパ腫の1例. 第13回神奈川胃癌治療研究会, 1997. 12.
- 38) 豊島 明, 増田 亮¹⁾, 古畑善章¹⁾, 田中 勲¹⁾, 井上雅晴¹⁾ (¹⁾ 日本赤十字医療センター外科) : 術前補助療法を行い切除可能となったIIIa期肺小細胞癌の1切除例. 第120回日本肺癌学会関東部会, 1997. 12.
- 39) 原 一郎, 栗原雄司, 渡辺昌則, 馬越正通, 荒井誠一¹⁾, 越谷美由紀¹⁾, 菊地英子¹⁾ (¹⁾ 中央検査室) : 十二指腸球部の巨大なBrunner腺腫の1例. 日本超音波医学会関東甲信越地方会第9回学術集会, 1998. 1.
- 40) 小熊将之, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 大坂信太郎, 塩谷 猛, 有田 淳, 馬越正通 : 消化器癌手術における自己血輸血の検討. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.

[第二病院リハビリテーションセンター]

研究概要

リハビリテーション科では脳外科, 神経内科, 整形外科, 小児科など臨床の各科の患者の治療にあたり, 患者層は多彩であるとともに, スタッフも医師をはじめ理学療法士, 作業療法士, 言語療法士, ソシアルワーカー, 看護婦といわゆるコメディカルとのチーム医療が実践されている. 研究面でもこのことが反映され, 各スタッフがそれぞれ関心ある領域の研究が行われている.

リハ医学の基礎的な分野では主として随意運動の電気生理学的研究が引き続き行われ, またリハビリテーションの科学的・理論的整理を行っている.

理学療法・作業療法分野では高次脳機能障害の臨床的研究および退院後の自立性維持のための家屋環境につき追跡調査を続けながらその問題点等の検討を行っている。言語療法関係では言語の「意味」をめぐる様々な障害について引き続き臨床的な研究を行っている。ソーシャルワーカー分野では障害者の職場復帰等社会的援助について検討を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kitamura J, Kurusu K, Kimura Y, Koga R¹⁾, Hamada M¹⁾ (¹⁾ 東京医療福祉専門学校) : Impairments influencing on deterioration on ADL with Parkinson's disease. International Rehabilitation Medicine Association (IRMA VIII) 1997 ; 1185-1188.
- 2) Kitamura J, Akiyama N, Oya A, Tashima K, Takeuchi T, Terashi A : Bilateral motor cortices are activated preceding voluntary movement of paretic arm in recovered hemiparesis. International Rehabilitation Medicine Association (IRMA VIII) 1997 ; 1561-1564.
- 3) Nakagawa H, Kitamura J, Hashimoto K¹⁾, Takahashi S²⁾ (¹⁾ 日本医大付属第二病院小児科, ²⁾ 関東学院大学工学部) : Body weight distribution at supine position analyzed by a photoelastic method in hemiplegics. International Rehabilitation Medicine Association (IRMA VIII) 1997 ; 739-742.
- 4) 董 文毅, 北村純一, 島田洋一¹⁾, 小川 瀧¹⁾ (¹⁾ 日医大付属第二病院麻酔科) : 腰部硬膜下麻酔中の下腹部手術における体性感覚誘発電位の臨床的応用. 日医大誌 1997 ; 64 : 264-267.
- 5) 北村純一 : 運動関連脳電位とJerk-locked backward averaging 法. 臨床検査 1997 ; 41 : 1399-1401.
- 6) 北村純一, 岩井良成¹⁾, 津村貢太郎¹⁾, 小野重五郎¹⁾, 赫 彰郎 (¹⁾ 川崎幸病院脳外科) : 脳血管障害における脳波と機能予後の関係. 日医大誌 1998 ; 65 : 28-33.

(2) 綜説：

- 1) 竹内孝仁 : 生活を援助する医療への途 (4) 老後を元気に過ごす秘訣 (1) 寝たきりと痴呆の原因を考える. 歯界展望 1997 ; 89 (4) : 844-845.
- 2) 竹内孝仁 : ケアマネジメント, アセスメント, ケアプランの混乱を整理する. 月刊総合ケア 1997 ; 7 (4) : 53-57.
- 3) 竹内孝仁 : 地域リハビリテーションの課題と展望 (2). 戸山サンライズ情報 1997 ; (3) : 2-4.
- 4) 竹内孝仁 : 地域の専門多職種でケアマネジメントを試みて : 平成8年度新潟県ケアマネジメント研修より. 訪問看護と介護 1997 ; 2 (4) : 245-262.
- 5) 竹内孝仁 : 生活を援助する医療への途 (5) 老後を元気に過ごす秘訣 (2) ある働きバチの悲劇. 歯界展望 1997 ; 89 (5) : 1092-1093.
- 6) 竹内孝仁 : 老年者のリハビリテーション : よりよいQOLのために. 老年精神医学雑誌 1997 ; 8 (5) : 532.
- 7) 竹内孝仁 : 生活を援助する医療への途 (6) 老後を元気に過ごす秘訣 (3) ある転居高齢者の例から. 歯界展望 1997 ; 89 (6) : 1352-1353.
- 8) 竹内孝仁 : 生活を援助する医療への途 (7) 老後を元気に過ごす秘訣 (4) 死にいたる都市の病. 歯界展望 1997 ; 90 (1) : 102-103.
- 9) 竹内孝仁 : ケアマネジメントを創造する. 月刊総合ケア 1997 ; 7 (7) : 6-39.
- 10) 竹内孝仁 : 生活を援助する医療への途 (8) 家の病理. 歯界展望 1997 ; 90 (2) : 352-353.
- 11) 竹内孝仁 : 生活を援助する医療への途 (9) トータルに見ると別のものが見える : 体のしくみ (1). 歯界展望 1997 ; 90 (3) : 610-611.

- 12) 竹内孝仁：ケアマネジメントにおけるリハビリテーション。病院 1997；56（9）：799-804.
- 13) 竹内孝仁：生活を援助する医療への途（10）トータルに見ると別のものが見える：体のしくみ（2）。歯界展望 1997；90（4）：854-855.
- 14) 竹内孝仁：リハビリテーションの基礎知識。家庭医学事典 1997；1470-1504.
- 15) 竹内孝仁：生涯教育シリーズ—44 介護保険と高齢者医療 第III章高齢者のリハビリテーション-総論一。日本医師会雑誌臨時増刊 1997；9：234-238.
- 16) 竹内孝仁：ケアマネジメントと要介護認定：今後のよりよいサービスに向けて。月刊総合ケア 1997；7（11）：44-50.
- 17) 竹内孝仁：生活を援助する医療への途（11）トータルに見ると別のものが見える：体のしくみ（3）。歯界展望 1997；90（5）：1116-1117.
- 18) 竹内孝仁：生活を援助する医療への途（12・完）歯科医・歯科衛生士よ立ち上がれ。歯界展望 1997；90（6）：1342-1343.
- 19) 竹内孝仁：ケアマネジメント総論：ケアマネジメントとは：その本質と地域保健・保健婦の役割。保健婦雑誌 1997；53（12）：946-954.
- 20) 来栖宏二：大腿骨顆上骨折に対する逆行性横止め髓内釘（IMSN）の使用経験。関東整形外科 1998；29（1）：37-39.
- 21) 竹内孝仁：いま地域で何が起ころうとしているか。精神看護 1998；1（1）：86-87.
- 22) 竹内孝仁：なぜ在宅医療か。CLINICIAN 1998；45（467）：86-87.
- 23) 竹内孝仁：小脳性運動失調に対する新しい靴型装具の開発：歩行解析による臨床効果の検討。リハビリテーション医学 1998；35（2）：100-105.
- 24) 竹内孝仁：在宅ケアと病院の役割：高齢化社会における病院の役割。神奈川県病院学会誌 1998；18：1-17.
- 25) 竹内孝仁：リハビリテーション医の観点から見た介護サービス。GERONTOLOGY 1998；10（2）：33-37.
- 26) 竹内孝仁：PT・OTと介護保険制度：ケアマネジメントとは。理学療法研究・長野 1998；26：9-15.
- 27) 竹内孝仁：第4回東京都老年学会基調講演「21世紀の高齢者ケアを考える」。東京都高齢者施策推進室 1998；4（4）：7-17.

著 書

- 1) 竹内孝仁，小田兼三：〔共著〕医療福祉シリーズ①医療福祉学の理論。医療福祉シリーズ①医療福祉学の理論，1997；中央法規出版。
- 2) 竹内孝仁：〔自著〕24時間巡回型ホームヘルプサービスに関する調査研究報告書。24時間巡回型ホームヘルプサービスに関する調査研究報告書，1998；（財）特別区協議会調査部資料室。
- 3) 竹内孝仁：〔自著〕特別養護老人ホームにおける自立に向けた介護展開手順引き書（入浴・痴呆編）。特別養護老人ホームにおける自立に向けた介護展開手順引き書（入浴・痴呆編），1998；社会福祉法人全国社会福祉協議会。
- 4) 竹内孝仁：〔自著〕総合福祉センター機能検討委員会報告書。総合福祉センター機能検討委員会報告書，1998；総合福祉センター機能検討委員会。

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 北村純一，岩井良成¹⁾，津村貢太郎¹⁾，小野重五郎¹⁾（¹⁾川崎幸病院脳外科）：急性期病院における脳波の臨床的有効性。第12回生体・生理工学シンポジウム，1997。9。

(2) 一般講演：

- 1) Kitamura J, Shibasaki H, Terashi A, Tashima K : Cortical potentials preceding voluntary finger movement in patients with focal cerebellar lesions. 14th International Congress of EEG and Clinical Neurophysiology (Florence), 1997. 8.
- 2) Kitamura J, Akiyama N, Oya A, Tashima K, Terashi A, Takeuchi T : Bilateral motor cortices are activated preceding voluntary movement of the paretic arm in recovered hemiparesis. The 8th World Congress of the International Rehabilitation Medicine Association (Kyoto), 1997. 9.
- 3) Kitamura J, Kurusu K, Kimura Y, Hamada M¹⁾, Koga R¹⁾ (¹⁾ 東京医療福祉専門学校) : Impairments influencing on deterioration of ADL with Parkinson's disease. The 8th World Congress of the International Rehabilitation Medicine, 1997. 9.
- 4) Nakagawa H¹⁾, Kitamura J, Hashimoto K¹⁾, Takahashi S (¹⁾ 日本医大付属病院小児科) : Body weight distribution at supine position analyzed by a photoelastic method in hemiplegics. The 8th World Congress of the International Rehabilitation Medicine Association, 1997. 9.
- 5) Kitamura J, Kurusu K, Oya A, Terashi A : Long loop reflexes and movement-related cortical potentials in patients with focal cerebellar lesions. The XIV International Symposium of Evoked Potentials (Okazaki, Japan), 1998. 3.
- 6) Kitamura J : V3 components evoked in the cerebral and cerebellar lesions. The XIV International Symposium of Evoked Potentials (Okazaki, Japan), 1998. 3.
- 7) Kurusu K, Kitamura J : Long-latency reflexes evoked in the hand muscles as compared to those in the foot muscles. The XIV International Symposium of Evoked Potentials (Okazaki, Japan), 1998. 3.
- 8) Kurusu K : Long loop reflexes in hand and leg muscles in normal subject. The 6th International Evoked Potential Symposium (Okazaki, Japan), 1998. 3.
- 9) 丸山玲子, 木村義徳, 宮田光明, 榎本雪絵, 井上直子, 矢部きのみ, 竹内孝仁 : 下肢深部静脈血栓症が原因して肺血栓症を繰り返した脳梗塞片麻痺患者の1症例. 第32回理学療法学会, 1997. 5.
- 10) 望月秀樹, 宗近真理子, 榎本雪絵, 木村義徳, 竹内孝仁 : 片麻痺患者の非麻痺側上肢機能について : STEFFを用いての一考察. 第31回作業療法学会, 1997. 6.
- 11) 宗近真理子, 望月秀樹, 新貝尚子, 井上直子, 木村義徳, 竹内孝仁 : 脳血管障害患者の排泄動作訓練における作業療法上の一考察. 第31回作業療法学会, 1997. 6.
- 12) 大矢垂野, 来栖宏二, 北村純一, 竹内孝仁 : リハビリ経過中に多くの合併症を併発したV-Pシャント挿入患者の1症例. 第4回日本リハビリテーション医学会関東地方会, 1997. 12.
- 13) 新貝尚子, 竹内孝仁 : 漢字熟語の読みにおける2つの処理について : 失語症2例にみる漢字の音韻変換課程. 第21回日本失語症学会, 1997. 12.

[第二病院健康管理科]

研究概要

健康管理科では、1) 人間ドック受診者を対象として生活習慣病の診断と予防について、2) 老人健康診査の受診者を対象として現代老人の健康度と生活習慣の関連についての2つを大きな主題として研究をすすめている。

本年度は、1) については生活習慣病の診断精度向上の目的の1つとして、腹部超音波検査による脂肪肝の診断におけるスコア化の導入の有用性につき発表した。また、生活習慣病の予防について人間ドックの面接事後指導が重要であることを報告した。2) については老人健康診査における痴呆テストの有用性につき検討し、現代老人の痴呆への

高い関心度、痴呆および痴呆予備軍と加齢・動脈硬化危険因子との関係につき報告した。また、老年者の肥満診断についてインピーダンス法による体脂肪率測定の意味を肥満度や動脈硬化危険因子の関係から検討し、さらに隠れ肥満（肥満度は正常で体脂肪率が高値）と生活習慣病との関連について報告した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 永井信也，安室尚樹，荒井誠一¹⁾，鈴木久美¹⁾，越谷美由紀¹⁾，山賀節子¹⁾，玉手ひさ子¹⁾，池野廣幸¹⁾，原文男¹⁾，笹井恵子²⁾，中野博司²⁾，大庭建三²⁾，妻鳥昌平²⁾ (1) 第二病院中央検査室，2) 付属病院老人科)：人間ドックにおける脂肪肝の診断：脂肪肝のスコア化を用いて。健康医学 1997；12 (3)：98-102.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 岡崎恭次¹⁾，松浦良樹¹⁾，草野宏和¹⁾，佐藤周三¹⁾，永井信也，安室尚樹，鈴木達也¹⁾，中野博司¹⁾，大庭建三¹⁾，妻鳥昌平¹⁾ (1) 付属病院老人科)：グリベンクラミドの投与方法と血糖日内変動一食事療法単独群との比較からの検討一。第40回日本糖尿病学会年次学術集会，1997. 5.
- 2) 永井信也，安室尚樹，鈴木達也¹⁾，笹井恵子¹⁾，中野博司¹⁾，大庭建三¹⁾，妻鳥昌平¹⁾ (1) 付属病院老人科)：老人健康診査における痴呆テストの意義。第39回日本老年医学会学術集会，1997. 6.
- 3) 平井眞明¹⁾，渡邊威之¹⁾，仲地紀勝¹⁾，安室尚樹，永井信也，大庭建三¹⁾，中野博司¹⁾，妻鳥昌平¹⁾ (1) 付属病院老人科)：老年者糖尿病患者における随時尿の尿中NAG指数とアルブミン指数測定の意味。第39回日本老年医学会学術集会，1997. 6.
- 4) 永井信也，安室尚樹，鈴木達也¹⁾，笹井恵子¹⁾，中野博司¹⁾，大庭建三¹⁾，妻鳥昌平¹⁾ (1) 付属病院老人科)：人間ドック事後指導の評価：生活習慣病について。第38回日本人間ドック学会，1997. 8.
- 5) 永井信也，安室尚樹，鈴木達也¹⁾，笹井恵子¹⁾，中野博司¹⁾，大庭建三¹⁾，妻鳥昌平¹⁾ (1) 付属病院老人科)：老人健診における体脂肪率測定の意味について。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 6) 越谷美由紀¹⁾，菊地英子¹⁾，玉手ひさ子¹⁾，山賀節子¹⁾，鈴木久美¹⁾，荒井誠一¹⁾，池野廣幸¹⁾，原文男¹⁾，安室尚樹，永井信也 (1) 第二病院中央検査室)：人間ドックにおける眼底検査の異常発生頻度。第65回日本医科大学医学会総会，1997. 9.
- 7) 松村典昭¹⁾，岡崎恭次¹⁾，犬塚有紀¹⁾，佐藤周三¹⁾，鈴木達也¹⁾，安室尚樹，中野博司¹⁾，大庭建三¹⁾，妻鳥昌平¹⁾，杉崎祐一²⁾，山田宣孝²⁾ (1) 付属病院老人科，2) 付属病院病理部)：2年間の経過観察後，原発性マクログロブリン血症に移行した1例。第19回老年者造血管器疾患研究会，1997. 11.
- 8) 永井信也，安室尚樹，鈴木達也¹⁾，笹井恵子¹⁾，中野博司¹⁾，大庭建三¹⁾，妻鳥昌平¹⁾ (1) 付属病院老人科)：老人健康診査における隠れ肥満の検出と生活習慣病との関連について。第15回川崎市医師会医学会，1998. 2.

[第二病院病理部]

研究概要

これまでと同様に、外科病理症例の積み重ねによるケース・スタディや診断の難解な症例の免疫組織学的および電子顕微鏡的な検索と言った病院病理学業務に沿った研究が主体である。また、一昨年より導入したパソコンによる診断のデータベース化により、細胞診および組織診の診断精度の向上を図っているが、各臓器別あるいは疾患別のデータ抽出が容易となったため、今後疾患の統計学的な解析を行っていく予定である。スタッフ（医師1名、技師5名）の

少ない当病理部としては、各分野への細分化された研究を十分に行うことは出来ないが、それぞれの得意分野から徐々に研究を発展させてゆきたいと考えている。また、昨年の年報でも述べたが、平成5年より続けている臓器移植の際の保存再灌流障害（肺、肝臓、小腸、心臓）に関する群馬大学との共同研究は、この1年の間に国内外で高い評価を得たが、さらに課題を発展させ継続中である。また、平成7年より慶応大学医学部で行われている生体肝移植症例の臨床病理学的検討に関する共同研究も継続中であるが、症例を積み重ねることにより、さらに詳細な検討を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Matsumoto K, Wen M¹⁾, Yamada N¹⁾, Asano G¹⁾ (1) 病理学第二教室) : Gastrointestinal autonomic nerve tumors : Immunohistochemical and ultrastructural studies in cases of gastrointestinal stromal tumor. *Pathol Int* 1997 ; 47 : 308-314.
- 2) Kobayashi J¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Ohya T¹⁾, Tomizawa N¹⁾, Kamoshita N¹⁾, Iwanami K¹⁾, Morishita Y¹⁾, Matsumoto K, Muramoto M²⁾ (1) 群馬大学第二外科, 2) 藤沢薬品) : The effect of FR167653 in an extended liver resection with ischemia. *Gastroenterol* 1997 ; 112 : 1306.
- 3) Takahashi T¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Koyano T¹⁾, Yamagishi T¹⁾, Ohshima K¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (1) 群馬大学第二外科) : Effect of Lazaroid U-74389G on ischemia-reperfusion injury in canine hearts. *Transplant Proceed* 1998 ; 30 : 56-57.
- 4) 矢野正夫¹⁾, 山田宣孝²⁾, 山本英希¹⁾, 相田成隆¹⁾, 松本光司, 長江 康¹⁾, 小山寿雄¹⁾, 渋谷哲男¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 外科学第二教室, 2) 病理学第二教室) : 画像解析装置を用いた乳癌細胞核異型度の客観的評価と生物学的悪性度との関係. *日外連会誌* 1997 ; 22 : 576-581.
- 5) 竹吉 泉¹⁾, 鴨下憲之¹⁾, 松本光司, 村本正和²⁾, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学第二外科, 2) 藤沢薬品) : 肺の虚血再灌流障害に対するIL-1 β 及びTNF- α 産生障害剤FR167653の有用性. *今日の移植* 1997 ; 11 : 245-247.
- 6) 松本光司, 矢島幹久¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 国立療養所多磨全生園, 2) 病理学第二教室) : ハンセン病の病理：肝臓の病理. *Jpn J Leprosy* 1997 ; 66 : 97-102.
- 7) 大谷喜己¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 飯野祐一¹⁾, 横江隆夫¹⁾, 松本光司, 佐藤 晋²⁾, 村本正和²⁾, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学第二外科, 2) 藤沢薬品) : ラットにおける肺虚血再灌流障害に対するFR167653の効果 (第1報). *日外会誌* 1997 ; 98 : 893.
- 8) 岩波弘太郎¹⁾, 大和田進¹⁾, 小川哲史¹⁾, 小林純哉¹⁾, 川田 清¹⁾, 長谷川豊¹⁾, 飯野佑一¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学第二外科) : イヌ小腸の虚血再灌流障害時における腸管粘膜pHと粘膜の病理組織学的障害との関係について. *日消外会誌* 1997 ; 30 : 1824.
- 9) 小谷野哲也¹⁾, 高橋 徹¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 長谷川豊¹⁾, 佐藤泰史¹⁾, 小林純哉¹⁾, 村上 淳¹⁾, 石川 進¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学第二外科) : TNF- α とIL-1 β 産生阻害剤FR167653の再灌流障害に対する効果：保存心移植実験を通して. *日外会誌* 1997 ; 98 : 795.

(2) 綜説：

- 1) 大塚俊司：日常染色法ガイドンス：結合組織の日常染色：アザン染色. *検査と技術* 1997 ; 25 (11) : 947-950.
- 2) 大塚俊治：日常染色法ガイドンス：結合組織の日常染色：マロリー染色. *検査と技術* 1997 ; 25 (11) : 951-954.
- 3) 平林かおる¹⁾, 松本光司 (1) 獨協医科大学第二病理) : 臨床医のための腎生検診断：腎生検の診断と最新の展開：腎移植. *Modern Physician* 1997 ; 17 : 1454-1458.

学会発表

〔1996年度追加分〕

一般講演：

- 1) 小谷野哲哉¹⁾, 高橋 徹¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 長谷川豊¹⁾, 佐藤泰史¹⁾, 小林純哉¹⁾, 村上 淳¹⁾, 石川 進¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科) : 保存心移植実験におけるTNFとIL-1産生阻害剤FR167653の効果. 第27回日本心臓血管外科学会, 1997. 2.
- 2) 岩波弘太郎¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 鴨下憲和¹⁾, 大和田進¹⁾, 高橋 徹¹⁾, 富沢直樹¹⁾, 小林純哉¹⁾, 長谷川豊¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科) : 肺の虚血再灌流障害に対するIL-1およびTNF α 産生阻害剤FR167653の有用性. 第13回日本心及び心肺移植研究会, 1997. 2.
- 3) 岩波弘太郎¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 小林純哉¹⁾, 鴨下憲和¹⁾, 長谷川豊¹⁾, 斉藤 燈¹⁾, 小川哲史¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科) : 小腸の虚血再灌流障害における腸管粘膜pHモニタリングの有用性. 第49回日本消化器外科学会総会, 1997. 2.

(1) シンポジウム：

- 1) 松本光司, 矢島幹久¹⁾, 山田宣孝²⁾, 浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 多磨全生園, ²⁾ 病理学第二教室) : ハンセン病の病理：肝臓の病理. 第70回日本ハンセン病学会総会, 1997. 5.

(2) 一般講演：

- 1) Kobayashi J¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Ohya T¹⁾, Tomizawa N¹⁾, Kamoshita N¹⁾, Iwanami K¹⁾, Morishita Y¹⁾, Matsumoto K, Muramoto M²⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科, ²⁾ 藤沢薬品) : The effect of FR167653 in an extended liver resection with ischemia. American Gastroenterological Association (AASLD), 1997. 5.
- 2) Takeyoshi I¹⁾, Iwanami K¹⁾, Ohwada S¹⁾, Takahashi T¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Kamoshita N¹⁾, Ohya T¹⁾, Ogawa T¹⁾, Yokoe T¹⁾, Iino Y¹⁾, Morishita Y¹⁾, Matsumoto K (¹⁾ 群馬大学第二外科) : The effect of Lazaroid U-74389G on lung ischemia-reperfusion injury. The 5th Congress of the Asian Society of Transplantation, 1997. 12.
- 3) Takeyoshi I¹⁾, Kamoshita N¹⁾, Ohwada S¹⁾, Takahashi T¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Iwanami K¹⁾, Tomizawa N¹⁾, Ohtani Y¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Ogawa T¹⁾, Iino Y¹⁾, Yokoe T¹⁾, Matsumoto K, Muramoto M²⁾, Satoh S²⁾, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科, ²⁾ 藤沢薬品) : FR167653 ameliorates pulmonary ischemia-reperfusion in dogs. The 5th Congress of the Asian Society of Transplantation, 1997. 12.
- 4) Kobayashi J¹⁾, Ohwada S¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohya T¹⁾, Tomizawa N¹⁾, Kamoshita N¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科) : Normothermic perfusion using diluted blood ameliorates ischemia-reperfusion injury on the canine liver. The 5th Congress of the Asian Society of Transplantation, 1997. 12.
- 5) Iwanami K¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Ogawa T¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Kawata K¹⁾, Iino Y¹⁾, Yokoe T¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科) : The Effect of Lazaroid U-74389G on Prolonged Hepatic Ischemia-Reperfusion Injury. The 5th Congress of the Asian Society of Transplantation, 1997. 12.
- 6) Iwanami K¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Ohwada S¹⁾, Kobayashi J¹⁾, Kawashima Y¹⁾, Ogawa T¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Kawata K¹⁾, Aiba M¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科) : The relationship between intramucosal pH and histological damage of intestinal mucosa in ischemia-reperfusion injury. The 5th Congress of the Asian Society of Transplantation, 1997. 12.
- 7) Koyano T¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Takahashi T¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Satoh Y¹⁾, Ishikawa S¹⁾, Matsumoto K, Muramoto M²⁾, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科, ²⁾ 藤沢薬品) : Effect of FR167653 on ischemia-

- reperfusion injury of the canine heart : Ultrastructural study. The 5th Congress of the Asian Society of Transplantation, 1997. 12.
- 8) Ohtani Y¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Yokoe T¹⁾, Iino Y¹⁾, Matsumoto K, Muramoto M²⁾, Satoh S²⁾, Morishita Y¹⁾
(¹⁾ 群馬大学第二外科, ²⁾ 藤沢薬品) : The effect of FR167653 on pulmonary ischemia-reperfusion injury in rats. The 5th Congress of the Asian Society of Transplantation, 1997. 12.
 - 9) Takahashi T¹⁾, Takeyoshi I¹⁾, Hasegawa Y¹⁾, Koyano T¹⁾, Yamagishi T¹⁾, Ohshima K¹⁾, Ishikawa S¹⁾, Ohtaki A¹⁾, Matsumoto K, Morishita Y¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科) : The effect of Lazaroid U-74389G on cardiac ischemia-reperfusion injury in dogs. The 5th Congress of Asian Society of Transplantation, 1997. 12.
 - 10) 小林純哉¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 大谷敏裕¹⁾, 富沢直樹¹⁾, 鴨下憲和¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 佐藤泰史¹⁾, 長谷川豊¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科) : 血行遮断を伴う拡大肝切除におけるFR167653の有用性. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
 - 11) 岩波弘太郎¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 小林純哉¹⁾, 長谷川豊¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科) : 血行遮断を伴う拡大肝切除におけるLazaroid U-74389Gの効果. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
 - 12) 竹吉 泉¹⁾, 鴨下憲和¹⁾, 大和田進¹⁾, 高橋 徹¹⁾, 富沢直樹¹⁾, 小林純哉¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 佐藤泰史¹⁾, 長谷川豊¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科) : 肺の虚血再灌流障害に対するIL-1 β およびTNF α 産生阻害剤FR167653の有用性. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
 - 13) 小林純哉¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 大矢敏裕¹⁾, 富沢直樹¹⁾, 鴨下憲和¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 佐藤泰史¹⁾, 長谷川豊¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科) : 血行遮断を伴う拡大肝切除におけるFR167653の有用性. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
 - 14) 山本聖一郎¹⁾, 田辺 稔¹⁾, 若林 剛¹⁾, 島津元秀¹⁾, 松本光司, 向井万起男²⁾, 北島政樹¹⁾ (¹⁾ 慶応大学医学部外科, ²⁾ 慶応大学医学部病理診断部) : ラット小腸移植後の微小循環障害と炎症性サイトカインの意義. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
 - 15) 田辺 稔¹⁾, 島津元秀¹⁾, 山本聖一郎¹⁾, 若林 剛¹⁾, 松本光司, 向井万起男²⁾, 菊池 潔¹⁾, 北島政樹¹⁾ (¹⁾ 慶応大学医学部外科, ²⁾ 慶応大学医学部病理診断部) : ラット保存肝の移植におけるPAF antagonist (TCV-309)の効果. 第97回日本外科学会総会, 1997. 4.
 - 16) 小谷野哲也¹⁾, 高橋 徹¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 長谷川豊¹⁾, 佐藤泰史¹⁾, 石川 進¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科) : 保存心移植実験におけるにおけるTNFとIL-1産生阻害剤FR167653の効果. 第4回日本臓器保存生物医学会総会, 1997. 5.
 - 17) 岩波弘太郎¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 小林純哉¹⁾, 川島吉之¹⁾, 小川哲史¹⁾, 大矢敏裕¹⁾, 斉藤 燈¹⁾, 川島健司¹⁾, 岡野孝雄¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科) : 肝温阻血再灌流障害に対するFR167653の効果. 第4回日本臓器保存生物医学会総会, 1997. 5.
 - 18) 斉藤良明, 太田吉男, 大庭孝男, 松本光司, 川並汪一¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所病理) : 背部軟部組織に出現した悪性黒色腫の1例. 第38回日本臨床細胞学会総会, 1997. 5.
 - 19) 松本光司, 太田吉男, 大庭孝男, 斉藤良明, 川並汪一¹⁾, 相田昌子²⁾, 山田宣孝³⁾ (¹⁾ 老人病研究所病理, ²⁾ 第一病院病理部, ³⁾ 病理学第二教室) : 術中捺印細胞診が有効であった高度の炎症を伴うrenal cell carcinomaの1例. 第38回日本臨床細胞学会総会, 1997. 5.
 - 20) 塚田克也¹⁾, 松島 隆¹⁾, 松本光司, 川並汪一²⁾ (¹⁾ 第二病院産婦人科, ²⁾ 老人病研究所病理) : 卵管原発の成熟奇形腫の1例. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
 - 21) 平田知己¹⁾, 久吉隆郎¹⁾, 日置正文¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 織井恒安¹⁾, 山下康夫¹⁾, 平野滋之¹⁾, 増田 栄¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 家所良夫¹⁾, 佐藤雅史²⁾, 松本光司, 川並汪一³⁾, 田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 外科学第二, ²⁾ 放射線科, ³⁾ 老人病研究所

- 病理)：内視鏡的切除を施行した気管支炎内過誤腫の1例。第102回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1997。6。
- 22) 岩波弘太郎¹⁾，竹吉 泉¹⁾，大和田進¹⁾，小林純哉¹⁾，川島吉之¹⁾，小川哲史¹⁾，川田 清¹⁾，餐場正明¹⁾，松本光司¹⁾，森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科)：血行遮断を伴う拡大肝切除におけるLazaroid U-74389Gの効果について。第50回日本消化器外科学会総会，1997。7。
- 23) 川田 清¹⁾，竹吉 泉¹⁾，大和田進¹⁾，岩波弘太郎¹⁾，小林純哉¹⁾，川島吉之¹⁾，小川哲史¹⁾，餐場正明¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科)：小腸の虚血再灌流障害に対するFR167653の有用性。第50回日本消化器外科学会，1997。7。
- 24) 岩波弘太郎¹⁾，竹吉 泉¹⁾，大和田進¹⁾，小林純哉¹⁾，川島吉之¹⁾，小川哲史¹⁾，大矢敏裕¹⁾，斉藤 燈¹⁾，川島健司¹⁾，岡野孝雄¹⁾，川田 清¹⁾，餐場正明¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科)：小腸の虚血再灌流障害に対するIL-1 β およびTNF α 産生阻害剤であるFR167653の有用性。第33回日本移植学会総会，1997。9。
- 25) 大庭孝男，太田吉男，斉藤良明，松本光司：細胞診にて非上皮系悪性腫瘍の疑われた炎症性疾患の2例。第65回日本医科大学医学会総会，1997。9。
- 26) 金 恩京¹⁾，モハマッドガジザデ¹⁾，川並汪一¹⁾，新井 悟³⁾，松本光司，武村民子²⁾，大秋美治³⁾ (¹⁾ 老人病研究所病理，²⁾ 日赤医療センター病理部，³⁾ 千葉北総病院病理部)：細気管支肺胞上皮癌の組織化学的特徴—正常肺胞上皮との対比。第65回日本医科大学医学会総会，1997。9。
- 27) 久吉隆郎¹⁾，平田知己¹⁾，三嶋拓也¹⁾，川村 純¹⁾，山岸茂樹¹⁾，山下康夫¹⁾，平野滋之¹⁾，増田 栄¹⁾，家所良夫¹⁾，日置正文¹⁾，佐藤雅史²⁾，松本光司，川並汪一³⁾，田中茂夫¹⁾ (¹⁾ 外科学第二，²⁾ 放射線科，³⁾ 老人病研究所病理)：肺リンパ系増殖性疾患症例の検討。第65回日本医科大学医学会総会，1997。9。
- 28) 岩波弘太郎¹⁾，竹吉 泉¹⁾，大和田進¹⁾，小林純哉¹⁾，川島吉之¹⁾，小川哲史¹⁾，大矢敏裕¹⁾，斉藤 燈¹⁾，川島健司¹⁾，岡野孝雄¹⁾，川田 清¹⁾，餐場正明¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科)：小腸虚血再灌流障害に対するIL-1 β およびTNF α 産生阻害剤であるFR167653の有用性。第33回日本移植学会総会，1997。9。
- 29) 大谷嘉己¹⁾，竹吉 泉¹⁾，森下靖雄¹⁾，松本光司，佐藤 晋²⁾，村本正和²⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科，²⁾ 藤沢薬品)：ラットの肺虚血再灌流障害に対するFR167653の効果。第33回日本移植学会総会，1997。9。
- 30) 高橋 徹¹⁾，竹吉 泉¹⁾，長谷川豊¹⁾，小谷野哲也¹⁾，山岸敏治¹⁾，大嶋清宏¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科)：虚血再灌流障害に対するLazaroid U-74389Gの有効性：保存心移植を通しての評価。第33回日本移植学会総会，1997。9。
- 31) 竹吉 泉¹⁾，岩波弘太郎¹⁾，大和田進¹⁾，鴨下憲和¹⁾，小林純哉¹⁾，川島吉之¹⁾，高橋 徹¹⁾，富沢直樹¹⁾，長谷川豊¹⁾，小川哲史¹⁾，大矢敏裕¹⁾，川島健司¹⁾，斉藤 燈¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科)：肺の虚血再灌流障害に対するLazaroid U-74389Gの有用性。第33回日本移植学会総会，1997。9。
- 32) 高橋 徹¹⁾，竹吉 泉¹⁾，長谷川豊¹⁾，小谷野哲也¹⁾，山岸敏治¹⁾，大嶋清宏¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科)：虚血再灌流障害に対するLazaroid U-74389Gの有効性：保存心移植を通しての評価。第33回日本移植学会総会，1997。9。
- 33) 餐場正明¹⁾，大和田進¹⁾，竹吉 泉¹⁾，小林純哉¹⁾，大矢敏裕¹⁾，岩波弘太郎¹⁾，川島吉之¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科)：肝切除における低体温・常温血液灌流の試み。第44回日本低体温研究会，1997。10。
- 34) 川田 清¹⁾，竹吉 泉¹⁾，大和田進¹⁾，岩波弘太郎¹⁾，小林純哉¹⁾，川島吉之¹⁾，小川哲史¹⁾，餐場正明¹⁾，横江隆夫¹⁾，飯野裕一¹⁾，松本光司，森下靖雄¹⁾ (¹⁾ 群馬大学第二外科)：小腸の虚血再灌流障害に対するIL-1 β 及びTNF α 産生阻害剤であるFR167653の有用性。第25回日本救急医学会，1997。11。
- 35) 渡辺昌則¹⁾，栗原雄司¹⁾，内山喜一郎¹⁾，原 一郎¹⁾，渋谷哲男¹⁾，馬越正道¹⁾，松本光司 (¹⁾ 第二病院消化器センター)：T細胞型胃悪性リンパ腫の1例。第13回神奈川胃癌治療研究会，1997。12。
- 36) 森瀬景子¹⁾，中村俊彦¹⁾，山口朋貞¹⁾，立石淳一¹⁾，櫛方美文¹⁾，寺田秀人¹⁾，村澤恒男¹⁾，原文男¹⁾，松本光司，

伊東文行²⁾ (1) 第二病院内科, 2) 第二病院皮膚科): 肝細胞癌治療中に大腿上部外側に巨大な腫瘍形成をみた悪性リンパ腫の1例. 第460回日本内科学会関東地方会, 1997. 12.

- 37) 餐場正明¹⁾, 竹吉 泉¹⁾, 大和田進¹⁾, 川島吉之¹⁾, 小林純哉¹⁾, 岩波弘太郎¹⁾, 須納瀬豊¹⁾, 山田達也¹⁾, 堤 裕史¹⁾, 川田 清¹⁾, 松本光司, 森下靖雄¹⁾ (1) 群馬大学第二外科): 血行遮断を伴う拡大肝切除におけるFR167653の効果および投与時間の検討. 第51回日本消化器外科学会総会, 1998. 2.

[第二病院中央検査室]

研究概要

当検査室における研究の主な目的は, 臨床検査学の発展に伴う各種検査の精度管理, 検査方法および迅速性について, 日常, 臨床との関連と意義を考察し, 日々の検査をみつめ検査の質の向上と確立に主眼をおいている.

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著:

- 1) 永井信也¹⁾, 安室尚樹¹⁾, 荒井誠一, 鈴木久美, 越谷美由紀, 山賀節子, 玉手ひさ子, 池野廣幸, 原文男, 笹井恵子²⁾, 中野博司²⁾, 大庭健三²⁾, 妻鳥昌平²⁾ (1) 第二病院健康管理科, 2) 付属病院老人科): 人間ドックにおける脂肪肝の診断: 脂肪肝スコア化を用いて. 健康医学 1997; 12 (3): 98-102.

(1) 原著:

- 1) 小伊藤保雄, 池野廣幸, 原文男: 全自動EIAドライシステムID-1000によるCRP測定試薬の評価と有用性. 臨床検査機器・試薬 1997; 20 (6): 823-828.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 新潟明子, 大竹佳世子, 成定昌昭, 菊池英子, 池野廣幸, 原文男: 低蛋白尿における蛋白分画検査: 第1報: 銀染色を試みて. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 2) 越谷美由紀, 菊池英子, 玉手ひさ子, 山賀節子, 鈴木久美, 荒井誠一, 池野廣幸, 原文男, 安室尚樹¹⁾, 永井信也¹⁾ (1) 第二病院健康管理科): 人間ドックにおける眼底検査の異常発生頻度. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 3) 畑 哲, 小伊藤保雄, 吉田美和, 渡部紀子, 菅原 通, 池野廣幸, 原文男: 全自動 EIA装置OLYDAS-120の基礎的検討: 第1報: TSH.FT3.FT4. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 4) 小伊藤保雄, 畑 哲, 吉田美和, 渡部紀子, 菅原 通, 池野廣幸, 原文男: 全自動EIA装置OLYDAS-120の基礎的検討: 第2報: ペプシノゲンI.II. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 5) 鈴木憲康, 坂倉剛志, 菅原 通, 池野廣幸, 原文男: 当院における下痢原性大腸菌の検出状況と毒素産生性. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 6) 田村朋美, 井梅和美, 井上雅則, 隠岐和美, 野本恵子, 池野廣幸, 原文男: 当院で検出されたPartialDの1症例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 7) 田中久美, 吉岡美香, 中島由美子, 津金香代子, 野本恵子, 池野廣幸, 原文男: 検体保存条件による血液凝固検査の影響. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.

- 8) 坂倉剛志, 鈴木憲康, 菅原 通, 池野廣幸, 原 文男: 当検査室におけるMRSAの分離状況: 第2報: 院内MRSAレポートより. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 9) 菅原 通, 池野廣幸, 鈴木憲康, 坂倉剛志, 原 文男, 小坂好男¹⁾, 菊池有道¹⁾, 島田洋一²⁾ (1) 第二病院薬剤科, ²⁾ 同麻酔科): 調剤業務における空中微粒子と問題点. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 10) 小伊藤保雄, 池野廣幸, 原 文男: 全自動EIAドライシステムID-1000を用いたCRP測定の基礎的検討. 日本臨床検査自動化学会第29回大会, 1997. 9.

[第二病院薬剤科]

研究概要

保健医療の中において「適正な薬物療法の実践」が叫ばれている。高齢者社会で我々薬剤師が担う業務として、患者に正しい薬の理解と納得が得られることではないだろうか。「患者QOLへの薬剤師の関わり」というディスクリージャーの時代でもあり、本来の学問的研究に加え、今年は「外来患者へ提供している薬剤情報が正しく伝わっているか、正しく伝えるために何をすべきか」に重点を置いた研究を行った。これによりいくつもの原稿依頼があったことは、時代に即した結果であろう。

さらなる「適正な薬物療法の実践」のため、薬剤師としてのテーマを追い続けるつもりである。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 若城由美子, 熊谷真理, 小坂好男, 島田慰彦, 菊池有道: 患者QOLへの薬剤師の関わり (第II報). 第7回日本病院薬学会年会, 1997. 9.

(2) 公開講座:

- 1) 島田慰彦: 薬の知識①—知って安心・聞いて安心. 日本医科大学公開講座, 1997. 10.
- 2) 小坂好男: 薬の知識②—知って安心・聞いて安心. 日本医科大学公開講座, 1997. 10.
- 3) 島田慰彦: 老人と薬. 湯河原町民大学公開講座, 1998. 3.

22. 多摩永山病院付置施設等

[多摩永山病院病理部]

研究概要

組織培養, 免疫組織化学, 電子顕微鏡部門が充実し, 病理学教室から大学院生が病理部に配属され, また臨床医の病理部での研究も行われるようになり, さらにタイ国病理学者の留学も今年で4年目となり, 研究部門もさらに充実してきた。

現在の主な研究テーマは以下のとおりである。

1) 乳腺腫瘍

1. 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立
2. 乳癌におけるホルモンレセプターと細胞骨格および接着因子の関係について
3. 転移性乳癌の臨床病理学的研究 (特に接着因子と基底膜分解酵素について)

2) 骨軟部腫瘍

1. 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用)
2. 骨肉腫の鑑別診断に対するオステオカルチン, オステオネクチン, コラーゲンIの有用性について

3) 子宮癌

1. 子宮頸癌の深達度と細胞内骨格, 接着因子の関係について
 2. 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立 (免疫組織化学, 電顕的検索の併用): 特にセルブロック法。
- ##### 4) リンパ節病変
1. リンパ節病変の迅速診断法の検索, 免疫細胞学的アプローチ
 2. リンパ節病変の分子生物学的検索 (特にウイルスとの関連病態)
- ##### 5) 体腔液の細胞診断法の確立 (免疫組織化学的, 電顕的検索の併用): 特にセルブロック法

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著:

- 1) 前田昭太郎, 森山昌樹¹⁾, 浅野伍朗¹⁾ (1) 病理学第2): 小唾液腺のPlasmacytoid pleomorphic adenoma (plasmacytoid myoepithelioma) の1例. 病院病理 1997; 15 (1): 55.

(1) 原著:

- 1) 細根 勝, 佐藤雅史¹⁾, 高間都支¹⁾, 久吉隆郎²⁾, 前田昭太郎, 浅野伍朗³⁾ (1) 第二病院放射線科, 2) 第二病院外科, 3) 病理学第2): 胸部の悪性リンパ腫: 病理学的特徴と画像診断. 臨床画像 1997; 13 (5): 530-542.
- 2) 吉田 寛¹⁾, 江上 格¹⁾, 和田雅世¹⁾, 前田昭太郎, 田中宣威²⁾, 恩田雅彦¹⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 付属病院外科): 直腸悪性神経鞘腫の1例. 日本消化器外科学会雑誌 1997; 30 (7): 1809-1813.
- 3) 竹田幸代¹⁾, 村上由加里¹⁾, 飛田正俊¹⁾, 岡部俊成¹⁾, 向後俊昭¹⁾, 細根 勝, 前田昭太郎 (1) 多摩永山病院小児科): 慢性活動性EBV感染症経過中に発症しHemophagocytic syndrome を呈したPeripheral T cell lymphoma の1幼児例. 小児感染免疫 1997; 9 (3.4): 275-280.
- 4) 谷合信彦¹⁾, 江上 格¹⁾, 岡崎滋樹¹⁾, 和田雅世¹⁾, 横室茂樹¹⁾, 吉岡正智¹⁾, 前田昭太郎, 細根 勝, 恩田昌彦²⁾

(1) 多摩永山病院外科, 2) 付属病院第1外科): 胆嚢炎で発症した胆嚢原発平滑筋肉腫の1切除例. 日消外会誌 1998; 31 (3): 870-874.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演:

- 1) 角田 隆¹⁾, 白井康正¹⁾, 北川泰之¹⁾, 丸山晴久¹⁾, 前田昭太郎 (1) 整形外科): 坐骨神経原発と考えられる脂肪肉腫の1例. 第33回関東整形災害外科学会, 1996. 11.

(1) 特別講演:

- 1) Maeda S: Rapid diagnosis for breast tumors. Siriraj Hospital, Mahidol University, Bangkok, Thailand (Thailand), 1997. 8.
- 2) 細根 勝: 肺のリンパ腫の病理とREAL分類: 基礎編. 第18回胸部放射線研究会東京部会, 1997. 12.

(2) 招待講演:

- 1) Asano G, Maeda S, Katayama H: Biological Roles of Vascular Endothelial cells in Various Pathological Processes. Symposium in Thailand, Chiang Mai (Thailand), 1998. 3.

(3) 教育講演:

- 1) 前田昭太郎: 呼吸器, 中枢神経系の細胞診. 日本病理学会教育委員会主催細胞診講習会, 1997. 6.
- 2) 前田昭太郎: 病理医のための細胞診: 組織と細胞診. 日本病理医協会関東支部総会, 1998. 1.
- 3) 細根 勝: 病理医のための細胞診: リンパ節. 日本病理医協会関東支部総会, 1998. 1.

(4) シンポジウム:

- 1) Maeda S, Hosone M, Katayama H, Egami K¹⁾ (1) Department of Surgery, Tama-Nagayama Hospital): Rapid diagnosis for breast tumor by fine needle aspiration cytology in the outpatient clinic: Interesting Topics in FNA Cytology for Breast, Thyroid, lung, Liver, Neuroendocrine and Brain Tumors. 5th Congress Asia Pacific Association of Societies of Pathologists (Thailand), 1997. 12.

(5) 一般講演:

- 1) Maruyama H, Maeda S, Asano G: Immunohistochemical localization of osteocalcin, osteonectin and type I collagen in osteosarcoma. 5th Congress Asia Pacific Association of Societies of Pathologists (Thailand), 1997. 12.
- 2) Katayama H, Maeda S, Hosone M: Application of simple cell block method for endometrial cytology. 5th Congress Asia Pacific Association of Societies of Pathologists (Thailand), 1997. 12.
- 3) 丸山晴久, 細根 勝, 森 修, 前田昭太郎: Spinal cord に発生した small round cell sarcoma の1例. 第69回東京脳腫瘍研究会, 1997. 4.
- 4) 磯部宏昭, 前田昭太郎, 片山博徳, 柳田裕美, 日吾美栄子, 阿部久美子, 藤田逸郎¹⁾, 源河敦史¹⁾, 江上 格¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 多摩永山病院外科, 2) 病理学第2): Epithlioid leiomyosarcoma の3例. 第38回日本臨床細胞学会総会, 1997. 5.
- 5) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 磯部宏昭, 柳田裕美, 阿部久美子, 日吾美栄子, 原 博, 河原 清¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 多摩永山病院脳神経外科, 2) 病理学第2): 術中迅速診断が有用であった Glioblastoma (Gemistocytic type) の1例: 免疫染色併用. 第38回日本臨床細胞学会総会, 1997. 5.
- 6) 三枝順子¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 清水秀樹¹⁾, 早澤久美¹⁾, 安藤 哲¹⁾, 森 修¹⁾, 大秋美治¹⁾, 小林士郎²⁾, 前田昭太郎, 浅野伍朗³⁾ (1) 千葉北総病院病理部, 2) 千葉北総病院脳神経外科, 3) 病理学第2): Secretory meningioma

の細胞像。第38回日本臨床細胞学会総会，1997. 5.

- 7) 清水秀樹¹⁾，小黒辰夫¹⁾，早澤久美¹⁾，三枝順子¹⁾，安藤 哲¹⁾，森 修¹⁾，大秋美治¹⁾，前田昭太郎，浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院病理部，²⁾ 病理学第2)：酵素抗体法 (AEC発色) 脱色後のパパニコロウ染色の検討：細胞集塊と細胞質抗原について。第38回日本臨床細胞学会総会，1997. 5.
- 8) 松原美幸¹⁾，横山宗伯²⁾，渡会泰彦¹⁾，杉崎祐一¹⁾，丸山晴久²⁾，前田昭太郎 (¹⁾ 付属病院病理部，²⁾ 病理学第2)：Small cell osteosarcoma の1例：鑑別診断を中心に。第38回日本臨床細胞学会総会，1997. 5.
- 9) 細根 勝，片山博徳，前田昭太郎，浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 病理学第2)：悪性リンパ腫の新病理分類：REAL分類について。日本医科大学医学会第92回例会，1997. 5.
- 10) 丸山晴久¹⁾，白井康正¹⁾，前田昭太郎，細根 勝，片山博徳，勝山 努²⁾，浅野伍朗³⁾ (¹⁾ 整形外科，²⁾ 信州大学中央検査部，³⁾ 病理学第2)：骨肉腫の免疫組織学的検討。第86回日本病理学会総会，1997. 6.
- 11) 細根 勝，前田昭太郎，片山博徳，江上 格¹⁾，会田邦晴¹⁾，長江 康²⁾，浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科，²⁾ 病理学第2)：胃巨大皺襞症をきたしたmantle cell lymphomaの1例。第86回日本病理学会総会，1997. 6.
- 12) 丸山晴久，白井康正¹⁾，前田昭太郎，角田 隆¹⁾，北川泰之¹⁾，杉崎祐一²⁾，浅野伍朗³⁾ (¹⁾ 整形外科，²⁾ 付属病院病理部，³⁾ 病理学第2)：原発性骨腫瘍におけるosteocalcin, osteonectin, I型コラーゲンの局在のついて (第2報)。第30回日本整形外科学会，1997. 6.
- 13) 高野雅彦¹⁾，白井康正¹⁾，渡辺 誠¹⁾，肥沼正明¹⁾，丸山晴久¹⁾，前田昭太郎 (¹⁾ 整形外科)：胸髄に発生した未分化神経外胚葉性腫瘍の1例。第584回整形外科集談会東京地方会，1997. 10.
- 14) 細根 勝，前田昭太郎，浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 病理学第2)：Bowenoid papulosisと考えられる1例。第8回日本病理医協会関東支部会，1997. 10.
- 15) 古谷能祥¹⁾，山田和昭¹⁾，前田昭太郎 (¹⁾ 国立病院東京災害医療センター臨床検査科)：髄液細胞診にて診断に苦慮した脳原発悪性黒色腫の1例。第36回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会，1997. 11.
- 16) 細根 勝，前田昭太郎，片山博徳，磯部宏昭，浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 病理学第2)：捺印細胞診が極めて有用であったaggressive NK-cell lymphomaと考えられる1例。第36回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会，1997. 11.
- 17) 藤田千歳¹⁾，白田忠男¹⁾，長尾 緑¹⁾，大嶋美子¹⁾，猪狩優子¹⁾，鈴木茂一¹⁾，矢野 侃¹⁾，前田昭太郎 (¹⁾ 荒川区がん予防センター)：当センターにおける検診の特色とその実績について。第5回日本がん検診・診断学会総会，1997. 12.
- 18) 細根 勝，前田昭太郎，澤田名美枝，片山博徳，磯部宏昭，浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 病理学第2)：リンパ節穿刺吸引細胞診の最近の進歩。日本医科大学医学会第94回例会，1998. 2.

[多摩永山病院中央検査室]

研究概要

当検査室における研究の主な目的は，臨床検査学の研究のなかで新しい検査法及び検査技術を検討し，その臨床的意義とその応用を主な目的としている。

また，臨床検査全体の精度管理，検査方法及び迅速測定を実践し，各種検査における臨床との関連と意義を考察しつつ，検査の質の向上と検査測定法の確立に主眼をおいている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 柴田明佳，田所久子，佐藤知枝，飯野幸永，鈴木 健：酵母様真菌分離培地CHROMagar Candidaの有用性の

学会発表

(1) 教育講演:

1) 飯野幸永: チーム医療における検査の役割. 第44回私立医科大学病院中央検査部技師長会研修会, 1997. 10.

(2) 一般講演:

- 1) 鈴木摩理, 河村理馨子, 手嶋浩恵, 久保田稔, 佐藤寛之, 飯野幸永, 鈴木 健: パルスジェネレーター組み込み型ホルター心電計を用いた身体活動の定量性. 第46回日本臨床衛生検査学会, 1997. 5.
- 2) 山中博之¹⁾, 名知仁子¹⁾, 鈴木 健¹⁾, 長澤紘一¹⁾, 鈴木摩理, 佐藤寛之, 飯野幸永 (¹⁾ 多摩永山病院内科): パルスジェネレーター組み込み型ホルター心電計の臨床応用: 慢性心房細動例における心拍コントロール治療の評価. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 3) 千葉逸子, 浅井信治, 井上 淳, 福田節子, 飯野幸永, 鈴木 健: 日立7150型分析装置によるSAAラテックス試薬の検討. 第46回日本臨床衛生検査学会, 1997. 5.
- 4) 柴田明佳, 田所久子, 佐藤知枝, 飯野幸永, 鈴木 健: 新しい細菌検査システムの有用性 (第1報) Auto Sceptor Systemについて. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 5) 田所久子, 柴田明佳, 佐藤知枝, 飯野幸永, 鈴木 健: 新しい細菌検査システムの有用性 (第2報) Micro Scan Walk Awayについて. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 6) 鈴木摩理, 河村理馨子, 手嶋浩恵, 久保田稔, 佐藤寛之, 飯野幸永, 鈴木 健: パルスジェネレーター組み込み型ホルター心電計による身体活動の評価: パルス発生プロトコル変更の影響. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 7) 井口輝彦, 鈴木純子, 恩田怜子, 飯野幸永, 鈴木 健: 寒冷凝集素吸収試薬 (REST) で吸収しきれなかった抗HIの1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 8) 藤木直美, 小林利恵子, 千葉逸子, 浅井信治, 相沢 正, 井上 淳, 福田節子, 飯野幸永, 鈴木 健: 特異IgE, 総IgE自動測定装置「LUMIWARDイムノアクセスシステム」と「アレルギー自動検査測定装置ユニキャップ100」の基礎的検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 9) 中澤 宏, 山本泰与, 坂爪百合子, 西島美輝子, 飯野幸永, 鈴木 健: 多項目自動血球計数装置K-4500の基礎的検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 10) 中澤 宏, 山本泰与, 坂爪百合子, 西島美輝子, 飯野幸永, 鈴木 健: 多項目自動血球計数装置E-4000において偽性白血球減少を呈した白血球凝集の1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 11) 飯野幸永, 村田正弘¹⁾, 柏木邦彦²⁾, 本間妙子³⁾, 福岡イツ子³⁾, 野口 素³⁾, 須崎伸一郎⁴⁾, 山田光輝⁵⁾, 沖濱裕司⁶⁾, 志村俊郎⁷⁾, 鈴木 健⁸⁾ (¹⁾ 多摩永山病院薬剤科, ²⁾ 同 事務部, ³⁾ 同 看護部, ⁴⁾ 同 救命救急センター, ⁵⁾ 同 麻酔科, ⁶⁾ 同 消化器科, ⁷⁾ 同 脳神経外科, ⁸⁾ 同 内科): MRSA院内感染防止対策としてのムピロシン製剤の有用性. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.

[多摩永山病院薬剤科]

研究概要

薬剤科が従来進めて来た研究は実務上生じる問題を多角的に検討し, そこから薬剤師の従来の医療活動につなげるテーマを見つけることであった. 薬剤師の臨床業務が実践として定着しつつある中で研究課題も医療の質の向上につながるものに集約させている. 薬事法, 薬剤師法の改正により, 薬剤師の医療の中での責任分担が明確となり, 患者の退院時の服薬指導や外来患者への調剤薬の情報提供等の具体的な進め方を検討実践し, いくつかの薬物治療分野別

に結果をまとめている。また、薬学教育の改変に伴い、薬系大学の大学院生教育を定着させ、現在4大学との間に提携関係に入った。

一方、臨床各科と提携して、中毒・過量投与時の薬物動態や循環器系、呼吸器系、糖尿病患者のファルマコキネティクス、ファルマコダイナミックのデータを解析し、薬剤の安全な効果的投与法を定着させたい。中毒関係では1998年1月第12回日本中毒学会東日本部会を主催し、併せて市民のための中毒講座を併催した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 宿前貴子, 富岡勝世, 村田正弘：向精神薬の管理. 中毒研究 1997; 10 (2) : 153-160.
- 2) 富岡勝世：非ステロイド性消炎鎮痛剤. 中毒研究 1997; 10 (4) : No.91.
- 3) 椎野元裕, 秋林真紀子, 村田正弘, 中村正明¹⁾, 新井貞男¹⁾, 赤羽 宏¹⁾ (1) 株式会社ナック)：シメチジン製剤 (タガメット注射液200mg) の配合変化試験 (第1報). 医薬品相互作用研究 1997; 21 (3) : 91-109.
- 4) 宿前貴子：クラミジアの不思議. 都薬雑誌 1998; 20 (1) : 21-26.
- 5) 佐々木聡, 堀川佳津美, 村田正弘, 小谷英太郎¹⁾, 井野 威¹⁾, 長澤紘一¹⁾ (1) 内科学第1)：抗不整脈薬の処方実態調査. 医薬品相互作用研究 1998; (21) : 131-138.
- 6) 大園恵美¹⁾, 増永久美子¹⁾, 小林有紀子¹⁾, 小林信子¹⁾, 池谷登美枝¹⁾, 福岡イツ子¹⁾, 野口 素¹⁾, 堀川佳津美, 三田俊二²⁾, 磯崎太一²⁾, 松本譲二²⁾, 佐々木茂²⁾ (1) 多摩永山病院看護部, 2) 同産婦人科)：私たちの行っている終末期における疼痛の緩和：子宮頸癌の事例を通して. 東京母性衛生学会誌 1998; (14) : 56.

著書

- 1) 宿前貴子：〔分担〕腎・泌尿器疾患, 肝癌, 乳癌・子宮癌, 主な抗悪性腫瘍薬. 医療薬学一病気と薬一改訂版, 1997; 廣川書店.
- 2) 宿前貴子：〔分担〕医薬品適正使用と添付文書をめぐって. 主張・21世紀にむかって病院薬局と医療をとりまく諸問題第3集, 1997; pp297-299, 薬事新報社.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 畝本賜男：身の周りにおける危険物とその予防. 第12回日本中毒学会東日本部会中毒市民講座, 1998. 1.

(2) 一般講演：

- 1) 富岡譲二¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 平田清貴 (1) 救急医学)：インターネットによる中毒症例データベース構築の試み：1. インターネットを用いた症例収集についてのアンケート結果. 第19回日本中毒学会総会, 1997. 7.
- 2) 大園恵美¹⁾, 増永久美子¹⁾, 小林有紀子¹⁾, 小林信子¹⁾, 池谷登美枝¹⁾, 福岡イツ子¹⁾, 野口 素¹⁾, 堀川佳津美, 三田俊二²⁾, 磯崎太一²⁾, 佐々木茂²⁾ (1) 多摩永山病院看護部, 2) 同産婦人科)：終末期における疼痛の緩和：子宮頸癌の患者の事例をとおして. 第15回東京母性衛生学会学術集会, 1997. 5.
- 3) 秋林真紀子, 椎野元裕, 村田正弘, 中村正明¹⁾, 新井貞男¹⁾, 赤羽 宏¹⁾, 北村和明¹⁾ (1) 株式会社ナック)：シメチジン製剤 (タガメット注射液200mg) の配合変化 第1報. 第44回医薬品相互作用研究会, 1997. 6.
- 4) 佐々木聡, 堀川佳津美, 村田正弘：抗不整脈薬の処方実態調査：大規模臨床試験及びSicilian Gambitからの考察. 第44回医薬品相互作用研究会, 1997. 6.
- 5) 渋谷正則, 村田正弘：柔軟な投与スケジュールに対応したOne-Compartment Modelにもとづく薬物濃度シミュレーション・プログラム. 第15回TDM学会, 1997. 6.

- 6) 黒川 顕¹⁾, 須崎紳一郎¹⁾, 富岡譲二¹⁾, 平田清貴¹⁾ (救急医学) : 3次救急医療施設における急性医薬品中毒の実際. 第19回日本中毒学会総会, 1997. 7.
- 7) 稲本正之, 加藤浩子, 畝本賜男, 村田正弘, 茂木 徹¹⁾, 根岸 務¹⁾, 谷口広光¹⁾, 山田哲道²⁾, 小坂一郎²⁾, 城所裕而²⁾, 瀬川祐司²⁾, 椎野正名³⁾, 河合 斉³⁾, 金子 實³⁾, 新井裕美³⁾ (1) 八王子薬剤師会, (2) 日野薬剤師会, (3) 町田薬剤師会) : 地域医療における薬剤師研修の実際 : 病院と開局の関係. 日本薬剤師会学術大会, 1997. 8.
- 8) 太田みどり, 畝本賜男, 伊藤淳雄, 村田正弘 : 当院における外来患者に対する情報提供の実際と問題点 : 新薬剤師法の対応を中心に. 日本病院薬剤師会関東ブロック第27回学術大会, 1997. 8.
- 9) 伊藤淳雄, 阿部由紀乃, 加藤浩子, 村田正弘 : インスリン抵抗改善剤 (troglitazone) 投与の設定基準に関する考察. 第7回日本病院薬学会年会, 1997. 9.
- 10) 平田清貴, 村田正弘, 山田光輝¹⁾, 松本宜明²⁾, 福岡正道²⁾, 松本光雄²⁾ (1) 麻酔科学, (2) 昭和薬科大学) : ステップダウン静脈内投与におけるpropofolの体内動態. 第18回日本臨床薬理学会, 1997. 12.
- 11) 森園英子¹⁾, 橋本恵美¹⁾, 須永美由紀¹⁾, 遠藤美代子¹⁾, 平田清貴, 黒川 顕²⁾ (1) 多摩永山病院看護部, (2) 救急医学) : 当院救命救急センターにおける解熱鎮痛剤中毒患者の実際. 第12回日本中毒学会東日本部会, 1998. 1.
- 12) 松本宜明¹⁾, 平田清貴, 浜口夕香¹⁾, 村田正弘, 富岡譲二²⁾, 黒川 顕²⁾, 福岡正道¹⁾, 松本光雄³⁾ (1) 昭和薬科大学薬物動態学, (2) 救急医学, (3) 昭和薬科大学薬理学) : 国外から持ち込まれた睡眠薬による急性中毒患者の薬物分析. 第12回日本中毒学会東日本部会, 1998. 1.
- 13) 稲葉育広, 平田清貴, 村田正弘, 富岡譲二¹⁾, 黒川 顕¹⁾ (1) 救急医学) : FPIA法による急性アセトアミノフェン中毒の分析. 第12回日本中毒学会東日本部会, 1998. 1.
- 14) 平田清貴, 村田正弘, 富岡譲二¹⁾, 松本宜明²⁾, 松本光雄²⁾, 黒川 顕¹⁾ (1) 救急医学, (2) 昭和薬科大学) : 救命救急センターにおける急性薬物中毒. 日本薬学会第118年会, 1998. 3.
- 15) 畝本賜男, 本多秀雄¹⁾, 井上和美¹⁾, 田村和弘¹⁾, 向後博司¹⁾, 村田正弘 (1) 東京薬科大学) : 高血圧自然発症ラット (SHR) の摘出大動脈標本におけるtestosteroneの弛緩反応. 日本薬学会第118年会, 1998. 3.
- 16) 佐々木聡, 村田正弘, 小海信一¹⁾, 長澤紘一¹⁾, 早川弘一¹⁾, 佐藤良一²⁾ (1) 内科学第1, (2) ノースウエスタン大学) : プロパフェノン (PF) 単回口腔粘膜投与の臨床薬理的検討. 第62回日本循環器学会, 1998. 3.
- 17) 佐々木聡, 村田正弘, 小海信一¹⁾, 長澤紘一¹⁾, 小幡譽子²⁾, 永井恒司²⁾ (1) 内科学第1, (2) 星薬科大学) : プロパフェノン (PF) 単回口腔粘膜投与の臨床薬理的検討 (第2報). 日本薬学会第118年会, 1998. 3.

[多摩永山病院看護部]

研究概要

- 1) 長時間安静時の腰痛発生時間とエアマットの有効性を検証した。
- 2) 看護婦の自我状態と行動パターンとの関連を明らかにするよう試み、今後のターミナル看護に役立てる示唆を得た。
- 3) 短期入院患者と受け持ち看護婦にアンケートを実施し、双方の満足度、意識の在りようを調査した。
- 4) 患者の生活の自立に向けて、一貫し、継続したケアを実施するために、独自の自立支援チャートを作成し有用性を検討した。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 渡辺雅子, 瀬田直美, 竹山聡美, 原そのみ : 心臓カテーテル後の18時間安静による腰痛の程度とその緩和方法.

平成9年度東京都看護協会看護研究学会，1997.

- 2) 後藤由香，小島佳代，武藤雅子：ターミナル患者に関わる経験年数の浅い看護婦の行動パターンと自我状態.
平成9年度東京都看護協会看護研究学会，1997.
- 3) 北原あさ子，財津歩人，内山英美，堀川律子，児玉幸江，後藤由香，宮田 忍：短期入院患者を対象とした受け持ち看護婦としての振り返り. 平成9年度東京都多摩南地区看護研究学会，1997.
- 4) 川村ゆう子，曾根真美，佐々木亜希，川人昭子，根笹雅代，館洞郁子，稲葉はるみ，緋田雅美，遠藤三代子：
救急領域における自立支援チャートの活用を試みて. 第44回日本救急医学会関東地方会，1997.

23. 千葉北総病院付置施設等

[千葉北総病院集中治療部]

研究概要

本年度の特徴のひとつはカテーテルインターベンションにある。集中治療における対象は冠動脈疾患に止まらず、急性大動脈解離や肺血栓塞栓症にも及んだ。特に最近では急性心筋梗塞に対するステント留置術が急増しており、本法の有用性とその適応を巡って当施設独自のデータが蓄積されつつある。また、急性大動脈解離の最新治療としてもカテーテルインターベンションが導入された。これは付属病院放射線科のご指導によるもので、大動脈内ステント留置とバルンカテーテルを用いた開窓術（リエントリーの形成）の2つに大別される。血栓閉鎖しない予後不良の大動脈解離の緊急治療に有力な手段であろうと期待される。さらに極めて重篤な広範囲肺血栓塞栓症にもカテーテル治療は行われる。カテーテルによる巨大血栓の破碎、吸引、これにtPAの選択的肺動脈投与、PCPSを併用することによって、従来は救命困難であった肺動脈主幹部完全閉塞の症例も救うことができた。

2つ目の特徴は、救急部の協力で可能となった急性心筋梗塞患者のヘリコプター移送である。成田国際空港から当院のヘリポートまでは約7分の所要時間である。つい最近もハワイで急性心筋梗塞を発症した邦人をチャーター機で成田まで移送、さらにヘリで当院集中治療室まで搬送。緊急PTCAによって救命することができた。このシステムの導入は、医療従事者を含む国際医療の最前線にある当院ならびに当施設の今後の在り方を示唆する記念すべき出来事である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 高野照夫¹⁾、田中啓治¹⁾、片桐 敬²⁾、本宮武司³⁾ (1) 日本医大付属病院集中治療室, 2) 昭和大学医学部第三内科, 3) 都立広尾病院循環器科)：急性心不全に対するMS-857注射剤の効果とその薬物動態：前期第II層試験。薬理と臨床 1997；7 (10)：1533-1544.
- 2) 加藤貴雄¹⁾、田中啓治 (1) 日本医大付属病院第一内科)：心筋梗塞急性期の血行動態に及ぼすMS-551注射剤の影響。臨床医薬 1997；13：1821-1833.

(2) 総説：

- 1) 坏 宏一、田中啓治：ペーシングカテーテル。救急医学 1997；21 (12)：1592-1594.
- 2) 田中啓治、今泉孝敬：硝酸剤。集中治療 1998；10 (4)：429-435.

著書

- 1) 田中啓治、星野公彦：〔分担〕心不全患者のモニタリング。実地医家のための心不全治療マニュアル、1998；pp50-59, 医薬ジャーナル社。

学会発表

(1) セミナー：

- 1) 田中啓治：急性心筋梗塞患者のプライマリケア：虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）のプライマリケア。第914回最新医療セミナー、1997。4.

(2) 一般講演：

- 1) 星野公彦, 中村俊彦, 坏 宏一, 田中 隆, 田中啓治, 岡松健太郎¹⁾, 高野雅允¹⁾, 大國真一¹⁾, 水野杏一¹⁾
(¹⁾ 日本医大千葉北総病院内科)：Wiktor stent 留置後の急性冠閉塞に対しウロキナーゼとIABPの併用が有効であった2症例。第24回日本集中治療医学会総会, 1997. 5.
- 2) 中村俊彦, 坏 宏一, 笠神康平, 星野公彦, 田中 隆, 田中啓治：うっ血性心不全に対するヒト心房性ナトリウム利尿ペプチドの有用性について：併用薬の有無による検討。第24回日本集中治療医学会総会, 1997. 5.
- 3) 坏 宏一, 中村俊彦, 星野公彦, 田中 隆, 田中啓治, 田島なつき¹⁾ (¹⁾ 日本医大千葉北総病院放射線科)：急性大動脈解離の診断におけるダイナミックMRIの有用性について。第24回日本集中治療医学会総会, 1997. 5.
- 4) 岩崎雄樹, 今泉孝敬, 坏 宏一, 星野公彦, 田中啓治, 高野雅允¹⁾, 大國真一¹⁾, 水野杏一¹⁾, 別所竜蔵²⁾, 五味潤誠²⁾, 浅野哲雄²⁾ (¹⁾ 日本医大千葉北総病院内科, ²⁾ 日本医大千葉北総病院胸部外科)：Palmaz-Shatzステント留置直後に冠動脈破裂をきたし、バルンにて出血を抑制、緊急開胸手術にて救命しえた狭心症の1例。日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 5) 岩崎雄樹, 今泉孝敬, 坏 宏一, 星野公彦, 田中啓治, 大國真一¹⁾, 水野杏一¹⁾, 別所竜蔵²⁾, 五味潤誠²⁾, 浅野哲雄²⁾, 金子晴生³⁾ (¹⁾ 日本医大千葉北総病院内科, ²⁾ 日本医大千葉北総病院胸部外科, ³⁾ 鹿島白十字総合病院内科)：Palmaz-Schatz ステント留置直後に冠動脈破裂をきたし、バルンにて出血を抑制、緊急開胸手術にて救命しえた狭心症の1例。日本循環器学会関東甲信越地方会第164回学術集会, 1997. 6.
- 6) 岩崎雄樹, 坏 宏一, 星野公彦, 今泉孝敬, 田中啓治：最近経験した再疎通療法に伴う稀な合併症とその対策。第17回心筋梗塞研究会, 1997. 7.
- 7) 稲見茂信, 亀山幹彦, 坏 宏一, 星野公彦, 今泉孝敬, 田中啓治, 平松久弥子¹⁾, 石井 洋¹⁾, 大國真一¹⁾, 渡淳¹⁾, 水野杏一¹⁾, 長谷川節雄²⁾, 高田輝雄³⁾ (¹⁾ 日本医大千葉北総病院内科, ²⁾ 日本医大第三内科, ³⁾ 佐倉ゆうゆうの里診療所)：著しい好中球減少 ($192/\mu l$) を伴う慢性関節リウマチ兼 Sjogren症候群に発症した急性心筋梗塞に顆粒球コロニー形成刺激因子を投与しながらPTCAを行った1症例。日本循環器学会関東甲信越地方会第165回学術集会, 1997. 9.
- 8) 坏 宏一, 田中啓治, 岩崎雄樹, 星野公彦, 今泉孝敬, 東海林智子, 網谷賢一：周波数スペクトラム解析を加えたバイオインピーダンス測定装置による心不全患者の体水分量の測定。第1回日本心不全学会総会, 1997. 10.
- 9) 小川理郎¹⁾, 大塚 祥¹⁾, 小池 薫¹⁾, 加藤一良¹⁾, 横田裕行¹⁾, 大友康裕¹⁾, 益子邦洋²⁾, 山本保博²⁾, 大秋美治³⁾, 田中啓治 (¹⁾ 日本医大千葉北総病院救命救急部, ²⁾ 日本医大救急医学教室, ³⁾ 日本医大千葉北総病院病理部)：胸骨圧迫式心マッサージ直後の心筋傷害の検討：剖検による組織学検討から。第25回日本救急医学会総会, 1997. 11.
- 10) 稲見茂信, 亀山幹彦, 坏 宏一, 星野公彦, 今泉孝敬, 田中啓治 (¹⁾ 日本医大千葉北総病院集中治療部)：慢性心不全急性増悪期の血中ANP濃度とAVP濃度の関係：サブセットを用いた検討。第2回ANP臨床研究会, 1997. 11.
- 11) 田中啓治：非虚血性心疾患に対する最近の内科的治療法：急性ポンプ不全の治療。第6回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1997. 12.
- 12) 竹永清人, 石井健輔, 服部達也, 稲見茂信, 高山英男, 小原俊彦, 今泉孝敬, 田中啓治, 大國真一¹⁾, 水野杏一¹⁾, 岡田 進²⁾, 別所竜蔵³⁾, 山内茂生³⁾, 五味潤誠³⁾ (¹⁾ 日本医大千葉北総病院内科, ²⁾ 日本医大千葉北総病院放射線科, ³⁾ 日本医大千葉北総病院胸部外科)：逆行解離によって左冠動脈主幹部完全閉塞と上大静脈症候群を来した急性大動脈解離 (IIIb)。日本循環器学会関東甲信越地方会第166回学術集会, 1997. 12.
- 13) 三浦洋司¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 大野則彦¹⁾, 横山真也¹⁾, 松本 真¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 佐野純子¹⁾, 大國真一¹⁾, 水野杏一¹⁾, 竹永清人, 石井健輔, 服部達也, 高山英男, 星野公彦, 今泉孝敬, 田中啓治 (¹⁾ 日本医大千葉北総病院内科)：ステント留置術後に冠動脈瘤を起こした1例。日本循環器学会関東甲信越地方会第166回学術集会, 1997. 12.

- 14) 岡松健太郎¹⁾, 横山真也¹⁾, 大野則彦¹⁾, 松本 真¹⁾, 北村克弘¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 佐野純子¹⁾, 大國真一¹⁾, 水野杏一¹⁾, 高山英男, 星野公彦, 今泉孝敬, 田中啓治 (¹⁾ 日本医大千葉北総病院内科) : AMIに対して primary stenting を行った症例の血管内視鏡所見. 第6回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1997. 12.
- 15) 石井健輔, 坪 宏一, 竹永清人, 服部達也, 稲見茂信, 高山英男, 星野公彦, 今泉孝敬, 田中啓治, 岡田 進¹⁾, 山口敏雄²⁾ (¹⁾ 日本医大千葉北総病院放射線科, ²⁾ 聖マリアンナ医大横浜市西部病院放射線科) : リエントリーの無い偽腔開存型急性大動脈解離 (IIIb) に生じた両下肢阻血に対するカテーテルインターベンション. 第6回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1997. 12.
- 16) 亀山幹彦, 稲見茂信, 石井健輔, 服部達也, 竹永清人, 高山英男, 今泉孝敬, 田中啓治 : 携帯心音計 (BTL Graphic Auscultation System) の機能と集中治療室での利用法について. 第6回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1997. 12.
- 17) 服部達也, 小原俊彦, 石井健輔, 竹永清人, 品田卓郎, 森田典成, 高山英男, 今泉孝敬, 田中啓治, 海老沢雅子¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 大國真一¹⁾, 水野杏一¹⁾, 山内茂生²⁾ (¹⁾ 日本医大千葉北総病院内科, ²⁾ 日本医大千葉北総病院胸部外科) : 洞不全症候群によるアダムス・ストークス発作がきっかけで診断された高齢エプスタイン奇形の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第167回学術総会, 1998. 2.
- 18) 大野則彦¹⁾, 三浦洋司¹⁾, 小川晃生¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 松本 真¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 多田裕美子¹⁾, 佐野純子¹⁾, 大國真一¹⁾, 水野杏一¹⁾, 今泉孝敬, 田中啓治 (¹⁾ 日本医大千葉北総病院内科) : 無治療にて長期生存した完全型心内膜床欠損症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第167回学術集会, 1998. 2.
- 19) 高山英男, 清宮康嗣, 亀山幹彦, 坪 宏一, 星野公彦, 今泉孝敬, 田中啓治 : 心筋梗塞急性期に伴う難治性心不全に対する新しい血液浄化法の適応. 第25回日本集中治療医学会総会, 1998. 3.
- 20) 高山英男, 亀山幹彦, 稲見茂信, 今泉孝敬, 田中啓治 : 携帯心音計 (BLT Garphic Auscultation System) の機能と利用法. 第62回日本循環器学会総会・学術集会, 1998. 3.
- 21) 酒井俊太¹⁾, 岡松健太郎¹⁾, 大野則彦¹⁾, 松本 真¹⁾, 北村克弘¹⁾, 佐野純子¹⁾, 大國真一¹⁾, 水野杏一¹⁾, 星野公彦, 今泉孝敬, 田中啓治, 関戸司久²⁾, 上村竜太²⁾, 富田喜文²⁾, 草間芳樹²⁾, 高山守正²⁾, 宗像一雄²⁾, 高野照夫²⁾, 岸田 浩²⁾, 早川弘一²⁾ (¹⁾ 日本医大千葉北総病院内科, ²⁾ 日本医大付属病院第一内科) : 急性心筋梗塞 (AMI) に対するステント治療・冠動脈内視鏡での観察. 第62回日本循環器学会総会・学術集会, 1998. 3.

[千葉北総病院病理部]

研究概要

開院以来, 病理部に提出される検体を用いて, 日常の病理組織及び細胞診診断に寄与する研究を目的としてきた. 現在はさらに新たに当施設で開発, 改良された技法を用い, 以下のような研究を継続中である.

1. 当施設で開発した薄層広視野樹脂包埋法 (Film sheet epoxy resin embedding method (FSEM)) を用いて, 特に皮膚科領域の疾患及び脳腫瘍を中心にFSEMの特徴を生かした形態学的観察を行い, その結果を各種学会, 研究会へ報告し, その普及を計ってきた.

2. 細胞診検体における免疫染色法の改善を行い, 特に脳腫瘍や乳腺腫瘍症例における細胞像の解析を進めてきた. また, 細胞診検体に対して電子顕微鏡を用いた超微形態像の観察法を導入し, 細胞診検体の超微形態から見た特徴を解析中である.

3. 中枢神経系疾患を中心として稀有な手術症例, 剖検症例を形態学的に解析し, 学会, 研究会に報告した.

4. 腫瘍性疾患の細胞生物学的検討を大腸癌を中心に行い細胞動態の解析を行った.

研究業績

論文

〔1996年度追加分〕

原著：

- 1) 都甲明子¹⁾, 岩崎卓爾¹⁾, 外山和秀¹⁾, 山口 暁¹⁾, 河村 堯¹⁾, 荒木 勤²⁾, 大秋美治, 横山宗伯³⁾, 山川義寛⁴⁾
(¹⁾ 千葉北総病院産婦人科, ²⁾ 付属病院産婦人科, ³⁾ 第2病理, ⁴⁾ 富山医科薬科大学産婦人科) : パルボウイルス感染により胎児水腫を来たしたと考えられる双胎妊娠の1例. 日本新生児学会雑誌 1997; 33 (3) : 366-370.

(1) 原著：

- 1) Aida K¹⁾, Onodera T¹⁾, Oguro T, Ashraf M¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology and Laboratory Medicine, University) : Hydrogen Peroxide-mediated injury to cultured adult rat myocytes. Cardiovascular Pathobiology 1997; 2 (2) : 97-106.
- 2) Ishizaki M¹⁾, Shimoda M²⁾, Wakamatsu K¹⁾, Oguro T, Yamanaka N¹⁾, Kao C³⁾, Kao W³⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Ophthalmology, ³⁾ Department of Pathology and Laboratory Medicine, University) : Stromal fibroblasts are associated with collagen IV in scar tissues of alkali-burned and lacerated cornea. Current Eye Research 1997; 16 : 339-348.
- 3) 清水 一¹⁾, 佐藤 茂²⁾, 大石一二³⁾, 森 修, 森 隆¹⁾, 大網 弘¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所病理部門, ²⁾ 中央電顕施設, ³⁾ 協同乳業研究所) : アルツハイマー型老年痴呆におけるプロテオグリカンの動態. 日老医誌 1997; 34 : 461-467.
- 4) 北原東一¹⁾, 服部怜美¹⁾, 青木見佳子¹⁾, 本田光芳²⁾, 大秋美治 (¹⁾ 千葉北総病院皮膚科, ²⁾ 付属病院皮膚科) : Bowen病の病巣部に生じたMerkel細胞癌の1例. Skin Cancer 1997; 12 (1) : 91-95.
- 5) 近藤久禎¹⁾, 横田裕行¹⁾, 加藤一良¹⁾, 小池 薫¹⁾, 犬塚 祥, 小川理郎¹⁾, 松浦友里子¹⁾, 大秋美治, 牧野俊郎²⁾, 山本保博³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院救命救急部, ²⁾ 東京国際空港クリニック, ³⁾ 付属病院救急医学科) : 重症呼吸不全を合併したAIDSの2症例. 日本救急医学会関東誌 1997; 18 (2) : 580-581.
- 6) 松浦有里子¹⁾, 横田裕行¹⁾, 加藤一良¹⁾, 小池 薫¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 小川理郎¹⁾, 谷本佐理名¹⁾, 大塚敏文²⁾, 日野光紀³⁾, 大秋美治 (¹⁾ 千葉北総病院救命救急部, ²⁾ 付属病院救急医学科, ³⁾ 千葉北総病院内科) : 急激な臨床経過を呈した急性好酸球性肺炎の1例. 日本救急医学会関東誌 1997; 18 (1) : 212-213.
- 7) 中村 敏¹⁾, 横田裕行¹⁾, 加藤一良¹⁾, 小池 薫¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 小川理郎¹⁾, 松浦有里子¹⁾, 大秋美治, 山本保博²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院救命救急部, ²⁾ 付属病院救急医学科) : 救急外来で突然死した大動脈弁狭窄症の1剖検例. 日本救急医学会関東誌 1997; 18 (2) : 560-561.
- 8) 東 直行¹⁾, 金子勝美¹⁾, 北原東一¹⁾, 服部怜美¹⁾, 大秋美治, 青木見佳子²⁾, 本田光芳²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院皮膚科, ²⁾ 付属病院皮膚科) : Fibrous hamartoma of infancyの1例. 臨床皮膚科 1998; 52 (2) : 114-117.

(2) 綜説：

- 1) 相馬廣明¹⁾, 渡辺芳明¹⁾, 大澤洋之¹⁾, 平野正子¹⁾, 吉成 勉¹⁾, 堀切 浩¹⁾, 畑 俊夫¹⁾, 小黑辰夫 (¹⁾ 埼玉医科大学産婦人科) : 腺様嚢胞癌 (Adenoid cystic carcinoma) : 組織及び超微構造と免疫組織化学的特徴. 臨床電顕誌 1997; 30 (1) : 5-20.

著書

- 1) 山崎峰雄¹⁾, 森 修 (¹⁾ 初石病院神経内科) : [分担] 痴呆性疾患の画像診断シリーズ 1. アルツハイマー型痴呆 : 病理. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 1997; pp2-3, ワールドプランニング社.
- 2) 山崎峰雄¹⁾, 森 修 (¹⁾ 初石病院神経内科) : [分担] 痴呆性疾患の画像診断シリーズ 2. 脳血管痴呆 : 病

- 理. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 1997; pp2-3, ワールドプランニング社.
- 3) 山崎峰雄¹⁾, 森 修⁽¹⁾ 初石病院神経内科): [分担] 痴呆性疾患の画像診断シリーズ 3. 前頭葉型痴呆: 病理. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 1997; pp2-3, ワールドプランニング社.
 - 4) 山崎峰雄¹⁾, 森 修⁽¹⁾ 初石病院神経内科): [分担] 痴呆性疾患の画像診断シリーズ 4. クロイツフェルトヤコブ病とその類縁疾患: 病理. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 1997; pp2-3, ワールドプランニング社.
 - 5) 山崎峰雄¹⁾, 森 修⁽¹⁾ 初石病院神経内科): [分担] 痴呆性疾患の画像診断シリーズ 5. パーキンソン病とその類縁疾患: 病理. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 1997; pp2-3, ワールドプランニング社.
 - 6) 山崎峰雄¹⁾, 森 修⁽¹⁾ 初石病院神経内科): [分担] 痴呆性疾患の画像診断シリーズ 6. ウェルニッケ・コルサコフ症候群とその類縁疾患: 病理. 痴呆性疾患の画像診断シリーズ, 1997; pp2-3, ワールドプランニング社.

学会発表

[1996年度追加分]

一般講演:

- 1) 星野 茂¹⁾, 小林士郎¹⁾, 古川哲也¹⁾, 志村俊郎²⁾, 寺本 明³⁾, 小黒辰夫, 森 修, 大秋美治⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 多摩永山病院脳神経外科): 実験的頭部外傷慢性期における早期アルツハイマー病様脳障害. 第37回日本神経病理学会総会学術研究会, 1996. 5.
- 2) 都甲明子¹⁾, 岩崎卓爾¹⁾, 外山和秀¹⁾, 山口 暁¹⁾, 河村 堯¹⁾, 荒木 勤²⁾, 大秋美治, 山川義寛³⁾ ⁽¹⁾ 千葉北総病院産婦人科, ²⁾ 付属病院産婦人科, ³⁾ 富山医科薬科大学産婦人科): パルボウイルス感染により胎児水腫を来たしたと考えられる双胎妊娠の1例. 第32回日本新生児学会総会, 1996. 7.
- 3) 橋元恭士¹⁾, 日野光紀¹⁾, 林原賢治¹⁾, 古田知行¹⁾, 伊藤永喜¹⁾, 小俣雅念¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 奈良道哉¹⁾, 水野杏一¹⁾, 五味淵誠²⁾, 大秋美治⁽¹⁾ 千葉北総病院内科, ²⁾ 千葉北総病院胸部外科・呼吸器外科): 胸膜直下の小結節影を経過観察中, 3ヶ月後に胸膜播種性転移で発生した肺小細胞癌の1例. 第2回東葛肺癌研究会, 1996. 11.
- 4) 中村俊彦¹⁾, 坪 宏一¹⁾, 星野公彦¹⁾, 田中 隆¹⁾, 田中啓治¹⁾, 金子晴生²⁾, 高野正充²⁾, 富村正登²⁾, 大國真一²⁾, 水野杏一²⁾, 大秋美治⁽¹⁾ 千葉北総病院集中治療部, ²⁾ 千葉北総病院内科): 全身のMRSA感染症に伴い心内膜および心筋内に多発性小膿瘍を形成した難治性心不全の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会162回学術集会, 1996. 12.
- 5) 山崎峰雄¹⁾, 小柳清光¹⁾, 森 修, 北村 伸¹⁾, 大山雅史¹⁾, 赫 彰郎²⁾ ⁽¹⁾ 初石病院神経内科, ²⁾ 東京都神経科学総合研究所神経病理研究部門, ³⁾ 付属病院第2内科): 歩行障害, 痴呆を主徴とし, 前頭葉萎縮に加え, 淡蒼球, 視床および黒質変性と多数の神経原線維化変化を認めたGertmann-Straussler-Scheinker病の1剖検例. 第56回臨床神経病理懇話会, 1997. 3.
- 6) 小俣雅念¹⁾, 日野光紀¹⁾, 林原賢治¹⁾, 古田知行¹⁾, 榎本達治¹⁾, 橋元恭士¹⁾, 伊藤永喜¹⁾, 田中恵美¹⁾, 奈良道哉¹⁾, 水野杏一¹⁾, 五味淵誠²⁾, 大秋美治, 工藤翔二³⁾ ⁽¹⁾ 千葉北総病院内科, ²⁾ 千葉北総病院胸部外科・呼吸器外科, ³⁾ 付属病院第4内科): 若年女性に発生した縦隔原発卵黄囊腫瘍の1例. 第118回日本肺癌学会関東部会, 1997. 3.

(1) 教育講演:

- 1) 小黒辰夫: 試料作製の最新技術: アクラシートを用いた試料作製法. 電子顕微鏡技術研究会, 1997. 4.

(2) セミナー:

- 1) 小黒辰夫: Film Sheet Epoxy-Resin Embedding Method (FSEM 薄層広視野樹脂包埋法). 第8回電顕サマースクール, 1997. 8.

(3) 一般講演：

- 1) Hoshino S¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Furukawa T¹⁾, Ohaki Y, Mori O, Teramoto A²⁾ (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 付属病院脳神経外科) : Early Alzheimer-like brain damage in chronic stage of fluid-percussion injury in rat brain. The 13th International Congress of Neuropathology (Pearth), 1997. 9.
- 2) Yamazaki M¹⁾, Oyanagi K²⁾, Mori O, Ohyama M³⁾, Kitamura S³⁾, Terashi A³⁾ (1) Hatuishi Hospital, Neuromedicine, 2) Tokyo Metropolitan Institute of Neuroscience, 3) Nippon Medical School, 2nd Internal Medicine) : An autopsy case of variant Gerstmann-Strassler syndrome with codon 105 mutation of the prion protein, showing degeneration of pallidum, thalamus, and substantia nigra and widely distributed neurofibrillary tangles. The 13th International Congress of Neuropathology (Pearth), 1997. 9.
- 3) 何 群, 大秋美治, 森 修, 喬 炎¹⁾ (1) 第2病理) : 腎細胞癌 (分類不能型) の1例. 平成9年度日本病理医協会千葉支部集会, 1997. 4.
- 4) 志村俊郎¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 寺本 明³⁾, 松本正博¹⁾, 水成隆之⁴⁾, 星野 茂⁴⁾, 高橋 弘¹⁾, 片山博徳²⁾, 大秋美治 (1) 多摩永山病院脳神経外科, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 付属病院脳神経外科, 4) 千葉北総病院脳神経外科) : 小脳血管芽腫の免疫組織学および電子顕微鏡学的検討. 第15回日本脳腫瘍病理学会, 1997. 4.
- 5) 何 群, 喬 炎¹⁾, 森 修, 大秋美治, 森山雄吉²⁾ (1) 第2病理, 2) 千葉北総病院外科) : 導管癌成分を伴うadenomyoepitheliomaの1例. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 6) 奥村昌夫¹⁾, 日野光紀¹⁾, 林原賢治¹⁾, 古田知行¹⁾, 榎本達治¹⁾, 伊藤永喜¹⁾, 小俣雅念¹⁾, 水野杏一¹⁾, 横田裕行²⁾, 加藤一良²⁾, 大秋美治 (1) 千葉北総病院内科, 2) 千葉北総病院救命救急部) : 気管支肺胞洗浄 (BAL) にて診断しえたpneumocystis carinii肺炎3症例の検討. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 7) 岩田ともみ¹⁾, 於保倫之助¹⁾, 市堰 肇¹⁾, 小林克史¹⁾, 石井 洋¹⁾, 水野杏一¹⁾, 大秋美治, 森 修, 岡田進²⁾, 新井祐至³⁾, 山崎峰雄³⁾, 赫 彰郎³⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 千葉北総病院放射線科, 3) 付属病院第2内科) : Gliomatosis Cerebriの1例 : MRIと病理との比較. 日本医科大学医学会第92回例会, 1997. 5.
- 8) 星野 茂¹⁾, 小林士郎¹⁾, 古川哲也¹⁾, 志村俊郎²⁾, 寺本 明³⁾, 小黑辰夫, 森 修, 大秋美治 (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 多摩永山病院脳神経外科, 3) 付属病院脳神経外科) : 実験的頭部外傷慢性期における早期アルツハイマー病様脳障害. 第38回日本神経病理学会総会学術研究会, 1997. 5.
- 9) 森 修, 大秋美治, 於保倫之助¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (1) 千葉北総病院内科, 2) 第2病理) : 進行性の対麻痺と膀胱直腸障害で発症したAngiotrophic malignant lymphoma. 第38回日本神経病理学会総会学術研究会, 1997. 5.
- 10) 三枝順子, 小黑辰夫, 清水秀樹, 安藤 哲, 森 修, 大秋美治, 小林士郎¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 浅野伍朗³⁾ (1) 千葉北総病院脳神経外科, 2) 多摩永山病院病理部, 3) 第2病理) : Secretory meningiomaの細胞像. 第38回日本臨床細胞学会総会, 1997. 5.
- 11) 清水秀樹, 小黑辰夫, 早澤久美, 三枝順子, 安藤 哲, 森 修, 大秋美治, 浅野伍朗¹⁾ (1) 第2病理) : 酵素抗体法 (AEC発色) 脱色後のパバニコロウ染色の検討 : 細胞集塊と細胞質抗原について. 第38回日本臨床細胞学会総会, 1997. 5.
- 12) 山崎峰雄¹⁾, 小柳清光²⁾, 森 修, 北村 伸³⁾, 大山雅史³⁾, 赫 彰郎³⁾ (1) 初石病院神経内科, 2) 東京都神経科学総合研究所神経病理研究部門, 3) 付属病院第2内科) : 歩行障害, 痴呆を主徴とし, 前頭葉萎縮に加え, 淡蒼球, 視床および黒質変性と多数の神経原線維化変化を認めたGerstmann-Straussler-Scheinker病の1剖検例. 第38回日本神経病理学会総会学術研究会, 1997. 5.
- 13) 山崎峰雄¹⁾, 荒木俊彦²⁾, 森 修, 新井裕至³⁾, 赫 彰郎³⁾, 小柳清光⁴⁾ (1) 初石病院神経内科, 2) 川口市立医療センター神経内科, 3) 付属病院第2内科, 4) 東京都神経科学総合研究所神経病理研究部門) : 家族歴を有し, 痴呆で発症したcorticobasal degenerationと考えられる1剖検例. 第38回日本神経病理学会総会学術研究会, 1997. 5.
- 14) 山崎峰雄¹⁾, 小柳清光²⁾, 中村綾子²⁾, 内原俊記²⁾, 新井裕至³⁾, 森 修, 赫 彰郎³⁾, 中野今治⁴⁾ (1) 初石病

- 院神経内科, ²⁾ 東京都神経科学総合研究所神経病理研究部門, ³⁾ 付属病院第2内科, ⁴⁾ 自治医科大学神経内科): Hallervorden-Spatz症候群とGerstmann-Strassler-Scheinker症候群重型で認められたGallyas陽性Tau陽性グリア. 第39回日本神経病理学会総会学術研究会, 1997. 5.
- 15) 近藤久恒¹⁾, 横田裕行¹⁾, 加藤一良¹⁾, 小池 薫¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 小川理郎¹⁾, 松浦有里子¹⁾, 大秋美治, 牧野俊郎²⁾, 山本保博²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院救命救急部, ²⁾ 付属病院救急医学科): 重症呼吸不全を合併したAIDSの2症例. 第43回日本救急医学会関東地方会, 1997. 6.
- 16) 中村 敏¹⁾, 横田裕行¹⁾, 加藤一良¹⁾, 小池 薫¹⁾, 犬塚 祥¹⁾, 小川理郎¹⁾, 松浦有里子¹⁾, 大秋美治, 山本保博²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院救命救急部, ²⁾ 付属病院救急医学科): 救急外来で突然死した大動脈弁狭窄症の1剖検例. 第43回日本救急医学会関東地方会, 1997. 6.
- 17) 片桐宥代¹⁾, 岡田 進¹⁾, 田島なつき¹⁾, 伊藤公一郎¹⁾, 趙 圭一¹⁾, 京野昭二²⁾, 森山雄吉²⁾, 大秋美治, 隈崎達夫³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院放射線科, ²⁾ 千葉北総病院外科, ³⁾ 付属病院放射線科): 胃外に大きな腫瘤を形成した胃のleiomyoblastomaの1例. 第411回日本医学放射線学会関東地方会, 1997. 6.
- 18) 伊藤永喜¹⁾, 日野光紀¹⁾, 林原賢治¹⁾, 古田知行¹⁾, 榎本達治¹⁾, 小俣雅念¹⁾, 奥村昌夫¹⁾, 大秋美治 (¹⁾ 千葉北総病院内科): 高カルシウム血症と血中G-CSF高値を認めた肺扁平上皮癌の1例. 第3回東葛肺癌研究会, 1997. 6.
- 19) 逸見しのぶ¹⁾, 川本雅司¹⁾, 寺崎泰弘¹⁾, 福田 悠¹⁾, 山中宣昭¹⁾, 山崎峰雄²⁾, 森 修 (¹⁾ 第1病理, ²⁾ 初石病院神経内科): 全身性エリテマトーデス (SLE) に合併した進行性多巣性白質脳症 (PML) の1剖検例. 第86回日本病理学会総会, 1997. 6.
- 20) 山崎峰雄¹⁾, 荒木俊彦²⁾, 森 修, 小柳清光³⁾, 片山泰朗⁴⁾ (¹⁾ 初石病院神経内科, ²⁾ 川口市立医療センター神経内科, ³⁾ 東京都神経科学総合研究所神経病理研究部門, ⁴⁾ 付属病院第2内科): 家族歴を有し, 痴呆で発症したcorticobasal degenerationと考えられる1剖検例. 第145回日本神経学会関東地方会, 1997. 6.
- 21) 何 群, 大秋美治, 森 修, 喬 炎¹⁾, 浅野伍朗¹⁾, 森山雄吉²⁾ (¹⁾ 第2病理, ²⁾ 千葉北総病院外科): 大腸癌の壁内浸潤部先端における腫瘍組織のapoptosisの発現機構の解析. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 22) 秦 漢娟, 何 群, 森 修, 大秋美治, 小黑辰夫, 清水秀樹, 早澤久美, 三枝順子, 安藤 哲, 森山雄吉¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 第2病理): 高度な血管病変を伴う肉芽腫性乳腺炎の1例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 23) 金 恩京¹⁾, 新井 悟, 武村民子²⁾, ガジザデ・モハマド¹⁾, 松本光司³⁾, 大秋美治, 川並汪一¹⁾ (¹⁾ 老人病研究所病理部門, ²⁾ 日赤医療センター病理部, ³⁾ 第二病院病理部): 細気管支肺胞上皮癌の組織化学的特徴: 正常肺上皮細胞との対比. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 24) 秦 漢娟, 大秋美治, 何 群, 森 修, 森山雄吉¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科): 膈嚢胞性腫瘍の1例. 平成9年度第2回日本病理医協会千葉県支部集会, 1997. 10.
- 25) 秋田政彦¹⁾, 太田真琴¹⁾, 山西貴仁¹⁾, 服部怜美¹⁾, 大秋美治, 川名誠司²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院皮膚科, ²⁾ 付属病院皮膚科): Eccrine poromaの病変内悪性化を生じた1例. 第732回日本皮膚科学会東京地方会, 1997. 10.
- 26) 早澤久美, 小黑辰夫, 森 修, 大秋美治, 小林士郎¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科): Secretory meningiomaの光顕的,免疫組織学的,電顕的検討: Film Sheet Epoxy-Resin Embedding Method (FSEM) を用いて. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会, 1997. 10.
- 27) 小黑辰夫, 大秋美治, ガジザデ・モハマド¹⁾, 浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 老人病研究所病理, ²⁾ 第2病理): FSEMの外科病理領域への応用: 特に皮膚疾患を中心に. 第29回日本臨床電子顕微鏡学会, 1997. 10.
- 28) 横井公良¹⁾, 山下精彦¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 京野昭二¹⁾, 小川芳雄¹⁾, 石川紀行¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 恩田昌彦²⁾, 田中宣威²⁾, 瀬谷知子²⁾, 長澤重直²⁾, 大秋美治 (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 付属病院第1外科): 直腸stromal tumorの1例. 第52回日本大腸肛門病学会総会, 1997. 10.
- 29) 松山郁生¹⁾, 小黑辰夫, 土屋真一¹⁾ (¹⁾ 長野県がん検診センター病理部): グリッドスティックを使用した電子

- 染色法の検討：特に電顕用特殊染色への有用性について。第29回日本臨床電子顕微鏡学会，1997. 10.
- 30) 何 群，大秋美治，森 修，森山雄吉¹⁾，喬 炎²⁾，浅野伍朗²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科，²⁾ 第2病理)：大腸癌予後推定因子の形態学的，細胞生物学的検討。第8回日本医科大学外国人留学者研究会，1997. 11.
- 31) 海老沢雅子¹⁾，伊藤永喜¹⁾，日野光紀¹⁾，林原賢治¹⁾，古田知行¹⁾，上原隆志¹⁾，榊原桂太郎¹⁾，水野杏一¹⁾，工藤翔二²⁾，真崎義隆³⁾，五味淵誠³⁾，大秋美治 (¹⁾ 千葉北総病院内科，²⁾ 付属病院第4内科，³⁾ 千葉北総病院胸部外科・呼吸器外科)：抗癌剤化学療法中にG-CSF値を追った肺未分化大細胞癌の1例。第4回東葛肺癌研究会，1997. 11.
- 32) 小黒辰夫，清水秀樹，早澤久美，三枝順子，安藤 哲，森 修，大秋美治，浅野伍朗¹⁾ (¹⁾ 第2病理)：腹水中に認められた，細胞質内小腺腔 (ICLs) をもつ腫瘍細胞の超微形態学的観察：ICLsの形成過程を中心に。第36回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会，1997. 11.
- 33) 鶴田宏之¹⁾，森山雄吉¹⁾，京野昭二¹⁾，横井公良¹⁾，小川芳雄¹⁾，石川紀行¹⁾，藤田逸郎¹⁾，菅 隼人¹⁾，工藤秀徳¹⁾，山下精彦¹⁾，大秋美治 (¹⁾ 千葉北総病院外科)：小網内に進展した胃平滑筋芽細胞腫の1例。第59回日本臨床外科医学会総会，1997. 11.
- 34) 小川理郎¹⁾，犬塚 祥¹⁾，小池 薫¹⁾，加藤一良¹⁾，横田裕行¹⁾，大友康裕²⁾，益子邦洋²⁾，山本保博²⁾，大秋美治，田中啓治³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院救命救急部，²⁾ 付属病院救急医学科，³⁾ 千葉北総病院集中治療部)：胸骨圧迫式心マッサージ直後の心筋障害の検討：剖検による組織学的検討から。第25回日本救急医学会総会，1997. 11.
- 35) 山崎峰雄¹⁾，荒木俊彦²⁾，森 修，新井裕至³⁾，赫 彰郎³⁾，小柳清光⁴⁾ (¹⁾ 初石病院神経内科，²⁾ 川口市立医療センター神経内科，³⁾ 付属病院第2内科，⁴⁾ 東京都神経科学総合研究所神経病理研究部門)：家族歴を有し，痴呆で発症したcorticobasal degenerationと考えられる一剖検例。第58回臨床神経病理懇話会，1997. 11.
- 36) 枝川聖子¹⁾，川並汪一¹⁾，ガジザデ・モハマド¹⁾，金 恩京¹⁾，清水 一¹⁾，渡会泰彦²⁾，太田吉男³⁾，片山博徳⁴⁾，清水秀樹 (¹⁾ 老人病研究所病理部門，²⁾ 付属病院病理部，³⁾ 第二病院病理，⁴⁾ 多摩永山病院病理部)：本学における気管支肺胞洗浄法の診断的役割と現況 (平成9年)。日本医科大学医学会第94回例会，1998. 2.

[千葉北総病院中央検査室]

研究概要

当中央検査室では，診療支援体制を拡充させるために各診療科と密接な関係を重視し，各科への研究協力と院内感染対策委員会や病院内環境での衛生面に関する清浄度調査など種々の活動を実施した。また，臨床面においては各診療科の特徴的な傾向を加味して，我々臨床検査技師として積極的な寄与活動を行うとともに，日常の検査を通して得られた稀な査結果や中央検査室の運用面における問題点に対し，検討と考察を行いその成果を学会に発表した。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 野本剛史，町田幸雄，石渡統夫，亀山雅弥：保険医療と臨床検査に関する問題点への対応：特に収益の向上と意識改革について。第46回日本臨床衛生検査学会，1997. 5.
- 2) 石渡統夫，西村とき子，野本剛史：抗てんかん薬を飲み忘れ救急外来に搬送された1症例。第46回日本臨床衛生検査学会，1997. 5.
- 3) 西村とき子，石渡統夫，亀山雅弥，野本剛史：血栓エコー像に類似した下大静脈の石灰化。第46回日本臨床衛生検査学会，1997. 5.
- 4) 町田幸雄，目黒真喜子，野本剛史，水野杏一：検査業務管理支援システムの構築：検査室経営管理。第65回日

本医科大学医学会総会, 1997. 9.

- 5) 野本剛史, 三谷真実江, 日黒真喜子, 石渡統夫, 町田幸雄, 亀山雅弥, 水野杏一, 牧野俊郎¹⁾ (1) 新東京国際空港クリニック: 新東京国際空港クリニックにおける診療支援体制: 特に臨床検査体制について. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 6) 日黒真喜子, 町田幸雄, 野本剛史, 水野杏一: サーモグラフィー検査の現状と今後: 特に手指尖について. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 7) 亀山雅弥, 野本剛史, 水野杏一: 開院後4年次における検出菌・薬剤感受性率の変動. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 8) 石渡統夫, 野本剛史, 水野杏一: 薬物血中濃度と脳波についての1症例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 9) 三谷真実江, 野本剛史, 水野杏一: 持続性に完全左脚ブロック (CLBBB) を呈した心電図が後に正常化した1症例. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.

[千葉北総病院薬剤科]

研究概要

1997年4月に薬剤師法25条の2が改定され, 「調剤した薬剤の適正な使用のために必要な情報を患者に提供すること」が義務化された. 薬剤師の責務が, 調剤薬の重複投与や相互作用のチェックだけでなく, 医薬品の適正使用に対しての責任も負ったことになる. 医薬品の適正使用を前提とした患者への情報提供についての研究に取り組んでいきたい.

研究業績

論文

[1996年度追加分]

綜説:

- 1) 浜田康次: 新薬情報 21, 新薬のプロファイル. 主任アンド中堅 1996; 6 (6): 105-109.
- 2) 浜田康次: 臨床薬剤師の現状と必要とされる情報. 薬学図書館 1997; 42 (3): 333-338.

(1) 綜説:

- 1) 浜田康次: 老人医療でよく使用される薬の知識13. 老人看護ぶらす介護 1997; 4 (5): 111-117.
- 2) 浜田康次: 老人医療でよく使用される薬の知識14. 老人看護ぶらす介護 1997; 4 (6): 105-112.
- 3) 浜田康次: 患者心理とカウンセリング. 薬局 1997; 48 (7): 156-157.
- 4) 浜田康次: 医薬品供給システム. 薬局 1997; 48 (8): 130-131.
- 5) 浜田康次: 薬学教育. 薬局 1997; 48 (9): 126-127.
- 6) 浜田康次: 前臨床試験. 薬局 1997; 48 (10): 134-135.
- 7) 浜田康次: 人類が再び, 感染症に敗れる日 (その1) 抗菌スペクトラムの一思案. 都薬雑誌 1997; 19 (10): 39-46.
- 8) 浜田康次: 医薬分業. 薬局 1997; 48 (11): 132-133.
- 9) 浜田康次: 人類が再び, 感染症に敗れる日 (その2), 抗菌スペクトラムの応用. 都薬雑誌 1997; 19 (11): 24-30.
- 10) 浜田康次: インフォームド・コンセント. 薬局 1997; 48 (12): 116-117.
- 11) 浜田康次: ニューテクノロジー (総論). 東京都病院薬剤師会雑誌 1998; 47 (1): 48-51.
- 12) 浜田康次: 患者への情報提供. 薬局 1998; 49 (2): 136-137.

13) 浜田康次：ゲット・ジ・アンサー．薬局 1998；49（3）：136-137.

著 書

- 1) 浜田康次，長沢紘一¹⁾，村田正弘²⁾，吉岡優子³⁾，哲翁弥生⁴⁾，阿部和史⁵⁾，倉本敦夫⁶⁾，河野早苗⁷⁾，家入一郎⁸⁾，杉浦伸一⁹⁾，木崎景一郎¹⁰⁾（¹⁾ 日本医大多摩永山病院内科，²⁾ 日本医大多摩永山病院薬剤科，³⁾ アポプラスステーション，⁴⁾ 日本医大付属病院第1内科，⁵⁾ 都立府中病院薬剤科，⁶⁾ 都立墨東病院薬剤科，⁷⁾ フジアポテコ，⁸⁾ 九州大学大学院薬学研究科，⁹⁾ 山田赤十字病院薬剤科，¹⁰⁾ アポプラスステーション）：〔分担〕薬剤編．カルテの読み方と基礎知識，1997；pp209-248，薬業時報社.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 高田雅史：当院開設以来の急性中毒症例の検討．千葉県病院薬剤師会北部支部学術研修会，1998．1.
- 2) 高田雅史，片岡博邦，犬塚 祥¹⁾，森田良平¹⁾，東 和明¹⁾，中村 敏¹⁾，工広紀斗司¹⁾，原 義明¹⁾，小川理郎¹⁾，小池 薫¹⁾，益子邦洋¹⁾，横田裕行²⁾，山本保博²⁾（¹⁾ 千葉北総病院救命救急部，²⁾ 日本医大救命医学科）：当院開設以来の急性中毒症例の検討．日本中毒学会東日本部会，1998．1.
- 3) 浜田康次，佐藤直子¹⁾，阿部和史²⁾，矢部恵子³⁾，小清水敏昌³⁾，宇田和夫⁴⁾，望月真弓⁵⁾，大塚尚武⁶⁾（¹⁾ 東邦大学佐倉病院薬剤科，²⁾ 都立府中病院薬剤科，³⁾ 順天堂大学浦安病院薬剤科，⁴⁾ ファーコス，⁵⁾ 千葉大学薬学部，⁶⁾ 福神）：薬剤師による患者への薬剤情報提供に関する研究（第1報）：副作用用語の辞書化について．日本薬学会118年会（京都），1998．3.

[千葉北総病院中央画像検査室]

研究概要

中央画像検査室では，診療用画像検査全般を取り扱う部門であることから，それぞれの画像検査についての研究を日常的に行っています．一般撮影部門では，CRの画像処理パラメータの条件に対する検討や骨密度測定の精度向上及び撮影時の整位の研究開発を各診療科との連携において進めています．透視撮影部門では，胃前壁二重造影を中心に体型別撮影技術の研究開発が中心となっています．MRI検査部門では，造影3D MRAの血流背景信号の抑制による検出能の改善，クエン酸鉄アンモニウム製剤を用いた消化管信号の除去，STAR法を用いた頭部MRAの撮像条件の検討を中心に骨盤部の疑解像信号抑制やMRCP等の研究も進めています．CT検査部門では，3DCTの信頼性の向上を目的に設定条件の検討を行っています．RI検査部門では，SPECTにおける呼吸動態と心筋の信号検出能との関係に対する検討やMRIとRIの技術を応用した循環器系の研究を進めています．特にMRI検査部門では，日本放射線技術学会において年間最優秀論文賞をはじめ数々の賞を受ける等目覚ましいものがあります．今後の課題として放射線治療部門の創設に伴う治療技術の研究や画像診断を総合的取り扱った研究等があり，他にも課題は多く存在しているものと認識しています．

研究業績

論 文

(1) 原著：

- 1) 加藤文司，斉藤晴美，富里謙一，丸山智之，渡辺典男，川村義彦：Multi Shot Inversion Recovery Echo Planar T2強調画像におけるクエン酸鉄アンモニウム製剤を用いた消化管信号除去の実験的検討．日本放射線技術学会誌 1997；53（11）：1691-1696.

- 2) 加藤丈司, 川村義彦, 齊藤晴美, 伊藤公一郎¹⁾, 岡田 進¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属千葉北総病院放射線科) : Signal Targeting with Alternating Radiofrequency (STAR) 法を用いた頭部MR Angiographyの撮像条件の基礎的検討. 日本放射線技術学会誌 1997; 54 (12) : 1809-1815.
- 3) 加藤丈司, 川村義彦: Magnetization Prepared Rapid Gradient Echoを用いた造影3D MR angiography: 血流背景信号の抑制を目的とした緩和回復期の検討. 日本放射線技術学会誌 1998; 54 (01) : 1-6.
- 4) 加藤丈司, 川村義彦: 造影剤を使用するMR angiography: 造影MR angiography撮影のテクニック. INNERVISION 1998; 13 (1) : 98-104.

著 書

- 1) 渡辺典男, 川村義彦, 鈴木 健¹⁾, 伊藤博元²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院放射線科, ²⁾ 日本医科大学付属病院整形外科) : [共著] 肩関節部撮影法 その1. 診療画像検査のポイント, 1997; pp40-43, 医療科学社.
- 2) 渡辺典男, 川村義彦, 鈴木 健¹⁾, 伊藤博元²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院放射線科, ²⁾ 日本医科大学付属病院整形外科) : [共著] 肩関節部撮影法 その2. 診療画像検査のポイント, 1997; pp44-51, 医療科学社.
- 3) 渡辺典男, 川村義彦, 鈴木 健¹⁾, 玉井健介²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院放射線科, ²⁾ 日本医科大学付属千葉北総病院整形外科) : [共著] 関節部を中心とした四肢骨の撮影法. 診療画像検査のポイント, 1997; pp59-65, 医療科学社.
- 4) 伊藤孝雄¹⁾, 阿部正己²⁾, 遠藤祐二³⁾, 神山辰彦¹⁾, 佐藤 齊⁴⁾, 丸山智之, 渡辺典男 (¹⁾ 自治医科大学付属病院, ²⁾ 越谷市立病院, ³⁾ 日本大学医学部付属板橋病院, ⁴⁾ 茨城県立医療大学) : [共著] 日常的X線検査の撮影条件検討班報告. 日本放射線技術学会雑誌, 1997; pp1826-1849, 日本放射線技術学会.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 加藤丈司: IR preparation Fast SPGRを用いたGd-DTPA持続静注3D MR angiographyの撮像パラメータの検討. 日本放射線技術学会, 1997. 4.

(2) 一般講演:

- 1) 加藤丈司, 齊藤晴美, 富里謙一, 櫻井 実, 川村義彦: Signal Targeting with Alternating Radiofrequency (STAR) 法を用いた頭部MR Angiographyの撮像条件の基礎的検討: 撮像面saturation pulseとin flow inversion slabの最適化. 日本放射線技術学会, 1997. 4.
- 2) 富里謙一, 加藤丈司, 川村義彦, 榎 利夫¹⁾, 土橋俊男¹⁾, 鈴木 健¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院放射線科) : Echo Planar Imaging (FLAIR) におけるsequenceの検討. 日本放射線技術学会, 1997. 4.
- 3) 丸山智之, 河原崎昇, 渡辺典男, 川村義彦: ペイシエント・ケアを考える: 撮影時に於ける患者さんのコントロールについて. 日本放射線技師会, 1997. 6.
- 4) 櫻井 実, 川村義彦: 幾何学椎体モデルによる腰椎骨密度側面測定 of the 誤差要因の検討. 日本医学物理学会, 1997. 7.
- 5) 富里謙一, 齊藤晴美, 櫻井 実, 加藤丈司, 川村義彦, 榎 利夫²⁾, 土橋俊男²⁾, 片桐究代¹⁾, 伊藤公一郎¹⁾, 岡田 進¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属千葉北総病院放射線科, ²⁾ 日本医科大学付属病院放射線技師室) : EPI-FLAIR 法におけるsequenceの検討. 千葉MR研究会, 1997. 7.
- 6) 加藤丈司, 齊藤晴美, 富里謙一, 丸山智之, 渡辺典男, 川村義彦, 趙 圭一¹⁾, 伊藤公一郎¹⁾, 田島なつき¹⁾, 岡田 進¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属千葉北総病院放射線科) : MR Cholangiopancreatographyにおける消化管信号除去の検討. 日本磁気共鳴医学会, 1997. 9.
- 7) 中村亜矢, 石川邦芳¹⁾, 酒井良介²⁾, 浦川善洋³⁾ (¹⁾ 順天堂大学浦安病院, ²⁾ 社会保険船橋中央病院, ³⁾ 千葉西

- 総合病院)：核医学検査中におけるリラクゼーションを考える：第1報：患者へのアンケートより。千葉核医学研究会，1997. 9.
- 8) 斉藤晴美，櫻井 実，加藤丈司，川村義彦，趙 圭一¹⁾，岡田 進¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属千葉北総病院放射線科)：MRIを用いた安静時呼吸下における左室壁変位の評価。日本磁気共鳴医学会，1997. 9.
 - 9) 加藤丈司，斉藤晴美，富里謙一，川村義彦：Echo Planar T2強調画像における消化管信号除去の検討。日本放射線技術学会，1997. 10.
 - 10) 田村 京，塩野純子，渡辺典男，川村義彦，三浦靖則¹⁾ (¹⁾ 富士銀行健康管理センター)：前壁二重造影法における圧迫枕の有用性。日本放射線技師会，1997. 10.
 - 11) 河原崎昇，丸山智之，高岡慎市，渡辺典男，川村義彦，三浦靖則¹⁾ (¹⁾ 富士銀行健康管理センター)：注腸検査における枕圧迫法の試み。日本放射線技師会，1997. 10.
 - 12) 櫻井 実，汲田伸一郎²⁾，趙 圭一¹⁾，鬼塚鉄雄，中村亜矢，川村義彦，岡田 進¹⁾，隈崎達夫²⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属千葉北総病院放射線科，²⁾ 日本医科大学付属病院放射線科)：心筋SPECTにおける横隔膜による後下集積減衰の補正。日本核医学学会総会，1997. 11.
 - 13) 加藤丈司，川村義彦，富里謙一，斉藤晴美，丸山智之，渡辺典男：造影MR angiographyのsimulationによる検討。日本放射線技術学会，1997. 11.
 - 14) 加藤丈司，川村義彦，富里謙一，斉藤晴美，丸山智之，渡辺典男：Spectral Selective Inversion Recoveryの検討。日本放射線技術学会，1997. 11.
 - 15) 富里謙一，斉藤晴美，櫻井 実，加藤丈司，渡辺典男，川村義彦，三浦靖則¹⁾ (¹⁾ 富士銀行健康管理センター)：骨盤部MRIにおける画質向上の検討：Motion Artifact (Ghost) の抑制。日本放射線技術学会，1997. 11.
 - 16) 有馬光一，中野 徹，松丸和弘，川村義彦：ヘリカルCTにおける肝微細病変の抽出能の検討。日本放射線技術学会，1997. 11.
 - 17) 松丸和弘，中野 徹，有馬光一，川村義彦：3D-CTAにおける撮影条件が血管注出能に及ぼす影響。日本放射線技術学会，1997. 11.

〔4〕 付置研究施設

1. 老人病研究所

[分子病理学部門]

研究概要

昨年6月以来準備中の研究内容は、

[1] 上皮細胞の中間径フィラメントタンパクよりみた気道基底細胞の特徴

基底細胞は気道上皮細胞すべてのprogenitor cellとみなされてきた。しかし、(a) 動物種によっては基底細胞を欠く、(b) ヒトにおいては基底細胞とbronchiolar cuboidal cellの増殖様式が良く似ている、(c) その領域にはクララ細胞も存在し形態学的鑑別が難しい、(d) 癌化する場合1個の細胞が母細胞となるが肺癌ではどの細胞なのか現状で説明できない。今年度の結果によると (a) 基底細胞はクララ細胞やbronchiolar cuboidal cellとは別個の特徴を備えており (b) クララ細胞がすべての母細胞である可能性を示唆できた。次に、

[2] 内皮細胞のモザイク状抗原性発現について

肺微小血管系は、肺動脈系と気管支動脈系が吻合しつつそれぞれの循環動態を維持している。肺組織の微小血管の中、肺動脈系には右心室由来の静脈血が流れ、肺胞毛細血管にてガス交換をする。

一方、気管支動脈系は大動脈由来の動脈血であり、気管支、胸膜などの結合織に分布し同部位の栄養血管としての役割をはたす。

さてthrombomodulinは内皮細胞の膜表面受容体である。thrombinを結合することでprotein Cを活性化しanticoagulantとしての作用を発揮する。一方、coagulantとして知られるvon Willebrand factor (第8因子関連抗原)はすべての内皮細胞に存在するため、血管内皮細胞の標識抗原といわれる。免疫組織化学反応のレベルで見ると現実にはこの抗原は肺胞毛細血管に発現されず、広い結合組織領域の血管系に集約されている。両抗原の抗体を用い、蛍光抗体二重染色を試みると両血管系の接点領域で内皮細胞は両者の抗原性を持ち合わせモザイク状分布をなす事実を見いだした。病変でこのモザイクの変化を追求することが今後の課題である。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著：

- 1) 清水 一, 佐藤 茂¹⁾, 大石一二三²⁾, 森 修³⁾, 森 隆, 大網 弘⁴⁾ (1) 中央電頭, 2) 協同乳業, 3) 北総病院病理, 4) 観音台クリニック) : アルツハイマー型老年痴呆におけるプロテオグリカンの動態. 日本老年医学会誌 1997 ; 34 (6) : 461-467.

(1) 原著：

- 1) Ghazizadeh M, Sasaki Y¹⁾, Araki T²⁾, Konisi H²⁾, Aihara K¹⁾ (1) Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Prognostic value of proliferative activity of ovarian carcinoma as revealed by PCNA and AgNOR analyses. Am J Clin Pathol 1997 ; 107 : 451-458.
- 2) Miyata N¹⁾, Ghazizadeh M, Araki T²⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, National Defense, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Silver staining of nucleolar organizer regions in keloid scars. Ann Plast Surg 1997 ; 38 : 438-438.

- 3) Ghazizadeh M, Miyata N¹⁾, Sasaki Y²⁾, Araki T³⁾, Aihara K²⁾ (1) Department of Plastic and Reconstructive Surgery, National Defense, 2) Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School, 3) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Silver stained nucleolar organizer regions in hypertrophic and keloid scars. *Am J Dermatopathol* 1997 ; 19 : 467-472.
 - 4) Ghazizadeh M, Ogawa H¹⁾, Sasaki Y²⁾, Araki T¹⁾, Aihara K²⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, 2) Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School) : Mucin carbohydrate antigens (T, Tn, and sialyl -Tn) in human ovarian carcinoma : Relationship with histopathology and prognosis. *Hum Pathol* 1997 ; 28 : 960-966.
- (2) 総説 :
- 1) Kawanami O : The endothelium of the pulmonary microvessels. *J Nippon Med Sch* 1997 ; 64 : 495-511.

学会発表

〔1996年度追加分〕

一般講演 :

- 1) Ghazizadeh M, Ogawa H¹⁾, Sasaki Y²⁾, Konisi H²⁾, Araki T²⁾, Aihara K¹⁾ (1) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, 2) Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School) : Expression of MUC-1 and MUC-2 gene products in human ovarian carcinoma. 第1回産婦人科腫瘍マーカーと遺伝子診断学会, 1997. 2.

(1) 特別講演 :

- 1) Kawanami O : The microvascular endothelium in the lung. *International Conference of Small Airway Disease*, 1998. 2.
- 2) 川並汪一 : 肺の微小血管内皮細胞の形態学的特異性. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 3) 川並汪一 : 気道上皮細胞の肺胞修復への関与と微小血管について. 第1回アレルギー気道上皮細胞研究会, 1997. 11.

(2) シンポジウム :

- 1) 川並汪一 : 気道系毛細血管の肺胞毛細血管リモデリングへの関与について. 第47回アレルギー学会, 1997. 11.

(3) ワークショップ :

- 1) 川並汪一 : 線維化肺胞壁の再生上皮細胞と微小血管内皮細胞・細気管支肺胞上皮癌との関係. 第38回呼吸器学会, 1998. 3.

(4) 一般講演 :

- 1) Ghazizadeh M, Sasaki Y¹⁾, Inoue K¹⁾, Ogawa H²⁾, Konisi H²⁾, Araki T²⁾, Aihara K¹⁾ (1) Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Mucin carbohydrate antigens (T, Tn, and sialyl-Tn) in human ovarian carcinoma : Relationship with histology and prognosis. *XVI European Congress of Pathology (Maastricht)*, 1997. 9.
- 2) Ghazizadeh M, Sasaki Y¹⁾, Inoue K¹⁾, Ogawa T²⁾, Konisi H²⁾, Araki T²⁾, Aihara K¹⁾ (1) Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : Expression of apoptosis regulating gene products in human ovarian carcinoma. 第86回日本病理学会, 1997. 6.
- 3) Liu A¹⁾, Ghazizadeh M, Aihara K¹⁾ (1) Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon

- Medical School) : Ultrastructural and immunohistochemical studies on myocardial microvessels in Kawasaki diseases. 86th Japan Pathology Society Congress, 1997. 6.
- 4) Ghazizadeh M, Sasaki Y¹⁾, Inoue K¹⁾, Ogawa H²⁾, Konisi H²⁾, Araki T²⁾, Aihara K¹⁾ (1) Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical School, 2) Department of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School) : MUC1 mucin gene products in human ovarian tumors. 第56回癌学会, 1997. 9.
 - 5) 清水 一, 森 隆, 枝川聖子, 佐藤 茂¹⁾, 今津 修²⁾, 大網 弘³⁾ (1) 中央電顕, 2) 千葉北総病院病理, 3) 観音台クリニック) : アルツハイマー型老年痴呆における老人斑 : 神経原線維変性とグリア細胞との関連について. 第86回日本病理学会, 1997. 6.
 - 6) 金 恩京, ガジザデ・モハマッド, 川並汪一, 新井 悟¹⁾, 松本光司²⁾, 武村民子³⁾, 大秋美治¹⁾ (1) 千葉北総病院病理部, 2) 第二病院病理部, 3) 日赤医療センター病理部) : 細気管支肺胞上皮癌の組織化学的特徴 : 正常肺上皮細胞との比較. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 7) 久吉隆郎¹⁾, 平田知巳¹⁾, 三嶋拓也¹⁾, 川村 純¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 日置正文¹⁾, 佐藤雅史²⁾, 松本光司³⁾, 川並汪一, 田中茂夫⁴⁾ (1) 第二病院外科, 2) 第二病院放射線科, 3) 第二病院病理部, 4) 第2外科) : 肺リンパ系増殖性疾患症例の検討. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
 - 8) 小黒辰夫¹⁾, 大秋美治¹⁾, ガジザデ・モハマッド, 浅野伍朗²⁾ (1) 千葉北総病院, 2) 第2病理) : FSEMの外科領域への応用 : 特に皮膚疾患を中心に. 第29回臨床電顕学会, 1997. 10.
 - 9) 佐佐木喜広¹⁾, 佐藤 茂¹⁾, 鈴木克哉¹⁾, 安達彰子¹⁾, 井上京子¹⁾, ガジザデ・モハマッド, 並松茂樹²⁾, 五十嵐俊夫³⁾, 若松恭子⁴⁾, 山中宣昭⁴⁾ (1) 中央電顕, 2) 付属病院病理部, 3) 都立母子保健院, 4) 第1病理) : 腎皮質における結合組織の加齢による変化. 第29回臨床電顕学会, 1997. 10.
 - 10) 金 恩京, ガジザデ・モハマッド, 枝川聖子, 清水 一, 川並汪一 : 細気管支肺胞上皮癌における血管内皮細胞の表現型の転換. 第8回外国人留学者研究発表会, 1997. 11.
 - 11) 枝川聖子, 川並汪一, ガジザデマハマッド, 金 恩京, 清水 一, 渡会泰彦¹⁾, 太田吉男²⁾, 片山博徳³⁾, 清水秀樹⁴⁾ (1) 付属病院病理, 2) 第二病院病理部, 3) 多摩永山病院病理部, 4) 千葉北総病院病理部) : 本学における気管肺細胞洗浄法の診断適役割と現況. 日本医科大学医学会第94回例会, 1998. 2.

[生化学部門]

研究概要

生化学部門(大学院細胞生物学科目)研究室は, 長期的には, 分子レベルで老化現象を解明し, 老人病の解明と対策を可能にするのが研究目標である. 中期的には, 「細胞死のメカニズムの解明」, 「神経細胞死が進行するアルツハイマー病などの脳変性疾患」, 「ミトコンドリアゲノムの体細胞変異の意義とメカニズム」の研究を中心に行っている. いずれのテーマもミトコンドリア機能を重視しながら研究を進めているところに特徴があり, それぞれのテーマの接点でもある.

1) 細胞死のメカニズムに関しては, ミトコンドリア蛋白アポトーシス誘導因子Bax の立体構造が推定され, Bax が哺乳類細胞にアポトーシスを誘導するだけでなく, 細菌にまで死をひきおこすこと, 活性酸素がその機能にかかわっていることを明らかにした. ミトコンドリアの電子伝達系cytochrome *c*結合蛋白であるHinge蛋白を過剰発現させることによってアポトーシスが引き起こされることを証明し, cytochrome *c*がミトコンドリアから遊離することが死の引き金になることを確認した.

2) アルツハイマー病はミトコンドリア機能異常の観点から遺伝学的なassociation studyが行われた. α -ケトグルタル酸脱水素酵素の中心酵素DLST (dihydrolipoamide succinyltransferase) の異常という観点から調べ, DLST の特定の遺伝子型がアルツハイマー病と相関関係があることを発見した. DLST蛋白はミトコンドリアに局在するは

ずであるが、細胞質膜に存在するDLST遺伝子由来の異常蛋白質が検出されており、アルツハイマー病との関連を調べている。

3) ミトコンドリアゲノム研究では、極わずかな変異を効率よく調べる方法を樹立した。この方法によって、老化とミトコンドリア遺伝子の体細胞変異の関連を本格的に研究できるシステムができあがった。

4) また、眼科との共同研究では日本人の家族性緑内障遺伝子変異が同定された。早老症の原因遺伝子と早老症の関連の研究も手がけている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Grillot DA¹⁾, Gonzalez-Garcia M¹⁾, Ekhterae D¹⁾, Duan L¹⁾, Inohara N, Ohta S, Seldin MF²⁾, Nunez G¹⁾
(¹⁾ University of Michigan Medical School, (²⁾ University of California-Davis) : Genomic organization, promoter region analysis, and chromosome localization of the mouse bcl-x gene. *J Immunol* 1997 ; 158 : 4750-4757.
- 2) Aritomi M¹⁾, Kunishima N¹⁾, Ishibashi Y, Inohara N, Ohta S, Morikawa K¹⁾ (¹⁾ 生物分子工研) : Crystal structure of rat Bcl-x_L : Implication for the function of the Bcl-2 protein family. *J Biol Chem* 1997 ; 272 : 27866-27892.
- 3) Asoh S, Ohta S : Bcl-2 completely blocks Fas-mediated apoptosis in mtDNA-depleted HeLa cells. *Biochem Biophys Res Commun* 1997 ; 237 : 659-662.
- 4) Suzuki Y¹⁾, Shirato S²⁾, Taniguchi F²⁾, Ohara K¹⁾, Nishimaki K, Ohta S (¹⁾ 付属病院・眼科, ²⁾ 東大・眼科) : Mutations in the TIGR gene in familial primary open-angle glaucoma in Japan. *Am J Hum Genet* 1997 ; 61 : 1202-1204.
- 5) Nakano K¹⁾, Ohta S, Nishimaki K, Miki T²⁾, Matuda S³⁾ (¹⁾ 鹿児島女子短大・生化, ²⁾ 大阪大・医・4内, ³⁾ 鹿屋体育大・生物) : Alzheimer's disease and DLST genotype. *Lancet* 1997 ; 350 : 1367-1368.
- 6) Namekata K¹⁾, Imagawa M²⁾, Terashi A³⁾, Ohta S, Oyama F¹⁾, Ihara Y¹⁾ (¹⁾ 東大・医・脳研・病理, ²⁾ 兵庫県立尼崎病院, ³⁾ 付属病院・第2内科) : Association of transferrin C2 allele with late-onset Alzheimer's disease. *Hum Genet* 1997 ; 101 : 126-129.
- 7) Matuda S¹⁾, Kodama J¹⁾, Goshi N¹⁾, Takase C²⁾, Nakano K²⁾, Nakagawa S³⁾, Ohta S (¹⁾ 鹿屋体育大・生物, ²⁾ 鹿児島女子短大・生化, ³⁾ 鹿児島大・医・解剖) : A polypeptide derived from mitochondrial dihydrolipoamide succinyltransferase is located on the plasma membrane in skeletal muscle. *Biochem Biophys Res Commun* 1998 ; 241 : 151-156.
- 8) Okazaki M, Ishibashi Y, Asoh S, Ohta S : Overexpressed mitochondrial hinge protein, a cytochrome c-binding protein, accelerates apoptosis by enhancing the release of cytochrome c from mitochondria. *Biochem Biophys Res Commun* 1998 ; 243 : 131-136.
- 9) Ishibashi Y, Nishimaki K, Asoh S, Nanbu-Wakao R, Yamada T¹⁾, Ohta S (¹⁾ 東邦大・理・生物分子科学) : Pore formation domain of human pro-apoptotic Bax induces mammalian apoptosis as well as bacterial death without antagonizing anti-apoptotic factors. *Biochem Biophys Res Commun* 1998 ; 243 : 609-616.

(2) 綜説：

- 1) 麻生定光, 太田成男 : アポトーシスにおけるミトコンドリアの新しい役割. *神経精神薬理* 1997 ; 19 (10) : 967-970.
- 2) 太田成男 : シンポジウムのはじめに (特集: アポトーシスと関連疾患). *日医大誌* 1997 ; 64 (5) : 73-76.

- 3) 麻生定光：アポトーシス誘導因子Baxの作用機作（特集：アポトーシスと関連疾患）。日医大誌 1997；64（5）：81-84.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) Ohta S, Nakano K¹⁾, Miki T²⁾, Matuda S³⁾ (¹⁾ 鹿児島女短大・生化学, ²⁾ 愛媛大・医・老年医学, ³⁾ 鹿屋体育大・生物) : Genetic association of Alzheimer's disease with the nuclear and mitochondrial genes encoding mitochondrial proteins. COE International Symposium on Alzheimer's Disease, Approach from FAD Genes (Tokyo), 1998. 3.
- 2) 太田成男：アポトーシスと関連疾患 オーバービュー（主題：アポトーシスと関連疾患）。日本医科大学医学会第7回公開シンポジウム, 1997. 6.
- 3) 麻生定光：アポトーシス誘導因子Baxの作用機作（主題：アポトーシスと関連疾患）。日本医科大学医学会第7回公開シンポジウム, 1997. 6.
- 4) 太田成男：ミトコンドリア脳筋症の遺伝子治療の展望（主題：遺伝子治療の現状と展望）。第15回日本神経治療学会総会, 1997. 6.
- 5) 太田成男：シグナル伝達病 (2) (ミトコンドリア病, 遺伝子伝達病)。神奈川科学技術アカデミー「医薬品開発のためのシグナル伝達コース」, 1997. 6.
- 6) 太田成男：ミトコンドリア病：未知の病気の原因（ミトコンドリアDNAからの探索）。一般公開講演会「増殖し続ける細胞内社会の主役—ミトコンドリア」, 1997. 10.
- 7) 太田成男：ミトコンドリア損傷に対する核の応答（主題：核とオルガネラのクロストークによる遺伝的制御）。日本遺伝学会第69回大会シンポジウム, 1997. 11.
- 8) 太田成男：ミトコンドリア病におけるミトコンドリアtRNA遺伝子の体細胞変異と変異tRNA分子の性質。第1回公開シンポジウム「RNA動的機能の分子基盤」, 1998. 1.
- 9) 太田成男：アポトーシスの概要と分子機構（シンポジウム I 細胞死と再生）。第35回日本臨床代謝学会学術総会, 1998. 3.

(2) ワークショップ：

- 1) 岡崎光洋, 石橋佳朋, 麻生定光, 太田成男：シトクロム *c* 及びシトクロム *c* 結合タンパクの過剰発現によってアポトーシスは促進される。第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.

(3) 一般講演：

- 1) Suzuki Y¹⁾, Shirato S²⁾, Ohta S (¹⁾ 付属病院眼科, ²⁾ 東大・眼科) : Search for TIGR gene mutations in POAG in Japanese. 1st Inaugural Scientific Meeting of Asian-Oceanic Glaucoma Society (Singapore), 1997. 4.
- 2) Takahashi T¹⁾, Asoh S, Azuma A¹⁾, Abe S¹⁾, Hashimoto Y¹⁾, Enomoto T¹⁾, Uematsu K¹⁾, Murata A¹⁾, Yoshimura A¹⁾, Wakao R, Kudoh S¹⁾, Ohta S (¹⁾ 付属病院・第4内科) : High expression of Bcl-2 protein in BAL cells from patients with sarcoidosis. American Thoracic Society. 1997 International Conference (San Francisco), 1997. 5.
- 3) Takahashi T¹⁾, Asoh S, Azuma A¹⁾, Abe S¹⁾, Murata A¹⁾, Ohohara K²⁾, Ohta S, Kudoh S (¹⁾ 付属病院・第4内科, ²⁾ 付属病院・眼科) : The expression of Bcl-2 and Bcl-x_L proteins in BALF cells prepared from Sarcoidosis patients. International 5th WASOG Meeting. Congress on Sarcoidosis, Granulomatous and Vasculitic Disorders (Essen, Germany), 1997. 9.
- 4) 阿部信二¹⁾, 高橋卓夫¹⁾, 麻生定光, 吾妻安良太¹⁾, 橋元恭士¹⁾, 榎本達治¹⁾, 植松和嗣¹⁾, 村田 朗¹⁾, 吉村明

- 修¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 太田成男⁽¹⁾ 付属病院・第4内科):サルコイドーシス患者のBALF細胞におけるBcl-2, Bcl-x_L 蛋白の発現. 第37回日本胸部疾患学会総会, 1997. 4.
- 5) 鈴木康之¹⁾, 大原國俊¹⁾, 谷口富美子²⁾, 白土城照³⁾, 太田成男⁽¹⁾ 付属病院・眼科, ²⁾ 大宮赤十字病院・眼科, ³⁾ 東大・眼科):開放隅角緑内障におけるTIGR gene mutationの検索. 第8回日本緑内障学会, 1997. 7.
- 6) 石橋佳朋, 若尾りか, 西槇貴代美, 麻生定光, 猪原直弘, 有富正治¹⁾, 国嶋直樹¹⁾, 森川耿右¹⁾, 山田 武²⁾, 太田成男⁽¹⁾ 生物分子工学研・構造解析, ²⁾ 東邦大・院・生物分子科学):アポトーシス促進因子Baxの構造と分子機能. 第6回アポトーシス研究会, 1997. 8.
- 7) 高橋卓夫¹⁾, 麻生定光, 吾妻安良太¹⁾, 持丸 博¹⁾, 阿部信二¹⁾, 宮本晴子¹⁾, 橋元恭士¹⁾, 榎本達治¹⁾, 村田朗¹⁾, 高崎雄司¹⁾, 大原國俊²⁾, 工藤翔二¹⁾, 太田成男⁽¹⁾ 付属病院・第4内科, ²⁾ 付属病院・眼科):サルコイドーシス患者のBALF細胞におけるアポトーシス抑制因子の関与. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 8) 西槇貴代美, 太田成男: 早老症Progeria患者における遺伝子解析. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 9) 西槇貴代美, 山中香穂里, 藤川 敏¹⁾, 太田成男⁽¹⁾ 独協医大・越谷病院・小児科): 早老症Progeria患者におけるWRN遺伝子の解析. 第70回日本生化学会大会, 1997. 9.
- 10) 石橋佳朋, 若尾りか, 西槇貴代美, 麻生定光, 山田 武¹⁾, 太田成男⁽¹⁾ 東邦大・院・生物分子科学): Bcl-2やBcl-x蛋白では抑制できないアポトーシスを変異Bax蛋白が誘導する. 第70回日本生化学会大会, 1997. 9.
- 11) 麻生定光, 西槇貴代美, 石橋佳朋, 太田成男: アポトーシス促進因子ヒトBax蛋白の発現による大腸菌の活性酸素傷害. 第70回日本生化学会大会, 1997. 9.
- 12) 岡崎光洋, 石橋佳朋, 西槇貴代美, 若尾りか, 麻生定光, 太田成男: cytochrome *c*の過剰発現により誘導されるアポトーシス. 第70回日本生化学会大会, 1997. 9.
- 13) 高瀬千義¹⁾, 中野恭子¹⁾, 中河志朗²⁾, 太田成男, 松田貞幸³⁾ ⁽¹⁾ 鹿児島女短大・生化学, ²⁾ 鹿児島大・医・一解剖, ³⁾ 鹿屋体育大・生物): ヒト・ジヒドロリポアミド・アセチル転移酵素遺伝子の構造解析. 第70回日本生化学会大会, 1997. 9.
- 14) 高橋卓夫¹⁾, 麻生定光, 吾妻安良太¹⁾, 持丸 博¹⁾, 阿部信二¹⁾, 宮本晴子¹⁾, 橋元恭士¹⁾, 榎本達治¹⁾, 村田朗¹⁾, 高崎雄司¹⁾, 大原國俊²⁾, 太田成男, 工藤翔二¹⁾ ⁽¹⁾ 付属病院・第4内科, ²⁾ 付属病院・眼科): サルコイドーシス患者のBALF細胞におけるアポトーシス抑制因子Bcl-2, Bcl-x_Lの蛋白量の検討. 第17回日本サルコイドーシス学会総会, 1997. 9.
- 15) 谷口富美子¹⁾, 鈴木康之²⁾, 白土城照³⁾, 太田成男⁽¹⁾ 大宮赤十字病院・眼科, ²⁾ 付属病院・眼科, ³⁾ 東大・眼科): 若年発症原発開放隅角緑内障の父娘に見られたTIGR遺伝子の変異. 第51回臨床眼科学会, 1997. 10.
- 16) 岡崎光洋, 石橋佳朋, 麻生定光, 太田成男: シトクロム *c*及びシトクロム *c*結合タンパクの過剰発現によってアポトーシスは促進される. 第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.
- 17) 安川武宏¹⁾, 上田卓也¹⁾, 太田成男, 林 純一²⁾, 渡辺公綱¹⁾ ⁽¹⁾ 東大院・工・化学生命工学, ²⁾ 筑波大・生命科学): ミトコンドリア病患者由来変異tRNAの安定性. 第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.
- 18) 麻生定光, 太田成男: ミトコンドリア機能の低下によるFas遺伝子発現の上昇. 第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.
- 19) 石橋佳朋, 若尾りか, 西槇貴代美, 麻生定光, 山田 武¹⁾, 太田成男⁽¹⁾ 東邦大・理・生物分子科学): N末端欠損変異Baxは, Bcl-2やBcl-xで抑制されることなく, アポトーシスを誘導する. 第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.
- 20) 若尾りか¹⁾, 麻生定光, 西槇貴代美, 田中理絵, 太田成男⁽¹⁾ 現ヘリックス研): アポトーシス促進因子とヒトBaxによる大腸菌の死は抗酸化的に機能する変異型RNaseEにより抑制される. 第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.
- 21) 西槇貴代美, 太田成男: ミトコンドリアtRNA^{Leu (UUR)} 遺伝子の体細胞3243変異は健常人の血液細胞でも加齢

- に伴い増加する。第20回日本分子生物学会年会，1997。12.
- 22) 有富正治¹⁾，国嶋直樹¹⁾，猪原直弘，石橋佳朋，太田成男，森川耿右¹⁾ (¹⁾ 生物分子工学研・構造解析)：アポトーシス抑制因子，ラットBcl-x_Lの結晶構造解析。第20回日本分子生物学会年会，1997。12.
- 23) 中野恭子¹⁾，太田成男，高瀬千義¹⁾，西楨貴代美，麻生定光，北村 伸²⁾，赫 彰郎²⁾，紙野晃人³⁾，吉岩 葵³⁾，三木哲朗³⁾，中河志朗⁴⁾，松田貞幸⁵⁾ (¹⁾ 鹿児島女子短大・生化，²⁾ 付属病院・第2内科，³⁾ 大阪大・医・4内，⁴⁾ 鹿児島大・医・1解，⁵⁾ 鹿屋体育大・生物)：孤発生アルツハイマー病はジヒドロリポアミド・サクシニル転移酵素遺伝子の多型と有意に相関 (associate) する。第20回日本分子生物学会年会，1997。12.
- 24) 中野恭子¹⁾，太田成男，高瀬千義¹⁾，西楨貴代美，麻生定光，北村 伸²⁾，赫 彰郎²⁾，紙野晃人³⁾，吉岩 葵³⁾，三木哲朗³⁾，中河志朗⁴⁾，松田貞幸⁵⁾ (¹⁾ 鹿児島女子短大・生化，²⁾ 付属病院・第2内科，³⁾ 大阪大・医・4内，⁴⁾ 鹿児島大・医・1解，⁵⁾ 鹿屋体育大・生物)：アルツハイマー病とミトコンドリア α -ケトグルタル酸脱水素酵素複合体のジヒドロリポアミドサクシニル転移酵素遺伝子の遺伝子型の相関。生体エネルギー研究会第23回討論会，1997。12.
- 25) 岡崎光洋，石橋佳朋，麻生定光，太田成男：アポトーシスのシグナルとしてのシトクロム *c*がミトコンドリアから放出される分子機構。生体エネルギー研究会第23回討論会，1997。12.

[免疫部門]

研究概要

当研究部門では，現在の如き研究が行われている。

花粉アレルギーないしはアレルギー性喘息発作におけるディーゼルエンジン排出ガス粒子 (Diesel exhaust particles, DEP) のアジュバント活性因子の同定とその作用機作を明らかにすべく，主にマウスを用いて研究している。

自己免疫病の発病機構に関する研究が，主に慢性関節リウマチ (RA) を中心に行われている。RA患者由来滑膜細胞を培養し，この培養滑膜細胞の細菌細胞壁ペプチドグリカンに対する反応性を検討している。

緑色レンサ球菌 (*Streptococcus mitis*, *S. mitis*) の一部の菌株 (Nm-65株) の代謝物質中にヒト血小板凝集因子の存在することを見出し，本凝集因子 (*S. mitis*-derived human platelet aggregation factor, Sm-hPAF) の精製を試みると共に，代謝物質の生化学的，生物学的，免疫学的性状について報告した。また，精製されたSm-hPAFのN-末端アミノ酸配列を15残基まで決定し，これを基にCassette PCR法を用いて，全塩基配列が決定された。

Sm-hPAFによるPRPを用いた血小板凝集反応は全てのヒトのPRPで惹起されるわけではなく，この反応を阻害する因子を血漿中に持つヒトが存在することが明らかにされた。この阻害因子に対するmAbが作製され，その精製と定量化の検討が行われている。

*S. pyogenes*ないしは*S. mitis*と培養血管内皮細胞との相互作用あるいはヒト末梢血由来の単球に対する作用が，主に転写因子 (NF- κ B) の活性化を中心に検討されている。

研究業績

論文

[1996年度追加分]

原著：

- 1) Suzuki T¹⁾，Kano H T¹⁾，Ishimori M²⁾，Ikeda S¹⁾，Ohkuni H (¹⁾ 都衛研，²⁾ 文化短大)：Adjuvant activity of diesel exhaust particulates (DEP) in production of anti-IgE and anti-IgG1 antibodies to mite allergen in mice. J Clin Lab Immunol 1996；57：187-199.

(1) 原著：

- 1) Okamoto T¹⁾, Sakurada S, Yang J¹⁾, Merin P¹⁾ (1) 名市大・医・分子遺伝)：Regulation of NF-kB and disease control : Identification of a novel serine kinase and thioredoxin as effectors for signal transduction pathway for NF-kB activation. *Current Topics in Cellular Regulation* 1997 ; 35 : 149-161.
- 2) Kato T¹⁾, Sakurada S, Yang J¹⁾, Matsui N¹⁾, Okamoto T¹⁾ (1) 名市大・医・分子遺伝)：Inhibition of IL-8 induction from rheumatoid synovial fibroblasts by treatment with aurothioglucose. *Ann Rheum Dis* 1997.
- 3) 太刀川貴子¹⁾, アウンキョニユン¹⁾, 宮永嘉隆¹⁾, 留目優子, 大国寿士 (1) 東京女子医大付属第2病院眼科)：コンタクトレンズ消毒液BL-49のアカントアメーバに対する消毒効果の検討。日本コンタクトレンズ学会誌 1998 ; 40.
- 4) 木村昭夫¹⁾, 留目優子, 大国寿士, 櫻田紳策, 山本保博²⁾ (1) 国立国際医療センター救急部, 2) 救急医学)：Moderate Hypothermia下における多核白血球の遊走並びに食食能の検討。日本救急医学会雑誌 1998 ; 9 : 18-19.

(2) 綜説：

- 1) 大国寿士, 留目優子：A群レンサ球菌の菌体成分について。化学療法の領域 1997 ; 13 : 2033-2042.
- 2) 大国寿士, 渡邊ユキノ：術後感染症の迅速診断法。消化器外科 1997 ; 20 : 1785-1793.
- 3) 大国寿士, 櫻田紳策：劇症溶連菌感染症。Bio Clinica 1997 ; 12 : 1033-1038.

著 書

- 1) Ohkuni H, Todome Y, Watanabe Y, Kotani S¹⁾ (1) 大阪医療技術)：〔分担〕Purification and partial characterization of a novel human platelet aggregation factor in the extracellular products of *Streptococcus mitis*, strain Nm-65. *Streptococci and the Host* (Horaud T, Bouvet A, Leclercq R, Montclos H, Sicard M eds.), 1997 ; pp689-693, Plenum Press, New York.
- 2) Matsushita K¹⁾, Uchiyama T²⁾, Igarashi H³⁾, Ohkuni H, Nagaoka S¹⁾, Kotani S⁴⁾ (1) 鹿児島大・歯・口腔細菌, 2) 東京女子医大・微生物, 3) 都衛研, 4) 大阪医療技術)：〔分担〕Possible pathogenic effect of *Streptococcus mitis* superantigen on oral epithelial cells. *Streptococci and the Host* (Horaud T, Bouvet A, Leclercq R, Montclos H, Sicard M eds.), 1997 ; pp685-688, Plenum Press, New York.
- 3) Okamoto T¹⁾, Sakurada S, Yang J¹⁾ (1) 名市大・医・分子遺伝)：〔分担〕Inhibitory of cytokines and ICAM-1 induction in rheumatoid fibroblasts by anti-NF-kB reagents. *Oxygen Homeostasis and Its Dynamics* (Ishimura Y, Shimada, H, Suematsu M eds.), 1997 ; pp438-449, Springer-Verlag, Tokyo.
- 4) Okamoto T¹⁾, Sakurada S, Yang J¹⁾, Takahashi N¹⁾ (1) 名市大・医・分子遺伝)：〔分担〕Redox regulation of the nuclear factor Kappa B (NF-kB) signaling pathway and disease control. *Oxygen Homeostasis and Its Dynamics* (Ishimura Y, Shimada, H, Suematsu M eds.), 1997 ; pp438-449, Springer-Verlag, Tokyo.
- 5) Okamoto T¹⁾, Sakurada S, Kato T¹⁾, Yoneyama A¹⁾, Tozawa K¹⁾, Yang J¹⁾, Takahashi N¹⁾ (1) 名市大・医・分子遺伝)：〔分担〕Redox regulation of the NF-kB signaling pathway and disease control. *Oxidative Stress in Cancer, AIDS, and Neurodegenerative Diseases* (Montagnier L, Olivier R, Pasquier C eds.), 1997 ; pp75-82, Marcel Dekker, New York.
- 6) 大国寿士：〔分担〕レンサ球菌感染症とその続発性。劇症型A群レンサ球菌感染症：ヒト喰いバクテリアの出現 (渡辺治雄, 清水可方監修), 1997 ; pp39-54, 近代出版。

学会発表

(1) シンポジウム：

1) 大国寿士：*Streptococcus mitis*（改めて川崎病感染論を考える）．第17回日本川崎病研究会，1997．10．

(2) 一般講演：

- 1) 清水可方¹⁾，五十嵐英夫²⁾，村井貞子³⁾，大国寿士，渡辺治雄⁴⁾，内山竹彦⁵⁾，大江健二¹⁾（¹⁾ 旭中央病院，²⁾ 都衛研・微生物，³⁾ 東邦大医療短大，⁴⁾ 国立予研，⁵⁾ 東京女子医大）：本邦における劇症型A群レンサ球菌感染症の現況と診断基準案の提示．第71回日本感染症学会総会，1997．4．
- 2) 渡邊ユキノ，櫻田紳策，留目優子，大国寿士：*Streptococcus mitis*の代謝物質中に存在するヒト血小板凝集因子の塩基配列の解析（2）．第71回日本感染症学会総会，1997．4．
- 3) 留目優子，櫻田紳策，渡邊ユキノ，大国寿士：緑色レンサ球菌群の産生する血小板凝集因子の反応を抑制する血漿成分について．第71回日本感染症学会総会，1997．4．
- 4) 一幡良利¹⁾，山下 仁¹⁾，碓井之雄²⁾，五十嵐英夫³⁾，留目優子，大国寿士（¹⁾ 筑波技術短大，²⁾ 青葉学園短大，³⁾ 都衛研・微生物）：A群レンサ球菌のsoft agar中での発育型と病原性について．第6回レンサ球菌談話会，1997．6．
- 5) 櫻田紳策，渡邊ユキノ，留目優子，大国寿士：レンサ球菌代謝物質並びに菌体成分の血管内皮細胞に対する影響．第6回レンサ球菌談話会，1997．6．
- 6) 櫻田紳策，渡邊ユキノ，留目優子，大国寿士：*Streptococcus mitis*代謝物質による血管内皮細胞の活性化機構の解析．第17回日本川崎病研究会，1997．10．
- 7) 留目優子，渡邊ユキノ，櫻田紳策，大国寿士：*Streptococcus mitis*の産生するヒト血小板凝集因子の反応を抑制する血漿成分の検討．第17回日本川崎病研究会，1997．10．
- 8) 渡邊ユキノ，留目優子，櫻田紳策，大国寿士：*Streptococcus mitis*の産生するヒト血小板凝集因子の塩基配列の解析（2）．第17回日本川崎病研究会，1997．10．
- 9) 渡邊ユキノ，留目優子，櫻田紳策，大国寿士：*Streptococcus mitis*の産生する血小板凝集因子の遺伝子クローニング．第78回日本細菌学会関東支部総会，1997．11．
- 10) 櫻田紳策，渡邊ユキノ，留目優子，大国寿士：*Streptococcus mitis*代謝物質による血管内皮細胞活性化機構の解析．第18回日本炎症学会，1997．11．

[疫学部門]

研究概要

当教室では，鈴木らによる疫学調査研究に基づくインフルエンザウイルスの研究，南らによる神経内分泌学的研究がすすめられている。

インフルエンザウイルスが夏期にどのように保存されているか明らかにされていない。鈴木らは，熱帯あるいは亜熱帯地域がウイルスの保存及び変異の地域で，それが日本へ伝わってくるのではないかと考え，タイ国チェンマイ地区において有熱患児より採取した咽頭拭い液からインフルエンザウイルスの分離を試み，抗原解析を行ってきた。

南らは，下垂体ホルモンの分泌調節機構と神経ペプチドの生理学的意義について継続的に研究を行っている。（1）ホルモン分泌における超日リズムの発現機構については不明な点が多く，そのメカニズムの中核については解明されていない。この超日リズムの発現機構を解明することを目的として成長ホルモンについて研究を行い，ソマトスタチンの分泌あるいはソマトスタチン細胞の活動に周期性を与えるメカニズムとして，アンドロゲンによる視床下部機能修飾作用が重要であり，現在，このアンドロゲン感受性機構の解明に取り組んでいる。（2）成長ホルモンが視床下部に作用して自己の分泌を制御する自己分泌調節機構（autofeedback）について成長ホルモンの作用部位を検討し，視

床下部のニューロペプチドY細胞とソマトスタチン細胞が標的細胞であるとの説を提唱した。引き続きこの課題について検討をすすめている。(3) 代謝や栄養状態の情報と下垂体ホルモン分泌を統合する視床下部機構について、ニューロペプチドYによる調節機構を中心に検討している。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Minami S, Suzuki N¹⁾, Sugihara H¹⁾, Tamura H¹⁾, Emoto N¹⁾, Wakabayashi I¹⁾ (1) 内科学第3) : Microinjection of rat GH but not human IGF-I into a defined area of the hypothalamus inhibits endogenous GH secretion in rats. *J Endocrinol* 1997 ; 153 : 283-290.
- 2) Tamura H¹⁾, Sugihara H¹⁾, Minami S, Emoto N¹⁾, Shibasaki T²⁾, Shuto Y¹⁾, Shimizu K³⁾, Gomi Y³⁾, Sasano H⁴⁾, Wakabayashi I¹⁾ (1) 内科学第3, 2) 生理学第2, 3) 外科学第2, 4) 東北大・医・病理) : Cushing's syndrome due to bilateral adrenocortical adenomas with different pathological features. *Internal Medicine* 1997 ; 36 : 804-809.
- 3) Suzuki H, Eiumtrakul S¹⁾, Ariya T¹⁾, Supawadee J¹⁾, Maneekarn N¹⁾, Tanaka M²⁾, Ueda M²⁾, Kadai K²⁾, Takahashi M (1) チェンマイ大, 2) SRL) : Antigenic analysis of Influenza viruses isolated in Thailand between 1991 and 1995. *Microbiologica* 1997 ; 20 : 207-214.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Onose H¹⁾, Emoto N¹⁾, Minami S, Shimizu K²⁾, Wakabayashi I¹⁾ (1) 内科学第3, 2) 外科学第2) : Bioavailable FGF-2 is increased in human papillary thyroid carcinomas. The 79th Annual Meeting of the Endocrine Society, 1997. 6.
- 2) Shibasaki T¹⁾, Yamauchi N²⁾, Takeuchi K¹⁾, Ishii S²⁾, Sugihara H²⁾, Minami S, Wakabayashi I²⁾ (1) 生理学第2, 2) 内科学第3) : Effects of fasting, stress, corticotropin-releasing factor or somatostatin on growth hormone-releasing peptide KP-102-induced food intake in rats. The 79th Annual Meeting of the Endocrine Society, 1997. 6.
- 3) Emoto N¹⁾, Onose H¹⁾, Sugihara H¹⁾, Minami S, Shimizu K²⁾, Wakabayashi I¹⁾ (1) 内科学第3, 2) 外科学第2) : Overexpression of the fibroblast growth factor receptor 3 in a human thyroid carcinoma cell line results in different cellular organization and increased final cell density. The 6th Asia and Oceania Thyroid Association Congress, 1997. 11.
- 4) 周東祐仁¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 南 史朗, 田村秀樹¹⁾, 江本直也¹⁾, 芝崎 保²⁾, 若林一二¹⁾ (1) 内科学第3, 2) 生理学第2) : 両側副腎病変を有するACTH非依存性Cushing症候群におけるG蛋白質の変異の検討. 第94回日本内科学会講演会, 1997. 6.
- 5) 南 史朗, 鈴木信周¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 田村秀樹¹⁾, 江本直也¹⁾, 芝崎 保²⁾, 若林一二¹⁾ (1) 内科学第3, 2) 生理学第2) : 視床下部を介する成長ホルモン自己分泌調節機構の検討 (II). 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 6) 竹内香織¹⁾, 芝崎 保²⁾, 山内直子¹⁾, 石井新哉¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 南 史朗, 若林一二¹⁾ (1) 内科学第3, 2) 生理学第2) : ラットにおける成長ホルモン放出ペプチドKP-102の摂食促進作用に関する検討. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 7) 小野瀬裕之¹⁾, 江本直也¹⁾, 長谷川修¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 南 史朗, 清水一雄²⁾, 若林一二¹⁾ (1) 内科学第3, 2) 外科学第2) : 甲状腺におけるFGF受容体mRNA発現パターン. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.

- 8) 江本直也¹⁾, 小野瀬裕之¹⁾, 南 史朗, 清水一雄²⁾, 若林一二¹⁾ (1) 内科学第3, 2) 外科学第2) : 甲状腺癌における細胞外マトリックスのFGF-2結合能に関する検討. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 9) 杉原 仁¹⁾, 南 史朗, 石井新哉¹⁾, 小野瀬裕之¹⁾, 江本直也¹⁾, 芝崎 保²⁾, 若林一二¹⁾ (1) 内科学第3, 2) 生理学第2) : 成長ホルモン (GH), GH分泌促進因子 (GRF), インスリン様成長因子 (IGF-I) のリンパ球c-fos遺伝子発現に与える影響. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 10) 石井新哉¹⁾, 芝崎 保²⁾, 小野瀬裕之¹⁾, 杉原 仁¹⁾, 南 史朗, 島 健二³⁾, 若林一二¹⁾ (1) 内科学第3, 2) 生理学第2, 3) 徳島大・医・臨床検査医学) : ラットレプチン受容体遺伝子発現部位に関する検討. 第70回日本内分泌学会学術総会, 1997. 6.
- 11) 杉原 仁¹⁾, 南 史朗, 江本直也¹⁾, 小野瀬裕之¹⁾, 石井新哉¹⁾, 田村秀樹¹⁾, 若林一二¹⁾ (1) 内科学第3) : インスリン様成長因子 (IGF-I) の成長ホルモン (GH) 分泌促進因子 (GRF) 受容体発現に対する効果. 第24回日本神経内分泌学会, 1997. 11.
- 12) 鈴木 博, 尾沢ますみ, 勝又晴美, 高橋修和, 西尾 治¹⁾ (1) 国立公衆衛生院) : 1996年及び1997年タイ国で分離されたインフルエンザウイルスの抗原解析. 第72回日本感染症学会総会, 1998. 4.

[分子生物学部門]

研究概要

老人病研究所・分子生物学部門は、日本医科大学大学院分子生物学科目であるとともに、丸子アイソトープおよび組換えDNA実験施設を兼ねている。現在18名のスタッフ（教職員6名、院生・研修生12名）が日夜、外科系、内科系、小児科系の疾患の遺伝子レベルでの病因解明と診断法の開発に取り組んでいる。

外科系疾患では、乳癌、膀胱癌、甲状腺癌の検体を用いて広範なヒトゲノム領域を対象に各染色体上の欠失・増幅・再構成の有無を調べ、高頻度な異常を見出した染色体について高精度ゲノム欠失地図を作製し、共通して欠失する領域の限局化から、これら癌の発生進展に関わる癌抑制遺伝子の同定を目指している。

また、種々の腫瘍に見られる染色体相互転座を指標に転座点において再構成、活性化をきたす遺伝子のクローニングも試みており、最近、甲状腺癌や子宮筋腫において染色体同士の相互転座に伴い、再構成をきたした新しい癌遺伝子をクローニングした。

乳癌の遺伝子診断の研究については、多形性DNA マーカーを用いた解析から乳癌の悪性度、転移、再発、生命予後に関わる遺伝的変化の特定と臨床応用を目指している。

内科系疾患では、骨粗鬆症の遺伝的素因の解明のため、骨代謝に関わる様々な因子の候補遺伝子について多型性マーカーを単離し、大規模な老年人口における解析から各遺伝子座の遺伝的多様性と骨代謝に関わる様々の表現型間の関係を検討し、また、高脂血症発症におけるリポタンパク関連遺伝子間の遺伝子相互作用の解析を進めている。

小児科疾患では、脂質代謝系の遺伝性疾患を中心に病因解析を進めるとともに、最近、染色体相互転座をともなう先天性多碑症の原因遺伝子をポジショナルクローニングした。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Matsumoto S¹⁾, Kasumi F¹⁾, Sakamoto G¹⁾, Onda M²⁾, Nakamura Y³⁾, Emi M (1) Cancer Inst., 2) Dept. Surgery I, 3) IMS, Univ. Tokyo) : Detailed deletion mapping of chromosome arm 3p in breast cancers : A 2-cM region on 3p14.3-21.1 and a 5-cM region on 3p24.3-25.1 commonly deleted in tumors. *Genes, Chrom Cancer* 1997 ; 20 : 268-274.

- 2) Yokota T, Matsumoto S, Yoshimoto M¹⁾, Kasumi F¹⁾, Akiyama F¹⁾, Sakamoto G¹⁾, Nakamura Y²⁾, Emi M (¹⁾ Cancer Inst., ²⁾ IMS, Univ. Tokyo) : Mapping of a breast cancer tumor suppressor gene locus to a 4-cM interval on chromosome 18q21. *Jpn J Cancer Res* 1997 ; 88 : 959-964.
- 3) Emi M, Matsumoto S, Iida A, Tsukamoto K, Nakata T, Yokota T, Sakamoto G¹⁾, Kasumi F¹⁾, Nakamura Y²⁾ (¹⁾ Cancer Inst., ²⁾ IMS, Univ. Tokyo) : Correlation of Allelic Losses and Clinicopathological Factors in Primary Breast Cancers. *Breast Cancer* 1997 ; 4 : 243-247.
- 4) Liao H¹⁾, Kodama T¹⁾, Doi T¹⁾, Emi M, Asaoka H¹⁾, Itakura H¹⁾, Matsumoto A¹⁾ (¹⁾ Natl. Inst. Nutr. Health) : Novel elements located at -504 to -399 bp of the promotor region regulated the expression of the human macrophage scavenger receptor gene in murine macrophages. *J Lipid Res* 1997 ; 38 : 1433-1444.
- 5) Emi M, Matsushima M¹⁾, Katagiri T¹⁾, Yoshimoto M¹⁾, Kasumi F²⁾, Yokota T, Nakata T, Miki Y²⁾, Nakamura Y¹⁾ (¹⁾ IMS, Univ. Tokyo, ²⁾ Cancer Inst.) : Multiplex mutation screening of the BRCA1 gene in 1000 Japanese breast cancers. *Jpn J Cancer Res* 1998 ; 89 : 12-16.
- 6) Watanabe I, Tsukamoto K, Shiba T¹⁾, Emi M (¹⁾ Kitazato Univ.) : Isolation and radiation hybrid mapping of dinucleotide repeat polymorphism at the human matrix Gla protein (MGP) locus. *J Hum Genet* 1998 ; 43 : 75-76.
- 7) Tsukamoto K, Ito N¹⁾, Yoshimoto M¹⁾, Kasumi F¹⁾, Akiyama F¹⁾, Sakamoto G¹⁾, Nakamura Y²⁾, Emi M (¹⁾ Cancer Inst., ²⁾ IMS, Univ. Tokyo) : Allelic loss on chromosome 1p is associated with progression and lymph node metastasis of primary breast carcinoma. *Cancer* 1998 ; 82 : 317-322.
- 8) Tsukamoto K, Haruta K, Shiba T¹⁾, Emi M (¹⁾ Kitazato Univ.) : Isolation and mapping of a polymorphic CA repeat sequence at the human interleukin 6 locus. *J Hum Genet* 1998 ; 43 : 71-72.
- 9) Iida A, Kurose K, Isobe R, Akiyama F¹⁾, Sakamoto G¹⁾, Yoshimoto M¹⁾, Kasumi F¹⁾, Nakamura Y²⁾, Emi M (¹⁾ Cancer Inst., ²⁾ IMS, Univ. Tokyo) : Mapping of a new target region of allelic loss to a 2-cM interval at 22q13.1 in primary breast cancer. *Genes, Chrom Cancer* 1998 ; 21 : 108-112.
- 10) Tsukamoto K, Inoue S¹⁾, Hosoi T¹⁾, Orimo H¹⁾, Emi M (¹⁾ Univ. Tokyo) : Isolation and radiation hybrid mapping of dinucleotide repeat polymorphism at the human estrogen receptor beta locus. *J Hum Genet* 1998 ; 43 : 73-74.
- 11) Bando K, Matsumoto S, Onda M¹⁾, Akiyama F²⁾, Sakamoto G²⁾, Yoshimoto M²⁾, Kasumi F²⁾, Nakamura Y³⁾, Emi M (¹⁾ Dept. Surgery I, ²⁾ Cancer Inst., ³⁾ IMS, Univ. Tokyo) : Frequent allelic loss at 6q26-27 in breast cancer of the solid-tubular histologic type. *Breast Cancer* 1998 ; 5 (1) : 127-130.
- 12) Nakata T, Yoshimoto M¹⁾, Kasumi F¹⁾, Akiyama F¹⁾, Sakamoto G¹⁾, Nakamura Y²⁾, Emi M (¹⁾ Cancer Inst., ²⁾ IMS, Univ. Tokyo) : Identification of a new commonly deleted region within a 2-cM interval of 11p11 in breast cancers. *Eur J Cancer* 1998 ; 34 (2) : 417-421.
- 13) Tsukamoto K, Emi M : A polymorphic CA repeat sequence at the human calcitonin locus. *J Hum Genet* 1998 ; 43 (2) : 146-147.
- 14) Kamigaki M¹⁾, Tsuji M¹⁾, Ishii J¹⁾, Hata A²⁾, Chiba H²⁾, Akita H²⁾, Hirayama T, Emi M (¹⁾ Hokkaido Cent. Hosp., ²⁾ Univ. Hokkaido) : Familial hypercholesterolemia with cholestery ester transfer protein deficiency. *Intern Med* 1998 ; 37 (2) .

(2) 綜説 :

- 1) 黒瀬圭輔, 松本智司, 江見 充 : BRCA1, BRCA2 遺伝子と家族性乳癌. *医学と薬学* 1997 ; 37 : 817-821.
- 2) 美濃部かおり, 松本智司, 江見 充 : 乳癌の遺伝子診断. *臨床と研究* 1997 ; 74 : 764-769.
- 3) 飯田有俊, 松本智司, 江見 充 : 乳癌 (特集 : ヒトがんでの遺伝子異常と遺伝子診断). *蛋白質核酸酵素*

1997; 42: 1754-1761.

- 4) 飯田有俊, 松本智司, 江見 充: 乳癌研究における最新の進歩: 家族性乳癌と散発性乳癌にかかわる遺伝子と遺伝子診断. 実験医学 1997; 15: 885-892.
- 5) 黒瀬圭輔, 江見 充, 中村祐輔¹⁾ (1) 東大・医科研): 多段階発癌. 遺伝子医学 1997; 1: 204-208.
- 6) 平山恒憲, 江見 充: 悪性腫瘍の遺伝的背景. Biotherapy 1997; 11: 1039-1043.
- 7) 江見 充, 横田 隆: 悪性腫瘍の遺伝子変化. 医学検査 1997; 46: 1786-1791.
- 8) 大垣憲司, 江見 充: 家族性乳癌における遺伝子異常と遺伝子診断. Pharma Medica 2月号 1998; 16: 27-32.

著 書

- 1) 江見 充: [分担] 体細胞変異とがん. ヒトの分子遺伝学, 1997; pp481-503, メディカル・サイエンス・インターナショナル社.
- 2) 黒瀬圭輔, 江見 充: [分担] BRCAと乳癌. がん遺伝子・がん抑制遺伝子, 1998; 中外医学社.

学会発表

[1996年度追加分]

特別講演:

- 1) 江見 充: 乳癌の遺伝子. 関西労災病院学術講演会, 1997. 1.

(1) 特別講演:

- 1) 江見 充: 固形腫瘍におけるゲノム異常解析とその腫瘍遺伝子診断への応用. 第1回腫瘍ゲノム研究会, 1997. 4.
- 2) 江見 充: 家族性乳がん関連遺伝子. 第19回福島県立医科大学 分子生物セミナー, 1997. 6.

(2) 教育講演:

- 1) 江見 充: 組み換えDNA実験の初歩. 第7回日本人類遺伝学会 遺伝医学セミナー, 1997. 9.
- 2) 江見 充: 成人病の遺伝子診断. 日本医科大学学内公開講座, 1997. 12.

(3) シンポジウム:

- 1) 江見 充, 中村祐輔¹⁾, 坂元吾偉²⁾, 霞富士雄³⁾ (1) 東大・医科研, 2) 癌研・病理, 3) 癌研・乳腺外科): DNA多形性マーカーによる乳癌の遺伝子診断. 第5回日本乳癌学会総会, 1997. 7.
- 2) 細井孝之, 宮尾益理子¹⁾, 星野真二郎¹⁾, 須貝正夫¹⁾, 井上 聡¹⁾, 塚本和弘, 江見 充, 折茂 肇¹⁾, 大内尉義¹⁾ (1) 東大・医): 骨粗鬆症の分子遺伝学. 第42回日本人類遺伝学会大会, 1997. 10.

(4) 一般講演:

- 1) 大垣憲司, 江見 充, 窪田吉信¹⁾, 小川 修²⁾, 吉田 修²⁾, 秋元成太³⁾ (1) 横浜市大・泌尿器, 2) 京大・泌尿器, 3) 付属病院・泌尿器科): 膀胱癌における第8番染色体短腕欠失の検討. 第86回日本泌尿器科学会総会, 1997. 4.
- 2) 横田 隆, 坂元吾偉, 霞富士雄, 中村祐輔, 江見 充 (1) 癌研・病理, 2) 癌研・外科, 3) 東大・医科研): ヒト乳癌における第8番染色体欠失地図の作製. 第38回日本臨床細胞学会総会, 1997. 5.
- 3) 松本智司, 江見 充, 中村祐輔¹⁾, 恩田昌彦²⁾, 坂元吾偉³⁾, 霞富士雄⁴⁾ (1) 東大・医科研, 2) 外科第一, 3) 癌研・病理, 4) 癌研・乳腺外科): 乳癌における染色体欠失と臨床病理学的諸因子との相関. 第5回日本乳癌学会総会, 1997. 7.
- 4) 塚本和弘, 江見 充, 中村祐輔¹⁾, 坂元吾偉²⁾, 吉本賢隆³⁾, 霞富士雄³⁾ (1) 東大・医科研, 2) 癌研・病理, 3) 癌研・乳腺外科): 乳癌における染色体欠失と臨床病理学的諸因子との相関. 第5回日本乳癌学会総会, 1997. 7.

- 5) 美濃部かおり, 飯田有俊, 江見 充, 中村祐輔¹⁾, 樋口勝美²⁾, 古川清憲²⁾, 恩田昌彦²⁾, 坂元吾偉³⁾, 霞富士雄⁴⁾ (¹⁾ 東大・医科研, ²⁾ 外科第一, ³⁾ 癌研・病理, ⁴⁾ 癌研・乳腺外科): 乳癌における第9番染色体欠失領域の検索. 第5回日本乳癌学会総会, 1997. 7.
- 6) 飯田有俊, 江見 充, 中村祐輔¹⁾, 坂元吾偉²⁾, 霞富士雄³⁾ (¹⁾ 東大・医科研, ²⁾ 癌研・病理, ³⁾ 癌研・乳腺外科): 乳癌に於ける第7, 21番染色体欠失地図の作製. 第5回日本乳癌学会総会, 1997. 7.
- 7) 黒瀬圭輔, 飯田有俊, 中田朋子, 小西英喜¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 江見 充 (¹⁾ 産婦人科): 子宮平滑筋腫において再構成・融合異常をきたした新規遺伝子の解析. 第7回Medical Genetics 研究会, 1997. 7.
- 8) 平山恒憲, 江見 充, 八巻恵美, 橋本 清¹⁾ (¹⁾ 第二病院・小児科): 家族性高コレステロール血症にCETP遺伝子変異を認めた一家系. 第7回Medical Genetics 研究会, 1997. 7.
- 9) 中田朋子, 藤森 実¹⁾, 横山史朗¹⁾, 清水一雄²⁾, 田中茂夫²⁾, 伊藤國彦³⁾, 江見 充 (¹⁾ 信州大・外科第2, ²⁾ 外科第二, ³⁾ 伊藤病院): 甲状腺乳頭癌において c-RETと融合した新規cDNAのクローニング. 第7回Medical Genetics 研究会, 1997. 7.
- 10) 塚元和弘, 江見 充: 散発性乳癌における第1番染色体の遺伝子変異と臨床病理因子との関連性. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 11) 八巻恵美, 平山恒憲, 江見 充, Hopkins P¹⁾, Williams R¹⁾ (¹⁾ ユタ大): LDL受容体遺伝子上のスプライス変異を認めた心筋梗塞の多発するFH大家系. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 12) 中田朋子, 江見 充, 清水一雄¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 伊藤國彦²⁾ (¹⁾ 外科第二, ²⁾ 伊藤病院): 甲状腺乳頭癌において c-retと融合した新規遺伝子の解析. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 13) 横田 隆, 江見 充, 久吉隆郎¹⁾, 日置正文¹⁾ (¹⁾ 第二病院・外科): 乳癌における第8番染色体長腕増幅領域の解析. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 14) 黒瀬圭輔, 飯田有俊, 江見 充, 関谷隆夫¹⁾, 石原椿輔¹⁾, 米山剛一²⁾, 小西英喜²⁾, 荒木 勤²⁾, 浜谷次郎³⁾ (¹⁾ 第二病院・産婦人科, ²⁾ 付属病院・産婦人科, ³⁾ 国立横須賀病院・産婦人科): 子宮平滑筋腫において再構成・融合異常をきたした新規融合遺伝子の同定. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 15) 美濃部かおり, 飯田有俊, 江見 充: 乳癌における第9番染色体ヘテロ接合性の消失 (LOH) の解析. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 16) 坂東功一, 松本智司, 江見 充, 恩田昌彦¹⁾ (¹⁾ 外科第一): 6q・11qにおける染色体欠失と乳癌組織型との相関. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 17) 相馬 祥, 飯田有俊, 江見 充: 散発性乳癌におけるp53遺伝子領域の欠失と組織型及びホルモンレセプター消失との相関. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 18) 吹野晃一, 塚元和弘, 相馬 祥, 江見 充, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 付属病院・脳神経外科): 乳癌における第17番染色体長腕の欠失と組織型及びホルモン受容体との相関. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 19) 江見 充, 塚元和弘, 飯田有俊, 中田朋子, 横田 隆, 松本智司, 中村祐輔¹⁾ (¹⁾ 東大・医科研): 乳癌における染色体欠失と遺伝子診断への応用. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 20) 大垣憲司, 飯田有俊, 江見 充, 秋元成太¹⁾ (¹⁾ 付属病院・泌尿器科): 散発性乳癌における第21番染色体欠失地図の作製. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 21) 飯田有俊, 江見 充, 中村祐輔¹⁾ (¹⁾ 東大・医科研): inv11 (q13,q25) 逆位を伴う多脾症患者の切断点領域のゲノム解析. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 22) 渡辺幾代, 塚元和弘, 江見 充: 骨粗鬆症に関わる候補遺伝子多型性マーカーの単離と関連遺伝子の同定. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 23) 平山恒憲, 江見 充, 八巻恵美, 橋本 清¹⁾, 山本正生²⁾ (¹⁾ 第二病院・小児科, ²⁾ 付属病院・小児科): 高脂血症家系におけるLDL受容体遺伝子変異とCETP遺伝子変異の相互作用. 第65回日本医科大学医学会総会,

1997. 9.
- 24) 塚元和弘, 吉本賢隆¹⁾, 霞富士雄¹⁾, 秋山 太²⁾, 坂元吾偉²⁾, 中村祐輔³⁾, 江見 充^(1) 癌研・外科, 2) 癌研・病理, 3) 東大・医科研): 散発性乳癌における第1番染色体長腕および短腕の増幅・欠失と臨床病理因子との関連性. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 25) 横田 隆, 吉本賢隆¹⁾, 霞富士雄¹⁾, 秋山 太²⁾, 坂元吾偉²⁾, 中村祐輔³⁾, 江見 充^(1) 癌研・外科, 2) 癌研・病理, 3) 東大・医科研): 乳癌における第8番染色体欠失地図の作製. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 26) 中田朋子, 藤森 実¹⁾, 横山史朗¹⁾, 清水一雄²⁾, 田中茂夫²⁾, 伊藤國彦³⁾, 江見 充^(1) 信州大・外科第2, 2) 外科第二, 3) 伊藤病院): 甲状腺乳頭癌における新規融合遺伝子のクローニング. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 27) 黒瀬圭輔, 飯田有俊, 中田朋子, 小西英喜¹⁾, 荒木 勤¹⁾, 江見 充^(1) 産婦人科): 子宮平滑筋腫において再構成・融合異常をきたした新規遺伝子のクローニング. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 28) 松本智司, 恩田昌彦¹⁾, 吉本賢隆²⁾, 霞富士雄²⁾, 秋山 太³⁾, 坂元吾偉³⁾, 中村祐輔⁴⁾, 江見 充^(1) 外科第一, 2) 癌研・外科, 3) 癌研・病理, 4) 東大・医科研): 乳癌におけるヘテロ接合性の消失と術後経過との検討. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 29) 大垣憲司, 飯田有俊, 吉本賢隆¹⁾, 霞富士雄¹⁾, 秋山 太²⁾, 坂元吾偉²⁾, 中村祐輔³⁾, 江見 充^(1) 癌研・外科, 2) 癌研・病理, 3) 東大・医科研): 乳癌における第21番染色体欠失の検討. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 30) 植田 健¹⁾, 江見 充, 小宮 顕¹⁾, 鈴木啓悦¹⁾, 矢谷隆一²⁾, 伊藤晴夫¹⁾ (1) 千葉大・泌尿器科, 2) 三重大・病理): ヒト前立腺癌における第13染色体長腕14領域上の共通欠失領域. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 31) 美濃部かおり, 中田朋子, 清水一雄¹⁾, 田中茂夫¹⁾, 伊藤國彦²⁾, 藤森 実³⁾, 横山史朗³⁾, 江見 充^(1) 外科第二, 2) 伊藤病院, 3) 信州大・外科第2): 甲状腺乳頭癌において c-ret と融合した新規遺伝子の解析. 第56回日本癌学会総会, 1997. 9.
- 32) 折茂英生¹⁾, 池島三与子¹⁾, 中島英逸¹⁾, 江見 充, 島田 隆¹⁾ (1) 生化第二): Microsatellite instability を呈する孤発性大腸癌におけるミスマッチ修復蛋白質hMSH3遺伝子と TGF- β II型レセプター遺伝子の変異. 第70回日本生化学会大会, 1997. 9.
- 33) 石井 純¹⁾, 辻 昌宏¹⁾, 羽田 明²⁾, 平山恒憲, 江見 充^(1) 北海道社会保険中央病院・内科, 2) 北大・公衆衛生): 北海道における家族性高コレステロール血症の遺伝子変異. 第45回日本心臓病学会学術集会, 1997. 9.
- 34) 八巻恵美, 平山恒憲, 江見 充, Hopkins P¹⁾, Williams R¹⁾ (1) ユタ大): 心筋梗塞多発ユタFH大家系におけるLDL受容体創始者変異の同定. 日本人類遺伝学会第42回大会, 1997. 10.
- 35) 飯田有俊, 福島義光¹⁾, 江見 充, 中村祐輔²⁾ (1) 信州大・医, 2) 東大・医科研): inv11 (q13, q25) 逆位を伴う多脾症患者の切断点領域の構造解析. 日本人類遺伝学会第42回大会, 1997. 10.
- 36) 折茂英生¹⁾, 中島英逸¹⁾, 池島三与子¹⁾, 江見 充, 島田 隆¹⁾ (1) 生化第二): DNAミスマッチ修復蛋白質hMSH3と日本人孤発性大腸癌における変異解析. 日本人類遺伝学会第42回大会, 1997. 10.
- 37) 中田朋子, 藤森 実¹⁾, 横山史朗¹⁾, 清水一雄²⁾, 田中茂夫²⁾, 伊藤國彦³⁾ (1) 信州大・外科第2, 2) 外科第二, 3) 伊藤病院): 甲状腺乳頭癌において c-ret と融合した新規遺伝子の解析. 第20回日本分子生物学会年会, 1997. 12.

2. ワクチン療法研究施設

研究概要

1972年（昭和47年）の当研究施設開設以来、26年を経過し、SSM（人型結核菌体抽出物質）使用登録悪性腫瘍患者累積数は33万人を越え、1998年（平成10年）3月31日現在、330,909例を算した。丸山千里先生のご逝去後、6年を経た現在も、以前同様、日に新患50名前後、再来・郵送を含めて、500名もの多数の紹介患者を迎えている。従来からの2万数千名にのぼる協同治験医師に、さらに新しい協力医療機関の参入がみられ、紹介患者数は増加傾向にある。これは世界に先駆けて非特異的癌免疫療法を唱導された丸山千里先生の丸山ワクチン（SSM）という偉大な遺産が、進行末期癌の治療において一層定着しつつあることを示している。また、SSMの濃厚溶液が放射線療法による白血球減少抑制剤として健保適用となったことは、SSMに関する基礎的ならびに臨床的研究が評価された結果である。現在、産婦人科領域の悪性腫瘍の放射線療法併用時における臨床効果について、全国の国公立大学・国立病院等において治験（Phase III）が進められている。

1979年から1998年3月までの19年間の患者累積数は 228,301例で、このうち22,165例（9.71%）が3年以上の長期SSM加療例であった。これらの症例の多くが進行末期癌であるにも拘わらず、良好な一般状態（Performance Status：PS）で長期延命する症例が多数を占めている。これはSSMが進行期癌治療における全身療法として重責を果たしている結果といえ、その治療状況や成績については、逐次、検討を加え報告している。さらに、SSMの本来の使用目的ともいえる Biological Response Modifier（BRM）としての作用および癌免疫療法としての作用について、特に進行末期癌における Quality of Life（QOL）向上と延命効果の立場から、当施設ならではの膨大な患者数を基にした臨床生命表を作成し、SSM療法の優れた点についての検討を続行中である。また、SSMの経口投与の可能性ならびに癌予防への応用についても基礎的実験を重ねている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Iida K, Fujita K, Hirai T, Goto H, Miyazaki S, Arai Y, Iwaki H, Otake M, Sassa S¹⁾, Maemura M¹⁾, Nakayama T¹⁾, Kudo H¹⁾, Sakamoto S¹⁾ (1) Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University) : Preventive Effect of Polysaccharides Extracted from Human Tubercle Bacilli (Specific Substance of Maruyama) on Colonic Carcinogenesis in Rats. *Cancer Detect Prev* 1997 ; 21 (5) : 476-482.
- 2) 平井敏之, 飯田和美, 宮崎定活, 後藤博一, 岩城弘子, 新井愛彦, 藤田敬四郎, 大竹 稔 : 進行期肺小細胞癌の長期生存症例。基礎と臨 1997 ; 31 (7) : 2637-2644.

著書

- 1) 藤田敬四郎 : [編著] 丸山ワクチンで癌に克つ。1997 ; マキノ出版。

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Fujita K, Iida K, Hirai T, Goto H, Arai Y, Iwaki H, Miyazaki S, Takahara M, Otake M : The Clinical Statistics of Cancer Patients in Treatment with an Extract from Human Tubercle Bacilli (SSM, generally called Maruyama Vaccine). 14th Asia Pacific Cancer Conference and 4th Hong Kong International Cancer Congress (Hong Kong), 1997. 11.

- 2) Iida K, Fujita K, Hirai T, Goto H, Arai Y, Iwaki H, Miyazaki S, Asakawa M¹⁾, Otake M⁽¹⁾ 2nd Department of Anatomy : Effect of Oral Administration of an Extract from Human Tubercle Bacilli (SSM) on Tumors in Mice (Preliminaries for Clinical Oral Administration). 14th Asia Pacific Cancer Conference and 4th Hong Kong International Cancer Congress (Hong Kong), 1997. 11.
- 3) 藤田敬四郎, 飯田和美, 平井敏之, 後藤博一, 新井愛彦, 岩城弘子, 宮崎定活, 大竹 稔 : 当施設における結核菌体抽出物質 (SSM) 使用登録癌患者の現況. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 4) 飯田和美, 藤田敬四郎, 平井敏之, 後藤博一, 新井愛彦, 岩城弘子, 宮崎定活, 大竹 稔, 左雨秀治¹⁾, 工藤秀機¹⁾, 坂本 忍¹⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学難治疾患研究所内分泌異常) : ラット実験大腸癌に対する人型結核菌体抽出物質 (SSM) 経口投与の影響. 第65回日本医科大学医学会総会, 1997. 9.
- 5) 藤田敬四郎, 飯田和美, 平井敏之, 後藤博一, 新井愛彦, 宮崎定活, 大竹 稔 : 当施設における結核菌体抽出物質 (SSM) 使用登録癌患者の現況 (第19報). 第35回日本癌治療学会総会, 1997. 10.
- 6) 飯田和美, 藤田敬四郎, 平井敏之, 後藤博一, 新井愛彦, 岩城弘子, 宮崎定活, 大竹 稔, 左雨秀治¹⁾, 工藤秀機¹⁾, 坂本 忍¹⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学難治疾患研究所内分泌異常) : ラット実験大腸癌発生に対する人型結核菌体抽出物質 (SSM) 経口投与の影響. 第35回日本癌治療学会総会, 1997. 10.
- 7) 飯田和美, 菅沼 (清水) 眞澄¹⁾, 七戸和博¹⁾ (¹⁾ 実験動物管理室) : アロキサン誘発糖尿病モデルとしてのスナネズミとマウスの比較. 第97回日本薬理学会関東部会, 1997. 10.
- 8) 里村克章¹⁾, 関山達也¹⁾, 勝田悌実¹⁾, 荒牧琢己¹⁾, 飯田和美, 藤田敬四郎, 大竹 稔 (¹⁾ 第1内科) : SSM (丸山ワクチン) によるサイトカイン産生について. 第18回日本臨床薬理学会, 1997. 12.
- 9) 菅沼 (清水) 眞澄¹⁾, 飯田和美, 加藤一良²⁾, 七戸和博¹⁾, (¹⁾ 実験動物管理室, ²⁾ 形成外科) : アロキサン誘発糖尿病モデルの動物種差. 第71回日本薬理学会年会, 1998. 3.

付 表

各種研究費補助金・研究助成金交付状況

1. 平成9年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	審査区分	氏名	所属・職	交付額 (万円)	研究課題
重点領域研究(1)		西野 武士	生化学第一・教授	2,640	金属蛋白質による情報変換
〃		太田 成男	老人病研究所・教授	4,300	RNA 高次機能の分子基盤
重点領域研究(2)		江見 充	老人病研究所・教授	1,000	乳癌の遺伝子診断
〃		池島三与子	生化学第二・講師	200	ヒト MSH3 蛋白質の機能解析
〃		麻生 定光	老人病研究所・講師	150	ミトコンドリア蛋白 Bax による神経細胞死の誘導
基盤研究(A) 展開		秋元 成太	泌尿器科学・教授	160	※ヘルペスチミジンキナーゼ遺伝子, ガンシクロビルによる膀胱癌遺伝子治療
〃	〃	寺島 保典	泌尿器科学・講師	350	※腎温存をめざした腎細胞癌に対する遺伝子治療
基盤研究(B) 一般		太田 成男	老人病研究所・教授	160	※変異ミトコンドリア DNA の除去によるミトコンドリア脳筋症の遺伝子治療法の開発と発症前診断への応用
〃	〃	寺本 明	脳神経外科学・教授	110	※細胞起源よりみた脳下垂体腺種の機能的病理分類の確立
〃	〃	秋元 成太	泌尿器科学・教授	240	※膀胱腫瘍予後規定因子としての p53 とその修飾因子の究明
〃	〃	八木 聰明	耳鼻咽喉科学・教授	70	※緩徐および急速眼球運動の三次元解析
〃	〃	西野 武士	生化学第一・教授	470	フリーラジカルを生成する金属フラビン酵素の構造と機能
〃	〃	坂本 長逸	内科学第一・教授	940	follistatin 様構造をもつ新規 EGF 様蛋白質の消化管粘膜における役割
基盤研究(B) 展開		荒木 勤	産婦人科学・教授	310	脳虚血, 脳低酸素症におけるヒツジ胎仔脳温と脳障害発生機構に関する研究
〃	〃	島田 隆	生化学第二・教授	600	Gaucher 病に対する造血幹細胞を標的とした遺伝子治療
基盤研究(C) 一般		富田ゆかり	法医学・助手	30	※主要臓器における死後変化の組織学的検討ならびに死因との関連
〃	〃	雪吹 周生	内科学第一・助手	30	※再灌流不整脈の発生機序: 細胞内 pH, Na ⁺ , Ca ²⁺ 動態異常との関連
〃	〃	吉田 大蔵	脳神経外科学・講師	70	※ Estramustine の malignant glioma の成長に対する抑制効果
〃	〃	小池 薫	救急医学・助手	30	※多臓器不全におけるホスホリパーゼ A ₂ の解析
〃	〃	朝倉 啓文	産婦人科学・助教授	30	※母体運動負荷による胎児 well being の評価 (胎児循環制御機構からの検討)
〃	〃	大国 寿士	老人病研究所・教授	20	※緑色レンサ球菌群の産生するヒト血小板凝集因子の作用を阻害する血漿成分の同定

基盤研究(C)	一般	工藤 翔二	内科学第四・教授	50	※呼吸音のデジタル解析による、自動解析システムの開発に関する研究
〃	〃	田島 廣之	放射線医学・講師	50	※重症骨盤骨折の出血に関する研究-回転デジタル血管撮影装置を用いた診断と治療-
〃	〃	福生 吉裕	内科学第二・助教授	60	※単球/マクロファージの分化を調節する生理活性物質の精製とcDNA クローニング
〃	〃	徳永 昭	外科学第一・助教授	100	※周術期免疫抑制メカニズムの解明-開腹術後浸出液の関与-
〃	〃	松倉 則夫	外科学第一・講師	110	※胃十二指腸潰瘍合併症へのヘリコバクター・ピロリ感染の関与の解明
〃	〃	高橋 弘	脳神経外科学・助教授	80	※2種の癌抑制遺伝子を用いたヒト悪性グリオーマのカクテル遺伝子療法の研究
〃	〃	坂本 篤裕	麻酔科学・講師	70	※ショックおよび虚血再灌流時の一酸化窒素の変動とその対策-臨床評価への応用-
〃	〃	澤 倫太郎	産婦人科学・助手	80	※胎児脳障害に対するアデノシンの防御機構に関する研究
〃	〃	米山 芳雄	産婦人科学・講師	60	※妊娠中毒症におけるアデノシンの血小板凝集抑制作用の臨床的意義の考察
〃	〃	大原 国俊	眼科学・教授	70	※老人性白内障に対する自己免疫機構の関与に関する研究
〃	〃	平井 幸彦	生化学第二・講師	110	※アデノ随伴ウイルスの特定な染色体上への部位特異的な挿入機構についての解析
〃	〃	木山 裕子	生理学第一・講師	80	※特異的 DNA 構造からヒト・グロビン遺伝子スイッチング制御
〃	〃	加藤 昌克	生理学第一・講師	100	※ラット下垂体における SRIF 受容体と GHRH 受容体の局在とその生理的意義
〃	〃	鈴木 秀典	薬理学・講師	160	グリア細胞株由来神経栄養因子ファミリーの同定と機能解析
〃	〃	鈴木 博	老人病研究所・講師	70	二枚貝におけるウイルス汚染に関する研究
〃	〃	安 恵美	内科学第三・助手	130	正常高齢者の免疫機能、特にナチュラルキラー細胞活性に関する研究(その特徴と感染症の発生・予後との関連について)-
〃	〃	中島 敦夫	内科学第二(リウマチ科)・助手	160	自己免疫疾患発症の分子機構およびその制御
〃	〃	福田 悠	病理学第一・助教授	220	プレオマイシン肺線維症における構造改築とマトリックスメタロプロテアーゼの関与
〃	〃	子島 潤	内科学第一・助手	150	心不全進展過程におけるカルシウム活性化中蛋白分解酵素(CANP)の役割
〃	〃	岡田 進	放射線医学・助教授	260	腎不全患者におけるガドリニウム造影剤の安全性及び、透析による除去能に関する研究
〃	〃	南 史朗	内科学第三・講師	210	成長ホルモンの拍動性分泌発現機構の研究

基盤研究 (C)	一般	赤石 治美	内科学第二・助手	80	離島におけるビタミンE転送蛋白欠損症の背景調査とその対策
〃	〃	猪口 孝一	内科学第三・講師	210	慢性骨髄性白血病に突然変異を認める c-mpl.c-kit 遺伝子に関する研究
〃	〃	緒方 清行	内科学第三・講師	130	造血器腫瘍患者の樹状細胞に関する研究-その性状と機能の解析-
〃	〃	長浜 充二	外科学第二・助手	220	永続的甲状腺機能低下症に対する甲状腺自家移植の基礎的研究と臨床応用
〃	〃	二宮 淳一	外科学第二・助教授	40	レーザーによる心筋血行再建術の研究
〃	〃	原口 秀司	外科学第二・助手	50	肺ブラ・ブレブの発生、組織構築に関する病理組織学的検討
〃	〃	小川 龍	麻酔科学・教授	310	なぜ麻酔や外科侵襲が周術期の宿主防衛機能を弱化するか?
〃	〃	明楽 重夫	産婦人科学・講師	80	ラット胎仔における、脳内CRF及びCRFレセプター1型mRNAの発現とその調節
〃	〃	鈴木 俊治	産婦人科学・助手	190	ヒツジ新生仔の脳温恒常性の破綻と脳障害発生機序に関する研究
〃	〃	大塚 博邦	耳鼻咽喉科学・助教授	90	鼻粘膜肥満細胞発育因子に関する研究
〃	〃	比 [°] ー・ ハ [°] ワ [°] ンカ [°] ル	耳鼻咽喉科学・講師	170	アレルギー性炎症におけるγδT細胞と肥満細胞の役割について
〃	〃	飯野 正昭	生理学第一・講師	290	赤血球凝集と血流におよぼす強磁場の影響に関する研究
〃	〃	ハ [°] ーハ [°] -S [°] ・ イ [°] シュ [°] ワ [°]	生理学第一・助手	130	テラピアにおける部位特異的に発現するゴナドトロピン放出ホルモン遺伝子の制御機構
〃	〃	櫻田 紳策	老人病研究所・助手	120	緑色レンサ球菌群代謝物質ならびに菌体成分の血管内皮細胞障害に関する研究
〃	〃	佐藤 直樹	内科学第一・助手	140	心不全における末梢血管平滑筋のギャップ・ジャンクション機能の検討-特にアドレナリン受容体反応との関係-
萌芽的研究		山本 保博	救急医学・教授	70	※災害スコア・災害マニュアルの作成
〃		鈴木 聡	生化学第二・助手	80	※任意の細胞に特異的遺伝子導入するための組換えレトロウイルスベクター産生系の確立
〃		武政 徹	解剖学第一・助手	70	※細胞内ストレスファイバーの伸展刺激による発現・消失のメカニズム
〃		南 正康	衛生学・公衆衛生学・教授	170	サリン合成時の副生成物ジアルキルメチルホスホン酸による染色体異常の研究
〃		田中 茂夫	外科学第二・教授	160	色素経皮吸収法による無侵襲心拍出量測定装置の開発
〃		島田 隆	生化学第二・教授	200	特定の染色体部位に組み込まれる遺伝子導入法の開発

萌芽的研究	鈴木 健治	生理学第二・助手	120	変性により退縮した球海綿体筋運動ニューロンにおけるテストステロンの機能維持作用
〃	三上 俊夫	保健体育・講師	130	運動負荷マウス由来の単離培養肝細胞での熱ショック蛋白質(HSP70)発現の検討
〃	西野 武士	生化学第一・教授	170	小脳におけるパルス状一酸化窒素発生の分子機構
奨励研究(A)	神谷 達司	内科学第二・助手	170	脳虚血における免疫系の関与-免疫抑制剤の神経保護作用のメカニズムの解明-
〃	伊藤 弘人	医療管理学・講師	110	精神科医療における継続的質改善活動の方法論に関する研究; 指標による多施設合同調査
〃	右田 真	生化学第二・助手	100	FACSによる選択性を有するウイルスベクターを用いた造血幹細胞への遺伝子導入
〃	三宅 弘一	生化学第二・助手	110	遺伝子治療を目的とした安全でかつ高率な組織特異的遺伝子導入法の開発
〃	塚元 和弘	老人病研究所・講師	150	染色体欠失地図作成による第1番染色体の乳癌関連遺伝子の同定
〃	松本 智司	外科学第一・助手	130	乳癌の術後再発死亡症例における染色体欠失の解析
〃	利根川 均	形成外科学・助手	60	NMRを用いたケロイドおよび肥厚性瘢痕の細胞内代謝に関する研究
〃	大木更一郎	形成外科学・助手	150	冷凍同種血管束移植による新しい皮弁の開発
〃	草薨 博昭	脳神経外科学・助手	140	脳下垂体腺腫の分泌小胞形成における基礎的研究-細胞内輸送を規定する諸因子の免疫組織化学的検討-
〃	金谷 幸一	脳神経外科学・助手	60	脳下垂体腺腫の分化増殖における基礎的研究-インヒビン, アクチビンの下垂体腺腫における局在とその作用について-
〃	山口 文雄	脳神経外科学・助手	120	神経膠腫におけるFGFR 2 shut-offメカニズムの解明
奨励研究(A)	千賀 康弘	泌尿器科学・助手	80	膀胱腫瘍におけるサイトケラチン19発現に関する基礎的検討
〃	近藤 幸尋	泌尿器科学・講師	150	膀胱癌におけるシスプラチン耐性因子とアポトーシス発現についての究明
〃	服部 智任	泌尿器科学・助手	140	尿路上皮悪性腫瘍におけるシフラ21のマーカーとしての意義
〃	大山 義雄	耳鼻咽喉科学・助手	100	前庭代償における頸部深部知覚の役割
〃	池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・助手	110	動物モデルによる内耳自己免疫疾患の病態解明
〃	黒崎 貞行	耳鼻咽喉科学・助手	50	ヒト肥満細胞の分化に関する研究
〃	鈴木 康之	眼科学・講師	150	家兎眼毛様体無色素上皮細胞によるwater channel proteinの研究

奨励研究(A)	星野 茂	脳神経外科学・助手	110	ラット実験的頭部外傷によるアルツハイマー病モデルの作成
◇	佐藤(折笠) 千登世	生理学第一・助手	110	新生仔ラットの脳内エストロゲン受容体アイソフォームの生理機能の解析
計			86件	20,010

備考 ※は前年度からの継続を示す。

2. 平成9年度文部省科学研究費補助金(分担研究)の採択・交付状況

研究者・所属	種 目	主任研究者・所属	研究課題名
1 折笠千登世 生理学第一	国際学術研究	林 しん治 東京都神経科学総合研究所	性ホルモンに依存した神経内分泌機構の発達に関する研究
2 折笠千登世 生理学第一	基盤研究(C)	林 しん治 東京都神経科学総合研究所	神経内分泌機構の分化に対するステロイド受容体ニューロンの役割
3 島田 隆 生化学第二	重点領域研究(1)	山本 直樹 東京医科歯科大学医学部	エイズの病態と制御に関する基盤研究 柱5. 感染と病態の制御
4 島田 隆 生化学第二	基盤研究(B)	松田 一郎 熊本大学医学部	アデノ随伴ウイルス(AAV)ベクターを用いた尿素サイクル異常症の遺伝子治療研究
5 折茂 英生 生化学第二	重点領域研究(1)	石川 隆俊 東京大学医学部	ヒト発がんにおける複製・修復遺伝子の変異
6 高橋 秀実 微生物学・免疫学	重点領域研究(1)	永井 美之 東京大学医科学研究所	エイズの病態と制御に関する基礎研究 柱3. 病態の免疫学的基盤
7 高橋 秀実 微生物学・免疫学	重点領域研究(1)	齋藤 隆 千葉大学医学部	キラーT細胞の認識と活性化調節
8 坂本 長逸 内科学第三	重点領域研究(1)	黒木登志夫 昭和大学腫瘍分子生物研究所	上皮細胞の形態形成と増殖・分化の制御機構
9 江見 充 老人病研究所	重点領域研究(1)	大木 操 国立がんセンター研究所	ヒトゲノム構造機構
			補助金額合計 30,900,000円

3. 平成9年度厚生省科学研究費補助金(主任研究・分担研究)の交付状況

研究者・所属	主任分担	研究事業名・主任研究者・所属	研究課題名
1 芝崎 保 生理学第二	分担	内分泌系疾患調査研究・中尾 一和・京都大学医学部	神経性食欲不振症の病因, 病態の解明
2 丸 栄一 生理学第二	分担	精神・神経疾患研究委託費・八木 和一・国立療養所静岡東病院	難治てんかんの難治化要因と予後と対策に関する研究
3 島田 隆 生化学第二	主任	ヒトゲノム・遺伝子治療研究事業	遺伝子治療のための標的遺伝子導入技術の開発に関する研究
4 島田 隆 生化学第二	分担	精神・神経疾患研究委託事業・桜川 宣男・国立精神・神経センター・神経研究所	神経細胞への組換えウイルスベクターを用いた遺伝子導入法の開発

5	高橋 秀実 微生物学・免疫学	分担	エイズ対策研究事業・倉田 毅・国立感染症研究所	HIV 感染／AIDS の感染病態とその生体防御に関する研究
6	高柳 和江 医療管理学	分担	町野 朔・上智大学法学部	患者の権利法
7	伊藤 弘人 医療管理学	主任	急性期入院医療の定額支払いに関する調査研究事業	急性期精神科入院医療に関する急性期診断別定額払いの可能性調査
8	中野夕香里 医療管理学	主任	厚生科学特別研究事業	病院における患者の意見・要望の収集と対応及び相談窓口機能のあり方に関する研究
9	早川 弘一 内科学第一	主任	薬物療法等有用性向上推進研究事業	抗不整脈薬の臨床評価方法に関する研究
10	新 博次 内科学第一	分担	循環器病研究委託事業	心房細動の薬物治療の検討
11	清野 精彦 内科学第一	分担	循環器病研究委託事業	循環器救急における血液生化学的マーカー迅速診断システムの導入に関する検討
12	大庭 建三 内科学第一・老人科	分担	長寿科学総合研究事業・井藤 英喜・東京都老人医療センター・内分泌科	高齢者糖尿病の長期予後に関する研究(QOL を中心に)
13	吉野 檜一 内科学第二・リウマチ外科	分担	長期慢性疾患総合研究事業・市川陽一	慢性関節リウマチの総合治療に関する研究
14	工藤 翔二 内科学第四	班長	特定疾患調査研究	呼吸器疾患
15	高崎 雄司 内科学第四	分担	長寿科学総合研究事業・木田 厚瑞・東京都老人医療センター・呼吸器科	高齢者閉塞性肺疾患における総合的ケアのあり方に関する研究
16	黒澤 尚 精神医学	分担	精神医療の機能分化に関する研究・浅井 昌弘・慶応義塾大学医学部	総合病院における精神科の役割に関する研究
17	黒澤 尚 精神医学	分担	循環器疾患における救急医療に関する研究・松尾 汎・国立循環器病センター	循環器疾患の救急診療体制に関する研究
18	岸 泰宏 精神医学	分担	精神分裂病患者の社会適応能力と社会的予後に関する研究・牛尾 定信・東京慈恵会医科大学医学部	自殺の実態および自殺予防策の検討に関する研究
19	徳永 昭 外科学第一	分担	ヒト発がん要因の相互作用の科学的解明に基づくがん制御に関する研究・広橋説雄・国立がんセンター研究所	胃発がんに対する組織修復の関与
20	松倉 則夫 外科学第一	主任	がん研究助成金	胃がんの発生・進展に関わる要因の把握とその診療への応用に関する研究
21	八木 聡明 耳鼻咽喉科学	主任	感覚器障害及び免疫・アレルギー等研究事業	平衡覚障害の発症機序と病巣局在診断法に関する研究
22	八木 聡明 耳鼻咽喉科学	主任	特定疾患調査研究事業	前庭機能異常
23	山本 保博 救急医学	主任	厚生科学特別研究事業	新興再興感染症患者の救急搬送に関する研究
24	山本 保博 救急医学	主任	災害時支援総合研究事業	災害の初動期における活動マニュアルとその運用に関する研究
25	太田 成男 老人病研究所	主任	脳科学研究事業	ミトコンドリア機能障害によるアルツハイマー病の発症機序と予測に関する研究
26	太田 成男 老人病研究所	分担	老年病におけるリスクファクターとしての遺伝子に関する疫学的並びに分子遺伝学的研究・下方浩史・国立療養所中部病院長	孤発性アルツハイマー病に関わるミトコンドリア蛋白遺伝子の新規リスクファクターの同定
27	太田 成男 老人病研究所	分担	精神・神経疾患研究委託費・高木 昭夫・国立精神・神経センター神経研究所	ミトコンドリア脳筋症の発症機序と治療に関する分子生物学的研究

28	江見 充 老人病研究所	分担	長寿科学総合研究事業・折茂 肇・	骨粗鬆症予防のための危険因子に関する研究
29	江見 充 老人病研究所	分担	がん研究助成金・津田 均・国立がんセンター	がんの予後因子決定としての遺伝子診断に関する研究
30	江見 充 老人病研究所	分担	特定疾患調査研究・北 徹・京都大学大学院医学研究科老年医学	原発性高脂血症の調査研究
31	大國 寿士 老人病研究所	主任	新興・再興感染症研究事業	激症型 A 群レンサ球菌感染症の分子発症機構

補助金額合計 248,750,000 円

4. 平成9年度その他省庁、自治体、財団による研究助成金等の交付状況

	研究者・所属	各種財団等名称	助成等種目	研究課題等名
1	佐久間康夫 生理学第一	通産省(主任研究者・木山亮一・通産省工業技術院生命工学工業技術研究所)	重要技術競争研究開発	一卵性双生児を用いたIGCR法による小児遺伝性神経疾患の遺伝子解析
2	イシュワ・シン・パーハ 生理学第一	日本学術振興会	未来開拓学術推進事業	生命体の形成機構(生殖・発生)
3	芝崎 保 生理学第二	成長科学協会	研究助成金	Growth hormone-releasing peptide(KP-102)の摂食促進作用に関する研究
4	島田 隆 生化学第二	科学技術庁	科学技術振興調整費	HIV感染細胞への特異的遺伝子導入法の開発
5	鈴木 秀典 薬理学	金原一郎記念医学医療振興財団	基礎医学医療研究助成金	運動ニューロン疾患筋におけるグリア細胞株由来神経栄養因子(GDNF)ファミリーの発現異常の解析
6	高橋 秀実 微生物学・免疫学	科学技術庁	戦略的基礎研究推進事業	生体防御のメカニズム
7	高橋 秀実 微生物学・免疫学	日米医学協力研究会	医学研究協力費	遺伝子ワクチンの研究
8	熊谷 善博 微生物学・免疫学	科学技術振興財団	さきがけ研究21	抗体超可変部を利用したヒト免疫不善ウイルス多変異エピトープライブラリーの創製
9	熊谷 善博 微生物学・免疫学	ヒューマンサイエンス振興財団	HIV研究-2	抗体超可変部を利用したエイズワクチンの分子設計
10	岩崎 榮 医療管理学	(財)日本医療機能評価機構		エイズ拠点病院の機能評価に関する研究
11	高柳 和江 医療管理学	ファイザーヘルスリサーチ振興財団		外傷治療成績の改善を目的とした他施設共同研究による治療の質の評価法の確立
12	伊藤 弘人 医療管理学	医療科学研究所	研究助成研究	精神科医療における質改善に関する実証的研究:一般病院精神科の機能に関する調査
13	荒牧 琢己 内科学第一	東京都	特殊疾病(難病)に関する専門研究	早期診断及び治療・リハビリテーションに関する研究(特定内臓系疾患)
14	高木 元 内科学第一	福田記念医療技術振興財団	国際交流助成	遺伝子ノックアウトマウスを用いた心不全進展におけるG蛋白の役割の検討

15	佐藤 直樹 内科学第一	上原記念生命科学財団	研究奨励金	高血圧の心不全の余地及び予防
16	星野 公彦 内科学第一	福田記念医療技術振興財団	国際交流助成	Ischvic preconditioning の発生機序：神経退役性因子、特にアンジオテンシン II の役割について
17	高木 郁代 内科学第一	(財)大和証券ヘルス財団	研究助成金	
18	若林 一二 内科学第三	成長科学協会	研究助成金	GHRP 受容体のトラスジェニックラットの作製
19	江本 直也 内科学第三	成長科学協会	研究助成金	軟骨発育不全症における FGF 受容体異常の分子メカニズムの解明
20	杉原 仁 内科学第三	成長科学協会	研究助成金	成長ホルモン分泌促進ペプチドの生理的意義に関する研究
21	岩切 勝彦 内科学第三	GERD 研究会	特別奨励費	LES 圧に及ぼす体位の影響
22	工藤 翔二 内科学第四	環境庁(班長として)	生体環境中の汚染物質の健康影響に関する研究	大気汚染による健康影響に関する総合的研究
23	工藤 翔二 内科学第四	東京都衛生局	特殊疾病(難病)に関する専門研究	間質性肺炎および肺線維症の病態解明と病態改善のための治療法に関する研究
24	工藤 翔二 内科学第四	喫煙科学研究財団	研究助成金	肺癌発生母地としての特発性肺線維症の遺伝子不安定性の解析
25	高崎 雄司 内科学第四	環境庁(公害健康被害補償予防協会)	大気汚染による健康影響に関する総合的研究	成人慢性気管支炎、気管支ぜん息等に関する調査研究 高齢、重症の患者の日常生活、保健指導のあり方に関する研究
26	大久保公裕 耳鼻咽喉科学	東京都衛生局(医療福祉部環境公害保健課)	花粉症対策総合事業	花粉症の治療に係わる経舌下口腔粘膜減感作療法の研究
27	堀内 和孝 泌尿器科学	(財)内視鏡医学研究振興財団	研究助成	上部尿路腫瘍に対する細経プローブ超音波装置の開発と極細尿管鏡の改良
28	太田 成男 老人病研究所	(財)笹川医学医療研究財団	高齢者の医学医療に関する研究助成	Dihydroliipoamide succinyltransferase 遺伝子の多型解析によるアルツハイマー病発症の予測と臨床症状の予測法の開発
29	江見 充 老人病研究所	(財)車両競技公益資金記念財団	癌の基礎的研究助成事業	乳癌の遺伝子変異と遺伝子診断

助成金額合計 82,651,000 円

あ と が き

大学単位の研究業績の取りまとめと公表は自己点検・自己評価が言挙げされる近年でこそ、当たり前のことと考えられるようになったが、これまで余り一般的であったとはいえない。この研究業績年報で第44巻を数えることとなることに端的に示されるように、本学では長年にわたり研究業績を広く公開してきた。本業績集は情報公開という視点からの本学の先進性を示すばかりでなく、内容的にも毎年着実に充実し、英文論文や国際学会における講演が相当数を占めるようになったことで、本学の実績を外部に対してアピールする重要な役割を担うものである。最近、自己点検の一部として研究業績をようやく発表するようになった他学に比べて誇るに足る実績といえよう。もとより研究の活性は学会発表や論文の件数だけで評価されるものではなく、インパクトの大きな独創的な研究が生命観の見直しや高度の医療の実践に応用されてこそ、大学の評価につながる。また、活発な研究活動が教育に反映されることで、次代の研究者、先端的な医療従事者の養成が実現するわけで、数量化が容易な短期のデータだけに依存して、自己満足に陥ってはならない。この点では本業績集は1993年度以来公刊されている自己点検報告書を補完するものであって、併せて活用されることを期待する。

平成10年12月

研究委員会委員長 佐久間康夫

平成10年 11 月 30 日 印 刷

平成10年 12 月 4 日 発 行

発 行 日 本 医 科 大 学
研 究 委 員 会

〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5

TEL 03 (3822) 2 1 3 1

印 刷 株 式 会 社 杏 林 舎

〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10

TEL 03 (3910) 4 3 1 1-5